

AC Zokuzoku gunsho ruiju
145
G857
v.10

East Asia

PLEASE DO NOT REMOVE
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

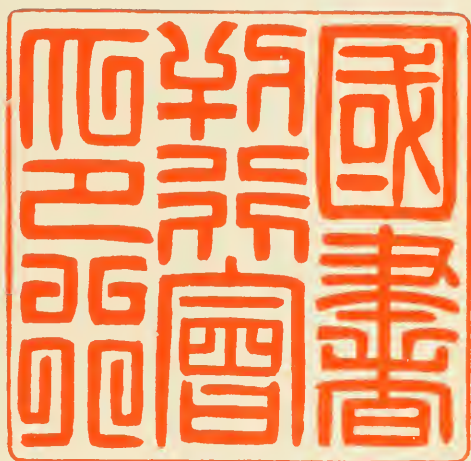


Digitized by the Internet Archive
in 2009 with funding from
Ontario Council of University Libraries

續々群書類從

第十

AC
145
G857
v. 10



續々群書類從第十

例言

一本篇には朝倉宗滴話記以下、凡二十四種を收む。

一朝倉宗滴話記一卷 一名宗滴物語といふ。宗滴は朝倉景敏の子にして、若年より父に隨ひ、所々の軍陣に従事したる其實驗談及意見等を述べ、子弟を誡しめたるを、萩原某これを筆記したるものなり。本書東京帝國大學史料編纂掛藏寫本を底本とし、黒川眞道氏藏本にて校合す。また二本共に異本として加筆せる條あり、皆採録す。

一北條幻庵覺書一卷 北條幻庵は早雲の子にして、名を長綱法名宗哲といふ。神佛を敬ひ仁義を宗とし、文武を以て能く宗家を扶く。天正十七年卒す年九十七。本書は氏康の女、武州世田ヶ谷の吉

良氏朝に嫁する時、彼の女に遣はしたる教訓書なり、當時武家に於る女子教育の一端を知るに足れり。原書千葉縣長生郡土睦村大字寺崎なる宮崎氏の所藏に係る。

一 黒田家老士物語一卷 黒田如水長政父子の訓誡及武功談を家士某の筆記したるものなり。本書東京帝國大學史料編纂掛藏寫本を採收す。

一 千代茂登草一卷 藤原惺窩の著にして、明德・誠・敬・五常・五倫及儒道と佛道とのかはり、天下傳授之辭等を掲げ、其母を諭したるものなり。書名は伊勢物語の在原業平の歌詞を採れり。蓋母の壽命を祈る意ならん。本書天明八年板を採收す。

一 春鑑抄一卷 林道春の著にして、五常を記述したるものなり。本書内閣文庫藏慶安元年板を採收す。

一 三徳抄二卷 林道春の著にして、上卷に智仁勇の三徳と、下卷に

は理氣辨・大學・仁・義・禮・智・信、とを記述したるものなり。本書内閣文庫藏古板本を採收す。

一 敵戒說一卷 林道春・同春齋・同春德父子三人の著にして、敵戒の二字を取出て、國を安じ家を治め法度を失はざる事。敵に勝ちても始めて戰に臨むが如くせよ、戒は道の寶なりと教諭せしなり。本文漢文に記し之に和解を附し讀み易からしめたり。本書内閣文庫藏古板本を採收す。

一 翁問答八卷 中江藤樹の門人舩充、師の傍に在りて學問道德、其の他種々なる事に就き、平日疑問論難に涉る事を質し之を記し、遺忘に備へたるものにして、藤樹の意見として見るべきものなり。本書慶安三年板を採收す。

一 謫居童問六卷 山鹿素行の著なり。素行は兵學を以て一世に名高く、兼て名教を以て自から任ず。寛文六年罪を得て播州赤穂に

幽せらる。赤穂侯淺野長直之を優遇し、弟子の禮を執る。素行大に感激するところありといふ。本書は其謫居中道德及武士道に關することを記述したるものにして、寛文八年自記の奥書あり。元祿中長直の孫長矩、吉良上野介の事により死を賜ひ國除かる。遺臣四十七人遂に復讐の舉ありしは、蓋素行の教化に基しならん。本書は寫本にして頗る世に稀なるものなり。文學博士井上頼圀氏藏本を底本とし、松浦伯爵家藏本にて校合す。

一 光圀卿教訓一卷 水戸光圀卿より子の綱條卿へ示されたる教訓を、家臣安積覺が筆記せられたるものなり。要するに人君の教育法を記したるなり。本書内閣文庫藏寫本を採收す。

一 學問關鍵一卷 伊藤東涯の著にして、初學の者に學問の主旨を懇説したるものなり。本書帝國圖書館藏元文板を採收す。

一本朝學原浪華鈔七卷 本朝學原は松下見林の著にして、漢學の

傳來・漢吳音倭訓・詩賦・學派・學校・釋奠等を列記したる文學史なり。然れども本書は言簡に事約にして淵源を詳にせず、よりて眞野時繩更に見林に就き其本據原由を質し敷衍したるなり。浪華の名は百濟王仁の歌の初句を採るといへり。蓋王仁は本朝の學源なりといへるならん。本書黒川眞道氏の藏正徳六年板を採收す。

一 荷田大人創學校啓一卷 荷田東麿、國學校創立を幕府へ請願したる書なり。古來文學の盛衰を述べ、古學復興は古語研究の必要にありと論じ、更に斯文の興廢は固より幕府の取捨にありと督促したるなり。本書は東麿の歌集春葉集附録を底本とし、平田鐵胤校合板本によりて校訂す。

一 和學大概一卷 村田春海の著なり。和學の紀源より立論し、和學は一家の學ならずして、皆儒生の兼學せし事を論じ、必竟儒者は經世治國を以て本旨とすれば、我國に在ては、古來建國の大體、制

度の沿革、人情世態の變遷を了解せずはあるべからずとし、これを講述するに三科とし、第一に國史實錄の學、第二に律令典故の學、第三に古言を解釋する學とし、科學に付ての書籍を列記し其順序を示したるなり。本書寫本を採收す。

一 漢學紀源五卷 薩摩藩士伊地知季安の著なり。漢學の紀源より歷代の先哲及び足利氏の季世に於る桂菴和尚并に其門人事蹟を列叙したるなり。本書は主として桂菴和尚の薩摩國に朱子學を唱へし事を掲げ、附録に伊地知氏桂菴和尚の頌德碑を撰し、佐藤一齋の添削を請ひたる往復書簡を掲げたり。本書島津侯爵家藏本を採收す。本書中「印にて圍たる所は朱書せるものなり。」印にて圍たる所は底本のまゝを存せり。

一 古點譜一卷 高雄寺傳來に係るものにして、寛永十年僧顯證拔萃に成れる事與書に見ゆ。然して又元祿七年後人これに唯識論

の朱點を興福寺に於て追加したるものなり。本書黒川眞道氏藏寫本を採收す。

一 乎古止點譜一卷 後深草院宸記・中右記・長秋記等に於ける御書始の點圖及び釋策彦所傳點圖・菅家點・江家點・紀傳明經點等を集録したるもの、古點譜の參考に供すべきものなり。本書黒川眞道氏藏寫本を採收す。

一 京都往來一卷 本書延寶二年鈴鹿定親の作と卷尾に記せり。年中行事より、京都市内の町名、及附近の名所舊蹟を記したるものなり。今古板本を採收す。

一 自遣往來 一名江戸往來といふ。本書作者詳ならず幕府正月の規式、諸國土産の進物類、及江戸方角等を記せり。時代も亦知るべからずといへども、慶長以後元祿以前の作ならんと思考せらる。流布板本も二三種に止まらざるが如し。今古板本を採收す。

一 源平往來二卷 本書作者詳ならず。源平盛衰記の文章を拔萃せしものなり。今元祿十四年板を採收す。本書白石正邦氏の藏本を採收す。

一 商賣往來一卷 本書作者詳ならず。商賈普通通用の文字及一切の商品を列記したるものなり。時代も亦知るべからずといへども、寶永以後享保以前の作ならんと思考せらる。流布板本及註解本許多あり。

一 名産諸色往來一卷 松葉軒龍水の著にして、工商普通通用文字品名等を列記したるものなり。松葉軒の時代今考得ずといへども、徳川氏中世期の作ならん。本書鱗形屋開板の本にて採收す。

一 諸職往來一卷 本書作者詳ならず。士農工商に涉り一般の教訓を列記したるものなり。時代も亦知るべからずといへども、徳川氏中世期の作ならんと思考せらる。流布板本も二三種に止まら

ざるが如し。今古板本を採收す。

一 消息往來一卷　高井蘭山の著なり。書簡文に於る普通文字を列記して、初學の者に諭したるなり。時代は天保前後の作ならん。本書流布板本及註解本許多あり。維新以前に於ては、商賣往來消息往來と並び、一般小學の習字手本に流行せし事は、普く世の知るところなり。

一 本書編次に就ては、黒川眞道氏監修の勞を執られ、文學博士井上哲次郎・文學博士井上頼圀・文學博士萩野由之・文學士白石正邦の四氏は、或は指導、或は祕藏の諸本を貸與せられたり。茲に附記して一言其勞を謝す。

明治四十年二月

續々群書類從第十教育部

目 錄

| | |
|---------|----|
| 朝倉宗滴話記 | 一 |
| 北條幻庵覺書 | 一三 |
| 黑田家老士物語 | 一八 |
| 千代茂登草 | 二八 |
| 春鑑抄 | 四二 |
| 三德抄 | 六六 |
| 上卷 | 六六 |
| 下卷 | 八〇 |
| 敵戒說 | 九一 |
| 林道春敵戒說 | 九一 |

林春齋敵戒說.....九五

林春德敵戒說.....九九

翁問答.....一〇二

卷一(二十六條).....一〇四

卷二(二十二條).....一二七

卷三(二十八條).....一四五

卷四(十七條).....一六六

卷五(十三條).....一八二

卷六(五條).....一九五

卷七(八條).....一九八

卷八(五條).....二〇二

謫居童問.....二〇四

上本、學問(二十九條).....二〇四

| | |
|------------------|-----|
| 上末、學問(六十四條)..... | 二三三 |
| 中本、學問(五十六條)..... | 二八〇 |
| 中末、學問(三十七條)..... | 三二四 |
| 下本、治平(四十四條)..... | 三五四 |
| 下末、治平(六十四條)..... | 四一四 |
| 光圀卿教訓..... | 四六三 |
| 學問關鍵..... | 四六六 |
| 本朝學原浪華鈔..... | 四七九 |
| 卷一..... | 四八〇 |
| 卷二..... | 四九一 |
| 卷三..... | 五〇三 |
| 卷四..... | 五〇四 |
| 卷五..... | 五二八 |

卷六.....五三二

卷七.....五四〇

荷田大人創學校啓.....五五〇

和學大概.....五五三

漢學紀源.....五五七

卷一.....五五八

儒教第一.....五五八

神誨第二.....五五八

收籍第三.....五五八

徵賢第四.....五五九

初學第五.....五六〇

神性第六.....五六一

貢士第七.....五六二

唐學第八.....五六三

建學第九.....五六四

栗田第十.....五六五

卷 一一

| | |
|--------|-----|
| 吉備第十一 | 五六五 |
| 崇聖第十二 | 五六六 |
| 仲滿第十三 | 五六六 |
| 菅江第十四 | 五六七 |
| 菅神第十五 | 五六七 |
| 五經第十六 | 五六八 |
| 孝經第十七 | 五六九 |
| 論孟第十八 | 五七〇 |
| 新註第十九 | 五七一 |
| 宋學第二十 | 五七二 |
| 崇信第二十一 | 五七三 |
| 義堂第二十二 | 五七四 |
| 岐陽第二十三 | 五七五 |
| 一慶第二十四 | 五七六 |
| 惟肖第二十五 | 五七七 |
| 景徐第二十六 | 五七八 |
| 桂悟第二十七 | 五七九 |
| 桂菴第二十八 | 五八一 |

卷 二

五九九

桂門第二十九

六〇〇

儒俗第三十

六〇〇

舜田第三十一

六〇一

潤公第三十二

六〇二

月渚第三十三

六〇四

一翁第三十四

六〇六

友賢第三十五

六〇八

南浦第三十六

六一二

卷 四

六二一

正龍第三十七

六二一

南門第三十八 以下未稿

六二三

學之第三十九

六二七

如竹第四十

六二七

竹門第四十一

六二八

喜春第四十二

六二八

治易第四十三

六二八

俊矩第四十四

六二八

卷五.....六五〇

桂菴禪師碑銘建方一件.....六五〇

古點譜.....六八五

東大寺三命定用之喜多院興福寺所用俗家點俗點

水尾點圓堂僧正用之禪林寺點遍照寺點香隆寺點

智證大師點淨光房點順曉和尚點廣隆寺

勸修寺觀真君叡山之本仁都波迦點池上阿闍梨

池上律師東大寺東南院也俗點又樣妙法院

乎古止點譜.....六九二

京都往來.....六九八

自遣往來一名江戸往來.....七〇三

源平往來記.....七〇七

卷上.....七〇八

○一白山神與振膜狀○二同衆徒返膜○三同神與奉二禦留狀○四同中宮衆徒返狀○五師高解官配流宣旨○六康賴熊野祝言○七康賴成經赦免狀○八高倉宮廻宣○九同賴朝被レ下令旨○十賴朝令旨國々施行之狀○十一從二三井寺

南都へ牒狀○十二同山門牒狀○十三南都返牒○十四從_二興福寺_一諸牒狀○十五六波羅上皇山門院宣○十六同重而院宣○十七文覺勸進帳○十八平家追討院宣○十九賴朝追討院旨○二十新院嚴島御願文○廿一山門衆徒都返奏狀○廿二坂東落書○廿三兼遠起請文

卷 下

七二

○一從_二平家_一奥州秀衡遣狀○二木曾三箇馬場願書○三同埴生八幡宮願書○四平家一門延曆寺願書○五木曾山門牒狀○六山門返牒○七賴朝征夷將軍宣旨○八同院宣請文○九木曾山門忌狀○十賴朝山門牒狀○十一熊谷送狀○十二經盛返狀○十三從_二上皇_一西國院宣○十四宗盛請文○十五賴朝奏聞條々○十六義經西國合戰註進狀○十七同腰越申狀

商 賣 往 來

七三四

名 產 諸 色 往 來

七三六

○吳服絹布絲井布木綿品々事○九散丹藥附家々秘方荷賣振賣辻扣賣之事○諸材木國々出處之事附繩竹葭簀等之事○諸國廻船米穀井雜穀之事○魚鳥獸井鹽物灘物鹽辛干物附飼鳥養獸之事○菓子之類生熟之事附精進物之品々不殘○椀家具井佛具女中手道具之事○町之名宮々所々遊興之地之事○大工鍛冶屋根葺木挽之事○奉書杉原鼻紙井經師辛紙事○莨菪出處品々之事○疊之表出所井緣之事○草屋紺屋其外諸職人之事○諸國名酒品々之事○編笠笈笠

傘草履草鞋并木履足駄之事

諸職往來……………七四二

消息往來……………七四四

續々群書類從第十教育部目錄終

續々群書類從第十

教育部

朝倉宗滴話記

宗滴様御難談共はし／＼萩原覺

一山城にても、平城にても、むたひに責べき事、大將のふかく也、其故は可_レ然兵共目之前にて見殺物にて候、是又分別之第一也、

一先年京陣之時、東寺に公方様をはじめ、其外御近邊に、皆々御陣取候、當方之衆はにしの庄に、御大將陣西七條御所之内、せんしやう寺迄御陣取候、□□_{陣後}□□の國山崎よりにしのおかかいで迄もちつづけられ候つる、然ば宗滴様御異見に、南表をば打捨られ、北表京之方を本に要害堅固にさせられ候

て然べきのよし被_レ仰候、其分にやうがい拵させられ候處に、道_ミひ様六角殿をはじめ申、敵ある方をばうちすて、てきなき方を、要害堅固にさせられ候事いかゞの旨、おの／＼御不審候ところに、程なくあんのごとく北の方江まわりとりより候間、北むきになり候へて御とりあわせ候、然ば前に入ざる北おもてのやうがい御用に立候間、さりとては奇特なるよし、天下の諸さぶらひ御取沙汰のこと、

一武邊の義に付て、一切成まじきといわぬ事也、心中の程見かざられ候者也、

一敵のふまへたる所を取懸候者、敵こたへ間敷などといわぬ事也、取懸候へて、自然敵こたへ候へば、諸勢心かわるものなり、

一馬には時々堅大豆_{カタキ}を水にふかして可_レ飼也、野陣などにて鍋釜無時之用也、

一仁不肖に不_レ寄、武者を心懸る者は、第一うそをつかぬ物也、聊もうろんなる事なく、不斷理致義を立、物耻を仕るが本にて候、其故は一度大事之用に立つ事は不斷うそをつきうろんなるものは、如何様の實義を申候へども、例のうそつきにて候と、

かげにて指をさし、敵御方共に信用なき物にて候間、能々たしなみ可_レ有事、

一惣別武者之時は、一切如何様なる大事之儀をも、口上にて申付候間、少もうろんたる事にては無_ニ勿體_一事、

一先年加州湊川を被_レ越御合戰候時、被_ニ討捕_一頸數五百餘に候、其内に一向幼少なる首をば撰び出され、彼取手を被_ニ召寄_一、直に被_ニ返遣_一候事、但前々足輕合戰之時は御撰なき事、

一大事の合戰之時、又は大儀なるのき口などの時、大將之心持見んために、士卒として種々にためすものにて候、聊も弱々敷體を見せず、詞にも出すべからず、氣遣油斷有間敷候事、

一武者は犬ともいへ、畜生ともいへ、勝事が本にて候事、

一大將たる仁は不_レ及_レ申、似合の人數持候人覺悟の事、第一内の者能々なりたち候やうにと、不斷心懸看經すべき也、殊に久敷侍もとより新參當參の者にても、忠節奉公仕たる跡、幼少の子供あらば、いかにも大切に取立、人に成やうに懇にすべし、

自然實子無_レ之侍をば、親存生之時に似合の養子を仕候へと意見を申加へ、跡の不_レ絶やうに申付候へば、無_レ子ものも安堵の思をなし、忝存候て身命を輕んずるものにて候、如_レ此懇に候へば、内の者冥加にて聞及び見及び頼もしく存じ、内輪の者は不_レ及_レ申、他家より忠節奉公可_レ仕とて、可_レ然者共出來候事、

一主人は内の者の罰當り、又内の者は主之罰當る也、君臣共に油斷有べからず候事、

一内輪の者所持の馬鷹、其外太刀長刀繪證唐物以下、無理に所望有間布事、惣別内輪に所持の重寶は、何も主の物同前也、但一旦所望あらば、相當一倍を以て所望有べし、無_ニ其儀_一候へば見たり聞たりして、内輪に物をたしなむものなくして、結句前々より所持之名物をも、他國へ出す事候、能々分別有べき事、

一人をつかふに、二人こらへ候者あれば、譜第の者を召仕れ候也、其故は先内之者不_レ届事を主人こらへ候、又主人に對し逆懷を内之者こらへ候、如_レ此互にこらへぬき候へば、子飼之もの餘多出來大事之

時用に立候、大犯三ヶ條之科は、更に主人之成敗にあらず、此段右衛門大夫殿、宗滴へ直に被_レ仰候事、一召出す風情、又は聊の物をたべさせられ候とも、一人二人執分たるやうにはすべからず候事、

一内之者にはおぢられたるがわるく候、いかにも涙を流しいとをしまれたるが本にて候由、昔より申傳候、左様に候はでは、大事之時身命を捨用に難_レ立候事、

一内之者にあなどらるゝと、主人心持出來候はい、はや我心狂亂したるよとさとするべし、其故は敵にさへあなどられまじき身上を、何とて内之者にあなどられ候はんするや、一段比興なる心中且は家之亂の基也、

一國郡を持つ大名、武者を心懸、器用の名執する人は、天下共に同物也、第一近_ホく輕也、まづ我身の不辨を聞き、内之者時宜調へ候やうに普く不便がり、公界へはいをさせ、末々迄も威勢有やうに崇敬候へば、諸事に付て徳多き也、執分いかなる長陣、又は俄の晴役の時も、主人の雜作不_レ入候事、一たうせい、人仕之手本は、六角少弼殿三好方家中

眼前事、

一大名比興の名執をするかたぐゝ是又一天下共に同前、いかにも重々敷あたりの人さけおし無禮にて第一狐疑之心有て萬事人疑をなし、内之者より隔心せしめ、或は家中之者有力にて人に參會し、物すきなどする事も小眼に懸け、或は世上へはいをし、藝能など嗜事をきらひ、折々は女房衆小姓衆を近付、我身の無器用をかげにて咄候歟と立聞をさせ、やゝもすれば、毛を吹て疵を求め、理不盡に鼻をつかせ、其跡知行分多少によらず、屋内迄押執、米錢黄金を藏に積重ね、聊も絶事なく財寶持たるを満足し、充滿無_レ極、雖_レ然一度不慮の凶事出來候はば、必積置たる財寶悉く無體に消失、其家共に滅亡候、此類古今共に聞及び候、執分畠山ト三以來數多有_レ之、當國には右衛門大夫殿眼前の事、一惣別代物黄金充滿候へば、大名によらず末々の者迄も、一度凶事出來候て滅亡するものと相見へ候、近來は田屋善定并上木覺勝など眼前之事、一大名比興成きやうき氣□□□□□□□□其内輪には無_レ沙汰一候へ共、惡事千里とやらん、悉他國まで

聞ゆる物に候間、無_ニ油斷_一嗜あるべき事肝要也、

一英林様御身上奇特に神變難_レ計事多く候といへども、第一懇懃を以て國を治めさせらる_レ由、年寄共

申候つる、諸侍への儀は不_レ及_レ申、百姓町人風情迄も、御懇切之御文言、宛所なども過分忝様に被_レ遊

候に付て、悉身命を捨御みかた仕たるよしの事、

一英林様御諚に、小太郎者隨意にそたち候間、我々以後は諸侍に對し可_レ爲_ニ無禮_一候、より_一懇懃の事を御意見候へのよし被_ニ仰出_一候旨、桂室様常に御

物語候事、

一當世は上意に付て國持并近侍之差別無_レ之、雖_レ然我々は不_レ混、自餘書札之禮儀等少も本々に替まじ

きの由、堅萩原に被_ニ仰含_一、御狀等認させられ候事、一爲_ニ音信_一の秘藏の馬鷹、其外重寶人に遣事候に、

書札慮外に候へば、彼遣たる珍物盡く無になり、出さるるには、おとりたる事に候、下手と上手との

氣遣これほど違申物也、能々可_レ有_ニ分別_一事、

一國を執人之扶持する事、濃州古持是院は何萬貫何千貫二百貫廿貫とつませ置、諸侍に相當扶持候、又

英林様御扶持候やうは、そんちやう誰々が跡々に

御扶持候と御知行被_レ下候、然ばらんふかうらんに

て御知行一通にて五百石千石被_レ下候も有り、又五

通三通被_レ下候得而も五十石百石なきも候へ候、如

此博被_レ下候へば普く忝存忠節奉公仕候に付て、

至_ニ于今_一御國長久彌御繁昌候、貫數定り御扶持候へば、侍の高下相見へ候て無_レ曲候、然間濃州は漸

三十箇年はかり續候歟、其以後五十年に及び錯亂候事、

一人間として蓄_{カッパ}なくては不_レ叶物にて候、雖_レ然餘に德人のごとく蓄を本として、代物黃金過分に集置

仁體は、本々より武者はせざる由申傳候、但伊豆之相雲ははりを藏に積べきほどの蓄仕候つる、雖_レ然武者邊につかふ事は玉をも碎つべう見へたる

仁に候由、宗長常に物語候事、

一主人内之者の覺悟よく見知らずして、執分召仕候事不_レ覺也、其故は後難をも不_レ辨、當座の得手方ばかり馳走仕候を、正直の奉公人と心得、別面目をかけ召仕候事、併家を滅亡候基也、

一番匠のすべき事を河原の者にさせ、又河原の者のする事を番匠に申付るごとなる人、つかひ目き

かす下手の最上也、いかなる利根の中にも、得手不得手は有ものにて候、それ〴〵に随ひ、似合ひ〴〵に召仕候へば、諸事打任せ主人の辛勞ゆかざるものに候事、

朝夕の食は善惡面にて喰候はんするが本にて候と、幼少の時より年寄衆申候つる、然間我等は一世の間内儀にてゑたゝめたる事無〴〵之候、自然桂室様御如本御出の時は御相伴したる事候、左候間、萬曲て皆共に申付直させ候事、

我々子かたわに候とも、妻を執迎さいあい候は、子共出來可〴〵相續候か、然者實子を止養子を仕候事、不〴〵知者は不審すべく候、天澤様御代小次郎殿幼少之時、朔日節供出仕候體見及候に、諸侍のあひしらひ一向無〴〵曲體に候、彼方不肖には候へども、英林御孫と申、子春のさしつぎ次郎左衛門殿子に候、雖〴〵然末々に成候へは若〴〵期に候か、不〴〵及是非一候、扱は我々子共、彌末々に可〴〵成候、もとより家來の者共可〴〵下座事、不便之至口惜次第と存きはめ、所詮實子を止め摠領へ近くなすべきためを申請家督に相定候、是も内の者共の爲、始終可〴〵然之様に

との一儀迄に候、惣別家内の者共、何れも英林様不斷召遣はれたる歷々の人數に候、我等は新座之主と存置、皆々行末能様に候へかしと、旦夕念願ばかりに候事、

一英林男子八人候、合戦之時自身持道具に血を付候は、我等一人にて候、十八歳より七十九歳迄、自國他國の陣十二度、其内馬の前にてさせたる野合の合戦七度に候か、其内三度持道具に血を付候、三十の年大一揆伐崩刻、中江河原におゐて馬上より長刀にて討候、其首中村清右衛門にとらせ候、三十一の年玄忍出候時、帝釋堂にて馬上より射付、其首古岩井宗左衛門にとらせ候、五十一歳京都におゐて泉乗寺合戦の時、敵三人射付首ども皆々にとらせ候、如〴〵此内之者同前に働候間、士卒よこふり有間敷之由、常々御雜談候事、

一十八歳豊原寺江日歸窄人出張之時、十月廿一日合戦有〴〵之、明暦四年十九歳柳ヶ瀬合戦陣なし、文應三年廿七歳敦賀城責、卯月三日合戦有〴〵之、廿八歳五郎殿出張に付て彌合戦有〴〵之、九月十九日金井殿父子討〴〵執之、永正三年三十の年に大一揆之時、七月十七日豊原より退口合戦有

之、同八月六日中江河を越し合戦有^レ之、敵數多
討^ニ執^レ之、^{永正四年}三十一歳玄忍出候時八月廿九日合戦有^レ之、^{永正四年}四十一^ノの年、丹後陣足輕合戦并城責有^レ之、^{永正四年}四十九^ノ歳江州北の郡大谷七月十六日城責有^レ之、^{大永七年}五十^ノ一歳京都泉乘寺十一月十九日合戦有^レ之、^{享祿四年}五十五^ノ歳

加州陣十月廿六日湊川を越し石河郡之内におゐて
合戦有^レ、其外度々足輕合戦有^レ之、^{天正十年}六十八^ノ歳濃州陣

九月廿二日井之口悉放火、^{弘治元年}七十九^ノ歳加州陣七月廿

三日山城三ヶ所落居、但二ヶ所にて合戦有^レ之、八

月十三日濱之手敷地口一日之中兩三度之合戦、何

も馬之前にてさせ候、已上十二度之事、

一 覺有^レ之大將といふは、一度合戦之時持道具を自身

執候はでは難^レ成由、昔より申傳候事、

一 我々一世之間、敦賀へ上下何時も一日懸に仕候、此

儀は我等彼郡を預り申に付て、自然之時之用所迄

に如^レ此候事、

一 我々七十に餘候迄、毎年川より北の道筋見候はん

ために、鷹野と號し細々下候、是又別義にあらず

候、彼國より一度形入仕候はでは不^レ叶と存、其時

の用所迄に候、惣別我々存命中は武者奉行可^レ仕候

間、何時も教景可^レ懸向候、無案内にて繪圖などを
以て、即時の手遣は淺猿と存不斷の心懸無^ニ他事^一
候事、

一 惣別國中の道筋、かんしよ道、又順道、ふけ馬の沓

打候所、又不^レ打所、能々可^レ知事肝要に候、

一 武者を心に懸候仁は、隣國之儀は不^レ及^レ申、諸國之

道のり、其外海山川難所等可^ニ尋知^一事專一に候事、

一 合戦之勝は、大略あふなき行仕候はでは難^レ成之

由、古今申傳候、但英林様被^レ仰候は、定之勝は敵の

勢を知候はでは難義候由、被^レ仰候由の事、

一 侍は仁不肖によらず、まづ若年の時器用の名執を

する事、弓矢の冥加果報の第一也、其故は若時無器

用なる名執仕たる仁は、成人候て器用者に成候は

稀に候、又若年之時、器用成仁は、成人候てたとひ

無器用之様子に候へども、暫は其沙汰不^レ聞物に候

間、嗜肝要候事、

一 一度卒度の事に合候とて、久武者をも不^レ見候はで

功者ぶり仕候者ども、一段おかしき事に候、其故は

古泉四郎右衛門常々語候つる、武者遠なり候へば、

足輕に罷出候時、矢風おそろしく細々打出、敵に合

候へば、少々矢をばかりおとし候はんするやうに存する物にて候と申候つる、さり、は無餘儀候、人數持候人も可_レ爲_二同前_一候、我等は十八歳より七十九歳迄、諸陣之間十年と隔たりたる事は稀に候事、

一功者の大將と申は、一度大事の後に合たるを可_レ申候、我々は一世之間勝合戦ばかりにて終におくれに不_レ合候間、年寄候へども、功者にては有間敷候事、

一或は陣執、或は陣替、又は執出などの事、時により事により候物にて候へども、凡雨の降日用意候て、諸事を申付候へば必照日に合ふものにて候、是は鷹野風情一切之出行事普請以下に付て可_レ有_二覺悟_一事也、惣別海上もあれ、のわきと申事候、物の下手は照日を見かけ用意候間、必出行普請等の時あれにあふものに候事、

一舟に醉事、向に敵候て心懸る事候へば、一圓に不_レ醉ものにて候由、皆々被_二仰合_一候、先年丹後_{（ササキ）}舟手を以御勢遣候處、如_レ案一人も醉たる者無候、打もどりさまには、皆醉たる由申候事、

一當代日本に國持の無器用、人つかひ下手の手本と可_レ申人は、土岐殿大内殿細川晴元三人也、

一又日本に國持人つかひの上手よき手本と可_レ申人は、今川殿義元申斐武田殿_{（晴信）}三好修理大夫殿長尾殿安藝毛利殿織田上總介殿、關東には正木大膳亮殿、此等之事、

一讓持に持たる國持は、是非の沙汰に不_レ及候事、

一義景様の器用は、英林様已來有間敷候か、其故は我々八拾歳に及候を加州武者奉行に被_レ爲_二立候_一事、大丈夫成御心中難_レ測候、但自今以後を守て肝要に候間、如何可_レ有_二旨常々被_レ仰候_一事、

一歩立は初心に候とも、弓の執扱、矢をはぐる所手に入候は、武者に弓を持べく候、手元不辨に候は、歩立は如_レ形候とも、弓を置鎗を爲_二持可_レ然候_一事、小兵なる射手は鎗の代に弓を持候間、ちやうね木ぼうは持まじく候事、根五つばかり細すやき五つ持候て可_レ然候事、

一我々若時より天澤御恩は重々不_レ及_二申候_一、殊更敦賀之郡之儀被_二仰付_一候、宗淳御恩は一向無_二爲_レ蒙事_一候、但天澤御恩にも劣間敷候事に候、其故は丹

後近江京都・加州・美濃如レ此諸國武者奉行として

被_二相立_一候、御厚恩無_二申計_一之由常々被_レ仰候事、

一不_レ依_二上下_一此等式の事には、鼻をつき成敗に及ま

じきと心得、隨意緩怠比興を仕候事、一段未練至極なる心中成事、

一生付どん性たる者は、眞實無_二如在_一事候間、不便之

至に候、如_レ形心得たる者、我知慧ほど人は有間敷

と身をゆるし、比興無理非道を仕候は、一段おど

け者にくき心中可_レ爲_二重罪_一事也、但上下によるべ

からざる事、

一人之恩は不斷不_レ可_レ忘候、又人に恩をしかけたる

がよく候、それを忘れず候へば、結句述懷出來候

て、前々しかけ候恩も無になり、必義絶になる物に

て候事、

一人に媒申^{アツカツ}事など我意見にて不_二因果_一候へば、失_二

面目_一申候て不足に存、以後斟酌之事、近來我身を

持上ゆるしたる事、比興の至に候、人を大切に存候

は、幾度も屢之馳走すべき事人之本にて候、随分

双方のため可_レ然候様に申候て、意見を不_レ聞もの

こそ耻にて候へ、更に屢人の耻不足には成まじく

候事、

一賢き者の子におどけは次第に多出来る物也、おど

け者の子に賢きものは稀に候事、

一我々八十歳に及迄、惣領殿に對し申、不似合體の奉

公馳走仕候事、へつらいたる様にかげにて申屢由

候、無_二分別_一申事おかしき儀に候、其故は我々百歳

に成候とも、行步叶候はんする間は、武者を捨まじ

く候、惣領殿趣向よく候へば、國中の諸侍いか様に

も申付たきまゝに召仕事に候、殊更に英林様白髮

頭に甲をめし、御辛勞を被_レ成、被_レ召たる國に候

間、第一御國の爲に候、外聞はいか様にも候へ、如_二

御主_一何事も御意次第とはひつくばうべき心中に

候由、常々被_レ仰候事、

一尋常の落髮は主にをくれ、或は勘氣の身に候か、又

は隨意の覺悟に候か、此等の外にはなきものにて

候、一向發心出家の儀は不_レ及_二沙汰_一候、先年性安

寺殿御落髮之時、御相伴に落髮仕候へかしく、内々

意見之族候つれども、存の旨候て相抱候、然者御西

殿不慮の御進退に付て、彼御命のため頭を用に立

候間、満足之由被_レ仰候事、

一我々十九歳の時、芳永色々武者難談御沙汰候て、御聞かせ候つる事多き中に、合戦之時武者奉行たる人諸勢の跡に居たるは悪候、先に立たるが本にて候、其故は或は分捕仕たる者、或は手負たる者、大將に見せ候はんすると旗本へ集り候、然間序口之人數厚成候へて彌強候、跡にひかへ候へば、退事は得手方に候間、右のごとく旗本へ悉集り候として、一口之人數すき候て、敵二三掛り候へば必後をとり候、其時大將けなげに候て、こらへ候へば、諸勢に踏ころさるゝ爲體、相構てゝ能々可有覺悟一事肝要候由御物語候間、我々一世之間合戦之時、一度にても跡に控たる事無之候、其隠れあるまじき由、常々被仰候事、

一諸勢を召連、何方へつかはれ候とも、我々などは武者奉行たるべく候間、重々敷候ては、一向不可叶候事、

一大將と申は、御屋形様にて候間、かろく敷候ては、一向不可然候、扇の要のごとくたるべき由、芳永にも御難談候事、

一大將すべき仁は、先とらざる弓矢に名を可執心懸

肝要に候、無器用之名執仕候へば、縦合戦候時、働よく候共、まぐれ當と申候而、士卒一向下知をも不聞物に候、不斷嗜第一之由に候事

一芳永我々弓をすき候かと御尋候、其時御難談之事多き中に、主人弓にすぎ自身歩立仕候へば徳多候、其故は内輪之者共、主人の御伽に弓可仕とて末々迄稽古仕候間、射手多出來候、主人歩立不仕候とも、士卒に弓稽古仕候へと申付候へば、てんやく又は過怠之やうに存候て、一向射手不出來ものに候、殊更大將弓にすぎ候へば、不慮之合戦有之物に候、其故は或は野伏させ、或は射こみなどして見る物にて候、惣別敵味方相互にねらひあひ候物に候間、卒爾には合戦なきものにて候、自然野伏など仕候へば、不慮に合戦ある事に候、其上唐土日本共に、弓執ところ申傳候へ、鎧取とは不申候、いかにも不叶候とも、弓に數寄自身可有稽古事肝要候由被仰候事、

一大追物御射手組之衆、武者之時馬上に弓不持仁は一段不覺也、其故は造作を仕、稽古候は何之時の用所に候や、但一圓歩立不辨に付ては不及是非

候歟、雖^レ然馬上にて鎧長刀持候はんするよりは、弓持たるはますべく候歟の事、

一 天下に權柄を執たる仁體、細川常恒并三好家、其外諸國之侍合戰に伐負候時、昔かゝりにて候哉、自害候事無念之至不覺也、其故は敵は仁不肖には不^レ可^レ依候間、いか様なるものにて候へ、相手一人取可^ニ討死^ニ事に候、近年之權柄執しは、木澤左京亮大刀下において討死候、古今稀なる勵無^ニ比類^ニ候事、一 尋常の年寄、夜は目いねられず、徒然なる由に候、我々は今徒然なる事一向なく候、其故はまづ國中におゐて北邊之儀は不^レ及^レ申、或は東を請南を請西を請可^ニ合戰行^ニ、或は不慮に御屋形様と只二人になり、惣國を敵に請合戰切勝べき調儀又加州之儀は不^レ及^レ申、其上に隣國江執懸伐取べき調儀、又天下を執御屋形様上京させ可^レ申謀略、重々様々思案候間に夜を明し候間、一段之慰心之嗜無^ニ申計^ニ候間、聊も徒然に無^レ之候事、

一 隣國之儀は不^レ及^レ申、諸國執合之趣、同合戰之勝負の行等、當世之諸國侍、一向不^レ知^ニ案内^ニと聞候、近來無^ニ存寄^ニなる事也、存知たる者不^レ依^ニ僧俗^ニ尋求^ニ

懇に聞候へて、よく可^ニ覺悟^ニ事肝要に候、其故は諸事に付て、後學行掛になる事徳多候也、

一 武者邊に付て、大方さびすみつもりは有物に候、但眞之果所は、八幡も被^レ知間敷由、常々被^レ仰候事、

一 我々無欲心なる由、世上に申族有^レ之由候、一向相違おかしき事に候、其故は何時にても、加州之儀又は濃州邊可^レ給之由候て、御人數被^ニ仰付^ニ候ば、聊辭退申まじく候、但ちりくとしたる道なき事の欲心、又は被官家來之者に不^レ謂義申掛、つり貪可^ニ押領^ニ欲の所存、若時より努々無^レ之候、然間扶持せざる陣衆被官人等我々代にて餘多出來候、大慾者いかなる仁體にも負まじき由、常々御され言候事、一 惣別先祖之判形無體に破候仁體、其身一代は能様に候へども、子孫に報ひ罰當り、跡も絶ものにて候と相見へ候、誠は天道おそろしき事也、我々兄弟の儀を申事は如何に候へども、孫五郎殿孫七郎殿英林様之御判を被^レ破子孫退轉之事眼前之事、一 猿樂道に蓮花を治ると申事、一段秘事にて候よし、善珍彌次郎申候、是は侍之上に專可^レ入事は口傳有^レ之候事、

一 仁不肖に不_レ依、又上下に不_レ限、武者數寄たる侍は、天道之冥加候て、衆人愛敬福分之相也、又無數寄に候て、武者嫌の侍は、佛神の綱もきれ、第一人ににくまれ、ひんぼうの相也、其故は武者嫌は諸人に對し懇なる事なく、内の者には目を掛ず候へど、をのづからすいびすると常々御難談候事、

一 侍は信心肝要也、但餘に過たるはおどけ者の名執すると相見へ候、其故は少々之事をも、神佛のとがめぞと思なし、心のあやかりに成もの候、惣別之看經には現世安隱後生善所第一弓矢冥加、此外は有まじく事に候、色々難題を神佛へ祈誓仕懸候へば、神は非禮をうけざる故に、諸事不_レ叶事共に候、當世は布施をもしかくと不_レ出、剩神社佛寺領無體に落しとり、天役に祈禱をさせ候間、いかなる貴僧高僧も手柄不_レ見、神佛納受なき事に候、英林様毎日の御看經は、御書付を以て光明院に御布施にてさせ被_レ申候、朝御手水參候て則彼御卷數御頂戴候、もとより毎月之御祈禱も過分之御布施を以て、貴僧高僧に被_二仰付_一候、御自身の御看經には、御公事を被_二聞召_一候て、御成敗嚴重に被_二仰付_一、其外に

武藝を專に御沙汰候より、御子孫繁昌御國靜謐天下無雙の事、

一 敵より夜討之時は、我々の陣所に拵居候て、敵のつきたる所能々聞すまし、弱き所へ助合戦候はんする事肝要に候、惣別何時も敵執掛候はんする時は、柵より外へ不_レ可_二罷出_一、そのうち柵をゆひ候間、其覺悟專一に候、敵執掛柵を切候はんする時は、まづ射させつかせ強く相支、敵退かんする時は、見合次第にて可_レ然事、

一 我々不斷之形儀隨分可_レ嗜とは存候へども、毎々比興なる氣遣は出來安きものにて候、紫野の眞珠庵飯尾宗善とて、入道僧之一段耻敷大老に候、彼仁障子越に置申、不斷しやさう仕度念願之由、常々被_レ仰候事、

一 武者に聞逃は不_レ苦候、見逃は大に惡敷候、悉被_レ討候はでは不_レ叶ものに候、聞逃は行にて候間、更に逃たるにては有まじく候、惣別大事之退口には込掛り候はでは、のかれざるものに候由、古今申傳候、然間耳は臆病にて、目之氣なげなるが本にて候由、申ならはし候事、

一惣別越前之諸侍上下不_レ依、加州之儀心掛ざる者は、第一先祖に對し不孝、又は敵同前たるべき事、
 一武者雜談は、いかにも功者之語を信仰せしめ、能く聞べき事肝要に候、但若時は自然手前におゐて功者ぶり仕候へば、惡敷名執をする事に候事、
 一武者邊之儀に付て人を讀に、あれほど成るものは有まじきとはいはぬ事也、ならぶ者はありとも増ものは有まじきと譽たるがよく候由、芳永御物語候事、

一敵の行、知やう大事之秘事也、何時も敵之者に代物黄金をあたふれば、有のまゝにしらするもの也、隱密を以の故に、公界の人は不_レ知候、其行をする間名大將とはいはるゝ者也、

一大川に舟橋を掛る方便習有_レ之、まづ射手に川面を射させて、其つもりを以て我方の川際にくひを打、舟を橋に大綱を以てつなぎ、扱川上之舟にかい楯をかき、射手を置川上より向へながしかくれば懸ると也、

一義景様御幼少にて大軸様に御離被_レ成候刻より、愚老を被_三召寄_二、萬事御異見をも申上候へ、何たる義

をも可_レ被_三聞召_二之由度々御意に候つる、誠に御器用奇特成御事と存、御奉公毎々無_二他事_一心中に候、御成人已來加州之義は不_レ申_レ及、諸國隣國京都迄御加勢、又は御人數等被_三仰付_二候得共、武者邊之儀に當國へは一切其沙汰無_レ之御長久彌増候、此上は唯今相果候ても毛頭存殘義なく、但今三年存命仕度候、如_レ斯之儀不_レ至者、老につれ命をおしみ候事、おどけ者に候由沙汰すべく、全命を惜候事にてはなく候、織田上總介方行末を聞届度念望計の事、
 朝倉太郎左衛門入道宗滴話記 萩原奉書記之

朝倉宗滴話記終

北條幻庵覺書

おぼえ

一 さら殿御屋かたと申されべし、こなた御やかたをばおだはら御屋かたと申てよく候、又は小田原殿とも様とも申され候べし、

一 御としうちにては、上さまと申候はん事、もちろんこなたかたへの文の上がき、せうがう候はでかなはぬ事にて候、なに殿といふ御名つけ候て、もつとものよしげんあん申候つると大かた殿へ申給ふべく候、これは正月の文より入候べく候、

一 大かた殿をば御たいはうと申されべく候、たいしこなたかたへの御文には、大かたのとやわらげ御かき候てよく候、心は一つにて候、

大方 たいほう こゝろのよう これはひつきやうしてはおなじ事也
大上様 ほうかんさま ひくわんしやのこと とも申物也

一 さら殿の御前へまいり候はん物、上らふとりつぎ給ふべく候、又後々の事はあまりきやくしんもかへりてわるく候べく候、

一 しうげんのときのもやう、あなたのしたてしたる人の申やうにせられ候べく候、大くさはなにと申などゝたづね申候とも、おぼへ候はぬと返たう候べく候、

一 さだめてつねの三こんにて候べく候、たいしくほなどまいり候はい、ほんくのしき三こんにて候べく候、さやうに候はいくほによくたづねられ候て、しだいちがはぬやうに候べく候、つねの三こんにて候はいべちきなく候ほどに、やうがましく申されまじく候、

一 さんこんの三さか月、しうげんのときは三ツにて御まいり候物にて候、せつく、ついたちにはさ候はねども、くるしからず候、いわれは御なりの時は上に候かわらけ一ツにて、三とまいり候、

一 引わたしのとき、くはへの事、くはへはいで候へども、くはへ候はぬ物也、そのごとくに御さた候べく候、しき三こんの時はもちろんにて候、

一 みうち衆御れい申され候はんやうだいの事、せたがや殿の御いへにつきたるおとなしゆをば、一つれにそのしゆばかり御あひしらい候べく候、

御つぎのざしきの事

三のまへんにて、ひきわたしにて、上らふしやうばんしかるべく候、御つぎと申てもしやうじひとへの所などはあしかるべく候、

一ほりこし殿の御いへよりつきてまいりたるおとなしゆをば、一どに御あひしらい候べく候、あひしらいはおなじ御事にて候、

一おとなしゆに御さか月給候はん時、しやく申候はん人なく候、上らふせんをおしやり給ふて、おくへ御たち、御さか月にちやうしそへて、御いでまいらせ候、これにてよく候べく候、

一きんじゆの衆御れい申候はんやうだい、おとなしゆとすこし引かへ候てよく候、これもざしきはおなじざしきにて候べく候、御さかづきばかり給候べく候、さか月のくきやうにくみ付候物候、

一おとなしゆ、きんじ衆、御返禮のありやうは、一兩日すぎ候て、御ひきよういちうもんそへ、高はしかうざへもんを御たのみ候て、つかはされ候べく候、一高はしかうざへもんこそで御やり候はんは、三日の御しうげんのうこ過候時ぶん、御とをりへめし候てつかはされ候はんか、これは大かたどのへ

よくたづね申され、御いけんのやうに候べく候、もしじよの人々おもふ所も候、もしむようと御いけん候はい、みづしむくのすけをつかゐとしてやどへ御おくり候べく候、さ候ともひろふれには入候まじく候、つゝらなどふせいに入候てとりいだし、ひだりのてにすへ、右のてにうへをさへまいらせ候べく候、一さい下ての人に御つかい候こそでひろぶたにはすへ候はぬ物にて候、たとへて申候、くぼうさまより三くわんれいはじめ、めんくにくだされ候もひろぶたさた候はず候、御一ぞくの御かた、きら殿・石ばし殿・しぶ川殿などへ御ふくまいらせられ候事も候つる時も、ひろぶたはいで候はぬよし、いせのびつちう物がたり候、そうなどはきんじゆ候へば見および候つるとて候、くげ衆御けらいへも同事とて候、みのとき殿にてさるかくにいだされ候こそでを、れん中よりひろぶたにすへていで候時、ほうこうのきやう衆はらい候つると、そう二物がたり申候、ついでのでさいかく御心へ候べく候、

一おだはら二御屋かたより御れいぎ候べく候、御つ

かゝおとなしゆ御あひしらいのごとく引わたしにて候べく候、きんじゆの衆にて候とも、屋かたの御つかゐにて候は、御あひしらいはおなじかるべく候、屋かたは今くわんれいにて候、その御つかゐは御ほんそう候はでかなはぬ事候、

一 ぞくのしゆげん三どの、しん三郎ごとき、いづれもれい申候はんつかゐ、御屋かたの御つかいとはすこしかはり候べく候、大かたどのへ御だんごう候て、あひしらゐ給ふべく候、

一 水主むくのすけ、柴づしよ、すへへまでもまいりかよふべく候か、御ねんごろに候べく候、大屋なかたなどもひくわん一ふんのものにて候、御めかけ候て御ようをもおほせつけ候べく候、

一 清水笠原御れいにまいり候は、おとな衆御あひしらいのごとくにて候べく候、

一 御むかゐにまいりたるおとなしゆへは、つぎの日みつしむくのすけつかゐとして、よべば御しんらうと上らふより仰といけよく候べく候、たゞしいかい候はん哉らん、かうざへもんに御だんがう候べく候、御れい申され口後にもつかゐ御やり候は

んか、かうざへもんいけんに御まかせ候べく候、一 しん三郎かたへの御れいぎは春よく候べく候、大かた殿へたづねあわせ申され候べく候、

一 あき人しゆ御れいにまいり候べく候、御あひしらい此ほど大かた殿になされつけたるやうにあるべく候、

以上 大りやく此ぶんか

一 正月 ぐわんさんよりかゝみ、子のひ、七日、十五日いわゐ、大かたどの此とし月なされつたるごとくにて候べく候、そのぶんげんあん申候つるよし、御ことわりよく候べく候、

三月三日、五月五日、みな月、七月七日、八さく、九月九日、いづれもおなじ、

一 いのこのもちゐの事、きんねんおだはらにしかじかと御いゐる候はぬまゝ、やうだい人わすれ候、されどもきゝおよび申候ぶんは、御まへへ参り候、四はうの上につみたるもちを、一ツづゝ御はさみちやくぎのめんゝ衆は、三くわんれい山名一色以下のかたへ被進候、其後たれにても御としゆ御せんをもちて御とをりへいでられ候て、し

この御としゆきんじゆのしゆへいださるゝよし承候、國々にある大めいは、代官をのぼせはいりやう候、大裏の御やうだいをも西殿へ尋申候、當關白さいせんにはいりやう候て、しだいに大なごんまではいりやう候、これは女房しゆのいださるゝとみへ候よし御物がたり、しか口は、御いわ候はん時は、上らふへはしきにはさみて參らせられ候べく候、中らうへは上らふはさみ候ていだされしかるべく候、おもてはおもてにての御いわにて候べく候まゝ、申事なく候、このいわぬは天りやくの御かどの御とき、康保年ちうむらさきしきぶしだいしたると、ふるき物にはみへ候、大りの御まつりごとかづくのうちに候、ふ氣に御いわぬもたかうぢいらぬはくげに御なり候まゝ、御いわぬにて候べく候、ついでのなまさいかく申候、一ざとうしゆ參候は、御さか月給御ひき給候べく候、あなたかたに候はんずる、ざとうしゆ參候は、御ねん比は候べく候、なれゝしくは御おき候まじく候、ついでに御心へ候へ、ざとうとてもおとこのめのくらきにて候、女中がたへあんないなしに

立入物にてはなく候、てんかそのぶんにて候、やすき事やうしゆゐん殿の御とき、うちつなくわ一と申候けんぎやう候つる、へいけ御きゝ候とて、われわれおほく候て、からかみのまへ一とめし候つる、その時もやうしゆゐんどののは、おくのまに御ざ候、きんねんざとうと申せば、いづれもおくがたへ參候、心へがたく候へども御國ぶりにて候まゝ、一人して申されず候、たいしみんななど參候は、御心やすく御よび候てもくるしからず候、おさなくより御しり候、又としよりぬるがふつゝかの物にて候、御ねんごろよく候べく候、さ一これ又おなじごときの物にて候、その外はなれゝとはめし候まじく候、さて候ともざとうしゆなど三こんなどのうちには、御しやうばんにはめし候まじく候、御つぎにて給候か、又御またせ候てのちに、御さかな給候て、くこん給候べく候、うこの時は、御しやうばんくるしからず候、てんじんどうせんの事候、かやうの事は、へいせいもかたきをめされつけにて御をき候べく候、きんねんこゝもとさだめかたに候て、きはゝとも候はず候するかなとは、さやうの

事はめてしきはうくに候べく候、御かくご候
べく候、

十二月十六日

そ う 哲〔花押〕

北條幻庵覺書終

黒田家老士物語序

爰にひとりの老士あり、歳八拾有餘なり、御當家御普代の筋目なれば、如水公長政公御物語、或御武功、或諸士の働、度々物語せられしが、予不根ゆへ大かた忘れたり、されども有増覺たる計を書留るもの也、御兩公御武功の事は、諸書に有と見へたれば是を略し、御物語端々耳に残りしを取あつめ、又は諸士手柄覺たるを筆を染る者也、本より文筆つたなしといへども、其事の聞へ安き事を元として、世の嘲をかへり見ず、書記一冊とす、老士の物語を集るにより書の名とす、我にひとしき人は見給ふべし、文才あらん人は嘸片腹いたかるべけれども、恥をはぢと思はねば、恥かしき事なし、只心の覺ばかりに書集る物ならし、

黒田家老士物語

一如水公御物語に、惣じて一國を治る大將は、尋常にしては諸道成就し難し、先政道に私なく、其身の行儀作法を亂さずして、平生數寄好む道に心得あるべき事也、主の好む事をば、必諸士又は町人百姓に至まで願ふ物なれば大事儀也、文武は車の兩輪のごとし、一ツも闕ては有べからず、さるよし古人の語也、勿論治世には文を以し、亂世には武を以治るとは有ながら、治世には武を捨ず、亂世には文を忘れざるが肝要也、治りたる世とて、大將武忘るゝ時は國の風俗あしく成行物なり、世間に智者は稀にして愚者多し、故に國中の諸士も武を忘れてをのづから心至弱に成行、武士道の吟味もなく、武藝もおこたり、尤武具等も疎にしてほこりに埋れ、弓鎗の柄は蟲の住家と成、鐵炮は錆くさりて、中々物の用に不立、左様の國に若一揆など起たる時は、平生の不心懸不詮儀故評定さだまらず、めづらしき事乃出來たる様に驚き、鎗をとれば蟲穴より折れ、

弓も是に同じ、鐵炮は火を通さねばくさりて急の用に立す、うろたへ廻る内に敵寄來れば、一戰にも不_レ及敗北して、家を亡し國を失ひみぐるしき有様なり、第一先祖の家を亡し名を汚し、又後代の嘲となるものなれば、武の家に生れては寸の間も武を忘るべきにあらず、又亂世に文を捨時は軍理不_レ調、諸士血氣のみにして義死稀なり、因_レ茲制法不_レ定して必敗北と成ものなれば、兎角大將心根より、善とも惡とも成もの也、油斷しては成べからず、武を忘れて國を失ひし大將昔も聞ど、まのあたりにも有、能々可_レ得_{心腹}事也と仰られけるとなり、

右の御思案故、如水公長政公御一代、御防戰終に臆れを取給はずは御詮議厚故也、長政公御武用は不_レ及_レ申、儒之道にも御心をよせられ、林道春を召て聖賢の正敷道を聞給ひ、議論を遊ばし、諸事御工夫而已也、道春に命じて、扈書抄と云書を作せり、其後板行して世間に流布すと語られたりけり、

一如水公の御出語に、大將は威と云物なくては萬人の押へ成がたし、乍_レ去此威をあしく心得ぬれば、

還而政道の妨と成物なり、其故いかんとなれば、只諸人にをぢらるゝ様に身を持たずを威と心得、家老に逢ても威高ぶり、事もなきに目に角を立、言語物あらく、家老の諫を不_レ聞入、我非有時もかさをしに云まぎらかし、我意を振舞により家老も不_レ諫、をのづから身を退様に成行もの也、家老さへ如_レ斯なれば、まして諸士末々に至まで、おぢをそれ身がまへをして、一日暮しの覺悟なれば忠貞の思ひをなす者一人もなし、右のごとくの大將は、物ごと手あらく、さまでの事にてもなきに、傍仕の者をしかり、むたひに手打を好むにより、傍仕を疎み仕樣なき内に身を退べき工夫而已也、をして實の奉公を働むるものなし、かく物ごとみだりに成政、かならず家を失ひ國亡ぶる物なれば、能々心得べき事也、誠の威と云は、政道を邪なく其身の行儀正敷臣をさとし、諫言を破らず、物毎詮儀を加へ理非を正し、賞罰明らかにして、諸士を手足のごとくにおもひ、町人百姓等を子のごとくになつてぬる時は、萬民したしみ敬ひ恥恐るゝにより、おのづから威備るもの也、我此事を朝暮心にこむるといへ

ども、萬民至りがたし、播磨姫路にありし時とは違ひ、今豊前を領知しぬれば、諸士をはじめ町人百姓に至る迄、大勢なるにより、猶以心及がたし、是のみ心をめぐるすもの也、況我まゝをふるもふのみにて、諸道成就しがたし、國民にうとまれる物なれば、油斷しては國家を失ふものなりと仰られけると也、

一或時、如水公長政公御一座にて、御家老衆をめされ、御仕置御詮議の序に、如水公仰られけるは、惣じて人に上に相口不相口といふ物あり、主君諸士を仕ふにも有之事も、諸士いづれをいづれと分難しといへども、其内に主の氣に應ずるものあり、是を名付て相口といふ、又出頭人ともいふ也、此者善人なれば國の重寶となり、惡人なる時は國家の妨となれば、大事の事也、主人道理に聞き時は惡人をしらすして、相口なる者まかせに成行もの也、本より倭奸なるにより、上部は善人のまなびをなし、主をたぶらかすにより、彼に心をうばはれ、なすほどの事を能と思ひ、次第に取立、後には家老となし、國の政を執行するにより、生得の倭奸彌つものり、邪な

る仕置のみなれば、諸士彼をにくみ士民うとみ果、還て主人に恨をふくみ、不實の奉公を勤め、國中一致せず、家老の中不和に成て亡びたる國古今多し、名主の下にはなき事なり、心明らかなれば人の善惡を能見知候が故也、各兼て知ごとく侍ども中にも相口の者有之、傍近く召仕ひ輕き用事をも勤さするといへども、彼に心を奪べき覺悟にあらず、乍去自然と相口なれば、品により君は惡事を見出す事も有ぬべければ、各隨分心を付見出し聞付、我を諫めよ、また彼者驕て諸行惡敷時は引付異見すべし、其上にも不改時は我に告よ、詮議の上一道に行べし、我心万人と及がたけれども、自然無理の行ひもあらば、遠慮なく早速知せよ、尤改べし、扱又各が心根の善惡によつて國家の治ホドメとの二つ有り、心得大事の儀たり、是又相口あるを以最負の心付惡を善と思ひ、或は賄に心まよひて惡と知りながら、をのづから親む者也、是より政道の邪出るものなれば、能々可き心得二事也、扱又家老たる者威高ぶりて諸士にする時は、諸人にくみしかり、上部はうやまふ體にもてなし、底意はそむき、惡事あらば

と聞耳を立そしり廻る、如^レ此成ゆへ心實は下知に不^レ順もの也、右之通下に遠きが故に諸士不^レ親、上部のけいはくばかり勤るゆへ、人の賢愚を不^レ知、不^レ吟味を以、諸士に其身の得ざる役を勤さするによりて必仕損じ、品により其者身代を亡す事も有物也、常に親敷近き其もの、氣質を見付て、相應の役を勤さすべし、是を人を能つかふといふ物なるべし、不詮議を以あた^レ侍を失ひ、其者も及^レ難儀、主も又損をするもの也、是皆愚知臣下の邪欲によつて起る儀なれば、大切の儀と仰られけると也、
一 如水公御出語に、子の守りに付る侍の人柄を随分吟味すべき事肝要也、其子幼少の時より彼守夜晝付添諸事を云教けるにより、其子平生の行諸大方向に似るもの也、上部のみにあらず、後々は氣質迄も守のごとくに成移る物なれば大事の儀也、此故に守に付べきと思ふ侍をば、幾重にも吟味をとくと遂、氣質を見定其上にて付べし、尤其子の生付によつて、差別可^レ有事也、其故に生付靜にも和かにて、上部大やうにして物毎に氣を付す、手ぬるく見へて、内心はうつけにてなき生付の子有、左様の

子に付べき守は、先其身成程實直にして、邪心なく驕なく智慮有てさし走り、随分働^レき諸事油斷なく、辨舌も能ものを付てよし、又内心の利發を外にあらはし、物言歳に不^レ應人を見侮り、物毎に小作にして延慮すくなく、利口めきて大氣なる生付の子あり、左様の子^{に力}つくべき守は、是又其身成程實直にして、智慮厚く内心働^レき、上部は成程靜にて物に不^レ働、言語すくなく延慮深く、立居輕からず手ぬるき程に見ゆる者を付置てよし、此兩様肝要也、其外付置侍どもに此心得をすべし、扱又彼守に付候侍をば主人念比に仕置なし、位の付様にしてよし、仕様かろくして位うすき時は、其子心安くあいしらい、侮る心有に依て、いか様に諫言しても不^レ入^レ聞、後は守をないがしろにして、主下の間滯邪魔出来る物なれば、大事儀也、扱又大名の子は生れ出て、段段生長に至迄、平生榮耀にそだち、難儀に不^レ合によりて、人の辛苦を不^レ知、此故に諸士の仕ひより惡敷、士民を不^レ憐もの也、初小身にして次第に立身し大名に成ては、其時々^{に難}の身代がらに應じたる思慮計にて、小身成時の辛苦^{に難}不自由を忘れて、末

末の痛を不_レ思もの也、まして大名の子に生れては、左様の事會て不_レ知なれば、うかと心得ぬる時は、國主領主ともに、諸士又は士民に至_レ迄、勞れ亡所すべし、能々思慮すべしと仰られけるとなり、一或時、如水公長政公出仕日に表に出給ひ、家老衆中老衆諸物頭、其外諸士御目見終て後、御一座にて大身小身共に諸事分限相應の身持、覺悟油斷すべからず、家作衣類諸道具等に至_レ迄、身代より彌輕く調へ、勝手相續奉公無_レ懈怠_一勤る分別肝要也、平生の食物猶以成程輕く、縦初にも美食を好むべからず、肉證逼迫に及ぬれば、をのづから不奉公に成行、義理に違ひ、苦自然の事有時は、出立べき手立もなく恥を得る者也、不_レ行して不_レ叶儀なれば、人並に出るといへども、中々見苦しき有様也、其覺悟の善惡は兼ての仕様によるべし、武具は武士第一の道具たりといへども、是も平生詮議を詰身代道具無用たるべし、其故はいかに武具を餘計所持するといふとも、身代相應の人を不_レ扶持_一時は持せて行べき手立あるまじ、然時は費となる物也、此故に平生遂_レ吟味_一用に立べき程の武具を考、念を入調べし、

身代過分の武具を拵かざり置ば、皆是名聞にかゝる武士のなすわざ也、名聞は還て逼迫の本と成もの也、但かくいへばとて武具を疎にすべきにあらず、分限相應に拵置用に立分別肝要也、身代相應より多ても苦しかるまじきは下人也、乍_レ去是養ひ可_レ置手立あらば可_レ然、左なくば無用たるべし、馬も相應に持べし、伊達馬風流の馬好むべからず、用に立べき馬肝要也、

一如水公長政公、豊前御入國以後、御能有_レ之、諸士不_レ殘見物す芝居には町人百姓みち／＼て是を見る、能四番すぎ如水公御中入被_レ成、長政公はいまだ御座を立たまはず、然所に芝居の者共赤飯を給るより、銘々にけす事成がたし、役人芝居に入込手より／＼に赤飯をなげてやりける、登なる處に年の比廿二三にも成らんと見へし男、一人赤飯をうばひ我前に來るは勿論、人の前にあるをも押へて取、其上子共の持たるをも奪ひ取などしける、諸人はをにくみ或はいかる者も有ける、然る所に長政公御座を立て芝居へをりさせ給ふにより、いか成御用候やと思ひ、諸人御跡に付て芝居に下りけり、

長政公大勢の中をわけさせ給ふて、彼赤飯をうばひたる男の傍に行給ひ、何とも仰はなくて彼男のたぶさを御取引付給ひ、御脇差にて首を打落し投捨給ひて、本の座敷へ御歸、すぐに奥へ入せ給ふ、芝居のもの共立騒ぎければ、黒田兵庫殿高聲に申されけるは、汝等鳴をしづめて能きけ、只今若殿の立服御尤至極也、面々が見るごとく、彼者ばうじやく不仁なる振廻也、御前を不憚有様偏に土を輕しむる某、彼者を成敗すべきとおもふ所に、若殿の御手かけ申事、無_レ是_レ非_レ次第也、我にかざらず列座の諸士手ぬるき様に思召らめと無念さ無_レ限、汝等もよく心得よ、是にはかざるべからず、何ものにてもあれ、我意を立邪道をなし、上輕しむるにおひては、即時に罰科にて行ぞと申されけると也、其後如水公長政公御出座有て能_三番あると也、都合七番にて事濟、何も退散せしと也、

長政公彼者を御手うち被_レ成たるは、御心持有ての事也、豊前御入國の比迄は、西國とくと不_レ治、町人百姓の心不敵にして上を敬ふ事なし、下知を不_レ用、領主を輕しむる心有を、長政公兼て見

付給て、右のごとくし給ふと也、兵庫殿も其御思慮を考て、申されけるとなり、

一或所にて、林田左門信田大和、其外四五人も寄合、四方山の物語又は兵法はなし、けり、其中に若侍有けるが、其身力量餘程有血氣さかんにして、よろづ物強き事を好みけり、彼者云けるは、兵法は武士の可_レ勤道とは云ながら、あながちに是を不_レ勤ば、武儀不_レ成と云にても有まじ、一心さへ不_レ臆ば、縦令兵術不_レ知といふとも、高名をば可_レ懸ものをと、居丈高になつて云、左門是を聞、いかにも其方被_レ申通一理聞へたり、乍_レ去心剛なる上に兵術勝れなば鬼に鐵棒なるべしと云、かの侍血氣なれば一心さへ不_レ働ば、たとへ木刀仕合なりとも無下にて劣とも覺へず、ちと仕合て見度ものなりと云、左門聞て夫はよき心指也、いざ參ふと云へば、心得たりと早座を立、庭へ飛下りあたりを見けるに、庭木の添木に結付置たる、長さ壹間計のすもと有、是を以仕らんとて引ぬき、土の付たるをぬぐひ、二ツ三ツ打振て持たり、左門も座敷を立て縁の^{見れば}小木刀有、是をおつとつて引さげ庭におりてい、けるは、

随分心の及程精を出し、何そと太刀を入れてみられよと云、仰せまでもなしとて彼すもとを車にかまへてかゝる、左門も小木刀を引さげそろ／＼と寄けるに、太刀間と／＼程に成て見へし時、彼者一打にてうちけるを、左門何とかしたりけん、引はづし飛達ざまに木刀のさきを以て、彼者の額を少うち、參つたりと聲をかければ、いかにも木刀あたつて覺たり、思ひしよりも太刀はやさ事、中々成間敷と云て、すもとを投捨たり、其時左門殘多は今一仕合可參といへば、いや／＼成間敷と云て止め、雙方座敷に上りて後左門いけるは、向後我をおられよといへば、いかにも心得たりと答ふ、一座の面々も笑ひけると也、見るうちに彼者額少はれ血もにじみければ、上部にはそしらぬ體にて居たりけれども、内心には餘程面目なく無念に思ひけれども、すべき様なくて其座を立けり、右の次第其長政公聞召、彼ものを御用有とて召れければ何事やらんと急ぎ登城す、御前に召れ宣ひけるは、汝今日林田左門と木刀仕合をし負たりときく、其通りかと宣ひければ御意の通と申上る、長政公被仰け

るは、若き者には成程似合て能心ばせ也、左門成とも打べしと思ふは勇氣の勝れたる所なれば、若き其心ざしなくてはもの、用に難立、扱又仕合に負たりとて少も恥ならず、其故は左門事兵法の名人也、世舉てゆるしたり、汝はしらうとなれば何と働とも得勝たじ、負たるは道理也、しかりとて左門に武儀をば負べからず、兵術上手なればとて防戦におよび、必定勝べきにあらず、兵術不得とても高名をば遂べきなれば、爰は各別の詮議なり、しかりとて武藝を不勤は、武の道に生れて道理にそむけり、汝今日左門に仕合負たりとて、必心にかくべからず、上手は勝下手は負るが定る所也、我柳生但州、正田文五郎に兵術を習し時、我意を立てうたれし事度々ありしぞかし、汝も向後左門弟子に成て兵術を學べし、習得に於ては必人に可勝、かならず稽古をこたる事なかれと仰られければ、彼の者難有餘りに涙を流し、御前を立其夜直に左門所へ行、御意をかたりきかせ、弟子の契約なし、夫よりは晝夜怠らずつとめけるにより、後に上手に成しと也、

一或時、長政公猪狩に出給ふ時、石目あまりの手負猪かけ廻りけるにより、鐵炮にて打弓にて射けれど、もあたらす、怒廻る所に御立目より四五拾間も先に、若侍壹人刀をぬき件の猪に向て懸るを、長政公見給ひ被_レ仰けるは、只今猪に出向たるは侍と見へたり、甚無分別也、あれに見へたる松木楯に取てまちかけ、猪怒てかゝらばやり過して切留よといふべき由、被_レ仰ければ、聲々によばゝりけれども、彼者耳に入すや有けん、刀をかまへ居ける所へ、猪無二無三にかけ來りけるを、飛違て打と切けるに、大骨より腹半分過切付ければ、のつけに倒所を押へてさす、脇を一刀つき返し、難なく仕留仕つたりと高聲に匂_ノりけるを、長政公御前に召れ、只今の仕方随分太刀はやく次第、見事なる振廻ひ若きものは尤似合たる仕方也、乍_レ去無分別第一也、其故いかんとなれば、猪に逢ての高名さして益なき事也、若切損じぬる時は、猪にかけられ所によりて死する事も有べし、縦不_レ死云とも、大分の疵を蒙り、一生難儀におよぶ事も可_レ有なれば、あたら侍を一人せんなき事に失ふは、別ての損也、最前も云

ごとく猪怒り懸る時は、あたり木か又は石にても有時は、夫を木楯に取てまちかけて仕留るがよし、木楯にとるべき物なくば、不_レ及_二是非_一所也、逃はせられまじければ、待うけて切殺すべし、幸なる木楯あるに、汝いらざる高名だて也、合戦に及時、鐵炮弓に打血もかゝり、又は武士と武士の出合、鎧を合敵を突伏高名するものなれば、何ぞ畜類に負べきや、若切留得ずしてかけられなば、見苦敷事なれば、向後其心得すべきよし仰られけると也、

一或時、長政公御館の表へ出給ひけるに、刀懸に三尺餘りの刀ども懸ならべて有ければ、何者の刀ぞと尋に付、かるき侍の刀なる由申上ければ、扱もきみよき刀なり、若き者には似合たりと被_レ仰けるを、御傍廻りの侍是を聞、扱は殿は長き刀を好み給ふと心得、三尺餘りの成程奇麗に拵置、或日の鷹野の供に右の刀をさし御目通をあちらこちらかけ廻り、いか様御意に可_レ應ものをと自慢づらにて居ける、扱鷹野より歸らせ給ひて、其曉鷹野鳥料理被_二仰付_一、御家老中御相伴にて諸事御咄の次手に被_二仰けるは、惣て人たる者分限をわする、といふ事、大

きなるあやまち也、縦は知行をとらせ置侍は、假初に出にも鍵をもたせぬるは、自然の事もあれば鍵を以勝負を決すべき爲也、歩行の者ごときは鍵持、されば長き刀を好て徳あるべし、然るに三千石を取侍の忤、三尺餘りの刀をさし廻るもの有と見へたり、定て手に相たればこそ持たるには有べけれ共、身體不相應成體たらく近比見苦し、皆是心得違なり、彼が親是ほどの事を不辨ものにてもなし、少は立走りの心ばせも有ものなるに、いかで異見もせざるや、かくいへばとて武士は鍵ならで勝負すべき道具なき様にあれども、左にはあらず、鍵の入べき所にては鍵、刀を可_レ用所にては刀、脇差を以すべき所にては脇差、皆場によるべし、其外の道具も尤場によるべし、其内脇差は常住腰を不_レ放道具なれば、手に相たるを差べけれども、分限不相應なれば徒の者めきたり、是皆不詮儀なる故也と甚笑せ給ふ、彼何某御次にて是を聞、思ひしに替ければ恥しく、無_ニ是非事に思ひ、右の刀二度さゝざりしとなり、

一長政公筑前御拜領御入國以後、或日鷹野に出給ふ

道筋、御駕より二三十間程先の道端に、何と不_レ知一人刀を一腰さしかざし畏居けるを見給ひ、あれは何者ぞ見て參れと被_レ仰ければ、御侍衆一隊人かけ出し、何者なれば御通りの道に罷出居るぞ、尋て參れとの御意なりといへば、彼者いゝけるは某事何村の何と申百姓にて御座候、此二三夜つゞけて夢想の告を蒙り、此刀某先祖より代々相傳の所に、殿様江差上べきよし兩夜つゞけて夢の告有といへ共、如何敷又は上をはいかる心にて其分に致申所に、又夜前の夢想に今日殿様此道筋を通らせ給ふ間、持出て指上我家に有べき刀・あら_ニずと慥に告あり、兩三度の夢想の告もだしがたし、乍_レ恐如此候、可_レ然御取成頼奉るよし謹で申ければ、立歸り其趣申上ければ、長政公被_レ聞召、其者はへつれて參れと仰ければ、引立御前につれ來、長政公見給ひ、汝が夢の告聞べしと有ける時、彼者右之趣謹で申上る、長政公被_レ仰けるは、不思議の夢想見る者かな、我も夜前夢を見たり、汝今日此道筋出力を我に與ふべし、其刀を以則汝が首を刎よと慥に夢想の告あり、汝が夢と相たり、是天よりの指圖なれば默止が

たし、只今首をはぬべし我を恨る事なかれ、あれはからへと仰有ければ御傍衆此男のもちたる刀を奪取、即時に首をはねけると也、

一黒田兵庫殿は、如水公御一腹さし次の御舍弟也、生れ付實直にして平生柔和也、物に強動の心なくて智慮も厚人也、如水公長政公も不_二大形_一執し給ふにより、御家中の諸士末々に至まで敬ざるはなし、播州以來如水公の御左り備の先手として、高名も數度有し人也、如水公豊前拾貳萬石の内にて、壹萬貳千石の領地をつかはし置給ひけれども、少の驕もなく諸事兼退の心のみにて、下に近き人也、長政公の御後見なり、毎々諫言を被_レ申けるに、其身佞奸邪欲の心なければ被_レ申上_二事毎に理に叶けるに_一より、長政公別て御得心遊しければ、如水公御喜悅不_二大形_一と也、登城の時も長政公御座所より、敷居を防と兵庫殿座せられけるにより、御家老衆は猶末座也、長政公是非兵庫殿是へと再三仰られける時、漸敷居を越どつと末座に伺公し、成程敬ひたる體にて被_レ居けるとなり、又道にても長政公に行逢れける時は馬より急飛下り、地に頭をつけ居られ

けるにより、長政公も御駕籠より下り給ひ、兵庫殿傍へよらせられ、別而めいはくに候、御通りあれと被_レ仰けれども、猶頭をさげ被_レ居けり、其後御館にて人も不_レ居時、ひそかに長政公に被_レ申上_二けるは、先日路次にての御時宜さりと是不_レ入儀にて候、御前恐れ候て頭をさげ敬申にてはさら／＼無_レ之候、未だ御年若の殿なれば、御家中の諸士若くは輕しめ申事も有べし、某敬ひ申體を見せ、御家中の諸士に兵庫殿さへ如_レ此と心がけさせ、末々迄うやまはすべきため候得ば、向後は路次にて御逢申共、御構なく大ていに御言葉をかけられ、通り被_レ成候得と申されたと也、その外何事によらず、如水公何かを取分敬ひ申されけるにより、御家中の諸士長政公を尊敬し奉ることなり、

黒田家老士物語終

千代茂登草序

有客袖一冊子來視於予曰、是惺窩藤先生述儒學大意、以諭其母氏者、藏某家巾箱久矣、僕乃乞得授梓、名曰千代茂登草、千代茂登者、在中郎所答其母夫人之詞、載在勢語、斷章取義、不知果協否乎、願子題一言以弘其傳、予繙閱喟歎曰、有是哉、後學之幸也、蓋先生爲中興儒宗、有大造本邦、則以其首倡洛閩之學也、斯書之出也、論者或謂、以先生之道德、於化其母乎何有、且也正學之行、二百年于茲、孰不與聞明德誠敬之說者、然區區國字之錄、間或混乎佛意、豈足傳歟、亦弗深思己、夫婦人之難化、固非男子之比、矧浸淫浮屠者乎、昔在尹彥明、以程門高足、日誦金剛經曰、是其母所訓、不敢違也、彼其平日、不能論母於道之所致也、以先生方之、豈不優哉、此不唯道德之純粹、抑亦至誠之感化也已、若夫解明德引證、益典以流轉後生談心、則所謂約牖之語、讀者逆其意、略其辭而可矣、

天明戊申秋八月

後學 岡山菱賓謹撰 印 印

千代もとくさ

惺窩藤先生著
難波人某校寫

としたちかへるあしたのそらのけしきものどかに、きのふにはやうかはりて、たにのうぐひすもあゆみをこゝろみ、のきはの梅のえならぬにほひにうつり來て、うひことのねも事あたらしくめづらし、人のこころもそいろにのびて、おもふまゝなる友うちかたらひ、この山、かしこの寺にたいよひあるき、歌をよみ、文をつくりて、そのこころざしをのべ、其興をもよほす、あるはまた女どちわらはべのこゝちよげなるをあとさきにひきぐして、たかきいやしきをうちものかたらひて、わかくさねせりなどやうのものをとりつみ、ことなる興におもひて、世のうきわさをわすれて、けふはかひあるわが身かなと、こゝろおごりもせられ侍る、やよひなかばはよしのふもととはちりすぐれば、山の花いまをさかりといろめきたり、

宮古のも、こゝかしこちりもはじめず、さきものこら
す、人のこゝろもそらになりて、山のおく谷のそこま
でまよひゆきて、くれゆく春の名残をしみ、春の風
のおもてをふくには寒からねども、はなにふるゝこ
ゑは、山賤のをのゝ音よりもはげしく、きのふまで
は、にほやかにして、色に出でて香にほこりて、天下
の人のこゝろをまよはせしむくひにや、一夜のほど
になかばはちりてかつゝ残りたるも、中々見しお
もかげもなく、たとへばやめるをみなのにほひおと
ろへたるにことならず、又ころもがへ日は、こゝろ
もあらたまりて、内も外もみどりのいろ／＼にそめ
なして、出仕のよそほひをひきつくろひ、又せちゑに
は、あやめふきわたし、あふひかけたるも、いとめづ
らし、ぼうたんは花の君なりと、もうこしの人はいひ
しも、げにことわりぞかし、牡丹閨年ニハ十三葉うるふのとしは花のやう
もひとへにまさりて、ちしほの色にさきみだれ、柳は
みどりに、山振は中央のいろをふくむ、又のきばも山
もとりつくろひて緑のぬれ／＼として、わかやかな
るは、花よりもいみじくめづらし、ふづきのはじめご
ろはあやしきなほしきれども、ゆふべの風のこゝろ

もかはりて、いつとなくひとほちりそめて、野山の色
色にそめわけて、にしきをはれる世界なるもいとに
なくすぐれて興ある見ものなりけり、月はいつもめ
でたしといへども、殊更まちうけたる十五夜のみね
のこすゑよりこぼれかゝりたるやうにあでやかにさ
じ出たる、こゝろもことばもおよびがたし、いにしへ
の人たちも、春秋のおとりまさりは、いづれをいづれ
とわきがたかりし、よべの月のまどかなりしも、け
ふのゆふべはすこしおもがはりして、ものゝかけた
るやうにおぼえ侍る、神無月の朔日ごろより、露霜の
おくての山田ふくかせも身にしみて、まがきのはな
もしほみおちて、もとあらの萩もかつちりて、そとも
のむしの聲もなきからし、世をすて人のほらわたを
くぐくたよりとなり、ゐなかの山はなかなばもすぎて
雪くだりあられまじりの風おちて、民のすみかもあ
はれなりけり、めにみえぬ、あめつちのこゝろばかり
しりがたしといへども、四季のてんべんして、うつり
かはるしだいを、さつするに、さかむなれば、かなら
ずおとろへ、みつればかくるならひは、みなこれ自然
の理と見え侍る、いきとせしかいけるものゝうちに、さか

りひさしきはなけれども、よろこびきはまれば、かなしみ來りおごれるものはひさしからず、これまた自然の理なるべし、

齊の桓公の廟にあやしきうつはものあり、夫子見て、これは宥座の器なりとのたまふ、水なきときはかたぶき、又水中分なるときは^直ろくなり、十分にみつるときは、此器かならずくつがへる、明君これをいましめとして、つねに其座のかたばらにおき給ふ、

子路問て曰、十分にみつるとも、かけぬ道あるべきなり、夫子の曰才智すぐれて君子のごとくなりとも、愚人のおもひをなすべし、天下に大なる功をなしたりとも、人にゆづりて、わが功にはこるべからず、勇の力世にすぐれたりとも、怯をもておもふべし、とめることは四海をたもつとも、謙をもてまもるべしといへり、あゝ聖人だもかくのごとし、諸人これをこゝろとせば、みたりともあやふからずかし、

天道とは天地の間の主人なり、かたちもなきゆゑに、めにみえず、しかれども春夏秋冬の次第にみだれぬごとくに、四時おこなひ、人間を生ずることも花さき實なることも、五穀を生づることも、みな天道のしわ

ぎなり、人のこゝろはかたちもなくして、しかも一身の主人となり、爪のさき髪すぢのはづれまでも、此こころゆきわたらずといふ事なきがごとし、〔繪畧之〕

此人心天よりわかれ來りてわがこゝろとなる也、もとは天と一體のものなり、此天地の間に、あるとあらゆるものは、みな天道のはらのうちにはらまれあるなり、たとへば、大海のうちに魚のはらまれてあるとおなじ、魚のひれのうちまでも、水のゆきわたらぬといふことなし、人のこゝろのうちへも、天のこゝろのゆきわたらぬといふことなし、かるがゆゑに、一念慈悲をおもへば、其念天に通じ、一念惡をおもへば、其念天に通ずるがゆゑに、君子のひとりをつゝしむ、

古語曰、人々自性之内、有^二一顆衣心玉^一、出^二靈智之光明^一、爲^二自性之法身^一、出^二瞋恚之猛火^一、爲^二煩惱之牢獄^一、

明德とは、天よりわかれ來て、わがこゝろとなりて、いかにもあきらかにして、一もよこしまなるところなく、天道にかなふたるものを明德といふなり、天より生れつきたるごとく、此明德を明かにみがきたてたる人を聖人といふなり、又人間と生れ來てより後

に、人欲といふものあり、欲心ふかく、見ることに聞く事にまよふをいふなり、此人欲さかむになれば、明德おとろへてかたちは人にして、心はとりけだものの一になるなり、たとへば、明德はか一みの明かなるがごとし、人欲はかゝみのくもりなり、日々夜々に此明德のかゝみをみが、ざれば、人欲のちりつもりて、本心をうしなふ、明德と人欲とは、敵味方なり、一方かけては、かならずまくるなり、

誠とは、偽なきをいふ、是天の本體なり、春夏秋冬土用などの、毎年毛頭次第のみだれぬも誠なり、人間は人間をうみ、梅は梅、櫻はさくらの花をさかするも誠なり、天のなすほどのわざにいつはりはすこしもなし、かるがゆゑに天の本體を誠といふ、わが心天よりわかれくるによりて、人もいつはりなければ、自然に天道にかなふ、偽あれば天に背きて子孫はろぶるなり、君に忠節、親に孝行、人に慈悲をほどこすを、誠のみなもとゝするなり、

敬とは、君につかへるにも、親につかへるにも、一大事の客人をあひしらふごとくに、こゝろをしづめて大事にかけてつゝしむべきなり、又下人をつかふに

もまして友にまじはるにも、よこしまのこゝろなきやうにつゝしむなり、するほどの所作を、おろそかにせぬごとくに、大事にするを敬といふなり、又君親に仕ふるに、あまりに、大事にかけてくすみすぐれば、隔心出来てこゝろへだつるものなり、このこゝろの誠をとりはなさぬやうにむねにおきて、かほかたちは、いかにもうらゝかにして、さすがきとして、つかへ奉るべきものなり、

右 明德、誠、敬、

此三はこゝろのつゝしみなり、

仁、義、禮、智、信、

これは人の日夜朝暮の所作なり、

仁は、人をあはれみ、慈悲をほどこす事なり、

義は、無理のなきやうに、萬事を理にかなふやうにするなり、

禮は、上の人をうやまひ、下となる人をも、それぞれにあひしらひをするなり、

智は、智慧なり、人をあはれむは、仁なれどもいらぬ所に、あはれみをすごすは仁にあらず、禮はたらぬも不禮なり、過るも不禮なり、よきほどの理

にかなふやうにするを智恵といふなり、

信は、いつはりなきを信といふ、仁をほどこすにも、信をそへ、義にも、禮にも、智にも、此信をくはへねば、みないたづらとなり、天も誠を體とし、人も信を骨とするなり、かくのごとくすれば、天も我も一體なり、

君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友、

これを五倫といふ、これ又人の日々夜々の所作なり、

君臣、君につかへ奉るに、一命ををします、忠節を盡すべし、

又君は臣を我身のごとくにあはれむべし、すこしもこゝろにいつはりあれば、天にそむくなり、父子、子の親につかへるには、孝行をつくすべし、親は子に道ををしへてあはれみをくはふべし

夫婦、この間は天地のごとし、夫は女をあはれみ、婦は夫をたふとみて、たがひにうらみなきやうにすべし、

兄弟、兄は弟をあはれみ、弟は兄を敬すべし、朋友、友とまじはるには、すこしも偽あれば、心は

なるゝものなり、

右此五倫の人々日夜の所作たる、其所作に、心にいつはりありて、かたちばかりにて行へば、其偽を天の知り給ふによりて、いたづらごとゝなるなり、此五常五倫を行ふて、其ひまあらば學文をすべし、此所作をつとめずして、學文するも人欲なり、まづ明德をあきらかにし、次にこゝろを誠にし、次にするほどの所作をつゝしみて、こゝろのうちをみがき、其上に五常五倫を偽なくおこなへば、わが身ながら、聖人となりて、天道と一體なり、かくのごとくなれば、天のあはれみをかうふりて、子孫かならずさかえ、後の世には、天の本土にかへるなり、天にそむきたるものは、子孫ほろび、後の世に此心流浪して、天にかへらず、鳥けだものとなるなり、かるがゆゑに、儒道には天をおそれ、道をおこなふ事を、一大事とするなり、天の本心は、天地の間にあるほどの物を、さかえるやうにあはれみ給ふなり、かるがゆゑに、人となりては、人に慈悲をほどこすを肝要とする也、慈悲をほどこすに次第あり、まづ一門一類に、よりどころなき貧者あらば、すゑくまでたづねもとめて、これにあは

れみをくはへ、そのち他人の親もなく、子もなく、
たよりもなきものあらば、分々に應じて物をあたへ
べし、天の道には次第のみだれざるを肝要とするな
り、まづわが家のうち、けんぞくをよくして、其後國
ををさめ、天下へ慈悲をほどこすべきなり、かくのご
とくすれば、人のうらみをうけぬものなり、人のうら
みをおふものは、かならずそのむくひあるものなり、
人に慈悲をほどこせば、又よくむくひあり、むくひを
うけんとて、なひをするは慈悲にあらず、又富貴なる
ものに、物をあたへたるも、天の道にかなはず、慈悲
にあらず、

家のうちに、五人十人百人にてもあれ、其わが分に應
じたるほどに、とりまかなひをするが道なり、分に應
せぬ花麗をするも道にあらず、又うちばにして、金銀
をたくはへたるも道にあらず、いかにもつゝまやか
に家ををさめて、人にじひをほどこしたらば、子孫に
富貴の人あるべし、子公といふ人たかきもんをたて
たる事をしるべし、財寶おほければこゝろけがるゝ
もの也、心ほど大事なるものはなし、此財寶ゆゑに
のちの世までをとりはず事おろかなる事なり、さ

巢父

うふといふものは、天下をゆづらむといへども、此心
のけがれむ事をおもひてうけず、范蠡はんれい張良など
といふものは、たからをすて、國をすて、此こゝろ
をみがけるなり、いにしへの聖人賢人といはれて、國
をひさしくもちたる人に、たれか寶をこのみたる
はあるべからず、又寶をこのみ、美女を愛し、たのし
みをもはらとするもの、たかきいやしき、ほろびざる
はあるべからず、

一國のあるじは、一國の父母と天道よりのたまふな
り、父母となりて、其國の人民をくるしめぬれば、か
ならず天の罰をかうふりてあしゝ、はなはだしけれ
ば一代にほろび、惡ゆるやかなれば子孫ほろぶるな
り、

一國に生ずるほどの米穀は、一國の人をやしなはん
ために、天より生じ給ふなり、しかるに一國の人民を
しばりとり、民の涙をあつめて、金銀珠玉となし、く
らにたくはへおきて、其身の榮花とする事は、天道の
物をぬすみて、わが榮花とするなり、其とがなにと
してのがれんや、其身一代のたのしみはいみじけれ
ども、子々孫々天のせめをうくる事いたまじきかな、

五百年已來、その身の功はなくして、富貴にはこり、けんへいをとり、人民をくるしめたるものゝ子ども、のゆくすゑをかんがへ見るべし、目前にあはれをもよほす事のみおほし、

天下をえる人を天子といふ、天子とは天の子と書り、これすなはち天道の名代に、此界へ出て、天下の萬民をあはれみ、天下の父母となり給ふなり、

天照太神は、日本のあるじなれども、宮作はかやぶきなり、御供は黒米なり、家居をかざり給はず、食にめづらしきものと、のへずして、天下の萬民をあはれみ給ふなり、神武天皇其おきてを守りて、道をおこなひ給ふによりて、後白河法皇まで、幾千年といふ數をしらず、代々子孫に天下をゆづりて、さかえ給ふなり、いにしへの天子は、みづから鍬をとりて、田のうちはじめをあそびして、民のくるしみを報じ給ふ、延喜の帝は、寒夜に御衣をぬぎて、國土の民どものいかにさむからんとなげき給ふ、神道には正しきをもはらとして、萬民をあはれむを極意とするなり、上一人正しからは、下萬民すぐなるものなり、上一人欲ふければ、下萬民上のごとくなり、こゝろだに誠の道

にかなひなばいのらずとても神や守らん、誠の道とは、天道の誠なり、神佛に金銀を進上して、我身のうへをいのる事、おろかなる事の第一なり、人さへすこし道の心あるものは、よこしまなるまひなひをうけず、惡人にちかづかず、まして民をくるしめず、被官一類をかつゑにおよばせて、神佛に音信申たるとてうけ給はんや、其身正直にして、慈悲を人にほどこしぬれば、いのらぬとても神守り給ふなり、叶はぬ事を神佛にいのりて叶ふといふ事はなき事なり、後白河法皇にて、天照太神のおきてやぶれきはまりて、賴朝天下をとりて、おもてには慈悲をほどこし、道をたつるまねをして、心には天下をとり、我身のたのしみをおもひたる、いんぐわによりて其身は、死するところさだかにもえれず、賴朝の子賴家は、おとうとの實朝にころされ、實朝は、をひにころされて、四十二年にて、子孫ほろび、天下をうしなふたり、道をしらず、天道をおそれず、民をくるしめ、一人えいぐわにほこる天罰なり、

北條時政、賴朝のしうとにて、自然に天下をとりて、九代百六十年をさまりたり、時政の孫泰時、又西明寺

といふ、此二人道をしりたる人にて、此二人のまゝりをもて、百六十年をさまりたり、やすとき天照太神のおきてをまもり、天下の萬民をあはれみ、身のえいぐわをなさずして、家居もそさうにして、ついぢなどもくづれおちて、ゆきゝの人見入るばかり、ありさまなり、その時大名小名よりあひて、あまりにまばらにて候、御用心のためにて候ほどについぢのやぶれをつくろひ候はんと申ければ、やすときはいはく、われもさはぞんじ候へども、此ついぢのまゆりなどといへども、いくほどの萬民のつひえたるべし、又泰時に忠節とぞんせらるゝ上は、これにましたる用心はなし、くろがねのついぢをつきたりとも、おのゝこゝろかはり、民のうらみをうくるならば、我家かならずほろぶべし、たゞ御無用と返事せられたり、又西明寺殿あるとき、母の方へまゐり給はんとするとき、母やぶれたる障子を、ひとまづつみづからはり給ふ、けいめいする人のいはく、ひとまづいくりたるは、まばらにてみぐるしく候、みなはりなほし候へかしといへば、母のいはく、いやさやうにはあらず、わかき人には、つゝまやかなる事をまらせたるがよく候と申された

り、此こゝろは、すこしのつひえをいといひて、萬民のくるしみをたすけむためなり、いにしへは女なれども、かくありがたき、聖人のこゝろにかなひたる人ありつるぞかし、かうやうなる心の徳つもあり、民をあはれみ、天道にかなひ、百六十年をさめたり、〔繪畧之〕九代目の相模守高時、西明寺のこゝろとちがひ、一人えいぐわをきはめ、美女を愛し、酒をこのみ、民のつひえをいとはずして、おごりをきはめたる天罰によりて、先祖の功をむなしうして、一門けんぞく鎌倉にてくびはねられたり、

堯と申は、もろこし四百餘州のあるじにて聖人なり、舜と申も天子にて聖人なり、孔子も此堯舜の道をひろめ給ふなり、堯舜の道を儒道といふ、儒道を學問するを儒者といふなり、堯四百餘州の天子なれども、家の地形高さ三尺にして、やねをばかやをもてふき、かやのこぐちをもそろへず、たるきをもけづらず、御服はやぶれざればめしかへず、食に珍物をとゝのへず、あかぎのあへものなどにてすゝめ給ひて、天下の萬民を我子のごとくにし給ふ、此徳によりて、幾萬年いく千年といふかぎりもなく、めでたき御代のためし

は堯舜の御代をあふきたてまつる、堯舜の道として、不思議神變なる事はなし、たゞ明德新民至善誠敬五常・五倫、是道乃極意高上なり、此道をもて我こゝろを正し、萬民をあはれみ給ふときは、天下を久しくたもち、權謀をもてをさむるときは、一代二代にてほろび、五代六代をさむるといへども、合戦さらにやむ事なし、これををさめたる世とはいふべからず、

もろこし四百餘州七國にわかれて、七王となりたる世あり、秦の始皇六國の主をほろぼして、一人四百餘州のあるじとなりたり、武道はすぐれたれども、文道をまらずして、四十里四方にやしきをかまへ、城を高くつきあげて、金銀珠玉をちりばめ、其内に、天下の財寶をあつめ、美女を愛し、榮花にはこる事、いにしへにも又末代にもたのしきありさまなり、法度をきびしくおきて、天下の人これにいきをつめ、萬民はつかれくたびれて、此天下のほろぶる事をまぢかねたり、萬人のくるしみつもりて、十五年にして、天下ほろびたり、漢の高祖は、泗上といふ所六十町あり、在所のおとなや人をあはれみ、心ひろうして、秦の代をほろぼして、天下をとりて法度を定めてはいく、人

を殺すものは殺すべし、又人をやぶるものと盗人をば、つみをふかくすべし、此三の外の法度をばことごとくゆるすとなり、秦の世の法度にくるしみたるものども、心のびてまづ高祖におもひつきたり、此德によりて、四百年天下ををさめたり、秦の世十五年にしてほろぶる事は、法度にくるしくして、萬民をくるしめたるも、萬民のつかれくたびれたるとのふたつなり、漢の世四百年天下をたもちたるは、人をあはれむと、法度のゆるかせなるとのふたつなり、此事ものの本にあきらかに見えたり、日本の神道も我心をたゞしうして、萬民をあはれみ、慈悲をほどくすを極意とし、堯舜の道もこれを極意とするなり、もろこしにては儒道といひ、日本にては神道といふ、名はかはり、心は一ツなり、神武天皇より三十代欽明天皇の御時に、天竺の佛法日本へわたりて、ふしぎぞんべむなる事をとき聞するによりて、人これにこゝろをよせて、神道おとろへたり、

釋迦佛は天竺の人なり、天竺國の人はこゝろすなほならずして、國をさまらず、佛、難行六年苦行六年、十二年のあひだ、檀特山だんとくせんといふ所へひきこもり、

國のをさめやうを工夫して、佛法といふ事を説給ふ、はじめは心といふものはあるものとき、又中比は心は空なるものとき、後には心はあるものにもあらず、なきものにもあらず、中道實相ととき給ふ、今

淨土宗のごとく極樂地獄をたて、人のこゝろをすなほになすは、佛の心はあるものぞと、とかれたる所なり、禪宗のごとく心はなきもの、五體ある間のつきものぞとをしへたるは、佛の空ととかれたる所なり、又天台の法は佛の有にもあらず、無にもあらず、中道實相ととかれたる所なり、かくのごとく佛のいろいろにとき給ふは、其人々の氣に應じて、こゝろをすなほにして國ををさめ、萬民をやすくおかんだめなり、佛のこゝろもちもありがたし、ゑかるに今の世の出家たち、身のすぎはひの中だちに佛法をとくによりて、みな人心まよふなり、釋迦如來のぢきの弟子、阿難迦葉をはじめて、欲にこゝろをけがされまじきために、一物をも身にたくはへずして、毎日乞食に出て其日々々の食ばかりをもとめ給ふ、今時の出家たち財寶をつみたくはへ、堂寺に金銀をちりばめ、あやにしきを身にまとひて、いのりきたうをなして、後世を

たすけむといひて、人のこゝろをまよはする事、佛の本意にもあらず、まして神道のこゝろにもかなはず、世のさまたげとなるものは、出家の道なり、

儒道と佛法とのかはり

釋迦佛一切經の中に、心はあるものなり、極樂地獄もあるものなりと、ときたる所も多し、又心もなし、極樂地獄もなしと、説れたる所もおほし、ゑかれれば心はなきものぞと落著たり、心あるものならば、かりそめにも、心はなきものぞとは、とき給ふべからず、ゑかれば後生はなきものに落著なり、ふかく思惟して、よく心得わけ給ふべし、

儒道には、此性は天の性をうけ得て生れ、又もとの天の性へかへると落著たり、ゑかれどもこゝろにいつはりて、人をそこなひ人をそねみ、こゝろよこしまにしておごりをきはめたるものは、此世にては、天の責をうけ、其身ほろぶるか、又子孫にいたりてほろび、又死して後、此心流浪して天にかへらざるなり、これによりて天をおそれ、明德を明らかにして、心を誠にし、五常五倫をおこなひ、慈悲をもはらにして、此性

の天の本土にかへる事をたのしむ、天にいのりきたうしてかへるにはあらず、

天下傳授之辭

人^一心惟危、道^一心惟微、惟精惟一、允執^三其中、堯舜禹の三聖人此十六字をもて、天下を治め給ふ、堯舜禹は大聖人なり、天下の大事はすなはち國をやすくし、天下を太平にをさむるより外はなし、其大事の授受は中の一字なり、堯舜禹湯文王武王伊尹傳授周公孔子顏回曾氏みな此中の一字をもて道統の傳をつぎ給ふ、中とは中庸なり、中庸の肝要は、誠の一字なり、まこと、は一毛も天理にたがはぬ所なり、孟子の遏^二人欲、存^三天理、とのたまふも、此中の一字なり、此十六字、萬世聖人心學の傳授なり、

此十六字のこゝろは、人心とは人のこゝろなり、道心とは天の心なり、我心のはじめは天の心と一體なり、まかれども人と生れ來りては、人心といふもの出來るもの也、上智の人といへども人心あり、又下愚の人といへども道心あり、此ふたつのもの、人の腦中にまじはりてあるものなり、これををさ

むるゆゑをまらざれば、人心主人となり、道心被官となりて、天理はろぶるなり、此人心と道心とのふたつの間を、くはしくして察すべし、又かの本心を正しくして、胸中にはなさずして、一にする事すこしもたえぬ間なきやうにするときは、道心主人となり、人心被官となりて、天理日々に明かにして天心にかなふ、天照太神の正直は一旦の依怙にあらすといへども、終に日月のあはれみをかうふるとのたまふも道心なり、謀計は眼前の利潤たりといへども、かならず神明の罰にあたるとのたまふは人心也、正直にして我身のえいぐわをわすれ、財寶をちらし、人をあはれみ民を愛すれば、此世にては天のこゝろにかなひ、死して後は天の本土にかへり、子孫長久にしてさかえぬる事は、微妙にして見えがたし、民をまへたげ財寶をあつめ、榮花をたのしむ事は眼前の利潤なり、まかれども此世にては天命にそむき、死して後我こゝろ流浪して、天にかへらずして、子孫ほろぶる事はとほからずしてさとりがたし、かるがゆゑに、人心は長じやすく道心はほろびやすし、たとへばいばらからたちちま

げりやすし、牡丹芍薬はきえやすきがごとく、悪人はさかむにして、善人はまれなり、四書五經其外萬卷の書をまなぶも、此十六字のこころを知らんためなり、筆にあらはし、くちにいひほどきがたき妙處あり、まかれどもこれをもとゝして工夫をめぐらさば、聖人のさかひにも至るべし、欲ふかく、民を^欺へたげ、人をたらし、財寶をあつむる事人心の長上なり、又物知りと人にいはれんとおもふも人心なり、只心をみがかむための學問なり、又藝能にすぐれて、人にほめられんとおもふも人心なり、我職をみがくは道なり、武道をはげみて名をたかうせむとおもふも人心なり、まして所領をうけむなどとおもひてするぶんは、更に沙汰にもおよばず、たゞ君のためにいのちをすつる事道なりとおもふべし、鳥類ちくるゐだにも、其役々はつとむるならひなり、人となりて鳥にだも^まかざるべけんや、又わが家のうちをもとゝのへず、けんぞくのすゑすゑのまづしきをみつがすして、他人にものをあたふるも人心なり、一類なりとも富貴なる人にたからをあたへべからず、他人のまづしき人をめぐ

むを仁といふなり、

悪人なれども、一代富貴にさかえたるあり、善人なれどもまづしきものあり、これにこゝろ二ツあり、先祖の人善人にて慈悲をほどこし人をめぐみぬれば、其子孫悪人なれども榮える事あり、又吉日良辰に生れて富貴なるものあり、^まかれども其人悪人なれば、一代か又は子孫にむくひてほろぶるなり、夏の桀般の紂王・日本にて頼朝又は明智日向守がたぐひのごとし、又惡日にうまれて貧人あり、

天はみてるをかくるといふ事あり、民を^まへたげず、人をむさばらずして、自然にあつまるといへども、財寶多き人はかならずあやまちあり、其一代に外聞をうしなふ歟、又死して後あまた子どもありて、たからをあらそひ、親のはちをもあらはす歟、一人の子にあまたたからをあたへぬれば、ゆるなき事につひえをいたし、結句惡名をかうふる事あり、二代三代とめるは千人に一人まれなる事なり、さかんなるものはおとろふる事自然の理なり、春さかむなれば夏來り、秋さかむなれば冬きたる、天道さへかくのごとし、〔繪畧之〕

湯王天下をとり給ひて、民のくさづとをもうけず、家居をかざらず、武王の天下をとりて、紂王が天下のたからをあつめおきたる藏をひらき、財寶米穀をことごとくちらし、漢の高祖天下をとりて、驪山りさんにいたりて、たからを愛し、美女を愛す、蕭何いさめていはく、秦の代のほろぶる事は、此たからと美女との故なりといふ、高祖これにまがひて、たからと美女を愛せず、又漢の疏廣といふ人、太子の師匠となりて、年老て古郷にかへらん事を奏す、君と太子より金銀あまたたまはり、古郷にかへり、日々夜々に人をあつめてつひやし、人にほどこしたり、ある人のいはく、財寶をのこしおきて、子孫にあたへざる事はなんぞや、疏廣のいはく、賢人にしてたからおほきときは、其こゝろざしを損じ、愚人にしてたからおほきときは、其あやまちをますものなり、われとし老て子孫のゆくすゑをおもふ事がぎりなし、このゆゑに財寶をちらしたるぞとこたへたり、賢人君子此語をたふとみはうびの言葉多し、聖人賢人みなたからを散して道を行ふ、これを天欲といふなり、道をもはらとして、慈悲ある人なりとも寶をこのむこゝろあらば愚

人と云ふべし、おごり又まわき人ならば、周公旦ほどのさえありとも、其人を見るべからずと聖人ものたまひたり、少しも欲のこゝろあらば、學問の妙處にも至るべからず、又大きな智慧もめぐりがたし、さありとてたからをすて、其身のほろぶる事も道にあらず、諸葛孔明は死してのちに、財寶の藏にのこらぬやうにとねがひたり、ねがひのごとく死して後にたからのこらざれども、其子亦天下にはまれありたり、たらぬにもあらず、残るにもあらず、是今の世の人のおこなふべき所なり、天下國家をたもちても、たからをちらし萬人をあはれむこゝろあれば、十分にみつるにあらず、一家をたもちてもたから身にあまらば、十分にみりと云ふべし、これ子孫をうしなふ中だちなり、聖人愚人のわかれ、是よりはじまる、つゝしむべし、

儒道の眞理かなにうつしがたしといへども、六十にあまれる母のいはく、われをさなきより、佛のみちにあゆみをはこび、日の出て月のかたぶくをもおぼえず、あけくれ心のいとまなく後の世のわざのまいとなみ侍りしが、ちかきころは

ひ、なんぢがもろこしの人につたへをうけし、儒
道とやらんにみゝなれて、こゝろふたつに別れ、
のちの世のつとめにおこたり出来侍る、よはひ
かたぶいて、ものゝおぼえさだかならず、いかに
も見るにたよりあるやうに、ゑるしてたべとの
たまふ、やむ事を得ずして、かくかたはしをか
きつけ侍るなり、

北肉山人藤肅ゑるす

千代もとくさ終

春鑑抄

林道春著

○五 常

仁義禮智信ノ五ヲ、五常ト云ゾ、常ハツ子トヨムゾ、
 常ト云ハ物ノ常ニアリテ、カハラザルヲ云ゾ、カハル
 ナラバ常ト云マヒゾ、此仁義禮智信之五ツノ道ハ、ツ
 子ニシテカハラヌゾ、人ト云モノダニアラバ、天地開
 闢ヨリ以來、末代ニイタルマデニ、此道ノカハルコト
 ハアルマヒホドニ、常ト云ゾ、サルホドニ萬代不易之
 法ト云ゾ、不易トハカハラズト讀ゾ、夫天地造化ト云
 モノハ、タダ萬物ヲ生ズルヲモツテ心トシ、シハザト
 スルゾ、サルホドニ春夏秋冬ト、ハジマリテハ、ヲハ
 リ、ヲハリテハハジメルゾ、ムカシヨリ今ニ至ルマデ、
 一息ノアヒダモタヘセズ、クルリトシテ、メグ
 リメグリテ、物ヲ生ズルヲ心トシ、シハザトスルゾ、
 サルホドニ春ハ草木モ花咲、夏ハシゲリ、秋ハ實ノ

リ、冬ハラサマルゾ、コレニテ天地ノコ、ロハ見ヘタ
 リ、タダ平生物ヲ生ズルヲモツテ、天地ノワザトスル
 ホドニ、草木禽獸萬物ニイタルマデ、天地ノ生意ノ
 中ヨリ出ルゾ、サルホドニ物々ミナ、天理ヲ具セヌモ
 ノハナヒゾ、ソノ内ニモ人ハ萬物ノ靈長ナルホドニ、
 ナヲモツテ、天理ヲ具セズト云事ハナヒゾ、天地物ヲ
 生ズルノ心ヲ以テ心トシテ、人ミナ仁義ノコ、ロナ
 クテハカナハヌゾ、故ニ仁義禮智ハ、ミナ天ノアタフ
 ルトコロゾ、仁ト云モノハ、天理ニアリテハ、物ヲ生
 ズルノコ、ロゾ、人ニアリテハ慈愛ノコ、ロゾ、慈愛
 ノコ、ロハ仁ゾ、仁ハ五常ノハジメニシテ、義ト禮
 ト智ト信トノ四モ、仁ノ中ニコモルゾ、サルホドニ、
 人ニハ天理、自然ノ性ヲウケテ、仁義ノコ、ロナキ人
 ハナケレドモ、人欲ノワタクシニ、陷溺セラレテ、仁
 心ヲウシナフゾ、人欲ニ陷溺セラレズバ、人ツ子ニコ
 ノ仁義ノ中ニアリテ、シバラクモ、ハナルベカラザル
 コト、天地物ヲ生ズルノ心ノ、一息ノアヒダニモ、タ
 ヘズシテ、草木萬物ヲ生ジ、雨露ノメグミヲ施スガ如
 クナランゾ、故ニ仁義禮智ハ、ミナ天理ゾ、聖人コレ
 ヲ天ノ道ニウケテ、五常ヲシナクニワケテ、ヲシヘ

ラレタゾ、

○仁

夫人ト云モノハ、天ヨリ性ヲウミツクルニ、ソノ性ニ仁義禮智ノ四徳ノソナハラヌモノハナヒゾ、性トハ、タトヘバ水ハシタヘナガル、性アリ、火ハホノホノウヘヘ、アガル性アルガ如キゾ、サルホドニ人ノ性ニハ、慈愛惻怛^{タツ}ノコ、ロアルヲ仁ト云ゾ、慈愛トハ慈悲ニシテ、愛敬アリテ、人ヲアハレムヲ云ゾ、惻怛トハ、イタミイタムトヨムゾ、人ノアシキコトラ、ワガコ、ロニイタミイタンデ、タスケスクフゾ、コレハ天理ノマ、ニシテ、自然ノコトハリゾ、孟子ニ惻隱之心仁之端也ト云モ、コノコトゾ、惻隱トイフモ、イタミイタムトヨムゾ、人ノアシキコトライタムハ、仁ノ端也ト云ゾ、端者緒也ト云ヒテ、絲ノハシナドノ、卒度ミユル様ナゾ、仁ノ全體デハナヒ、ハシチャト云心ゾ、タトヘバニツ三ツニナル、ワランベガ、井ノハタニ居テ、井ノ中ヘヲチントシテ、アブナキヲミテハ、タレガミテモ、アハヤカナシヤト、思ハヌモノハアルマヒゾ、コレハソノ子ノヲヤト、知音ニモアラチドモ、カヤウニ

思フハ、天理ノマ、ニシテ、人欲ノワタクシノ、ソツトモマシハラヌニヨリテ、ヤレカナシヤトヲモハルルゾ、シカレバ人ニハ、惻隱ノ心ガ、性ニフクンデアルゾ、仁者ト云モノハ、ソノゴトクニ人ノウヘノ、ウキヲミテハ、タスケヒデハトラモヒ、災難ニアフヲミテハ、救ハント思フゾ、不仁者ト云テモ、コノ性ハアレドモ、人欲ノ私ニヒキノコナハレテ、仁ノ心ヲ失ヒ、不仁ニナルゾ、サルホドニ仁ト云ハ、マヅ人ヲアハレムコ、ロアルヲ云ゾ、サレバ唐ノ韓退之ガ、博愛謂之仁ト云ヘルハ、ヒロク衆ヲ愛スルヲ仁ト云ゾ、宋ノ朱文公ハ、仁者心之徳愛之理也ト云ゾ、仁ト云モノハ本心ノ全徳ニシテ、人ヲ愛スル理也ト云ル心ゾ、孟子ハ仁人之心也ト云ルヲ、程子ガ註ニ、心譬如穀種、生之性便是仁ナリト云タゾ、心トイフモノハ、タトヘバ五穀ノタ子ノゴトキゾ、タ子ニハハヘ出ル理ヲフクンデアルハ、性ト云モノゾ、心ノタ子ノ、ハヘイデタルハ仁也、人ノ心ニ仁ヲフクンデアルヲ、ソレゾレニヲコナヒアラハスハ、タトヘバモノタ子ノ、ハヤハヘイデタヤウナゾ、中庸ニ仁者人也ト云ハ、仁字ハ人ト云字ノ心ゾ、イフコ、ロハ人ノ人タルハ、仁ノ

道アルヲ以テ云ゾ、仁ノ道アリテ、シカフシテノチニ、人ト名クルゾ、仁ナクンバ、人トハ云ベカラズ、カルガユヘニ仁者人也ト云ル心ゾ、マコトニ人ノ心ニ、人ヲアハレム心モナク、慳邪見ナラバ、人ニハアラズ、サレバ虎狼モ仁アリト云ヒテ、トラヲホカミモ、母乳ヲノムトキニ、ヒザマヅイテノムト云ゾ、鰻モ魚ヲトル、ハツホヲマヅ天ニマツルト云ゾ、人トシテ仁アラズンバ、虎狼ニモヲトリタルコトゾ、烏ナドモ、巢ニアルトキハ、母ニ餌ヲフクメラル、ガ、巢ヲ出テハ、マタ母鳥ヲヤシナヒ、餌ヲフクメカヘスト云ゾ、人トシテ、鳥ケダモノニヲトランハ、アサマシキコトナルベシ、仁ノ道ヲバ、アマタニ孔子聖人モ、イハレタレドモマヅ孝行ノ道ヲ、仁ノハジメ根本トスルゾ、論語ニハ、孝悌也者、其爲仁之本與ト云ヘルゾ、孝トハマヅ父母ニ奉公シテ、ソノ志ニシタガフヲ云ゾ、ナゼニト云ヘバ、父母ト云モノガナクテハ、コノ身ナシ、父母ガアレバコソ、コノ身ガアルホドニ、コノミノアルアヒダハ、孝行ニ力ヲツクサデハ、カナハヌ事ゾ、孝行ナル人ハ、マツロガ身ヲムサトモチテ、道ニタガヒワガ身モホロブルヤウニスルハ、父母ニモ耻

ヲアタヘタ心ゾ、父母ノ名ヲモゴスゾ、ヲヤノ名マデモ、クタスナドト云レテハ、人ノミチデハナイゾ、モトヨリ父母ニ、イカヤウノ不足アリトモ、父母ヲバウラミヌ事ゾ、恨ルハ孝ノ道ニアラズ、皆大舜トマフスミカドマシ／＼キ、ソノチ、瞽叟ト云、人タル人ニシタガフヲ云ト、孟子ノ云レタゾ、仁ハ愛ノ理ナリト云フナレバ、他人ヲサヘ愛スルガ仁ナルホドニ、マシテヤ父母兄弟ヲ、愛セザランヤ、中庸ニ仁者人也親レ親爲レ大ト云ハ、仁ト云ハ、父母ニ孝ヲ盡シ、一族親類ヲシタシムヲ、大キナル仁ト云ゾ、一族ヲシタシム中ニモ、差別アリ、ツ、トシタシキト、マタイトコ、ハトコノスヘトハ違ゾ、サルホドニ、親レ親之殺、尊レ賢之等トイヒテ、ソノシナジナガアルゾ、タマシ一族兄弟ト云テ、惡人ニシテ分別モナク、無理非道ヲノミオモフ、イタヅラナルモノヲバ、シタシマヌ事ゾ、サレバ周ノ世ノ聖人タル、周公旦兄弟ノ、管叔蔡叔ハ、謀叛ヲシタホドニ、コロサレタゾ、唯仁者能好人、能惡人ト云テ、仁者ト云モノハ、人ヲ愛スルモノナルホドニ、能好人ト云ゾ、マタ惡人ヲバ、愛セマヒゾ、サルホドニ能惡人ト云ゾ、周公ノ管叔蔡叔ヲ

コロシ、大舜ノ四凶ヲナガシ、孔子ノ少正卯ヲコロサ
レタハ、能惡人ニテアルゾ、孟子ニ仁者無レ不レ愛也、
急親レ賢之爲レ務ト云テ、仁義ノ道ハ、マヅ人ヲ愛シ
テ、アハレミヲカクルヲ云ゾ、ソノ中ニモケンジン
ヲ、アイシテシタシムヲ、スミヤカニ、ツトメトスル
ゾ、ワガウチノ臣下ニ賢人君子タル、ヨキ人ヲアゲモ
チヒテ、アルヒハ師トシ、アルヒハ友トシテ、シタシ
マヒデハゾ、賢人君子ヲウチニモタヒデハ、天下國家
ハヲサメラレマヒゾ、サルホドニ舜ハ臯陶ヲモチヒ、
殷ノ湯王ハ伊尹ヲモチヒ、周ノ文王ハ、太公望ヲモチ
ヒラレタゾ、仁ハ愛ノ理ニテ、國民ヲコトククアハ
レムガ仁ゾ、サレドモアマタノ人ヲ、一々ニ愛スル
事ハ、ナラヌ事ゾ、サルホドニ孟子、堯舜之仁ニ偏
愛人、急レ親レ賢也ト云テ、堯舜ホドノ、仁聖ノ君モナ
ケレドモ、ソレモ天下ノ人ヲ、一々ニアイスル事ハ、
ナラヌホドニ、ヨキ賢人君子ヲ、シタシミモチヒテ、
ソレハニサバカセラレタゾ、禹ニハ水ヲオサメサ
セテ、天下ノ水道ヲアケラレタホドニ、民ガタスカリ
タゾ、稷ハ、五穀ヲツカサドラシメテ、五穀ガ天下ニ
澤山ナホドニ、民ガタスカリタゾ、契ヲバ司徒ト云ツ

カサニナシテ、人倫ノ五常三綱ヲ、タバサシメタホド
ニ、國モ大平ニ萬民ガタスカリタゾ、コレハ一々ニ人
ヲ愛スルト同ジコトゾ、タトヘバ川ノアルニ、人ヲオ
キテ、ミチヲトラル人ヲ、一々ニライコシ、マタコシ
ニノセツナドシテ、川ヲワタスハ仁ニハ似タレドモ、
一々ニ毎日ノ事ヲ、左様ニハナラヌコトゾ、サテハシ
ヲカケタラバ、ライコスニハ、ハルカニマシゾ、又トホ
ル人モ辛勞モセズ、ライコス人モ辛勞セズシテ、ヨカ
ランゾ、ソレト同ジコトゾ、賢人ニマカセテ、役々ヲ
サスルガ、萬民ヲ一々ニ愛スルト、ヲナジキゾ、橋ヲ
カケテトラスコ、ロゾ、サテ急レ親レ賢ト云タゾ、又曰
省ニ刑罰、薄ニ稅斂、此二者仁政之大目也トイヒテ、仁
アル君ハ、マヅトガ人ナドラバ、ヲモキトガラバカロ
クナシ、カロキトガラバ、ユルス事ゾ、コレヲ省ニ刑
罰ト云ゾ、仁者不レ嗜レ殺レ人ト云テ、ムサト人ヲコロ
スコトヲバセヌゾ、薄ニ稅斂ト云ハ、稅斂ハ年貢ノコ
トゾ、年貢ヲモ、キツクハトラヌゾ、薄スルトハ、年貢
ヲモ、ウスクトルゾ、民百姓モ其所ヲ安ジテ、國ノ富
ルヤウニスルゾ、キツクシテ、モノヲタメントスレ
バ、民百姓モ、ソノトコロニタマラスシテ、カナラズ

他國スルゾ、サヤウナレバ、仁ノ道ノ人ヲアハレム道
ニテハナイホドニ、民百姓ノ他國ヲモセズ、ソノトコ
ロヲタノシムヤウニスルガ、仁ノ道ノ大キナルコト
デアルゾ、カヤウナルコトモ賢人ヲアゲモチヒテ、サ
スルゾ、サスレバ一々ニ人ニヲンシヤウヲアタヘテ、
愛スルトヲナジコトゾ、サリナガラ賢人ニマカスル
ト云テモ、アマリニマカセスゴスモワルヒゾ、君モシ
ラヒデハゾ、サレバ仁ノ道ハ、イロ／＼サマ／＼アル
ホドニ、カタドラレヌゾ、論語ニ克伐怨欲不行焉、可ニ
以爲仁矣ト、孔子モイハレテアルゾ、克トハ、カツト
ヨムゾ、ナニ事ニモ人ヲヲシツケテ、我カタンマサラ
ントスルヲ云ゾ、是ハ仁者ハセス事ゾ、ワガ師コノ克
ノコトハリヲイハレシハ、克トハ人ニマサリ、心ノア
リテ、サシモナキ事ヲモ、タゞ人ニカタン、マサラン
トスルヲ云ト云レシゾ、伐トハホコルトヨムゾ、ワガ
イサ、カナリトモ、功ヲナシタルコトノアレバ、ミヅ
カラホコリマハリテ、コレ／＼御覽ゼヨ、ヲンラク
ハ、ワレラデナクテハナンド云マハル事ゾ、是モ仁者
ハセス事ゾ、ワガ師ノカタラシムハ、伐トハ卒度シタ
ル功ヲナシテ、世ノ中ニ人モナゲニ、ワレナレバコソ

ト、ホコルヲ云ゾ、大功ヲナシテサヘ、ホコレバ必ズ
ワロキ事ゾ、怨トハウラミトヨムゾ、コ、ロノウチニ
アレバ、イカリヲホカニアラハスヲ云ゾ、是モ仁者ハ
セス事ゾ、胸中ハ洒々落々トシテ、イサギヨイホド
ニ、述懐シタリ、ウラミクチル事ハ、ナニガアランゾ、
ワガ師ノカタラレシハ、怨トハ小忌大怨ト云テ、ソツ
トノコトヲ、クチリヒガミ、チタンデ人ヲウラミソチ
ム事ゾ、ヲサナガマシキコ、ロヲ云ゾ、欲トハモノヲ
ホシガルコトゾ、利欲ヲホントシテ、人ノモノヲムサ
ボルゾ、是モ仁者ハセス事ゾ、コノ四ツノアシキ覺悟
ノナキハヨツボド仁ノ道ナレドモ、マタ向上ニハイ
タラヌゾ、論語、子張問仁、恭寬信敏惠ト云リ、恭ト
ハウヤ／＼シトヨムゾ、仁者ト云モノハ、人ヲウヤマ
ヒ、インギンニアイシラフゾ、不遜ニシテ慮外ニハナ
ヒゾ、サルホドニ人モ仁者ヲバアナドラヌゾ、故ニ恭
則不侮ト云ゾ、寛トハユタカナリトヨムゾ、仁者ハ
心ガユル／＼トシテ、ユタカニアリテ、セハ／＼シク
ハナヒゾ、心ガユタカナホドニ、スコシノトガラバユ
ルシ、キツクナヒホドニ、人ガヲモヒツイテ、コノ人
ニ奉公セデハトオモフゾ、故ニ寛則得衆ト云ゾ、コ

レニヒキゴトアリ、ムカシ楚莊王ト云君アリ、アルト
キ臣下ヲアツメテ、酒宴ヲセラレタゾ、夜ニ入火ヲト
ボスニラウソクキヘタホドニ、アル臣下ガソノクラ
ミノマギレニ、上座ニイラル、美人ノソデヲヒイタ
ゾ、ソノ美人ガ、ソノヒトヲトラヘテ、冠ノヲヲキリ
テカラ、莊王ニ云事ハ、タレヤラン、ワガソデヲヒイ
タホドニ、冠ノヲヲキリテヲイタゾ、イソギ火ヲ出シ
ゴランゼヨ、冠ノヲノキレタルガアラバ、ワガソデヲ
ヒキタル人ニテ、アラント云タゾ、ソコニテ莊王ノイ
ハル、事ハ、酒ヲ各ニス、ムルハ、酔シメンガタメ
ゾ、酔タラバ、マタサヤウノ事モアランゾ、火ヲ出シ
テ見タラバ、酒宴ノ興モサメンホドニ、サラバ火ヲ出
サヌサキニ、座中ノ人々ミナ、冠ノヲヲキラレヨ
トテ、キラセテカラ、サテ火ヲイダシ、マタモトノゴ
トク酒宴ヲシテ、各ヨロコビヲツクシテサラシムル
ゾ、ソノノチニ鄰國ト合戦アリテ、莊王イクサニマケ
テハヤ討死ヲセントセラレシ處ニ、一人アリテ、王ノ
マヘニタチフサガリ、アマタノテキラキリクヅシテ、
莊王モヒキトラレタゾ、莊王ノイハル、事ニハ、サテ
モソノ方ノカゲニテ、今日ノイクサニモマケズ、ワガ

命モタスカリタルガ、キドクニ忠節ヲツクサレタト
云レタレバ、ソノ事ニテ侍フ、先年御酒宴ノアリシト
キ、冠ノヲヲ美人ニキラレタルハ、ワレナリ、ソノゴ
ランワスレガタキニ依テ、カクノ如シト云タゾ、コレ
ゾ寛則得^レ衆ト云ノコ、ロゾ、信トハ仁者ノコ、ロ
ハ、マコトアリテイツハラヌゾ、信ニシテ律儀ナル程
ニ、人ガタノムゾ、故ニ信則人任ト云タゾ、敏トハト
シトヨムゾ、ハヤキコ、ロゾ、仁者ハモノガ利根ニシ
テ敏達ナゾ、スベキ事ナレバ、又タニナクヤガテハヤ
クスルゾ、サルホドニ萬事ニツイテ功ヲナスゾ、故ニ
敏則有^レ功ト云ゾ、惠トハメグミトヨムゾ、仁者ハ人
ニメグミヲホドコシ、ナサケヲカクルゾ、人ニランシ
ヤウヲアタユルホドニ、人ヲツカフニモ、ツカヒヤス
ヒゾ、故ニ惠則足以使^レ人ト云ゾ、此五ツノ事ガ、仁ト
云モノゾト、孔子ノイハレタゾ、又曰、樊遲問^レ仁、子
曰、仁者先難而後獲、可^レ謂^レ仁矣ト云リ、仁者ト云モ
ノハ、マヅ君ニヨク奉公ヲシテ、辛勞苦勞ヲシテ、忠
節ヲツクシテノチ、祿ヲトルゾ、不仁者ハ、君ニ奉公
モセズシテ、先祿ヲホシガルゾ、功ヲナヒテコソ君ノ
祿ヲモトランズレ、功ヲモナサズシテ、祿ヲ取ハイタ

ヅラグイゾ、サルホドニ仁者ハサハナイゾ、君子タル人ハ、仁ノ道ナクテハ、名モトラレヌゾ、サルホドニ君子去レ仁惡乎成^レ名ト云ゾ、タツニモイルニモ、仁ヲワスレヌゾ、又曰、顏淵問^レ仁、子曰、克己復^レ禮爲^レ仁ト云リ、仁者ト云モノハ、禮儀ト私欲トラ、二ツワガム子ノウチニタ、カハセテミテ、ヲノレガ私欲ヲセメノケテ、タ、カヒカチテ、禮義ニカヘルトコロヲ仁トスルゾ、ヲノレガ欲ヲハナレズンバ、仁デハアルマイゾ、鏡モクモリヲミガヒテノケズンバ、アキラカニハナルマイゾ、私欲ヲノケテコソ、天理ノマ、性ノマ、ナルトコロニイタランズレ、人ト云モノハ、兎角ワタクシナル欲心ニヨリテ、ワザハヒガイデクルゾ、君ヲコロシ、父ヲコロスモ、ミナ欲ヨリヲコルコトゾ、サルホドニ仁者ハ、欲心ヲハラヒタテ、天理ノ公ニカナヘルゾ、天理ノ公トハ義ゾ、義ハ心ノ制事ノ宜也、制トハ法度ノ心ゾ、モ、ノ道理ヲシワケ、タチワケスルカタゾ、私ニナキアリメ^{ノマ、カ}ノミチガ、天理ノ公ゾ、人欲ノ私ト云ハ、マナコニ色ヲミテ、ヨクヲヲコシ、ミ、ニソノコヘヲキ、テソノヨクヲナシ、ハナニカラカイデ、ヨクヲヲコシ、クチニアデハヒヲナメ

テ、ホシキマ、ノヲモヒヲナス、手足ニツイテ、ホシキマ、ノラクヲヲモヒ、六根ノ境界、ソレ^レニヒキシコナハレテ、道ナラヌヲモヒヲナス、コレミナ人欲ノ私ナルベキゾ、仁者樂^レ山ト云モ、仁者ト云モノハ、山ノヤスクカタクシテ、自然トハタラキモセズシテ、草木萬物ノ、生ズルガゴトクナル事ヲタノシムゾ、仁者ハ丈夫ニヲチツキ、足實地ヲ踏デ、ケイハクニナク、シカモ德澤ノ物ニ及ブ事、山ノ草木ヲ生ズルガゴトクナルゾ、マタ仁者ハ靜ナリト云モ、仁者ハ第一ニ無欲ナルニヨツテ、コ、ロガシヅカナゾ、不仁者ハ名利ニフケルホドニ、コ、ロガサハガシイゾ、仁者ハ壽ト云モ性ガヲチツキテ、サワガシフナヒホドニ、氣ヲツカフコトモナク、仁者ハ不^レ憂トモ云ヒテ、心ニカナシムコトモナケレバ、壽命モナガヒト云ゾ、不仁者ハ脅肩諂笑、巧言令色ヘツラヒマハルゾ、仁者ハサハナヒゾ、タバアリヤウニスルホドニ、仁者ハシヅカナリ、マタ仁者ト云モノハ、ケナゲナモノゾ、ナゼニナレバ、義理ヲ知テスベキトコロナレバ、ヒトアシモヒカヌゾ、一命ヲハタシテモ、仁ヲナスゾ、故ニ仁者必有^レ勇トモ云リ、マタ殺^レ身成^レ仁トモ云ルゾ、孟子

ニハ仁者無^レ敵ト云テ、仁者ハ人ノタメニ、忠アルモノナルホドニ、人ガニクマヌゾ、マタテキラナサントモセヌゾ、イマ、デテキニテアリトモ、仁者ニハ歸服スルゾ、通鑑ニ、殷湯王東面而征西夷怨、南面而征北狄怨、曰奚爲^レ後我、後^ニ我后^ノ后來其蘇矣ト云ゾ、殷ノ湯王ノ東ノカタヘ、陣立ラセラルレバ、西ノ國ノモノガウラミタゾ、南ノカタヘタ、ルレバ、北ノ國ノモノガウラミタゾ、マヅワガクニヘ、ハヤク陣立ラシテ、タマハラヒデ、ナゼニワガクニヘハ、ノチニトリカケラル、ゾ、マヅ我クニヲホロボシテ、タマハラヒデト云タゾ、コレハ夏ノ桀王ガ、惡王ナルニヨリテ、コレニアキハテ、アルホドニ、カフ云タゾ、湯王ノワガクニヘイラレタラバ、民百姓ハ、タスカランモノヲト云ゾ、コレヲバ仁者ニハ、無^レ敵ト云義ゾ、論語ニソレ仁者ハ、己欲^レ立而立^レ人、己欲^レ達而達^レ人、能近取^レ譬可^レ謂^ニ仁之方^ニ也已ト云テ、仁者ト云モノハ、マヅ人ヲソダツルゾ、サルホドニマタ人ガ、仁者ヲソダツルゾ、能近取^レ譬トハ、チカク我身ニタトヘヲトリタガヨヒゾ、ワガミヲツンデ人ノイタサヲシレト云ヤウニ、ワガイヤナコトハ、人モイヤニテアラント、ワガ

コ、ロヲテホンニシテ、タトヘヲワガ身ニトリテ、ワガイヤナコトハ、人ニモサセマヒゾ、コレヲ己所^レ不^レ欲而勿^レ施^ニ之於^レ人ト云ゾ、カフアレバ人ガウラミスゾ、サルホドニ在^レ邦無^レ怨在^レ家無^レ怨ト、論語ニ云ルゾ、ワガイヤナコトラバ、ヲモンハカリテ人ニサセヌハ、恕ノ字ノコ、ロゾ、恕^チモンハカルトヨムゾ、如^レ心トカヒタゾ、人ノコ、ロモワガ心ノゴトクアラント、ヲモヒハカル心ゾ、仁者ト云モノハ、人ノウヘヲヨクヲモヒハカリテ、ムリナコトラ人ガサセヌホドニ、クニヲヲサムルニモ、人ガウラミスゾ、イヘヲヲサムルニモ、人ガウラミスゾ、大學ニ一家仁、一國興^レ仁ト云テ、上タル人ガ一人、仁ノ道ヲコナハルレバ、一國ノモノガ、ミナ仁ノ道ヲオコナフゾ、サルホドニ人ニ君タル人ハ、仁ノ道ヲシラヒテハゾ、佛家ニハ仁ノ道ヲ、慈悲トコ、ロヘテ、肝要トスルゾ、サレバ佛モ佛心者大慈悲コレナリト、トカレテ、モツハラ仁ノ道ヲ、ホリオコナフゾ、王龍舒ハ、以^ニ佛家五戒^ニ、即爲^ニ儒者五常^ニ、不殺仁也、不盜義也、不邪淫^ハ禮也、不妄語^ハ信也、不飲酒^ハ智也、苟自^ニ妄^ニ人、亦爲^ニ不仁^ニト云ゾ、

○義

義トハ、説文曰、己之威儀也ト云リ、イギトハ行住坐臥ノ四威儀ゾ、行モ住モ坐スルモ臥モ威儀ノハツタトシタルヲ義ト云ゾ、釋名曰義ハ宜也、裁_ニ制事物_ニ使_レ合_レ宜也ト云テ、義ト云ハ宜也、義字ノコ、ロハ、宜ト云字ノコ、ロゾ、裁_ニ制事物_ニ使_レ合_レ宜ナリト云ハ萬事萬物ノヨロゾノコトヲ、ヨクコトハリテ、ソレゾレニヨロシキヤウニスルト云コトゾ、サルホドニ韓退之ハ、行而宜_レ之之謂_ニ義ト云タゾ、朱文公ハ心之制事之宜也ト云タゾ、心ノ制トハ、コ、ロニテヨクコトハリテ、コ、ロノワキヘユクヲ、ヲサヘテ義ニスルト云心ゾ、事宜也トハ、萬事ノコトヲ、コ、ロニコトハリテ、ヨロシキヤウニスルト云コ、ロゾ、心ノ制ト云ヲ斧ニタトヘタゾ、タトヘバヨクモノ、キル、斧ノアルガ、竹ナリトモ木ナリトモアラバ、二ツニサツトワルゾ、人ノ心ニ天理自然ノ性アリテヨロゾノコトノ義ト不義トヲワクルヤウナゾ、サルホドニ斧ノ竹ヲ二ツニワルヤウナゾ、サルホドニ人ゴコロノ公平正大ニシテ、毛ノサキホドモ、人欲ノ私ヲマジヘズ

シテ、義理ヲギリトスルハ義ゾ、ソノ義ノヨロシキトコロトハ、ナニゾナレバ、十義ト云テ、マヅ十ノ義アルゾ、父子兄弟夫婦長幼君臣ノ十ノ義ゾ、父タル人ハ慈悲アリテ、子ヲアハレムガヨロシキ處ゾ、アハレマズンバ、スデニ義ニアラズ、子タル人ハ、父母ニ孝行ナルガヨロシキ處ゾ、孝ナクンバ、子タルモノ、義ニアラズ、兄タル人ハ、ヲトヲトニタイシ、ヤハラグガヨロシキ處ゾ、弟タルモノハ、兄ニシタガフハヨロシキ處ゾ、孟子ニ義之實從_レ兄是也ト云テヲトヲトタルモノハ、兄ニシタガフモノゾ、サルホドニ義ト云モノノ眞實ハ兄ニシタガフヲ云ト、孟子ノイハレタゾ、夫タルモノハメニタイシテ義ヲマホルガ、宜キ處ゾ、婦タル人ハ貞心ニシテ、フタゴ、ロナク、夫ニシタガフガ宜キ處ゾ、老タル人ハイトケナキヲメグムガ義ゾ、イトケナキモノハ、老タル人ニシタガフガ義ゾ、君タル人ハ、仁愛アリテ、臣下萬民ヲアハレムガ宜キ處ゾ、サナクンバ君タル人ノ、義理ガチガフタゾ、臣タル人ハ君ニ忠ヲツクシ、敬ヲツクスガ宜キ處ゾ、サナクンバ義ニアラズ、不忠不敬ナラバ、臣タル人ノ義理デナイゾ、サルホドニ君ノ一大事ニハ一命ヲモハタスハ、

臣ノ義ゾ、コレヲ十義ト云ゾ、孟子ニ生亦我所_レ欲也、義亦我所_レ欲也、二者不_レ可_レ得_レ兼、舍_レ生而取_レ義者也ト云レタゾ、イフコ、ロハイキテイルモ、ワレガチガフトコロナリ、マタ義理ト云事モ、ワガチガフ處也、ヲナジクハイキテキテ、義理ニソムカヌハヨケレドモ、生ト義トノ二ツヲ、兼テ得事ガナラズンバ、死シテ義理ヲトランゾ、義理ニソムヒテハ、イキテモ詮ガナイホドニト、イフコ、ロゾ、豫讓ト云ル人、ワガ君ノタメニ、カタキヲトラントシテ、ワガ死シタルモ、命ハ依_レ義輕ト云ル事ヲモヒテノコトゾ、豫讓ガコトハ、史記ノ列傳二十六ニアルゾ、タヅ子ミベシ、ムカシ魯ノクニニ、義婦ト云女アリ、子ヲフタリモチタゾ、兄ハ先バラノ子ゾ、弟ハワガウメル子ゾ、アルトキ齊ノ國ヨリ、魯國ヲセムルニ、魯ノ國ヤブレシカバ、先バラノ子ノ兄ヲバ、イダヒテニゲ、ヲトヲトヲバアヨマセタゾ、テキニ行逢タルニ、敵ガ問コトニハ、ヲヨソ人ノヲヤノクセトシテ、アニヨリモヲト、ヲアイスルモノナルニ、兄ヲバイダキテ、ヲト、ヲアヨマスルハ、ナニトシタルコトゾトフタゾ、義婦コタヘテイハク、兄ハ先腹ノ子ニテ、ワガタメニハマ、

子ナリ、サルニヨリテ兄ヲバイダクゾ、弟ハワガ子ナルニヨリテ、カクノゴドシトイフタゾ、敵モコレヲ感じテ、コロシモセズ、結句ホウビヲシタゾ、コレハ女ノ義理ヲマボリタルコトゾ、孟子羞惡之心義端也ト云ゾ、羞ハハヅルトヨムゾ、惡ハニクムトヨムゾ、ワガ不義不善ナルコトヲハチテ、人ノ不善ナルコトヲニクムト云心ゾ、サルホドニ羞惡之心ハ義ノハシデアルゾ、論語ニ君子義以爲_レ上、君子有_レ勇而無_レ義爲_レ亂、小人有_レ勇無_レ義爲_レ盜ト云テ、君子タル人ハ、義理ガ肝要ゾ、君タル人ガケナゲニシテ、ギリヲシラチバ、亂ヲナスゾ、亂トハ父ヲコロシ、君ヲコロスゾ、小人ガケナゲニテ、ギリヲシラチバ、ヌスミヲスルゾ、ケナゲモギリノケナゲガ肝要ゾ、血氣ノ勇バカリデ、ギリガナケレバ、亂ヲナスゾ、又イハク不義而富且貴、於_レ我如_レ浮雲ト云テ、富トハ金銀珠玉米穀ヲタントモツコトゾ、貴位ノタカキヲ云ゾ、不義ナルコトデ、分限ニナルハ、ヤガテホロブルモノゾ、アルヒハ父ヲコロシ、アルヒハ君ヲコロシ、ヌスミナドヲシテ、分限ニナルハ、ウキクモノ、イマハアルカトスレバ、ヤガテキエテ、ノクルヤウニ、久ハナヒゾ、貧賤富貴ハ、

ミナ天命也、ナニカ天命ニソムキ、ミダリニ富貴ヲモトメテモナラヌコトゾ、富タラバ禮ヲコノミ、貧クバ道ヲタノシンデコソアランズレ、不義ナルコトデ、財寶ヲモトメテモ、イラヌコトゾ、サルホドニ、見レ利思義ト云テ、利潤ナルコトガアリテ、モノヲトルコトアリテモ、コレハトラフズル義カ、トルマヒ義カト、ヨク〱思案シテトライデ、カナハザル義ナレバ、トルモノゾ、トルマジキニトルハ不義ゾ、義然後取、人不レ厭_レ其取トイ、テ、トルベキ義アリテトルハ、人ガソノトラル、ヲ、迷惑モセヌゾ、孟子、非_レ其有_レ取之非義トモ云リ、ワガモノデモナイ、人ノモノヲトルハ、義ニアラズト云心ゾ、論語、君子喻_レ於義、小人喻_レ於利ト、孔子ノイハレタゾ、君子タル人ハ、義理ノコトライヘバ、ヲモシロガルゾ、小人ハ利欲ノコトヲ云ヘバ、ヲモシロガルゾ、トスレバ得ガユクゾ、カウスレバ利ガユクナドトイヘバ、クチナメズリヲシテ、ウレシガルゾ、富而不_レ驕、積而能施ト云テ、富デ分限ナレバ、大略ノ人ガヲゴルモノゾ、驕トハワガ身ニ、マンジテ、人ヲアナドルゾ、コレハ義ニアラザルゾ、サルホドニ大名ナリトモ、ワガ身ヲヒゲシテ、上

ハ天ヲモヲソレ、下ハ萬民ヲモアナドラヌガ義ゾ、宮殿衣服ヲ華麗ニスルヲモ、ヲゴルト云ゾ、分ニスギテ、宮殿衣服ヲ結構ニハセヌコトゾ、堯舜ハ天下ノ王ニテマシマセドモ、カヤブキノ家ニ居タマヒタゾ、積而能施スト云ハ、金銀米穀ヲツミタクハヘテ、持タラバ、人ニホドコシテ、義理ヲ本トスルガ道ゾ、輕_レ財尙_レ義ト云テ、財寶ヲラシマズ、義ヲモツハラニスベキナリ、孟子ニ義ハ人之正路也ト云ゾ、義ト云ハ、タトヘバタ_レシキミチノゴトシ、人ノ正直正路ニシテ、一毫モ私曲ナキハ、イカニモ平ナル路ヲアルクヤウナゾ、又私曲アリテ、不義ナルハ、ケハシキ路ノ石タカク、ユガミスデリタル路ヲ、アルクヤウナゾ、論語、上好_レ義則民莫_レ敢_レ不_レ服ト、孔子モ云レタゾ、君タル人が義ヲコノメバ、下萬民モ、盡ク歸服シテ、ソノ君ヲイタ_レクコト、日月ノゴトクスルゾ、

○禮

孔子曰、禮先王所_レ以承_レ天之道、以治_レ人之情ト云テ、禮ト云モノハ、先代ノ帝王ノサダメヲカレタ事也、承_レ天之道トハ、天ハ尊、地ハ卑シ、天ハタカク、

地ハヒクシ、上下差別アルゴトク、人ニモ又君ハタツトク、臣ハイヤシキゾ、ソノ上下ノ次第ヲ分テ、禮義法度ト云フコトハ、定メテ人ノコ、ロヲ、ヲサメラレタゾ、程子曰、禮ハ只是一箇序ト云タゾ、禮ハ序ノ一字ゾト云コ、ロゾ、序ト云ハ次第ト云フコ、ロゾ、禮ト云モノハ、尊卑有_レ序長幼有_レ序ゾ、尊ハ位ノタカキヲ云ゾ、卑ノ位ノヒキ、ヲ云ゾ、コレニハ次第ガナフテハカナハヌゾ、君ハ尊ク臣ハイヤシキホドニ、ソノ差別ガナクバ、國ハヲサマルマヒ、君ニモ天子アリ、諸侯アリ、ソノ差別ガナニ、ツケテモアルゾ、クルマニノレドモ、車ノカザリヤウガ、チガフゾ、臣下ニモ百官ノ位ニヨリ、クルマヤ衣裳、ナニ、ツケテモ、ソノ差別アルゾ、座敷ニナラレドモ、尊キハ上座ニキ、イヤシキハ下座ニアルゾ、カヤウナルコトガ、禮ト云モノゾ、長幼有_レ序ト云モ、ヲヒタル人トワカキ人ニ、差別次第ガアリテ、老タルハ上ニ居、ワカキハ下モニイルヤウニ、ナニ、ツケテモ、ソノ法度アルヲ禮ト云ゾ、禮ト云コトガナクテ、君臣ワカチモナクンバ、臣下トシテ君ヲナイガシロニシ、君モ臣ヲツカフニ禮義ガナクンバ、國ハヲサマルマイゾ、カナラズミ

ダレンゾ、ミダルレバホロブルゾ、故ニ周公旦ノ、周禮・儀禮ト云モノヲツクリテ、禮義ヲサダメラレタゾ、故ニ中庸序_レ爵所_ニ以辨_ニ貴賤_一也ト云ハ、クラヒト云事ヲシテ、ヲカレタハ、貴キト賤キトヲ、辨フルイハレナリト云タゾ、又曰、燕毛所_ニ以序_ニ齒也ト云テ、酒宴ナドニ、人ノ髮ノイロヲ見テ、白キヲ上ニアグル事ハ、トシノヨハヒヲ次第シテ、老タルヲ敬フ故也ト云心ゾ、禮ハ敬フユヘデアルゾト云コ、ロゾ、禮ハ敬ナリト云テ、禮ト云字ハ敬ト云字ノ心ゾ、故ニ曲禮母_レ不_レ敬ト云ゾ、朱文公ハ、禮之本在_ニ于敬_一ト云タホドニ、敬ヲ禮ト云ゾ、ゲニモ君ヲ君トシ、父ヲ父トスルハ、敬デアルゾ、サキニ云トコロノ、程子ガ禮ハ、只是一箇序ト云ハ、事ニツイテ云ゾ、朱文公禮之本在_レ敬ト云ハ、心ニツイテ云ゾ、心ニ敬コトガナクンバ、君ヲタツトビ、老タルヲ敬フ差別モアルマヒゾ、敬ニヨリテ物ニ次第ガアルゾ、畢竟同ジコ、ロゾ、中庸、禮儀三百、威儀三千ト云テ、周公旦メサレタ、儀禮ト云モノニ、大ナル禮儀ガ三百箇條アルゾ、小ナル威儀ノタチキフルマヒガ、三千箇條アルゾ、禮儀三百ノウチニハ、冠禮・婚禮・喪禮・祭禮・朝覲・會同禮ナド、云テア

ルゾ、冠禮トハ、人ノ元服シテ、カフリキンムルニ、禮儀シツケガアルゾ、ソレニマタ中士ノ冠禮ト、諸侯ノ冠禮ト、天子ノ冠禮トノ、段々ニクラヒニヨリテカハルゾ、婚禮トハ、女ノヨメイリスルトキノ禮儀シツケガアルゾ、納幣親迎ノツレゾ、喪禮トハ父ノ死シタルトキニ、葬禮中陰等ニ、禮儀シツケガアルゾ、ソレニモクラヒニヨリテ、イロ／＼カハルゾ、父ニハ斬衰ノイロヲキ、桐ノ木ノツエヲツキ、母ニハ齊衰ノイロヲキ、竹ノツエヲツキ、シンルイノヲチ、ヲヤカタ、兄弟ニハ、總麻小功大功ノイロヲキ、コレモイロ／＼、品品ノ禮義ガカハルゾ、祭禮トハ、マツリノトキノ禮義ゾ、コレモ天ヲ郊ニマツリ、地ヲ社ニマツリ、アルヒハ宗廟ニテハ、昭穆ヲタバシ、先祖ヲマツリ、社稷ト云テ、土ヲマツリ、五穀ノ神ヲマツリ、父母ヲマツルアリ、コレニモイロ／＼アリ、朝覲禮トハ、諸侯タル人ノ、天子へ出仕ヲメサル、時ノ、禮儀シツケガアルゾ、會同禮トハ、諸侯ト諸侯ノ寄合、主人ト客人トノ禮義シツケアリ、コノホカニ射禮トハ、弓ヲイルトキノ禮アリ、軍禮トハ軍陣ノ禮アリ、カクノゴトキノ禮義、三百條アルゾ、又威儀三千トハ、進退・升降・俯仰・

揖遜ナドノ類ガ、三千アルゾ、進退トハ、君ノ前へススミイヅルト、又君ノ前ヲタチノクトノ、時義シツケガアルゾ、升降トハ、階ヲノボリクダルニシツケアリ、俯仰トハ、カラモチノ、アホノクモワロシ、ウツムキスゴスモワロヒゾ、ソノカホモチノヨキホドナルガヨキゾ、揖遜トハ、手ヲ以テ、人ヲ揖シテ、マツサキヘヲシイデアレナド云事ゾ、カヤウナル禮義ガ三千アルゾ、日本ニテハ、イセドノ、シツケカタナドガ、禮義ト云モノゾ、禮記、敖不_レ可_レ長、欲不_レ可_レ從、志不_レ可_レ滿、樂不_レ可_レ極ト云ハ、ラゴリヲマシテ、ナヲモヲゴレバ、スヘガワルイゾ、欲ヲホシヒマ、ニスレバ、末ハホロブルゾ、志ヲ十分ニシテ、ワガヲモフマ、ナレバ、後ハカナラズ、ウチコボスゾ、タノシミヲキハムレバ、スヘハカナシミガキタルゾ、ヨクツ、シメバダイジナヒゾ、ツ、シメト云コ、ロゾ、賢者狎而敬_レ之、畏而愛_レ之ト云ハ賢人ノシカルベキ人ヲバ、平生狎レタリトモ敬ヘ、畏テ愛セヌハ、禮ニアラズ、禮聞ニ來學ニ_レ聞ニ往教ニト云ハ學問スル人ハ師ノ所へ來習ゾ、師ガ學者ノ處へ往テ教ル事ハナイゾ、愛而知_レ其惡、憎而知_レ其善ニト云ハ、我イトヲシキ人ナリトモ、

ワルキ事アラバ、アシキトシリテ、退ケヨ、我ガヒイ
キナル人ト云テ、非ヲ理ニハセマヒゾ、又ニクキ人ナ
リトモ、ヨキコトアラバ、ヨキト知テ、ホウビヲモセ
ヨ、ニクキ人ト云テ理ヲ非ニハセマヒト云心ゾ、禮ハ
尙ニ往來ニ往而不來非禮也、來而不往非禮也ト云
モノハ、人ノ處ヘ我ユキテ、禮ヲ云ニアチカラ來ヌ
ハ、禮デハナヒゾ、アチ來テ禮アルニ、我ユヒテ禮ヲ
云ヌハ、禮ヲソムクゾ、不登^{ツカ}高、不臨^{ツカ}深、不^{ツカ}苟訾、
不^{ツカ}苟笑、孝子不^{ツカ}服^{ツカ}闇ト云ハ、人ノ子タルモノ、孝行
ナル人ハ、我身ヲ聊爾ニモタヌゾ、サルホドニタカキ
處ヘモノボラヌゾ、ヲチタラバ、父母ニキヅカヒヲサ
スルホドニゾ、フカキ淵ナドヲモノゾカヌゾ、コレモ
マタ父母ニキヅカヒヲサセヌヤウニスルゾ、不^{ツカ}苟訾
トハ人ノコトラムザトハンシラス事ゾ、ソシレバサ
サエニナルゾ、不^{ツカ}苟笑トハ、ムザト笑モセス事ゾ、
ヲモシロキ事モナヒニ笑ハ、人ヲヘツヘラフニ似タ
ゾ、孝子不^{ツカ}服^{ツカ}闇トハ、クラガリニヲラヌゾ、クラガ
リニイレバ、人ヲダマスニ似タゾ、母ニ側聽^{ツカ}母ニ噉應^{ツカ}
ト云ハヲヤカタノ前ニテハ、耳ヲソバダテ、頭ヲカタ
ブケテ人ノサ、ヤクヲキカヌ事ゾ、人ガ疑フゾ、母ニ

噉應^{ツカ}トハ、人ノ物ヲ云ニ、コヘダカニコタユル事ナ
シ、シトヤカニセヨト云心ゾ、安^{ツカ}定辭^{ツカ}ト云、人ノモ
ノヲ云ニハ、イカニモコトバラシヅカニイ、テ、サダ
カニ云ベシト云コトゾ、イソガハシクイ、テ、ヲチモ
アカヌヤウニイヒテハ、スマヌコトゾ、君子タル人
ハ、イカニモコトバラシトヤカニナフテハズ、不^{ツカ}問
不^{ツカ}敢對^{ツカ}ト云ハ、モノヲトヒモセヌニ、トハズガタリ
ヲスルナト云コトゾ、長者不^{ツカ}及^{ツカ}母^{ツカ}三^{ツカ}儼言^{ツカ}ト云ハ、ヲ
ヤカタノ様ナル人ノ、モノヲ云ニ、マダ云モトラヌ
ニ、中カラトリテ、別ノコトヲイハヌモノゾ、母^{ツカ}淫視^{ツカ}
ト云ハ、人ヲシリメニミルナト云コトゾ、立母^{ツカ}跛^{ツカ}ト
云ハ、人ノ前ニ立テイルニ、カタアシニテタチテイル
ナト云ゾ、坐母^{ツカ}箕^{ツカ}ト云ハ、人ノ前ニ居ルニ、箕ノ手ニ
足ヲ、ハタカリテハイヌモノゾト云事ゾ、寢母^{ツカ}伏^{ツカ}ト
云ハ、イヌルトキニ、ウツムキニハチヌコトゾ、死シ
タル人ニ似タルホドニゾ、寢不^{ツカ}言^{ツカ}ト云ハ、イヌルト
キニ、モノヲ云ヘバ、ソバナナル人ノチムリヲアドロカ
スホドニ、子テカラハモノヲ云ヌ事ゾ、食スルトキニ
不^{ツカ}語^{ツカ}ト云ハ、モノヲクフトキニ、モノガタリヤセヌ
コトゾ、口ノ中ノ食物モ、ミグルシク、又人ノ物ヲ口

ニフクンデアルニ、物ヲ云カクレバ、コタユルコトモナラヌゾ、又食物ノ味モヲボヘヌゾ、先生書策、琴瑟在_レ前、坐而遷_レ之、戒勿_レ越ト云ハ、物ノ本ヤ、琴ナドヲ、足ニテコヘテ、トホラヌ事ゾ、物ノ本ノアル處ヲトホルナラバ、ソットヒザマヅキ、ワキヘヨセテトルゾ、尊客之前不_レ叱_レ狗ト云ハ、貴人ノ客ノ前ニテ、狗ヲモシカラヌ事ゾ、イヤシキ事ヲ云テ、貴人ノ聽ヲヲドロカスホドニゾ、燭ハ不_レ見_レ跋ト云ハ、蠟燭ノモトマデモユルヲ見テハ、客人ガ見テ、夜ノフケタリト思ヒ、タ、ントスルホドニ、モトマデハ、トボサヌゾ、冠母_レ免トハ、カンフリヲバ、イツモハナタズキル事ゾ、勞_レニ母_レ袒ト云ハ、辛勞ヲシテクタビレタリトモ、キルモノヲカタハダヌグコトヲ、スルナト云事ゾ、暑母_レ褰_レ裳ト云ハ、夏ニナリテ、アツクトモ、ヒトナカニテキルモノ、スソヲ、カ、グルナト云事ゾ、男女不_レ雜坐、不_レ同_レ櫛架、不_レ同_レ巾櫛ト云ハ、男ト女ト一ツニウチマジハリテヲラヌ事ゾ、櫛架トハキルモノヲカクル、衣桁ノ様ナルモノゾ、男ノキルモノト、女ノキルモノヲ、一ツニハカケヌモノト云事、又巾トハ手ノゴヒゾ、櫛ハクシゾ、コレモ男女ノヲ、一ニハ

ヲカヌゾト云事ゾ、諸母不_レ漱_レ裳ト云ハ、父ノメカケモ、我タメニマ、母ナルホドニ、裳ヲアラハスル様ナルコトハセヌゾ、裳ヲアラハスルハ、慮外ナルコト、云心ゾ、コレモ父ヲ敬フゾ、父母存、不_レ許_レ友以_レ死ト云ハ、父母ノイキテイラル、ニ、我が傍輩ニタノモシヅクラシテ、ソチガ一大事ノトキニハ、我モノガレハセマヒ、ソチガシナバ、ワレモ死ナンナド、云事云ヌモノゾ、父母ノアルアイダハ、ワガ身ヲ聊爾ニモタヌコトゾ、父母ニキヅカヒヲカクルホドニゾ、幼子常視母_レ誑ト云ハ、イトケナキ子ニ、常ニモノヲ云ニモ、タラスコトラタラシツクレバ、ソノ子ガノチニハイツハリテ、人ヲタラスゾ、ワランベハ、父母ノシツケガ大事ゾ、孟子ノイトケナカリシトキニ、母ニ問コトニハ、ヒガシドナリノ家ニ、猪ヲコロセル事ハ、ナニノタメニスルゾト云ヘバ、母タハブレニイハル、事ニハ、アレコソナンデニクラハシメンタメゾト云ヘリ、コ、ニ母コノタハブレゴトヲ、クイカナシミテ思ヤウハ、ワレキク古ニハ胎内ニアリト云テ、胎内ニ子ノアルウチニサヘ、ソノ母ツ、シミヲナシテ、耳ニ惡事ヲキカズ、メニアシキイロヲミズ、ソノカタチヲタ

ダシクシテ、ツチニ聖賢ノ美言ヲキクコトヲスルト、イママサニソノシルコトアリテ、ワガコヲアザムクハ、コレ我子ニ信アラザル事ヲ、ヲシフルゾト、クヒオモヒテ、即猪肉ヲカイテ、クラハシメテ、サキニタハブレニ云ル處ヲ、誠トスルゾ、サルホドニ孟子ヒトトナリテ、學ニツイテ、終ニ大儒トナリ、後代ノ師トナルゾ、貧者不_下以_ニ貨財_一爲_レ禮トイフハ、貧ナルモノハ財寶ノタカキモノイルモノナド、モチテ人ノ處ヘユキテ、禮ニハセヌゾ、老者不_下以_ニ筋力_一爲_レ禮ト云ハ、トシノヨリタル人ハ、チカラワザラシテ、ホ子ヲオルシゴトヲシテ、禮トハセヌゾ、禮ニハ似合々々ノ事ガアルト云心ゾ、母_レ咤_{シタチウ}食_レ母_レ嚼_レ骨ト云ハ、物ヲ食スルトキニ、シタヲウチナラシテハクハヌゾ、食物ガアチナキヤウニシテハラヲタテタニ似ルゾ、ウヲトリノホ子ヲカムナト云事ゾ、ホ子ヲカメバ、ナルコヘアリテワルイゾ、ソツトウツハモノヘイレヨト云事ゾ、濡肉齒決、乾肉不_ニ齒決_一ト云ハ、無鹽ノ肉ヲバ、齒ニテクイキルゾ、乾物ノホシタル肉ヲバ、齒ヲ以テクイキラズ、手ヲ以テサイテクヘト云コ、ロゾ、賜ニ果於君前其核者懷_ニ其核_一ト云ハ、コノミヲ君ノマヘニテ、

タマハルトキハ、サチアルモノハ、ソノサチヲフトコロニイル、ゾト云コ、ロゾ、コレハ已上ミナ禮義シツケト云モノゾ、カヤウナル禮ガ、曲禮トマフス、禮記ノハジメノ篇ノウチニハ、イカホドモアルゾ、カミニカフ云タル處ノ事ハ、禮ノ目ニミヘテ、事ニアラハレタル事ヲ云タゾ、禮ト云ハ根本ハ心ニ敬ヲ云ゾ、心ニ敬ニヨリテ、萬事ニツイテ、シツケト云モノガアルゾ、シツケト云モ、兎角人ヲサキダテ、己ヲノチニスルガ、シツケ也禮也、論語、禮云禮云玉帛云乎哉ト云ハ、禮ハ敬フガホンデアルゾ、アナガチニ御禮ニマイルトキニ、玉ヤ帛ヤ、或ハ金銀ノツレヲモチテユクヲ、禮トハ云フマヒゾ、ソレハ心ニ敬フト云ノシルシニ、玉帛金銀ヲモチテユクゾ、マタ玉帛金銀等ソレゾレニヲウジテ、土産ヲモチテユカヌモ、ムカヒヲカロシムルニナルホドニ、サモナフテハ敬ノ心ガアラハレヌゾ、シカレドモマヅ禮ハウヤマウガホンデアルゾ、孟子、辭讓之心禮之端也ト云ハ、斟酌シテナニガ我等ハ、サヤウデハアランゾト云心ゾ、讓トハユヅルトヨムゾ、イヤコレハソナタノナサル、處デヤナド、云テ、ヨキコトヲ人ニユヅルゾ、タトヘバ、盃ヲイダシテ

ヒトツキコシメセト云シニ、イヤナニガ我ハクダサル、處デハナヒ、マヅソナタニマヒレヨト云ヤフナ心ヲ辭讓之心ト云ゾ、サヤウニモノゴトニ、シンシヤクノ心ノアルハ、禮ノハシデアルゾ、コレハタトヘデコソアレ、諸事ニツキテ、加様ニ心得テ、人ヲサキダテ、ワレヲ後ニスルヲ禮ト云ゾ、ムカシ虞ト芮トノ兩國ノ君ガ、サカヒメノ田地ヲアラソヒテ、ツイニ決セヌホドニ、文王ハ聖人ナレバ、文王ニ批判サセマイラセテ、決セント云テ、兩國ノ君ガツレダチテ、周ノクニヘユキケルニ、ソノアタリノ民ドモガ、ナニヤラン田ノ中ニテ、モノヲアラソフホドニ、タチヨリテキカレタレバ、コノ田ノ畔ハ、ソナタノヂヤ、コチノデハナイト云ゾ、マタアナタノモノハ、イヤ〜コノ畔ハ、ソナタノニテコソアレ、コチノデハナイト云テ、互ニユヅリアフタゾ、此事ヲ兩國之君ガキカレテ、ア、サテ聖人文王ノオサメラル、處ハ民百姓マデ、カヤウニ結構ニシテ、畔ヲユヅルニ、ワレ〜ハ一國ノ主トシテ、サカヒメヲアラソフコトハ、比與ナコトカナトヲモヒテ、イヤ〜文王ノマヘニ出デ、決スルマデモナイト云テ、ソコヨリタチ歸リ、アラソヒヲヤメラレ

タゾ、加様ナル事ヲ禮讓ト云ゾ、孔子モ能以ニ禮讓ニ爲レ國乎何有、不_レ能_下以ニ禮讓ニ爲_レ國如_レ禮何_ト云リ、禮讓ヲ以テ上下君臣之義ヲワカチ、人ヲサキダテ、ヲノレヲノチニスルコトナクバ、國ヲオサムル事ハナルマイト云レタゾ、禮ヲ以テ國ヲ治バ、コレヨリ上ノコトハナニカアランゾトナリ、又曰、君使_レ臣以_レ禮、臣事_レ君以_レ忠ト云テ、君タル人ガ臣下ヲ使フニ、禮義法度ヲタバシテツカヘバ、臣下モマタ君ニ忠節ヲツクスモノゾ、又曰_ト齊_レ之以_レ禮、有_レ耻且格ト云テ、國ヲオサムルニハ、禮義法度ヲ以テシテ、尊卑ノ差別長幼ノ次第ヲ分チ、賢人ヲタツトミ、小人ヲ退ケテコソ、國ハオサマルモノゾ、サアレバ國民モ、ミナ耻ト云事ヲ知テタバシクナルゾ、若又尊卑賢不肖ノ差別モナク、タカキ人ヲイヤシメ、イヤシキ人ヲタツトミテ、賢人ヲ退ケ、小人ヲ用ヒバ、ミナ禮ニソムクゾ、ソムクトキハミダル、ゾ、ミダル、トキハホロブルゾ、サルホドニ禮ト云モノナクテハ、國ハオサマルマヒゾ、道德仁義非_レ禮不_レ成ト云テ、禮ト云モノガナクバ、仁義之道モヲコナハレヌゾ、仁義之道ハ禮ト云モノガアレバコソ、ヲコナハルレバゾ、孔子曰、非禮勿言、非_レ禮

勿^レ視、非^レ禮勿^レ聽、非^レ禮勿^レ動ト云ヘリ、イフコ、ロハ非禮非義ナルコトヲバ、云モスルナ、見モスルナ、キ、モスルナ、ウゴキモスルナト云リ、タトヘバ僧ナドノ魚ヲ、ホシヒナド、云事ハ云ベカラズ、甚ダ非禮也、又僧ノ女猿樂ナドヲバ、ミルコトナカレ、非禮ナル事也、又僧ハ女舞ナドヲバ、キクコトナカレ、禮ニアラザルコトゾ、動ト云ハタチキフルマイノ行迹ゾ、タチキニモ道ニアラザル事ヲ、スベカラズト云事ゾ、コレハタトヘニテコソアレ、ヨロヅノコトニツキテ、禮ニハヅレタルコトヲバ、云モスルナ、見モスルナ、キ、モハタラキモスルナト云事ゾ、淳于髡曰、男女授受不^レ親禮與、孟子曰、禮也ト云ハ、男ト女トモノヲワタシウケトルニ、直ニ手ト手トワタシハセヌ事ト云ガ、コレハ禮ニテバシアルカト問フタレバ、孟子ノ禮ナリト云レタゾ、禮記ニモ男女不^レ親授トアルゾ、シカレドモアニヨメガ、水ニナガレバ、手ヲ以テヒキアゲヒデハト云ゾ、コレハ權ノ道ト云モノゾ、權ノ道ト云ハ、法度ヲヒトツハヅシテモ、ノチハスグナル道ヘイタルヲ云ゾ、アニヨメノ手ヲヒクハ、法度ヲハヅス様ナレドモ、イノチヲタスクルハスグナル道ゾ、孟子

任人問曰、禮與食孰重、屋廬子曰、禮重、色與禮孰重、曰禮重、以^レ禮食則飢而死、不^レ以^レ禮食則得^レ食、必以^レ禮乎、親迎則不得^レ妻、不^レ親迎則得^レ妻、必親迎乎、イフコ、ロハ、禮ト食トハドチガ大切ナ事ゾトヘバ、禮ガ大切ナ事ゾト云タゾ、色トハ女ノ事ゾ、コノ色ト禮トハ、ドチガタイセツナ事ゾト云ゾ、サアラバ禮義ヲアリヤウニヲコナハバ、食物ヲエズシテ、カベツテ死ナフゾヨ、禮義ヲヤブリテナラバ、食物ヲエテイキテヲランゾ、サアリトモ禮義ヲモチヒンカ、マタ親迎ト云テ、人ノヨメイリスルトキニ、六ノ禮義アルヲ、ソノ一ツゾ、サヤウニヨメイリノ禮ヲシキ^レニセバ、妻ヲエマジ、シキ^レニセズシテ、禮ヲヤブリテナラバ、ツマヲエンゾ、サアリトモシキ^レノヨメイリノ禮ヲセンカトトフタゾ、コレヲ孟子ノヲモシロクイハレタゾ、^{モトヲシテ}紗^ニ兄^ノ之^ノ臂^ヲ而^ニ奪^ス之^ノ食^ヲ則^レ得^ル食^ヲ不^レ紗^ス則^レ不得^ル食^ヲ則^レ將^ニ紗^ス之^ノ乎^ヲ、^{カキフ}踰^ニ東^ノ家^ノ牆^ヲ而^ニ摯^ス之^ノ乎^ヲ、イフコ、則^レ得^ル妻^ヲ不^レ摯^ス則^レ不得^ル妻^ヲ則^レ將^ニ摯^ス之^ノ乎^ヲ、イフコ、ロハ、ワガアニノヒデヲチヂテ、食物ヲウバヒトランナラバ、食ヲエンゾ、ヒデヲチヂズンバ食ヲエマヒ、カヘツテシナント云ハバ、アニノヒデヲチヂテ、食物

ヲウバヒトランカト云タゾ、コレハナニガ禮義ニソムイテ、兄ノヒデヲチデテハ、カヘツテ死ヌトモ、サウハセマヒホドニ、禮ハ死ヨリモヲモク、大切ナ事ト云事ゾ、マタワガ家ノヒガシドナリニ、エンニツカヌムスメノアルガ、カキヲコヘテコノムスメノソデヲヒカバ、妻ヲエン、サナクンバ妻ヲエマヒト云ハ、カキヲコヘテ行テ、ソデヲヒカント云タゾ、コレハナニガ父母モユルサヌ人ノムスメヲ、カキヲコヘテヌスムヤウナル、禮義ニハヅレタル事ヲバセフゾ、サアレバ禮ハ戀ノミチヨリモ、大切ナコトゾト云コトゾ、シカレバ萬事ニツイテ、禮ニハヅレタコトハセマヒ事ゾ、上好レ禮則民莫敢不敬ト云ナレバ、上タル人ノ禮義法度ヲコノマルレバ、下萬民ハ君ヲウヤマハヌト云事ハナヒゾ、サレバ禮ハ、天理ノ節文、人事義規則ト云ヘリ、サシアタリテハ、モノ、ウハツラノヤウニヲモヘドモ、ミナ天理ノアラハル、トコロニシテ、人ノ上ニ通ジテ、タバシキノ、ミチノ法度ナルホドニモツトモ禮ノ道ヲバ、肝要ト心得テ、ヲコナフベキコトナルベシ、

○智

智トハ増韻ニ心有_レ所_レ知也ト云テ、智者ト云モノハ、心ニヨロヅノコトヲシルゾ、説文ニ智者有_レ言故於_レ文白知爲_レ智ト云ハ、智者ト云モノハ、ヨロヅノコトヲ知ルホドニ、ヨクモノヲ云テ、辨舌ガキクゾ、故ニ字ニモ知白トカクゾ、白ハマフストヨムゾ、智者ハ聰明睿智ト云テ、目ニミルコトモカシコクテ、チャットモノ、ヨシアシヲミテトルゾ、耳ニキクコトモカシコクテ、チャットモノ、ヨシアシヲミテトルゾ、サルホドニアキラカニシリ、洞ニ達シテ、理ニクラキコトナキゾ、マヘニイ、タル、仁ノ道モ義ノ道モ、禮ノ道モ、ヨクシリワケテ、ゾレ_レニ行フガ智者ゾ、智ニアラズンバ、イカニトシテ、仁義禮ノ道ヲシランヤ、智アルニヨリテ、仁義ノ道ヲシリテ、是非善惡ヲ分明ニ分ツゾ、故ニ孟子、是非之心智之端也ト云ゾ、是トハソノ善ナルコトヲシリテ、コレヲ是トス、是ハヨヒト云心ゾ、非トハワルヒト云心ゾ、サルホドニ是非之心智之端也ト云ゾ、孔子モ智者不_レ惑ト云レタゾ、物ノ理非ヲ分明ニ分テ、是ハ理也、是ハ非ナリトシルコト、カバミノ妍醜ヲ辨ズルガゴトクナルホドニ、物ニ

迷フ事ガナヒゾ、カバミガアキラカナレバ、人ノ形ノ
カホヨキト、智惠ノヒカリヲ以テ、モノヲテラシテ、
當理不擾達事無滯ゾ、人欲ノ私ニヒカレテ、一點モ
私欲ナクバ、智モ明カニナランゾ、智者樂水ト云テ、
智者ト云モノハ、智慧ヲメグラシテ、世ヲ治ルコトサ
ツサト水ノ流テ、ヤマザルガ如シ、故ニ水ヲタノシム
ゾ、マタ智者動ト云ルハ、智者ト云モノハ、明徹ニシ
テ、萬事ノ理ニヨク達シテ、氣轉ガマハルホドニ、一
方ムキニナク、チャツチャツト事ノ變ニ應ズルホド
ニ、動ト云ゾ、智者ト云ニモ、重々ガアルゾ、孔子ナド
ハ、聖人ナルホドニ、ムマレナガラシラル、ゾ、顏回
ナドハ、學デシルゾ、コレハ一ヲ聞テ十ヲサトルホ
ドナル賢人ゾ、子貢ナド、クルシンデ學ブルゾ、コレ
ヲ一ヲキヒテ一ヲ知ルホドナル利根ゾ、學而不厭智
也ト云テ、學問ヲシテ、古ヘノ道ヲマナンデ、アクコ
トナキハ、智者デアルゾ、イカニ智慧アリテモ、古今
ノ事ヲマナンデ、シラザレバ、ミダレナルコトガアル
ゾ、サルホドニ、智者ハイニシヘノ道ヲマナンデ、五
典三墳五經六籍十三經、ソノホカ諸子百家ノ語ニ
イタルマデ、ヨク學デ博學強記ニシテ物ヲボヘガツ

ヨクナクテハゾ、又禮樂射御書數ノ六藝ニモ、達
セヒデハゾ、樊遲問レ知、子曰、知レ人ト云ハ、智者ト云
モノハ、マヅ人ヲシラヒデハゾ、知レ人ト云ハ、賢人ナ
ラバ、賢人ト知テ舉用、小人ナラバ、小人トシリテシ
リゾケヒデハゾ、又賢人ナラバ、友トセフゾ、舜ノ時
モ、禹ニハ水ヲ治メシメ、后稷ニハ五穀ヲ司サドラシ
メ、契ニハ人倫ノ時ヲタバサシメタゾ、ソレハ二人
ヲ知テ、用ラレタゾ、其上、舜去ニ四凶ト云テ、ソノ時
ニ天下ニ四人ノ惡人アルヲ、ミナ流シ殺シツセラレ
タゾ、コレラハ人ヲシラヒデハナラヌコトゾ、漢高祖
モ、張良陳平蕭何韓信ナドヲヨクシリテ、張良陳平
ニハ、謀ヲサセ、蕭何ニハ兵糧ノキレヌヤウニサセ
ツ、韓信ヲ巴軍ノ大將トシテ、ミナソレハ二用ヒラ
レタゾ、ソレニヨリ、漢四百年ノ洪基ヲ開レタゾ、項
羽ニ范增ト云モノアリタガ、漢ノ四傑ヨリモマシタ
ルモノナレドモ、項羽ガ人ヲシラヌニヨリ、范增ヲモ
チキナンダゾ、サルホドニ己レガ身モホロビ、國モト
ラレテ、天下ノタメニ笑レタゾ、人ヲシルニハ、又人
ノコトバラシラチバ、人ガ知レヌゾ、サルホドニ論語
ニ、不知言無ニ以知レ人也ト云タゾ、人ノコトバノヨ

キコトヲ云モノカ、イツハリヲ云モノカラ、シリワケ
 ヒデハ、人ハシラレヌゾ、昔晋叔向ト云人、ソウベツ驪蔑ト云
 モノ、一言ヲキ、テアレバ、キ、ヲヨビタル、驪蔑
 ニテアランゾ、サナクンバアレホドノ事ヲバ、エイフ
 マヒト云タレバ、アンノゴトク驪蔑ニテアリタゾ、ソ
 ノ一言ト云ハナニ事ゾナレバ、ソノトキニ大勢、會席
 アリテ、大勢ノ給仕人ガ、ゼンヲスユルニ、膳ヲスヘ
 テモドル者ト、膳ヲスヘニ出ルモノトガ、ハタ／＼ト
 ユキアタリテ、膳ヲウチサラシ、ラツシガナカッタホ
 ドニ、驪蔑ガ云事ハ、上者自左、下者自右ト云タゾ、
 膳ヲモチテ出ルモノハ、左ヨリユケ、膳ヲスヘテモド
 ルモノハ、右ヨリモドレト云タコロデ、ユキアタル
 事ガナカッタゾ、ソレヲ叔向ガキ、テ、シルヒトニテ
 モナケレドモ、驪蔑デアラント云タゾ、人ノコトバラ
 モツテ、人ノ善惡ハシルモノゾ、サレドモ又モノラ
 バ、ヨクイヘドモ、コトバトチガフモノガ、アルモノ
 ナルホドニ、又行迹ヲモヨクミイデハゾ、中庸、舜其
 大智也與、舜好問而好察邇言ト云テ、虞舜ハ大智
 ナ人ニテアルゾ、ナゼニナレバ人ニモノヲトフコト
 ヲコノンデ、トハレタホドニ、イカナルイヤシキモノ

ノ云コトナリトモ、ヨキコトナレバ用テキカレタゾ、
 サルホドニ大智デアルゾ、今ノ時ノ人ハ、人ニモノヲ
 トヘバ、ハチヂヤモノシラズニナルナド、ヲモヒテ、
 シラスコトヲモ、シリタガホラシテトハヌゾ、君子不
 レ耻ニ下問ト云テ、ワレヨリ下タル人ニモ、物ヲトフ
 事ヲハチズゾ、シリタウヘニテモトフガ、智者ゾ、孔
 子入ニ大廟ニ毎事問ト云テ、孔子聖人モ魯ノ宗廟ヲマ
 ツル、祭ニアツカラレタルトキニ、廟中ニテ諸事ヲ悉
 クトハレタゾ、知テ問ハ禮ナリト云ホドニゾ、孟子、
 智者無不レ知也、當務之爲レ急ト云テ、智者ハ萬事ヲ
 シリテ、三綱五常ノ道ヲタビシ、善ヲツトムルコト
 ヲ、速ニスルゾ、上タル人ガ智アリテ、ヨク國ヲ治メ
 バ、ヲサマヲヌ事ハアルマヒゾ、

○信

信トハ、説文曰、信誠也、於文人言爲レ信、言而不レ信
 非レ爲レ人也、イフコ、ロハ、信ハマコトナリ、イツハ
 ラヌヲ信ト云ゾ、字ニモ人篇ニ言ノ字ヲカクハ、人ノ
 モノヲ云コトハ、必マコトガナフテハゾ、信ガナクハ
 人トスルニアラズト云心ゾ、増韵ニ慇實不レ疑不ニ差

爽也ト云テ、信トハ慇懃ニシテ、ヨク物ヲツ、シミ、マコトアルヲ云ゾ、マコトアルホドニ不疑トハ、マコトアルホドニ物ヲウタガイモナイゾ、不_レ差爽トハ、信アル人ハモノヲ云ニモ、首尾ノ相違シテ、タガフコトナイゾ、コトバニイダシタラバ、是非ニヲコナハデハカナハヌコトゾ、口ニハマコトサフニ云テ、心ニハサモナフテ、口ト心ト違ハセヌゾ、信アル人ハ、マヅ心ヲ廉直ニモチテ、一毫モマガリスルコトナキゾ、又コトバモイカニモタバシクテ、道ニアラザルコトハ云ヌゾ、ツトメテ善道ヲ行テ、足蹈_ニ實地_ニ輕薄ニナヒゾ、約信ト云ハ、人ト約束シタル事モ、時ハタガフトモ、日ハタガハヌヤウニ、今日約シタル事ガ、ハヤ明日ハ違フテハ、信デハアルマヒゾ、カリソメニモ人ヲモ欺ザルガ信ゾ、五常ニ信アルハ、五行ニ土アルガ如シ、土ト云モノガナクバ、金モアルマジ、木モアルマジ、水モアルマジ、火モアルマジ、サルホドニ五行ニハ土ガ專ナルモノゾ、ソノゴトクニ、人ニ信ガナクバ、仁義禮智ノ道モ行ハルベカラズ、故ニ信ヲ土ニタトヘタゾ、晋文公ノ時ニ、原ト云處ガ、歸服セスホドニ、コレヲカコミセメンホドニ、各々三日ノ兵糧ヲコ

シラヘヨ、三日ノ内ニハ攻ホサン程ニト、フレラレタゾ、サテ原ヘトリカケテ、トリマハヒタレドモ、三日ニモ落居セヌゾ、三日ノカクゴト、フレヲマハシテアルニ、ソレヨリモスギタラバ、信デナイホドニ、サラバカコミヲトイテ、歸ラント文公ノ云レタゾ、ソノトキアツカヒスルモノガ、イマスコシマタセラレヨ、ホドナク原ハ落居センホドニト云タレバ、文公ノイヤイヤ信ハ、國ノタカラナリ、民ノオホフ處ナリ、信ナクンバタ、ジ、約束ヲチガヘテ、今スコシ逗留シテ、原ヲ得タリトモ、信ノ道ヲウシナハバ、イラヌ物ナリト云テ、カコミヲトイテ、歸陣セラレタゾ、ソノコトヲ、原ニモキ、テ、サテモ信アル君カナト云テ、コノ君ニ降參セイデハト云テ、ヤガテ晋ヘ歸服シタゾ、是ハ君ノ信アル故ニ、敵ガ降參シタ事ゾ、サルホドニ信ガ肝要ゾ、信ガナクバ、アノ人ハ何ゴトヲ云テモ、正ハナイゾ、ミナ何事ヲセラル、モ、イツハリニテアルホドニ、ドコヲトラヘテ、信ニセンゾナド、云ヘバ、國民モヲモヒツカヌゾ、サレバ信ヲ肝要トスル事ハ、儒道ニカギラズ、諸道ムチトスル事ゾ、釋教ニハ、信ハ道ノミナモト、功德ノ母ナンド云リ、信ノ德

ノ多キ事ハ、勝テカゾフベカラズ、タバシ信ヲヲコナ
 フニ、義アルベシ、論語、有子曰、信近_ニ於義_ニ言可_レ復
 也、イフコ、ロハ、信ハマコトナリ、人ト物ヲ約束シ
 テ、イサ、カモチガハズ、トバクルカタゾ、義ハ宜也
 風ヲミテ、帆ヲツカフガゴトクゾ、サテ信バカリヲ守
 テ、物ヲチガヘジトスレバ、カヘツテカタヲチニ、信
 ヲ失フコトガアルゾ、サルホドニ信ヲバ義ニ近フシ
 テ行フベシ、一旦ハ胡亂ニニコユレドモ、終ニハソノ
 義ガ、信ニ歸スルゾ、昔尾生ト云モノアリ、アル女房
 トチギルニ、ハシノシタニ期シテ、ツチニアイス、ア
 ルトキ尾生サキニ行テ、マツトコロニ、ニハカニ大水
 イデタリ、コ、ニ尾生オモフニハ、橋ノシタニマツト
 云約束ヲチガヘテハ、信ニアラズトヲモヒテ、ソコヲ
 シリゾクコトナクシテ、ツイニ大水ニヲボレテ死ス、
 コレハ信ヲシリテ、義ヲシラザルモノナリ、義ヲシラ
 バ、ハシノホトリニシリゾキテ、女房キタラバ、サテ
 モハシノ下トハ、約束シタレドモ、大水ガイデタル故
 ニコ、ニアルト云ハ、信モ義モアルベシ、信ヲバシ
 リテ、義ヲシラヌ人ハ、モノゴトニアヤマチアルベキ
 ゾ、論語、人而無_レ信不_レ知_ニ其可_一、大車無_レ輓、小車無

レ輓、其何以行_レ之哉、孔子モ云レタゾ、イフコ、ロハ、
 人トシテ信ガナクバ、他ノ才能伎藝アリト云トモ、ミ
 ナ不可也、信ハ五常ノ中ニシテハ、肝要ゾ、仁義禮智
 ノ四ツトモニ、信ヲ具足ス、信ガナクバ、仁義禮智ミ
 ナイツハリモノゾ、孟子ニモ仁義ト云テ、信ヲ云ハザ
 ルハ四ツニコモル故ゾトナリ、大車トハ、ヲモキモノ
 ヲノセテ、トラクユク牛ノ車ゾ、轅ノカシラニ、木ヲ
 ヨコニヲキテ、輓ヲユイツクル木ゾ、小車トハ、四馬
 ノ車ゾ、中央ニ轅一ツアリ、輓トハ轅ノカシラノ上ハ、
 カギナドノヤウニ、マガリタルトコロヲ云ゾ、ソノマ
 ガルトコロニ、ヨコギヲユイツケテ、ソレニ馬ヲカク
 ルゾ、轅ノ兩ノワキノ二匹ノ馬ヲバ、服馬ト云ゾ、ソ
 ノソトナル二匹ノ馬ヲバ、駿馬ト云ゾ、輓トハ轅ノカ
 シラノ、マガリタルトコロゾ、肝要ゾ、サルホドニ大
 車モ小車モ、輓ト輓トノアルユヘニ、千里ヲモ行ゾ、
 人モ信アルユヘニ、身ヲタツルゾ、モシ信ガナクバ、
 車ノ輓輓ナキガゴトク、タバイタヅラゴトナリト云
 ゾ、サルホドニ上好信則、民莫_ニ敢不_レ用情也ト云テ、
 上タル人ガ信ヲコノメバ、下萬民モ、又マコトヲ用テ
 君ヲイタバクゾ、五常ノ中ニテモ、信ガ肝要ナルホド

ニ、仁義禮智信ト次第シテ、一ノ石ヅキニライタゾ、
慶安元年大呂吉旦

道春書

春鑑抄終

三德抄上

林道春著

夫心ニ疑ナキハ智也、心ニヨク分別シテ、後悔ナキハ仁也、心剛ニシテツヨキハ勇也、此智ト仁ト勇トハ聖人ノ三德也、故ニ論語ニ孔子ノ、智者ハ不惑、仁者ハ不憂、勇者ハ不懼トイヘルハ是也、智者明ニ道理ヲキハメシリテ、ウタガヒナキユヘニ、物ニモ事ニモマドハスナリ、仁者ハ私モナク、欲モナキユヘニ、貧賤ナレドモウラミズ、富貴ナレドモ道理ニカナヒテ、ホシヒマ、ナラズ、ヲゴラズ、モノヲクル事ナクシテウレヘズ、勇者ハ心ツヨクシテ、モノヲ恐レズ、モノニカバマズ、其氣スクヤカニ、義ヲ守リテ生死ニノゾミテモヲソル、事ナシ、如此三ツニワクトイヘドモ、皆一心ニアルモノナレバ、智ノ中ニモ仁ト勇トアリ、仁ト勇トナキハ大智ニアラズ、仁ノ中ニモ智ト勇トアリ、智ト勇トナキハ至仁ニアラズ、故ニ分レバ三ツトナリ、合スレバ只一

心ナリ、學問ノ道ハ、先理ヲキハメテ、智ヲイタスヲハジメトス、理ニカナフハ善也、理ニソムクハ惡也、ヨク善惡ヲシリワクル事、水火ヲフメバ、身ヲソコナフ事、必定ナリトシリヌレバ、誰モ水火ヲフムモノナシ、ソノ如クニ、善惡ヲシル事眞實ナレバ、善ヲシテウタガハズ、惡ヲサリテウタガハズ、若シウタガヒアラバ、必問テハラスベシ、其ウタガヒノコル所ヲバシバラクカイデ、ヨク信ジテ疑ナキ所ヲ行フベシ、タトヘバ、小疑之下有小悟、大疑之下有大悟ト云フ如ク、ソトノフシンアレバ、ソレヲハラシテ、ソトノ合點アル也、學問ニ志ナケレバ、フシンヲスベキ力モナシ、理ヲキハメント思ヒテ、疑ノアルハ學問ノス、ムシルシ也、其疑ナク其惑ナケレバ、心ヲノヅカラ明ニシテ、道理ニクラカラズ、若其疑ヲ決セズシテ、ソノマ、ヨク時ハ、一生是非ヲワキマヘズ、只イキタルモノヲ袋ニ入、動キハタラクモノヲ、ヲシツケテ箱ノフタヲヲホフ如シ、心カラヨクホドクル事アルベカラズ、今日モ一ツノ理ヲキハメ、明日モ一ツノ理ヲキハムレバ、ツモリツモリテウタガヒナカルベシ、只一ツノ理ヲキハ

メツクシテ、萬理皆通ズベシ、大方ニキハムルニア
ラズ、其理ノ中ニ、又一ヨリ十マデノ次第アル
ヲヨクキハメテ、内外始終マンマルニ、クハシク合
點スルトキハ、萬事ニワタル也、是外ヨリ内ニ入、
ヲモテヨリウラニトラリ、ハジメヨリヲハリニイ
タリ、アサキヨリフカキニイタリ、アラキヨリコ
マカナルニイタル、皆我心ノ理ヲキハメテ智ヲツ
クス、工夫ヨリ末ハアマタアレドモ、根本ハ只一ナ
ルユヘニ、一理ヲ以テ萬事ヲツラヌキ、一心ヲ以テ
諸事ニ通ズル也、其理ト云モノハ、即我心也、心ノ
外ニ別ニ理アルニアラズ、理ヲキハムレバ、モノニ
フシンモナク、ウタガヒモナキナリ、又思案分別ト
云事ハ如何スベキト云ニ、我心マヅタヒラカニシ
ヅカナルトキニ思案スル事ハアシキ事ナシ、其時
思ヒ出スヲ理ニカナフカ、カナハヌカトヨク分別
シテスベシ、ソレヲナニカトアマリニクンニカヘ
リテヲモヘバ、必私ニヲホハレ、クラクラトマギレ
テ、アシキ分別トナルベシ、ソノ上カヘリテ、我心
ヲワヅラハシテ、イヨ／＼ミダル、也、昔季文子ト
云人ノ三タビ思案シテ、行ヒケレバ、孔子キ、テフ

タ、ビ思案セバヨカラントイヘリ、其詞ノ如ク、季
文子ガ行フ事道理ニタガヒテ、心マドフユヘニ、私
ヲスル事多カリケリ、程明道ト云賢人、アル時堂ニ
入テ、柱ノ數ヲカズヘテ、ナン本ト云テ又カズヘケ
レバ、其數チガヘリ、イカガト思ヒテ、又カズヘケ
レバ、又其數チガヘリ、ウタガハシク思ヒテ人ヲヨ
ビテ柱ニツイテ、一々カズヘサセケレバ、明道ガ初
メカズヘタル數チガハザリケル、是モ心ニマギル
、事アレバ、目モチガウ事アルユヘニ、柱ノ數サヘ
ワキマヘサダメ難シ、マシテ大事ニノゾンデ、事ヲ
ヲコナハンニ、心マギル、カ、タビシカラザルカ、カ
チテヲモハヌ不慮ノ時ニ必アヤマリ有ベシ、サラ
バトテ、我一心ヲシヅカニ思按スルノミナレバ、天
下ノ事千萬多キユヘニ、一心ヲチツカズシテ、定メ
ガタシ、サラバ又古ノ事モ當代ノ事ヲモアマチク
ヒロクマナビシラントスレバ、萬事ニカ、ワリテ、
一心ミダレテクラシ、故ニ論語ニ孔子ノ、學而不
レ思則罔思而不レ學則殆トイヘルハ是也、マナバド
モ思按セザルハ、心ニ合點ナクシテクラシ、又思按
スレドモ學習ザレバ心ニフシンアリテヲダヤカナ

ラズ、故ニモノ、理ヲキハメシリテ心ニ分別スレバ、クラキ事モナクウタガヒモナキ也、此心ヲヨクヤシナイタテ、ツヨクスクヤカニスレバ、シテヨキホドノ事ハ何ホドモスル也、此心不斷ヲコタラチバ、一生ノ間イツマデモイサミス、ンデ行フナリ、只命ヲシマヌバカリヲ勇ト云ニハアラズ、ヨクモノゴラヘラスルモ勇也、善ヲシテヲコタラヌモ勇也、道ヲシテヲコタラヌモ勇也、道ヲキ、テ其マ行フモ勇也、人ハ何トイハントマ、ソノカマヒモナク、我ナスベキハザラスルモ勇也、義理ヲ信ジテウタガヒモナク、ヲソル、事モナク、死ヲ守ルモ勇也、故ニ智仁勇ノ三徳一ツモカグレバ、大キナル智仁勇ニアラズ、ヨク心ヲツケテ、見ルヲヨシトス、昔衛國ノ合戦ニ、子路出來ノ時ニ敵アマタ來向テ、冠ヲウチヲトス、子路君子ハ死ルマデ冠ヲヌガズト云テ、冠ノ緒ヲ結ビテ討死ス、曾子病急ナル時ニ、夜簣ノ上ニフシタリ、トモシビヲモチテソバニイタル童子、此簣ハエヲカキタリ、大夫ノ位ニノボル人ノラルベキ簣也ト云、曾子大夫ノ位ニアラズ、曾子首ヲアゲテ答ケルハ、是簣ハ季孫トイヘル

大夫ノタマハリタルナリ、我タマ〜フセリ、早ク簣ヲカヘヨト云、曾子ガ子ドモ夜アケバカヘント云、曾子我正シクシテ死ント云テ、ツイニ簣ヲカヘテチナラルトキニスナハチ死ス、是皆心剛ナルシルシ也、仁義ノ勇アレバヲノヅカラ氣モ正ク心モツヨシ、子路モ曾子モミナ孔子ノ弟子也、又人ニヨリテ心ツヨケレドモ氣ノヨハキ者アリ、陳不占ト云者、敵ノ大鼓金ヲタ、ク聲ヲ聞テハ、腰ノヌケタル如クニテ、立居セヌホドナリケルガ、アル時敵セメ來リテ、味方ノ軍マケタリト聞テ云ヤウハ、我ヲ與ニ載セテフレテ行ケトテ、陣ニイタリテ一足モヒカズ打死ス、此故ニ孟子ノ勇ヲ論ズル時ニ、志ヲヨク守リタモチテ、氣ヲモ養フベシト云リ、志ト氣トヲ能クモチ養ヘバ、陳不占ガ如クナル病ナカルベシ、孟子養氣ノ論ハ、此末段ニミヘタリ、

子曰、舜其大知也與、舜好問而好察邇言、隱惡而揚善、執其兩端、用其中於民、其斯以爲舜乎、中庸

子トハ孔子ナリ、孔子ノ詞ニ曰ク、昔ノ舜ハ大ナル智者也、其智者タル故ハ、何トスルゾト云ニ、自ら我智惠ヲ用ヒズシテ、天下ノ人々ノ智惠アマチク

トリテ我身ニ用ル也、聖人賢人ノ詞ハ申ニ及バズ、
ウトキモノイヤシキ者ノ目ノ前ナル事ヲ云ヲモ聞
テ懇ニ問タヅチテアキラメ、スコシナリトモ善事
アレバ、アマサズモラサズトリテ用ルナリ、又惡事
ヲバヲサヘテ、善事ヲバ施シヒロメテカクス事ナ
シ、舜ノ心如レ此、廣大ニシテ明カナレバ、天下ノ人
人何ヲガナヨキ事ヲ申サントヨロコブ也、又其ヨ
キ事ノ中ニ諸人ノ云所不同アリ、其不同ノ至極ス
ル所ヲトリテ用ルナリ、善事ニ大小輕重厚薄アリ、
小ヲステ、大ヲトリ、輕ヲステ、重ヲトリ、薄ヲス
テ、厚ヲトル、是ヲ兩端ヲトルト云フ、又其兩端ノ
中ニ、トリワキ道理ニ當ル所ヲトリテ、人々ニ用ル
也、タトヘバ恩賞ヲアタユベキ者アリ、ナニホド、
談合スルニ、金百アタフベシト云者アリ、金五十ア
タフベシト云者アリ、金十ト云者アリ、此諸人ノ
云ヲハカリカンガヘテ、多クアタフルガヨクバ、多
キニツクベシ、少キガヨクバ少キニツクベシ、多キ
ト少キトノ間ヲハカリテアタフルガヨクバ、其中
ニツイテアタフベシ、是ヲ兩端ヲ執テ中ヲ用ルト
云也、中ヲモチユトハ理ニカナフヲ云也、如此ス

レバ、善ヲトリテ惡ヲステ、其行フ事アシキ事ナ
シ、是舜ノ大知アリテ、聖人ナルシルシナリ、

子曰、回之爲レ人也、擇ミ乎中庸、得一善、則拳拳服膺、
而弗レ失レ之矣、中庸

是モ孔子ノ詞也、回トハ顔回ナリ、顔淵トモ名ツ
ク、孔子ノ弟子也、顔回ガ人トナリハ中庸ヲ擇ベ
リ、中庸トハ道理ノ至極スル處ヲ云フ、其ヲヨク擇
ブトキハ少モ理ニソムカズ、少モ惡事ヲ思ハズ、中
庸ヲ身ニ行ヒテ、又其上ニ一ツノ善ヲ得テモ、必ズ
我胸ニタモチエテイツマデモ失フ事ナシ、是スナ
ハチ仁ノ道ナリ、如此工夫セバ、何ノ後悔カアラ
ンヤ、

子路問レ強、子曰南方之強與、北方之強與、抑而強與、
寬柔以教不レ報ニ無道ニ南方之強也、君子居レ之、衽ニ金
革ニ死而不レ厭北方之強也、而强者居レ之、故君子和而
不レ流強哉矯、中立而不レ倚強哉矯、國有道不レ變塞
焉強哉矯、國無道至レ死不レ變強哉矯、中庸

子路強ト云事ヲ孔子ニ問リ、強ハツヨシトヨメリ、
人ニ勝事也、孔子答テノタマウヤウハ、南方ノ強ヲ
トフカ、北方ノ強ヲ問カ、ナンデガ用ユベキ強ヲ問

カ、強ニ三ツノ品アリ、南方ノ強ハユルクヤハラカニシテ、セハシカラズ、物ニシタカビ人ヲヲシヘテミチビキ、又無道無禮ノモノ、來リテ、我ニワルクアタレドモコラヘテムクヒセントモ思ハズ、南方ノ國ハ風俗ヤハラカナルユヘニ、カンニンスル事人ニマサレルヲ強トス、是君子ノ道也、是ニ付テ思フニ、唐婁師德ガ子ニ物コラヘヲセヨトヲシヘケレバ、其子人ノツバキヲハキカケタラバコラヘテノゴフベシヤト云ケレバ、師德モシノゴイタラバ、ハキカケタル人ナヲ腹立スル事モアルベシ、只其マ、ヲキテツバキヲカハカスベシトイヘリ、師德ハ名アル者也、其子ヘノ教訓カク云心ハ、イカガ思ヒケルニヤ、モシ又アガリテイハバ、無道ノモノ愚ナル者、バカ者ナドノ无禮ヲシカケ、惡口ヲイヒカクル事アラバ、其人ニヨリテ、醉狂人トモ思フベシ、又ハ蜜蜂蠅ノ飛來リテ、人ニアタルト思フベシ、カレスデニ无道ナレバ人倫ニアラズ、イカンゾコナタヨリ人倫ノアイシラヒヲセンヤ、是カンニンノ強也、シカレドモヲヤノカタキヲウチ、兄弟ノアダラムクユル法アリ、直道ヲ以テウラミラムク

ユル義アリ、シカレバ只カンニンヅヨキマデニテ耻ヲカクシ、スベキ事ラムクヒザルハ理ニカナハズ、サルニヤ北方ノ國ハ、風俗キビシキユヘニ、干戈ヲ枕トシ、甲冑ヲシトチトスルゴトクニ、常ニ武ヲタテ、死ル事ヲ何トモ思ヌ也、タケクツヨキ事ヲシ、ハタス事人ニマサレルヲ強トス、是勇者ノワザ也、如何ニ死ヲカロンズトモシヌマジキトコロニテ死シハ、是モ道理ニソムケルニヤ、故ニ今子路ニヲシヘ聞セン、強ハイカガスベキトナラバ、諸人ニマジハルト云トモ、惡人ニ同類トナルベカラズ、我ガ身ノヲコナヒ人ニカハリテ、ヒトリ目ニタツヤウナリトモ、一概ニ心ヲ用ユベカラズ、國道アル時ニ用ラレテ、富貴ノイキヲヒアリトモ、ソノ志ヲミダリテホシイマ、ニフルマウベカラズ、國道ナキ時ニ、世ヲノガレカクレテ、貧賤ナリトモ身終ルマデ僻事セズ、ソノ心ヲタバシクシテ、アラタムベカラズ、此四ツノ行ヒアル者ヲ眞實ノ強ト名ヅク、子路ガ今ヨリヲコナフベキ強也、強ハ人ニ勝ヲイヘドモ、先ミヅカラ我ニカチ私ニカチ欲ニカツヲ聖賢ノ強トス、我ガ私ニカツ時ハ其上ニ人ニ勝事

必定ナルベシ、此強ヲホメテ強哉矯トイヘリ、矯ハ
タケキ智ヲイフ也、

右ノ舜ノ段ハ、智ヲ云フ、回ガ段ハ仁ヲイフ、子
路ガ段ハ勇ヲイフ、合セテ智仁勇之三徳也、

天下之達道五、所_レ以行_レ之者三、曰君臣也、父子也、夫
婦也、昆弟也、朋友之交也、五者天下之達道也、智仁勇
三者、天下之達徳也、所_レ以行_レ之者一也、中庸

君臣ト、父子ト、夫婦ト、兄弟ト、友ダチト、此五ノ間
ハ、古モ今モ、天地ノ間ニアルモノナリ、此道アラ
タマル事ナキユヘニ、達道トナヅク、人間ノシナヲ
カゾユルニ此五ノ間ヲスギズ、是ヲヨク行フヲ聖
賢ノ學問トス、何ヲ以テ行フベキト云ニ、智仁勇ノ
三徳ヲ以テ行フ也、此三八、古モ今モ、人々ノ心ニ
ウケヘテアルコトハリナレバ、達徳ト名ヅク、君ト
シテハ天下ノ人ヲ愛シ、臣トシテハ君ニヨクツカ
ヘ、父トシテハ子ヲアハレミ、夫ハ外ヲ治メ、婦ハ
内ヲ治メ、兄ハ弟ヲ教ヘ、弟ハ兄ニシタガウ、友達
ハ禮義ヲ以テ交ル、是ミナ智仁勇ノ内ニアリ、此五
ツノ人倫ノ道ヲヨクシルヲ智トス、此道ヲ心ニソ
ナユルヲ仁トス、此道ヲヨク行フヲ勇トス、何モ皆

ヲコナフ處ハ、只一ツノ眞實ナレドモ、モシマコト
ナケレバ、智モ智ニアラズ、仁モ仁ニアラズ、勇モ
勇ニアラズ、實ナケレバ欲ニヘダテラレテ、理ニソ
ムクユヘナリ、ソノマコト、云モノハ、又智仁勇ノ
外ニアラズ、智仁勇ヲイツハラヌトコロヲ、スナハ
チマコト、名ヅク、ソノマコトハ我一心也、達徳ヲ
以テヨク達道ヲ行フ時ハ、我身ヲモ治メ、又人ヲモ
ヲサムル也、若此外ニ道アリトイハバ、聖賢ノ道ニ
アラズ、

智ハモノ、理ヲシル事、ウツクシク見事ナルモノ
ヲ好ミ、キタナクムサキモノヲキラフ如クニ眞實
ナラバ、必善ヲ好ミテ行ヒ、惡ヲニクミテキライ、セ
マジキモ又必眞實ノ智ト云也、生死一大事ノモノ
ニテ、命ヲシキユヘニ、天下ノアリトアラユルモノ
ニ、何カ命ニカユベキモノアリヤ、サレドモ生アル
モノハ、必ズ一タビ死ルハ、ムカシヨリ定レル理也
ト、イカナル愚人モシルユヘニ、イツカシナントテ
ナキカナシム人ナシ、此心ヲ萬事ニヲジヒロメテ
合點セバウタガヒアルベカラズ、仁ハモノヲ愛ス
ル事、我身ヲ思フ如クナラバ、必眞實ニシテ、私ナ

カルベシ、イカナル者モヲサナキ子ノ水ニヲチン
トスルヲ見テ、一目シラヌ者ナリトモ、アハレト思
フベシ、引アゲントスベシ、サレドモ人ニヨリ、放
埒邪見ノミノハ、態ト水ヘツキヲトスモノモアレ
ドモ、其者ノ子ナラバサヤウニスベカラズ、若怒ニ
ヨリテ我子ナリ共殺ス事モアリ、ソレモ又我身ノ
勝手ノタメナドニスレバ後悔モアリ、ソコカラス
イテスルニハアラズ、然レバ仁ト云モノハ、イカナ
ル人ニモコト^レク皆其心ニアルモノ也、此心ヲ
ヒロクヲセバモノゴトニ私ナクシテ、悔モナクウ
ラミモナカルベシ、我身ヨカレト思フゴトク、人ニ
ヲヨボサバ何ノウラミカアランヤ、又モノヲイカ
スハ仁也、惡ヲノゾクハ義也、鼠ヲコロスニ、コロセ
バ仁ニアラズ、コロサチバ義ニアラズ、コロサンカ
タスケンカト思フ中ニ、仁義ソナハレリ、コロシテ
惡ヲハラフトキハ、義ノ中ニ仁アリ、然レバ鼠ヲコ
ロスモ仁也、盜賊ヲコロシ惡人ヲイマシムルモ、又
此コ、ロナリ、只慈悲ノアハレミアルノミヲ仁ト
思ハチイサキ仁也、一人惡ヲイマシメテ、萬人善ニ
ヲモムクハ大ナル仁也、故ニ仁ハ人ヲ愛スルヲイ

ヘドモ、惡人ヲ愛スルハ仁ニアラズ、ヨキヲバ愛シ
惡キヲバニクム是仁也、カクノゴトクホドコサバ、
何ノ私カアランヤ、勇ハ心ノツヨキ事、義ニカナフ
テスルヲ云也、善ヲミテスミヤカニスルハ勇也、ヨ
キコト、シリナガラモセンカセマイカト、タメラ
イテヲコタルハ、勇ニアラズ、又敵ニムカヒテ、死
ントシリテタ、カウハ、カチテ其心得アルユヘナ
リ、何事ナシトシリツ、クラキ所ヘ夜行トキ、ヲ
ソル、心アルハマドヘル也、若何事カアラントキ
ニ、スベキヤウヲ兼テ心ニモタバ、ヲソルベカラ
ズ、虎狼トシリテハヲソレチ共、蜂ノ懷ノ中ニイル
トキハアハツル事アリ、寶物ヲワザトウチワリス
ツレドモ、フルキ鍋釜ノクダケソコナフヲオシム
事アリ、是皆平生ニ心ヲツケテ用ヒザレバ、俄ノ時
ニノゾミテ勇ナキ也、此義ヲツチニヤシナヒ得テ、
ウタガハズヲソレズ、道理ノマ、ニヨキ事ヲ思ヒ
キリテ、心ヲツヨクスルヲ勇トス、故ニ仁ヲモシ
リ、勇ヲモシルハ智也、智ヲモウシナハズ、勇ヲモ
タモツハ仁也、智ヲモ行ヒ仁ヲモ行フハ勇也、此智
仁勇ノ三ツ一ツモ、カグベカラズ、モトヨリ一心ノ

誠也、

理氣辨

一陰一陽之謂道、繼之者善也、成之者性也、周易
夫天地ヒジケザルサキモ、開ケテ后モ、イツモ常ニ
アル理ヲ大極ト名ヅク、此大極ウゴイテ陽ヲ生ジ、
靜ニシテ陰ヲ生ズ、此陰陽ハ元一氣ナレ共、ワカレ
テ二ツトナルナリ、又ワカレテ五行トナル、五行ト
ハ木火土金水也、此五行支ワカレテ、ヨロヅノモノ
トナル也、此五行アヒアツマリテ、カタチヲナス
キニ、人モ出來スル也、形ニヲイテハ土ヲ得テ肉身
トシ、木ヲ得テ毛髮トシ、水ヲ得テ身ノ血ヤウルヲ
ヒトナシ、金ヲ得テ筋骨トナシ、火ヲ得テ身ノ熱氣
トナス、又五臟ニツイテ云フトキハ、火ノ精ハ心ノ
臟也、木ノ精ハ肝ノ臟也、土ノ精ハ脾ノ臟也、金ノ
精ハ肺ノ臟也、水ノ精ハ腎ノ臟也、如レ此相聚リテ
人ノ形ヲナシテ、其ウゴキハタラクモノヲ氣トナ
ヅク、此氣ノ中ニヲノヅカラシナハレルモノハ理
也、是則大極也、コレヲ道トナヅク、此理ト氣ト相ア
フテ、形ノ主タルモノヲ心トナヅク、此心ト云モノ

ハ元來大極ノ理ナレバ、天ト同ク虚空ノ如クシテ、
色モナク聲モナシ、タゞ善バカリニシテ、スコシノ
惡モナキ也、然ドモ氣ニハキヨキモアリ、ニゴルモ
アリ、善モアリ、惡モアリテ、モノ、マジハレル事
アレバ、氣ヲウケテカタチヲナセバ、形ニツイテ私
モアリ、欲モアリ、惡モ出來スル也、其シルシイカ
ント云ニ、目ニ色ヲミテ善ヲ思フ事モアリ、口ニモ
ノイヒ、手足ノモノニフル、ニツイテモ又如レ此
シ、イツレモ私ヲナシ欲ヲスルハ皆形ヨリスル也、
其形ハ氣ヨリ出タレバ、萬事ニツイテウゴキハタ
ラク所ミナ氣ノナスワザ也、心ハ元ヨリ惡ナケレ
ドモ、氣ニヨラザレバウゴキハタラカズ、故ニ氣ノ
ナスワザヲモ、善ナレバ善ト知リテスナハチヲコ
ナヒ、若惡ナレバスナハチ惡トシリテセヌハ心ノ
シワザ也、タトヘバモノヲ食ハント願ヘドモ、クウ
マジキ所ニテハ、クヒタキヲコラヘテ居ルハ心ヨ
リ氣ヲ制スル也、財寶ヲホシ、ト求レドモ無理ニ
トルハ、罪ナリトヲモイテ居ルハ、是モ心ヨリ氣ヲ
制スルナリ、シカレバ氣ニハ善モ惡モアレドモ、心
ニハ善バカリニテ惡ナキ事分明也、陰陽ヨリ人ヲ

生ズルノミナラズ、一切ノ草木モ鳥獸モアリトアラユルモノ盡クミナ生ズル也、如此ナルコトハリヲ道トナヅクルユヘニ、一陰一陽ヲ道トナヅクルトイヘリ、陰ト陽トメグリアフトコロラ、一陰一陽ト申也、其陰陽ノウゴクトシヅカナルトノ間ハ、息ヲ一息ツクヒマモナシ、此所自然ノ道理ニシテ、至極セル處ナレバ、繼グモノハ善也ト云リ、其理スナハチ人ノ形ニソナハリテ、心ニアルモノヲ天命ノ性トナヅク、此性ハ道理ノ異名ニテウノ毛ノサキホドモアシキコトナシ、是ヲナスモノハ性也ト云リ、右ノ段ハ孔子ノ詞也、中庸ニ天命ヲ性ト云タルモ、孟子ノ性ハ善ナリト云モミナ此義ナリ、サレバ古モ今モイカヤウノ者ナリトモ、ナンデハ惡人ナリトイハバ腹立スベシ、ナンデハ、善人ナリトイハバ必ヨロコブベシ、然バ惡人ニテモ其心中ニ善ト惡トヲシルハ分明也、善トシリツ、善ヲセズシテ惡ヲスルハ、氣ニヒカレテスルモアリ、世ノナラハシノアシキニツイテ、惡ヲアラタムル事ナラヌモアルベシ、上ヨリノ教ヘヨケレバ、イツトモナク世ノナラハシモヨクナリテ、惡ヲアラタメテ、善

ニウツルベキコト必定也、コノユヘニ、ヨロヅノ事ニツイテ善惡ライヘバ、善ヲサキトシ、惡ヲ後トス、是非ライヘバ、是ヲサキトシ、非ヲ後トス、此コトハリヲヨクワキマヘザレバ、氣サカンニシテ心ヲトロフユヘニ、惡ヲセントスル氣ハツヨクシテ、善ヲセントスル心ハヨハクナルナリ、是氣ヨリ心ヲツカフユヘ也、

四端出ニ於理、七情出ニ於氣ト云事アリ、四端トハ仁義禮智ノアラハル、處ヲ云也、七情トハ喜怒哀懼愛思欲、ヲイフ也、人ノ心ハ只道理マデニテアルユヘニ、仁義禮智ハコノ理ヨリ出ルナリ、氣ニハ善惡アルユヘニ七情出來スル也、七情ニハ善ト惡トアリ、四端ニハ善バカリニシテ惡ナシ、此七情ヲ道理ノマ、ニスレバ、仁義ニカナヒテヨケレドモ、血氣ノ私ニヒカサル、トキハ、七情ホシイマ、ニナリテ、理ニソムキテ喜ブ故ニ、ヨク分別シテ、七情ヲ理ニカナヘテナセバ、イヅレモアシキコトナシ、理バカリニテハ、ウゴキハタラキガタシ、理ト氣トヲ合セテ心トスレバ、ヨクウゴキハタラク也、タトヘバヲモキモノヲ、一人シテモチアゲガタキトコロ

ニ、二人ノ力ヲ合セテアグレバ、必ズカルクナルゴ
トク、此理ト氣トヲ一ツニ合セテ、心ヨリ氣ヲ用ル
トキハ、心ヅヨクナリテヲノヅカラ僻事アルベカ
ラズ、親ニ孝行ヲスルハ心ノ理ナリ、若又親ニイカ
リヲアラハスハ、是血氣ノ私ナリ、是ニヨツテ理ト
氣トノ差別ヲ知ルベキ也、シカレドモ理ト氣トハ
フタツナレドモ、氣アレバ必ズ理アリ、氣ナケレバ
理ノヤドルベキトコロナシ、理ハ形ナキユヘナレ
バ也、理ト氣トハナル、事ナシ、今日氣アリテ後、
明日理アルニアラズ、アレバ同時ニアルモノ也、
理ヲヨクウゴカスモノハ氣ナリ、氣ヲヨク亂ラザ
ルモノハ理ナリ、此二ツノモノハタシテ心トナル
事ヲ知ルトキハ、心ヨリ氣ヲ用ルヤウニ工夫アル
ベシ、

程子曰、論_レ性不_レ論_レ氣不_レ備、論_レ氣不_レ論_レ性不_レ明、
二_レ之外則不_レ是、程子遺書

道理バカリノ沙汰ヲシテ、氣ト云モノヲ辨ヘザレ
バ、道理ソナハリガタシ、氣バカリノ沙汰ヲシテ、
道理ヲシラザレバ、萬事が分明ナラズ、此性ト云ハ
則チ理也、性ト氣トヲ合テ論ズベシ、若二ツニ分ツ

メントスルトキハシカルベカラズ、人ノ性ハ元ヨ
リ善ナルニ、何トテ又惡ハアルゾト云ニ、タトヘバ
性ハ水ノゴトシ、清キモノ也、奇麗ナルモノニ入レ
バスナハチ清シ、汚タルモノニ入レバスナハチキ
タナシ、泥土ニ入レバスナハチ濁ル、氣ハ性ノ入レ
モノナリ、氣ニ清キアリ濁レルアリ、明ナルトキア
リ、暗キトキアリ、厚キ時アリ、薄キアリ、開ク時ア
リ、塞ルトキアリ、如_レ此種々ニ變ズルユヘニ、此氣
ヲウケテ形トナストキニ、又其品々アリ、故ニ性モ
氣ノウケヤウニヨリテ、根本善ナレドモ、形ニヲホ
ハレ欲ニヘダテラレテ心ヲクラマス也、氣モ又水
ニタトフレバ、水ハ元平ナレドモ、風ニアフテ波ト
ナリ、地形ノ高下ニヨリテ、アフレ流ル事モアリ、
水ハ又元ヨリヒキ、所ヘ流ルモノナレドモ、水車
ニテハ高キ所ヘヒキアグル事モアリ、又水ハ元ヨ
リ清ケレドモ、泥塵ニ流レ_イ入バ濁ル事モアリ、又ヨ
ク船ヲ浮ブレドモ、又船ヲ沈ル事モアリ、サレドモ
本ニカヘレバ、水ノ本性ニナリテ清ク平ナルベシ、
如_レ此氣ニ不同アリ、コノ氣ハ天地ノ間ニ充滿シテ
アルヲ、ウケヘテ人ノ形トナス、是ヲ氣質トナツ

ク、此氣質ニ種々ノ不同アルユヘニ聖人アリ、賢人アリ、智者アリ、君子アリ、是ハ皆氣ノ清明ナルヲウケタル人也、又小人アリ、惡人アリ、愚者アリ、コレハ氣ノ濁リテアラキ所ヲ稟タル人也、又或ハ律義ニテ信アレ共、ヲロカナル者アリ、是ハ氣ノ濁ルト厚キトヲウケタル人也、又或ハ智慧才覺アレドモ、ヲソロシキ所アリテ、心ユルサレヌモノアリ、是ハ氣ノスメルトアラキトヲウケタル人也、如此アルユヘニ善人ハスクナク、愚者ハヲホク、君子ハスクナク、小人ハ多キナリ、サレドモヨクマナビ習ヘバ此氣質ノアシキヲアラタメテ、善ニナルベシ、必シモ生レツキヨリ、定レルモノナリト云テ、其マウチステ、ヲクベカラズ、ヨク學ベバ濁ルモ清クナル事水ノ性ニ歸ルガ如シ、人モ又クラキハ明ニナリ、愚ハ智ニナリ、ヨハキハツヨクナリ、惡モ善ニカヘルベキ也、是ヲ有教無類トイヘリ、サレバ程子ノ性ト氣トヲ分テ、沙汰セザルモヨカラズ、又性ト氣トヲ二ツニスルモヨカラズト云ヘル、ヨクワケテ見テ二ツナキ所ヲシリ、又一ツニ合セテ其スデメノマギレザル所ヲシラバ、理ト氣トノ工

夫アルベシ、

韓子曰、性有上中下三品、

是ハ漢書ノ古今人表ノ説ヲモテ云ヘリ、人ノ生レツキニ上中下ノ三ノ品アリ、上々ノ者ハ惡人ニ交レドモ、惡ニヒカル、事ナクシテ、却テソノ惡人ヲ善ヲスルヤウニヲサムル也、下々ノ者ハ生レツキ愚ニ暗キユヘニ、賢人ニ交リテモ、惡ヲ改ル事ナク、却テ賢人ヲキラヒ、君子ヲニクミテ、イヨク惡ヲマスユヘニ、果シテ其身ヲホロボス也、シカレバ惡ヲスルハ、スナハチ大ナル愚人也、中ノ生レツキノ人ハ、賢人ニ交レバ善ヲナシ、小人ニ交レバ惡ヲシテ、善ニモウツリ、又惡ニモウツルナリ、タトヘバ朱ニ近ケバ赤クナリ、墨ニチカヅケバ黒クナルガ如シ、サレバ其近ヅキ交ル人ヲエラブベキ事也、如此性ニ三ノ品ヲ分タレドモ、其根本ヲ云ヘバ性ハ元ヨリ一理ナリ、イカンゾ三ツノ品ヲ分タンヤ、三ノ品アリト見ルハ、性ノ本ヲ知ラズシテ氣ニ不同アル事ヲ云ナルベシ、氣ノ不同ノ品々ヲ分テ云バ、上ニモ上中下アリ、中ニモ上中下アリ、下ニモ上中下アレバ九ノ品ヲモ分クベキ也、シカレバ上

ノ上ハ聖人也、其次ハ賢人也、其次ニ品々アリテ下ノ下ハ大惡人ナルベシ、是ミナ氣ノ善惡アル不同ニツイテ如レ此沙汰スル也、天命ノ性ト云モノハ、タカキモイヤシキモ、古モ今モ東西南北ノ人々モ、不同アルベカラズ、是又理ハ善ニシテ、氣ハ善惡アルシルシナリ、

人莫^レ不^ニ飲食^一也、鮮^ニ能知^レ味也、中庸

人ゴトニモノヲ飲ミ食ヘ共、能其味知ルコトスクナシ、是ハタトヘナリ、ヨロヅノ事ニヨキホドノ道理アリ、是ヲスグレバ僻事トナリ、是ニイタラズバ又僻事トナルナリ、凡ヨキホドニモノヲ飲ミクラフ事ハ、定レルノ道理也、アシキ事ナシ、タバ食フコトゾト知リテ、多ク食ヒスゴセバ脾胃ヲヤブリテ病トナル、サラバ食フマジキトテ食ハズシテヲレバ、必ズカツエニノゾム也、ヨキホドノ道理ハ過ル事モナク、又至ラヌ事モナシ、是ヲ過不及ナキノ中庸ト云ヒテ則善也、故ニヨロヅノ惡ハ過不及ノ二ツヨリ出來スル也、此物ヲ飲ミ食フタトヘヲ以テ人ノ身ニ行フ處ノ善ト惡トヲ分別スベシ、モノヲノミクラフ事ノミニ限ラズ、目ニ見ル道理アリ、

耳ニ聞ク道理アリ、見聞クマジキ所ヲ見聞クハ過也、シカラバ見モセズ聞モセマジキトスルハ、不及ナリ、是皆血氣ニヲカサレ、本心ヲ失フ故ニ、過ニシテ惡トナリ、不及ニシテ惡トナリテ、共ニヨキホドニ見聞クベキノ道理ヲ失フ也、理ハ元ヨリ善ナレバ惡ハイヅクヨリ出ルゾト云ヘバ、此過ト不及トノ處ヨリ出來スル也、是ニテモ又理ハ善ニシテ氣ニハ善ト惡トアル事ヲ知ルベシ、只ヨク心ヲ治レバ此アヤマチナシ、若心ヲタバシクセザレバ、見ルニツキテモ聞ニツキテモ、飲食ニツキテモ道理ヲクラマス也、大學ニ心不^レ在^レ焉、視而不^レ見、聽而不^レ聞、食不^レ知^ニ其味^一、ト云ヘルモ此義也、

或問、心有^ニ善惡^一否、程子曰、在天爲^レ命、在^レ義爲^レ理、在人爲^レ性、主^ニ於身^一爲^レ心、其實一也、心本善、發^ニ於思慮^一、則有^レ善有不善、若既發則可^レ謂^ニ之情^一、不可^レ謂^ニ之心^一、譬如^レ水、至^ニ於流而爲^レ派或行^ニ於東^一、或行^ニ於西^一、却謂^ニ之流^一也、

心ニ善惡アリヤト云ニ、心ハ元ヨリ善也、天命ト云モ、義理ト云モ、性ト云モ心ト云モ皆一也、イカンゾ心ニ惡アラシヤ、シカレドモ若念々ノ發^ルトキ

ニイタツテハ、善アリ惡アリ、其念ノ起ル所ヲバ情ト云ベシ、是則七情也、心ト云ベカラズ、タトヘバ水ノ如シ、水ハ元ヨリ平ラカナリ、流レテ東西ニ分ル所ヲ波ト云ヒ流レト云ガ如シ、故ニ聖人之心如ニ止水ト云ヘリ、止水ハシヅカニ平ナル水也、

人胸中常若有二兩人ニ焉、欲レ爲レ善如レ有レ惡以爲レ之間、欲レ爲レ不善又若下有二差惡之心者、本無二一人、此正交戰之驗也、持ニ其志ニ使ニ氣不能亂、此文可レ驗、是モ程子ノ詞也、凡ソ人ノ胸中ニ兩人アルガ如シ、善ヲセントスル心アレバ、又惡念アリテ、其サ、ワリヲナス、若惡ヲセントスレバ又惡ヲ羞ル心アリテ惡ヲシハタサズ、胸ニ兩人アルヤウナレドモ、元ヨリ兩人ナシ、只コレ善ト惡ト我ガ胸ノ中ニ相戰フ驗也、ヨク心ヲタモチテ氣ニ亂サレザルトキハ、惡ヲヤムルノ工夫ナルベシ、昔子夏富貴ヲ見テハ、其願ヲ發シ、孔子ニ見ヘテ、仁義ヲ聞時ニ富貴ノ願ト仁義ノ心ト、其胸中ニ相戰フト云ルモ此義也、善ト惡トノ戰フトキニ、惡ニカタントナラバ、ヨク心ヲ保チテ氣ヲ亂ルベカラズ、

人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執厥中、

是ハ、大禹謨ノ詞也、心ハ一ナレドモ、其ウゴキ働ク所ヲバ人ノ心ト云フ、其義理ニヲコル處ヲバ、道ノ心ト云フ、寒ケレバ衣ヲ思ヒ、飢テハ食ヲ思ヒ、目ニウツクシキ色ヲ見ント思ヒ、耳ニ面白キ聲ヲ聞ント思ヒ、鼻ニヨキニヲヒヲカバント思フ、ヨロヅチガヒホツスル處ハ、皆是人ノ心也、此心ハ私ヲヲクシテ、ヲ、ヤケスクナク、惡ニナリヤスキ故ニ、人ノ心アヤウシトイヘリ、アヤウシト云ハ、善惡邪正ノ間ハ、マコトニアブナキモノナレバ危ト云也、若其義理ニアル時ハ、衣食ヲ思ヘドモ、飢寒ヲコラヘテウケザルコトアリ、惡聲惡色ナレバ見モセズ、聞モセザル事アリ、非禮ノ子ガヒヲバセザル事アリ、不義ノ富貴ヲバモトメザル事アリ、是ヲ道心ト云フ、此コ、ロハ人ゴトニ元來アルモノナレドモ、アキラメガタフシテ、カクレテクラキユヘニ、道ノ心微也ト云也、能クハシク明ニシテ、其私ヲマジヘザルヲ惟精ト云フ、專ニマモツテ正シキヲ惟一ト云、如レ此ナレバ、道心主トナツテ、人心ソレニシタガフユヘニ、危モノハヤスクナリ、微ナルモノハ明ニナリテ、ヨロヅナス所ノモノ、ヲノヅカラ理ニ

叶、此理ヲ中トナヅク、是ヲ守得テ不失ヲ中ヲ執ト云也、中ハ我本心ノ體用ヲソナヘタル道理ノ異名也ト知ベシ、此段ハ舜ノ禹ニ位ヲ讓シガタメニ、シメサル、ヲシヘナリ、中庸ノ序ニモ見タリ、王陽明ガ說ニハ、精ト云字ハシラゲトヨメリ、米ノナカニシラゲノアルヲ、人ノ心ノ中ニ道心ノアルニタトフ、ハジメハ黒米多フシテ、白米スクナケレドモ、日々ニエラブトキハ、黒米スクナフシテ白米ヲヲシ、イヨ／＼タヘズエラブトキハ、皆白米トナリテ黒米ナシ、此タトヘノ如ク人ノ心ヲヨクヲサメテ惡ヲサル時ハ、道ノ心ノ微ナルモ廣大ニナリ、カスカナルモアラハレアキラカニナル也、シカレバ善バカリニシテ惡ナカルベシ、是ヲ惟精惟一ト云也、其善ヲタモチテ失ナハザルヲ中ヲ執ト云也、心ハ一ニシテ二ツナキヲ、道ノ心ト人ノ心トノ差別ヲ云ハ、道ノ心ハ理也、人ノ心ハ氣也、是又心ハ善ニシテ氣ニハ、善惡アルノ本據ナリ、

性相近也、習相遠、論語

コ、ニ云性ハ、人ノ生レツキノ氣質ノ性也、生レツキノ始ハ大方相似タレドモ、善ニナルレバ善トナ

リ、惡ニナルレバ惡トナル也、タトヘバ絲ヲソムルガ如シ、黒クソムレバ黒クナリ、赤クソムレバ赤クナル如ク、人モヨキモノニナルレバヨクナリ、惡キモノニナルレバアシクナル也、サレバ本心ヲタモチテ、血氣ヲ制スルウヘニ、其ナレマジハル所ノ人ノ善惡ヲモエラブベキ也、

誠無爲、幾善惡、周子中書

誠トハ、眞實自然ノ理也、無爲無事ニシテアシキ事ナシ、是本心ノ動ザル所也、幾ハ一念ノワヅカニ動ク處也、一念ウゴク處ニヨツテ、スナハチ善アリ惡アリ、善ト惡トハ相對スト云ヘドモ、タトヘバ客人ト主人トノ如シ、其根本ヨリ正シキハ主人也、ソノワキヨリ出ル者ハ客人ナリ、是ハ又心ニ善惡アルヲ、主人ト客人トニタトフル也、又一ツノタトヘアリ、親ノ家ヲツグモノハ嫡子也、其次ノワキヨリ出ル者ハ庶子ナリ、此二ツトモニ相對ストイヘドモヨクソノ差別ヲ知ルトキハ、本末ヲワキマヘテ、善惡ニマドフベカラズ、

由ニ大虛ニ有三天之名、由ニ氣化ニ有三道之名、合ニ虛與氣有ニ性之名、合ニ性與知覺ニ有ニ心之名、正蒙

大虚ハスナハチ天也、ソノ限ナクキハマリナキユヘニ大虚トナヅク、是ヨリ理モ出テ氣モ出ル也、コレスナハチ自然ナルユヘニ天トイヘリ、天ニ陰陽ノ氣アリテ、寒クナリアツクナリ、晝トナリ夜トナリ、風フキ雨フリ、人ヲ生ジ萬物ヲ生ズル事、ミナ此道理也ト云ヘドモ、陰陽ノ氣ヲハナレザルユヘニ氣トハ云ナリ、氣化ヨリ道ト云名ハアル也、コ、ニヲヒテ人ノ生ズルトキニ、大虚ト氣化トヲ合セテ、形ニソナフルトキハ性ト云名ハアルナリ、コノ性ヲソナヘテ、形ノウゴキハタラクトキニ、心ト云名ハアル也、右ノ大虚ト道ト性ト心ト四ツノモノノ名ハアレドモ、其理ハ元來一也、

三德抄上終

三德抄下

大學

大學トハ大人ノ學也、大人トハ聖人賢人ノ事也、昔大唐全盛ノ世ニ小學大學ト云テ、二ツノ學問所ノ名アリ、人生テ八ノ年ヨリ十五マデ、小學ニテザシキノハキサウジスル事、問フツ答ヘツノ物ノ云ヤウト、立フルマイノシツケト、物ノヨミカキト、算用ノシヤウト、又弓馬禮樂ノ道ヲシルセル物ノ本ナドヲナラヒマナブ也、是小學ノ法也、サテ十五ヨリ大學ニ入テ、聖賢ノ道ヲマナブ也、此小學大學ノ學問所ハ、帝王ノマシマス都ニモ、其外ノ國々郡々村村里々イツクニモ、其所ノ相應ニヨリテタテ、似合敷師匠ヲスエテ、人々ニシメシヲシユル也、其大學ノ道ハ、物ノ理ヲキハメシリ、心ヲ正シクシ、吾身ヲヲサメ、又身ヲモヲシヘヲサムル也、君ヨリ此ヲキテ有ユヘニ、人ヲシタテ、ヨキ者ドモ多ク出來スル也、如此ナレバ人々善ヲシテ惡ヲセズ、タバシ

クシテヨコシマナク、君ニハ忠ヲツクスベシ、父ニハ孝ヲイタシテ、ヲノヅカラ僻事ナキユヘニ、家國モヲサマリ天下モ平ナリ、其事ヲシルセル書ヲ大學ト名ヅク、

大學之道、在_レ明_二明德_一、在_レ親_二民_一、在_レ止_二於至善_一、

明德トハ本心ヲ云也、人ノ生_レ出タルヨリ、自然ニ天ヨリウケエテ、吾身ニアリテソナハレル物也、心ハカタチナシ、色ナシ、聲ナシ、音ナシ、然バ心ハ本來ナキモノカト思ヘバ、本來アル物也、物ヲ見物ヲ聞ハ、耳目ナリトイヘドモ、其見キクユヘノモトハ心ナリ、我身ニ寒キ^{アツ}溫キイタキカユキヲ覺ルハ、カタチアリト云ドモ、是ヲ覺ルユヘノ本ハ心也、鼻ニカギ口ニ物イヒ、手足ノ動キ働クモ、又皆如_レ此、タトヘバアキラカナル鏡ノゴトシ、鏡ノ内ハ空ニシテ、何モナキユヘニ、五色ノカゲヲウツセバ、其青モ赤モウツリテ分明也、女ハ女ノカタチヲウツシ、男ハ男ノ形ヲウツス、老タル者若キモ、ミメヨキモミメアシキモ、鏡ニムカヘバカクレナシ、其ムカウモノシリゾク時ハ、鏡ノウチニ其カゲヲトドムル事ナクシテ、又モトノ如ク空也、是ヲ人ノ本心ニタトフ

ル也、鏡ニヨロヅノ形ヲウツス如ク、一心ニアリトアラユル物ノ理ヲソナフル也、仁義禮智信モ忠孝モ皆盡ク一心ニアリ、此理アキラカナルユヘニ、心ヲ明德トナヅク、君ニツカヘテ忠ヲスルハ、吾心ニ二心ナキノシルシ也、父母ニ對シテ孝ヲスルハ、吾心ニ恩愛ノコトハリアルシルシナリ、物ヲミテアハレミ、人ヲ愛スルハ、心ニ位アルノアラハル、シルシナリ、吾ガアシキ事ヲバ耻テ、人ノアシキ事ヲニクミキラフハ、心ニ義アルノアラハル、シルシナリ、老タルヲウヤマイ、貴人ヲタツトビ、我身ヲヘリクダルハ、心ニ禮アルノアラハル、シルシ也、是非ヲワキマヘ、善惡ヲシルハ、心ニ智アルノアラハル、シルシ也、此理皆眞實ニシテ、少モ僞ナク行フハ、心ニ信アルノアラハル、シルシ也、此仁義禮智信ノ五ツハ、人ゴトニ、イツモツ子ニ心ニアルモノナレバ、五常ト名ヅク、五常モ忠モ孝モ、只一心也、ソノ名ノカハリタル事、タトヘバ水ハ一ツナレドモ、波ト云、流ト云、火ハ一ツナレドモ、ホノヲト云、烟ト云ガ如シ、又一年トイヘバ、春夏秋冬土用コモレルゴトシ、一心ノ内ニ五常モソノ外ヨロヅ

ノ理コモレル也、又喜怒哀懼愛惡欲ノ七情トテ七ツノ心アリ、此七ツモ本ヨリ一心ニソナハルトイヘドモ、其念ノヲコル處ヲヨクアキラカニスベシ、道理ニカナヒテヨロコブベキ時ハヨロコビ、イカルベキ時ハイカリ、悲ムベキ時ハカナシミ、懼ルベキ時ハヲソレ、イトヲシムベキ時ハイトヲシミ、ニクムベキ時ハニクミ、欲スベキ時ハホツスベシ、イトヲシムトハカハユガル義也、欲トハチガヒ思フ義也、此七情ハ聖人ニモアリ、其外ノ人ハ云ニヲヨバズ、ナクテハカナハヌ也、ヨク理ニアタリテ七情ヲ用フベシ、七情ノ念ヲコラザルサキハ、一心平ニシテ明ニスル事、青天虛空ノ如シ、虛空物ナシトイヘドモ、風雨雲霧雷電スル事アリ、是ヲ七情ノヲコルニタトフ、天氣ハルレバ又本ノ青天ニテ、虛空ニサ、ハリナシ、七情ノ念ヲサマル時ハ、又一心常ノ如、シヅカニ平ニシテ心ノサ、ハリトナスベカラズ、是聖人賢人ノヨロコブベキ時ハ、悦ビ怒ルベキ時ハイカリテ、ヨク七情ヲ用フルノ工夫也、常ノ人ハシカラズ、私ニヲホハレ、欲ニカ、ハリテ、ヨロコブマジキ時ニ悦ビ、怒ルマジキ時ニイカリ、悲マ

ジキ時ニカナシミ、懼マジキ時ニヲソレ、愛スマジキ時ニアイシ、惡ムマジキ時ニニクミ、チガフマジキヲチガヒテ、心ノワヅラヒトナシ、義理ニソムキ、僻事スル故ニ、此七情皆惡事ト成ナリ、尤イマシムベシ、凡天地ノ間ニ生ル、者、皆陰陽五行ヲウクル也、其氣ニ不同アルユヘニ、草木アリ、鳥獸アリ、人倫アリ、草木ハサカサマニ生レテ、根ヲカシラトシ、枝ヲ末トス、鳥獸ハヨコサマニ生レテ、横ニ走リアリクナリ、人ハ正氣ヲウケタルユヘニ、カシラノマルキハ、天ノ圓ニカタドリ、足ノケタルハ地ノ形ニカタドリ、兩眼ハ日月ニカタドリ、頂ノ百會ハ北斗ノ星ニカタドリ、五臟モ五ツノユビモ、五行ニカタドル、五行ハ木火土金水ヲ云也、天地ノ間ニイキトシイケルモノ、人ヨリ貴キモノハナシ、去レバ其心中ニ萬物ノ理ヲソナヘテ、天地ノ氣ヲソノ氣トシ、天地ノ心ヲ其心トシテ、道理ト心ト一ツニシテカハリナシ、此心アキラカニシテ、思フ所モ、云フ所モ、行フ所モ、クラカラヌヲ、明德ヲ明ニスト云也、シカルヲ利欲ニヲボレテ私アルモノハ、此明德ヲクラマス也、ソレヲ明ニセン事ハ、欲スク

ナク私ヲヤメテ、道理ニシタガヘト也、タトヘクラ
キモノナリトモ、其本心ニ明德ナキニアラズ、タト
ヘバ天氣アシクシテ雲霧アレバ、日月ノ光ヲミズ
トモ、スコシノハレマヨリ、日月ノヒカリヲミルゴ
トク、人ノ明德ハイカナル人ニモ本ヨリ有テ、ホロ
ビザルモノ也、ソレヲ明カニスルト、クラクスルト
ハ、人ニヨリテノ事ナレバ、明德ノトガニアラズ、
此明德ヲ明ニスルヲ、大學第一ノヲシヘトス、大學
ノミニアラズ、論語孟子五經モ皆此理ヲノベタリ、
或ハ眼ニ見テ欲ヲ發シ、耳ニ聞テ聲ニマドイ、口ニ
味ヲ子ガヒ、鼻ニニホヒヲ求メ、身ニフレ形ノウゴ
クニシタカビ、道理ヲソムケバ必ず明德ヲソコナ
フ也、此明德ヲ吾身ニヨクアキラカニシテ、其上ニ
人ヲモラシヘサトラシムルヲ親民ト云ナリ、今マ
デ私欲ニケガレテ、久シクフルク、キタナキヲス、
ギアライテ、アタラシクナス故ニ、民ヲアラタニス
ト云ナリ、身ノアカヲアライキヨムル如ク、ケフモ
湯アビ、アスモ湯アビ、毎日ヲモテヲ洗ヒ、手水ヲ
ツカウゴトクニ、心ノセンダクヲスレバ、私欲サリ
テキヨクナルヲ、アラタニスト云也、是モ元來ナキ

モノヲカクスルニハアラズ、今マデ明德ヲサトラ
ザル者ニ、吾ゴトク明ラカニセシムル事也、タトヘ
バ子イリタルヲ其モノ、名ヲヨビサマセバ、ソノ
名ノ元來アル故ニ、キ、テ目ヲサマス也、明德ヲク
ラマシテ、物欲ニヲボレテイルヲ、人ノ明德コソソ
レヨトヲシヘシメテ、明ラカニスルホドニ、クラキ
ハアキラカニナリ、ケガレタルハイサギヨクナリ、
フルキハアタラシクナル也、是親民ノ義也、明德ヲ
明ニスルハ、吾身ヲ治ル也、親民ハ人ヲ治ルナリ、
大學ハ身ヲ治メ人ヲ治ル、是二ツヲカンヨウトス
ル也、天下ヒロシトイヘドモ、人倫ヲホシト云ヘド
モ、身ヲサムルト人ヲサムルトノ、二ツニスグ
ル事ナシ、親ニヨク孝ヲツクシテ、人ノ子ニ孝ヲセ
ヨトヲシヘ、君ニヨク忠ヲイタシテハウバイニモ
ホウコウセヨトス、メ、我身善ヲナシテ人ニモ善
ヲセヨトミチビクタグヒハ、親民ノ次第也、サテ明
德ヲアキラカニスルニモ、親民ニモ、ヲノヅカラ
サダマレルコトハリアル處ヲ至善トイフ也、惣ジ
テ理ト云モノハ、至極ノ善ニ少モアシキ事ナキユ
ヘニ、理ヲ名ケテ至善トス、道理ト善トハ一ツ也、

吾ガ親ニ孝ヲセンニ十分ニナスト思フトモ、ソレヨリマシテヨキ孝アラバイヨ／＼ナスベシ、君ニツカヘテ十分ニ忠ヲツクスト思フトモ、ソレヨリマシテヨキ忠アラバ、ナヲ／＼奉公ヲツトムベシ、仁義禮智ヲナサンニモ、又如此シ、仁義ニモ大小輕重淺深アラン時ハ、小ヲステ、大ニツキ、カルキヲステ、ヲモキニツキ、アサキヲステ、フカキニツクベシ、イヅレモソレ／＼ノ道理ニカナヒテ、至極スル所ヲ至善ニトドマルト云ナリ、大事小事ニツイテ、毎日人ノ行フ所、萬事ニワタリテ、至善ノ道理アラズト云事ナシ、衣ヲキルニモ物ヲクウニモ、物ヲ云ニモ身ノヲコナヒニモ、立ニモイルニモ、晝夜朝暮ミナ此道理アリ、其理ノキハメニイタルヲ、至善ニトドマルト云也、明德ハ吾心ヲアキラカニシテ、身ヲ治ル根本也、サテソノ、チニ人ヲヲシヘミチビキテ善ニヒキ人ヲ親民ト云、民トハ一切ノ人ヲ云ナリ、農人ヲ云ニハアラズ、吾身ヲオサムルモ、人ヲオサムルモ、道理ニカナフトコロニイタルヲ、至善トイフ、此明德親民至善ヲ大學ノ三綱領ト申ス也、三ツノカンヨウナリト云義也、堯舜ハ此德

ヲアキラカニシテ、天下ヲオサメ、殷湯王ハ此德ヲアキラカニシテ、天下ヲトリ、周文王ハ此德ヲアキラカニシテ、天下ヲマモル、イヅレモミナワレトミヅカラアキラカニシテ、心ヲタダシクセルナリ、是明德ハ心ノ外ニアラズシテ、モトヨリ吾心ニソナハレル故也、仁義禮智信ヲワケテイハバ仁トハ、人ノ心ニ生レエタル德ニシテ、物ヲ愛スルコトハザナリ、二歳三歳ノヲサナキ子、誰ノシユル事ナケレドモ父母ヲミテニツコト笑フハ、生レナガラ仁ヲソナヘタル故也、又イカナルモノモ、ミドリ子ノ井ヘヲチナントスルヲ見テハ、アハレト思ハヌ事ナシ、其子ヲモトヨリシリタルニアラズ、其ノ子ノ親ヲシリタルニモアラズ、タダナニトナクヲノヅカラ、アレヤ、井ヘヲチン事ハ、アハレト思フ也、是私ナク吾心マツスグニ物ヲアハレミ、アイスル處也、是ノミナラズ、草木ノシゲクサカユルヲ見テハ、ヲモシロク思フ、ソノカレヲル、ヲミテハヲシミ、鳥獸ノトビカケルヲ見テハナグサミ、其死ヲ見テハアハレムモ仁也、此心ヲヒロクヨロヅニヲシヒロメテ、用ル時ハ萬民ヲ愛セズト云事ナシ、人ヲアハ

レミ人ヲ愛スル内ニハ、先父母ヲアイスルヲサキ
トスルユヘニ、孝行モ仁ノ内ニアリ、父母ヲ愛シテ
ノチニ、妻子兄弟ヲアイシ、其後ニ一族ヲ愛シ、ソ
ノ、チ萬民ヲ愛シ、其上ニ鳥獸草木ヲモ愛スル也、
是仁ヲオシヒロムルノ次第也、心ヲ目ニミヘズト
イヘドモ、春ノハジメヨリヨロヅノ物ヲ生ズル處
ニテ、天地ノ心ヲシルナリ、人ノ心モ天地ノ心ト一
體ナレバ、ソノ心ノイキハタラクテ、廣大ニシテ私
モナクヨクモナクシテ、物ヲソコナヒヤブラヌヲ、
仁ノ道トス、

一義トハ、人ノ心ニ思ヒキル所也、時ニ隨ヒ、事ニシ
タガヒテヨロシキヲ云フ也、人ノ命ハラシキモノ
ナレドモ、吾ム子ニアタハヌ時ハ、一ハイノ食物ヲ
モウケズシテカツヘ死、一衣ヲウケズシテコゴヘ
死、是ハウケテイキンカ、ウケズシテシナンカト、二
ツノ間ヲ思フトキハ、ウケテイキンヨリハ、ウケズ
シテ死ルガマサレルコトハリアレバ也、又軍陣ニ
ノゾミテ、イサミタ、カヘバ必ズ死ス、ニグレバシ
ナズ、カ、ランカ、ヒカンカト思フ處ニ死スベキト
キナラバ、ス、ミテウチ死スルヲヨシトス、是ミナ

義ナリ、又吾身ニヒガ事アルヲ、ハチヲソレテハヤ
クアラタメテ善ヲスルモ義ナリ、人ノ身ニ惡事ア
ルヲニクミテキライテ、其惡ヲシリゾケスツルモ
義ナリ、又君ニツカヘテ忠ヲスルモ義ナリ、友ダチ
ニマジハリテ、互ニ異見スルモ義也、其友ダチアシ
キ事アルヲイサムレドモ、キカザルトキハ、ナカラ
ウタガウモ義也、此義ノ心ヲ天下ノ人ニラシヒロ
メルトキハ、人皆善ニス、ミテ惡ヲセズ、臣トシテ
君ヲウヤマイ、下トシテ上ヲアガメテ、國ノ風俗ヲ
ノヅカラアシキコトナシ、

一禮トハ人ニツ、シミアリテ、事ノ次第ノ亂レザル
ヲ云也、若キハ老タルヲウヤマヒ、イヤシキハ位タ
カキヲタツトブ禮也、坐シキニテハ人ヨリ下ニヲ
リ、ミナユク時ハ人ヨリアトニアユムモ禮也、官位
ノ品々ニシタガイテ、冠裝束ノカハリアルモ禮也、
元服シ、ヨメラムカヘ、ムコヲトリ、ソノ作法アル
モ禮ナリ、葬禮ヲヲコナヒ、祭ヲスルニ其義式アル
モ禮也、是ミナ人間ノヲコナフクサニシテ其コト
ハリハ、人ノ心ノ中次第ソナハル處ヨリイデタリ、
又我ガタメニ勝手ナル事ヲバ辭退シテ、人ノタメ

ニヨキ事ヲバ人ニアタフルモ禮也、天ハ上ニアリ地ハ下ニアルハ天地ノ禮也、此天地ノ禮ヲ人ムマレナガラ心ニエタルモノナレバ、萬事ニ付テ上下前後ノ次第アリ、此心ヲ天地ニラシヒロムレバ、君臣上下人間ミダルベカラズ、

一 智トハ人ノ心ノ鏡ニシテ、明カニサトリシルコトハリヲ云也、タレニナラハチドモ生レツキテ、目アレバ色ヲミ、耳アレバ聲ヲキクモ智也、我身ノイダキ、カユキヲオボユルモ智也、水ト湯トヲノミ、ヒヘタルトアツキトヲシルモ智ナリ、善ト惡トヲ分別シ、是ト非トヲワキマヘ、スグナルトマガレルトヲワカツモ智也、ヨロヅノコトハリヲキハメントナラバ、天ハ何ユヘニタカキゾ、地ハ何ユヘニアツキゾ、火ハ何ユヘニ物ヲヤクゾ、水ハ何ユヘニ物ヲヌラスゾ、晝ハ何ユヘニアカキゾ、夜ハ何ユヘニクラキゾ、人イケルハ何ユヘゾ、死ルハ何ユヘゾ、親ニ孝ヲスルハ何ユヘゾ、親ノ子ヲ思フハ何ユヘゾ、ナンド思フ時ニミナ自然ノコトハリアリ、ソノコトハリヲコトハクキハメシル時ハ、萬物シナル多シトイヘドモ、其コトハリト人ノ心ト又元來一

ツ也、一ツノ理ヲミナキワムレバ、ヨロヅノ理カヨイテ不同ナシ、此コトハリニカナフヲ善トシ、此理ニタガウヲ惡トス、此理アキラカナレバ善惡ヲノヅカラシル也、ヨク善惡ヲシリキワメテ善トシテ、惡ヲセヌヲ智トス、

一 信トハ、人ノ心イツワリナクシテ、定リタルコトワリナリ、右ノ仁ト義ト禮ト智トノ四ツナガラ、皆眞實ノコトワリニシテ行フトコロ、身モ心モ僞リナキヲ信トス、タトヘバ一年ノ内ニテイハバ、仁ハ春也、義ハ秋也、禮ハ夏也、智ハ冬也、信ハ土用也、四季トモニ十八日ヅツ土用アル如クニ、仁ニモ義ニモ禮ニモ智ニモ信アルナリ、又方角ニテイハバ、仁ハ東方、義ハ西方、禮ハ南、智ハ北方、信ハ中央也、人ノ身ハ家ノ如シ、心ハ主人ノ如シ、心ニカタチナクシテ手ニトリガタキユヘニ、信ヲ以テ心ノ主トス、ヲヨソ天地ノ間イヅレカ信ナラザラン、二百六十日ヲ一年トシテ、春アタ、カニ夏アツク、秋スズシク、冬サムク、日月ノ出入晝夜ノカハリ、古モ今モミナ僞ナシ、草木ノタチヲウユレバ、草木ヲ生ジ、鳥獸ハ又鳥獸ヲウミ、人ハ又人ヲウム、鳥ハソラヲ

カケリ、獸ハ野山ヲハシリ、魚ハ水ニスム、是又イツハリナシ、ツラノヨロヅノ物ヲミルニ、一ツトシテ眞實ノ理ニアラズト云事ナシ、此眞實ノ理ヲ大極ト名ヅケテ、天地ヒラケヌサキヨリ、天地ノヲハリニイタルマデ、常ニアルモノヲ、人ノ心ニウケエテ、眞實ノ理トシテ、ウシナハザルヲ信トス、

右ノ仁義禮智信、五ノ名アリトイヘドモ只一心ナリ、心ハ人ノ身ニソナワルトイヘドモ、手ニトルヤウニヲシヘシメガタキユヘニ、此五ツノ名ヲタテテヲシヘトスル也、喜怒哀懼愛惡欲ヲワケテイハバ凡ソ人ノ心ハ廣大ニシテカギリナシ、天ノ如ク虛空ノ如シ、千年萬年ノ久シキ、昔ヲ思フモ心ナリ、千里萬里ノ遠キ所ヲ思フモ心也、アラユルヨロヅノ物ノ理ヲシルモ心ナリ、如此廣大ナレドモ、人ノ身ニソナハリテ、外ニアラズ、此心一念モヲコラザルサキハ、シヅカニタダシク、平ニシテアキラカナリ、ヨロゴフベキコトキタレバ、スナハチヨロコビ、イカルベキコトイタレバ、スナハチイカリ、カナシムベキ事アレバスナハチカナシミ、ヲソルベ

キトキハスナハチヲソレ、アイスベキモノヲパスナハチアイシ、ニクムベキモノヲパスナハチニクミ、チガイノズムベキ事ナラバスナハチチガウ、コレ人ノコ、ロノ用ナリ、又父母兄弟妻子以下マデ、ナニゴトナクメデタキヲタノシムハ喜也、又善ヲシテ惡ヲセヌ事ヲ好ムモ喜也、國家ヲサマリ天下タイラカナルヲイハフモ喜也、此類ハヨロコブベキノ道理ナリ、若人ノクルシム事ヲヨロコビ、アルイハ吾身ニ惡ヲスル事ヲコノミナンドスルハ、皆道理ニソムキテヨロコブナリ、ヨロコブベキ道ニ非ズ、惡人ヲノゾキ、小人ヲシリヅケ、盜賊ヲコロシ、謀叛野心ヲスルモノヲ誅罰シ、罪アル者ヲ法ニヲコナフ類ハ、ミナ怒ベキ道理ナリ、若罪ナキ者ヲ罪ニヲコナヒ、イケン敎訓スル事ヲ腹立スルハ、怒ルベキ道ニアラズ、又怒ヲタクバヘテ咎ナキ人ニムカヒテ、ナヲモ怒ルハイカルベキ理ニ非ズ、人ノ病アルヲアハレミ、人ノ死ルヲイタミ、諸人ノメイワクスルヲウレフルハ、カナシムベキノ道理也、盜賊ヲアハレミ、惡人ノホロブルヲイタミ思フハ、鼠ノシヌルヲガナシムガゴトシ、悲ムベキ道ニ非ズ、

臣トシテハ君ヲオソレ、子トシテハ父ヲオソレ、君トシテハ天道ヲオソレナンドスルハヲソルベキ道理也、懼^ケトハ臆スルヲ云ニハアラズ、大事也トツ、シミテ思フヲ云也、我身ニ僻事アランカトヲモヒ、アヤマチアランカトヲモヒ、事ヲオコナハンニケガノアランカトヲモフハ、皆ヲソルベキ道理也、若軍陣ニノゾミテ義ヲ以テ死テカナハザル所ヲオソレ、惡ヲシテ其事ノ成就セマジキ事ヲオソル、タグイハ、道理ニアラズ、

父母ヲ愛シ、主人ヲシタイ、賢人君子ヲナツカシクヲモイ、妻子兄弟ヲムツマシクスルハ、愛スベキノ道理也、若小人ヲシタシミ、惡人ヲナツケントスルハ、愛スベキ道ニアラズ、我トマジハルモノニハ、ワルキモノニテモヒイキラシ、我子ノアシキコトハ親ノ目ニミヘヌ類ハ、理ニソムキテ愛スル也、愛スベキ道ニアラズ、惡ヲニクミ無禮不義ヲニクミ、不孝不忠ヲニクミ、無道ヲニクミ、イツハリヲニクムハ、ミナニクムベキ道也、ヨキ事ヲニクミ、賢人ヲニクミ、我ガ爲ニ私ノウラミアレバ、善人ヲモニクミ、又我ヨリマサレル智藝能アル者ヲソ子ミ子タ

ムハ、皆是理ニソムキテ、ニクム也、欲トハ子ガイヲモフ心也、人ノ子ガフテナル事トナラヌ事トノ二ノ道アリ、親ニ孝ヲセント子ガイ、君ニ忠ヲセント子ガフハ、イカホドモナル事也、善ヲセント子ガヒ惡ヲセヌヤウト子ガヒ、仁義ヲセント子ガヒ、僞ライハヌヤウニト子ガフハ、子ガフテイカホドモナル事也、是子ガヒ思フベキ道理也、若生レツカヌ富貴ヲ子ガヒ、生レツカヌ壽命ヲ子ガヒナンドスルハ子ガフベキ理ニアラズ、其生レツク所モトヨリサダメレル天命ナレバ、ノゾムトモカナイガタシ、ダトヘバ、タケヒキ、モノ、タケタカクナラントシ、ミメアシキ人ノミメヨクナラントシ、ヤセタルモノ、俄ニコエントスルガ如シ、子ガフトモカナフベカラズ、ナラヌ子ガヒヲクワダテ、カナハヌノゾミヲナスハ、惡人愚人ノワザナルユヘニ、アラヌ事ヲヲモイカケテ、僻事ヲシ罪ヲツクリテ、ソノハテハ身ヲホロボスナリ、是皆子ガウマジキ道理ナル故也、

右ノ喜怒哀懼愛惡欲ノ七情ハ、心ノ用ニシテ、モトヨリナクテカナハヌモノナレドモ、七ツノ内一ツ

ナリトモ、理ニソムキテナス時ハ、本心ノサ、ハリ
トナリテ、心カナラズタダシカラザルナリ、心タダ
シカラチバ、身モヲサマラズ、身ヲサマラチバ、國
家モヲサマラズ、此七情ヨク理ニ叶ヒテ用ル時ハ、
一心ノ本體ヲノヅカラタダシクアキラカ也、心タ
ダシケレバ身ヲサマル、身ヲサマレバ家ヲサマル、
家ヲサマレバ國ヲサマル、國ヲサマレバ天下アキ
ラカナリ、サレバ聖人ノ道ハ其心ヲタダシクスル
ヲ根本トス、此タダシクアキラカナル心ヲ名ヅケ
テ、明德ト云ナリ、

視聽言動ト云事アリ、目ニ見ルト、耳ニキクト、口
ニモノ云フト、身ノウゴキハタラクトノ四ツヲ云
ナリ、此四ツハ形ニアラハル、モノナリ、上ノ五常
ト七情トハ心ノ中ヨリ出ルモノナリ、ヨク心ノ中
ヲサメテ、又外ノ形ヲモ必ズ正シクスベシ、是心
ト形トヲサムルノ道也、目ニアシキ色ヲ見ズ、耳
ニアシキ聲ヲキカズ、非禮非義ナル事ヲキカズ口
ニアシキ事ヲイハズ、邪ナル事ヲイハズ、イツハリ
ヲイハズ、身ニアシキハタラキヲセズ、ミダレガハ
シキ事ヲオコナハズ、是理ニカナヒテ、視聽言動ス

ルナリ、目ニアシキ事ヲミ、耳ニ邪ナル聲ヲキ、
口ニウソヲイ、身ニワルキ行ヒアルハ、皆理ニソ
ムキテ視聽言動スルナリ、動ト云ニモロノヲ
コナヒハコモレリ、手足ノハタラキモ身ノタチイ
スルモミナ是ナリ、若生レツキテ形ノアル者ナレ
バ、目ハミルガヤク、耳ハキクガヤク、口ハイフガ
ヤクナリトテ、善惡ヲエラバズ、道理ト無理トヲ論
ゼズ、是非ヲワキマエズ、只我マ、ニ見ツ、キイツ、
イフツ、行ヒツセンハ、耳口ノ道理ニアラズ、如レ此
セン人ハ、形モ心モ亂レテ、盜ミ惡事ヲシテ、必罪
ツクルベキ也、タトヘバ火ハモノヲヤクモノ也、モ
ノヲニツ、ヤイツセンタメニ、カマド爐中ニモユル
ハ、火ノ道理也、家ヲヤキ、財寶ヲヤカンハ、火ノ道
理ニアラズ、刀ハモノヲキルモノナリ、惡人盜賊ヲ
キリ、大逆無道ノ敵ヲキルハ、刀ノ道理也、善人ヲ
コロシ、罪ナキモノヲキルハ、刀ノ道理ニアラズ、此
タトヘノ如ク、見ルベク、キクベク、イフベク、ウゴ
クベキノ道理アリ、又見ルベカラズキクベカラズ、
イフベカラズ、ウゴクベカラザルノ道理アリ、ヨク
此義ヲ分別スベシ、若シ又萬事ニツイテ、ミザレ、

キカザレ、イハザレ、ウゴカザレト云テ、目アレド
 モメクラノ如ク、耳アレドモツンボノゴトク、口ア
 レドモヲシノ如ク、形アレドモ木像ノゴトクニシ
 テ、タダ我心バカリヲヨクサトランナンド云ハ、オ
 ホキナル僻事ナリ、必ズ人ヲアヤマルベシ、タトヘ
 バ鏡ヲウラガヘシテ物ノ形ヲ見ントスルガ如シ、
 イカンゾ其影ヲモ色ヲモウツサンヤ、イカンゾ其
 心バカリヲ守テ萬ヅノコトハリニ通ゼンヤ、サレ
 バ聖人ノ道ハ見ルベキヲバミテ、ミマジキ事ヲバ
 ミズ、キクベキ事ヲバキ、テ、キクマジキ事ヲキカ
 ズ、云フベキ事ヲバイヒテ、云フマジキ事ヲバイハ
 ズ、一ツモ道理ニタガフ事ナシ、故ニイフベキ事ヲ
 イハザルモ、云フマジキコトヲ云フモ、ナスベキ事
 ヲナサザルモ、スマジキコトヲスルモ、ミルベキ事
 ヲミザルモ、ミマジキ事ヲミルモ、キクベキ事ヲキ
 カザルモ、キクマジキ事ヲキクモ、ミナ道理ニソム
 キテ、非禮トナルナリ、是故ニ心ノ中ニアル五常七
 情ヲ、ヨクオサメタダシクシテ、外ノ形ニアラハル
 ル、視聽言動ヲコマカニツ、シムヲ、聖賢ノ學問ト
 シテ、我身ヲ治メ人ヲモヲサメ、國家ヲモヲサムル

敵戒說

民部卿法印 林道春夕顏巷

或人舉敵戒二字請余爲之說、雖未詳其所攢、而參之武書、則有虞氏戒於國中者、大司馬法制之所據也、三軍以戒爲固者太公望教也、由不虞之道攻其所不戒、安國家之道以戒爲寶、戒者雖克如始戰、皆是孫吳法也、故知亂生於治、危生於安、而常能戒預自警、則國家可永、有其備則諸侯受命、故曰天子無敵、有其道則百姓心服、故云仁者無敵、所謂道者即是仁義也、若夫不仁不義則親戚叛之、肘腋之變可畏也、所謂舟中之人皆爲敵國、亦此意也、不可不戒也、若就日用之際、推類言之、高縣之內爛不知厭、而青州之援兵來叛爲寇、即是腐腸之潰也、噬臍不及也、專諸之蔽肉蘭京之膳盤、不可不懼乎、西子乳之鑊鉶魚之乙、鳧雁之翠、鵲之胖、雞之肝、鹿之胃、可不慎乎、尋常飲食尙且飽傷則有恙、況如此者乎、凶賊之饗饗誠可憎焉、一金兩戈是人之

所爭取也、爲政者雖不可不貯儲、而鉅橋鹿臺瓊林大盈禍于其身、困于其民、而無益于國、何不致思乎、夫飲食男女人之大欲存焉、於是而有禮有法、然蛾眉之斧嬋娟之刃、劇於殘賊、是古人所以有酒味色之諫也、且風寒暑濕之浸於外、淫於內、則生疾病、故以敵國喻疥癬與腹心、若能禁之、則國之無憂患、猶身之無疾病、謂之醫國、故常不忘其教戒、則何敵之有、孟子不曰乎、入則無法家拂士、出則無敵國外患、者國恒亡、是以有敵戒、則竟至于可以無敵、文章亦然、李白萬夫之雄、青萍之價不可謂無戒也、所以杜甫稱白也詩無敵也、蘇洵讀書慶戰一陣、方其下筆屬文也、所以下以歐公稱之曰似荀況也、若無其戒、則學奕者射鴻鵠之類也、不可必進、凡百枝藝終身不可成焉、就此兩字以小推大、以大喻小、丁寧反覆既如此、豈唯軍政而已哉、呂藍田作克己銘曰、昔爲寇讎、今則臣僕、是克私欲之寇讎、而復天理之本然、則道心爲帥而人心每聽命、豈有不服之敵哉、嗚呼克己是爲仁、仁者無敵、再三言之、書曰、戒哉、做戒無虞、罔失法度、惟夫戒之嚴哉、而今依請其喻說、遂擴

柳子厚之所_レ不足耳、

同和抄

敵戒トイフ事ヲトキノベヨトアリケレバ、其ノ廣キ事ヲバシラザレドモ、兵書ニ考ルニ帝舜ノ世、太平ノ時ニ國中ニイマシムトイヘリ、戒トハ用心油斷ナキ事ナリ、惡キ事ナキヤウニト、教ルモイマシメナリ、此ノ心ヲウケテ、周ノ武王周公ノ大司馬ノ軍法ニ證據トスル所ナリ、大軍ニ戒ヲ以テカタメトスルコトハ太公望ガヲシヘナリ、敵ノヲモイヨラザル所ハ、イマシメナキ所ナリ、ソコヲセムルハ孫子ガ法ナリ、國ヲヤスンジ家ヲヤスンズル道ハ戒ヲ以テ實トス、敵ニ勝トイヘドモ、ハジメテ戰ヒニ望ガ如クスルヲイマシメストスルハ吳子ガ術ナリ、コノ故ニ亂ハ治ヨリナリ、アヤウキ事ハヤスキヨリナル事ヲシリテ、常ニ兼テ能イマシムルトキハ國家長久ナリ、主君其ソナヘアル時ハ、諸侯其命ヲウク、故ニ天子ハ無_レ敵ト云ヘリ、又ソノ道アル時ハ萬民皆心カラ歸服ス、故ニ仁者ハ無_レ敵ト云ヘリ、ソノ道ト云ハ則仁義ナリ、若

シ不仁義ナル時ハ親類タリトイヘドモ叛キタガフ、故況ヤ他人敵國ヲヤ、一座ノ内遊興ノ間ニテモ不慮ノコトアルベシ、イマシムベキ事ナリ、昔シ魏國ノ君、舟ニ乗テ其國ノ要害ヨキ事ヲホコリケレバ、吳子コレヲ聞テ君モシ無道ナラバ、此船中ノ人皆敵トナラント云フトキ、君ゲニモトラモヘリ、コレニヨリテ國ヲヨクタモテリ、若毎日ノ事ニツイテタトヘテ云バ、鬲縣ノ酒、ム子ニシメドモ猶アク事ナクシテ、青州ノ酒臍ノ下エトホリテ肉ヲソコナウ、後悔スレドモ及ガタシ、酒ハウマクシテヨロコビアレドモ、過レバ必ズ敵トナル、鬲縣ハ胸ニトドコラル酒ナリ、青州ハ臍下エトドクヨキ酒ナリ、酒ノミニアラズ、專諸ガ大ニキリタル肉ノ内蘭京ガ配膳ノ下、皆刀ヲカクシ置テ人ヲ殺ス事アリ、西子乳ノ鎡鄒トハ河豚ノ調味アシケレバ、ノンドニ入テ鎡鄒トナルト、梅聖俞ガ詩ニ作レリ、鎡鄒ハ劍ノ名ナリ、西子乳ハ河豚ノコトナリ、其外魚鳥獸ウマキ味アルモ、スグレバ必タ、リアリ、況ヤ品々ノ毒甚キモノヲヤ、古ノ惡人寶ラムサボリ食物ラムサボルモノヲ饗^{タウデツ}餐ト名付テ大賊トス、然バ飲食モ敵トナル事アリ、一金兩戈ハ錢ノ事ナリ、人

人ノホシガルモノナレバ必ズアラソウ處アリ、コノ故ニ金篇ニ、フタツノ戈アリ、コレ錢ノ字ノカタチナリ金ヲトラント兩人戈ヲ持テ爭フ形チナリ、コレヲ一金兩戈ト云フナリ、錢ノコトヲ云ヘバ金銀財寶ヲ兼ヌルナリ、政ヲスルモノ財寶ナクテハカナワズ、其タクワフルニ分限アルベシ、甚シク多クアツメテ、殷ノ紂ガ天下ノ財寶米穀ヲ、鉅橋鹿臺ノ大キナル藏ニ納メタリシモ武王ノタメニホロボサル、唐ノ德宗ノ瓊林大盈ノ藏ニ、アラユル粟ヲタクワヘヲキタリシモ、天下ノ亂ヲスクフ事アタワズ空シク民ヲ苦シメ、イタヅラニ國ニ益ナクシテ、終ニソノ身ニワザワイアリ、イマシムベキ事ナリ、禮記ニイヘル意ハ飲食ト男女ノ道トハ、人々ノ欲ニテ皆ナクテハカナワヌ事ナリ、爰ニ禮アリ法アリテ用ユル道アリ、然ドモ色コノムモノハ、ツ、シミナシ、カホヨキ蛾眉ノ一物ヲ切テヤブル、ヲノマサカリノゴトク、ウルワシキ嬋娟ハモノヲツキサク及ノ如シ、イカンゾ人ノ心ヲソコナハザラン、蛾眉嬋娟ハ美女ノ形ヲ云ナリ、魯國ノ君ノ酒ト味ト色トヲ以テ楚國ノ王ヲ諫タル事ハ此ユヘナリ、然バ財寶モ色モ皆敵トナル事アリ、又風ニアタリ

寒ニヲカサレ暑氣溫氣ニフレテ外ヲヤブル時ハ、必ズ内ニシミ入テ病ヲ受ク、故ニ敵ヲ以テ疥癬ト腹心ノ疾トニタトフ、疥癬ハ小瘡ノ類ナリ、小敵ノヨワキニタトフ、腹心ノ疾ハ深シテ平愈シガタキユヘニ大敵ニタトフ、無事ノ時コレヲイマシムレバ國ノ患ナキ事身ニ病ナキガゴトシ、コレヲ醫スト云フナリ、又國治リテ長久ナルヲ國ヲモ醫ストイフ、此戒ヲスレザレバ、何ノ敵トイフ事カアランヤ、司馬溫公宰相トナリテ政ヲスルヲ、人參甘草ノゴトシトホメタルハ國ヲ醫ス故ナリ、サレバ張良ガ忠言耳ニサカフヲ良藥ニタトヘタリ、孟子ニ國ノ内ニ法家拂士ナク、外ニ敵國ノ患ナケレバソノ國亡ブトイヘリ、法家ハ禮法ヲ守ル大臣ノ事ナリ、拂士ハ君ノ心ヲタダシテヒガ事ナキヤウニ諫ムル臣ナリ、如此常ニ敵ノイマシメアル時ハ、果シテイマシメナカルベキニイタル、學問モ文字モ又同クカクノゴトシハ、唐李白千萬人ノ英雄タルベキ志アリテ用ラレバ、青萍ノ劍ノ價ヲマスベキイマシメアルニヨリテ、杜子美コレヲホメテ、李白ガ詩ニハ無レ敵云ヘリ、東坡ガ父蘇洵書ヲ讀學事始終本末内外縱橫ヨク通ズル事、タトヘバ合戰シテ敵

一人モ殘ズ一度ニ討チ亡スガコトシ、コレヲ慶戰一
陣ト云ヘリ、故ニ蘇洵ガ文章作ルヲ、歐陽公コレヲ見
テ苟況ガ文ニ似タリト云ヘリ、苟況ハ古ノ才智アル
人ナリ、若戒ナキ時ハ其道ス、ムベカラズ、昔二人奕
ヲ學ブモノアリ、一人ハ師ニシタガヒテ專ラツトメ
ケレバ上手トナル、一人ハ鴻鵠ノ飛ヲ見テ弓ヲヒク
此ヲ射ントヲモフ、奕ヲ習ノイマシメナシ、奕ハ圍碁
ノ事ナリ、奕ニカギラズ鴻鵠ヲ射ント思フ心アラバ、
譬諸藝ヲ學ブトイフトモ一生ノ間、成就スベカラズ、
敵戒ノ二字ニツイテ、小ヨリ大ヲ推ヒロメ、大ヨリ小
ニタトヘクラベテ念比ニクリカヘシイフ事既ニカク
ノゴトシ、何ゾ軍法ノミナランヤ、宋朝ノ呂藍田ト云
ヘル名儒、克己ノ銘ヲ作リテ、昔爲ニ寇讎今則臣僕ト
イヘリ、寇讎ハアダカタキノ事ナリ、臣僕ハツカヒモ
ノ、事ナリ、私欲ヲ寇讎ニタトフ、ヲノレガ私欲ノア
ダニカチテ天理自然ノ根本ニカヘル時ハ、道心則主
トナリテ人心其命ニシタガフ、命ニシタガフモノハ
臣僕ナリ、己ハ我欲ナリ、私欲ヲ斷然スル事敵ニ勝、
敵ヲ亡シテ亂ヲ治ルニタトフ、何ゾ歸服セザル敵ア
ランヤ、己ニ克ハ仁ヲスルナリ、此故ニ仁者ハ敵ナシ

ト云フコトヲ再三コレヲ云ナリ、尙書ニイマシメヨ
ヤ無虞ヲイマシメテ、法度ヲ失フ事ナカレト云ヘリ、
無虞ハハカルコトナシトヨメリ、不慮ノ義ナリ、何時
何事カ俄ニアランモハカリガタキヲイフナリ、此ヲ
戒テ國家ノ法度ヲ失フ事ナカレトナリ、誠ニ此戒ノ
義尤モヲゴソカナル事ナリ、今ソノタトヘヲ以テト
カン事ヲ請フニヨリテ、柳子厚ガ敵戒文ノタラザル
處ヲ推廣ムト云云、

林 道春

敵戒說

弘文院林學士春齋 向陽軒

敵者何^{ナニ}相當也、戒者何^{ナニ}警^{スル}慎^{イカントカ}也、何爲揭^{スル}此二字、曰、有^レ說^ニ于此、曰、其說以爲^レ何、曰、蔓草不^レ可^レ除、蜂蠆有^レ毒、困獸猶鬪、況於^レ人乎、愚夫愚婦能勝^レ予、況於^ニ相當者乎、不^レ可^レ不^レ戒焉、其所^レ敵在^レ彼、其所^レ戒在^レ此也、不^レ戒則爲^レ彼被^レ覬^{ウカガハ}、戒^レ之則雖^ニ千萬人^一吾往矣、凡人隨^レ時知^レ戒、則以^レ理勝^レ之、不^レ然則爲^ニ血氣所^レ使也、周郎之向^ニ赤壁^一、其年猶少、忽立^ニ捷功^一、然惑^ニ于小喬^一、所謂血氣未^レ定戒^レ之在^レ色也、關羽之鎮^ニ荊州^一、壯而有^レ威、然擒^ニ于呂蒙^一、所謂血氣方剛戒^レ之在^レ鬪也、仲達之拒^ニ孔明^一、善謀而待^レ時、然及^ニ其老^一而遂營^ニ家事^一、所謂血氣既衰戒^レ之在^レ得也、吳子顏之興^ニ漢室^一、方修^ニ戰攻之具^一、故云、隱如^ニ一敵國^一、果以^ニ功名^一終也、細柳者真大將、而霸上棘門者爲^ニ兒戲^一、無^レ他唯戒與^レ不^レ戒耳、小可^ニ以敵^レ大^一、所^下以昆陽破^ニ尋邑^一、澠水克^ニ荷堅^上也、純剛純強者亡、所^下以秦皇并^ニ六國^一而山東亂、

典午統^ニ三國^一而骨肉屠^レ也、故曰、敵存而懼、敵去而舞、可^レ不^レ思乎、且夫人無^レ不^ニ飲食^一、然厚味脂毒制^レ之可^ニ以養生也^一、無^レ不^ニ晤語^一、然一言僨^ニ事喪^レ邦^一、謹^レ之可^ニ以顧^レ行也^一、無^レ不^ニ好^レ色^一、然亂生^ニ自^ニ婦女^一、惡^レ之可^ニ以免^レ禍也^一、然則敵豈遠乎哉、可^レ無^ニ時而不^レ戒焉^一、其制^ニ戒字^一有^ニ手持^レ戈之象^一者良有^ニ以也^一、苟注^ニ意於此^一、士庶人可^ニ以修身^一、大夫可^ニ以齊^レ家^一、王侯可^ニ以治^ニ邦國^一、古稱、防^レ意如^レ城、守^レ口如^レ瓶、謂^下防^ニ私意^一、慎^ニ言語^一、又節^ニ飲食^一也、善哉、書曰、淶水倣^レ予、然則匪^ニ營軍族而已^一、後世天示^レ災以戒^レ君、亦此類也、天地之於^レ人既然、凡事物皆可^レ有^ニ警戒^一也、敵戒之詞出^ニ於柳河東^一、方今我郎罷應^ニ人之求^一、而件々言之、余所^レ云雖^レ似^ニ贅疣^一、然其所^レ請不^レ能^ニ默止^一、遂記以塞焉、

同和抄

敵トハ我トヒトシク相手ニナル者ヲイフナリ、戒トハイマシメツ、シミテ用心シ油斷ナキヲ云フナリ、此二字ヲアゲタルイワレヲイカニト云フニ、草ハ微小ノモノナレドモシグリハビコルトキハ拂ヒ盡シガ

タシ、蜂ハチイサキ蟲ナレドモ尾ニ毒アリテ人ヲサス、獸ハ人ヲ見テヲソルレドモ、ニグル所ナク苦ム時ハ死ニイタルマデタ、カフ、又人ノ上ニツイテモ何様ノ愚ナル、賤男賤女モソノワザ人ニスグレタルコトアリ、マジテ我ト相手トナルホドノ者ニハ其戒ナクテハカナワザル事ナリ、若イマシメザレバ、敵ニスキマヲウカガワル、能戒ムルトキハタトヒ大勢ノ敵ニ向トイヘドモ、ヲソルベカラズ、凡ソ人タルモノ其時々ニツイテ戒ムルコトヲ知トキハ、道理ヲマモリテ私欲ニカツベシ、イマシメヲ知ラザレバ血氣ニツカワレテアヤマル事多シ、周郎トイヒシ人、歳二十餘ニテ吳國ノ大將トナリテ赤壁ト云フ所ニテ合戦シ、曹操ト云大敵ヲ破リ、周郎イヨ／＼心ヲ軍ノ事ニツクサバ、猶モ國ヲヒロゲ名ヲ顯スベカリシヲ、小喬ト云ル美女ニマドヒテ幾程モナク病死セリ、其ノ年ワカキトキハ血氣イマダサダマラズ、色ヲ好ム事ヲ戒ベキナリ、關羽ト云ヘル人ハ蜀ノ國ノ大將ニテ、度々武勇ヲ顯スニヨリテ世人鬼神ノゴトクニヲソレタリ、荊州ト云大國ヲ討取リ、即チ其所ノヲサヘトナリテ勢サカンナリシガ、敵ヲアナドル心アリテ戒メタ

ラザル故ニ、呂蒙ト云ヘル吳國ノ兵ニ生擒レタリ、其年サカンナル時ハ血氣マサニコハケレバ戦ニ臨デイマシムベキ事ナリ、司馬仲達ト云ヘル人ハ魏ノ國ノ大將ナリ、蜀ノ國ノ大將諸葛孔明ヲ拒グコト度々ニ及ブ、孔明ハ古今ニスグレタル文武備ル名將ナリ、仲達自ラ其武略ノ孔明ニ及ザル事ヲ知リテ戦バ危カルベシト思ヒ數年對陣シ己ガ手前ノ用心ノミシテ、敢テ進マズ、孔明ガ方ヨリ様々仲達ヲ耻シメケレドモ仲達少モ戦フ心ナシ、カクテ年ヲ歷テ孔明氣力ツキ病死シテ、仲達ツイニ勝事ヲ得タリ、其後仲達威勢ツヨク欲心キザシテ其主君魏ノ帝ヲタヲシ、己ガ子孫ヲ繁昌セシメントセリ、人年老スレバ血氣ヲトロフルユヘニ、道理ヲ守ルコトアタワズ、物ヲムサボリ得ルノ心ナキヤウニ戒ベキナリ、仲達ガ孔明ニ逢テ己ガ耻ヲカキタルヲモカマワズ、時節ヲ待シハ思慮深クヨキ臣下ノヨウナレドモ、其老後ニ逆心ノキザスハ欲フカクシテ惡ヲ戒ルノ心ナキユヘナリ、サレバ此ワカキ時ノ戒メト壯ナル時ノ戒ト老タル時ノ戒トヲ君子ノ三ノ戒トテ、孔子ノ説タマフ事論語ニ見タリ、今周郎關羽仲達ガコトヲ引テ其證トス、後漢ノ

光武ノ臣ニ吳子顏ト云ヘル大將アリ、數度軍功アリ
テタマヘイトマアリテ休息スルトキモ、武具ヲト
トノヘ軍陣ノ用意ヲコタラズ、コレニヨリテ子顏ガ
威名只一人ニテ敵ノ一箇國ニ對スルガゴトシトイヘ
リ、如此弓斷ナキユヘ一代ノ間武勇ノ功名ヲ全シテ
身ヲ終タリ、又前漢ノ文帝ノ時ニ韃靼人亂レイルヨ
シ風聞スルユヘ、其ヲサヘノタメニ周亞夫ト云ル大
將ヲシテ細柳營ヲ守ラシメ、又二人ノ大將ヲ分テ霸
上ト云フ所ト棘門ト云フ所ニ居シム、或時文帝自ラ
三人ノ大將ノ陣場エ見廻ニ行幸アリ、先霸上ト棘門
トエ至リタマヘバ、二人ノ大將門ヲヒラキ天子ヲ
迎奉ル、其後ニ細柳エ赴キタマヘバ軍門キビシク閉
テ開カズ、先驅ノ人行幸ナリ急ギ門ヲアケヨトイヘ
ドモ番ノ者敢テ聞入ズ、漸アリテ周亞夫子細ヲ聞届
ケテ門ヲ開カシム、周亞夫ハ本陣ニアリテ出テ迎エ
奉ラズ、帝本陣エ入リ給ヘバ、周亞夫甲冑ヲ著シ軍中
ノ禮ヲ以テ對面ス、帝還御アリテ周亞夫ハ眞ニヨキ
大將ナリ、霸上棘門ノ者共ハ兒ワラハベノタハムレ
ノゴトシ、敵モシ不慮ニ來ラバアワテサワグベシト
テ、周亞夫ヲ譽テ二人ヲバアザケリ給ヒシハ、只是戒

アルト戒ナキトニヨリテナリ、戒アルトキハ小勢ナ
リトモ大勢ニカツベシ、後漢ノ光武ハ昆陽ト云フ所
ニテ僅ニ八千ノ兵ヲ以テ王莽ガ大將王尋王邑ガ百萬
人ヲ破リ、謝玄ト云ヘル晋ノ代ノ大將苻淝水ト云所
ニテ、八萬ノ兵ヲ以テ苻堅ガ百萬人ニ克タリ、又甚剛
ク強ケレドモ戒ノ心ナキトキハ滅ブ、昔秦始皇大敵
六箇國ト戰テ皆伐滅シ、一統シテ天下ニ敵ナシトテ
奢リケルガ、イクホドナク東方ヨリ亂起テ秦ノ世亡
タリ、又魏ノ國蜀ノ國吳ノ國相爭ヒテ天下三ツニ分
レ五十年バカリ勝負決セザリシヲ、晋ノ武帝ニイタ
リテ三國ヲ平テ天下ヲ并セタリ、其後政ヲコタリ戒
メ足ザル故ニ武帝ノ子孫一族中惡クナリテ大亂止
ズ、晋ノ世早ク衰タリ、昔ノ人ノ辭ニ敵アル時ハ、ヲン
レヲノ、キ、敵去トキハウタヒ舞ト云ヘルハ此等ヲ
戒ルナルベシ、且ツ人タルモノ飲ミ食ハズト云フコ
トナシ、然ドモムマキ味アル者ハカヘリテ毒トナレ
バ、食物ニ心ヲツケテ養生ヲスベシ、人モノイワズト
云フ事ナシ、然ドモ一言ニテ事ヲ破リ國ヲ失フ事ア
レバ、一言ノコトヲモ謹デ己ガ行跡ヲ顧ルベシ、人ト
シテ男女ノ道アラズト云フコトナシ、然ドモ淫亂ナ

ノコトヲ長々ト云ヒノベタレバ、我ガ云フトコロハ
イヤコトナレバ、イカバト思ヒナガラ、黙止ガタクテ
聊カ記シ侍ル、

林 春齋

レバ身ヲソコナヒ國ヲ傾ク、此ヲサケテ禍ヲマヌカ
ルベシ、如レ此ノ事々ニツイテ戒ナケレバマノアタリ
ニ敵アルベシ、遠クヨリ來タルニアラズ、實ニ片時モ
弓斷スベカラズ、戒ノ字ヲ手ニ戈ヲ持タルニカタド
リテ作レルモ誠ニイワレアルコト也、此心ヲ會得セ
バ士庶人ノ位卑キハ其身ヲ脩ムベク、大夫タル人ハ
其家ヲ齊フベク、帝王諸侯ノ位貴ハ國ヲ治メ天下ヲ
平ニスベシ、又古ノ人ノ意ヲ防コトハ城ノゴトク、口
ヲ守ルコトハ瓶ノゴトシト云ヘルハ我ガ私ノ意ノキ
ザスヲ防グコトハ、己ガ城ヲ守ルガゴトクニシ、口ア
レドモ瓶ノゴトクニシテ多ク言ハズ多食ハズト云フ
義ナリ、是平生ノ戒ナルベシ、尙書ニ降水予ヲイマシ
ムト云ヘルハ、堯舜ノ時天下泰平ナリ、然ドモ大水ノ
出ケルヲ帝王ノ戒トセル事也、然バ戒ハ軍陣ニカギ
ルベカラズ、或ハアヤシキ星出テ或ハ旱シ或ハ饑饉
シ、其外天災アルハ皆人君ノ戒ナリ、天地ノ人ニヲケ
ル既ニ如レ此ナレバ、事々物々ニツイテ皆戒アルベ
シ、敵戒ト云フ辭ハ、柳河東ト云ヘル人始テ云出セ
リ、柳河東ガ名ヲ柳宗元ト云フ、柳子厚トモ云、唐ノ
世ニテ名高キ人ナリ、今我父、人ノ求ニヨリテ、敵戒

敵戒說

禮部卿 法眼 林春德國三子

唯聖人能外内無_レ怠、然不能_レ無_レ戒、黃帝之涿鹿阪泉、堯之崇脢胥敖、舜之三苗、禹之塗山、陽之十一征、文王之崇墉、武王之牧野、周公之流言、皆是非_レ有_二敵患_一乎、其能戒_レ警之、故外内無_レ患、夫戒_二慎乎其所_一未_レ睹、況於_レ臨_レ事乎、自非_レ聖人、外事必有_二内患_一、何則國家有_二寇難_一之日、非_レ無_二防嚴_一幸而得_レ克之後非_レ無_二怠侈_一、故蕭牆之憂乘_レ時而起、遂使_下外寇亦伺_中其釁_上可_レ不_レ戒乎、范_{カイ}匄之言不_二固然_一乎、古今之安危治亂歷代史籍之所_レ錄可_二考知_一而已、我與_レ彼其強弱多寡相敵則誠可_レ有_二戒心_一、況於_レ不_二相敵_一乎、且又敵_二王所_一愼者不_レ戒則何獻_二勤_一王之功乎、思之嗚呼人者天地之德陰陽之交也、故靈臺丹府昭々明々外物何侵_二其内_一乎、然不_二戒愼_一則七情之慾熾而三才之名爲_二虛設_一、於是志爲_レ氣使、心爲_二形役_一、目專愛_二奇色_一、鼻專饌_二異香_一、口專嗜_二酒肉_一、耳專耽_二邪聲_一、手容不_レ恭、足容不_レ重、其言行不_レ足_レ云也、譬_下諸全軍失_レ備敗績狼狽摧_二

我城壘_上棄_下我輜重_上、是不_レ戒之所_レ致也可_レ懼哉、苟能治_二本心_一拂_二物慾_一則五常明而一以貫_レ之、志以使_レ氣心以帥_レ形、七竅四肢各無_レ不_レ得_二其正_一、言行可_二以爲_一樞機、既而四勿存養三省不_レ懈則靈臺永以昭明矣、譬_下諸義軍奮進靖_レ難得_レ雋復_レ侵地_一拓_二境宇_一國富兵勁而仇敵遠逃_上焉、是警戒之所_レ致也、揚摧如_レ此則敵戒二字亦可_レ注_レ意焉、蓋小而言_レ之是非得失在_二我一身_一、大而言之闔國之政萬人命懸_二于君與_一宰相可_レ不_レ愼歟、曾子曰戒_レ之戒_レ之出_二乎爾_一者反_二乎爾_一者也、方今依_二人之求_一郎罷丁寧告戒、阿兄亦製_二一篇_一、余亦被_レ促而不_レ得_レ不_レ言云々、

同和抄

聖人ハ外ニモ内ニモ患_レルコトナシ、此ハ昔范匄ト云フモノ、語ニテ左傳ニ見タリ、サレドモ聖人モイマシメツ、シムコトナクテ叶ザルナリ、黃帝ハ涿鹿ト云フ所ニテ蚩尤ト云フ強敵ヲウチ殺シ、阪泉ト云フ所ニテ榆罔ト云人ニ戰ヒ勝タマフ、帝堯ハ崇脢胥敖ト云フ國々ヲセメラル、帝舜ハ三苗トイフ、謀叛セル國ヲタビ_レウチ平ゲラル、夏ノ禹王ハ塗山ト云フ

處ニテ天下ノ大小名ヲメシアツムルトキニ、防風氏
遲參シカバ其罪ヲタビシテ此ヲ殺ル、殷ノ湯王ハ諸
國ヲセメラル、事十一度、遂ニ夏桀ヲナガシテ天子
トナリ給フ、周ノ文王ハ殷ノ紂ガ臣下崇侯虎ト云フ
モノ惡人ナルニヨツテ彼ガ居城ヲ攻ラル也、其外多
ノ諸國ヲ討タマフ、武王ハ牧野ニテ殷ノ紂ト合戦シ
紂ヲコロシ天子ト成タマフ、周公ハ武王ノ弟ナリ、武
王崩御マシテ御子成王卽位周公攝政セラル、ト
キニ、成王ノ年ワカキ故ニ周公二心アリト管叔等流
言ス、管叔ハ周公ノ兄ナリ、此言ニヨリテ周公シバラ
ク周ノ都ヲタチノカル、幾ホドナク管叔等ガ謀叛ア
ラハレケレバ、成王卽チ周公ヲ迎テ彼ノ輩ヲウタシ
ム、流言ハ根モナキソラゴトヲ云ナリ、此人々ハ皆聖
人ナレドモ何モ敵對スルコトアリ、其戒ツ、シマル
ル事チンゴロナル故ニ内外トモニ患ナシ、聖人君子
ハイマダ物ヲミズ一念ヲコラザルトキニスデニ戒慎
シム、マシテコトニノゾミ物ニマチハルトキヲヤ、凡
世間ノ人ハ聖人ニアラザレバ外ノ患ナケレバ必内ノ
患ヲウク、イカントナレバ一國ニ謀叛ノ敵アル時ハ
手前用心ヲコタラズ、若仕合ヨク敵ニ討勝テバ、ハヤ

敵ナシト思フニヨリ、必ズヲゴリホシイマ、ナリ、故
ニ一家ノ内ヨリ亂出來テ國中騷動スルニヨツテ、又
所々ノ一撥蜂起ス、誠ニイマシムベキコトナリ、范匄
ガ云シ語尤其コトハリアリ、古ヨリ今マデ治亂ノ前
蹤、カヤウノタメシ代々ノ記錄ヲ考ヘシルベシ、御
方ノ人數ト敵軍ト其強キモ弱キモ大モ少モ等分ナリ
トモ、タガヒニ用心スベシ、若御方弱人モスクナクバ
彌用心スベシ、又天子ノ勅ヲウケテ朝敵ヲ退治セン
人ハ殊ニ戒ノ心ナクテハ官軍ノ勝利ヲ得ンヤ、夫レ
人ハ天地ノ德ヲウケテ陰陽ノ和合ナリ、靈臺丹府ハ
心ノ事ナリ、心中キヨクアキラカニシテ少モケガレ
ズ、イカデカ外ヨリノ事物ニヲカサレケガレンヤ、人
ハ天地ノ理備エルニヨリテ、天地人ヲ三才トナヅク、
七情ハ喜ト怒ト哀ト懼ト愛ト惡ト欲トナリ、此七ハ
聖人トイヘドモコレナキニアラズ、サレドモ皆理ニ
叶ニヨリテ道ニソムカズ、常ノ人ハ濁レル氣ニヲホ
ハレ、私ノ心ニフサガレテ彼七情皆正理ニ違ヒ背ク、
然バ天地トナラビ言フ事カナハザレバ、三才ノ名空
クナリス、シカル故ニ志ハカヘリテ氣ノタメニツカ
ワレ、心ハ形ニツカワレ、目ニハアヤシキ色ヲミ悅ビ、

鼻ハ專ラコトナルニホヒヲノミカギ、口ニハ酒肴ヲ
ノミ喰ヒ、耳ニハミダリナル音聲ヲノミコノム、手足
ノ立居振舞神妙ナラズ、其言語ト身ノヲコナヒハ、ト
カク云フニヲヨバズ、コレヲ軍陣ニタトヘテ云バ、諸
軍ノ備アシクシテ不_レ殘敗北シテ散々逸サリテ、御
方ノ城ヲウバワレ堀ヲウメラレ、兵糧荷物モコトゴ
トク敵ニ取ル、ガ如シ、此敵戒ノ心ナキユヘナリ、外
物ト七情ノ邪慾ハ我心ノ敵ニアラズヤ、人若コレヲ
ヲソレツ、シミ、本心ヲオサメ私慾ヲハラヒシリゾ
クレバ、仁義禮智信モトヨリ、アキラカニ一理ニツラ
ヌク、然ルトキハ志ツカサトナツテ氣ヲツカヒ、心主
人トナツテ形ヲ下知ス、目鼻耳口手足ノウゴク處イ
ヅレモ心ヨリヲコリテ正理ニカナフ、其言モ行モ人
ノ手本トナルベシ、樞ハ戸ノクロ、ナリ、機ハ張弓ノ
キザシナリ、コ、ニライテ顔子ノ四勿ノ學問ヲ養ヒ
守リ、曾子ノ三省ノ工夫ヲコタラザルトキハ、此心イ
ツマデモ明ニシテクラマサレズ、四勿三省ノコトハ
論語ニアリ、委クシルサズ、此ヲ軍ニタトヘ云フ時
ハ、先度ノ敗軍口惜トヲモヒ、クツキヤウノ軍兵ヲ聚
メイサミス、ミ、敵ト合戦シ討勝テ大將ヲ生捕、今マ

デウバワレシ地ヲ取返シ、其外國々ヲ打合セ、一國富
盛シニ軍兵猛ク強シテ、數多ノ敵皆歸服シ、餘黨ハ遠
方エ逸散ガゴトシ、コレヨク敵戒ノ心アル故ナリ、カ
クノゴトクヲシヒロメ譬ヲ舉テ云フ時ハ敵戒ノ二字
フカク心得ベシ、小ナルニ付テ云バ一人ノ善惡ハ我
身ニアリ、人ニモトムベカラズ、大ナルニツイテ云バ
國々ノ政千萬人ノイノチハ、人主ト宰相トノシヲキ
ニアリ、人主ト宰相トノ法度ノ善惡ニヨツテ、國家安
穩萬民喜悅シ、又國家大ニ亂萬民ノ迷惑スルコトモ
アリ慎シムベシ、高モ賤モ人ヲムニクミ害スル時ハ
遂ニハ其身モワザハイヲウクルコト必定ナリ、上ヨ
リ常ニ民ヲ苦ムレバ、上ノ危キ時ニ當テ民見ステ、
救コトナシ、日比ノムクヒナリ、是ヲ爾ニ出テ爾ニ反
ルト云フナリ、曾子ノチンゴロニ戒メラル、語常ニ
忘ルベカラズ、爾ハ世人ヲサシテ云フナリ、今我父、
人ノ所望ニヨツテ、敵戒ノ文ヲ作り、詳ニ告サトス、我
兄モ又同作ル、我モ彼ニ促サル、ニヨツテ如此也、

林 春德

敵戒說終

翁問答序

志學のとしより心にまもり、身におこなふべき道をもとめ得まくおもひ立て、禪門教門のをしへをとしへてまなぶといへども、其議論訛通にしてそのみち偏僻なり、その法また人倫日用の受用にたよりあらざるゆへに、儒門に入て四書五經の眞教をうけ、切磋琢磨をはげますといへども、三偶を反せざるほどの下愚なれば、開悟の自得をよびがたく、すでに道にたつべきとしをもむなしくうちすぎぬ、愚者のあやまるならひなれば、性のつたなきことをわすれ、却て師範の其人にあらざるかとうたがひ、明哲の先覺もがたと寤寐にわすれざるおりから、天君とて先覺とおぼしき老翁ありけると、友のかたりしまゝ訪たづね几杖をとりてまみえける、我眼力伯樂ならねば、騏驎のわかちはしらざれども、威儀いとけだかく人あい和厚にして謙遜なれば、俗儒の傲氣はなはだしく口氣高るにちがひ、心ならずしたはしくうやまはれて、暇の日はつねに傍に侍りぬ、門下に鉢充とて俊秀なる人ありて、平日疑問論難やむときなし、かたはらに

てこれをきくといへども、我心のをよばぬ際は記憶することあたはず、間に心の粗通するところあれば、しりぞひて倭語にて書つけ遺忘にそなへぬ、斯してとしをつもりぬれば、箇條もあまたになり、心にまもり身におこなふべき道もすこし開悟に似たる様であれば、もしまた我ごときの愚者あらば、萬一工夫のたすけにもなるべきかとあらためうつし、翁問答と題號して、巾笥にかくしをきける、ことばいやしくことはりきこえがたけれ共、君子の刪正をもとむべきほどの事ならねば、只愚者のかきつけたるまゝにして、翁の本意にたがふところなんおほかるべし、若よむ人あらば、辭にて志をそこなはずば、吾人の大幸たるべきか、

翁問答は我藤樹先生の撰ぶ處なり、先師嘗て仕を豫州に致して江陽に歸る、豫方の同志先覺に離て刑儀をうしなひ、又文學につたなければ、經書の觸發をも得べからずとなげきて、惑を辨へ徳に入べき方を假名書にして與へたまへと希ぬ、師是に於て終に此問答上下を著したまふ、時に寛永十八年辛巳の歲、雖^レ然師の學愈新なるにしたがつて、此問答愈其心になはず、改正の志ありければ廣く門人にだに授けたまはず、爰に癸未の年梓^{しん}人の手にもれて、既に梓にちりばめしを幸に早く知て是をやぶりぬ、

或人曰、翁問答其文正明にして其論快活也、吾人の愚なるがごときは是を讀て益をうることも多かるべし、何がゆへにかたく祕してあまねく授けたまはずや、

師の曰、吾此問答を書せし時、今に比すれば學いまだ精到ならず、且聖道の行はれざるをうれひ、末學の弊を救ふに心あり、故に其議論抑揚甚しく、終に圭角の累をまぬかれず、讀人吾本意をさとらずんば、却て或は勝心を助けんか、恐は世に益なふして損あらん、吾これを改正せんと欲す、故に今ひろく傳ゑん事を欲せず、

丙戌の年、下卷一二篇を正したまふ、丁亥の年又これを改めんとす、病をもつての故にや少きにして終に不成、同年上卷を改め書せんと欲す、わづかにして又果さず、

先師嘗曰、問答の中儒佛を論する處のごとき、今これを讀に其理精當を得ざる事を覺ふ、

又曰、問答上卷吾孝經に觸發して筆を下す、故に頗孝字を播弄す、孝經の旨におゐては敢たがふ事あらすといへども、今これを撰ば又しからじ、

又曰、此書志氣あつて世を憤り弊を憂る的人讀は、或は觸發興起あらんか、心術の精微用功下手の實地のごときはいまだ委く論じ及ばず、夫先師の意かくのごとし、是をもつて問答を出す事其本旨にあらず、故に師卒して後愈これを藏す、然るに今年春又梓家に洩て終に板行す、驚取て讀に乃草稿の本にして、舊本の清書にだもあらず、其隠しうつせるをもつてにや、誤字脱簡も亦間多し、故に今やむことを得ずしてこれを考訂し、且前後改正の篇を編入し、并に其事を叙して聊以て師の志をあらはし、重てこれを梓に刻しむ、讀者これをもつて其學の日々に新なる事を

考へ、終に此問答をもつて了手とせずして、精微中庸を希ひなば、此書乃入徳の階級ともなりぬべし、もしなをざりに讀去て、滴血の實なく致知の功をろそかならば、却て先師のおそれし弊に陥んか、吾黨欽哉、

慶安三年庚寅夏六月既望

門人 識

翁問答卷一〔原本、上卷之本〕

○牀充問曰、人間の心だてさまぐありて、をこなふところその品おほし、其うちに是非混亂していづれにしたがふべしとおほえず、人間一生涯いづれの道をか受用の業と仕るべく候や、

師の曰、われ人の身のうちに至徳要道といへる天下無雙の靈寶あり、このたからを用て心にまもり身におこなふ要領とする也、此寶は上天道に通じ、下四海にあきらかなるもの也、しかるゆへに此たからをもちいて五倫にまじはりぬれば、五倫みな和睦してうらみなし、神明につかふまつれば、神明納受したまふ、天下をおさむればてんかたいらかになり、國をおさむれば國おさまり、家を齊れば家とゝのをり、身をこなへば身おさまり、心にまもれば心あきらかなり、をしひろむれば天地のほかにわたり、とりおさむればわが心の密にかくる、まことに神妙至極の靈寶也、しかるゆへに此寶をよくまもれば、天子はながく四海の富をたち、諸侯はながく一國の榮花をうけ、

卿大夫はその家をおこし、士は名をあらはし位をあらがり、庶人は財穀をつみたくはへて其樂をたのしむもの也、此實をすてゝは人間の道たゝず、にんげんのみちたゝざるのみならず、天地の道もたゝず、天地のみちたゝざるのみならず、太虚の神化もおこなはれず、太虚三才宇宙鬼神造化生死ことゝく此たからにて包括する也、このたからをもとめまなぶを儒者の學問といふ、生れながらにして此たからを保合し給ふを聖人と云、がくもんによつて保合してよくまもりおこなふを賢人といふなり、孔子萬世のやみを照さんために、此たからをもとめまなぶ鏡に、孝經をつくりたまふといへども、秦の代よりこのかた千八百餘年のあひだ、十分によくまなび得たる人まれなり、今大明の代にいたつて此經をよく尊信表章する人おほし、大舜は此たからを保合したまひて庶人中より天子のくらゐにのぼり給ふ、文王はこのたからを保合し給ひて天帝の左右にまします、董永はこのたからをまもりて天の織女をつまとなし、吳二は此實をまもりて宿惡の天刑をまぬかれたり、古來靈驗かたりつくしがたし、よくく信仰して受用すべ

きことなり、

○躰充曰、さやうのたからはまことにもとめまほしき事にて御座候へども、あまり廣大なる道なれば、われわれが分にてはをよびがたくおぼえ候、師の曰、それはあしき心得也、廣大なるゆへに我人のをよぶことにて候、たとへば日月のひかりは廣大なるによつて、目あるほどのものあまねくもちい得がごとし、このたからも廣大なるゆへに、貴賤男女をえらばず、おさなきも老たるも本心のあるほどの人は、あまねくまもりおこなふみちなり、このたからは天にありてはてんの道となり、地にありては地のみちとなり、人にありては人のみちとなるもの也、元來名はなければども衆生にをしへしめさんために、むかしの聖人その光景をかたどりて孝となづけ給ふ、それより此かた愚癡不肖の賤男賤女にいたるまで、その名をばしるといへども、その眞實の道理をば老師宿儒知見拔群の人さへさとり得事稀なり、然るゆへに世俗、孝は親につかふる一事となして、淺近の道理なりとおもへり、孔子なげかしくおぼしめして、萬世の心旨をひらかんために、孝德神妙不測廣大深遠にし

て、はじめなくおはりなき神道を孝經に發明したまふ、孝徳の感通をてぢかくなづけいへば、愛敬の二字につつまれり、愛はねんごろにしたしむ意なり、敬は上をうやまひ下をかしめあなどらざる義也、孝はたとへば明なる鏡のごとし、むかふものゝ形と色によつて、かゝみのうちの影はしなくかはれども、あきらかにうつす鏡の體はおなじもの也、そのごとく父子君臣の人倫にあひまじはる事は、千々よろづに

しなかはれども、愛敬の至徳は通せざるところなし、あらまし大概を論するに、先五倫をもていへば、親を愛敬するが感通の根本なる故に、自分の名をあらためず孝行と名づく、さてそれより感通の景象によつて、名をたてをしへをしめしたまふ也、二心なく君を愛敬するを忠となづく、禮義たしく臣下をあいけいするを仁となづく、よくをしへて子を愛敬するを慈となづく、和順にして兄を愛敬するを悌となづく、善をせめて弟をあいけいするを惠となづく、正しき節をまもりて夫をあいけいするを順となづく、義をまもりて妻をあいけいするを和となづく、偽なく朋友を愛敬するを信となづく、一身をもつていへば耳

目の聰明、四肢の恭重、行住坐臥の法則、皆孝徳愛敬の感通ならざるはなし、かくのごとく親切なる道徳なれば、いかなる愚癡不肖のしづのお、しづのめ、膝下の赤子までもよくしり、よくおこなひ、さてまた至極の全體は、聖人といへどもつくしがたきもの也、まことに不二の要道、無雙の重寶なれども、卞和が璧となりて世俗の闇をてらさるる事なげかしきことなるべし、

○牀充曰、今まではおやをよくやしなふをのみ孝行なりと存候、あまねく世俗さやうに心得たるとみえたり、いま先生のをしへをうけ給り候へば、孝といへるものは、外もなく内もなく無上の妙理なる、まもりおこなふべき術をくわしく承たく候、

師の曰、元來、孝は太虚をもつて全體として、萬劫をへてもおはりなく始なし、孝のなき時なく孝のなきものなし、全孝圖には太虚を孝の體段となして、てんちばんぶつをそのうちの萌芽となせり、かくのごとく廣大無邊なる至徳なれば、萬事萬物のうちに孝の道理そなはらざるはなし、就中、人は天地の徳萬物の靈なるゆへに、人の心と身に孝の實體みなそなはり

たるにより、身をたて道をおこなふをもつて功夫の要領とす、身をはなれて孝なく、孝をはなれて身なきゆへに、身をたてみちをおこなふが孝行の綱領なり、おやによくつかふるも則身をたて道をおこなふ一事なり、身をたつると云は、我身はぐわんらい父母にうけたるものなれば、わが身を父母の身と思ひさだめて、かりそめにも不義無道をおこなはず、父母の身を我身とおもひさだめて、いかにも大切に愛敬して、物我のへだてなき大通一貫の身をたつる也、さて元來をよくおしきはめてみれば、わが身は父母にうけ、父母の身は天地にうけ、てんちは太虚にうけたる者なれば、本來わが身は太虚神明の分身變化なるゆへに、太虚神明の本體をあきらかにしてうしなはざるを身をたつると云也、太虚神明のほんたいをあきらめたてたる身をもつて人倫にまじはり、萬事に應ずるを道をおこなふといふ、かくのごとく身をたて道をおこなふを孝行の綱領とす、親には愛敬の誠をつくし、君には忠をつくし、兄には悌をおこなひ、弟には惠をほどこし、朋友には信にとまり、妻には義をほどこし、夫には順をまもり、かりそめにもいつはりはいは

ず、すこしの事も不義を働かず、視聽言動みな道にあたるを孝行の條目とする也、しかるゆへに一たび手をあげ一たびあしをはこぶにも孝行の道理あり、人間千々よろづのまよひみな私よりおこれり、わたくしは我身をわが物と思ふよりおこれり、孝はその私をやぶりすつる主人公なるゆへに、孝徳の本来をさとり得ざるときは、博學多才なりとも眞實の儒者にあらず、まして愚不肖は禽獸にちかき人なるべし、○牀充曰、孝行に五等の差別あるは、いかなる故にて御座候や、

師の曰、人間尊卑の位に五だんあり、天子一等諸侯一等卿大夫一等士一等庶人一等すべて五等也、てんしは天下をしろしめす御門の御くらゐなり、諸侯は國をおさむる大名のくらゐ也、卿大夫はてんし諸侯の下知をうけて國天下のまつりごとをする位也、士は卿大夫につきそひて政の諸役をつとむるさふらひのくらゐ也、物作を農といひ、しよくにんを工と云、あき人を商と云、この農工商の三はおしなべて、庶人のくらゐなり、孝徳は同一體なれども、位によつて事に大小高下あるゆへに、そのくらゐの分際相應

の道理を、後世凡夫のために分辨をときあきらめ給ふ、たとへば孝徳は大海のごとし、五等のくらゐは器のごとし、器にて水を汲に、大小方圓のもようはかはれども、水はおなじ水なるがごとし、むかし聖人の御代には、人間のくらゐ五等のほかはなきゆへに、五等の孝を發明し給ふ、

○牀充曰、孝經發端の章に餘の人倫をばあげ給はで、中ニ於事君と、忠の一典を説たまふは、いかなるゆへにて御座候や、

師の曰、君父は思ひとしきものなり、父生之、君食之と云て、皆いのちをたもつ恩也、親は始なるゆへに孝のこんほんとす、思ひとしきゆへに中ニ於事君と第二にとき、孝徳萬事ばんぶつに感通する例となして、兄弟夫婦朋友の道をそのうちにふくみかね給ふ、孝經の篇末に、ひとり事君の一義を發明し給ふも此こゝろ也、

○牀充曰、天子の孝行はいかに、

師の曰、愛敬の孝徳を天下に明にするを天子の孝行とす、先みづから其徳を明にして萬化の大本をたてさだめ、賢人を愛敬して宰相となし、善人をあいけい

して器量にしたがひ、それぐの官職をさづけ、小國の臣下をもあなどりわすれず、禮樂刑政學校のをしへいとたゞしく、天下人ごとにその本心の孝徳をおこし、その利を利とし、そのたのしみをたのしむやうに萬民を愛敬すれば、四海みなその徳教に化し、德澤にうるほひて、家ごとに孝子、國みな忠臣となり、天下一統におさまり、萬國のよろこぶ心を得てその先王につかへ給ふは、天子の孝の大概なり、

○牀充曰、諸侯の孝行は如何、

師の曰、愛敬の孝徳をその國にあきらかにするが諸侯の孝行なり、先身もち心だてたゞしくしてすこしもおごることなく、そのおこなひ節にあたり、國持の作法をよくまもり、家老大臣をうやまひ、もろゝの臣下を體にして情ふかく、かりそめにも無禮をなさず、しんかの心だて器量をよく試て、出頭諸奉行の職をさづけ、しをきを淳にして百姓をあはれみ、なかなづく鰥寡孤獨のたよりなきものをはぐくみ、國中臣民のよろこぶこゝろをえて國とみさかべ、ながく社稷をたもちてその先王につかへぬるは、諸侯の孝行のたいがいなり、

○牀充曰、卿大夫の孝行はいかい、

師の曰、其位の職分に愛敬の孝徳をあきらかにするが卿大夫の孝行なり、心をたゞしうし、身をおさめ、假初の行跡も人の手本となり、ことばひとつもあだならぬ様によくつゝしみ、君のため、てんかのため、くのためにのみ思ひいれ、我わたくしのいとなみ利害のはかりごとをば露ほども心にかけず、おさまりたる時は天下國家あんおんのまつりごとをなし、みだるゝ時は大將となりて軍兵をさしつかひ、軍法よくこゝろえ謀をめぐらし、百戰百勝の功をたて、よく彼くらゐをたもちてその宗廟をまもりぬるは、卿大夫の孝の大がいなり、

○牀充曰、士の孝行はいかい、

師の曰、かりそめにも二心なく、わが身をすてゝ君を愛敬する心をうしなはず、それ〴〵の職分をよくまもりつとめて、その長をうやまひ、傍輩にたのもしくいつはりなく、人あひやはらかにねんごろにして、たちふるまひことばつきいやしからず、心だて身もち義理にかなひ、簡要の禮法藝能などうと〴〵しからず、軍陣にのぞむか、または君長の難にあふ時は、樊

噲をもあざむくほどの武勇をいだし、武功をたて、その祿位をたもちて祭祀をまもりぬるは、さふらいの孝行の大がいなり、

○牀充曰、庶人の孝行はいかい、

師の曰、農工商いづれもその所作をよくつとめおこたらず、財穀をたくはへ、むざとつかひ費さず、身もち心だてよくつゝしみ、公儀をおそれて法度にそむかず、我身妻子のことをば第二とし、父母の衣服食物を第一におもひ入、心力をつくしてをよばぬきはをも調て、父母のうけよろこばるゝ様にもてなし、よくやしなふは庶人の孝行なり、

○牀充曰、五等の孝のうち、只庶人にばかり父母をやしなふと説たまふは、いかなるゆへにておはしまし候や、

師の曰、士よりうへは財ともしからざればやしなふ事は云にをよばず、庶人は財ともしうして十分に心をくるしみ、ちからをつくさざれば、衣服食物たらざるゆへに、庶人にばかり養をとき給ふ、五等みなそのくらゐのうちにて、第一おもきところをとりて説給ふ、道理はみな相通ずる也、よく〴〵體認すべし、

○躰充曰、五等の孝の説をうけ給り候へば、親を愛敬するばかりが孝行にてはなく、その徳をあきらかにしてそれ／＼のすぎはひの所作を精に入てつとむるが、かう／＼の本意にて御座候也、

師の曰、さやうにて候、畢竟は明徳をあきらかにするがかう／＼のほんいにて候、ゆへに心にむさとしたる一念をおこし、あるひはいかるまじき事にはらわたて、よろこぶまじき事をよろこび、ねがふまじき事をねがひ、悔まじきことをくやみ、をそれまじき事をおそるゝもみな不孝なり、一言のいつはりも不孝なり、まして不義無道を身におこなひ死すべきところにてしせず、しぬまじき所にていぬ死をなし、とるまじき物をむさぶり、とるべき物をとらずして飢寒にをよびなどするは、みなもつてのほか大ひなる不孝なり、心にかけてつゝしみまもるべきことなり、此道理をしりあきらめて、心にまもり身におこなふを儒者のがくもんと云也、世間にがくもんする人はたくさんなれども、此ほんいをさとり得たる人まれなり、

○躰充問曰、五倫のみち、その名をばうけたまはり候

へども、くはしきことはりをば不存候、全孝の心法日用の急務にて候へば、つまびらかに承はりたく候、師の曰、倫は次第なり、にんげんの次第差別五つあるゆへに五倫となづけたり、五りんのみちつねにありて、はじめなくおほりなきものなれば五典と云、典はつねとよむ字なり、五典を人に教化するを五教と云、五典の心のうちにそなはりたるを五常の性と云、親と子と一倫なり、君と臣下と一りんなり、夫と妻と一倫なり、兄と弟と一りんなり、ともだちのまじはり一りん也、これを五倫といふ、人間の次第差別この五つにきはまれり、世間に五倫にもれたるにんげんは一人もなきもの也、親は慈に、子はかう／＼にして、よく相愛敬するを親の道と云、君は仁に、臣下は忠節をつくして、君臣よく交泰するを義のみちといふ、夫は義に、つまは順にして、夫婦よく和合するを別の道と云、兄は恵に、おとうとは悌にして、兄弟よく和睦するを序のみちといふ、友だちのまじはりたがひにいつはりなくたのもしく、よく相したしむを信のみちと云、此親義別序信の五つを五典といふ、人間のこゝろに仁義禮智信の五常の性をなはりて一身の主本たり、

この五常の性感通して五典のみちとなる、父子の親は仁なり、君臣の義はすなはち義なり、夫婦の別は智也、長幼の序は禮なり、朋友の信はすなはち信なり、五倫は外にあるゆへに至理をしらざる人は、五倫の道といへば皆ほかにありて、わが心の中になきものなりと思へり、あさましきまよひ也、天地ばんぶつみな神明靈光のうちに造化するものなるによつて、わが心の孝徳あきらかなれば、神明に通じ四海にあきらかなるゆへに、てんちばんぶつみなわが本心孝徳のうちにあるもの也、まよへる人は、心は身のうちにばかりあると思へども、根本は心の内に生れ出たる身なり、しかるゆへにさとりたる眼には内外幽明有無の差別なし、五りんのみちをほかとみていとひすて、内外幽明有無の二見をたつるはさとりに似たるまよひなり、五りんの道をこまかに分て論ずれば、五典十義となれり、先子^{まき}の孝行と云は人間百行の源、人倫第一の急務なるゆへに、聖人の五教に父子有親と第一に説給へり、孝徳をあきらかにせんと思ふには、まづ父母の恩徳を觀念すべし、胎育のはじめより十箇月のあひだ、母は懷孕のくるしみをうけ、十病九死の身

となり、父は孕子の保全産育のあんおんなるべき事をねがひうれひて、千辛萬苦をこゝろにわすれず、臨産の時にいたりては、母の身はきりさくほどの惱をうけ、ちゝの心は煩熱のくるしみをいだけり、幸にして母子あんおんなれば、一命再續のよろこびをなし、はゝぬれたるねじきにふして、子をばかわける^{しとほ}梱にふさしめ、子よくねぶりぬれば、母の身屈伸をなさず、身あかつきがれても、ゆあびかみあらふべき暇もなく、衣裳身のつくりひなどいとりみだし、子の安穩を思ふよりほかは他念なし、若すこしにてもやみぬれば、醫をもとめ神にいのり、身をもてかはらんことをおもふ、乳哺三年のあひだ、父母の苦勞そのかずをしらず、入學のとしになりぬれば、師をもとめ、道ををしへ、藝をならはせ、才徳の人にすぐれんことをねがひ、既に有室のとしにいたりぬれば、伉儷をもとめ、家業を立て、とみさかへんことを謀ねがひ、その子才徳人にまさり、しあわせもよく榮ぬれば、限なくよろこびの眉をひらき、もしまた才徳も人に劣、しあわせもよからざれば、おきふしたえずなげきとせり、ちゝはゝかくのごとくの慈愛、かくのごとくの

苦勞をつみて、子の身をやしなひそだてたれば、人の子の一身毛一すじにいたるまで、父母の千辛萬苦の厚恩ならざるはなし、父母のおんとくはてんよりもたかく、海よりもふかし、あまりに廣大無類の恩なるゆへに、ほんしんのくらき凡夫はむくゐんことをわすれ、かへつて恩ありともおんなし共おもはざるとみえたり、人間のかたちあるほどのものは、いかなる愚癡不肖のしづのお、しづのめにいたるまでも、一飯のおんをむくゐんと思はざるはあるまじ、恩をむくゐんと思ふは、孝徳のほんしんあるゆへに、そのはづれのすこしあらはれたるものなり、本心の孝徳ありて父母のおんをむくゐんことをわすれぬるは、じんよくの雲におほはれ、明徳の日のひかりくらく、心の闇にまよふゆへ也、九牛の一毛をいひのぶる父母の厚恩をよく體認して、一飯のおんにくらべてみれば、じんよくのくもはれ、明徳の日の光りあきらかにして、父母の厚恩をむくひんと思ふ本心の孝心かぎりなく開發すべし、この一念をもて孝行のはじめとなし、孝經の聖謨を鑑として身をたて道をおこなふの大孝を受用すべし、昊天罔極の厚恩をわすれ、心のや

みいとくらきを迷といふ、このまよひふかきは、鳥けだものにもおとれり、鳥は反哺の報をおこなひ、羊は跪乳のうやまひをなせり、にんげんの形をうけたるもの耻おそるべきことなり、心のやみにまよひて孝徳のくらきありさまをあらましかたりて、われ人のいましめとすべし、まよへる人のならひにて、富貴を無上のものとおもひ入、第一のねがひとすれば、富貴を求るたすけとなる人をばかぎりなくうやまひ追従し、惡言のいかりをうけても堪忍して辱めとせず、父母をばあるなしにあいしらひ、一言の惡口をうけてもはなはだいかりの、しりてあさまし、あるひは父母にそむきて妻妾を寵愛し、あるひは父母をすて、わが子をやしなふもあり、もしまた親の慈悲あさく、不義無道のあてがひあれば、恨みをふくみあだかたきの思ひをなせり、富貴をもとむるたよりとなれる人をうやまひ大切に思ふは、我身をかざる恩あるによつてなり、妻妾を寵愛するは、わが身のよくをとげてたのしむゆへ也、子を愛するは、わが身をわけたるゆへ也、この身なければ富貴の外飾をかざるべきしたちなし、また妻妾をたのしむべきものなし、また子

にわけあたふべき身なし、富貴もさいせうも子も、此身ありてのたのしみ也、この身をうみたる人は父母也、父母この身をうみたるゆへに、富貴の外飾をもうけ、さいせうのたのしみをもなし、子をそだて、老後のたすけ共すれば、富貴をさづくる人のおんも根本はふほのおんなり、妻妾のたのしみをなすも、こんはんは父母の恩なり、子のやしないをうくるもこんはんは父母の恩なり、何事もみな父母の恩ならざるはなし、父母の恩は廣大無類にしておんの大根本也、しかるゆへに父母を愛敬するを本とし、おしひろめて餘の人倫を愛敬し、道をおこなふを孝と云、順徳といふ、大こんはんのおんをわすれて父母をばあいけいせずして、枝葉のちいさきおんをむくゐんと他人をあいけいするを不孝といひ悖徳と云、悖徳の人は、たとひ才能人にすぐれたりとも眞實の人にあらず、かならず終には神明の罰にあたるもの也、親のいつくしみあさく、不義無道の擬作あてがひあるによつて、不孝なるをばまよへるばんふは實げにもとおもひゆるすとみえたり、一しほまよひのうちのまよひなり、その子細は禮義ただしくなさけふかくあらば、一目もしらぬ道

行づれなりとも骨肉のおもひをなし、われもまた恩をもつてむくふべし、しかるときは親の慈悲ふかくあてがひ、道あるに孝行なるはおこなひやすき境界なれば、さして孝行と云べきにもあらず、おやのいつくしみあさくあてがひ無道なるに、孝行なるこそまことにありがたき孝子なれ、大舜のおこなひ給ふ孝行にてよく體認すべし、昊天罔極のおんふかきおやと毛頭おんなきみちゆきづれの人と同じく思ひなすは、あさましきまよひ也、此まよひふかき人はかならず天罰をうくるもの也、おそれつゝしむべきことなり、孝行の條目あまたありといへども、畢竟は二箇條につづまれり、第一には父母の心の安樂なるやうにするなり、第二には父母の身をよくうやまひやしなふなり、父母の心の安樂なるやうにするには、先わが身をおさめこゝろを正しくして好人となり、それぞれのすぎわひの所作をよくつとめ財用を節すれば、父母の心に子のわざわひにあひ、貧窮にをよぶべきおそれなし、さて妻子臣妾をよく教化して、家内の人みな聲をやはらげ、氣を下して父母を愛敬し、かりそめの下知をもむきおこたらず、兄弟一族和睦するや

うにすれば、父母の目にふれ耳に入ことみな父母の心にならひて、をのづから安樂になるもの也、又めんめんのちからにしたがひて、十分に心力をつくし苦勞をかへりみず、我身と妻子の私用を第二にして、一家のうちにての食物の滋味をそなへ、衣服の輕煖をさへげ、いかにもよろこぶ色をつくし、父母のうけよろこばるゝやうにとりなし、もしまたやまひあるときは良醫の療治をもとめ、看病の勞をつくしぬるは、よくやしなふの大がい也、もしまた父母不義あらば、何となく父母の感悟ある様にいさむべし、かんなきときは是非利害をあきらかにかたりのべて諫べし、もし父母よろこばずしていかりをなさば、別して色をよろこばしめ孝をおこし敬を起して、おやのいかりにさからふべからず、かくのごとくいくたびもいさめ、あるひはおやのあいくちの友をたのみていさむべし、おやの道にいり、徳のあきらかになるやうにするが、孝の第一なるゆへなり、父母の天年かぎりありて、ながきわかれのうれひにあたる時は、かなしびのまことをつくし、禮法をもつて葬をなし、喪にゐて哀戚をつくし、宗廟祠堂をたてゝ鬼神につかへ、

四時俗節忌日の祭に誠敬をつくして合莫の孝をおしきはむるを子の孝と云なり、親の子を慈愛するには道藝ををしへて子の才徳の成就するを本とす、當座の苦勞をいたはりて子のねがひのまゝに育てぬるを姑息の愛と云、姑息の愛をば舐犢の愛とて牛の子をそだつるにたとへたり、姑息の愛はさしあたりては慈愛に似たれども、その子氣隨になりて才もなく徳もなくとりけだものにちかくなりぬれば、畢竟は子をにくみてあしき道へひきいるゝにおなじ、そのうへわがみはおやにうけたれば、すなはちおやの身なり、おやにうけたるわが身をわけて子の身となしたるものなれば、子の身もこんはんはおやの身なり、子をむさとそだてゝあしきみちへひきいるゝは、おやの身を惡道へおとしいるゝにことならざるゆへに、子によくをしへざるは、大不孝の第一なり、さて又いそをおこすも子孫なり、家をやぶるも子孫なり、子孫に道ををしへずして子孫の繁昌をもとむるは、あしなくて行ことをねがふにひとし、子孫のうまれつきさまゝありて一概にをしへの法をろんじがたしといへども、まづ道ををしへて本心の孝徳をあきらか

にするををしへの根本とす、才藝人にすぐれしあはせ無類にしてにんげんのほまれありと云とも、ころねじてほんしんの孝徳なきものは、てんち鬼神のにくみすてたまふところなれば、一旦えいぐわにほこるといへども、かならず一代二代のうちに子孫絶滅するもの也、たとひせつめざれども、あるにかいなき人がらにて、先祖の生性せいせうこの人にいたりて相續せざれば子なきにひとし、まよへる人は眼前一たんの富貴はまれをのみ無上のものなりと思ひて、はじめなくおほりなき至徳の靈寶をばゆめにもしるざるゆへに、たうざのしあはせだによければその外はなにもいらぬものなりとおもひ、本末是非を云みだして無上のたのしみある事をしらず、無下に淺まし、さて子孫にをしゆるには幼少のときを根本とす、むかしは胎教とて胎内にあるあひだにも母徳の教化あり、いま時の人は至理をしらざるゆへにおさなきうちにはをしへはなきものなりと思へり、教化の眞實をしらずしてただ口にていひをしへぬるばかりをしへと思ふよりおこりたるまよひ也、根本眞實の教化は徳教なり、くちにてはをしへずして我身をた

てみちをおこなひて人のをのづから變化するを徳教といふ、たとへば水の物をうるほし火のものをかはかすがごとし、國土の方角、水土の風氣によつて人間のむまれつきすこしづつかはりありといへども、詞つきにはぐわんらい京田舎の差別なきゆへに、赤子のときより京にてそだてぬれば、關東にて生れたるものも京ことばになり、くわんとうにてそだてぬれば、京にて生れたるものも關東ことばになるごとく、おさなきものゝこゝろだて身もちも、父母めのとなどの心だて身もちを見あやかり、きゝあやかるによつて、父母めのととの徳教を子孫にをしゆる根本とす、しかるゆへに乳母の人がらをえらび、父母の身をおさめ、心をただしくして全孝のみちをくちにかたり身におこなひて、をしへの根本を培養すべし、八つ九つにもなりぬる時はむまれつき利根なるものには、孝經をよませ、おりゝゝ孝經の大意をとききかせて道をさともいとなし、六藝のうち急用なる藝よりそろゝとならはし才徳兼備のをしへを専とすべし、生れつき愚鈍にしてさいとく兼備ののぞみなりがたきには、孝經の義理をいつとなくかたりきか

せて、孝徳の本心をうしなはずして、好人となるをしへをもつはらとすべし、成童の時よりのをしへは師匠と友をえらぶをしへの眼とす、さてすぎはいはそれ／＼の器用にしたがひ、それ／＼の運命をかんがへて、自分の生理士農工商のまちを謀りさだむべし、これ子にをしゆるの大方なり、親の慈も子の孝も天命の本然をのづからあるしたしみなるゆへに、聖人五教のはじめに父子有^レ親と説給へり、君は仁と禮とをもつて臣下をさしつかふ道とす、仁は義理にしたがひて人を愛する徳也、禮はくらゐ／＼の道理にしたがひて人をうやまひあなどらざる徳なり、臣下に貴賤大小のくらゐさま／＼ありて、さしかふだうりきはまりなしといへども、畢竟は仁禮の二徳よりほかはなし、惟天地萬物父母、惟人萬物之靈とのたまふ時は、ばんみんはこと／＼く天地の子なれば、われも人も人間のかたちあるほどのものはみな兄弟なり、しかるゆへに聖人は四海を一家中國を一人とおぼしめすと也、われと人のへだてをたて、けはしくうとみあなどりぬるはまよへるばんふの心なり、稟賦の厚薄高下によつて君となり臣下とはな

れ、／＼はんらい骨肉同胞のことはりあれば、たとひわが扶持せぬものなりとも、にくみあなどるべきことにあらず、ましてわがふちするものをばいかにも情ふかく禮義たたくして、あなどりかろしむべからざる道理あきらかなり、大臣は家のおもせ君の腹心なれば、高位大祿をあたへ、おほかたのことをばうちまかせてはからはせ禮義たたくうやまひてなさけふかくあるべし、ただし刑賞威惠の權柄をばかりそめにもかしあづけぬものなり、大臣より下の諸士は其くらゐ／＼ぶん／＼相應のほど／＼をよくふんべつして、眞實になさけふかくあなどりかろしめず、それ／＼の器量をよく見わけてさしつかひ、忠節あるにはその大小輕重にしたがひて、或は褒美をあたへ位をあげ、或は知行を加増して群臣のすゝめとす、士は國の幹、きみの爪牙なれば、その心をうしなふべからざる事勿論なり、さて農工商はくにの寶なれば、一しほあはれみはよくみて、其利を利としてその樂をたのしむやうに政をなすは、君の仁禮をおこなふ大がいなり、臣下は忠をもつて君につかふまつる道とす、忠は二心なくひとすじに君のためのみ思ひ

入、それ／＼の職分をよくつとめてわが身をすて、奉公する徳なり、それ／＼の位によつて奉公の事には大小の差別あれ共忠の心法はおなじものなり、君のおんはおやの恩にひとしくおもき厚恩なれば、おやにつかふるごとく心をつくしてつかふまつる也、親は此かたちをうみ育たるおんなり、君はこの身をやしなひたまふおんなり、おやなければ此身なし、君なければこの身のやしなひなし、みないのちをたもつおんなるゆへに、おやにも君にもいのちをすて、奉公する道理なり、大臣の忠節は其事大なるゆへに大忠と云、小臣の忠節はそのことちいさきゆへに小忠といふ、主君のきらふ事にても君のためくにのため家中のためによき事なれば、しゆくんのかならずおこなひ給ふやうによくいさめをなし、主君のすきこのむ事にても、あしき事なればかならずやめたまふやうによくいさめて、しゆくんの心だて身もちみちにかなひ、國とみゆたかにするながくさかえ給ふやうにと一心におもひ入、わが身のためをばすこしもかへりみず、龍逢比干のいさめて死せる心をまもり、わが身をすて、君のためのみ第一にするを大忠

といふ、是は家老出頭の忠節なり、是非善惡をえらばず、主君の下知にしたがひ一心に君をうやまひ身をすて、そのくらゐ／＼の職分を勤仕するを小忠と云、これは小身なる臣下の忠節なり、軍忠をもつて論すれば、二心なく身をすて、禮義ただしくして、なさけふかく、英雄の心をとる軍兵をなづけ、はかりごとを帷幄のうちにめぐらし勝ことを千里のほかに決し、百戰百勝の功をたつるを大忠といふ、是は軍大將の忠節なり、ふたごころなく身をすて、さきがけをし、鎗をつき首をとるを小忠と云、これは半武者のちうせつなり、さてまた庶人をば刺草の臣しやくさうといふ、そのくに、居て産業をつとめ生理をとぐるは、主君の恩徳なるゆへにふちをかうぶらざれどもしんかと云なり、その國のしをき法度をよくまもり、そのしよくしよくをよくつとめて、年貢公役を懈怠せず、一心に國君をおそれうやまひぬるは、庶人の忠節なり、君は仁禮の徳にしたがひて臣下をつかひ、臣下は忠敬のみちをまもりて君につかふまつり、君臣交泰する道理、天命の本然をのづからある義なるゆへに、五教の第二に君臣有義とときたまへり、

夫は、和義をもて妻をいざなふ道とす、和はしたしみ
 和合する徳なり、義は道理にしたがひて裁判し非道
 をえらびすつる徳なり、大抵夫婦のあひだは愛欲の
 わたくしにおぼれ、義理のさいばんなきによつて、あ
 るひは親子兄弟骨肉のしたしびをも云へだてられ、
 うらみをむすび、あるひは家をやぶり國をうしなふ
 もの、古來そのかすをしらず、また間に夫婦のまじは
 りをむきくにして、作法みぐるしきもあり、これ
 みな人心のまよひなり、それ妻は先妣の嗣、祭祀のた
 すけ子孫相續の寓する所、人倫生々の本始なれば、し
 たしび和合すべき事勿論なり、しかれども義理のさ
 いばんなければ、愛欲のわたくしにおぼれ、家道みだ
 れ別道のつねをうしなふゆへに、和と義とのふたつ
 をあはせて、夫のつまをいざなふ道とす、妻は順正の
 二徳をもて夫につかふる道とす、順は心だて柔順に、
 ものいひかほぶりたちふるまひまでも、やはらかに
 したがふ徳なり、正は義理さほうをただしくまもる
 徳なり、妻は夫を天とたのみ夫の家をわが家となし、
 夫婦一體のことはりなるゆへに、わが本生の父母を
 ば父母とせずして、おつとの父母を父母とする事、聖

人のさだめたまふところにして、不易の天則なり、し
 かるゆへに先舅姑に孝行なるを順正の第一とす、さ
 て貞烈の徳をまもり、女事をよくつとめさほうただ
 しく、おつとの下知にしたがひ、家をとゝのへ子孫を
 そだて宗族を和睦し、家人におんをほどこすは婦徳
 の大がいなり、夫は陽徳にしたがひ、外をおさめ和
 義のとくをあきらかにして、つまをいざなひ、妻は陰
 徳にしたがひ、内をおさめ順正の徳をあきらかにし
 ておつとにしたがひ、男女陰陽内外の差別かくのご
 とくただしければ、父子兄弟子孫臣妾みな相和睦し
 て和氣合同するゆへに、夫婦のみち別を本とす、此道
 理天命の本来をのづからあるゆへに、五教の第三に
 夫婦有別と説給へり、
 弟は、悌をもて兄につかふる道とす、悌は敬ひしたが
 ふとくなり、他人のとしおい、くらゐたかきにつかふ
 るも、おなじことはりなり、他人にても老たるをうや
 まふは道理の當然なり、ましておやの身をわけて我
 にさきだちてうまれたる兄このかみをうやまひ、したがふべ
 きこともちろんなり、兄は恵をもつて弟をひきゆる
 道とす、恵は友愛の二義をかねたり、愛はおやの子を

愛するごとくにねんごろに親を云、友はともだちのたがひに切磋琢磨するごとく、道ををしへあやまちをいましめ、至徳をあきらかにする様に善をせむるを云、他人のとしわかきくらゐいやしきにまじはるもおなじことほりなり、他人にてもいとけなきに恵をほどこし、賤になさけふかくするは道理の當然なり、まして弟はおやの身をわけて分形連氣の人なれば、友愛の恵をほどこすべき事勿論の義也、この道理あきらかにしておこなひがたき事ならねども、世上のまよへる人をみれば、多分兄弟のあひだ他人よりもおろそかなり、わづかのよくのあらそひにて、かたきの思ひをむすぶもあり、分形連氣のことほりをしらず、わが身にて我身をそこなふありさま、愚癡の至極あさましき事なるべし、おなじくおやの身を分て生れたるものなれども、先後の序によつて兄はたつとく、弟はいやしき次第ありて、惠悌の道序を本としておこなふことほり天のさだめ給ふ次第にて、をのづからある道なるゆへに、五教の第四に長幼有_レ序と説給へり、

朋友は、たがひに信をもて相まじはる道とす、信はい

つはりなく義理にかなふ徳なり、友達のまじはりに心友面友の差別、情義の親疎さまありといへども、畢竟はみな信のみちを本とす、たがひのこゝろざしおなじくまじはりしたしむを心友といふ、こゝろざしはちがひぬれども筋目あるか、或は同郷隣家、あるひは同官同職などにて、さいく相まじはりてしたしきを面友といふ、一目しる人も面友のうちなり、心友面友ともに情義の親疎おなじからず、そのほどほどの義理にしたがびて、威義うやくしく挨拶和厚にしていつはりなく、もちろん約束などのすこしも違變なきが信のみちの大がいなり、世俗はわが心に眞實におもひ入たることをば是非善惡をわかつたす信なりと思へり、大きな心得ぞこなひなり、たとひ眞實におもひいれざることにても、義理にかなふを信といふ、眞實に思ひいれたる事にても道にそむきたるをば人欲のいつはり云ものなり、世上の人のまじはりを見るに、信のみにかなひたるはまれなり、信のみにだにかなひぬれば、たがひにいのちの用にもたつものなり、まして通財の義あれば、財寶の用にたつこと勿論也、しかるゆへにともだちのかた

きをもうつ法あり、さて心友のまじはりは、善をせめてたがひに至徳の靈寶をみがきあきらむるが肝要なり、朋友たるもの、われも人もみな眞實無妄の天道を大父母としてうまれたるものなれば、かたちをもつてみれば他人なれども、道よりみれば同胞のことはりあれば、眞實無妄の信のみちをまもりて、骨肉のおもひをなす、これすなはち天命の本然をのづからある道理なれば、五教の第五に朋友有信と説たまへり、○牀充曰、聖人五教を論じたまふ次第にも、意もち御座候や、

師の曰、ふかき意御入候父子の親は、萬化のみなもと天叙の本なり、君臣の義は立極の大義明倫の主本なり、夫婦の別は人倫化生のもと、子孫相續のはじめなり、この三つのものは、五倫のうちにての綱要なるゆへに三綱となづけたり、しかるゆへに三綱を先はじめに論じたまふ、さて三綱のうちにて父子のみちは天性にて君臣の義を包たり、そのうへ五りんのみちみな孝行の條目なれば、孝は人極の第一義なるによつて、一番に父子有親とをしへ給ふ、君はおやの恩にひとしきゆへに、おやにつかふる孝をうつして君

につかふまつる忠節となす、其うへ明倫の主本なるによつて、第二ばんに君臣有義とをしへ給ふ、夫婦の別もおもしろいへども、君父よりはいやしきによつて、第三番に夫婦有別とをしへたまふ、兄弟は、天倫のしたしび骨肉同胞の愛おもきゆへに、第四番に長幼有序とをしへたまふ、朋友は異親同氣の兄弟なれども、天倫同胞のしたしみよりはかろきによつて、第五番に朋友有信とをしへ給ふ、さてまた父子の親をはじめにおき給ひて、朋友の信を終にをきたまふころは、孝は三極の至要百行のみなもとにして、五典みな孝行なることをしめさんために、父子の親をはじめにしへ給て、さて孝徳をあきらかにするには、朋友の善をせむるをたすけとする事をしめさんために、朋友の信をおほりにをしへ給ふ、曾子の以友輔仁といへるものころなり、畢竟五教みな孝行のをしへなり、ただ凡夫のために五典十義をわけてしめしたまふなり、至徳要道三才一貫の心法よく受用あるべし、

○牀充問曰、今生はかりの住居にて、五倫のまじはり夢幻のごとくなれば、五典をよくおこなふもゆめの

うちのいとなみにて候へば、さして至徳要道と云べきにもあらず、五典のほかに別に向上の道あるべしとぞんじ候はいかが、

師の曰、それは狂者の議論をきゝならひておこるうたがひにて候、狂者は道の皮膚をみていまだ骨髓をよくさとらざるゆへに、生死幽明有無の差別をわけてをしへを立たり、その破裂の見を聖人異端と名づけたまひて、是に似たる非と云ものなり、ぼんふの見所にくらべぬれば、ことの外たかく候へども、聖人のみちよりみればあさきことにて候、妄念の起滅をゆめのごとしまぼろしのごとしなどいはんは尤にて候、五倫のみちは至誠無息の孝徳なるを妄念とおなじく、夢幻のごとしといはんはあさましきあやまり物體なき事なり、夫孝徳は中和を體段とし愛敬を本實とす、方寸のうちにそなはりて、太虚に充塞し六合を包羅し、上は無始の往古に達し、下は無窮の未來に徹し、生死幽明有無のしやべつなく、上もなく外もなき神道なるゆへに、至徳要道となづけたまふ、しかるゆへに五倫のみちすなはち向上のみち、向上のみちすなはち五倫のみちとたてさだめ、素_ニ其位_一

而行不_レ願_ニ乎其外_一下學而上達する一貫の心法不貳の妙理なり、現在當然の五典をほかにして、別に向上の一路をもとむるは、たとへば日月をそむきて灯をもちゆるにことならず、聖人のみち世にあきらかならざるによつて、異教にならひそまり、さやうにあさましきうたがひあり、儒門に入てまよひを辨べきこと、人間第一の急務にて候、

○牀充問曰、世間のがくもんする人を見るに、さして學問のしるしといふべき益なし、かへつて形氣あしく異風になる人ありとみえたり、所詮がくもんはせぬがましかとぞんじ候はいかが、

師の曰、にんげんの生れつきさまゝありといへども、大體のおふわけは五品につづまれり、聖人一品、賢人一品、知者一ひん、愚者一品、不肖者一品、凡て五品なり、この五品のうち聖人は生知安行とてがくもんせずして徳をしり道をおこなひたまふ人なり、聖人より下はがくもんせざれば徳をしり道をおこなふ事あたはず、人間に生れて徳をしり道をおこなはざれば、人面獸心とて、かたちはにんげんなれども、心はけだものとおなじことにて、至誠無息の神理をと

りうしなひ、世俗の諺に人の皮をかぶりたる犬といへるごとく、いとあさましきことなれば、がくもんは人間第一の急務にして、なさでかなはぬことにて候へども、正眞のがくもんはよく知てをしゆる人まれなれば、まなぶ人もすくなし、世間にとりはやす學問は多分にせにて候、にせのがくもんをすればなにの益もなく、かへつて形氣^{かなづ}あしく異風になるものなり、がくもんは正眞賢のわかちあることをわきまへざる人は、不審も尤にて候、

○牒充曰、がくもんはみなひとつなりとこそ存候へ、しかるに正眞と贗と二色ありとおほせられ候は、いかなる差別にて御座候や、

師の曰、正眞のがくもんは伏犧のをしへはじめ給ふ儒道なり、むかしはをしへもがくもんも、此しやうじんの外はなかりしに、世のするゑになりていつとなくもろこしにもえびすぐに、も、學問のにせあまた出来てより、贗がちになりて、正眞は衰微するなり、もろこしにも一たびはにせものばかり時めきて、正眞をばとりうしなひたる事あり、正眞をまなびてさへまなびぞこなひあるものなれば、ましてにせの學問

をしては、心だてさほうあしくなりぬる事尤にて候、○牒充曰、にせのがくもんやらんは、刀わきざしなどににせあるごとく、正眞の名をかり、もようをにせて人をたぶらかす事にて御座候や、

師の曰、さやうにきたなき心あるにてはなく候、こんはんはみな正眞を信仰しまなびて、名をかり摸樣にせ利よくをもとむる心は露もなければ、生れつきと習ひと志とにさま／＼かはりあるによつて心ならず得がたへかたむきになりて、その心にはわがまなび得たるところを正眞なりと眞實に思ひぬれども、正眞をまなびえたる人のまなこよりみれば、似てにぬことにて候ゆへに、にせとは申候、正眞をまなびても志しにすこしちがひあれば、おぼえずわきみちへゆきてにせとなり候へば、にせをまなびて千萬里のちがひとなり候事、おしあきらめらるべし、

○牒充曰、にせのがくもんは、なに／＼にておはしまし候や、

師の曰、先をしへとがくもんのほんいをよくわきまへて、正眞にせのさをあきらむべし、をしへもがくもんもみな天道を根本準的とするゆへに、もろこし

にても夷國にても、世界のうちにてをしへまなぶところのみち、天道の神理にかなひぬるを正眞のをしへとし、學もんとし儒教となづけ儒學といふなり、天道の神理にそむきぬるはにせのがくもんなり、そのうちにてよく似たるにせは、俗儒墨家楊氏老氏佛氏などにて候、俗儒は儒道の書物をよみ訓話をおぼえ、記誦詞章をもつはらとし、耳にき、口に説ばかりにて徳をしり道をおこなはざるものなり、墨家は儒道の至公博愛の仁をまなびそこなひて、本末先後の序をみだるもの也、楊氏は、爲己慎獨の密をまなびそこなひて、一貫の眞をうしなふものなり、老氏佛氏は、無方無體の神易の皮膚をみて、中和の骨髓をうしなふもの也、このうちにて日本へ流傳してひろまりたるは、俗儒と佛氏と二いろなり、ふたつのうちにて世ぞくのものはらがくもんといへるは、俗儒の記誦詞章也、俗儒のがくもんは、正眞のがくもんにことのほかちかく候へども、志しの立やうとがくもんの仕様にて、千萬里のあやまりとなれり、つゝしみゑらぶべきことにて候、

○牀充曰、記誦詞章のがくもんとは、いかやうなる學

問にて御座候や、

師の曰、四書五經そのほか諸子百家の書をのこらずよみおぼえ、文をかき詩をつくり、口耳をかざり利祿のもとめとのみして、心の驕慢いとふかきを俗儒の記誦詞章のがくもんといふなり、

○牀充曰、正眞のがくもんは、いかやうなるがくもんにて御座候や、

師の曰、まづ明德をあきらかにするをこゝろざしの根本とたてさだめ、四書五經の心を師とし、應事接物の境界を礪石となして、明德の寶珠をみがき、五等の孝行五倫のみちの至善をよくおこなひ、太和を保合して利貞なれば、時に逢てもちいらるゝときは、四海をただし天下をおさめ、伊尹太公の事業をなし、時にあはずして窮する時は、ひとりその身をよくし性を盡し、命にいたりて孔孟の教化をなす、かくのごとくまなぶを正眞のがくもん云なり、

○牀充曰、俗儒のよむ書も四書五經、眞儒のよむ書も四書五經にて候はば、がくもんにさのみちがひはあるまじきことにて候、よむ書物がおなじものにて候あひだ、俗儒のがくもんにて益なく候はば、眞儒の

かくもんにてもなきあるまじくと存候、師の曰、神理の精微をきわめずしては、心迹の差別しりわけがたく候へば、ふしんも尤にて候、四書五經に心と迹と訓詁とみつのしやべつあり、聖賢の口にのべたまふ辭と身におこなひたまふ事の二つを迹と云、その口にのべ身におこなひたまふところの本意の至善を心といふ也、心は無方無體、無聲無臭にして、書付る事あたはざるゆへに、只あとはかりをかきつけて、そのあとのうちにふくみそなへて、後世のをしへとなせり、そのあとのうちにそなはりたる心を、四書五經のこゝろといふなり、そのあとをかきのせたる四書五經の文字のことはりを訓詁と云なり、其訓詁をまなび、其あとをよくわきまへ、その心をよくとりもちひて、わが心の師範となし、意を誠にし心をただしくすれば、聖賢の心す^まはちわが心となり、我心すなはちせいけんの心にたがはず、心聖賢の心にたがはざれば、言行すなはち聖賢時中の言行にそむかず、かやうにまなぶを正眞のがくもんと云なり、聖賢四書五經の心をかみとして、我心をただしくするは始終ことごとく心のうへの學なれば、心學とも云

なり、此心學をよくつとめぬれば、平人より聖人のくらゐにいたるものにて候ゆへに、また聖學とも云なり、俗儒は訓詁ばかりを耳に聞おぼえ口に云までにて、迹の精義をさへわきまへざれば、まして心をとて師とすることは、ゆめにも見ざるゆへに、四書五經をよむといへども、訓詁を記誦して口耳のかざりとなすばかりにて、心はもとの木椀^{もくわん}に自滿の垢のしみつきたるものなれば、益はなくて却てあしくなり候事尤にて候、聖賢四書五經の心を師として、我心をただしうすることをば、いさゝか心がけずして博學にはこるをのみつとめとし、耳にきゝ口に云ばかりにて口耳のあひだのがくもんなれば、心學とはいはずして口耳の學とも云なり、此口耳の學にてはなにほど博學多才にても、心だて身もちは世ぞくの凡夫にかはる事なければ、また俗學とも云なり、四書五經に心迹訓詁のしやべつあることをよく辨^わへぬれば、おなじ書物をよみて正眞質のかはりある事はすして分明に候、

○躰充曰、正眞のがくもんをつかまつり候ては、いかやうなる益おはしまし候や、くはしくうけたまはり

たくぞんじ候、

師の曰、正眞の學問をして成就すれば、心あきらかに身おさまりて、人間のねがふ程の事になはぬ事はなく候、これほどに益のある事はまたよにあるべしとおぼえず、すこしまなび候ても、それほどの益あるものにて候、

○躰充曰、おほせ候ところまことしからず存候、にんげんのねがひ品あまたおはしまし候へども、つづまるところは、才徳功業の人にすぐれ、富貴長生の心のまゝならんことをねがふよりほかはなし、かくもんにて才徳功業の人にすぐれ候はんことはげにもにて御座候、富貴長生をねがひのまゝに得候はんことはなり申まじきとぞんじ候、孔子はくらゐをえたまはず、顔子は簞瓢陋巷、不幸短命なりとうけたまはりおよび候へば、古來聖賢にんげんのねがひを、おもひのまゝに得たまはず候こと分明に御座候へば、おほせ候ところ信をとりがたく候、

師の曰、これにも心迹の差別あり、迹ばかりをみてはうたがひも尤にて候、心にて見候へばふしんはすこしもなく候、聖賢の心は富貴をねがはず、貧賤をいと

はず、生をこのまず、死をにくまず、福をもとめず、禍をさけず、唯身をたて道をおこなひたまふばかりにて、ぼんふのねがひは毛頭なければ、をのづからねがひのまゝにて、凡夫のねがひをおもひのまゝにともめ得たるよりは、一くらゐまさりたる心のたのしみ有、そのうへ凡夫のねがふ富貴は小富貴と云てちいさき富貴也、小富貴のほかに至富貴とて廣大無類なる富貴あり、此大富貴はぼんふの目にはみえぬゆへにもとめねがふことなし、聖賢は此大富貴をおもひのまゝに得たまふによつて、小富貴をばわすれたまひて、求めねがひたまはねば、疏食飲水、簞瓢陋巷の貧賤に居たまひても、無上の眞樂つねに泰然とありて、凡夫の小富貴を得たるたのしみとおなじ、口にもかたるべき事にあらず、これおもひのまゝなる富貴にあらずや、聖人の明德は、至誠無息、長在不滅にして、かたち死してもほろびず、天地おはつても壽おはらざるものなれば、彭祖が七百歳、喬松が千年も長生とするにたらず、これおもひのまゝなる長生にあらずや、ぼんふはあとになづみてろんずるによつて、まよひたるうたがひばかりなり、こゝろのうへにてろん

すれば、なにのふしんもなく候、

○躰充曰、眞儒のすぎはひには、なにたる所作をつかまつるものにて御座候や、

師の曰、儒道をおこなふ人は、天子・諸侯・卿大夫・士・庶人なり、此五等の人のよく至德要道を保合するを眞儒と云なり、しかるゆへに天子・諸侯・卿大夫・士・庶人のしよさがすなはち眞儒のすぎはひにて候、五等の所作のほかのすぎはひは天命本然の生理にあらず、至德要道を保合する眞儒は、五等のうちに貴賤貧富をえらばず、運命のほどにまかせて、無逸のつとめをばげまし、外のねがひ毛頭なきゆへに、富貴にてもおごらず、貧賤にても諂はず、ただ天理の眞樂をたのしむほかは他事なく候、

○躰充曰、左候はば俗儒のがくもんをしへてすぎはひにするは、ひが事にておはしまし候や、

師の曰、教をすぎはひとするは、司徒、教官の屬にてさふらいのなすわざなれば、僻事にてはなく候へども、ただ其心もち身のおこなひとをしへやうにひがごとあるなり、をしへやうだによく候へば、有難眞儒にて候、其心もち身のおこなひ道なきうへに、又教

やうあしきによつて俗儒の譏あるなれば、産業にするはよく候へども、教やうにひがことありと知べし、

翁問答卷二「原本、上卷之末」

○牀充問曰、文武は車の兩輪鳥の兩翼のごとしと申ならはし候へば、文と武とは二色にて御座候や、さて又いかやうなるものを文武とは申候や、

師の曰、文の武に世ぞく大きな心得そこなひ候、世ぞくは、うたをよみ詩をつくり、文筆に達し氣だてものやはらかに花車きやしゃなるを文といひ、弓馬兵法軍法をならひしり、氣だてたけくいかつなるを武と云ならはせり、みな似たる事のにぬことにて候、元來文武は一德にして各別なるものにてはなく候、天地の造化一氣にして陰陽のしやべつあるごとく、人性の感通一德にして文武の差別あれば、武なき文は眞實の文にあらず、文なき武は眞實の武にあらず、陰は陽の根となり、陽は陰の根となるごとく、文は武の根となり、武は文の根となるなり、天を經とし地を緯として天下國家をよくおさめて五倫のみちをただしうするを文といふ、天命をおそれざるあくぎやく無道のものありて、文道をさまたぐる時は、あるひは刑罰にて懲

し、あるひは軍をおこし征伐して、天下一統の治をなすを武と云、しかる故に戈を止といふ二字をあはせて武の字をつくりたり、文道をおこなはんための武道なれば、武道の根は文なり、武道の威をもちいておさむる文道なれば、文道の根は武なり、そのほか萬事に文武の二ははなれざるものなり、孝悌忠信の道をただしくおこなふは文なり、孝悌忠信のさはりとなるものを退治して、つとめおこなふは武なり、たとへば春夏の陽ばかりにて秋冬の陰なく、秋冬の陰ばかりにて春夏の陽なければ、萬物を生成する造化成就する事なし、陰陽二氣しやべつありといへども、本來同一元氣の流行なるごとく、元來文武同一明德なれば、武ばかりにて文なきは秋冬の陰のみにして春夏の陽なきがごとし、文ばかりにて武なきは春夏の陽のみにして秋冬の陰なきがごとし、文は仁道の異名、武は義道の異名なり、仁と義はおなじく人性の一德なるによつて、文武もおなじく一德にして各別なるものにあらず、仁義の德をよくさととりて文武のさをあきらむべし、仁にそむきたる文は、名は文なれども實は文にあらず、義にそむきたる武は、名は武なれ

ども實は武にあらず、文武の正味をよくかみわけざれば、心の闇いとくらく萬事のさほりおほかるべし、さてまた文武に徳と藝との本末あり、仁は文の徳にして文藝の根本なり、文學・禮樂・書數は藝にして文徳の枝葉なり、義は武の徳にして武藝の根本なり、軍・法・射・御・兵法などは藝にして武徳の枝葉なり、根本

の徳を第一につとめまなび、枝葉の藝を第二にならひ、本末かねそなはり、文武合一なるを眞實の文武といひ、眞實の儒者といふ也、文藝ありて文徳なきは武道の役にたはず、たとへば根なき草木の實をむすぶことあたはざるがごとし、氣だてやはらかにたちふるまひ花車なるを文といひ、たけくいかつなるを武用にかひくしかるべきなどいへるは、あさましき鼻のさきなる目論なり、見かけはやはらかにうわだるみし、ぬかりたるものに武用かひくしき人あり、これを沈勇となづけたり、世間の武功ある人を見るに大概この沈勇おほし、見かけはおにがみのやうにたけくいかつにして拔群に臆病なる人あり、これを羊質虎皮とたとへたり、ひつじはむしもふみころさざるやはらかなるけだもの也、虎は人をもけだもの

をもくいころすたけき獸なり、ひつじにとらの皮をきせてみれば、みかけはたけくすさまじけれども、したちがひつじなるによつて、見かけにちがひていとあさましきふるまひなりと云こゝろなり、かくのごとくのためしは眼前にたくさんなれども、目明する人世にまれなりとみえたり、

○躰充曰、左候はば武藝文藝はいらぬものにて御座候や、

師の曰、それはあしき心得にて候、本をすてゝするばかりをもとめまなぶがひがことなりといふことにて候、根本の仁義を立てのうへに文藝武藝に長じぬるは、本末かねそなはる多能の君子にて、せぞくのことわざにいへる花も實もある人なり、本たつての上には文藝武藝ことのほか重寶なり、本末先後のこゝろへ簡要にて候、

○躰充曰、ほんまつかねそなはる事ならざるものは、いかがつかまつり候はんや、

師の曰、末をすてゝ本をまなびたるがよく候、文藝をしらずして文道をよくおこなひ、武藝をしらずして武功をたてたる人古來おほし、これみな本を第一に

つとめたるゆへにて候、よく／＼こゝろうべき事なり、

○牀充曰、沈勇が世けんにおほしとおほせられ候へば、見かけのぬるきものを武用にかい／＼しかるべきと見たて候はんや、

師の曰、それものはなのさきなる心得にて候、沈勇がせけんにおほしといふは、見かけはなのさきのもくろみにてはしれぬものなりといふことなり、見かけのぬるきものに臆病なるもあるべし、またけなげなるもあるべし、みかけのたけきにおくびやうなるもあるべし、又かい／＼しきもあるべし、たいみかけに泥ます、そのこゝろの勇怯を察するが目明めあきのまなこにて候、

○牀充問曰、勇に仁義の勇血氣の勇とて二つありとつけたまはり候、いかやうなる差別にておはしまし候や、

師の曰、明德のあきらかなる君子は、義理をまほり道をおこなふほかには毛頭もうとうねがふことなく、欲心のまよひすこしもなきゆへに、義理をたて道をおこなひ、主親のために命をおしまざること、やぶれたる屍わらわを

すつるがごとくなれば、毛頭死をおそれ生をむさぶる心なし、しかるゆへに天地のあひだに何にてもおそるべきものなし、千萬人の敵にあひても虎狼の狐狸にむかへるがごとく、すこしもおそるゝ心なし、おそるゝことなきがけなげの至極にて候、明德の仁義あきらかなれば、この勇仁義のうちにをのづからそなはりてあるものなるによつて仁義の勇といふ也、かくのごとく天下に敵なき至大なる勇なれば、また大勇ともなづけたり、まへに論ずる眞實の武がすなはち此大勇なり、血氣の勇は道理無理義不義のわきまへなく、只かたむきに猛くして人にかち物をおそれざるばかりなれば、虎狼のけなげにひとしく、かへつて人道の碍さへりともなれり、けなげにして死をおそれざることは仁義の勇に似たれども、道理無理義不義のわきまへなく、たゞ血氣にまかせてかたむきなれば、虎狼のふるまひいとあさましく、位あるものは亂をおこし、貧ものはぬす人をなす、さてまたよく心ふかきゆへに、よくのためにおそるゝ心おくびやうなるものゝ死をおそるゝにことならず、血氣の勇者は畢竟よくを本とするゆへに、勝いくさには武勇をは

げみ忠節のふり一段みごとなれ共、敗軍の時はその主君をすてゝあさましきふるまいある武編者古來おほし、かくのごとくなればたゞ血氣ばかりの勇にして、義理の用にたゞざれば血氣の勇といふ、血氣のたけきばかりにて、よくのおそれふかければ、三才一貫の大道をおこなふ用にはたゞずして、小體血氣の役に立ばかりなれば、また小勇ともなづけたり、

○牀充曰、大勇小勇にもちひやう御座候や、

師の曰、大勇はもちひてあしきところなく、またもちひてあしき時なし、行住坐臥五倫のまじはり、大勇なくては道をおこなふことあたはず、軍陣にては大將にしてもはむしやにして、よろしく候、小勇の人は武用ばかりの役にたつまでにて、はむしやにはよく候へども、大將にはよろしからず、むかしより倭漢ともに小勇の大將勝利をうしなふ事あげてかぞふべからず、つゝしむへき事なり、

○牀充問曰、軍法にはいろ／＼ならひありて、其流おほしとうけたまはり候、大將たる人のしらでかなはぬ事にて御座候や、

師の曰、軍法は大將のしらでかなはぬ事にて候、大將

の軍法をしらざるは、たとへば矢はぎの矢をはぐほうをしらざるがごとし、軍法を人のかたちにとへていへば、仁は心なり、規てんきんちうかん鬘用もんよう間はまなこなり、奇正は手足なり、旌旗金鼓兵具のこしらへ、もちひやうのさほう、日どりなどは、皮膚毛髪なり、しかるにおほかたの人の心得には、皮膚毛髪ばかりを軍法なりとおもへり、しかるゆへに其流おほしといへり、旌旗金鼓兵具のこしらへ、もちひやうの作法日どりなどは、その家々の制度ありて其流あまた候、これは皮膚毛髪なれば、いづれをよしともあしゝともさだむからべず、所により時により人によりて考へさだめたるがよく候、むかしよりつたへきたる流をくまずして、その大將の作分にてあたらしくさだめたるもよろし、さして勝負のかまひにならざるゆへにその流あまたありと知べし、規鬘用間奇正は勝負の眼目手足なれば、只おなじく一術にして、流によつてかはると云ことはなく候、此眼目あきらかに手足達者なれば、百戦百勝の功をたつるゆへに名大將と云なり、此眼目くらく手足かなはざれば、敗軍のをくれをとるばかりなるゆへにあしき大將と云なり、しかるに

此眼目手足をば霧もさとせず、たゞ皮膚毛髪ばかりを軍法なりとこゝろへたらんは無下にあさまし、夫軍法陣圖は、本來易よりおこり黃帝の御代にまつたくそなはり、太公諸葛など代々の諸賢傳受しきたれり、日本にてかながきになをしたるにはあやまりお

ほし、たゞ本書をよくまなびたるがよく候、軍法陣圖をありのまゝに心得たるふんにては、馬のめきゝを段の繪圖にてならひおぼえたるとおなじこと也、愚かにして物のまにあはぬことを按圖索驥とたとへたり、むかしもろこしに名大將あり、その子よくちゝの書をよみならひぬれども、臨機應變の覺悟なきによつて、おや死してのち大將となる、大敗軍して天下のわらひぐさとなれり、これすなはち眼目手足の工夫なく、徒に皮膚毛髪ばかりをもつはらとつとめまなぶゆへなり、軍法をまなばんとおもふ人は、先眞儒の門に入て文武合一の明德をあきらかにして、根本を立て後に軍法の本書をまなび、眼目手足の工夫をもつはらとすべき事簡要なり、これはまことに武家第一の急務にて候、

○牀充曰、儒門の心學をきはめずしても、軍法に達し

軍功をたてゝその名たかき大將、倭漢ともに古來おほく御座候へば、心學のみがきなくても軍法のまなびはなり申べく候、しかるにまづ儒門の心學をきはめてのちに、軍法をまなびたるがよしとおほせられ候は不審にぞんじ候、

師の曰、よきうたがひにて候、大將の才を逞しくうまれつきたる人は、心學のみがきなくても軍法に達し軍功をば立るといへども、その徳なきゆへに、才のたくましきにまよひ、かならず人をころす事をこのみ、不義無道のふるまひあれば、萬民その毒にあたりなげきかなしむによつて、終には天罰をかうぶり、其身もほろび國もかならず絶滅するものなり、その證據はもろこしにてもわが朝にても、其徳なくて才のみ逞しき大將に、其身難なく子孫繁昌したる人まれ也、倭漢の史書にて考へ見るべし、夫軍法のほむいは國家安穩武運長久にして、萬民をめぐまんためなるに、かへつてばんみんもその毒にあたり、其身のうんもつき國家も絶滅する基となれば、軍法に達しぐんこうをたつるも、畢竟は無益のいたづら事なり、其上陰謀をのみもつはらとし、詐力に任して仁義の徳な

きは、たとひ韓信項羽の才ありといふとも、節制の敵にさへ盾つくことあたはず、まして仁義の師に敵せんこと立車にむかへる螳螂にことならず、太白陰經に齊の伎撃は魏の武卒にあふべからず、魏の武卒は秦の銳士に勝ことあたはず、秦の銳士は桓文の節制にあたるべからず、桓文の節制は湯武の仁義に敵すべからずといへるこゝろよく玩味あるべし、しかるゆへに孫子の五事はみちを第一とし、呉子の兵法は和をもつて先とす、道といへるも和といへるもみな仁義の徳のことなり、儒門の心學の外に此徳をあきらかにすべき道なければ、心學をつとめその徳をあきらかにして、のちに軍法をまなびたるがよしと云事分明なり、とても軍法を學ばんとならば、天下に敵なき仁者の軍法をまなびたるがよろしかるべきか、

○躰充問曰、士のぎんみはいかやうにつかまつるものにて御座候や、世間の諸侯の諸士をかへ給ふをみるに、吟味ある様には候へども、ぎんみのさほうさだまりたる事ありとはみえ申さず候、我々の見および候は只よきひいき、つてのあるものが、よきさぶ

らいと、もてなされて、たかちぎやうをとり申かとぞんじ候は如何、

師の曰、それはわがぐちと云ものにて、道の議論にはなく候、君たるほどの人は、よく／＼ぎんみして、よき士をかへたくはおもひ給ひ候へども、せけんの風俗あしくぎんみのさほうあきらかならざるゆへに、心ならずぶぎんみになりもてゆくともえたり、根本さふらいの品上中下の三だんあり、明徳十分にあきらかに、名利私欲のわづらひなく、仁義の大勇ありて文武かねそなはりたるを上とす、十分に明徳はあきらかならねども、財寶利欲の迷なく、功名節義を身にかへて守りぬるを中とす、おもてむきばかり義理だてをして、心には財寶利欲立身をのみむさぶりぬるを下とす、此下品のくせもの澤山にときめくともえたり、君たる人の御用心あるべきことにて候、さて諸士をぎんみするかなめ三つあり、徳と才能と功となり、三つのうちいづれにも上中下有、徳は文武合一の明徳なり、才能はてんか國家の萬事をとりおこなふ文藝武藝の才智藝能なり、功は或は天下國家のしをきの功をつみ、或は奉公奔走の功をなし、或は天

下國家の難をはらい、或は天下國家のためになる事を始てつくり出し、あるひは大敵をほろぼし武功をたつるなど皆功なり、徳と才と功と三つをぎんみの柱とさだめ、上中下のしなによつて、その分際相應の知行をあたへ官職をさづくるが、古來さぶらいのぎんみをする掟にて候、今も才と功とのとりざたは候へども、徳のさたしる人まれなりとみえたり、

○躰充曰、いま時の功と才とのぎんみは、むかしの掟によくかなひ申候や、

師の曰、功と才との名はむかしとひとつにて候へども、ぎんみのしやうあしきゆへか、人のてくる上手になりたるゆへか、むかしのおきてにかなふ事はすくなく候、

○躰充曰、むかしのおきてはいかゞおはしまし候や、師の曰、むかしのおきては才も功も徳を根本とし、徳は中和をもつて大本とす、才も功も義理にかなはねば眞實の才功にあらず、さて君たる人の心がおきての鏡にて候、此鏡くもり候ては何のぎんみもあやまるばかりなれば、人君のこゝろをあきらかにして、おきてのかいみとさだめ、才と功と徳の正眞實、上中下

のしなさだめ、鏡のかげをてらすごとく毛頭あやまりなければ、諸士のてくるをのづからなくなり、眞實の徳と才と功にちからをばげまし、正眞のちうせつをつくすものなり、これむかしのおきての眼なり、なにはどよきおきてありても、主君のこゝろくらければ、其おきて用にたゝぬ物にて候へば、君たる人はちおそるべき事也、

○躰充問曰、臣下をばいかやうにつかいたるがよく御座候や、

師の曰、主君の臣下をさしつかふ本意は、公明博愛の心をもとゝして、かりそめにも人をえらびすてず、賢智愚不肖その分々相應の用捨にわたくしなく、道徳才智ある賢人をば高位にあげ、しをき萬事の談合はしらとし、才徳なき愚不肖にもかならず得たることあるものなり、そのえたる所をよく見しり、ぶん／＼相應のくらゐにおきてさしつかひぬれば、人間に用いたゝぬものはなきものにて候、つかひやうあしきによつてよきものも用にたゝぬと心得べし、大工の家をたつる材木のつかひやうにて合點あるべし、また才智拔群の人にも無得てなることかならずあるも

のなり、それも見分てえぬことにはさしつかはぬがよろしく候、氣に入たる出頭人なれば、得たることえざることのぎんみなく、また人もなげにさしつかひ、あひくちあしければ、その人のえたることにもさしつかはざるは、みなひがことにて候、君のまへちかくさしつかふべきほどのさふらいをば、いづれをも直にさしつかひてこそ人がらをも心だてをも見しるべけれ、たい人づてにいひつぎてさしつかひたる分にては、よきもあしきもしるべきやうなし、しかるゆへに出頭のものゝとりなしにのみ聞あやかるばかりなり、かやうのあやまりみな主君の心くらきまよひよりおこれり、主君の臣下をさしつかふは、たとへば磁石のはりをすふがごとし、火はかはけるにつき水はうるおへるにながるゝことわりなれば、磁石のくろがねならではすはざるごとく、しゆくんの心とおなじき人ならではつかいたまはぬものなり、心のくろきしゆくんは何ほどよきさぶらいをあつめをきてもそれをばもちひず、只君の心にひとしくくらきくせものばかりをさしつかひたまふものなり、しかるゆへによきさぶらいその家中にありてもなきにおな

じ、主君の心あきらかなれば、その心によくかなひたるよき士ならでは、さしつかいたまはぬゆへに、くせものもよくにふけり、惡をはちていつとなくよくなるものなれば、あしきくせもの其家中にありてもなきにひとし、臣下のよきもあしきも國のみだるゝも、おさまるも、畢竟主君のこゝろひとつにあり、まことにこゝろざしあるべき事にて候、

○躰充問曰、法度はかすおほくきびしくしたるがよく御座候や、

師の曰、しをき法度の箇條はところによりときによりてさだむるものなれば、おほきがよきともすくなきがよきともさだむべからず、またきびしくしてよきこともあり、緩してよきこともあれば、きびしきがよしともゆるきがよしともさだむべからず、たい時とところとくらゐとに相おうじたる道理にしたがひたるがよく候、しをき法度にも本末あり、君のこゝろあきらかにして道をおこなひ、國中の手本かゝみとさだめたまふが政の根本なり、法度の箇條はまつりごとの枝葉なり、君のこのむことをばその下々みなまねをするものなれば、君の心あきらかに道をおこ

なひたまひぬれば、法度はなくてもをのづから人のこゝろよくなるものなり、まして法度をよくさだめ、そむくものをば刑罰にてこらし、本も末もたゞしくしてよくおこなひぬれば、國とみさかへ長久にあるものなり、本をすてゝ末ばかりにておさむるを法治といひてよろしからず、法治はかならず箇條あまたありてきびしきものなり、秦の始皇のしをきが法治の至極したるものなり、法治はきびしきほどみだるるものなり、始皇の代をかゝみとしてみるべし、本來まつりごととはかすすくなく、時相應の至善にかなひおほやうなるを本とす、今時のやうにくらくまよひたる人の心をおさむるを、混水（にぎ）をすますにたとへたり、なにかといふほど濁がますものなり、いろはすにしづめてをけば、そのごみをのづからしづみてうへよりすむがごとし、徳治法治の分別よく／＼得心あるべし、徳治は先我心を正くして人の心をただしくするもの也、たとへば大工のすみがね、その體ろくにしてもものゝゆがみをなすがごとし、法治は我心はたいしからずして人の心をたいしくせんとするものなり、たとへば諺にいへるしやくし繩規なる

べし、君の心あきらかなれば、ぎんみたくしく法度道あるゆへに、末ながくかはらず、君の心くらければ萬事ぶぎんみなるによつて、その法度さい／＼あらためかはるものなり、

○躰充曰、しをきのかくもんはいかやうにしたるがよくおはしまし候や、またさだまりたるよき法度も御座候や、

師の曰、しをきの學問はすなはち儒學なり、眞儒にしたがひてまなびたるがよく候、よき法度は活法として事をさしてさだめぬものにて候、一偏にさだまりたるをば死法といひて用にたゝぬものなり、法度にも心逆の差別あり、周禮などに記したる事は聖人天時地利人情の至善をはかりて、さだめたまふ法度のあととなり、其あとのうちにそなはりたるところの本意を心と云、そのあとによつて立法の本意をよくさとり、當代の法度をさだむるかゝみとし、その事のあとになづまず、聖人の心によくかなふを至善の活法とす、其こゝろをばわきまへずして、事の跡ばかりを手本としてまねをするを膠柱の死法と云て、おろかにして用にたゝず、それしをき法度は主君の明德をあ

きらかにして根本をさだめ、周禮などにしるしをきたる聖人の成法をかんがへて、その本意をさとりまつりごとのかゝみとし、時と所と位と三才相應の至善をよく分別して萬古不易の中庸をおこなふを眼とす、義理にて論じては合點ゆきがたければ、目のまへなることにたとへて體認したるがよく候、しかるゆへに禮記にしをきの仕様を耕作の事をかりて議論發明あれば、耕作にたとへて見たるがよく候、時とは天の時、春夏秋冬運命の否泰をいふなり、たとへばふゆ田をうち種をふせ、耕作のさほうをよくつとめても用にたゝぬものなり、これは耕作のしやうあしきによつて用にたゝぬにてはなく候、たゞ時のちがひたるにて勞して功なく候、これにて學問もまつりごと、運命氣數の時の宜をしるが第一なる事をあきらむべし、耕作の時いたりても畠に稻をうへ、田に豆を藝ては、なにほど精にいれ糞をし、修理をしてもぞだたぬものにて候、これは時もよく耕作のしやうもよけれども、ところのちがひたるにて用にたゝぬにて候、これにてがくもんもしをきも水土の地利をしるが肝要なることをあきらむべし、耕作の時いたり田

に稻をうへ、畠に菽をうへて天時地利みなよくかなひ候ても、他人の田畠にうへつけぬれば、我用にたゝぬうへにかへつてぬす人のとがめあるべし、これは時もところもよけれども、わがくらゐの分際になきことをするゆへなり、これにてがくもんも政も人位のぶんを知るが大事なることを體認すべし、耕作時いたり我田に稻をうへ、我畠にまめをうへ、ところも時もくらゐもよくかなひても、かれたる苗をうへ碎けたる種をうへては、はへそだゝぬものなり、これは天時地利人位みなよくかなひても苗と種に生理なきゆへなり、これにてがくもんも政も苗と成種となる、明徳の生理あきらかならざれば時と所と位とにかなひて、聖人の法をもちひても益なきことを體認すべし、時も所も位もよくかなひ苗も種もよく候ても、糞をし、くさをとる修理のしやう惡ければ、秋のとりみなきものなり、これは時所位苗いづれもよくても、人事のつとめたらざるゆへなり、これにて學問も政も人事のつとめをはげますを本とすることをわきまへしるべし、時もところも位もよくかなひ、苗も種もよく人事のつとめをよくはげまして、あるひは大旱

にやけ、あるひは長雨にくさり、あるひは大風にそこね、あるひは虫くひて秋のとりみなきことあり、これは天災といひて運命のなすところなり、ときとところくらゐのよくなふやうに分別し、人事のつとめをはげますは皆人間のちからにてなすわざなるによつて、おしなべて人事と云、人事をよくつとめて、わざはひにおふは運命にして人力のをよぶきはあらざれば、天災と云也、人事をつとめずしてわざはひにあふは、天災にはあらず、自作の孽と云て、われとつくる禍なり、耕作をあしくしてとりみなきがごとし、人事のつとめにおこたりて、天道次第などいへるは以外なる僻言なり、これにてあるひは家をおこし、國をひらき、あるひは家をうしなひ、國をほろぼす運命の端的をよく體認すべし、かやうに論ずればしなおほくむつかしきやうに候へども、つゝまるところは明德をあきらかにする一つにきわまれり、明德だにあきらかに候へば、時處位のふんべつ人事のつとめ運命のさだめ、みなかゝみのかげをうつすがごとし、○牀充曰、學問とまつりことゝは、各別なるものと存候へばひとつものにて御座候や、

師の曰、惣じて世けんにかくもんにはづれたるものはひとつもなく候、正眞のがくもんあきらかならざるゆへに、いろ／＼まよひたるうたがひある事にて候、かくもんは明德をあきらかにするを全體根本とす、明德は天地有形のほかへ通じ、上もなく外もなく、神明不測なるものなれば、天下國家をおさむる政は明德神通妙用の要領にて候、ゆへにまつりごとは明德をあきらかにする學問、かくもんは天下國家をおさむる政なり、本來一にして二、二にして一なるものと心得べし、そのうへ法度の箇條ばかりがまつりごとにてはなく候、天子諸侯の身におこなひたまふ一事、くちにのたまふ一言、みなしをきの根本なれば、まつりごとゝ學問と本來同一理なることをあきらかに得心すべし、

○牀充問曰、至徳と明德とはひとつにて御座候や、ただしまたかくべつなるものにて御座候や、師の曰、一體にして名のかはりたるものにて候、たとへば大きな鏡をなづくるに、そのあきらかなるところをもつていへば、明鏡と云、おほきなるところをもていへば、大鏡といふがごとし、徳性のあきらかな

るところにつゐて明德と號し、徳性の外もなく、うへもなく、廣大無邊なるところにつゐて至徳となづくるなり、至の字に極善大達四字の意をふくめり、

○躰充問曰、よこめといふものいま時のはやり物にて候、なくてはかなはぬものにて御座候や、

師の曰、よくおさまりたる代にはさのみいらざるもの也、風俗あしく人の心みだれたる代にはあるがよく候、その子細はよこめあれば、人ごとに法度をおそれいましむる心ありて治道のたすけとなりぬべし、しかれどもよこめのいふことを聞入て、むざとせはしくあらばなきにおとるべし、よこめは下々の心をいましむるそなへなりと得心して、むざとよこめの云事を承引すべからず、惣じて君たる人は大惡逆のほかはなに事もきかぬふりしらぬふりにて大やうなるを本とす、利根だてにてせはくしきは國をうしなふ基と知べし、

○躰充問曰、かくもんはさとらんためなり、さとらねばかくもんと云にたらざるよし、うけたまはりをやよび候、さとるとはいかやうなる事にて御座候や、師の曰、さとりのさは言語道斷のことほりなれば、

なかくことばにのべがたく候、その皮膚のもやうをすこしばかりたとへにてあかすべし、をのくわれらぐときにくらくまよひたる者の、心に仁義の神理をしりわきまへざるは、盲目の色かたちを見わけざるがごとし、しかるゆへにまよひて理にくらきものを心旨となづけたり、盲目は青黃赤白黒の五色、禽獸草木のかたちなど耳にはきくといへども、其さだかなるいろかたちを見わけざれば、うたがひのはる事なし、そのごとくかのまよひたる心旨は、仁義禮智信の五常、天道神道運命生死などのことはりほぼ耳にはきくといへども、心にてその道理をしりあきらむることならざるゆへに、いづれの神理にもうたがひまよふのみなり、かの盲目、希代の目くすしにあひ、療治して兩眼つねのごとく見ひらきぬれば、今までうたがひありつる色かたち一々に見あきらめて、兎角のうたがひをたつべきところなし、そのごとく心旨のぼんふも、希代の明師にあひ、かくもんの功をつみて、本心のまなこひらきぬれば、今までうたがひまよひたる、五常天道神道運命生死のことはり、ことごとく見ひらきて、白晝に黒白をわかつごとくな

るをさとりとなづけたり、悟のことはり言語道斷ば
んふのおよびがたきところなれば、まづめくらのま
なこをひらきたるところにたとへて、よく／＼體認
すべし、大覺明悟の人は現世のことは申にをよばず、
生前死後のことはり天地のほかの道理まで、黑白の
いろをわかつごとく、あきらかに知たまふゆへに、孝
悌忠信の神道をおこなひたまふこと、飢て食し渴し
てのむごとくにして、人のほむるをもよろこばず、そ
しるをもうれひず、富貴にも淫せず、貧賤にもたのし
み、わざはひをもさけず、福をもとめず、生をもこ
のまず、死をもにくまず、たいひたすらに仁義五常三
才一貫の神道をおこなひたまふ事、水のひきゝへな
がれ盤針の南北をさがとし、かくさとりたる大
人は天地と其徳をあはせ、日月とその明をあはせ、鬼
神とその吉凶をあはせて至誠無息なり、人間にむま
れて盲目にてくらさんこと、最あさましく口おしき
事なるべし、

○躰充問曰、つらく人物のありさまをかんがへ見
るに、よきものはすくなくあしきものはおほし、よき
ものはそだちがたく、あしきものはそだちやすし、人

間には賢人君子まれなり、たま／＼あれども或は不
幸短命なり、愚癡不肖は世界にみち／＼て澤山なり、
盜賊などをばいづれの代にもさがしもとめてころせ
どもたらず、鳥には鳳凰はまれにして鳶鴞は雲霞の
ごとし、獸には麒麟は世にまれにして狐狸は其かず
をしらず、草木に靈草名木はすくなくして、名もなき
雜木野草は山野にみたり、天道は純粹至善なりとう
けたまはりをよび候へば、よきものはおほくあしき
ものはすくなくはずにてこそ候へ、かへつてあしき
ものゝたくさんなるは何たる道理にて御座候や、
師の曰、よきふしんにて候、それは易學をよくきはめ
ざれば合點ゆきかぬるところにて候へども、大かた
をかたり候はん、夫賢人君子鳳凰麒麟などを善と
さだめ、愚癡不肖鳶鴞狐狸などを惡とさだめ、善
惡の二字にてさたし、それをそのまゝ天道におしあ
がふによつて、一しほうたがひまし候、先根本をよ
く考へ見て、さて枝葉をぎんみしたるがよく候、天道
を根本として生れいでたる萬物なれば、天道は人物
○大父母にして根本なり、人物はてんたうの子孫に
して枝葉なり、根本の天道純粹至善なれば、そのえだ

葉の人物もみな善にして惡なしと得心すべし、瓜づるに茄はならぬといへることわざのごとし、しかれども其善にして惡なき枝葉に精粗の差別あり、其うちのすぐれたる極上を精と云、そのうちのくすを粗といふ、精粗の二字にて君子・小人・鳳凰・鸞鵠などのかたちの高下をさだめ、さて精粗の人物のおこなふところを天命の本然、神理のかいみにうつして善惡のさをきはむるなり、本來あくと云ものはなきものなれども、粗なるかたちの偏よりいできたるものなれば、惡を諸木の奇生にたとへたり、太虛のうちかたちあるほどのものに、精粗のわかちなきものはなし、日と月と星は天の精なり、辰は天の粗なり、物を生ずる山と田畠は地の精なり、峻と不毛の野原は地の粗なり、聖賢君子は人の精なり、愚癡不肖は人の粗なり、鸞鳳は鳥の精なり、とびからすは鳥の粗なり、麒麟は獸の精なり、きつねたぬきは獸の粗なり、芝蘭はくさの精なり、名もなき野草は草の粗なり、沈香栴檀は木の精なり、雜木は木の粗なり、惣じててんちばんぶつみな精はすくなく、粗はおほきことはりにて候、人のかたちにてみるに、眼はかたちの精なればた

だふたつあり、毛髪はかたちの粗なればそのかすおほし、これにて精粗の多寡をおしあきらめらるべし、さていづれのものもその物のうちにて精なるものは、その物のかなめとなり主たり、粗はその精にしたがふものなり、しかるによつて、にんげんの精をうけたる聖賢君子は、愚癡不肖の主君として愚不肖をおさめて教給ふ、粗をうけたる愚不肖は聖賢君子の臣下として聖賢の下知にしたがふ、天命の本然なり、本來君はすくなく臣下はおほきものなれば、主君となるせいけんはすくなく、臣下となる愚不肖は多きことわりわきまへずして分明なり、精をうけたるせいけん君子は氣きよく質たいしきゆへに、をのづから根本の善をうしなはず、粗をうけたる愚不肖は氣にこり質偏なるによつて、國のしをき道あれば根本の善をうしなはず、しをき無道なれば、それにあやかりて根本の善をうしなひ惡をなすものなり、たとへばくせなき馬をも下手がのり候へば、いろ／＼くせのいでくるがごとし、むかし堯舜の御代には聖人は天子のくらゐにのぼりたまふ、其つぎの大賢人は宰相となり、その次の賢人は諸侯となり、その次の君子は

卿大夫士となり、愚癡不肖なるものは農工商の庶人となり、上てんしより下庶人にいたるまで、分々相應のくらゐに居てそれ／＼の所作をつとめ、孝悌忠信五倫のみにひたすらにちからをつくし、毛頭邪欲の惡念なく、すこしの不義をもおこなふことなくて、天下に一人もあくにんなし、堯舜の民は比屋可封といへるは此こと也、根本は愚癡不肖の人もあくにんにあらざれば、聖賢も愚不肖もみな善人なり、その善人のうちに精粗大小貴賤の差別あり、せいけんは善のうちの精にしてたつとく、愚不肖は善のうちの粗にしていやしきものなり、たとへば金も銀も銅もくろがねも本來みなかねなれども、其うちに精粗貴賤の差別ありて、金銀はかねのうちの精にしてたつとく、銅鐵は金のうちの粗にしていやしきがごとし、かやうのたとへをよく體認して、にんげんはみな善ばかりにて惡なき本來の面目をよく觀念すべし、

○牀充曰、愚癡不肖もあくにんにあらずとおほせられ候は、信をとりがたくおはしまし候、左候はいいかやうなるものを惡人とは申候はんや、

師の曰、聖賢のごとくに智慧のあきらかならざるを

愚癡とす、せいけんのごとくに才能の達せざるを不肖とす、愚癡不肖といへども良知良能あり、その良知良能をうしなはざれば、愚癡不肖も善人の徒なり、愚癡不肖をそのまゝあくにんと云べきことはりなし、才あるも才なきも知あるも知なきも、形氣の邪欲におぼれ本心の良知をうしなふものを、おしなべて惡人とは云なれば、たとひ才智藝能すぐれたりとも、邪欲ふかくして良知くらきはあくにんなり、孔子曰、如有周公之才之美、使驕且吝、其餘不足觀也已、此聖謨にてよく體認すべし、しかれども世ぞくは才智藝能だに達しぬれば、其心の邪正をばわきまへずして君子とゆるし、才智藝能に拙なれば小人とおとしめぬれば、愚不肖を惡人とおもへるあやまりもまたむべなりとも云べきにや、

○牀充曰、易學とおほせられ候は、著本卦など云うらなひの事にて御座候や、

師の曰、それも易學の一品にては候へども、たゞ今われらがいへるはその事にてはなく候、易經の神道をさとり、我身の受用となす事にて候、この易學は孔子さへ韋編三絶と申つたへ候へば、よく／＼觀察の功

をつまざれば、その皮膚の會得もなりがたく候、儒書の事は申におよばず、天地のあひだに何にても易經の神理にもれたる事なし、又易理よりいでぬ事は一つもなく候、

○牾充問曰、天道は禍善福淫とて、善をなす人には福をあたへ、あくをなすものには禍をあたへたまふとうけたまはりをよび候に、善人も仕合あしくあるひはわざはひにあふ事あり、惡人も或は仕合よくかへつてさいはひをうるものおほく候は、なにたる道理にておはしまし候や、

師の曰、よきうたがひにて候、是も易理をよくしらざればわざまへがたき理にて候、天道流行して造化發育したまふ、その賦予の分數を命となづく、天地のあひだにみち／＼て聲色貌象あるもの、みな天然一定の分數あり、しかるゆへに人間一生涯のあひだ、あふところの境界吉凶禍福・一飲・一食にいたるまで、ことごとく命にあらざるはなし、みなこれ天道の流行なりといへども、此命に本末正變あり、正變に虚實の勝負あり、夫にんげんの貧富貴賤壽夭の分數は、みな資生のはじめ胎育十箇月のあひだにさだまるところ

なり、その胎育のあひだ歲月日時にをの／＼陰陽五行ありて、生長・化收・藏王・相死・囚老の氣網溫雜操して造化するによつて、運命ひとしからず、そのうへにまた善惡報應の感化までいりまじるゆへに、運命のよきところばかりそろへて、生れつくことはならぬいきをひにて候、然るによつて人間世のありさま徳ありて才なきものあり、才ありてとくなきもあり、才徳ありて貧賤なるもあり、富貴にして才徳なきもあり、貧賤にしてうれいなき有、富貴にして憂おほきあり、わかきとき仕合よくてをひておとろふるあり、若き時ひんせんにして老て富貴になるあり、いやしき位にうまれて貴人のくらゐに經あがるあり、貴きくらゐに生れていやしく成さがるあり、貧賤にしていのちながきあり、富貴にしていのちみじかきあり、まことにいろ／＼さま／＼のありさま、中々かたりつくしがたし、此運命はかたちちに生れつくによつて實なり、五福六極はその形體成長してのち、そのこゝろもち身のおこなひの善惡によつて嚮威きやういしたまふ命なれば、氣の變化にて虚なり、まづ此虚實の理をよく體認あるべし、さて福善のさいはひを五福といひて五

つあり、天道この五福をもつて善人にあたへたまふ、一曰壽、これはいのちのながきをいふ、二に曰富、是は財寶の澤山なるを云、三に曰康寧、これはうれひもなく疾もなくやすらかなるをいふ、四曰攸好德、是は明德あきらかにして天理の眞樂つねに泰然とあるを云、すなはち孔顔のたのしみこれなり、五曰考終命、これは天道のさだめたまふいのちのかずを皆つくして、正理にしたがひて死するを云、已上この五つを五福と云なり、さて又禍淫のわざはひを六極といひて六つあり、天道この六極をもて惡人をこらしめ給ふ、一曰凶短折、凶はあくぎやく無道にして犬死するを云、短折は天道のさだめたまふいのちのかすよりまへかに死するをいふ、二曰疾、三曰憂、四曰貧、五曰惡、これは自暴とてうまれつき剛強にして欲ふかく、仁孝の儒道ををしり罔し、或は惡逆をこのみおこなふを云、六曰弱、これは自棄とて生れつき柔弱にして、仁孝の儒道をよしと思へどもおこなふ事あたはず、或は臆病にて欲ふかく、不義無道のふるまひのみ畜生にもをとれる有様なる柔惡の人を云、以上此六つを六極と云なり、この五福六極のさは書經の洪範

にみえたり、天道この五福六極をもて善惡をたゞし給ふ事、春はあたゝかに、夏はあつく、秋はすいしく、冬はさむきがごとく、むかしも今も末代もいつもかはらぬ妙理なり、しかるに間に善人も五福をうけず、惡人も六極をのがるゝことあるは、天の時は地の利にしかすといひて、虚は實にかたぬものなれば、五福六極の命は氣に屬して虚なり、胎育のはじめにうけたる運命は、形に屬して實なるゆへに、虚なる福極かたずして一旦かくのごとし、たとへば六月の土用はきはめて熱く、かたびらさへ身にかゝらねども、惡寒のやまひある人は、わたいりをかさねきても猶さむし、また極月の大寒にはきる物をかさねきて火にあたりてもあつからぬに、大發熱の病人ははだぬぎてもなをあつし、つねの人にあたるあつささむさも、かの病人にあたる暑さ寒さもおなじことなれども、暑寒は氣に屬して虚なり、惡寒發熱のやまひは形につきて實なるゆへに、虚なる暑寒の氣實する病邪にかたざるがごとし、此たとへにてよく體認あるべし、むかしもろこしに盜跖とてもろこし一番の盜賊あり、あまりにあくぎやく無道がこうじて、人の鱗をく

ひぬれども無病息災にながいきして、もとよりぬすみとれば財寶たくさんにて難なく暮したり、また其ころ孔子の御弟子に顔子と申人あり、三千人の御弟子のうちにて拔群に無類なる大賢人なれども、簞瓢陋巷、不幸短命なり、此二つのうたがひにまよひて、古來いろ／＼の臆説どもおほく候、運命の勢によつて間にかくのごとくの大ちがひあるを見て、萬古不易の天道にうたがひをなし、福善禍淫のさたも信仰しがたしなど云るは、六月の土用にかさねぎする病人をみて、夏のあつきといふはいつはりなりといひ、極月の大寒にはだぬぎてもあつかる病人を見て、冬のさむきと云はまことならずと云がごとし、いとあさましきまよひなり、この寒暑の道理はあさくて知やすきゆへにまよふものなし、すこしもちがはぬこととはりなれ共、福善禍淫のことはりはふかくして、しりがたきによつてまよふなり、知やすきところにてよく／＼體認觀念して、ふかき神理をさとるべし、かの病人惡寒發熱の病勢おとろへ、本腹しぬれば、つねの人のごとくにあつささむさをおぼゆるものなり、そのごとく運命のいきをひおとろへて、其分數きは

まりぬれば、かならず惡人は六極のがれがたく、善人は五福をうくるものなり、しかるゆへに盜跖は無病息災に難なくながいきしてくらしぬるやうなれども、おのれと六極の剛惡におちいりて、至誠無息の神理をうしなひ、萬世不朽の惡名をながしぬれば、六極の報應さだかならずや、また顔子は簞瓢陋巷、不幸短命なれども、五福の攸好徳をうけ、眞樂の介福めでたく、長在不滅の神理あきらかにして萬世きはまりなく、公爵の追贈、四配の祭祀をうけたまひぬれば、五福の嚮命あきらかならずや、運命のいきをひによつて、一たん見かけは福善禍淫のつねにたがふやうなれども、畢竟しんじつの端的終には天命本然のつねにたちかへるものなり、是を人衆則勝^レ天、天定亦能勝^レ人といふなり、そのうへ五福のうちの攸好徳だにうけぬれば、のこりの四つは其うちにそなはれり、明德すでにあきらかなれば、至誠無息長在不滅なり、これ無上のながいきなり、大富貴を得て小富貴をわすれぬれば、これまた無上の富貴なり、一朝のうれひ心のくるしびとならざれば、心上の康寧は事上のかうねいにまさりたり、考終命の事は徳あるうへは云に

をよばず、是にて福善の極意を得心すべし、六極のうちにて惡弱の凶徳をうけぬれば、のこり四つはみなそのうちにそなはれり、至誠無息の神理をうしなひぬれば、たとひ幸にしてまぬかれながいきしても、凶短折にことならず、欲にいたいきなく、たいむさぶりおしむばかりなれば、財寶ありても心は貧者なり、心くらくまよひぬれば、目にふれ耳にきくことみなくるしびとなれば、無病にてもかたちやすからず、欲心のくるしみつねにたらざれば、憂なくとも心やすからず、是にて禍淫の極意を得心すべし、五福の第四に攸好徳をとき、六極の終に惡弱をときたまふ極意よくよく體察すべし、

翁問答卷二終

翁問答卷二「原本、下卷之本」

○躰充問曰、世俗のとりざたに、學問は物よみ坊主衆、あるひは出家などのわざにして、士のしわざにあらず、かくもんすぎたる人は、ぬるくて武用の役に立たしなど云て、士のうちにかくもんする人あれば、却てそしり候ぬ、かやうのあやまりはいづれのまよひよりをこりたることにておはしまし候や、

師の曰、それは賸のがくもんばかり時めきて、風俗あしく衆生の心汚濁にとまりて、書物をよむばかりをかくもんと思ふよりまよひたる評判なり、それ學問は、心のけがれをきよめ身のおこなひをよくするを本實とす、文字なき大むかしにはもとよりよむべき書物なければ、只聖人の言行を手本としてかくもんせしなり、代のすへになりて、學問の本實をとりうしなはんことをうれひて、物の本にしるしてかくもんの鏡とさだめしよりこのかた、物のほんをよむを、かくもんの初門とする也、しかる故に其心をいさぎよく、行跡をたいしくする思案工夫ある人は、物の本を

よまずして一文不通なりとも學問する人也、その心をあきらかにし、身をおさむる思案工夫なき人は、四書五經をよるひる手をはなさすよむと云とも、學問する人にあらず、かくのごとく眞實の道理をよくわきまへぬれば、さやうのあやまりはかたはらいதாகことなるべし、心きたなくけがれて身のおこなひよこしまなるをば、凡夫の口にも犬畜生など云ていやしめぬれば、眞眞のがくもんに志なき人は、まことの人にあらざれば、其はぢを知べし、學問はせぬがよしといへる人にむかひて、わどのは犬畜生のごとき惡人なりとそしらば、必さしちがふべくいかりをなすべし、又心いさぎよく行儀たゞしき君子なりとほめたらんは、必ずえみをふくみてよろこぶべし、然るときはがくもんせぬがよしといへるは、其人の本意にあらず、只がくもんの本然をしらず、書物をよむばかりをがくもんとわきまへたるあやまり也、さて又學問はさふらひのしわざにあらずといへるは、一しほ愚なる評判まよひの中のまよひ也、子細は心あきらかに行儀たゞしく、文武かねそなわるやうに思按工夫するを眞眞のがくもんとす、かくのごとく心あき

らかに行儀たゞしく、文武かねそなはる人をよきさふらひとゆるす事は、あまねく人のわきまへたることなれば、學問はさふらひのしわざにして、なさでかなはぬこといわずして明白也、さてまたがくもんする人は、ぬるくて武用の役にたちかたかるべきなどいへるは、がくもんのほんいを辨へざるまよひのみにあらず、文旨なる諸士他人の文藝あるをそねみ、おのれが文旨なる耻をかくさんとの衒てくらぎたなるべし、誠に分もなきひがことなり、たとひ眞眞のがくもんに志しなく、徒に文藝ばかりをならふと云とも、武篇のさわりになるべき理なし、その子細は源義經公辨慶君臣ともに、文藝その時分の諸士にすぐれたまひぬれども、終に一度もおくれをとりたまはず、末代にいたるまで、犬うつ童も武篇のためしには、義經公辨慶と聞つたへて、いひならはせり、文旨に御自滿のさふらひ衆、せめて義經公辨慶などの爪のさき程なりとも、眞似をめされ候はば、其譽あるべし、たゞもんまう一偏の御自滿にては、よき士とは云がたし、もんまうなるものがかならず武篇よくば、田をうち草をかる田夫野人、薪とる山がつ路頭にさすらふ乞食な

ど、文旨第一のものども也、かやうの者どもみなよき武篇者にてありなんや、かやうのたとへあまりけわしくきこえぬれども、今時分此まよひふかく大かたのたとへにては、心旨のねぶりさめがたき故に、聲をばげましてよびさますなり、前かども論するごとく、いかやうなるものが、武篇よき、いかやうなるものが武篇あしきなどいへるは、皆得がたのひがごと、あるひは株をまもる愚癡よりおこるまよひ也、文藝ある人に義經公辨慶などのごとく武篇よきもあり、又臆病なるもあるべし、文旨なる人に臆病なるも有べし、またけなげなるもありなん、只勇なるもの武篇よきと知べし、むかし今のためしをよく考て、學問が武篇のさまたげになるといへる、きたなき心根を察すべし、まへかども論するごとく、正眞のがくもんをよくとめてさとりぬれば、仁義の勇あきらかになりて、必ぶへんよくなるなり、それも師匠と學問のしやうとによく吟味あるべきこと也、中庸曰、人一能之己百之、人十能之己千之、果能此道矣、雖愚必明、雖柔必強、この聖謨の意は篤く天地の神道に志し、明德をあきらかにする工夫をばげまし、つとめお

こなへば、必さとりをひらき、うまれつき愚癡にして、迷ひふかきものも、本心の良知あきらかになれり、生れつきぬるゝにかたなる人も、かならず本心仁義の勇あきらかになりて、武篇よきとの義なり、論語曰、仁者必有勇、勇者不必有仁と、この聖謨のころは、儒道をよくまなびて、仁者の位にいたりぬれば、人欲きよくつきて天理流行し、なにほとすまじき妖魔、あるひは虎狼などにあひても、常の人の狗猫などに逢たるごとくに、心にをどろきおそるゝ事いさゝかなし、もとより百萬人の敵にあひ、劔の中あるひは猛火のうちへとび入とても、平生の心もちにすこしもちがふことなく、毛頭おどろきおそるゝ心なく、必ず十分無類のけなげあり、明德あきらかになれども、生れつきて勇なるを勇者と云、この勇者もとより死をおそれず、物におびへおどろかざること、は、仁者の勇に似たれども、人欲のまよひふかき故に、明德の良知くらければ、不義無道のはたらき、畜生にひとしくて、天徳の仁をうしなふもの也、うまれつき勇あるものは、正眞の儒學をつとめて、其勇を仁義の勇となし、生れつき勇なきものも、又正眞の儒學

をつとめて、本心に具有したる仁義の勇をあきらかにせよと教たまふ義也、此等の聖謨をよく／＼體認して、武篇をたしなまんとおもふ士は、志しあるべき事也、本來軍法軍禮武篇のたしなみ、諸士の作法のおきて、みな儒道の一色にして、聖人のさだめ給ふ天理なれば、さふらいたるものが儒道をそしり、儒學をするは士のわざならずなどいへるは、まことに無下に無案内なることなれば、其はちをしるべし、

○牀充曰、心を明かにし身を修むる思案工夫ある人は、一文不通にても學問する人なりと被仰候へば、論語よまずの論語よみと申ならはす世話も、道理にかなひたる言葉にて候や、

師の曰、それも心得やう大事なり、論語よまずの論語よみと云は、聖人の事也、孔子はろんごをよみたまはねども、論語一部始終ことごとく孔子の言行なれば、正眞の論語よまずの論語よみは孔子なり、聖人より下さまのうまれつきには、必ず氣習の偏あるによつて書をよまずして道德の室にすることはなりがだければ、大賢より下つかたなる人をかく取さたすべき理なけれども、世間に論語よみの論語よまずがたく

さんなる故に、それをいましめんための假説也と心得べし、心を明かにし身をおさむる思案工夫ある人は、一文不通にてもがくもんする人也といふも、學問の本意をあきらかにし、にせのがくもんをしりぞけんための假説也、もし眞實の格言也と認て、氣習の汚れある心をもつて、心を明かにし身をおさむる工夫をなして、聖學也と心得なんは、千萬里のあやまり也、心をたゞしうし、身をおさめ文武兼備のこゝろざしあらん士は、たとひ書物をよまずとも、儒門の先覺にしたがひ、本心の端的を明辨して、氣習のけがれをあらひて、工夫のまなこをひらくべし、

○牀充曰、株を守るとのたまふは、なになることにて候や、

師の曰、道理の眞實をしらず、うはつらはなのさきばかりの目論おろかに、あさましきおもひ入を株をまもると寓言のたとへ也、むかし山がつ山田をうちていたる所へ、峯より兎ひとつはしりくだり、かの山がつのいたるあたりの木のかぶにはなをつきて死したり、彼山がつこれを見ておもふやうは、さても希代不思議なることかな、此木のかぶは兎とりの逸物なり

と心得て、かの兎をとりてかへり、それより隙のおり
おりには、かの木のかぶのもとにゆきて、木のかぶの
とりたる兎をひろはんと、終日まもりいたるとなん、
此山がつのまよひに似たること世間におほきによつ
て、寓言して凡夫のまよひをわらひはちしめたり、就
中これに似たる大きな迷は、仕合よく富貴になり
ぬれば、我智恵才覺にてかくのごとしとおもひ、又し
あはせあしく貧賤になりては、わがわざとはおもは
ずして、親をかこち人をとがめ、天をうらむること人
ごとの迷也、しあはせよく富貴になるも、運命の生れ
つきにして、わがちからのなすところにあらず、仕合
あしく貧賤になるも、運命のうまれつきにして、親の
咎にもあらず、人のなすわざにもあらず、もとより天
道のあやまり給ふところにもあらず、また藝あるも
藝なきも、ぬるきみかけなるも、いかつなる見かけな
るも、武篇するものにてはなく、只心のけなげが武篇
するにて候へども、心まよひてくらき故に、藝あるも
のが武篇をすれば、藝が武篇するとおもひ、藝なき者
が武篇をすれば、無藝文旨が武篇するとおもひ、見か
けぬるきものが武篇すれば、ぬるきが武篇するとお

もひ、見かけいかつなる者が武篇すればいかつが武
篇するとおもひて、とりさたさま／＼也、株のうさぎ
をとらざることは知やすきことはりなれば、誰もし
りてまよはず、富貴貧賤勇怯の道理はわきまへがた
きことはりなるによつて、随分の歴々まよふばかり
也、しかる故に知やすきことを寓言にして、辨へがた
きまよひをいましめ、あきらめたり、大唐の諸士には
無藝文旨なるもの、百人に一人もまれなり、しかる故
に大功をたつる、大將軍武篇つよきさふらいみな藝
能あり、日本の諸士には無藝文旨なるものおほし、し
かる故に武篇つよき士、おほかたは文學藝能なし、ま
た藝能にて身をたつる人は、武篇のいひたてなきに
よつて、藝をいひたてとし、物よみ坊主衆は出家なが
そでのまねをして、武道はその所作にあらずともて
なす風俗也、かくのごとくなる風俗を見ならふばか
りにて、もろこしの事をしらざれば、無藝文旨が武篇
すると、株をまもるとりさたむべなりとも云べきに
や、

○牀充問曰、學問はよきもの也、しかれどもおほくは
いらざること、云人おほし、是はきこえたるやうに

存候はいかが、

師の曰、それはにせのがくもんをすきて、心だて行儀むざとなる人あるを見て、さやうのあやまりたるとりざたせり、それはたとへば家のやけたるを見て、火はよきものなれども、すこしもちいたるがよし、おほくはいらざるもの也といふがごとし、正眞の學問は食物をにる火燈のごとくなれば、すこしにては用に立たし、にせの學問は家をやく火のごとくなれば、少にてもわざわひになるものなり、賈のがくもんをしてあしくなる人を見て、正眞のがくもんをきらふは、家をやく火を見て食物を烹火ともしびをきらふにことならず、此譬にてよく得心あるべし、

○牀充曰、學問の名はひとつにて、さやうにおほちがひの御座候、子細はいかに、

師の曰、正眞のがくもんは、私をすて義理をもつはらとし、自滿の心なきやうにたしなむを工夫のまなことし、親には孝行をつくし、主君に忠節をいたし、兄弟のあいだは悌惠をきはめ、友だちのまじはりはいつわりなくたのもしく、五典を第一のつとめとする故に、おほくしてよくとり入ほど、心だて行義よくな

りゆけり、うはのそらにすこしまなびてとり入なければ、用にたちがつし、にせの學問は博學のほまれを專とし、まされる人をねたみ、おのれが名をたかくせんとのみ高滿の心をまなことし、孝行にも忠節にも心がけず、只ひたすらに記誦詞章の藝ばかりをつとむる故に、おほくするほど心だて行儀あしくなれり、聖賢より下の生れつきに高滿の邪心なき人はなし、天下の惡逆無道をなし、或はきちがひ或は異相になる人みな此滿心のなすわざなり、この自滿の邪心が魔境畜生道へおちいる道すぢ也といましめおそるべきこと也、然るをにせのがくもんには、此滿心をかきむたよりは、おほくすつる工夫は心がけざれば、覺えず邪路にいる事あきらめやすし、

○牀充曰、魔境へおち入とは、いかやうなるを申候や、

師の曰、あるひは賈のがくもんにふけり、或は學問せざれども暗處に魔を來しぬれば、自滿の心根かたくなり、枝葉しがりて異風になり、人をば生るむしともおもはず、天下にわれをこすべきものなしと人もゆるさぬ高滿をはなにあて、親おやかたの愚癡な

るをさげしみ、おかしくおもひ、主君をそしり朋友をあざけりて、孝悌忠信の生道をさまたげ、邪魔に相通じ、悪魔と作法をあはするを魔境におちいると云也、うまれつき利根無欲けなげなる人、此やまひおはし、

○牀充曰、にせの學問をする人に、世けんのみじはりをむつかしがり、閑居をこのみ、或は心氣やみなどのごとく引こもるなどするものあるは、何としたることにて候や、

師の曰、それがすなはち魔境におち入たるにて候、高滿の魔心ふかきゆへに、本來非もなき世けんを非にみて、おやのする事も兄弟のする事も、主君のあてがひも、朋友のなすわざも、皆わけもなき妄作也と得心するによつて、右を見るも左を見るも、皆おのれが心かなはぬ事ばかりなる故に、世けんの交をいとひ、ひとり居ることをこのむと知べし、

○牀充問曰、正眞の學問は書物をよまずしてもなるものなりと承候へば、おぼえにくき書物をよみ、講釋を聞申ことはむつかしきに、いらぬ事かとぞんじ候、師の曰、大むかしの文字なき代には、書物なきによつ

て只聖人の言行を手本として、學問をつとめたり、伏羲易書をつくりたまひ、文字はじまりてよりのちは、書物をよみその本意を講明し、わが心のかゝみとしてがくもんをつとむる也、次第に書物おほくなりて、孔子の時には六經みなそなはりたり、孔門のおしへ文と行と忠と信との四也、文は六經の文也、行は性にしたがふ道のおこなひ也、忠信は自滿の心根をたちすてて、誠の道を求め明德をあきらかにする工夫なり、此四に本末衡鑑の差別あり、忠信は根本也、行は幹梢なり、文は忠信と行との鑑なり、六經の文をよみその本意を講明して、かゝみとさだめ、根本幹梢の工夫をよくつとめて、明德の寶珠をみがくもの也、聖人のましゝて直におしへたまふにさへかくのごとし、まして末代聖賢のましまさぬ時に鑑とさだむる聖經賢傳をすて、講せず、くらくまよひたる心まかせにて、學問したるがよきなどいへるは、燈をすて、暗室に物をたづぬるがごとし、

○牀充曰、上天子より下庶人にいたるまで、皆學問なさではかなはぬとうけたまわり候、愚癡不肖の賤の男賤の女の書をよみ申ことのならざるものはいか

が、

師の曰、むかし聖人の御代には、閭巷とて家二十五間ある小里にも學校ありて、其里の奉行代官すなはち師匠となりて、耕作のひまに書物を講じ、道をおしゆるによつて、愚癡不肖のしづのおしづのめにいたるまで、書物のほんいをよく得心する也、文字をまなごにみしることはならざれども、心に書物の本意をがてんして、身のおこなひ心もちの鏡となすことは、なかなか今時の俗儒のおよばぬところなり、文字を目に見おぼゆることはならざれども、聖人の書の本意をよく得心して、わが心の鏡とするを心にて心をよむと云て、眞實の讀書也、心の會得なく只目にて文字を見おぼゆるばかりなるをば、眼にて文字をよむと云て、眞實の讀書にはあらず、我まなこにて書物をよむことならざれども、聖經賢傳をふかく信仰してよみおぼへたる人に講釋させ、その本意をよく得心して、我心もち身のおこなひのかいみとするは、俗學の書物をよみぬるより一きわまさりたる書物よみなれば、賤の男しづのめも書物をよまずしてよむにて候、今時はやる俗學は、書物をよみてよまぬなり、かやう

の極意よく／＼體認あるべし、

○躰充曰、もろこしよりわたりたる書物さいげんなし、かたはじ皆よまてかなはぬことにて候や、

師の曰、それはおほきなる心得そこなひなり、よまてかなはぬといふ書物は十三經のことなり、十三經のとりいりのはしごになるべき名儒の書、あるいは七書などの外の書物はよみて益なし、然るをつとめよみぬるは目たるく心つかるゝあだごとなりと思ふべし、史書は古今の事變を考へ、福善禍淫の印證とするものなれば、餘力のなぐさみによむものなりと知べし、

○躰充曰、十三經はなに／＼にて候や、

師の曰、孝經・論語・孟子・周易・尚書・周禮・儀禮・詩經・禮記・左傳・穀梁傳・公羊傳・爾雅、以上十三部を、十三經とさだめたり、

○躰充曰、十三經も書かすおほく候て、凡夫の分にて皆まてまなび候ことおよびがたくおぼへ候、そのうちにて一二卷まなび候て、大綱の得心なりやすき書は、おはします候や、

師の曰、本來易經一部をおしひろめたる十三經なれ

ば、易經をよくまなびたるがよろし、しかれども易經は簡奥玄妙にして、凡夫のとりいりなりがたきによつて、孝經・大學・中庸を心にて心をよみ、よくまなびぬれば、大綱の得心なりやすし、三書をまなびて餘力あるものは、其力とひまにしたがひて、語孟をまなぶべし、さてまた餘力あるものは十三經をまなびたるよし、十三經をまなび候はねばならぬとおもへば、退屈して却ておこたるもの也、また三書の外はいらぬものなりとおもへばせばかりたづまりて、明德活潑々地の妙用かえつて、枯滯のわづらひあるもの也、たゞ三書をまなごことさだめ、其餘の書は面々のちから次第にまなぶと得心して、いかにも志をかたくたて、心學をわが所作とおもひさだめ、忠臣を主とし行住坐臥の時に習ひ、そのしるしをもとめ、いそがす心もちをひろくゆるやかにして、懈怠なければ、必ずさとりを開くべし、そのおそきとはやきは、生れつきの明暗、習の淺深によるべし、

○**牋充**曰、孝經・大學・中庸には武篇のおしへも御座候や、

師の曰、三經の中に孝行を説、忠節を説、勇強を説給

ふところ、正眞の武篇の教也、されば孝行忠節のためにかせぎはたらく勇を、武篇とはなづけたり、孝行忠節にそむきたるはたらきのけなげは、むほん人または盗と云ものなり、此ことは知やすきことなれども、わきまへたる人まれなるにや、むほんにんをも武篇者なりとも、ほむる風俗あさましくなげかし、曾子曰、戰陣無_レ勇非_レ孝也、この實範のこゝろは恩にむくひ義理をたつるが孝徳の感通なり、君の恩は親のおんにひとしき廣大なる恩徳なり、忠臣はかならず孝子の門よりいづるものなれば、孝徳あきらかなるものは、必ず戰陣におゐて武篇をはげみ、武功をたつるもの也、もしつね々孝行節のふりありても、戰陣におゐてぶへんのはげみなきは、眞實の孝行にあらずといましめはげます義なり、程子武學制に、孝經を添いれめされたり、此こゝろ恩をむくひ、義理をたつることをしらざるものは、生れつきけなげにても、主君の用に立たし、却て味方のわざわひにもなるものなり、しかるによつて孝經をおしへ、恩にむくい義理をたつる本心をあきらかにさせ、血氣の勇を化して仁義の勇となすべきため也、よく々體認して孝

行の端的を得心あるべし、

○牀充曰、衛靈公問三陣於孔子、孔子對曰、俎豆之事則嘗聞之矣、軍旅之事未之學也、明日遂行と論語におはしまし候へば、孔子は軍法をばしろしめさずと存候はいかい、

師の曰、それは以の外おほきなる心得そこなひなり、何もといひながら、就中軍をおこし武をもちふるには、心根と時が大事にて候、仁義の心を根として順應の時にかなひて用るを仁義の師と云て、正眞の軍法武篇なり、邪心欲心を本として、順應の時にそむきてもちふる武篇は、強剛暴逆の師といひて、盜賊おひはぎの類なり、しかるに靈公無道にして、戰伐をこのみ強剛暴逆のいくさをたくましくせんために陣をとはれたり、かくのごとくの人に軍法をおしへたまふは、ぬす人に道をおしゆるにことならず、君子は人の惡をば成たまはぬによつて、其惡心をいましめ本心をとりにてたくおぼしめして、禮をばまなびたるが軍法はしらすとこたへ給ふなり、夫俎豆の事は禮法なり、禮法の大目五つあり、吉禮、凶禮、軍禮、賓禮、嘉禮これなり、此うちの軍禮すなはち軍法也、すでに禮法

をまなびたるとのたまふ時は、軍法をよくしろしめすことはいはずして明白なり、俎豆の事と軍旅の事を相對してかくのたまふは、仁を本とする軍法をばまなびたれども、殺伐をもつはらとつとめて本なき軍旅の事は盜賊のわざなれば、いまだまなびぬとのたまふ心なり、聖人は寛裕溫柔にしてことば迫切ならざる故に、凡耳にはきゝわきまへざるものなり、靈公この聖言をきゝしりて、禮をとひ道をまなび、邪心をひるがへし、明德をあきらかにしてのち軍法をとはれ候はば、必定千聖心傳の軍法の秘妙をつたへ給ふべけれども、聞しらざるによつて、そのあけの日さらせたまふ也、明德十分にあきらかにして、地とその徳をあはせ、日月と其明をあはせ、文武かねそなはりたる人を聖人と云、孔子はもとより聖人にてましませば、文武かねそなはりたまふ事は云におよばざることなり、將鑑篇曰、孔子用兵萬世之師也、又曰、孔子夾谷之師堂々正々、依然五帝三王之風、かくのごとくの格言をよく玩味して、孔子の神武軍法の秘妙を考へしるべし、

○牀充問曰、紙の上にて軍法をならひたる分にては、

鞍懸のけいことやらん、用にたち申まじく候、たいさいさい軍になれたる功者にましたる事はあるまじきと存候いかが、

師の曰、それもかたむきなる評判にて候、もとより變通の機轉なく法になづむものは、まなびてもならぬ人におなじかるべし、學びてさへぶてぎわならば、習はぬ時はなをもつてなるべし、たとへば手習をするがごとし、十人に九人までは、てならひして、文のよみかき自由にせざるはなし、あいだに一人無器用にて、無達者なるあり、そのごとく軍法をならふに手すじよく、極意をきはめたる師匠によくまなびて、得心熟し手にいるならば、十人に九人は軍のまはし達者なるべし、間に其器にあたらぬものはならひても益なかるべし、九人をすて一人を證據とする評判者は、すなはちならひても益なき人と一對の人なり、軍法をならはずしても、本心の武徳感通して、暗にしあつる人あり、ましてその上にぐんほうをまなび、用武の神妙を得心あらば、鬼にかなざいほうといへる諺のごとし、もろこしにても日本にても、名將とひいゝほどの人に軍法まなびざるはなし、陣かずの功者ばかりにては大軍を自由自在にとりまはし、武略をめぐらし、大敵強敵にあひて、百戰百勝の功をたつる事、中々およばぬことなり、大將のぐんほうをしらざるは、闇の夜に灯なくてふみなれぬ道をゆくがごとし、軍法をしらずしても、仕合よくて敵にかち、國をとり威をふるふ人あいだにあり、これは運命のちからと敵のさせる功名なり、かくのごとくなる人を見て、何のぎんみもなく軍法はまらでもくるしからずなどおもへるは、株をまもるなるべし、運命のちからつよければ、わけもなき暗將にても、威勢をふるふは、たとへば矢はかれたる竹にてとぶものにてはなけれども、射手のちからにて三町も四町もとび、玉は鉛にて人をころすものにてはなけれども、火と藥とのちからにて楯をも介まがをもうちぬきて人をころすがごとし、また敵のさせる高名は碁象棋の勝負にて考へしるべし、下手にあひては、かちてぎわ一だん見事なれども、上手にあひては見るしくまくるがごとし、大かた合戰の勝負かくのごとし、大唐の名大將はかぞふるにいとまなきほど數おほけれども、あまねく人のしりてとりざたするは、太公望・張良・韓信・項羽・諸葛孔

明などなり、此五人の衆みなわかし時々あわせあしく、いやしきすぎわひをいとなみ、苦勞めさるゝうちに、紙のうへにてかくもんめされたるまゝにて、陣かすの功なかりしかども、時にあひてのち陣はじめより勝利を得て、末代に手本とする比類なき名大將なり、もろこしの名大將は皆かくのごとし、日本にても源義經公は幼少のとき鞍馬にて、軍法をまなびたまひたるまゝにて、陣かすの功なけれども、木曾殿または平家の一族と度々のかせん、みな勝利を得、日本にての比類なき名大將也、かくのごとくなる倭漢のふるきためしをよくゝかんがへて、誠の道理をあきらむべし、また一のとへあり、大將はくすしなり、敵は病なり、士卒は藥味也、備の法は藥方なり、規畫用間の武略は四診の醫術也、奇正のそなへ敵によつて轉化するは、攻補の藥方やまひによつてほどこすかごとし、軍法をすこしもまらざる大將は、醫道をすこしもまらぬものが療治するがごとし、あやうきことなるべし、陣かすの功にて備のたてやう、かせんの手だてをすこし見ならいたる大將は、藥方すこしならひおぼえ、病功のいりたるやぶくすしのごとし、軍

法のがくもんなき大將運命のいきおひつよくよはき敵ばかりにあひて、勝利を得國をとり威をふるふはしあはせよきやぶくすし、見かけははなはだしくて、なをりやすき病人に取かゝり、手柄をして藥代過分にとり、その名たかきかごとし、太公望張良韓信項羽諸葛孔明義經などのごとく、がくもんをきはめ軍法の妙理をよく得心して、百戰百勝の功をたつるは、醫學よくきはめ、四診の妙術を鍛鍊して百病を療治し、起死回生の功をたてたる、扁鵲倉公東垣丹溪などごときの名醫のごとし、軍法をまなびても變通の機轉なく武用におき大將は、醫書をひろくまなびても、變通の醫按にぶく、療治はたらかざる醫者のごとし、むかしより今にいたるまで、扁鵲ほど醫學して療治はたらかざるはあるべし、やぶくすしの療治の扁鵲のごとく起死回生のはたらしめるは一人もあるまじ、太公望の云をまなびて武功にぶきはありなん、軍法まなびざる大將のいくさをして、太公望のごとく百戰百勝の功をたつるは、一人もあるべからず、よくよく觀察あるべし、

○牀充曰、運命だにつよく候へば、いづれの敵にもか

ち申候はんか、

師の曰、合戦の勝負に徳のかち、才のかち、方のかち、運のかちとて、四いろの差別あり、徳と云は、文武合一の明徳のこと也、才とは武畧かしこく人数を自由自在にとりまはし、敵の情をよくさととり、九天の上にくぐき、九地の下にかくれて、百戦百勝の功をたつる才能の事也、ちからと云は、人数の勢のことなり、運といふは、主將のうまれつきたる運命の事なり、あいてむかひのきりあひは、運のつよき方かつもの也、大軍の合戦は、徳は才にかち、才はちからにかち、力は運にかつなり、才徳牛角なれば、運のつよきかたかつべし、合戦のかちは才徳勢力のつよきが運にかちぬれども、後途のつまりの國をとることは、運のつよき方へかたづくもの也、むかし大唐に蜀の國と魏の國とてんかをあらそふ事あり、蜀のくには後漢のすへにて運命はよはかりしかども、諸葛孔明と云才徳かねそなわりたる名大將あり、魏のくには運命はつよけれど、孔明に楯つくほどなる大將なし、玄かるによつて度々のかせんみな蜀の國方勝利を得て、天下に威勢をふるふといへども、元來蜀の運よはき故、孔明

の天年かずつきて、魏の大將仲達と對陣のうちに、孔明病死めされたり、孔明の死後には仲達にたてつくほどなる大將蜀の國方になく、そのうへ魏のくには運つよき故、終に蜀をほろぼして魏のてんかとなりたり、又項羽高祖のかせんのことあまねく人の知たる事也、項羽高祖の運命牛角なり、才は高祖おとりたまへども、高祖の大將韓信と云人、項羽と牛角なるゆへ才も牛角なり、力ははじめのあいだ項羽の方つよし、然る故にはじめは度々のかせんみな項羽のかち也、しかれども項羽は慥悍猾賊にして徳なく、高祖は寛仁大度の徳ある上に張良と云才徳かねそなはりたる名將あるゆへに、項羽のちから次第におとろへ、終に項羽垓下に敗軍して、烏江にて自害し、ついに高祖のてんかとなりたり、かくのごとくのためしをもつて、徳才勢力運命の勝負差別をよく鍛錬工夫あるべし、

○牀充曰、才徳勢力運命みな牛角に候はば、勝負いか

が候はんや、
師の曰、それは相碁の勝負のごとし、かくのごとく成かせんには、天時地利の勝負あり、嘿識心通すべし、

○牖充問曰、聖人賢人英雄奸雄の差別、くはしく承度候、

師の曰、文武合一の明德十分にあきらかにして、才徳千萬人にすぐれ、神明不測の妙用あるを聖人といふ、三皇・五帝・禹・湯・文・武・周公・孔子これなり、聖人に一等おとりたるを賢人と云、伊尹・傅説・太公・召公・顔子・曾子・子思・孟子・孔明・王陽明などはなり、徳と餘の才は賢人に一等おとりぬれども、大將の才は賢人と牛角なるを英雄といふ、管仲・樂毅・孫子・范蠡・張良などはなり、大將の才ばかり逞しく、よの才はみじかく明徳のくらきを奸雄といふ、項羽・韓信などこれ也、義經・正成などは日本にての英雄なるべし、聖人の才徳天地神明とおなじき故に、神妙不測、廣大周備、言語道斷なり、賢人のさいとくも大かた聖人の體段そなはりぬれども、神明不測のくらゐにいたらず、英雄は大將のさいとくは賢人とおなじことなれども、餘の才と徳とは賢人より一位おとりて英氣のかどある也、聖人賢人英雄この三人は、才徳の高下大小ありといへども、いづれも君子なれば、治世にも亂世にも天下無雙の重寶なる人なり、奸雄は敵を退治する一科の用

にたつことは賢人英雄にもおとらねども、明德くらく邪欲ふかき故、むほん逆心のうたがひありて、味方のたのみあやうし、さて國おさまりてしをきなどまかせぬれば、國をみだり亂をおこすもの也、聖人はもろこしにならではうまれたまはず、賢人英雄もまた世にまれなれば、世俗の心くらく奸雄の才にまよひ、心の奸賊を察することあたはず、英雄なりともてはやし、國をぬすまれ天下をうばわれたまふ天子諸侯古來おほし、よくくめのさやをばづして、御用心あるべきことなり、かくいへばとて奸雄をすつるはひがことなり、つかいやうが大事なりといふことにて候、奸雄はたとへば砒霜ひさう巴豆はづなどの毒藥のごとし、毒藥にてせむべき實症の痼疾にもちゆれば、其病をいやすしるしすみやか也、そのしるしのすみやかなるを見て、よき藥味なりと心得て、虚症の病者にあたへぬれば、即時に死するもの也、そのごとく此奸雄も敵をやぶり、賊を擒にする才のたくましきを見て、よき臣下なりと心得て、大官大國をあたへ、あるひは國天下をあづけなどする故に、くにをぬすまれ天下をうばはれ給ふなり、明醫の砒霜巴豆の能毒のうどくをよくしり

て卒爾にもちひざるがごとく、姦雄をもその才と心とをよく看辨して、金銀たから物そのほかそのものすきこのむものをとらせ、情ふかく禮義たしくして、奸賊の心をとげざる様におさむること肝要也、もし大國をあたへ權柄をあづけぬれば、必わざはひをおこすもの也、天子諸侯よく御用心ましますべきことなり、

○躰充問曰、棄用としわきとは、いづれがよくおはしまし候や、

師の曰、きようとしわきとは、財寶をもちゆる大過不及のあやまりにて、いづれもわろし、たゞ棄用にもしわくもなく、中庸適當の用にあたるをよしとす、上てんしより下庶人にいたるまで、財用の工夫一大事なり、つかふべき義理なきにも、むざとつかひついやしあたふべき道なきにもみだりにあたへ、すこしの褒美あるべき忠功に過分の知行を加恩し、家作諸道具以下なに、つきても分過をこのみ、財寶をおしみたくほへざるを世俗きようといへり、君子清白廉直の行跡に似たるによつて、凡夫見まがひてよしとほむる也、又つかふべき道あるにもおしみてつかはず、あ

たふべき義理ありてもあたへず、過分に知行加増あるべき忠功にもすこしの褒美をとらせ、家作諸道具已下分際より見ぐるしく、物たらわすむざとつかひ費さいるを、世ぞく鄙吝と云、君子儉約朴素の行跡に似たるによつて、なまがくもんしたる人見まがひてよしとゆるすもの也、しわきもきようなるも、皆明德のくらきところよりおこりたる病にて、天下をうしなひ國をほろぼし家をやぶる根本なり、よくつゝしみて工夫分別あるべし、

○躰充曰、しわくもなく棄用にもなき様には、いかい工夫つかまつり候はんや、

師の曰、時と所と位とによくなひて、相應したる義理を中庸となづけたり、此中庸適當のみを目あて繩規として財寶をもちひぬれば、大過不及のわたくしなきによつて、きようともしわきとも名づけいふべきやうなし、さて工夫の仕様はまづ私欲のけがれをすて、天道の義理を鑑とし、時と處とくらゐとによくなひて、相應するところを分別して、財用の節をかんがへしるなり、さてまた財寶をつかふに公用私用妄費の三事あり、公用は天下のため國のためにな

る道ある軍役公役の造用なり、私用は飲食衣服宮室妻妾、てまわりにさしつかふ臣僕などのさうようなり、妄費はなにの用にもたぬなぐさみ一偏の造用なり、此妄費は凡夫ばかりのわざにて君子の上にはなきこと也、中庸不倚の心法をまもりてざいほうをもちゆれば、私欲のけがれすこしもなきによつて、清白廉直にして私用も公用と變じ、同一天理となれり、中庸不倚の心法をしらず、ほんふの心まかせに財寶をもちゆれば、或はきよう、あるひはしわく、私欲のけがれふかきによつて、公用も私用も皆妄費と變じて同一人欲となれり、よく／＼體認あるべき事なり、○牾充問曰、國大名あるひはその家老たる人の第一にあしき疵は、いづれにておはしまし候や、

師の曰、私の一字なり、私なる人はかならず氣隨なり、氣隨なる人は必人の異見をきゝいれず、世のしりをかへりみず、偏に我心まかせにしてすぎたる事をばあしきことにてもよしととりなし、夜も日もあけざる様にこのみふけり、わがすかざる事なればよきことをもそしりをとしめて取あげず、あいくちよきものをば小人佞人をもちかすけしたしみ、功なき

に知行を加恩し、罪あるにも刑をほどこさず、あいくちあしければ久功忠節のものをもうとみちかづけず、功ありても賞をあたへず、罪なきに刑をくはふることきの不義不道の作法しをき、みな私の心根よりはびこりいでたる枝葉なり、かくのごとくあれば、國法軍法みなみだれて終にその國はろぶるもの也、かりそめにも氣隨の念おこる時は、我身をうしなひ國をほろぼし、家をやぶる魔心なりとおそれつゝしむべし、

○牾充問曰、諸侯卿大夫の第一に守りおこなひてよき事はいかい、

師の曰、謙の一字なり、我くらゐたかきにおごり、自滿する魔心の根をたちすて、義理の本心をあきらかにし、かりそめにも人をあなどりかろしめず、慈悲ふかく萬民をあはれみ、諸士に無禮をなさず、家老出頭といさめをよく聞入、我智恵をさきだてず、善をこのむ事は好色をこのむごとく、惡をにくむことは惡臭をにくむごとくなるを謙と云也、大舜は大聖人なれどもかりそめの事をも人にとひたづね、賤きものゝ云ことをもきゝいれて吟味まし／＼て、中庸にかな

はぬをば隠してもちいたまはず、中庸にかなひぬるをばとりあげてをこなひたまふ、孔子このことを擧てかくのごとくなるによつて、大舜を聖神と尊崇したてまつると賛美したまふ、又周公旦はその御子伯禽魯國の主となりて、はじめて國入したまふ時、周公旦戒伯禽曰、我文王之子、武王之弟、成王之叔父、我於天下亦不賤矣、然我一沐三握髮、一飯三吐哺、起以待士、猶恐失天下之賢人、子之魯慎無以國驕人、この聖戒のこゝろは我親は文王なり、我兄は武王なり、當今の天子はわが甥なり、我位は攝政冢宰なり、天下に我をこすべきものなく類すくなき尊位也、えかれども一たび髪をあらふうちには、みたびあらひさして髪をにぎりて目見えにきたる諸士をあいしらひ、一たび飯を食するうちには三度くちにくみたる食物をはきいだして諸士をあいしらひぬれども、なを天下の諸さふらいにをぎりたる無禮のあいしらひありて、賢人のうらみあらんことをおそれつつしむばかり也、なんぢ魯國へゆきて國をはなにて、おごり、無禮にして人をあなどりかろしむる事なかれ、我ごとく慎むべしとおしへいましめたまふ

なり、始に文王武王成王をあげて位のたつときことをのたまふは、凡夫のをぎりて謙德をうしなふはそのくらゐ貴きゆへなり、えかる故にくらゐの至極たつとき事をあげて、をぐるべきところをあらはしたまふ、かほどたぐひなきたつとき位にても謙德いよいよふかく、おごることすこしもましまさねば、ましてこれより下なる位におるものはいふにおよばずといましめたまふ意ふくめり、さて一沐三握髮、一飯三吐哺、此二句は假説のことばとて、かりにたとへまふくる語なり、謙德はなほだしく至極しておごりの心毛頭なきところをあきらめんため也、眞實にいつも一沐に三たび髪をにぎり、御膳をあがりたまふごとに哺をはきたまふにはあらず、大舜周公その才德は聖人、そのくらゐは天子冢宰にてかくのごとくにましませば、末代の天子諸侯まほりおこなひたまふところ謙より大きなるはなき事をあきらかに辨まふべし、えかるゆへに國をおさめ天下を平かにする要領、謙の一字にきはまれり、謙德はたとへば海なり、萬民はたとへば水也、海は卑下なるによつて天下の萬水みなあつまり歸するごとく、天子諸侯謙德を

まほりたまひぬれば、國天下の萬民みな心を歸して
よろこびしたがふもの也、天下の賢智愚不肖、ことごとく
よろこびしたがふときは、天下はをのづからお
さめざるに平か也、されば易經に、天道虧盈而益謙、
地道變盈而流謙、鬼神害盈而福謙、人道惡盈而
好謙とときたまふ、聖謨よく、尊信あるべし、

○躰充問曰、今時の諸士の主君をあまたとりて知行
をとりあぐるを立身といひて、手柄にいたし候はい
かに、

師の曰、それは士道のぎんみ無案内なるあやまり也、
才徳ありて忠節をつくし、軍功をはげみて位をあが
り知行をとりあぐるが眞實の立身にて士のでがらな
り、才徳もなく忠節もなく軍功もなく、よき最負を
かさにきて街を上手にもてなし、主かずをかぞへて
身上をしあぐるをば、商立身と云て、あき人の門をか
ぞへて直をたかくうりつくるにたとへたり、士道を
すこしにても心得たる人は、はぢにくむべき事なれ
ば、てがらとは云がたし、立身の心がけ商人の利心の
ごとく、貪りきたなく義理をまほらざる心にては、何
の用にもたちがたかるべし、かやうの士を崇敬あり

て用にたちたるためし、もろこしにも我朝にても古
來なき事なり、しかるに諸大名衆かの商立身のてだ
て上手なる人をよき士と心得て、過分の知行にて拘
たまふは、さだめて國をおさめ軍を行たすけとせん
との思ひ入にて候はんか、左様の御ころざしにて
ましませば、諸葛孔明のくさぶきの陋巷へ蜀の先主
の自身三たびまで幸なりてよびいだし給ふに似て、
その御心根は一段殊勝に候へども、人品のぎんみお
ろかにして、過分の知行をすてたまふのみならず、士
道のさまたげとなり諸士の風これによつて日々にき
たなくなりゆくこと、あさましくなげかし、

○躰充曰、諸大名衆道なきわたり、奉公人を崇敬まし
ますにより、士の風きたなくなりゆく子細はいかに、
師の曰、心學をよくきわめたる士は、義理をかたくま
もりて邪欲なければ、世間の作法にあやかる事なし、
心學のみがきなき士はよこしまなる名利にふけるも
の也、今時のさふらい心學のみがきなきものばかり
なれば、商立身の上手なる士の時めくを見きゝてう
らやみあやかり、我もくともねをするにより、次第
に風きたなくけがれて、士道のぎんみをば古風にて

時にあはずなど云て心がけず、あさましき作法となりゆきぬるは、むざとしたる手くろ士を大名衆の崇敬したまふ故なり、主君の政だによろしければ、その國の諸士人ごとにみな義士勇士となる事倭漢ともにそのためしおほし、しかるに久功の諸士をば疎略にもてなし、故なき衛士をいまめかしく崇敬したまふは、物體なきことなるべし、

○牾充曰、左候は、忠臣二君につかへずといへるごとく、主君一人にならでは奉公せざるが正しき士道にて候や、百里奚は虞の國をさつて秦の穆公につかへられたり、しかるを孟子賢者なりとゆるしめされれば、主君をかへて奉公するを士道にあらずと被仰候は、かたむきなる評判にて候はんか、

師の曰、それはもつてのほかなる心得ぞこなひにて候、百里奚のごとく心いさぎよく身おさまりて、名利の欲心なく其境遇の勢やむことを得ずして、主君をかへて奉公するは、古來たゞしき士道なり、只その心がれて身おさまらず、立身の欲心をのみ宗として何のすじ道もなく、事勢のやむことを得ざるにもあらで、主君をかぞへて貪りまわるは、士道にあらずと

の評判にて候、百里奚はもと虞の國の臣下なり、虞の君不義のおこないありて、たちのかでかなはざる事ある故に、已ことを得ずして虞を去て秦の國へゆかれたり、この時とし既に七十になりぬ、秦の穆公その賢をき、およびて、よびいだしめされたるによつて事へめされたり、主君をかへて奉公するところは、わたり奉公に似たれども、その心と作法とは、天地懸隔なり、しかるをおなじ口にてとりさたせんは、無下にあさまし、主君をかへたるを必たゞしき士道と定めたるも、また主君をあまたかゆるを正しき士道とさだむるも、皆跡に泥みたる僻事也、心いさぎよく、義理にかなひぬれば、二君につかへざるもまた主君をかえてつかふるも、皆正しき士道也、そのをこなふ事はともあれかくもあれ、只その心いさぎよく義理にかなふをたゞしき士道也と得心あるべし、

○牾充問曰、士道のぎんみは、いかゞ仕りたるがよく候や、

師の曰、むかし齊王の子塾と云人孟子にあふていはく、四民のうち農工商賣をの／＼みなその所作あり、今の士を見るに酒囊飯袋といへるごとく、輕暖の衣

服をきて甘美の酒食にあけるのみにて、さしてつとめはげます所作は見えず、士たるものは何事を所作とするものにて候やと、はれたり、孟子の曰、農工商賈はちからを勞して人をやしなふを事とし、士より上は心を勞して人をおさむるを事とする故に、明德をあきらかにして仁義をおこなふが士の所作なりとこたへたまひけり、しかる時は、儒道がすなはち士道なれば、眞儒の心學にてぎんみしたるがよろしく候、さなくては吟味正眞の義理にあたらぬものなり、近代甲斐の信玄は文學をもめされて、随分ぎんみつよき大將なり、しかども眞儒の心學なきによつて、軍鑑のぎんみ正眞の義理にあたるはすくなし、よくく體認あるべし、

○牀充曰、武篇のたしなみばかりを士道なりとこそぞんじ候へ、明德をあきらかにして仁義をおこなふを士道なりとおほせられ候へば、世けんに士道を心得たるさふらいは古來まれなるべし、玄かはあれどむかしも今も士の道も立、くにもおさまり候へば、むかつしき心學は、さしていらざる事にて御座候はんか、

師の曰、盜跖といへる盜は、世けんにぬすみにましたるよき事なし、堯舜禹湯の仁義だては無益の事なりと高言せしとかたりつたへしもあれば、まよへる凡夫はさやうの心得も尤なり、しかれどもそれは明德といひ仁義と云名になすみて實にまよひたるふしんなり、明德仁義はわれ人の本心の異名也、此本心はいのちの根なればいきとしいける人げんに、明德仁義の心なきは一人もなし、親を愛するは仁なり、君に忠節をつくすは義也、此孝忠の心をあきらかにして、正しくおこなふを明德をあきらかにし、仁義をおこなふといふ、これをまなぶを心學と云也、武篇は孝忠の一意にして、孝忠の心眞實なれば、必ふへんつよきものなり、此ことわりをわきまへぬれば、武篇のたしなみばかり士道にして、仁義をおこなふは士道にあらずといへるまよひあきらめやすし、そのうへ親にそむき君に謀叛して惡逆をもつはらとして、士の道もたち國もおさまりぬる事、むかしも今もそのためしなければ、仁義の道をすて、士の道もたち世もおさまりたるなどいへるも片腹いたきことなるべし、さてまた仁義の道にそむきて、欲のためにはたら

く勇はむほん人ぬす人にしてぶへんにあらず、しかるを何の吟味もなく、いかつにたけく腕だてをして人をころす事をこのむを、ぶへんのたしなみと心得ぬるは、あさましくなげかしきことなるべし、

○躰充曰、おほせ候理り尤にては御座候へども、つねづねいかつにたけく腕だてのたしなみなく候はい、武用ぬる候はんかと存候はいかん、

師の曰、あるひは合戦の場、あるひはぶへんをはたらくべき時には、たけきふるまひなくてかなはぬ事なれども、平生無事の時は詮なき事也、戦陳のためにとて平生無事の時、つねづねたけきふるまいをたしなみぬるは、湯のゝみをきとやらんおろかなるたしなみなるべし、たとへば軍陳のたしなみにとて、平生はなさず具足冑をきるがごとし、そのうへ武藝をならひ軍法をまなぶは、ぶへんのたすけなれば常のたしなみ尤なり、いかつにたけくうでだてをたしなみ、人をころす事をこのむは、武篇のたすけになるものにあらず、却てぶへんのさまたげとなるべし、その子細はいかつにたけく腕だてをたしなむ人は、必人をあなどりかろしめて、あらそふ心はなはだしきによつ

て、必喧嘩の犬死をなし、親にうれひをかけ主君の知行をぬすみて淺まし、たとひ喧嘩のはたらきけなげなりとも、かみあひのつよき犬にことならず、心あらん士ははぢおそるべき事なり、つねづねものやはらかにして、いかつにたけくうでだてのたしなみなくとも、孝忠の心だに眞實なれば、必ぶへんつよき證據は、むかし楊豊といへる人のむすめ、楊香とし十四の時、父にしたがひて山田を刈いけるところへ、虎ひとつきたりて、楊豊をくひころさんとせしを、湯香はしりかゝり、彼虎の頭にいだきつきて、父のいのちをたすけたり、この楊香はとし十四になれる女なれば、いかつにたけく腕だてのたしなみなく、柔輦なる事勿論なり、しかれどもとらを手うちにしたるは、樊噲にもおとらぬ武篇なれば、いかつうでだてのたしなみはせんなくして、孝忠仁義のたしなみ簡要なる事をわきまへ知べし、されば楊香かくのごとくの武勇は、ただ父をふかく愛する一念の仁よりはたらくところなれば、孝行忠節の心だに眞實なれば、たれ人も必ぶへんつよき理りあきらめやすし、是にて仁義の勇の端的をよく體認あるべし、

翁問答卷四〔原本、下卷之末〕

○牀充曰、狂者と申はいかやうなる人にて候や、

師の曰、狂者は道體の廣大高明なる所をば悟といへども、いまだ精微中庸の密に悟人せざるによりて、見性成道の心術粗糲迂濶にして、修行異相に逸狂なるものなり、大唐にては許由巢父牧皮曾皙子桑戸莊子、天竺にては釋迦達磨など勝れたる狂者なり、人の生付しなかはるによりて、道學して見性成道する位に上中下の三段あり、中行は聖人の下亞聖の大賢なり、これは三段のうちにて第一段上の位也、狂者は中行の下第二段中の位なり、第三段下の位は狷者なり、學問しても此三段の位にいたらざるは俗學といふものなり、よく／＼體認すべし、

○牀充曰、おなじく狂者にても巢父許由曾皙などは、その教の世につたはらざるに、釋迦達磨の教はその生國のみならず、大唐日本まで流布仕は、何たる故にて候や、

師の曰、よきふしんにて候、古來此ことはりを分明に

ときあきらめたる人まれなり、たとへば聖人は日のごとし、狂者は星のごとし、ひるは日の光つよきによつて、星ありといへどもその光見えず、夜に入て日光てらしたまはねば星の光あきらかなり、そのごとく許由曾皙などの時代には、堯舜孔子の日の光午時と輝故に、狂者の教ありても白晝の星のごとくなれば、信仰して受用する人なきによつて、狂者も教をひろめんと思ふ意なくて、教の法をたてず、しかる故に末代へ傳ふべき法なし、すでに聖人の日の光かくれたまひ、やみの夜となりたる戰國にいでられたる莊子は、その狂見をたくましくふるまひ、人におしえ書をあらはして、大唐の狂者の教の始となれり、しかれども聖人の日の光かくれたまひていまだほどゝをからぬ故に、その星の光甚しからず、これにて聖人の日の光なきやみのよには、狂者のほしのひかり輝ことを考しるべし、大唐には聖人あまた出たまひて、三才一貫、中庸精微の教さかんにおこなはれたるさへ、その日の光かくれたまひたる後は、莊子のごとくなり、まして天竺には終に聖人一人も出たまはず、開闢より釋尊の時分までやみのよの戎國なれば、釋尊狂見の

教を衆生信仰すること尤なり、天竺に聖人の至教なきによつて、三才一貫、中庸精微の密に悟入することあたはず、只その廣大高明一偏の悟を大覺明悟なりとおもひ定、天竺我の風俗によつて教の法を立て、衆生を教化めされたり、さてまた大唐も戰國の後は氣運否塞によつて、聖人大賢出たまはず、とこやみのよとまよひたる時節に、天竺の狂者釋迦の法始て大唐へ入てひろまりたり、聖人の日の光午の時と輝時節ならば、中々ひろまるまじ、その證據は許由曾皙にて考知べし、さてまた日本より大唐へ通路初りたる時分、大唐に佛法ひろまりたる最中なれば、うけきたりて日本にも流布したり、元來釋迦達磨の法を立められたる心根は、衆生のまよひてあさましきていをはれみかなしびて、色々さまざまの寓言を立、勸善懲惡のためなれば、二段殊勝なれども、その德狂者なる上によつて、逸狂偏僻なることばかりなり、その上すゝむるところの善、眞實無妄の至善にあらず、三才一貫、中庸精微の至道にそむきて、人極のさまたげとなることとし、聖人中庸の法さへ迹になづみぬれば、人極の

さはりとなるものなれば、まして狂者偏僻の法を迹ばかりを専らと取おこなふによつて、元來釋迦達磨の心ねは勸善懲惡のためなるべけれども、末流には善をやぶり惡をすゝめ、人の心をまよはしぬること淫聲美色のごとし、これみな末代その流をくむ比丘のあやまりと云ながら、本來狂者の見所純熟せざるによつて、その教法粗糲迂濶なる故なり、釋迦も達磨もすぐれたる狂者なれば、聖人にあひめされたらばかならず中庸精微の密に悟入して、中行の位に至めざるべし、たとひ中行にいたりめされずとも、許由曾皙などのごとくにありて、かく世をまどはす教の法をば立めざるまじ、聖人出世ましまさぬ我國に生出て、その法のひろまりたること幸に似たる不幸なり、○鉢充曰、大唐と天竺とは十萬里隔りたりと承候、そのうへ釋尊の作法と大唐の狂者の作法とはちがひたる所おゝく候へば、おなじく狂者とは申がたく存候いかが、

師の曰、ことばと作法とにて吟味評判するは、心盲の凡夫のわざにていとあさましきまよひなり、國のちがひ作法ことばになすむ心のくらさにては、中々道

の得心儒道佛道の差別を辨らるゝ事は成べからず、先あとに泥ずして心をよく觀察する理をあきらめらるべし、國所世界の差別いろ／＼様々ありといへ共、本來みな太虛神道のみにちに開闢したる國土なれば、神道は十方世界みなひとつなり、しかるによりて國隔りぬればことば風俗はかはるといへども、その心のくらゐは本來同一體の神道なるによりて、唐土も天竺も我朝も、またその外あるとあらゆる國土のうち、毛頭ちがふことなし、かくあるゆへに、本心の眼あきらかなる哲人は、所によりて品かはる迹をすてて、何國もかはらず同一體なる心をもて評判するなり、惣じて聖人も賢人も狂者も狷者も一心にての見性成道なれば、その心をよく觀察してその位を定なり、莊子と釋迦達磨とことば作法はちがひたれ共、その心の見性成道はおなじくらゐなるによつて、狂者と云佛と云名はちがひぬれども、見性成道の心の位はひとつなり、天竺にて佛如來とあがめ貴ぶ人の心の位は、大唐にて狂者となづくる中行より下の人の心の位なり、難波のあしは伊勢のはまをぎといへる諺の意なりと得心有べし、

○牀充曰、見性成道の心の位を觀察すること、中々凡夫のおよびがたき所なり、いか様な學問にてわきまへ知べく候や、

師の曰、目にて物を見るに、高ところより下を見おろすことは見易して分明なり、ひき、所より上を見あぐることは見えがたくして分明ならざるものなり、心にて心を觀察するもかくのごとし、聖賢の心より狂者狷者凡夫の心を見たまふは、日月の萬物をてらしたまふごとくなり、狂者狷者凡夫の心にて聖賢の心を見うかがひ見るは、谷にとぼせるたひまつにて峯を見るにことならず、しかる故に眞儒の心學の外の學問にては、中々わきまへ知ことなるべからず、唯眞儒の心學をよく切磋琢磨して、大覺明悟の位に至りぬれば、莊子釋迦達磨などの心を觀察すること、白晝に黑白をわかつごとくなるべし、莊佛の學問をきはめたる分にては、聖賢の心をわきまへしること、富士のふもとよりその巔を仰見るがごとくなり、しかる故に釋尊の流をくむ人に隨分聰明なる人あまたあれ共、偏に我堂の佛たうとしとまよひて、或は佛法小乘のあさき教が儒道の極上のふかき説にこへました

ると云、或は釋尊は大聖、孔子は小賢なりと云、或は佛法は内典聖教なり、儒教は外典俗書なりと云、或は儒教は外道なりなど云て、世をまどはし人をたぶらかしぬ、まことにめくら蛇におぢざるまよひふかき心にて、あたまに口のあきたるまゝに、世に人もなげに議するはその道の元祖、釋迦達磨の心にもそむきたる理をしらず、いとあさましく、我慢邪慢なるたはことかたはらいたきと云ながら、あはれになげかしき事なるべし、歴々聰明なる人のかく道をとりまがふことは、教の法中庸にそむきたるによりて、其立法の心根はよしといへども、末流をくめる學者理味をかみちがへて、皆峯へのぼるとて谷へ入ごとくなる故なり、物我をあらそひかたんとおもふ我慢の魔心をはらひすて、儒と云佛と云名をわすれて、本來至誠無息不貳一貫の心學をつとめて、太虛寥廓の神道をさとりぬれば、何のうたがひもなきものなり、

○牀充曰、先生の教を承候へば、佛は聖人より二位ほどしたなる見性成道なり、しかるに佛者曰、我遣三聖化彼眞丹と云經文あり、此文の意は、釋尊の佛力をもて佛弟子三人を大唐へつかはし、老子・孔子・顔子三聖

人と化身させて、大唐の衆生を化度したまふと云儀なり、此經文にて見れば、孔子顔子も皆釋尊の御弟子なり、加様の因縁をわきまへずして、孔門の儒者みだりに佛法をしりぞくるは、さたのかぎりなりと高ぶりてあざけり候、何とぞ加様なる因縁もあることにて候や、

師の曰、それはかたいぢにひがみたる沙門、佛學ばかりをきはめて、井のうちの蛙大海をしらずといへる諺のごとく、佛道より上なる道なしと自滿十分なるによつて、儒者の佛法を斥るをいかりて、我慢の邪心甚しけれ共、道理のさたにて云かつべき覺悟なきによつて、つくりごとをして釋迦におふせて、儒者の斥るをふせぐものなり、釋尊はすぐれたる狂者なれば、かやうにきたなびれてあらそひそねむ心は中々あるまじきに、淺ましきつくりごとをして、釋尊を、へにい比丘とすること、誠に釋尊の罪人なるべし、さてそのつくり言のすじなき子細は、人間の生出こと父母のわざのごとくなれども、父母のわざになることにあらず、太虛皇上帝の命をうけて、天神地祇の化育したまふところなり、しかるに此神理をわきまへずし

て釋尊の佛力をもて佛弟子を大唐へ遣し、孔子と化身させめされたるなどといへるは、片腹いたきつくりごとなるべし、佛者のうちに佛像をつくる細工のたくみなる人古來多ければ、釋尊の御作の木像ありなど云はさもありなむとも云べきが、釋尊の佛力にて生身の人をうみいだせるなどいへるは水にて物をやくと云にことならず、その上釋尊妙覺の位は、大唐の狂者の位にて、孔子よりはるかにをとりたる見性成道なれば、釋迦の弟子の化身とは云がたし、惣じて佛書は皆寓言にてかきたるものなり、その愚民をたぶらかす寓言の筆法をならゐて、儒道をしりぞけんとおもへる沙門の心根、おろかにいと淺まし、これのみにあらず、我慢の邪心ふかくて種々のつくりごとをなし、或は儒書の文義の皮膚ばかりをまなび、骨髓の理味をば露もさとせずして、妄に儒佛の淺深高下、權實内外の差別を立、佛を尊信し儒をそしりいやしむ沙門、古來そのかすをしらず、これ皆他人を貴び愛してその親をいやしみにくむにひとしき凡心のまよひにて、天に唾はくよりもおろかに淺ましきことなり、その子細は天神地祇は萬物の父母なれば、太虛の

皇上帝は、人倫の太祖にてまします、此神理にて觀ば、聖人も賢人も釋迦も達磨も儒者も佛者も我も人も、世界のうちにあるとあらゆるほどの人の形有ものは、皆皇上帝・天神・地祇の子孫なり、さてまた儒道はすなはち皇上帝・天神・地祇の神道なれば人間の形有て儒道をそしりそむくは、其先祖父母の道をそしりて其命をそむくなり、まへにも論ずるごとく、我人の大始祖の皇上帝・大父母の天神・地祇の命をおそれうやまひ、其神道を欽崇して受用するを孝行と名づけ、又至德要道と名づけ、また儒道と名くこれを教を儒教と云、これを學を儒學と云、これをよく學て心にまもり身におこなふを儒者と云なり、もとより釋尊は道の大意をさとりたる狂者にて、すでにみづから其父淨飯の棺をになひ、梵綱經には孝順至道之法と説められて、孝行にくらき人にあらざれ共、孝德の全體精微の密には悟入なきによつて、中行の位にのぼりめさるゝことあたはず、もし儒道を聞められたらば、かならず尊信受用有べきこと、孝順至道之法と説、その父の棺をになひめされたるにておしはかるべし、しかるにその流をくむ末代の比丘、我慢の邪心たくま

しくてその親をそしるよりも物體なき理をわきまへず、くちにまかせて儒道をそしりゐるは、無下にあさましきまよひなるべし、

○牀充曰、巢父許由は狂者なれ共、堯舜これをしりぞけたまはず、曾哲原壤も狂者なれ共、孔子これをしりぞけたまはず候間、釋尊も狂者にて候はゞ、佛法をもしりぞけひらくべき理なし、しかるに程子曰、老佛皆是正路之藁蕪、聖門之蔽塞、闢之而後可_ニ以入_レ道、又曰、佛氏之言比_ニ之楊墨_一、尤爲_レ近_レ理、_{フユニ}以其害爲_ニ尤甚_一、學者當_ニ如_ニ淫聲美色_一遠_レ之、不_レ爾則駸々然入_ニ於其中_一矣、朱子曰、異端虛無寂滅之教、其高過_ニ於大學_一而無_レ實、又曰、至於老佛之徒出、則彌近_レ理而大亂_レ眞、又曰、程夫子兄弟者出、得_ニ有_レ所_レ考以續_ニ夫千載不傳之緒_一、得_ニ有_レ所_レ據以斥_ニ夫二家似_レ是之非_一、かくのごとく甚しくしりぞけひらきめされたるは、何たる故にて候や、

師の曰、巢父・許由・曾哲・原壤などは、堯舜・孔子の日のひかりつよきによつて、その狂見の教をひろめて世教のさまたげとならず、其上惟狂克念作_レ聖の人なるによつてしりぞけたまはざるなり、程子朱子の時に

は儒道くらくて佛法盛にひろまり、末流の比丘みだりに意見にまかせくちにまかせて、釋尊の本意にもそむきたる造言をなし、法をたてゝ世をまどはし人を誑し、すゝむるによつて、やむことをゑすしてかくのごとくしりぞけひらきて、天下後世のまよひを解あきらめめされたり、すなはち孔子原壤の脛を叩て爲賊と責たまふ意を祖述して、攘退めされたれば據どころなきにあらず、佛氏の流をくむもの許由曾皙などのごとく、我心にのみ狂見をまもりて世教をさまたげずば、程子朱子もさのみしりぞけひらきめさるまじ、君子は仁孝の心切なる故に天下を汚濁におぼらし、人倫を禽獸の域にひきいれぬるをあはれみなげきて、はなはだしく攘斥めされたり、佛者の勝むことをこのむ邪心にて、儒道をそねむがごとくなるにはあらず、

○鉢充曰、釋尊の教の法を立めされたる本意は、勸善懲惡のためなり、其上道の大意を悟たる人なれば、其教の法さほどに世をまどはし人を誑し、禽域におとしいるゝことは有まじきと存候いかい、

師の曰、不審尤に候、易學をよくきはめざれば、合點

成がたき處なれども、その皮膚の大意をかたり候べし、子曰、差之毫釐、謬以千里との聖謨の意は、心法の立やう毛頭たがひぬれば、その議論行跡のあやまり千里のちがひとなると云義なり、しかる故に先悟をひらく精粗生熟高下心法の立やうの差別を明に辨ざれば、儒佛眞妄のわかち知がたし、夫人間は迷悟の二にきはまれり、迷ときは凡夫なり、悟ときは聖賢君子佛菩薩なり、その迷と悟は一心にあり人欲ふかく無明の雲あつく、心月のひかりかすかにして、やみの夜のごとくなるを迷の心と云なり、學問修行の功つもりて人欲きよくつきて、無明の雲はれ心月の靈光あきらかにてらすを悟の心と云、此悟の心を佛經に無心無本佛妙覺佛化身佛など、名く、また無礙清淨位と云、前かどに論する高明廣大の道體をさとする狂者の心の位これなり、かくのごとく悟たる心の無欲無爲自然の靈覺を眞心と定、眞性と定靈性と定、佛心と定佛性と定、これすなはち釋尊達磨の心法の端的なり、三大乗の觀念千七百則の公案、皆この端的に約れり、此無礙清淨位無心無念の本佛は、不思議の體にして、毫髮の按排をいれざる處なれども、儒教には

此無礙清淨の位の上に不思議神通の力をもて、神理靈氣不二の二、不一の一を明辨して、一段向上精一の神化あり、此神化の後を聖人と名く、至極天真良背敵應の位なり、此神化の結胎純熟半なるを亞欲の大賢と名く中行位なり、中行は無欲無爲自然の真心無礙清淨の位の上にて、至妙天真良背敵應の聖胎をむすぶによつて、その議論行迹聖人にたがはず、これを大一天眞の神道と名く、許由巢父・曾皙・莊子・釋迦・達磨などは、無欲無爲自然の真心をあきらかにし、無礙清淨の位に至てこれを至極の中道山頂なりと定、至妙天真良背敵應の聖胎をむすばざるによつて、その心無欲無爲清淨自然なれ共、その應事接物の議論行迹猖狂妄行にして、聖人良背敵應の天真にそむきたり、天真にそむくといへども、無欲無爲清淨自然の心なるによつて、惡と云べきにもあらず、惡にあらざれども天理にかなはざれば、天真にもあらず、無欲の妄行と云ものなり、聖人これを狂者と名けたまふ、狂の字に眼をつけて觀察すれば、無欲の妄行の義はすして分明なり、つらく體察するに、佛者は元氣の靈覺をさとりて至極と思、元神の靈覺をさとらず、唯無

欲無爲自然を心法として、元氣の靈覺に任する故に、其心粗濶にしてその行跡狂妄なり、儒者は理を窮性を盡し、命に至を心法とすれば、無欲清淨無爲自然無礙のことは云におよばず、專元神の靈覺に率ふ故に、其心精妙にしてその行跡中正なり、儒者悟道則其心愈細、禪家悟道則其心愈粗と、樂軒の發明めされたるも此意なり、元神元氣は不二の二不一の一にしてまことに毫釐のたがひなれども、其議論行跡のあやまりは千里よりもとをし、しかるによつて其教法勤善懲惡のためなれども、そのすゝむるところの善、皇極の至善にあらず、こらしましむる所の惡と名くる惡のうちに、眞實の惡にあらざるあり、不姪の類これなり、釋尊十九に天子の位をすて山に入、三十成道の後人間本分の生理をいとなまず、或時は乞食し人倫を外にし人事をいとひすて、種々の權教方便説をときて愚民を誑誘めされたること、皆これ無欲無爲自然清淨の位を極上と定、元氣の靈覺にまかせたる毫髪之差よりおこりたる無欲妄行の誤なり、その流をくめる末代の比丘、釋尊妙覺の眞性、無礙清淨の位をその心地に悟得ことをば務ずして、徒に釋

尊無欲妄行のあとをにせたるばかりなれば、我慢の邪心凡夫よりもふかく、高言をたくみにし辨舌をたくましくして、かりそめにも勝ことをこのみ愚民を誑し、すゝむるをもて務とし、おなじながれをくみながら我慢の偏執を立て互にそしり争こと、貪夫の畔を争よりも淺まし、しかる故に佛者は太虚を超出すれば、貴ことならびなきによつて、父母兄長をも崇恭する理なしなど云て、其父母を拜せず、父兄をうやまはず、黃檗禪師の母をころせるを眞實の大孝なりとはめ、或は三綱五常の道は今生幻の間のいとなみにして、菩提の種とならずなど、誑誘し、或は主親をころしたる極重の惡人にても、念佛の功力にては必極樂淨土へ往生するなど、教誨せり、其外いろ／＼さまざまにことばを巧にし、寓言をつくりて人心をまどはし、禽域へひき入、世教のさまたげとなる事舉てかぞへがたし、かくのごとくなるはよくまなばざるの過、末流の比丘の罪なりといへども、根本は釋尊無欲の妄行よりおこりたるものなり、釋尊の心地無礙清淨の位はよしといへども其妄行の天真のさはりとなる法をばしりぞけひらかで、かなはぬ事なり、むか

し原壤といへる狂者は孔子の舊友なり、後に原壤狂見たくましくしてしりぞくべき妄行あり、孔門の諸賢絶交しますべきことなりと疑ありけれ共、孔子故者母レ失ニ其爲レ故也とのたまひて、終に交を絶たまはず、交をば絶たまはざれ共、原壤夷俟ときは爲レ賊とのたまひて、つきたまへる杖にて原壤の脛をたゝきいましめ責たまふ、此聖行の御本意を愼て考見るに交を絶たまはざるは、吾不得中行而與之必也狂狷乎とのたまふ意なるべし、脛をたゝきたまふは妄行のあやまりをさとらしめ、中行の位へ誘掖なされんとの不屑の教誨なるべし、されば洙泗の流をくめる眞儒は此聖謨を憲章して、釋尊の心をば好し、其妄行をばしりぞけひらきて、靈山の糟粕に酔てたはことつける沙門を教化して、儒門良背敵應の學者となすべきこと仁民の一端成べし、

○躰充曰、元神元氣通一不二の端的にて候は、狂者もすでに無礙清淨の位に至たる心なれば、元神の端的をもさとるべき事と存候いかい、

師の曰、聖人は生知安行天と同體なるゆへに、をのづから元神元氣一貫の妙用活潑々地なり、大賢より下

の人は、學問修行をもて悟をひらくものなれば、その見性成道の段々階級のごとく次第あるによつて、中行の悟ところをば、狂者はいまださとり得ず、狂者のさとりところをば、狷者はいまだ悟得ざるものなり、たとへば山へのぼるがごとし、ふもとより峯頭まで皆山の一體なれ共、其巔へのぼり得ざれば、峯頭の草木を明細に見分ことあたはず、そのごとく、元神元氣皆おなじく一心なれ共、兼山の頂上に止得せざれば、元神の靈覺をさとり得ことあたはず候、

○艸充曰、左様に候はゞ中行にいたらざるうちに、儒門の學者も佛家の學者もおなじことにて候や、師の曰、その心の位意馬の奔走は、初學の間はおなじけれ共、その修行の道は眞妄各別なり、たとへば山にのぼるがごとし、儒門の學者の力行する道は、峯までよく通じぬる定たる道をのぼるがごとし、平常不易の道なる故に是を天真と云なり、佛家の學者の修行する道は、山八分にきれとありて、峯頭まで通せざるすじののぼるべき道なき所を、木かやをわけてのぼるがごとし、嶮岨にして道なく人間のとをらざる所なる故に、これを妄行と云なり、初學の間心の位の

ちがはざるは、山をのぼるみちのほどおなじければ、その高下のろくなるがごとし、しかれ共あし下の道、眞にしてのぼりやすきと、妄にしてのぼりがたきとは各別なり、よく體認あるべし、

○艸充曰、五戒と五常と名はちがひたれ共、心はおなじものなりと佛者のいへるは、きこえたる様に存候いかい、

師の曰、それはしらぬ京物がたりと云ものなり、夫五常は天神地祇の大德、人生の天性にて、佛氏の極上と尊ぶ妙覺の佛性よりも一位ましたる無上無外の天德なり、しかるを一事になづみて、偏にひがみたる五戒の法とおなじこと、云は、金と鉛は名はちがひたれ共おなじかねなりと争ごとなれば、その分辨は論するにおよばぬ事なれ共、心學をよくしらぬ人はまよへることもあるべし、仁者の人を殺ことを嗜ざるを見て、天理眞妄の差別をわきまへず、不殺を仁の全體なりと心得て殺生戒を仁なりといふ、是に似たる非と云ものなり、夫仁は天神地祇の人物を發育したまふ神道にして、人間慈愛の神理なり、もとより親親仁仁民愛物生理の時にそむきては、一草一木をも

きらざるは仁者の常なれ共、天道をおそれず惡逆をして生理をそこなふ科人をばころすをもて仁とするなり、殺と不殺との事になずみて仁不仁を論ずるは愚癡なる凡夫の心得なり、殺べき罪科なくてころすは本より不仁なり、殺べき罪科ありてころさければ神道の生理をそこなふによつて、科なき者をころすとひとしき不仁なり、しかるに今佛氏の殺生戒は、のみしらみをもころさるる法なれば、まして人間をば主親をころせる惡人にても宥^{ゆる}て不殺を本とす、これを仁に似たる不仁、善に似たる惡、是に似たる非と云なり、かやうのにせものをもて正眞の神理にくらべられ候はんや、偷盜戒を義なりといへるは可なり、しかれ共義は天徳の利にして、人間果斷の神理天下の故に感通して天下の務をなす本なれば、不盜の粗迹一いろをもて高明廣大の義なりと云は、みかみ山を富士山なりと云にことならず、邪姪戒を禮なりと云に似たり、しかれども禮は天徳の亨にして、人間恭敬樽節の神理天下の故に通じて、上宗席朝廷より下民間に至まで、人倫の交冠昏喪祭食軍陳等、萬事の天理儀則を履をこなふ主宰なれば、不邪姪一色を禮な

りと云は、一勺の水を大海なりと云がごとし、その上いましむるところの邪姪天理の眞にかなひがたし、子細はその妻一人の外をば、おしなべて邪姪とするは、死法と云てかたつまりたることなり、儒道の法には庶人ばかり妻一人の定なり、天子より士まではその位々分々相應によつて后夫人世婦妻妾の員數自然の天則ありて、妻一人の定にあらず、子細は根本子孫相續の道なれば、婦人に子のなきものある故也、もとよりその位々の員數の外は邪姪なり、その員數に定たる妻妾にても、交^{まじはる}まじき時に交をば邪姪と戒むるなり、時に相應したる義理にしたがふを法の眼とするなり、これを活法と云なり、さてまた出家は不姪と戒たり、これはすじもなき妄法と云ものにて候、飢渴の人に飲食を戒むるにことならず、しかる故に末流の比丘姪欲こらへがたきによつて、男女和合のとなりなればにや、大便道をほり出して無陰陽の地不和合の處にて、執著の煩惱なしと例の家のへりことを巧にし、旦那を罔して色欲のかはりとし、おさなき人を女の形に似せて、兒喝^{ちこかつき}食など云て和尚上人の妻となせり、まことに淺ましきとも中々言語道斷なり、元

來不婬戒の法、天理にそむきたる法なるによつて、末流かくのごとく畜生にもおとりたる作法となるなり、文殊の始て此道を開闢めされたるなど、佛者の言ならはすことなれ共、文殊はすでに菩薩の果を得たる人なれば、かくあさましき欲心はあるまじき分明なり、例の家の造言なるべし、夫婦の別は本來智に屬したるものなり、しかるを禮なりといへるは、儒道無案内なる故か、または飲酒戒のあて所なき故かなるべし、妄語戒を信なりと云るは可也、しかれども信は天徳の至誠人間眞實無妄の神理、五常百行の根本にして、自古皆有_レ死、民無_レ信不_レ立とのたまふほど、廣大親切無類なる天性に、不妄語一色をおしあつるは、九牛の一毛を全牛に當るにことならず、飲酒戒を智なりといへるは心得がたきことなり、さだめて凡夫の酒に酣酔して心くらく、威儀亂たるを見て戒たるに候はんか、それは飲者の誤にして酒のとかにはあらず、たとへば食にむせたる人の食をいむにことならず、不_レ及_レ亂の儒法に従て酒を用なば、賓主の歡を合肌膚をうるをし氣血を活し、百藥の長とも云べし、その上祭祀必用のものなれば、偏に禁制すべき

ものにあらず、事の是非をよくわきまへしるを智とす、かやうに偏にひがみたる戒をたもちて、智者と云べけんや、その上智は天徳の貞にして、人間是非の靈明衆理を妙にして、萬物を宰する神理なれば、飲酒戒を智なりと云は、石を玉なりと云にひとし、かくのごとく似て似ぬことをおなじものなりといひて、眞妄をみだるは愚癡なりといわんや、我慢ふかきとやいはん、惣じて佛者の法は大かたは邪僻なり、間に道理にかなひたるもあれど、かたくとりとこをりて泥によつて、死法となりて受用するもの、皆其法に繫縛せられて無下に淺まし、

○躰充問曰、佞人とはいいかやうなるものを申候や、師の曰、心ねぢけててくろの上手なる者を佞人と云、才智たくましく藝能文學人にすぐれ、辨舌達し邪欲ふかく義理をまもらず、人をばかすこと野狐のごとく、人をそこなふこと虎狼のごとくなる心根ある者が、佞人の棟梁なり、その虎狼野狐のごとくなる邪心をよくかくして、才智藝能文學辨舌をもて君子のふりにばけなし、人をばかすこと狐の及ぶきはにあらず、しかるによつて凡夫みなばかされて君子なりと

もてはやすものなり、古來此佞人きつねにばかされて、天下を亡し國をうしなふ人多し、世間にもてはやす名高き出家諸士其外藝にて身を立るさふらひ、俗儒の中より此佞人狐おゝくばけ出ると見えたり、天子諸侯の御用心ましますべき事也、

○躰充問曰、郷原とはいか様なる人を申候や、

師の曰、世俗のめくちかはきといへる人を郷原と云、此郷原は機轉利根にして才覺人にすぐれ、何事を裁判してもうとからず、孝悌忠信をつとめ、行廉直無欲をたしなみ、殘所なき様に見ゆれども、その志唯當世の人のほむる所の名と、其主君に獲られて立身する利とをもとむることを專として、義理をも法をもかへりみず、名利の欲泥にきたなくけがれたる心根なるによつて、孝悌忠信の行廉直無欲のたしなみ、輕薄にして根にいらす、ひよりを見ててわるければ、孝悌に似て眞實の孝悌にあらず、廉直無欲に似て眞實の廉直無欲にあらず、心に義理を守らずして利害の分別利根なるによつて、多分武道にぶきものなり、利根なる者は必臆病なるなど、世俗のいへるは、此郷原のかたなるをみて云ならはしたるものなり、郷原

は名利の欲心を本として利害の分別利根なるによつて、かげひなたの目利上手にて、義理をかくことをはぢざる故に、たとひその生付けなげなるも所によりてかならず二かたなり、君子はもとより利根なれども、郷原の利根とは利根の品かはれり、郷原の利根なる名利の欲には鈍にして、義理の是非に利根にて、利害の分別毛頭なきによつて、かげひなたの目明なく、ひたすらに義理を立ゆへに、かりそめにも二かたなることなし、しかれ共郷原は世間に多、君子はまれなれば、郷原の利根ばかりを見なれてかく云ならはすもまた宜なりとも云べきにや、此郷原機轉利根にして迹になすまず物に滯らず、その上面のふり聊中行の君子の光景に似て、道德のそこなひとなる故に、孔子ことの外にくみたまひて、郷原は徳の賊なりとしりぞけたまふ、今の世に此郷原のなりぞこなひ澤山なりと見えたり、志あらん士はよくわきまへて、したしみともなふまじきことなり、

○躰充問曰、つねの禮法にちがひて道にかなふは權の道なりと承及候、さやうにておはしまし候や、師の曰、權は聖人の妙用神道の惣名なり、大にしては

堯舜の禪授湯武の放伐、小にしては周公の吐握孔子の恂々便々一言一動の微に至まで皆權の道なり、しかるを經に反して道にかなふを權といへるは大なる誤也、程子すでにその誤を正しめされたり、權はかりのおもりなり、神道を權となづくる名義は、聖人は天と同體至誠無息、物に凝滯せず跡によらず、獨往獨來活潑々地にしておこなひたまふ所、ことごとく天道の神理に適當恰好なる景象秤のおもりの定ところなく、往來滯ずして物の輕重をはかりて、適當恰好なるに似たる意あるによつて象をとれり、大賢以下の人は氣質の累ありて明德くらく、權をおこなふことあたはざる故に、聖人天下のために禮法を定たまふ、此禮法もすなはち權の道なれ共、すでに法に定ぬれば、迹ありて變通の活潑なきによつて、權といはずして禮法といふなり、此意をしらず徒に禮法の迹を眞實の道なりと心得て、聖人立法の本意權道の妙をさとらずして、禮法になすみて專にとりおこなひ、時中の神理にそむくをば非禮の禮となづけて、君子のせざる所なり、此非禮の禮をも眞實の禮なりとまよひたる人、聖賢の行跡禮法にちがひたるを見てうたが

ひをなし、禮と權は各別なりなど、得心するなり、此權の字の精義をしらざれば、心學に志ありて致知力行をはげますと云ども、必欣眞落法の地にまよふべし、大學の能慮は此權を詳に分別する工夫なり、能得は此權を得心受用するものなり、法ありて法におちず、在ゆるところなくして在ざる所なく、定ところなくして定らざる處なき、權字の理味をよく體認すべし、

○艸充曰、さやうに候は、初學の人も權をおこなひ候はんや、

師の曰、權は聖人の妙用にして、初學の人受用することあたはずといへども、工夫の準的はかならず權を目あてとすべし、たとへば鐵炮を打がごとし、いなどみがねらふ所も初心の人のねらふ所も、まことにちがひはなけれども、いなどみはうつごとにきりもみにあたり、初心の人はかくをもうちはづすばかりなり、そのあたるとあたらざるとは天地懸隔なれ共、めあてのねらひ所をちがへてはうち習べき理なし、そのごとく初心の受用と聖人の妙用とは天地懸隔なれ共、權を準的として工夫せざれば、明德を明にすべき

道なし、

○躰充曰、子曰、可_レ與共_レ學、未_レ可_レ與適_レ道、可_レ與適_レ道、未_レ可_レ與立_レ、可_レ與立_レ、未_レ可_レ與權_レ、此聖謨をもて見れば、權は初學の取ざたすべきことにあらずと存候はいかい、

師の曰、此聖謨は學者の面々のいたるところの位をよしと畫して、上達の志あづからざるをいましめ、引たてたまふ主意なり、初學の者權を取ざたすべからずとのたまふにはあらず、可_レ與共_レの學はすなはち此權の道をまなぶ學なり、可_レ與適_レの道もすなはち此權の道なり、可_レ與立_レの道もすなはち此權の道なり、權の外に道なし道の外に權なし、權の外に學なく學の外に權なし、但その受用に生熟大小精粗の差別あるのみ、しかる故に此聖謨の主意は工夫成就の次第をあかして、至極無上の神道を指出して、學者の準的を示たまふものなり、孟子道_二性善_一、言必稱_二堯舜_一、公明儀曰、文王我師也、周公豈欺_レ我哉、かくのごときの賢範をよく體驗して、明に辨しるべし、若この準的をしらざるときは心學の徒なりとも、欣眞落法の地に執滯して非禮の禮多あるべし、

○躰充曰、洪氏曰、權者聖人之大用、未_レ能_レ立而言_レ權、猶_二人未_レ能_レ立而欲_レ行_一、鮮_レ不_レ仆矣、此格言にて見申候へば、先生の教等をこゆる弊あるべしと存候はいかい、

師の曰、此格言は權を工夫のめあてとすることをいましむるにあらず、權の理味を心得ちがへて道のそこなひとなる人をいましめたる主意なり、權の理味を心得そこなひて、道のさはりとなる人二しなあり、一には狂見に入たる人權道の法におちず、迹になづまざる面影を見付、中庸精微の矩をわきまへず、無欲の心にかかせてあとになづまず、法におちざるを至極の道として、神道の權にそむけり、禪を學ぶ人此心地にまよへり、これは權の體段徹頭徹尾、ことごとく中庸精微の神理にして法におちず、迹になづまざるは權の景象なることをさとらず、影を認て形とする誤なり、又一には俗儒の學をひろくして禮法になづまざるを權なりとばかり心得て、時中の適當をわきまへず、欲心に任て禮法をそむき、その心にも不義なりとはわずかにしれ共、高滿の傲氣はなはだしき故に、權の名をかりてのがれことはを巧にして、その門

人を罔し世を惑し道のさまたげとなる人あり、此ふたしな^の權の賈ものをいましめんために、洪氏の格言を集註に引用ひめされたり、よく明辨すべし、○牀充曰、淳于髡曰、男女授受不親禮與、孟子曰、禮也、曰、嫂溺則援之以手乎、曰、嫂溺不援、是豺狼也、男女授受不親禮也、嫂溺援之、以手者權也、曰、今天下溺矣、夫子之不援何也、曰、天下溺援之以道、嫂溺援之以手、子欲三手援天下乎、孟子の此章を考見れば、經と權と差別あるべきと存候はいかい、師の曰、漢儒反經合道爲權の説は、此章を見あやまりたるものなり、此章の禮は禮法を指ていへり、禮法は天下萬民日用通行のために、平生急務の事ばかりを定たまふものなれば、非常の變事には禮法なし、道は大虚に充滿して身をはなれざるものなれば、もとより平生日用の禮法も道なり、また非常の變に處する義も道なり、權は此道の攄名なる故に、禮法も本權なれ共、事の模様定りて迹あるによつて權と名けがたき故に、法となづけたり、嫂溺は非常の變にして、これをすくふ禮法なければ、嫂溺援之以手者禮也といはずして權なりといへり、權は道の攄名なれ

ば、權すなはち道、道すなはち權なる故に、道也といはんために權也といへるなり、此章男女授受不親禮也、嫂溺援之以手者道也とあらば、反經合道の見あやまりあるまじ、權也といへるによつて權の字になすみてうたがひあるなり、此章の主意禮と權との辨をあかすにあらず、儒者の道は法におちずあとになづまず、上天時に律り下水土に襲て、至善に止を本とすることを開示するものなり、淳于髡をのれが私心をもて孟子をうかいひ、孟子の當時の諸侯の無禮をにくみつかへめされざるを見て、禮法になすみたる人なりと思ふによつて、嫂溺の事を寓言して孟子を諷したり、しかる故に孟子儒者の道は則權をもて主本として、物に凝滯せず迹になづまず、活潑々地なることをしらしめて、そのまよひをとかんために、道とはいはずして權也と論じめされたり、孝經曰、夫孝天之經也、地之義也、民之行也、天地之經而民是則之とあれば、經も權もおなじく道の攄名なれば、經と權と辨ありと云は不可なり、禮法と權とすこし辨ありといはんは可なり、しかれ共禮法は本權道の節文なるによつて、時中にかなひて用れば、禮法すなはち

權なり、時中にたがひて用ゆれば、權にそむきて非禮の禮となれば、畢竟禮の外に權なし、權の外に禮なし、權と禮と名義はすこし辨あれども、實は一理なり、よく／＼玩味あるべし、

翁問答卷四終

翁問答卷五〔原本、下卷之末之末〕

○牾充問曰、神信仰をば仕たるがよく候や、

師の曰、神明を信仰するは儒道の本意にて候、しかる故に祖を天に配し父を上帝に配し、神名に通ずるを孝行の至極なりと孝經に説たまへり、周禮曰、大宗伯之職掌建邦之天神人鬼地祇之禮、以佐王、建保邦國、以吉禮一事邦國之鬼神祇、以禋祀祀昊天上帝、以實柴祀日月星辰、以燔燎祀司中司命飢師雨師、以血祭祭社稷五祀五嶽、以醴沈祭山林川澤、以醯醢辜祭四方百物、又曰、若大師則師有司、而立軍社奉主車、若軍將有事則與祭、有司將事于四望、又曰、凡師甸用牲于社宗、則爲位、類造上帝封于太神、祭兵于山川亦如之、祭法曰、燔柴於泰壇祭天也、瘞埋於泰折祭地也、用騂犢埋少牢於泰昭祭時也、相迎於坎壇祭寒暑也、王宮祭日也、夜明祭月也、幽宗祭星也、雩宗祭水旱也、四坎壇祭四方也、山林川谷丘陵、能出雲爲風雨見怪物、皆曰神、有天下者祭百神、諸侯在其地

則祭之、亡其地、則不祭、王爲群姓立社曰大社、王自爲立社曰王社、諸侯爲百姓立社曰國社、諸侯自爲立社曰侯社、大夫以下成群立社曰置社、王爲群姓立七祀、曰司命、曰中雷、曰國門、曰國行、曰泰厲、曰戶、曰竈、王自爲立七祀、諸侯爲國立五祀、曰司命、曰中雷、曰國門、曰公厲、諸侯自爲立五祀、大夫立三祀、曰族厲、曰門、曰行、適士立二祀、曰門、曰行、庶士庶人立一祀、或立戶或立竈、夫聖王之制祭祀也、法施於民、則祀之以死、勤事則祀之以勞、定國則祀之、能禦大菑則祀之、能捍大患則祀之、及夫日月星辰民所瞻仰也、山林川谷丘陵民所取財用也、非此族也不在祀典、論語曰、祭神如神在、以上の聖謨をよく考て、儒教に專神明を信仰する事を得心すべし、これは外神につかふまつる大法なり、先祖の鬼神を祭は此外なり、日本の神道の禮法に、儒道祭祀の禮にあひかなひたることあり、其上三社の神託の意義、儒者の神明にかふまつる心もちによくかなひぬれば、本朝は后稷之裔なりといへる説、まことに意義あることなり、さて神明につかふまつるには、その位々のおきて作法

あれば、その國の風俗を本とし、天秩の祭祀の禮に考あはせて、よく齋戒して信仰すべき事誠に第一なり、しかるに佛者は神明を信仰するを難行難修といひ、佛は六通、神は五通などいへるは、物體なきこと、○鉢充問曰、先生の教を承届候へば、儒道は道理の至極したることばかりなり、まことに我人取をこなはでかなはぬ事にて候へども、日本は風俗あしく候間、おこなひがたく候はんと存候いかい、

師の曰、それは道の道たる本意をわきまへず、儒教の禮法をもて專眞實の道なりと得心するあやまりなり、本來儒道は大虛の神道なる故に、世界の内舟車のいたる所、人力の通するところ、天の覆ところ、地の載ところ、日月のてらす所、露霜のおつる所、血氣ある者の住ほどの所にて、儒道のおこなれぬと云ことはなし、儒書にのする所の禮義作法は、時により所により人によりてそのまゝはおこなはれぬものにて候、儒書にのする所の禮義作法は大方周の代の制作なり、此禮義作法をすこしもちがへず、只今日本にて位なきものが取おこなふ事は成がたし、たとひ位有人の取おこなひたまふとても、ありのまゝに少も

たがはず、取おこなひたまふことはならざるなり、大唐にて取おこなふとても、すこしづゝ損益せずしてはおこなはれぬ道理なり、伏羲より周の代まで代々の聖人制作したまふ、禮義作法その時代にはよく相應して中庸の儒法なれ共、代かはり時うつりては、大過不及の弊ありて損益なくてはかなはぬ事なり、しかる故に萬世通用の定法はすくなし、前かどにも論するごとく、禮義作法は時により處により人によりてかはるものなれば、一しなの禮法になづむをば、欣眞落法とて大にきらふ事なり、殷の代には夏の代の禮義作法をあらため損益し、周の代にはまた殷の代の禮義作法をあらため損益したまふにて得心あるべし、初學より權の道を目あてにせざれば、此あやまりうたがひあるものなり、儒書にのする所の禮義作法をすこしもちがへず、殘所なく取おこなふを儒道をおこなふとおもへるは、大なるあやまりなり、たとひ儒書にのする所の禮法をすこしもちがはず、皆とりおこなふといふとも、其おこなふ所時と處と位とに相應適當恰好の道理なくば、儒道をおこなふにはあらず、異端なり、そのおこなふ所時に相應適當して

も、その心に名利の私あるは、にせものゝ小人と云ものにて、君子の儒にあらず、たとひまたその行ところ儒書にのする所の禮義作法にちがひても、その事中庸の天理にあたり、その心私なく聖賢の心法にかなひぬれば、儒道を行ふ君子なり、かくのごとく禮義作法になづまず、眞實の儒道をおこなふには、何國にてもおこなひがたき事はなきものなり、素夷狄之行乎夷狄、素患難之行乎患難、君子無入而不自得焉とのたまふは、此意なり、

○牾充曰、さやうに眞實の儒道をおこなふ工夫は、いかやうに仕たるがよく候や、

師の曰、その工夫には先自滿の浮氣、名利の欲心をすて、間思難慮の妄をのぞき明德の心源をすまし、全孝の心法を受用するを根本第一とす、さて世間にまじはる禮義作法は其國其處の風俗を本とし、何事も圭角なく目にたゝぬ様に取なし、いかにも作法うやうやしく謙德を守り、かりそめにも人にまさらんとあらそふ魔心なく、孝悌忠信の道を根に入てつとめおこなひ、親には孝行をつくし、君につかへては忠節をはげまし、よりをや、位高人、年老たる人、徳たかき人

などをよくやまひ、友だちにたのもしく義理をたて、兄弟の間には友恭をおこなひ、妻子には義慈をほどこすべし、かくのごとくにおこなふを、儒道をおこなふとは云なり、加様におこなひてさはりある所は、世界のうちにはあるまじく候、よく／＼體認して、つとめおこなはるべき事なり、

○躰充曰、さやうに候はい、今時の物よみ坊主衆のかみをそりて、出家のまねをめさるゝも、道理にかなひたることにて候や、

師の曰、俗儒の作法は無案内なれば、何とも了簡に及がたし、定て日本にての俗儒はかみをそらではかなはぬ子細ありての事ならんが、眞儒の道にて論すれば、中庸の神理にだにかなひぬれば、かみをそりてもくるしからず、泰伯は孝行のために髪を斷身を文にしたまひたり、しかるを孔子其可_レ謂_二至徳_一也已矣と嘆美したまふ、かみをたち身を文にしたまふをほめたまふにあらず、その孝徳十分に明にして、そのおこなひたまふ事の道理、中庸にかなひたるところをほめたまふなり、此意をしらざるにや、泰伯の孝徳もなく中庸にかなふべき義理もなく、かみをそりて

我剃髪は泰伯の斷髪とをなじことなりなどいへる人あり、これは舟に刻て劔をもとむるの愚癡にあらずば、烏を鷺と云まどはす佞人なるべし、心に仁義の守なくまた何のもとむるすじもなく、かみをそり身を文にして、走まはらば、氣ちがひと云ものなり、心に利欲ふかく知行をむさぶらんため、座敷かみになをらんためにかみをそりて、中庸の神理にそむくものをば欲ふかき人とやいはん、まいす坊主とやいひなまし、そのかみをそりたるところばかりにて吟味しては、是非の眞實しれぬものなり、そのかみをそるところの心根は、遁世のためか何のためぞと考みて評判あるべし、只そのうはつらの事ばかりにて、吟味評判するはまよへる凡夫の取さたなり、これのみにあらず、何事の評判にても、其心根にて吟味せざれば是非のあやまりあるものなり、これに付て分明にわきまへやすきたとへあり、むかし大唐に盜跖と云ぬすびとあり、同類數千人を引率し、みづから將軍と號し、あまたの里をやぶり強盜し、人を殺事そのかすをしらず、その武勇のてがら比類なけれども、名大將とはいはずして大盜と云ていやしみにくみたり、我朝

のくまさかも盜跖ほどこそなけれ、隨分剛強達者なるものなれ共、武篇者とはいはずしてぬす人と云おとしめり、そのけなげのふるまひは、名大將武篇者のふるまひにもおとるまじけれ共、その心根ぬすみを本とする故に、その心をもて盜賊と云なり、萬事皆かくのごとし、よくく體認あるべし、

○牀充曰、眞實の儒道を行には、名利の欲をすつるが第一の工夫なりと被仰候、尤欲心はきたなきものなれば、すてたき事にて候へども、欲をすてゝは世の中のすまひ成申まじきと存候いかい、

師の曰、それは佛氏偏僻の教に釋尊の天子の位をすて、龐居士が家財をすてしごときを、無欲なりと云を聞ならひてあやまる疑なり、儒道にはそのやうにすじもなく、位をすて財寶をすつるをこそ氣ちがひの欲なきにたとへて大にきらへり、位にあるを欲とし位をすつるを無欲とし、財寶をたくはふるを欲とし、財寶をすつるを無欲なりとおもふは、いまだ明德くらくして位をこのみ財寶を貪心根のこりて、外物に凝滯して便利揀擇の私ある故なり、聖人の心は艮背敵應にして、意必固我の私なきによつて、富貴貧賤

死生禍福、その外天下の萬事大小高下清濁美惡におゐて、毛頭好惡揀擇の情なく、只滿腔滿目一貫皇極の神理ばかりなり、しかる故に位にのぼるをも財寶をたくはふるをも、欲ともせずまた無欲ともせず、位をすて財寶をすつるをも、無欲ともせずまた欲ともせず、只天道の神理にそむくを欲とし妄とす、天道の神理にかなふを無欲とし無妄とす、神理にかなひぬれば、天子の位にのぼるも財寶をたくはふるも、位をすつるも財寶をすつるも、皆無欲なり無妄なり、神理にそむきぬれば、天子の位をすつるも財寶をすつるも、位にのぼるも財寶を蓄ふるも、皆欲なり妄なり、欲と無欲と妄と無妄とは、おこなふ事の品にはあらず、只その心根にあるものなれば、如何様なる事は無欲なり、如何様なる事は欲なりと、事にて指さだむるはまよひたる凡夫の心得、または異端偏僻の法なり、釋尊この心をさとりめされたるは、王宮を擅特靈山とし寂光土とし、天子の位を摩尼輪の位とし、袞衣玉殿を麻衣草坐とし、禮樂刑政を說法として、衆生を濟度めさるべきに、王宮をいとひ山に入、袞衣玉殿をいとひて麻衣草坐をこのみめされたるは何たる心ぞ

や、艮背敵應不_二相與_一ときは、王宮帝位何ぞ我をけがさんや、山中の靜坐何ぞ我をまさんや、袞衣玉殿何ぞ我を損せんや、麻衣草坐何ぞ我をいさぎよくせんや、王氏詩曰、

曾是巢由淺 始知堯舜深

蒼生豈有_レ物 黃屋如_二喬林_一

此詩艮背敵應不_二相與_一の意味を能巧にあかしたり、堯舜の禪授、湯武の放伐みな此心なり、おこなふところの事はともあれかくもあれ、その心に欲なく潔靜精微の神理明淨にして、其事時中の天理にかなふを無欲とし無妄とす、たとひをこなふ所義理にあたりても、その心に欲あれば無欲にあらず、まして心に欲あるうへにその事義理にあたらざるは大欲と云ものなり、されば心に欲なく潔靜精微の神理明淨にして、その事時中の天理にあたりぬれば、帝堯の天下を舜にゆづりたまふも、帝舜の天下をうけたふも、また湯王の桀を放た_{おき}たまふも、武王の紂を伐て天下を救たまふも皆無欲の德行なり、もしまた堯舜湯武に欲心有てかくおこなひたまはい、皆貪欲の妄行なり、天下の授所取予は至極廣大なる事なり、其外萬事みなか

くのごとし、一錢を人にあたへ一錢を人にうくるも、此心もちはおなじことなり、儒者の心法は艮背敵應不_二相與_一の聖心を鏡とする故に、天子より下庶人に至まで、分々相應の本分のすぎはひをいとなみ、財寶をたくはふるを欲とはいはず、一錢にても義理にそむきてとりたくはへ、またあたふべきものをおしみてあたへざるを欲とす、此欲をすつことはやすき事にて、世の中の住居のさはりとはならず、學問せぬ人も生付廉直なるものは、不義のたくはへをばいやしみきらふものなり、まして心學に志ある人や、利欲に財欲と形氣の欲とのすこしかはりあり、財欲は金銀財寶を澤山にほしきとおもひ、分もなき高知行をむさぶること也、此欲はすてやすきものなり、形氣の欲は酒色にふけりおぼれ、又は形の便利を求すこと事なり、此欲はすてがたきものなり、惣じて欲をすつる工夫我心の一念おこる所にて、省察してかちさるが簡要なり、此工夫を慎_レ獨と云なり、よく_レ體認あるべし、

○牋充曰、先生の教を承届候へば、利欲をすつことは成易く候はんが、名の欲をすて、世間の外聞をな

にともおもはず候はい、氣隨になりて作法あしく候はんと存候いかい、

師の曰、よきふしんにて候、名の欲は利欲にくらぶれば一位ましているさぎよし、子細は名をこのむものは財寶をむさぶらず、命をおします、きたなき利欲はすこしもなき故に、功名の士をば中の位と定たり、性命の學に志なく義理を專に守らざる人は、せめて名の欲ありて利欲のなきがよし、眞儒性命の學に志なく義理を守らざる人、外聞を何とも思はぬときは、必氣隨になりて作法あしく、其心潔人は狂者の風に入、その心きたなきは市井の風に入ぬべし、吟味あるべき事なり、しかれどもこれは心學に志なき凡夫の上の吟味なり、心學に志ぬる上の吟味はまた各別なり、夫名は實の賓と云て、其心に思ひ身におこなふ實あれば、すなはち其名あるものなり、たとへば實は形なり、名は影なり、善をおもひ善をおこなへば善の名あり、堯舜孔顔などはなり、惡をおもひ惡をおこなへば惡の名あり、桀紂盜跖などこれなり、善をこのみ惡をにくむは人心秉彝の本然なる故に、善名をほめたつとび惡名をにくみきらふは萬古のつねなり、しか

るによつて生付いさぎよき士は、其名たかくあらはし譽をとらんことをこのめり、其心根善をこのみ惡をにくむ秉彝の本然にちかくて、利欲にけがれてきたなき凡夫にくらぶれば、一位まさりたれ共、其明德明ならず、眞安本末のわきまへをしらず、風俗のあやまりに習ひそまりて、或は本をすて、末を專とし、或は眞をそむきて妄をとる故に、その心根の始は善をこのみ惡をにくむ秉彝の本性に似たれ共、却本心をくらまし性命をそこなふ人欲のわづらひとなれり、利欲と名の欲とは清濁かはりありといへども、天性をそこなひやぶり、不孝莫大の罪におちいる事はやはりなきによつて、名と利の欲を牛角にきらひてかちさるものなり、さて名の譽に眞安本末の差別あることをよくわきまへざれば、名の欲をすてんとおもふ志ありても、工夫はげましたがたし、聖賢君子英雄孝子忠臣の名の譽、其外一事の譽にても義理にかなひたるを天理眞實の名と云なり、異端曲學の名の譽、その外一事の譽にても義理にかなはぬを汚俗妖妄の名と云て、君子のたつとばざる所なり、妖妄の名をこのむ意はすてやすけれども、眞實の名をこのむ意は

本末をよくわきまへざればすてがたくて、人不_レ知而
不_レ愠の位にいたりがたし、聖賢君子英雄孝子忠臣
の名譽、その外一事にても義理にかなひたるはまれ

は皆末と影となり、その名譽の根本と形とはその心
と行跡となり、聖賢の心を心にまもらず、聖賢の行跡
を身におこなはずして、聖賢のほまれをとらんこと
を求め、心に孝徳なく身に孝行をおこなはずして、孝
行の譽をもとむるは、たとへば形なきに影をもとむ
るがごとく、猿猴の水の月をつかむに似たり、其上我
身のうちに連城の珠にもまさりて、王公の位にもか
へざる名譽の眞樂あることをしらず、世間凡夫の理
もなき俗談のほまれをもとめねがひて、むねをこが
し身をくるしめて、楚女の寵愛をもとめて餓死した
るごときのふるまひ無下に淺まし、名の欲をすつる
には、先よせひ意虛夸の念をがちさるべし、かくのご
とく吟味體認して名の欲をすつることは、根本天理
の眞樂をもとめ、氣隨をわすれ作法を正くせんため
なれば、心學に志あるものは、名をすつるほど氣隨の
おごりなく、作法よくなりて、狂風にもいらす市井の
風にもいらす、君子中行の風に入て、君子のほまれも

とめずして至ものなり、名利の欲習染る心、聞思雜慮
を一念の微に省察して、獨を愼てのぞきさる事、第一
の要法なり、

○牀充曰、楚女の寵愛をもとめて餓死したると云こ
とは、何たることにて候や、

師の曰、それは寓言の故事也、むかし大唐楚國の主こ
しのはそき女を寵愛めされたれば、禁中のこしのふ
とき宮女、楚王のおもひつき給ふまじき事をかなし
び、食物をくはずしてやせなば、腰のはそくなるべ
きかと斷食しかつえ死したると云ことなり、世間
の名をこのみ譽をもとむる人を見るに、その時代の
天子諸侯のこのみたまふ事、世俗のほめてもてはや
す事なれば、是非眞妄のえらびなく、その時に相應す
る様に心をもち色をよくし、言を巧にして義理不義
をわきまへず、一向に世人の譽をもとめて、徳性の養
をたちすて、混沌の死する事をしらざること、恰も
楚女の寵愛をもとめて餓死したるに似たる故に、寓
言の故事をかりて喩たり、心學に志ある人はち戒
むべき事なり、

○牀充曰、習染心とはいかやうなる心を申候や、

師の曰、習染心とは、生^{おち}下てよりこのかた、見なれ聞なれておもはずしらずにいつとなくあやかりそまりたる心なり、たとへば水にて朱をとけば其色赤く、緑青をとけばその色青くなるがごとし、本來水の色は赤も青もなければ、朱と緑青とにまじはりあやかりてかくのごとし、そのごとく本來人心に好惡の事の定はなければ、その生ぞだつ國處の風俗、その家の所作にあやかりそまりて、好惡の品定色々にかはりあり、學問藝能にも習心あり、先本心の端的をよく考定、その上にて習心を吟味してかち去べし、朱をとき赤き色に變じたる水もよくすましぬれば、朱は下え沈て水の本色あらはるゝものなり、まして無聲無臭の心の水は、其にこりすましやすかるべきにや、體驗簡要に候、

○躰充曰、間思雜慮とはいかやうなる念慮にて御座候や、

師の曰、さしたる惡念にあらざれ共、思ひて益なく、わけもなき事をくり返しくり返し思出て、天真のわずらひとなるを間思と云なり、應事接物の際至善のある所を分別思慮する時に、工夫專一ならず、他の念

のとりませおこりて感通のさはりとなるを雜慮と云なり、此二はかろき病にて、却克治しがたきものなり、よく省察あるべし、

○躰充問曰、仙術を學ぶ人は、長生不死の益あり、佛道を修行する人は、成佛得脫の益ありと承及候、儒道を學候てもさやうなる身後の益も御座候や、

師の曰、さやうの疑も異端の説を聞あやまりておこることにて候、孝經易經をよく悟ぬれば、生前死後のことはり掌を指ごとく分明なれば、とかうの議論に及ばぬことなり、しかれども今時の人は、多分此疑あれば、しばらく仙佛の道によつてそのまよひをとき候べし、仙家の長生不死の術も、佛家の成佛得脫の修行も、皆畢竟は一心の工夫なり、仙家には修心煉性を宗旨とす、佛家には明心見性を宗旨とす、其工夫の十分成就する所の心性を長生不死と云、成佛得脫と云なり、二氏ともに元氣の靈覺を心性の端的として、元神の妙理をさとり得ず、しかる故にその見性成道中行の君子より一位下なり、儒家にも一心の工夫專とし、元神の神通を性の端的とし、窮理盡性至_ニ於命を宗旨とす、工夫十分成就する所の心性を聖神至誠

無息といふ、其宗旨の端的も明覺大悟の心性も、仙佛よりも一位ましたる所あれば、長生不死と指ところの益も、成佛得脱と指ところの益も、一位ましたる益ありと知べし、性理會通曰、易曰、保合大和、乃利貞、愚謂大和者道體也、生物之本天地之根、一團真理實氣充宇宙而無餘、歷浩劫而無改、鼓剛柔生造化、主萬象攝三財、冲漠絪縕融和純粹、若能保此氣而不失、合此理而不違、身同大道、如點雨之滴海渾、滄溟而共存、心契天眞、猶片雲之沒空攬太虛而同久、利通而無滯礙、貞固而無變遷、故天地終而壽不竟、日月晦而明不虧、故曰、至誠無息、無息則久、久則徵、徵則悠遠、善保大和者、誠道之至妙至妙者也、聞者疑之曰、性即理也、命即氣也、人之性天地之理也、人之命天地之氣也、誠能以性合天地之理、以命會天地之氣、即天地之理自性也、天地之氣自命也、理氣無終壞、此性命亦無終壞、譬以水投水、于何可竭、以火投火、于何可滅、由其體大造而超小劫、故不以天地之成毀而成毀、獲大身而忘小形、故不以軀殼之存亡而存亡、謂之盡性至命、謂之體道同天、謂之至德凝道、

此中大有真樂、盎然春融、熙然宇泰、既利且貞、活潑潑地、即易之黃中通理、正位居體美在其中、暢于四肢、發于事業、美之至也、此乃儒教中不死之神方、長生之正術、不可與守空寂而坐枯禪、弄精魂而希昇舉者、同日而語也、この賢範をよく體察玩味して、儒家の聖神至誠無息の位には、仙佛の修行の分にては、梯しても及ばぬ所ある事を明にわかまへ、迷をはらしたまふべし、保合大和する心法を他にもとむべからず、すなはち全孝の心法なり、

○牀充曰、全孝の心法をばいかやうに受用仕候はんや、

師の曰、孝經曰、夫孝天之經也、地之義也、民之行也、天地之經而民是則之、又曰、天地之性人為貴、人之行莫大於孝、孝莫大於嚴父、嚴父莫大於配天、又曰、孝悌之至通於神明、光於四海、無所不通、詩曰、自西自東、自南自北、無思不服、曾子曰、夫孝置之而塞乎天地、溥之而橫乎四海、施諸後世而無朝夕、推而放諸東海而準、推而放諸西海而準、推而放諸南海而準、推而放諸北海而準、詩曰、自西自東、自南自北、無思不服、此之謂

也、又曰、衆之本教曰孝、其行曰養、養可_レ能也、敬爲
 難、敬可_レ能也、安爲難、安可_レ能也、卒爲難、父母既
 沒、慎行_レ其身、不_レ遺_レ父母惡名、可_レ謂_レ能終_レ矣、仁者
 仁_レ此者也、禮者履_レ此者也、義者宜_レ此者也、信者信_レ
 此者也、強者強_レ此者也、樂者自_レ順_レ此生、刑自_レ反_レ此
 作_レ、孟子曰、仁之實事_レ親是也、義之實從_レ兄是也、智之
 實知_レ斯二者、弗_レ去是也、禮之實節_レ文斯二者、是也、
 樂之實樂_レ此二者、樂則生矣、生則惡可_レ已也、惡可_レ已
 則不_レ知_レ足之踏_レ之手之舞_レ之、禮記曰、仁人不_レ過_レ乎
 物、孝子不_レ過_レ乎物、是故仁人之事_レ親也、如_レ事_レ天、
 事_レ天如_レ事_レ親、是故孝子成_レ身、以上の聖謨賢範をよ
 く熟讀して、孝德の親切眞實、廣大高明、無上無外、至
 尊無對にして、孝の外には德もなく、道もなき事を明
 に辨ふべし、たとひ其おこなふ所よしといふとも、孝
 德の天真にそむきぬれば、天威のゆるさざるところ、
 君子のたつとばざる所なり、しかる故に、孝經に、不_レ
 愛_レ其親_二而愛_レ他人_一者、謂_レ之悖德、不_レ敬_レ其親_二而
 敬_レ他人_一者、謂_レ之悖禮と戒たまへり、かくのごとく
 なる孝德全體の天真を明にする工夫を全孝の心法と
 云たり、全孝の心法その廣大高明なること神明に通

じ、六合にわたるといへども、約_{つまる}ところの本實は身を
 たて道を行にあり、身をたて道をおこなふ本は明德
 にあり、明德を明にする本は良知を鏡として獨を慎
 にあり、良知とは赤子孩提の時より、その親を愛敬す
 る最初一念を根本として、善惡の分別是非を眞實に
 辨しる德性の知を云、この良知は、磨而不_レ磷、涅而不
 緇の靈明なれば、いかなる愚癡不肖の凡夫、心にも
 明にあるものなり、しかる故に此良知を工夫の鏡と
 し種として工夫するなり、大學の致知格物の工夫こ
 れなり、獨を慎とは一念のすこしおこる時に良知を鏡
 とし、よく省察吟味して、名利の欲、習心、間思雜慮な
 どの邪念おこるときは、我おやの身をそこなひやぶ
 る不孝の罪人となりて、幽にしては六極莫重の鬼責
 をうけ、明にしては五刑莫大の肉刑を受べき魔心な
 りとおそれ慎、火急に克去て神明に相通する至德の
 獨樂をもとむる工夫を云なり、一念の惡心にておや
 の身をそこなひやぶると云子細は、孝經曰、身體髮膚
 受_レ之父母、不_レ敢毀傷_二孝之始也_一、この聖謨の心は我
 身にそなはるものは、心も性も身體も毛髮も皆親の
 心性身體毛髮を受たるものなれば、身體髮膚も本我

身體髮膚にあらず、親の身體髮膚なり、身體髮膚の主本たる心性も我心性にあらず、父母の心性なり、しかる故に我身體髮膚をそこなひやぶるは、即父母の身體髮膚をそこなひやぶるなり、我徳性をそこなひやぶるは、すなはち父母の徳性をそこなひやぶるものなり、身體髮膚は器にしていやしく、徳性は道にして貴ものなり、いやしき身體髮膚をそこなひやぶるも、大惡逆大凶徳なり、身體髮膚の主本たる天の尊爵の徳性をそこなひやぶるは、猶以大惡逆大凶徳なり、此道理を明にわきまへて心によく守、不_ニ敢毀傷_一は孝徳を受用する始なりと教たまふなり、此聖謨をよく體察すれば、名利の欲、習心、間思雜慮などの邪念を克すてすして、我徳性をそこなふときは、即父母の徳性をそこなひやぶること分明なり、孝經この節の終に、無_レ念_ニ爾祖_一 ノベササム 事_ニ修厥徳_一といへる詩を引て結たまふも、此意を示し給はんためなり、よく體認あるべし、

○牀充曰、身體髮膚をそこなひやぶらざるが孝行にて御座候は、軍陣にてきずを被りうち死するは、不孝にて候はんや、

師の曰、それは大なる心得そこなひにて候、不義無道なる事にてそこなひやぶるが不孝なりと云義なり、孝經に身體髮膚受_ニ父母_一、不_ニ敢毀傷_一孝之始也と示したまふ、此毀傷は、血肉の身體髮膚をそこなひやぶることにはあらず、孝徳をそこなひやぶることなり、害_レ仁とのたまふ害の字の意なり、血肉の身體髮膚のことにはあらず、孝徳の形體のことなり、仁者人也とのたまふ、人の字の意、形色天性也、惟聖人然後可_ニ以踐_レ形と、發明めされたる形色の字の意なり、此聖謨賢範の心は、人間の身體髮膚は本來天性仁孝の凝聚なることを示たまふものなり、孝經に示したまふ身體髮膚これなり、しかる故に天性仁孝の道を心にまもり身におこなふときは、たとひ血肉の身體髮膚をばそこなひやぶるといふとも不孝にあらず孝行なり、血肉の身體髮膚をばそこなひやぶるといへども、天性仁孝の身體髮膚をそこなひやぶらざる故なり、殺_レ身成_レ仁とのたまふは此意なり、天性仁孝の道を心にまもらず身におこなはずして、惡逆無道なるときは、たとひ身を全して毛一すじそこなひやぶらずといふとも、孝行にあらず不孝なり、血肉の身體髮膚を

ばそこなひやぶらすといへども、天性仁孝の身體髮膚をそこなひやぶる故なり、曾子曰、戰陣無_レ勇非_レ孝也、此賢範の意は、軍陣戰場にて武勇をばげみ、さきがけをして軍功をなすときは、疵を被ぶり討死するが孝行なり、若武勇をばげまさず軍功をたてざるときは、縦臆病たとひの惡名をうけずとも不孝なりといましめめされたり、陳明卿曰、若有_二曾子之心_一、即龍比之身首分裂、與_二啓_レ手啓_レ足一般、不_レ然則老_二死牖下_一、亦與_二刀鋸僇辱_一何異、これは論語に曾子臨終のとき、門弟子を呼て啓_二手_一啓_二足_一と云て、詩を引て不_二敢毀傷_一の心法を示しめされたることを記せり、曾子の本意は血肉の身體髮膚をそこなひやぶらざるところをもて、天性仁孝の身體髮膚をそこなひやぶらざることをあかしめされたる事、孝經の聖謨のごとし、しかるを章句の儒者、曾子の本意をさとらずして、只血肉の身體髮膚をそこなひやぶらざることなりと講説するによつて、陳氏此發明あり、此語の意は全孝の心法をよく受用すれば、龍逢比干の諫てしにめされて、身體髮膚をきりやぶり、身首分裂したるも、曾子手足を啓て一毛をもそこなひやぶらざることを示しめさ

れたるもおなじ孝行なり、もしまた全孝の心法をよく受用せざる人は、八十九十まで年老て我家のうちにて病死して、毛一すじそこなはずといふとも、刀にてきられ鋸にてひかれぬる刑罰にあひたるはちとおなじ不孝なりと云義なり、よく_レ體認あるべし、○牾充問曰、全孝の心法をよく受用仕候は、良背敵應の聖域へもいたり候はんや、師の曰、心學は凡夫より聖人に至みちなれば、全孝の心法がすなはち良背敵應の心法なり、名はかはりて實はおなじ道理なり、これを本體工夫と云なり、心法の端的は同一貫なれ共、受用する人に善信美大聖神の差別ありと得心すべし、たとへば心法は大路なり、受用する人は路をゆく人なり、路をゆく人に貴賤老幼男女達者不達者の差別あれども、路はおなじ大路なるがごとし、全孝の心法をよく受用して得ことあれば、其心ひろく體胖に廣大高明精微中庸の神道を服膺して、人の子となりては孝に止り、人の臣下となりては忠に止り、人の親となりては慈に止り、人の君となりては仁に止り、人の兄となりては惠に止り、人の弟となりては恭に止り、人の朋友となりては信に

止り、富貴に素しては富貴を行ひ、貧賤に素しては貧賤をおこなひ、夷狄に素しては夷狄をおこなひ、患難に素しては患難をおこなひ、境遇に意必の累なきこと水のながるゝがごとく、心の安く静なる事は山の定れるがごとく、暴君汚吏も志を奪ことあたはず、天災地妖も殺ことあたはざるものなり、もしまた聖胎純熟の時至り、脱胎神化して聖神の位に至るときは、天地と其徳をあはせ、日月と其明をあはせ、四時と其序をあはせ、鬼神と其吉凶を合せ、四表に光被し上下に格るゝ、しかる故に南面の位にありては帝堯の君たるなり、北面の位にありては帝舜の臣たる也、位を得ずして下にありては玄聖素王の道なり、孔子曰、夫聖人之徳、又何以加_ニ於孝_一乎、

翁問答卷五終

翁問答卷六〔原本、翁問答下丙戌冬〕

○魯國の君、莊子にかたりて曰、魯國には儒者おほうして先生の道を學ものすくなし、莊子曰、魯國には儒者甚すくなし、君あやまりて多しとのたまふ、魯公の曰、魯國の人過半儒服をきたり、然るをすくなしといはんや、莊子曰、儒服は儒者の装束なり、仁義は儒者の徳なり、装束は誰もきるべければ、儒服を著たる人にては仁義の心なきは儒者にあらず、只儒服を著たる凡夫なり、仁義は君子ばかりの受用する徳なれば、たとひ夷國の装束をきたる人にては、仁義の心あるは凡夫にはあらず、夷國の装束きたる儒者なり、しかる故に伏羲神農は儒服をめざれども、儒徳あきらかにましませば、天下一の儒者にてまします、魯國の人は儒服をきたるといふとも、多分儒徳あるまじければ、儒者にはあらず、もし我ことをうたがひたまはば、儒徳なくして儒服を著たる者をば死罪におこなふべしと、禁制を立て試みたまふべし、魯公莊子の言を用ひて、右のごとく法を下してけり、かくして五日

過ぬれば、國中に儒服の者みえず、たゞ一人儒服をあらためざるものあり、めして國事を問たまひぬれば、千轉萬變して究りなかりけり、

師の曰、魯國の君は儒服を著たる人をとめて儒者とあやまり、今の世間の人は儒書をよむ人をとめて儒者とあやまれり、そのあやまるところの品はかはりたれ共、實體をしらざることはおなじまよひなり、文學は藝なれば、物おぼへよく生れつきたる人は、たれも習ひしるべければ、文學ある人にも仁義の徳なきは儒者にあらず、只文藝ある凡夫なり、一文不通の人なりとも、仁義の徳明らかなるは凡夫にあらず、文學なき儒者なり、此理は分明なれどもいづれの時よりかあやまり來りけん、只儒書をよむばかりを學問とおもひ、文學ある人を儒者ともてなせり、此まよひ世人のこゝろにしみつきたるによつて、學問は物よみ坊主または出家などのわざにして、士のわざにあらずなど、取ざたまちくなり、儒服の儒者にあらざる事をあかしたる莊子のごとき人なくて、學問の本意世間に明かならざること、天下の大不幸なるべし、

○牀充曰、學問の本意世に明らかならざること、天下

の大不幸なることはいかい、

自レ此以下十三經も書數おほくて、文才なきものは云々の一段の終に至て、丁亥の本と小異大同故に刪レ之、

○牀充曰、名利にこゝろありて學問する人のその益なきはもつともにて候、さのみ名利のけがれもなく、道にこゝろざして學問する人の益なきのみにあらず、かへつてこゝろだて行儀いなものになりゆきぬるはいかい、

師の曰、人心のわたくしを種として、知あるもをろかなるも、自滿のこゝろなきはまれなり、この滿心明德をくらし、わざはひをまねくくせものにして、よろづのくるしびも又大かた是よりおこれり、されば易に、天道虧盈而益謙、地道變盈而流謙、鬼神害盈而福謙、人道惡盈而好謙、謙尊而光、卑而不レ可レ踰、君子之終也といへり、盈は高滿甚しく己れを是として自用ひ、萬事分過を好み、人をかろしめあなどる心なり、謙は温恭自虛にして自反し、獨を慎み人をうらみず人をあなどらず、人に取て善をなす徳也、盈は天地鬼神のそこなひ捨給ふ所にして、人も又是を惡み、

謙は天地鬼神の保佑し給ふ所にして、人も又是をこのみぬる實理を明して、後學の盈をすて謙を求めん事を示し給ふ聖謨なり、此ゆへに溫恭自虛の四字を以て初學心法の第一義とす、此四字の法を用て滿心をのぞき捨ぬれば、そのまなぶところごとく心のみがきとなりて、明德日々に明かになるものなり、若此法によらずして滿心をのぞかざれば、その學ぶところ皆滿心のかさみとなりて、明德日々に暗くなりぬ、かくのごときの滿心は天地鬼神の捨給ふところなる故に、其心だて行儀いなものになりゆき、人も又是を惡む、是を暗所に魔を來すといへり、すでに暗所に魔を來しぬれば、何事も異風をこのみ人をばいける虫とも思はず、天下に我をこすべき者なしと、人もゆるさぬ高滿を鼻にあて、親おやかたのぐちなるをさげしめ、友達をあなどり、かりそめにも己を是とし人を非とす、或は世間のまじはりをいとひ、獨り居ることをこのみ、或は甚はだしきときは氣のちがふかたもありと見えたり、かくのごときの人學問せざるかたにもあまたありといへども、とがを歸すべきかたなければ、只何となくそしるばかりなり、若學者

にかくのごとき人あれば、學問にとがを歸して滿心のたゞりなる事をわきまへず、おろかなるかな、なげかしきかな、されば大禹は聖人なれば、毛頭の滿心は有まじけれ共、伯益禹を賛けて滿招損謙受益といへり、まして聖人より下ざまの人しばらくも此戒を忘るべけんや、周公の才ありても滿心あらば取にたらずと孔子のたまふも、高滿の凶徳の甚だ害ある事をいましめ給ふなり、學問に志しある人は云におよばず、無學の人も此魔障を能のぞき捨べき事第一の急務なる、名利のけがれなく道に志ありといへども、高滿の凶徳をのぞきすつる心得なきによつて、暗所に魔を來し其身凶惡に落入のみならず、とがなき學問にきずを付る事淺間敷なげかし、我も人も能いましむべし能いましむべし、

○齊人と魯人と郊に戰ふとき、魯軍の右手の大將は冉求也、管周父御たり、樊遲右たり、すでに戰合て魯の左手敗軍しぬれども、右手は少しりぞかず、樊遲の謀を用ひ、冉求自身鎧よろこを入て齊の軍を敗り、甲首八十を得たるゆへに、終に魯國の勝軍になりぬ、其後季康子冉求に問けるは、今度の軍功たぐひなき事なり、

軍法を學び得てかくありしや、但し又生れ付たる器用にやと、冉求答ていはく、生れながらにして能するに非ず、孔子に學び得たりといへり、季康子是に依て幣をもつて孔子をむかへ、孔子魯國に歸り給ひぬ、師の曰、冉求若季氏が大將となりめされずば、此軍功有べからず、此軍功なくば、孔子の文武兼備り軍法に長じ給ふ事を、季氏うかひしる事あたはざるべし、聖人のいます時さへかくのごとくなれば、後世の文武をわけて、二つにするあやまりもさのみとがむまじき事にや、

○牀充曰、孔子かくのごとく軍法に長じたまひて、衛の靈公に傳へたまはざるはいかゞ、

師の曰、兵は凶器なりといへども、君子これを用れば天下の亂を定めて、凶器却てたからとなれり、小人是を用ふれば國をみだり天下にわざはひして、凶器ますます凶器となれり、然るを靈公小人にして戰伐をこのみ、強剛暴逆のいくさをたくましくせんために陳をとはれたり、

翁問答卷六終

翁問答卷七〔原本、翁問答下丁亥春〕

○問曰、今の世間には儒書をよみおぼゆる人をば徳なけれども儒者とす、其身もまた儒者の名をうけて辭せず、大なるあやまりにあらずや、

答曰、然り、儒者の名は徳にあつて藝にあらず、文學は藝なれば、もの覺よく生れ付たる人は、誰もなりがたき事にあらず、たとひ文學に長じたる人にてても、仁義の徳なきは儒者にあらず、たゞ文學に長じたる凡夫なり、一文不通の人なりとも、仁義の徳明かなる人は凡夫にあらず、文學なき儒者なり、此理は本來分明にしてわきまへがたきことならねども、何の時よりかあやまり來りけむ、たゞ儒書を讀ばかりを學問と思ひ、文學ある人を儒者ともてなせり、此まよひ世人の心にしみ付たるによつて、學問はものよみ坊主、又は出家などのわざにして、士の所爲にあらずなどとりざたまち／＼なり、學問の實義、世間に明かならざる事、天下の大不幸なるべし、

○問云、學問の本意世に明かならざる事、天下の大不

幸なる事いかい、

答曰、學問は明德を明かにするを主意頭腦とす、明德は我人の形の根本なり主人たり、此ぬしくられれば主君のうつけて下人のみだりがはしきごとく、其人の思ふところおこなふ事みな天理にそむき、ひとへに名利のよくふかく親をも親とせず、君をも君とせず、たゞ一向におのれを利し、人を損する所に利發才覺を用ひ、相あらそひ相うばひ、甚しき時は主親をも弑す惡逆をなせり、人間の萬苦は明德のくらきよりおこり、天下の兵亂も又明德のくらきよりおこれり、これ天下の大不幸にあらずや、聖人は是をあはれみたまひ、明德を明かにする教を立て、人の形あるほどのものには學問をすゝめたまへり、四書五經にのする所みな是なり、

○問曰、四書五經は世間に流布して讀もの澤山なれども、此實義明かならずして、世俗の學問をそしるはいかゝい、

答曰、世俗の學問をそしるは、世俗のあやまりにあらず、學問する人のあやまりなり、世間の學問をする人を見るに、學問の實義を知て學問に志す方はまれな

り、多分ものよみ奉公の望か、または醫者のかざりか、或はだて道具か、此三つを志として學問するによつて、學問第一義の明德を明かにする事は、始終とりさたなき事なれば、心をたゞしくし身をおさむる益はなくて、文藝を高滿する病のかさむ計なり、間に志眞實なる方あれども、よき先覺に親炙なきによつて、道のわが心にある事をわきまへず、徒に先王の法賢人君子の迹を認て道とし、世間の好格套を善とさため、世間の理窟を認て道理とし、是をもつて心を正しくし、身を修むと伎倆をはげむによつて、本來活潑融通の心却てすくみ、自己心裏に固有したる明德の寛裕溫柔くらく、圭角日々にかさみ、次第々々に人と和睦せずいなものになりぬ、かくあれば學問の益といふものはたゞ文藝ばかりなり、世間の人は是を見て、物よみ出家醫者などの外は、無益のことなりといへる取沙汰、そのいはれなきにあらず、若また世間の學者人ごとに凡情の習態をあらひすて、學問第一義の明德を明かにして、孝悌忠信のまことあらば、親は子の學問せざるをなげき、君は臣下の學術なきをきらひ、學問をそしる口なきのみならず、士は云にをよばず農

人商人に至るまで、學問なくてはかなはぬ事なりともてはやすべし、さあれば世俗の學問をそしるにあらず、學者のそしるなり、學者のまねく所なり、しかるを我も人も學問するものゝくせにて、世俗の學問をそしるを聞ては、或は腹を立、或はわらひおとしめて、そのあやまりの己より出る事をわきまへず、是をもつて見れば、學問の實義に志なき學者は、世俗の學問をそしるよりも、一きはまさりたる聖門のつみ人なるべし、

○問曰、一文不通にても仁義の明德明かなる人あるべしとならば、聖人以下の人も、學問なくして明德を明かにすることなり申べきや、

答曰、それもはや文藝を學問とあやまりたる習心より起る疑なり、後學の先覺にしたがひて、性命の道を學び問ふを學問の實義とす、文學は只その一品なり、されば文學なき大昔には、もとより讀べき書物なければ、只聖人の言行を手本とし學問せしなり、世の末になりて學問の本義を取失ふべきさざしあるによつて、聖賢これを憂ひて其道をものゝ本にしるして、學問の鏡と定め給ひてより此かた、書物をよむを學問

の初門とするなり、人の生付さまぐなれば、文藝は極て器用にして心法の取入は無下に無器用なる人あり、此類の人多分俗儒となれり、又文藝は無下に無器用にして、心法の取入は極て器用なる人あり、かくのごとくなる人、よき先覺に従ひ、聖經賢傳の講明を聞時は、文藝無器用なれば文學訓詁をおぼゆる事はならざれども、心法のとりいは器用なるによつて、必聖經賢傳の大意主意をよく聞とりて、其明德を明かにし君子となれり、かくあれば一文不通にても上々の學者なり、いかんとなれば文藝は道を求める筈なり、魚をうれば筈は無用のものなり、

○問曰、大學の道は上天子より下庶人に至までの教なりと聞、愚癡不肖の賤男賤女は書をよむ事なるべからずいかい、

答曰、むかし聖人の御代には、わづかの小里にも學校あり、即其里の奉行代官其師匠となりて、耕作のひまに聖經を講明し道を教るによつて、愚癡不肖の賤男賤女にいたるまで、書物の本意をよく得心するなり、文字訓詁には通せざれども、聖經の主意を聞取、學問の實義をがつてんして、心を正しくし身を修る事は、

中々末代の俗儒のおよばざる所なり、文字訓詁にはよく通じぬれども心の會得なく、其心行凡俗にひとしきは眞實の讀書にあらず、諺にも論語よみの論語よまずといへり、たとへ文旨なりとも聖經賢傳をふかく信仰して、よみ覺たる人に講釋させ、其本意をよく得心して、我明德を明かにするは、俗儒の書物をよみぬるより一きはまさりたる書物よみなり、これをもつて見れば、心學をよくつとむる賤男賤女は、書物をよまずして讀なり、今時はやる俗學は、書物を讀てよまざるにひとし、

○問曰、唐土より渡たる書物際限なし、かたはしみなきかでかなはぬ事にや、

答曰、それは大なる心得そこなひなり、きかでかなはぬ書物は十三經なり、十三經の取入のはしごに成べき名儒の書、七書などの外はよみて益なし、然るにつとめて讀ぬるはめたるく心つかるゝあだことなり、史書は古今の事變を考へ、福善禍淫の印證とするものなれば、餘力のなぐさみに讀ものなりとしるべし、

○問曰、十三經は何々ぞや、
答曰、孝經・論語・孟子・周易・尙書・周禮・儀禮・詩經・禮記・

左傳・穀梁傳・公羊傳・爾雅、以上十三部を十三經とさだめたり、

○問曰、十三經も書數おほくて、文才なきものはみなまてまなぶ事およびがたし、其内一二卷學びて道をしかるべき書は何れぞや、

答曰、本來易經一部をおしひろめたる十三經なれば、易經をよく學びたるがよし、然ども易經は簡奧玄妙にして、尋常の人の取入なりがたければ、孝經・大學・中庸をよき先覺にしたがひて學びたらば、人の明暗によりて遲速ありといふとも、志専らにしてつとめ油斷なければ、必眞をなすべし、三書を學びて餘力あらば、其力と隙にしたがひて語孟を學ぶべし、扱また餘力あらば、十三經を皆學ぶべし、十三經をみな學ばねば得道ならぬと思ふも大なる誤りなり、いかむとなれば、十三經そなはらざる時に成徳の人卓散なり、十三經備て後却て得道の人すくなし、孝經・學庸の外はいらぬと思ふもあやまりなり、いかんとなれば時に趣く教へ已事を得ざる勢にして、皆聖賢の遊したる書なれば無用の書にあらず、學ところの書物數の多少に心をといむべからず、たゞ一向に聖人となる

べきと志を勵まし迷ひをわきまへ、自己心裏の明德を明かにする益を求むべし、聖經賢傳をきくに明德を明かにする三益あり、觸發一つなり、栽培二つ也、印證三つ也、此三益はみな自己の憤りによつて得る所なり、平生體察の功を用ひずして憤りなくば、二六時中手に巻をすてずとも、其得所の益あるべからず、若此益なくば書をよみてもよまざるにをとれり、

翁問答卷七終

翁問答卷八〔原本、翁問答上丁亥冬〕

○問曰、人間世第一にねがひもとむべきものは、何事ぞや、

答曰、心の安樂に極れり、

○問曰、人間世第一にいとひ捨てべきものは、何事ぞや、

答いはく、心の苦痛より外はなし、

○問曰、苦を去て樂を求る道はいかん、

答曰、學問なり、

○問曰、學問にて苦痛を除き安樂を得道理はいかに、
答曰、元來吾人の心の本體は安樂なるものなり、其證據は孩提より五六歳までの心を見るべし、世俗も幼童の苦惱なきを見ては佛なりなどいへり、かくのごとく心の本體は安樂にして苦痛なきものなり、苦痛は只人々の惑にてみづから作る病なり、心はたとへば眼のごとし、眼の本體はたてあけ自由にして物を見ること分明快活なり、若塵砂など目の内へ入るときは、たてあけ自由ならず、物を見ることも明かなら

す、苦痛こらへがたし、一旦苦痛こらへがたしといへども塵砂を除去ときは、本體にかへりて開閉自由に
して分明快活なり、其ごとく心の本體は元來安樂なれども、惑の塵砂にて種々の苦痛こらへがたし、學問
は此惑の塵砂をあらひすて、本體の安樂にかへる道なる故に、學問をよくつとめ工夫受用すれば、本の
心の安樂にかへる、

○問曰、皆人の心得には貧賤勤勞を苦とし、貴富安佚を安樂とす、然るに苦樂境界にはなくて唯心に有とはいかん、

答曰、左様の心得ぞこなひを凡見と云て、あさましき惑なり、凡夫は外を願ふまよひふかく、實理を辨へざる意見にて、見かけばかりを以定むる心得なり、夫明德くらければ習に染り人欲に滞り、酒色財氣の惑ふかき故に、天下を得れば天下を憂ひ、國を得れば國をうれひ、家あれば家を憂、妻子あれば妻子を憂、牛馬あれば牛馬を憂、金銀財寶あれば金銀財寶憂となり、見こと聞こと大形苦みとならざるはなし、かくあれば天子となりても下庶人となりても、外相の見かけにはかはりありといへども、其心の苦は差別なし、さ

れば古歌にも「うきことの品こそかはれ世の中に心やすくて住人はなし」とよめり、君子は明德あきらかにして習に染らず、人欲毛頭なし、勿論酒色財氣の惑なき故に天下を得ても與らず、國を得ても憂とならず、家を得ても煩はらず、妻子あれば妻孥を樂み、牛馬あれば牛馬に滞らず、金銀財寶あれば金銀財寶に溺れず、見こと聞こと皆樂となる故に、上天子となりても其樂ます所なく、下庶人となりても其樂減ずる所なし、されば御門の御位は富貴安佚の至極なれ共、和漢ともに歷代の帝王明德くらければ、酒色財氣の惱なきはなし、簞瓢陋巷蔬食をくらひ、水をのむは貧賤の至極なれども其樂比ひなし、又凡夫の上にて禁中の宮女は其情欲怫鬱の苦みやるかたなし、農人の耕耘は勤勞の至極なれども、其心さのみ苦みなし、大禹水を治め給ふは勤勞の至極なれども其樂快活たり、如レ此よく實理を體察すれば、苦樂の心にあつて外相になきこと辨へがたきにあらず、

翁問答卷八大尾

謫居童問上本

學問

○童子謹デ問テ云ク、學問トツチノ玉ヘルハ、如何ナルコトゾヤ、

答云、學ノ字ハマナブトヨメリ、我不_レ知不_レ心得_二コトヲソノシレル人ヨクセル人ニマナビナラフコト也、人生テ無_レ不_レ在_レ學ト心得ベシ、先近ク人ノ幼少ノ時分ヨリヒト、ナルマデノ爲體ヲ考ベシ、タトヘバ其子智惠ツキ物ヲ云事ヲイタス時分ニナリテハ、田舎ニ居テハ田舎ノ音、ミヤコニ居テハミヤコノ音ニウツリ、其ツキトノ者、父母乳母ノモノイ、ナスワザヲナライ、飲食衣類モテアソビモノ、クルイタワムルル仕形、作法コトノ見聞スル處ニラシウツリテ、ツイニ我本性トナルナリ、サレバ古ハ子スデニ母ノ胎内ニヤドル時、母ヲ別家ニ置テソバノモノドモミヤ仕ノ輩マデヲ撰、飲食衣服ヨリ初メ其ナスワザニ法則ヲ定メテ胎教ヲ立、胎内ノ子生レナガラ形容端

正ナランコトヲ求ム、皆是學ト云ベシ、然レドモ心ヲ不_レ付ユヘニ、是ヲ學ト不_レ知也、況ヤスデニ生長ノ輩、其學ビナラフ處ニヨツテ、或ハ善人トナリ、惡人トナルコト也、故ニ學ブト云ノヲシヘ尤可_レ慎義也、次ニ學問ト云ハ、學デハ問、問テハ學ブコト也、何事ヲモ心ヲ和ゲテ、其道々ニ明ナル人ニ學ビ、ソノウタガワシキ處ヲ尋問テ、ソノ用ヲ詳ニスベシ、不_レ知事ヲ推シテイタスハ、タトヘ仕リアツル事アリトモ危シ、古ノ聖人皆問コトヲコノムトイヘリ、堯舜ノ眞_ニ聖帝タリシモ、事ヲ詳ニツクサントテハ、必大臣ニ尋其議ヲツクシテ而シテ後ニコレヲナシ玉フ、況ヤソノ下ヲヤ、シカレドモ問ニ心得タガフトキハ其道不_レ正、堯舜ハイヤシキクサカリ薪コリニモ事ヲ問玉フト云ハ、彼ガ可_レ存道ヲ尋テ、ソノ品々ニ付テ、其要道ヲ考其品ヲ明ニセル、是ヲ察_ニ適言ト云ヘル也、察スル處ナクシテ只問ニアリト心得テハ、大ニ相違シテ却テ人ニ誑惑セラルベシ、故ニ圖ノコトハ老圃ニ尋、農ノコトハ老農ニ尋スルゴトクイタサバ、皆學問トナリツベシ、次ニ學文トイヘル事ハ、我ニイトマヲ、シトイヘドモ、問尋テテ學ブベキ古キ師ナクバ、古ノ

聖人ノ書、賢人ノ言行、又ハ世々ノ記錄ヲ考ヘテ身ヲ修メ人ヲ治メ天下國家ヲマツリゴチタル爲レ師トモヲ知テ、今日ノ身ノ上世ノ上ニ引及ボシ、日用ノ智恵タラシムル、コレヲ好古トモ學古トモイヘリ、是等ノ類皆學トイヘル教也、如此云トキハ、ソノ古聖人ノ至極ハ不_レ學不_レ問シテ、自ラ後代ノ手本龜鏡トナルコトノ出來ゴトクアルナレバ、今日又ソノ本源ヲ了覺セバ、一々人ニ不_レ學古ヲ不_レ問トモ通用ナリスベキ事トモ云ベケレドモ、コ、ニ心得アル事也、世々相カサナリ開闢ヨリコノカタ、大唐日本トモニ數千百歲ヲ經スレバ、ソノ内ニ聖賢相ヲコリテ、人民日用ノ作法コト_ハクキワマリ、時ニツレ世ニ從テ、或ハ文章多ク、或ハ質素ニ過、サマ_ハニナリモテユキ、ソノ便リアラザル事ハ皆不用ニナリテ、便リアリツベキ事々相殘レルヲ、ウチツベキ人民ノ間ニ用イ來リ、是ハ誰カ定メ誰カ致セルト云フ事ヲモ不_レ知、此等ノゴトクナル風俗ニナレル日用多シ、是併聖人相定ムル處ノ用法多シ、是ヲ一々思慮シ出サント心得ルハ、知慮アルニ似テ至テ愚也、故ソノ本末ヲ考ヘ、其前後始終ヲ詳ニシテ、大概ハ世ト推ウツルニ不_レ如也

次ニ何事モ學ビユクトイヘバ、コト_ハク外ヨリ習フコトニテ、我中ニアル事ニ非ザルト云ニ似タリ、凡人ハ天地ノ中ヲウケ、五行ノ秀氣ヲモチ出テケレバ、能人ニシタガフテ能學バ善人トナリ、賢人君子トモナリスベシ、至テハ聖人ノ地位ニモ昇リツベシ、此下地我ニアリ、コレヲ智恵ト名ヅクル也、學ト云コトモ智ヨリ出テ智ヲミガクノ心得ナリ、故ニ至リ得レバ皆自己ニアルゴトク、不得至バ皆外ニアルニ同ジ、ヤサシク善惡トモニソノ學ブ處ヨリ入テ、己レガ智ノ明暗ニヨル事ナリトシルベキ也、次ニ如此云トキハ一生只學問ニノミ泥ミテ、イツコレヲ得心スルト云事モナク、又一時ニ脱體了覺シテ其道ヲ悟ルト云コトモナク、イツモ學問々々ト計云ニナリ、唯博文多識ヲ事トスルゴトクニキコユルナリ、全クコ、ニ心得アリ、古ノ事ヲ覺エ文才多聞ヲ事トセンハ、一向ノ義ナレバ論ニ不_レ及也、世間日用ノ事モ志立テ考問トキハ、大概知レザルコトナシ、此上ニ聖人ノ大道ヲ得心シテソノ知キワマルトキハ、ツイニ無_レ不通ニイタルベシ、是悟道見性ノ類ニ非ズ、唯知ノ明ニシテ事物ニ不_レ惑ノユヘナリ、而シテ學ブト云ヘル事ハ、日々夜々

ニ不_レ盡ノ道ニシテ學ブ處ヨリ、次第ニ知モ明ニナルベシ、夫子ハ生知ノ大聖人タリトイヘドモ、學デ不_レ厭トモ敏好_レ古トモ好_レ學トモノ玉ヘリ、次ニ學ハナラフト云事ニシテナラフニツアリ、人ノ云コトイタス事ヲナラフハ、學フト同意ニシテ效ノ字ヲ用、故ニ學ハ效也ト字訓セリ、習ノ字ノナラフト云ハ學ベル事ヲ今日日用ノ上エナラフ_{オコナイ}シヲコナフ事也、サレバ習ノ字ハカサヌルト云字心アリト可_レ知也、學而時習ト云、傳而不_レ習ト云、習トキハ相遠ト云字ノ心、皆モノニナレ、ナラフシニナル心ナルユヘニ、習ノ字ハ行ニカ、ルベシト可_レ知也、マナベル事モ行ニナラフシテ考ザレバ皆口耳ノ學ト云テ、實ノ學問ニアラザル也、○問云、大方ノ世間ヲ承ルニ、何事モマナバザレドモソレ_レノ生付ノマ、ニイタシテ一生ヲ送り、別ノ子細ナクテ過ルノミ也、然ルニ必ズ學ンデヨキ人ニナランコトヲマナビ願イワレアリヤ、

答云、マナフト云ハ、我乃人ナレバ人ノ道ヲナラフベシト云コト也、人ニ生レテモ能マナバズ、學トイヘドモ邪正ヲワキマヘザレバ人トミヘテ人ニ非ズ、故ニ遠キエビスノ作法ニヒトシク、ソノ至極セルハ鳥獸

草木ニコトナルコトナク、人タルノ道ヲ失却シテ、ソノ樂トヲモフコトハ皆苦ナリ、ソノ安トヲモフコトハ皆危、其長カレト思フ事ハ却テ短ク、久シカレト思フコトハ、忽ニ滅亡ニ近ヅクヲ更ニ不_レ覺不_レ知也、是マナバザルノアヤマチニ非ズヤ、又世ノ中ニマナバザレバ、子細モナク一生無事ニヲクル人ノミ多、是不_レ學不_レ問トヲモヘドモ、世々ノ掟作法ニシタガフテ世ト推移ルユヘニ、ナマジイノ文字ノ學者ヨリ却テスナホニテ世ヲワタルモノ也、惣テ天下ノヲキテ古來ヨリ相定マリタル事ナレバ、是ヲ背トキハ人ユルサズ、人々身命ヲ大事ニ思フユヘニ、大法ノ掟ヲソムクモノハ非ザルユヘ、一生無_レ子細送ルコト不_レ審ニ非ズ、又法ヲソムキ惡事邪道ヲノミ事トシテモ、マヌカレテ別事ナキモノアリ、凡ソ天地ハ寛大ニシテセハシカラズ、聖人又溫柔ニシテハゲシカラズ、故ニ惡事邪道ヲ行スル輩、必滅亡スルト云ニ非ズ、近クタトヘヲ取ニ鳥獸魚蟲ハ父母兄弟トツギ、父母ヲシラズ子孫ヲ害シ、社稷宗廟ノ神明ノ頭髮ニ巢ヲカケケガレヲナセドモ、天地ト、モニ長久ニシテソノトヲリ也、コレハ鳥獸ナレバサモアリヌベシ、南蠻・西戎・北狄・東

夷ノアラキユビスノタ、ズマイ、更ニ鳥獸ニコトナ
ラズシテ、一向邪義邪道ヲ事トシテモ、往古ヨリソノ
通リニ立來ル、シカレバ今邪義邪道ノモノニ必尉ノ
アタルベク必其身ノ亡ブベキト云ニアラズ、然ラバ
天道ハ善ニクミセズト云ベキニ似タレドモ、亦然ル
ニ非ズ、唯今日ノマナブ處尉ヲ恐レテ、學ト云ニハア
ラザルト可_レ知、コノユヘニ惡人ニテモ世ニ立テ子細
ナキ事亦フシンニ不_レ及也、次ニ人タルノ道ヲ學ブト
云子細ハ、先今日我身ヲカヘリミルニ、四支百體具足
ノ人ト生レ、物ノワカチヲモ可_レ知年齡マデツ、ガナ
ク、コトニ天下長久ニシテ干戈ヲ荷事アラズ、イトマ
多キ時節ニ逢ヒ、況ヤ本朝ノ地ニ生レ衣食居事足リ、
何事ノワザラツクストモナリヌベク、作法教ヲウケ
ツベキ師ニ乏カラズ、生質又至愚ナラザレバ、イカホ
ドノ賢人君子ノ位ニモ至リヌベキ我身ナルニ、ステ
措テ人トナラザランコトハ甚可_レ惜ノユヘニ非ズヤ、
サレバ先天地ノ間萬物ノ品アル中ニ人ヲ以テ萬物ノ
長トセリ、凡陰陽五行ノ氣相合テ過不及アルトキハ、
皆鳥獸魚蟲草木ノ偏氣トナレリ、故ニ鳥獸魚蟲草木
ハ其形偏塞シテ、其知慮不_レ明、是金木水火土、或過或

不_レ及シテ羽毛鱗介皮角花實マチ／＼ノスガタヲ顯
ス、其肉味アツテ其形貌人ノ用タリ、人ハ陰陽五行ノ
中ヲ得タリ、中ト云ハ其宜シク秀デタル處ヲアツメ
テウルノコト也、故ニ形體正シクシテ、不_レ偏塞ニ身體
四支五行ヲソナヘテ無_レ過不及、コ、ニライテ其知慮
考テソノ全ヲ得無_レ不通、サレバ形ニ過ルトキハ知不_レ
及、内全ケレバ形正シキノイ、也、同ジク人倫ナリ
トイヘドモ、女ハ既ニ其容貌ニ過ガユヘニ男ノゴト
クナラズ、況ヤ美麗絕色ハ必ズ惡ノアツマル處ナリ
トヤ、是叔向ガ母ノイ、シ深山大澤實生_ニ龍蛇_一也、
コトサラ夷狄ノ人物容貌ソノ質ニ過テ形體不_レ正、ホ
トンド禽獸ニ近シ、コレ道ヲ不_レ能_レ知ノユヘ也、今我
正氣ヲウクル處ノ人タリ、尤モ道ヲマナブニ便アラ
ズヤ、次本朝ハ異朝ト相並デ天地ノ中氣ヲウケ、神代
ヨリコノカタ人倫ノ道明ナルコト異朝ニヲトラ
ズ、文物サカンニシテ世々ノ政道文武ノ教戒タユル
コトナシ、サレバ此國ニライテハ道ヲマナバザル輩
禍ヲ得罪ニ入ヌベシ、是本朝ニ出生スルコト道ヲマ
ナブノ便アルコトニ非ヤ、次ニ内ニ身體四支アリ、外
ニ君臣父子夫婦兄弟朋友アリ、況ヤ飲食衣服居宅諸

色ノ用具アツテ、其品々ニマナブ事ナクンバアラズ、コトニ朝暮起居動靜家ヲト、ノヘ國ヲ治メ、文ヲ用武ヲ行ノワザアリ、諸事物ニ古法古例アリ、天下ノ法令國家ノ仕置、古今ノ通例當時ノ新法、ソノ教戒省察ノ道、詳ニ思慮セズンバアルベカラズ、次ニ大槩ノアラマシハ、人ニ問ソレニマカセテ事タリヌベシ、君臣父子ノ大義朋友ノ間ノ出入、夫婦ノ大綱又ハ天下ノ大事、國家ノ制法ニイタリテ、自己ノ細工工夫ニカナワザルコトアリ、此時ハ我信實ノ心得發見シテカクレザル事也、スベテ此品々ヲ考自ラハカルトキ、不_レ學シテハ推量ニ及ブベキ事ニ非ズ、故ニ人ノ人タル道ヲナラワズシテ不_レ叶子細ナリトハ云ヘル也、

○問云、人トシテ不_レ學アルベカラザル事承知ス、當代ノ學_レ文者ヲ見聞仕ルニ、其身ノ言行皆不_レ正、古ヲ引テ今ヲソシリ高慢多シ、是ニ世事ヲ尋六ヶ布事ヲ談合スルトキハ、更ニ一事モ不_レ通シテ不_レ學モノヨリヲトレル類多シ、ソノ失イヅクニアルゾヤ、答云、文學讀書シテ實學ナキ輩ト、當代ノ世上ニナレ事物ヲ學習シテ知惠アル人トハ、比校スルニ不_レ及、文學ノ學者日用ヲ不_レ可_レ知也、是各ソノ失アリトイ

ヘドモ、當時ニナラヘル人ハ、當用ニクラカラズ、文字ノ學者ハ今ヲシラザルユヘ時義ニ不_レ可_レ通、又古ヲモ不_レ詳也、凡實學ニアラザレバ、文書却テ日用ノ害トナル事歴然タリ、ソノユヘハ古今相隔リ、風俗大ニ違フ、大槩百年ニ世間大變ス、五十年三十年ニ中變ス、コレヲ不_レ考シテ數十歲已前ノ事ヲ取テ今日ニ合セントスル事大ナル誤也、但シ變ゼザル事ト變ズルコト、損益ノ道アルコトナリ、是實智キワマラザレバ不_レ可_レ知、次ニ文字ノ學者ハ異國ヲ以テ師トス、大唐ト日本トハ同ジク一天下ナリトイヘドモ、國ノ大小有所人品萬物ノ次第不_レ同也、シカルヲ必ズ異國ノ風俗ニナサンコトヲ云、大唐ノ事ヲ以テ本朝ヲ評シ本朝ニ居テ異國ヲテガフ、故ニ更ニ日本ノ風俗ニ不_レ可_レ相應也、次ニ古キ書物ニカキシルセル古ノ賢人君子ノ言行ハ、ソノ時ニモ世間ニマレナル人ノ、其言行ノ尤感心イタス事ヲエラビノセタル事多シ、シカレバ上代ト當時ト人ノ根氣モ不同ニ、ソノワカチモ不_レ考、古人以テ當時ノ人ヲ評シ、聖人君子ノワカチヲシラザルユヘニ、小人惡人佞奸ノ輩ヲモワカタザル也、次ニ衣服飲食ノ禮節家宅器用ノ作法ソノ道ヲツ

クサバルユヘニ、或ハ異朝ノ衣服ヲマナビ家宅ヲニセ、器物ヲアツメテ古様ヲ事トシ、或ハ儉約質素ニ過テ時宜禮節ヲカクコトヲ不_レ知、是文書ニナヅムノユヘ也、次ニ本朝ノワザヲ詳ニ不_レ知ユヘニ、平生ノ事アシモトナル小事、サラニ不案内ニシテツトムル事アタワズ、況ヤ大義大事ノサタニ及ブト云ドモ、實學アラザルユヘニ、コレヲ取テサシ引スル事アタワズ、忠ト云孝ト云道德ト云仁義ト云モ、カキ付テアル字義文義ニマカセテ、自思慮スルコト不_レ能ガ故ニ、或ハ無欲ニシテ財寶ヲ手ニトラズ口ニ不_レ云、人ノヌスミトルヲモ不_レ考、主人ヨリ祿ヲ得テモアトヨリ一錢ノタクワヘナクナリ、朋友ノタスケヲウケテモ不日ニマドシクナル類、コレヲ無欲ナル高潔ナルト心得、或ハ慈悲ヲ仁ト心得ソコナイテ、人ニ物ヲアタヘトラセ、可_レ殺モコロサズ可_レ戒ヲ不_レ戒、家ニ盜アレバ我仕置アシキユヘナリトテ是ヲ赦シ、人ノ無作法ナルヲバ、我德ノタラザルユヘナリトテ不_レ改ノ類、似テ不_レ似マコトノ小人ノイタスワザヲヨキ言行ト思フ、是皆實ノ知クラク其ノリヲ不_レ知ガユヘ也、次ニ此文學者ハ人ヲヲシヘ立ルモ、子孫ヲ教戒スルコト

モ唯物讀學文計ニナリテ、智者モコレニナラヘバ愚者ニナリ、勇者モコレニナラヘバ怯者トナルベシ、況ヤ民ノ長侍ノ司トナリテソノ下ヲ下知センコトハサタニ不_レ及コト也、次ニ文書ヲヒロク覺ユルホド自身ノ智ウスクナリテ思慮ノイトマナク、何事モ皆文書ニアリト心得ルユヘニ、實知必虛シテ外ヨリ入ル處ノ學文ノ知バカリナルヲ以テ、大道ノ實ツイニ不_レ可_レ得也、大槩文字ノ學者此失アルヲ以テ日用大ニクラシ、世間ヲヨク知テソノワザヲツマビラカニスル人ハ、時宜ノ學者ナレバ文字ノ學者何ゾコレニ及ンヤ、古ヲ考ルニ異朝ノ五帝三王ノ政ハ、聖人ノ教ニシテ萬代ノ鏡ナレバサテヲキス、秦ヨリコノカタ近クハ大明ニ至ルマデ、天下ノ政道ヲ司ル宰相文學ヲ心トシテケルハマレナリ、唯世ニナラヒ事ヲ詳ニシテ人情事變ヲ考其政ヲヲコナヘルノミニテ國治天下シバラク太平也、又文學ヲ心得ソコナイテ世ノ亂ヲマチキ、民ヲクルシメ天下ヲ失ヘル輩甚多シ、尤モ至テ無學ナレバ事義ノ大綱ニタガイアルモノナリ、シカレドモ至テ俗學ニ長ゼルヨリハ又害アラザルベシ、凡周ノ末ヲ戰國ト云、コノコロマデハ大聖周公旦

天下ノ政法禮義ヲ定メ立玉フ處相殘テ、天下ノ諸侯陪臣マデ皆日用ヲ以テ學トス、故ニ戰國ニアル處ノ國々ノ老臣、ソノ知ソノ言行ノ正シキニ至テハ、後代ノ學文者モ及ブベキニ非ズ、然ニ秦ニ至テ聖人ノ書ヲヤキ失、天下ノ禮義政道コトハ失却セルヨリコノカタ、或ハ壁中ノ書ト號シ、或ハ老人口授ノ傳書トナヅケテ世ニ書物ヲ祕シ、是ヲ覺エシレルモノヲ、文學ノ輩トテ人々崇敬セリ、是ヨリ日用ヲバサシ置テ專文書ヲ事トス、シカレドモイマダ宋明ノゴトクニハアラズ、ソノ後宋朝ニイタリテ道學心學ノサタ初マリテ、學文高尚ニイタリ日用ノ實知日々ニ昧、學者山水ヲ樂シミ文書ヲ事トシ世ヲソシリ、人ノ非ヲアラタメ出テ可^{ツカユ}事主人ナシトラモヒ、皆山林ニ蟄居ス、サシモ才知アルベキ輩モ、學ノタメニマドフテ其知ヲ忘失シ、君ヲタスケ世ヲ政スルコトアラズ、コレヲ傳ヘ學デ俗學皆如レ此、故ニ俗學ノ輩多ハ浮屠釋氏ノ妻子魚肉ヲイトナミテ山林ニサマヨフニ不^レ異、尤可ニ嘆息ニ也、

○問云、然バ聖人ノ學其教ヘ玉フ道ハイカバ仕レルニヤ、

答云、以前ニ云處ノゴトク、既ニ母ノ胎内ニアル時ニ胎教アリ、況ヤ出生シテハ其撫育教導詳ナラズンバアルベカラズ、大槩先養ヲ本トシテ其教ヲクワシクスルニアリ、凡ソ人ノ形體幼弱ノ間ハ、日々夜々ニ生長シ一年ヲ以テ大變ス、形體變長スルニ隨テ、心智亦氣質トトモニ變化ス、聖人其時節ヲ考ヘテ、詳ニ其養教ヲナセリ、人幼少ノ時ハ元氣最モ微也、初メテ母ノ胎内ヲ出デ寒風尤ソルベシ、故ニ乳母ヲエラビテ飲食ヲタクマシクス、飲食快トキハ元氣日々ニ長ズ、是木生^レ火ノユヘ也、元氣長スレバ身體肉付テユタカニ逞シク、骨節次第ニカタシ、此間驚動セシメズ大笑セシメザル事、品々ノ考ヘ教育アルベシ、而シテスデニ一歳ヲフレバ、漸人トナリテ視聽言動ヲナシ口中ニ齒生ズ、是火ヨリ土ヲ生ジ土ヨリ金ヲ生ズル也、木火土金アツテ水亦潤、五行ハジメテ其形アラハル、トキ、言ヲヨクシ行歩ヲナス、内ニ心智ハタラキテ、乳母カシヅキ、父母ノ言行ヲマナビナラフ、此間教育更ニ怠ルベカラズ、其品々多シトイヘドモ、唯時々ノ省察ヲツマビラカニイタシ、童子ノ寢ル處居ル處アソブ處、往來ノ道カシヅキ乳母朋トスル小兒、其衣

服飲食モテアンビノ器物、遊ビタワムル、シワザ、形儀作法、メノトカシヅキノ教育ノ體ヲ考、其嬰兒ノ志邪義無道僞詐ニイタラシメザル如ク可レ仕也、コ、ニライテ既ニ七八歳ニナレル時ハ、齒初メテカワリソムベシ、是金ノ全クナル相也、金全キハ木火土ノ三ツト、ノヘルユヘ也、故ニ齒カワル時分ヲマコトノ教戒ノ初メトス、金全ガユヘニ齒ステニカワル、金全キトキハ水既ニアツマリテ、成人ノハジメタルヲ以テ、男子ハ外ニ居所ヲマフケテ、男女ノ別ヲ定メ師ヲエラビテコレニツカヘシメ、朋ヲカンガヘテ交ワラシメ、カシヅキヲエラビテ是ニ付、武具文具諸器ヲサダメ、衣服食物家宅ノ制ヲ正シ、六藝ノワザヲマナバシメ、父祖兄母ニ給仕セシメツベシ、幼少ノ時ヨリ耳目ノ欲ヲホシイマ、ニセシメズ、分ヲ守リ職ヲ專トスル事ヲ知ラシメ、云マ、ナスマ、ニ事ヲイタサセズ、朝夕トモニ朋ヲアツメ師ニユカシメテ、ツタヘナラフコトヲ忘失セシメザル如クニ教戒セシメ、自ラ其忠孝仁義ノヲコナイアルゴトクナラシムル是其大法ナリ、スベテ幼弱ノ間ハ只事物ノワザヲボヘシメ、四支骨節ヲナラワシ、形體ノ懈怠ナキゴトクツトメ

ナラワスモノ也、既ニ十五六歳ニナランズルトキハ、木火土金水トモニ^{タクマシ}逞ク、形體肥大ニシテ骨節甚ツヨク、容貌以前ニ變ズ、コ、ニライテ金盛ニシテ水アフレ、腎水ユタカニ音聲自ラ變ズ、此節ヲ以テ教戒ノ極トスベシ、故ニ義ヲ正シ道ヲ明ニシテ、天地ノ大義人物ノシナト、出テハ悌アリ入テハ孝アルベキワザ、忠信仁義ノノリ日々省察教戒シテ、人倫ノ大道至誠無レ息ノコトワリニイタラシムベシ、是ヲ小學大學ノ教ヘト名ヅケタリ、聖人ノ教更ニ他事ナシト可レ知、而後ニ二十歳三十歳四十歳段々ニツ、シミ守ルベキ次第、古ノ書ニクワシトイヘドモ、先小學大學ノ教ヲ本トシテ、ソノ已後一生ノ學ハ只日用ノ間、知ヲ明ニイタシテ邪正明白ニマドワシメザルマデノコトナリ、如レ此ツトメテ不レ已バ、人ノ人タル道ニ至ルベシ、不レ然バワシユルニソノ道ヲ以テセザルユヘニ、不レ得ニ人道之正也、

○問云、學文教戒ハイヅレモ善ヲナシテ惡ヲヤムルニアルベシ、シカラバ皆人ノ人タルベキ道ナリ、然ルニ俗學ハ人タルノ道ニアラザル子細ハイカバイタセル事ゾヤ、

答云、聖人ノ教ハ人ノ道ヲツクスヲ以テス、シカルニ後世ノ學者ハ人ヲ以テ草木鳥獸魚虫ニ至ラシムルノ教ナリ、是善惡是非ヲ明辨セザルユヘナリ、人々大槩ノ善惡是非ヲバシルト云ヘドモ、眞ノ大義大事ニ及ンデハ善惡是非シリ難キモノ也、衆好ンズトモ是ヲ察シ、衆惡ンズトモ是ヲ察セヨトハ此心ナルベシ、周武王ノ殷ノ紂ヲ伐シヲ伯夷ハコレヲ非ナリト云、太公ハ是ヲ是ナリト云、老子ハ仁義大道ノスタレタル處ヨリ出タリト云、易ニハ仁義ヲ人ノ道ト云ヘリ、況ヤソノスヘ^ハノ數ニタラザル學者、サマ^ハノ異論アツテ善惡是非カツテ不^ニ分明、コレ皆自ノ是非ヲ是非トシテ、天地人物ノ公是公非ヲシラザレバナリ、サテ教ヲ立ル輩古ニハ楊朱墨翟老莊韓非申不害ガ類、近クハ佛氏禪法^{ウイ}回々ノ教、儒ニ荀子董子賈誼、文仲子韓退之周茂叔陸象山朱子陽明各一流ノ說一家ノ學ヲナシ、仙家道流^{ウラベ}忘^イ部^{ウラベ}部ノ神道又神仙ノ事ヲノゾ、然レドモ其教意大槩左ニシルス、先天地開闢混沌未分ノ說ヲ本トシテ、空寂無物ヲ事トシ、一念未^レ生以前ニ工夫ヲ付、我乃天地天地乃我萬物本一體也ト觀ジテ天地ノサキヲウツシ、一氣未^レ起所ヲ覺リ、

神明鬼神ノ妙所ヲ云、權化奇獨ノ事ヲ立ルノ教アリ、又三世不^レ可^レ得ヲ論ジ、三界ヲ立六道ヲ云テ、生ヌサキ死シテ後地獄淨土ヲ建立シ、或ハ仙境ノ長生不死佛菩薩ノ身トナラン事ヲ教トスルノ說アリ、或ハ男女ノ情ヲ絶、飲食ノ欲ヲ戒、金ヲ山ニステ、玉ヲ海ニ沈メ、麻ノ衣アカザノアツモノ、一鉢ノマフケハ世ノツイヘニアラズト思ヒ、色ヲ見テ色トミズ、聲ヲキイテ聲トキカズ、況ヤ一切ノ器物用具一ツモマコトノコトニ非ズ、コレヲ手ニモトリ心ニモイレ^ンハ道ニ非ズト思ヘル教ヘアリ、或ハ山林ニ入テ世ヲイトイ、ツカユベキ君父ニツカヘズ、アワレムベキ類親ヲステ、山上入海シテ、ツチニ座禪觀法シ、身ヲ捨心ヲコラスヲ以テ教トスルノ輩アリ、或ハ行住坐臥ヲ心ニマカセ、情ノマ、ニフルマフテ禮義ヲヤブリ、律令ヲ不^レ立心ノマ、ニイタスヲ、安樂ナリ自由ナリ殊勝ナリトイタスアリ、或ハ刑法ヲタ^バシ戒律ヲ守リ、文書ヲ以テワザトシテ朝夕ノ作法カタクナニ一向形ヲ專トイタスノ教アリ、或ハ心性ヲ味ヘ何事モ一心ヨリ出デケレバ、此心性ヲ了覺悟道イタセバ、天地ノ間通ゼザル事ハナシト心得、無欲清淨ノ地ヲトシテ

聖人ノ仁中庸ノ中ナリトヲボエ、脱然洒落ヲ事トシ、
一點ノ人欲ナキ所ヲ味ヲユル輩アリ、然ルニ此教ハ
各ヲノレガ説ヲ是トシテ人ノ説ヲ不_レ入、見聞ノ輩本
ヨリ善惡ニクラケレバ、己レガ氣質ノコノム處ニヒ
カレ、己レガナリニクキ事ヲツトメヲコナフ人ヲ殊
勝ナリト心得テ、コレニ從マナブ、一タビ學ブトキハ
又外ニウツルコトヲ不_レ得、夢ノ虫ノ辛ヲ忘ガ如キ故
ニ、其末々コト_ハク相違テ、互ニ相是非スル也、
若聖人ノ道ヲ以テ論ゼントナラバ、如_レ此教戒ハ皆邪
道ニシテ人ノ人タル道ヲトリウシナワシムルト云ベ
シ、ソノ故ハ我元來人倫ナレバ人ニ交リ、人ニツカヘ
人ヲツカイテ一生ヲスナホニ送ルベキニ、山林ニカ
クレ樹下石上ヲスマイトイタシ、海ニウカビ木ニス
クフテ鳥獸ヲ愛シ魚虫ヲトモナフ、是聖人ノノ玉ヘ
ル鳥獸ト群ヲナスニ非ズヤ、又色ヲミテ色トセズ、聲
ヲキイテ不_レ聲、財寶ヲ土塊ニタグイ無欲清淨ヲ事ト
シテ、利祿ヲタチ欲心ヲ廢スルハ、是死灰燼木ノ地位
草木瓦石ノ非情ニシテ差別ナキニ異ナラズ、況ヤ書
籍文義ノ一事ニ取ツキテ他念ヲヤメ、形式ノ模様ヲ
立テ格ヲ定ムル類ハ、檐板漢ニシテ知ヲ失シ、世事日

々ニクラシ、賈逵ガ大學ニ入り、書ノミ知リテ不_レ通ニ
人間ノ事ニコトナラズ、又性心ノサタヲ事トシテ、氷
ヲユリ水ニユガキ取ル處ナキ荒唐ノ言ヲ以テシ、默
識心通ヲ云テ靜坐持敬ノ事トシ、事物ニワタルトキ
ハ、徳ヲ以テコレヲ化スベシト云テ其用ヲシラズ、知
慮スベキ事アレバ、是術ナリ伯業ナリト號シテ、專
ラ高尚ヲ事トスルコト、是日々ニ知ヲ失却シ世間ヲ
忘却シ至愚至鈍ニイタル、サレバ如_レ此ノ教誨ハ人倫
ニ生レテ鳥獸草木ニナリ、タマ_ハアル所ノ知恵ヲ
失テ、愚昧黑暗ノ者トナルノ事ナレバ、甚可_レ畏ノイ
、ニアラズヤ、古ヲ以テコレヲ證スルニ、七賢ガ清淨
虛無ヲ事トシ、終日清談シテ世事ヲステ、中ニモ嵇康
ガ山澤ヲ弄デ七不堪ノ説ヲ云ヘルハ、マサシク鳥獸
魚虫ノタ、ズマイニ不_レ異、コ、ニ於テ晋ノ風俗頹廢
ス、王衍ガ風塵叔寶ガ玉潤ハ人ノ尊敬セシ處也、黃憲
ガ無欲ナルハ、時月間不_レ見、黃生ニ則鄙吝之萌復存ニ
子心ニト稱セラレ、元魯山ガ風物ハ見ニ紫芝眉宇ニ使ニ
人名利之心都盡ニト嘆ゼラル、其胷中一點モケガレザ
ルコトハ瑤林瓊樹ノゴトクニシテ、此世ノ者トハミ
ヘザリシモ、世ノタメ人ノタメニ一事ノ益ナク、或ハ

怯レテ填殺セラレ、或ハ酒ニヤブラレ、或ハ隠レテ不
レ出、其行ヲ稱スベキニアラズ、コ、ヲ以考フルニ、
世間ノ大欲無道ニシテ、淫亂不義ノ輩ニ比セバ、是等
ノ學者シバラク可ナリトスベシ、サテ世ニナレ事ヲ
心得知慮アツテ君ニ事ヘ民ヲ使フ無ニ文學ノ人ニハ
遙ニヲトリテ益ナカルベシ、中庸ニ知者賢者ハ過、愚
不肖者ハ不_レ及、ユヘニ道ヲコナワレザルトハカ、ル
事ニヤ有ベケン、唯善惡ノ不_レ明白ノ心ヲ以テ師トス
ルガユヘノアヤマリナルベシ、

○問云、然ラバ學問ノ術師ヲトル事ヲ以テ本ト可
レ仕、師ヲ考ヘ知ルノ道ハイカバイタシテ可_レ然コト
ゾヤ、

答云、師ニワザノ師アリ、是ヲ事物師ト云、道ノ師ア
リ、是ヲ知徳ノ師ト云、事物ノ師ハ古ノ小學ナリ、知
徳ノ師ハ古ノ大學ナリ、事物ノ師ト云ハ、天文ヲ考地
理ヲシリ、六藝ヲナライ、文武ノ事物ヲ學デ、身體骨
節ヲナラハシ、古今ノワザヲシルコト也、知徳ノ師ト
云ハ、人タルユヘンヲ聞テ其知識ヲ明ニイタス、是其
事物ノ至極ヲ盡ス也、凡ソ師ヲエラブ事一藝ノ師
ト云トモ、ユルカセニ致スベカラザル也、タトヘ事物

ノ師タリトモ、當時ノ上手ナリト賢知ノ人々崇敬ア
ルモノ、或ハ古來傳義ノタシカナル據アル、此兩様ヲ
エラブベシ、尤時ニアワズ凡下ノ者ニ沈淪イタセル
輩ニ能者アル事古今不_レ珍トイヘドモ、事物ノ藝ハ私
ヲ以テ推量仕リニクキユヘニ、世ノ其事物ニナレタ
ル人ノ是非スルヲ以テ、大概コレヲ批判スベシ、次ニ
其師ノ年齡ニヨルベシ、尤生國本國今マデ居住ノ國
所當分ノ居所人品朋友弟子ノ體、其身ノ祿貧富、不斷
之言行作法禮義、弟子ドモヘノ教法、其本意ヲ詳ニ
聞定メテ而後ニマコトノ師弟トナルベシ、只一事一
藝ヲキ、テ當座ノ學習スルハ此外也、師弟トチギリ
テハ始終見放タレザルコト多ケレバ、詳ニスルニ不
レ如也、コトサラ知徳ノ師ハ我が君父ニ仕フルノ本末
ヲ知、子孫ニノコスベキ教戒ヲナライ、我身ノ一生ヲ
建立スル事、此師ノ教ニヨルナレバ最詳ニツクスベ
シ、是又其撰法大概右ニコトナラズ、時ヲ得テ人ノ崇
敬ニアヅカリ仕官奉公ノ人アリ、不幸ニシテ世ニ沈
淪シ、或ハ配所ノ月ヲ罪ナクテミルアリ、或山林ニ
居ヲシメ田舎ニスマイテ貧ヲタノシム輩アリ、其人
之出生前後ノ居所、尤言行人品家宅衣服飲食諸具

ノ體、朝夕ノットメ、文學ノ多少其人ノノリトイタス處、手本ト存シテ道德仁義忠孝ノコトヲ記タル文書ヲ見ベシ、又其教ヲツタヘタル門人弟子ノ言行并何事ヲ本トナシ末トスルノ教戒、次ニ其人ノ志所本意知慮ノ考、大概是等ヲ以テ察スベキ也、シカレドモ是ハ其形ノ定法ヲ云ヘルニシテ、ワザノ師ヲ撰トカハリテ、我知惠ヲ以テ其是非ヲハカルコトナレバ、大方ニ心得テハ一生ノ相違出來リヌベシ、

○問云、道ノ師ヲ撰ハ我ニアル事ナレバ、其知慮ヲ詳ニセザレバタガイアルベキノ旨承知セシメ、猶其大概ヲ示諭セシメ玉フコトヲ願、

答云、道ノ師ノ實ヲシラントナラバ、先聖人ト云人ヲ詳ニ可レ知也、凡ソ聖人ヲ俗學世上ヨリ推量シテ云モシ思モスルハ、德義優長ノ體顏色ニアラハレ、芝蘭ノ匂自身ニ薰ジ、相好人ニカワリテ千萬人ノ中ニ居テモマサシクカクレナク、殊勝自然ニアラワレテ直人ニハアラザルトシラル、モノナリト思ヘリ、尤權化奇特多シテ天地ヲウゴカシ、其言行人ニカワリ聲色ヲ見聞シテ、槁木死灰ノ無情コトナラズ、マシテ財寶利祿ノコトハ紅爐一點ノ雪ヨリモ猶イサギヨ

ク、其博學多聞ナルコトハ通セズ不レ知ト云事ナク、是ヲ以テ天下ヲサメシムレバ多年ノ邪惡一時ニ滅却シテ、甘露下リ麟鳳常ニカケリ、萬民皆道德仁義ヲ行、是ニ一タビマミユレバ白地ノ凡夫モニワカニ光輝出來リ、心身忽ニ無欲清淨ニナルモノ也ト思フ、是聖人ノ實ヲ不レ知ガユヘ也、サレバ周公孔子ノ大聖人ノ言行并ニ天下ノ政令ヲ考ニ、更ニ如此ノ事アラズ、蓋聖人ト云人ハ只人倫ノ至極ニシテ、全ク人ニカワレル事ナシ、人ノ人タル道ヲツクシテ能事物ニクラカラズ、更ニ惑コトナシ、其人品ヲ云トキハ溫恭謙讓ナリ、君ニツカヘテハ能禮ヲツクシ、父ニツカヘテハ能孝ヲツクシ、文事ニハ文章明ニ、武義ニハ武備全ク、溫ニシテ勵シカラズ威アツテ不レ猛、ツトムベキ時ハツトメ休ムベキハ休、可レ取モノヲトリ可レ與モノヲ與ヘ、施スベキトキハ惠ミ、オシムベキ時ハラシム、其言行更ニ形ノ名クベキ處ナシ、故ニ其實ヲ不レ知モノハ施ヲ見テ無欲ト稱シ、ヲシムヲ見テ貧ト疑ヒ、禮ヲツクスヲ見テ諂ト思、不レ諂ヲ見テ奢ト思フ、是皆己ノ眼ノ了簡ニシテ、聖人ヲシラザルガユヘ也、能天命ヲシレルガユヘニ求ムベキ事ヲ求メ、謀ルベキ事ヲ謀リ、貯ベキ時ニ貯テ成敗更ニ疑コトナシ、能分ヲ

安ズルヲ以テ職分更ニタガワズ、司ドル處ヨク治リテ其謀^レ不^レ出^レ位、此ニ事物ノ禮ヲ尋チテハ本立テ道生、是ニ國家ノ大義ヲ談ゼシムレバ事ニ滯ル處ナシ、平生ノ衣服家宅器用ニ至ルマデ、カザルベキヲガサリ質素ナルベキヲ質素ニシ、或ハ美ヲ盡シ或ハ力ヲ出シテイトナム事アリ、又不^レ盡^レ不^レ出^レ處アリ、凡人ノイタスシワザニ大概コトナルコトアラズ、コレニ親ンデ其教ヲツクセバ、質自然ニ變ジテ知日々ニ新ナリ、其教ヲツクサレバシイテ是ヲ引道セズ、只人ノタメ世ノタメニナルベキ、其事物アルトキハ詳ニ示サズト云事ナシ、其聰明睿知ニシテ至聖無^レ息ノ道萬物ヲテラシテ萬代ノ龜鏡タリ、故ニ無欲トモ有欲トモ清淨トモ穢濁トモ、イヅカタヲサシテ名ヲナスベキ形ナシ、此ヲ無^レ可^レ無^レ不^レ可^レトハ云ベキニヤ、サテ聖人ヲシテ天下ヲ治メシメバ、萬民今日ニ替事ナク、法度ツヨキト、ヲソレヲノ、ク仕置モナク、慈悲深重也ト辱カルメダミモナク、ツヨカルベキヲツヨクシ愛スベキヲ愛ス、訟獄アレバ明ニ辨ジテカクル、處ナキガ故ニ、民奸曲ヲ不^レ構、事ノ滯ル事アルヲ問注處ニ尋スル時ハ、明ニ裁許シテ結ル事ナシ、制法條目煩

ハシカラズ、四民ノ禮節正シク疑惑スル事アラズ、故ニ四民各其處ヲ得テ君子小人皆安ンズ、國ニハ國ノ教ヲ詳ニシテ諸侯ニ命ジ、郡ニハ郡ノ教ヲ以テ郡主ニ命ジ、卿大夫士ハ家ノ教ヲ以テ事トス、コ、ヲ以テ其政令日久シク年重ナレバ、萬民自化シテ是上ノ徳タルコトヲ不^レ知、四時自順テ土地自^{アラキハ}墾ル、是併時ニシタガツテ政ヲ出シ、地ニヨツテ合ヲシキテ更ニ設ヲツクロフ政ニアラズ、古ノ堯舜禹湯文武周公ノ天下ニオケル如^レ此ノ外書傳ニ不^レ出^レ也、聖人ノ世ニモ天變地變ナキニ非ズ、惡人無道ノモノ盜賊非義ノ族、尤モ錦繡ノ粧翫好ノ器、郢曲ノ淫聲風流ノ游女、公事訴訟人、法ヲ背ク謀叛人、又ハ異端ノヲシヘ邪說暴行佞好ノツクリモノ、巧言令色ノヘツライモノトモニ世ニ多シ、故ニ聖人常ニコレヲ戒シム、サレバ天地ノ變アリテモ聖人ノ治ヲ妨グルニ不^レ足、亂逆ノ戰ヲコリテモ民ヲ惱^{ナヤスニ}不^レ及、惡人無道ノモノ位ヲエザルエヘニ、ソノ惡ヲ施トコロナク、物皆ソノ處ヲ得テソレゾレノ利ヲ利トシテ風俗自然ニ化シ、人ノ邪惡施コトヲ不^レ得ニ及ベシ、是聖人ノ治^レ人修身ノ用法ナリ、コレヲ詳ニツトメ、其ノリヲ立テ以テ學ノ師ヲ立ベ

キ也、

○問云、承ル所ノノリヲ立テ學ノ師ヲ求メントセバ、當代ニアルベカラザルカ、

答云、ノリヲ立ルハ我心ニ準則トスルノイ、也、然レバ文學ヲヨク心得タル輩ヲ師トシテ、其文義字義ヲ心得、直ニ聖人ノ書ヲ詳ニ讀習シ、コレヲ我心ニヨク思フベキ也、思ト云ハ思慮スルノ義也、思慮スル處詳ナラザルガユヘニ、見聞ニナヅミテ實ヲ失却ス、思慮スル事正シクバ無レ不_レ明白_一也、サレドモ學バズシテ思慮ヲ事トスレバ、己レガ心ヲ師トスルユヘニ、皆私ニナルコトヲ不_レ知ナリ、故古ノ文書ヲ學ビ今ノ世事ヲナラヒテ、以テ我心ニ思慮イタサバ、善惡是非ウタガイアルベカラザル也、

○問云、今承ル處ノ思慮ノ道ハイカバ仕ルベキヤ、答云、思慮イタスト云ハ、何事ヲモ詳ニ考ヘ思フテ、輕卒ニイタサル事也、凡ソ天地ノ間ニ出生スル有情非情ノ萬物、皆ソレノ形アラワシ、其精ヲ以テ性心トイタシ、相應ノ知惠ヲモツト云ドモ、人間ノ知ニ及ブ物ナシ、是人ノ萬物ニ長タルユヘンニシテ、陰陽五行ノ中ヲ得タル證據ナリ、サレバ萬物ハ皆天

地ニ制セラレテ、自ラ其道ヲ立ル事ヲ不_レ得、只自然ニマカスル也、人ハ天地ヲ佑ケテ天地ニ制セラレズ、天地ノ天地タル事ヲ工夫シテ、天地ノ大德ヲ天下ニアラワシ萬代ニ示ス、是人ノ天地ヲタスクルナリ、殊ニ家宅ヲカマヘテ風雨ヲフセギ、堤ヲツキ池ヲカマヘテ旱水ヲマホリ、五穀ヲウエ衣服ヲコシラヘ、國郡ヲ定メ山林ヲマフケ、器物用具ヲコシラヘ、尊卑上下ノ制ヲ立、日用ヲ定四民ノ教ヲキワメテ、其智ヲ全クスル事、是天地ニモ制セラレズ、各當然ノ道ヲ建立スルニ非ズヤ、如レ此ノ知惠アリトイヘドモ、マナバザレバ光ナシ、學ブニ其正道ヲ以テセザレバ明ナラズ、光明ナラザレバ是非ヲワキマヘズ、善惡ニマドフテ五倫ノ道ニクラク、邪義ヲカマヘ倭奸ヲタクミ、或ハ金銀ヲ貪テ吝嗇ヲ事トシ、或泰奢テ財寶ヲ泥土ニ比シ、或器物ヲ愛シ、酒色ニ溺、或無欲清淨ヲ立テ山林ヲ居所トシ、奇異ノ作法ヲ立テ此ヲ是ナリトシ、時節ヲ考ヘズ、位ヲシラズ、家財ヲ失、百姓ニ物ヲヨマセ、武士ニ長袖ノマ子ヲ致サシメテ、各ソノ知惠ヲ失却セシメテ、人ノ人タル道ヲ絶滅セシム、是何方ノアヤマリナリト云トキハ、思慮クラキガユヘ也、次ニ思慮

アリテモ不_レ學トキハ、己レガ情ノマ、ニ行テ不_レ止、
ソノユヘハ人ノ情ソノ氣質ニ因テ品々ノ差アリ、故
ニ其心色々ノヲモワクアリ、タトヘバ酒ヲ好ムモノ
ノアルニ酒ヲ嫌ムモノアリ、病者アレバ無病ノ者アリ、
其氣質ニ過不及ナクンバ非ズ、サレバソノ生レ付ノ
マ、ノ心ヲ以テ思慮セバ、皆自己ノ心上ニノミ落ツ
ベシ、シカラバ無欲ナルモノハ無欲ヲ以テ本體トヲ
モイ、惡心深重ノモノハ人ノ性ハ惡ナリト思イ、善惡
交ルモノハ善惡アリト思フ、是一家ノ說ヲナシテ一
理ヲトクノユヘ也、是ヲ心ヲ師トスルト云也、故ニ古
ノ聖人ノ立置處其言行ヲ知、當時世上ノカシコキ人
ノ行ヲ考ヘ、其上ニ我心ヲ引合セテ思慮イタサバ不
レ中ト云トモ遠カラザラジト可_レ知也、

○問云、往古聖賢何レヲ以テ手本トナシ、イヅレノ書
ヲ本トセンヤ、

答云、ソノ敎家ノ先師ヲバ皆ソノ家々ニテ聖人ト云
ヘリ、釋氏ハ釋尊ヲ大聖世尊ト號シ、道家ハ老氏ヲ元
聖李老君ト云ヘリ、此外ニモ定メテ一家ノ敎ヲ立ツ
ル輩皆シカラン、是自身ノ稱美ニシテマコトノ人倫
ノ大聖人トハ云難シ、サレバ只今日々用ノ道明ニシ

テ四民所ヲ得、人ノ人タル道ヲツクス是ヲ聖人ト
云、此ヲ下段ノ事ナリトシテ飛越テ以前ノ事ヲ云、目
ニミヘヌ長生不死ノ事ヲ論ゼンハ、取テノリト致シ
ガタシ、故ニ大唐ニハ三皇五帝三王ノ敎、本朝ニハ神
代ヨリ人皇最初ノ作法皆人倫ノ常ニシテ更ニ異說ナ
シ、是ヲ詳ニツクセル人ハ、周公孔子ノ外ニアラズ、
唯周公孔子ノ敎ヲ以テ聖敎トシ、ソノ書ヲ以テ師ト
スベシ、賢者トイヘルハ一事一行ノ人ニスグレタル
ヲモ、又智識サカシキヲモ云ヘルナリ、故ニ一事一行
又ハソノ智識ノ博クワタランコトニハ、我ヨリマサ
レル人皆我師ナリ、況ヤ上古中古近代ノ賢人君子皆
執テ師トスベシ、大道大義ノ所知惠深重ノ極所ハ、聖
人ヲ以テ則トイタサバレバ其志必相違アリ、往古ノ
伯夷太公伊尹傳説柳下惠并ニ孔門ノ顔子曾子子
思孟子子ト云ヘルモ、周公孔子ニアワセテハ、肩ヲナ
ラベロヲ一ツニシテ云難シ、況ヤ其下其末々ハ皆自
流ノ學者ニテ五十歩百歩ノタガイナレバ、唯願フ處
ハ聖人ノ大意ニシテ、取用ユル處ハ我ヨリマサレル
人及我ヨリクダレル者、皆師資タルベキ也、次ニ書籍
之事大學ノ經一章、中庸論語次ニ孟子ヲ讀ベシ、六經
ハ其後ニアリ、事ヲクワシクセンニハ春秋アリ、其

本ヲ正サンニハ周易アリ、禮ヲ詳ニセンニハ禮書アリ、サテ四代ノ風俗嘉言善行ハ書ニ出タリ、天下ノ人情風俗ハ詩三百篇ニツクセリ、此外代々ノ盛衰人品、其作畧ハ世々ノ紀錄ニ出、ソノ評論ハ先儒綱目綱鑑ノ類ニ多シ、皆以テ致知ノ一端タリ、シカレドモ聖經ヲ以テソノ本ヲキワメズシテ、只世知ニワタラバ知マチニシテ、明ナルベカラザル也、

○問云、學者學キワマリテ既ニ聖賢ノ地位ニ至リテハ、學問ト云コトアラザルヤ、

答云、聖人ハ聖人ノ學アリ、賢者ハ賢者ノ學アリ、愚者ハ愚者ノ學アリ、人ノ一生ノ間無レ不レ學ト心得ベキ也、夫子ハ生民アツテヨリコノカタ無レ之、大聖人タリトイヘドモ學テ不レ倦トノ玉フ、又敏而好レ古トモ、不レ如ニ丘之好レ學也トノ玉ヘリ、コ、ヲ以テ案ズルニ大聖人トイヘドモ、學ブ處ノツキザルコト如此トキハ、末世ノ愚民タレカコレコン學ノ極ナリト云コトアラシヤ、若コレヲ以テキワマレリトセバ、天地ノ無レ疆無レ息ノイ、ニ非ズトシルベキ也、易ニ乾々不レ息ヲ以テ天ノ德トス、天道下濟而光明也、地道卑而上行、天道虧レ盈而益レ謙、地道變レ盈而流レ謙、鬼神

害レ盈而福レ謙、人道惡レ盈而好レ謙、謙尊而光、卑而不レ可レ踰、仲虺之誥志自滿九族乃離ト出タリ、我ハ學ブニ不レ及トヲモフ心ノ出ルハ皆盈トスル也、ミテリト思フトキハ乃クラキヨリクラキニ入ルニナルベシ、學ト云事文字ニ不レ可レ限ナレバ、ソレトノ職司ニ居ルト云ドモ、又ソレトノ學ブベキ道アリ、規考フベキノ品アルベケレバ、コレヲ盡タリト云ハ宴安ノ出ル處ナリ、蘭芷變而不レ芳兮、荃蕙化而爲レ茝、チガヤ昔日之芳草兮、今直爲ニ此蕭艾也、豈其有ニ他故ニ兮、莫ニ好修之害無有如此好修之爲害也也ト離騷ニ出セリ、タトヘ一度ハ蘭蕙ノ芳香ヲフクメリト云ドモ、コレヲステヤクトキハツイニチガヤトナリテ、ソノ跡ナクナルコトハ修スル處アラザレバナリト云ヘル心ナリ、聖人ト云ドモコレニテ事ノト、マルト云コトハアラザルタメシナレバ、唯修レ之學レ之デ日々ニ新ナランニアリ、コレ日新之謂ニ盛德ノ義ナルベシ、若積ニ藥鏡上而不レ加ニ磨治、未ニ必不レ及ニ爲ニ鏡累ト潘默成ガ磨鏡帖ニカケルモコトワリアリ、

○問云、人ノ善惡全ク教ニアリト云トキハ、道ハ外ヨリ來ルニ同ジキカ、

答曰、人物教ニヨラズト云コトナキ義前ニ説ガ如シ、
 タトヘバ草木ハ非情ノ物ナリトイヘドモ、風寒ニタ
 ヘタル松柏ハ棟梁ノ用アリ、シカラザレバ松柏棟梁
 ノ用ヲナサズ、況ヤ枝ノ出ヤウ木ノ形皆コレヲタメ
 直セバ直シ、麻ノ中ノヨモギハ自直ナルタメシモア
 リ、殊ニ鳥獸ハ人ノ教ニ順テ其能ヲアラワス事世以
 テシカリ、サレバ人ノナライニヨルベキ事不審ニ不
 レ及ナリ、夫子モ習相近也トノ玉フ、伊尹モ習與性成
 ト云、召公モ節性惟日邁ト説ケリ、次ニ習ヲ以テ云
 トキハ道外ヨリ來ルニ同ジト思フコト尤其イワレア
 リ、告子ガ仁義ヲ外ニシテ杞柳桮棬ノ説アレバ、性ヲ
 メテ善ヲナサシムルト云ヘル不審、古ヨリ有之事
 也、人ノ性物ノ性同ガ如シ、シカレドモ人ハ二氣五行
 ノ精秀ヲ得テ人タルユヘニ、ソノ心性モ亦萬物ニス
 グレテ、善ヲコノミ惡ヲニクムノ心フカク、是非邪正
 ヨク思慮スルトキハ、ワキマヘツベキ知アリ、ユヘニ
 其性心知識ニシタガツテ其道ヲ立テ、其ノリヲマナ
 バシメ教ヘシム、是率性コレヲ道ト云ヘルノ心ニシ
 テ、好ニ好色ニ惡ニ惡臭ノ至誠、人々萬物ニスグレテ秀
 精ナル所也、鳥獸草木ハ好色惡臭ヲシラズ、邪正善惡

ノ知クラキヲ以テ、タマ／＼コレニ其ワザヲシヘ、
 コレヲタメテ直ナラシメテ、ソノ用ヲナストイヘド
 モ是レカレガ不レ好處ナルユヘ、アトヨリ本ノ如クニ
 ナレル也、サテ道ノ準則事物ノ禮節ハ聖人ノ立玉フ
 教ナレバ、是外ナリト云ニ近シ、コ、ヲ考ユレバ内外
 相因テ而后ニコノ道成就スト可レ知也、唯内ニ向テ求
 メ外ニ走テ力ヲ勞セバ、トモニ聖人ノ道ニ非ザル也、
 ○問云、學問ノ道イヅレヲ以テ先トシテ、ソノ實ニ
 至リ侍ランヤ、
 答云、學者各ソノ心知ノ物ニマドフ處アツテ不レ通コ
 トアルユヘンヲ不レ知、コレユヘニ事物ニ相アタツテ
 是非邪正ヲワキマヘザルナリ、コ、ヲ以テ案ズルニ
 學者ノ先務惑ヲワキマフルニアルベシ、シカルニ惑
 ト云ハ過ト不レ及トノ二ツニ出ルコト也、サダマレル
 誠ノノリヨリ厚ク過ストキハ、泥著シテ必ズ附益助
 長スルニ至ル、コレヲ過ト云、附益助長ト云ハ本ナキ
 事ヲ付テ大ニ云ナシ仕ナスト、宋人ノ苗ヲヌキアデ
 テ長ゼシムルゴトク、シイテ是ヲ助ケマスハ皆惑也、
 サレバワガヒイキノモノ、愛著ノ切ナルモノヲバ少
 ノコトヲ大ニイ、ナシ、ナキコトヲモ有ト云テ、人ノ

前ニテ稱美シ、人ニモ稱美セシメタキゴトキ、皆是附益助長ナリ、況ヤ喜怒哀樂ノ情ニマカセテソノ節ヲ失シテ、ソノ本ヲ失フコトハ過ルトコロノ惑也、次ニ不_レ及トキハ疎畧輕忽ニシテ大簡ニヲチ入ルノ惑アリ、大簡ト云ハ詳ニ不_レ考、敬テ不_レ思シテ先後ノツモリナク始終ヲハカラズ、當座ノ思出ス處ニマカセテ徑ニ行フ事ナリ、過ト不_レ及トノ失ニヨツテ其本ヲ忘ル、ニ至ルガ故ニ惑ト云也、此惑ヲ知ラザル故ニ是ヲ修スル事ヲ不_レ得シテ、或ハ惑ヲ以テ正トシ、或ハ誠ヲ以テマドイトス、異端ノ邪說暴行全ク惑ヲワキマヘザルヨリ起レリ、惑ヲワキマヘザレバ是ヲ取テ非トシ、非ヲトラヘテ是トシテ惑ヲ以テ惑ヲヲサムルガ故、遂ニ至大至公ニ至ル事ヲ不_レ得也、聖人ノ教辨_レ惑ヲ以テ要トス、惑ヲ不_レ知トキハ學ノ標準タツベカラザル也、次ニ去_レ惑ト不_レ惑トノ心得アリ、去_レ惑ト云ハ可_レ惑モノヲ捨去ル心也、是聖人ノ教ニアラズ、多ハ異端ノ沙汰スルコトナリ、聖人ハ不_レ惑ト教ヘタマフテ惑ヲ去ルニ不_レ及、唯惑ヲワキマヘテ不_レ惑ノミ也、惑モ亦人ノ情ニシテ人々未_ニ嘗無_ニ此惑、唯惑ノ中ニヲイテ不_レ惑ゴトク可_レ修也、次ニ辨_レ惑ノ說

論語ニ詳_レ之、論語ニノ玉フ處ハ樊遲子張ガ疾ニアタツテノ玉ヘリトイヘドモ、其言ノ切ナル處皆惑ヲワキマフルノ上ニアルコト也、後儒唯惑ヲサルコトヲ詳ニ說テ辨_レ惑、學者ノ要タルコトヲ不_レ盡、夫子ハ只惑ト云モノ、ワザヲツクシ玉フテ、コレヲ去ノ事ヲ不_レ曰、コレ惑ヲヨクシレバ惑フベカラザルガユヘ也、惑ト云モノヲ詳ニワキマヘ不_レ知バ、惑ト云モ正ト云モ、トモニ惑ニシテ實地ニ不_レ有也、

○問云、惑ヲワキマフルニ道アリヤ、

答云、學コレ惑ヲワキマフベキタメ也、學ブトキハ惑自ワキマヘツベシ、學問ハ自己ノ知ヲミガイテコレヲ明ナラシムルニアリ、知惠明ナルトキハ邪正是非マドフベカラズ、知惠不_レ明ユヘニソノマドイヲ不_レ知也、タトヘバ怒ハ七情ノ一ツニシテ人情ノ必ズナクンバアルベカラザルモノ也、而シテ其身ヲ失フニイタルハ怒ノ過テ妄動スル也、愛惡ハ人ノ情ニシテ、愛惡ニ因テ附益助長スルハ是愛惡ノ妄動ナリ、サレバ怒ニモ大小アリ、可_レ怒ニ怒テ其義不_レ顧_レ身トキハ不_レ顧ヲ正トス、一旦ノ怒ハ怒ルコトノ小ニシテ忘_レ身及_ニ其親ハソノ失ノ大ナルガユヘニ、夫子コレヲ

惑トノ玉ヘル也、如此事々皆詳ニソノ道ヲツクサバ
レバ不レ通コト也、

○問云、我性心ヲ明ニイタサバ知恵自ラ發明ナルベ
シ、唯知恵ヲ明ニセントイタサバ、利口ニワタツテ實
知ノ明ニ及ブベカラザルカ、

答云、明ナリト云コトヲ能覺了スル、是學者辨惑ノ
第一義也、物不明トキハ惑フ、惑フトキハ不正、人心
不レ明トキハ邪正不レ分、邪正不レ分トキハ不レ通、サレ
バ人ノ兩眼盲スルトキハ象ヲトラヘテ異端ヲ説ノマ
ドイアリ、暗夜ニ闇室ニイレバ手足ヲラク所ナシ、況
ヤ一心ノ盲暗センニハ、是非何ヲ以テカワキマヘン
ヤ、故ニ大學ノ教ハ明德ヲ明ニスルヲ以テ先トシ、誠
身ノ道ハ明レ善ヲ以テ初トス、人ノ人タルコトヲシ
ランニハ先學問ヲ以テスル、皆明ナル處ヲ本トスル
ガユヘ也、所レ問ノ如ク我性心ノ明ナランニハ、所レ向
發明センコト尤可ナリ、シカルニ性心ヲ明ニスルハ
格物致知ヨリ入ルベシ、格物致知ト云ハ物ヲツクシ
テ、ソノ知ヲ致ムルノ言ナレバ、是知ヲ明ニスルニ
アラズヤ、知ト心性ト更ニ差別ナシ、性心ハ乃知識ナ
リ、別ニ性心アルニアラズ、故ニ致知スレバ誠意正心

ナリトハイヘル也、樂記ニ血氣心知之性トイヘルモ
是也、宋儒以虛靈不昧解明德、虛靈不昧ハ知ニアラ
ズシテナンゾ、然ルヲ知ヲ以テ性心ト別タンコトヲ
欲ス、是惑テ不レ明ナルガユヘ也、利口ト云ハ不レ知コ
トヲ知レリトイ、不レ心得コトヲ心得タリト云テ
佞奸ヲカマヘ、辨ヲマフケ言ヲ巧ニシテ我非ヲカザ
ル、是ニ似テ眞ニ非ル也、故ニ夫子利口ヲキライ玉イ、
覆^{ツクガヘス}ニ邦家ト戒メ玉ヘリ、是商俗靡々利口惟賢、無^下以ニ
利口ニ亂^中厥官トモイヘル也、知クラキガユヘニ利口
ニワタル、知恵明ニシテ利口ニワタルコト不レ可有
也、學者唯聖人ノ言ヲスナホニ心得テ不レ入意見ヲ
不レ加、ソノマ、ニ見得スルトキハ不レ相違、若分別
ヲ加ヘ意見ヲマフタルトキハ、聖經不レ明シテ實意カ
クレヤスシ、後世ノ明德ノ註解明善ノサタ、皆本意
ヲ失却シテ惑ヲ以テ惑ヲセムルニナレル也、

○問云、今日ノツトムル處、專我心ノ物ニ動スル處ヨ
リ起テ、ソノ知ヲクラマシ物ニアフテ煩勞スルニ至
レリ、コ、ヲ以テ云バ孟子ノ不レ動心ノ心得第一ノ
教タルベキヤ、

答云、孟子不レ動心ノヲシヘハ知言養氣ノ執行ヨ

リ入ル、故ニ唯ニ不動心ト云ヘルニ非ズ、知言養氣
トキハ義内ニアツマリテ、事物ニ不惑ノ心ナリ、シ
カレドモ孔子四十不惑トノ玉フ、孟子ハ四十不
動心トイヘリ、聖賢ノ量其コトナルコト如此ナリ、
凡ソ不惑トキハ心ヲノヅカラ不_レ動也、不動心ト云
ハイマダツトメテイタス處ナリ、是ヲ伎倆_{ギレウ}ト云、伎倆
アルハ心ヲツケテ致シ、困勉イタス處アルニヨツテ、
ツイニハ其實ニタガフコトアルモノ也、不惑ト云ハ
事物ノ格致明辨ナルヲ以テ、ウゴクベキニウゴキ、不
可_レ動處ニ不_レ動、更ニ意必固我スル處アラズ、コ、
ヲ以テ學者ノ執行ハ只格物致知ヲ事トスルニアリト
云ヘル也、告子ニ不_レ限心ノ不_レ動底ヲ事トシ、生死ヲ
脫落シ、塵_ニ視世事_ニシテ就_レ死ヲ易ンズルノ輩、異端
ニ甚多シ、是一事ノ不動心ト可_レ云シテ、コレヲ以テ
是ト定ムルコトニ不_レ有也、當時ノ俗學底ハ異端ノ靜
寂無物不動心等ニ及ンデハ、ソノ足ガタマデモ不_レ可
レ及、シカレバトテ異端ノ學モノニ不_レ惑ヤト云トキ
ハ又不_レ是也、サレバ只聖人ノ教ニシタガイテ、高キ
所ヲステ卑ヨリ修シ、遠キ處ヲサガラズシテ近處ヲ
ヨクタバシ、カタクナ、ルコトヲヤメテ、今日日用ノ

事物ヲ詳ニツクシ、ソノ知ヲキワメンニハ、心自定テ
靜ニ安クシテ、ソノ道ニツイテ其慮アリヌベシト可
レ知也、但シ孟子ノ所謂不動心ハ、異端ノ不動心ト同
キニアラザルナリ、

○問云、古ノ聖賢世事ニヲイテ豪傑ニシテ、サラニ不
屈處アリ、是心ノ卓爾トシテ物ニ不_レ動ノ地ナルベ
シ、然バ不動心亦學者ノ可_レ守地ナラシカ、
答云、古ノ聖人ハヨク事物ニ不_レ惑、故ニ不_レ可_レ動ニヲ
イテ不_レ動ナリ、不_レ動ヲコト、スルニアラズ、不_レ動
ヲ事トスレバ却テ大ニ動スル處アルコトヲ不_レ知也、
然レバトテ不_レ動ヲ非ナリト云ニハアラズ、蘇武在
匈奴十九年ニシテ漢ノ節ヲ不_レ失、魏ノ于付門在
燕二十一年、宋ノ洪忠宜在_レ金亦幾二十年、イヅレモ
其義ヲ不_レ變コトマコトニ不_レ動ト云ベシ、是皆一事
ノ不動ナリ、若道ヲ不_レ盡シテ只伎倆ヲ立テ不動トセ
バ、ソノツトムル處ハ不_レ動トイヘドモ、ソノタユム處
ハ一毛ニモウゴクベシ、サレバ唐ノ韓退之ハ佛骨表
ヲ奉テ身心ヲ輕ジ、潮州ニウツサレテ其守ル處ヲ不_レ
變ト云ドモ、登_ニ華嶽之巔_ニ度_ニ不_レ能_レ下_ニ、發狂慟哭シテ
遺_レ書ハ是伎倆ノ有_レ盡也、宋ノ胡澹菴欲_レ斬_ニ秦檜_ニ之

奏狀ヲ奉テハ一身ヲ輕ズトイヘドモ、梨_レ頰生_ニ微_ニ渦_ニノ句アリ、蘇子卿_レ雪_レ咲_レ氈_レノ不動底アリシモ、爲_ニ胡婦_ニ生_レ子_ニ、洪邁ガ博文ナリシモ、奉_レ使金ノタメニタシナメラレテ易_ニ表_ニ章_ニ、是皆一事ノ不動底アルモ、マコトノ道ヲ不_レ盡_ニ、輕_ニ處_ニニヲイテ必動スルコト出來ル也、聖人ノ不動底ハ不動ヲ事トセズシテ、其不動心銀山鐵壁ヨリ堅シ、コレマコトノ大英雄ニ非ズヤ、コ、ヲ以テ案ズルニ唯事物ヲツクシテ、我心ノマドウ處ヲワキマフルコト、聖人ノ教ト云ベキ也、但シ初學ノ間我氣質ノ流蕩スル所ヲ、自警ニハ不動底ナクンバアラザル也、

○問曰、人ノマドウ處第一欲心ヨリ出來リ、少ノコトエモ利心出來シテ本道ヲ害スル事多シ、是惑ノ大本タルベシヤ、

答云、欲ハ情ノ發而感_レ外_ニヲザナリ、コノ心ナキトキハ人ニ非ズ、凡ソ知識アルモノ皆欲心アリ、コトニ人ノ知ハ萬物ニ過ルヲ以テソノ欲心モ又萬物ニコユ、コノ欲心アルヨリ聖人ノ道ニモ可_レ至_ニ、更ニ欲心ヲキラフモノニ非ズ、欲ノ過ルヲ惑ト云、不_レ足_ニヲモ惑ト云也、但飲食男女ハ人ゴトニ大欲アルモノナルニ、タ

マタマソノ欲ウスクシテ其志不欲ナランハ、宜シキ氣質ト云ベシ、コレ聖人不欲ヲ稱シ玉フユヘ也、サレバ聖人以_レ欲惑トノ玉フコトナシ、只先_レ難後_レ得、先_レ事後_レ得、己欲立人ヲ立、又後_レ祿不_レ計_ニ其食ナドノ玉フマデナリ、後世ニ至テ其論甚高ニ過テ其言皆無欲ヲ以テセリ、前漢董仲舒ガ仁人者正_ニ其誼_ニ不_レ謀_ニ其利_ニ、明_ニ其道_ニ不_レ計_ニ其功_ニト云ヘルモ、言ノ過テ實ヲ不_レ得_ニ至ルナリ、コトニ利ハ易ノ四德ノ一ツ、書ノ三事ノ一ツニシテ、是ヲキラフベキニ非ズ、人ノ心皆好_レ利惡_レ害ニツアリ、是ヲ好惡ノ心ト云、コノ心ニタヨリテ教ヲ立テ、ツイニ聖人ノ極リヲノベ玉フ、大學ニ好_ニ好色_ニ惡_ニ惡臭_ニヲ誠_ニ意_ニノ章ニヒイテ、人ノ心ノ好惡天下ニナルコトヲイヘルモコノユヘ也、コノ利害ノ心アラザレバ死灰槁木ニシテ人ニ非ズ、人情ハ古今コトナラズ、四海トモニ同ジ、故ニ孟子性ノアトヲ論ジテ、以_レ利爲_レ本トイヘリ、唯其利ヲ私シテ利ニ惑ガユヘニ是ヲ戒シメ、人必ズ利ニ過ルヲ以テ聖人罕_ニ玉フ也、當時ノ學者ヤ、モスレバ利害ノ心ナリトテ、コノ心ヲ絶セントスルコト尤モアヤマレリ、皆ソノ知ヲキワメザルユヘノ惑ナリ、

古ノ王衍ハ一生口ニ不言錢ヲ以テ自高ブレリ、許由巢父ハ天下ヲユヅラントアル言ヲキイテ、或ハ耳ヲ洗、或ハ牛ニ水カワズ、元魯山ハ六十年女色ヲ不知トイヘリ、人ノ生質ニヨツテ利祿女色ノ大欲トイヘドモ、猶如此蔑如シテコレガタメニ心ヲソメザルモノ世々ニ多シ、況ヤ老莊釋氏ノ教ヲキケル輩、尤世間ヲ輕ズルヲ以テ第一ノ教トス、然レドモ本コレ人情ノ定レル道ヲナミスルナレバ、コレヲ以テ聖教トハイタサズ、什ガ一ヨリ多ク取ルモノハ大桀小桀ナリ、什ガ一ヨリ少クトルモノハ大貉小貉ナリト、孟子コレヲ節セルハ聖人ノ教其過不及ヲ節スルノミ也、子產云君子有_二四時_一朝以聽政、晝以訪問、夕以脩令、夜以安身、於是乎節宜_二其氣_一トハ晋平公ノ女色ニ過ルコトヲ戒ムルノ言也、サレバ古ノ聖人賢人ノ欲ヲ節スルノミニシテ此欲ヲ止メコレヲ絶スルノ教アラズ、是欲ハ人ノ性情ノ動テ物ニ感ズル處ニシテ、非_レ無_レ之ヲ以テナリ、異端ノ教ハ過テコレヲ斷ズルニ及ブ、コレ身ニコ、ロミ庶人ニコ、ロムル處アラザルユヘナリ、聖人ノ學豈シカランヤ、唯ツマビラカニ盡スニアルノミ也、今天下ノ人情ヲ以テハカルニ、人

ノ性以_レ利本トセザルハナシ、利ヲ本トスルガユヘニ此道立テ行ハレ、君君タリ臣臣タリ、若_レ此利心ヲ失却セバ君臣上下ノ道タ、ズ、善惡邪正ヲキマフル人ナク、天地忽ニクツガヘリ、日月忽ニ地ニ落ベシ、四夷ハ利ノ小ヲ事トシ、中國ハ利ノ極ヲ事トシ、コトゴトク此利ニヨツテ萬物立、萬事ヲコナワル、也、學者只其實ヲシラズ其知ヲキワメザルユヘニ、此惑アリトシルベキ也、

○問云、人ノ性以_レ利爲_レ本ノユヘイカナルコトゾヤ、答云、人ノ知萬物ニコユルヲ以テ、其欲心利心又萬物ニコユ、故ニ色ヲコノムモノハ天下ノ美人ヲ求メ、聲ヲコノムモノハ天下ノ美聲ヲ求ム、是美ノ至極ヲツクサレバアクコトナシ、是乃人ノ性ノ本ニシテ、知識ノ萬物ニ秀タルガユヘ也、シカレバ色ヲコノミ聲ヲコノム計ニアラズ、父母ニツカヘ君ニツカヘテハ、其至極ヲツクサバランハマコトノツクスニ非ズ、故ニ聖人忠孝ノ說ヲ立テ臣子ニヲシヘ、仁義ノ道ヲ立テ人倫ノ極道トス、コレ美人ハ色ノ至善、八音調ハ聲ノ至善、忠孝ハ君父ニ仕ルノ至善、仁義ハ人道ノ至善ナレバナリ、人ノ性本利ヲ好ミ害ヲサクルコトアラ

ザレバ、此道立ト云ドモ、ツイニ不_レ可_レ行、タトヘバ
鳥獸ニ情アリトイヘドモ、ソノ實至善ヲシルノ欲ナ
キガユヘニ、道ノ立コトナキガ如シ、人々好_レ善ユヘ
ニ惡人ハツイニ亡ビ、善人ハツイニ興ル、ソノ好惡ノ
心シイテ致ス處ニ非ズ、人皆好_レ好色ニ惡_レ惡臭ノ實
ヤムコトヲ不_レ得ノ誠アルガユヘナリ、孟子性善ノ說
モ亦コノ好_レ善心ヲ推シテ、ソノ性本善ニイタリツベ
キヲ以テイヘルナリ、

○問云、教戒ハ皆人ノ邪ヲ矯テ正ニイタラシムルノ
義也、然ラバ其言ニ過ル處アリト云ドモ、誤リトハ不
_レ可_レ言、然ラバ利心欲心等ノ人心ノ惑ヲ深クセン者
ハ無欲ト戒、無利心ト戒ムル事モアルベキナラズヤ、
答云、竹ヲ矯テ直ナラシメントテハ、コナタヘツヨク
引マゲテソノマガレル處カヘリテ直トナルゴトクス
ルコトアリ、故ニ聖人ソノ人ニヨリテノ玉フ言ニハ、
惣テノ教ニナリニクキ事ナキニ非ズ、喪欲ニ速貧ニ死
欲ニ速朽ニトノ玉ヘル類是也、コレタメニスルコトア
ツテノ言ニシテ教ノ實ニアラザル也、無欲無利心等
ノ言クルシカラズトセバ、異端ノ絶ニ色情欲心モ皆
クルシカラズトセンヤ、凡教ユルト矯ルト云ハ其心

得似テ大ニ異也、矯ト云ハ本アラザルコトヲ當分シ
イテ致ス皆タムル也、故ニ矯ルト云トキハ僞ノ心ヲ
フクメリ、杞柳ヲ以テ栳棬ヲツクルハ是矯也、教ト云
ハ我ニ本ヨリソレニ至ベキ下質アリトイヘドモ、不_レ
學不_レ習ガユヘニソノ情ナキガゴトクナレルヲ、今日
コレニ教ヲ立テ其善ニ至ラシムル是教也、サレバ木
竹金鉄土石ハ皆コレヲタメテ天下ノ用トス、竹ヲタ
メテ弓トシ、鉄ヲキタフテ劔戟鉄炮トナシ、金銀ヲキ
タフテ財用トシ、木石ヲタメテ器用トスルガゴトシ、
其功久シキトキハ久シク用ニ立、其功ヲロソカナレ
バホドナク破ル、シカレドモ本木竹金石ニソノ情ナ
キガユヘ、竹ハ本ノ竹ニカヘリ、鉄ハヤブレテ本ノ鉄
トナル、是シイテ致スノユヘ也、鳥獸ハ情アリトイヘ
ドモ、コレ又ソノ是非ヲ知ルノ知恵ウスキユヘニ、當
座ハ人ニタメラレテソノワザヲナスコトアリトイ
ヘドモ、ホドナク是ヲナサズ、皆是シイテ矯ルユヘナ
リ、但矯ルニモ少シ其情ナキモノハタメラレザル也、
竹木金石トモニ其柔順ノ質アラザレバ曲テタムベカ
ラズ、コ、ヲ以テ案ズル二人ノ道ヲ行フコトソノヤ
ムコトヲ不_レ得ノ誠ヲ本トシ、以_レ利爲_レ好ノ性ニタヨ

リテ、聖人コノ道ヲ建テコノ教トス、故ニ聖人ノ教ハ過不及サラニナシ、異端ノ教ハ過テ性ヲタメズ不及シテ徑ニ行ニ至ルコト多シトシルベキ也、

○問云、異端ハ自然ヲ貴ビ、聖人ノ教ハ當然ヲ貴トイヘリ、自然ハタメズシテ自ニマカセ、當然ハコシラヘテ是ヲイダスニ似タリ、

答云、自然ト云ハ老子ノイヘル言也、所謂人法_レ地、地法_レ天、天法_レ道、道法_レ自然ト云ヘル是也、當然ト云ハ宋儒ノ言ニ出タリ、而シテ自然ト云モ當然ト云モ、少ノ差異ニシテ本同一義也、タトヘバ暗ガ故ニ燭ヲ立、夜明日出レバタレモ燭ヲ置モノナク、自ラコレヲ取滅ス、コレヲ自然ト云ベシ、シカレドモ是燭ヲ取テ當然ノコトワリナレバ當然ニコトナラズ、人ノ死スルト疾ヲウクルト子ヲウムトハ、コシラヘナクテ機嫌ヲハカラス自然ナリトイヘドモ、死ノ期疾ノ入ル子ヲウム、トモニ内ニソノ當然アツテシカリ、サレバ自然トモ當然トモ云ベシ、子ノ致_レ孝臣ノ致_レ忠ハ當然ト云ベケレドモ、忠孝トモニ臣子自可_レ盡可_レ致ノマコトアツテ、コレヲ盡シコレヲ致ス、コレ自然ニアラズヤ、シカレバ自然當然相因テソノ中ニ天

則アツテ其極ヲ建テ、萬世ヨツテ行トコロトス、是聖人ノ道也、自然當然トモニイヅレヲ邪正ト云コトナシ、次ニ聖人所_レ建ノ道ハコシラヘイダスニ似レルト云コト、尤能可_レ心得_レ天地ノマコトヲ考_レ人物ノ性情ヲツクシテ、而シテ聖人ソノ至誠無息ヲ本トシ、其至善ノ極ヲ建ル、コレ聖人ノ道ナリ、天作ト人作ト相因テ萬物其性ヲツクスノイ、也、サレバ天地ノ化育ヲタスクルヲ聖人トイヘリ、凡ツ天ト人ト相因テ萬物相ヲコナハル、清濁相聚テ萬事ナル、天命氣質相トモニシテ人物ソノ生ヲトグト可_レ心得_レ也、コノユヘニヲノヅカラナルモノハ天作也、人ノコシラヘイダスハ人作也、五穀ノ自生ズルハ天作ト云ベシ、農民是ヲシキマキ、耕耨シテ生長收藏スルハ人作也、聖人天作ノ實ヲツクシテ、人作ノ至善ヲ建テ教トシテ、五穀各盡_レ其性、コレヲ建_レ極ト云ベキ也、聖人ノコシラヘ立つル處ノ道ハ、皆人々無_レ息ノ誠ニヨツテ致スコトナレバ、タメテ致スト不_レ可_レ心得_レ也、異端ノ教トスル處ハ、身ニコ、ロミズ人ニコ、ロミズシテ、其意見ヲ以テ立ル教ナル故ニ、ソノ人ニヨツテタマノソノ行ヲ遂ルアリトイヘドモ、人々行テ得ルノ道ニア

ラズ、是タメテコシラフルユヘ也、

○問云、天地ハコシラヘイダス事アラザレドモ、自然ニ運行シテ日月自然ニ明ナリ、シカラバ人モ亦自ラ然ル處ナクンバアラズ、是率_レ性之謂_レ道ノ心ニアラズヤ、

答云、天地ハコシラフル處ナクシテ自然ニ運行シ、日月自然ニ明ナリト云ハ、今ミル處バカリニテ云ノ言ニシテ實地ニアラズ、天地ノ天地タル日月ノ日月タルハ、ソクバクノ陰陽五行ノ氣相聚テ、コノ天地タリ、此日月タリ、ユヘニ天地ノ運行無_レ息、日月ノ往來ツクルコトナシ、何ゾコレヲ不_レ分ト云ベケン、陰陽五行ノ相生相尅順逆スル事ナクシテ、天地カクノゴトク日月カクノゴトシト云ハ、世俗ノ不思議妖怪ノ說ニチカシ、タトヘ變災妖物タリト云ドモ、不_レ然シテシカルコトサラニナシ、唯微妙恍惚タルノ間、人コレヲツクスコトヲ不_レ得ノ妙アルノミ也、凡ソ率性ノ道先儒コレヲ論ジテ、寒月ニハ自然ニ火アル處ニ向去、暑月ニハ自然ニス_レシキ處ニ出去ル、是性ニシタガフノイ、ナリトス、尤心得アルコト也、盛暑ニハ水ヲノミ、涼處ニ出、扇ヲツカイ、ウスキ衣ヲ著シ、隆冬

ニハ湯ヲノミ、密室_{屋イ}ニ入テ、ワタイレノ衣ヲ著シ、火爐ヲ擁スルハ是當然ノ義也、コノ間ニ品ニ節其性ニセザルトキハ、從_レ情テ徑行ニ至ルベシ、率_レ性ト云ハ、天下ノ人ノ同ジク然ル處ノ性ニシタガフコト也、己ガ情ニ如_レ此ト云トモ、人々ノ性ニ如_レ此シテヨキトキハイタシ、惡トキハ不_レ致、コレ率_レ性ノ道ナリ、故盛暑ニモ扇ヲツカワズ服ヲ盛ニスルノ時アリ、極寒ニモ火ニアタラズ衣ヲ重キザルトキアリ、トモニコレ道ナリ、今云トコロハ皆己レガ性ヲ以テサダムル言ナレバ、天下ノ公論ニ非ナリ、

○問云、性ヲ品節セルト云ハ、性ヲタムルノ言ニ非ズヤ、

答云、節スルト云ハ過不及ナカラシムルノイ、也、我性ヨク修行シツクサレバ、必ズ欲スル處ニ過テ流蕩シ、不_レ好處ニ不_レ及、是ヲ節スルヲ節_レ性ト云也、書ノ召語ニ節_レ性惟日其邁ト云、禮ニ司徒修_レ六禮以節_レ民性ト云モコノ心ナリ、所_レ問ハ俗儒ノ性善ヲトメテ性ヲ以テ本來明白ナリトスルノ心ヨリ出ル不審ナリ、詳ニ自試テ人ニコレヲコ、ロミ、古今ニ相通ジテ然後ニ可_レ知也、

○問云、學者ノ志立ツル處、イヅレヲ以テ標準トセンヤ、

答云、ソノ志處ハ聖人ノ道ヲ標準トスルニアリ、其志氣ハ治國平天下ノ用ニアリ、其行處ハ身ヲサムルニ始マリ、其學ブ處ハ格物致知ニアル也、聖人ヲ立テ標準トセザレバ、學ニマドフ處アルヲ不_レ知、治國平天下ノ用ヲ志氣トセザレバ、至大至公ノ實ヲ不_レ盡、其行處修身ヨリ始ラザレバ、近ヲ忘レテ遠ヲハカルノ失アリ、學ブ處ニ格致ヲ以テセザレバ、其手下ス處不_レ正ナリ、

○問云、學者ノ志氣治國平天下ノ功業ニアリト云ハシハ、分ヲ踰タルニ似タリ、

答云、當時ノ學者ハ名利ヲ捨ルコトヲ要トシテ、一點ノ利害ナカラシコトヲ欲ス、故ニ治國平天下ノ事ニ及ンデハ、更ニコレヲサタセズ、是學ノ實ヲ不_レ盡ガユヘ也、學ハ何ノタメゾ、天下ニ立テ政ヲ正シ、人ノ朝廷ニ立テ人民ヲスクワンガタメ也、サレバ博施濟衆ヲ以、何事於_レ仁必也聖乎トノ玉ヘリ、博施濟衆コト、治國平天下ノ極ニイタラズシテハ不_レ可_レ得、コレ學者ノ極功ナリ、大學ノ道ハ明德ヲ天下ニ明ニシ

テ、天下平ナリト云ニキワマリ、中庸ノ極功ハ天地位シ、萬物育スルニ至レリ、何ゾコレヲ分テ踰タリトセンヤ、シカラザレバ本身徵ニ庶民ニ考ニ三王ニ建ニ天地ニ質ニ鬼神ノ道ニアラズ、言必信アリ行必果ス、硜々然タル小人ノ學ニシテ、士ノ志氣ニアラザル也、予往昔嘗テ疑フ、當時性心道德ノ論三尺ノ童子モコレヲ以テ事トス、國家ノ治平朝廷ノ政事コレヲ云モノハ、名利ニ奔走シテ實學ナシト論ズ、而シテ孔門ノ弟子各其志ヲイフトキハ、皆朝廷政事ノ用也、夫子コレヲ稱シ玉フニモ、亦治ニ其國ニ立_レ朝ノ事ヲ以テ今ヨリコレヲミルトキハ、孔門ノ高弟モ名利ニヲイテ汲々タルニ似タリト、此疑尤久シテ不_レ息キ、是聖學ノ實ヲ不_レ知ガユヘニ、只異端ノ清淨虛無無欲無物ヲトメテ、我儒ノ實體トナセルアヤマリアルヲ以テ也、今問處モ亦然リ、サレバ治國平天下ノ用タラズシテ自己自身ノ工夫タランコトハ、其量セバクシテ、必ズ我意見我見ニ陷ルモノナリト可_レ知也、

○問云、古ノ大舜ハ天下ヲスツルコトヲ、ヤブレタルワラグツト同ジゴトクナラント、孟子ノ論ゼルハアヤマリナリヤ、

答云、舜ノ天下ヲワラグツノ如ク思イタマフトアルコトハ、父ノ瞽瞍ニ對シテ言アリ、天下ヲ輕ンジ兇畧シ玉フト云ニハ非ズ、且舜禹ノ有ニ天下ニ不レ與^{アヅカラ}レ焉ト云ヘルモ、天下ヲ何トモ不レ思ト云コトニハアラズ、天下ハ神器ニシテ力ヲ持テコレヲ治ムルモノニ非ズ、故ニ天下ヲ持チ玉フト云ヘドモ、更ニホコリ悅デ我コソ天下ノアルジナリト驕ヲ究コトナキ、コレヲ不レ與ト云也、是天下ヲ重ジ玉フコト深重ナレバ也、易ニ聖人之大寶曰レ位、崇高莫^レ大ニ乎富貴トイヘリ、是天地四時日月聖人ト富貴ヲ以テ相ナラベ論ズ、サレバ聖人ノ大德アリト云ドモ、不^レ得ニ其位ニバ禮樂ヲ制シ博ク衆ヲ濟コト不^レ合ガユヘ也、舜ヲ稱シテ德爲ニ聖人、尊爲ニ天子、富有ニ四海トノ玉フモ、此心ナルベシ、何ゾ天下ヲ以テカロンズベケンヤ、

○問云、易ニ樂^レ天知^レ命故不^レ憂ト云ヘリ、又遯^レ世无^レ悶、不^レ見^レ是而无^レ悶トモ出タリ、論語ニ人^レ不^レ知而不^レ慍、不^レ亦君子ニ乎トイヘリ、又不^レ在^レ其位ニ不^レ謀^レ其政トモ出タリ、曾子モ君子思不^レ出^レ其位トモイヘリ、如^レ此ノ語意各分外ヲチガフハ道ニアラザルニ似レリ、

答云、必ズ時アリ、故ニ世ニ用ラレズ時ニ不^レ遇トキハ、ヒソマツテカクル、是時也、易ニ潜龍勿^レ用ト云ハ是ナリ、コ、ヲ以テ或ハノガレ或ハ不^レ見^レ是シテ更ニ悶ルコトナシ、コレヲ悅ビ樂ムト云ニハ非ズ、今示ス處ハ治國平天下ノ事ヲ以テ學者ノ志氣規模トセヨト云ヘルコト也、夫子戰國ニ生レ玉フテ國々ヲ往來シ、一タビ道ヲ立テ百姓ノ塗炭ニヲチイルヲ救ヒ玉ハント深厚ノ志ヤマズ、六十八歳マデ徧チク考ヘ玉ヘドモ、終ニ天下ニ道ノ行ナワレマジキ事ヲハカリ、ツイニ退テ後世ノタメ叙^レ書傳^レ禮記^レ刪^レ詩^レ正^レ樂序^レ易玉フト史記ニコレヲノセタリ、且臨終ニヲイテ子貢ニ云テ曰、夫明王不^レ興而天下其孰能宗予、予殆將^レ死也、是聖人ノ志瞬息モ不^レ忘^レ救^レ天下ニ之志ナリ、故ニ世ノソシリヲカヘリミズ、人ノアザケリヲ不^レ用シテ、身ヲクルシメ體ヲツカラカシテ、以テ天下ノタメナラン事ヲ志トシ玉フ事、尤難^レ有大聖德ノ仁ニアラズヤ、愚者ハコレヲ不^レ知シテ只己ガ身ヲ安ジテ人ヲ不^レ救、四體ヲユタカニシテ世ノ事ヲ不^レ思、只一身ヲ事トス、其大小淺深ノ量、輕重厚薄ノタガイ、サタニ不^レ及コト也、サレバ如^レ此ニソノ道ヲキワメテ

時ニアワザルトキハ、悶モナクウラムコトモナシ、是不_レ怨_レ天不_レ尤_レ人ト云ツベシ、本此志億兆ノ民ノタメ、天下國家萬世ノ利ヲ思ニシテ、一身ノ威勢富貴ヲ必ト期スルニ非ズ、故ニソノ國ニ居テハンノ大夫ヲモソシラズ、況ヤソノ國政ノ是非ヲ論ジテアザケルコトナシ、是正_レ己而不_レ求_ニ於人_ハ、在下位_ニ不_レ援_上ノユヘナルベシ、コレヲ不_レ在_ニ其位_ト云ハ、我分限相應ノ事ヲ思案シテ、當時相應セザルコトニ思ヲツイヤサザル也、學問ノコトヲ云ニ非ル也、俗學ハ思フコトハ分ヲコヘテ、學ハ固陋ニシテセハ_レシ、故ニタマタマ位ヲ得テモンノ道ヲ不_レ得_レ行、不_レ得_レ位バ思コトコト_ハク出_ニ其位_トテ、高慢我慢ヲサキダテ、シキリニ堯舜湯武ノ思ヲナス、是古ノ聖賢ノ教示スル處ニ大ニ相タガヘル也、

○問云、聖門ノ教ニ秘事シテ、相傳スル事アリヤ、答云、カクス事モアリ、アラハスコトモアルハ、天地ノ道也、故ニ潜龍勿_レ用ト云ハカクシテアラハサバル也、飛龍在_レ天ハ位ニ乎天德、アラハル、ノイ、ナリ、用則行捨則藏ト云、皆コレ見隱顯微ノ言ナリ、所謂畫

ハ明ニシテ夜ハクラク、陰ハ暗ヲ體ニシテ陽ハ明ヲ體トス、有若_レ無盈若_レ虛ト云ハ顔子ガ行ニアラズヤ、シカレバカクシテ不_レ顯コト尤モ聖人ノ教ニ多シ、但シ俗學技藝ノ輩ノ、秘傳ト云秘事ト云トハ事カワリヌベシ、聖人ハカクスベキ時ニカクシテ可_レ顯トキニ顯ス、カクスモ顯スモ共ニ天下ノ用タリ、更ニ一己ノ秘藏ニアラズ、是顯密ヲ天地トトモニスルノ心也、古來教ヲ立ル時必ズ齋戒ヲ以テス、武王丹書ヲキ、玉ハンコトヲ宣ヘレバ、太公欲_レ聞_レ之則齋矣トイヘリ、武王乃三日齋シテコレヲ傳ヘ玉フハ秘セルニ非ズヤ、シカレバカクシテ不_レ顯ノ教モ亦不_ニ當_ハ無_レ焉_ニ、

○問云、シカラバ吾爾ニカクス事ナシトノ玉フハ、イカバ可_ニ心得_一ヤ、

答云、人ノ情專ラ奇ヲ好ミ怪ヲ求ムルニアリ、故ニ聖人ト云ヘドモ、朝夕コレニ親炙スルトキハ、平生ノ事ニ存シテ、崇敬戒慎スルコト薄シ、況ヤ日用ノ言行コトゴトクソノ戒示ナルコトヲ忘レテ、外ニ教アリヤ、事アリヤト疑ヲナシ、別ニ捷徑ノ教アツテ、是ヲキクトキハ忽聖知ニ同スルコトモアリト存ズルコト人情ノ常ナリ、故ニ夫子直ニコレヲ戒シメテ、吾無_レ隱_ニ子

爾、吾無_レ行而不_レ與_ニ三子_一者、是丘也トノ玉ヘル也、シカレバカクシ玉フコトハナキト、又一片ニ存スルコトコレアヤマリ也、中人以上ニ語_レ上、中人以下不可_ニ以語_レ上トノ玉イ、一貫ヲ曾子子貢ニ告玉イ、コトニ恒ニノ玉フコト、恒ニ教ヘ玉フコト、語リ玉ハザルコト、罕_ニ言コト、不可_レ得_レ聞コト、アリ、何ゾ位階志氣ヲハカラズシテ、一途ニ言ヲナシ玉ハンヤ、後世コノ聖教ヲ取用テ心得_ニソコナ_一イ、聖人ハカクス事ナシト思フニ至レリ、甚相アヤマレリ、昔有_レ人間_ニ話_ニ於一僧_一、僧指_ニ面前花_一示_レ之曰、是甚麼、其人云花也、僧云、吾無_レ隱_ニ於爾_一、又黃龍寺晦堂嘗問_ニ山谷_一、以下吾無_レ隱_ニ乎爾_一之義、山谷詮釋再三、晦堂終不_レ然_ニ其說_一、時暑退涼生、秋香滿院、晦堂因問云、聞_ニ木犀香_一乎、山谷曰、聞、晦堂曰、吾無_レ隱_ニ乎爾_一、山谷乃服、今案ズルニ是等ノ語意無_レ隱_ニ于爾_一ノ言ヲ偷用ユルノミニシテ、夫子ノ無_レ隱_ニ乎爾_一ノ教ノ意ニ非ズ、コレヲ聞テソノ理ニ服セリト思フ心、皆道ノ實地ヲ不_レ蹈ガユヘナリ、聖人ノ教ハ葉ニ置ク露ノゴトクニシテ、ソノ大小方圓ニ從テ各其形ヲアラハス、ソノ大ナルヲ秘スルニ非ズ、ソノ小ナルヲアラハス

ニ非ズ、只所_レ學ノ高下ニ因テ其用ヲナスノミ也、シカルヲ我心ノヲロカナルニマカセテ、彼ニハ秘事ヲ相傳アリテケル、我ニハソノ教ナキト人ヲセメテ不_レ顧コトハ學者ノ通病也、朱子云、聖人之言好_ニ如_ニ荷葉上水珠_一、顆々圓也ト、尤說得好_{出_ニ朱子語類_一}三、又先儒ノ言ニ萬物各露_ニ呈無_レ隱_一、鶯寒入_レ水、鷄必時_レ晨、皆是自然之露呈無_レ隱トイヘル、是等ノ說マサシク異端ノ性心直入ノ沙汰也、鶯ハ鴨ノ氣質ヲソノフルユヘニ、寒シテ入_レ水コトヲコノミ、鷄ノ形氣ニヨツテ晨ヲトキナフ、コ、ニ無_レ隱ノ言ヲ不可_レ入也、唯各ノ氣質ニヨツテ其得失ヲ呈スノミナリ、夫子無_レ隱トノ玉フ處ハ、如_レ此ノ義ヲ指ニアラザル也、

謫居童問上本終

謫居童問上末

○問云、今日日用ノ交際何レヲ以テノリトスベキヤ、
答云、聖人ノ言行禮ヲ出ルコトナシ、故ニ顔子ニ仁ノ
條目ヲ示シ玉フニハ四勿ヲ以シテ非禮ヲ戒シメ、克
己復禮相對シテ論ジ玉ヘリ、鄉黨ノ一篇ニ夫子ノ言
行宛然トシテ如レ存、ソノ全體不レ出レ禮、コ、ヲ以テ
夫子ヲ稱スルニ知レ禮トス、然レバ聖人ノ教禮ニモル
ルコトアラザルユヘニ、日用ノ交際皆在レ禮也ト可
レ知、

○問云、禮ヲ定ムルノ心得イカン、

答云、人ノ禮ヲ定ニハ通人情シテ以テ其過不及ヲ制
シ、或ハ事ノ品ヲワケ、或ハ物ノ大小高下文質ヲキワ
メテ、コレヲ以テ心ヲ制スル也、シカレバ人情ノ好惡
天下ノ通情ヲハカツテ其人之尊卑親疎年齡男女ノ位
ヲキワメ、事ト物トノ美惡大小コトハ其道ヲツク
シ、其至善至美ノ物ヲ上ト定メ、其中美中善ヲ中ト定
メ、小善小美ヲ下トキワム、其内ニ上ニ三段中ニ三段
下ニ三段アツテ、大概九品ノワケヲ立テ而シテ其禮

ヲキワムルトキハ不可違也、コレ禮也者物之致也ト
云ヘルナルベシ、サレバ禮行ハレザルトキハ上下位
ヲタガヘ、尊卑品ヲコヘテ天下ノ時宜一ツナラズ、皆
人情ノユク處ニマカス、豈不レ越レ距コトワリアラン
ヤ、禮既ニ定ルトキハ事物ノ品節ソナワリテ、人ノ情
ニマカセテ加減損益アルベカラズ、コ、ニヲイテ天
下ノ人情一ツニキワマリテ風俗ツイニ定マル、禮ノ
用マコトニ大ナリト云ベキ也、禮樂ハ位アツテ德ソ
ナワレル聖人ニアラズシテハ不可レ制、因ニ人情ニ考
風土、以テソノ通禮ヲナスコトナレバ、位德相ソナワ
ラザレバ不可レ得也、若事ニ一事ニ制ニ一曲ニシテ、コレ
ニ泥トキハ非レ禮也、莊子ガ曰、三皇五帝之禮義法度
ハ、其猶桴梨橘柚ニ耶、其味相反而皆可ニ于口、故禮義
法度應レ時而變也、コノ故ニ衣食家宅用器ノ諸物、進
退動靜ノ作法、其人ノ位ニ從、其時宜ヲハカツテ、
其文質委曲ヲキワメテ、人ノノリトイタス也、シカ
レドモ其品節ニ子細多コトナレバ、學者ノ學ブ處更
ニ此法ノ外不レ有可レ知也、先ヅ人ニ親疎ノタガイア
リテ、親ニモ尊卑アリ、疎ニモ尊卑アリ、又我ト相對
シテ親疎ノ分アリ、以上五等ノ品ニ付テ、禮ノ用ソ

ノ品節ヲナスベシ、又時ニ古今アリ盛衰アリ、其所ニ依テ其用ヲナス、是乃ソノ禮法ニシテソノワカチ一
一格致セザレバ不可通也、ソノ上鬼神ノ靈ニ通ジ、男女ノ道ヲタバス事、ヒロク事物ニイタリ、其情變ヲ
キワメズシテハ不可稱也、禮云、禮有以多爲貴者、有以少爲貴者、有以大爲貴者、有以小爲貴者、有以高爲貴者、有以低爲敬者、有以文爲貴者、有以素爲貴者、有以直而行也、有以曲而殺也、有以經而等也、有以順而討也、有以推而進也、有以效而文也、有以放而不致也、有以順而撫也、有以播也トイヘリ、コレソノ品節ナレバ一樣ニコ、ロエガ
タシ、只詳ニ格物致知スルニアリト可レ知也、出法則章可并案
○問云、禮ノ用アシク心得バ、皆外ヲ飾ルゴトクニナルベシ、

答云、禮ハ聖人人ノ情ヲ節シテ過タルヲサヘテ、不
レ及モノハ其事物ヲカリテ、コレヲ中セシムルノ教ニシテ、人生日用ノ間、禮ニモル、コトナシ、禮ヲヨク
ツクセル人ヲ聖人ト云、禮ヲ不レ知トキハ鳥獸山木ニ不レ異、心得アシケレバ又諂ニモナリ、ニセモノト云ベシ、老子ハ禮者忠信之薄、而亂之首也ト云、聖人

ハ人之所ニ以爲人者禮義也、使_四人以有_レ禮知_三自別_ニ於禽獸、無_レ禮則手足無_レ所措、耳目無_レ所_レ加トノ玉ヘリ、禮ノ說ハ詳ニ三禮ニ出タレバ今コレヲ略ス、大概
禮ハ内ノ誠ヲ表ス、過ルヲバヲサヘテソノ中ニ至ラシメ、不_レ及ヲバ是ヲ引アゲテソノ節ニ當ラシムルノ心得也、日用乃人ノ至誠ナレバ日用ヲ節スルコト是
禮也、天地人物ノ用法禮ニアラザレバ定ラズ、況ヤ視聽言動ノ發、禮ヲ以テセザレバ不_レ正、尊卑親疎及ビ人倫ノ大禮、禮ニヨラザレバ不明、コトニ法ヲ立令ヲ
下シ、律令格式ヲ立コト禮ヲ以テ本トスル也、次ニ禮ヲ定ムルコトハ、古今ノ例ニ通ジテ時變ヲ詳ニシ、我
ソノ位ニ居テ人物ノ情、土地ノ風俗ヲ察シ、天下ノ事ヲシリ、其法令教戒ノ實ヲツクストモ、我ニ聖知道德
アラザレバ、コレヲ定メガタシ、雖_レ有_ニ其位_一、苟無_ニ其德_一、則不_ニ敢作_三禮樂_一、雖_レ有_ニ其德_一、苟無_ニ其位_一、亦不_ニ敢作_三禮樂_一焉トハコノコトナルベシ、夫先王之制_レ禮也、不_レ可_レ多也、不_レ可_レ寡也、唯其稱也ト云ヘリ、凡ソ
禮ヲ制スル事、尊高ノ人ハ寛大ニシテ其養ヲユタカニシ、其事ヲユルヤカニシテ其器用ニ文飾ヲナスヲ
禮ト云、卑下ノ者ハ此ニ反ス、富有ノ人ハ財ヲ散ジテ

乏ニハブキ、ソノ不足ヲ救フ禮トス、貧モノハ財ヲ施ヲ以テ不禮トス、高老年長ノ人ハ安ジテツカレズ、言行ヲ以テ子弟ニ教トスルヲ禮トス、子弟ハ力ヲ出シテ勞シ、奔走經營スルヲ禮トス、男子ハ女子ニ遠テ言ヲ不_レ通、衣裳ヲカラズ、手ニ物ヲワタサズ、書ヲ通ゼザルヲ以テ禮トス、晴ノ所ニテハ敬跪屈曲スルヲ以テ禮トス、燕居ノ所ニハ申々天々トシテ以テ相安ズルヲ禮トス、親シキ間ニハカザラズ、アリテイニイタスヲ禮ト云、踈キモノニハトリツクラフテ事ヲナスヲ禮ト云、文事ニハ温和ヲ禮トシ、武事ニハ剛猛ヲ禮トス、法令ハ正ク立ラ事トシテ不_レ立ラ禮トセズ、鬼神ハ遠ザカツテ敬スルヲ禮トシ、シバ_〱シテナル、ヲ不禮トス、管仲ガヲゴリ晏平仲ガ儉約ハ、トモニ君子不_レ知_レ禮トス、昔孝節先生ト云ヘル人、母ニツカヘテ孝アリ、孝節ヲモイケルハ、貴人ニツカフルトキハ必衣裳ヲ正シ、ソノ服ヲアラタム、我母ニマミユルニハ平生ノ衣服ヲ用ユ、甚不_レ可_レ然トテ、毎日衣服ヲ正シ、束帶シテ母ニマミヘケリトイヘリ、是禮ニ似タルノミニシテ禮ニ非ズ、父ノ黨ニハ無_レ容ト云テ、親シキ人ニハアリノマ、ノスガタニテ、其禮ヲ行

ヲ以テ禮トス、有_ニ以_レ素爲_レ貴者トハ此心ナリ、朝夕マミエ奉ル母ニ主君ニツカフベキ衣服ヲ以テスルコト、母ノ心豈安ゼンヤ、禮ヲ以テ考フレバ孝節ガ衣服節ニ中ルベガラザル也、禮ノ事物ニヲケルコト如此、ソノ思イチガイニヨツテ相違多シ、孔子大席ニ入テ毎_レ事ニ問玉フヲ、或人ハ不_レ知_レ禮トイヘレバ、夫子ハ是禮也トノ玉フガゴトシ、尤詳ニ可_レ盡ナリ、○問云、器物ニカザリヲナシエヨウヲナスコト、皆實義ナキニ似タリ、又内外不_ニ相應_一コトアリ、是禮ノ失ナリヤ、

答云、器物ニ華美繪様ヲナスコト是ヲ文章ト云、其位其祿ニヨツテ必此文章ヲ用テ君子ノ威ヲマシ、壯嚴ヲ明ニスルコト也、草木鳥獸魚蟲ニイタルマデ、其文章アラザルハ少ナシ、況ヤ天地山川文章悉ク燦然タリ、シカレドモ文章ニソノ位アルコト也、其位ニアラズシテ文章ヲナスハ禮ノ所_レ戒也、凡ソ衣服家宅飲食ノ器諸用ノ具、ソノ物ニ品々アラシニハカザラズト云トモ、ソノ物ヲ以テ品ヲ定ム、若物ノ品スクナクシテ、ソノ位ノ品々ニワカチニクキトキハ、其文章ノエヨウ・ホリモノ・カザリ・五色・金・銀・銅・鐵ノ類ヲ以テ其

品ヲ位ニアワセテコレヲキワム、コレ文章ノ禮也、衣食居用文事武備スベテ文章アラザレバ禮ニアタラズ、煥乎有文章ハ、堯ノ爲君也、五服五采ノ品アルハ、舜ノ命ズル處也、文レ之以禮樂ヲ成人トシ、莊以涖レ之ヲ道トス、皆是禮ノ文章也、次ニ内外不相應ニモ又禮アリ、タトヘバ貴人ヘ獻ゼシムル音物ニ、外ノ宮ハ文章アリテ宮ノアタイニ不及類アリ、是華實不相應ガゴトシトイヘドモ、ソノ禮ヲ守テ致ストキハ、外ノ内ニマサレルモ不レ苦、ソノユヘハ此音物ノスガタ見テ不レ宜カ、或ハコレヲソノマ、出シテハ座ニ塵落ケガレアルベキカ、或ハ持參ノ人ノ手ヲヨゴシ、臭ヲウツシケガルベキノ恐レアルカ、或數多シテミダレヤスキノ類ハ、皆コレヲ宮ニ入籠ニ入テ獻ズ、是禮ナリ、若内ヲイヤシクシテ外ヲ見事ニイタシ、上ヲ僞リ人ヲタブラカスノ心アランハ、尤小人ノ所レ致ニシテ不レ及論也、又祭禮喪禮ニ外ヲ見事ニイタシテ内ニカマワザル器アルモノ也、是又禮ナリ、神ヲマツリ鬼ヲ弔ニ、鬼神ハナキモノナリト致スヲ不仁ト云、又アルモノナリトテ生ルモノニ事ルガゴトク致スヲ不知ト云、シカレバ性ヲソナヘ養ヲナスニモ、其禮ノ誠ヲ

ツクシテ、其味ノト、ノホリ鹽梅ノ相和スルヲ不レ事、コレ大羹ハ不レ和ト云ヘルノ心ナルベシ、明器ト號シテワラクサヲ以テ牛馬ノ形ヲコシラヘ、色々ノイロドリヲイタシテ死者ニ殉セシム、皆外ヲカザリテ内ヲ輕クス、是皆聖人過不及ヲハカリテ其中ヲ節セル也、一々其事物ニ因テ不レ詳バソノ禮不レ正ナリ、○問云、禮ヲ專トスルトキハ、儉ヲ以テ德トスルノ道アラザルニ似タリ、

答云、儉ハ儉約ノイ、ニ非、奢ト云モノニ對シタル言也、サルエヨツテ奢ランヨリハ儉セヨトノ玉ヘリ、奢トキハ盛ニシテ消シ易ク忽害來ル、火ノ物ヲソコナフガ如シ、儉約ナルトキハツバマヤカニシテ固シ、害ヲマチクコト速ナラズ、水ノ下ニツイテツイニハ内ヲソコナフガゴトシ、儉ヲ以テスレバ失スクナシト云ヘル故ニ、儉約ヲ世々ノ戒トイタセリ、是ヲ聖人ノ道ト云ニハ非ズ、聖人ノ道ハ儉モナク奢モナク、唯禮ノ節ニ當レルマ、也、故ニ堯舜ノ聖德マシマス、既ニ此禮ヲ立テ衣裳ニ十二章ヲ表シ、五玉三帛ヲマフケ、八音ヲト、ノヘリ、況ヤ周ノ文質彬々タルハ、夫子ノ從イタマフ處也、シカレドモ禮ノ節ヲツクス

事アタワザルヲ以テ、必ズ人皆奢ニ至リヤスケレバ、ソノ禮ノ定レル所ヨリハ、儉約ニイタスベキ、是又聖人ノ戒也、易云、君子以行過乎恭、喪過乎哀、用過乎儉、トハコノ心ナルベシ、次ニ上古三代ノ禮損益多シテ世々ニ貴ブ處コト也、先三皇五帝ノ時マデハ人物ノ最初ナルガ故ニ、物々ノ用法クワシカラズ、穴居シテ野處シ、地ヲ掘テ臼トシ、葉ヲアツメテ衣トス、況ヤ繩ヲムスビテ書契ヲカナヘ、木ヲケヅリテ耜トス、伏羲神農黃帝堯舜作リテ其品々ヲ改メテ、漸ク事物ヲ利セリ、故ニ今ヨリコレヲミレバ天下自儉約ナルガ、三王ヲ經テ周ニ至テ初テ文質相ト、ノヘリ、周ニ至ルマデハイマダ文華ユタカナラズ、尤ソノ貴用處モ虞夏商トモニ各コトナリ、周ニ至テ文章ト、ノホリ、品節相應ズ、コ、ヲ以テ考ルニ周以前ハ天下儉ニ過、周以後ハ文華日々ニ盛ニシテ、人民工匠ノタクミ次第ニ上手多ヲ以テ文ニ過ヌベキ也、然レバ治世安民ノ輩、コ、ニ心ヲ付テ用捨アルベキ也、白虎通云、禮者盛ニ不足ニ節ニ有餘、使凶年不レ儉豐年不レ奢ト云ヘリ、昔シ唐ノ國甚儉ヲ用テ民コレヲクルシミ、コレガタメニ詩ツクリテ儉ノ不レ中レ禮コトヲソシレ

リ、又魏ノ曹操專儉ヲ事トシテ、毛玠崔琰等清潔ノ行ヲ立テ、國ノ政ヲナシケル故、天下ノ風俗コトトクコレニナビキ、新衣ヲ著、ヨキ馬ニノリ、形容ヲタスモノアレバ、是ヲ不清ノモノト號シテ、奢リモノナリト笑フ、フルキ衣裳ニヤブレタル車ニノリ、形ヲトリツクロワズ、垢ツキケガレタル體ノモノハ、廉潔ナリト稱ス、コレニヨツテ士大夫、皆ワザト衣裳ヲケガラワシクシ、自錢ヲツカミ、自飯ヲカシグノ類ニイタルヲ以テ和治ト云、臣下コレヲ諫ケルハ夫立教觀俗、貴處ニ中庸爲レ可繼也、今崇ニ槩難堪之行、以儉殊塗勉而爲之必有疲瘁トイヘリ、

○問云、禹ノ宮室ヲ卑クシ、飲食ヲウスクシ玉フハ、夫子コレヲ稱美シ玉ハズヤ、然ラバ儉ハ聖人モ亦是ヲユルシ玉フニ非ズヤ、

答云、論語ニ禹ヲ論ジ玉フハ今問處ノ心ニ非ズ、菲ニ飲食惡ニ衣服卑ニ宮室コトハ天子ノ禮ニ不レ叶事ナレバ、コ、ニヲイテハ聖人ツシリノ入ルベキ處ナリトイヘドモ、禹ニヲイテハ此三ノモノ、儉ニ過ルコト更ニソシル處アラザル也、ソノユヘハ鬼神ニ孝ヲツクス處、大ニユタカナルヲ以テ、我身ヲツバマヤカニイタシ、禮服ヲナスニ美ヲ專トシテ、ツチノ衣服ヲ

ヲロンカニシ、民ノ溝洫田制イマダ不_レ全、ユヘニ民
ノイトマアラザルユヘ、民ノ勤ヲ第一ニ力ヲ出サシ
ムルユヘニ、宮室ハイマダイヤシクヒキクシテ、是ヲ
ナスニ不_レ及ナリ、是禹ノ儉ニ過ルイワレナレバ、禹
ノ儉ニヲイテハソシリヲ可_レ入處アラザルト、兩度禹
無_ニ間然_一矣トノ玉ヘルナリ、然レバ無_ニ其故_一シテソ
ノ儉ニ過ルハ禮ニ非ザルコト明也、禮記ニ管仲ガ奢
ハ而難_レ爲_レ上ト評シ、晏平仲ガ儉ナルハ而モ難_レ爲
下トノ玉ヘリ、又晏子祀_ニ其先人_一、豚肩不_レ揜_レ豆、滫
衣濯冠以朝、君子以爲_レ隘トモ出タリ、有若ハ晏子
ガ儉ヲ不_レ知禮トイヘリ、コ、ヲ以テ云トキハ子細モ
ナキニ、儉ヲ事トセバ豈聖人ノ教ナランヤ、曾子曰、
國奢則示_レ之以_レ儉、國儉則示_レ之以_レ禮トイヘリ、次ニ
晏子ハ齊ノ賢大夫ニシテ、此儉ヲ專トイタスコトハ、
晏子聖教ヲシラズシテ墨子ノ道ヲ學ガユヘ也、墨子
モ亦堯舜ノ道ヲ尙トイヘドモ、堯舜ノ儉ナル處計ヲ
トリ用イテ禮ヲ捨ツ、是墨子反_ニ天下之心_一、天下不_レ
任_ニ墨子_一、雖_ニ獨能任_一、奈_ニ天下_一何、離_ニ於天下_一其去
ノ王也遠シト云ヘル論マコトニ當レリ、太史公墨者亦
尙_ニ堯舜道_一、言_ニ其德行_一曰、堂高三尺、土階三等、茅茨

不_レ翦、采椽不_レ刮、食_ニ土簋_一、啜_ニ土刑_一、糲梁之食、藜藿
之羹、夏日葛衣、冬日鹿裘、其送_ニ死_一桐棺三寸、舉音不_レ
盡_ニ其哀_一、教_ニ喪禮_一必_ニ以_レ此_一、爲_ニ萬民之率_一、使_ニ天下法_一
若_レ此、則尊卑無_レ別也トイヘリ、後世堯舜ノ德ヲ云テ
茅茨不_レ翦、采椽不_レ刮ト云コトハ、皆墨子ガ論ヨリ出
タリ、コ、ヲ以テ考フルニ、聖人ノ教ハ禮ニ不_レ出シ
テ、儉ト奢トハトモニ不_レ明_レ禮モノ、致スコトナリ、
禮ヨリ是ヲ制スレバ皆道ニカナフ、禮ヨリコレヲ節
セザレバ、コト_レ違フ_ニトシルベキ也、
○問云、專禮用ヲ事トセバ、國費テ財乏シカラシカ、
答云、禮行ナワル、トキハ分定ル、故ニ豐ナルモノハ
財ヲ施シ、貧モノハ財ヲ不_レ施、禮ヲ背モノハ法ニ罪
ス、故ニ天下ノ俗ニ習テ天下ノ財用トバコホラザル
ナリ、太史公墨子ヲ論ジテ強_ニ本節_一用、則人給家足之
道也、此墨子之所_レ長、雖_ニ百家弗_レ能_レ廢也ト云ヘル
ハ、未ダ聖教ノ禮ヲ不_レ詳ガユヘ也、聖人ノ節_ニ用ト云_一
ハ富貴ナルモノハ、財用ヲ多ク施シテソノ節ニカナ
イ、貧賤ナルモノハ財用ヲ不_レ施ヲ以テ節ヲ定ムル是
節_ニ用也_一、墨子ガ節_ニ用ト云_一ハヒタスラ儉約ヲ事トシ
テ、富貴ノ輩ハ財寶ヲ府庫ニミチ、貧賤ノ輩ハ日々ニ

クルシミテ不_レ安ノ術也、サレバ節_レ用ハ同ジ言ニシテ、ソノ心得大ニタガヘリ、國費財乏ハ禮ノ不_レ正シテ、財寶一方ニト_レコホル故ナリ、コレ上ニ禮ナクシテ、奢侈ノ道不_レ正、下ニ知クラクシテ專奢專儉スルガイタス所ト可_レ知、曲禮曰、貧者不_レ以_レ貨財_一爲_レ禮、老者不_レ以_レ筋力_一爲_レ禮トイヘリ、禮ハ聖人ノ大經ナレバ、禮ニ因トキハ事物ノ害イヅルコト不_レ可_レ有也、

○問云、敬ハ禮ノ要ナリヤ、

答云、敬ハモノヲツ、シミテ詳ニ思慮イタスノ心ナリ、故ニ禮ハ母_レ不_レ敬ト云ヘリ、敬スル處アレバ禮ノ用詳ナリ、敬セザレバ禮ヲ用ユル處ナシ、凡ソ禮ト云トキハ事物ノ中ニカナワシメテ、ソノ用ヲ節スルノ義ナリ、五常ノ禮ト云ハ辭讓謙退ノ心ニシテ、恭敬ヲ以テ專トス、聖人ノ教ニ禮ヲ專トイタシ、又禮樂トノ玉ヘル言ハ、ソノ用甚大ニシテ、唯辭讓謙退ノミニ非ズ、故ニ夫禮ハ天地之經而民實_レ則_レ之、則_レ天之明_一因_レ地之利_一トイヘリ、是與_レ天地_一並_レ以_レ諸_レ萬民_一ノ道也、敬ハ其事物ヲツ、シムノ言也、宋朝ニ至テ敬ノ字義甚高尙ニイタリ、朱子既ニ持敬ノ工風ヲ示セリ、持敬ト云ハ心中ニ敬ヲ存シテ不_レ失ノイ、也、是說イ

ヅレヨリヲコルトイヘバ、心性ヲ弄スルヨリ出タリ、心性ニ形體ナシ、内ニ敬ヲ、クトキハ心常ニ存シテ、放心スル事ナシ、一箇ノ敬ヲ以テ我心ヲヨビヲコシ、ツチニ心ノ身中ニ存セシムル事、敬ニアラザレバ不_レ叶ト云ヘルノ心也、サレバ易ニ敬以直_レ内ト云、論語ニ修_レ己以_レ敬トイヘル類ヲ以テ證トス、是ヨリ持敬ノ說ヲコナワレテ、元明ノ學者皆是ニヨレリ、凡聖人ノ敬ヲノ玉フコトハツ、シミテ思フノ心ナリ、敬ニトリ付テ工風イタサバ、是敬ヲ以テ心中ノ病トスル也、易ニ敬以直_レ内ト云ハ、敬デ内ヲ直スルノ心也、修_レ己以_レ敬ト子路ニ示シ玉イ、居所恭、執_レ事敬スト樊遲ニ教ヘ玉ヘルハ、トモニ子路ガ率爾、樊遲ガ固陋ノ病ヲ砭箴セシムルノ言也、敬ト云ヘル事所々ニ用イ_レズシテ不_レ叶ト云ヘドモ、專敬ヲ事トシテ致_レ知コト明ナラザレバ、愼而無_レ禮則_レ怠、恭而無_レ禮則_レ勞ノ心也、又敬而不_レ中_一禮謂_レ之野、恭而不_レ中_一禮謂_レ之給トモ出タリ、學ハ日用事物ヲツクシテ、其知ヲキワメ敬恭スベキトキハ敬恭ス、別ニ敬ヲ持スルコトナシ、專持敬ヲ事トスルハ、暗夜ニ燭ヲトラズシテ行ガ如シ、手ツ、シミ足ヲソレテ寸歩ヲス、ムルモ危シ、マカセ

テ行トキハ必他路ニ陷ルベシ、不^レ如只燭ヲ取テ行コトノ安シテ不^レ危ニハ、況ヤ日中ニ行步セバ四方サラニ疑アルベカラズ、聖人ノ敬ヲノ玉フコトハ後儒ノ説トコロニ非ズ、故ニ事^ハ思^ハ敬敬^ニ事而信アリトノ玉ヘルハ、皆其事ノ道ヲツマビラカニツクシテ、輕卒ニイタスベカラザルトノ心得也、

○問云、禮ハ節目甚多シテ禮儀三百威儀三千トイヘリ、足ノアユミ手ノカタチ容貌ノ動靜、コト^ハく^ハク節目ヲツクサン事ハ、尤煩多ニシテツクシ難カラン、然レバ只敬ヲ以テ本トシ、持敬イタサバ其容貌ハコトゴトク不^レ叶トモ禮ノ本意ハ不^レ可^レ失也、

答云、禮儀三百威儀三千トハ、其大數ヲ舉ルノ言ニシテ、人ノ日用朝晝暮夜行住座臥少壯老死ノ間、一事一物トシテ禮ヲ出ルコトナシ、故ニ人禮ヲハナル、トキハ乃禽獸也、禽獸禮ヲハナル、トキハ乃死、鼠ヲミルニ有^レ體、人而無^レ禮、人而無^レ禮、胡不^ニ過死^一トハコノ心ナリ、コ、ヲ以テ人既ニ知識アルトキハ、師ヲ立傳保ヲキテ人タルノ禮ヲマナバシメ、既ニ知識長ズレバ小學ニ入テマコトノ師ニ從テ六藝ヲナラフ、皆コレ曲禮ノ威儀ナリ、豈其品節三千三萬ト云

ニカギランヤ、而シテ大禮ヲマナビ大學ヲ知ニ及ビテ、經禮又三百三千ニカギランヤ、視聽言動コレヲソムクトキハ非禮タリ、禮ト云トキハ恭敬シテ慇懃ヲツクス計ヲ禮ト云、是小節目ニシテ禮ノ大綱ニ非ズ、サレバ、禮ヲ詳ニツクサバレバ、必ズ人々究屈困勞シテツイニコレヲツツメウベカラズ、故ニ禮之失煩、恭儉莊敬、而不^レ煩則深^ニ于禮者也トハイヘリ、專敬ヲ事トシテソノ禮用ヲツクサバランハ、野^ニシテ其實ヲ不^レ可得也、禮ハ優々トシテ大ナルヲ貴ブ、優々トシテ不^レ大トキハセハシクシテ不^レ正、豈聖人ノ禮ナランヤ、

○問云、學者ノ事ヲ考フルニ、世上ノ學者多ハ事ヲハプイテ易簡ナルヲ以テ用トス、イカサマ事多トキハ心性モミダレ、言行モトリミダスコトアレバ、事ソギテ靜ナランニハ、禮ノ用モ道ニアタリツベキコトナリヤ、

答云、コレハ俗儒ノ說ニシテ聖學ノ教ニ非ズ、學ハ何ノ爲ゾヤ、是ヲ日用事物ニ及シテ、以テ道ヲ規サンガ爲也、世我ヲ不知時ワレニ不^レ遇ト云ドモ、年齡未^ニ及^一老衰ニ時、宜亦可^レ救ノ便アラバ、少ラクモ世ヲノガレ身ヲ安ズルコトナクシテ、人ヲ救世ヲ憂是孔孟ノ

徳トスル所也、文學讀書ハ皆餘力ノ所致也、古ノ聖人國ヲ治メ世ヲ知ノ外、讀書ヲ事トイタシ玉フコト舊記ニアラワレズ、況ヤ治世安民ノワザノ外ニ別ニ道アリト云テ、一冊一行ノ書ヲナシ玉ヘルコトナシ、是日用ヲ以テ道トシテ別ニ書ヲ味卷ヲ友トスルコトアラザレバ也、聖人若時ニ不_レ遇世ヲタバシ玉フコトアラザレバ、セメテ後世ノタメニ書ヲノコシ玉フ、是又日用人倫ノ學習也、シカルニ文書ニナヅミ道德ヲ弄シテ山林ヲ樂、鳥獸ト群ヲナサンコトヲ好ムハ、或ハ詩文讀書シテ遣_二其情_一、或ハ性心靜寂ヲ事トシテ世ヲ悶ルコトフカケレバ也、禮ニ男子生、桑弧蓬矢六、以射_二天地四方_一、天地四方者、男子之所_レ有事也、故必先有_レ志_二於其所_レ有事_一、然後敢用_レ殺也、飯食之謂也、使_二其母食_一之也、故曰コ、ヲ以テ案ズルニ、男子スデニ生ル、ヨリ所_レ有事ヲコソ貴ブナレ、何ゾ事ヲソグヲヨシトセンヤ、次ニ事煩トキハ禮容タガフベキト云ヘルコト、又似テ不_レ同也、煩シキトキハ煩シキ禮容アリ、急速ノトキハ急速ノ禮容アリ、禮ハ宜ヲ以テ人ノ情ヲ定ムルモノ也、父母急事アランニハ、履ノ地ニツカザルハ古人ノ法也、君命ジテ召トキハ不_レ待

レ駕トモイヘリ、況ヤ室中ノ鬪ニハカミヲツカンデコレヲスクフコト、孟子ノ詞的論ナレバ學者ノ禮イヅカタトテモハナル、コトアラザルト可_レ知也、

○問云、事ノアルトキニ心得ベキ様、イカバ侍ルヤ、答云、事ニ大小輕重アリ、ソノ人ニ親疎上下アリ、文事アリ武備アリ、常用急務アリ、後代ニノコシ萬民ニ示スアリ、時代土地ソノ本末アルナレバ、一色ニツイテモヲロソカニ云ガタシ、シカレドモ何事ナリトモ、先卒忽ナルコトナク詳ニ思慮スベシ、コレヲ敬テ思ト云也、敬テ思フトキハ其身ノ知慮學習ノ淵底ノコラズ發見ス、學習ノ不_レ及シテ知慮ノ不_レ足ハ、不_レ及ニ是非了簡_一コト也、我分際ノ知ラツクスナリ、サレバコノ心得ナキ輩ハ輕卒ニシテツ、シマズ、思慮ヲツクサザルユヘニ常ニ後悔スルトモ不_レ及ナリ、次ニ敬思テイマダ落著仕リガタキ事ハ、ソノ道々ノ功者又ハ我ヨリ先覺ノ學者、又ハ古今ノ事ヲシレルモノニ相談イタシテコレニ了簡セシメ、我又察シテキワムベシ、此相談人ナクンバ彌我知ラツクシ、古今ノコトヲ思慮シテソノ通ニキワムベキ也、未熟未練ノ知ニシテ我意ヲ立ベカラザルナリ、必相違多カルベシ、

凡ソ其愼デ思フベキ品々ハ、常時新規ニ可ニ立行ニ事ニシテ、人ノタメ家ノタメ國ノタメナラン事ハ、聊ニモ疎畧ニ不_レ可_レ仕ナリ、大概ヲ詳ニ云バ、家人子弟男女ノ賓客財寶器物・衣食・音物・書札、尤モ平生何事ニモ作法アリトイヘドモ、是ニハ必ズ法ノアルベキト存ズルワザアリ、又制法・禮節・風雨・時變・佳辰・令節・晝夜ノワザ、知行・方城・屋敷・家宅、況ヤ家人子弟ノ教戒・四民ノヲシヘ、其至誠ヲツクサシムル事、皆愼デ思フベシ、乍_レ然以前ヨリ有來レル事ヲ新法ヨシト云テモ、俄ニ改制スルニハ中ニモ思慮スル事アルベキ也、

○問云、世上多ハ無學ニシテ無知ノ輩多シ、コレヲ除テ益友ヲ招カントセバ、人ヲ嫌ニナリヌベシ、シカリトテ又是ニ交バ學ノ暇ナカランカ、

答云、世上ノモノヲ無學ト云事甚アヤマリ也、是我ニ道ヲ立學ヲ別ニ思フガユヘ也、我ニ志アラントキハ善人惡人トモニ我師資タリ、コトニ世上ニ惡人ト云モノ又珍シ、大抵人ナミノモノ、ミ多シ、是ニ交際セシコトヲ嫌バ人倫自ラ絶ヌベシ、其上志フカキトキハットメニ暇ナシト云コトアラズ、何ノ遠コトカコ

レアラントイヘル言コノ心也、我志次第ニ道ニアツクナランニハ、惡人非義ノ輩ハ自ラ去テ近ヅクベカラズ、此方ヨリ是ヲ嫌ニ不_レ及ナリ、凡朋友ニ敬ベキ輩アリ、親シク談論スルノ輩アリ、又我家ニ出入セシメテ見棄ザル友アリ、是ハソノ位ニモヨリソノ人ノ品ニモヨルコト也、サレバ崇敬イタスベキ友ハ、父ノ友ニシテ我ヨリ年齡高キ者、尤モ大身官祿アル人、德義武功ヲツトメ才知優長ノ人也、親シク談論スベキ輩ハ學文同志ノ相手自他互ニイサメ互ニ佑テ底イナキ間、コレ講習討論ノ友也、又見棄ザル者ト云ハ、時ニアワズ貧シテ我助長ヲ待モノ、又ハ志不_レ同ト云ヘドモ、我家ニ由緒アル輩ハ不學ニテワケモナキ事多ク、貪欲ニシテ諂驕アルト云ドモ、是ヲ不_レ棄シテ心付ライタシ、ソノ大ナルアヤマリナカラシムル如ク可_レ仕ナリ、此三段ニ因テ其交際ノ禮各コトナリ、尤モ一事一物ノ付届ライタストモ、皆其品ニ從テ心得替ルコトナレバ、コトハク愼デ思ハバ日用ノ學ナラズト云コト無_レ之也、次ニ我家ヲミルニ父母聖人ニアラズ兄弟子孫賢者ナラズ、況ヤ家人婦妻イヅレカ道ヲシレル輩アリテ、益トナルコトアリヤ、シカレバ

手前ヲサシヲイテ、他人ヲエラバント云コト本意ニアラズ、必ズコレヲ事トスレバ伯夷ガツクレルアヲヲクライ、伯夷ガツクレル家ニ居ント云ニ異ナルコトナシ、

○問云、世ノ中ノ交際不可嫌トイヘドモ、ヨリ合テ談ズル事、月見花見遊山玩水鵜鷹川ガリ、男女ノ好色酒宴飲食器物ノサタ、損得利買驕客ノ二事、サテハ世上政道ノ是非、教戒法度ノ善惡ヲイタシ、其實皆イツワリヲカマヘテタテヲナスヲ以テス、是ニ交ヲヨクセントナラバ、我學元ヨリ薄キガユヘニ、忽ニソノ内ニ流レ入リスベキ也、此心得承知センコトヲ願フ、答云、今聞所ノ事條々皆人倫ノ日用ニシテ、聖人ノ言行ニ是ヲノゾクト云事ナシ、唯是節ニアタルノミ也、是ヲ過トキハ惡タリ、是ニ不レ及トキハ隱士タリ、當時ノ人少モ學ニ志アルトキハ、ユクサキムニテ四書六經ノセンギ議論、道德仁義ノサタイタサレバ、其人學問ニ志ウスキ怠アリト云ヘリ、全ク是俗學ノ偏見ナリ、文學ノ同志相交テ切磋イタシ講習ヲトゲン輩、其會日ニハソノワザ可レ然、平生ノ振舞寄合テ物語トアランニハ、ソノ時相應ノ談論ヲイタシ、優長

ニシテ安樂スルニタレリ、コ、ニヲイテ四書ヲ出シ、六經ヲヒロゲン事ハ其道ニ非ナリ、故ニ當代少々學術ノ輩ハ、世事皆不案内ニナリテ、鵜鷹川狩モ不仁ニ近シ、歌舞音樂モ郢曲ノ淫聲ナリト心得テ、文章日々ニクラク、才カクレテ碌々タル小人トナレル類、コレ俗學ノ弊ナリ、次ニ我ニ志アランニハ、人ノ物語ヲキケルトテソレニマドフベキ義ナシ、桀紂ニ直ニツカワレテ聖賢ハ聖賢ノ行ニテトヲレリ、コトニ古ノ文書ニ美人ハ楊妃西施ガフルマイヲツクシ、酒宴ハ劉伯倫王無功ガ醉鄉麴世界ヲツマビラカニシ、石崇ガ驕和嶠ガ癖ノセズト云コトアラザレトモ、是ヲ見是ヲキイテコレニマドフモノアラズ、豈實學ノツトメアラン輩、何ゾ是ニ陷溺スベケンヤ、我ニ實立トキハ志同ジカラザラン輩ハ、自然ニ遠ザカルベキ也、

○問云、朋友ノ交際ハ已ニ承知ス、仕官奉公ノ輩ハ君命家風ヤムコトヲ不得シテ、ソノ道ナラスコトヲモイタシ、可レ諫コトヲモイサメズ、我亦無道ノ行ニシヅム事アルベシ、如レ此心得イカバ執行イタスベキヤ、

答云、是俗學ノマドイ也、俗學ノ輩人ノ非ヲセムル事

ツヨキヲ以テ事トス、故ソノ心得ヨリ考ユルトキハ、當代主人ニ可^レ仕家ナシト存ジ、ツイニ山林ニサマヨイ道路ニタ、ズマイテ、實ハ^{コツガイ}乞丐人ニコトナラズ、是併慎デ思慮セザルガユヘナリ、先仕官ト云ニソノ品多シ、當時諸侯郡主ノ陪臣并御家人ノ重代アリ、又重代ノ主ノ家絶テ新ニ仕官ヲ望ムアリ、又家貧シフシテ父母妻子ヲ養ガタメニ仕ルアリ、又道ノタメメノタメヲ存ジテ仕フルアリ、惣ジテ士タランモノハ主人ヲトツテ奉公仕官イタス事、是職分ナリト可^レ存、田ヲ耕工商シテ世ヲワタランハ士ノ業ヲ失ナヘル也、サレバ農工商ヨリ選マレテ士ニアガルヲバ、幽谷ヨリ喬木ニウツルニタトヘ、士ヨリ農工商ニイタルハ、喬木ヨリ幽谷ニ入ニタトフベシ、次ニ士ノ官ニ高下尊卑文武ノ品々サマ^レ多シ、一樣ニ論ジガタシ、出テ仕フルノ新久出ルトキノ約束禮義、是又人ニテ替ルベケレバ、ソノ品ヲキワメザルトキハ、其用法知レザルモノ也、其大概ヲ云バ、世トトモニヲシウツリテ、我ガ知ヲカクシ、君ノタメメ人ノタメナルベキ事ノ我ワザニカナヘルコトヲ詳ニツクスベシ、又我ニ無道ノ役義ヲ命ゼラレタルトキノ心得ノ事、其

無道ノ役義ト今云コト何事ト品ヲキカザレバ用法辨ジガタシ、タトヘバ父兄ヲ弑スル事アリト云ドモ、君命ハ辭スルニ不^レ及、我ニ知慮アラシニハ其時宜時ニ因テ無道ヲヒルガヘスノ道モアルベシ、不^レ得^レ已トキハ又ソレニ從テノ作略用法イクバクモアルベケレバ、左様ノ事ヲ命ゼラレンニハ猶以學習ノ功アラハルベシ、況ヤ其外ハ云ニ不^レ足事也、又ソノ家風ノ事ハ家々ノナラワシ、國々ノ風俗ナレバコレヲ改メント思イ、心ニカクルコトハ聊アルベカラズ、但不^レ致シテモ不^レ苦コトハコレヲノゾクベシ、不^レ致シテハ害ノアランコトニハ皆世ニ從フニアリ、サレバ無道ニ居テハ知ヲカクシテ愚トナルコト、聖人モカヘスガヘスノ玉ヘリ、委シク聖人ノ言論ヲ考ユベシ、

○問云、然ラバ不義無道ノ人ノ祿ヲウケ、食ヲハミテ不^レ苦ニヤ、

答云、好デ不義無道ノ人ノ國ニ居祿ヲウケンコトハ本意ニ不^レ在、ソレトテモ其時宜ヲ詳ニセザレバ一樣ニ云ガタシ、マコトニ其家ニ重代ノ輩コレヲ不義無道ノ主人ナリトテ退去ルコトハ善ト不^レ可^レ定也、般

ノ湯王ハ夏ノ祿ヲウケ、周ノ文王ハ殷ノ祿ヲウケ、夏
殷ノ末ノ不義無道甚大ナリトイヘドモ、コノ祿ヲウ
クルヲ非ナリト不爲、衛ノ靈公ヲバ孔子直ニ靈公ノ
無道ナルトノ玉ヘレドモ、衛ニ行テ既ニ南子ニモ對
面アリ、況ヤ出公輒ガ父ヲ追出セルハ、キク耳モ可
レ洗ニ似タリトイヘドモ、衛ノ君ヲタスケバ名ヲ正サ
ントノ玉イテ、衛ノ政ニハ不_レ可_レ預トハノ玉ワズ、魯
ノ三桓ガ君ヲ蔑如シテナキガ如クイタスハ、以前ヨ
リノ事ナリトイヘドモ、夫子魯ノ定公ニツカエ玉イ
ヌ、若俗學ノ偏見ヨリ云トキハ、孔孟ハ戰國ノ食ヲ
不_レ可_レ食ト云ニ同ジ、此心ヲ推シテ行トキハ、却テ君
ヲアザケリ父ノ非ヲソシルノ罪人タリ、故ニ能思慮
シテソノ道ヲ詳ニツクスベキ也、

○問云、道ヲ立功ヲナサン輩ハ、其器量拔群ニアラズ
ンバ不_レ可_レ得、シカルニ人ナミノ中ニ交テソノ分別
モアラザラン輩ハ、愚者ニコトナルベカラズヤ、
答云、道ヲ立功業ヲ大ニイタスモノハ、必ズ愚者ノ如
クイタスコト、コレ聖人ノ戒也、サレバ甯武子ガ衛ノ
君ヲタテ、難ヲ救ヒ事ヲトゲタルハ、夫子以テ其知
ニハ可_レ及也、其愚ニハ不_レ可_レ及也トノ玉ヘリ、魯ノ

子家羈ガ、昭公ト季氏トガ云ヘランコトヲヨシト思
ニハアラザレドモ、コレト議論ヲコトニセズシテ昭
公ノ難ヲ救ハントス、是季氏ニ黨スルニ非ズ、陳平周
勃ガ呂氏ニ黨スルニ非ズシテ呂氏ノ云コトヲソムカ
ズ、唐ノ狄仁傑則天ノ云ヘルニ黨スルニ非ズシテ、只
則天ノ云ニ從フ、如_レ此ノ事賢者ノ言行ニテ、シ、是
時勢粧ヲ考ヘテイタスコト也、必コレヲ咎必コレヲ
諫ムレバ、却テ其害ノ出來テ大義忽ニヤブル、事ア
ルベシ、故ニコレト異議ヲ不_レ立シテ、ソノマ、立置
テシカフシテ功ヲ遂ニ立、業ヲ遂ニ不_レ失コトヲ君子
ノ道トス、古ノ晏子伯玉ガ齊衛ニツカエテ君臣ノ大
義大難アルニ及デ、各其言行如_レ愚トイヘドモ、其齊
衛ノ社稷ヲ不_レ失コト可_レ以見一也、スコシノ事ニ我意
ヲ立テ議論ヲタケクシ、利口ヲ專トスル事ハ大臣ノ
致ス處ニアラズ、但ソノ事ニヨツテ必ズ議ヲ立論ヲ
ツヨクシテ、大義ヲ決スルコトアリ、コレソノ事物ヲ
詳ニ格物セザレバ難_レ定、夫子ノ大言シテ齊ノ師ヲシ
リゾケ玉イ、少正卯ヲ誅シ二都ヲ墮_{コトヲ}命ジ玉フ、
皆コレ也、サレバ易ニ賢人在ニ下位_{コトヲ}而無輔、是以動
而有_レ悔ト、亢龍ノ義ヲ論ゼルハコノ心ナルベシ、處ニ

事變者須識此意也、

○問云、然ラバ五倫ノ間不可然コトアリトモカマ
ワズ諫ヲモ不レ云、ソノマ、ニイタシ置、人ハ人我ハ
我トセン事不仁ニモイタリ、又道ノシルシモナキト
同ジカラシニヤ、

答云、大抵人情ノ常平易ナラン事ハ勿論也、既ニ身ヲ
害シ家ヲヤブラシ事ハ、君ニツカエテハ其職分ヲ考
ヘテ、或ハ直諫シ或ハ諷諫シ、或ハ我タヨリアル家長
出頭人ニシラシメツベシ、尤父子ノ間ノ義ニ諫ルノ
道、教ユルノ道、古傳ニ明ナリ、朋友ノ間互ニ是非ヲ
糾^{タス}ノ道アリトイヘドモ、是又ソノ交際ノ位ニヨルベ
シ、兄弟ハ父子ノ外ニハ親切ナリトイヘドモ、是又シ
バ、イサメテハ却テ親ヲ失ニ至リ、後ニハ大事大
義ヲ我ニカクシ、害ノ忽ニ至コトヲ我不レ知コトアル
モノナレバ、只親シンジテソノ時宜ヲ以テ諷諫スベ
シ、我婦妻家人ハ我下知ニ必ズ隨心イタスモノナリ
トイヘドモ、朝夕教戒諷諫イタシテモ、猶得心イタシ
難キモノナリ、然レバ大方ノアラマシ、別事ナクパソ
レニマカセテ自然ト教化セシムルニアリ、若道ト云
一物ヲ立言行ヲ一々ニ糾シ、人々之性心ヲ正シカラ

シメント欲セバ、生々ヲツクストモ竟ニ不レ可得ナ
リ、是乃慎デ思フ處ニアリ、慎デ不レ思ガユヘニセワ
シク煩シクナリテ、人ノ非ヲアラタメ、他ノ惡ヲ悔ニ
イタルナリ、近ク身ニ體スルニ我親シキ者ハ妻女ナ
リトイヘドモ、伯夷伊尹ガ如クナル賢烈ノ者ノ女ヲ
求メテ、是ヲ妻女ニ定メントイタサバ、ツイニ妻トナ
ルコトカナフベカラズ、家人ニ仁義忠直ノ輩ヲ求メ
テツカワントセバ、ツイニ家人アルベカラズ、世ノ中
ノ男女天下ノ人々ノ妻室下人幾千萬人トカゾフベカ
ラザレドモ、主人ヲ殺シ夫ヲタブラカシ、國家ノ大事
イタセル惡人モ亦マレナリ、シカレバ人ヲ責ル心ヲ
薄シテ我言行ヲ正シ、知慮ヲ明ナラシメテ、愚者邪惡
ノ者モ不レ得レ止シテ道ニ入、ソノ家ニツカフレバン
ノ法ヲツツムル如クナラシムベキ也、

○問云、少モ學習イタシ聖人ノ道ヲタヅヌルニ從テ、
他人ノ非ミヘヤスク、彼ニ道ヲキカシメンコトヲ欲
ス、此心ハ不レ苦コトニヤ、

答云、是學者ノ通病ナリ、學術進ニ從テ此心自退クベ
シ、タトヘバ劔術ヲマナブニ、少シ心得ルトキハ勝負
ヲ欲スルコト甚シ、久シテ其心シリゾキ、人ニ勝事ノ

ナリガタキ事ヲ知ル、道ヲ學ノ學者モ亦然リ、我ニ志
深く立ルトイヘドモ身ノアヤマリタマシガタク、知
恵昏シテ通ジ難コトヲ知バ、不學ノ人ノソレトイ
イタシテ五倫ノ交際スナホニ、事物トバコホラザル
ハ不思議ノコト、可レ存、何ヲソシルニ及バンヤ、次
ニ人ニ道ヲキカシメント云志ハ尤ナレドモ、キカセ
度トテ人キクモノニアラズ、近ク父母ノ大切ナル子
孫ノ愛惠スベキ、婦妻ノシタシムベキ、家人ノ我ニシ
タガフ、イヅレモ道ヲシラセ、聖人ノ教ヲキカセタシ
ト存ジテモ、更ニ通ズベカラズ、況ヤ他人ハ云ニ不
レ及コトナリ、唯我ト相シタシマシメテ何事ヲモ我ニ
カクサバル如クイタシ、自然ト大義ヲタガワザラシ
ムベシ、凡ソ人信ズルモノ、云コトヲバ、コレヲ貴ガ
ユヘニコノ言皆用テ利タリ、不レ信トキハ嘉言善行モ
トツテ不レ用モノナリ、人ノ信ゼンコトハ我言行ノ正
シクシテ、其知慮ノシルシアルニ從テ、自然ニ信ズベ
シ、

○問云、君父兄弟朋友ノ間和順ヲ以テシテ、自化スル
ノ義承知セリ、家人ハ我下知ヲ以テ進退賞罰セシム
ルモノナレバ、道ヲ立テ教ヲ詳ニセン事、又ナリスベ

キワザ也、

答云、皐陶云、臨下以簡、御衆以寬トイヘル也、タト
ヘバ道ノ道タルワカチヲ末ガ末マデモツトメシメ、
是ヲス、メ是ヲ戒メンハ、マコトニ仁心ト云ベキニ
似テ、思慮ノクラキガユヘニナルマジキコトヲ思也、
人ノ年齢ニ少壯老アツテ、コノ志タガイ位ニ尊卑ア
リ、祿ニ高下財ニ貧富一ツナラズ、形氣サマトニカ
ワリテ、其好惡所業別ナリ、コトサラ數年ノナラワシ
ニヨツテ、我心ニ一筋ノ思入出來リテ、其本ヲトリ失
テ、世ニモマレ是ゾ一生ノ樂ト志ス所タガヘリ、此
品々ノ人ヲ一樣ニイタサンコト速ナルベカラズ、故
ニ先家ノ老臣司サ奉行タルモノヲ常ニシタシミ近ヅ
ケテ、自ノ言行ヲシメシ、事物ノ詮義ヲ詳ニイタサシ
メ、イツトナク化セシムベシ、道ノ形ヲ立シナヲ定メ
バ奸人又コレニタヨツテ、僞言僞術ヲナスベシ、凡ソ
教戒ヲナスコト、必時節アルモノ也、尤其年齡ヲ考ヘ
テ其教其戒アリ、其位其祿其職分ヲハカリ、其人品ヲ
詳ニシテ、先ソノ所作役義ヲ定メシメ、法度ヲスク
ナクイタシテ、法ノ必立ゴトクイタシ、時々ノ省察
教令ヲコマカニシテ、其内外ヲ察シ、其志ヲ誠アラシ

ムベシ、次ニソノ下々ノ事、只制令ヲ詳ニシテ、惡ニヲチイラズ、死地ニイタラザラシムルノミ也、必ズ品々ノ法度多キトキハ、下コレニ惑テ干要ノ事不レ立モノ也、下僕ハ利ヲ利トシテ安ンゼシムルニタレリ、彼ガ言行トルニ不レ及ナリ、スベテ弛ルコトアリ、弛時アリ、弛所アリ、ユルムル人アリ、又ツトメシムル人アリ、ツトムル時アリ、ツトムル所アリ、ツトムルワザアリ、是皆慎デ思ワザレバソノ用法ヲ失スル也、一張一弛ハ聖人ノ道ナリト、可ニ心得ニナリ、

○問云、承ワル處ハ甚易簡ナレバ、人々皆聖人ノ教ヲシルベキニ、古來ヨリコレヲトリ失テ日用ヲ不レ存アヤマリハ、何クニカアルヤ、

答云、聖人ノ教ニ形名ナシ、形名ナキガユヘニ人はヲシラズ、萬卷ノ書モヨム人世ニ多シ、詩作文章ヲ著述スル人乏シカラズ、大願ヲ起シテアラキ行ヲナス輩世ニタヘズ、無欲清淨ヲ本トシテ木ノ實ヲクライ、塊ヲ枕ニシテ一衣一鉢ノ隱者本ノハシノ如キ、法師イヅレカ世ニナカラン、皆聖人ノ教ニ不レ同、聖人ハ世ト推ウツリテ言行時ト共ニ消長シテ、ソノ道自明ニ其知事物ニワタリテ不レ惑、是乾坤ノ易簡ナルニ同

ジ、然レドモ何ノ造作モナキコト、マデ思フトキハ、又大ニ相違アルベシ、ソノユヘハ萬物ニワタリ萬事ニ通ジトバコフル處ナクシテ、一ノ形名ナキ事、是天地ノ廣大ヲ以テ容レ之載レ之ニ同ジク、日用ノ縣象著明ニシテ無レ不照ニコトナラズ、是ヲ子細モナク心得ベキト思フコト、甚輕疎ナリ、次ニ世ノ學者ノマドフコトハ形名ノシルベクミルベキナキガユヘ也、故ニ日用乃チ道ナリ心性ナリト云コトヲ不レ了覺シテ、道學心學ノ名義ヲ立ル故ニ、聖教ハ日ニカクレテ皆私意我見ニ落在スル也、凡乾坤ノ易簡ナルハ陰陽五行ノ運行循環相因テ其悠久積累ヲフル、ソノ所ヨリ出タルコレマコトノ易簡也、聖人ノ易簡モ亦コレニ同ジ、仲弓ガ所謂居レ敬行簡トイヘル心ニ近シ、コレヲ心得ソコナツテ只易簡ナリトノミ心得レバ、居レ簡行レ簡ノイ、ニシテ、簡ニ過ルガユヘ易簡ノ實ヲ不レ得、世事言行只無造作ナルヲコト、シ、其本ハ纔略ナラシムルノイ、ナリ、何ゴトモ深重積累シテ出ル所ノ易簡ヲ以テ聖人ノ易簡ト云ベキ也、サレバ舜ノ無事ノ治モ亦コレナルユヘニ、末世ノ治ノ及ブ所ニアラザルト云ヘルナルベシ、

○問云、今日日用ノ行事コト々々、聖賢ノイタシヲ
ク處ヲ學ビ行ナフニアリヤ、

答云、コト々々、聖賢ノ行事ヲナサバ則是聖賢也、但
シ聖賢ノ行事ハ皆事物ニ隨テ、ソレ々々ノ品節アリ
シ事ナレバ、ソノワキマヘナクテコレヲ致サンコト
ハマコトノ道ニアラズ、論語ニ、見賢思齊焉、見不
賢而內自省、孟子ニ、子服堯之服、誦堯之言、行堯之
行、是堯而已矣、子服桀之服、誦桀之言、行桀之行、
是桀而已矣ト出セリ、シカレバ古ノ聖人ノ行ヲキイ
テ今日コレヲシタイ、ソレニ隨テコトヲイタサンニ
ハ、相違アルマジキ事ナレドモ、聖人ノ行ニ必トスル
範ナシ、又必トスルイカタアリ、是コソ學者ノ盡心
盡心トコロナリト可レ知、ソノユヘハ學ビタルマ、
ニ何事モ行イユクモノナラバ、古人ノ行跡ヲ能覺ヘ
タルモノハ、皆聖賢ノ地位ニモ至ルベケレドモ、内ニ
カヘリミテ是ヲ思慮イタシテ不レ行バ、却テワケモナ
キコトニナルコト多シ、是レ學而不レ思則罔ト云ノ心
也、シカレバ聖人ノ行ト聖人ノ言トヲ比較シテ、而後
ニ己レガ知ヲキワメテ、ソレニ因テ行フトキハ違フ
コトスクナカルベシ、尤モ狂人ノマチトテ大路ヲワ

シラバ則狂人ナリ、惡人ノマチトテ人ヲコロサバ乃
惡人ナリ、コレ狂人惡人ノ狂惡ヲマナブユヘニシテ、
只マチイタスト云ニハアラズ、聖人賢人ヲマナブモ
亦如此、只ソノマチ計ヲイタシテ其聖賢ノ實ヲマナ
バサレバ、サラニ用ニ不レ立、燕子哈堯舜ノ行ヲマ
ナビテ國ヲ失、徐君宋ノ襄公ハ仁義ノマチヲイタシ
テ、或ハ亡或ハ敗レヌ、コ、ヲ以テ考フルニ、有天地
之德而後有天地之行、有聖人之知而後有聖人事、
唯不レ學ニ其知德ニ而專ニ其事、則不レ害ニ其物ニ少矣也、
ソノ故ハ事ト行トハ時代ニヨリ土地ニシタガイ、ソ
ノ人ニ因テ同ジゴトクニテ事々相違スルコト多シ、
シカルヲ聖人ノ行ナレバ、コレゾヨカラント一片ニ
存ジテ、其思慮ウスキトキハ國君ハ國ヲ失フコトヲ
不レ知、匹夫ハ身ヲ保コトヲ不レ可レ得、イカントナレ
バ、聖人ハ本ヲ正シ謀ヲサダメテ而シテ後ニ寬大易
簡ヲ以テ行トス、愚者本ヲシラズ謀ヲ不レ盡シテ、只
寬大易簡ヲコト、セバ忽ニヤブレズト云コトアルベ
カラズ、今川ヲヲヨグ者ノ、水上ニ浮ンデ游優寬順ナ
ルヲミテ、川ノコトヲ不レ知者、コレヲ學バントテ川
ニ入ラバ、忽ニ溺死スベシ、水上ニヲイテ自由ヲイタ

ス者ハ、兼テ水ヲヨク學ンデ、其水ニ付テノ知究マレ
ルガユヘニ、今水上ノ自由寛大ヲ得ルナリ、サレバ世
上人欲ノ險、人情反覆之變、巫峽之水、太行之路モ亦
コレニアワセバ坦途安流ナルベシ、シカルヲ只聖人
ノ行跡ナリト存ジテ、ソノ一事ソノ一行ヲ行ナハン
トセバ、コトゴトク相違出來テ害ヲノガルベカラズ、
禹稷顔回ソノ志ハ一ツニシテ其行ハ不_レ同、伯夷伊
尹_・柳下惠ソノ本ハ一ツニシテ其行ハカワレリ、堯舜
ハ性_レ之也、湯武ハ身_レ之也、コ、ヲ以テ孟子モ有_二伊
尹之志_一則可、無_二伊尹之志_一則篡也_{マヘル}トイヘルナリ、
○問云、答ヘ玉フゴトクナランニハ、ヨキ人ノマテヲ
致スコト、皆アヤマリトナルベシヤ、

答云、イカタアラン事ハ皆コレヲ學ビニセテ致スモ
ノ也、イカタナキ事ヲニセントイタス時ハ大ニ相違
アルコト也、惣ジテ學ト云ト似_{マヘル}爲ト云トハ大ニカワ
レリ、學ブト云ハ實ニ是ヲ師トシテコレニナラフコ
ト也、マテヲイタスト云ハ、内ニソノ志ナクシテソノ
事ヲニスル事也、當時ノニセモノナド云皆是也、故
ニ徼_ニ以爲_レ知、不孫以爲_レ勇、計_ニ以爲_レ直ハ子貢ガニク
ム所也、郷原ヲ德ノ賊タリト戒シメ、似テ非ナルヲ

ニクムトノ玉フハ孔子ノ言ナリ、紫ノアケヲ奪、鄭聲
ノ雅樂ヲミダシ、トモニニセモノナリ、凡ソ人善惡ト
モニ自立テソノコトヲナスモノハ、ソノ善ソノシル
シアリ、其惡モ亦變ズレバ必ズ善タリ、是志氣ノ一定
セルガユヘナリ、彼ニセモノハ柔弱ニシテ卓爾タル
コトナキガユヘニ一定ノ志氣ナシ、人又コレヲミン
コナイテ善人ナリト思フニ至ル、然バ學者カリニモ
實ナクシテ、事ヲニセントイタスベカラズ、ソノ事當
座ハアラハレザレドモ、ツイニハカクル、事アラザ
ル也、人ノ行跡物ニタヨラズ、獨立シテ無_レ傾ハ古人
コレヲ稱ス、ツ、シマザルベケンヤ、

○問云、學問ヲナスノ行跡專信實ヲ以テ根トイタシ、
物ゴトニ僞ナキゴトク守ルヲ第一ト可_レ致ヤ、
答云、ソノ志實ナリト云ハソノ思入ノ切ニシテ、不
_レ傾ヲイヘリ、信ハ朋友ニ交ルノ道ナリ、カリニモ僞
ヲカマヘテ彼ヲタバカリ、虛ヲ以テ人ノ志ヲウバフ
コトヲ不_レ致コト、マコトノ朋友ノ交際ト云ベシ、但
是又心得アルコト也、學思ノ志ヨリ信ヲ不_レ立トキ
ハ、ソノマコト却テ害トナルコト多シ、聖人禮ヲ立テ
人ノ情ヲ品節セシメ玉フニハ、其志薄トイヘドモ其

事ヲ以テ厚カラシメ、其志厚ニ過ルハソノ事ヲ以テ節セシムル、是ソノ過ルヲ抑ヘ不_レ及ランダテ、トモニ其道ヲ得セシメ、文章アツテ品節セシムルノ謂ナリ、故ニ聖人ノ禮ハマコトアラザルニ似タルコトアリトイヘドモ、イツワリノ中ニ自カラ誠ノ道ソナワレルナリ、サレバ父ノ羊ヲヌスメルヲバ、子コレヲカクシテ直在其中、夫子ハ陽貨ニアフテ然諾シ玉フテ不_レ屈コトソノ中ニアリ、コ、ヲ以テ必ズスグニ心ニヲモフゴトクニマデ致スト存ズルトキハ、却テ戎狄禽獸ノ行ニナルコトアリト可_レ知也、コレ皆學ニヨラザレバソノ知キヲメ難シ、古ヘヨリスグニマコトアル輩世ニ多クシテ、却テ道ニ不_レ至タメシアリ、彼ノ葉公ガソノ父羊ヲヌスメルヲ、子アラハシタルヲ直ナリトヲモフガ如シ、論語ニ、十室之邑必有ニ忠信如_レ丘者ニ焉、不_レ如_レ丘之好_レ學也ト出タリ、コ、ヲ以テ學ヲ好ム處ヨリ用ザル忠信ハ、忠信トモニ其實ヲ不_レ得也、昔魯ノ悼公之喪ニ、季昭子問ニ於孟敬子一ケルハ、君ノ喪ノ中ニハ何ヲカ食スベキト云ケレバ、孟敬子コタヘケルハ、主君ノ喪ニハカユヲ食フコト是天下ノ達禮ナリ、シカレドモワレラ三人ノモノドモ、

魯君ニツカエテ君ヲ君トセザルコトハ四方ニ不_レ聞モノナシ、今悼公ノ喪ニカユヲクラフテ愁色ヲアラワシ、身ノヤセヲイタサバ人皆マコト、思フベカラズ、ツクリゴトヲ以テ人ニ示サンコトハ實義ニ非ズ、我ハアリノマ、ニ不斷ノ食ヲクラフテ喪ヲトクベシト云ヘリケルト禮記ニ出タリ、マコトニ孟敬子ガコタヘスナホニアリノマ、ナルコト、却テ殊勝ナリト世人ハコレヲ思フベケレドモ、甚道ニソムイテ實儀ヲ失ヘリ、禮ハ有_レ微_レ情者、有_レ以_レ故興_レ物者ト云ヘリ、君子ノ情ヨリイハバ、君父ノ喪ヲバ一生モトゲ行フテアキタラズト思フベケレドモ、コレニマカセテハ無究ヲ以テソノ情ヲソイデ、過タルヲ、サヘテ節ヲキワムル、コレ有_レ微_レ情者ニ也、又邪淫ノ小人ヨリイハバ、君父朝ニ死シテダニコレヲ忘ル、輩アリヌベシ、是ニ從テマカセヲカバ鳥獸ニモヲトレルコトアリヌベキヲ以テ、ソノ情ノ不_レ及ヲヲコシタテンタメニ、食物衣類居所ノ制法ヲ立テ、ソノ形體居處ニテハ邪義惡心出テモ、ソノワザヲナスコト不_レ可_レ叶シテ、コレヲ見コレヲキクモノ自哀愁ノ情ヲ生ゼシムルゴトクスル、コレ有_レ以_レ故興_レ物者ニ也、サレバ父母ニ三

年ノ喪、君師ニ方喪心喪ノ制ハ、聖人稱情而立文、弗レ可_レ損益_一ノ道ナリ、心ニ不_レ思コト也、人ノウタガフベキトテ不_レ遂_ニ其禮_一バ皆情ノマ、ニシテ、徑ニ行ト可言ナリ、告朔ノ餼羊ナヲノコリテソノ禮又ヲコランコトヲ以テ、夫子ソノ羊ヲ惜ミタマヘリ、孟敬子ガ云ヘル處、只自ノ利口ニシテ是ゾ邦家ヲ覆スノ基タルベシ、如_レ此ノ處ヲヨク考ヘ味ヘバ、道ノ實義ツイニ會得スベキ也、サレバ舜ノ不_レ告シテ娶リ玉フハ、告タルコトハリソノ中ニアリ可_レ知也、如_レ此云トキハ時ニトツテノ僞ハ不_レ苦ニ似タレドモ、微生高ハ鄰ニ酢ヲコフテ直道ニ非ズト夫子イマシメ、父ノ羊ヲヌスメルハ、其子コレヲカクシテ直在其中_一ノ玉フ、其事物ノ格致ツマビラカナラズンバ、必ズマドフコトアリヌベケレバ、能學デ有道ニツイテ尋ヌベキ也、

○問云、マコトノ道モ學ヨリ不_レ入バ實ヲ不_レ得コト詳ニ承知ス、但シ實ノ過タランハ虛ヨリマサルベキニヤ、然ラバ不學ナリトモ、實ニ厚クイタス心得アラバ、道ニ近カランカ、

答云、學習格致ノ實不_レ正バ實モ虛モトニモ損益アツ

テ相同ジ、イヅレヲ甲乙ト定メ難シ、シカレバ鄉原利口兩ナガラ聖人ノ責ヲノガレズ、謹厚ノ人ハ實ニアツシトイヘドモ、必ズ知惠クラクシテ碌々タル小人ナリ、虛夸ノ人ハ虛ニスグレドモ、時ノ才知ハタライテ一旦ノ用事ヲトグルニ利アリ、君子コレヲ用ユルトキハフタツトモニ所ヲ得、小人コレヲ用トキハ兩トモニ利ヲ失、コレ損益互ニアツテ一定ノ論ナシ、凡ソ君父ノ事ヲ存シテ厚ニ過タルハ道ニ近ニ似タリトイヘドモ、禮ヲ以テコレヲ正ストキハソノ道ヲ不_レ得也、伯魚ガ母死シテ一周期過テモ猶愁哭ス、夫子以テ甚シト戒シメ玉ヘリ、子路姉ノ喪既ニノゾクベクシテ猶ノゾカザリケルヲバ、孔子禮ヲ以テ正シ玉ヘリ、是聖人ソノ中ヲ考ヘテ制ヲ立玉フナルヲ、己レガ情ニマカセテ厚ニ過ルコトハ道ニアラザレバ也、コ、ヲ以テ論ゼバ、子貢唯廬ニ於家上凡六年ト出タルモ亦夫子ノ志ニ不_レ可_レ合也、聖人ノ道ハ禮ニカナフヲ以テ本トス、ヒタスラ實ヲ立テソノ直ヲ立ンコト道ニ近シト難_レ言也、且實ニアツキトキハ必ズ情偏塞シテ、他ニ通ズルコトヲ不_レ得ノ失尤大ナリ、

○問云、古ノ道ヲ師トセンエハ、カイアリト承ル、

又當時ニ從テ行ハバコトハ、凡俗ノ輩タルベシ、此間ノ工夫イカバ可ニ心得ニヤ、

答云、古ノ道ヲ師トシテ今ノ俗ヲ考、其日用事物ニ相當ノノリヲ以テ行フ、コレ學者ノ格物致知ノ道也、サレバ正シキ道明ナルワザハ、イツトテモ世ニ行ナワルベキコトナレドモ、人情必ズ一途シガタキヲ以テ、古今トモニ明ナル世ハマレニ、賢人朝ニ立事少ナシ、シカルヲ我ハ道ヲ尙ブ古ヲシタヘリトテ、事變ヲハカラズ、人情ニ不_レ通シテ言ヲタカクシ、行ヲ正シクセバ必ズ災ノ來ル基也、災來リテモ道ノ立ナンコトハ、君子ノハバカル處ニ非ズ、所謂殺_レ身シテ仁ヲナスノイ、也、災ニ逢テ道モ不_レ立コトハ君子コレヲトラズ、是生_レ乎今之世、反_レ古之道者、裁及_レ其身也、夫子宋ニユイテハ章甫ノ冠ヲナシ、魯ニ居タマフトテハ縫腋ノ衣ヲ服シ玉フモ、時俗ニシタガフノ故ナルベシ、衛ノ寧武子ハ國無_レ道トキハ愚ナリ、蘧伯玉ハ卷テコレヲ懷ニス、顔子ハ行藏時ニマカス、皆古ノ道ノ必トスルニ非ズ、サテ當時ノ俗ニ從フコトアリ不_レ從事アリ、凡ソ夫子ノ魯ニツカユ玉イ、國ニ往來シ玉フ、言行ヲ考フルニ唯平生ノ儀則ニカワルコトナク、在_ニ

宗廟朝廷ニ便_ト々言唯謹、與_ニ下大夫言侃々如也、與_ニ上大夫言訥々如也、是朝廷ニ立テ言ノタカキ處ナク、行ノ稱スベキ處ナク、自ラソノ分限ヲ守テ禮ヲ厚クシ、儀ヲツ、シメルノミナリ、コノトキ若シ別ニ聖人ノ異様アラシムニハ、マコトノ聖人ト云ベカラズ、詳ニ鄉黨ノ一篇ニコレヲ盡セリ、コレニ因テ云バ學者ノ日用只平生ノ俗ニマカセテ、別ニコトヤウナルベカラズ、ソノ間ソノ志實ニ道ニシタガハバ、彼ノ流俗ノ邪義非道無禮淫亂、豈コレニ隨從スベケンヤ、コレマタコナタヨリ不_レ防トモ我コレヲ不_レ好ヲシラバ、彼ナンゾコレト、モタランコトヲ欲センヤ、シカレバスベテ世トトモニ推ウツリテ、ソノ間ニ禮ヲ立儀ヲ教、時ト、モニ消息スルニアリト可_レ知也、我ニ志ノ立事確爾タルコトナキユヘニ、和スレバ必ズ流ス、我ニ人ヲ責ルノ厚キ所アルガエヘニ、節スレバ必ズハゲシ、和而不_レ流以_レ禮節_レ之トキハ、不_レ行ト云所アルベカラザル也、

○問云、道ハ聖人ノ人ノ情ヲ考、其中ヲキフメテ其制ヲ定メ玉ヘバ、イツトテモ世ニ可_レ行、人皆可_レ服シテ世必ズ道アラズ、人必ズ行ニ不_レ從ハイヅレノユヘヅ

ヤ、

答云、人コトハク惡ニナレ無道ヲ以テナラワシトスルガユヘニ、ナラフ處ヲ改タメ、舊染ノケガレヲサル事タヤスカラザルユヘト可レ知、少ノ事モナル、コトニナヅミテ自ラ是ヲナラワシト致ス事人情ノ常也、聖人專ラ學習ヲ專トシテ、幼孩ノ古ヨリ是ヲナラ

ワスハ此ユヘナルベシ、異變ノコトモ目ニナレ耳ニナレテ後ハ異變ト不レ思、正道明敎モ常ニナキコトナレバ、却テ異様ニ思フハ世ノナラワシナルヲ以テ、無

道ノ世ニ有道ノコトハ皆コトヤウナルト人々不レ可レ存、コレ人ノ信服セザルユヘ也、ソノ上人ノ氣質人

人ニヨツテ過不及アリ、時運又盛衰循環シ、地氣又剛柔ノ變アリ、故ニ必善ハ立、不善ハ不レ立ナリト計思

フベカラザル也、天地ノ間四時ノ運行モ、春ニノドカナル天氣スクナクシテ、花ヲ見テクラスコトマレナ

リ、秋ニサヤケキ夜マレニシテ月ヲ友トスルコトスクナシ、是天地ノ氣トイヘドモ、ソノ中和ヲウルコトマレナルガユヘ也、ソノユヘハ氣候ノ順逆不レ定、

コトニ國土地ノ氣偏塞多ヲ以テ風雲時ヲ不レ得ナリ、但中國ハ水土ノ中ナレバ花ノ時月ノ夕モ、マコトニ

風物コトナル事多カルベシ、シカレバ又中華ハ四夷ヨリ治敎モヲコナハレ、文物モ盛ナラン事勿論ナリ、コ、ヲ以テ上ニ文德ノ行ナハレバ、下ノ化ニ應ゼンコトハ速ナルベキ也、

○問云、マコトノ道ナランニハ、人ノ疑フベキ事ナキニコトヤウニ思フハ、道ニタガフ處アルユヘモアランカ、

答云、不レ然、人情ノ惑サラニ辨ジ難コト以前ニ論ズルガ如シ、惑ヲ以テ事ヲ定ムルヲ以テ十二一ツモ是非分明ナラズ、衆口同音ニ非ヲ是トスルトキハ、タマ

タマ是ヲ是トシル輩モ、口ヲツグミ言ヲ默スベシ、サレバ衆口銷_レ金ト云テ、コ、ニ黃金アルヲ大勢、皆ニ

セ金也ト云トキハ、一人二人タシカニ金ナリト云トモ、人更ニ不可_レ信、故ニツイニ、此金ヲヤキカヘシテ

ミセザレバ、人信ゼザルト云ヘリ、古ヨリ宗廟ヲ祭ニハ、必ズ犧牲ヲソナヘテ、牛ヲコロシケダモノヲサイテ祭ル、是ヲ血祭ト號、是イケルトキンノ父祖ヲ馳走

イタシ、大饗ヲマフケシ如ク、死シ玉フ後モ、血食ノ用ヲ盛ニスルコト、尤其イワレアリ、コ、ニ梁ノ武帝專佛道ヲ信ジテ牲ヲサキ、生ルヲコロスコト冥道ニ

サ、ワリアリト號シテ、天監十六年、初メテ蔬菜ヲソ
ナヘ麴類ヲ以テ祭ル、コ、ニヲイテ群臣大ニアヤシ
ミ驚テ、宗廟ノ祭祀ニ血食ヲヤメ玉ハンコトハ、古
今ニ其タメシナシト、議ヲ立論ヲ上ルヲ以テ、シカラ
バセメテ生ナル肉ヨリハ、ホシジ、ヲ可_レ用ニナリテ
用ニ肺脩代_レ之、後ニハ皆蔬食ヲ用ユトナリ、今本朝ノ
風儀久シク浮屠ニ入テ、宗廟ノ祭祀皆蔬食ヲ用ユル
ヲ以テ俗トス、然ルニ古ノ道不_レ然トテ牛ヲサキ鳥ヲ
殺シ、魚ヲ獻ゼバ天下ノ人、皆大ニアヤシミテ、必ズ
耶蘇ノ宗門ノ如ク思フベシ、是梁ノ武帝ノ蔬食ニテ
祭レルヲ不_レ可_レ然トイヘルニコトナラズ、只見聞知
覺スルコトノナル、トナレザルトノカハリナリ、我
コソマコトノ道ナリト思ヘドモ、人ハ更ニ見聞セザ
コルコトナレバ、コトヤウニ思アヤシムコトコトワ
リト可_レ云也、シカレドモコレ又久シク相行テヤマザ
レバ、人コレニ目ナレ耳ナレ、且ソノ人ノ言行事實
ノ知德シルシアルニ感心シテ、ツイニハ是ヲマコト
ノ道ト知ベシ、人衆者勝_レ天、天定亦能破_レ人ト云ヘル
ハ、コノ心ナリ、

○問云、人ノ信仰思通スル行跡アランヲ、マコトノ行

徳ト云ベキヤ、

答云、所_レ問ノゴトキハ衆人皆ソシラバ惡トシ、衆人
皆ホメバ善人トスルノイ、也、孔孟詳ニ是ヲ辨說シ
玉ヘリ、人ノ至テ信仰感通スルニハ、必狐媚ノ心アツ
テ腥ガ、蟻ヲキタスタグイナリト可_レ知、是郷原ヲ德
ノ賊ト云ヘル也、聖人ノ道人ヲシキリニ感通セシム
ルコトナシ、其志至テ切ナレバ至テ感ズ、其信至テ厚
ケレバソノ知コ、ニキワマル、別ニ妙不思議ヲ立ツ
ルコト更ニナシ、故ニ多クハ聖人ヲミシラズシテ信
仰スルモノナク、却テコレヲソシルノ類アマタアル
モノ也、是衆人ハ皆愚ニシテ、感多キヲ以テカレヲ悅
バシメ感ゼシメント求ムルトキハ、我ニ狐媚ノ心ア
ラザレバ不_レ叶ガユヘ也、夫子ハ古今傑出ノ大聖人タ
リトイヘドモ、四海ノ間コレヲ信ズル輩ワヅカニ三
千人ニシテ、ソノ中ニモ七十子ソノ中ヲエラビテ十
哲、猶ツマビラカニエラマバ顔子曾子ナリト云ヘリ、
四海ノ内大聖人ヲ信仰感通スルモノワヅカニ一兩人
ナリ、然ラバ孔子ハ聖人ニハアラザランヤ、今本朝ノ
俗都鄙ノ男女、コト_レく釋氏ヲ信ジテ萬分ノ一モ
孔子ヲシラズ、コレ孔子ノ非ニシテ釋氏ハ是ナリト

セシヤ、故ニ信ズルニモ信ズル人アリ、信ズル事アリ、信ズル時アリ、信ズル處アリ、信ズル物アリ、ソシルモ亦然リ、コノユヘニ天下信之ト云トモ多ト云ベカラズ一人信之トモ少ナシト不可云也、君子ハ

不見是而無悶、人不レ知シテコレヲ不レ怨、孔子ノ世ニアリシニハ人皆以テ諂モノト云倭人ナリトソシリ、知_レ其不可_レ而爲_レ之者歟トアザケリ、東家ノ丘トアナドラレ、因テコロサントニクマレ玉フコトヤマザレドモ、大聖德ハカグルコト更ニナシ、是人々知ノクラクシテマコトノ道ハ却テ知リガタキガユヘナリト可_レ知也、昔楚襄王問_ニ於宋玉_一曰、先生其有_ニ遠行_一與、何士民衆庶不_レ譽之甚也、宋玉對曰、唯然有_レ之、願大王寬_ニ其罪_一、使_レ得_レ畢_ニ其辭_一、客有_ニ歌_ニ於郢中_一者、其始曰_ニ下里巴人_一、國中屬而和者數千人、其爲_ニ陽阿薤露_一、國中屬而和者數百人、其爲_ニ陽春白雪_一、國中屬而和者數十人、引_レ商刻_レ羽難以_ニ流徵_一、國中屬而和者不過_ニ數十_一而已、是其曲彌高其和彌寡ト、尤說得テ好シ、只毀譽信疑トモニ詳ニ、ソノ道ヲツクスニアルベキ也、

○問云、天下ノ人はニクミスレバ天コレニクミスル

也、孟子ニ天與之人與_レ之ト云ヘルニ同ジ、故人皆信用セバ天ノユルセル聖德ト可_レ謂、人クミセザレバソノ道不_レ可_レ行ナレバ、人ノシタガフゴトク道ノ立ヤウアルベキ事乎、

答云、聖人人ノクミスルコトヲ不_レ欲ニハ非ズ、クミスルニ不_レ以_ニ其道_一トキハコレヲ姦黨ト號ス、君子ハ不_レ黨ナンゾ只黨シ比スルコトヲ以テ道トセンヤ、今云所ノ人皆クミシテ事業功名ノ立ヲ事トセバ、國ヲヒラキ世ヲ保ツ人君ハ皆明聖大德ノ人ト可_レ謂ヤ、孟子ノ天與_レ之トハ天命コ、ニアツマルヲ云ヘリ、人與_レ之ト云ハ事治テ百姓安ズルノイ、也、姦黨ヲ云ニ非ズ、又道ヲマゲテ人ノ氣ニ入テ利ヲ逞シクセンコトハ、聖人ノ所_レ致ニ非ザル也、シカレバトテ聖人ノ道ニ權謀ナキニ非ズ、コレヲ用ニ道ヲ以テス、故ニ聖人ハ天命ヲシリテ人ヲ德ニ化セシムルノミ也、子貢曰、夫子之道至大、故天下莫_ニ能容_一、夫子盍少貶焉、子曰、賜良農能稼不_ニ必能穡_一、種_レ之爲_レ稼_レ之爲_レ穡_レ言良農能言良工能巧_レ不能_レ巧_レ順_レ意_レ也、君子能修_ニ其道_一綱而紀_レ之、不_ニ必其能容_一、今不_レ修其道、而求_ニ其容_一、賜爾志不_レ廣矣、思不_レ遠矣、孟子モ大匠不_レ爲_ニ拙工_一改_ニ廢繩_一

墨^上羿不^下爲^二拙射^一變其轂^上率^上トイヘリ、
○問云、聖人ノ行人以不^レ知コトハアリヌベシ、コレ
ヲソシルマデノ事ハアルベカラザルニ、其ソシリア
ルハイカン、

答云、世人只一方一片ノ事ヲ見テコレヲクワシクセ
ズ、故ニソノ謗^{ソシ}アルコト也、夫子大席ニ入テハ毎^レ事
ニ問タマフヲ、不^レ知^レ禮^トソシルガ如シ、昔孔子陳蔡
ノ間ニタシナメラレ玉フテ七日不^レ食、子貢自圍ヲ
出、一石ノ米ヲ得テカヘリ、顏回仲由コレヲカシゲ
リ、顏回取テ先クラヘリ、子貢カタワラヨリコレヲ見
テ大ニ不^レ悅、顏子變^ズ節トス、コ、ヲ以テコノコトヲ
孔子ニ告、孔子キ、玉イテ顏回道ヲ行フコト久シ、豈
ソレ然ランヤ、但シ汝ガミタル處、又實ナレバ必子細
アリテノコトナルベシ、吾コレヲトワントノ玉フテ、
顏子ヲ召シテ予昨夜夢ニ先祖ヲミタリコノタビ災ヲ
祐ケ玉ハントノコトナルベシ、今カシグ所ノ飯ヲ以
テ先祭ルベシトアリケレバ、顏子答ヘケルハ、サキニ
上ヨリ埃墨^上落テ飯中ヲケガセルガユヘニ、ソノマ、
ヲカンニハ不^レ潔、ステナンニハ子貢ガ勞シテ求メツ
ル米ナレバ、可^レ惜シテ回コレヲクラヘリ、然レバコ

レヲ以テ祭ニソナヘンコトイカバアラント答ケルユ
ヘニ、孔子シカラバ祭ルベカラズトテ顏子モ立ニキ、
ソノアトニテ二三子ニ此事ヲ告タマヘリトナリ、一
事ノ末ヲ取テ云トキハ似タリトイヘドモ、詳ニ不^レ盡
トキハ其誠ハカルベカラズ、孔門高弟ノ間ニモ此タ
ガイアリ、況ヤ凡人ノ聖人ヲソシラン事ウタガフベ
カラザルナリ、

○問云、然ラバ世俗ノ毀譽トモニ心ニサシハサムベ
カラザルヤ、

答云、樂^レ道^ニ人之善、惡^レ稱^ニ人之惡、ハ聖人ノ毀譽也、
吾之於^レ人也、誰毀誰譽、如有^モ所^レ譽者、其有^レ所^レ試ト
ノ玉ヘリ、是聖人毀譽アリ豈毀譽ヲ以テ無^レ之トセン
ヤ、若^モ舉^レ世而譽^レ之而不^レ加^レ勸、舉^レ世而非^レ之而不^レ加^レ
沮^{コトヲ}シテ榮辱之境ヲ事トセザランハ、宋ノ榮子ガ得ル
處、荒唐ノ言ニシテ君子ノトル處ニアラズ、故ニ聖人
ハヨク毀譽ヲ事トス、只ソノ毀譽ヲ詳ニシテ可^レ動ニ
ハ動シ、不^レ可^レ動ニハ動ザル也、巫馬期ガ亦黨スヤト
イヘルヲ苟有^レ過人必知^レ之トノ玉フ、或不^レ知^レ禮ト
ソシルヲバ是禮也トノ玉ヘリ、サレバ知者賢者ノ實
ヲ以テタバスハ、皆世ノ諷諫ナレバ取テコレヲ守リ、

衆愚ノ謬々トシテ謬々屑々タルハ内ニ容ル、ニ不
レ足アリ、君子ト云ドモ時ニトツテ過ナクンバアラ
ズ、過アラシニハナドカ毀ノ來ラザラン、コレヲ以テ
改メバ日月ノ食ニヒトシカルベシ、シカラバ毀譽ト
モニ心ニサシハサマザラント云ハ、聖人ノ心ニアラ
ズト可レ知ナリ、

○問云、今日ノ日用ヲ詳ニツクサント致ストキハ、ツ
クロイコシラヘニナル事多シ、ツクロイコシラヘバ
皆實ヲ失シテ詐僞ヲ事トスルニ似レリ、以前ニ禮ハ
ツクロフ處アリト承知ストイヘドモ、尙心ニ不レ安處
アリ、

答云、凡天下ノ間ノ事物用法ヲヘザレバ天下ノ用タ
ラズ、用法ニハコシラフル事アリ、造作スルコトア
リ、然ルニ是ヲイツワリナリト云ハ、人倫ノ用事タル
ベカラズ、サレバ衣服ハ桑麻ノコシラヘ、織紡ノツク
ロイ、練染ノワザヲ經テ、猶裁縫シテソノ用タリ、飲
食家宅皆シカリ、鉄ハチリテ用ヲナシ、木ハケヅリテ
用タリ、唯鳥獸草木ノミ自ラ皮毛鱗介ヲ生ジ、枝葉草
實ヲナシテツクロフコトナシ、然レドモ鳥獸ハ飛走
シテ物ヲモトメ、草木ハ暖處ニ枝葉ヲ出スルトキハ、

ソノ造意ナキニ非ズ、コ、ヲ以テ考フルニ、草木ヨリ
魚虫ハ造作云爲シ、魚虫ヨリ鳥獸ハ又飛走鳴動ス、泥
ヤ人ヲヤ、サレバ有ニ血氣之屬者、莫レ知ニ於人ニヲ以
テ、萬物ヲ陶鑄シテ人間ノ用タラシム、是詐僞ナリト
センヤ、以前ニ所謂聖人立レ中制節ノ禮、ソノ過不及
ヲ正スノミ也、何ゾ是詐僞ナランヤ、只其マコトヲ考
ヘテソノ性ヲツクサシムルノ教ナリ、サルガユヘニ
人又教ヲ以テ修造イタサレバ、日用ヲ不レ盡シテ人
タルノ道ヲ失ニ至リヌベシ、人倫ノ大道修教ニ因テ
立、コレヲコシラヘナリ、ツクロイナリト云テ廢スベ
ケンヤ、尤可レ慎レ思也、但其誠ヨリ不レ究コトハ、皆用
法トヲモフコトモ、細工ニナリテ實理ヲ不レ可レ得也、
コ、ヲ以テ有道ニ就テコレヲ正スニアリトイヘリ、
譬ヘバ鯉鯛ゴトキ嘉肴、鶴白鳥ゴトキ美鳥アリトイ
ヘドモ、是ヲ造作料理スルコトヲ不レ得バクラフコト
ヲ不レ可レ得、シカレバトテ面々ノ心得細工次第ニコ
レヲト、ノヘバ、其用法タガイテ、嘉肴モ嘉肴ニアラ
ズ、美鳥モ美鳥ノ能ヲ失スベシ、コレ過不及ノ論ニ非
ズヤ、造作云動ヲキラフチ、コレコン無事ナリ易簡ナ
リト思フモノハ、嘉肴美鳥ヲモクラワザル也、皆用

法ナリト思フテ、有道ニ就テ不_レ正トキハ細工ノ料理ニシテ、ソノ實ヲ取失ニ至リヌベシ、其間細工ニモコレヲ料理イタサント思フ輩ハ、用法ヲツクシノ_レテツイニハマコトノ料理ヲモ可_レ得也、易簡ニシカザルトテ料理ヲ心ニカケザルハ、國政家法トモニ皆廢テソレヲ裁許スルコトヲ不_レ得ガユヘニ、遂ニ山林ニ入り世ヲノガル、ノ外ハアラス、是其害ノ大ナルナリ、聖人甚戒シメ玉フ也、

○問云、人ノ言行一事ヨシトイヘドモ、全體道ニ不_レ通バ取テ用ユルニタラザルヤ、

答云、一事ノヨキハ一事ノ善也、一言ノヨキハ一言ノ善ナリ、トモニコレヲ取テ用、コレ揚_レ善也、但一事ヲ以テ全體ヲ是非センコトハ用捨アルベシ、サレドモ一事ニモ大小精粗アリ、ソノ事ソノ道ヲ不_レ詳トキハ具ニ論ジガタシ、陳文子令尹子文ハ一事ヲ以テ清トシ忠トシ玉フ、子張ハコノ一事ヲ以テ仁ヲユルサンコトヲ疑ヘリ、管仲ハ仁ヲユルシ玉フテ、三歸反站ノ一事ハ不_レ知_レ禮コトヲソシリ玉ヘリ、彼此比校シミルトキハ人ノ言行ハ一事ノ善タリトモ取テコレヲ用ユルニタレリ、コレヲ以テ道ニ違セル人ナリト云ベ

ラカザルナリ、サレバ葛藟ノコトヲモ取テ察_ニ通言_一トイヘル也、

○問云、道ハ日用ニ不_レ出、シカラバ平生道ヲ行ハントナラバ、イカバイタシテ可_レ行乎、

答云、道ハ須臾モ不_レ可_レ離ナリ、平生道ヲ行ント云トキハ、平生ノ外ニ道アルニ似タリ、只日用平生是道ナリ、道ヲ行フノ人ハ日用平生各別ナリト不_レ可_レ思也、各別ナラバ是人ノ道ニアラス、須臾モ不_レ可_レ離ノ道ニアラザル也、但シ如此云トキハ、マナバザルモノモ不_レ習モノモ、皆道ナリ仁ナリト云ニ似タリ、シカルニハアラス、日用ノ間何事モアラザルトキハ無爲無事ト號シテ、子細モナクテスナホナリ、若七情ノ發シテ或ハ過、或不_レ及ノトキアリ、或ハ内外ノ事ニ付テ是ハイカバアラント一節ノワザ出來ルトキ、コレヲソレゾレニタバシワキマユル是乃道也、道ノ志ナキ輩ハ過不及ヲ心得ズ、内外ノ事ニ小ヨリ大ニナリヌベキ事、イカボトアリテモ不_レ知、シレリトイヘドモ、ステ、サシヲクユヘニ、先ニテ行當ルコト出來ルナリ、譬ヘバ座敷ヲヨクコシラヘテ塵出レバハキステ、人來テ用事アラバ、サマ_ハノモノヲ取出シ用事ス

メバ本ノゴトク取ノケテ又本ノ座敷ニ成ガ如クナル
ベシ、俗學ハ座敷ヲ立テソノ中央ニ我コノム見事ナ
ル器ヲ取ナラベ、コレヲツ子ニ弄デ樂ムニ同ジ、器ミ
ゴトナリト云ヘドモ座敷ノ中央ニコレヲナラベ置ト
キハ、皆座敷ノ邪魔也、故ニ餘ノ器用ノトキニ可_レ置
所ナシ、人來テモコノ器ニセバメラレテ著座スル處
アラズ、タマ_一入來ル人アリテモ我コノム處ノ器
ヲホメズ、ソレニツイタル物語ヲイタサバ_レ亭主
ノ氣色不_レ宜、是本何モアラザル座敷ニ、一物ヲ弄デ
取出ラクユヘニ、却テ無事ヲ失却シ、道ヲ別ニ味テツ
イニソノ惑ヲトクコトモアタワザルノユヘニアラズ
ヤ、故ニ唯入テハ孝出テハ弟アルノミ、行餘力アラバ
可_レ學_レ文ト也、

○問云、不愧_三子屋漏_一トイヘルトキハ、内ニ少モカク
ス處アランハ、マコトノ行ニ不_レ可_レ有ナリヤ、
答云、不_レ愧_三子屋漏_一ト云ハ我ニ邪義非禮ノ行アラザ
ルガユヘニ、ソノ心ツ子ニ天ニ對越シテハヅルコト
ナキコト也、カクスコトノアラザルト云ニハ非ズ、天
地鬼神ノ幽冥ナル我心ノラクマデ無_レ不_レ通、故ニカ
クスニ所ナシト云ヘル心ナリ、コレヲ心得ソコナイ
テ、何事モカクス事ナキコソ道ノ明白ナル處也ト思

フハ、尤モ相違アルコト也、以前ニ云ヘルゴトク天
地ニ晝夜アリ、日月ニ明暗アリ、晝夜明暗アリト云ド
モ、夜暗ハ必ズアシキ事アリト云ニハアラズ、カクス
ベキ事ハ隱シテアラワサルヲ禮ト云也、愚者ハカ
クスマジキコトヲカクシ、可_レ密コトヲ顯ハス、故ニ
ソノ志道ニタガフコト多シテ、カクストモカクレア
ラザルコトノミ也、唯其事ノ節ニ中ルヲ以テ君子ノ
道ト可_レ致也、サレバ家ノ内ニモ座敷客殿ハ掃除ヲモ
イタシ、潔コシラヘテ人來テアラワス處トス、中門ノ
内物置厨所ナドイワンハ雜掌奴婢ノ往來ニ塵アクタ
モ多クデケレバ、コレハ戸ヲタテ障屏ヲカマヘテ、外
人ノ不_レ見ゴトク致スコレ禮也、カクス處アリトテソ
ノ内ニ不義無道ノ仕形仕業アリト云ニハ非ズ、サ
レバ外人ニハコレヲ不_レ顯トモ親類心友ニハ又コレ
ヲ不_レ藏、況ヤ父母兄弟ニハ閨門帳内ノ中ヲモカクス
事ナシ、シカレバ外人ニハコレヲカクスヲ禮トシ、父
母親戚ニハコレヲ不_レ藏ヲ禮トス、此ワカチヲ不_レ知
ユヘニ、カクスコトナキモノナリト思フテハ外人ニ
モカクサズ、カクシテヨシト心得テハ親戚ニモカク
スユヘ、用法コト_一ク相違也、タトヘバ師ニ對シテ

道ヲ尋テ、弟子ニ對シテ道ヲノブルニモ、心ノ思フコトヲコトヘク問フベキ教ユベキト云ニ非ズ、問コトアリ不問コトアリ、人ノ所ニテ尋ヌルコトアリ、ヒマヲ伺テヒソカニ問コトアリ、師ノ教亦然リ、故ニ子貢伯夷・叔齊ヲ問テ、夫子ノ衛君ヲ助ケ玉ハザランコトヲ知リ、宰予問ニ喪事ニ不敢自隱ハ非ニ正意ト論ゼリ、子貢ガ顔子ヲ疑シトキハ、夫子僞ヲマフケテ顔子ニ問テソノ實ヲ知、退テ其私ヲ見玉フ、皆時ニ取テノ用法也、カクスコトナキヲ以テ必トスベカラズ、○問云、父子兄弟親戚ノ間ニ、不可然コトノアラシヲバ明ニコレヲイサメ、ソノ事承引ナカランニヲイテハ、或ハ義絶シ或ハソノ人ト不通イタスコト世ニ多シ、其用法イカニ心得ベキヤ、

答云、父子兄弟ハ天倫ノ大ナルナリ、故ニコレト義絶センコトハ國家ノ大事ニアラズシテハ不可有之也、但子不肖ニシテ父母ノ義絶ヲ以テ戒メザランニハヤミ難キユヘアランニハ、義絶イタスコトモ亦子ノタメ慈愛ナレバクルシカラザル也、親戚ト云トキハ親類ナリ、縁者ナレバソノ親疎ニ品アルベキガユヘニ、一樣ニ云ベカラズ、コトニ父母ノアヤマチハ子

コレヲイサムルノ法古典ニ詳ナリ、兄ノアヤマル處モ又父母ニツイテ其諫心得アルベシ、弟ノ非義アラシニハ兄コレヲ戒シメテ、非道ニイラシメザルコト勿論也、但シ我ニ道ヲ立ルコトツヨク、彼ガ非ヲ改ムルコト甚トキハ、必ズ父子兄弟ノ間不_レ宜、六親不和ノコト出來ルモノナレバ、能心ヲツクシテ可_レ格致、必竟上タル人ハ寛厚ノ心ヲ以テシ、下タルモノハ敬切ノ心ヲ不失トキハ、親戚不和ニイタルベカラザルナリ、如_レ此子弟ヲモチテハ我名ヲモクダシツベシ、我日比ノ義モタ、ズ、世間ヘノイ、ワケモナキナドト存ジテ、少ノコトニ義絶不通セシメ、子弟ヲ以テ他人ノ思ヲナス事世俗ニ多シ、是欲_レ潔_ニ其身_ニ而亂_ニ大倫_ト云ヘル也、云心ハ君臣父子夫婦兄弟朋友ハ皆人ノ大倫也、シカルニ臣トシテ君ヲ非ナリトシ、子トシテ父母ヲアナドリ、夫婦兄弟朋友トモニ我身ヲイサギヨクイタサントテ、彼ヲ非ニヲトシイレ、義絶絶交センコトハ、身ヲ立ンタメニ大倫ヲ亂ルト云ヘルナリ、是皆自ノ是ヲ立テ、人ヲ責ルノ志フカキヨリ事ヲコレリ、君子ノ甚不_レ爲コト也、衣錦尚_レ絀惡_ニ其文之著_一也、故君子之道闇然而日章、小人之道の然而日亡

トハ、此事ヲ戒シメシ言也、君子ノ道ハ淡而不_レ厭、簡而文、溫而理ト云ヘル、是ハグシカラズギビシカラズ不_レ煩シテ、自ラ人ヲ化スルノ云也、學者ノ心寛厚ナラズシテ、人ヲ責ルコトフカキハ大ナルアヤマリ也、唐太宗問_ニ給侍中孔穎達_一曰、論語以_レ能問_ニ不能_一、以_レ多問_ニ於寡_一、有若_レ無、實若_レ虛、何謂也、穎達具釋_ニ其義_一、以對、且曰、非_ニ獨匹夫如_一是、帝王内_ニ蘊_ニ神明_一、外當_ニ玄默_一、若_ニ位居_一尊、極_ニ炫耀聰明_一、以_レ才凌_レ人、飾_レ非拒_レ諫、則下情不_レ通、取_レ亡之道也、

○問云、國家ノ大義ニヲイテハ、父ヲ父トセズ子ヲ子トセズ、兄弟ノ道不_レ立事アリヤ、

答云、父天下國家之大儀ニ及ブベキ無道ヲ企_テンニハ、子シイテ是ヲ諫、諫ツイニ不可_レ行トキハ、或ハコレヲ上ニ訴、或父ノ無道ナリガタキワザヲカマヘテ、其不義興盛ナラシメズ、サテ吾身ノ收メヤウアルベシ、子又如_レ此ノ不義アランニハ、自コレヲ害シテ其難ヲ施コサシメザルモ可也、況ヤ義絶センコトハ不_レ及_レ論也、兄弟ノ間ハ父子ノ道ヨリ又輕シ、故ニ兄無道ニシテ國家ノ大儀ヲソムカバ、弟コレヲ戒メンコト勿論也、弟ノ不義ハ子ヨリ一階寛裕ナルベシ、サレ

バ禹ハ鯀ノ變ニ處シテカヘリミズ、周公ハ管蔡ガ變ヲ處シ、石碯ハ子ノ石厚ガ變ヲ處ス、皆天倫ニ拂ルトイヘドモ、ソノ害ヲ國家ニ及バシメテ萬民ヲクルシメ、不義無道ヲ興盛セシメテ、家ヲ失イ恩ヲ廢センコトハ君子ノ非所致ガユヘ也、凡ソ門内之治、恩掩_レ義、門外之治、義掩_レ恩ト云コトアリ、門内ト云ハ一門親戚ノ事也、門外トハ他人ノ事也、云心ハ親シキ間ニハ義ヨリハ恩ヲ重ジテ事ヲ行ヒ、他人ノ間ニハ恩ヨリハ義ヲ先ニイタス事也、サレバ親戚ノマジハリハ義ヲ先ニイタサズ、何事モ親キ處ヲ本トイタシテ執行フトキハ情ニ拂ルコトナシ、他人ノ間ハ何ホド親キ交アリト云トモ、義ヲ先トシテ事ヲ可_ニ執行_一ト云ヘルコト也、コ、ヲ以テイハバ、父子兄弟ノ間ナニホド遺恨アリト云ドモ、私ノウラミヲ立ルトキハ、義ヲ以テ恩ヲ忘ル、ト云ベシ、シカレドモ國家ニ對シ萬民ニヲイテ不義無道ノコトアツテ、大義大變アランニハ又一片ニ處シ難也、昔周公旦管叔ヲツカワシテ、殷ノ奉行タラシム、管叔ヤガテ謀叛ヲ起シテ周ノ天下ヲクツガヘサントス、周公ツイニコレヲ討シテ管叔ヲコロセリ、周公ハ聖人也トイヘドモ、兄ノ無道ヲ見

知玉ハザルヤ、シカラバ知者トハイ、ガタシ、又知テ
ワザトコレヲツカワシ、其身ヲ亡ニイタラシムルハ、
不仁ト云ベシトイヘルコトヲ、孟子ニ尋タルコトア
リ、是世上ノ利口ト云ヘル輩ノ申沙汰イタス事也、是
門内ニ義ヲ先トシテ論ズルユヘノ不審ナリ、弟トシ
テ兄ヲサゲスミ、不_レ起_レ惡ヲヲコラントテ戒スツル
コト、豈聖人ノ道ナランヤ、舜之弟象ガ無道ハ舜マコ
トニヨク知玉ヘドモ、猶愛_レ之シテ欲_ニ其富國ノ主ト
イタシ玉フ、是皆聖人兄弟ノ交際其親愛ノ實ナリ、サ
レバ人トシテ五倫ノ交際内外親疎ノ差別共ニ心ヲ不
_レ付シテハ、是非邪正必ズタガイアルベキ也、

○問云、子弟ノ父兄ニツカフル事、専バラ敬ヲ以テス
ルコトアリ、又親ヲ第一トシテ禮義ヲ急ト不_レ致コト
モアリ、イヅレヲ是トスベキヤ、

答云、父母ニツカフルノ道敬ニ過ルトキハ親愛淺シ、
不_レ敬トキハ犬馬ノ養ノ戒アリ、故ニ一片ニ難_レ言コ
ト也、ソノ上其身ノ階級分限ニ因テ、次第アルベキコ
トナリ、但父子兄弟ノ間ノ禮義ト云ヘルハ、他人ニイ
タス禮義トハ事カワルベシ、シカレバ親シキ間ハ何
事ヲモ脩飾イタシ、コシラヘカザルコトヲ禮トセズ、

唯親切ヲ深クイタスコト古ノ禮ナリ、コ、ヲ以テ云
トキハ、父母ヲ養飲食ソノ味ノコノミヲ考ヘテ、能ト
トノヘ、コレニ切形、モリカタノカザリ、不_レ入菹醢ヲ
不_レ事、コレ實ノ禮ナリ、但賀儀祝儀等ノコトアラン
ニハ又様カワルベシトイヘドモ、此心得ヲ以テ禮ト
スル也、是有_ニ以_レ素爲_レ禮者ト云ヘル心也、此心ヲ以
テ推トキハ、衣裳器物ニ至ルマデ、禮節ノ用他人ニイ
タストハコトカワリスベキ也、昔孝節先生ガ襦幘_{シテ}揖
レ母ハ禮ニ過タルノ許前ニ云ヘルガ如シ、蓋父母ニツ
カユルノ道敬スベキ所アリ、敬スベキ時アリ、親ベキ
所アリ、親シムベキ時アリ、各其時宜ヲ詳ニシテ其實
ヲ以テコレヲ用ユルトキハ不_レ違、コレヲマコトノ孝
ト可_レ謂也、其上父母ノ位我位ニヨツテ、ソノ制法サ
マ_ト、次第ノアルコトナレバ、一樣ニ心得テ、或ハ敬
ニ過テ親ヲ失、或ハ親ニ過テ敬ヲ失、皆其實ヲキワメ
ザルノユヘ也、親ト云ニモ敬スト云ニモ、其品アルコ
トナレバ、其格致ヲ以テ盡スベシ、敬ハ禮ナリト云ヘ
ドモ、父母ヲ敬スルト主人ヲ敬スルトハ似テ不同、父
母ヲ敬スルハ親愛ヲ先トシテ敬跪屈曲ヲ事トセズ、
主人ヲ敬スルハ敬跪屈曲ヲ先トシテ親愛ヲ以テ必ト

セズ、故ニ君ニマミユル衣服ヲ以テス、父母ニ日夜マミユルコトハ、人々相繼デイタスベキ禮ニ非ズ、禮ハ古今相續シテ可ニ以テ行フ道ヲ立ニアリト可レ知也、

○問云、他人ノ交際親疎ノ差別ヲ立ハ、エコヒイキト云ノ類ニ可レ似カ、

答云、親疎ヲ立新舊ヲ論ズル是人倫交際ノ禮也、皆同コト、云ハンハ、四海皆兄弟ナリト云ヘル類ニシテ、聖門ノ教ニ非ズ、サレバ貴賤ヲワカチ上下ヲ明ニシテ、ソノ人ソノ位ニ從テ其用法ヲ詳ニスル事、君子ノ道ナリ、

○問云、タトヘバ貴人高位ノ人ナリト云ドモ、是ニ屈シテ事ヲ致サンハ、本意ヲ失ニ似タリ、然レバトテ不レ屈ハ禮ヲ失ノソシリアルベキカ、

答云、主君又ハ貴人ニ對シテノ禮ハ、詳ニ曲禮少儀内則弟子職ノ諸篇ニ出ダレバ、是ヲ本トシテソレニ從テ用捨可レ有之也、凡ソ貴人高位ニ對シテハ屈曲シテ禮ヲ盡ス事定レル道也、形屈スルトキハ心氣モ亦屈ス、故ニ言論辭氣トモニ屈スルコト是禮ナリ、夫子魯ニツカエ玉フテ、君臣ノ威儀鄉黨ノ一篇以テ考ユベキ也、サレバ顔色ハ勃如タリ、ソノ足ハ蹶如タリ、

ソノ身ハ鞠躬如タリ、升レ堂トキハ屏氣似ニ不レ息者ト出タリ、是皆君臣上下ノ禮ニシテ大聖ノ所ニ執行也、俗ノ人形ハ禮ニ屈シ心ハコレニ不レ屈ト云コトアリ、甚アヤマレリ、形屈スルトキハ心屈ス、形ノ外ニ心ナシ、心ノ外ニ無レ形、只惑フコトナキガ故ニ屈スト云ドモ不レ違也、但君コレニ道ヲ尋テ師トシ、事ヲ問テコレヲ臣友トアランニハ、其ユルサレヲウケテ、形體ヲモ不レ屈コト、古ヘヨリノ禮也、聖人ノ言行經ニ詳ナリト云ヘドモ、學者是ヲ不レ盡ガユヘニ、其道ヲ不レ得也、サレバ君ニツカエテ其禮ヲ盡シ玉フヲ詔ナリト、時ノ人コレヲソシレルコト論語ニ出タリ、

○問云、今日ノ日用小事ヲバサシ置、其大義ヲカクマジキ心得ヲ、本トイタスベキコトニヤ、

答云、事物ノ大小ト云コトハ、我ニ格致ノ功スクナキトキハ、以レ小爲レ大、以レ大爲レ小テ大小輕重ノ思入タガフモノ也、初學ノ輩ハ先大段ヲ以テ改メ、小節ヲユルスコトアリトイヘドモ小積テ大タリ、故ニ小ヲツクサバレバ大ハ通ゼザルモノ也、コトニ大事ニ及ビテ其道ヲカクトキハ、人コレヲユルサバルヲ以テ、道ヲ不レ知輩モ大ニタガフコトハ不レ致モノ也、小事ハ

人モ心ヲ不_レ付、我モカヘリミザルガ故ニ、小事ニ必
ズアヤマリ積ルモノ也、聖人ノ教ハ專日用ノ事トス、
日用ハ小事ナリ、近キ事ナリ、ヒキ、コト也、下學也、
コレヲツクスヲ聖門ノ教ト云ヘル也、中庸ニ天下國
家可_レ均也、爵祿可_レ辭也、白刃可_レ蹈也、中庸不_レ可_レ
能也ト出タリ、中庸ヲ能スルト云ハ、日用事物ノ間、
中庸ニ相カナフノ心也、天下國家ヲ均シ、爵祿ヲ辭
シ、白刃ヲフムハ、ソノ事甚大ナリトイヘドモ、世ニ
コレヲイタス輩スクナカラズ、シテ、日用事物ノ、
リヲ心得、コレニ相合如ク仕ル人ハ古今ニ多カラズ、
コ、ヲ以テ云バ君ニツカヘテ忠ヲナシ、父母ニツカ
ヘテ孝ヲツクシナンハ、人倫ノ大義ナリトイヘドモ、
是又世々ニトボシカラズ、事物ニ中庸ヲヨクセンコ
トハ、ツイニ難_レ叶コト、云ベキナリ、サレバ學者ハ
小事タリト云ドモ、コレヲコマカニ格致シテ、ソノノ
リニ合ガゴトク可_レ心得_一コト第一ノツトメナリ、苟
子不苟篇ニ君子行不_レ貴_ニ苟難_ニ唯其當_レ之爲_ニ貴ト出
タリ、コレモ難義ナランコトヲ行フコトヲヨシトス
ルニ非ズ、禮義ニアタルヲ貴ト云ノ言也、先儒云、慷
慨殺_レ身者易、從容就_レ義者難、又云、死_ニ於禍難_一是易

事、死_ニ於不_レ可_レ奪之節_一是難事トモ云ヘリ、コ、ヲ以
テ云トキハ、一郡一邑ノ奉行タルモノ盜賊等ノ急難
アラントキ、不_レ能_レ死_レ難、ノガレサツテ其事ヲスツ
ルモノハ昔ヨリマレナリ、ユヘニソノ難ニハ死スル
コト易クシテ義ニ就テ事ヲナシ、節ヲ正シテ謀ルコ
トハナリニク、マレ也、然レドモ節ニ死ニ、義ニ死ス
ルコトモ、一旦ノ死ナル故ニナリニクカラズ、只日用
事物ノ事々ヲ道ヲ以テ行コトハナリガタキコト也、
コノユヘニ夫子ノ子路冉求ヲ弑_レ父與_レ君_一亦不_レ從ト
ノ玉ヘルモ、大事ヲバワカツベキトノ言ナルニヤ、
○問云、小事ヲツマビラカニ盡サントイタサバ、鑽細
ニシテセバ、シカルベシ、君子ノ道ハ簡ニシテ不_レ
煩ト云トキハ、其心得イカバ可_レ仕ヤ、
答云、コレヲ盡スニ其道ヲ以テ不_レ爲ガユヘニ、煩勞
シテ無_レ益ナリ、道ヲ以テ格致スルトキハ至テ微小ナ
ル事マデ、其ワケ明白ニシテ更ニ疑滯スベカラズ、疑
滯スルコトナキトキハ何ノ煩勞アラシヤ、人ノ非ヲ
トガムル事ツマビラカニ、奴婢僕從マデ聖賢ニ至ラ
シメンコトヲ事トシテ、毛ヲ吹テ疵ヲ求メ、スミカラ
スミマデ、一筋ノ塵ナキ如クセンナド思フ志ヨリ事

物セハ、シクシテ、其道ヲ不_レ得コトアリ、是格物ノ教ニクシテワカチヲ不_レ知ガユヘ也、サレバ學者易簡ヲコト、スルトイヘバ、何事ニモカマワズ、悠寛トシテ事ニヲコタルニ至リ、事物ヲツマビラカニ致トイヘバ、セハ、シク勞シテ下民却テクルシミ、ソノ身モ安ンズルコトナキニ至ル、トモニ聖門ノ教ヲ不_レ心得_レノ失也、聖人ノ易簡ハ事物ヲ盡シテトドコホルコトナキガユヘニ、悠然トシテイタヅガワシカラズ、事物ヲ盡ス時ハ能人情事變ニ通ズルガユヘニ、本末前後明白也、サレバ國政法トモニ其禮正シク、キワマリテ紛擾スルコトナシ、コノユヘニ小事ヲツマビラカニ盡サントイタシテ、鎖細ノ事アラバ是道ヲ不_レ得ト知テ、其道ヲ得コトヲ可_レ省也、

○問云、財寶ノ事心ニヲモイハカランハアサマシキワザ也、唯アルニマカセテイタサンコト、君子ノ道タルベシヤ、

答云、君子ハヨク財寶ヲ思イハカル、故ニ或ハコレヲ與ヘテ不_レ吝、或ハ是ヲ不_レ與、トモニ道ノ明ナルニマカセテ財寶ニ不_レ惑、古ノ人ハ財寶ヲ海ニ捨タルモアリ、コレヲ手ニモトラズ口ニモ不_レ言アリ、陳文子ハ

馬十乗棄テ違_レ之、令尹子文ハ三爲_レ令尹ニ無_レ喜色、三已_レ之無_レ愠色、イヅレモ皆或清淨ノ行ヲハゲマシ、其操ヲ立テケレドモ、是財寶ヲ心ニヲモイハカラザルヲヨシト云ニハ非ズ、サレバ夫子爲_レ委吏_ニテ料量平ニ、子華使_レ齊シテハ爲_レ其母_ニ與_レ釜、又與_レ庾タマフ、原思ニ粟九百ヲ與ヘ玉ヘル、皆是聖人ノ財寶ヲ用ユル道ナリ、更ニ財寶ヲスツルコトナク、又コレヲ籠略セシムルコトアラザルユヘニ、其用法ヲ詳ニシ、可_レ與ヲアタヘ、可_レ受ヲ受ルニアリ、若其與受ノ道ノリニタガフトキハ、惠而費多ク與傷_レ惠ト云ニ至ルベシ、夫子舊館人ノタメニツヘムマヲ以テ吊シ、顔子ガ葬ニ櫛ツクランコトヲ不_レ與、聖人ノ行可_レ以考_レ之ナリ、サレバ人ノシキリニ財寶ヲ好デ厭コトナク、金ヲ北斗マデサ、ヘンコトヲ思フテ、府庫ニ富サンコト、尤其知クラキガ所_レ致ニシテ、惑ヲ不_レ辨也、又金銀財寶ヲ泥沙ノ如クナラシメテ、金ヲ山ニステ玉ヲ海ニナグルハ、其惑吝嗇ノ輩ニハコトヤウナリトイヘドモ、同是知ノ不_レ明ガイタス所ト可_レ知也、

○問云、富貴ハ天命ノ致ス處ナリト云ヘルトキハ、コレヲ求ムルハ皆天命ニタガフト云ベシ、然ルニ國有

レ道ニ貧シテ且賤ハ耻ナリト云トキハ、又命ヲマタズ
シテ是ヲ求ムルニ似レリ、此間ノ心得會得イタシ難
シ、

答云、聖人ノ世間ニヲケル、求ムルニ道ヲ以テシテ不
レ得トキハヤム、是乃知天命也、求ザレドモ富貴自
來リ、求ニ以テ道トイヘドモ不レ得ニ其位一バ、是トモニ
天命ト云ベシ、國ニ有レ道トキハ君子賢人ノ可レ出ノ
時ナリ、此時ニ當テ世ニ用ラレズシテ空シク山林ニ
蟄居センコトハ、君子ノ志ニアラズ、故ニ位ニアタラ
ズ富コトヲ不レ得バ、ソノ時ニ當テ時ニ不レ合ガユヘ、
可レ耻ノ道トスル也、是乃天命ヲシルノユヘナリ、サ
レバ今五穀ヲ種ルニ其ワザヲツクシ、其道ヲ得トイ
ヘドモ水旱時ヲ失テ、災害是ヲソコナフトキハ天命
ト云ベシ、種耕道ヲ不レ得耨ルコトナク省コトアラズ
シテ、ソノ功ヲ待テ天命ヲ以テ論ゼンコトハ、君子ノ
所謂天命ニ非ナリ、世ノ人天命ヲ不レ知シテ事ノ究マ
レルヲ以テ天命トス、シカレバ天ノ道ヲ不レ盡シテ天
命ヲ談ズ、豈是真ノ天命ナランヤ、
○問云、聖人ニ貯ニ貨財一コトハアルベカラザルコト
也、

答云、是世俗ノマナブ處ナリ、貯ルモ散ルモ共ニ天地
ノ道ニシテ、人物コレニノツトルノコトワリ也、サレ
バ秋冬ハ收藏シテ春夏ニコレヲ生長ス、陰氣ハ閉テ
カクレ、陽氣ハ開テ分散ス、是皆衆散分合ノ道也、故
ニ國ニハ國ノ貯ヲマフケ、天下ニハ天下ノ貯ヲマフ
ケテ、以テ不虞ノ備トス、シカラザレバ水旱災難ニ及
ンデ、コレヲ救ヒコレヲ補ノ道アラザル也、コレ國
無ニ九年之蓄一曰不足、無ニ六年之蓄一曰急、無ニ三年
之蓄一曰國非ニ其國一也、三年耕必有ニ一年之食、九年
耕必有ニ三年之食、以ニ三十年之通、雖有凶旱水溢、
民無ニ菜色、然後天子食日舉以レ樂ト云々、夫子失ニ魯
司寇、將レ之荆蓋先レ之以ニ子貢、又申レ之以ニ冉有、コレ
不レ欲ニ速貧一也ト、有子コレヲイヘリ、只君子賢德ノ
人ハ貯ルニモ其ノリヲ以テシテ、以テ人ヲ救、以テ人
ヲ安ズルヲ本トス、小人愚者ハ貯ルニ其ノリヲ不レ知
ガユヘニ、財貨ヲ好デ難レ得ノ實ヲアツメ、コレヲ以
テ樂トス、又財ヲ散ズルコトヲ云ヘバ、其ノリヲ不
レ知ガユヘニ、家ヲヤブリ身ヲ苦、人ヲタヲシテ借レ貨
取レ彼テ以テ人ニ與ユ、トモニ過不及ノ間ニシテ禮ニ
不レ中也、サレバ聖人ハ知惠明ニシテ物ニ不レ惑、イカ

ンゾ財寶ニ惑ハンヤ、シカレバトテ財寶ヲイヤシンズルニ不_レ在、只ソノ道ニマカセ其禮ニシタガフノミ也、世俗久異端ノ説ニ習テ、財寶ヲイヤシンズル處ヨリ、貯ルト云コトアラザラント思ニナレル也、老子貴ニ難_レ得之寶ニ以テマドイ、ス、我聖人ノ教ハ否、不_レ惑ニ難_レ得之寶ニミニシテ、難_レ得ノ寶ヲ不_レ貴ニハアラザル也、凡ソ器寶ハ皆難_レ得不_レ貴トキハ非_レ寶、惑ガユヘニ寶ヲ失、不_レ惑トキハ寶ツチニ寶タリト可_レ知也、○問云、器物諸事多ハ古ヨリ文飾多シテ巧ナルコトアリ、コレ皆道ノ衰テ智ノ過ルユヘナルベシヤ、

答云、今ノ器物ハ古ヨリ却テ文飾スクナク疎草ナル也、コレハ禮ノ不_レ行ユヘト可_レ知、禮行ル、トキハ其位祿ニ因テ器禮用具ノ制、文飾不_レ備アラズ、故ニ金木ノ器、其鏤飾甚細密ニシテ、後世ノ及ブ處ニアラザル也、所々ニ相ノコレル器制ヲ以テ可_レ知_レ之也、次ニ物ノ巧ナルコトハ天下久シク承平ナルガユヘニ、事物ノ制ハジメハ形計アリトイヘドモ、今是ヲ備ワラシム、コレヲ道ノ衰タルト云ハ、異端ノ意見ニシテ質朴ヲ事トシ、自然ヲ貴ブノ故ニコノ沙汰アリ、全クコレアヤマリ也、タトヘバ古ハ穴居野處シ、犬羊ノ皮ヲ衣トシ、土ヲクボメテナベトシ、平ヲクボメテ物ヲ

クラフノ器トス、コレヲ次第々々ニ制作シテ、家宅衣服食物用器ニ至ルマデ、人ノ巧ミナラザルコトナシ、是皆タクミナリト云テ棄ベシヤ、コトニ異國ノ制法ハ本朝ニ用イガタキコト多ク、異朝ニテモ古トカワリテ今コレヲ用テ利トスルコト多シ、タトヘバ車戰乘車ノ制、古ハ良法ニシテ今コレヲ用ユルニ不_レ足、井田ノ制ハ三代ノ良法タリト云ドモ、今コレヲ用ントスルニヨシナシ、サレバ漢ノ王莽井田ヲ制シテツイニ不_レ行、唐房琯車戰ヲ用テ大ニ敗、共ニ萬代ノアザケリヲノコシス、是皆古今ノ時不_レ同ガユヘ也、六朝以前梅花不_レ賞、唐以前牡丹ヲ不_レ統ノ類世以テ多シ、是其事物時ニアラズトイヘドモ、今世ニ用ユルコト甚利アツテ、道ニ近カラン事亦多シ、本朝ニモ其類一不_レ違_レニ枚舉、近頃マデ京中ノ公家各車ニ乗テ徘徊ス、今ハ便輿ヲ用テ事ズクナニ用タレリ、便輿ノコト王荊公程伊川トモニ以_レ人代_レ畜トイヘリ、是ソノ時ニハメヅラシク、ソノワザニツクモノクルシムコト多ヲ以テ此論アリ、ソノ施行ヤ、久シキヲ以テ、今コレヲ俗トス、故ニ以_レ人代_レ畜ノ論アルベカラズ、但不_レ可_レ乘ノ徒コレニノランコトハ不_レ可_レ用、凡ソ衣服飲食家具ノ制マデ古來アラザリシ事、近代コ

レヲ巧ミ用テ甚便利ノ多ク、道ニ近キ事一々不_レ遑_レ枚
擧、其制作タクミナラズト云コトナシ、タトヘバ古來
ハ皆火炬ヲ用ト云テ、家々ニモタイマツヲ立テ行事、
今ハ油ヲ用蠟ヲ取テ燭トス、油ヲシボリテ火ヲトボ
シ、蠟ヲ取テ燭トスルコト無_レ不_レ巧、古來ハ人自水ヲ
汲ム、今ハ桔槔^{ハネルベ}ヲ以テ汲ニ利アラシム、古ハ弓弩ノ外
ニ武器ノ用ナシ、近代ハ鳥銃火器ヲ用ユ、其カラクリ
機巧ノ極ヲ得タリ、是等ノ器物サラニ可_レ棄ユヘンニ
非ズ、古ハ席ヲ立テバ必ズ牲ヲコロシテ其血ヲチヌ
ル、宗廟ノ器ニソノ名アルモノハ、皆牲ノ血ヲ用テコ
レヲヌレリト云、ソノコトワリアルコトナリトイヘ
ドモ、今本朝ニライテハ是ヲ用ユルニ不_レ宜、シカ
レバ異國ノ制法亦本朝ニ取用ユルコトカタク、古來
實ニ過ルコト多クシテ、用ソノ利アラザルコト不_レ
少、コ、ヲ以テ云トキハ下愚末儒時宜ノ禮タルコト
ヲ不_レ知、偏ニ古法ニ泥マンコトハ必ズ人ヲアヤマル
ノ道タルベシ、又世俗ノ倣姦ノモノ時宜ニ不_レ合ト云
テ、古ヲ不_レ師トキハ、必小人ノ利ニ愈_ニ至_ル、トモニ
君子ノ道ヲ失ベシ、

○問云、イヅレノ教ニモ心ヲ修メ心ヲ正スル事ヲ專

トス、心正シキトキハ知恵明ナルトイヘリ、然ラバ先
ヅ心ヲ正シクヲサムルヲ以テ、初トセン事ニヤ、
答云、正_レ心ト云ハ大學ノ教也、率_レ性ト云ハ中庸ノ教
ナリ、其放心ヲ求メテ心ヲ存スルハ、孟子ノイヘル言
也、心正シキ時ハ身修マリ、知明ナラン事勿論ナリ、
凡ソ心性ハ形象ハカリ難シ、故ニ目ニミルベカラズ、
耳ニキクベカラズ、手ニトリ口ニ言ベカラズシテ、又
目ニ見耳ニ聽口ニ云、手足動靜ニ發見スル事、心ニア
ラズト云事ナシ、シカレバ心ノ全體日用ヲ不_レ出ガユ
ヘニ、心ヲ正センコトヲ欲スルトキハ、先日用ノ事物
ヲツクシテ、其知ヲ致_スムルニアリ、知キワマレバソノ
情意自誠ニイタリテ、心性コ、ニライテ正、是知至而
后意誠、意誠而后心正ト云ヘルナルベシ、コノユヘニ
聖人ノ教、唯日用ヲ詳ニスルニアリ、學而時習亦不_レ
説乎トイヘルハコノ心也、學習ハ知ライタスノ道ニ
シテ學習スルトキハ、ソノ心正シクナリテ、自悦喜
ノ所出來ス、コレ道ヲ修ムルヲ教ト云ニモ相合ヘリ、
不_レ學不_レ修シテ上達センコトヲ欲シ、心ヲ直ニ正シ
クセント云ハ、アユマズシテ至ランコトヲ子ガイ、不_レ
炊シテ飯ヲマツニ同ジ、一生コレヲ求ムト云ドモ只

空言ニシテ實所アルベカラザル也、若日用事物ヲ措テ只心性ヲ云、シキリニ是ヲ求メ工夫スレバ、内ニ一ツノ意見出來スルモノ也、是ヲトメテ性心ノ本體也、聖人ノ仁未發ノ中、無息ノ至誠ト思テコレヨリ出ル所ヲ良知ナリ、良能ナリト究ルトキハ、工夫次第ニ高尙シテ、知惠日ニクラシ、スベテ我心ノ一向ニムカフ處ノゴトクニ、聖人ノ書ヲモ見ナシトリナシテ、是ヲ以テ四民ヲ治メ事物ヲ辨ジテモ大槩替ラザルモノナレバ、是ニテ事ナルト存ジ、我不ニ心得事物ノ滯ルコトアレバ、世事ハ又別ノコトナリト、ステ、世事ニナラヘルモノニ取アツカワシメ、或ハ我性心ノ工夫未熟ユヘト身ヲカヘリミル、皆是日用ト二ツニナリテ聖人ノ大學ノ教ヲ不レ知ガユヘ也、次ニ心正トキハ、知明ナルト云ニ生知安行ノ人ヲ云コトアリ、人ノ氣質上品上知ノ人ハ、天性發明ニシテ事物ニワタラザレトモ、乃通ズルノ人アルベシ、コレヲ生知ト云、如此輩ハ末ノ世ニ未ニ曾有也、周公孔子ノ大聖モ不レ學シテ至ルト云ヘルコトヲ不レ論、況ヤ其他ヲヤ、況ヤ末世ヲヤ、況ヤ凡愚ノ吾儕ハ沙汰イタスニ不レ足事ナレバ、心ヲ正シクセントナラバ、先日用事物ヲ詳ニ

シテ、其知ヲ明ニキワムルヲ教トスベキ也、○問云、心ハ體ニシテ知ハ用ナルベシ、體ヨリ用ヘウツルベキ事ト、古人ノ教ニモミヘ侍レバ、體ヲ第一ト心付クルコト可レ爲本乎、ソノ上事物ハキワマリナシ、一生ヲカサストモ終ニ不レ可レ盡乎、答云、ヒキ、ヨリ高二至リ、近ヨリ遠キニイタリ、下學シテ上達ス、是學ノ階級ナリ、上達シテ下學スト云コトハアルベキ道ニ非ナリ、右ニ云生知上知ノ人ト云ヘドモ、知ノキワマル處、凡愚ノモノヨリ速ナルガユヘニ、學ノ成就ハヤキ也、タトヘバ生レ出テ年月ヲ經テ而後ニ成人ノ道アリ、元日ヨリメグリテ、一年ノ成功ヲナスニコトナラズ、孟子ニ心ノ官ハ思ナリトイヘリ、知ヲ措テ心性ヲ云ハ心ヲステ、心ヲ求ムルナリ、體ハ用ヨリ立ツ、體用元來ニツアラザルナリ、サレバ能思フトキハ、心ソノ職ヲ得、不レ思トキハ心ソノ職ヲ不レ得也、次ニ事物ハキワマリナシ、一生ヲカサストモ終ニ不レ可レ盡トノ事全ク不レ然、心性ノ智識ハ萬物ニワタツテ更ニ究リナク盡クル事アラズ、事物ハ天下古今ノ間ヲコナワレシ事アリ、物アリトテモカギリアル事ナリ、惣ジテ形象ナキモノハソ

ノ用無^レ盡、形象アルモノハ千變萬化ストモ限リアルモノ也、故ニ大唐ノ文書ニ上古ヨリ今日マデノ事物コトゴトク盡テソノ書又多カラズ、心知ノ作用ハタトヘバハマノマサゴヲツクシ、蒼海ヲ筆ニシタテタリトモ、イカデカ可^レ盡ヤ、次ニ學者日用ノツトメ一生ノ間、是ゾツトメザルト云事ハアラザル也、サレバ孔子モ學デ不^レ厭トノ玉ヘリ、曾子ハ任重シテ道遠シトイヘリ、コ、ヲ以テ學ベバ日々是學也、如^レ此心ヲ付テ思慮セバ、キワマリナキ所ニキワマリ出來ベキ也、○問云、心ト云性ト云、其大概ヲ承知センコトヲ欲ス、

答云、形氣アルモノヲ萬物ト云ヘリ、萬物ハ陰陽コモゴモニマシハリ、五行相ヨツテ其形體ヲナスユヘニ、形シテ下ナルモノナリ、サレバ人モ萬物ノソノ一ツナレバ、地ニ屬シテ重ク濁レルノコトワリアリ、形氣ノ精分ヲ性心ト號ス、氣ノ精ハ性、形ノ精ハ心ナリ、サレバト本二ツニワカルモノニアラズ、推シテ云トキハ如^レ此也、形氣ハ地ニ屬シテ重ク濁ルトイヘドモ、其精分ハニゴルトモ清トモ名ヲ付ベキニ非ズ、ソノ形氣ノ過不及ニ從テソノ性心ノ用アリ、故ニ形

氣多ク濁ルトキハ、ソノ感動知識モ亦ソレニ應ジ、形氣多ク清トキハ、感動知識モ亦然リ、人倫バカリニアラズ、鳥獸魚虫草木トモニ皆如^レ此、サレバソノ生質ノマ、ニイタストキハ、形氣ニヒカレテ其用ヲナシテ、或過或不^レ及ガユヘニ、マナブト云習ト云ノ教ヲ立テ、ソノ形氣ノ質ヲ自然ニ變化セシムルヲ以テ、聖人ノノリト云ヘルナリ、氣質ノ至清至濁ニ因テ或ハ習ハズトイヘドモ善ニ不^レ移、或ハ不^レ學トイヘドモヨク通ズルアリ、コレヲ上知下愚ト號ス、シカレドモ我身ノ上知下愚吾ナガラ知ベキニ非ズ、故ニ常習ノ道ヲ盡ニアリ、

○問云、人ノ性心ハ本來明白ニシテ只善而已ナリ、シカレドモ氣質ニヨツテ此濁リ出來ル、コレヲシリゾケテ本ノ明善ニカヘルヲ聖人ノ教トスト、先儒ノ說ニ出タリ、今承知スル處ニ不^レ同、

答云、凡ソ善惡ト云明暗ト云ハ、皆ソノ物ト事トニ付テイヘル名義也、事物イマダアラワレザルトキハ、明暗善惡云ベキ處ナシ、故ニ人ノ性心ハ只感動知識ヲ以テ名ヅクル也、天下ノ人々形氣アルノ類、感動知識ナキモノアラズ、是ヲ性ハ相近シト云ヘル

ナルベシ、シカルニ性心本來明白ナリ、只善ノミナリト云ハ、中庸ニ天命之謂レ性トアリ、孟子ニ性善ト出タルコトヲ心得チガエ、又ハ異端ノ説ニ惑ヘルト可レ知也、天命之謂レ性トハ、人ノ生死ハ天ノ命ニシテ、二氣ノ五行アツマリテ、此形氣出來性心相具スル事、全ク天ノ命ナリト云ヘル心也、コ、ニ善惡ノサタアルベカラズ、又孟子ノ性善ト云ヘルハ堯舜ノ性ハ善ナリト云ヘル言也、右云所ノ形氣上知ノ人ノ性心ハ、能事物ニ通ズルト云コレ也、コトサラ孟子ノイヘル言皆人ハ萬物ノ長ニシテ、二氣五行ノ秀精ヲウケ出タレバ、ソノ性心モ萬物ニスグレタル所アル、善ヲ好ミ惡ヲニクム所アルナレバ、學ブトキハ聖賢ニ不レ至ト云コトアラザルト云ヘル教誨ナリ、サレバ孔子ノ性相近トノ玉フハアヤマリナルベシヤ、今詳ニ性心ヲツクストキハ、蓋ニ氣五行相アツマリテ、陽ハ氣トナリ陰ハ形トナリ、陰陽乃五行ニアラワレ、相交テ一體ノ人倫ト生ズ、コノ形氣ノ精性ト云、心ト云、是人倫ノ建立也、サテ人ニ耳目鼻口身體アリ、故ニ視聽言動ノワザアリ、聲色香味ノ用ヲ爲、喜怒哀樂愛惡欲ノ情アラワレ、惻隱羞惡辭讓是非信實ノ端ヲナセリ、

是乃陰陽五行内ニソナワリテ、ソノ用外ニアラワルルニアラズヤ、是ヲスベテ云トキハ性心ノ知識ト云、是天下ノ萬民同ジク然ル所ナリ、コ、ニ善惡モ明暗モアラザル也、只各ソノ氣稟ノマ、感應ス、然ルニ人ハ萬物ニ長タルノ精アルガ故ニ、思慮尤モ深クシテ、情ノハタラクマ、ニ應ズル事ヲイタサズ、教ヲナシテ其情ヲ節シテコノ性心ヲ全シテ身體ヲ修ム、サレバ思フ事ヲシユルコト鳥獸ニモアラズト云コトナシ、鳥獸ソノ氣草木ヨリ偏塞スクナケレバ思慮亦アリ、故ニ性ハ形氣ノ精ニシテソノ應用思慮コトトク心性ノ用所也、コ、ヲ以テ一身皆性心ノ作用ニシテ、作用ヲトメテ又性心トスベカラザル也、次ニ先儒氣質ノ性天命ノ性ヲ立テ論ズル事甚ダガヘリ、性ハ形氣ノ間ニナレリ、氣質ノ外ニ性アルト云ベカラズ、氣質ナキトキハ性ヲ云ベキ處ナシ、人ノ外ニ道ナキガ如シ、性ヲ善ナリ明白ナリトシイテ説コトヲ欲スルガ故ニ、此説ヲ立テ孔子ノ性相近トノ玉フハ氣質ノ性ヲ云、孟子ノ性善ハ天命ノ性ナリト云ワクル、皆大ニ學者ヲ惑ワシムルノ義也、○問云、我性心ニ善トキワマレル處ナク、明白ナル處

アラサレバ、全ク是非善惡ハ心中ニ定メ難シ、心中ニ定ムル處ナキトキハ、彌マドフベキニ似タリ、

答云、我心ヲ以テ是非ヲ定ムルヲ私ト云己ト云、意見臆説ト云ナリ、世々ノ學者自ラ一家ノ教ヲ立、異端ニヲチ入ルコト是ヨリ出ル事ナリ、人ノ性心イヅレカ善ヲコノミ惡ヲニクマザラン、善惡ヲ好惡イタスノ知ハ人々皆一ツニシテコトナラズ、コノ一同セル知コレ善ニ入り道ヲ修ムルノ下地ナリ、然レドモマナバズナラハザレバ、善惡ノ實キワマラザルユヘニ、似タル事ヲトラヘテ、是ト思ヒ非トラモヒテ其至善ニ不レ留ナリ、至善ニ不レ止トキハ知慮イカンゾ其道ヲ可レ得ヤ、サレバ知レ止テ其道定リ、安ンジ靜ニシテ其慮ハ得ベキ也、コ、ヲ以テ云トキハ下地一同ナリトテ、我心ヲ聖人ニ比シ剩天地ニタクラブル事、甚アヤマリ也、

○問云、大學ニ明德ト出タルナレバ、元來ソノ性心ハ明ナルト云ヘルニ同ジキ乎、

答云、大學ノ明德ト云ヘルハ、至大至公ニシテ私ナキ道ヲサシテ云ヘリ、性心ヲカギリテ云ニ非ズ、尤モ性心至善ニ止ルトキハ乃明德ナリ、日用ノ間事物ニク

ラカラズシテ、此ヲ天下ニ用ヒ萬代ニヲコナフテ、タガワザルノ徳ヲ明德ト云ヘリ、古來明德ト云ヘル言アリトミヘタリ、敢不レ承ニ君之明德、傲ニ狼明德ニ以亂ニ天常、昭ニ明德ニ而懲ニ無禮、選ニ建明德ニ以蕃ニ屏周、以昭ニ周公之明德、晉君宣ニ其明德於諸侯、明德惟馨ナト、云ヘル、明德ノ字、義皆至大至公ノ道ヲシメスノ言也、シカルニ宋明ノ諸儒自己ノ意見ニナラツテ、以テ性心ノ虛靈不昧ヲサストスルコト甚不レ正也、

○問云、花ニ鳴鶯水ニスム蛙、犬ノ自家ヲ守リ、雞ノ自トキナフヲ考フルニ、更ニ教學スル事アラズシテ、自然ニ其能ヲアラワスヲ以テ云バ、人ノ性心本明善ナルニ似タル乎、

答云、鶯蛙雞犬ニ不レ限、其ノ形氣ニシタガツテ其用ヲナスハ定レル事也、コレ明善ノ説ニ類スベカラザル也、此類ヲ以テセバ人ノ視聽言動スル事モ、皆明善ノユヘナリト可レ言哉、

○問云、人ノ性心ハ水中ニ玉ヲ置ガゴトシ、玉ハ元來清白ナリト云ヘドモ、所レ容ノ水ノ清濁ニ因テ水中ノ玉ソノ光ヲ發スルガ如シトイヘリ、此心得イカン、答云、朱子因指ニ前面灯籠ニ曰、且如レ此燈乃本性也、未

有_レ不_二光明_一者、氣質不_レ同、便如_下灯籠用_二厚紙_一糊灯便不_二甚明_一、用_二薄紙_一糊灯便明、出_二朱子語類_一六十四コノタトヘ水中ニ玉ヲ入タルノイ、ニ相同ジ、其言尤ナルニ似テ未_レ詳也、ソノユヘハ人ノ性ハ血氣相聚テソノ中ニ相生ズ、血氣ノ外ニ性アルニ非ズ、サレバ血氣ノ過不及ニ因テソノ性ニ品々アリ、タトヘバ灯籠ノ火ノ油ト灯心トニ因テ明暗不同アルニコトナラズ、油ヨク灯心ヨキトキハ火ノアカリ明也、油不宜灯心モ不宜トキハ、火ハモユルト云ドモ光暗シ、コレ油灯心ヲ以テ氣質トシ、此火ヲ以テ光リトス、紙ヲオホフテソノ光ヲモラサルハ灯ノ養也教ナリ、教アシキトキハ光ヨシトイヘドモ不_レ通コト灯籠ヲ厚紙ニテ張ルガゴトシ、教宜シキトキハ光クラキトイヘドモ分限ヨリ明ヲ遠クス、是薄キ紙ニテハレル灯ノゴトク也、サレバ紙ヲ以テ氣質ニタトヘンコトハ其コトハリタチガタシ、今水中ニ玉ヲ入ル、モ亦如此、玉ハ水ノ氣質ヨリ相ナレルモノニアラズ、水トハ別物也、コレヲ水中ニ入テ性ニタトフルハ性ト氣質トヲ別ニイタシテタトフルノユヘナリ、形氣相聚テコソ性ソノ中ニアリ、形氣ノ外ニ性アルベキニ非ズ、後世誤リテ天命ノ

性氣質ノ性ヲワカツ處ヨリ此アヤマリ出來テ、性ト氣質トヲ別ニ相ヘダツル也、コ、ヲ以テ考フルニ天命ノ性ニ非ト云コトナク、氣質ノ性ニ非ト云コトナシ、ソノユヘハ人ノ性皆天ノ命ズル處ニシテ人作ニ非ズ、氣質ニ因テ生ジテ氣質ヲ離ル、ニ非ズ、故人々ノ性皆天ノ命ズル也、氣質ノ妙用也ト可_レ知ナリ、○問云、人ハ天地ノ氣ヲ以テ人タリ、故ニ天地ヲ以テ論ズルニタガフコトナシ、シカレバ天ノ日月ツイニ暗キコトナシ、唯浮雲ニ因テ一旦ノクラキコト出來トイヘドモ、ツイニカクレザルニ同ジカランヤ、答云天地相因テ日月ノ精アリ、マコトニ人ノ氣質ニヨツテ性心アルニコトナラズ、然レバ其地氣ニヨツテ雲霧ノ多少厚薄アツテ日月ノ光輝不_レ同、寒國ニハ十月ヨリ雪降雲ヲ、フテ翌年ノ仲春マデ日月ノ光ヲミル事スクナシ、山中ニハ地氣常ニ盛ンシシテ雲霧コレヲヲ、イ、日中マデ日ノ光ヲ見ルコトナシ、是ソノ地ノ寒暖高下平ニ從テ日月ノ光不_レ同、況ヤ南蠻北狄東夷西戎ノハルカニヘダ、レル處ハ、日月ノ光輝豈一ツナランヤ、サレバ何レノ國何レノ處ニモ常ニ光晴ノ處ナシ、唯中國ノミ風雲寒霧ソノ中ヲ得ル也、

コ、ヲ以テ案ズルニ日月モ地氣ヲ離ル、コト不_レ能、日月コレ天地ノ精ナレバ也、故ニ雲霧ヲステ、日月ヲ論ズベカラザルコト、人ノ性ノ氣質ヲ不_レ離ニ不_レ異也、コレ日月性心ノ論更ニハダツルコトアラザル也、後世コレヲ詳ニ不_レ盡ガユヘニ、日月ヲ云テ雲霧ヲステントスルニ至ルコト、天命ノ性ヲ云テ氣質ノ性ヲ不_レ云ニ同也、

○問云、人ノ性ハ定形ナシ、只胸中ヲ以テ座トストシカリヤ、

答云、人ノ性ニ形ナシ、形ナキガ故ニコレヲ求ムルニ處ナシ、人ノ性バカリニ不_レ限、萬物トモニ其精性ト云トキハ、形體アルベカラザル也、人ノ一體皆性ナリ、故ニ全體ヲサシテコレヲ性ト云ベシ、但シソノ處ニ輕重アリ、一體ソノ中ヲ云トキハ腹心ノ間胷臆ノ處ヲ重シトシテ、心ノ臟ノ座トスルガユヘニ、コレヲ性心ノ居處トサス也、タトヘバ手足ノ末マデイタム處カユキ處アルヲ、此心性ム子ニアツテ知ト云ニ非ズ、ソノサワル處皆速ニコレヲ知ル、是一體皆性心ノイ、也、ソノ内ニ人ノ身ノ中央ハ頭ヨリ尻ニ至ルマデ、左右相合ノ中ヲ以テ中道トス、故ニ此中道ヲソコ

ナイヤブルトキハ一身ノ害アリ、ソノ中ニモ胷臆ハ中道ノ極ナルヲ以テ大事ノ場トスルガユヘニ、心性コ、ニ坐スト云ヘル也、タトヘバ天ハ赤道ヲ以テ中道トシ、日月ソノ左右ヲメグルヲ黃道ト云ヘルガ如シ、四支ハ一體ノ枝葉ニコトナラズト可_レ知也、

○問云、田ニアル水モ、山ニアル水モ、川ノ水モ、皆一水ニシテ、更ニ精粗アルベカラズ、是非アルベカラザルニ似タリ、シカレバ性ハ皆同ジ事ナラン乎、

答云、水ニ精粗ナシト云コトハ、朱子ノ說ニ出タリ、是又水ノ實ヲ不_レ盡ガユヘナリ、水ハ同ク水ニシテ、因ニ其所_レ有ソノ性不_レ同、トマル水流ル、水ソノ性コトニシテ、土ノ性ニ從テ其輕重別ナリ、水土コトナルニ因テ、草木鳥獸其形氣カワリ、其精味不_レ同、サレバ水ハ遠ク流レテ其性ヲ和順シ、土石ヲコスコトシバ_レニシテ其精其實ヲ得ル也、サレバ水ノ名ハ一ツニシテ其風土ニヨツテ其品ヲコトニスルコト、人ノ性ハ一ツニシテ、氣質ニ從テ厚薄清濁コトナルガゴトシ、以前ニ云ヘル處ノ灯籠ノタトヘニ不_レ異也、米ハ同ク米ニシテ或ハ酒トナリ成ハ酢トナリ、或

ハ飯トナリ粥トナリ、或ハムシテ餅トナリ、或ハハタ
イテ粉トシ、或ハ水ニサラシ、或ハ日ニ乾シテ其性コ
トゴトク異也、是同米ニシテ其用法ニ因テ其性ヲ變
ズ、況ヤ其生ズル處ノ水土ニ從テ其性必ズコトナラ
ンコトハ、不及ニ沙汰ト可レ知、シカルヲ天下同一生
ノ思ヲナサンコト尤アヤマリ也、

○問云、賤シキ土民物ノワカチヲ不レ知類ニモ、自然
ト義理ヲ立テ、父母ヲ孝養シテ、實ヲツクス輩アリ、
コレ人ノ性本善ナル處アルヨリコト起レリト云人ア
リ、

答云、民間ニ天然ト美質ノ輩有レ之事不審ニ不レ及コ
ト也、同ジロニ云ハンモイカバナレドモ、虞舜ハ民間
ヨリ出玉フ生知ノ聖人ナリ、コレ民間ニ善人アルマ
ジキニ非ズ、コレヲ以テ天下ノ人ノ性ハ皆善ナリト
ハ難レ言、シカラバ民間ニ美質ノモノアルハ萬分の一
ニシテ、ノコル處ハ皆邪欲非道ノ者ナレバ、人ノ性
ハ皆惡ナリトイハンヤ、是荷卿ガ性惡ノ說ノ出ル處
ナリ、民間計ニアラズ、蜂ニ君臣ノ義アリ、狼ニ父
子ノ恩アリト云テ、鳥獸ノ性皆善ナリト云ガゴトシ、
豈ソレシカランヤ、次ニ民間ノシヅノヲシヅノメノ

ワカチシラザル輩ニモ、善ヲヲシヘ惡ヲシラシムレ
バ、皆善ハ善惡ハ惡ト知ル、是人々此知識イタス性心
ヲソナフルユヘ也、以前ニタトフル處ノ米ハ同米ニ
シテ、皆ソノ用法ニヨツテソノ性タガフトイヘリ、サ
レドモ米ヲ以テ致セル物ハ、元氣ヲ養フ氣味必アリ、
コレ其大小厚薄ハソノ用法ニ因テ違ヘドモ、元氣ヲ
養處ノ性米ノ一致ナル處ナリ、人ノ性氣質ニ因テサ
マザマ相違テ知識ノ大小厚薄不レ同シテ、人タルモノ
必此知識ナクンバアラザルニ相同也、

○問云、學問ノ工夫ハ思知ヲ以テ先トスベシ、性心ヲ
以テ知識ニアリトセンコトイブカシ、

答云、易ニ天地ノ性心ヲサシテ反復シテ不レ息ヲ以
テス、人ノ性心モ亦感通知識シテ無レ息ヲ以テソノ體
トス、サレバ我性心シバラクモ不レ住、瞬息ノ間モヤ
ムコトナク、能融通變化スルコト往來消長ノ云ニア
ラズヤ、是性心ノ全體也、天地ハ至誠無レ息ヲ以テ日
月ノ明生ズ、人ハ性心ノ融通無レ息ヲ以テ此思慮出來
テヨク知識ス、サレバ天地ノ性心人ハ人ノ性心マデ
ニシテ名ヅクベキ字ナシ、是ヲ推シテ云トキハ感通
知識ノ外ニアラズ、性心ハ體ニシテ感通知識ハ用也、

故ニ古ノ人性心ヲ指テ云ニハ、皆以ニ思慮知識ハ、洪範ニ思曰睿、睿作レ聖、易何思何慮トアリ、孟子心之官則思ト出、禮ニ心知ト云、皆是性ヲ以テ知識トスレバナリ、如レ此義聖人ノ言ヲ師トシテ、タシカニ我身ニコ、ロミテ初メテコレヲ可レ知也、

○問云、今ノ玉フ處ヲ以テ云バ、性心ノ用感通知識ナリトセバ用ハ末也、ソノ體ヲ以テ云バ、イヅレヲ性心ノ體トサ、ンヤ、

答云、性心ノ體ハ性心ナリ、別ニ無ニ名字、シイテ云バ生々無息ト可レ謂也、生々無息ト云ハ既ニ形氣相ソナワリ、此性心アルトキハ元氣ノ周流サラニヤムコトナク、一生ノ間唯生々無息ノミ也、若一息モコ、ニトマル處アレバ、乃性心クルシミテ、遂ニ形氣滅却スト可レ知也、

○問云、宋儒ノ所謂生々無息ハ仁ノ體ニシテ、萬物皆此生氣ヲソナヘ、草木ノ實核ニ此仁ヲフクムガ如シトイヘリ、此心ナリヤ、

答云、宋儒ハ仁ノ實ヲ不レ盡、ユヘニ生々無息ノ本意ニアラズ、只萬物發生ノ氣ヲサシテ生々ト云、天地ノ仁滿腔子ノ仁ト云ヘリ、生々無息ト云ヘルハコノ

心ニアラズ、凡ソ天ノメグリテ不レ已、日月ノ往來陰陽ノ消長瞬息モヤムコトナシ、コレ天ノ大德ニアラズヤ、スベテ形セルモノハコトノク地ニヲチ地ニアツマリテ、幾千世ヲ經テモコレヲノセ、コレヲウケテサラニ無レ弃、コレ地ノ大德ト云ベシ、山ハ土ヲカサチ水ハ東ニ流レテ、トモニヤムコトナシ、故ニ寶藏ヲコリ蛟龍生ズ、人ノ一生ノ間元氣ノ周流シテ、トマルコトナキモ亦同ジ、此生々ヤムトキハ此性心サル、コノユヘニ往來消長ノ去來ヤマザルヲ以テ生々無息ト云ベシ、是反復スルヲ以テ天地ノ心ヲ知リ、水ノ流ル、ヲ以テ、逝者如レ斯トノ玉ヘル歎アリ、コ、ヲ聖人ノツトリテ、此教ヲ立テ、ツトメテヤムコトナキヲ道ノ本トス、易天行健、君子以自疆不レ息、詩云維天之命於穆不レ已トハコノ心ヲイヘルナルベシ、サレバ大義大道モ一旦ノワザハ愚者モツトムルニヤスカルベシ、悠久ニシテ不レ息ノツトメニアラザレバ、君子以テツトメトセズ、天地之道悠久ナルガユヘニ天地タリ、聖人學不レ厭教不レ倦ガユヘニ道ノ化育立ツ、コレ文王之所ニ以爲レ文也、純亦不レ已ト云ヘル也、此純トシテ止ザル處ヨリ此發育生物ノ道行ル

ルト可レ知也、然ルヲ後儒不レ入トコロニ味ヲ付テ、意見ヲ加フルユヘニ、甚易簡ナル聖教煩勞スルニ至レル也、聖人ノ道悠久ヲ貴ブコトハ此性心ノ生々無レ息ニノツトリ、性心ノ生々無息ナルハ至誠無息ナルガユヘナリト可レ知也、中庸二十六章可ニ考合也

○問云、性心靜寂ノ時ニ、性心ノ體露顯セズヤ、

答云、性心靜寂ノトキハ、生々無レ息ノミニシテ只靜寂ノミ也、故ニ易ニ无レ思也、无レ爲也、寂然不レ動、感而遂通ニ天下之故トイヘリ、禮ニ人生而靜天之性也、感ニ於物ニ而動性之欲也ト出タリ、是靜寂ノトキハソノ性心物ニ不レ感ヲ以テ、性心全クシテ生々無レ息ナリ、然ルヲコノ時ニ性心ノ本體ヲ了覺セント云ハ、皆是非ニ無レ思无レ爲之義、シバラクモコ、ニ味ヲツクレバ、乃是感ズル也、動スルナリト可レ知也、

○問云、然乃存養省察ノ工夫不レ足レ用乎、

答云、存養ハコレヲツトメテ不レ息ノ云ナリ、省察ト云ハ常ニ言行ヲタバシ内ニ省テソノ非ヲ改、其誤ヲ規シテ其道ニ入ノ謂也、凡ソ存養ト云ハ孟子ノ言ヨリ出タリ、盡ニ其心ニ者知ニ其性ニ也、知ニ其性ニ則知レ天矣、存ニ其心ニ養ニ其性ニ、所ニ以事レ天也、コレ存養ノ説

也、シカレバ日ニツトメテ不レ息、學テ不レ厭、誨不レ倦トキハ、此心常ニ存シ、コノ性常ニヤシナハレ、恒久ニシテ無息、以悠久高博ニ至ルノ心ナルベシ、若不レ然シテ別ニ心性ノ存養アリトセバ、是乃性心ヲ弄スルニ至ルベシ、後世ニ及デ專靜坐ノ工夫ヲ立持敬ノ説ヲ云テ以テ、心ヲ涵養スルノ言アルハ、皆是惑ニシテ異端ノ説ニ近シ、蓋萬物存養セズシテ、ソノ功ヲアラワスコトアラズ、一旦一夕大功大義ヲナスト云ドモ、コレヲ存養スルコトアラザレバ、其實ヲ不レ得也、存養スルニ道アリ、詳ニ其用法ヲ盡シテ助長スベカラズ、彼性心ヲ弄ハ皆宋人ノ苗ヲ拔ニ至ベキ也、存ハ乃省察也、養ハ古ハヒタスト訓ス、乃涵字ニ相通ズ、是物ヲ水ニヒタシテ、ソノ中外皆コレニヒタルガ如ノ心也、シカレバ存養ヲ以テスレバ、ソノ内自涵養アリ省察アリト可レ知、孟子ノ所謂盡ニ心知ニ性ハ、コレ乃格致ニシテ存心養性ハ日彊不レ息以誠正ニイタレルト云ベキ也、

○問云、易ニ太極ノ説アリ、是道ノ大原ナリヤ、

答云、太極ト云ハ乃其極致セルノ言也、故ニ格致ノ極功其至善ニ止マレルコレ太極也、外ニ太極ノ説アル

ミナラザル也、格致至善ニ止マル處ヨリ、天下ノ道行
レテ數千萬條タリト云ヘドモ、其條々皆コノ太極ヲ
不_レ出、是太極ヨリ陰陽四象相生ジ、六十四卦三百八
十四爻ニ至リ、ソノ變ハ數ヲカサテモ不_レ可_レ盡ノ
コトワリニナレル也、伏羲・文王・周公・孔子ハ皆人ノ
太極ナリ、天地ハ萬物ノ太極也、故太極ヲ以テ太極ト
云ヘル也、外ニ太極ト云ヘル工夫アルトキハ、乃是聖
人ノ太極ニアラザル也、周茂叔ソノ學高ニ過テ、太極
ノ上ニ一層ヲナシテ無極ヲ云ヘリ、是聖人ノ道ニ非
ズ、聖人ノ道ハ太極ニシテ無_レ究無_レ盡、外ニ無極ヲ云
所アラズ、凡ソ伏羲・神農・黃帝・堯・舜・禹・湯・文・武ヨリ
周公孔子ニ至ルマデ、皆日用ノ間天下國家人物ノ道
ヲ論ズ、是乃太極ナリ、天地ノ外萬物ノ太素天地未分
ノ說、死後ノ沙汰ハ聖人ノ論ズル所ニアラズ、シカル
ニ無極而太極ナリト云ハ、太極ノ外ヲ一段立テ云ヘ
ルナリ、豈是聖人ノ教ナランヤ、若太極モ無極ニシテ
別ナラズト云ハ、無極ノ言コレ何ノ用ゾヤ、一タビ無
極ノ說出テ宋明ノ諸儒皆コレヲ師トシ、ソノ說所空
渺ニサカノボルトキハ、無極ノ言其害大ナラズヤ、故
吾聖人之罪人後學之異端也ト云ヘル也、大學ニ格致

ヨリ平天下ヲ論ジ、易ニ太極ヨリ卦爻ノ變ヲ生ズル
コトヲ詳ニス、是乃聖學ノ一統ニアラズヤ、

謫居童問上末終

謫居童問中本

學問

○問云、聖人ノ教形ナクイカタナシト云ドモ、既ニ其教アルトキハ又形ナキニシモアラズ、其教ノ手本ト致スベキ處イカバ侍ルヤ、

答云、形ナシイカタナシト云ハ、只日用事物ノ間ニシテ外ノ形ナキト云ヘル事也、其教トスル處仁ニ不_レ過、仁ト云ハ人ノ人タル道ヲ盡シテ人ノ上ニテ至極ヨキ處ヲキワメ、其至善ニ止レル事ヲサシテ仁ト云、サレバコレ仁、人也ト言ヘリ、其言行ノ至レルガ上ニ事物ニ通ジテクラカラズ、天地化育ヲタスケ人物ヲシテ其處ヲ得セシムルヲ聖人ト云ヘル也、人ノ上ニテ能ト、ノイ能サトキ言行知徳ト云ハ、君ニ仕ヘテ忠ノ至レルヲキワメ、父ニ仕ヘテ孝ノキワマリヲツクシ、下ヲツカフテ其禮ヲツクシ、子孫ヲ愛シテ其慈教ヲ不_レ殘、朋友夫婦兄弟人倫ヲ正シ、國家天下ヲ治平セシメ、天地ヲキワメ事物ヲツクシ、悉ク其制法ヲ詳ニシ

テ其道ノ至誠ヲキワメシムル、是人ノ至極ト云ベシ、此人タル道ヲ不_レ盡バ聖人ト云ベカラズ、如此ニ教ヘ示サバレバ聖人ノ教ト不可_レ言也、是乃聖教ノ手本トイタシ目付所トサシタル也、是我天地ノ命ヲウケテ人トナリ、其性心知識相ソナワレルトコロ無_レ殘所ツクシ得タルト云ヘルモノ也、卽中庸ニ天下ノ至誠爲_ニ能盡_ニ其性_一ト云ヘル心ナルベシ、不_レ然トキハ性ヲ盡スコト不_レ叶、ソノ一事一行一才一知ノカタハシ迄ヲキワメテ、全ク盡スニアラザルトシルベキ也、仁ハ人也、道ハ不_レ遠_レ人ト云、以_レ人治_レ人ト云、施_ニ諸己_一而不_レ願亦勿_レ施_ニ於人_一トアルモ、皆此仁ノ道ナリ、

○問云、聖人ノノリトスル處、今是ヲツトムルニハ、イヅレヲ以テ先トイタスコトニヤ、

答云、事物ニ大小輕重本末前後始終ノ差別アリ、先天下國家ヲ以テ大ナリトシ、其政令ニカ、ルベキ事ヲ以テ重トス、君父ヲ以テ本トシ、急務ヲ以テ前トシ、近所ヲ以テ始トス、シカレバ天下國家君父政事イヅレモ重大ニシテソノ本ナリトイヘドモ、コレヲ行フコトハ我身ヨリ始マリ、我身ノ行ハ急務ヲ以テ前トスベシ、是ハ遠ク外ニツイテイヘルナリ、一身亦如

レ此、性心ハ一身ノ主宰也、重大也ト云ベク、本也ト云ベケレドモ、近ク日用ヨリ始マリテ日用ノ内其ツカエテ滯ル處ヲタバストキハ、自ラ性心化スベシ、天下ノ人民數千億萬ニシチキワメテミルトキハ一、人ヲ能修ムル處明ナルトキハ、億萬亦コトナル事ナシ、故ニ格物致知ヨリシテ正心修身ニ至テ、治國平天下タリ、是乃物有ニ本末、事有ニ終始ト云ヘル心ナランカ、○問云、仁ト云ト仁義ト云トハ、其心得ニ差アリヤ、答曰、仁ハ聖人ノ大教ニシテ人タル道ノ全體ヲ論ズルノ言也、故ニ克己復禮ヲ以テ顏子ニ答ヘ玉フ、是仁ノ道也、仁義ト云ハ人ノ道ヲイハ、仁義ノ二ツニアリト云ル義也、天ハ凡テ陰陽ニキワマリ、地ハ剛柔ニキワマリ、人ノ道ヲ行コトハ仁義ニキワマレリ、サレバ五行アリテ天地タツトイヘドモ、其綱領陰陽ニ不_レ出、五常七情ノ別アリトイヘドモ、其本仁義ニ不_レ出、是夫子ノ立_人之道曰仁與義トノ玉ヘル心也、仁義ノ二ツハ此ヲ愛シテシテ是ヲニクンデスツルノ道ナレバ、好惡損益賞罰抑揚褒貶皆仁義ノ用ナリ、凡ソ事物ノ作略其用或コレヲシテ、或ハコレヲノゾクニ不_レ過、日用又過タルヲバヲサヘ、不_レ及ヲバク

ワダテ望マシム、是進退消息屈伸往來ノ義ナレバ、修_レ身ヨリ治國平天下ニ至ルマデ此間ヲ不_レ出、ソノ節ニ當リ道ニカナフヲ名付テ仁義ト云也、愛スルコトスグレバ人ヲコタリ、コラス事多ケレバ人畏ル、故ニ仁ハ義ヲ以テ行レ、義ハ仁ヲ以テ立、仁以愛レ之、義以正レ之トハ此心也、親_レ親ハ仁ニシテ賢_レ賢ハ義也、敬_レ恭ハ義ヨリ出、慈愛ハ仁ヨリ立、仁義禮智信五常アリトイヘドモ、其本皆仁義ヨリ出タリ、五行ノ陰陽ヲ本トスルガ如也、仁義ヲ以テ人ノ道トスルコト又其ユヘアリ、シカレドモ仁義本日用ニ不_レ出シテ、只ニ仁義ト計キイテ詳ニ此名義ヲアデワヘズ、其用法ヲ不_レ致トキハ、仁義ヲ知テモ仁義ヲコナワレズ、故ニ聖人人ニ教ルニ仁義ノ名ヲ不_レ立シテ其日用ヲ以テ教トス、日用ヲ不_レ詳シテ仁義ヲ云バ、日用ノ外別ニ仁義ト云モノアルニ似タリ、コレヨリ老子ノ大道廢而仁義出ト云ソシリアルコト也、既ニ孟子ニ至テ人ニ逢テハ必ず仁義ヲ提携シテ、一公案トイタセルユヘニ、儒ハ仁義ニ落在セリト莊子コレヲ難說セリ、是孔孟聖賢ノタガヒニモアランカ、周禮ニ六德ヲ論ジテ知仁聖義中和ト仁義ノ名ヲ立トイヘドモ、是司徒

民ニ教ノ名ニシテ、必此名ヲ立シテ道ト云ニアラザル也、シカレバ日用ノ間取捨違順ノ事、ソノ道ニカナフヲ名付テ、仁義ト云トシルベキ也、

○問云、人倫ノ大綱君父ニ不_レ出シテ、君父ニ仕フルニ忠孝ト云ヘル事、其心得イカナル義ナルヤ、

答云、忠ト云モ孝ト云モ、其心得二ツアルニアラズシテ君父ニ因テ其名カワレリ、其名コトナレバ其用法亦コトナリ、忠ハ主人ノタメニ事ヲツトメテ身ヲサキニイタサルコト也、何事ヲカ主人ノタメト云バ、第一其主人ノ國ノタメ家ノタメ人ノタメナランコトヲ考、サテ當主人ノ氣ニ不_レ違如ク致スベキ也、身ヲ先ニイタサルコト云ハ、主君國家人民ノタメニヨキ事ヲ第一トシテ、我身ノ立つベキ事ヲサキダツルコト勿レト云コト也、我身ヲ棄家ヲ失テモ國家ノタメニハ不_レ顧コト也トイヘドモ、ソレニハ段々ノ思慮子細アルコトナリ、只身ヲサキダテズ、君ノタメノ宜キヲ本トイタシ、サテ我家モ安穩ニ立ゴトク工夫イタス、是ヲ忠ト云也、乍_レ去奉公勤仕ノ位品々多キコトナレバ、ソノ人ソノ位等ヲキワメテ、此位此職ニテノ忠ハイカバト不_レ論トキハ、詳ニ得心ナリガタキ也、

只其大抵ヲ云ノミ也、孝ニ大孝アリ、大孝ハ家ヲヲコシ先祖ヲウヤマヒ、父祖ヲ以テ天ニ配ス、コレ大孝ハ不_レ置ト云ヘル也、サレバ德爲_二聖人尊_一爲_二天子富_一、有_二四海之内、宗廟饗_レ之、子孫保_レ之ヲ以テ大孝ト云ヘルコト中庸ニ出タリ、次ニ我言行ヲ正シ、道ニ不_レ違シテ父母ノ名ヲアゲテハツカシメザル是、其次ハ弗辱ト云ヘル也、次ニ小孝ハ用_レ力ト云テ、朝夕父母ニマミヘテ其養ヲ省、或父母ノタメニ自耕自ツカレテ不_レ苦、コレヲ力孝ト云、力孝ハツトメヤスクシテ大孝中孝ハツトメガタシ、顔子家貧シテモ父母ノカタハラニ不_二安居_一、夫子ニ從テ天下ヲ周流ス、コレ大小ノ辨明ナルガユヘ也、只臣子ノ志國家ト君父トノ事ニ身ヲセメテ、自ノ身ヲ後トスルニアリ、父ニツカヘテ不_レ顧_レ身トイヘドモ、亦家ノ亡ビ子孫ノ絶ンコトハ其思慮アルコト也、コレ諫不_レ逆、居_レ喪不_レ瘠、舜ノ不_レ告シテ娶リ玉フナルベシ、必竟大小ノ辨ニマドフヲ以テ忠孝ノ實ヲ失也、

○問云、中ノ義如何、

答云、中ノ字義後世ノ學者ノ云處更ニ是トスルニ不足也、唯聖賢ノノ玉フ處詳ニ中庸并經書ニ出ル處ヲ

以テ可心得也、凡ソ日用ノ間無事ナルトキハ無事ニ
安ジ、タクミハカル事ナク、事アルトキハ其事ニ應ジ
テ其節ニアタル、是ヲ中ト云、七情ノ未發ノトキ、コ
ノ中ヲ味ヘヨト云ヘル義ニハ非ズ、又物ノ中分ナル
ヲサシテ必ズ中ト云ニモ非ズ、唯其事物ノ道ヲツク
シテ、其ノリニアタルヲ以テ中トスル也、然レバ過ル
モ不レ及モ其物ニ對シテソノノリタルトキハ、乃コレ
ヲ中ト云ヘリ、コノ中ト云モノヲ本ト定メテ、日用事
物ノ間其コトハニ相對シテ、其品々ノヨクノリニ
アタル如ナラシムルコトハ、其事トヘダ、リテハ不
可レ合、カルガユヘニヨク相和シテ其流セザル處ノ節
ヲナス、是ヲ和ト云ヘル也、故ニ中ハ天下之大本也、
和ハ天下ノ達道也トハ云ル也、中庸ト云ヘルハ日用
平生ノ言行コノ中ヲノリトシテ、コレニ相カナワシ
ムルノ名ニシテ、中ノ外ニ別ノ庸ノ字義アルニアラ
ザル也、後學ニ至テ易ノ寂然不動、樂記ノ人生而靜天
之性也ト云ヲ引合セテ、喜怒哀樂未發ノ地ヲ寂靜ノ
工夫中ノ地ト定ム、尤異端ノ說不足レ用也、七情未發
ノ時ハ情ノ物ニ奪ル、處ナシ、此處乃是率性ノ道ナ
レバ中トサスベシ、然リトテ七情ヲノゾクニアラザ

ルガユヘニ、七情ニ相和シテ其ノリヲタガヘズ、節ニ
中ラシムルハ是中ノ和アリト可レ知也、コ、ヲ以テ中
ハ體ニシテアタルトヨムトキハ、中ノ物ニ相應スル
ノ名也ト可レ知也、此中和兩字ノ外ニ聖人ノ教ヘ非レ
バ、學者始終此一句ニ落在スト可レ知也、詳ニ出句讀、
○問云、知德イヅレヲカ先トスルヤ、

答云、天下ノ間不レ思シテウルモノナシ、コレ性心ノ
全體知識ヲ以テ本トスルガユヘ也、洪範ニ思曰睿睿
作レ聖ト出タリ、又多方ノ篇ニ惟聖罔念作レ狂、惟狂
克念作レ聖トイヘリ、大學ノ道明ニ明德トイヘリ、中庸
ニハ誠身ニハ明善トイヘリ、孟子思則得レ之、不レ思
則不レ得ト出タリ、コ、ヲ以テ案ズルニ我性心ニヨク
心得ルコトヲ以テ德トス、其心得ンコトハ知識セザ
レバ不レ可レ通、聖ノ字ヲサトシトヨミ、聖人ヲ上知ト
云、三德ヲ論ズルニ知ヲ先トシ、聰明睿知達ニ天德ト
イヘル、イヅレモコレヲ知テ而後ニ得ルノイ、也、夫
子曰知及レ之仁不レ能守レ之、雖得レ之必失レ之トノ玉
フ、サレバ學デコン德ヲモシルベケレ、不レ學シテ德
ト云コトヲ知ルベキヤ、孟子知皆擴而充レ之トイヘル
皆知ヲ以テ先トスル也、

○問云、知ト德トノ差別イカン、

答云、知ハコレヲ明ニスルノ言也、德ハ止至善ノ心ナレバ、知テコレヲ身ニ修行シ、内ニ守テ得ル處アルノ名也、得處アリト云ハ自證自悟ノイ、ニ非ズ、知テコレヲ守リ、久シテ其言行ニウツリ得タルコト也、玉ヲミガク事久シキハ終ニ溫潤ノ和氣發スルガ如シコレヲ得ト云也、サレバ知テコレヲ明トイヘドモ、悠久ニシテ不息ニイダラザレバマコトノ德ナシ、マコトノ德アラザレバマコトノ知ニ非ズ、易ニ聖人久於其道而天下化成スト出、中庸ニ至誠無息ヲ以テ大德ライヘル、是德ノ悠久ナルニ非ズヤ、

○問云、知德優劣アリヤ、

答云、大知ノ人ハ大德アリ、故ニ夫子舜ヲ稱スルニ、或ハ大知ヲ以テシ、或ハ大德ヲ以テス、但シ日用ノ學知ヲキワメザレバ德トサス處大ニタガフ、老莊モ德ヲ專トシ釋氏モ德ヲ要トシテ、其德トスル處不正バソノ失何レノ處ニカアル、知ヲキワムルコト不明ガユヘ也、サレバ聖人ヲ論ジ玉フニ、其功業ヲ成就スルヲサシテハ德ヲ稱シ玉フ、其日用事物ノ間ニヲイテハコト々ク知ヲ以テ稱ス、コトサラ學者ノ急務ハ

致知ヲ以テ本トス、故ニ夫子ツチニ上知下愚ヲ以テ對シ、門人又知十知ニヲ以テ論ズ、孟子曰知譬則巧也、聖譬則力也トイヘリ、學者只知ヲキワムルヲ以テ本トセバ、ツイニ學不厭ニイタリテ、仁コ、ニ可得也、仁ハコレ力行ノ名乃德ノ至善也、

○問云、聖人ハ德知イヅレモ兼備セリヤ、

答云、聖人ト云トキハ、知德トモニ兼備セザレバ聖人ニ非ズ、コノユヘニ聖人ト云コト異國ニモ孔子ノ後ニ其名アラザル也、但舜ハ匹夫ヨリ帝位ニノボリ玉フテ、能事物ノ苦樂ニ通ジ玉ヒ、周公ハ周ノ大業ヲヲコシテ武王成王ニ輔佐シ、天下ノ艱難ヲシリ玉フガユヘニ、品物ノ制節マデ無レ不盡、孔子ハ素王ニ位シテ天下ヲ周流セシメ玉フガユヘニ、鄙事トイヘドモ多能也、コ、ヲ以テ自餘ノ大聖人ヨリ言置仕置玉フコト多クシテ、後世コレヲ以テ師範トスルニタレリ、シカレバ聖人各地ヲカヘバーツナルベキ也、ソノ内ニモ舜ノ明ニ庶物、周公ノ才ノ美ナルコトハ、孔孟ノトモニ慕フ處アレバ、各一揆ノ間ニモ大英雄ト可レ稱也、

○問云、聖人ニ勇ヲ稱スルコトアラズヤ、

答云、知アレバマドフコトナシ、不_レ惑バ勇自ソナワ
リテ勇ノ可_レ出處ニハ大豪傑ノ氣象甚猛シテ不可_レ犯
也、世上ノ勇猛ト稱スルハ皆伎倆底ナルガユヘニ、マ
コトノ小勇エシテ天下ヲ安ズルノ大勇ニ非ズ、故
ニ大道ヲ我任トシテ、千歳ニ沈淪セル聖道ヲカ、ゲ
萬人ニ指示スルコト、是大勇ニアラズシテ不可_レ稱
也、彼ノ軍ヲヤブリ人ヲ殺シ命ヲ輕ジ死ヲ守ノ勇ハ、
平士イヅレモソノ分々ニ應ジテ無_レ不_レ致_レ之、サレバ
古今ノ勇士毛舉ニ遑ザル也、世人コノ勇ヲ勇トスル
事ヲ知テ、聖人ノ勇ハ甚大勇ナルガ故ニ、人以テ勇
ヲシラザル也、古人云、如下周公兼_ニ夷狄_一驅_ニ猛獸_一滅
國者五十、孔子却_ニ蒯_一三都_一誅_ニ少正卯_一是甚手
段、非_ニ大豪傑_一乎トイヘリ、シカラバ聖人ニ匹夫ノ戰
勇アラザルニ非ス、孔子曰、我戰則克、祭則受_レ福トノ
玉ヘリ、後世ニ及_テ聖人ノ道甚クラク、儒ハ仁慈ヲ專
トスルニアリト心得テ、勇猛ノ事ヲサシテ伯術トス、
尤可_レ笑、孔門ノ高弟子路ハ戰死シ、冉求ハ能_レ兵、曾
子ハ戰陣無_レ勇非_レ孝トイヘリ、是皆其勇ヲアラハス
也、況ヤ勇ハ三德ノ一也、聖人ノ大勇ハ學者ノ必ツト
ムル處ニアリ、詳ニ可_レ致_レ之也、

○問云、當時知ト云トオト云ハ、其タガイアリヤ、
答云、知ハ體也、才ハ用也、知ヨリ發スル處ノ廣ヲ才
ト云也、木ノ堪_レ用者曰材、材トオト通ズ、故ニ其知
能ヨクモノニワタリテ、ツマヅカザルヲ以テオトス
ル也、周公ノオヲ夫子稱シ玉ヘリ、又才難トノ玉フ、
コレオノ人ノ用タルコト尤明也トイヘドモ、オヲツ
クスノ道明ナラザルヲ以テ、大木ヲケヅリテ小材ト
シ、曲木ヲケヅリテスグナランコトヲノミ求ムルニ
至テ、ツイニ材ノ用ヲ失却ス、是知ノ致ムルコト不
盡ガユヘト可_レ知、俗學コレヲ以テ材ハ人ノ害タリ
ト云フコトアリ、尤可_レ笑也、只聖學不_レ明ガユヘニ德
ト云、知ト云オト云、トモニ其害ヲ不_レ知也、

○問云、知行二ツナリヤ、一ツナリヤ、
答云、子曰好_レ學近_ニ乎知_一、力行近_ニ乎仁_一、知_レ耻近_ニ乎
勇_一トアリ、シカレバ知テコレヲ行フ事古ヨリノ道ナ
レバ、知行エツナラザルニ非ズヤ、然レドモ知テヲ
コナワザレバ、マコトノ知ニアラズ、行トイヘドモシ
ラザレバ暗夜ニユクガ如シ、行トイヘドモ甚危、コレ
又知行合一トモ可_レ知也、如_レ此ノ義論云ニイワレザ
ル事アラザレバ、只ソノ議ヲサシヲイテ直ニ聖人ノ

教ヲコト、シ、知ヲヒラキヲシヒロメテ、ソノ知ル處ヨリ力行イタスニアリ、ソノ知ヲ擴メントナラバ、事ヨク相學バザレバ竟ニ不可_レ至也、自_レ耕稼陶漁_ニ以至_レ爲_レ帝、無_レ非_レ取_ニ於_ニ人_一者ト、舜ノ大德ライヘルモ、皆ソノ知ヲ擴ノイ、也、

○問云、人欲コト_レク去テ、天理明ナリト云ハ、德ニ非ヤ、

答云、天理人欲ノ字ハ樂記ニ出タリ、天理トハ率_ニ性道_一其條理不_レ亂ヲ云也、人生而靜天之性也ト云ヘル也、人欲ト去ハ情欲也、乃惑_ニ於_ニ物_一而動性之欲也トイヘル也、人欲ヲ去モノハ人ニアラズ、瓦石ニ同ジ、瓦石皆天理明ナリトイワンヤ、サレバ樂記所_レ云ハ好惡無_レ節_ニ於_ニ内_一、知誘_ニ於_ニ外_一不_レ能_レ反躬天理滅矣、人化_レ物也者滅_ニ天理_一而究_ニ人欲_一者也ト出タリ、コレ情欲ニヒカレテ性道ヲ失スルモノ、サタ也、然ルニ宋明ノ學者異端ノ說ニ習テ、德ノ心得ヲ以テ異端ノ說ヲ附益ス、故去_ニ人欲_一ノ說アル也、

○問云、夫子各ソノ志ヲイワシメ玉フテ、曾點ガ言ヲキイテユルシ玉フハ、是天理ノ流行一點ノ私ナキ處ニ非ヤ、

答云、曾點ハ老莊ノ學ヲ事トシ、心ヲ虛無恬淡ニアンバシメテ、世路ノワザ人間ノ事ヲコト_レク塵視スルノ徒ナリ、豈聖人コレヲ以テ是トスベケンヤ、只時ニ至テ風景ヲノベ、サモアリツベキ悠然然タル處ヲ以テ、當時夫子モユルシ玉ヘル也、シカルヲ宋儒コトゴトク附會助長シテ、程子ハ以爲_ニ下_一與_ニ聖人之志_一同、便是堯舜氣象、朱子ハ以爲曾點見_ニ得_ニ事_一々物々上皆是天理流行、又曰其曾次悠然直與_ニ天地萬物_一上下同_レ流、各得_ニ其處_一之妙隱然自見_ニ於_ニ言外_一ト、是各老釋異端ノ氣味ヲ相嗜デ以テ極則トスル心ヨリ誘引シ來レル說ナルコトヲ自說テ不_ニ自知_一也、凡ソ天地ノ形體アツテ天地ノ氣象アリ、聖人ノ知德アツテ聖人ノ氣象アリ、曾點何ノ故ニ天地聖人ノ氣象アラン、サレバ朱子答_ニ或問_一云、聖賢之心所以異_ニ於_ニ佛老_一、正以_ニ無_ニ意必固我之累_一、而所_レ謂天地生物之心、對_ニ時育_一時之事者、未始一息之停ト云々、是等ノ說甚差了セリ、コレ良辰美景ヲ稱スル中ニ暮春ノ時生物ノ妙ヲ感ジテ樂ミ去ト云ル心ヲ附會ス、聖人唯浴風詠歸之心耳、何ゾ一草一木ニライテ、シイテ天地ノ生々ヲ感得セン、聖人ハ全體ソノ德之究知之盡ルナレバ、今日

ソノ物ヲ見テ天地ヲ感ズルニ非ズ、又無レ不レ感、シカルヲ一事一行マデ、天地ノ生々ヲ比校センコトハ、皆後儒ノ意見ニシテ甚ムツカシク造作シ來レリト可レ言、必ズ天理充滿ノ意見不レ可用也、

○問云、天地ハ一點ノ萍查アラズト可レ知、是乃聖人ノハダヘナリト云義如何、

答云、天地ノ道ヲツクサバ爾ガユヘニ天地ノハダヘヲ不レ知、天地ノハダヘヲ不レ知ガユヘニ、人ノ本體ヲ不レ知也、凡ソ天地ハ陰陽ノ二氣ヲ本トス、陽ハアガリテ不レ滯、陰ハクダリテ形ス、陰ハ陽ヲハナレズ、陽ハ陰ヲハナレズ、互ニ相循環シテ獨陽獨陰更ニ立コトナシ、故ニ陽ハ常ニアガリ上テ不レ留ノ中ニ、陰モ亦相サソワレテアガルト云ヘドモ、陰聚レバ形スルガユヘニ忽下テアガルコトヲ不レ得、ソノ濁リ形チスルノ査滓ヲナヅケテ土ト云也、陰クダルトキニ陽又サソハレテトモニ下ル、是陰陽水火ハナレズ、メグリメグリテ無レ息ノコトハリ也、コ、ヲ以テ云トキハ二氣五行清濁輕重相トモニソナワリテ、一箇モコレヲ捨ルコトナク、處ニ隨テ主トナル、是乃天地ノハダヘナリ、人モ亦如此、人欲ト天理ト形氣理氣相因テ而

シテ此人身立世ノ事行ル、人欲キラフニアラズ天理秘藏スルニ處ナシ、サレバ形氣ノタメニ出ル情ヲ朱子サシテ人心ト云、道理ノタメニ出ル情ヲ道心トサセル、ソノコトワリアルニ似テ尤不レ正、形氣ノタメニ出ル情ヲキラハバ、飢寒痛痒飲食男女ノ情皆不レ可用乎、此情ノ節ニ當ルヲサシテ道ト云、節ニ過不及アルヲサシテ惑ト云ベシ、一點ノ査滓ナシト云ハコノ情欲斷滅シ來ランヤ、故ニ嫌フコトモ取ルコトモナク、只其節ニ中テマドワザルノコトハリノミト可レ知也、サレバ天地ノ道ヲシラントナラバ、天地ノ物タルヲツクサバランニハ不レ可レ得ニ其實一也、

○問云、聖人ハ天ト一體ナリヤ、

答云、聖人ハ贊天地之化育一ヲ以テ與天地參也、是マコトノ三才ト相ナラベル也、禮ニ天地之心ヲ人ナリトス、天地ノ化育ヲ考ヘテ萬物ヲシテ其性ヲツクサシムルハ聖人ノワザナレバ、マコトニ聖人ヲ以テ天地ノ心トモ可レ云也、但シ天ト一體也トハ難レ云、天地ハ天地ノ氣質アツテ天地タリ、人ハ人ノ氣質アツテ人タリ、聖人ト云ドモ人ノ氣質ヲウクルガユヘニ人類ヲ不レ可レ離、スデニ人類タルトキハ天地ト一體

トハ云ベカラザル也、唯與^ニ天地^一參タルノコトワリ也、後世^ニ至テ天地一枚ノ説ヲ立、我乃天地天地乃我ト云ニイタルハ、皆其詞ノ過チ空虚ヲユルニ至ル也、サレバ聖人ハ則^レ天對^レ天ナルベシ、是乃道源ヲ天ニ準則シテ私ヲ不^レ以^レノイ、ト可^レ知也、子夏云、三王之德參^ニ於天地^一ト云モコノ心ナルベシ、

○問云、然バ善惡相混リ清濁相合ヲ以テ道トスルヤ、答云、善惡ノ中道有無ノ中間ニ心ヲヤルハ異端ノ教ニ近シ、人欲ヲ去テ天理ニ歸ルハ宋儒ノ學トスル處也、共ニ聖人ノ道ト不^レ可^レ云、聖人ノ道ハ善惡邪正明ニシテ、此ニ不^レ惑、ソノ宜ニ順テ意必我固スル處ナシト可^レ知也、善惡ト定ムル事不^レ正、邪正ト思フコト不^レ得^ニ其道^一ガユヘニ、惡ナラザル事ヲ惡トサシ、邪ナラザルコトヲ邪トス、タトヘバ情欲物ニ感ジテ動クコレ惡ニ非ズ、ソノ惑フ處ヲサシテ惡トス、情欲恬淡無事ニシテ靜ナリ、靜ナルヲ善ト云ニ非ズ、可^レ靜シテ靜ナルヲ中^レ節トスベシ、可^レ動シテ靜ナル時ハ不^レ通、豈是^ヲ道トセンヤ、サレバ家ヲ立ルニハ直木曲木、節アル木節ナキ木、大木小木長短ノ木、相聚テ而後^ニ一家ヲ立、良匠ノ木ヲツカフ事、更ニスタル事

ナシ、無^レ節無^レ曲ノ上木ナリトモ、此ヲ用ルニ其處ヲ失トキハソノ用ヲ全クセズ、今雞掌治具ヲカマヘンニ、嘉肴美鳥アリト云ドモ、又蔬菜鹽醬相アツマラザレバ其用ヲ全クセズ、鯛・鯉・鰻・雁計ヲ用テ、諸色ニイタサント調味セバ、鹽梅ツイニ其宜ヲ不^レ可^レ得、故ニ五味相合テ其用處ヲ得ヲ味ノ上トス、天下ノ事皆如^レ此、何ゾ只一事ヲノミ必トセン、是善ノ末ヲ知テ善ノ實ヲ不^レ知也、善ノ實ハ其家ヲ立其味ヲ調ニアリ、一物一本ノ義ヲ必トスルコトナシト可^レ知也、

○問云、此說ニヨルトキハ、物ノ美惡ハコト^ノク其用法ニアリト可^レ心得^ニ乎^一、

答云、物ニ美惡ナキニ非ズ、美惡ヲ能ワキマヘテ其用法ヲ詳ニスルヲ聖人ノ教トスル也、サレバ大學ノ道ハ明德ヲ明ニスルニアリトイヘドモ、其用法ハ格物致知ヲ以テス、格物致知セザレバ明德ヲ明ニスルコトヲ不^レ得也、異端俗學各其志處ハ、明德ヲ明ニスルヲ以テ本トストイヘドモ、格物致知ノ用法タガフヲ以テ、明德トサス處明ニスルノ道、共ニ其實ヲ不^レ得バ、是用法相タガフガユヘ也、コ、ヲ以テ良木良材相アツマルト云ドモ、良匠コレヲ用ヒザレバ、勞而無

レ功、嘉肴美味相ツナワルト云トモ、庖丁ソノ術ヲ不
レ盡トキハ、コトトク用ヲ失フニ至ル也、俗學ハコ
レヲ不レ知シテヨキコトハイヅカタニテモ立コト也、
道ハ必ズ無道ヲ制スルモノナリト意必スルニヨッ
テ、却テ善立コトナク道明ナルコトナシ、用法ト、ノ
ワザレバ善モ善ナラズ、道モ道タラザル事也、世以
然リ、俗人ハ善惡ヲワキマヘザレドモ、用法ヲツクス
ガユヘニソノコト行ハレ、俗儒ハ善ヲ志シテ用法ヲ
不レ知、故ニ學却テ害トナツテ、事物ニ不レ通コト皆
然、是俗人ノ用法道ニアタレリト云ニハ非ズ、サレバ
天下ノ間人物ノ用、其用法ヲ盡スヲ以テ天下國家人
物ノ用相通ズ、一物一事トイヘドモ、用法ヲハナレテ
性心計ニテ其事ノ通ズルコトアラズ、性心アリトイ
ヘドモ、耳目アラザレバ見聞ノ用ナシ、四支アラザレ
バ執捉運奔ノ用ナシ、見聞執走其用法ヲ以テ無禮ト
ナリ禮容トナル、學ハ其用法ヲ詳ニキワムルヲ以テ
學トス也、

○問云、用法ヲキワムルノ道イカバ心得侍ルニヤ、
答云、用法アル事ヲ知トイヘドモ、是ヲ盡スニ道ヲ
知ザレバ、ヨキ事必アシクナルコト勿論也、サレバ

米ヲカモシテ酒ヲ作ルトイヘドモ、作ルノ道ヲ不レ得
バ却テ腐臭ス、人參ハ元氣ヲ養フ藥ナリトイヘドモ、
用法不レ得ニ其道トキハ病ヲ生ズ、シカレバ道ハ同ジ
ク道ニシテ、用法ヲ不レ知モノ、道トサス處ハ却テ人
ノ害タリ、異端ノ敎コトトク用法タガヘリ、俗學尙
然リ、コ、ヲ以テ有道ニ就テ正ストハ云ヘル也、有道
ノ人ニ非バ、或權謀ヲ事トシテ用法トシ、或ハ利口ヲ
以テ用法トス、タトヘバ酒ハ同ク酒ナリト云ドモ、味
ヲ詳ニセザレバ美惡厚薄ヲ不レ知、只外ノミヘタル所
ヲ以テ論ズルトキ、コトトク正味ヲタガフニ同ジ、
酒ヲシラントナラバ、酒ヲシレル人ニ此ヲ學ビ、コレ
ヲ正ストキハ、明ニシテカクル、コトナシ、酒ヲシラ
ザラン輩ニ酒ヲ考ヘバ、酒ノ道竟ニ不レ可明、コレ有
道ニ就テ正スト云ヘル心也、今ノ世ニ有道ノ人ナシ
トイヘドモ、幸ニ聖人ノ言行相ノコリテコレヲ正ス
ニ不レ可違、コトサラ大學ノ敎格物致知ヲ以テ極ト
ス、格物致知是聖人ノ用法也、故ニ天下ノ間、遠大ニ
シテハ天地、近小ニシテハ人物、トモニ格致シテ其用
法キワマラズト云コトナシ、學者ノ力ヲ竭スコト、此
間ニアリト可レ知也、

○問云、人必夢アリ、夢ハ形體ニ付ト云ガタシ、形體睡眠シテ不レ動トイヘドモ、夢裏分明ニモロコシマデモ往來スル事アルナレバ、是心性ハ形體ヲハナレテ別ナルベシ、

答云、人常ニ閑思雜慮アリ、閑思雜慮ト云ハ、閑ニヤスンズレバ心中ニ色々事ウカミ出テ雜念ヤムコトナシ、是心知ノシバラクモ止ルコトナキガユヘ也、故ニコノ體睡眠スレバ、心モ亦ヤスンズト云ヘドモ、思慮常ニ融通シテ止ムコトナキヲ以テ、夢中ト云ドモ、思慮感通シテ色々ノ思ヲナス、是皆心性知識ノワザナリト可レ知、心性ハ形體ヲハナレズ、故ニ其思慮コトク身外ノ事ニワタラズ、常ニ相思フコトノ諸縁ニシタガツテソノ夢ヲナス也、夢ニ五夢ノ說周禮ニ出タリ、只夢ハ心ノ閑思雜慮ナリト可レ知也、世俗皆云、形體睡トイヘドモ心ハ不レ睡ト、此說尤非也、形體睡ルトキハ心性モ亦睡ル、チブルモノ形體ニアラズ心性也、心性ハ感通知識シバラクモ不レ留ガユヘニ、睡ルトイヘドモヨク感通ス、但シ詳ニ云トキハ形體ハクタビレテ逸トイヘドモ、心性未レ睡、コノ間ニ思慮ワタルモノ皆夢也、心性モ睡レルトキハ夢モナ

シト可レ知也、

○問云、閑思雜慮ノ間色々ノ妄念アリ、コレヲ斷ゼンコトハイカン、

答云、閑思雜慮ノ妄念ヲサラントイタスベカラズ、平生ノ志ホドニソノ思慮アラワル、モノナリ、故ニ平生ノ志ヲヨク正シカラシムレバ、閑思雜慮モ正シキ也、心性ハ活物ナルガユヘニ、暫モ住ルコトナシ、住メント欲スレバ彌不レ住、故ニ思慮スル處ニ更ニトガナシ、唯思慮マデニシテ紅爐上ノ一點ノ雪ニコトナルナシ、是閑思雜慮ノ用法ナリ、學者閑思雜慮ヲ斷ゼンコトヲ欲ス、尤アヤマリナリト可レ知也、

○問云、夢中ノ事ニ平生ヨリ邪義ヲ見、又正道ヲミルコトアリ、是心ノ邪正ニヨルコトニヤ、

答云、是又閑思雜慮同意也、平生ノ志ホドニ夢ヲモミルベシ、夢中ニ我心ノ實必ズアラワル、モノ也、尤慎シムベシ、古人モ夢裏ノ工夫ヲ論ゼルコト多シ、サレバ夢中ノコト、イヘドモ、我工夫ノ位ヲ不レ出ナレバ、夢裏ノ惑ヲ以テ平日ノ惑ヲ知テ修スベキ也、邪正ノ相感ズルコト、悉クソノ時ノ思慮ニ從テ感通スルナリト可レ知也、

○問云、世俗ニ念力ト云テ思イツメタルコトハ、能物ヲ感ゼシムルト云ヘルハ、左モアルコトカ、

答云、至誠ハ不_レ通ト云コトナシトイヘリ、然レバ我ニソノマコトアランニハ、天地ヲ感ゼシムベシ、況ヤ鬼神ヲ感ゼシメ、人物ヲ感ゼシムルコトハ、不_レ及ニ沙汰_一コトナリ、凡ソ物皆氣アリ、氣アルトキハ感セズト云コトナシ、故ニ一事一物モソノ誠ニ因テソノ物ヲ感ズルコト古來ヨリ然リ、武王伐_レ紂渡_ニ子孟津_一、陽侯之波逆流、而疾風晦冥シケルニ、武王瞋_レ目而擣_レ之ケレバ、風ヤミ波靜ナリトカヤ、魯陽公韓ト戰テ援_レ戈而擣_レ日ケレバ、日爲_レ之反三含ナリト云ヘリ、賤臣叩_レ心飛_レ霜擊_ニ于燕地_一、庶女告_レ天振_レ風襲_ニ于齊臺_一トモ出タリ、各ソノ一事ノ誠ヨク物ヲ感ゼシムル事如_レ此、サレバ楚ノ熊渠子夜行石ヲミテ虎ナリト思テ射ケレバ、其矢アヤマタズ石ニ立テハブクラヲセメケリ、能ミレバ石ナリケリトテ、重テコレヲ射ルニヲドリカヘリテ跡モツカズトゾ、漢李廣モ亦シカリ、又後漢光武夜趙州ニ至テ路ニマヨエリ、人ノ物云ゴトクナルヲトノシテソノ形イブカシケレバ、劍ヲ拔テコレヲキツテ兩斷シテケリ、ツラ_一ミレバ石ナリ

ト云ヘル事モアリ、如_レ此ノ物語世ニ多シ、案ニ石モ亦物ナレバ、其氣ナクンバアラズ、其氣アルトキハ必ズ人ヲ惑ワシ人ヲヲソレシムルノ精アルモノ也、故ニ切テキレズト云コトナシ、射テ無_レ不_レ通也、ソノ氣ナキモノハ是ヲ射是ヲキルトモ、敢テ入ルベカラザル也、我誠ニ感ズルアイテアレバ感ズルコト得也、アイテナキトキハ感ズルコトヲ不_レ得、下ニ九二ノ徳アツテモ、上ニ九五ノ應アラザランニハ、無_レ可_レ通ト可_レ知也、

○問云、ソノ誠ヨク人ヲ感ゼバ、聖人ノ道ノ人心ヲ感ズルコトハ猶可_レ速シテ、夫子ノ時ニ不_レ合コトハ何ゾヤ、

答云、聖人ノ道ハ至誠ノ全體ナリ、故ニ一人一物ヲ感ズベカラズ、能萬代萬物ヲ感ズ、コ、ヲ以テ夫子ノ道古今地ニ不_レ落、人々皆コレヲ非ナリトスルモノナシ、是大道ノ物ヲ感ズルコト遠大寛厚ナルニアラズヤ、一事一物ノ誠モ無_レ不_レ感、況ヤ聖人ノ大道無_レ不_レ感ト可_レ知也、聖人ハモノニ不_レ感、コ、ヲ以テ物コレヲ惑ハスコトヲ不_レ得ガユヘニ、石ヲ射石ヲキルベキノ用ナシ、聖人ハ物ニ安ズ、故ニ患難ニ處シテ

行ニ患難ヲ以テ、飛霜振風ノクルシミナシト可レ知ナリ、愚者ハコレヲ不レ知シテ、或ハ其不思議ヲ感ジテコレヲ信ジ、或ハ不思議ハ皆イツワリナリト思ドモ不レ得其實ニ也、サレバ淮南子ニ夫瞽師音一而神物爲降之下庶女位賤ニ尙冀冀耳榮名主是權輕ニ飛羽官者至微賤也然而專精厲意、委務積神上通九天、激勵至精ト云リ、又曹子建求通親親、表ニ、臣伏而以爲犬馬之誠不レ能動人、譬人之誠不レ能動天崩城列女傳曰杞梁妻就夫之崩云々隕霜臣初信之、以臣心况徒虛語耳、

○問云、世間ニ不思議ノコト多キモノ也、其ワカチヲキイテモ不レ通コトアリ、天地ノ變又ハ人ノ變化ニモ言語道斷ノコトアルハイカ、

答云、凡ソ我不ニ心得不レ知コトヲ不思議ニ存ズルハツチノコト也、タトヘバ幻術ノ輩ヲノレハ是ヲ不思議トサラニ不レ思シテ、人ハコレヲ不思議トス、サレバ人ノミナレズ聞ナレザルコトヲバ、皆奇怪ニ思フトイヘドモ、天下ノ間ソノ道ナクソノユヘナクテアラハル、物、更ニ無レ之ガユヘニ不思議ナリト云ベカラズ、但シ不思議ハナキモノナリト云ニハ非ズ、不思議モアルモノナレドモ、コレヲ詳ニ盡ストキハ、不思

議ニハアラザルト可レ知也、或ハ人ノ目ニミヘズシテワザヲナス鳥獸鬼類アリ、或ハ夜ヲウカベヒ、或ハ朝暮ヲマチ、或ハ閑處ヲウカベヒ、或ハ山林ヲウカゴフ、各其得タル道アツテ、人ヲ僞リマドワシ事ヲハカルノ類甚多シ、是皆人ノ不レ知コトナレバ、人以テ不思議トス、シカレドモ是又天地ノ間ノ一物ニシテ、別ノ子細ナキコト、知テ、或ハ敬シテ遠レ之、或ハ信ジテ畏レ之、トモニ君子ノ道也、不レ知コトヲ推テスツルモ、專ラ信ジテ惑レ之モ、トモニ其不レ知量ト云ベシ、コ、ヲ以テ鬼神者上レ焉者、雖善無レ徵、無レ徵民不レ信、妖變者下レ焉者、雖善不レ尊、不レ尊民不レ信ト心得ベキ也、

○問云、不思議妖怪ノ事アルニ、コレニ惑ハサル、ト、マドハサレバカサレザルトハ、心ノ正ト不正トニアリヤ、

答云、能人ニバカサレザルモノハ、物ニバカサレズト可レ知也、凡ソ不思議妖怪ヲナス處ノ鬼魅ハ、只變化ノ一術ヲ得ルノミニシテ、人ノ知ニ及ブベカラズ、人ノ人ヲバカシ、不思議ヲナス事、ソノ知鬼魅モ亦不レ可レ及、故ニ巧言令色ノ小人、佞姦利口ノ奸人君ヲマ

ワシ人ヲ誣テ、ツイニ國家ノ滅亡ヲ致シ、身ヲ失家ヲヤブル事ヲ不_レ知、是大ナルバケモノナリ、サレバ德ヲナブニハ、鄧原ノバケモノアリ、道ヲコノフニハ異教ノ妖術アリ、天下ノ人多クハ是ニマドハサル、況ヤ色ノ人ヲバカシ、財ノ人ヲマドワスコト、白樂天ガ古塚ノ狐、久米ノ仙人ノ通ヲ失ヘルタメシ、財ヲツミテ世ヲ亡コト、皆是世ヲマドハスバケ物也、サレバ人心反覆ノ險ハ、山ヨリモサカシク海ヨリモケハシ、一日風波十二時トイヘリ、コノ中間ニ卓立シテ奸人ニバカサレズ、色財ニマドワズ、世上人欲ノ險ヲ事トセザル人ハ、鬼魅幻怪ヲナスト云ドモ、豈コレニマドワサレンヤ、故ニ人ニマドワサレザルトキハ、鬼魅コレヲマドワスコトヲ不_レ得ト可_レ知也、亦鬼魅ニマドワサレザルヲ以テ正シキ人トハ不_レ可_レ云、世ニ鬼魅ヲヨクシタガフル輩甚以テ多シ、是豈正明ノ人ナランヤ、唯一事ノ不動底アツテ、物ノタメニ役セラレザルノミト可_レ知也、コレヲ以テ大知大德ノ人々物ニマドワサレザルニ比較スベカラザル也、コ、ヲ以テ云トキハ、妖物以ニ人變_レ爲_レ大ト可_レ知、外ニ妖怪ノ物アリトテモワヅカ一小物也、唯人ノ人ヲバカス

事、人君大臣至誠ニ至ラズシテハ不_レ可_レ知コト也、○問云、世上ニ山伏女巫ノ類術ヲナシテ、バケモノヲシヅメ、コノ靈ヲ制スル事多シ、ソノ人不動心ノ修行アリトモミヘズシテ、ソノ術相叶コトハイカン、答云、鬼魅ニ鬼魅ノ道アリ、コレヲ制スルコトソノ道ニヨルトキハ安シ、彼山伏女巫ノ類ハ、久シクコレヲ制スルコトヲ得ルガユヘエ術必ズ通ズ、彼何ゾ不動心不動知ノ地ニ至ランヤ、凡ソ人ソノ道ヲ久シク修スルトキハ、ソノ道ニツイテ其用法ヲ詳ニス、故ニソノ術皆相叶フモノ也、禹水ヲ治メ玉フ時、淮水神無支祁ガ力、九象ニコユテ制シガタク人ノ目ニミヘザリシヲバ、命_二庚辰_一ジテ制セシム、庚辰ヨク木魅水靈山妖水怪ヲ制スルコトヲ得、遂ニ無支祁ヲ龜山ノ下ニ、クサリニテツナギ付テ置タル事舊紀ニミヘタリ、本朝役ノ小角入_二葛木山_一驅_二逐鬼神_一シテツカイモノト致シ、自_二葛木嶺_一金峰山ノ間ニ石橋ヲカクルコトヲ鬼神ニ命ジテナサシム、一言主神形醜シテ出ザリシヲ怒テ、深谷ノ間ニツナギケルコト舊紀ニ出_レ之、シカレバ其人其ワザヲ致シヲボエタランニハ、鬼魅ヲヨク制スルコト甚コトワリアルコト也、鬼魅ノヲ

ソル、事物ヲソル、文字、ヲソル、言、ヲソル、實アルヘケレバ、是ヲ盡シテ其用タルト可レ知也、

○問云、妖怪類多ハ浮屠佛者無欲清淨ノ人ヲ稱シ、コレヲソル、ト云ヘリ、是何ノユヘゾヤ、

答云、鬼魅妖怪ハコトゞク陰氣陽氣過不及ノ間ニ生ズルガユヘニ、尤モ無知妄作貪欲淫亂ノ物也、故ニ無欲清淨ノ地ハ彼ガ尤モ難トスルノ道也、コノユヘニコレヲ以テ敬恭ヲナスコト古來然リ、彼イカンゾ聖人ノ大道ヲ知ンヤ、人ノ知カレニマサルモ猶不レ知レ之也、

○問云、誠ト云ヘル事ノ心得、イカゞ仕レル事ニヤ、答云、誠ハ中庸ニ詳ニ論ゼリ、先虛僞ナク篤實ナルヲ誠ト云、コレ誠ノ一端也、至誠ト云トキハ不レ得レ已ノ道、天地ノ天地タルユエン、人物ノ爲ニ人物ユエン也、至誠ニ相カナヘル人ハ聖人也、聖人萬物ノ道ヲワカチ禮ヲ定ムル事、此至誠ヨリ出タリ、至誠ヲキワムルトキハ無不通、則中庸ノ中ト云ヘルニ不レ異也、後儒誠ノ字ニ付テ工夫ヲ立テ、意味ヲ深長ニ致ストイヘドモ、亦弄ニ性心ノイ、ニシテ、至誠ノ實ヲ不レ得也、天下ノ至誠ハ能盡ニ其性ト云テ、我性心ノ性心タ

ルユエンヲ知テ、ソノ性ノゴトクニ人ノ道ヲツクシ得タル、コレヲ盡レ性ト云也、我性心ヲヨク盡セバ道ヲ立禮ヲツクス事明ナルガユヘニ、天下ノ人ノ性ヲツクサシメテ、ソレゞノ用ヲトゲ、其材其德ヲ全セシム、天下ノ人性ヲ盡スユヘニ、萬物ヲノゞ其性ヲ盡スコトヲエテ、五穀ヨクミノリ、草木ヨクサカヘ、山川ヨク處ヲ得、是人物ノ性ヲツクスト云ヘル也、如此ナル至誠教アツテ、人物處ヲ得テコソ天地ノ化育ヲタスクルトハ云ベケレ、天地ノ化育ヲタスクル人ヲ天地ニナラベテ三才ト云也、若我性ヲ盡スコトヲ不レ得トキハ、人ヲシラス用ヲ詳ニ不レ致ユヘニ、人々其選ミ正シカラズシテ、其能ヲツクシオヲフルフコトヲ不レ得、人ソノ性ヲ盡スコトヲ不レ得バ、山川ノ制草木ノ生成、鳥獸魚蟲ノ用捨所ヲ失テ五穀ミノラズ、花實時ヲ不レ得、コレ性ヲツクサバルト云也、次ニ盡レ性ト云ハ、人ハ天地ニ並ビ萬物ニ長トシテ、其至善ヲウベキ所アリ、コレヲ自得シテソノ性ノゴトク道ヲタテノリヲ定ムル、是ヲ性ヲ盡スト云也、タトヘバ此花ハ如此大ニ如此見ゴトニ開發スベキ下地アレドモ、手入ナク養ウスク、其制ヲ不レ盡ユヘニ、ソノ性

分ホドニ開カザルハ性ヲ盡スト云ニ非ズ、制法ヲ詳ニイタシ、手入養ノコル所ナクシテ、其花一バイノ精ヲアラワス、是性ヲ盡ス也、人ノ性ヲ盡スト云モ、如此也ト可レ知、シカレバ天下ノ至誠ハ能盡其性トイヘルユベニ、至誠ノ人ハ性ヲツクセル人也ト可レ知、性ヲツクセバ聖人也、聖人ハ人ノ天ナリ、故ニ誠ハ天道ナリトモ云ル也、此誠アルトキハ何事ニテモ無レ不通、コレ至誠之道可ニ以前知トイヘル也、又自レ誠明ナリトモイヘリ、心正トキハ知至ト云ト同義也、ソノ誠ハトイヘバ、知ヲ明ニイタサレバ、ツイニ不レ可レ得、コレ自レ明誠アルト云也、生知上知ノ人ハ、自誠アツテ明ナルベシ、學者ハ皆明ヨリ誠ニ可レ入也、必竟心正ケレバ知至リ、知至レバ心正シ、誠則明也、明ナレバ則誠アリ、コレ上ヨリ説テ下ニ至ル、下ヨリトキノボセテ上ニ至ルトノ言ニシテ、別々ノコトニアラズ、我ニ生知ナク上知ナケレバ、唯自レ明誠ニ至ルヲ下學上達ノ功トスベシ、誠身有レ道、不レ明ニ善不レ誠ニ乎身ニ矣ト出タリ、誠ハイタレル道ナリトテモ、格物致知イタシテ至ラザレバ不レ可レ得ト云心也、是大學ノ物格而后知至、知至而后意誠也、

○問云、聖人以ニ天地ニ爲ニ萬物、本ニ人物ノ則トナシ玉フコト如何、

答云、陰陽五行相交テ萬物ノ用アリ、陰陽五行ハ天地ニヲイテ全シ、故ニ形氣アル者、皆戴ニ天蹈ニ地デ天地ノ外ニ不レ出、是天地ヲ父母トシ、乾坤ヲ本トイタスノユヘン也、凡天ハ氣也、故ニ昇テ不レ息、其象圓大ニシテ覆ニ萬物、地ハ形也、故ニ降無レ疆、其形厚博ニシテ戴ニ萬物、ソノ中精ノ氣ハ人物ヲ生ジ、偏塞ハ土石トナル、而シテ天ニ日月星辰ヲアラハシ、地ニ山嶽江海ヲ顯、人ニ賢愚男女ノ品、物ニ草木鳥獸魚蟲ヲナシ、風雨寒暑往來消長シテ晝夜ヲ正シ、或ハ順ニシテ四時ト、ノヒ、或ハ震而雷鳴シテ風雨ヲ起シ、山ヲクヅシ川ヲソコナイ、人物ヲイタメ、疫癘火事、亂逆鬪諍ヲイタシテ、天下コレガタメニ苦シミ、天變アラワレ地妖生ジ、人性アツテ不思議ヲナス、然レドモ晝夜四時日月ノ盈虧氣候ノ消息ツイニ變ズルコトアラズ、是天地ノ至誠天地ノ天地タルユヘニシテ生々無息、造物者無盡藏悠久ニシテ無レ疆ノ道也、聖人コレヲノツトツテ天下萬世ノ皇極ヲ立、人民ヲシテコレニヨラシムルユヘン也、哀公天ノ道ヲ問テ夫子コレニ答ヘ、

子夏三王之德參ニ於天地、敢問何如斯可レ謂レ參ニ天地
 矣ト問テ、夫子コレニ天地日月ノ三ノ無私ナルコト
 ヲ答ヘ玉フハコノコ、ロナルベシ、次ニ天地陰陽ノ
 氣ハ皆和シテ過不及アルマジキ事ナルニ、風雨寒暑
 モ時ヲウシナヒ、人物モコレニクルシム事、是凡人
 不審ナクテ不レ叶コト也、如レ此義ヲ不レ詳トキハ、人
 物ノ道ヲ不レ可レ知也、天ノ四時三百六十旬ノ中ニ晝
 夜相ヒトシク、寒暑相中スルノ日ハワヅカ春分秋分
 ノ二日也、天地ノ日月ソノ中ヲウルコト如レ此ニマレ
 ナリ、ソノマレナル子細ハ形氣アルモノハ運動シテ
 不レ留、天ハ形氣ノ極日月ハ形氣ノ精ナルガユヘ也、
 右秋分春分ハ日月晝夜長短ノ形相中スルヲ云ヘリ、
 サテ四時ニ四ノ中月アリ、一月ニ又一月ノ中アリ、
 一日一夜ニ其中アリ、コレハ時ニトツテ詳ニ中ノ義
 ヲツクセルナリ、一日一夜ニ日中夜半ノ二ノ中アル
 ハ、四時ニ春秋ノ二分アルガ如シ、晝夜十二時ニ又十
 二ノ中アリ、是十二月ニ十二ノ中アルニ同ジ、然シ
 テ右ノ中ト云ヘルソノ刻限ワヅカ瞬息ノ間ニシテ、間
 不レ容レ髪、シバラクスレバ日退テ中ニアラズ、物ノ中
 スルコト日月トイヘドモ久シカラザル也、是天地日

月ノ中タヤスカラザルワカチ也、故ニ四時ノ氣候モ
 順ナル事マレニシテ、風寒暑濕ノタガイアリ、凡ソ天
 ハ氣ナリ、地ハ形也、天ノ氣地ノ形、清濁相交テ風雨
 雪霜ヲ生ズ、然ニ天ノ運日月ノ往來日々ニタガイ、地
 ノ行氣亦日々ニ變ズルガユヘニ、所々ノ風寒暑濕皆
 不レ同也、是天地ノ氣清濁通塞アルコト不レ得レ已ユヘ
 也、次不得レ已シテ清濁通塞アルガユヘニ、人物トモニ
 立テソノ生々ヲトグル也ト可レ知、ソノ故ハ唯中精ノ
 氣ノミアツテ濁塞ノ氣ナクンバ、草木鳥獸不レ生萬物
 不レ出、シカラバ人アリトモ五穀ナク衣服ナクシテ人
 倫立ベカラズ、萬物ニ因テ人倫立、人倫ニ因テ萬物其
 性ヲ盡スト可レ心得ニ也、サレバ人倫内ニテモコトゴ
 トク皆中清氣ヲ得タル人計ナランニハ、タレカ耕シ
 テ民トナリ、タレカ力ヲ盡シテ工商トナリ、タレカ奴
 婢僕從トナツテツカユベキ、是小人アツテ君子立チ、
 君子立テ小人全ト云ノ心也、貧賤貧愚共ニ不レ得レ已
 ノ氣質ニシテ、共ニ天下ノ用タリ、コ、ヲ以テ考ユル
 トキハ、右ノ春分秋分ノ二中ハ天地四時ノ中ヲ云テ
 マコトノ中ニハ非ズ、其日用ノ中ト云ハ三百六十日
 皆中ナリ、一日十二時皆中也、ソノ故ハ日ノ長ヲ悅

デ用ヲナスモアリ、日ノ短ヲ悦デ其用ヲナスモアリ、
晝ヲ悦モアリ夜ヲ悦モアリ、タトヘバ西ヨリ吹風ハ
西ヘ行舟ヲ利シ、東ヨリ吹風ハ東行ノ舟ヲ利スルニ
同ジ、故ニ五穀ヲマイテソノ生長收藏セシムルコト、
三百六十日ヲツミテ皆ソノ用トス、是四時日々皆中
ナルニ非ズヤ、サレバ四民ソノ處ヲ得、萬物其性ヲツ
クスハ是聖人ノ盡_二人_一之性_二盡_二物_一之性_一、君子小人萬物
トモニソノ中ヲ得ルノイ、天下ニ明德ヲ明ニイタ
セルトイヘルナルベシ、次ニ清濁通塞ハ不得_レ已シテ
アリ、カルガユヘニ萬物又各生ヲトグルトイヘドモ、
大旱暴風霖雨地震等ノ變ヲ以テ人物ヲソコナウコト
ハ、天地ノ仁ニ不_レ有ニ似タリ、是又其マコト不_レ得
レ已ノコトワリアリ、今地ニ東西南北中央遠近アツ
テ、山川海陸其ツカサドルコトコトナリ、コノユヘニ
南方ハ暖ニシテ北方ハ寒シ、南方ハ雪ヲ不_レ見シテ、
北方ハ冬日ヲ不_レ見、是其地ノ形粧タガフトキハ天ノ
氣其ニ隨ガユヘ也、天地ノ氣如_レ此變ズルヲ以テ、其
地ニ出生スル萬物コト_レク其精ヲ異ニス、四方ノ
國土ソノ差別如_レ此コトハ、陰陽ノ相交ルニ因テ其用
ヲナセル也、水旱風震皆氣ノ偏塞ヨリ起ルコトニシ

テ、天地ノ變ハワヅカナレドモ、其人間ニ及ブ處ハ大
ナリトシル也、人シバラク怒ル時ハ其形相タガフ、況
ヤ天地陰陽ノ不和ヲヤ、サレバ一人怒レバ一家動、國
君怒ルトキハ一國動、天子怒ルトキハ天下動、天地ノ
變ハ天地ノ怒リ、陰陽不和ナレバ事物ヲ害スル事コ
トワリ也、人物ヲソコナフハ仁ニ非ルニ似タリト思
フ事仁ノ實ヲ不_レ知ガユヘ也、近ク譬ヲトルニ、國君
怒テ兵ヲヲコシテ敵ヲコロス、ソノ敵ノ軍兵我兵ト
モ何ノ咎カアツテコレヲ殺スヤ、ソノ國ノ山林田野
何ノアヤマリアツテコレヲサル又コレヲ荒スヤ、況
ヤ天地陰陽ノ不和、洪水大旱大風地震ヲコリテ、其山
川田野コレガタメニ崩壞スルニ、コレヲバノゾキコ
レヲバ散ズト云コトアルベキヤ、若コレヲ用捨ニ心
アラバ天地ノ私ト云ツベシ、故ニ聖人ハヨク天命ヲ
知テ危邦亂邦ニ不_レ居、巖牆ノ可_レ崩トコロ危險ノ可
レ恐地ヲ不_レ通、コレ身ヲ愛シ身ヲ慎ムガユヘ也、俗語
ニ時ノ大難ハ大權ノ聖者モノガレガタシト云ヘルハ
コトハリ也、殷ノ湯王ノ夏臺ニトラワレ、周ノ文王ノ
羑里ニコメラレ、周公ノ三年ノ遠流、孔子ノ七日ノ
絶_レ粒_{カテヲ}、皆是天地人物變ニ逢テソノ苦ヲ受タマヘルニ

非ヤ、コ、ヲ以テ天地ノ變ハ人物ノ教トナレルトイヘリ、夫子迅雷風烈必變ズトノ玉フハコノ心ナリ、古ノ王者變ヲミルトキハ自戒テ天下ニ直言ヲ求メ、自省スルヲ本トス、易ニ天下有レ風姤也、后以施命、詔四方^ツト出タルハ風ヲ以テ號令ニ比セル也、洊雷震、君子以恐懼、修省ト云ハ、コレ自省ノ心ナリ、孔子曰、天有四時^ニ春秋冬夏、風雨霜露無レ非^レ教也、地載^ニ神氣、神氣風霆、風霆流^レ形、庶物露生、無^レ非^レ教也、次ニ天地ノ長久ニシテ無^レ彊、日月寒暑往來消息シテ無^レ息ノユヘハ、氣ハノボリテ無^レ息形ハ降テ無^レ息氣ニ形アリ、形ニ氣アツテ昇降シテ降昇シ、生々無^レ息ガユヘ也、ソノ中間ニ日月アラハレテ陰陽ノ精ヲ示ス、是又形氣昇降ノ二ツニシテ、人ヲ以テ云バ知至リ德明ナルト云ヘルナルベシ、日月天ニカ、ツテ萬物明ニ、天地ノ間ノ人物コト^ハクコレニ因テ消息屈伸ス、天地ノ形氣アレバ日月ノ精明アツテ萬物立、タマタマ雲ヲコリ、霧サヘギツテシバラク其光ヲ失スラ人民諸物コレヲ仰グ、況ヤ天地アリトモ日月ノ明ナクンバ天地立ベカラザル也、サレバ人ハ人ノ形氣アツテ、ソノ性心ソナワル、性心若明ナラズンバ事物昏

然トシテ盲目ノ杖ヲウシナイ、暗夜ニ燭ノ消タルゴトクナルベシ、是學ヲ以テ知ヲキワムルニアリトスルユヘン也、日月ノ用ヲ云ニ光明無^レ息ヲ德トス、人心ノ用又容知無^レ彊ヲ德トス、日月明ナリト云ドモ雲霧サラニハナレズ、雲霧ヲハナレテ日月ヲミント云ハ非也、人心知アリト云ドモ氣質ニ因テ其用ヲ異ニス、況ヤ日月ハ天地ノ形氣ニツ、マル、スラシカリ、人ノ形氣ニツ、マレテ其精ヲアラワセルナレバ、不^レ學シテハツイニ不^レ可^レ得也、後世ノ學者此心得ヲ不^レ詳シテ、人ノ性心ヲ以テ天地ノ日月ニ比シテ、常ニ光明ナリトスル事尤不^レ得^ニ其實也、次ニ天地日月ノ道瞬息ノ間モト^ハマルコトナシ、是求メテ運動スルニ非ズ、陰陽ノ道昇降不^レ得^レ已シテシカル也、詩云、維天之命、於穆不^レ已、蓋曰^ニ天之所^ニ以爲^レ天也トイヘリ、易ニ天行健、君子以自彊不^レ息ト出タリ、コ、ヲ以テ考ルニ君子天地日月ノ不^レ息ノコトワリヲハカリテ、人生日用ノツトメモ亦自ツトメテ、更ニ不可^レ怠、怠トキハ必道ニタカビ、天地ノノリニ不^レ合也、天ハ覆テ無^レ外、地ハノセテアツシ、皆フカクツミ、アツク學デ至ルノ象ニシテ、一朝一夕ノユヘニ非ズ、四時各

氣候ヲツムコト久シ、故ニソノ間寒暑不_レ順トイヘドモ、ツイニハ其氣候ヲ不_レ失也、人倫日用ノツトメ、其積累多クンバ其功疑ナシト知ベキ也、是聖人ノ天地ヲ以テノツトルアラマシ也、

○問云、人ヲ以テ三才トイタセルハ、人天地ノ形氣ヲカタドリウクルユヘニ侍ルヤ、

答云、天地ノ間ニ出生スル物イキトセイケル類、天地ノ形氣ヲカタドラズト云事ナシ、コ、ヲ以テ天地人物ト相並ンデコレヲイヘル也、人ヲ必ズ三才ニ比スルコトハ、聖人人ノ性ヲ盡シテ人タル道ヲキワム、コニヲイテ聖人ヲ天地ニナヅラヘテ參_ニ天地ト云也、愚昧黒昏ノ輩我乃天地ニナラヘリト云ンコトハ甚ソノ道ヲ不_レ知也、中庸ニ贊_ニ天地之化育_一モノヲ可_下以與_ニ天地_一參_上矣トイヘリ、化育ノ贊ト云ハ天地ハ廣大博厚ニシテ唯大綱ノタガワザルマデ也、聖人世ニ生レテ四時閏月ヲ立テ、氣候ヲ考國郡山川海野ヲハカリテ度量ヲ制シ、其用法ヲ詳ニシテ四時ヲヲギナイ、萬物ノ生ヲトゲシムルコトヲハカリテ、人物各ソノ處ヲ得、故ニ天ニ因テ德ヲアラハシ、地ニ因テソノ能ヲアラワス、是聖人天地ヲ觀察シテ天地ノ言

ニカワリテ云、天地ノワザニカワリテ動、天地ノ耳目ニカワリテ視聽シテ、以テ法ヲ立教ヲノコシ、其マコトヲ示シテ萬世萬々世ニ至ルマデ、天地ヲ貴ブコトヲシラシムルハ、天地ノ性ヲツクスト云ベキ也、況ヤ人物ノ性ハ云ニ不_レ及也、カルガユヘニ聖人ハ天ニ先テ天弗_レ違、後_レ天而奉_ニ天_一時ト云ヘル也、如此人ヲナヅケテ天地ノ化育ヲ贊トハ云ベシ、故大人者與_ニ天地_一合_ニ其德_一、與_ニ日月_一合_ニ其明_一、與_ニ四時_一合_ニ其序_一、與_ニ鬼神_一合_ニ其吉凶_一ト云リ、又禮ニ奉_ニ三無私_一可_レ謂_ニ參_ニ天地_一トモイヘリ、凡愚ノ人ヲ云ニアラズ、但シ人皆聖人ニ至ルベキノ質アレバ、其本ハ天地ニモナラブベキ所アリト可_レ云也、

○問云、天道トハ何レヲサシテ云ベキヤ、
答云、天道ハ天ノ道也、天ノ道ト云ハ天地ノ間、二氣五行相メグリテ、往來消息更ニヤム事ナキノコトワリヲノツトリテ、聖人ノ道ヲ立ツ、サレバ四時ノヲシウツリ日月ノ運行シテ、萬物各其利ヲ利トスルノ道、明白ニシテカクスベキ處ナシ、天地ノ道ヲ日用ニウツシ、道ノ大原ヲ天ニ象ル事ナレバ、聖人天道ヲ貴玉フコト尤其故アリ、凡ソ萬物ハ陰陽五行ヲ不_レ出シ

テ、天地ハ陰陽五行ノ根元ナレバ、人物ノ父母天地ニ
不_レ出、是ヲ天道ト云也、クワシク易ノ繫辭ニ出タリ、
孔子天生_ニ德於我_一トノ玉ヒ、天之未_レ喪_ニ斯文_一也トノ
玉フハ、天ヲ以テ聖人ノ父母トシ玉ヘバ也、知_ニ天命_一
トノ玉ヒ天何言也トノ玉ヘルハ、道ヲ以テ天ヲ證ス
レバナリ、天道カル_レシク語ルベカラズ、故ニ子貢
モ不可_ニ得聞_一トイヘリ、哀公問、君子何貴乎、天道也、
孔子對曰、貴_ニ其不_レ已_一如_ニ日月東西相從而不_レ已_一也、是
天道也、不_レ閉_ニ其久_一、是天道也、無_レ爲而物成、是天道
也、已成而明、是天道也ト出タリ、

○問云、天地亦心アリヤ、

答云、天地ハ乾々トシテ無_レ息ノ誠ヲ以テ心トス、君
子コレヲカタドリテ自疆テヤマザルトハ云ヘリ、コ
ノユヘニ易ニ天行健也、君子以自疆不_レ息ト云ヘリ、
又曰終日乾々反復道也トモイヘリ、乃復ノ卦ニヲイ
テ復其見_ニ天地之心_一乎ト論ジ玉フハ、往來消長反復
シテヤマズ、始終サラニ無究ノイ、ナレバ是ヲ天地
ノ心ト云ベシ、中庸ニ天地ヲ論ズルニ至誠無_レ息ヲ以
テスルモ是也、聖人コレヲ以テ日用トシ、學不_レ厭教
不_レ倦トハ云ヘル也、禮ニ人者天地之心也、五行之端

也ト云、左傳ニ哀樂不_レ失、乃能協_ニ天地之性_一ト云、易
ニ正大而天地之情可_レ見矣トモ云リ、然バ天地性心ト
サス處一ツニアラズトイヘドモ、聖人易ニヲイテ天
地ノ道ヲ盡シ玉フニ、唯反復無_レ息ノ誠ヲ以テ心トス
ルニアリ、コノ誠アルガユヘニ日月以アラワレ、四時
以テ正シ、コレ誠ヨリ明ナルノコトワリト可_レ知也、
コ、ヲ以テ案ズルニ天地無_レ息ノ誠ヨリ此明ナル處
アツテ天地以テ立ツ、人ノ誠アツテ此知識相發スル
ニコトナラザルナリ、

○問云、易書禮詩ニ多ク天ヲ稱シテ、地ヲ不_レ言日月
ヲ不_レ言ハイカナルユヘザヤ、

答云、天ハ全體ヲサス、天ヲ云トキハ地コレニツギ、
日月コレニシタガフガユヘニ天ヲ稱スルコト多シ、
人ヲアゲテ其中ニ性心形體アルガ如シ、天ハ地外ヲ
カコンデ萬物天ノ中ニアリ、故ニ天ハ其全體ナリト
可_レ知也、ソノウヘ陰ハ陽ニシタガフモノナリ、陰ノ
先ダツコトナシ、天ハ陽ナルガユヘニ萬物ヲツ、ム
デ、陰ソノ中ニアリ、天ハ陽ニシテ一家ヲ統テ、妻妾
コレニシタガフニ不_レ異トシルベシ、サレバ天ヲ云ト
キハソノ中ニ地ヲ含、天地ヲ云トキハ四時日月コレ

ニ屬スル也、六經ニ君道ヲ詳ニシテ、臣道ヲイワザルモ亦此心也、

○問云、天地ト云陰陽ト云本一體ナレバ、天地ト云ベキヲ、陰陽ト云テモクルシカラザルコトニヤ、

答云、陰陽ト云トキハ天地ノ本ナリ、故ニ陰ト陽トハ相對シテ尊卑高下ノ差別無レ之也、天地ト云トキハ既ニ其形體相定ルヲ以テ天尊地卑也、世界ノ間コトゴトク天ノ氣ニシテ、地ハ天ニアワスレバ百分ノ一モ無レ之モノト可レ知也、ソノユヘハ萬物生々シテ己レ己レガ姿ヲアラワスト云ドモ、其形體ノ運動皆氣ノナスワザ也、氣息去トキハ形體云爲セズ、形體日々ニ腐穢シテ、骨肉コト^レクニ氣トナツテ去、ソノ、コレルモノワヅカノ査滓トナツテ土ニ留マル、萬類皆如レ此ガ故ニ、氣ニナツテノボルモノ、査滓相留テコノ土トナレリ、少モ氣アレバコト^レク炎上ス、サレバ一滴ノ露生長シテ此形體出テ、終レバ又一芥ノ纖塵相ノコロノミ也、コ、ヲ以テ天地間只此一氣ノミニシテ、形體ハ芥子微塵ノ如シ、サレバ天ハ上下四方相メグリテソノ中央ニ一點ノ査滓コリテ土タリ、コレ天ハ大ニシテ尊ク、地ハ小ニシテ卑シキ也、故ニ陰

陽天地一體ナルガ如シトイヘドモ、陰陽ト云トキハ相對シテ上下ナシ、天地ト云トキハ相ヘダ、リテ高下尊卑ノ位アキラカナリ、是繫辭ニ天尊地卑乾坤定矣、卑高以陳貴賤位矣トイヘル也、

○問云、古來ヨリ天地ヲ祭ルコトハ、禮義ヲ以テ本ヲワスレザルノ心ナリヤ、又不レ祭シテカナワザルノコトワリアリヤ、

答云、天地ハ人物ノ父母タリトイヘドモ、マサシク天地ノ大命ヲウケテ天地ヲ掌ニ握レル人ハ天子ナリ、サレバ萬乗ノ君ヲ號シ天子トス、コ、ヲ以テ天子ハ天地ヲ祭ルコト定レル法ナリ、禮記ニ云ク、萬物本^ニ乎天、人生本^ニ乎祖、此所^ニ以配上帝^一也、郊之祭也、大報本反始也、又云、郊之祭大報^レ天、而主日配以月ト出タリ、凡ソ天ヲ祭ヲ郊ト云、地ヲ祭ヲ社ト云、虞書ニ肆類^ニ于上帝^一ト云ハ天ヲ祭ルノ言也、祭ルニ品々ノ制法アリ、後世コレヲ封禪ト云ヘリ、コ、ヲ以テ案ズルニ天子ニシテ天地ヲ不^レ祭トキハ、人ノ父祖ヲ不^レ祭ニコトナラズ、故ニ上帝ヲ祭ルニ圓丘ヲ以テシ、后土ヲ祭ル方丘ヲ以テスルコト舊記ニ明也、但天地合祭ノ說、分祭ノ說アリ、詳ニ文獻通考大學衍義補ニ

出タリ、次ニ天ヲ祭ルコトハ天子ノワザニシテ、三公諸侯モ天地ヲ祭ルコトヲ不_レ得、只封内ノ山川ヲ祭ルノミ也、丘文莊曰、蓋以_二萬國同在_一一天之下、凡天所_レ覆者皆天子有也、萬國同戴_二乎一天_一以事_二天子之一人_一、故惟天子獨得_レ祭_二天_一、

○問云、世ニ鬼神ニ祈禱シテソノ願ヲ告祭スルコトアリ、其說アルコトニヤ、

答云、祈禱モ亦祭祀ノ一也、サレバ周禮六祈ニ祈_二福祥_一トイヘルコトアリ、禮ノ郊特性ニ祭有_レ祈焉ト云ヘリ、皆祈禱ノ義也、人情ノ誠チガヒ思コトナクテ不_レ叶、チガフ處アルトキハ必鬼神ノ助佑ヲタノムコト是人情ノ常ナリ、聖人禮ヲ定メ玉フ事、皆人情ニ從フガユヘニ、此制法ヲ立テコレヲ節文シ、其祈禱イタスノ道ヲサダメ、其可_二祈禱_一ノ神ヲ定メ、祈禱ノ役人ヲ定ム、シカレバ祈禱ノ道自_レ利ヲ私シテ人ノ利ヲ利トセザランハ、祈テ神コレヲ不_レ可_レ受、故ニ禮器ニ君子曰、祭祀不_レ祈ト是私ノ福ヲ專トスルコトヲ戒シムル也、君父ノタメニ祈禱シ、家國ノタメニ祈リ、人民ノタメニ祈ランコトハ、尤モ祈禱ノ道也、而祀禱スル處ノ神各其所_レ司アリ、禮ニ天子祭_二天地_一祭_二四方_一、

祭ニ山川_一祭ニ五祀_一歳徧、諸侯方祀祭ニ山川_一、祭ニ五祀_一歳々徧、大夫祭ニ五祀_一士祭ニ其先_一ト也、非_二其所_一祭而祭_レ之、名曰_二淫祀_一、淫祀無_レ福ト出タリ、詳ニ曲禮五制ニ出タルナリ、丘文莊云、祭祀之禮在_レ上者可_二以兼_一下、在_レ下者不_レ可_二以僭_一上、荀卿曰、郊止_二乎天子_一、社止_二乎諸侯_一、道及_二乎大夫_一是也ト云ヘリ、昔楚ノ昭王有_レ疾ウラカタニ河ト云ヘル河ノタ、リ也、是ヲ祭ハ可_レ愈ト出タリ、昭王キイテ弗_レ祭_レ之シテ曰、三代命_二祀祭_一不_レ越_レ望、江漢睢漳_四水在_二楚界_一楚之望也、禍福之至不_二是過_一也、我不德ナリト云トモ、分外ノ河ワレヲ罪スベカラズトテ遂ニ不_レ祭、孔子曰、楚昭王知_二大道_一矣、其不_レ失_レ國也宜哉ト左傳ニ出タリ、論語ニモ非_二其鬼_一而祭_レ之語也トハコノ心ナルベシ、祈禱ノ道アルトキハ神ニツカフルノ役人アツテ是ヲ執行スベシ、是男巫女巫ノ制アツテコレヲ司、周禮ノ司巫ノ官是也、商書ニスデニ有_二巫風之說_一テ、周公又巽卦ノ爻ノ辭ニ有_二史巫之占_一ト出、論語ニモ巫醫トナラベイヘリ、トモニ神祇ヲ司ドルモノ、義ナリ、サレバ祈禱ノ道古ヨリ有_レ之コトナレバ、其說タシカナリト可_レ知也、

○問云、論語ニ子路請禱ケレバ孔子有諸トノ玉ヲ考レバ、禱ルト云コトヲ不レ用ニ似レリ、

答云、父母疾病ニヲカサレテ人ノ子コレヲ祈ルハ、切迫ノ實ナレバ祈ルト云コトサダマレルコト也、儀禮ニ疾病乃行禱ニ五祀トハコレナルベシ、武王有病、周公以王室未安、請命三王、欲以_レ身代_ニ武王之死_ニ玉フ、ソノ一篇ヲ金縢ノ匱ニヲサメラレタルコトハ周書ニ明文アリ、マコトニ臣子ノ誠聖人ト云トモソノ祈禱アリ、孔子疾病ニシテ子路コレヲ祈ラント請フコトハ、請テ禱ベキノ道ニ非ズ、夫子豈コレヲ禱コトヲ許シ玉ハンヤ、故ニ子路ガ暴卒ヲ戒メテ有諸トノ玉ヒ、丘之禱久矣トノ玉ヘリ、凡ソ祈禱ハ悔過遷善以_レ祈_ニ神之祐_ニ也、聖人常省日新也、故ニ決シテ天命ニマカセテ更ニ疑ナキノ戒也、祈禱ノ道ナキトノ玉フニハ非ズ、

○問云、古來ヨリ祈禱成就スルモアリ、又否モアルハ何ゾヤ、

答云、祈禱ノ道不_レ正トキハツイニ福アルベカラズ、祈ルニ誠ヲ不_レ以_トキハ遂ニ福ナシ、禮曰、賢者之祭也必受_ニ其福_ニ、非_ニ世所謂福_ニ也、福者備也、備者百順之

名也トイヘリ、コ、ヲ以テ案ズルニ世ノイヤシキ匹夫匹婦ト云ドモ、一念ノ誠アル時ハ、目ニミヘヌ鬼神ヲモ感ジ、天地ノ遠大ナルヲモウゴカシツベシ、況ヤ聖賢ノ誠アラシニハ天地ノ神祇ヲモ感格センコト疑ナシ、サレバ聖賢ノ祈禱無_レ不通、次ニ天子國君ハ其寄異_ニ子他_ニ天子ハ四海ノ間日月星辰ノ高、山川丘陵ノ大ナルコレヲ制スルコトヲ放ニス、況ヤ先代ノ聖賢名臣烈士ト云トモ、コレヲ升降浮沉セシメン事、ホシイマ、ナラズト云コトナシ、諸侯ハ我封内ノ山川丘陵、我ニ屬スル處ノ神祇又コレヲ司、故ニ其精神氣魄トモニ流通貫徹シテ、人君ノ思ニ感ゼズト云コトナシ、コ、ヲ以テ周禮ノ太宰ニ八則ノ制ヲ立テ、一曰祭祀以_レ馭_ニ其神_ニト云リ、云心ハ民人官人コソ人君ノ下知ヲウクベキニ、目ニミヘヌ鬼神ヲ下知スベキコトモナク、下知ヲ可_レ受_レケモ不_レ有ニ似タリトイヘドモ、既ニ天下國家ノ人民土地天ノ時マデモ、人君ノ下知ニ不_レ從ト云コトナキナレバ幽ニシテ無_レ迹、鬼神ト云トモ下知ヲ不_レ受ト云コトナシ、サレバ犧牲既成、黍稷既備、然而旱乾水溢則變_ニ置社稷_ニト云ハ古制也、コノユヘニ國ニ可_レ祭ノ社ヲ立テ、祭祀ノ禮ヲ

定メ、淫祠ヲコボシ、廢祠ヲアグル、皆人君ノワザニアルヲ以テ、人君一念ノ誠アルトキハ、天下ノ神祇コレヲ加護シ、運ヲソヘズト云コトナシ、是天子國君ノ祈禱必シルシアルユヘン也、

○問云、聖人ハ祈ルコトナクシテ、周公ノ祈玉フハイカナルコトニヤ、

答云、或人問程伊川、周公欲代武王死、其知命乎、伊川云、只是要代兄、豈更問命、或問朱子、亦有此理否、朱子曰、聖人爲之亦須有此理、楊龜山曰、聖人固知天理、然只爲情切、猶於此僥倖萬一也、故至誠爲之、コレ先儒ノ所論也、愚謂聖人無祈ト云コト大ナルアヤマリ也、無祈ハハニ祭祀アルベキヤ、凡ソ人君即位トキハ、必ズ天地山川群神ニ告テ受命ノカシコキコトヲマフシ、寶祚ノ長久ヲ祈リ、巡狩ノトキハ名山大川ヲ祭テ是ヲ告ルコト、舜典大禹謨王制等ノ諸書ニアラハル、コレヲ告祭祈禱之禮ト云ヘルナリ、是皆其事ヲハジムルニツイテ其誠ヲアラワシ、天神地祇ニ告祈テ神ノ從ハンコトヲ欲スレバナリ、シカレバ此禮皆往古ノ聖人天ニツイデ極ヲ建玉フノ道也、豈不祈禱ニヤ、コトニ周公以

レ身代武王ト祈ル、不レ得レ已ノ誠ナレバ、是ノ間ニ末儒ノ議擬ヲ入ル、處ナシト可レ知也、後世ニ至テ人々道ニクラクシテ、必一事ニ泥著スルガユヘニ、他ノコトワリニ不レ通、祈ルコトアリト云ヘバ專神社ヲコトトシテ、却テ神ヲアナドリ、祀ヲケガス事ヲ不レ知、況ヤ老君ガ傳ニ星ヲ祭り、北斗ヲ敬スルノ事アツテ、其後浮屠ノ輩コレヲ學ビ福得ヲコト、ス、コレヨリ祈禱ノ禮ケガレテソノ祈ルコト不レ得レ道、ソノ祭ルコト分ヲ不レ知、ツイニ幻誕矯誣ノ說ヲコト、ス、是祭禮ノ道不レ明ガイタス處也、或又利口佞姦ノ輩ヲノレガ意見ヲ立テ、祀テ無益トコ、ロヘ、神祇ヲ蔑如シテコレヲ廢壞ス、共ニ其道ヲ不レ知ガイタス處ナレバ、二ツトモニ君子ノ道ニ不レ在ト可レ知也、論語祭神如神在トノ玉ヘリ、聖人既ニ祭レ神ノ言アリ、又無レ所レ禱トモノ玉ヘリ、可ニ并考一也、

○問云、鬼神非人實親一惟德是依トイヘリ、然レバソノ道タバシキ人ハイノラズトモ神ノ守リアルベキ也、

答云、ソノ道正シキ人ハ能祈ル、祈テ無レ不レ受レ福也、シカルニ周書ニ皇天無レ親、惟德是輔、又曰黍稷非

レ馨、明德惟馨ト云ヘルハ、人主ソノ身ヲ正サズシテ
シキリニ福ヲ神明ニイノルヲ戒ルノ言ナリ、サレバ
無レ祈ト云ヘルニハ非ズト可レ知也、

○問云、非ニ其鬼ニ而祭レ之ハ古ノ道ニ非ズ、シカルニ
先聖先師ヲ釋典シ、功臣名士ヲ祭祀スルコト、其イワ
レナキニ似タリ、タトヘ祭ルトモ鬼神コレヲ不レ可
レ饗ニ同ジ、

答云、其功德アツテコレヲ以テ祖トシ、コレヲ以テ師
トスル時ハ、其ノ傳來ノ輩、此ノ功德ヲ蒙テ身ヲ立道
ヲ行テ、名ヲ後世ニノコスガユヘニ、其鬼神血氣ノ脈
流アラズト云ヘドモ、其心力ヲツクセル道ヲ相續ス
ルヲ以テ、乃コレヲ祭祀スルコト非ニ其鬼ト云ニ非
ズ、コレ祭ニ有レ報レ焉ト云ニ同ジ、周禮ノ大司樂ニ、
掌ニ成均五帝學名之灋、以治ニ建國之學政、而合ニ國之子弟
焉、凡有レ道者、有レ德者、使教焉、死則以爲ニ樂祖、祭ニ
於瞽宗出タリ、又禮ニ聖王之制ニ祭祀ニ也、法施ニ於
民ニ則祀之、以死勸レ事則祀之、以勞定レ國則祀之、
能禦ニ大菑ニ則祀之、能捍ニ大患ニ則祀之トアリ、コ、
ヲ以テ云トキハ、其功德シバラクモ民人ニ蒙ルコト
ナラン輩ハ祭ルコト古ノ法也、コトニ道ノ師學ノ德

アラシ、人ヲ祭ルコトハ天下ノ人民ノ崇敬シ、ソノ德
ヲ以テ君々タリ、臣々タルノユヘナレバ、人タルモノ
是ヲ敬恭セズト云コトナシ、史趙曰、盛德必百世祀ト
云ヘルハコノコト也、文王世子篇ニ凡學春官官謂ニ禮樂
詩書之官釋奠于其先師ト云ヘリ、又凡始立レ學者、必釋ニ奠于
先聖先師トモ出タリ、是古來ノ道德アル人、又ハ聖
賢ノ類ヲ祭ルノ心也、孔子ヲ祀ルコトハ漢ノ高祖過
魯、以ニ大牢祀ニ孔子ト云ヘリ、是ナン孔子ヲ釋奠イ
タスノ初也、唐ノ太宗ニ至テ周公ヲ先聖ト云テ孔子
ヲ配享シ、ソノ後以ニ孔子ニ爲ニ先聖、顔子爲ニ先師ニ
定リ、周公ヲ停メタリト也、次ニ忠臣義士孝婦烈士ヲ
祭ルコトハ、唐ノ玄宗天寶七年ヨリ事起レリ、古ニ其
例ナシトイヘドモ、忠孝仁義ヲ崇玉フヲ以テ、其一事
一行ノ功德アラシランニハ、其本國生國居處ヲ詳
ニシテ、其處ニ命ジテ日ヲ擇デ祭祀アラシコトハ、マ
コトニ甚深ノ德政ナレバ、幽冥ノ鬼魄モコレニ感動
シ、見聞ノ士庶モソノ志ヲハゲマサズト云コト不レ可
レ有レ之也、

○問云、古ヘヨリ淫祠ヲ以テ戒トス、今ノ玉フゴトク
ンバ、天下ノ神社年々ニ増益シテ、國政ノワヅライタ

ルベシヤ、

答云、徧^ニ于群神^ト云ハ、舜典ノ言也、懷^ニ柔百神^トハ、周頌ニ出タル明文也、周禮ニ祭^ニ四方百物^トイヘルハ、祭祀必ズ天地人ニ不^レ限也、サレバ祭法云、四坎壇祭^ニ四方^ト也、山川林谷丘陵、能出^レ雲爲^ニ風雨、見^ニ怪物、皆曰^レ神、有^ニ天下^ト者、祭^ニ百神^トアリ、コ、ヲ以テ考フルニ功德アルトキハ神位スルコト、古來ノ法ナリト云ヘドモ、功德ヲタゞスコト不^レ得^ニ其道^トキハ、コトゞク淫祠タランコト疑ナシ、然レバ聖人ノ定法ヲ本トシテ其功德ヲハカリ、或ハ廟ヲ立神官ヲ置、或ハ配享シテ廟ヲ不^レ立、或ハ閭ニ表シ門ニシルシテ祀奉ニ不^レ及コト、其品節尤詳ナラバ、ナンゾ淫祠ノ說ニ及バンヤ、凡ソ淫祠ト云ハ民間ノ私ニシテ公官ノ命ニアラザル也、公官ノ命アラザルトキハ人コレヲ可^レ除コトナレドモ、世俗崇^ニ尙神怪之事^トスルヲ以テ、神ヲヲソレ禍ヲヲソレテ、必ズコレヲ直スコトヲ不^レ得シテ、年月フリ山林シゲリテ、マコトニ神サビタル地トナルコト世以テ多シ、コレヲ淫祠ト號スベシ、昔漢ノ成帝ノトキ、秦匱衡奏シテ淫祀ヲ毀ランコトヲ請フ、ソノコロ凡所祠六百八十三所ニシ

テ、其二百八所ハ所可^レ祠ニシテ、四百七十五所ハ禮ニ非ト告シケレバ、命ジテコレヲヤメシム、其明年匱衡罪アツテ咎ニ行ハレケレバ、世人皆神明ノ罰ナリトイヘリ、天子コレヲアヤシミ、劉向ニ尋玉ヘバ、劉向對テ申シケルハ、家人^{謂^ニ庶人不^レ欲^レ絶^ニ種祠^{繼嗣所^ニ傳祭者^ト}之蒙^ニ不^レ欲^レ絶^ニ種祠^{繼嗣所^ニ傳祭者^ト}況ヤ於^ニ國乎ト對ヘケリ、匱衡ガ云處ハ淫祠ヲコボツノコトワリニシテ、劉向ハ又コレヲソシレリ、皆是ソノマコトヲ不^レ得ヲ以テソノ實ヲ不^レ盡也、朱子曰、後世有^ニ箇生^ト的神道、人心邪向他、他便盛、如^ニ狄仁傑^ト只留^ニ泰伯^ト伍子胥^ト廟、壞^ニ了許多廟、其鬼亦不^レ能^レ爲^ニ害、這是他見得無^ニ這物事^ト了、上蔡云、可者欲^ニ人致^ニ生之故、其鬼神不可者欲^ニ人致^ニ死之故、其鬼不^レ神可^レ見、鬼神不^レ能^ニ自神^ト、所以神不神、由^ニ人心向背^ト也トイヘリ、愚按神因^ニ人顯^ニ其功^ト、其人正則惡鬼不^レ得^レ爲^ニ怪、其人邪則妖鬼亦顯^ニ其靈^トノコトワリナレバ、唯聖人所定祭祠ノ禮ヲ以テ天下ノ鬼神ヲタゞスニアルベキ也、然レバ其邪正ヲ明ニシテ民間ニホシイマ、ニ神祀ヲ立ルコトヲ禁ズルコト風俗ノ要政也、}

○問云、祭祀ノ禮古來ヨリ其制アリトイヘドモ、未^レ盡^ニ其實理^トガユヘニ、只古典ニマカセテ其ユヘンヲ

不_レ知、若人ノ靈相ノコリテアリト云バ、性心ハ氣質ノ外ナリト可_レ云也、性心ハ氣質ニ屬ストイワバ、形氣既ニヤブル、何_レノ處ニカ此鬼神アツテ祭祀ヲ可_レ饗ヤ、シカレバ唯本ヲ報ジ、遠ヲ追ノ道其シカタ計ノコトナルニ似タリ、

答云、丘文莊云、按祖考精神自_レ有_レ生以來、禪續承傳以至_レ於今日、子孫之精神即祖考之精神、而祖考之精神又即其所承祖考之精神也、先儒謂、人之精神萃_ニ於_ニ廟_ニ、先王設_ニ爲_ニ廟_ニ祧_ニ以聚祖考於其間、而子孫致_ニ其_ニ孝享之誠_ニ、上以承祖考氣脈之傳、下以爲子孫嗣續之地、使其精神萃聚凝結而常不_レ散、繼承而永_レ不_レ絶也トイヘリ、マコトニ子孫ノ先祖ヲ祭祀センコト其コトワリアルコト也、凡_ソ天地ノ形氣ヲカリテ今日此生アリ、ステニ死スルトキハ形氣散ジテ氣ハ昇リ、質ハ降テ各天地ノ陰陽タリ、コ、ニヲイテ廟ヲカマヘ主ヲ立テ、祖考ノ神ヲコ、ニアツメテ以テ子孫祭祀ノ實トス、故周易ノ萃ノ卦ニ王假有_レ廟、致_ニ孝享_ニ也ト出タリ、シカレドモ祭祀ノ子細ハ學者格致ノ功ツミ、其至誠ヲ以テコレヲ論ゼザレバタヤスク通ズルコトニ非ズ、聖人ノ教ハ引テ不_レ發處アリ、學者自

省テ其實ヲ得ンコトヲ欲スレバナリ、サレバ祭祀ノ實ハ學者格致ノ功ニヨツテ一尺ニハ一尺ノ誠、一寸ニハ一寸ノ誠ヲ可_レ得也、今ソノ大概ヲ記スノミ也、禮ニ孔子曰、之_レ死而致_ニ死_ニ之、不仁而不_レ可_レ爲_ニ之也、之_レ死而致_ニ生_ニ之不知而不_レ可_レ爲_ニ也、是故竹不_レ成_ニ用_ニ、瓦不_レ成_ニ味_ニ、木不_レ成_ニ斷_ニ、琴瑟張而不_レ平、竿笙備而不_レ和、有_ニ鐘磬_ニ而無_ニ簋簠_ニト出タリ、又謂_ニ爲_ニ明器_ニ者知_ニ喪道_ニ矣備_ニ物而不_レ可_レ用也、哀哉死者而用_ニ生者之器_ニ也、不_レ殆_ニ於_ニ用_ニ歟乎哉、其曰_ニ明器_ニ神_ニ明之_ニ也、塗車芻靈自古有之トナリ、コ、ヲ以テ考ルニ死セリトスルハ、孝子ノ心ニアラズ、又生リトセバ甚不知シテツイニ殉死ヲ用ユルゴトクニ至ルベシ、是聖人禮ヲ定メテ其過不及ヲ節シテツイニ祭祀ノ禮ヲ定ム、人死シテ喪ヲ行ノ間死者ノ氣未_レ散ヲスラ生ケリトスルヲ不知トス、況ヤ祖考形氣去テ久シキヲ、必ズ祭祀ニ享ル處アリト、生ルヲモイヲナサンコトハ、聖人ノ道ニアラズ、然レバトテナキコトナリト云ハ、甚不仁ノ至リ君子大ニ戒シムル處也、故ニ夫子モ祭祀_ニ在_ニトノ玉_ニ、中庸ニ事_ニ死如_ニ事_ニ生_ニ、事_ニ亡如_ニ事_ニ存_ニトモ云リ、祭義曰、霜露既降君子履_ニ之、必有_ニ悽

館之心、非其寒之謂也、春雨霽既濡、君子履之、必有怵惕之心、如將見之、先儒云、霜露既降、上脫「秋」字、亦曰、致齋於內、散齋於外、齋之日思其居處、思其笑語、思其志意、思其所樂、思其所嗜、齋三日乃見其所爲齋者、祭之日入室、儼然必有見乎其位、周還出戶、肅然必有聞乎其容聲、出戶而聽、惴然必有聞乎其歎息之聲、ト出タリ、是皆其誠ヲ以テスルガユヘニ如レ在ノコトワリナリト可レ知也、

○問云、祭祀スルトキノ心得イカニ可レ仕ニヤ、答云、コレ乃如在ノコトワリナレバ、直ニ祖考ノ神靈ニ相對スルノ心ヲ以テスベシ、シカラザレバ孝子孝孫ノ實ニアラズシテ、人心相アツマル事ナシ、人心アツマラザレバ鬼神コレヲウクベカラズ、席ト云神ノ主ト云、皆鬼神ノ散離スルヲアツムルノコトワリナレバ、人心モ亦コ、ニヲイテ不ニ紛亂、サレバ益曰、至誠感神、又商書ニ伊尹曰、鬼神無常享、享于克誠、トイヘリ、神ヲ感ゼシムルニハ此誠ヲ以テ本トス、誠ソナワルトキハ神無レ不レ感ト可レ知也、祭義云、唯孝子爲ニ能變親、祭統ニ、夫祭者非ニ物自レ外至者ニ也、自レ中出生ニ於心ニ者也、必怵而奉レ之以レ禮、是故唯

賢者能盡祭之義ト出タリ、コ、ヲ以テ祭ルニ誠ヲ以テシ、ソノ法禮ヲ詳カニセバ、内外一致シテ神ノ感格ウタガフベカラザル也、

○問云、祖考祭祀ノ禮、當時ノ通法ヲ承知センコトヲ願フ、

答云、禮云、凡治人之道、莫急於禮、禮有五經、莫重於祭ト出タリ、周禮太宰以八則治都鄙、一曰、祭祀以馭其神、又太宗伯之職掌邦之天神人鬼地示與祇之禮、以佐王建保邦國、以吉禮祭鬼神、禮凡其別十有二事、邦國之鬼神、是各祭祀ヲ重ズルノユヘ也、凡ソ祭ルニ其誠ヲ以スルトキハ、犧牲玉帛ソナワラズ、簋豆簠簋ヲマフケズトモ鬼神コレヲウクベシ、苟有明信澗谿沼沚之毛、蘋蘩蕰藻之菜、篚筥錡釜之器、潢汙行潦之水、可薦於鬼神、可羞於王公トハコノ心ナレベシ、シカレドモ祭祀ニソノ道ヲツクサレバ、亦聖教ノ全ニ非ズ、凡古ノ禮ハ、今ノ世ニ用ガタキコト多シト、先儒是ヲ論ズ、況ヤ中華ノ古例ヲ以テ、本朝ノ今ヲ準擬スベキコトハ君子ノ致ス處ニ非也、シカレ共三代ノ聖王人情ニ因テ、制作アリシ禮儀之深意ヲ不レ詳トキハ、祭禮ノ實ヲ不レ可レ得ナレバ、時異

勢殊風土甚不同ト云ドモ、斟酌參挹セバ其ノリナク
ンバアラザル也、祭ト云ヘルハ四時ノ仲月ニ日ヲト
シテ祭器祭服ヲト、ノヘ、有司諸役人ヲアツメテ、犧
牲玉帛ヲマウケ、コレヲ祭祀スルコト也、穀梁傳云、
宮室^{謂齋}不^レ設^レ不^レ可^レ以祭、衣服不^レ備不^レ可^レ以祭、車
馬器械不^レ備不^レ可^レ以祭、有司一人不^レ備^ニ其職不^レ可^レ
以祭トハコノコト也、コ、ヲ以テ大夫士宗廟之祭
有^レ田則祭、無^レ田則薦トイヘリ、薦トハ時ニトツテ新
物ヲ奉ルコト也、祭ニハト^レ日而薦^レ新、不^レ擇^レ日ノ法
也、コ、ヲ以テイワバ士庶人ノ食祿マデニシテ菜地
アラザラン輩ハ、祭ルト云ヘルニ不^レ可^レ及コト也ト
イヘ共、子孫ノ身トシテ其分限相應ノ祭薦アランコ
ト、亦人情ノ不^レ可^レ已道ナレバ、此禮ヲロソカニ不^レ
可^レ究、近クハ伊川ノ程子斟酌シテ大概ヲ論ジテ曰、
家必有^レ廟、廟必有^レ主、月朔必薦^レ新、時祭用^レ仲月、冬
至祭^ニ始祖、立春祭^ニ先祖、季秋祭^ニ禘、忌日遷^ニ主祭^ニ正
寢、凡事^ニ死之禮、當^レ厚^ニ子奉^ニ生者^ニト、是士庶人ノ常
祭也、コ、ヲ以案ズルニ異朝ノ忌日ト云ハ、一年ニ一
日ヲ用テ毎月其日ヲ不^レ用、本朝ニモ古ハ國忌ト號シ
テ、一日ヲ用トイヘドモ、今毎月其日ヲ以テ祖考忌日

トス、是近代ノ風俗也トイヘドモ、尤モ孝子慈孫は
用ユルニタルベシ、マコトノ正忌ニ非トイヘドモ、既
ニ其日ノ數相ノレルトキハ子孫はヲ忍ニタヘズ、是
亦人情思^レ親ノ實ナレバ、祭祀ニ日ヲトスルニ不^レ及、
四時各此日ヲ以テコレヲ祭ランコト禮ニ近カルベ
シ、中ニモ仲月首月ハソノ心得アルコト也、コトニ忌
日ニヲイテヲヤ、是祭祀ノ時也、尤朔望ニハ只奠茶燒
香シテ禮拜スルコト謁^レ親ノ道也、年中ノ五節句等ニ
ハ新菓新物ヲ獻ジ、ソノ時ヲ告奉ルベシ、彼祭^ニ始祖
祭^ニ先祖^ニ等ノコトハ士庶人ノ禮ニアラズ、此禮朱子
既ニ立テ爲^ニ二祭^ニ載^ニ子家禮時祭之後、其門人楊復乃
謂、朱子初年亦嘗行^レ之、後覺^ニ其似^レ僭^ニ不^レ敢祭^ニト云
ヘリ、古者宗廟之制大夫三士二庶人祭^ニ于寢^ニト云
レバ、士庶人トシテ始祖先祖ノ祭祀ハ禮ニ中ルベカ
ラザル也、王父母ヲ祀ルコト唯ソノ忌日ノミヲ以テ
スベキ也、凡ソ祭不^レ欲^レ數、數則煩、煩則不敬也、祭不^レ
欲^レ疏、疏則怠、怠則忘トイヘルハ、孝子ノ心ニ亡親
ヲ思フコト日トシテ忘ルベキニ非ザレドモ、思ヒ出
スタビゴトニ廟ニ至リ、拜禮謁告セントセバ必ズ煩
縛シテケガサズンバ非ズ、故ニ天ノ時一月ニ朔望ノ

小變アリ、一時ニ三月ノ大變アリ、此時ヲ以テ此禮ヲ行フコトコレ天道ニノツトツテ、コノ則ヲ立ルノ禮也、次ニ廟ノ事古來其說アリトイヘドモ、士庶人コヲ用ユルニ不_レ及、只祠堂ヲマフクルニ有、曲禮ニ君子將_レ營_レ宮室ニ宗廟爲_レ先ト出タリ、虞書ニ正月上日受_レ終于文祖ト云ヘルハ、萬世人君祭廟ノ初也、サレバ小宗伯之職掌_レ建_レ國之神位、右社稷左_レ宗廟、コレ人君宗廟ヲ崇_レノ道ナリ、若祠堂ヲ安置スルコト不_レ能トキハ、一間ナル清潔ナラン、閑處ニ神主ヲ安ゼンコトモ可也、次ニ祭器祭服ノコトハ古來其說多シ、曲禮凡家造_レ祭器_レ爲_レ先_{造家事也}又曰、無_レ田祿_{造家事也}者不_レ設_レ祭器、有_レ田祿_{造家事也}者先爲_レ祭服、君子雖貧不_レ粥_レ祭器、雖寒不_レ衣_レ祭服、爲_レ宮室不_レ斬_レ于丘木ト出タリ、朱子曰、籩豆簠簋之器、乃古人所_レ用、故當時祭享皆用_レ之、今以_レ燕器_代祭器、常饌_代俎肉、楮錢_代幣帛、是亦以_レ平生所_レ用、是謂_レ從_レ宜也、丘文莊曰、人子之事_レ親、當_レ事_レ死如_レ事_レ生、事_レ亡如_レ事_レ存、吾之祖考平日所_レ用之器皿如_レ此、所_レ被之衣服如_レ此、及_レ其死亡_レ也、而亦別爲_レ器與_レ服以事_レ之、豈不_レ駭_レ其見聞_レ哉、古人生用_レ几筵俎豆、則死亦用_レ之以事_レ之、今

人之生所_レ用者、卓倚杯盤、死所_レ用者亦當_レ以_レ卓倚杯盤、是則朱子所謂從_レ宜者也ト、是亦先儒ノ所_レ謂也、今案_レ祭器ノコト異朝ニハ色々ソノ制アリトイヘドモ、後世用_レ之ガタシト也、況ヤ本朝ハ風俗又コトナレバ、異朝ノ制用ユベキニ非ズ、然レバトテ今用ル處ノ俗器ヲ用_レコト、又道ニ不_レ可_レ叶、幸今陶甕ノ器皿、イサギヨキ多ク、其形亦ソノ制宜シキアレバ、是ヲ以テ器皿トシ、卓倚ヲ新シクカマヘ、槃臺高潔ナラシメバ、時宜相應ノ用タルベシ、必ズ古制ヲ以スルモ亦駭_レ其見聞_レコトヲソルトイハンモ、トモニ過不及タルベシ、唯家ノ尊卑財ノ有無ヲ以テ時勢ニシタガウノ用捨アラ_レン事也、次ニ祭祀ニハ古來血食義アリ、故ニ牛羊ソナヘタイケニエトシ、鷄豚ヲコロシテコレヲ奉ズルハ異朝ノ制也、本朝ノ今ハ牛羊鷄豚ヲ用ユルコトナシ、コトニ世俗久シク浮屠ニナラフテ、蔬食素饌ヲ具ヘ奉ル事又當時ノ例也、士庶人タラシ輩俗ヲ背テ事ヲナシ難シ、公卿大夫ニイタラン人ハ、珍珠嘉肴ヲ以テ祭祀センコトモ時宜ニヨルベシ、珍珠嘉肴ヲソナフルハンノユワレアルコト也、第一生ケルトキニ馳走セシムルノ響應コレヲ用ヒ來_レ

リ、コトニ血祭ハ血氣ヲ以テ神ヲ來ラシムルノ道アリ、神明ニ交ワルノユヘアレバ、古來ヨリ作法アリトイヘドモ、絶テ久シキ義ニシテ俗ノ不_レ通コトナリ、又蔬食ヲ用ト云トモ害アルベキコト不_レ在バ、唯下トシテハ俗ニソムカザルヲ以テ道トスベキ也、蔬食タリト云トモ珍味ヲエラビ清潔ナラシムベシ、不_レ事ニ鹽梅ニ禮ニ大羹ハ不_レ致トテ天ヲ祭ニハ肉汁計ニテ不_レ致ニ五味ト云リ、然バ祖考祭ルニモ唯其清淨ノ誠ヲ事トスベシ、鹽梅ヲ事トスルハ生ル人ノワザ也、其氣ヲ以テ祭ノ用トスベキ也、汁_{シルサイ}羹ノ禮平日ノ禮饗用ユベシ、尤我尊卑ニ從テ饗應ノ禮アルコト平日ヲ以テ準據トスベシ、酒茶菓餅亦常ニコトナルコトナシ、唯燒香ヲ以テ事ス、是其氣ヲサカンナラシムルユヘ也、次ニ祭祀ニハソノ身ヲ主人ト定メソノ妻ヲ主婦ト云、兄弟子孫相アツマツテ主人主婦之禮ヲ相タスク、他人ハコレニ不_レ交也、次ニ祭ルベキ前三日ニ齋戒シテ不_レ茹葷、不_レ吊喪、不_レ聽樂、凡ソ觸穢ノ義ヲ忌衆會大笑歌嘯スルコトヲ禁ズ、魚味ヲユルシ酒ヲノマシムルコトアリトイヘドモ、實ハ酒肉ヲ禁ズベシ、齋戒ノ禮シナ_レアルコトアリ、然シテ祠堂ノ

掃除自ラ是ヲ省、祭器祭物ヲ出シテ、主人主婦自コレヲ洗拭シテケガラハシカラシメザルベシ、尤蔬菜ノ具自コレヲ省テコレヲ調切ルモノドモ皆沐浴禮服セシムベシ、ソノ前日ニ至テハ再祠堂、并祭器祭物蔬菓酒饌ヲ省リミ糾シ、再沐浴明衣シテアクルヲ待、アケボノニ及デ禮服ヲソナヘ、盥漱ヲツクシテ事ヲ行ベシ、次ニ未明奉_レ主ジテ就_レ位、降_レ神燒_レ香、具_レ茶而後進_レ饌、初獻ニ獻三獻二獻曰亞獻三獻曰終獻アツテ而シテ撤_レ饌、菓茶ヲ新ニス、午刻ヲ過ルトキ又晚炊ヲ獻ズルコト如_レ朝、三獻ノ禮アリ菓茶又新ニス、此間珍味珍餅羹イヲタテマツリテ日既ニ晚景ニ及バントキ、以_レ日入爲期撤_レ饌、各燒香拜禮稽首シテ、而シテ後ニ辭_レ神納_レ主テ、ソノアトニヲイテ受_レ胙ノ禮ヲナス、若朝夕ノ間久シカラントキハ暫降_レ簾闔_レ戸テ神主ヲ安ンズルコトアリ、禮既終テ各退出ス、若祖考ノ親友等ハ次ニ至テマツリヲ助クルコトアリ、燒香拜禮スルコトアリ、時宜ニヨルコト也、次ニ祭祀ハ夜ニ至ルマデハ不_レ仕モノ也、祭祀ヲワルトキハ自禮服ヲユルメ、猶祠堂ノ中ニアツテ追遠懷舊シ、給仕ノ男女ヲイコヘ、自省テ而後ニ祠堂ヲカタメ、休處ニ入ルベシ、コ

ト、ク其誠ヲツクサレバ祖考神ヲ安ズルコト不
レ能ト可レ知也、是通禮ノ大概ナリ詳ニ文公ノ家禮ニ
出タレバ、コレヲ考テ其用捨アルベキ也、凡ソ仕官ノ
輩家職アル庶人如レ此ノ大義毎月ツトムルコト不レ可
レ叶、ツトメントセバ公用ニイトマナカルベシ、故ニ
只一年一日ノ忌日ヲ用ユ、イトマアラン人ハ四時ノ
仲月ニ可レ仕也、毎月ノ忌日ニハ唯正祭ヲ省テ時宜ニ
可レ從也、父母ノ方ニツイテモ父母ノ忌一年ニ四日、
是ハ正祭タルベシ、若忌日ヲ不レ知バ日ヲ選テ可レ用、
月ヲ不レ知バ四時ノ仲月タルベシ、古來ノ祭禮ハ以前
ニ云ゴトク、四時ニコレヲ用テ祭ノ日ハ高祖ヨリ先
考ニ至ルマデ、其位ヲマフケテコレヲ祭ルコト先例
ナリトイヘドモ、本朝ノ今コレヲ用ヒガタシ、故ニ此
說ヲマフクル也、

○問云、今キクトコロノ如キハ、祖考各其忌日ヲ用ヒ
テ合祭ノ義ナキニ似タリ、

答云、祖考ヲ合祭ノ義凡ソ詒ト云、詒ハ於太祖庶
合群廟之主ニマツルヲ云也、前ニ云ヘル如ク、高祖ヨ
リ考妣マデハ四時ツチニ祭レリ、高祖以前數十代ト
モニコレヲ祧ト云、祭法ニ遠祖ヲ祧トスト出タリ、天

子諸侯トモニ高祖ノ外廟ハ皆コボツテ主ヲ一處ニア
ツメラクコレ祧也、コノ祧ノ主コトトク奉レ出ニ大
祖ノ廟ニマツルヲ詒ト云、則合祭也、然バ凡人ノ仕ルコ
トニ非也、本朝ニハ浮屠ノ說ニチナミ、七月中旬上下
各靈祭ト號シテ、先祖ノ靈鬼ヲ吊慰、是乃合祭ノ心ナ
ルベシ、コレニチナミテ考ニ、七月ハ秋ノ初陰氣既長
ジ、其意蕭條トシテ悽愴之心アリヌベキ時也、中旬ハ
陰ノ盛ナル節ナレバ、コノ時ヲ幸ニ孝子孝孫ノ志高
祖マデヲ合祭可レ仕ニツノ時勢アリ、故ニ此時必四世
ノ親ヲ合祭シテ孝ヲ盡サンコトマコトニ難レ有コト
也、今ノ人祖父ヲ知ルノ外曾祖高祖ヲシルモノ殆希
也、タトヘ其名字ヲシラザルト云トモ、祖考氣脈今日
傳來スル處我ニアレバ、一年ニ一度ノ祭禮ソノマコ
トヲ不レ盡バアラザル也、但祭祀ノ厚薄ハ親ノ遠近ニ
可レ從也、問今人不レ祭ニ高祖如何、程子曰、高祖自有
レ服不レ祭甚非、其家却祭ニ高祖又曰、自天子至
於庶人、五服未ニ嘗有レ異、皆至ニ高祖ニ服既如レ是、祭祀亦
須レ如此、朱子曰、考ニ諸程子之言、則以ニ高祖有レ服不
レ可レ不レ祭、雖ニ七廟五廟、亦止ニ於高祖、雖ニ三廟十廟、
以至祭寢、亦必及ニ於高祖、但有ニ疏數不レ同耳、此最

爲得_レ祭祀之本意_ニ今以_ニ祭法_ニ考_レ之、雖_レ未_レ見_下祭必
及_ニ高祖_ニ之文、然有_ニ月祭享嘗之別_ニ、則古者祭祀以_ニ遠
近_ニ爲_ニ疏數_ニ、亦可_レ見矣、今案程朱所_レ論如_レ此、シカレ
ドモ大傳_ニ所_レ出_ヲ考_ルニ諸侯及_ニ其太祖_ニ、大夫士有_ニ
大事_ニ、省_ニ於其君_ニ、于_レ禘_{シテ}及_ニ其高祖_ニト出タリ、コ、ヲ
以テ云トキハ大夫士ハ高祖ヲ祭ルコトヲ不_レ得、君ニ
尋子問テユルサレヲ蒙トキハ高祖マデ祭ルトアルナ
レバ、ワレニ有_レ服ト云トモ不_レ得_レ祭コト又聖人ノ禮
也、然レバ大夫士ハ只曾祖ニトドマリテ高祖ニハ及
ブベカラザル也、況ヤ庶人ハ又遠慮仕ルベキナレバ
如_レ此ノ處ニ詳ナラザレバ、禮用ヲ得ルニ非ズト云ベ
シ、

○問云、墓祭ノコトイカガ仕レルコトニヤ、
答云、墓祭ハ古ノ道ニアラズ、禮經ニ無_ニ墓祭之文_ニ、シ
カレドモ墓ハ先人ノ遺骸ヲヲサメタル地也、愛敬甚
深、祖考ソノ遺骸ヲ廣原野外ニヲサメ、世ト間隔セシ
メテ、風寒暑濕ノ變年月ノ推移ニシタガヒ、孝子慈孫
コレニ參詣セバ、其時ヲ思フ志不_レ得_レ已ノコトワリ
ナリ、コ、ヲ以テ云トキハ古無_レ之ト云トモ、其道不_レ
得_レ已ノユヘアレバ墳墓ニイタツテ自饋奠ノソナヘ

ナクンバアラズ、コレ人情ノ常也、故ニ朱子家禮ヲ定
ムルニ墓祭ノ說ヲ出セリ、是程子ノ志ヲツイデアラ
ハス處也、然ルニ墓祭ノ事異朝ニハ三月寒食ノ節ヲ
用ユ、コレサシテ子細アラザレドモ風俗コレヲ用ヒ
來レリ、本朝ニハ浮屠ノ說ニヨツテ七月十四五日ヲ
以テ上下ノ男女祖考ノ墳墓ニ至リ、掃灑ノ手向アル
コト中古ヨリシカリ、コ、ヲ以テ云トキハ墓祭乃七
月中旬ヲ用ヒテ可也、此日拜掃ノ禮ナクンバアラズ、
コ、ヲ以テ兼日ニ墳墓ヲ掃灑修復セシメ其日ニ至テ
參詣セシメ、燒香ヲイタシ菓茶ヲソナヘテ追遠懷舊
コト、人ノ子タランモノ不_レ忍ノ誠ト云ベシ、但シ文
公家禮ニ出ル處ハ於_ニ墓上_ニ具_レ饌祝辭ヲナスコトア
リト云ヘドモ、本朝ノ墳墓皆釋氏ノ寺裏ニ屬シテ、此
事ヲ行フベカラズ、故ニ大夫士庶人ハ時宜ニ可_レ從、
若原席上陵ノサタニ於テハ各別タルベキ也、原席ト
云ハ本席ノ外ニ陵ニ又席ヲタテ、是ニ亡者ノ衣冠等
ヲ、サメ置、コレヲ陵寢ト云ヘル也、原ハ再也ト註
セリ此禮古ニハ無_レ之、席ニツイテ寢殿アリ前ヲ席ト
云、後ヲ寢ト云、コ、ニ亡者ノ衣冠諸器ヲ、サム、周
禮守ノ祧掌守ニ先王先公之席祧トハコノコトナリ、

コ、ニ漢明帝永平元年ニ自率ニ公卿以下ニ朝于原陵トイヘリ、コレヨリ前ハ原廡計アツテ、サシテ祭モアラザリシカドモ、明帝哀慕ノ餘リ此禮ヲ行ヒ玉フ、是ヲ上陵ト云、乃墓祭ノ義也、前叔孫通傳、惠帝詔有司重立原故曰重也、詳出朱子、宋志云、古者無墓祭、秦漢以降始語類五十四之二葉、有ニ其儀、至唐有清明設祭、朔望時節之祀、進食薦衣之式、丘文莊曰、禮經無墓祭之文、然自漢明帝嘗有上陵禮、自時厥後、遂以成俗、柳宗元謂、近世禮重拜掃、每遇寒食、田野道路士女、徧滿皂隕庸丐、皆得上父母丘墓、馬鑿夏畦之鬼、無不享受子孫追養者、唐人亦有詩、墳上無新土、此中白骨應無主之句、是寒食墓祭、吾祖宗父母其生時、固已行之于其祖宗父母、而爲祖宗之後父母之嗣者、乃舍其丘隴而歲不一展省、棄其留骨而時不一奠薦、乃諉之曰墓祭非古也、可乎、又曰、上陵之禮三代以前雖不見、然自漢以後歷代相承、率不敢廢、非不取也、蓋不忍也、在漢初天子雖不躬行、然奉常屬官有寢園令長丞、又有園郎寢郎、園中各有寢便殿、日祭於寢、時祭於便殿、寢日四上食、丞相以四時行園、光武自建武六年至三十二年、凡三幸長

安、皆有事于十一陵、則固躬詣陵行禮也、但未立定制爾、唐開元禮有天子上陵儀注、又歲有清明設祭朔望時節之祀、宋又行於春秋一歲以爲常、我朝上陵之禮、歲凡三舉焉、清明也、中元也、冬至也、每遇行禮、文武諸司各遣官一員、而以親王或駙馬都尉、主祀事、天下無事、天子於清明日、亦時或一行其忌日則惟遣駙馬、而百官不與焉、其或藩主有來朝者、亦許拜謁、孝陵在南京、內外臣僚有事、經過者必先拜謁、否則有罪、

○問云、墳墓ト廟ト、何レヲ貴トセンヤ、

答云、墳墓ハ形體ヲサムル處ナリ、神既ニ去故ニ形體ヲレテ主ナシ、コレヲ貴處ナシトイヘドモ、コレ又孝子孝孫ノ不可忍處ナルガエヘニ、コレヲ藏ニ墳墓ヲ以テス、廟ヲ立テ主ヲ置テ鬼神ヲコ、ニ寄セアツム、故ニ墳墓ハ體魄ノ宅トシ、廟ハ靈神ノアツマル處トス、コ、ヲ以テ祭祀スルコト、皆廟ニアツテ墳墓ニ於テセズシカレドモ、祖考ノ體魄コ、ニ宅セルノ地、孝子孝孫コレヲ何心ナクステ置ベキコトワリニ非ズ、コノエニ周禮ニ家人ノ官アツテ以テ墳墓ノコトヲ司ドル、シカレバ墳墓又ヲロソカニスベキニ非

ズ、既ニ大歛小歛ノ義アリ、棺槨ノ制明器ノコト、コトハ是體魄ヲ以テ死セリトイタスニ不_レ忍ノ用法也、シカレドモ席ハ靈神ノアツマル處ナレバ、席ノ神主ヲバライテ墳墓ヲコト、スルハ禮ニ非ズ、本朝ニハ席制中絶シテ祭祀ノ道不_レ明ガユヘニ、唯墳墓ヲ貴デ席祔ヲ事トセズ、墳墓ヘ往來遠ガユヘニ祠堂ヲマフケテコトヲ執行ト心得ル、是本末ヲトリチガヘタル也、必竟聖教不_レ明ガユヘナリト可_レ知也、朱子曰、蔡邕謂、上陵亦古禮、明帝猶有_ニ古之餘意、然此等議論、皆是他講_レ學不_レ明之故也、他只是偶見_ニ明帝之事、故爲_ニ是說、然何不_レ使_ニ人君移_ニ此意於宗席中_一耶、胡寅亦云、明帝此舉蓋生_ニ於原席、蔡邕不_ニ折衷以_ニ聖人之制、而直論_ニ其情、情豈有_レ既哉、

○問云、古來祭祀ニ戸ヲ用ユルハイカン、

答云、戸ヲ用ユルコトハ古ノ禮也、禮曰、君子抱_レ孫不_レ抱_レ子、此言孫可_ニ以爲_ニ王父戸、子不_レ可_ニ以戸、曾子問曰、祭必有_レ戸乎、孔子曰、祭成_レ喪者必有_レ戸、戸以_レ孫孫幼則使_ニ人抱_レ之、無_レ孫則取_ニ於同姓_一可也、公羊傳何休註曰、禮天子以_レ卿爲_レ戸、諸侯以_ニ大夫_一爲_レ戸、卿大夫以下以_レ孫爲_レ戸イヘリ、只始死之奠釋奠薦祭

ニハ戸ヲ不_レ用也、朱子曰、神主之位東向、戸在_ニ神主之北_一、又曰、古人用_レ戸本與_レ死者、是一氣云々、シカレバ戸ハ神ノ靈ヲコ、ニアツメテ祭ルモノ、心ヲ一ナラシムルノ道也、祭ルニ其所_レ向ニ物ナキトキハ、祭ルモノ、心不_レ萃、アツマラザレバソノ誠不_レ至、故ニ戸ヲマフクル也、戸ヲマフケントナラバ、孫ヲ立ルコト昭穆ノツイデ宜シ、昭穆之義シカモ同一氣ニシテ神氣相ヨルニ便リアレバナリ、出下章唐ノ杜佑ガ說ニ、上古時、中國與_ニ夷狄_一一般、後世聖人改_レ之、有_ニ未_レ盡者_一、戸其一也、蓋今蠻夷洞中亦有_レ此、但擇_ニ美丈夫_一爲_レ之、不_レ問_ニ族類_一トイヘリ、案ズルニ聖人ノ教祭祀ヲ以テ大禮トス、シカラバ此戸ハ祭祀ノ第一ナレバ、聖人未_レ盡ト云ベカラズ、杜佑ガ說尤アヤマリ也、蠻夷モ亦人情ノマコトナクンバアラズ、誠アルトキハ祭祀アルベシ、祭祀スルトキハ神ナクンバアラズ、故ニ此戸ヲマフクトイヘドモ其道ヲ不_レ知ガユヘニ、立_レ戸ノ禮ヲ不_レ盡ノミ也、シカレバ戸ヲ立ル事神ヲ寄託シテ祭ルモノ、其誠ヲ以テスルノ道尤明也、後世ニ及テ戸ヲステ多ハ塑像ヲマフケ、泥土木銅ヲアツメテ膠漆采色ノ形ヲナシ、傳神ノ圖ヲマフクルコト古

キ也、

ニ非ズ、シカリトイヘドモ祭ルモノ、心ヲ主一ナラシメンノタメニハ其道ナキニ非ズ、但木主ノ清潔ニシテ觸穢ナキニハシカザル也、昔伊川程子論ニ人家祖宗影ニ云、有二毛不_レ類、則非_ニ其人_一、彼親見_ニ其人_一、而貌之有_ニ毫髮不_レ肖_一、似_ニ尙非_ニ其人_一トイヘリ、シカレバ工匠ノ心ニマカセ手ニシタガツテ其像ヲツクランコトハ尤タガヒ多カルベシトイヘドモ、必ズ形體似ト不_レ似トニアラズ、只木主ヲ立テモ神コレニ寄託ス、況ヤシバラクモ其容貌ノ似タル所ニアランニハ、孝子順孫哀慕ノ誠切ナラン事甚重ナルベシ、コ、ヲ以テ云バ天子諸侯ハソノ像ヲ用ユルニモタリヌベシ、大夫士庶人ハコレヲ用ユベカラス、是乃禮タルベシ、程子一毛不_レ類ノ論コレヲトルニ不_レ足也、先儒云、塑像之設中國無_レ之、至佛敎入_ニ中國_一始有也、三代以前祀_ニ神_一、皆以_ニ主無_レ有_ニ所謂像設_一也トナリ、三代以前ナキコトニシテ今有_ニ之コト_一尤多シ、佛敎ヨリ事ヲコリテモ今日用_ニ之テ害ナキコトアルベシ、必後世ノ事物不_レ可_レ用ニアラズ、異敎ノサタ不_レ可_レ取ニ非ズ、唯詳ニ格致イタシ、聖敎ヲ本トシテ今日ノ時宜相合、人情ノ相通ズル處ヲ以テ定制トスベ

○問云、孝子ノ心事死如_ニ事_一生スベシ、シカラバ日奉_ニ饌拜_一謁_ニ廟_一セ_ニンコト_一モクルシカルベカラズヤ、答云、日祭月享ト云ヘルコトハ國語ニ出タリ、楚語云、古者先王日祭月享時類、韋昭云、日、祭於祖考、月祭於曾高、時類及二祧、歲祀於壇壝、又祭法ニ天子諸侯月祭ノ説アリ、朱子曰、左氏云、時祀_ニ於寢_一而國語有_ニ日祭之文_一、是主_ニ復寢猶日上_一食矣、又曰、國語日祭月祀、時享既、與_ニ周禮祀_ニ天神_一祭_ニ地祇_一享_ニ人鬼_一之名不_レ合、韋昭又謂、日上_ニ食於祖禰_一、月祀_ニ於高曾_一、時享_ニ於二祧_一、亦但於_ニ祭法_一略相表裏、而不_レ見_ニ於他經_一トナリ、コ、ヲ以テ案ズルニ、天子諸侯ハ祭祀ニ其官人ヲ定、其祝祠_{ハ、}ヲソナフヲ以テ日々ニ平日ノ如ク禮ヲ盡シ玉ハンコト尤モ可_レ然、シカレドモ是原席ニライテンノ寢所ニテコトヲ行ハルルコト古ノ禮ニテ正席ニ事アルニ非ズ、唯毎日奉_ニ饌_一テ生ルトキノ如クナラシムルノミ也、士庶人ハコレニ不_レ同、朔望月忌_{ハ、}每月之亡者日一年ノ忌日ヲ以テンノマコトヲ可_レ盡、朝夕ノ拜謁進饌生ルトキノ如クナラント云コトハ、事_ニ死_一ノ道ニ非ズ、事_ニ死如_ニ事_一生トハ如_レ此コトヲ云ニ非ズ、祭ルコトシバ_{ハ、}スルトキ

ハ、却テ神ヲケガスノコトワリナレバ、タトヘ我情其厚ニ過ル處アリト云トモ、コレヲ正スニ禮ヲ以シテ、ソノ情ニマカセザルコト是聖人ノ道也、坊記云、喪禮毎レ加以遠、浴ニ於中霤、飯ニ於牖下、小ニ歛於戸内、大ニ歛於阼、殯ニ於容位、祖ニ於庭、葬ニ於墓、所以示遠也、云心ハ喪ハイマダ死者ヲサルコト近トイヘドモ、コレヲ孝子ノ情ニマカセテ形體ヲモ傍ヲ離タジトセバ、ソノ情厚シトイヘドモツイニサテアルベキニ非ズ、却テ氣踈スサマジクナルコトノ出來テソノ情ノ實ヲ失ニモ至リスベケレバ、一事々々ヲイトナム度ゴトニ死者ヲ遠ザケ、ツイニケウトキ原野ニステ葬ルニナレルハ聖人ノ教也、サレバ禮因人之情而節文ヲナスト云ヘリ、先儒ノ論ニ毎日奠祭ハ三禮ノ正文ニ無ニ其義ニ只月祭ノ説出祭ノミアリ、コレヲヤムベキ由、唐ノ景龍ニ其沙汰アリ、詳ニ文獻通考ニ出タリ、シカレドモ天子諸侯ハ其禮又大夫士庶人ニ同ジカルベカラザレバ、祝史祠部ソナワリテ日祭月祭ノ禮アランコト禮ニヲイテ可レ然コト也、古來禮書宗廟祭祀ノ禮タヘテ無レ之ガユヘニ、三禮説ト云トモ難ニ信用、只時宜ヲ考ヘテ古今ヲ斟酌シ人情ニ由テ其禮

ヲ立ルニアリ、只ソノ輕重ヲ詳ニスルニアルベキ也、本朝ニハ久ク浮屠ノ説ニナラヒテ祭祀ノ禮アラズ、舊記シバラクコレアリトイヘドモ、諒闇ノ事ハ憚テコレヲ詳ニセズ、故ニ其實儀不レ可レ知、況ヤ喪祭コトゴトク今浮屠ノ例ヲ事トシテ聖人ノ教ヲツクサズ、コ、ヲ以テ情ノ厚ニ過ル輩ハ晝夜持佛堂ニ看經拜謁シテ日供ヲ事トスルニ至テ、其祭祀ヲケガラワスコトヲ不レ知、或ハ情ノ薄ニマカセテハ卒哭ニイタラズシテ酒宴游興ヲ事トシ、日夜ノ淫樂ヤムコトナシ、コレ厚キモノハ過テケガシ薄キモノハ鳥獸ニコトナラズ、此弊既ニ久シク人々以テ俗トスルガユヘニ、時宜コレヲ可ナリトス、末學ノ腐儒シバラクコレヲ志トスト云トモ、天命ツイニ定マリガタキコト也、○問云、古來ノ廟制昭穆ノサタアラマシ承知センコトヲ欲也、

答云、古來ヨリ七廟昭穆ノサタハ異說多シ、詳ニ馬端臨文獻通考、又ハ丘瓊山大學衍義補等ニ出タリ、今其アラマシヲ論ズルニ尙書ノ大傳廟者貌也トイヘリ、云心ハ祖考ノ形貌ヲカタドリテ、此處ニ安置イタシ奉ルノ心ナリ、經書ニ廟ヲイヘルコトハ、周易ニ王

假^ニ有^一廟^ト出^{タリ}、虞書正月上日受^ヲ終^ニ于^一文祖^トアルハ人君祭^レ廟始ナリ、商書ニ七世之廟可^ニ以^一觀^レ德トイヘルハ、伊尹ガ言ナレバ七廟ノ制スデニ殷ノ世ニアリ、周ニ始メテイタセル禮ニアラザル也、凡^ソ天子ノ宮門ハ右^ニ社稷^ニ左^ニ宗廟^ニ、天子三昭三穆、與^ニ太祖之廟^ニ而七、諸侯五廟二昭二穆與^ニ太祖之廟^ニ而五、大夫三廟一昭一穆與^ニ太祖之廟^ニ而三、士二廟、庶人祭^ニ于寢^ト王制ニ出^{タリ}、周禮小宗伯辨^ニ廟祧之昭穆^トアリ、廟ノ飾^リノ事、明堂位曰、山^レ節藻^レ祝、復^ニ廟重檐、刮^ニ楹達^ニ鄉、反^ニ站^ニ出^レ尊、崇^ニ站^ニ康^ニ圭、疏^ニ屏、天子之廟飾也、穀^ニ梁傳、禮天子諸侯黝^ニ堊、大夫蒼^ニ、士黹^ニ、丹^ニ桓公楹^ニ非^レ禮也、刻^ニ桓公楹^ニ禮也、天子之楹、斲^ニ之^ニ、加^ニ密石^ニ焉、諸侯之楹斲^ニ之^ニ、斲^ニ之^ニ、大夫之楹斲^ニ之^ニ、士斲^ニ之本刻^ニ楹^ニ非^レ正也ト出^{タリ}、然^{ドモ}夏殷ノ制各異ニシテ周ノ明堂ノ制又不^レ同、左傳ニ清廟ノ茅屋ハ昭^ニ其儉^ニ也トモ出^{タレ}バ、世々ノ聖主ニヨツテ損益不^レ同トシルベシ、凡^ソ廟ト云トキハ禰廟ナリト云ヘリ、シカレバ外ハ祖廟ト云ル也、^{出^ニ禮^ニ注^ニ}月令ニ寢^ニ廟ト云ハ、前^ヲ曰^レ廟、後^ヲ曰^レ寢、廟ハ神主ノ座也、寢ハ衣冠^ヲ所^ニ藏^ニニシテ以^ニ人道^ニ事^ニ之、則有^レ寢^ニ以^ニ神道^ニ事^ニ之則有^レ廟

ト云ヘリ、祭ハ神道也、薦ハ人道也、コレツチニ心易ク拜謁ノ禮ヲナスノ地ヲ寢ト云、正祭ノ地ヲ廟ト云ヘルナリ、爾雅ニ廟寢ト云ハ又別也、廟ニ名アルコトハ漢ノ世ニ事起レリ、文帝自^レ廟ヲアラカジメ作ラシム、其制甚卑狹ニシテソノマ、出來ル、願^ニ望^ニ而成^ニナレバ自^レコレヲ名^ニテ顧成^トト云、コレヨリ歷代皆廟號アリ、祀^ニ文王之廟^ニ曰^ニ清廟^ニ、^{出^ニ詩^ニ}周之太廟ヲ曰^ニ明堂^ニコト古ヨリシカリ、周公ノ廟ヲ太廟ト稱シ伯禽ノ廟ヲ世室ト云、群公ノ廟ヲ宮ト稱スルハ魯國ノ禮ナリト公羊傳ニ出^{タリ}、次ニ七廟ノコト漢儒ノ說不^レ同トイヘドモ、大槩不^レ出^ニ兩義^ニ周ヲ以^テ論ズルニ后稷ハ太祖ナリ文王武王ハ受命ノ君ナレバ、三世ノ廟ヲ立テソノ時親廟四以上是^ニ七廟ト云ハ、韋玄成等ガ說也、七者其正數可^ニ常數者、宗不^ニ在^ニ此數中^ニ、苟有^ニ功德則宗^ニ之、不^レ可^ニ預^ニ爲^ニ設^ニ數^ト云ハ劉歆ガ說ニシテ荀卿班固主^ニ肅モコレヲ是^トス、朱子又コレニ從フ、シカレバ七廟ハ定^リノ三昭三穆ニシテ、文武ノ二廟ハ世室タリ、合セテ周ニハ九廟ヲ立ベシトイヘル議也、右兩說ノ内宋朝ノ大儒朱子スデニ劉歆ガ說ニ從^テ此說ヲ是ナリトスルガユヘニ、諸儒一決シテ今以^テ九廟

ヲツクルコトヲユルストイヘリ、末代淺見固陋ノ學者、禮家ノ細説ヲモ不究シテ此際ノ議論ヲ可入處ナシトイヘドモ、愚竊ニ按ニ兩義モ心得ガタシ、文武ヲ加テ七廟ヲ立ルコトハソノユハレアリトイヘドモ、必文武ヲ加ユルト計イヘバ、殷ノ七世廟ト云コトワキマヘ難シ、又文武ヲノゾイテ七廟ナリト云ハ有功有德ノ人ヲ、キトキハ十廟十餘廟ニモ至ルベシヤ、コトニ九廟ト云ヘルコト禮經ニ其文無之、シカレバ今王制ノ七廟説ト祭法七廟説トヲ合考フルニ、タトヘ天子タリトモ、太祖ノ廟親廟四ト合テ五ヲ立ツルコトハ必定ナリ、コノ上ニ天子ハ功德アラン先王大業受命、徳功子孫可稱人ヲ兩人相立テ以上七廟マデアラシムベシ、天子タリト云トモ七廟ノ外ニ廟ヲマフケ玉ハンコトハ禮ニ中ラザル也、諸侯ハ親廟四太祖ノ廟一ツ合テ五ノ外ハ功德アルノ先祖タリトモコレヲ祭ルコトヲ許サズ、若天子命之トキハコレヲ立、乃魯ノ太廟世室等コレナリ、然レバ周ノ七廟ハ后稷ト四世ノ親廟ノ外ニ文武ノ二廟ヲ立テ七廟トスル也、武王成王ノトキハ后稷ト四世ノ親廟ノ外ニ功業アツテ可配享ヲ二廟相加ユルコトワリ也、乃祭法ノ

七廟ニ遠廟爲祧有二祧トイヘルニ相合ヘリ、功德ノ人トイヘドモ親盡ルトキハ皆遠廟也、遠廟ハ祧ト云ヘルナレバ文武ノ廟ヲサシテ祧ト云コト勿論也、故天子亦廟數ハ五而外ニ二廟ヲ立ルコト天子ノ禮也ト可レ知也、コレ三昭三穆ニ太祖ノ廟ヲ加ヘテ七廟トスルノイ、也、祖有功德宗有徳ト云ハ古ノ法ナレバ功アラン、人ヲバ太祖トシ德行子孫ニ蒙ルヲバ宗トシテコレヲ世室トス、トモニ百世不遷ノ廟也、シカレバ天子ハ五廟ノ外ニ其德行功業大ナラン人ヲ二廟立テ七廟ト可レ心得、只高祖ノ父祖ヲ二廟立テ七廟ト云ニハ非トシルベキ也、次ニ昭穆ノ事一ノ心得有之、廟ニ付テ云ト祫祭ニツイテ云ト也、廟ニ付テ云トキハ太祖ノ廟北ノ中央ニアツテ左右ニ三廟ヅ、南ノ方ヘナラズ、以上七廟也、左ヲ昭ト云右ヲ穆ト云、三昭三穆コレ也、太祖ノ廟トソノ次ノ左右二廟合テ三廟ヲ百世不遷也、相ノコル二昭二穆ノ四親廟ハ親盡ルトキハコレヲ毀テ祧トス、然レバ廟ニテハ左ヲ昭トス、是左ハ陽明ノ方ナレバ也、右ヲ穆トス、是右ハ陰穆ノ心也、又祫祭ト云テ太祖ノ廟ヘ昭穆ノ主ヲ入テ合セ祭ルコトアリ、此時ニ太祖ハ初ヨリ東向ノ尊アリ、群

昭ハコノ廟ニ入テ皆北方ニ座シテ南ニ向フ、群穆ハコ、ニ入テ皆南方ニ座シテ北ニ向、南ニ向ハ陽明ニ向フガユヘニ是ヲ昭トス、北ニ向ハ其ノ深遠ニ向ヲ以テ穆ト云也、シカレバ廟ハ座スル方ヲ以テ昭穆ヲ定メ、禘祭ニハ向ヘル方ヲ以テ昭穆ヲ定也、昭穆ハ尊卑上下ト云コトニハアラズ、其座ヲ名クルノ言也、サテ昭ハ常ニ爲レ昭穆ニハ常ニ爲レ穆ト云コトアリ、昭ヲ父トシ穆ヲ子トス、故ニ父ノ兄弟ハ皆昭也、子ノ兄弟ハ皆穆也タトヘバ文王ヲ穆トシ、武王ヲ昭トスルトキ周公管叔蔡叔等ノ兄弟ハ皆昭ノ列也、武王ヲ昭トシ成王ヲ穆トスルトキハ唐叔等ノ兄弟ハ皆穆ノ列也、コレ春秋傳ニ以テ管蔡鄭霍ニ爲ニ文之昭、邢晉應韓爲ニ武之穆ト云ハコレ也、コレヲ以テ子孫ノ序ヲ定ムルコト也、中庸ニ宗廟之禮所ニ以テ序ニ昭穆ト也ト出タルハコノコト也、次ニ四世ノ親廟ト云ハ高祖ヨリ先考マデノ廟也、コレ高祖マデハ服アリ、高祖以上ハ服盡コ、ヲ以テ高祖マデハ廟アリ、高祖以上親ツクレバ其主ヲ祧ト云、祧ハ太廟ノ夾室ニウツス也、夾室ト云ハ太祖ノ廟左右ニヒサシノ如クアル室ヲナシテ、左ハ左ノ夾室、右ハ右ノ夾室ニウツス、是儀禮ニ以ニ

諸班ニ祔ト出、檀弓ニ祔ニ子祖父ト云コレ也、サレバ天子諸侯共ニ四世ノ親ヲ祭ルコト古今ノ通禮也、五世ニシテ親盡ク、服ノ制五服ヲ不レ出ハコノコト也、次ニ太祖東向ノ位ト云ハ都宮ノ左ニ廟ヲ立ルニ太祖ノ廟三昭三穆トモニ各南ニ向フ、廟ゴトニ門ト堂ト寢ト室トアリ、牆宇四ニメグル也、廟ノ戸各自東入テ西ヲ座トス、故ニ室ノ西北ヲ屋漏ト云ヘリ、主ハ東ニ向フ也、シカレバ太祖昭穆ノ七廟トモニ廟ノ内ニテハ主ハ東向也、禘祭ノトキハ昭穆ハ南北ヘ向テ太祖ノミ東向、自如トシテ不レ動、コレ太祖東向ノ尊位ト云也、朱子曰、以テ諸侯之廟ニ明レ之、太祖在レ北、二昭二穆以レ次而南、太祖之廟、始封レ之君居レ之、昭之北廟二世之君居レ之、穆之北廟三世之君居レ之、昭之南廟四世之君居レ之、穆之南廟五世之君居レ之、廟皆南向、各有門堂寢室ニ而牆宇四周焉、太祖之廟百世不レ遷、自餘四廟則六世之後每ニ一易レ世而一遷、其遷レ之也、新主祔ニ其班之南廟、南廟之主遷ニ於北廟、北廟親盡則遷ニ其主于太廟之西夾室、而謂ニ之祧、凡廟主在ニ本廟之室中、皆東向及ニ其禘ニ于太廟之室中、則惟太祖東向、自如而爲ニ最尊之位、群昭之入ニ于此者、皆列ニ於

北牖下ニ而南向群穆之入乎此者、皆列ニ於南牖下ニ而北向、南向者取ニ其嚮明、故謂ニ之昭、北向者取ニ其深遠、故謂ニ之穆、蓋群廟之列則、左爲昭而右爲穆、祫祭之位則北爲昭而南爲穆也、六世之後、昭常爲昭、穆常爲穆、二世祧則四世遷ニ昭之北、六世祧ニ昭之南、廟ニ矣、三世祧則五世遷ニ穆之北、七世祧ニ穆之南、廟ニ矣、昭者祔則穆者不遷、穆者祔則昭者不遷、此所以祔必以班尸必以孫、而子孫之列亦以爲序、若武王謂ニ文王ニ爲ニ穆考、成王稱ニ武王ニ爲ニ昭考、則自其始ニ祔而已然矣、

○問曰、帝王歷代相續セバ七世ノ廟モ立ルニヤスカルベシ、艸業ノ主ハ先祖詳ニシレガタカラン乎、又功德ノ祖モシレガタキトキ如何、

答云、其名字雖レ不分明ニ高祖マデハ其服ノ不盡コトナレバ、四世ノ廟ハ無疑コト也、太祖并ニ功德ノ宗不レ知ト云トモ、此身自ニ太祖ニ續來コトナレバ、我不レ知ト云トモ天命明也、功德ノ祖アラズハ遠祖ニ祧ノ祭ナクンバアラズ、コレ乃祭法ノ心得アリト可レ知也、漢ハ上皇ヨリ以前ハシレズ、只上皇一世ノミ也、魏ハ處士君ヨリ上ハシレズ、故ニ明帝五世ヲマツル

トイヘリ、皆是時ノ學者ノ議論不レ明、只ソノ名字ヲシラザレバ祭ルコトナシト心得ル也、既ニ遠祧親廟ノ名アル上ハ、別ニ子細アルベカラザルコト也、名字不レ知トイヘドモ、天命不レ可レ疑ノコトワリアルコト也、

○問云、七廟五廟ノ祭禮ノ禮アリヤ、

答云、王制ニ天子諸侯宗廟ノ祭ヲ出セリ、春ノ祭ヲ祠ト云、夏ノ祭ヲ禴ト云、秋ノ祭ヲ嘗ト云、冬ノ祭ヲ蒸ト云、コレ時祭也、春祭ハ各ソノ廟ニテコレヲ祭、夏秋冬ノ三時ハ大廟ニヲイテ合祭アリ、是三時ノ大禮也、以上四時ノ祭ノ外ニ五年ニ一禘アリ、禘ハ禘其所以自出ニ之帝ニ爲ニ東向之尊、其餘ハ皆合ニ食於前、此之謂ニ禘ニ二年一禘アリ、禘者於ニ太祖之廟ニ合ニ群廟之主、以食レ此之謂ニ禘ナリ、周禮ノ大宗伯ニコレヲ出セリ、シカレバ禘ハ有ニ三年之禘、有時祭之禘、可レ知也、春物初生、未レ有ニ以享、以祠爲ニ主、故曰祠、夏物未レ成、用ニ薄物、以祭、故曰禴、秋物漸成、以薦新爲ニ主、故曰嘗、冬物畢成、可レ進者衆、故曰蒸、コレ其大概ニシテツマビラカナルコトハ舊記ニクワシ、但儀禮ニ無ニ天子宗廟之禮、雖ニ諸侯之禮、亦亡所レ存者、

特牲饋食、少牢饋食、乃大夫士之禮而已、然儀禮雖無其禮、而散見於戴記之禮運、禮器、郊特牲、祭義、祭統諸篇者、其儀文名物之義、猶有存者、雖其參錯不一、渙散無統、然因其言、釋其義、而尋其脉絡之所自部分之所屬、分析而條理之、使有所歸宿、又酌取周禮及儀禮所載士大夫之禮與、夫諸儒註疏有及於禮者、推類而求之、則墜緒可得而尋、古禮可得而復矣、

○問云、神號并贈官贈位ノ説古來有之事ニヤ、答云、ヲクリ號ハ諡ノコト也、上代ニハ無レ之シテ周ノ世ヨリ事ヲコレリ、ソノユヘハ死シテ後ニ亡者ノ名ヲ云ベキコトハイムベキコトナリ、亡者ヲイケルモノ同前ニ平日ノ名ヲ呼コトイマノシキコトニシテ鬼神ノ道ニ非ズ、コレヨリ其人ノ言行ニ從テ諡ヲ奉テ神ヲ神タラシムル是周ノ禮也、シカレバ其功業德行ノ是ナルニミ諡アルニ非ズ、各以テ諡アリ、史記諡法解ニ惟周公旦太公望、開嗣王業建功于牧野、終將葬乃制諡、遂叙諡法、諡者行之迹、號者功之表、車服者位之章也、是以大行受大名、細行受細名、行出於己名生於人ト出タリ、表記云、子曰、先王諡

以尊名、節以壹專惠善也、耻名之浮也於行也、郊特牲云、死而諡今也、古者生無爵死無諡トアリ、シカレバ諡ノコト臣ノ諡ハコレヲ君ニ請、君ノ諡ハ臣ニコフ、是定法也、追號ト云ハ後ニコレヲ諡ヲ奉ルコト也、孔子ノ追諡ヲ漢ノ平帝褒成宣尼公ト奉レルガ如シ、凡周禮小宗伯ニ六號ヲ辨ズル次第アリ、一ニ神號ト云ハ尊レ天曰ニ皇天上帝類也、二ニ鬼號ト云ハ尊レ祖曰ニ皇祖伯某コレ也、三ニ示號ト云ハ尊レ地曰ニ后土地祇タグヒナリ、コレ常ノ名ヲカヘテ以テ爲ニ美稱一ヲ號トイヘリ、先儒云、周公作ニ諡法一、豈使ニ子議父臣一議ニ君哉一、合ニ天下之公一奉ニ君父一以ニ天道一耳、孝愛不ニ亦深一乎、所ニ以訓ニ後世爲ニ君父一者以立ニ身之本一也トイヘリ、父ノ諡ハ子コレヲ奉リ、夫ノ諡ハ妻コレヲ奉ルモ古ノ道也、曲禮ニ不ニ爲ニ父作一諡ト云ハ、父ニ爵ナクシテ諡ナキヲ、我ニ爵アリトテ諡ヲイタスハアヤマリナリト云コト也、臣已ニ君ニ諡ヲ奉ル、子亦父ニ諡センコト豈アヤマリナリトセンヤ、贈官贈位ノコト其人ノ德行ヲアラハシ、子孫ノ忠義ヲ明ナラシメンガタメニ是ヲ用、周書畢命ニ旌ニ別淑慝一表ニ厥宅里一、彰ニ善癉一惡、樹ニ之風聲一、弗ニ率ニ訓典一、殊ニ厥井疆一、

俾ニ克畏慕ト出タルノ心也、又緇衣子曰有ニ國家者、彰レ善癉惡以示ニ民厚、則民情不レ貳トモイヘリ、コ、ヲ以テ案ズルニ明ニ好惡ニ正ニ賞罰ニコトハ人君ノ要政ナレバ、孝子順孫列女節婦ニハソノ門ニ旌表シテ其志ヲアラワシ、不義無道ノ輩ハ其家宅ヲヤブリ、戒テ以テ人ノ戒トセンコト人君ノ道ナリ、贈爵ノコトハ武王周公・太王・王季・文王ヲ追王イタシ玉フガ如シ、サレバ唐ノ開元ニ孔子ヲ追王シテ爲ニ文宣王、贈ニ顔子ニ爲ニ兗國公、閔損等凡九人爲レ侯、曾參等爲レ伯、コレ皆贈位ト云ベシ、宋元豐六年、太常寺言請、自レ今諸神封加レ封、無ニ爵號ニ者賜レ庶、額已賜レ額者、加レ封爵云々從レ之トアレバ、前代ノ鬼神ニ封號贈諡アルコト勿論也、本朝贈官ノ初ハ、大寶元年大伴御行宿禰ニ贈官位アリシヨリヲコレリ、諡號ハ不比等ヲ淡海公ト號セシニ起レリ、但シ生テ功德アル人ハ、周禮ノ司勳ノ禮ニマカセテコレヲ賞シ、鑄レ器銘レ勳コトマコトノ賞功ナリ、コレニ猶アキタラザルユヘニ此贈追ノ沙汰ニ及ブ也、其德アラズシテソノ勢ニ媚、ソノ神威ニヨツテヲクルマジキ官位神號ノアルコトハ、禮ノ正シカラザルガユヘナリト可レ知也、

○問云、異朝ニハ猶此制アリヤ、答云、周ノ末ニ至テ禮經皆紛失シ、秦ニ至テ書コトゴトクスタレリ、漢ノ時コレヲ考フベキ旨アリトイヘドモ、諸議マチ／＼ニシテ古ノ制ニ不レ合、コ、ニ後漢ノ明帝自遺詔アツテ別ニ庶ヲ立シメズ、其主ヲ光武ノ庶ニヲサムベシトアリシヨリ、唯一庶ヲ用テソノ中ニ室ヲカマヘテ七庶ノ心ヲナス、是ヲ同レ堂異レ室ト云ヘリ、其後千百餘年コレニ從テ宋元明トモニシカリ、故ニタマ／＼古ヲ思フノ人アリトイヘドモ、一旦コレヲ革ムルニヨシナクナレリト、丘瓊山甚歎息セルコトアリ、乃自酌ニ古今之制ニ時宜ヲハカリテ、宗廟祭祀ノ禮ヲイヘルコト彼ガ説ニ詳也、今畧レ之、

謫居童問中本終

謫居童問中末

○問云、聖人不_レ踰_レ矩トノ玉フトキハ、聖人ノ教ニモ亦其ノリトスル處アツテ、タトヘバ工匠ノ規矩ヲ以テ方圓ヲイタス如クナルコトワリ有_レ之コトニヤ、答云、凡ソ天下ノ萬物其規矩ヲハナル、コトナシ、故ニ器物ハ規矩準繩ヲ立テ此ガノリトス、人ハ君父兄師ヲ立テ以テコレガ規矩トス、其則アラザルトキハ必ズ其正コトヲ不_レ得、サレバ國ニ君長ナキトキハ人心ニマカセ口ニシタガフテ一致スルコトアラズ、家ニ父兄アラザレバ子弟ノ業ヲホシイマ、ニシテ、箕裘ヲ嗣事ヲ不_レ得、人師ヲ以テ學ビザレバ、馬牛ニシテ襟裾セルノコトワリナレバ、天下ハ天子ヲ以テノリトシ、國郡ハ諸侯ヲ以テノリトシ、家ハ父兄ヲ以テノリトシ、人ハ師ヲ以テノリトシ、物ハ其司ヲ以テノリトスベキ也、是乃箕子洪範ノ九疇ヲノベテ、第五ニアタツテ皇極ヲ云ルユヘ也、五ニ皇極^{キミ}皇建^{キミ}其有極、欽^ニ時五福^一、用敷^ニ錫厥庶民^一、惟時厥庶民于^ニ汝極^一、錫^レ汝保^レ極^一、曰、皇極之敷言是彝是訓、于^レ帝其訓ト出

タルハ乃天子ヲ以テ天下ノ、リトシ、君又其極ヲ建テ萬民ノ守ルベキ訓トスルノ心也、サレバ極ハ如^ニ北極之極^一、至極之義標準之名ニシテ、中立而四方之所_レ取正焉者也ト註セリ、聖人ノ道キワメテ云ベキニ非ズ、サレバ物ノイカタニ成ルコトハ雖_レ不_レ可_レ有_レ之、夫子既ニ不_レ踰_レ矩トノ玉ヘリ、曾子ハ有^ニ絜矩之道^一、子夏ハ大德不_レ踰_レ閑^リト云ヘリ、中庸伐^レ柯伐^レ柯、其則不_レ遠、又行而世爲^ニ天下法^一、言而世爲^ニ天下則^一トイヘリ、孟子ニ及^ニデ直ニ以^ニ聖人之道^一比^ニ規矩六律^一、而シテ告子ノ篇ニ及^ニデ情則ノ義ヲ述ブ、サレバ大匠誨^レ人必以^ニ規矩^一、學匠者亦必以^ニ規矩^一トイヘルハ、其ノリアラ^ニンコトヲ云ヘル也^一、其則トイヘル物ハコレヲ以テ其曲直方圓ヲタ^ニバス時ニアタラズト云コトナシ、工匠ノ規矩ヲ以テ大伽藍ヲ建立スルニ不_レ異、コ、ニ人ノノリトサス處ハ、イヅ方ニアラントナラバ、唯聖人ヲ以テ規矩トスベシ、能聖人ノ道ヲ盡シ、其道ヲ以テ人ヲ察スルトキハ、曲直順逆無_レ不_レ明ト可_ニ心得^一、コレ人之視^レ己如^レ見^ニ其肺肝^一トイヘルナルベシ、我ニ舊習意必ノ臆念フカクシテ、聖人ヲ知コトアタワザルヲ以テ、各聖門ニ入トイヘドモ聖人ヲ不_レ知、コノユ

ヘニ規矩遂ニ不正シテ、コレヲ以テ人ヲタメ、コレヲ以テ國家天下ヲ評議ス、故ニ似テ大ニ相違ヘリ、孟子曰、規矩方圓之至也、聖人倫之至也トハ、此心ナルベキ也、然ルニ聖人ハ人倫ノ規矩ニシテ、聖人又ナニヲ以テノリトストイワバ、聖人ハ天地ヲ以テ規矩トスルナリ、サレバ堯ハ欽若昊天曆象日月星辰、敬授人時ニ玉フトノ玉フ、孔子ノ巍巍乎、唯天爲大、唯堯則之トノ玉フハ此心ナルベシ、舜ハ事天璿璣玉衡ヲ以テ七政ヲ齊玉フトナリ、禹ニハ天乃錫洪範九疇、彝倫攸叙トナリ、伊尹作太甲曰、先王顧諟天之明命、是成湯ノ天ヲ則トシ玉フ也、大雅ニ不識不知順帝之則トハ文王ヲサシテイヘル也、帝則ト云ハ是天地ノ則ナレバナリ、惟天地萬物父母惟辟奉天トノ玉ヘルハ武王ノ誓師ノ言也、況ヤ周公ノ成王ヲ輔佐シテ天下ノ政ヲ立、官ヲ制シ玉フ事、各天地ニノストリ玉ハザルコトアラズ、夫子ハ五十知天命、自證ニ以テ天何言哉、故ニ子思仲尼ノ道ヲ稱シテ、上律天時、下襲水土ト云ヘリ、是皆聖人ノ天地ヲ以テノリトシ玉フ也、サレバ易ニ夫大人者與天地合其德、與日月合其明、與四時合其序、與鬼神合其吉凶、先天而弗違、後天奉天時、天且弗違而況於人乎、況於鬼神乎、禮曰、聖人作則必以天地爲本、以陰陽爲端、以四時爲柄、以日星爲紀、日月以爲量、鬼神以爲徒、五行以爲質、禮義以爲器、人情以爲田、四靈以爲畜、出タレバ、以天地ノリヲ立玉ハザレバ、聖人ノ則モ亦私ニ可レ落也、

○問云、人ハ以聖人爲則、聖人ハ以天地爲則ノコト、世々ノ大聖コレヲノ玉ヘルコト尤明白也、シカフシテ天地ハ又何ヲ以テ則ヲ立玉フヤ、

答云、是尤聖學ノ要道ナレバタヤスク是ヲ著シ難シ、アラハスト云トモ其志ニ徹ス不可也、凡天地ノ天地タルユエンハ、陰陽ノ道相近ヅキ相遠テ以テ高明悠久也、是乃至誠無息コトワリナレバ、不休息時ハ久シクシテ無疆、故終則有始、始天行也、反復亦天行ナリト云リ、君子以自疆不休息ノ則トス、此マコトニ本ヅイテ聖人仰則觀象於天、俯則觀法於地、觀鳥獸之文、與地之宜、近取諸身、遠取諸物、於是始作八卦、以通神明之德、以類萬物之情トハイヘル也、然レバ其誠ヲツクストキハ乃萬物規矩顯然ト明ニシ

テ、コレヲカクスニ處ナシ、是天地ノマコトアルガ
ユヘニ、日月ノ明自然ニ發シテ、一物モカクル、處ナ
キニ同ジ、サレバ日月得レ天而久照、又日月麗乎天
トモ云ヘリ、中庸ニ自誠明ナルト云ハコノ心ナルベ
シ、

○問云、天地ハ至誠ヲ以テ其則ノ明ナル處ヲ承知ス、
今日日用ノ間コレヲ以テ則トスルノ用法ヲ承ランコ
トヲ欲、

答云、今日ノ則ヲ立シコトハ聖人ニアラズシテハ不
レ可レ得レ之、サレバ左傳ニ逸書ノ言ヲノセテ聖作^{タツ}レ則
トイヘリ、中庸ニ唯天下至誠爲能經綸天下之大經、
立天下之大本トハコノ心ナルベシ、今竊ニ其藩籬
ヲ窺テ凡天下ノ事物各ソノソナワル誠アリテ、ソレ
ゾレノ則トスベキ處ナクンバアラズ、是ヲ有レ物有
レ則ト云也、故ニ其事物ヲ詳ニ致ストキハ、其則トス
ベキ道明ナルベシ、更ニマギル、コトアラズ、其誠ヲ
不レ盡ガユヘニ皆無理ヲ以テ則トスルニナルナリ、
○問云、然ラバ則トスル處ハ、外ヲ詳ニ盡ニアツテ内
ニアラザルヤ、

答云、聖人ノ立ル處皆天地ヲ本トス、天地コレ内ニア

リヤ、サレバ繫辭ニ云處ノ仰觀俯察ト云ヘル言、貴之
象ニ觀乎天文、以察ニ時變、觀乎人文、以化ニ成天下
ト云ヘル皆是内ニ考フルノミヲ云ニ非ズ、天地ハ外
ニシテ觀察ハ心ニアリ、彼ヲ盡シテ内ニ察スルヲ聖
人ノ道ト云、内外相合テ其中ニ其則自立處アルベキ
也、

○問云、天ヲ觀地ヲ察シ人物ヲ考フルニ道アリヤ、
答云、是乃則也、天ト云地ト云人物ト云テ、其マ、ノ
スガタ計リヲ觀察イタザバ觀察トハ云ベカラズ、天
ノ始終地ノ始終人物ノ始終ヲ詳ニ觀察スルトキハ、
自其用法明ニシテカクス處ナシ、コ、ニヲイテ天ニ
四時ヲ立、廿四節ヲマフケテ十二月ノ法ヲ立、盈虧ヲ
ハカツテ、氣盈朔虛ノ則ヲ考フ、土地人物一ツトシテ
不レ然ト云コトナシ、コレヨリ天地人物ノ則明ニシ
テ、天地人物各得ニ其道ト云ベシ、易ニ觀ニ其所恒而
天地萬物之情可レ見矣、又曰、觀ニ其所感而天地萬物
之情可レ見矣、是天地人物ノ情ヲ考フルコト一朝一夕
ノ事ヲ不レ以シテ、其恒久ニシテ不レ息處ト、其情ノ物
ニ感ズル處ヲ考ヘテ、其則ヲ立ルノイ、也、

○問云、然ラバ皆一心ヨリコレヲ制シテ其則ト定ム

ルコトハアラズヤ、

答云、一心ヲ明メテ一心ノ作略ニマカスルト云ハ、皆異端ノ教ナリ、近ク天地ノ道ヲ盡トキニ聖人ト云ドモ、其象法ヲ觀察セザルトキハ、其微ヲ盡スコトヲ不可得也、人物ノ用亦然リ、但シ天地ハ萬物ノ父母タレバ、天地ノ象法ヲ立ルトキハ、人物ノ用其中ニ無レ不包藏ト可レ知也、只ニ一心ヲ師トセバコトノ私意臆説ニ陷テ、豈コレヲ則ト可レ定乎、故ニ易ニ无妄剛自外來而爲主於内、動而健剛中而應、大亨以正天之命也トアリ、外ヲ考テ内ニ主ヲ立ルコト是乃聖人ノ教也、

○問云、今日日用ノ則イガ、心得ベキヤ、

答云、孔子七十從心所欲不踰矩トアリ、コ、ヲ以テ案ニ從心所欲ハ必ノリヲヤブルト可レ知也、人皆有情欲コトハ天ノ道也、其節ヲ過ルトキハ必則ヲ失フ、尤レ及モ亦然リ、故ニ情欲ヲ考ヘテ其過不及ヲ節スルヲ則ト云也、シカレバ其過不及イヅレヲ以テ過トサダメ不及ト定メントナラバ、人々ノ恒ノ情トスル處ト、其感ズル處トヲ知テコレヲキワムベシ、凡ソ天下ノ情ソノ感ズル處アルヲバ其欲ヲキラフベ

カラズ、是人ノ情也、シカルニ其好ム處惡ム處、又天下ノ人情ニアワセテ、其好マン事過ル所ヲ其マ、ニイタシヲカバ、必ズ身ヲ失人ヲソコナフニ至ルベキナレバ、過ルコト皆ノリニアワズ、又天下ノ人々其情欲アルニ、此人ニ此情ノ欲アラザレバ不レ及也、是非則也、聖人道ヲ立テ人ノ則トスル事モ亦コノ心ナリ、天下ノ人ノ情イヅレモ善ヲ欲ス、シカレバ善ヲ好ハ天下ノ人情ナレバ、此則ヲ以テ道ヲ立ツ、コレ率性之謂道ノコ、ロニシテ、説卦ニ所謂立人之道曰仁與義也、コ、ヲ以テ天下ノ人情ヲ以テソノ道ヲハカラザルハ、皆異端ノ私見也、孟子性ノ善ヲトイテ心所同、然ルトイヘルモ、人皆好仁義而惡邪暴ノイ、也、コノ處ヲノリト定メテ道ノ至善ヲ立テ、人々ヲ至善ノ地ニ止ラシメントノコト也、

○問云、事物ノ則イガ、心得ベキコトニヤ、

答云、物ニ付テ事アリ、事ハ物ヨリ出デ、物ハ事ニアレバ、物之字ヲコト、モヨメル也、サレバ有物有則ト云ハ、蒸民ノ詩ノ言也、凡ソ事物イヅレモ其始終ヲ詳ニシテ、以テ其則ヲ定ムルトキハ其則サラニ不レ違、タトヘバ父子間ノ事ヲ以テ云バ、其父子タルノ

道ヲ詳ニ盡セバ必孝慈ノ則出ヅ、君臣ノ間モ亦然リ、サレバ事物トモニ品多キコトナレドモ、ソノ一品ニツイテ其本末ヲ詳ニシテ、其則ヲ工夫イタシソノ類ヲ以テ他ヲハカルコト、聖人ノ天地ヲ以テ則トシテ、萬物ノ規範ヲ制スルガ如シ、

○問云、大學ノ綱領中庸ノ中和イヅレモ則ト云コトナシ、

答云、大學ニ止_二於至善_一ト云、中庸ニ率_レ性中_レ節ト云、是聖人ノ則也、止_二於至善_一ト云ハ事物其極_レル處ヲ立テ則トシテ、ソレヨリ次第ヲ論ズル也、タトヘバ一年ハ三百六旬日トキワメタルコレソノ極也、此ヲキワメテ其中ニ十二月廿四節ノ小目ヲ立テ則トスルニ同ジ、父ニツカヘ君ニ奉公イタスニモ、其大綱大義ノ實ヲ定メ、コレヲ至極ノ則ト致シテ、而シテ其小目ヲ詳ニス、故ニ善ノ至_レル處ヲキワメ、コレニトバマルヲ則トス、故ニ止_二於至善_一ヲ以テ則トス、況ヤ八條目ノ次第コト_レク小條目ノノリアリ、中庸ニヲイテハ既ニ中ノ一字聖門ノ大規矩也、中ト云モノハ率_レ性處ヨリ立テ、中_レ節ニイタルハ皆是則ト云ベキ也、○問云、天則ト云ヘルコトハ、古來ヨリアル言ナリ

ヤ、
答云、易ノ文言ニ乾元用九、乃見_二天則_一トアリ、詩ノ皇矣ニ順帝之則_一ト云モ天則也、書ニ有_レ典有_レ則、詩ノ有_レ物有_レ則ト云、イヅレモ則ヲ以テ言トス、易ニ法象莫_レ大_二乎天地_一トアリ、コ、ヲ以テ案ズルニ聖人ノ則ハ天地ヲ以テ本トスルガユヘニ、天則帝則ト云ヘル也、

○或問、法ト則ト同異アリヤ、

答云、則ハ制度品節ノコト也、法モ亦コレニ類ス、故ニ法則トモニ通用ス、易ニ形乃謂_二之器_一、制而用_レ之謂_二之法_一、又成_レ象之謂_レ乾、效_レ法之謂_レ坤トモ出タリ、又ノツトルト云義ニ兩字トモニ用_レ之、易聖人則_レ之
又云聖法_レ地周禮ニ八則アリ八法アリ、イヅレモ相通ズ、但法ハ必定_レル形アルノ義ニ通ズルガユヘ、多ハ制法刑法ノ義タリト可_レ知也、

○或問、則トサス處ト禮ト云ヘルト、其タガイアル事ニヤ、

答云、則ト云ハ其道ノ本末ヲ立ル事也、禮ト云ハ其事ヲ付テ品節シ、文章アラシムルコト也、タトヘバ父子ノ則ハ孝慈ニシテ、ソノ事物ニ節文ヲナスヲ禮

ト云ルナリ、所ニヨリ禮ヲ以テ則トシ、則ヲ以テ禮トスルモアリ、シカレバ内其則ヲ定メ外其禮ヲ正ス、是内外ノイ、ニシテ其實ハ一也、内ニ則アリト云ヘドモ、外ニ禮ヲ以テ此ヲ立ザレバ則アキラカナラザル也、サレバ心ヲ制スルニハ則アリ、形ヲ制スルニハ禮アル也、禮ニ凡禮之大體、體天地、法四時、則陰陽、順人情、故謂之禮、又云、禮之正于國也、猶下衛之于輕重也、繩墨之于曲直也、規矩之于方圓也、周禮太宰掌典禮以諧萬民、子產曰、夫禮天之經也、地之義也、民之行也、天地之經而民實則之ト出タルバ、禮ト則ト相去不遠トシルベキナリ、サレドモ内ニ則ナキハ禮アリトモ皆虛也、禮器云、先王立禮也、有本有文、忠信禮之本也、義理禮之文也、無本不立、無文不行、又曰、甘受和白受采、忠信之人可以學禮、苟無忠信之人、則禮不虛道、是以得其人_{コト}之爲貴也ト出タリ、コレ則ト禮ト相合テ、ニツナガラ行ル、ナリ、

○問云、先儒當然ノ則トイヘルコトハ、今ノ玉フ處ト同異アリヤ、

答云、當然之則ト云ヘルコトハ、朱子ハシメテコレヲ

云リ、乃蒸民ノ詩ニ出タル有物有則ト云ヘル心ヲ取テ是ヲイヘルコト、大學第五章ノ補闕或問ニ出セリ、而シテ其所指ノ則ハ、乃吾性心ニソナワレル仁義禮智ノ性コレナリトイヘドモ、氣稟ニヨツテ其則ヲ失トイヘルノ心ヲ本トシテ、此性心天地古今一塵一息ノ頃マデモノコサバルモノニシテ、天下萬物ノ理ヲソナヘルト云ル說也、是周子以來、程子張氏邵氏トモニ、コトク一揆ニシテ、聖學ノ實ニトヲザカルユヘン也、性心ハ因形氣相ソナワルモノナレバ、天地ニハ天地ノ性心アリ、物ハ物ノ性心アリ、人ハ人ノ性心アリ、天地人物各有性心トハ云ベシ、天地人物ノ性一ツ也トハ不可謂、人ノ性心ハ只性心マデニシテ別ニ名ヲ付ベキ所ナシ、仁義禮智ト云モ物ニ感ズルノ名ニシテ、内ニ仁義禮智ノ名アルニアラズ、ソノ物ニ感ズルユヘンハ、五行ノ精中ニアツマリテ性心トナレルヲ以テ、外又此五ノ品ニ感ジテ、惻隱、羞惡、辭讓、是非ノ四端相アラハル、ノミ也、コ、ニヲイテ聖人天地人物ノ始終ヲツクシ、其同ジクシカル處ヲ考フルニ、人ノ性無_レ不_レ好_ニ好色_ニ惡_ニ惡臭_ト、コレ天下ノ性情同ジクシカリ、コノ性ノ善ヲ欲スル處ヨ

リ考テ、事物ノ至善ヲ立、其善ヲヲコナワシメ其道ニ
ヨラシム、是率^レ性之謂^レ道ノ心ナリ、サレバ惻隱ノ情
其道ニ至善ナルヲ仁ト云、羞惡ノ情ソノ道ニ至善セ
ルヲ義ト名付、辭讓是非ノ情ソノ道ニ至善セルヲ禮
智ト名付、是聖人當然ノ則ヲ立玉フ也、乃易ニ立^ニ
人之道^ニ曰^ニ仁義^ニトイヘル、コノ心ナルベシ、シカレ
バトテ仁義禮智コト^ハ、ク外ヨリ至レルト云ニ非
ズ、内其四端アルニマカセ、其性ノ所^レ好ニシタガフ
テ此名ヲ立テ則トスル也、コレ内外相持シ天地相對、
人物相具、水火相因、君臣相守テ事ソノ間ニ行ハル、
天地設^レ位而易行^ニ乎其中^ニ矣ト云ル心也、

○問云、率^レ性ト云トキハ、則スナハチ内ニアルニ同
ジ、況ヤ有^レ物有^レ則ト云ヘルモ則内ニアルニ同乎、
答云、率^レ性ト云率ノ字從ノ字ト同ニ似テ、其コ、ロ
ヘアリ、凡天下ノ人ノ性ヲ論ゼザレバ、マコトノ性ニ
アラズ、今天下ノ人ノ性ヲ以テ考ルニ道ヲ以テ則ト
セザレバ、人々安ンズル處ナシ、サレバ堯舜ノ政ヲバ
人々コレヲ慕、桀紂ガ政ト云トキハ、人々コレヲ惡
ム、コレ内ニ善ヲ好ミ惡ヲニクム處アルガユヘ也、コ
コヲ以テ聖人其性ニ率テ道ヲ立タルナリ、是率^レ性之

謂^レ道ノ心也、一人ノ性心ヲ以テ云バ、桀紂ガ同心ヲ
得テ桀紂ニ親シム、同氣ノモノハ桀紂ヲヨシトモ思
フベシ、コレ桀犬吠^レ堯トイヘルタトヘノ如シ、堯舜
ノニクミヲウクル輩ハ、定メテ堯舜ヲ惡ムベシ、コレ
四凶ガ堯舜ニソムキ、象ガ舜ヲ殺サントスルノ心ナ
リ、コレヲ以テ云トキハ一人一己ノ私ノ思ハ、皆天下
ノ通情ニアラズトシルベシ、一家ニヲコナワレ一國
ニ用イ、一世ヲヲサメテ、コレコソ能法令政罰ヨト云
ハンハ天下ニ用萬世ニツタフルノ明德ニ非ズ、コノ
ユヘニ天下ノ性ニ率ノイ、ナリト可^レ知ナリ、次ニ天
下ノ人ノ性ニ率ト云ベキコトニシテ、率^レ性トアルコ
トハ、聖賢ノサス處ノ性トイ、道ト云ハ、皆指^ニ天下^ニ
云ト可^レ知也、サレバ聖人以^ニ天下之性^ニ爲^レ性ガユヘ
ニ、小人ノ性ヲ性トスルニ非ズ、コレ孟子以^ニ堯舜^ニ人
ノ手本トイタセルユヘ也、次ニ有^レ物有^レ則ト云ハ、物
物ニ其則アリト云ヘルコト也、内ニ此則アリト云ニ
ハ非也、凡ソ經書ノ内ニ人ノ則内ニアリト云コトナ
シ、又則外ニアリト云コトアラズ、書湯誥ニ上帝降^ニ
衷于下民^ニトイヘルハ、聖人天ノ衷ヲ考ヘテ此則ヲ立
ルノ言也、蒸民ノ詩ニ民之秉^レ彜ト云ハ、人々コノ則

ヲ好スルノ心アルコトヲイヘリ、是等ノ言ヲ附會シ

案二也、

テ、程子ハ天然自有之中ト立、張氏ハ萬物之一原ト云、朱子ハ事物當然之則、得ニ於天之所_レ賦、而非_ニ人之所能爲_ニトイヘル也、然レバ聖人ノ言ニ則_ニ内ニアリトノ玉ヘルコトアラズ、易ハ伏羲文王周公孔子ノ大聖相アツマリテ、天下萬世ノ準則ヲ立、六十四卦三百八十四爻ニアラワシ、夫子其象ヲ君子先王大人人君ノ可_ニ以則_ニコトヲノ玉フテ、既ニ仰觀ニ象於天、俯觀ニ法於地、觀ニ鳥獸之文與_ニ地之宜、近取_ニ諸身、遠取_ニ諸物、於_レ是始作ニ八卦、以通_ニ神明之德、以類_ニ萬物之情トノ玉フ、是天下萬世象法準則ノ大龜鏡ナリ、サレバ又不_レ可_ニ以私_レ之、今日不_レ可_ニ以用_レ之、用_ニ諸天下、施_ニ諸萬世、而終不_レ可_ニ變易、是聖人之天則而至正之公論ト可_レ云也、末世ノ俗儒意見ニマカセテ云處ハ、其易_レ見ノ近情ナレバ實理定メガタキ也、次ニ率ノ字從ノ字ト不_レ同ト云ハ、從ハ皆我情ニマカスルノイ、也、故ニ心ノ所欲ニ從_レバ則_レヲコユルノ心トス、從_レ情テ徑ニ行フハ戎狄之道ナリトモイヘリ、コ、ヲ以テ云トキハ從ノ字ト同異アルベキ也、學者尤可_ニ心付_ニ也、今左ニ朱子當然之則ノ說ヲノセタリ、可_ニ并

朱子云、天道流行造化發育、凡有_ニ聲色貌象、而盈_ニ於天地之間_ニ者皆物也、既有_ニ是物_ニ則其所_ニ以爲_ニ是物_ニ者、莫_レ不_ニ各有_ニ當然之則、而自不_レ容_レ已、是皆得_ニ於天之所_レ賦、而非_ニ人之所能爲_ニ、今且_ニ以其至切而近者_ニ言_レ之、則心之爲_レ物實主_ニ於身、其體則有_ニ仁義禮智之性、其用則有_ニ惻隱羞惡恭敬是非之情、渾然在_レ中隨_レ感而應、各有_レ攸_レ主而不_レ可_レ亂也、次而及_ニ於身之所_レ具、則有_ニ口鼻耳目四肢之用、又次而及_ニ於身之所_レ接、則有_ニ君臣父子夫婦長幼朋友之常、是皆必有_ニ當然之則_ニ而自不_レ容_レ已、所謂理也、外而至_ニ於人_ニ則人之理、不_レ異_ニ於己_ニ也、遠而至_ニ於物_ニ則物之理不_レ異_ニ於人_ニ也、極_ニ其大_ニ則天地之運、古今之變不_レ能_レ外也、盡_ニ於小_ニ則一塵之微一息之頃不_レ能_レ遺也、是乃上帝所_レ降之衷、蒸民所_レ秉之彝、列子所謂天地之中、夫子所謂性與_ニ天道、子思所謂天命之性、孟子所謂仁義之心、程子所謂天然自有之中、張子所謂萬物之一原、邵子所謂道之形體者、但其氣質有_ニ清濁偏正之殊、物欲有_ニ深淺厚薄之異、是以人之與_レ物、賢_レ之與_レ愚、相與懸絕而不_レ能_レ同耳、以其理之同、故以_ニ一人之心_ニ而於_ニ

天下萬物之理、無_レ不_レ能_レ知_二以其稟之異、故於_二其理_一、或有_レ所_レ不_レ能_レ窮也、理有_レ未_レ窮、故其知有_レ不_レ盡、知有_レ不_レ盡則其心之所_レ發、必不_レ能_レ純_二於義理_一而無_レ難_二乎物欲之私_一、此其所_レ以意有_レ不_レ誠、心有_レ不_レ正、身有_レ不_レ脩、而天下國家不可_レ得而治_二也、昔者聖人蓋有_レ憂_レ之、是以於_二其始教_一爲_二之小學_一、而使_二之習_二於誠敬_一、則所_レ以收_二其放心_一、養_二其德性_一者、已無_レ所_レ不_レ用_二其至_一矣、及_二其進乎大學_一、則又使_二之卽_二夫事物之中_一、因_二其所_レ知_一之理、推而究_レ之以各到_二乎其極_一、則吾之知識亦得以周遍精功而無_レ不_レ盡也、若_二其用力之方_一、則或考_二之事爲之著_一、或察_二之念慮之微_一、或求_二之文字之中_一、或索_二之講論之際_一、使_二於身心性情之德_一、人倫日用之常、以至_二天地鬼神之變_一、鳥獸草木之宜、自其一物之中莫_レ不_レ有_レ以見_二其所_レ當_一、然而不_レ容_レ已、與_二其所_レ以然_一、而不_レ可_レ易者、必其表裏精粗無_レ所_レ不_レ盡、而又益推_二其類_一以通_レ之、至_二於一日脫然而貫通_一焉、則於_二天下之物_一皆有_レ以究_二其義理精微_一之所_レ極、而吾之聰明睿智亦皆有_レ以極_二其心之本體_一、而無_レ不_レ盡矣、此愚之所_レ以補_二乎本傳闕文之意_一、雖_レ不_レ能_二盡用_二程子之言_一、然其指趣要歸則不_レ合者鮮矣、讀

者其亦深考而實識_レ之哉、

○問云、善_レ弓者師_レ弓不_レ師_レ羿、善_レ舟者師_レ舟不_レ師_レ冪トイヘリ、然レバ弓ノ則ハ弓ヨリ出、舟ノ則ハ舟ヨリ出、コレ各其則内ヨリ出ニアラズヤ、
答云、弓ヲ師トシ舟ヲ師トスルノ言尤味アリ、但弓ハイカバシテ出ルトナラバ、物ヲ射ルト我コレヲ引ベキノツモリトヲ考ヘテ、而シテ弓ヲイダシ出セリ、舟ヲコシラフルニハ水ト載乗スル人物ヲ考ヘテ此舟ヲ出ス、弓ト云舟ト云、旣一物ニ一ノ則ヲソナヘタル器ナレバ、是ヲ用ルモノ此物タルヲ詳ニシテ、此則ヲ立ザレバ、羿冪ガ立ル處ノ則、是後人ノ則トスル處ニシテ、人ノ性ニ率テ聖人コノ道ヲ則トスルエコトナラザル也、コレヲ内ニアリト不_レ可_レ心得_二也、サレバ格物致知ノ教ヨリソノ天則自アラワル、處アリ、コ、ヲ以テ云トキハ善_レ弓者師_レ羿反求_二之弓_一、善_レ舟者師_レ冪反求_二之舟_一ト云ノ心ナルベシ、此問處關令尹ガ書ニ出タリトイヘレバ、彼老子ノ求_レ本テ棄_レ末ノ言ノ弊ナリト可_レ云也、

○問云、聖人ノ道ハ仁義ニアツテ權謀ヲ不_レ用、若權謀ヲ用ルトキハ伯者ノ道ナリト云ヘルハ然リヤ、

答云、物ニ方圓アツテコレヲタマスノ則ニ規矩アリ、圓ハ天ニカタドリ、方平ナルハ地ニカタドル、仁義ハ方ニシテ平也、權謀ハ圓ニシテ曲ル、仁ハ圓ニシテ義ハ方也、水ハ平ニシテ火ハ銳也、コ、ヲ以テ云トキハ、仁義權謀トモニ用テ其處ニ因テ其用ヲナス、是聖人ノ道也、必ズ仁義バカリヲ以テシテ權謀ヲ不_レ用トキハ、偏見ノ俗學ニシテトモニハカルニ不_レ足、又權謀ニアツテ仁義ニ不_レ因ト云ハ、僞詐幻術ノ人ヲ惑スハカリゴトナレバ、尤モ不_レ足_レ用也、サレバ仁義ニモ權謀ニモ其用法ニ則アリ、規矩ノ方圓ノ則トナルガ如シ、經書ニ權ヲノベ謀ヲナシタルコト甚多シ、聖人又コレヲ用テ事ヲ行_レ事ヲ、シ、豈聖人權謀ヲ不_レ用トセンヤ、但シ人倫ノ道權謀ニ及バズ、只常住ノ道ヲ以テナスコト多シ、是仁義ナリ、コ、ヲ以テ先ンジ事トスルハ仁義ナリト可_レ知也、

王伯ノ事經書ニタシカニ是ヲ不_レ述、孟子詳ニ論ジテ戰國ノ弊ヲトケル也、王者ノ道伯者ノ道ト云テニツワカルベキアアラズ、道ハ一筋ニシテコレヲフミチガフルハ皆異端也、五伯ノ諸侯聖人ヲ貴ブゴトク致シテ、コレヲ以テ身ヲ利ス、是聖人ノ道ヲ不_レ知ガユ

へ也、シカレバ俗學ノ末流聖人ノ道ヲ心得ソコナイ、文字ニハシリ格式ヲ事トシ性心ヲ弄スル、トモニ是聖人ノ貴トイヘドモ、聖人ノ道ニハアラズ、甚品タガフト云ヘドモ、必竟楊朱墨翟ガ仁義ヲ心得ソコナフニコトナラズ、故ニ五伯ノ是トスル處モ、皆聖人ノ道ニアラザルユヘニ異端俗學ト云ベシ、王伯ト云ヘルハ王者ハ天下一同ノ教ヲ立テ、風俗ヲ一ニイタシ、三王ノ政令ヲ旨トスルコレ也、伯者ト云ハ方伯ノ道ニシテ、上ニ天子アレドモコレヲナミシテ不_レ用、各一方ノ諸侯ヲ下知シ、コレヲシタガヘテ一家ノ法ヲ立ル、コレ伯業伯道ト云、齊ノ桓公、晉ノ文公コレ也、シカレバトテ齊ノ桓公晉ノ文公ノ政令コト_レク惡ニハアラズ、唯聖人ノ大道ニ不_レ通ヲ以テ、シバラク大業ヲナスト云ヘドモ、天下ノ風俗ニカ、ラズ、萬代ノ龜鑑ニソナワラズ、コレ管仲ガ器ヲ以テ小也トノ玉ヘルナリ、孟子王霸ノ義ヲ詳ニ論ゼル、ソノ言ニナヅミテ後世ノ學者シキリニ王伯ノ事ヲ辨ズルニ至ル、是又實ニ王伯ノワカチヲ不_レ盡ガユヘナリト可_レ知也、

○問云、孟子專王伯ノ事ヲ辨ズルハアヤマリアリヤ、

答云、孟子專王伯ヲ辨ズルコトハ、時ニ取リテノ宜也、其ユヘハ周ノ世衰ヘテ諸侯各一家ノ志ヲ立、中ニモ齊桓公晋文公王業ヲ重ジテ、コレヲ以テ天下ノ諸侯ヲ下知シ、天下ノ諸侯ノ司タリ、其威四海ヲカタブケ其勢天下ニナラブナキヲ以テ、國々ノ諸侯コレヲ羨ザル人ナシ、故ニ孟子コレヲ辨ジテ伯業ノタノムニ不足處ヲ諸侯ニ談ジテ、聖人ノ道ハシカラザルト云ヘルコトヲトケル也、時ニ伯業サカンニシテ聖人ノ道不レ明ヲ以テ、コレヲ闢クノ教ナレバ、孟子コレヲ辨ズルコト尤其ユヘナキニ非ズ、シカルニ後世ニ及ンデ王伯ノ時ニアラズ、天下ニ一統シテ唯聖人ノ道不レ明トキモ、伯者ノコトヲ云ンハ時ニ相應ニアラズ、俗儒專ラ世間ヲサミシテ以伯者ノ法ナリト云テアシキコト、ス、伯者ノ法ハ管仲晏子ヲ以テ本トスベシ、管仲ハ夫子コレニ仁ヲユルシ、晏子ハ夫子久交テ敬ノフカキコトヲ稱ス、今ノ學者彼等ガ足下ニモ豈至ルコトヲ可得ヤ、然シテ孟子ニナライ薰子ガ言ヲキ、ヲボヘテ不レ知道ノコトヲソシランハ、又管晏ガ徒ノ笑ワレナルベシ、

○問云、易ニ人ノ道ヲ仁義ト云トキハ、權謀ハ道ニア

ラザルニ似タリ、

答云、是仁義ノ實ヲ不レ盡ユヘ也、仁ハ圓ニシテ義ハ方也、仁ハ愛シテ義ハ惡也、仁ハ人ノ道ニシテ義ハ時宜ニ通ズル也、コノユヘニ方圓曲直平トモニ並行テ天下ノ道立ベシ、凡ソ仁義ト權謀トハ順逆也、曲直也、左右也、往來也、明暗也、サレバ天ハ左旋シテ日月五星ハ右行ス、地天ハ逆ニシテ萬物泰通ス、晝夜ハ明暗ニシテ萬物利ス、陰陽消長往來アリ、君ハ南面シテ臣ハ北面ス、左右前後アリ、尊卑上下アリ、萬物ニ縱横大小高下死生榮枯アツテ、而シテ天下ノ人物コトゴトク其利ヲ利トス、コ、ヲ以テ并セ案ズルニ、天地人物如此ナラザレバ不レ叶ノ道コレ乃誠ナリ、コノ誠ヲ則トシテ今日ノ道ヲ立テ則トイタセルコトナレバ、聖人ノ教コノ二ツヲ全シテ、ソソ時ニ從テ其道ヲナスニアリト可ニ心得也、只學者格致ノ實薄シテ、舊習フカキガユヘニ、マコトノ道ニ入コト不レ叶ナリ、自ノ臆見ヲヤメテ聖人ノ言行ヲ以テ言行ノ則トスベキ也、

○問云、世ノ兵ヲ論ズルモノ多ハ權ヲ用ユ、シカレドモ權謀コレヲ不レ嫌トキハ、兵ノ道亦可レ用乎、

答云、是何ノ言ゾヤ、武ハ文ノ對ニシテ、文武互ニ根コト陰陽五行ノ相待相生ニコトナラズ、文ニ武ヲハナタズ、武ニ文ヲ忘レザル事、古ノ聖人皆然リ、專武ハトモニ不可行ノ道也、文ニモ仁義權謀アリ、武ニモ仁義權謀アリ、仁義權謀ハ文武ノ用タリ、用ユルト不_レ用ノ論コ、ニライテ不_レ可言也、コレ又人ニコ、ロミ身ニコ、ロミ、天地ニ考古ニノツトラバ不_レ言トモ其則可_レ明也、夫子衛ノ靈公陳ヲ問ニ對ヘ玉ワズ、孟子能_レ兵モノヲ上刑ニツクベキト云ル、皆其趣向アツテノ言也、後世末學コレヲ不_レ詳シテ、口ニマカセテ湯武之兵伯者之兵ヲ云テ、武ヲ以テ伯者ノ業トスルコト、皆不知愚蒙ノ說也、其ユヘハ兵ニ王伯ノ差別アラズ、王者コレヲ用レバ王者ノ兵也、伯者コレヲ用ユレバ伯者ノ兵トナル、湯武ノ兵ノ用ト云テ別ニ兵ノ法アルベカラズ、湯武コレヲ用ユルトモ武ハ武ノ用アリ、伯者コレヲ用トモ武ニ別法ナシ、唯其用ル人ニ從テ其用ヲナス、故ニ武ニ無_ニ王者伯者之別_一也、文モ亦然リ、堯舜モコノ文ヲ用イ、桀紂モコノ文ヲ用テ興亡治亂ハ其人ニアルコト也、次ニ文武先後ノ事は又時代ニヨツテ先後所ヲカエ、撥_{ヘラ}亂除暴

ニハ先_レ武セザレバ不_レ可_レ行、安_レ民順_レ人ニハ文ヲ以テ先トス、シカレドモ武ヲ用ニハ文ヲフクミ、文ヲ用ニハ武ヲフクム、是互_ニ根_一コトナルコトアラズ、剛柔強弱カチ備テ天地人物相立ノコトワリ也、古ノ聖人異朝本朝トモニ天下ヲ艸業シテ、除_ニ亂逆_一平_ニ暴惡_一コト先_レ武ヲ以テセザルコトナシ、而シテコ、ニ治平スルトキハ、文道ヲ正シテ禮ヲ制ス、禮ヲ制スルトキハ軍禮兵制コレヲ以要トスルコト、伏羲神農黃帝堯舜禹湯文武皆然リ、本朝開闢ヨリ天ノ瓊矛ヲ用テ日神既備ニ威武之設ニタマイケルヨリコノ方、天孫人皇トモニ武威ヲ以テ用ノ本トナシ玉フコト舊紀ニ明白也、コレ乃聖人文武ノ用一日モカクルコトナキノユヘナラズヤ、

○問云、異端ト指處ハ何レノ處ノアヤマリヲ以テ云ヘルヤ、古來ノ說多トイヘドモ其實未_レ會、答云、聖學ヨリ異端トサス處尤其ワカチ分明ナリ、凡天地ヲ不_レ則人物ノ情ニ戻リ、事業ヲ廢シ法禮ヲステ教ヲ不_レ立、性心ヲ弄スル輩ハ皆異端ト云也、學教ニ此内一ヶ條モアルトキハ、異端ト號シテ必_ズ堅ク制シツヨク禁ズ、タトヘバ天下ノ政道一ニ歸シテ人君

ノ命四海ニ相行ル、若諸侯大夫自一家ノ仕置ヲ立テ、天下ノ定法ニツムキ、大禁大令ヲ事トセザルトキハ、必ズ天下ノ害アルベシ、人君速ニコレヲ制シ、是ヲ罰スルニ同ジ、聖人ノ道ハ天地ヲ本トシテ、人物ノノリヲ立テ以テ、教ハコレ天地ノ道、ウクル處ハ天地ノ則也、今聖人代テ天此道ヲ人物ニ明ニシテ、人物ヲシテ其性ヲツクサシメ、天地ノ化育ヲタスク、故ニ聖人繼テ天建極ト云ヘリ、シカルニ天地ヲ父母トシテ天地ニツムキ、人物ニツラナリテ人物ヲナイガシロニシ、己レガ意見ニマカセ法禮事業ヲステ、自證自悟ヲ事トシ、性心ヲ弄、冲漠無朕ヲ味ルコト、コトハク聖人ノ教ニツムクニヘニ、異端ハ聖人之徒也トイヘル也、漢董仲舒對策云、春秋大一統者、天地之常經、古今之通誼也、春秋公羊傳、隱元年春王正月何言乎、王正月大一統也、仲舒借此而言以明王道術當統於一也、今師異道、人異論、百家殊方、指意不同、是以上亡_三以持_二一統、法制數變、下不知_レ所守、臣愚以爲、諸不_レ在_二六藝之科孔子之術_一者、皆絕_二其道_一、勿_レ使_二復進、邪辟之說滅息、然後統紀可_レ一而法度可_レ明、民知_レ所_レ從矣ト云ヘリ、此說尤モ得タリ、サレバ聖人則_二天地ノ異端游_二六合之外_一、以_二乾坤未判冲漠無朕_一、立_二其

說、聖人從_二人情_一而設_二道_一、異端矯_二人情_一拂_二人情_一縱_二人情_一、聖人以_二萬物_一爲_二萬物_一、使_二各盡_二其性_一、異端以_二萬物_一爲_二一體_一、或放_二下萬物_一、聖人ハ節_レ欲シテ異端ハ絶_レ欲或任_レ欲、聖人體用文質共ニ用テ、異端ハ體ヲ事トシ質ヲ旨トス、聖人ハ學教ヲ示シテ異端ハ自悟自證ヲ事トス、聖人ハ日用ヲ論ジテ、異端ハ性心ヲ弄ス、是聖教異端差異スル處ノ大概也、

○問云、能通_二天地之外_一ハ天地ヲ則トスルト云ベシ、人物ヲソコナハズ、不_レ害ハ人物ノ性ヲ盡スト云ベシ、欲アルガユヘニ萬境ニ轉ズ、無_レ所_レ欲トキハ應_二無_レ所_レ住而生_二其心_一ナルベシ、體ヲツクサバ用ハ明ナルベシ、自_レ了覺セバ德自正シカルベシ、性心自正ハ日用自立ベシ、然ルヲ異端ノアヤマリトノ玉フコト、其惑イヅレノ處ニカアルヤ、答云、天地ノ道ヲツクサズシテ六合ノ外イカンゾ可_レ知、生ヲ不_レ知シテ死ヲ知ントシ、不_レ事_二人_一シテ求_二事_二鬼神_一ニコトナラズ、只高說テ不_レ蹈_二實地_一、雖_レ尊無_レ徵ト云ベシ、人物ノコト可_レ害ヲバ害シ、可_レ除ヲバ除テ、ハジメテ人物生、ソノ處ヲ得ル也、只コレヲ不_レ殺不_レ傷ヲ以テ生ヲ全クスト不_レ可_レ言、サレバ莠

ヲトラザレバ苗ノ生ズルコト不_レ全、孽^{わざ}ヲノヅキ枝葉ヲ不_レ制バ其大本不_レ立、鳥獸ヲカラザレバ却テ人ヲ害シ五穀ヲヤブル、邪惡ノ輩ヲ退放シテ正道立、コレ聖人ノ道也、欲アルヲ以テ人タリ、無_レ欲トキハ草木瓦石ニ同ジ、草木瓦石何ノ心アツテ可_レ生ニ其心乎、用ヲシラザルユヘニ體ト思フコト皆邪僻也、自_レ了覺ヲ事トスルヲ以テ其德トスル處、私ニシテ德ニ非ズ、性心ヲ事トスルユヘニ日用日々ニクラシ、サレバ聖人ハ太極ヨリ道ヲ論ズ、異端ハ無極ヲ以テ道ノ本トス、其所_レ指大ニタガフコト如此シテ、必竟公論ニアラズ、只自見ノ私說ナリト可_レ知也、

○問云、公論私見ノワカチ如何、

答云、公論ト云ハ天下ノ人々コレヲ用テ行ニ利アリ、天下ノ善知ノ人コレヲ是トシ、上古ノ聖人コレヲ行鬼神コレニ通ズルヲ公義公論公是ト云也、其身一人ノ是トシ、一人ノ行フコトニシテ、一人ノ樂シムコトハ、皆私見臆脱孤議獨樂也、異端ハ身ヲ利シテ人ヲ不_レ用、身ヲ樂シマシメテ大倫ヲステ、身ヲ潔シテ世間ヲ不_レ顧、是其利トスル處所_レ樂所_{スル}トモニ一人己身ノ私ニシテ、大道公共底ニ非ズ、聖人ノ道ハ樂トキハ

人ト、モニ樂、患トキハ人ト共ニ患、人ヲ立テ己ヲ後ニシ、人ヲ利シテ身ヲ後ニス、是異端聖教公私大小ノ論明白ニシテ不_レ可_レ掩、サレバ異端ノ道ハ一己ノ道人コレヲ以テ自樂ベクシテ、若此ヲ家ニ施ハ家不_レ齊、況ヤ國天下ニ及スニタランヤ、コ、ヲ以テ世々ノ政道聖人ノ道ニチナムトキハ天下安ク、異端ニヨル時ハ國ヤブレ天下亡ブ、タトヘバ異端ヲ信ズル主將アリト云トモ、天下國家ノ政道ニ異端ヲ用ユルト云事不_レ有、只一人ノ安樂ヲ云ノミナリ、又主將聖學ニ志アリトイヘドモ、其道ヲキワメズシテ專性心ヲ弄シ、公義公論ヲコト、セザレバ、異端ヲ不_レ學シテ其政道異端也、コ、ヲ以テ國亡天下亂ル、是秦晋ノ亡ブルユヘン也、コ、ヲ以テ云時ハ國家ノ治亂コトゴトク聖學異端ニ不_レ出、國家ノ敗亡バ異端ノ制アレバナリ、國家ノ治平ハ聖學ノ趣向アレバ也ト可_レ知、世世ノ人君聖學ヲ好ト云ヘドモ、國亡家敗ル、アリ、異端ヲ學トイヘドモ、國治天下平ナルコトアリ、是皆聖學ト思ノ内ニ異端多ク、異端ト云中ニ自聖學ニチナムコトヲ不_レ知ガユヘナリト可_レ知也、實ニ異端ヲ用テハ無_レ不_レ亡、聖學ヲ立テハ無_レ不_レ治ト可_レ知也、

○問云、天下ノ人は是トスル處コレ道ナリトセバ、天下ノ人無レ不レ好レ色、無レ不レ好レ利、無レ不レ以奢、是ヲ以テ道トセンヤ、

答云、天下ノ人ノ是トスル處ト云ハ、天下ノ人コレヲキ、コレヲナシテ尤ナリト感心セシムルコト也、色ト云利ト云奢ト云、トモニ天下ノ人々ノ好ム所ニシテ聖人ノ道コレヲ禁ズルニアラズ、コレ乃公義也公論也、サレバ好レ色ベクシテ色ヲコノミ、財ヲ好ムベクシテ財ヲコノミ、可レ奢シテ奢ハ皆禮也、若不レ可レ好コトヲコノミ其惑所アラシニヲイテハ、聖人コレヲ戒、タトヘバ色ヲ好テ淫亂ニ陷、財ヲ好デ己ガ利ヲ逞クシ、盡ニ錙銖ニシテ如ニ泥土ニイタシ、國民コレガタメニ苦ツカル、トキハ、是天下ノ人々以テ是トセザル處ナルガユヘニ、コレヲ禁ジテ節ヲ正ス、コレ又公是公論也、是ト定ムルモ非トキワルモ、天下ニコレヲ用テ其タガイアルベカラザランコト、コレヲ公ト云也、人ハ苦シミタシナメラレ、國ハツカレ家ハ亡ブルトモ、我好ム處コレナリト云ヲ以テ私ト名付也、コレ其私ヲ立行ナワシメバ、君臣父子ノ道敗レテ天下國家ノ滅亡立ドコロニ可レ得、豈コレ人々ニ施行スルノ

道ナランヤ、コ、ヲ以テ人々ノ好ム處ナリト云ヘドモ、ツイニ天下ノモノ、コレヲ用ニ不足コトハ公ト不レ可レ言也、

○問云、異端ノ道ヲ以テ異國ノヲサマレルコト、釋氏ノ經典ニ明ナレバ、コレヲ以テ亂道トハ難レ言乎、

答云、釋迦ハ迦維國王ノ嫡子ニシテ王位ヲ舍テ入レ山學ニ佛道、ツイニ國土安全ナルコト尤可レ然、其故ハ天竺國ハ西戎也、西戎ニヨイテハ佛道ヲ用イテ國土安全ノワケアルベジ、凡ソ五方民各ソノ性ヲ異ニシテ國々ニ教アリト云リ、然レバ南蠻ニハ回々ノ教ヲ用テ國ヲ治、北狄ハ北狄ノ道ニテ世々立來ルトミヘタレバ、天竺ニテヨク行ル、コト勿論ナリ、シカレバトテコレヲ中華ニ行ナワント云ヘルコト甚愚昧タリ、聖人ノ教ニ事タラザル處アラバ、又異教トモ云ベシ、何事ノ不足アリテ又別傳ヲ可レ尋、只コレ奇ヲ弄シ怪ヲ好ム處ヨリ起レリ、昔石勒之於ニ佛圖澄、符堅之於ニ沙門道安、姚興之於ニ鳩摩羅什、皆奇怪ニヨツテコレヲ賞スルナリ、

○問云、孟子ノ時分モ異端多シテ、專楊墨ヲサシ玉フハ如何、

答云、西山眞氏曰、孔子既沒異端遂作、至孟子時一盛矣、以司馬遷所記、自鄒衍淳于髡田駢之徒、各著書言治亂之事、以于世主者不可勝數、若申不害商鞅輩、其害尤甚焉、而孟子所深距者、惟楊墨二氏何哉、程子曰、楊墨之害甚於申韓、楊氏爲我疑於義、墨氏兼愛疑於仁、申韓則陋而易見、故孟子止關、楊墨爲其惑世之甚也トイヘリ、コ、ヲ以テ案ズルニ楊墨ハ聖人ノ道ヲ見チガヘテ、同ジク聖人ヲ貴トイヘドモ、聖學ニ遠ク却テ邪僻ニ陷ガユヘニ、孟子深ク是ヲ辨ジコレヲ距也、コレ似テ非ナルモノニシテ、利口ノ邦家ヲクツガヘシ、紫ノ朱ヲ奪ニ不異ト可レ知、夫子鄉原ヲ以テ德ノ賊トノ玉フモコノ心ナルベシ、鄒衍淳于髡田駢ガ徒ハ、只術枝ヲコト、シ辨舌ヲ本ト云、コレ聖門ノ徒ニ非ズ、況ヤ其道トサス處ニ標準ナシ、何ゾコレヲ事トセンヤ、是孟子ノ楊墨ヲフセグユヘナリ、

○問云、老莊ノ教イヅレノ世ニ盛ナリヤ、答云、戰國ヨリ秦漢三國晋南北朝ニ至ルマデハ、コトゴトク道家ノ學ヲ旨トス、楊墨ガ説ハ孟子ヨリ以後其ノ沙汰不明シテ、專老莊ノ道ヲ事トス、況ヤ漢ノ

初ハ道學ノ輩ニ人傑多シ、是秦ニ書ヲヤキ神仙ヲ事トスルガユヘナルベシ、サレバ漢ノ曹參ガ天所致、張子房ガ所遁、皆道家ノ一術也、コトニ商山ノ四皓ガ類、全クコレ道術ヲコト、ス、文帝又道家ヲ信ジ、武帝尤敬鬼神之祀、コ、ヲ以テ司馬遷ガゴトキ博知ノモノモ、其ノ所貴ハ老子ノ教ニアツテ、史記ノ論コトゴトク其旨老子ニ歸ス、楊雄ガ博覽ナリシモ太玄經ハ老子ノ學ヲ旨トセリ、殊ニ魏ニ何晏アリ、晋ニ王衍ガ徒アツテ、祖尙虛無、宅ニ心事外ノミ也、サレバ曹參以之相漢、收寧一之效、文帝以之成富庶之功トイヘドモ、只其一事ニシテ曹參ガ相タル道明ナリト云ベカラス、文帝ノ治正ト云ベカラズ、戰國ノ齊桓晋文管仲晏子叔向子產ガ輩ニモ不レ可レ及也、晋ハコレヲ以テ風俗ツイニ頽廢スルニ至レリ、漢ニハ儒學ノ輩モ皆老莊ノ意見ヲ以テ本トス、故ニ載記ノ禮書所々ニ道家ノ意味アリ、宋明諸儒々書ヲ解スルニ釋氏ノ意味ヲ以テスルニ同ジ、

○問云、釋氏ノ說流布スルノ始終如何、答云、佛教ノ異國ニリタルコトハ、後漢ノ明帝ノ時ナリ、シカレドモ只佛教ノ經論佛等沙門少々來レルノ

ミニシテ、人未ニ尊信ニ、佛圖澄、鳩摩羅什ガ輩、晋ニア
 リトイヘドモ、性心ノ教ヲ事トセズ、コ、ニ梁ノ武帝
 ノ時、初祖達磨釋氏ノ人傑トシテ、帝コレヲ信ズ、是
 ヨリ六祖ニ至ルマデ、相續シテ六祖惠能、甚釋氏ノ達
 人タリ、是ヨリ佛祖ノ教盛ニシテ、唐宋ノ帝皆信用
 ス、信用ニ從テ佛氏ニ達人又多ク出來テ、腐儒末學コ
 レガタメニ拱手噤口ニタヘタリ、是古人ノ所謂唐以
 後ハ佛氏ニ有聖人トイヘルナルベシ、聖人アリト云
 ハ其人聖人ヲ不レ知ガユヘニ佛者ニ有聖人ト云ヘル
 也、只人傑多出ルナルベシ、コノユヘニ宋元明ノ諸儒
 ハ儒書ヲ解スルニ以釋氏說ス、コレ周子ガ無極ノ說、
 邵子ガ冲膜無朕ノサタ、程子ノ靜座、朱子ノ復レ初等、
 コトトク佛祖ノ意見ヲ借ル處ナリ、況ヤ陸象山ガ
 自他ノ辨、王陽明ガ良知ノ工夫ハ、全ク釋氏ニ不レ異也、
 ○問云、周子程子朱子ノ學、何レノ處ヨリ誤來レル
 ヤ、

答云、漢唐ノ諸儒コトトク訓詁ニナヅンデ、文字ノ
 間ニ屈居ス、コレヲアヤマリト見ル處ヨリ、其見處甚
 高ニ過テ、コトトク聖學ヲ以テ老莊佛氏ノ味ニ陷
 レズ、コレ周子ガ無極ノサタヨリ始レリ、聖人ハ太極

ヲコソ本トシ玉ヘリ、太極已上ニ何ノ工夫アラン、太
 極ヲ超出セント云ハ既ニ聖人ノ學ニタガフ、是游ニ六
 合之外也、無極モ亦太極ト一事トイワバ、何ゾ此無益
 ノ二字ヲ加ヘン、既ニ無極ト云トキハ太極ト同カラ
 ンヤ、是皆聖人ノ書ノ實ヲ不レ盡シテ、意見ヲ以テ深
 長ヲ加フ、マコトニ宋人ノ助長ニ不レ異、明道ノ程子
 コレニ慣テ、胷中ノ洒落光風霽月ヲ事トス、其門人廣
 平游氏、龜山楊氏、藍田品氏等、イヅレモ聖學ノ旨ヲ失
 スル事、朱子コレヲ辨說スルコト詳也、出中庸或問伊川ノ
 程子シバラク日用ヲ事トストイヘドモ、學流不レ全シ
 テ專性心ヲ弄ス、朱子ニ至テ頻ニ日用ヲ以テ教トス
 ル事、先覺ノ及ブ處ニ非トイヘドモ、是又性心ノ自悟
 ヲ事トシ、一旦豁然ノ功ヲ待、其所レ言專性心ノ上ニ
 執著シテ、其所レ行ハ武夷ノ九曲ヲ樂デ、隱逸ノ志ヲ
 九詩ニアラハシ、曾點ガ氣象ヲ味、虛靈不昧ヲ不レ見
 テ、持敬ノ學ヲ要トス、サレバ南宋ニ及デ朱子ノ學ヲ
 旨トストイヘドモ、格物致知ノ用法不レ明ガユヘニ、
 學者昧シテ物ヲサグリ、暗室ニ足テウゴカスニ似タ
 リ、欲レ行シテ手足ヲ措ニ處ナシ、コレヨリ元明ノ學
 者、コトトク程朱ノ學ヲ宗トシテ聖人ノ教殆廢ス、

ソノユヘハ程朱ノ解ヲ本トスルガユヘニ、聖人ノ言行ヲコトトク程朱ノ私見ニ落在ス、コレ乃聖人ヲシテ塗炭ニ坐セシムルノイ、也、

○問云、陸象山・王陽明ガ學ハ、マサシク佛見也、程朱ハコレニ異ナレバ、少シタガフ所アリト云トモ、學者コレヲ宗トスルコト可乎、

答云、學ノ道スデハ異也トイヘドモ、程朱陸王トモニ聖人ノ學ヲ失却スルハ同ジコト也、唯五十歩百歩ノ間タルベシ、其ユヘハトモニ性心ヲ了覺スルノ工夫ヲ事トシテ、格物致知ノ用ヲ不_レ知、故ニ其了覺スル處コトゴトク、異端ノ所_レ指也、コ、ヲ以テツイニハ三教ヲ一致トイタスニ及ブ也、コ、ヲ以テ云トキハ三教一致ナルヲ三教一致トイタセリ、儒釋道ノ教イヅレモ善ヲス、メテ惡ヲコラス、是教ハ一ツスデ也、サテ致トサス處ハ各コトニシテ、其タガイアリト可_レ知、其致タガフヲ以テ其教モ又不同ニナリヌベシ、然ルヲ世儒ハ一致ト云ヘル、コレ聖人ノ旨ヲ不_レ知也、

○問云、程朱・陸王之學イヅレモ、賢者ノ旨ヨリ出レバ、不_レ可_ニ拂棄_一乎、

答云、不_レ然、道釋ハ其宗トスル處異ナレドモ、其教聖人ノ教ニ似テ非ナルヲ以テコレヲ正戒ス、況ヤ儒門ニ居テ聖人ノ宗トスル處ニ相違アラシマバ、キビシク是ヲ禁戒セザレバ、紫ノ朱ヲ奪ニ不_レ異、晋ノ范甯字武以爲王弼何晏二人之罪深ニ桀紂トシテ其論ヲ著シヌ、云心ハ桀紂ガ惡ハ其身一代一世ニトバマレリ、

六經ノ注解ヲイタシ違ヘテ人々ヲシテ道ヲトリウシナワセ、萬世迄其流レ相傳テ人ヲソコナフニ至レリ、是王弼何晏ガ罪ノ桀紂ヨリ大ナル故也、王弼何晏ハイマダ老莊虛無恬淡ニトバマリテ其根ヲ深クセズ、宋明ノ諸儒道學心學ノサタニ至リテハ、マサシク浮屠ノ學佛祖ノ教、外ニシテ淫聲美色ノ人ヲ惑コト甚重ナルニコトナラズ、コノ故ニ漢唐ノ諸儒ハ事物ノ弊アラズシテ、宋明ノ諸儒ハ皆ソノ事ヲ高尚ニシ、隱逸ヲ以テ大倫ヲミダルニイタレリ、シカレバ深コレヲ闢ンコト孟子ノ距楊墨ニ類スベシ、予昔シ程朱ノ說ヲ尊信シ、其文義ヲ深ク味此ヲ身ニコ、ロミ、人ニ試ムルコト久シクシテ、初メテ程朱ノ學聖道ニ不_レ同コトヲ知ル、是全ク程朱ノ教ニヨツテ今此宗ヲ得、故ニ程朱ノ學ヲ毀排センコトハ、更ニ本意ニ非ズ、且程

朱ノ學世ニ行レテ、中華既ニ千年ニ近シ、本朝ニハ百年ヲ不_レ出トイヘドモ、末儒ノ某甲等如_レ此ノ說ヲナサンコト、人ノ感心スベキニ非ズ、一旦コノ言以出ハ天下ノ人相議シテ、不_レ知_レ量ノ誹謗、高慢我慢ノアザケリ、狂言綺語ノ說トセン事、豫ジメ此ヲ不_レ知ニ非ズ、然レドモ聖人ノ道ハ天地ノ公其底ニシテ、吾人共ニ得テ私スベキニ非ズ、今コレヲタバサズンバ、彌聖道異端ニ陷テ、コノ道地ニヲチツベキ事、既ニ此志明ナルノ上ニツ、ミテカクスベキニ非ズ、又此說ヲ聞テ其旨ヲ發揮シ、予ガ志ヲ改ムル人、世ニアルマジキニ非ズ、シカレバ人ノ非笑ヲキラヒ、病_レ狂喪_レ心ノ誹ヲハバカリテ、以テ此ヲ不_レ言トセバ、上堯舜禹湯文・武ノ道、下周公・孔子ノ大教、コ、ニ沈淪センコト歎ジテモ猶アマリアルコト也、昔陽明自一家ノ說ヲ立ケルトキ人々以テ非笑ス、コ、ニヲイテ陽明作_レ說曰、蓋不_レ忍_レ牴_レ牾_レ朱子_レ者、其本心也、不_レ得_レ已而與_レ之牴牾者、道固如_レ此不_レ直則道不_レ見也、又曰、昔者孔子在當時有_レ議_ニ其爲_レ誦者_ニ、有_レ譏_ニ其爲_レ佞者_ニ、有_レ毀_ニ其未_レ賢_レ詆_レ其爲_レ不_レ知_レ禮_レ、而侮_レ之以爲_ニ東家丘_一者_ニ、有_ニ嫉而沮_レ之者_ニ、有_ニ惡而欲_レ殺_レ之者_ニ、晨門荷

黃_レ之徒、皆當時之賢士、且日是知_ニ其不可_レ而爲_レ之者歟、鄙哉硜々乎、莫_レ已知也、斯已而已矣、雖_ニ子路在_ニ升堂之列_一、尙不_レ能_レ無疑_ニ於其所_レ見_一、不_レ悅_ニ於其所_レ欲_レ往_一、而且以_レ之爲_ニ迂_一、則當時之不_レ信_ニ夫子_一者、豈特十之二三而已乎、然而夫子汲々遑々、若_レ求_ニ亡子_一於道路、而不_レ暇_ニ於暖席者_一、寧以斬_ニ人之知_レ我信_レ我而已哉ト云リ、其道ヲ立ル處ニハ、必世ノ非笑ナクンバアラザレドモ、不_レ得_レ已ノユヘニ、今朱子・程子ノ說ヲソムク也、

○問云、宋儒ノ心學理學ノ說ヲアヤマリトイヘリ、學者ノ志處ハ心學理學ニシテ、聖人モ存心ノ工夫ヲノベ玉ヒ、孟子モ求_ニ放心_一トアルトキハ、古來ヨリ心學ヲ用ユルニ非ヤ、

答云、聖人ノ教ヲ學ト云、學ハ人タルノ道ヲ學ブ也、人ノ司ドル處ハ心ニアリトイヘドモ、心性ニ形體ナシ、形體ナキガユヘニ見聞執捉スベカラズ、シカレバ心ハ人ノ全體ニ充滿シテ、全體ノ作用皆性心ナラズト云事ナシ、故ニ形體ニアラソレテ視聽言動イタスワザヲ能修ムルトキハ、性心自在_ニ其中_一、視聽言動思ヲ離レテ、心性ヲ云ベキモノナシ、大學ノ教正_レ心ス

ルニハ其發動スル意ヲ誠ニシ、意ヲマコトニスルニハ知コトヲキワメ、知ヲ致ニハ格_レ物ト出タリ、コレ心性ニ形體アラザルユヘニ心性ヲウツスモノヲ意ト號、意又無_レ所ニ指示ニガユヘニ知トコレヲ云、知又物ニヨツテ不_レ格バカナワザレバ、格物ヲ以テ極トス、然レバ學ト云ハヒキク近クタシカニ跡アル處ヨリ此ヲツトムルヲ以テ本トス、如_レ此ツトムレドモ猶學者空虛ヲヨヂ、清談ヲ事トシテ下學上達ノワキマヘナシ、若心ヲサシ理ヲ立テ學トセバ、皆水ニ畫キ影ヲ捉ニヒトシカルベシ、是異端ノ所_レ教ナリ、堯舜禹三代ノ相傳アル處モ中ヲ以テ教トス、夫子ノ高門顔子仲弓ニ仁ヲ示シ玉フニ心學ノサタナシ、經書ニ學ヲ以テ心上ノ工夫ト云ル言ツイニ不_レ見_レ焉、易ハ六十四卦ニワタリ、洪範ハ九疇ニ至レリ、存心ト云求_ニ放心ト云モ、存ト求トハトモニ皆學ノイ、也、シカルヲ宋元明ノ諸儒心學理學ノ名ヲ立ツ、學皆心ノ學ナラズト云コトアラザルニ、別ニ心理ノ字ヲ加テ、學ニ名字ヲアラワシムルコトハ、是心性ヲ弄スルニ非ヤ、コ、ヲ以テ心學理學ハ宋儒ノ意見ナリト云也、

○問云、天下ヲ治ムルニハ君ノ一心ヲ以テ本トス、天

下ハ人ノ一體、君ハ人ノ心ノ如シ、然ラバ先心性ヲ事トセン事アヤマリト云ベカラザル也、

答云、心ヲ本トスルノユヘアレバ、心ヲ以テ工夫ノ第一トセンコトマコトニサモアルベシ、是ヨリ諸儒ノ意見相ヲコルコト也、似タル處ニ必タガヒアルモノナレバ、似テ不_レ是コトヲ以テ是トスルヨリ、人々ノ惑ハ出來ル也、サレバ聖人ノ教ハ公論公義ニシテ私ナシト云ハコレ也、今天下ノ異端皆心性ノ味ヲ弄ス、心性ヲ味フル輩ニ日用四民國家ノ事ヲアタヘテ是ヲ行ナワシムベシ、更ニ會得スベカラズ、コレ心性ノ工夫マデニテ事ニイタラザレバ、不_レ可_レ成ノ證也、又世間ニナレ世事ヲ詳ニイタセル輩ニ、此ヲ尋コレヲナサシムレバ、大方ニ皆ト、ノフモノ也、コレ下學アルユヘ也、コ、ヲ以テ心ノ作略マデヲ事トスル輩ハ、コトゴトク相違多カルベシ、又人君ノタトヘノ事、コレ其心得タガヘリ、天下ヲ治平セシムルモ、一心ノ一體ヲツカフニ相同トハ可_レ言、一心ノ全體ヲササムルコト天下ヲ君ノヲサメ玉フニ同トハ不_レ可_レ言、尤處ニヨツテ一事ノタトヘハコレヲ比較スルコトアリトモ皆實營ニアラズ、ソノユヘハ一體ハ皆一ツモノ、品々

ニツカレテ、四支百骸トツノ名ヲカヘタル也、天下ハコトナルモノヲ合セテ二ツニイタセルモノ也、玆ヲ以テ似テ不似事アリト可知也、タトヘバ人君ノ法タリト云トモ、心計ヲ、サメ玉フテ天下治平スト云コトハ不可有之、故ニ堯舜ノ政モ十六相ヲアゲ、事ヲ人々ニ命ジテソレノ役事ヲタバサシメ、其道々ヲ明ニシテサテコソ天下平ナリト云ヘリ、虞書ニ堯舜ノ政ヲ論ジ、其德ヲ稱スルニ心性ヲ以テ言トスルコトナシ、唯學者自ノ意見ヲヤメテ、直ニ聖人ノ經書ニ出ル處ノ言行ヲ以テ本トスベキ也、

○問云、孔子孟子ノ説、同異并其ノ聖賢ノ量如何、答云、孔孟ノ量ハ末學ノ徒コレヲ論ゼンコト甚憚多シ、唯其書ヲ詳ニ講習セバ自ラ得ツベシ、今其大概ヲ云テ學者ノ工夫トス、凡ソ孟子ハ口ニ必仁義ヲ以テシ、性心養氣ヲ以テ教トス、夫子ノ所教ソノ必トスル處ナシ、孟子ハ自高テ以韓魏之家ニ如シ其自視然、故ニ王驩ガ徒太甚行迹アリ、夫子郷黨ノ一篇唯禮容ノ實ノミト可レ云、孟子ハ心ヲ不動ノ地ニ立ス、是伎倆アリト可レ謂、夫子ハ無レ可無レ不可、孟子ハ其言甚圭角アリ、臣視レ君如ニ寇讎、舜視レ棄ニ天下、猶棄ニ

敵屣ニ猶草芥ニナリトイヘル事多シ、夫子ノ言論ツイニ如レ此ニイタラズ、其門人皆シイテ論ヲ立ルコト萬章ガ徒ノ如シ、夫子ノ門ニアソブモノ如レ此ニ不レ至、其書ヲ讀トキハ驩虞如トシテ、人ノ志ヲヨロコバシムルニ至ハ孟子ノ書ニシテ、久シキトキハ人ヲシテ倦シム、論語ノ一經ノ如キヨム時ハ彌高ク、味レバ彌深シテ不レ覺、春ノ臺ニ游デ渾然タルニコトナラズ、サレバ孟子ハ大英才ノ人ナルガユヘニ、言行コトトク大英氣ヲ以テス、七篇ノ文章詳ニ味而後ニコレヲ可レ知也、夫子沒シテ後曾子子思聖學ノ大義ニ通ジ、孟子學ヲ子思ノ門ニウケテ孔子ヲ尊信シ楊墨ヲ距グ、其功甚重ナリト可レ謂、夫子ノ門ニ學ヲウクル輩多トイヘドモ、夫子ノ沒後ソノ統ヲ正シクイタス輩ナシ、荀子所謂第^{タメ}作ニ其冠ニ神ニ禪其辭ニ禹行而舜趁、是又子張氏之賤儒也、正ニ其衣冠ニ齊ニ其顔色ニ、嗛然而終日不レ言、是子夏氏賤儒也、儉^レ儒憚^レ事、無^レ廉耻^レ而者ニ飲食ニ必曰、君子固不^レ用力、是子游氏之賤儒也トイヘル、コレ門人ノ學流次第ニタガフユヘ也、然ルニ孟子ヒトリ聖學ノ統ヲ正スルコト、マコトニ萬世ノ所因知ト云ベシ、孟子ヨリ后戰國ニ荀子アツテ夫子

ヲバ尊信ストイヘドモ、學ノ道不レ正、漢ニ董子楊子
アツテ文學ニ名アリ、董子ハ漢ノ大儒ナリトイヘド

モ、其宗未得實、況ヤ楊雄ガ學ハ老莊ニ根シ、其行大
ニタガヘリ、其後隋ノ初文仲子自聖人ノ思ヲナシテ
道ヲ立ツ、唐ニ韓退之出テ聖學ノ統ヲツガントス、是
等諸子各ソノ志アリトイヘドモ、聖學ノ實ハ未レ明、
シカレドモ戰國ヨリ唐マデノ學術ハ心性ヲ弄スルニ
不レ及ガユヘニ、事物ニ通ジ世道ニクワシ、サレバシ
バラク學ヲ以テ國家ノ用トスルニタレリ、其後宋ニ
及デ周子ノ工夫ヲ貴、專性心ヲ以テ事トス、コレヨ
リ學者事物ニクラクシテ心學理學ヲ事トシ、聖學大
ニ乖戾ス、サレバ古ヲ以テ今ヲ考フルニ孔孟ノ時ハ
老莊ノ學未レ盛シテ唯日用ヲ事トス、秦漢ヨリ老莊盛
ニシテ儒者皆コレヲ根トス、故ニ學者自事物ヲハズ
クニ至レリ、唐ノ末ヨリ宋ノ初ニ及デ、佛學世ニ多
シテ俗儒又コレヲ根ザシトス、コレヨリ聖學日々ニ
ソムイテ學者心性ヲコト、スルニ至レルナリ、シカ
レバ孟子ノ後今ニ至ルマデ聖人ノ道ツイニ不レ明ト
云ベキ也、

○問云、程朱ノ說ヲ棄テ今直聖人ノ道ナリトサシ、

言コトヲソラクハ私ノ見ニシテ、自ノ心ヲ以テ示ノ
イ、ナラン歟、

答曰、古ノ聖人ハ上ニ可レ學ノ人ナシトイヘドモ、天
地ヲ則ト立人物ノ情事ノ變ニ通ジテ、而後ニ天下ニ
皇極ヲ建ル也、況ヤ今聖々相續シテ其道ヲ建玉フ、經
書相ノコリ大聖夫子ノ言行明ニシテ、孟子以テコレ
ヲ尊信註解スルコト正シ、コレヲ以テ聖人ヲ證トシ
天地ノ文明未レ落地ヲ以テ本トナシ、近クコレヲ身ニ
徴ミ遠クコレヲ人ニコ、ロミバ、千萬歲ト云トモ聖人
ノ道ニタガフコトアルベカラザル也、昔伊川以爲、明
道先生生乎千四百年之後、得ニ不傳之學於遺經、以興
起斯文爲ニ已任、孟子之後一人而已ト、案ズルニ只遺
經ニコレヲ得タリト云コト既ニ聖學ノ實ニアラズ、
聖人書ヲ考テ天地人物ヲ以テコレヲタバシ徴ザレ
バ必私見ニ落在ス、是程子之學タバシカラザルユヘ
ン也、況ヤ孟子以後泛々ノ學者ノ說ヲ師トシ、此ヲ以
テ道トセバ偏見ニ陷テ大道ヲ得ベカラズ、故ニ程朱
ノ說ヲ師トスルハ悉ク惑ノ本タルベシ、唯己ガ好ム
トコロヲヤメ、勝心ヲオイテ聖人ノ道ヲ窺ガフベシ、
○問云、自ノ心ヲ以テ自試ミバ、自證自悟タランカ、

答云、自證自悟ト云ハ心ヲ以テ心ヲサトリ、自我心ヲ證據トスルノ心ニシテ、是俗學異端ノ工夫心ヲ師トスルノイ、也、今云所ハ不然、伏羲近取諸身、遠取諸物、トノ玉フ處、中庸ノ本諸身、徵諸庶民、ト云ヘル也、サレバ心ヲ以テ心ヲ求ムルハイツマデモ我心ニテ心ヲタヅスルユヘニ、ツイニシルベカラズ、不レ可レ知ヲ以テ心ニ證據ヲ立ツ、コレ空虚ヲエリ水ニ印ヲナスニヒトシ、聖人ノ道ハタシカニコレヲ身ニ行テ其可否安苦ヲ考、性心ノ安ズル處ヲ知テ其ノシルシトス、然レドモ我身又氣質ノ厚薄ハカリガタキヲ以テ、此ヲ天下ノ人ニコ、ロミ、人々以テ可レ安可レ利ノシルシアルトキハ是乃道ナリ、シカリトイヘドモ猶萬物ニアワセ天地ニコ、ロミ、サテ三王鬼神マデニタバスガユヘニ、更ニタガフコトアラザル也、宋明ノ末儒多異端ノ說ニ惑フガユヘニ、其道トサス處モ只心性ノ間ヲ了覺シテ、異端ノ性心ヲ練ニダモ亦不レ及、コ、ヲ以テ事物ヲ詳ニツクサルノミニ非ズ、又性心ノ作用ヲモ不レ詳、コノユヘニコニ周公孔子ヲ以テ證、性心ノ理ヲ飽マデニスト云ドモ、實行更ニワキマヘナシ、是程朱ノ學ヲ信ズレドモ程朱

ノ道ヲモ亦不レ知也、況ヤ周孔ノ大道イカンシテカ可レ得ヤ、古人云、蓋至ニ于今士、非堯舜文王周孔不レ談、非論語中庸大學不レ觀、言必稱周程張朱、學必曰致知格物、此自三代而後所レ未レ有可レ謂盛也、然豪傑之士不レ出、禮義之俗不レ成、士風日陋、於一日、人才歲衰、於一歲、而學校之所講、逢掖之所談、幾有不レ若屠兒之禮佛娼家之讀禮者、是可レ嘆也トイヘリ、今案ズルニ學者ノ失、是格物致知ヲステ、性心ノ自證自悟ヲコト、スルユヘニ、事物ニアウトキ更ニコレヲワキマヘズ、儒ノ教ハ事物ヲ以テ本トス、治國平天下ノ用コレ也、異端ハ恬淡無事ヲ以テ教トス、故ニ儒ノ任ハ事物ニアツテ今ノ儒學其志處恬淡ヲ要トス、此ヲ以テ末學ノ輩此ソシリヲ免レズ、其流如レ此ハ其源ニタガフ處アルガユヘト可レ知也、宋史陳同父傳、今世之儒士自以爲得正心誠意之學者、皆風痺而不レ知痛癢之人也、舉一世安ニ於君父之讎、而方低頭拱手、以談性命、不レ知何者謂之性命乎、今世之才臣自以爲得富國彊兵之術者、皆狂惑以肆叫呼之人也、不レ以暇時講究立國之本末、而方揚眉伸氣、以論富彊、不レ知何者謂之富

疆ト、コレ陳亮南宋孝宗朝ニ在テ、朱子呂東萊ヲサ
シテイヘル也、サレバトテ陳亮亦聖學ヲ會セシニハ
アラズ、唯學ノ空虛ニ驚テ事物ニウツラザルヲ云ヘ
ル也、當時ノ學者周孔ノ正經ヲサシライテ、宋明ノ儒
ノ言ヲ宗トスル者皆然リ、コレ又舍禘而宗兄、買
櫃而棄珠トイヘルタトヘニコトナラズ、サレバ國家
ノ大經大倫ニ不レ通トキハ、其言論玉ヲエリ、其一行
鬼神ヲ感ゼシムト云トモ、只上焉者下焉者ノ間ニ
シテ、聖人ノ教ニ非ルガ故ニ、我ハ信ズルニ不レ足也、
○問云、本朝ハ往古ヨリ神道ヲ以テ貴トス、是大異ニ
聖教ニ乎、

答云、本朝往古ノ道ハ天子コレヲ以テ身ヲ修人ヲ治、
人臣コレヲ以テ君ヲ輔政レ國、乃神代ノ遺勅マサシク
天照太神至誠ノ神道也、當時ノ神道トサス處ハ皆事
レ神ノ道ニシテ神職ノ所レ知也、上古ハ神職ヲ司ル
人乃朝廷ノ政ヲシルガ故ニ神職ト云朝政ト云二ツ
アラズ、シカレバ神人一事ニシテ更ニソキマヘナ
シ、コノユヘニ神ニツカフルコトヲ得ル人ハ乃天
地ノ理ニ通ゼザレバ不レ合、ユヘニ神職ヲ甚重ジテ大
臣コレヲカ子タリ、コレ知禘之說一者之於天下一也

其如レ示ニ諸斯ニ乎指ニ其掌トハコノ心ナルベシ、禘ハ
乃祭レ天ノ名天下ノ大祭也、易ニ聖人以ニ神道ニ設レ教
而天下服矣ト云ヘルモ是也、中古ヨリ以前朝政ト神
道職ト二ツニワカレテ、既ニ天照太神伊勢ニ鎮座以
後ハ神職家相定リ、神事祭禮ノ役義ヲ知ルノミナレ
バ、コノ家流乃事神ノ道ヲシルルニシテ、マコトノ
神道トサス處ハ代々ノ天子三公ノ家ニ相傳ハレリト
可レ知也、往古ノ神勅ト云ヘルコトアリ、天照太神高
皇產靈尊、崇養皇孫、欲ニ降以爲ニ豐葦原中國主、即勅
曰、吾兒視ニ此寶鏡、當レ猶レ視レ吾、可ニ與同レ床共レ殿以
爲ニ齋鏡ト、コレマコトニ萬代寶祚ヲフマシメ玉フ、
帝王受授傳法唯一ノ神道ナルベシ、サレバ寶鏡ヲ與
ヘ玉フ時ノ當レ猶レ視レ吾ノ四字ハ、孝子順孫不レ改ニ父
祖之道ノマコトシテ、乃大學ノ教在レ明ニ明德ニ四字、
堯舜禹相傳玉フ、允執ニ厥中ニ四字ニコトナルベカラ
ズ、コレ聖人ノ大教ナリ、コ、ヲ以テ案ニ本朝又東方
ノ君子國ニシテ異國ノ聖々相續ニコトナルコトアラ
ズ、順德院ノ御記ニモ禁中ノ作法先ニ神事ニ後ニ他事、
旦暮敬レ神之歡慮無ニ懈怠、白地以ニ神宮并内侍所
方、不レ爲ニ御跡ト出タリ、諸宮ヲ立ラル、ニ以ニ神祇

宮爲_レ上コト、皆宗廟社稷ヲ重ジ玉フユヘ也、サレバ都宮制右ニ社稷_ニ左ニ宗廟、君子將_レ營_ニ宮室、宗廟爲_レ先、凡家造祭器爲_レ先ト云ヘルニ同ジ、周公制_ニ官春官ヲ立テ大宗伯ニ禮ヲ司シム、禮五ツアツテ吉禮ヲ以テ先トス、吉禮ハ事ニ邦國之鬼神示_ニトハ此心ナレバ、本朝ノ制異朝大聖ノ立玉フ處ニ異ナラズ、今神道ヲトリチガヘテ尤怪異甚深ノサタヲナスコトハマコトノ神道ニ非ズ、サレバ忌部廣成ガ古語拾遺、卜部兼延ガ名法要集等ニ家々傳來相承ライヘリ、皆是奉_レ仕_ニ主神事_ニ之宗源也ト云ヘル、神書ノ言ニヨツテ唯一宗源ノ神道ト云ヘルトイヘドモ、異說多シテ一決シガタシ、只事_ニ神ノワザヲシルト遺勅ノ神道ト此ニツニキワマレリ、トモニ聖人ノ道ヲ以セザレバ難_ニ信用_ニ也、昔嘗問_ニ神道_ニ人アリ、是ニ與ヘシ處ノ書ヲココニ記ス、可_ニ并考_ニ也、

按神書曰、于_レ時天照太神入_ニ于天石竈_ニ之時、高皇產靈神會_ニ八十萬神_ニ於天八湍河原、議_ニ奉_ニ謝_ニ之方_ニ令_ニ下_ニ太玉_ニ命_ニ齊部宿禰祖也_ニ捧_ニ持_ニ和幣_ニ、稱讚_ニ亦令_ニ天兒屋命相副祈禱_ニ、于_レ時天照太神聊開_レ戸而窺_レ之、爰令_ニ手力雄神引_ニ啓其扉_ニ、遷_ニ座新殿_ニ則天兒屋命太玉命、以_ニ日御綱_ニ、廻_ニ

懸其殿、旣而天照太神、高皇產靈尊、崇_ニ養皇孫_ニ、欲_ニ降爲_ニ神_ニ葦原中國主_ニ、卽勅曰、吾兒視_ニ此寶鏡_ニ、當_ニ猶_ニ視_ニ吾同_ニ床共_ニ殿、以爲_ニ齋鏡_ニ、仍以_ニ天兒屋命太玉命_ニ天鈿女命_ニ、使_ニ配侍_ニ焉、因又勅曰、吾則起_ニ樹天津神籬_ニ及天津磐境_ニ、當_ニ爲_ニ吾孫_ニ奉_ニ齋_ニ矣、汝天兒屋命太玉命二神宜_ニ持_ニ天津神籬_ニ、神降_ニ於葦原中國_ニ、亦爲_ニ示_ニ吾孫_ニ奉_ニ齋_ニ焉、惟爾二神共侍_ニ殿內_ニ、能爲_ニ防護_ニ、凡神書非_ニ一流_ニ而大中臣忌部卜部三姓之所_ニ傳_ニ、大同而小異、其以_ニ天兒屋命太玉命_ニ爲_ニ供_ニ奉神職_ニ也、竊按天孫天降時二神爲_ニ左右之扶翼_ニ、是乃同_ニ後世左右相_ニ、故神武東征之後天下一統、二神之孫天種子命天富命、又爲_ニ左右_ニ、此時皇居神宮無_ニ差別_ニ、是如_ニ往古神勅_ニ、而天種子命專主_ニ祭祀事_ニ、是乃朝政之儀也、第十代崇神天皇、畏_ニ神威_ニ鑄_ニ改鏡劍_ニ、奉_ニ安_ニ置神代之靈器_ニ於別所_ニ、是皇居神宮相分之初也、自_ニ是神職朝政相分_ニ、垂仁朝、天照太神鎮_ニ坐伊勢國度會郡五十河上_ニ之時、命_ニ中臣祖大鹿島命_ニ爲_ニ祭主_ニ、其後代々爲_ニ祭主_ニ、景行朝始朝廷置_ニ神祇官_ニ、與_ニ伊勢神官祭主_ニ各別而其職掌爲_ニ祭主_ニ、伊勢祭主大中臣忌部卜部三姓任_ニ之、而帶_ニ神祇大副_ニ、又按上古之神道者、乃國家之朝政、故

執朝政之大臣乃帶之、皇居神宮相異之後、既立神祇官祭主、則神祇官祭主者主神事之職掌、而非知朝政、故彼流所傳、是神事祭禮祝詞祓等之祈禱奉幣之義也、又按上古之神道者、順天照太神之神勅、安置御靈八咫鏡及草薙劍於大殿、而修仁德、比之玉之溫潤含蓄、明致其智、比諸鏡之照奸、醜由義權中比諸劍之制斷宜果、故仁以守之、德以修之、智以致之、義以由之、則天下之大小精粗無不通、是乃上古之神道、而乃聖人之道、易所謂觀天之神道、而四時不忒、聖人以神道設教、而天下服矣也、愚謂易所謂神道者、天地之妙陰陽不測之神道也、聖人觀之法天地、以立此教、是於觀卦所以言觀神道也、又按夫如祭祀職掌、神道之一事而以不可傳庸人民間之道也、若傳諸於民間、則狎而易之、故人々必事奇怪、是索陰行怪、而聖人所不言也、凡正道廢而人不知之、故民間必設淫祠、以鳥獸草木之精爲神、以鬼魅罔兩爲神、故鰐魚得勢、蛇已得力、祈之則驗、汚之則禍、或登高山之上、或入澗壑之深、以崇鬼魅之精、爲土地之神、四時時月相會以祭之、人民如此則鬼魅得力、乘其虛是乃上無道揆、

下無法守、家々殊俗、邪說暴行之相承也、

○問云、本朝ニハ儒釋イヅレノ時ニヲコレルヤ、

答云、前ニ出ルゴトク本朝往古神勅是乃聖人繼天而建極之道也、儒師ハ聖人ノ道ヲ教ル人ノ名周禮ニ出ル處ナリ、シカレバ儒ト云名ハアラザレドモ、本朝ノ往古ヨリ天下ヲ平ニシ國ヲ治メ來ルハ皆是儒ノ教也、道釋ノ教ハ治國平天下ヲ以テ任トスルニ非ズ、サレバ種子命神ヲ祭ノ禮ヲ司テ、神武帝ヲ輔佐セシメシハ孝悌ノ道ヲ教ノイ、也、道臣命忠勇ヲ以功ヲアラハスハ武德ヲ明ニスルノイ、也、其後孝靈ノ御宇ニ至テ徐福三墳五典ノ書ヲモツテ本朝ニ至リ、垂仁ノ時後漢ノ光武善隣ノ交ヲナセシトカヤ、應神ノ朝ニ至テ王子菟道稚郎子師阿直岐トシテ文ノ學ビ玉フ、王仁トイヘル博士ヲス、メ奉ル、王子コレヲ召シテ諸ノ典籍ヲ習玉ヘリト也、阿直岐王仁トモニ百濟ノ人也、此前書籍ノサタアリトイヘドモ、タシカニ日本紀ニ出セル處ハコレゾ經籍流布ノ初也、此後入鹿臣鞍作ガ惡逆ニヨツテ本朝ノ文明スデニ晦昧ス、コニ中大兄并大職官鎌子連南淵先生ニ從テ、周公孔子ノ道ヲ學デ再朝廷ノ禮ヲタバシ、鞍作ガ難ヲ除セ

リ、南淵先生トイヘルハ南淵漢人諸安ガ事也、コレハ推古ノ帝唐國ニツカワシテ、周公孔子ノ道ヲマナバシメ玉フ漢人ナリトゾキコエシ、コレヨリ官位律令ノ制正クンテ文明ノ治サカンナリキ、近江ノ朝ニ内大臣藤原鎌子春秋五十有六ニシテ薨セラレテ後、文武大寶元年ニ鎌子ノ子淡海公不比等、奉_レ勅テ諸ノ博士ヲアツメ律令ヲ撰セラル、以_三淨御原朝廷_一準正トシ、唐ノ開元ノ禮ニシタガヘリ、而シテ諸國ニ明法博士ヲツカワシ新令ヲ講ジテ天下ノ俗ヲ一ツニス、ソノ後慶雲ニ粟田真人入唐シテ本朝ヲ君子國ト稱セラレ、天平ニ下道眞備入唐シテ唐禮百卅卷ヲ得、故ニ大學ノ設釋奠ノ式、進士及弟ノ法アダカモ中華ニコトナラズ、故ニ舍人眞道ノ博識、繼繩良香之記問、江師之博聞、道長之麗藻ヨ、更ニ不_レ乏、是我道ノ相傳フル所以也、コ、ニ人皇三十代欽明ノ朝、十三年冬十月百濟ノ聖明王使者ヲ奉リ、釋迦佛ノ金銅ノ像并幡蓋_{キヌカサ}、經論ヲワタシテ是法於_三諸法中_一、最爲_ニ殊勝_一、周公孔子尙不_レ能知_三此法_一ト云ヘル表ヲ奉レリ、コ、ニヲイテ諸卿詮義アツテ此法可_レ信ヤ否ヤノコトアリシニ、時ノ大臣蘇我稻目コレヲ執奏シテ禮拜センコトヲ申ス、物

部ノ大連尾與中臣ノ連鎌子、同ジク奏シケルハ、我國神勅ニヨツテ天地社稷ヲ崇敬スルヲ以テ爲_レ事、今異國ノ神ハ信ズルニタラズト、固ク奏聞申スニ付、ツイニ佛體ヲ王宮ニ不_レ奉_レ入、只稻目宿禰ガ小墾田ノ家ニ安置リ向原ノ家ヲ寺トシテケル、ソノ年國ニ疫病サカンニ興テ、家々ニ病人多ク療治ニカ、ワラザリケル、サレバ尾與鎌子執奏シケルハ、サキ臣ガ奏聞ヲモチキ玉ハザルニ因テ、天地ノ神靈コレヲトガメ此不祥ノ侍ルナリトテ、ツカサ_レニ命ジテ、佛體ヲ難波堀江ニステ向原ノ伽藍ヲヤキステケリ、イカバイタセルニヤ、此時天ニ無_ニ風雲_一禁中ニ火災アリケレバ、是併佛體ノ咎メニコソント人々思フトコロニ、同十四年五月河内國ヨリ海中ニ梵音_{ノリノナド}ノアツテ、毎夜テリカバヤクコトラビタバシトアリケレバ、佛像ノ神光ナルベシトテ、乃佛像ヲツクラシメ玉フ、コレヨリ佛法ノサタ世ニ廣リケルト云ドモ、未ダ人々此ヲ不_レ知、卅一代敏達ノ朝十三年ニ百濟ノ鹿深臣佐伯連各佛像ヲ奉ル、蘇我馬子コレヲ信ジテ、ツイニ最愛ノ女島御前トイヘルヲ、十一歳ノトキ出家セシメ、コレヲ善信尼ト名付ケ、其コロ播磨國ニ高麗意便トイヘ

ル佛者アリケルヲ、ノリノ師トシテ佛法ヲ歸依シ、馬子ガ石川ノ家ニ佛殿ヲ立テ大齋會ヲ設ケル時ノ大臣如レ此ノ故ニ、天下ノ男女コト々ク佛教ヲ信ジヌ、是佛法天下ニ流布ノ初也、同十四年天下又大ニ疫癘アツテ馬子モ大病ニヲカサレヌ、又時ノト者コレ乃天神地祇ノタ、リナリト云ケレバ、守屋大連中臣勝海ト心ヲアワセ、奏聞シテ佛像佛殿コト々クヤキテ難波堀江ニステケレバ、ソノ日無雲ニ風雨甚シ、コトニ天下ニ瘡ヲヤムモノ無ニ際限、是燒ニ佛像ノ罪ナリトイヘリ、馬子ノ宿禰病氣未レ快ニ因テ、シキリニ佛法再興ノ奏聞不レ止、故ニ勅許アツテ馬子ノ宿禰一人佛法ヲ執行アリ、ソノ八月天皇崩御マシ々ケレハ、彌佛法ノ咎メニモヤト沙汰シケレバ、佛法ヲ誹謗スル輩忽ニ災害アルニナレリ、茲ニ用明ノ王子聖德太子生質不レ凡、聰明類少カリシガ、專佛法ヲ信用アサカラズ、コ、ヲ以テ佛者ノ方人多ナリケレバ、崇峻ノ朝ニ及デ蘇我馬子并太子群臣相ハカツテ佛法ヲサミスル輩、物部ノ守屋大連ヲ滅セリ、此亂屬ニ無事ノ後攝州ニ天王寺ヲ立、所々ニ本願ノ寺ヲ建立シ、佛法甚盛ニシテ蘇我馬子威ヲ四海ニフルフ、崇峻ノ帝コレヲ

ニクンデ馬子ヲ害シ玉ハントノ思召アリケルヲ、大臣知テヤガテ帝ヲ弑シ奉テ、欽明帝ノ皇女ヲ天子ニソナヘ奉ル、是ヲ推古天皇ト申シ奉ル、是レ併ラ馬子釋教ヲ信ジテ大綱ヲ不レ知ガユヘニ、無双ノ大逆ヲ企君ヲ弑奉ルコト、本佛法執行ノスグル處ヨリ起レリ、推古ハ女帝ニシテ聖德太子ノ伯母ニテワタラセ玉ヘバ、乃天下ノ政道ヲ攝シメ玉ヒ、皇太子ノ位ニソナヘ玉フ、本ヨリ佛法歸依アサカラズ、太子ノ聖德アメガ下ニ并ブベキニ非レバ天下大ニ治レリ、推古帝十二年太子憲法十七ヶ條ヲ作り玉フテ天下ノ式目タラシム、其言コト々ク聖經ヲ以テ本トシ玉ヘリ、是ヨリ朝廷ノ政コト々ク佛教ヲ重ズ、然レドモ其行フ處ハ皆往古聖人ノ制法也、聖德太子美質聰明ノ君子ナレバ、此時若聖經ニクワシキ輩アラバ、忽ニ天下聖人ノ道ニ歸スベシト云ドモ、時ニ聖經ノ大義世ニ不明ナレバ、太子異教ヲ崇敬アリトミヘタリ、太子馬子ガ謀ニマカセテ崇峻帝ヲ殺シマイラセ玉フコト、尤大義ノアヤマリアレバ、史臣ニ董狐アラバ弑帝ノ名遁レ玉フベカラズ、是併異教ニ因テ大綱ヲ不レ正ガユヘ也、シカレドモ太子天下ノ政ヲ輔ケ玉フテ、憲法ヲ

立テ禮ヲ以テ天下治民ノ本トシ玉イ、四海悉風化ニ順テケレバ、推古二十九年太子薨御マシ、ケル、萬民如亡ニ父母、耕夫止レ耕、春女不レ杵、日月失レ耀、天地既崩ト、國史ニコレヲ記ストキハ、其大功業萬民ニ蒙シメ玉フコト、本朝中古ノ名太子ト可レ云也、カクテ文武ノ朝ニ道照入唐シ、聖武帝ノ時行基大ニ道場ヲマフケ、桓武帝ニ及デ空海最澄ノ二大師、顯密ノ權化ヲアラワシ、コレヨリ釋流彌盛ニシテ、コレヲ以テ王化ノ佑助タラシムル主將尤多シ、

○問云、老釋ノ道ニ秀タリトモ、王化ノ助力トハ不レ可レ成コトニシテ、太子ヲ以テ稱美シ玉ヒ、王化ノ佑助アリト云ヘルハ如何、

答云、主將ニ其明知アツテ、國家ノ政道ニ志深トキハ、技藝疎術ヲ考ヘ玉フテモ、治道ノ佑助タラズト云コトナシ、古人筆畫ヲマナシデ或ハ劔ヲツカフヲ見テ筆ノ妙ヲ得、或ハ鷺ノ體ヲ考ヘテ以テ其妙ヲ得、コレ張旭・王羲之皆然リ、劔・鷺ニ筆法ノ妙アルベキニ非トイヘドモ、其道ニ志深シテ知明ナレバ、見聞覺知スル處皆ソノ術ヲ祐ク、況ヤ釋氏李老君トモニ一道ノ祖トシテ、一家ノ法ヲ建立シテ其道ヲ要トシ、コレヲ

以テ治世安民ノ極ト謂傳タルナレバ、其道ニ志深ンバ王化ヲ佑ケンコト非ニ不審也、コレ大聖ノ道ニアラザルユヘニ、大義大綱タガイ五倫不レ明トイヘドモ、主將ノ知明ナルハ其内ノヨカラシ所ヲ執テコレヲ行玉フベキガユヘニ、無知妄作ノ輩トチガイテ、王化宜シカルベシ、サレバ晏子伯玉トモニ夫子ノ道ト志ヲ一ツニセズト云ヘドモ、夫子皆コレヲ賢大夫ト稱シ玉フテ、管仲ニハ仁ヲユルシ、晏子久而敬ノ怠ザルコトヲノ玉ヘリ、聖人ノ量太廣シト可レ云也、

○問云、蘇我馬子崇峻帝ヲ弑セシトキ、聖德太子コレト密談アラシニハ、太子ノ不義不レ可レ言、シカラバ大功アリト云トモ、コノ不義ヲ掩ホドノ大功ハアルベカラザルコトニヤ、

答云、弑レ君ノ不義マコトニ天地ニモ不レ可レ入、馬子弑ニ崇峻帝一時、太子此ニアヅカリ玉フコト、日本紀ニ不レ出、シカレバ推シテ云ヘルノ言也、太子コノ謀ヲ知玉フヤ否、コノ處不レ可レ知也、不レ知處ヲ推テ太子ノ善ヲ掩ハ、君子ノイタス處ニ非ズ、皆齊晏子衛伯玉トモニ弑レ君ノ謀ヲ知テ、ソノ賊ヲ不レ討トイヘドモ、夫子此二字ヲ賢者トス、管仲其君ヲコロス所ノ桓公

ニツカヘテ仁ヲユルシ玉フ、春秋ハ亂臣賊子ヲ懲シ
玉フ書ニシテ、楚穆王弑_ニ其君_{父靈王也}而立、春秋コレヲ
惡デ、書楚世子商臣弑_ニ其君_{穀王也}、玉フ、シカレドモ後
ニ過ヲ悔善ニ遷テ中國ヲ慕ケレバ、春秋書_ニ楚子使_ニ
椒來聘、其臣書_レ名、稱_レ使書_ニ其爵_ハ、春秋コレヲ稱美
スルノユヘン也、コ、ヲ以テ案ニ太子ノ言行正シテ、
天下ノ化大ニ行ル、ニ至テ、憲法立禮義行、ソノ薨ズ
ルニ及デ、天下如_レ亡_ニ父母_トキハ、其善非_レ不_ニ稱美_一
也、佛法釋教ハ異教ナリト云ヘドモ、太子ノ行玉フ憲
法ハ、コレ乃聖人ノ教ニ近シト可_レ云也、其後歷代ノ
賢臣、又コレニ從テ王化ヲツトメ、武家ニ及デ平泰時
時賴專三寶ニ歸依シテ、其政道ノ祐助トスルコト舊
紀ニ出タリ、如_レ此諸賢異教ヲ貴ユヘニ非ズトセン
ヤ、是皆自ノ知明ナルガユヘニ、彼ヲ以テコノ助ト致
セルト可_レ知也、唯其器小シテ天下ノ化不_レ可_レ比_ニ聖
教_一ハ、是主將ノ不幸也、

謫居童問中末終

謫居童問下本

治平

○問云、聖學治國平天下ヲ以テ要トスルコトハ如何、
 答云、聖人ノ道天下ノ人民ヲシテ其所ヲ安ゼシムル
 ニアリ、コレ乃天地至誠ノ實ニシテ聖人私ヲ立テシ
 ガ云ニ非ズ、一人一己ノ安ジ樂シマン事ハ君子ノ是
 トスル處ニ非ズ、唯天下ノ萬民ヲシテ、各其安ズル處
 ニ安ゼシムルヲ以テ大道ト云也、子貢、博ク施シ濟
 レ衆ヲ以テ仁ト可レ謂ヤト問ケレバ、夫子曰、何事ニ於
 仁、必也聖乎、堯舜其猶病レ諸トラシヘ玉ヘリ、大學ノ
 教ハ明德ヲ天下ニ明ニスルヲ以テ本トシ、以テ天下
 平ニ極功トス、仁ハ天下歸レ仁ヲ以テ要トス、サレバ鳥
 獸ト、モニ群ヲ同シ、其身潔シテ大倫ヲ亂リナン事
 ハ、君子達人ノ好ム處ニアラズ、隱士逸民ノ事トスル
 處也、不幸ニシテ時ニ遇コトナク、世ニ不レ用ト云ド
 モ猶憂レ國輔レ世ノ志ハ智襟ニ忘ルベカラズ、夫子衰
 周ニ出玉フテ不レ暇ニ於暖席コト可ニ并案ニ也、其身ニ

大德太知アリト云ドモ、不レ得ニ其位ニトキハ禮樂ヲ制
 スル事不レ能、禮樂ヲ制セザレバ萬民ノ規模タルコト
 ナシ、萬民ヲ救テ其道ニヲラシメザレバ、其仁ヲ仁ト
 スルニアラズ、故ニ聖人ノ大寶ヲ曰レ位、大德ノ者ハ必
 天命ヲ受トモイヘリ、末學ノ俗儒コノワカチヲ不
 レ知、閑居獨處シテ性心ヲ味山水ヲ樂デ遣情、コレヲ
 以テ遯世不レ慍ノイ、也トス、易ニ所謂遯世无レ悶、
 不レ見レ是而无レ悶、樂天知命ハ、潜龍ノ時ニアタツテ
 動トキハ咎アルベキヲ知レバ也、乾坤以レ利天下、コ
 レ大哉至哉ト賛シ玉フユヘナリ、飛龍在レ天ヲ大人ト
 シ、柔得ニ尊位ニラ大有トシ、富有レ之謂ニ大業、皆ソノ
 德ノヒロク下ニ通ズルコトヲ可レ得ケレバナリ、小人
 愉ニ自閑ニハ皆獨樂コトヲ知テ、ソノ道ノ衆ニ可レ施ア
 ラザルガユヘ也ト可レ知也、古士生ル、トキハ必ズ桑
 弧蓬矢ヲ以テ天地四方ヲ射ルコト、コレ士ハ志在ニ四
 方ニコトヲ不レ可レ忘ノ戒ナリ、近世人ノ氣象自然ニ沈
 淪シテ豪傑ノ機ヲトリヒシギ、唯靜坐默識ヲ事トシ、
 ツミナクテ配所ノ月ヲミル事ヲ思フ、サレバ學者ニ
 豪傑英雄ノ士不レ出、風俗日ニ衰テ國家輔佐ノ器ニア
 タルベキ輩、中華ニモスクナシ、是學ヲ以テ志ヲ養、

オヲ厚クスルコト不能ガユヘト可レ謂也、コノユヘ
ニ今ノ學者ハ皆聖人ノ徒ニアラズ、口ニ聖經ヲ唱ト
イヘドモ、心ニ隱逸ヲ以テ本トスルコト、皆宋明ノ儒
性心ヲ弄スルノ誤ヨリヲコレリ、故ニ戰國秦漢三國
ニハ、人ニ豪傑ノ大丈夫多シテ、叔向子產晏子伯
玉范蠡魯仲連孔明ガ類世ニ不レ乏、晋ニ老莊ノ學ヲ
翫デ後人品一等ヲクダリ、陶潛謝ヘカ輩トモニ隱逸
ヲ事トス、シカレドモ猶唐ニ文學盛ニシテ、魏徵房
玄齡杜如晦ガ類、甚世務ニ大業ヲツクス、宋以後理學
心學ノ説出テ、人品又一等ヲクレタリ、唯洒落脫然ヲ
事トス、コレヨリ豪傑ノ士不レ出、日々月々ニ風俗ヲ
トロヘテ人々小成ニ安ンズ、故ニ宋朝ノ金ニクルシ
メラル、ヲ救コトヲ不レ得、學者皆手ヲツクテ離ニ
ツカヘ、ツイニ元ノタメニ滅サル、コト、併上ニ學ノ
根ザシ不レ正、下ニ風俗頹廢スルヲ以テ可レ知ナリ、
○問云、國郡ヲモタズシテ國郡ノ政ヲ云コトハ、ラン
ラクハ其實ニ不レ可レ當也、

答云、國郡ヲ領スル人自國郡ヲメグリテ政ヲナスニ
非ズ、人ヲエランデ其政ヲマカス、政ヲナスノ人國郡
ヲモツト云ニハ非ズ、今家ヲ造作スルニ家主コレヲ

立ルニ非ズ、上手ノ大匠ヲ得テコレニ命ズルニ同ジ、
コ、ヲ以云トキハ國郡ヲ領スルハ、ソノ人ノ天命コ
レニアツマルユヘニシテ、我ニ天命アリトテ道ヲシ
ラズ、其準ヲ不レ尋シテ國家ヲ治ムルハ我家ナリト云
テ、自細工ニ造作ヲナスニコトナラズ、シカラバ大小
ノ材木コトヘク其用ヲ不レ得、曲直皆タガツテ勞ス
ルトモ功不レ可有也、孟子見ニ齊宣王、曰、爲ニ巨室、則
必使ニ工師求ニ大木、工師得ニ大木、則王喜、以爲ニ能勝
其任、也、匠人斲而小レ之、則王怒、以爲ニ不レ勝ニ其任
矣、夫人幼而學レ之、壯而欲レ行レ之、王曰、姑舍ニ女所
レ學而從ニ我則何如、今有ニ璞ニ玉於レ此、雖ニ萬鎰、必使
玉人彫ニ琢之、至ニ於治ニ國家、則曰、姑舍ニ女所レ學而從
ニ我則、何以異ニ於教ニ玉人彫ニ琢玉哉、又曰、昔楊朱見ニ
梁惠王、言テ治ニ天下、如也運ニ諸掌、王曰、先生有ニ妻
一妾、而不レ能レ治、三畝之園而不レ能レ耘、言テ治ニ天下、
何也、曰、君見ニ夫牧レ羊者乎、百羊爲レ群、使ニ五尺童子
荷レ箠而隨レ之、欲レ東而東、欲レ西而西、使ニ堯率ニ一羊、
舜荷レ箠而隨レ之、則不レ能レ前也ト、列子ニ出タリ、或所ノ
亡將弓ヲヨク射ル者ニ弓ノ兵ヲアツケ、劔ヲヨクツ
カフ者ニ士ヲアツケ、鐵炮ヲヨクウツモノニ鐵炮ノ

兵ヲアヅケ、ル、是ニ因テ國家ノ人ノエラビ不レ正シテ、其家滅亡スト云ヘリ、武田ノ家ニ南部下野ト云ル侍大將アリ、此者山本勘介ガ兵法ヲヲボヘタルトアツテ、武田ノ家ニ崇敬イタサル、ヲソ子ミテイ、ケルハ、山本勘介小身ナル者ノ城取陣所備立、マコトシカラザルトアルコトヲツチニ云ヘリ、此事信玄キ、玉フテ南部コト作法ヲ不レ知褒貶也、周ノ文王崇敬アリシ太公望コトハ國取城持ノサタナシ、甚アヤマリナル沙汰ナリトテ、是ヲ第一ノ咎ニイタサレ、改易アリシコト彼家ノ書ニ顯然タリ、歌人ハミザレドモ名所ヲシリ數寄ノ人ハ分ニ不レ應、器物ヲモ用意スルコト古ヘヨリシカリ、

○問云、此說ニヨルトキハ隱逸ノ輩ハ皆非ニシテ、利世濟民ヲ事トスルニ志ヲ專トセン、然ラバ末世ノ風俗コトハク相違ヲ、イトハ、人皆利ニツキ勢ニ趣クニ至ランカ、

答云、大利ヲ云トキハ大害必相ノゾムモノナリ、故ニ利レ世安レ民ヲ要ト云トキハ、讒諂面諛ノモノ巧言令色シテ權門ニハシリ、利勢ヲ事トスルニ似タルノ失ナキニ非トイヘドモ、學ノ本源立ツ處不レ正トキハ、

其流大ニタガフヲ以テ、唯本ヲ固クシ根ヲ深クスルコトヲ論ズル也、サレバ隱逸ヲコト、スル人ヲ貴トキハ、人皆隱逸ヲ以テ利トス、終南ヲ仕官ノ捷徑トシ、北山移ヲ山庭ニ勸シテ曉ノ猿ヲ驚カシ、夜ノ鶴ヲシテ怨ミシメ、皇甫希之ヲ充隱タラシメシ爲師アリ、儉ヲ事トシ靜默ヲ貴トキハ、ナレタル衣裳ヲ著シ、ヤブレタル車ニノツテ沈默靜座ヲイタシテ、勢利ノ媒トイタス輩又多シ、利レ世安レ民ヲ貴トキハ鐘鳴漏盡テ夜行ノ輩アリ、イヅレモ其失ナキニ非トイヘドモ、人臣君ニツカヘテ其材ヲフルイ、其能ヲアラワシ、愛レ君憂レ世ハ士ノ實ナレバ過ト云ドモ君子ノアヤマチ也、速ニ退テ閑居獨樂ヲ事トセンコトハ、世ノソシリヲ知ツテ身ヲ安ズルノコトワリナレバ、愛レ身慕レ名ニ陷ルベキ也、

○問云、然ラバ世ニ節ヲ立義ヲ守ル輩アラズシテ、只出世ヲ事トシ忠純ノ臣少カラシ乎、

答云、ソレ學ハヨク是非ヲワキマフルニアリ、故ニ可レ出ニ出、處スベキニ處ス、出處更ニ必トスルコトナシ、是非ノ辨不レ明ヲ以テ出處トモニ不レ得ニ其道ニ也、昔管仲公子糾ガ難ニ不レ死シテツイニ桓公ヲタスケ、

魏徵王珪建成ガ難ニ不_レ死シテ貞觀ノ治ヲ致ス、若
不_レ事二君ノ一事ヲ以テ云バ、是純臣ニ非ズシテ功
ヲ立、治ヲ大ニスルヨリ出トキハ仁ヲ可_レ與ノコトワ
リアリ、三子若カノ難ニ死ナバ苟息孔父執牧ガ君ノ
難死セシニ不_レ異、マコトニ溝瀆ニクビレテ、爲_レ諒ノ
セマヌカルベカラズ、伊尹五タビ就_レ湯五タビ桀ニ
就モ純臣ニ非ト可_レ謂乎、コ、ヲ以テ案ズルニ人ノ功
業德達ハ天下ヲ治平セシムルニ不_レ過也、天下ヲ治平
セシメテ其君ヲ堯舜ニイタシ、人々安_ニ其處ニイタ
ラシメシ輩ハ、純臣義士ノ一事論ズルニ不_レ足シテ、
忠純モ亦可在_ニ其中、サレバ湯ハ放桀、武王ハ伐紂ト
イヘドモ、タレカコレニ議擬ヲ可_レ入乎、若其治聖人
ノ道ヲ不_レ究、其業齊桓貞觀ノ功ニモ不_レ及、又忠臣純
士ノ志ヲ不_レ事ノ輩ハ、誠ニ天下ノ罪人ト云ベシ、昔
宋ノ王荊公世ヲ憂ヘ時ヲ救ノ志ヲカシ、王介ト同志
ノ友ニシテ、同ジク天子ノ召ニモ不_レ就ケルガ、後ニ
神宗翰林學士ヲ可_レ賜ノ旨アツテ、忽ニ出テ任ユ、王
介乃一聯ヲ寄テ諷シケル、草蘆三顧動_ニ春蟄、蕙帳一
空生_ニ夜寒、荊公コ_ニヲ見テ大ニ笑テケル、後ニ丈夫
出處非_レ無_レ意、猿鶴從來自_レ知、ト作レルトゾ、カク

テ荊公宋ノ世ヲ輔天下ノ制法ヲアラタメ、新法ヲ立
テ執行シケレバ、萬民ヲクルシメ天下ノ毀ヤムトキ
ナシ、荊公ツイニ退テ老ヲ鍾山ニ投ゼリ、荊公ガ志ア
シキニ非トイヘドモ、學術不_レ正聖人ノ道ヲ不知ヲ以
テ、其所_レ致コトハ、クタガヘリ、荊公五代ノ憑道ヲ
評シテ云ク、屈_レ己利_レ人有_ニ諸佛菩薩之行ト、憑道ハ
四世ヲ經テ十君ニツカヘ、何レモ國政ヲタスクトイ
ヘドモ、功業不高德義不_レ立シテ官祿ヲ厚スルコト君
子ノ所_レ耻、マコトニ江鳥モ背_レ人テ飛ヌベシ、荊公コ
レヲ以テ諸佛菩薩ノ行トスル事其器其志ノ卑劣狹隘
可_ニ以考_一也、故出處トモニ聖人ノ道ヲ以テイタサバ
レバ、忠純功德ノ名ハ似テ其實大ニ相違ト可_レ知也、
○問云、此身ヲ修ムルコトヲ不_レ得トキハ、天下國家
治平論ズルニ不_レ及コトナカランカ、
答云、此身ヲ修ムルコトハ聖學ノ初ナリ、天下ヲ治平
ハ聖學ノ終ナリ、コレ天子ヨリ庶人ニ至ルマデ、修身
ヲ以テ本トスル也、中庸ノ九經修身ヲ以テ初トス、故
ニ天下ヲ治メンコト修身ヨリ初マルト可_レ知也、但シ
身修トキハ天下ノ治平忽ニコレアリトミル事、是又
宋明ノ諸儒學ノ意見ユヘナリ、身修一事ヲ以テ天下

ノ事ヲ論ゼンニハ事タルベカラズ、大學ニ身修而后家齊、家齊而后國治、國治而后天下平トイヘリ、コ、ヲ以テ案ズルニ先後ノ次第ヲ云トキハ、身家國天下ニシテ身ト天下ノ間ニ家ト國アリ、而后二字ヲ以テスルトキハ修身ニキワマルニアラズ、唯修身ハ本也基也初也ト可ニ心得也、凡ソ天下ハ大器ニシテ一日ニ萬幾ノ政アリ、蕞爾タル此一身ハ甚輕シテ事スクナシ、故ニ身ヲ修メンコトハ志アルトキハ可_レ安、古來一身ヲツトメテ言行ヲ正シ、信果ヲ事トイタセル輩世々ニ不_レ少、夫子ハ是ヲ硯々乎小人トノ玉フ、孟子ハ大人者言不_ニ必信、行不_ニ必果、惟義所_レ在トイヘリ、然_レバ修身ヲ以テ本トス、ハタシテ國家天下ノ齊治平ヲ詳ニ格致イタスベシ、中庸ノ九經ハ爲_ニ天下國家ノユヘンニシテ、修身ヲ本トスト云ドモ、修身ニテ萬端明ナリト云ヘルニハ非也、近ク是ヲ人ニコ、ロミ、身ニカンガヘ遠ク往古ヲタヅメルニ、身ヲ、サメキヲ安ズルノ輩、儒釋道之學流ニ甚多シ、又文字ニ不_レ通トイヘドモ、美質ノ者アツテ言行正シク、非義無道ヲ聊イタサル輩世ニイカホドモアリトイヘドモ、國郡ハ云ニ不_レ及、一家ノ間ニヲイテモ六親不和

ノ義出來カ、一家ノ浮沈コノトキニ在トイヘルゴトキコトアランニハ、事ノ所置明辨スルコト不_レ可_レ得也、況ヤ天下ノ政事イカンゾ可_レ明乎、○問云、家ヲ齊コトヲ得バ、治_レ國平_ニ天下ノ用明ナラン乎、答云、家ヲ齊ト云ドモ、而后二字ヲ以テ考フレバ、速ニ治國ノ功カナフベカラズ、治國ト云ドモ又其功久シカラズンバ、天下平ナラン事難_レ信也、且大學ニ出ル處ノ修身齊家治國平天下ト云ハ、人君ノ身家國ヲサシテ云ヘル言ナレバ、家ト指處甚廣シ、一家ノ間親戚アリ、大臣群臣アリ、諸士庶人アリ、其用事尤多ク國ニモ天下ニモ可_レ及、故ニ家齊トキハ國自治テ國治トキハ天下自平ナルニ至ルベシ、若人々ノ家ヲ以テ云トキハ、甚狹シテ所_レ及尤スクナシ、其ウヘ家ヲ齊ニハ、以_レ思爲_レ本シテ義ヲ先ズル事少シ、匹夫ノ家僕ヲ治メンニハ、刑賞ノ用カケテ唯志ヲ以テス、故ニ國ト天下トヲ治ムルニ事カワリテ難易不_レ同也、家ハ小ニシテ其人皆親シ、郡ハ野地廣シテ人民既多ク、民間ノ雜政土地庶物ノ制尤多シ、國ハ群ヲ重キタレバ四民悉ソナワリ、山川海野邊鄙都城ノ制アリ、兵革武

備ノマフケ、吉凶ノ禮聘聘賓客ノワザ無レ不レ備、天下ハ國ヲカサチ人物無レ不レ盡、四夷ノ化ヲ兼天地鬼神道ヲキワム、故ニ只家ヲ齊タルノミニシテ其用ヲ天下ニ及ボサン事ハ不レ可レ合、ヨク格物致知スルニアルベキ也、

○問云、國ヲアツメテ天下ノ名アリ、シカラバ國治マランニハ天下ノ治云ニ不レ及乎、

答云、右ニ云處ノゴトク、大學ノシルス處ハ、人君ノ上ニツイテ論レ之也、其ウヘ人アツマリテ家トナルガユヘニ、人々ノ身ヲサマラバ家齊ベシ、家アツマリテ國トナレバ、家々齊トテハ國ヲサマリヌベシ、國ヲカチテ天下トスレバ國々ヲサマレバ天下平也、シカレドモ人々ヲ、サメ家々ヲト、ノヘ、國々ヲ平均セシコトハ、唯其道理ヲ云ノミニシテ、堯舜ト云ドモ猶コレヲヤメリトシツベシ、故ニ大學ニ云處ハ、人君ノ身修マレバソノ家門枝族群臣諸士ト、ノフベシ、家如レ此トキハ邦畿千里ノ間治ルベシ、邦畿千里ハ天下ノ人ノ所レ止ナレバ、遠近ノ諸侯モコレヲ以テ則トス、タトヘ國ニ逆亂ノ臣アリトモ宗子之固若レ城、封ヨ建親戚シテ天下ノ蕃屏依頼タラシメバ、外國ノ侮リ

入ルベカラズ、諸侯ノ禮ヲ定メ郡國ノ制ヲ明ニセバ、亂臣豈ホシイマ、ナルコトヲ得ンヤ、コレ家ト、ノイ國治ルトキハ天下平ナルノユヘン也、若只平士一家ノ上ヲ以テ云バ、古來二千石ノ任ヲ以テ太守刺史トナリ、五馬ノ榮ヲナシ百里ノ治ヲ致ス輩、民コレヲ慕フルコト父母ノ如ク、コレヲツル、コト神明ノ如ク、其清潔ナルコト氷雪ノ如ク、天地ノ瑞クダリ鳥獸コレニ感動セシ類、舊史ニアラハル、所尤モ多シトイヘドモ、天下ノ輔佐ニイタラン事ハ、又タヤスカル不レ可トミヘタル也、

○問云、天下ノ政道古ト今ト同異アルヤ、

答云、時代ニ因テ損益アルコトハ聖人ノ教ナリ、故古ノ明君賢相ノ政事ヲ師トシテ、今日ノ人情事變ヲ考テ以テ禮樂刑政ヲナスヲ聖人ノ教ト云ナリ、唯古來ノタメシヲ必トシ、又當時ノ作法ヲ事トスルハ、トモニ聖人之道ニ非ザルト可レ知也、凡人物ノ體、事業ノ品、古ニ様カハリテ或ハ此ヲ損シ、或ハコレヲ増コト多シ、人ヲ以テ云バ、古ハ四民ノ制アツテ下ノ人民ヲ四ニ分テリ、今ハ上ニ公武ノ兩家立ヲコナワレテ、下ニ士農工商僧社人品々アリ、故ニ其風俗モ亦不レ同、

各其宗トスル處アツテ、人々皆一意見ヲ立テ是非不
レ一ガ故、ソノ教政モコトナリ、サレバ衣服飲食家宅
用具ノ制、又古ニ事カワヲテケリ、コ、ヲ以テ政事ヲ
出スニモ品々ヲツクサレバ、其事シレガタキコト
アツテ、上ヨリ出ス處ノ令下ニ用ガタキ事、出來ル事
物ノ俗禮多シテ、一舉仕難シ、シカレバ古來ノ禮樂刑
政ト云ドモ、時宜ヲ不レ詳トキハ難決定ト可レ知也、
大槩古ハ事物皆易簡ニシテマコト深シ、後世ニ及
デハ事物日々ニカサナリ、時代ニツレテナキモノモ
出、アルマジキ事モアルガユヘニ、宰相執權ノ職モシ
キリニ事多シテ紛擾タリ、是ソノ失何方ニアルゾト
云ニ、人君自事ヲ決シ玉フ事ナク、奉行ソノ撰不レ正
ニ可レ依也、其故ハ奉行自裁許スル處、私アラザルコ
トヲ示サンガタメニ、一事トイヘドモコレヲ諸奉行
ニ訴ヘシラシメテ、身ハレヲナスコト多也、又奉行才
ニ過不及アルガユヘニ、易簡ナル事ヲ泄シテ不レ詳
察ニ過テ念ヲ入スゴセバ、裁許スマジキコトヲモ取
扱ガユヘニ、奸曲ノ輩コレニ利ヲ得テ、少ノコトヲモ
品ヲ付テ訟ヲナシ事ヲ望ム、是皆人君大方ノ格致ニ
テ不レ通コト也、

○問云、本朝代々ノ治平其大槩イカン、
答云、神代ノ儀ハクワシク神書ニ出タリ、凡ソ本朝ハ
久シク神代ノ事アリテ後、天照太神ノ皇孫瓊瓊杵
尊ヲ此地ノアルジト定マシクテ、三種ノ神器ヲワ
タシマイラセ玉テ、中ニモ天照太神手持ニ寶鏡ニ授
天孫曰、吾兒視ニ此寶鏡ニ當レ猶視レ吾トノ神勅アリ
テ、天兒屋根命天太玉命ヲ以テ左右ノ扶翼トシ、葦原
中國アマクダラシメ玉フノ後、人皇ノ最初神武帝ニ
至テ初メテ天下ヲ一統アレマシ、往古ノ神勅ヲ守リ
玉フテケル、故ニ都ヲ大和國畝傍山ノ東南橿原ニ定
メ玉フテ、乃三種ノ寶器ヲ大殿ニ安置マシクテ、同
ジ床ニ座ヲ玉ヘリ、コノ時ハ皇居モ神宮モ無ニ差別
シテ天兒屋根命孫天種子命、専ラ祭禮ノ事ヲ司玉フ、
是乃朝政ヲ執行玉フノ儀ト同ジ、神武帝ニ至テ天
下始メテ治ト云ドモ、未ダ禮ヲ立事ヲ制シ玉フノ暇
アラズ、帝且テ曰、夫大人立制義必隨レ時ト、マコト
ニ此一言天下政禮ノ大統意ト仰ギ奉ルベキ也、カク
テ第十代崇神天皇ノ時人ノ心ヤウヤクヲトロヘ
テ、ツイニ鏡劔ヲ鑄改テ、神代ノ靈器ヲバ別所ニ安置
セラル、然レドモ神勅ヲ敬テ更ニヲゴタリ玉ハズ、始

テ四道將軍ヲ天下ニ分ツツカワシ、天下ノ人民ヲ按
ヘテ其教ヲ立、河内狹山ノ池依網ノ池等ヲ開テ農ヲ
勸メ、船舶ヲ、シヘテ運送ヲ利シ、大社國社及神地神
戸ヲ定、長幼ノ禮ヲシラシメ、租税ノ法ヲ正ス、コ、
ニ於テ天神地祇モコレニ和享アツテ風雨時ニシタガ
イ、百穀ユタカニ天下大ニ平ナレバ、天下ノ民コレヲ
稱美シ奉テ、謂ニ御肇國天王也、第十一代垂仁天王相
ツイテ天下ノ治ヲ正シタマイ、池ヲ開農ヲ勸メ玉フ
テ、天下大平ナリケレバ、異國ニ其キコヘアツテ日本
國ニ有_ニ聖皇トキ、奉レルトテ、任那新羅トモニ使ヲ
奉ル、第十二代景行帝親征ニ筑紫一玉イ、日本武尊ヲ以
テ東征セシメテ、コ、ニライテ東西皆治マリ、南北風
ニナビク草ノ如シ、仲哀神功ノ兩帝異國ヲ制シ玉イ
テ、新羅_ニ百濟_ニ高麗トモニ長ク與_ニ乾坤_ニ伏シテ爲_ニ飼部_ニ、
不_レ乾_ニ船_ニ花_ニ、春秋ニミツギ物ヲ奉ラン事ヲ盟、コレヨ
リ應仁仁德ニ至テ文明尤盛ナリ、コレ併上ハ神武帝
ニコトヲコリ、崇神・垂仁・景行三帝ノ功德ニヨツテ也、
其後推仁帝ノ時聖德太子攝政アツテ、天下ニ禮ヲ立
憲法ヲ行ナワル、孝德帝ニ及デ官位禮制殆ツマビラ
カニシテ、イサメノ鐘及篋ヲ朝廷ニマフケラル、文武

帝藤原不此等ニ命ジ玉フテ律令ヲ撰セシメ玉フ、コ
レ中古本朝ノ政道治法ノ要令也、カクテ弘仁ニ格式
アリ貞觀延喜ニモ格式アツテ、本朝ノ律令格式コ、
ニ於テ相備リ、公家ノ政務コト_レクコレニヨツテ
行ル、コ、ヲ以テ案ニ、推古以前ハ往古神勅ニマカセ、
天神地祇ヲ尊崇シテ天下ノ治ヲナシ玉フ、推古以後
ハ十七箇條ノ憲法ヲ宗トシテ、神道佛道相合フテ天
下ヲ治、不比等律令ヲ選セラレテ、天下ノ治コト_レク
ク律令ヲ以テヨリドコロトシ、相ツバイテ格式出、コ
トニ延喜ノ帝、德ヲ盛ニテラシ上律令ニヨツテ下格
式ヲ行玉フガユヘニ、天下文明ノ治コ、ニライテ相
キワマリヌ、人王七十七代後白河院ニ及デ、朝政漸衰
テ保元ノ亂出來ル、二條院ニ至テ平治ノ亂相續ス、コ
コニ平清盛コノ時ノ功大ナルニマカセ、武臣ヲ以テ
相國ノ任ヲウケ、子孫コト_レク官祿ニ昇テ天下ノ
治亂ヲ一心ニマカセリ、コレヨリ朝儀コト_レク衰、
王政ナキガ如クニナレリ、凡清盛利背長距、終得_ニ檀
場_ニ思專_ニ其侈_ニ、其過民也、若_ニ薙氏_ニ芟_ニ草_ニ、既蘊_ニ崇_ニ之_ニ、
又行_ニ火_ニト云ベシ、マコトニ周ノ世ヲトロヘテ、秦ノ暴
ヲ以テ天下ヲ草業スルニ不_レ異、シカリトイヘドモ天

タガイ人ソムイテケレバ、ワヅカ廿餘年ノ榮華ヲキ
 ワメ、元曆年中ニ源賴朝卿ニ亡サル、賴朝卿此大功ニ
 ヨツテ、後白河院叡感ノアマリ、六十六箇國ノ總追捕
 使ニ補セラル、コレヨリ武家始テ公家ニ替テ天下ノ
 政務ヲ沙汰シ、諸國ニ守護ヲ立、庄園ニ地頭ヲ置テケ
 ル、シカレバ天下ノ政道是非コトトク武德ノ善惡
 ニヨレリ、賴朝卿寬仁ノ量大ニシテ、文明ノ志不淺
 トイヘドモ、治教未全シテ五十三歳ニテ逝去アリ、長
 男賴家次男實朝右大臣相ツバイテ征夷將軍タリトイ
 ヘドモ、トモニ治教ニ心ヲトメ玉ハズ、父子三代僅ニ
 四十二年ニシテ盡ヌ、コノ比マデ未王朝ノ威ノコリ、
 鎌倉ヨリ京都ヲ崇敬尤モ深シ、シカルニ遠江守時政
 ノ長男前陸奥守義時ノ時ニ至テ、天下ノ威北條ニ歸
 ス、後鳥羽院コレヲニクミ玉フテ義時ヲ亡サント思
 シ立ケル、コレヲ承久ノ亂ト云、官軍敗テ後鳥羽院隱
 岐國ヘウツサセ玉フ、コレヨリ義時彌天下ノ政ヲ執
 テ、朝家ノ威永ク衰ヘヌ、コ、ニ平泰時身ニ私ナク政
 ヲ立シ、禮ヲアツクシテ初テ武家ノ式條ヲ立テ天下
 ノ法ヲ定ム、是貞永ノ式目武家制法ノ始也、ソレヨリ
 代々ノ武將コノ法ヲ損益シテ、鎌倉ノ政務ヲナセリ、

故ニ威萬人ノ上ニ被ルトイヘドモ、位四品ノ際ヲ不
 レ出、謙ニ居テ禮ヲ高クシ、民ヲ惠ミ士ヲ舉テ、尤モ武
 臣ノ德ヲサカンニスト云ドモ、代々天下ノ權ヲトリ
 威ヲホシイマ、ニフルマヘル餘勢人物ニワタリテ、
 ツイニ高時ニ至テ天地命ヲ革九代ノ平氏滅絶ス、而
 シテ源尊氏卿又天下ノ權ヲ執テ建武ニ十七箇條ノ式
 目ヲ出シ、是ヲ以テ天下ノ制法トス、ソレヨリ代々ノ
 追加有テ京都ノ公方天下ノ政務ヲ事トシ玉ヘリ、然
 レドモ其治未ダ鎌倉九代ノ治ニハ不_レ及、是ソノ失何
 クニアリトナラバ、ワヅカニモ禮法ノ制タツト不_レ立
 トノユヘン也、國ヲ治ムルニ禮讓ノ道不_レ立トキハ、
 君臣ノ名分不明シテ尊卑上下ノ制不_レ正ガユヘニ、人
 人皆侈奢ヲ事トシテ、僭上ノ亂必ズ無_レ不起、サレバ
 泰時式目ヲ立テ謙ニ居、時賴政ヲ正シテ身ヲ勞ス、上
 ニ賴朝卿ノ寬仁アリ、中ニ泰時ノ禮制、下時宗貞時ガ
 志アツテ九代ノ靜謐ヲナセリ、尊氏卿以來聊モ政道
 ニ志アラズ、唯細川常久願託ヲウケテ義滿卿ヲ輔佐
 セシメ、政務ヲ專要ト致セシ餘德ニヨツテ、漸此治ヲ
 ナセルト可_レ謂、是ヲ以テ云トキハ武家ノ治教ソノ準
 據唯貞永之式目建武ノ十七箇條ノミ也、而シテ平信

長卿尾州ニ勃起シテ勤_ニ公兵、永祿十一年戊辰三好ガ
逆亂ヲシヅメ、義昭公ヲ京都ニ還住セシメ征夷將軍
タラシム、而シテ天下ノ威ヲ蒙テ四海ヲ平均セシメ
ントシ玉ヘドモ、未ダ四邊無爲ニ屬セズ、故ニ治平ノ
大化ニ不及シテ、天正十年惟任ガタメニ弑セラル、ワ
ヅカ十五年ノ治世タリ、豐臣秀吉卿ソノアトヲ追テ、
ツイニ天下ノ權ヲ握リ、四邊コト_ハク平均ス、剩兵
ヲ弄シテ朝鮮ヲ征伐セシメ、天下ニ奉行職ヲ立、五老
ヲ置テ制ヲ立玉フトイヘドモ、興盛スルニ不_レ及シテ
僅十六年ヲ經テ薨ゼラル、其後四海コト_ハク大權
現ノ掌握ニ落テケレバ、慶長庚子ニ三成ヲ罰セラレ、
同甲寅大坂ヲ征セラレテ、遂ニ天下ノ禮樂ヲタバサ
ン事ヲ思召、先禁裏ノ制法ヲ立玉イ、王化ヲ仰ガンコ
トラ事トシ玉フ、コレ乃勤王玉フノ本タルベシ、是慶
長ノ式目以勤王爲要也、カクテ大權現元和丙辰四月
薨御マシマシケレバ、禮樂未ダ首尾セザリシヲ、寛永
ニ及デ天下ノ制法格式ヲキワメ玉フテ、天下ノ郡國
ニ武家諸法度ヲ立テ據トナシ、御家人ノ輩ハ條目ノ
制令ヲ守ラシメ玉フ、京大坂ニ奉行ヲ立テ制法ヲ詳
ニシ、驛路ニ制ヲ立テ往來ヲ安シ、市町ノ辻ニ辻札ヲ

立テ見聞ノ輩ニ其令ヲ教シメ玉フ、此乃寛永ノ式目
ニシテ、世々ノ規範タリ、コ、ニヲイテ天下ノ士民其
教ヲ知風ニ從テ人々自化シ、禮儀相ト、ノツテ人更
ニ不_レ惑、コレ慶長ノ式目ニ準據アツテ寛永ニ相調、
其首尾悠久ニシテ事自ナルノイ、ト云ベキ也、コ、
ヲ以テ云トキハ、武家ノ治平鎌倉京兩家ヲ鑑テ今日
ニ及ビ、文質彬々トシテ禮樂相ソナワルト可_レ言也、
○問云、異朝ノ政令古今ノ治如何、

答云、異朝ノ治モ世コトニ時殊ナレバ、損益不_レ同ガ
ユヘニ一樣ニ難_レ言、然レドモ文質器物制度ハ時宜ニ
ヨルコトニシテ、大綱大義ハツイニ變ズベカラズ、大
綱大義ノ立世ヲマコトノ治世ト云、文儉制度ノ風流
ニ至ルヲ末世澆季トスル也、凡ソ秦以前ノ治ト秦以
後ノ治ト、治教大ニカワレリ、秦以前ハ王者ノ禮明ニ
シテ天下コレニヨル、秦以後ハ禮ノ行ル、アラザル
ガユヘニ、其治皆利口ニワタリテ不_レ正ト可_レ知也、竊
案三皇五帝ノ時ハ詳ニコレヲ知ガタシ、ソノ後夏殷
周ノ三王何レモトリ_ハ聖賢ノ治ニシテ、周ニ至テ
文質トモニ兼備、天下ノ禮樂刑政無_レ不_レ盡、コレ乃周
公旦王三ヲ兼思テ天下ノ至治ヲナシ玉フ處、夫子是

ヲ才ノ美ナリトノ玉ヘルユヘン也、サレバ周ノ末天下瓜ノ如クニワカツト云ヘドモ、治國平天下ノ維持蕃屏相ノコツテ八百年ノ悠久ヲ經タル也、コ、ニ秦興テ天下ヲ草業スト云ドモ、ワヅカ三世ニ及ビ漢相ツバイテ天下ヲ定ム、凡ソ三皇五帝三王マデハ、聖人或ハ揖讓シ或ハ征伐シテ天下ヲ治平ス、聖德ニ不有シテ天下ヲ草業スルコトアラズ、シカルニ秦ニ至テ武ヲ盛ニシ暴ヲキワメテツイニ天下ヲ平均ス、是ヨリ以來天下ノ艸創必ズ聖德ヲ事トス、多クハ武義ヲ以テコレヲ定メ、寛仁ヲ以テコレヲ治ム、然レバ天下ヲ凡人ノ大度ニ定メシムルコトハ、是秦ヲ以テ艸創トスベキ也、サテ兩漢合テ四百年、此時文武ノ朝臣出テ人才尤多シ、故ニ天下ノ禮制シバラクコレヲ得ントスト云ドモ、上ニコレヲ定ムルノ主ナク、下ニ其實知ヲキワムル輩アラザレバコソ漢ノ禮樂刑政定範アラズ、其後代々相襲テ天下ヲ得トイヘドモ、治平ノ要ヲウルコトナシ、唐ニ至テ太宗帝範ヲ制シ弘文館ヲマフケ、名儒賢臣ヲアツメテ言路ヲヒロクシ、直諫ヲ入テ治ヲ正シ、天下ヲ十道ニワケテ俗ヲ一ツニ歸セシム、シカレドモ禮樂ノ法未立、玄帝治世ノ始開元太

平幾ンド其美ヲキワメントス、コ、ニヲイテ儒臣ニ命ジテ五禮ヲ定メテ、一百五十卷ノ書ヲナシ、律令格式ヲ立ツ、コレヲ大唐開元禮ト云、ソレヨリ後世コレヲ用テ以テ天下治平ノ準據トス、故ニソノ後代々ノ損益アリトイヘドモ、其功尤モ大ナリト可レ謂、唐廿代武氏ヲ合テ廿一代、年曆二百九十年也、五代相ツバイテ宋ニ及、宋ニ心學道學流布スルコト盛ナリトイヘドモ、治平ノ要タラズ、禮樂盛ナラズシテ夷狄ノ禍日ニヲコリ、ツイニ南宋ノヲチブレ出來ル、學ノ盛ナルコトハ三代ニモ不レ及シテ人物ノ衰フルコトハ、漢唐ニモ不レ及ガユヘニ、金遼元ニカスメラレヌ、コ、ニ大明ノ太祖天下ヲ艸業アツテ、大ニ天下ノ政ヲ定メ律令ヲ出シテ漢唐ノアトヲ追、三代ノ道ヲ慕フトイヘリ、然レバ異朝歷代多トイヘドモ、三代ノ後ワヅカ漢唐二代ノ治教以テ可ニ考見一也、而シテ其禮樂ノ準據スベキハ上ニ周ノ禮アリ、下ニ唐ノ制アリ、是異朝ハ文明盛ナル地トイヘドモ、天下ノ治平禮樂刑政ヲ立テ、萬代ノ制タランコトハアリガタカルベキ也、コレ其大槩ヲ論ゼリ、クハシク四代ノ書春秋ノ三傳、後世ノ史書通鑑綱鑑ニ出タル也、

○問云、ノ玉フ處ノ如キハ德ヲ以テ民ヲ化スルノイ
イニ非シテ、只律令格式ヲ立テ制ヲ詳ニスルヲ治道
ノ手本トスル也、律令格式ノ類ハ博學宏才ノ輩ニ命
ゼラレバ、イットテモ可成事ナレバ、是ヲ以テ治法
ノ要トハ云ガタカラシヤ、

答云、德ヲ以テ民ヲ化スルト云ハ、禮樂刑政ト、ノホ
ツテ、善ヲ盡シ美ヲ盡ス也、コレ北辰ノ其所ニ居テ衆
星ノコレニ拱スルノイ、也、禮樂刑政不レ明トキハ德
何ヲ以テ行レンヤ、是德ノ化スルコトヲ不レ知ガユヘ
也、サレバ堯舜ノ政トイヘドモ、禮樂刑政ノ明ナルニ
アリ、故ニ命ニ義和ニシテ昊天ノ禮ヲ定メ、契ニ命ジテ
五教ヲ敷、伯堯ニ命ジテ三禮ヲ典シメ、夔ニ命ジテ樂
ヲ典シメ、皋陶ニ命ジテ五刑ヲ制シ、蠻夷猾夏武備ヲ
マフク、凡二十有二人ノ大賢德ヲ用テ三載考績、三考
黜陟幽明ニシ、五載ニ一タビ巡守シテ明ニ試、十有二
州ヲタテ、天下ノ法ヲタビシ上帝ヲマツリ六宗山川
群神ヲ祭り、天下ノ禮ヲ明ニス、コレ孟子所謂、堯舜之
治天下豈無所レ用ニ其心哉トイヘル也、コ、ヲ以テ
案ズルニ、易ハ伏羲文王周公孔子萬世ニノコシ玉
フ處ノ式目也、九疇ハ天ノ禹ニ玉フ式目也、天ニ廿八

宿分布シ、南北極黃赤道アツテ、日月五星代相旋リ、
地ニ山川海野アツテ國郡村里ノ制ヲワカチ、人ニ五
倫五等四民男女ノ分アリ、物ニ鳥獸草木器械用具ノ
制アリ、天地人物各ソノ式目如レ此トキハ、ソレニ相
應ズル處ノ用法必ズ相當ノ禮樂刑政ナクンバアルベ
カラザル也、故ニ律令格式ノ制其名ハ唐ニ至テ備ト
イヘドモ、其ワザハ天地人物不レ得レ止ノ道ニシテ、
聖代スデニ是ヲ以テ準據トス、況ヤ末代ニヲイテハ
是ニヨラズンバ非ズ、故ニ唐虞ノ禮ヲ以テ三代損益
シ用レ之トイヘドモ、周ニ及デ上堯舜ヲ去コト遠ク、
四海九州人物古ニ事カワレルヲ以テ、古今ヲ比較斟
酌シテ周公コレガ中ヲ制シ玉テ、以テ禮樂刑政ノ準
據ナシ玉ヘリ、ソノ後天下ノ諸侯禮樂刑政ノ書式ヲ
次第々々ニ棄去、其書ヲ僞失テツイニ諸侯自禮ヲ
ガイ僭上ヲ事トシ、上下ノ分尊卑ノ品ヲタガフテ君
臣ノ道タヘ、秦ノ世相起ル、是禮書不レ行、式目失却ス
ルノユヘ也、代々ノ天子世ヲ早ク失、天下ノ亂出來
ル、其機皆禮制不レ明、上下ノ分不レ立ガユヘヨリ事ヲ
コルト可レ知也、但シ禮ノ行ハレ法ノ明ナランコト
ハ、只悠久ニイタラザレバ人コレニ不レ知可レ知也、

○問云、昔鄭ノ子產國ノ常法ヲサダメ、コレヲ鼎ニ鑄ケレバ、晋ノ叔向書ヲ、クリテ是ヲシレルトイヘリ、此心如何、

答云、叔向ガイ、シハソノ本ヲ以テスルノイ、也、凡ソ大聖大知ノ人天下ヲ治ムルニハ法ヲ立事ヲキワムル事ナシ、人民來テ訴來テ問トキハ其人ニ從テソノ用ヲ示ス、必トスルコト更ニナシ、若法定リ事究ルトキハ、一定シテ變ジガタキヲ以テ也、是上ニ聖德大ニシテ下ニ大知ノ賢臣アルガユヘニ、天下ノ訴訟刑獄コトトク君自コレヲ改正ス、コノユヘニ謗木ヲ立諫鼓ヲマフケ、三吐レ哺テ民ノ情ヲ通ゼシム、シカレバ人法ヲ聞令ヲ問ニ不レ及、皆自天子大臣ノ前ニイタツテ、其決斷ヲ受ク、若法キワマリ令定レバコレハ可赦可生コトモ、法ニ可レ殺可レ囚タルニマカセテ變ズルコト不レ得、コレヨリ人法ヲ重ンジテ民不レ畏上ノ失出來レルノ失アリ、サレバ鄭人鑄刑書鑄刑書於鼎以爲國之常法、叔向使レ詒レ子產書曰、昔先王議事以制、不爲レ刑辟、懼レ民之有レ爭心也、民知レ有レ辟、則不レ忘レ於上、竝有レ爭心、以徵レ於書、而徵幸以成レ之、弗可レ爲矣、夏有レ亂政、而作レ禹刑、商有レ亂政、而作レ湯刑、周有レ

亂政、而作レ九刑、三辟之興、皆叔世也、今吾子相レ鄭國、制レ參辟、鑄レ刑書、將レ以靖レ民、不レ亦難レ乎、民知レ爭端矣、將レ棄レ禮而徵レ於書、錐刀之末、將レ盡爭レ之、亂獄滋豐、賄賂竝行、終レ子之世、鄭其敗乎、胥聞レ之、國將亡、必多レ制、其此之謂乎ト出セル是也、今案叔向ガ論只言レ一而遺レ貳也、其故ハ大聖大人ノ政ハ、不レ言シテ化四海ニ行ルベシ、是上ニ文明ノ德正シク下ニ賢良ノ佐アツテ、動靜云爲無レ不通、天何言乎トイヘルニ同、是法ヲ立令ヲ行ナワザルニ、非ズ、其道其化不レ滯ガ故ニ、垂レ衣裳レテ天下治ザレバ後世ヨリコレヲ見ルトキハ、一事一言ノ詳ニ末世ノタメニコレルコトアラザレバ、不言不教ノ教化ノ如シ、シカレバ上德ノ君世ニマレニシテ、上知ノ臣又不レ易レ得、コ、ニヲイテ周公旦末世澆季ノ輩、必心ニマカセテ事ヲ行、令ヲシイテ天下ノ人民ヲクルシメ、國ヲ失世ヲ亡サンコトヲ考、周禮ヲ定メテ天下ノ政事ヲ示シ、司寇三典ヲ立テ正月ニ萬民ニ國ノ常刑ヲ示シ、每歲國々都鄙ノ間ニコレヲ布、是民ヲシテコレニヨラシメ諸侯ノ邦國コレニ本ヅイテ、其俗ヲ一ニシ朝政ヲ明ニシ玉フノ心ナルベシ、然レバ上德上知ノ人ハ一ヨリ十二至

ル迄、其可_レ繼可_レ因ノ政ヲ制シ天下ノ人民ヲ教ヘ、君臣コレニシタガツテ治道ノ政令ヲ損益セシムル、是國家ノ全政ト可_レ云也、晉鑄_ニ刑鼎_一著_ニ范宣子_一所_レ爲刑書_ニ焉、仲尼曰、晉其亡乎、失_ニ其度_一矣、夫晉國將_ニ守_ニ唐叔之所_レ受法度_一以經_ニ緯_ニ其民_一、卿大夫以_ニ序守_一之、民是以能尊_ニ其貴_一、貴是以能守_ニ其業_一、貴賤不_レ愆、所謂度也、今棄_ニ是度_一也、而爲_ニ刑鼎_一矣ト、夫子ノ此說先儒皆叔向ガ論ト同トス、愚謂否、晉既有_ニ唐叔之度_一而范宣子所_レ著ノ刑書ヲ宗トスルコト甚私ナリ、故ニ晉唐叔ノ度ヲ上ニ不_レ行シテ此刑ヲ事トセンコトハ、晉ノ可_レ亡ユヘンナリトノ玉ヘリ、叔向ガ所_レ論ト不_レ一也、況ヤ子產范宣子ガ所_レ著ハ皆刑書也、子所謂禮樂謂刑政之其一ツナレバ比按シテ不_レ足_レ論_ニ焉也_一、○問云、古來治國平天下ノ政道イヅレヲ以テ要トシテ、天下國家ヲ治ムルヤ、

答云、我薄知淺識ニシテ古ヲ具ニ不_レ盡ガ故ニ、一々今論ジ難シ、シカレドモ其見聞スル處ニマカセテ云バ、郡ヲ治ムルコトハ易クシテ國ヲ治コトハ難シ、國ヲ治コトハ易シテ天下ヲ治ルコトハ難シ、凡ソ人王十三代成務帝天下ヲ分玉テ國々ニ國ノ造ヲ定メ玉フ、

是國司ノ義也、後世ハコレヲ守ト云、乃異朝ノ二千石太守刺史牧宰ナド云ヘルニ同ジ、此國司ヲ撰コト尤重_レ之ジテ以テ國ノ政務司ナラシム、一任凡四年此間其國ニ居テ其政ヲタ_ニシ、租稅ヲアラタメ民ヲ化ス、守ノ下ニ介_ニ掾_一自アツテ、各別ノ命ヲ蒙テ郡縣ヲ分チ治ム、七箇國ノ國ノ受領ヲ歷テアヤマリナキ輩ヲ以テ參議ニ任ズルコト古來ノ例也、合格ノ考詳ニ令ニコレヲ出ス、乃異朝ノ政法ニ準據ス、シカルニ國郡ヲ治メシニ、仁惠アツテ民コレヲ思イ慕輩不少、邵信臣杜詩ガ治ハ民コレニナツイテ邵父杜母ト號シ、邵曄陳世卿ガ政ヲモ邵父陳母ト稱シ、余崇龜ガ九江ヲ治メシヲバ民皆佛菩薩ノ思ヲナシテ余佛ト稱シ、徐申ガ治ハ民コレガタメニ生ル内ヨリ祠ヲ立、陸雲ガ政ハ民像ヲ圖シテコレヲ崇、劉德威ガ綿州ノ刺史タルヲバ、百姓石ヲ立テ、頌德、羊祐ハ死シテ墮淚ノ碑アリ、後漢ノ寇恂潁川ヲオサメテ任ハテ、代ルニ民上ニ訴テ又一年ヲユルシ玉イ、耿絕ガ東郡ヲヲサメシ後、其所ヲ過ルニ民數千、出テコレヲサヘギリシタフ、郭伋ガ并州ノ牧タルトキハ國中ノ兒童竹馬ニノツテ路ニ迎ヘ、李姚元崇ガ荊州ノ牧タルニハ、任ハテ、ケレ

バ民シタフテ去シメズ、李元紘惠政アツテ去トキ、民コレヲ慕テ遮リトメ心ナキ、鳥鵲モ群飛シテ車ヲ擁ス、鄧攸ハヒケドモ不レ留トシタワレ、侯伯ハ百姓ニ車ヲトメラレ別ヲ惜デ不レ待テ去、賈彪ハ民ノ子ヲ殺スベキヲトバメテ、男女ツイニ賈ノ字ヲ以テ姓トス、鄧韋モ亦民ノ子ヲンダツル事ヲ教テ、一國ノ民鄧ヲ以テ名トス、王質ガ政ハ鄭ノ子産ニ比シ、宋璟ガ政ハ有脚ノ陽春トヨバレ、薛班ハ民間ノ疾病患難ヲ自問テヤシナイ、劉寬崔伯謙ハ蒲鞭皮鞭ヲ以テ刑ヲ行ヘリ、是皆惠政ヲ以テ名稱セラル、又威ヲタケクシテ民ヲ治メシハ、前漢邳都民ヲ殺コト二百餘家、嚴延年強ヲクシキ民ノ殺セル事甚多、范曄ガ天水ノ太守タル宋登ガ潁川ヲ治メタル、甚威ヲハゲシクシテケル、彼等ガ治ニヲソレテ、各其民路不レ拾レ遺ニイタレリ、後漢賈琮車ニ升テシタスダレヲマカセ、民ノ是非ヲ明ニ察スルコトヲ事トシテ、百姓震慄ストイヘリ、西門豹ハ巫ヲ水中ニ投ジテ民俗ヲ正セリ、又清廉ヲ以テ聞ヘタル楊震ガ東萊ノ太守タルトキ四知ノ戒アリ、胡威ガ父ノ質ハ清畏ニ人知トイヘリ、魏ノ合狐邵ハ清如ニ冰雪ニト民コレヲ稱シ、朱世良ガ治ハ清徹ノ底ト

ヨバレ、合浦ノ珠ハ孟嘗ガ清廉ニ立カヘリ、一錢ノ太守ハ其席今ニアリト也、田元均ハ照天ノ蠟燭ノゴトク、張中庸ハ水精ノ燈籠ノゴトシ、張清猷ハ一鶴ヲトモトシ、包極ハ一硯ヲ不レ持、羊續ハ遺魚不レ食、鄭善果ハ至ル處號ニ清更ハ李峴ハ清簡ニ千石ノ最タリト云、是等ハ郡國ヲ治メテ清潔ニシテ私ナシト可レ云也、韓廷壽ガ東都ヲ治メシメバツイニ郡ニ出ルコトナシ、汲黯ガ淮陽ノ太守タルハ閑レ閑臥理、顧愷之ハ垂レ簾テ不レ出、歐陽公ハ寬簡ヲ心トス、是皆以テ清簡ニ爲レ要ノ治也、楚相孫叔敖ハットメテ民ニ業ヲ教、蜀文翁ハ學校ヲ立テ文ヲヒロメ、郡國ニ學校ヲ置ノ初トナリ、列寬ハ孝弟農業ヲ詳ニットメシメ、黃霸龔遂伏恭廉范各ットメ教ヲ以テ事トス、龔遂渤海ノ盜ヲサメ、張霸會稽ノ賊ヲヤメ、張敞顔斐各治ヲ以盜ヲヤメシタメシアリ、尹翁歸ハ清淨ヲ崇デ東海ヲ、サメ、曹參又コレヲ貴デ天下ヲ安ズ、是等ハ只民ヲ治メ其心ヲ感ゼシムルノミ也、彼馬稜宋均ガ治ニハ蝗虫飛去、王方翼ガ肅州ニ治タル、蝗不レ入レ境、黃霸ガ潁川ノ守タル嘉禾生ジ鳳凰至、岑彭ガ治ニハ甘露アツマリ鳳凰麒麟出、王阜ガ幽州ヲ治シニハ白鳥神馬ア

ヲハレ、劉琨叔庠群ニイタレバ暴虎河ヲサリ、韓愈潮州ニ至テ鱷魚遠クサリ、百里嵩ガ徐州ヲ治メシニハ、雨ヲコヘバ雨隨レ車而注、陳戢ガ處州ニ至ルニハ國ニ至レバ雨フツテ旱ヲヤム、如レ此ノ神治又ナキニ非ズ、サレバ循吏傳云、漢世良吏爲レ盛、若シ趙廣漢韓延壽尹翁歸嚴壽張敞之属、皆稱シ其位、王成黃霸朱邑龔遂鄭弘召信臣等、所レ居民富、所レ去見思、生有榮號、死有奉祀ト出タリ、凡天下ノ國司ノ治ヲエラミテ天下第一ノ治ト稱セラレシハ、潁川太守黃霸河南太守吳公北海太守朱邑也、天下ノ長者ト稱セラレシハ孟叔ナリ、今愚ガ見聞ニマカセテ詳スルトキハ、此等ノ治政威愛清簡清淨亦可屬簡教ノ五治也、神治ハ不レ可レ言不レ可期也、而シテ郡國ノ治如レ此ト云ヘドモ、此人ヲ以テ畿内ヲ、サメ京兆ノ尹タラシムレバ、其治又古ニ不レ似輩アリ、是郡州ハ遠人純樸ニ、事少シテ不レ煩、守令能行ル、畿内ハ人ノ心不レ悞事甚多ク、守令行ハレ難ク、權門豪俠ノ輩多クシテ奉行ヲ蔑如シ、ソノコトヲ不レ用コトアレバ也、故ニ古人所謂輦轂ノ下彈壓爲レ先トハコノ心ナルベシ、京兆尹既ニ治ヤスカラズ、況ヤコレヲ天下ニ及ボサンニハ、サレバ

堯舜ノ二十有二人ノ後、殷ニ伊尹仲虺左右ノ相タリ、傳說岩築ヨリ出テ武丁ヲ佐ケマイラセ、周二周公召公左右ノ相タラシメ、聖公四世ノ輔佐トナリ、仲山甫補レ闕、ソノ後漢ニ蕭何曹參陳平周勃霍光、唐ニ杜如晦魏徵、宋ニ文彥博ガ相將ノ任ヲ五十年ツカサドリ、四世ノ師表トナレル、世々ノ名臣アリトイヘドモ、天下ノ治平ヲキハメ、萬世ノ表式ヲ立シ輩ハ、三代ノ後只唐ノ魏杜ノミナルベシ、ソノ外ハ一代ノ名臣ト仰ガレタルノミ也、サレバ天下ノ治平ハ一郡一國ノ治ニ似ベカラズ、郡國ヲ治ルトイフトモ、天下ノ治ニ及ビ難シ、次ニ本朝ノ最初天孫天降給時、天兒屋根命天太玉命左右ノ扶翼トナツテ、天下ノ政ヲタスケ玉フヨリ、人王ノ始神武帝ノトキ、二神ノ孫天種子命天富命左右ノ大臣ト成テ國政ヲ執玉フ、其後景行朝ニ武内宿禰棟梁ノ臣トシテ六代ノ輔佐タリ、大伴大連金村武烈帝ノ逆政ニ居テ天下ヲ正シ、繼體帝ヲ立マイラセ、中臣鎌子内臣トナツテ天智帝ヲ輔佐シ、厩戸王子推古帝ニ替テ攝政タリ、マコトニ世々政務ヲ輔クル大臣不レ乏、コ、ニ文武帝ニ至テ淡海公大ニ才德優長ニシテ天下ノ律令ヲ定メ、コ、ニ子孫

相續多シテ四家ノ門流ヨリ出テ、ツイニ天下ノ大臣此門葉ニアラザレバ不知コトニナレリ、歷代ニ才學優長ノ大臣不_レ乏トイヘドモ、大ニ知德ヲアラワシテ天下萬世ノ規模ニイタラン事ハカリガタシ、武家ニ及デ平重盛優才ノ人タリ、泰時時頼尤モ治世安民ヲ事トシ、此時ニ至テ武家ノ政敗大ニ定マリヌ、況ヤ細川頼之幼君ヲ輔佐シテ天下ノ危ヲ扶ク、其功尤大也、ソノ外青砥藤綱・多賀高忠各評定所司ノ職ニ居テ、ソノ儉ソノ譽ヲナセリ、代々ノ諸奉行ソノ人ニ不_レ乏トイヘドモ、多ハ一事一行ノ名譽ニシテ聖教ノ治鏡トハ云ガタカランカ、然レドモ本朝ハ又本朝ノ治アリ、故ニ能本朝ノ制古今ノ義ヲ盡サバ、ソノ才學ユタカナルベキ也、

○問云、古ハ公家一統シテ天下平也、頼朝卿以來ハ武家一統シテ又天下平也、其優劣是非善惡イヅレヲ以テ定メンヤ、

答云、公家一統シテ天下平ナルトキハ、朝廷歌舞ヲ事トシ遊宴ヲ弄玉フガユヘニ、政事次第ニ衰、國家ノ時宜不_レ明、亂臣世ヲ亂ルコトヤマザルヲ以テ、武臣是ヲ靜謐シテ政ヲ朝廷ニカヘストイヘドモ、朝家遂ニ

不_レ正、コノユヘニ武臣政ヲ執テ天下ノ權ヲ握ルナリ、凡ソ天下ノ治亂ハ公家武家ニヨラズ、唯道ヲ行亂ヲ定ムル人ニ天クミス、天クミスルトキハ天下ノ神器自ヲサマル、シカレバ公家コレヲ治ルトモ武家コレヲ治ムルトモ、治平ノ道コトナルベカラズ、優劣是非一定スベカラザル也、サレバ鎌倉滅亡ノ後尊氏義貞天下ヲ後醍醐帝ニ歸シ奉テ、天下一タビ公家ノ一統ニ及トイヘドモ、朝家ノ政道不_レ正ガユヘニ、賢臣世ヲ通議者道ヲ塞、内奏ノ秘計ヤマズ、諸國ノ蜂起遂レ日盛ナリケルガユヘニ、又朝廷天下ヲ失テ武家得_レ之ニイタレリ、シカリシヨリ以來次第ニ朝廷ハ衰テ、詩歌管絃、優長ノ技藝ヲ家トシ、武家ハ政道ヲ宗トシ、道ヲタビシ義ヲ本トシ、天下ノ安否ヲ以テ任トス、故ニ天下ノ治平日々ニ新ナリ、サレバ武家イヅレモ勤_レ王崇_レ朝廷トイヘドモ、王々タラズ、朝廷々々タラザルガ故ニ、宗廟社稷ノ神モコト_レク武家ヨリコレヲ祭祀ナリ、萬機ノ政トモニ武家コレヲ奉行スルニ至レルナリ、中ニモ大權現天下ヲシロシメスヨリ、朝家ノ崇敬他ニ異ニシテ、カシコクモ公家ノ政道天子ノ御作法古ニカヘランコトヲ欲シ玉フテ、其

制法ヲ奉リ玉フトイヘドモ、朝家ノ勢萬牛ヲ以テ挽
トモ古ニカヘリガタシ、シカレドモ武家ノ崇敬猶怠
リ玉フコトナク、勤王事ニ尊ニ朝儀ニコト、賴朝卿以
來如レ此コトアラズトイヘリ、サレバ朝家ノ勢ハ日々
ニ衰テ武家ノ成敗ハ日々ニ正シ、是天ノ與タル處武
家ニアツテ公家ニ非ズ、天下ノ是非ハ公論ニシテ、私
ヲ以テスベカラザレバ也、

○問云、武家ノ政道古今ノ宗トフル處アリヤ、
答云、平清盛一旦武威ヲ振玉フトイヘドモ、政道ニ心
ナク身ヲ朝臣ニツラナテ官位ヲ心ノマ、ニ行故ニ、
ワヅカ廿餘年之間ニ武家ノ式法ヲ失テ、弓馬ノ道武
略ノワザコトトク失却シ、唯歌ヲ詠ジ絃ヲナラス
ヲ以テ宗トス、是衰朝ノ式ヲ以テ己レガ任トスル也、
サレバ元暦ノ戰ニ議ニ不レ及シテ敗北ス、源賴朝卿前
鑑未レ遠ヲ以テ神營ヲ鎌倉ニマフケ、朝家ヲ渴仰シ奉
リテ朝臣ニ列セズ、武家ノ儀式ヲ立行政道ノタメニ
ハ大江廣元三善善信等ヲ招テ、舉賢用レ能居謙行事
玉フガユヘニ、ソノ身ハワヅカニ三代ヲ經トイヘド
モ、北條家コレニ慣テ九代ノ執權ヲ相續ス、サレバ武
家王朝ノタメニ方伯タリ、且三公ノ任タルヲ以テ公

方ノ稱號アリ、コレ三公ノ官ヲ以テ方伯ノ職ヲ司ド
ルガユヘ也、世ニ公方ト稱スルコトハ義満公ヨリ也武家如レ此トイヘドモ、
猶ソノ職ニラコタリテ奢ヲキワメ、私ヲ行テ遂ニ平
氏滅亡ス、尊氏又賴朝卿ノ例ヲ追テ朝臣ニ不レ列トイ
ヘドモ、其居所京都ニアツテ常ニ朝家ニ進退セルヲ
以テ、子孫忽ニ風流ヲ事トス、故ニ東西ノ亂逆ヤムト
キナク、畿内近國ノ鬭諍サラニ戰國ニコトナラズ、是
勤王事ニ守ニ朝家ノコトヲコト、セズ、自ミテルニ
居テ、己ガ職ヲ忘レ政務ヲ忽如スルガ故也、コ、ヲ以
テ子孫ツイニ絶滅ス、平信長卿又不レ知ニ朝廷ニ政務ニ
心アラズ、秀吉卿清盛ニナラツテ、其身ヲ朝臣ニツラ
ナ、關白ヲ攝シ門葉皆大臣大將ヲカリ、然シテ武ヲ驥
シ兵ヲ弄シ天下ヲ縱橫ニス、シカレドモ、大豪傑ノ雄
才一世ニナラビナケレバ、一代ノ榮華ヲキワメ玉フ
ノミ也、コ、ニ大權現ノ時ニ至テ遠クハ賴朝ノ例ヲ
追玉イ、近クハ前代傾覆ノ戒ヲ鑑玉フテ、ツイニ柳營
ヲ武州江戸ニ定メ玉イ、勤王事尊ニ朝廷ニ武職ヲ專ト
シ、政務ヲ事トシ玉フテ、公方ノ禮義初テ全シ、コレ
ニ由テ天下ノ治平前代ニ未レ聞レ之、四夷八蠻モ重譯
テ來朝ス、竊案ズルニ武家ハ右レ武シテ左レ文、故ニ官

位モ征夷將軍ヲ以テ先トス、稱號モ大樹柳營ヲ以テ
ス、シカレバ王家朝廷ヲ守護シ、天下ノ非常ヲ戒、難
易有レ備テ四海ノ政務不レ滯、コレ乃武家ノ制法也、

○問云、武家武ヲ以テ天下ヲ靜謐スト云ドモ、治國平
天下ノ要治ハ文ニアラズンバアルベカラズ、然ルニ
古來ノ公方家武ヲ守ル人長久ナリト云コトイカン、
答云、馬上ヲ以テ天下ヲ得ルト云ドモ、馬上ヲ以テ天
下ヲ治ルコトハ不レ可_レ叶ト云ハ、陸賈ガ漢高祖ヲ諫
メシ言也、今草創之難ハ既已往矣、守成之難者當_レ思
トノ玉フハ唐太宗ノ格言也、サレバ武ヲ以テ草創ヲ
遂ルト云ドモ、守文ノ功ヲナスコトハ文ヲ以テスル
ニアルベキニ似タリ、凡ソ武ハ文ト相並コト天地陰
陽水火仁義ニ同ジ、時ニヨツテ文ヲ右トシ武ヲ左ト
シ、武ヲ右トシ文ヲ左トストイヘドモ、文アルトキハ
武ヲ用、武アルトキハ文ヲ用、是ニツノモノニツニシ
テ一ツ、一ニシテ二更ニハナル、コトナラズ、古朝廷
ノ政ハ武ヲ後ニス、今武家ノ政道ハ武ヲ先ニスルコ
ト、乃當然之則タルベシ、竊案ズルニ本朝ノ古天照
太神欲_レ降_ニ天孫於豐葦原中國_ニシテ、先經津主神健
雷神ヲツカワシ玉イ、諸ノ不_レ順者ヲタイラゲシメ玉

フ、カクテ大物主神帥ニ八百萬神ニ昇_レ天ケレバ、天神
勅_{シテ}永爲_ニ皇孫_ニ奉_レ護_{ヨト}神勅アリケレバ、經津主
神健雷神ハ香取神鹿嶋神トアラソレテ東海ヲ守リ、
大物主神ハ出雲國ニ垂迹シテ西方ヲ守リ玉フ、コ、
ニライテ天孫天降玉フトキ、大伴連遠祖天忍日命帥_ニ
來目部遠祖天穗津大來目、背負_ニ天磐敷_ニ、臂著_ニ稜威高
鞞_ニ、手提_ニ天梶弓_ニ、天羽羽矢_ニ、及副_ニ持_ニ八目鳴鏑_ニ、又帶_ニ頭
槌劍_ニ而立_ニ天孫之前_ニ玉フトナリ、而シテ神武帝ハ道
臣命ガ功ニヨリ、崇神帝ハ四道ニ將軍ヲ命ジ玉イ、景
行帝ハ日本武尊、武日命、武彥命ヲ將軍タラシメ玉フ
テケリ、天下ノ草業ハ天孫ニアツテ人王ノ最初ハ神
武帝ニシテ、天下ノ靜謐ハ垂仁景行ノ朝ニアリ、其ニ
武ヲ以テ先トシ玉フ事は本朝ノ例也、天下久シク平
ナルヲ以テ朝廷ニ武備ヲトロヘ、ツイニ武臣威ヲ盛
ニシテ武臣シバラクモ威ヲホシイマ、ニシテ武ヲ忘
ル、時ハ必ズ敗亡ス、前鑑可_レ見、コ、ヲ以テ考フレ
バ、本朝ノ俗武ヲ先ニシテ備マフクルコトヲ本トス、
況ヤ近代俗コト_ハク武威ニ化シ、服ハ戎服ヲ宗ト
シ、居ハ武家ノ宅ヲ本トシ、食ハ武家ノ禮ヲコト、
ス、動靜進退皆在_レ備_ニ武、コノ時文ヲ右トシテ武ヲ退

ケントセバ、人心ノ傾覆不可疑ト可_レ知也、

○問云、武ヲ先トセバ人心ヲダヤカナラズ、人ノ風俗タケクシテ、寛仁ノ體ニアラザランヤ、

答云、武ニ品多シ、武備ト云ハ事ノアラハレザル以前ニ、其ノ機ヲ察シテ其設ヲナスヲ云、其設アルトキハ事ニノズンデツマヅクコトアラズ、故ニ文事行ル、時ハ武備ヲ設テ非常ヲ制ス、是天險地險ノ道更ニハナル、事アラザル也、若_レ弄_レ兵驥_レ武バ武却テヤブル、弄_レ兵驥_レ武ト云ハ合戰弓馬ノ事ヲ宗トシテ、コレヲ好ミコレヲ弄_レズ事也、タトヘバ劔刀ハコレ武ノ器也、コレヲ能制シ能ト、ノヘテコレヲ鞘ニヲサメ、コレヲ腰ニヨコタフルニ、其道ヲキリメテ而シテ後ニ武備ヲ正シクスト云也、若_レ劔刀ヲ好テ常ニコレヲ拔テモテアソビ、鞘ニヲサメズシテ腰ニコレヲ帶ントセバ、必自ラ過ヲナシテ害ヲウク、是ヲ弄_レ兵ト云ベシ、シカレバコレ兵ヲ好ニ似テ實ハ武ヲ僥略ニイタシ、コレヲ尊ノ道ヲ失ナフ、コレ驥_レ武也、コノ故ニ兵猶_レ火弗_レ戢自燒ト云ヘリ、サレバ武ヲソナヘ武ヲ守ル人ハ更ニタケカラズハゲシカラズ、能鍊能備ヘテサラニ不_レ怠、コレ未然ノ機ヲ防ギ非常ノ事ヲ戒シム、マコ

トニ難易有ハ備可_レ謂_レ吉トイヘル言ニ相カナヘリ、○問云、異朝ノ政道本朝ノ政事コトナルコトアルベカラズヤ、

答云、其水土ニ從テ人物各コトナリ、人物コトナルトキハ事ノ用皆不_レ同、何_レズ異域本朝ヲ以一ツニ論ゼンヤ、サレバ夫子モ下襲_レ水土トノ玉ヘリ、本朝ノ内ニヲイテモ五畿七道ノ風俗其水土ニヨツテ相コトナリ、況ヤ異國ト本朝トハ既ニ二千里ヲヘダテ東西ニワカテリ、一同ニ論ズベカラズ、王制ニ云中國夷狄五方之民、皆有_レ性也、不_レ可_レ推_レ移、又曰、中國夷蠻戎狄、皆有_レ安居和味宜服利用備器、五方之民言語不_レ通、嗜欲不_レ同トモ出タリ、聖人ノ制如_レ此、然_レバ異朝ハ異朝ノ政アリ、本朝ハ本朝ノ政アツテ、異朝ノ制ヨシト云ドモ異朝ニシテハ可_レ用、本朝ニハ用イガタキコト多シ、今其一二ヲ以テ云バ、異朝ニハ專_レラ皮衣ヲ著シ、鳥獸ノ羽毛ヲ以テ衣冠ヲ制スルコトアリ、魚鳥ヲイヤシンジテ牛羊ノ肉ヲ食トス、蜚_レ醢_レ麋_レ兔_レノ醢ヲ賞ス、家ニ板ヲ不_レ布シテ席ヲマフケテタ、ミナシ、衣食居如_レ此ノタガイアルトキハ、其用法亦コトナルベシ、是乃水土ノ異ニシテ異朝コレヲ以テ人皆

安ズル故ナルベシ、然レバトテ本朝ニ用ユベキニ非ズ、次ニ異朝ニハ代々草業ノ君乃天子ト成テ天下ヲ成敗ス、本朝ニハ武家天下ヲ縦ニスルコト、清盛秀吉卿ノ如トイヘドモ、正統ヲ崇敬シ王代ヲ尊テハ宗廟ノ元祖天照太神ノ御苗裔今ニ天子タリ、コレ異朝ノ例ニ比シ難ク、勤王崇レ朝ノ道明ナリト可レ謂也、冠昏喪祭ハ人ノ大禮ニシテ異朝ニハ必トツグニ、女ノ姉妹ヲ相ソヘテ其國ニユカシム、既ニ舜ニメアワセ玉フニ娥皇女英ヲ以テスルガ如シ、本朝ニテハ如レ此コトヲ嫌フ、喪ニ亡者ノ口ヲヒライテ、中ニ玉ヲフクメ食ヲ入、大歛小歛ト號シテ亡者ノ身ヲ布ヲ以テコレヲツ、ム、コレ含斂ノ二大禮ニシテ本朝ノ今ヲ以云バ、孝子順孫コレヲ致ニ不レ忍ノコトワリアラシカ、而シテ其棺ヲ收ル所ノ墳墓ヲバ棄テ是ヲ祭ラズ不レ脩、本朝又コレニ異也、異朝ニハ父母ノ忌日ト云ハ、一年一度ヲ用テ四時ニ其祭ヲナシ、毎月ノソノ日ハ素食ヲダニ不レ致、本朝今ハコレ又孝子順孫ノ同日ヲ聞ニ不レ忍ノコトワリアリ、故ニ近代浮屠ノ説ニチナムトイヘドモ人々墓祭月忌日ヲツトム、異朝ニハ廣出來トキハ牛羊ヲ殺シテ其血ヲ廣ニヌリ、祭

祠ノ器ニチヌルト云ヘリ、是又本朝ハ不レ用コト也、シカレバ異朝ノ制世々ノ聖人コレヲ考テ此制アルコトハ、彼國ニハ如レ此シテ可ナルガユヘナラントイヘドモ、本朝用テハ時宜ニ不相應ノコトナルベシ、シカレバ毎事一樣ニサダメ難コトナレバ、只本朝ハ本朝ノ禮ニヨリ、異朝ノ禮ヲ斟酌スベキ也、○問云、若周公孔子本朝ニ出玉ハバ、異朝ノ禮ヲ行ナワレンヤ、答云、我周公孔子ニアラザレバ、其制法ヲ如レ此アラント云コト尤難レ知也、シカレドモ其文獻ノコリテ徴トスルニタレルヲ以テ云バ、禮ニ脩ニ其教ニ不レ易ニ其俗ニ齊ニ其政ニ不レ易ニ其宜ト出タリ、サレバ周ハ般ノ紂ガ惡政惡俗ヲウケ、衰世ノ政ヲ蒙タル世ヲ革テ周ノ天下トナシ玉ヘドモ、天下ノ人民事物トモニ皆般ノ天下人民事物ニヨツテコレヲアラタメ玉フト云コトヲ不レ聞、詩云、商之子孫、其麗不億、上帝既命、俟ニ子周服トイヘリ、孔子宋ニヲイテハ章甫ノ冠ヲナシ、魯ニヲイテハ縫掖ノ衣ヲ著シ玉フト也、サレバ生ニ乎今之世ニ友ニ古之道、如レ此者裁及ニ其身ニ者也トナリ、ソノ國ニ居テスラ古今ノ風俗コトナレバ裁必

ズ及、況ヤ異國本朝水土遙ニコトナレバ、聖人コ、ニ
來リ玉フトモ、不_レ易_ニ其俗_一シテ其教ヲ立玉ハン事不
レ及_レ論也、

○問云、衣服飲食家宅ニ道アルベカラザレバ、聖人何
方ニユクトモコレニカマイ玉フコトハ不_レ可有、然
レドモツイニコレヲ道ニ入玉ハ、異國ノ俗ト同ジカ
ラシメ玉ハンカ、

答云、衣食居ニ道ナシト云コトコレ甚アヤマレリ、衣
食居ヲハナレテ道ナシ、衣食居用器事物皆道ノ寓ス
ル處也、聖人ソノ水土ヲ考テ其水土ニ相應ノ衣食居
ヲ定メ玉フベシ、久シク治平セシメ玉ハ、異國ノ俗
ニシナシ處モアルベシ、然レドモ本朝ノ俗ヲ以テ本
トナシ玉ハン間、何ゾ必ズシモ異俗ヲ事トシ玉ハン
ヤ、コトニ今本朝久シク治平ニ属シテ、代々ノ式禮立
文明ノ用多シ、唯大義大禮ノ間少シ宛ノ用捨ニヨツ
テ、忽聖人ノ化ニ及ブベシ、シカラバ何ゾ必_ニ異様_一
センヤ、俗儒ハコレヲ不_レ知ヲ以テ、異國ノ書ヲヨミ
テハ異國ニ泥ミ、事ヲ新ニシテ人ノ目ヲヲドロカシ、
人ノ心ヲ悅バシメントス、故ニ却テ聖道クラク人コ
レヲ以テ道ニトラザカリ、學ヲイトフニナレル也、

○問云、異國本朝聖人ノ道ヲ崇敬シテ、四夷ハコレヲ
不_レ知ハ水土カワリアルユヘナリヤ、

答云、大唐朝鮮本朝此三國天地ノ中道ニ當レリ、故
ニ水土他ニ異ニシテ人物其美ヲツクシ、其用法其善
ヲ盡スト也、凡ソ天ニ中道アリコレヲ赤道ト號ス、此
左右四十八度ヲ黃道ト號シテ、日月五星トモニ此黃
道ヲ運行ス、日月赤道ヲメグルトキヲ晝夜ヒトシキ
時トシテ春分秋分トイフ、赤道ノ北ヲメグル時ヲ春
夏トシ、赤道ノ南ヲメグル時ヲ秋冬トシテ、四時相
序三國此度ニアタリ、此道ヲウクルヲ以テ四時トコ
シナヘニ不_レ違、人物其用ヲ施シテ生長收藏ノ時ヲ不_レ
失、三國ノ外ハ或ハ寒ニ過、或ハ暑ニ過或ニ季アツ
テ二季ナク、或ハ三季ナクシテ一季アリ、或ハ晝夜ト
コシナヘニ同ジク、或ハ晝多シテ夜常ニ短、或ハ夜長
ク晝ツ子ニ短シ、コ、ヲ以テ人物其氣ヲ不_レ全シテ人
人ニ不_レ似物々ニ不_レ類、五穀ソナワラザルガユヘニ
粒食セザルアリ、禮記ノ王制ニ五方ノ人物不_レ同コト
ヲ詳ニセルガ如シ、而赤道ニアタレル國ハ南蠻耶蘇
宗門ノ國ナリトイヘリ、故彼宗門我國天ノ中ニアタ
ツテケレバ、天ヲ宗トシ教ヲ立ト云ヘルト也、彼ガ云

ゴトク赤道ノ下ニアタレル國ハ天ノ中ニアタレルト云ベシ、三國ハ皆赤道ヲ南ニヒツミテウケタリ、然レバ彼ガ國天ノ中ニアタリテ三國ハ中ニ不レ中ニ似タリ、是彼邪道ヲ以テ正道ヲ誣ル也、聖人天地ノ中ヲハカツテ中國トノ玉フハ、天地之道ト、ノホツテ過不及ナク、能タガフ事アラザルヲ以テ中トス、彼ガ云所ノ中ハ物ノ尺寸ヲ考テコレヲサシテ中ト云、是其名ハ一ツニシテ其道不レ同、サレバ國ノ中ト云ハ國ノ廣狹ヲ考テ其中ヲサシテ中ト云ハ、形ノ中ニシテ國中ニハ非ズ、國ノ中ハ人民相聚庶物コ、ニ止テ其宜ヲウルヲ中トス、故ニ國府ヲ立府中ヲ定ムルコト、土地ノ中ヲ以テスルニ非ズト可レ知也、彼南蠻天ノ中ニアタルト云ドモ、四時ト、ナフベカラズ、萬物時ヲ不レ可得、何ゾ是ヲ中トスルニタラシヤ、只此三國ノミ水土ノ氣脈一ツニシテ、天地ノ中ヲウケ人物所ヲ得ルガ故ニ、人ニ聖神アリ物ニ神龍神馬神草ヲ生ジ、大道正義ヲ以テ用トシ、德ヲ天地日月四時ニ合テ、更ニ違コトアラザル也、四夷八蠻ハ奇人異物アツテ、異事怪說ヲ以テ用トス、故ニ東海黃公ガ幻術、天竺ノ佛圖澄、鳩摩羅什ガ妖通、吞レ刀吐火ノ方術、其奇特ナキニ

非ト云ドモ、皆正道ニ非ザルハ水土相違イ氣脈不レ正ヲ以テ也、サレバ天地ノ正氣ヲ不レ得バ萬物ノ聲色モ不レ正シテ、可レ觀可レ觀シテ教トシ俗トスベカラズ、唯三國ノ地脈ノミ其中ヲ得ル也、凡國中ニ此度則可レ知ニ人ノ爲人
○問云、天ノ中ハ赤道又ハ北極南極タルベクシテ、此三國ハ皆コレヲソムイテ氣脈正事クワシキ子細猶イ
答云、陽明ヲ前ニウケテ陰幽ヲ後ニス、人物ノ形骸各然リ、今北極地上ニ出ルコト三十六度ナルガユヘニ、赤道南ニ傾事凡三十六度、故ニ日月五星皆南ヲ運行ス、シカレバ人物ノ形骸自相應ズ、聖人南面シテ天下ヲ政、群臣北ニ向テ手ヲ拱、聖人立玉フ處ノ則今天地ノ形ニ不レ違、サレバ孔子曰、爲政以德、譬如北辰居其所而衆星共之、易曰、離萬物皆相ニ見南之卦也ト、是乃天地ノ形體ヲ今日ニ用ユルノイ、ナルベシ、今三國此ノリニ當ルヲ以テ、水土地脈ノ氣他邦ニ準ズベカラザル也、昔唐虞ノ世帝都ヲ冀州ニ定メ玉フ、此國ノ形牂北ヲ後トシテ南ヲ前トス、水土ノ氣甚盛ニシテ天下ノ文物相成レリ、天下ヲ九州ニワカツテ冀州ハ中國ノ北ニヨツテ天下ヲ南ニウク、古今建都

之地、皆莫^レ有^レ過^レ此ト舊記ニ出タリ、是乃天地ノ正氣ヲ考テ其都ヲ立玉フナルベシ、サレバ三國水土ノ氣脈天地ノ正ヲウルコト不^レ可^レ疑也、凡萬物直ニソノ氣ヲウクルトキハ、却テ其物不^レ正ト云ヘリ、火ハアタ、カナリトイヘドモ、直ニ是中^ルトキハ却テ害生ズルガ如シ、コ、ヲ以テ考フレバ直ニ天ノ中ニアタリ、北極ヲ戴赤道ヲ上ニ蒙ルトキハ、寒暑節ヲ過テ人物ソノ宜ヲ不^レ可^レ得、サレバ北極赤道三十六度ノヒツミアツテ、コノ地ニ其氣ヲ承ルコト正シキナルベシ、君臣父子ノ間朋友ノ交際、皆コレ節ニアラザレバ過不及ス、況ヤ衣服家宅食物、皆以^レ節爲^レ用也、○問云、本朝ト異朝ト人物水土ニヨツテ優劣アリヤ、答云、大唐ハ甚大ニシテ南東ノ方少シ海ヲウク、其外コト^ハ陸地ニ相ツバケリ、其國土大ナルヲ以テ其生ズル處ノ人物モ大ニシテ其氣其性モ亦大ナリ、故ニ人ニ聖人出、物ニ麟鳳龜龍ヲ出ストイヘドモ、亦人ニ大惡大暴アツテ殷紂夏桀盜跖陽貨ガ類、世世ニ不^レ乏、春秋ノ時ハ未ダ上代ニ近シトイヘドモ、春秋一經ニ君ヲ弑セル大逆ヲシルス事二十有五、其中子トシテ父君ヲ弑セル甚多シ、況ヤ魯惠公、子ノ爲

ニ宋ニ娶テ甚カホヨシトテ奪テ自メトリ、衛宣公、子ノ爲ニ齊ニメトツテ美ナリトテ自コレヲ奪フ、楚平王蔡景公モ亦然リ、晉獻公ハ父ノ妾ニ通ジ、衛昭伯ハ父宣公ノ妾ニ通、晉惠公ハ父獻公ノ妾賁君ニ通ジ、齊襄公ハ姊ニ相通ジ、晉祁勝興^ニ鄆臧^ニ酒ヲ弄テ室ヲ易、鄭伯有ハ窟室ヲカマヘテ長夜ノ飲ヲナシ、魯ノ穆伯ハ色ニ惑テ莒ニ奔リ、楚ノ申公巫申ハ夏姬ニヲボレテ晉ニ走ル、晉范宣子ハ鄭ニ行テ玉ヲ求メ、楚襄尾ハ玉ト裘トヲ蔡ノ昭公ニゾミ、宋襄公楚子魯ノ季平子各人ヲ以テ牲トシテ神ヲ祭ル、是等ハサシモ名アル君臣トイヘドモ、其不義無道ノ書ニアラワル、コト可^レ見、ソレ春秋ハワヅカニ百四十二年ノ間ヲシルシテ如^レ此、況ヤ開闢ヨリ大明マデノ間天下姓ヲ替三十姓ニ垂トス、ソノ間君臣ノ無道、男女ノ無禮、財寶利祿ノ私、酒宴遊興ノ流荒アゲテ云ベカラズ、サレバ又賢人君子忠臣義士勇夫烈婦文人博學ノ輩モ甚多シ、是大國ニシテ其善惡モ亦甚大ナルコトアリ、然レドモ大綱大義ハ君臣父子ニアツテ多ハ子トシテ父ヲ弑シ、臣トシテ君ヲ弑セシコト多ク、剩戎狄ニ天下ヲ奪レテコレヲ君ト仰グコト度々ナレバ、正

統明ナリト云ベカラズ、次ニ朝鮮ハ昔武王箕子ヲ封
ゼシ地也、ソノ國始ハワヅカノ土地ニシテ、人民モ少
ク風俗スナハナリケル、箕子制八條之教王ヘリト也、
其後燕人衛滿朝鮮近燕ニ奪レテケル、漢ノ武帝朝鮮ヲ割テ
四郡ニ定メコレニ王ヲ不レ立、コ、ニ扶餘國ノ朱蒙ト
イヘルモノ來テ朝鮮ノ地ニ居テ高氏ト稱シ、國ヲ高
麗ト號ス、コノ者漢ノ比ヨリ朝鮮ヲ從テ後ニ王號ヲ
稱シ、高麗ガ時平壤ニ都ヲ立テ長安城ト號シ、相續デ
王タリ、唐攻ニ高麗ニ平壤城ヤブレケレバ、コノトキ高
麗ノ王孫高氏タヘケルヲ、五代ノ時王達ト云モノ又
ノコレル高氏ヲタイラゲテ此國ニ王タリ、而シテ新
羅百濟ヲモアワセ、都ヲ松岳ニウツシ平壤ヲ以テ西
京トス、大明洪武ノ比ソノ臣李成桂ト云ヘルモノ、主
人ヲ弑シテ立テ高麗ニ王トシテ、大明ニコフテ國號
ヲ改、コレヨリ今ニ至マデ朝鮮ト稱セリ、シカレバ其
國亡ブルコト二度姓ヲ替ルコト四度也、ソノ俗其陰
陋ニシテ尤モ釋氏ヲ信ジ、王ノ子弟必僧トナル、鬼人
巫史ヲ信ジテ聖經ヲシラズ、唐ノ武德中ニ高麗ヨリ
使ヲ奉テ道經ヲ習故ニ、ソノ國政不明、サレバ大明
ノ洪武帝、問ニ高麗使者ニ曰、王居國何爲、城郭修乎、

甲兵利乎、宮室壯乎、使者頓首云、東海之波臣、朝夕
禮覺王ニ甚恭也、他未レ皇也、璽書諭レ王、佛法非レ所
以治國、梁武後世之前車也、王其母レ惑云々、其後文
學々書アリトイヘドモ、更ニ聖教ヲ不レ知、況ヤ武義
ヲコ、ロエザルガ故ニ、兵器弓馬モ不レ宜トイヘリ、
或ハ契丹ニ從、或大明ニ屬ス、其國八道ニワカツトイ
ヘドモ其兵三十萬ニ不レ出也、大唐ニモ外夷ノ來聘使
高麗ヲ以テ大ナリトス、コノ外ニ新羅ハ唐ノ玄宗コ
レヲ號ニ君子國、百濟ハ以百家濟ノ小國也、各本朝ニ
從テ命ヲウク、トモニ本朝ノ人物ニシカズ、皆釋氏ヲ
貴テ道ノ道タル事ヲ不レ知也、本朝ハ海中ニ獨立シテ
四時ツイニ不レ違、五穀ツチニ豐饒也、往古ノ聖神此
國ヲ國中柱ト定メ、豐葦原ノ中國ト稱シ玉フハ、是其
天地ノ中精ヲ本朝ニウレバ也、又千足國トモ秀眞國
トモ瑞穗國トモ云ルハ、萬物生々シテカクルコトナ
ケレバ也、其形獨立シテ四邊ニ地ツバカズ、外國襲來
ノヲソレナキガユヘニ、玉墻內國浦安國ト云ヘリ、水
土用レ武ニタリテ、礮馭牙鋒滴瀝之潮瀝之名盧嶋細戈ノ國トモ云
ヘリ、コ、ニ天神地神ト崇メ玉ヘルハ、乃マサシク聖
神ニシテ天御中主命國常立尊天照太神ト稱シ奉ル、

其名號自聖人ノ道ヲ備ヘ奉ルナリ、而シテ人皇ノ最初、神武帝天下ヲ平均マシ、テ天神地祇ノ宗廟ヲ祭、萬々世政ヲ示シ玉フノ後、今ニ至ルマデ二千五百歲ニ及ブ、ソノ間人皇ノ正統相續シテ姓ヲ替ルコトアラズ、君々タラザレドモ臣々ノ道ヲ不レ失ト云ベシ、而シテ神功帝三韓ヲ征シ玉フテ高麗新羅百濟各服從シテ三國毎年八十艘ノミツギモノヲ奉テ、不_レ乾_ニ船機_ト誓ヘリ、況ヤ任那安羅加羅等ノ屬國ハアゲテ不_レ可_レ數、應神帝七年三國并任那ノ使來朝イタセルヲ、武內宿禰ニ命ゼラレテ、諸ノ韓人ヲアツメテ以テ池ヲホラセ玉フ、コレヲ韓人池ト號シテ今ニアリト也、コレハ外國ノ降參イタセルトキ、長ク與_ニ乾_ニ坤_ニ伏爲_ニ飼部_ト住吉天王ニ誓タリシ、ルシノワザコト、也、其後雄略朝、筑紫安致臣等、伐_ニ高麗_ニ、欽明朝、大伴狹手彥伐_ニ高麗_ニ、乘_レ勝テ五城ヲセメヲトシ、瑞寶ヲ取シコト各舊記ニ明也、況ヤ新羅百濟少本朝ニシタガワザレバ兵ヲ發シテコレヲ征ス、征シテ三國無_レ不_レ從、應神帝ノトキ高麗ノ表無禮ナリト云テ、太子稚郎子コレヲ引破テ使者ヲトガメ、仁德帝ノ朝本朝ノ勇ヲハカランガ爲、高麗ヨリ鐵ノ盾ヲ獻ゼシ

ヲ盾人宿禰ニ命ジテコレヲ射スカセ玉フ、高麗ノ使者色ヲ失テヲソレ服セリ、敏達ノ朝日本ノ文才ヲハカランガ爲ニ、表ヲ烏ノ羽ニカイテ奉リケレバ、楊震爾コレヲヨンデ不_レ惑、サレバ高麗文武トモニ本朝ニ及ベカラズ、況ヤ豐臣家ノ朝鮮征伐ヲヤ、コ、ヲ以テ案ズルニ四海廣シテ國々多シトイヘドモ、本朝ニ相比スベキ水土アラズ、大唐ト云ヘドモ本朝ノゴトク全キコトアラザル也、只文才ハ異朝ヲ以テ準據トス、文才ハ外ノ用ニシテ實義ニ非ズ、本朝ハ本朝ノ言語文字ニシテ、古今事タラズト云事ナシ、凡ソ上古聖神教爾ノ道、中古武將ノ制法、多クハ異朝ノ聖人立玉フ處ノ、リニ無_レ不_レ應、サレバ歌曲ハ鬼神ヲ感ゼシメ、風俗催馬樂ハ天下ノ國俗ヲタビシ、祭祀ハ天地宗廟ヲ本トス、況ヤ忠臣義士文才博學ノ類不_レ可_ニ枚舉_一也、コトニ和漢相通ズルノ後ハ、漢ノ文才ヲウツシテ以テ我國ノオトスルコト、又大ナル道ナリ、故ニ阿倍仲滿ハ、盛唐ノ詩人李白王維ニ交テ其才ヲ稱セラレ、唐朝ニ仕ヘテ北海郡開國公ニ封ゼラレ、食邑三千戸ニ及ビシト也、仲滿本朝ヨリ行テソノ才如此、シカレバ彼國ノ文才習學ニタヤスカルベシ、サレバ中

古ニ及デ詩作文章又異朝ニヲトルベキニ非ズ、コレ皆其習俗ニヨルコト也、本朝ノ人物禮用自ラ聖人ノ道ニ相合テ、而シテ異朝ノ聖經スデニ往古ヨリ相ワタリ、コレヲ考ヘアワセテ以テ其道ヲ立玉ヘル代々ノ政教ナレバマコトニ本朝ノ風化甚大ナリト可レ謂、末代ニ及デ本朝ノ風儀古今ノ事實ニ通ズルモノ少キガユヘニ、耳ヲ信ジテ目ヲ賤ンジ、奇ヲ好デ常ヲ忘レ、少シ文オヲ弄トキハ大唐ヲ稱美スルコト甚過テ、本朝ヲ以テ異國ノ風俗タラシメンコトヲ欲スルニ至ル事尤可ニ嘆唉ニ也、唯文學ニ便テ以テ異朝ノ聖人大道ノ極ヲ立玉フ處ヲ考ヘテ、以テ本朝治化ノ輔佐トスルニタヘタリ、彼ノ詩作文章ハマコトニ學者ノ風流ニシテ、以テ本朝ノ俗ニアラストイヘドモ、是又兼知テ事物ノ用ヲタラシムルノミ也、更ニコレヲ必トスル事ニ非ズ、況ヤ講レ武用レ兵ノ道ハ四海ノ間本朝ニ相并ブ處アラズ、異國尤モ本朝ヲソレテ、邊戍ノ戒以防我第一トス、大明ノ洪武帝祖訓ヲ末代ニタレテ、大明ノ教戒トスルニ日本也、日本ト通ズベカラズトアルハ、勇武ヲ恐レテノ事也、コレ西海未レ靜ノ間、日本邊鄙商船彼國ニアタスルニシテ、兵士ノナス事

ニ非ズトイヘドモ、是ヲ、ソレテ大明ツイニ勘合ヲナサル也、然レバ四海ニナラビナキ大唐ト云ドモ、文物武備更ニヲトルベカラズ、コトニ高麗ノ季氏ハ本我天神ヨリ住吉天王ニ賜フ處ノ國也、コレヲ征スルニヤスシ、故ニ云本朝ノ人物四海ニ長タリト也、○問云、古來遣唐使ヲ以テ日本コレニ臣ト稱セント云ヘルハイカン、答云、凡ソ本朝ノ孝靈帝ノ時、秦ノ徐福本朝ニワタリテ、五帝三墳ノ書ヲ持來ル、乃今ノ秦氏ハ徐福ノ末ナリト云傳ヘタリ、サテ後漢光武中元二年本朝聖仁帝八十八年ニ始テ兩國相通ジ、推古帝ノ時ニ書簡ノ往來相始、此時聖德太子自書シテ曰、日出處天子致書日沒處天子ト、是隣交ノ儀ニシテ大唐ニ属スルニ非ズ、此時隋煬帝大業四年ニ當、煬帝此書簡無禮ナリト怒リ王ヘドモ、亦其氣象高遠ナルコトヲアヤシミ、裴世清等十三人ヲ本朝ニ至ラシム、其書ニ皇帝問ニ倭王トアリ、聖德太子コレヲ見テ天子ノ號ヲ黜ルコトヲ怒リ、ソノ使ヲ不賞シテ報書ニ又東天皇曰ニ西皇帝トカ、シメ玉ヘリ、其後代々相續テ隣交ノ義アリトイヘドモ、日本遂ニ不稱臣、故ニ代々ノ書簡ニ臣

ノ字アラズ、其後大明ノ太祖洪武六年本朝ノ應安六年ニアタツテ、大明ノ天寧寺ノ住持仲猷諱祖闡瓦官

教寺ノ長老無逸諱克勤、使ヲ奉テ筑紫ニ至テ日本ノ天台座主ニ書ヲ寄ケル中ノ言ニ、是ヨリ先三度マデ使ヲ以テ書ヲ通ゼラレケレドモ、關西ニサ、ヘラレテ不レ通ガ故ニ、此兩僧ヲ以テ使タラシムトノ事、是本朝西海ノ賊舟彼地ニ至テ邊境ヲナヤマス事ヲ苦デ、隣交ノ義ヲ繼ントノ事ナリ、應永ニ至テ源義滿卿ノ時、大明國ヘ好ヲ通ゼラレシ時、日本國王ト書シ、臣聞ト云字ヲ加、是古例ニ非ズ、本朝ツイニ臣ト稱スルコトアラズト、其比コレヲ評セリ、其後文明七年大明國ヘ遣ス書ノ端書ニ、日本國王臣源義政トシルス、書ノ末ニ又臣源義政トシルセリ、是僧横川製スル處ナリ、甚以本朝ノ通例ニ非ズ、五典三墳ノ書ヲ得、周公孔子大聖德ノ文書ヲ考ヘテ、以テ本朝ノ治化ノ輔ケトス、異朝隣交ノ義甚重トイヘドモ、本朝ノ水土ニヲイテハ異朝ノ制ニ專準據ナリガタシ、故ニ年號ヲ別ニ立天子ヲソナヘ奉テ又四海ノ風俗ヲ立、シカレバ異朝ニ對シテ臣ト可レ稱ノ道アラザル也、コ、ニ永樂ノ比ヨリ勘合ノ事出來テ縉素ミダリニ渡唐スルコト

アラズ、唯彼國ノ商船往來シテ近比ハ隣交ノ好ヲ修スルニモ不レ及ナレリ、

○問云、本朝水土ニ因テ治國ノ要アリヤ、答云、禮ニ云、凡居ニ民材ニ必因ニ天地寒暖燥濕ニ廣谷大川異レ制、民生ニ其間者異レ俗、剛柔輕重遲速異レ齊、五味異レ和、器械異レ制、衣服異レ宜、脩ニ其教、不レ易ニ其俗、齊ニ其政、不レ易ニ其宜ト出タリ、サレバ能其土地ノ水土ヲ考ヘテ其治ヲナス事聖人ノ戒也、凡ソ遠ク云トキハ四夷八蠻中國合テ五方八方ノ末々、皆ソノ風土コトニシテ其俗大ニコトナリ、其地ノ俗古ヨリアリキタリ、ナシ來レル事ヲ一旦ニ替ステンコトハ、ツイニ不レ可レ叶コト也、ソノ上ソノ俗ヲ以テ其土地相應ノコトアルモノナレバ、其ワカチヲ詳ニ格物致知セザレバ其用タラズ、其用タラザレバ民コレヲ安ゼザル也、近ク本朝ノ内ニテ考フルニ、北國東奧ハ十月ヨリ霜雪盛ニシテ日月ヲ不見、來二月マデ然リ、南西中國ハ雪ヲミルコトマレニシテ、暴風陰寒マレナリ、タトヘバ五畿ノ中國トイヘドモ、ソノ國中十里廿里三十里ヲ隔ルトキハ、寒暖カワリ燥濕不レ同、シカレバ少ノ所ト云ドモ是ヲ詳ニキワメズシテ、一樣ニ沙

汰センコトハ、政ノ正ニアザルト可_レ知也、

○問云、水土ト云ヘルコトハ何ノイ、ゾヤ、

答云、水土ト云ヘルハ人ノ生土ト水トヲ以テ生長ス、豈人バカリナランヤ、草木鳥獸魚蟲玉石ニイタルマデ、水土ニヨラズト云コトナシ、水ハ物ヲウルヲシ、土ハ物ヲヤシナフ、人一生ノ養、水ヲノミテ渴ラヤメ、食ヲクラツテ飢ヲタスク、其ノム所ノ水四支百骸ヲウルヲシ、ソノ食所ノモノ一身ヲヤシナフ、是水土ヲ貴ブエヘン也、シカルニ水善惡アツテ輕重清濁甚相タガフ、土ニ九品アツテ所ニ其生ニ物コトノク別也、コレニ因テ相生々スル人物各其性ヲコトニス、サレバ生ニ平易之地_一モノハ、有ニ平易之氣質_一而有ニ平易之性、生ニ險阻之地_一者、有ニ險阻之氣質_一而有ニ險阻之性、生國中者、其氣質性情寬大也、生邊鄙者、其氣質性情陋隘也、萬物カクノ如シ、雪國險阻ニ生ズル牛馬ハ、ヨク險ヲシノイデ寒ヲ忍ブ、草木甚堅牢ニシテ而其材重ヲノセツヨキニタユル也、暖國平易ニ生ズル牛馬ハ寒ヲシノグ事不_レ能、險ヲユクコト不_レ快、草木甚慳柔ニシテ堅牢ナラズ、故材木棟梁ハ必ズ寒險ノ地ニ生ズルヲ用、花葉菜根ハ皆暖國ニ宜シ、コレ水土

ノカワレルガユヘ也、マコトニ五方之民皆有_レ性也、不_レ可_レニ推移_一也、古ノ大舜ハ東夷ノ人也、文王ハ西夷之人也、地之相去也千有餘里、世之相後也千有餘歲、得_レ志行ニ乎中國_一若_レ合_ニ符節_一、先聖後聖其揆一也トイヘリ、然レバ邊鄙ト云ドモ豪傑大英雄ニ於テハ不_レ可_レ異トイヘドモ、江南ノ橘江北ニウツサレテ枳トナリ、南枝北枝之梅開落既ニ異ナレバ、水土ノ替リ不_レ可_レ疑也、次ニ水土ト云ヘルコト仲尼上律ニ天時、下襲_ニ水土_一トノ玉ヘル言也、後世ニ及デ郭璞ガ風水之說アリ、無_ニ風以散_一之、有_ニ水以界_一之也ト云ヘル義ニシテ、トニ其宅兆_一コトニイヘリ、朱子又冀州ノ都タル事ヲ論ジテ天地ノ中間好風水ト云ヘリ、風水ノ義ハ後世ノ意見ニシテ甚アヤマレリ、郭璞ガ說不_レ足ニ信用_一也、凡ソ萬物皆水土ヲ以テ美惡剛柔ヲサスト云コトナシ、是水土ニヨラザレバ事ヲコナワレザルユヘン也、昔仲雍大伯ニ嗣デ吳ヲ治メシ時斷_レ髮文_レ身禰以爲_レ飾トイヘリ、是吳ノ水土シカラザレバ不_レ可_レ治ヲ以テナリ、夫子水土ニ襲_トノ玉フコト、甚萬世ノ教ト可_レ云也、

○問云、水土ノ說ヲ聞トキハ、帝都王城ノ考アルベキ

コト也、其説ヲ承ランコトヲ願、

答云、帝都王城ハ萬民ノ止マル處、四方ノ諸侯來會シ萬物コ、ニ相聚ルノ地ナレバ、コレ天下ノ、リトスル地也、サレバ詩ニ王都ヲサシテ四方之極ト云、周禮ニ以爲ニ民極也、極ハ北極之義、檀準之名ニシテ四方コレヲノットツテ郡國ヲ正スノ心也、然レバ先水土ノ中ヲ考フベシ、水土ノ中ト云ハ以前ニ所謂人物ノ宜シテ、其精秀ノ氣アラン處ヲイヘリ、周禮ニ大司徒土圭ヲ立テ國ノ中ヲハカリ日ノ景ヲツモリテ、天地之所レ合、四時之所レ交、風雨之所レ會、陰陽之所レ和、以テ王國ヲ建、畿方千里ヲキワムルト云ハコノ事也、凡ソ一民一夫ノ家宅ヲ制スルニモ、水ニタヨリ山林ヲカタドリテ、所ノ風濕寒暖連送ヲ利セズト云コトナシ、若シカラザレバ人ツイニ不ニ聚居、ツイニ不レ安ハ當然ノ道ナレバ、水土ヲ詳ニ考フルコト是都城ヲ建ルノ第一也、シカレバ水氣地脈ヲ考ヘ、而シテ土地ノ廣狹ヲハカリ、要害ヲツモリ蕃屏維持スルユヘンヲ考、四方參勤朝貢運送驛路ヲ詳ニハカルコト也、古人云、必辨ニ其方東西南北前後左右ニ於レ此而取レ正也ト云ハコノ心ナルベシ、次ニ都邑ノエラビハ險固ヲ

要トイタスト、平易ヲ要トイタスト、此ニツ古來ノ制ナリ、分内廣シテ後ハ山ニ便リ前後左右ニ河海ヲ帶タル地、コレソノ撰ニ相カナヘル所也、如レ此トキハ都城ノ繁榮日々ニサカンニシテ、人民居ニクルシマズ、運送ソノ利ヲ得テ用レ武致レ兵ニタヨリアリ、文武相兼テ德厚ク世盛ナルニモ德薄シテ世衰フルトモ、兩ナガラ其利ヲ可得也、コレ古人ノ四神相應トイヘルナルベシ、

○問云、古來土圭ヲ以テ地ノ中ヲ考フルノ制イカン、答云、土圭ヲ以テ地ノ中ヲ考フルコトハ、周禮大司徒土方氏ノ職ニ出ヅ、則周書ノ洛誥ニ所謂自服ニ于土中トイヘルハコノコト也、土圭ハ四時日月ノ景ヲハカルノ表也、詳ニ舊記ニ出タレバ其法コ、ニ略レ之、出周禮大司徒土方氏匠人之職土地ノ中ハ以前ニ論スル如ク、水土ノ善惡ヲ考ヘ、其精秀ヲトツテ中ト云也、タトヘ地ノ形ハ中ニカナヘリト云トモ、人物ノ氣ソノ中ニアタラザレバコレヲ中ト云ベカラズ、コ、ヲ以テ考フルニ天下ノ土地四時人物ヲ詳ニ考ヘ、其精秀ヲ以テ圻内ヲ定メ都城ヲキワメ、而シテソノ中ニヲイテ其土中ヲエラミ、險易ヲ計テ王宮城郭ヲ構フベキ也、周ノ洛

邑ヲ土中ト云ヘルモ此心ナルベシ、サレバ三代ノ時ハ洛邑ヲ中國ノ中トサダムトイヘドモ、既ニ宋明ニ及ンデハ天下ノ勢タガツテ荆襄ノ間ヲ以中國ノ中ト定ム、朱子曰、豈非天旋地轉閩浙反爲天地之中ニ先儒云、閩浙在東南海盡處、難_レ以爲_レ中、朱子蓋以_レ聲明文物_レ通_レ論天下、非_レ論地勢也トイヘリ、故自_レ古天地ノ中ヲ論ズル事ハ、上ハ天ノ時ヲ考、下ハ地ノ利ヲハカリ、而シテ人物ノ實ヲ不_レ計ハマコトノ中ト不_レ可_レ言也、本朝ノ王圻内昔ハコレヲ中國ノ中トス、今ハ關東ヲ東都ト定ムルガ故ニ、甲_レ相總武房常、以テ圻内ノ蕃屏ヲナシ、江城コレ天地ノ中ニ相カナツテ、水土人物處ヲ得ニイタレリ、唯ソノ時宜ニ從テ天地ノ道ヲ考フルコトマコトノ格致タリ、一事ニツイテソノ論ヲキワムベカラザルナリ、

○問云、古來王城ヲエラムニハ其中國ヲ以テ本トシテ、險固ノ沙汰ヲ不_レ聞、マコトニ險ハ在_レ德ト云ヘルノコトワリナカラシカ、

答云、文武二ツナガラ全シテ而シテ後ニソノ道ヲ得ベシ、故ニ文德ヲ修シテ武備ヲ全クスルハ聖人ノ教也、昔周公旦周王ニ輔佐シ玉フテケルトキ、成王ノ都

ハ鎬京ト號ス、コレ天下ヲ重ジ宗トスル地ナレバトテ宗周ト號シヌ、此地至テ堅固ニシテ四方ノ參向ツカレ多ヲ以テ、周公洛陽ヲミタテ、東都ヲ立、コレヲ成周ト號シ、周ノ德コ、ニナレルトノ心也、而シテ實ハ鎬京ニ都シ玉フテ、清廟ヲ洛邑ニ立、天下ノ諸侯相會シテ、周ノ政ヲウクル地ト定メ玉ヘリ、是居險而行_レ事於易_レ玉フニアラズヤ、サレバ周ノ八百年ノ天下コノ兩都ヲ基トセル也、人君ノ德常ニカバヤク事ナシ、必ズ時ニトツテ衰_レ事ナクンバアラズ、只盛德ヲタノンデ險ヲ不_レ事ハ、險ヲ恃_レ德ヲ事トセザルニ相同ジ、君子曰、古之王者知_レ命之不_レ長、有生必是有死是以_レ竝建_レ聖哲樹_レ之風聲、因_レ土地之風俗爲_レ分之系物、蓋旗各有_レ著_レ之詰言也、善言爲_レ之律度、陳_レ之藝極、藝準也、引_レ之表儀、予_レ之法制、告_レ之訓典、教_レ之防利、委_レ之常秩、道_レ之以_レ禮、則使_レ母_レ失_レ其土宜、衆隸賴_レ之、而後卽_レ命、雖_レ死無憾聖王同_レ之トイヘリ、サレバ明君ハ違_レ世詒_レ之法_レト云事アリ、唯當時ノ靜謐ヲ思テ子孫ノ衰世ヲハカラザルハ道ニ非ト可_レ知也、次ニ險ハ在_レ德ト云事、吳起魏ノ武侯ニ答曰、在_レ德不_レ在_レ險ト云ハ、武侯專山川ノ險ヲ恃_レ德コトヲイタシ玉ハザルヲ

シ言ニシテ、非ニ通論也、晋平公曰、晋有三不殆、其

何敵之有、國險馬多國無司馬侯曰、恃險與馬、而虞鄰

國之難、是三殆也、四嶽三塗、陽城、大室、荆山、中南、九

州之險也、是不一姓、無德則滅亡冀之北、土馬之所、生無

與國焉、恃險與馬、不可以為固也、從古以然、

是以先王務修德、音以享神人、不聞其務險與馬

也、是皆ソノ君險ヲ必トスル事ヲ戒テ、務險固却テ

害トナル事ヲイヘリ、サレバ吳起ガ言ハ不レ在險ト

云、女叔齊ハ不聞其務險ト云、是吳氏ガ言ニ失アツ

テ女叔齊ガ言ニ失ナシ、唯修德設險テ體用一致ニソ

ナワルト云ベシ、次ニ三王ノ後ハ人皆武ヲ以テ天下

ヲ草創ス、故都邑ノ撰又古ニ大ニ同シテ小シコトナ

リ、サレバ漢ノ高祖天下ニ一統ノ後、洛陽都セントノ玉

ヘリ、コ、ニ齊人婁敬諫ヲ奉リケルハ、洛陽ハ周ノ都

セシ地ニシテ薄德ノ人ノ都スル地ニ非ズ、若上ニ文

武成王ノ德アツテ、周公召公ノ政ヲイタス臣アラ

ニハ洛陽可レ然、ソレトテモ後代ニ及デハ天下ノ亂ヲ

制スベキ地ニ非ズ、德薄形勢弱也、唯秦ノ故地、長四方

ノ固アツテ、若有急、長百萬ノ衆可立具ト云ケル、帝

コレニヨツテ都邑ヲ立玉フ事ヲ群臣ニ尋玉フ、群臣

皆云、洛陽ハ周ノ代數百年相續ノ吉地、秦ハワヅカ

三世ニシテ亡、尤モ凶地ナリト申ス、シカレドモ張良

申シケルハ、洛陽雖有固、東有成皋、西有殽、其中小不

過數百里、田地薄、四面受敵、非用武之國也、關

中左殽函、右隴蜀、沃野千里、南有巴蜀之饒、北有

胡苑之利、阻三面而守、獨以一面東制諸侯、諸侯

安定、河渭漕輓、天下西給、京師諸侯有變、順流而

下、足以委輸、此所謂金城千里、天府之國也ト、コ、ニ

ライテ即西都關中トナリ、コレ古來專土地風氣計

ヲ事トス、漢ヨリ以來用武ノ利地ヲ考フル也、凡大

唐ノ都方々ニアリトイヘドモ、キワメテ四箇處也、洛

陽ハ周ノ都ニシテ、其土地甚廣平也、後漢ノ光武コ

レニ都アリ、長安ハ張良ガ稱美スルノ地、乃秦ノ都前

漢并ニ唐コレニ都アリ、汴梁ハ宋ノ都、幽燕ハ大明ノ

都也、コノ外鄴臺、金陵、錢唐ニモ都アリトイヘドモ、右

ノ四都ニ不レ出、而シテ古ノ四都又在險與易、然レバ

古今ヲ考水土ヲハカリ、時宜ヲ以テ不レ論バ不レ得、其

實也、次ニ本朝ノ帝都ハ本日向ヨリ和州ヲ以テ初ト

シ、後ニ此京ヲ四神相應ト定メテ、是ヲ平安城ト號シ、

遂ニ今ノ都ヲ以テ周ノ都ニ比ス、武家ニ至テ源賴朝

卿、相州鎌倉ニ武館ヲマフケ柳營ヲ建、此地殆ど關中ニ不_レ異、北條數代因循シテ相守リ、高時ニ及デ敗亡ストイヘドモ、四方ノ要害固シテ、暫ク外ヲ防ニ利アツテケリ、源尊氏卿、建武ノ一統ノ時群臣相聚テ柳營ヲ京鎌倉ノ間ニ可_レ建ノ評アリシ時、居處之興廢可_レ依_レ政道之善惡、是人凶非_レ宅凶之謂一也ト一決シ、ツイニ京都ニ柳營ヲサダメ玉ヘリ、竊案ズルニ五畿内ハ文治ニ宜シト云ドモ、用_レ武ノ地ニ非ズ、サレバ公家一統ノ政務ノ時ハ、長久ナリトイヘドモ、柳營コ、ニマフケラレテハ、必ズ武ヲ忘游宴風流ヲコト、スルニ至テ、ツイニ終ヲ全クスルコトヲ不_レ得、公父文伯ガ沃土之民、不材淫也、瘠土之民莫_レ不_レ嚮_レ義勞也ト云ヘルハコトワリ也、昔晋都ヲウツサント議シケル時、諸大夫皆曰、必居_ニ郇瑕氏之地_一、沃饒而近_ニ鹽_一、國利君樂不_レ可_レ失也、韓獻子_{韓厥也}曰、郇瑕氏土薄水淺、其惡易_レ觀、不_レ如_ニ新田_一、土厚水深、居_レ之不_レ疾、_{高燥也}有_ニ汾澮以流_ニ其惡_一、且民從_ニ教_一、十世之利也、夫山澤林鹽、國之寶也、國饒則民驕佚、近_ニ寶公室_一乃貧、不_レ可_レ謂_レ樂、公說從_レ之、マコトニ古人水土ニ因テ、人ノ機ヲ察スルコト如此、サレバ京家ノ公方竝豐臣家ノ

終、皆可_ニ并案_一也、是只其サシアタレル安居ヲ事トシ、其居所ヲ去コトヲ不_レ得シテ、長久ノ謀アラザレバナリ、大權現柳營ヲ武ノ江都ニ定メ玉フ、此地險ヲ遠クマフケ易ヲ近シテ異朝ノ洛陽長安ヲ一所ニアツメシニ不_レ異、故ニ永祚長久ノ基、マコトニ本末體用兼備スト云ツベキ也、次ニ、選都ノ事土地狹ク人民日々ニ衆シテ、都ヲ他ニウツスハ、マコトノ選都ニシテ、次第ニ永久ノ道アリ、コレ成王ノ洛邑ヲエランデ、清廟ヲ立玉フエヘン也、若勢衰ヘテ敵ニ氣ヲノマレ、都ヲ他ニウツサンコトハ衰世ノ政ナレバ、沙汰ニ不_レ及也、是周幽王犬戎ニ殺サレテ、平王洛陽ニウツリ、コレヲ東周ト云ノ類也、ソノ後東晋南宋皆遷都アツテ衰フ、楚ハ都ヲ都ニウツシテ衆心堅クシ、邾ハ澤ニウツリテ民和、光武ハ洛陽ニウツリテ都ヲ立玉フハ、勢大ニ人衆ナレバナリ、本朝遷都古來ヨリ多シ、洛陽ノ遷都以後ハ福原ノ遷都ノ沙汰アリシ外無_レ之、凡ソ都ヲウツサンコト、天下ノ騷動人民ノクルシミナレバ、水土險易ノ考、人民ノ利甚深カラズシテハ、必衰政ノ政タルベシト可_レ知也、次ニ、兩都ノ事周ニ鎬京ノ本トシテ、洛邑ニ清廟ヲ立ラレシヨリ、異朝

各兩都ノサタアリ、シカレドモ其間不_レ遠去、本朝ニモ離宮行宮アリテ以爲_二兩都_一ノコト多シ、武家天下ノ權ヲ取テ後鎌倉ヲ東都トシ、洛陽ヲ西都トス、洛陽六波羅ハ是武家マフケト致ス處也、源尊氏卿ノ時ハ、京鎌倉兩家ノカマヘ兩都ニ不_レ異、豐臣家ニモ伏見難波ヲ以テ兩都ニ比ス、大權現御治世ニ及デ、江都難波ヲ兩都ニマフケ玉テ、東西ヲ并吞シ、京都ニ別館ヲマフケテ、王城ヲ守護セシメ玉フ、是古今都邑ノ制ト云ベキナリ、

○問云、帝都柳營ハ城郭ヲカマヘズト云ヘリ、禮記ニ今大道隱、天下爲_レ家、各親_二其親_一、各子_二其子_一、貨力爲_レ己、大人世_{父傳子}及_{爲及}兄傳弟_及以爲_レ禮、城郭溝池以爲_レ固ト出タルハシカリヤ、

答云、險ヲマフケ阻ニヨルハ聖人ノ教也、サレバ易ニ天險不_レ可_レ升也、地險山川丘陵也、王公設_レ險以守_二其國_一、險之時用大矣哉ト出タリ、周禮ニ司險ノ職ヲ立テ、掌_二九州之圖_一以周、知_二其山林川澤之阻_一、掌固之職ヲマフケ、修_二城郭溝池樹渠之固_一、コレ王公設_レ險ノイイニアラズヤ、故ニ人君本_二乎內治之修_一而、亦致_二外患之禦_一、コレ體用本末ヲカヌルノイ、也、コ、ヲ以テ

云トキハ、內文德ヲ修テ衆ノ心ヲ安ジ、城郭溝池ヲカマヘテ外ノ守ヲナシ、外ニ公侯ノ五等ヲ立テ、天下ノ守ヲ堅クシ、丘陵山澤ヲカギリテ未然ノ防ヲナス、コレ天險地險人險ノイ、ナルベシ、何ゾ城郭ヲカマフルヲ衰世ノ政ト云ヘルハ、禮ノ言ト楚ノ沈尹伐ガイヘル言ニタヨツテ學者以テ利口ヲナス、尤アヤマレリ、今所_レ問ノ禮ノ言ハ、禮運ニ出タリトイヘドモ、聖人ノ言ニアラズ、漢儒老莊ノ言ヲ以テ附會スル也、ソノユヘハ既ニ易ニ王公設_レ險守_レ固コトヲアラワシ、周禮ニ先王封疆司險制ヲ出ス、夫子春秋ヲ筆作シ玉フニ、城ヲ築ニ時ヲ失コトヲ譏リ玉ヘドモ、城ノ險ヲ設コトヲ譏リ玉フコトナシ、然レバ親_レ親子_レ子貨力爲_レ利、或世、或及、或設_レ險テ其不_レ失_二其道_一ト云ベシ、大道既隱ト云ヘル所ノ大道ハ、是何ノ大道ゾヤ、乃老莊ガサス處タルベシ、故ニ其語不_二通論_一也、孟子謂城民不_レ以_二封疆_一、固_レ國不_レ以_二山谿_一、威_二天下_一不_レ以_二兵革_一トイヘルハ、時ノ人君恃_レ險專_レ兵戒ノ言也、又囊瓦城_レ郢討ト云ハ楚王郢ニ都ヲウツシテ、未_レ搆_二城郭_一ノ内ニ令尹子囊卒ス、ソノ時子ノ囊瓦遺言

イタシ置ケルハ、必鄧ニ城ヲ取立テ、險ヲマフケテ國ノ守ヲナスベシトイヘリ、時ノ君子謂子囊忠將死、不_レ忘_レ衛_レ社稷_レ也、カクテ囊瓦令尹トナリケレバ、父ノ遺言ニマカセ城_レ鄧、コノ比吳トアタヲ結デ、度々ノ合戰不_レ已、コ、ニライテ、沈尹戌曰、子常必亡_レ鄧、苟不_レ能_レ衛、城無_レ益也、古者天子守在_レ四夷、天子卑守在_レ諸侯、諸侯守在_レ四鄰、諸侯卑守在_レ四竟、慎_レ其四竟、結_レ其四援、民狎_レ其野、三務成_レ功、民無_レ內憂、而又無_レ外懼、國焉用_レ城、今吳是懼而城_レ於鄧、守已小矣、卑之不_レ獲能無_レ亡乎、昔梁伯溝_レ其公宮、而民潰、民棄_レ其上、不_レ亡何待、夫正_レ其疆場、修_レ其土田、險_レ其走集、邊竟之壘壁也親_レ其民人、明_レ其伍候、信_レ其鄰國、慎_レ其官守、守_レ其交禮、不_レ僭_レ不_レ貪、不_レ懦_レ不_レ耆、完_レ其守備、以待_レ不_レ虞、又何畏矣、詩曰無_レ念_レ爾祖、聿_レ脩厥德、無_レ亦盥_レ乎若敖蚡冑、至_レ于武文、四君楚賢君也土不_レ過_レ同、方百里慎_レ其四竟、猶_レ不_レ城鄧、今土數圻、方千里而鄧是城、不_レ亦難乎ト云フ、此時楚王政ニ怠テ譖ヲ信ジ、父子ノ大綱ヲミダリ、大臣ヲ失、子常又賄ヲ事トシテ知ニクラシ、吳大ニ盛ニシテ謀臣アリ、故ニ司馬戌コノ諫アリ、囊瓦ガ父衰世ノ政ヲハカツテ城_レ鄧コトヲ

戒トイヘドモ、コレヲ怠コト卅餘年ニシテ、國勢衰テ初メテ城_レ鄧、ツイニ後十三年ヲ過テ吳ノ兵鄧ニ入テケリ、竊案司馬戌ガ此言唯詳_レ其本ニ而未_レ盡_レ其時宜也、楚王君臣怠而上效_レ四君之勢、豈可_レ得乎、然バ又時ニ取テ衰世ノ政ヲ盡スヲ當然ノ計ト可_レ爲、猶_レ疾病而言_レ平日之養、コレ司馬戌囊瓦各不和ナルガユヘト可_レ知、サレバ後ニ吳ノ兵楚ニ入トキ、謀遂ニ不_レ成シテ司馬戌モ、唯死ヲ潔シテ溝瀆ニ縊ル、ノソシリヲ免ル、コトヲ不_レ得キ、コ、ヲ以テ案ズルニ城郭ヲマフクルコト尤人君ノ守ナリ、コレ近ハ盜賊ノ急ヲ防、遠クハ國家ノ不_レ虞ヲ戒シムベシ、コ、ニライテ本末兼備ノ政法ト可_レ言也、後世ノ俗儒コレヲ詳ニセザルガ故ニ、ヤ、モスレバ囊瓦城_レ鄧コトヲ云テ、在_レ德不_レ在_レ險コトヲ稱ス、サレバ宋ノ范文正公仲淹洛陽ニ城ヲマフケテ、急難ニソナヘ若北京ニコトアツテ、俄ノコトアランニハ、乃洛陽ヲ行宮ニナシ玉ワンコトヲ、仁宗ニ諫ケレバ、時ノ俗學囊瓦城_レ鄧計也、失_レ政體トサミシテ仁宗コレヲ不_レ用玉ケルガ、果シテ八十餘年ヲスギテ金ノ賊ニヲカサレテシバラクモサ、ヘス、錢唐ニ引退ケル、是范文正公遠慮ノ至ト云ベシ、

マコトニ利口覆レ國ノコトワリ也、本朝ノ朝廷ハ往古ヨリ城郭ノカマヘナシ、武家ニ至テ平相國未ソノ沙汰ニ不レ及、故壽永ノ亂ニ平氏居ヲ守ルコトヲ不レ得シテ西海ニ漂泊ス、是貞能ガ所ニ悲歎ニ也、鎌倉ノ柳營ハ直ニ以ニ鎌倉ニ爲レ城トイヘドモ、度々回祿ニヲカサレ、又騷動ヤムコトナク、高時滅亡ニ望デ居ヲ守ルコトヲ不レ得、東勝寺ニヲイテ自害ス、是安藤ガ所ニ悲歎ニ也、京家柳營亦不レ及レ城、故ニ度々ノ兵亂ニ居ヲ失ヲ洛中ノ騷劇不レ斜、ツイニ三好ガ惡逆又室町ノ亭不ニ堅固ノユヘト可レ言、平信長卿又惟任ガ難アリ、コレニ由テ豐臣家先聚洛ノ壁壘ヲカマヘテ後伏見難波ノ城ヲ營築アリ、コレヨリ以後公方家皆城郭ノカマヘ不ニ怠玉、マコトニ文武内外ノ守護甚重ノ至ト可レ謂、武田信玄長尾謙信、各城ヲマフケズ、是其武威盛ニシテ戰國イマダ城ヲイトナムノ暇アラズ、子息景勝勝頼ニ及デ城ヲカマヘテ彌衰滅スルコトハ罪城ニアラズ、武威衰レバ也、若甲州ニ城アラシニハ、勝頼居ヲ失テ田野ノ自害ナルベカラザル也、サレバ宋范仲淹上言ニ、天有ニ九閭、帝居ニ九重、是以王公法レ天設レ險、以安ニ萬國ニ也、臣請陛下脩ニ東京ニ高ニ城深ニ池、軍

民百萬足ニ以爲ニ九重之備、乘與不レ出則聖人坐、鎮ニ四海ニ而無ニ煩動之勞、變與或出則大臣守ニ九重ニ而無ニ回顧之憂ニ矣云々、左傳晉巫臣至ニ莒、與ニ莒子ニ立ニ池上ニ曰、城已惡、莒子曰、辟陋在ニ夷其孰以我爲虞、對曰、夫狹焉^{狹狹}思^{狹狹}啓^{狹狹}封疆^{狹狹}以利^{狹狹}社稷^{狹狹}者、何國蔑有、唯然、故多ニ大國^{狹狹}矣、井^{狹狹}吞^{狹狹}或思^{狹狹}或縱^{狹狹}也、^{有思而止者}又有^{縱欲者}勇夫重^{狹狹}閉^{狹狹}況國乎、後楚人圍^{狹狹}莒、莒城亦惡潰、君子曰、^多特^{狹狹}陋而不^{狹狹}備、罪之大者也、備^{狹狹}豫不虞、善之大者也、莒特^{狹狹}其陋^{狹狹}而不^{狹狹}修^{狹狹}城郭、浹辰^{狹狹}十二^{狹狹}之間而楚克^{狹狹}其^{狹狹}三都^{狹狹}、無^{狹狹}備也、夫詩云、雖^{狹狹}有^{狹狹}絲麻^{狹狹}、無^{狹狹}棄^{狹狹}菅蒯^{狹狹}、雖^{狹狹}有^{狹狹}姬姜^{狹狹}、無^{狹狹}棄^{狹狹}蕉萃^{狹狹}、凡百君子、莫^{狹狹}不^{狹狹}代^{狹狹}遺^{狹狹}、言備之不^{狹狹}可^{狹狹}以已^{狹狹}也、^{逸詩姬姜大國之女}又^{蕉萃陋賤之人也}成周ニ城ヲ取立テ計ニ丈數ニコトアリ、各歷代因循ノ制ナレバ、唯一方ニ泥デ其說ヲ不^{狹狹}可^{狹狹}爲也、學者先人ノ言語ニ堅クナヅム處アルガユヘニ、今古ノ例ヲモ不^{狹狹}考、專意見ニマカスルヲ以テ更ニ時宜ニ不^{狹狹}通コトノミ多シ、以前ニ云ヘルゴトク本朝ハ中古ヨリ武ヲ先シテ天下靜謐シ來レルガユヘニ、ソノ國郡ヲエラマンニモ用^{狹狹}武ノ地ヲ事トシ、柳營ヲマフケンニモ用^{狹狹}武ノ備ヲ事トスベシ、異朝モ漢以來ハ皆武ヲ先トシテ天下ヲ治平セルガ故

ニ、萬ノ禮式多ハ漢ヲ以テ準據トイタセルト舊紀ニ出タリ、唯詳ニ格致イタサバ其ワカチシルベキ也、○問云、本朝水土ニ因テ四邊ノタカメヲナシ、國ヲ守リ玉フ制イカン、

答云、本朝國土ノ制舊紀ヲ考フルニ、往古 神武帝神代ノアトヲツガセ玉フテ、日向國宮崎ノ宮ニ都アリ、マシテハ未ダ天下ノ封域モサダカナラザリシニ、既ニ東征アツテ中州ヲ平ゲ、都ヲ大和國橿原ノ宮ニ定メ玉フヨリ、コノカタ本朝ノ都鄙ヤ、定テケリ、本朝ハ往昔ヨリ大八洲ノ號アリトイヘドモ、未詳ニ諸道ヲワカタズ、第十代崇神帝ノ時四道ニワカツテケリ、第十三代成務帝初テ國ノ境ヲワケ、國造ヲ置玉フテ諸道ヲ分ツコレヨリ、以後代々損益アツテ今六十餘州タリトイヘドモ、諸道ハ七道東海道十五ヶ國、東山國、山陰道八ヶ國、山陽道八ヶ國、畿内五ヶ國、合テ八洲タリ、南海道六ヶ國、西海道十一ヶ國、コレ水土ヲ考驛路山川海野ヲハカツテ所レ致制也、然レバ古ハ王城ニ京式ヲ置テ王畿京中ヲ司、西國ニ太宰府ヲ置、コレ乃聖武帝天平十五年ニ鎮西府ヲオカレ、石川朝臣加美ヲ以テ將軍トナシ、大伴百世ヲ爲ニ副將軍ニ玉フ也、太宰府タル人、必筑前ヲ領シテ西海

道ヲ司リ、異國ノ襲來ヲ戒守ソノ任甚重シ、以テ太宰ノ帥ハ親王コレニ任ジ玉フ、是封ニ建親戚ニシテ蕃ニ屏王室ヲ心ナルベシ、又奥州ニ鎮守府ヲ立テ邊要ヲカタメシム、代々將軍ト稱スルハコノ鎮守府ノ將軍ノコト也、建武三年ニ別勅アツテ加大字、大中納言二位三位ニ至テ任レ之大將軍ト號ス、是又東夷ノ守リニシテ邊要ノ中陸奥ヲ以テ第一トセラル、故ニ昔ハ此國ニ五千ノ兵ヲオカレテ、國司ト將軍ト相並デ文武ノ職ヲ守ル、中古以來國司乃將軍ヲ兼タリ、又陸奥出羽ニ按察使ヲ置レ、秋田ニ城介ヲ任ジテ東方ノ守リタラシム、カクテモ未ダ東夷ノヲソレ多キヲ以テ、東海道ニ上總常陸、東山道ニ上野、此三ヶ國ハ太守ヲ置テ親王コレヲ兼玉フ、コ、ニヲイテ天下ノ邊要蕃屏相並デ王城ヲ守護シ三關伊勢鈴鹿美濃不破越前愛發ナリニ鼓吹ヲ設テ兵士ヲソナヘ、國司毎年孟冬ニ軍器ヲシラベ兵ヲ閱シ、諸國參勤ノ期ヲ定メ交代ヲ正シフス、是乃水土ニ襲テ所レ建ノ法也、源賴朝卿天下ノ權ヲ執玉フ、後ハ公家ノ政令不レ行、既ニ柳營ヲ鎌倉ニマフケ、先勝長壽院ヲ立、鶴岡ノ八幡宮ヲ小林ノ郷ニウツシ、宗廟ヲ立是ヲ崇、建久二年ニ天下ノ奉行ヲ定メラル、乃京都

ノ守護職ヲバ左兵衛督能保ニ命ジテ六波羅ヲ司、天
野遠景ヲ鎮西ニ奉行タラシメ、葛西清重ヲ奥州ノ奉
行トシ玉フ、カクテ三代將軍ノ後、元仁元年ニ時盛

時房時氏泰時子

上洛シテ六波羅ノ南北ニ居テ、京都ノ成

敗ヲ司トイヘドモ、西海ノ儀不審トテ、永仁元年三月
北條兼時時賴孫鎮西ニ下テ筑前ニ居テ九州ヲ奉行シ、又

長門ニ一人ノ奉行ヲ置ル、是中國ノ守護ノタメナリ、
是ヲ兩探題ト號シテ中國西國ヲ司ドル、而シテ建武

ノ初公家一統シテ、鎌倉ニハ後醍醐帝第八宮ヲ探
題トシテ置マイラセラレ、足利直義ヲ以テ執權トシ、

奥州國司ハ北畠源大納言顯家也、顯家乃鎮守府ノ大
將軍ト號、後醍醐帝時、親房爲奥州按察使、同院重祚時、顯家爲國司西國ハ少貳・大伴・菊

地・嶋津アツテ未探題ノ沙汰ニ不レ及、カクテ建武三
年源尊氏卿天下ヲ一統シ玉フテ群臣ヲアツメ、鎌倉

京兩所ノ間柳營ヲ定メラルベキ水土ヲ撰フベキ旨ア
リケレバ、京都可レ然ノ由評定一決シケルノ後、ツイ

ニ柳營ヲ京都ニ定メ、ソノ十一月ニ式目ヲ定ラル、而
シテ子息義詮ヲ鎌倉ニヲキ玉ヒ、直冬ヲ西國ノ探題

タラシメ、舍弟直義ニ政務ヲ司ドラシメ、高家ヲ以テ
執事トス、其後義詮上洛アツテ直義ニ代テ政ヲキ、

玉フ時、基氏關東ノ管領トシテ上杉ヲ執事トシ、畠山

國清法名ヲ以テ傳タラシム、延文元年八月ニ斯波直持

奥州ノ管領タリ、弟ノ兼賴出羽ノ國司トシテ最上山

形ノ城ニ居ス、是乃古ノ鎮守府城介ニナゾラヘリ、コ

コニ觀應元年直冬亂ヲ起、太宰少貳ガ智ニナリテ西

國中國ヲ蠶食シケレバ、探題トシテ一色直氏弟範光

ヲサシ下サル、延文四年ニ兩探題菊地ガタメニ追出

サル、故ニ細川繁氏九州ノ探題ヲ蒙テ下向シ道ニテ

死、康安ニ京都ノ執事斯波道朝ガ子氏經、探題ヲ承テ

西國ニ下、菊池ト大ニ戰テ高崎城ニ楯籠、カクテ關西

ハ未ニ靜謐、菊池將軍宮懷良親王ヲ仰テ筑紫ノ主トナ

シ奉ル、義滿ノ時應安五年ニ今川了俊九州ニ探題タ

リトイヘドモ、菊池未ダ威ヲフルフ、同七年ニ將軍家

御ニ勅一座西國アツテ菊池モ降參シ、九州退治アツテ

靜謐ス、凡ソ關東ハ悉ク鎌倉ノ命ニシタガヒ、關西ハ

コトゴトク京家ノ下知ニシタガフ、奥州出羽ニ奉行

ヲ置、鎮西ニ探題ヲ下シ、周防山口ニ大内家アツテ既

ニ執事ノ職ヲカヌ、是京家一代ノ制法其水土ニヨリ

古例ニ從フ所也、平信長卿未ダ四海靜謐ヲ得ズト云

ドモ瀧川一益ヲ以テ關東ノ管領トシ、柴田勝家ヲ以

テ北陸道ヲ司ドラシメ、四國ヲ信孝ニ與テ、信雄ニ伊世ヲ與ヘ、中國ヲ羽柴ニ與ヘ、西國ヲ惟任ニ與テ、畿内ノ守護ヲナサシメントス、豐臣卿天下一統ノ後、城ヲ京伏見・難波ニカマヘ玉ヒ、關東ノ管領ヲ大權現ニマカセ奉ラレ、奥州ニ蒲生氏郷ヲ置テ古ノ鎮府ニ比シ、關西ニハ清正行長ヲ置、筑前守隆景ニ金吾秀秋ヲ以テ養子タラシメテ太宰ノ府ニ準ジ、大江輝元字喜多秀家ヲ藝備ニ居セシメ、前田利家ヲ北國ニヲラシム、コ、ニ於テ天下ニ五老ヲ定ム、大權現・加賀・大納言・利家・備前中納言・秀家・會津中納言・景勝蒲生氏郷死去令景勝居會津・安藝中納言・輝元也、此五老ヲ天下ニ配テ四海ヲ維持シ玉フユヘン也、シカレバ古今水土ヲ考ヘテ國家ノ蕃屏維持ヲナス事可併見之也、本朝ノ土地東西ニ長クシテ南北ハ短シ、昔坂上田村九東夷ヲ征伐ノタメ、奥州ニ下向シテ奥州信夫郡ヲ日本ノ中央タラント云テ、石ニシルシヌ、コ、ヲ坪ノ石フミト云ヘリ、然レバ土地ノ行程ヲ以テセバ關東ヲ以テ中國ト云ベケレドモ、水土ノ體人物ノ品、五畿内ニシカザレバ、コレ王城ノ邦畿タルコト疑ナシ、シカレドモ東ニ蝦夷相ツバイテ度々中國ノナヤミヲナスヲ以テ奥州

ヲ邊要ノ第一トス、鎮西ハ朝鮮大唐ニトナリニテ、古ヨリ隣交ノ使節往來シ、又蒙古ノ襲來モアリ、異國ノ商舶相ツドフテ交易ヲ利スルニ足ルナレバ、東西ヲ以テ本朝ノ邊要トシ、屯戍ノ守ヲカタクシ、蕃屏ノマフケヲ嚴センコトハ古今ノ道法也、サレバ北海道ハ對馬ヲ以テ邊要トシ、筑前肥前ヲ以テ異國往來ノ船ヲ征シ、豊前豊後ヲ以テ九州ノ惣括ヲカタメ、播州姫路ヲ以テ五畿ノ蕃屏トス、奥州ハ會津ヲ以テ蕃屏トシ、出羽ハ山形ヲ以テ鎮府トス、岩代白川ハ關東八州ノ内蕃ナリ、而シテ北國ハ佐渡越前南方ハ紀州ヲ外蕃トシテ、難波坂本ヲ内蕃トス、是近代水土ニヨルノ制、豐臣秀吉公以來天下ノ維持皆コレニヨラズト云コトナケレハ、五畿七道ヲ考ヘ當時ノ都鄙城池ヲハカツテ、而シテコレニ相應スルノ制ヲ立ルヲ水土ニ襲ト云ベキ也、

○問云、本朝ノ邊要必ズ東西ヲ以テスルハ何ゾヤ、答云、本朝天下ノ形粧東西ヘ長クシテ南北ニ短シ、南ヲ前トシテ北ヲ後トス、五畿内ヲ上トシテ東西南北ヲ下トス、北ハ洋中ニシテ船ノ著所少シ、南ハ四國ヲウケ西海ノ嶋ヲイダイテ異賊ノ恐アラズ、故ニ東西

ニ邊要ヲ設ケテ要トス、古ハ佐渡多禊ヲ以テ邊要ノ中ニ入ルト云ドモ、今ハコレヲ要トスルニアラザルナリ、異朝ノ今ハ南北ヘ長ク東西ニチマレリト彼書ニ出タリ、是四方地ツバキナルガユヘニ、或ハ時ニ取テ東西ツバマリ、南北チママルコトナリト相ミヘタリ、サレバ漢ハ北ヲ邊要トシ、唐ハ西ヲ以テ邊要トス、其時ニトツテ邊要不_レ同也、

○問云、諸侯ヲ立、國郡ヲワカツニ制アリヤ、

答云、諸侯ヲ四方ニ立テ國ヲ與ヘテ治ヲナサシメ、王城ヲ守護セシムルヲ封建ト云、是唐虞三代ノ制也、天下ニ諸侯ヲ不_レ立シテ天下ヲ以テ郡縣トシ、所々ニソノ司ヲ立テ政ヲナシ、租稅コト_レク上一人ニ收納アツテ功臣祿士ニ上ヨリ是ヲ玉フ、是ヲ郡縣ノ法ト云フ、秦始皇帝天下ヲ取テ李斯ノ諫ニヨツテ天下ヲ三十六郡ニ分、毎_レ郡ニ守尉監ヲオカレテケルコレナリ、凡ソ封建郡縣トモニ其得失ナキニ非ズ、封建ハ末大ニナリテ亂必ズ出來ル事、周ノ末ノ戰國ノ如シ、郡縣ハ盜賊カクル、コトヤスクシテ守監尉コレヲ制スルコトヲ不_レ得コト、秦ノ末ニ戍卒亂ヲナスガ如シ、故ニ古今其異儀多シ、サレバ始皇帝ノ時丞相王綰

ハ封建ヲス、メ、廷尉李斯ハ郡縣ヲス、ム、ソレヨリ晉ノ陸士衡、魏ノ曹元首ハ封建ヲ是トシ、唐ノ李白樂柳宗元、宋ノ蘇子瞻ハ郡縣ヲ是トス、サレバ三代之制ヲ漢ニハ用、秦ノ制ヲ魏晉ニハ用、コレニ由テ唐ノ大宗群臣ヲアツメテ議セラルトイヘドモ不_レ一決ケリ、後儒各封建ヲ以テ利トス、ソノユヘハ封建ハ天下ヲ天下ノ天下トス、故天下利ニ其利、郡縣ハ天下ヲ以テ一人ノ利トス、君子ノ所_レ致ニ非ト也、是先儒ノ通論也、竊案ニ天下ノ形勢ヲ考ヘテ、或封建シテ諸侯公族ヲ立テ蕃屏トシ、或ハ其國其所ニ郡縣ノ制ヲ建テ、守尉監ヲ以テ國ヲ治メ租稅ヲ入ル、是其國郡ノ水土形勢ヲ詳ニシテ其宜ニ從フ、是ヲマコトノ國制ト云ベシ、專封建郡縣シテ一方ニイタス時ハ、必ズ其失ナクンバアラザル也、本朝ノ制ヲ尋ルニ後白河院迄ハ皆郡縣ノ法ヲ行ハル、故ニ天下ニ諸侯ナク、國司トイヘルハ皆任限四年ニ究テ必ズ改補セシメ、租稅ヲ上封シテ天子ニヲサメ玉フ、三公九卿ノ封戸職田年給ト云モワヅカノ事ニシテソノ俸不_レ豐ナリ、後白河院源賴朝卿ヲ六十六箇國ノ地頭職ニ補セラレテヨリ、封建ノ法初メテ行ル、故ニ國司ヲヤメテ守護ト號シ、

郡縣ヲ賜テ地頭ト號シ、守護地頭直ニ其所ノ租稅ヲ收納ス、シカレドモ宗公家ノ國司職モヤザルガユヘニ、國郡庄園コトハク國司・領家・守護・地頭兩所ヘ租稅ヲ收ム、コノユヘニ守護地頭ノ得分不_レ全ヲ以テ、未ダ天下郡縣ノ法タリ、唯鑛倉廩天下ノ惣追捕使トシテ六十六箇國ノ守護地頭ヲ得玉フ計ナリ、サレバ其幕下和田畠山秩父等トイヘドモ其得分少シ、唯北條時政七箇國ノ管領ヲ得テ守護職ヲホシイマ、ニシ、得分天下ニ並ナキヲ以テ、ツイニ柳營ヲ進退シ威勢ヲ一人ニ歸ス、其後建武ニ源尊氏卿天下ヲ一統ノ時、同四年細川和氏天下ノ租稅ノ事ヲ司テ、初メテ公家ノ國司領家ノ得分ヲ、サヘテ、國司領家ハ其名ノミアリ、コレヨリ封建ヲ行テ諸國ニ大名ヲ立テ、各二箇國三箇國ヲ領ス、此後天下姓ヲ代テ代々ノ公方皆因準シテ封建ノ法行ル、唯大權現御治世ノ後封建郡縣トモニコレヲ行ヒ玉フテ、諸國ニ封建アレバ又郡縣ノ治アルガユヘニ、互ニ相維持シテ政道一ニ化シ風俗不_レ異、誠ニ聖神ノ知慮凡慮ノ及ブベカラザル處也、愚案ズルニ封建郡縣ノ兩事先儒皆以ニ公私コレヲ論ズ、是未_レ盡ニ其實ニ事也、凡人ヲユランデ其賢德

才能萬民ノ司サナラン者ヲ得ルコトハ七難_レ得コト也、シカルニ天下ノ私スベカラズト云テ、下德無才ノ輩ヲ大國ノ主トサダメンコトハ、ソノ國ノ人民ヲクルシマシメ、土地封域ヲ害スルニ非ズヤ、是錦ヲ以學ビガテラニ製ニコトナラズ、甚先賢ノ戒ムル言ニシテ、夫子賊_ニ夫人之子_一トノ玉フユヘン也、シカレバ下論_ニ其人_一シテ、專封建ヲ聖人ノ心也大公也トイハンハ甚アヤマレリ、古ノ聖王封建親戚シテ天下ノ蕃屏トシテ大臣ヲ封侯セシムル事ハ、世ニ賢德ノ人多シテ國ヲ治メ民ヲ懷ニ利多ヲ以テ天下ノ大ナルヲ上一人トシテ、支配セシメンコト尤大ナル憂アレバ、乃親戚重臣ノ其賢德ナルヲ封建シテ、分憂ノ職タラシム、シカレドモ國ノ制城ノ制皆其ノリヲ定メテ、後世不德ノ封君ツグニ至テ國家ノ害ナカラン謀ヲノコシ玉ヘリ、末世ニ及ンデ君々タラザルガユヘニ臣モ亦臣タラズ、如何ゾ天下ノ國郡ヲコトハク封建シテ、ソノ失政ナキガゴトキ賢知ノ人ヲ可得ヤ、シカレバ郡縣ノ制ヲ以テ國司職ヲサダメ、四分ノ人ヲ宜テ互ニ是非ヲ正シ、任限ヲ定メテコレヲ交代セシメ、任滿テ後其可否ヲ改メ、其政道ヲ詳ニイタシテ賞罰ヲ明ニ

致サバ、天下ノ政務コトハク上一人ノ心ヨリ出、風俗教化ト、ナフコトヤスカルベシ、是郡縣ノ制後世ノ美談トシ衰世ノ規模タルベキユヘン也、始皇ノ時李斯ガ論ズル處治亂ヲ以テ要トス、コレニ由テ後儒皆郡縣ノ制ハ伯者ノサタナリトイヘリ、李斯只一端ヲ云、始皇又亂ヲ厭フ、故ニ封建郡縣皆治亂ノ說ニヲチ入ルコト甚アヤマリ也、サレバ秦以前ハ時宜封建ヲ以テスベシ、秦以後ハ時宜郡縣ヲ行バ天下ノ政道ミダルベカラザル也、又治亂ヲ以テ云バ、封建ノ天下ハ亂遂ニ治マルベカラズ、郡縣ノ天下ハ亂ヲコルトモ治ルニヤスカルベシ、其故ハ封建ノトキハヲコル處ノ亂大敵ニシテ一時ニ治ルベカラズ、郡縣ノトキハヲコル處ノ兵皆盜賊一揆ノ沙汰ニシテ、一國ノ蜂起アルベカラズ、是亂ヲ制スルコト亦易シ、サレバ本朝ノ公家一統皆郡縣ヲ事トシテ天下ニ大亂ヲコラズ、鎌倉家亦コレニ因テ郡縣ヲ用テ天下久シク鬪亂ナシ、京家ニ封建ヲ用テ後天下ノ亂ヤムコトナクシテ、遂ニ國々ノ諸侯各一家ノ思ヲナシ、近國ヲ蠶食シテケレバ、大永天文ノ間ニ至テハアタカモ戰國ノ七雄ニコトナラズ、コレ山名ガ一族十一箇國ヲ領シテ

明德ノ亂ヲナシ、赤松ガ一族中國ヲ領シテ嘉吉ノ亂ヲナシ、細川山名應仁ノ亂ヲナス事、併封建ノ失ニヨルコト也今ニ及デハ、其人ヲ選デ封建ヲ制シ、ソノ人ニヨツテ郡縣ヲ用イ玉フガユヘニ、天下ニ盜賊ヲコルトイヘドモ、其所ニ封侯ノ大名アツテコレヲ制スルニ便リアリ、諸侯不義アランニハ隣ニ郡縣ノ地アツテコレヲ正ス、相互ニ維持スルコト、全ク封建郡縣兼備テ、其人ニ因テ行ル、ユヘン也、私曰、封建ハ守護レ也、郡縣ハ代官ヲ立テ收納アル是也、今也陪臣之祿、皆在地頭職ヲ賜ルコト縣、主人悉以代官ニ納其租稅、群臣以廩給ニ分ニ與其祿、是也、

○問云、人君ノ行何ヲ以テ稅トスルヤ、

答云、人君ノ道古來典謨ニノスル處、并舊紀ニ先賢是ヲ詳ニスレバ、今是ヲイハンモ甚贅言剝語ノソシリアルベシ、シカレドモ愚ヲ以テ是ヲ案ズルニ、聖賢ノ言ハ易簡ニシテ後人コレニ通ジガタシ、先儒ノ說ハ汎乎トシテ如ニ不繫船、故ニコレヲ會得スルコト又不レ約、愚案ニ人君ノ行甚多トイヘドモ、其先ンズル處ハ必身ヲ明正スルニ不レ過也、凡爲天下ノ主者天也、繼天者君也ト穀梁傳ニ出タリ、又天子者與天地參ト禮記ニコレヲ出セリ、コ、ヲ以テ考ニ天地ノ德正シテ其行無レ息、故ニ萬物自順正ナリ、シカラ

人君亦心身ヲ先トシテ心ヲ明ニシ、身ヲツトメバ
 天下國家自治平不_レ疑也、サレバ明_レ心ト云ハ我知
 ヲキワメテ能物ニ通ズルノ義也、勤_レ身ト云ハ行テ
 ヤマズ不_レ怠ノ儀也、古來賢君ヲバ明君ト稱シ、愚主
 ヲバ暗君ト號ス、コノ明暗ハ心ノ明暗也、心ハ知ヲ以
 テ用トス、知暗ケレバ心暗シ、知明ナレバ心明也、心
 暗トキハ是非善惡ヲワカタザル故ニ、不_レ入所ニ勞
 シテ無功、可_レ勤コトヲ不_レ勤、此ユヘニ皆相違テ用
 捨不_レ得_レ處也、心明トキハ萬物無_レ不通、故ニ大唐
 貞觀ノ初、魏徵先明君暗君ノ說ヲ詳ニ奏スルユヘン
 也、心ヲ明スルニ有_レ道、人ノ心必智識ナクンバアラ
 ズ、コレヲ思慮ト名付、此思慮ヲ俗ニ思案分別ト號
 ス、サレバ小事タリト云ドモ思慮ナクコレヲ致スベ
 カラズ、先我心ニコレヲ思慮シテ如此ナシテ是カ非
 カト考フル、是心ノ明ナルベキ基也、如此思慮スト
 云ドモ、我心ノ思慮ノマ、ニ致スヲ心ヲ師トスト號
 シテ、往古ノ聖神甚コレヲ戒シメ玉フ、本朝ノ雄略帝
 ヲ天皇以_レ心爲_レ師、誤殺_レ人衆ト日本紀ニシルセルハ
 コノコト也、サレバ思慮ノ趣ヲ其道ニ才德アラン輩
 ヲ召シテ、其可否ヲ前方ニタバシ、或ハ後ニ評議セシ

メ玉フテ、其可ナラン方ヲ執行シ後ノ戒トナシ玉フ、
 コレヲ學問ト云也、タトヘバ古ノ聖賢ノ書ヲ學ビタ
 マフテ、是ハマサシク古來ヨリノ格言善行ナリト
 キコヘンコトヲモ、先心ニ思慮アツテソノ人ニヨク
 正シ玉ワザレバ明ニナリガタシ、夫子曰、敏_ニ於事
 而慎_ニ於言、就_ニ有道_ニ而正_ニ焉可_レ謂_ニ好_ニ學也_ニトハコ
 ノ心ナルベシ、其思慮ヲ尋玉ハンコトソノ人ヲ不_レ得
 バ却テ不_レ明、タトヘバ鷹ノ事ヲ尋ルニハ鷹ノ事ニ鍛
 鍊ノ人ヲ求メテコレヲ尋ザレバ其道不_レ詳、骨法物ノ
 イ、サモアリヌベキ人體ナリト云ドモ、有道ニアラ
 ザルトキハソノ思慮タヅチ玉フテ益ナシ、有道ノ人
 ト云ハ、オノ入ルコトハオニ長ゼル者、行ノ入ルコト
 ハ行ヲツトメタル者ヲ云ベシ、此輩ニ詳問玉フテ、又
 自_レノ思慮ニ引アハセ其是否ヲ考ヘ、コレヲ人ニ施シ
 行テ、其シルシイカバナラント詳ニハカリ玉ヘバ、
 無_レ程諸事ノ道筋明ニナリヌベシ、人ノ申處ノ思慮自
 ノ思慮ノ是非ハイカバサダメントナラバ、公私ノ二
 ツタルベシ、公ト云ハ天下國家人民ノタメ後世ノ道
 トナリナンコトヲ云、私ト云ハ唯我身ノタメ計ニシ
 テ、ソノ及ブ處セバク時ニ取テ一度ノハカリゴトニ

シテ、長久ナルマジキコトハ皆私ト云ベシ、段々子細アリト云ドモ、先此一通ヲ以テ心ノ明ニナルベキ道トシテ、コレヨリ類ヲ推ワカチヲノベテ可_レ考也、次ニ身ノ勤ノコト、夙起夜寢、終日衣冠裳束シテ、ヒザヲクミ足ヲ屈メテ身ノ行儀宜シキハ、是大人ノ必トスルツトメニ非ズ、又弓馬ヲコト、シテ劔戟ヲツカイ、歌舞・音曲・能書・能畫・諸藝多能ノコトハ、匹夫ノ用ニシテ人君ノツトメニ非ズ、孟子ニ有_二大人之事_一、有_二小人之事_一トハコノ心ナルベシ、又言ヲ信ニシ行ヲ實ニシテ必トシテ固ク守、是經々乎トシテ大人ノ不_レ爲所ナリ、サレバ君タルノ勤メアリ、臣ハ臣タルノ勤メアリ、コレヲ君々タリ臣々タリトハ云ヘル也、イカナルヲカ人君ノ勤_レ身ト云バ、内七情ノ欲ニ因テ其節ヲ過シテ、外事ヲソコナフアリ、外酒食貨財聲色ノ惑ニ因テ心身ツカラカシ心ヲクラマス、此二ツ皆外ソノ物ニ感ジテ此心ソノ節ヲ失コトヲ不_レ知、故ニ專コレヲツトメテ其節ニ中ランコトヲ力行ス、七情キラフニアラズ、三物亦人情ノ常也、唯其節ニアタルコトヲ忘ル、ガユヘニコレニ迷動ス、サレバ一朝一夕ノ怒ヲ以テ災ヲ國家ニ及ボシ、一事一行ノ樂ニマカ

セテ身ヲ傷人ヲ苦シメン事ハ、甚是私ヲ以テ道ニ暗ト可_レ言也、コ、ニ力ヲツクシテ能ツトムル時ハ、人君内物ニ不_レ溺ノツトメアリト可_レ云、而シテ内コノツトメアリト云トモ、外ニ八思八勤アリ、ソレトハ天下・國・郡・家諸侯・群臣・民・身コレヲ八思ト云ベシ、先此八ヲツチニ思フテ八ノタメナラン事ヲツトメ行フベシ、八勤ト云ハ一ニ畏々トハ天地ヲオソレ、先祖ノ鬼神ヲオソル、事也、天地鬼神ヲオソレザレバ、只眼前ノ利潤ヲコト、シ、追_レ遠慕_レ古本_レ本トスルコトアラザルガユヘニ、弱ヲシノギ小ヲクルシメ、遠ヲステ新ニ付、今ヲ今トシテ古ヲ古トセズ、臣ハ君ヲ弑シ子ハ父ヲナミシツベシ、古人事_レ天畏_レ天テ不_レ虐_二幼殘_一ト云ヘリ、故ニ社稷宗廟ヲ立テ天子自コレヲ祭祀シテ、其道ヲツトムルコレ畏ル、ガユヘ也、二ニ尊_レ尊トハ我尊_レデコレヲ敬ノコト也、コレ乃父母及太師也、父母ハ人君ノ本也、太師ハ人君學問ノ師也、是人中ノ必所_レ尊ナリ、天子ニ上ナシト云ヘドモ、太上皇ヘ事ヘ奉リ玉ハン事ハ、聊ヲコタラセ玉フベキニ非ズ、況ヤ太師ノ職ハ一人ニ師範タレバ天子自コレヲ送迎シ、北面シテ道ヲウケ玉フ事、古來ノ例皆然

リ、人君此尊々ノ道アラザレバ本立コトナシ、三ニ敬々トハ人君執シウヤマイ玉フベキモノアリ、是執政ノ大臣也、天下ノ大臣トシテ執政ノ臣ヲバコレヲ敬シテ天下ノ戒トシ、政事ヲツカサドラシメザレバ下其德ニ化セザル也、コレ乃有德ヲ舉テ道ヲ崇ブノ心也、四ニ禮々トハ正禮ノ臣アリ、コレハ諸侯有功ノ大臣末々ノ有司ニ至ルマデ、既ニ官ヲ任ジ職ヲアタヘ玉ハンヲバ、皆禮ヲ正シクシテ其分ヲ守ラシムベキ也、五ニ親々トハ親族閨門ノ間及外戚近臣ヲバ、親ミ睦テコレヲ疎ズベカラズ、タトヘ人君ト同志同意ノ處ウスクトモ、我ヲ不立シテ是ヲ親ムツマシク致スコト親々ノ道也、六ニ矜々トハ群臣ノコト也、群臣ハアハレミヲ垂玉フテ、是ニ教ヲ立法ヲツマビラカナラシメ、其言行ヲ不道ニヲチイレシメザル如クイタス、是矜ニ不能ノ心ト云ベシ、七ニ愛々トハ庶民ノ事也、萬民ハ天下ノ政ニシタガツテ安否ヲナス、シカレバ人君ノ政カラキトキハ民苦政、ユルヤカナレバ民安ズ、民自耕シテ皆上ノ用タリ、工商自ツトメテ天下ヲ利ス、是親民ノ道ナレバ必ズコレヲ愛シテ民ノ父母タリト云ベシ、八ニ惠々トハ

老臣病臣舊臣鰥寡孤獨ノ類及民間ノ老疾ハ、コレヲメグミ不給バ仁政ニ非ズ、惠ト云ハ時ニフレテ其服ヲアタヘ食ヲ賜リ、其養ヲナサシメテ飢寒ニ不レ及シムル是ヲ惠ト云也、以上八ツノツトメヲツトムルコト、是八思ヲ以テ本トス也、八思八勤ヲコナハレテ外ノツトメトノフベシ、人君内外ノツトメヲ力行スルヲ身ノ勤トハ云也、必ズ朝夕ノ興寢身ノ進退作法ノ格ヲ守ルヲ勤ト云ベカラズ、昔魯昭公如レ晉、自^{郊勞}郊勞^{往有}至^于于^{贈賄}贈賄^{去有}無^失失^禮禮^{晉侯謂}晉侯謂^{女叔}女叔齊^曰曰、魯侯不^亦亦^善善^於於^禮禮^乎乎、對云、魯侯焉智^禮禮、公曰、何爲自^{郊勞}郊勞^至至^于于^{贈賄}贈賄^{禮無違者}禮無違者、何故不^知知、對曰、是儀也、不^可可^謂謂^禮禮^{禮所}禮所^以以^守守^其其^國國^行行^其其^政政^令令^{無失}無失^其其^民民^{者也}者也、今政令在^家家^夫夫^不不^能能^取取^也也、云々、爲^國國君^難難^將將^及及^身身^{不恤}不恤^其其^所所^{禮之本末}禮之本末、將^於於^此此^乎乎在、而屑々焉習儀以^取取^言言^善善^於於^禮禮^{不亦}不亦^遠遠^乎乎、君子謂叔侯^於於^是是^乎乎知^禮禮、然レバ國君ノツトムル所ハ八思ヲ以テ八勤ヲナスニアリ、或ハ山水之游宴或ハ歌舞之嬉戲コレ等ノ有無ヲ以テ其ツトメトセシムル事ハ小節也、小人之事也、但シ時宜之風流ト云ドモ、不^得得^其其^時時^非非^其其^所所^非非^其其^{人物}人物^トト^キキ^ハハ^スス^ココ^シシ^ノノ

事モ其道ヲ失ス、タトヘ禮ヲナシ敬ヲ行テ善ナリト云ドモ、不_レ在_二其人_一バコレヲ非禮トス、故ニ八思ヲ以テ八勤ヲ行、コレ乃仁義ノ行ト云ベシ、コ、ヲ以テ云バ思慮ハ知ニシテ身ノ勤ハ行也、シラザレバ勤メラズ、ツトメザレバ知ノ致ニアラズ、知行並行レテ而後ニ可_レ得_二其實_一也、次ニ人君ノ思勤自コレヲタバシ玉フ事可_レ難_レ合ガユヘニ、有德ノ臣ニタバサシメ、其過不及ヲ言上奏問シテ、其過チヲ補シムル職ヲ定ム、コレ仲山甫補_レ之ノ心ナルベシ、古來諫議ノ官ヲ立テ言責ノ任アルハ皆人君ノアヤマリヲタバスノ職也、コノ職アラザレバ人君日用當否非_二分明_一也、人誰無_レ過、過而能改、善莫_レ大_レ焉、詩云、靡_レ不_レ有_レ初、鮮_レ克有_レ終トハコノ心ヲイヘル也、仲虺之誥云、好_レ問則裕、日用則小、又曰、能自得_レ師者王、謂_二人莫_一己若_二者亡ト、マコトニ古ノ聖賢ノ格言可_二并考_一也、

○問云、人君身ノ勤アツテ而後ニ義イヅレヲカ先ニスルヤ、

答云、身ニコレヲツトムト云ドモ、コレヲ外ニ及ボサザレバ不_レ正、外ニ及ボスコト先親_レ々ヨリ始マレリ、親_レ々ト云ハ、人君ノ宗室公族ヲ立テ、以テ國家ノ維

持ヲナスコト也、人君其身天下ノ富ヲ受玉ヒ、天下ノ寶祚ニソナハリ玉フテ、御門葉只人ニテヲハシマサンコトハ本意ニ非ズ、且又親族ヲステ、他人ヲ封侯大祿ニイタサンコトモ順政ニアラズ、故ニ先親戚ヲ先ニシテ其政ヲオコナハル、但子孫及兄弟タリト云ドモ不德ニシテ民ヲ治ムルニ不_レ及トキハ、唯財ヲ豐ニシテ封國ノ義ナキ、又古禮ナリ、サレバ周富辰ガ襄王ヲ諫シ言ニ云、臣聞_レ之、太上以_レ德撫_レ民、其次ハ親_レ々以_レ相及也、昔周公弔_二二叔之不_レ感、故封_二建親戚_一以_レ蕃_二屏周、召穆公思_二周德之不_レ類、故糾_二合宗族于成周_一、而作_レ詩曰、棠棣之華、鄂不_二韡々_一、凡今之人、莫_レ如_二兄弟_一、其四章曰、兄弟鬩_二于牆、外禦_二其侮_一、如_レ此則兄弟雖_レ有_二小忿、不_レ廢_二懿親_一、周之有_二懿德_一也、猶曰、莫_レ如_二兄弟_一、故封_二建之_一、其懷_二柔天下_一也、猶懼_レ有_二外侮、扞_二禦侮者、莫_レ如_レ親_レ々、故以_レ親屏_二周、召穆公亦云フト、コレ皆親ヲ親スルノ道也、マコトニ宗室ヲ立テ國家守護セシメン事ハ、コレニマサレル國ノ城郭アルベカラズ、詩大邦維屏、大宗維翰、宗子維城ト云ヘリ、シカレドモ愛ニマカセ私ヲ用テ其法ヲ不_レ詳トキハ、却テ親ヲ害ニヲトシイル、ニ成事ナ

リ、尤可^レ愼、周公ノ聖知トイヘドモ、管蔡ガ亂ナキニ非也、武家ニハ親族ヲナヅケテ公達御一族家門ノ歷々ト號ス、乃春秋ノ公族ト云ヘルコレ也、次ニ外戚ノコト古來其權ヲ戒シム、内奏ノ秘計ヲマナバレ垂簾ノ政ニヨツテ、ツイニ天下姓ヲカヘントスルコト、漢ノ呂氏唐ノ武氏是也、況ヤ王莽ガ漢ヲ篡コト可^レ監^レ之也、本朝武家ニ至テ源賴朝卿、親族家門ヲ封建セズ、專外戚マカセ玉フテ、ワヅカ三代ニ源家斷絶シ、北條權ヲ執ニ至ル、其前鑒可^ニ并考^一也、コレニ因テ京家ニ至テハ皆公家ヲ以テ外戚トシ玉フガユヘニ、外家ノ權遂ニ不^レ盛也、

○問云、諸侯大臣ヲ立テ國ヲ封ジ玉フ制イカン、答云、ソノ德民ヲオサムベク、其功世ニヲホフトキハ、異姓モ亦封侯アツテ大國ヲ玉フコト三代ノ例也、周公ハ至親ニシテ太公ハ異姓ナリ、イヅレモ封國周有^ニ天下^一、封國七十而同姓居^ニ五十^一焉トイヘリ、サレバ先王建^ニ明德^一、祚^レ之以^レ土、分^レ之以^レ民トアレバ、其德ニシタガツテ諸侯タラシメンコト勿論ナリ、詳ニ周禮ニ其制ヲ出ス、凡ソ封國ノ制異朝ノ例、諸侯ノ國千乘ヲ出ス、國ヲ以テノリトス、其方百里ヲ以テ制ト

ス、坊記云、制^レ國不^レ過^ニ千乘^一、子產曰、天子之地一^方千里^方、列國一同^方百里^方、自^レ是以衰ト云タリ、又城々ノ制坊記ニ所^レ出ハ、都城不^レ過^ニ百雉^一、又鄭祭仲云、都城過^ニ百雉^一國之害也、先王之制大都不^レ過^ニ參^レ國之一^一、中五之一^一、小九之一^一、邑有^ニ宗廟^一先君之主、曰^ニ都城^一、方丈曰^ニ堵^一、三堵曰^ニ雉^一、一雉之牆長^ニ三丈高一丈^一、侯伯之城方五里、徑三百雉、故其大都不^レ得^ニ過^ニ百雉^一、コレソノ大槩ニシテ、周禮王制孟子等ノ書ニソノ異同アツテ不^ニ一決^一、必竟國ニ大中小アリ、諸侯ニ公侯伯子男ノ五等アルヲ以テ、其制一定セズトイヘドモ、詳ニ制ヲ立法ヲキワメテ後代ノ害ヲハカリ、非禮ヲ考フルニアリ、サレバ國家之立也、本大而末小、是以固、又曰、鄭京櫟實殺^ニ曼伯^一、宋蕭毫實殺^ニ子游^一、齊渠丘實殺^ニ無知^一、若由^レ是觀^レ之則害^ニ於國^一、末大必折、尾大不^レ掉ト云ハ、皆ソノ終ヲ不^レ考ノ失ヲ論ズル也、コノユヘニ大國ニハ三卿ヲオク、三人トモニ人君ヨリコレヲ命ゼラレテ、國君コレヲ私スルコトヲ不^レ得、次國ハ三卿ノ内二卿天子ヨリ命ゼラル、小國ハ二卿ニシテ皆國君コレヲ命ズ、而シテ方伯ノ國ニハ三監ヲ立テソノ國君ノ政令ヲ監ス、是封君ノ太守國政ヲ私スルコトヲ不^レ得ノ戒也、次ニ諸侯朝聘ノ禮毎年聘使ヲ奉テ年々ノ政事ヲ奏シ、朝廷ノ

政ヲウケ、三年ニ諸侯自朝シテ禮ヲ行、六年ニ二タビ朝シテ各相會シ、國々ノ禮ヲタバシ、十二年目ニハ必諸侯ヲアツメテ盟ヲナシ、天下ノ風俗ヲ正シ玉フ、コレ先王ノ定制也、是晉叔向所_レ言、出_二左傳廿三、王制云、比年一小聘、三年一大聘、五年一朝、天子五年一巡禮、不同、如_レ此ソノツリアイヲ考、其風俗ヲ正トイヘドモ、後ニハ大ハ小ヲシノギ、強_レ弱ヲセバメテ國ヲヒラキ土ヲ廣メ、ツイニ戰奪ノ義ヲコレリ、尤可_レ慎也、次ニ諸侯大勳功アリト云ドモ、ソノ賞禮ヲコユルコトヲ戒シム、周公周ニ大勳功アルヲ以テ、魯ニ天子ノ禮樂ヲユルシ玉フコトアリ、定メテ周公ノ時ハソノ制法文明ナルベキヲ、後ニ至テ季氏八佾ヲ庭ニマワシメシガ如クナルコト世以テ多シ、シカレバ周魯至親ノ國、周公大聖人ノ後トイヘドモ不_レ克_レ終コトアリ、況ヤソノ下ハ可_レ戒守_レコト也、次ニ同姓ノ諸侯異姓ノ諸侯、尊卑ノコト外事ニハ異姓ヲ以テ先トシ、内事ニハ同姓ヲ以テ先トス、是其大法也、シカレドモ國家ノ大事ハ會盟ヨリ大ナルハアラズシテ、會盟ニ必以_二同姓_一爲_レ先、同姓ノ諸侯ハ文武ノ德功アル家ヲ以テ先トス、故ニ周之宗盟ハ異姓ヲ爲_レ後ト云ハ、魯ノ羽夫ガ言也、非_ニ尙_レ年尙_レ德也ト云ハ衛ノ

子魚ガ言也、本朝ノ古、景行帝王子七十人ヲ國郡ニ封ジ玉フコト舊紀ニミヘタリ、ソノ後王代專郡縣ヲ用、唯親王家ト號スルハ位階ノ高マデニシテ封建ニ不_レ及、多ハ門跡ト號シテ浮屠ノ寺院ヲ領セラル、而シテソノ位親王ノ宣下アルトキハ、必ズ在_二大臣之上_一而其禮ハ等同也、一世二世トイヘドモ未_レ給_レ姓トキハ、人臣ノ列ニコトナラズシテ、守_二其位_一テ著座、コレ先例也、武家ニ至テハ猶同姓ヲ重ジテ、異姓ノ上ニツカシムルコト尤古例也、

○問云、諸侯各人質ヲ奉リ誓盟ヲナスコトハ、古ニ非トイヘリ、然リヤ、

答云、質ト云ハ古來人臣我志ヲアラハスマコトノシルシヲ君ヘ奉ル、コレヲ質ト云也、贅摯字相通、摯者致也、所_ニ以致_二其志_一也トハコノ心也、サレバ天子ハ天ヲ祭ニ鬯ヲ以テ摯トシ、諸侯ハ天子ニマミユルニ玉ヲ以テ摯トス、卿ハ羔ヲ用、大夫ハ鴈ヲ用、士ハ雉ヲ用、臣必見_二子君_一執_レ摯音至コト古ノ禮ニシテ、儀禮ノ臣禮、士相見禮及白虎通ニ出タリ、孟子ニモ出_レ疆必載_レ質、庶人不_ニ傳_レ贅爲_レ臣ト出、舜典ニ五玉三帛二生一死贅トシルセルハコノコト也、シカレバ、臣ト

シテ君ニツカヘ奉ルニ致ニ其志ニガタメニ、各ソノ志所ヲ信物ニアラワシテ禮ヲトグル是贊ニシテ、旣ニ其身ヲ君ニマカセ仕ヘ奉ル、コレ又我身ヲ以テ贊トスル也、コレヲ委身ト云ヘリ、若我國ニカヘリ事ニノゾムトキハ、乃我子弟ヲ以テ我身ノ代トシテ其實ヲ示ス、コレ後世ニ及デ人質ト云、人ヲ以テ質トシテ我實ノ志ヲアラワス也、春秋戰國ニ及デ天下大亂テ古ノ禮ヲアツク結ブトイヘドモ、必變ジテタノムニ不足ヲ以テ、國々皆子弟ヲ以テ質トス、左傳ニ周鄭交質トアルハ周ノ王子來テ鄭ニ質トナリ、鄭ノ公子行テ周ノ質タルコト也、又荳狐突曰、策名委質、貳乃辟_レ世トモ出タリ、コ、ヲ以テ案ズルニ諸侯ノ國ニ三卿ヲ立テ政ヲ監セシメ、方伯ニ三監ヲ置テ守ヲカタクシ、親戚ヲ蕃屏シテ王室ヲカタムトイヘドモ、諸侯猶志ヲアラワシ、其子弟ヲ以テ王室ニツカエシメ、我身自王城ニ居ルコト不能トモ、其實ヲアラワス道トス、三代以來ノ通法就_レ中戰國ニ及ンデハ、此禮ナクンバアルベカラズ、是ヲ以テ諸侯ノ心ヲフセグト云ヘドモ、猶質ヲ棄テ亂ヲナス輩世々ニ多シ、坊記云、制國不_レ過三千乘、都城不_レ過三百雉、

家富不_レ過三百乘、以_レ此坊_レ民、諸侯猶有_二畔者_一ト云ヘリ、若道ヲ以テ下ヲ、サメズシテ專人質ヲ事トシ、誓盟ヲ事トセンニヲイテハ、甚人君ノ道ニアラズ、故君子曰、信不_レ由_レ中質無_レ益也、明恕而行、要_レ之以_レ禮、雖無_レ有_レ質、唯能問_レ之ト云ヘリ、古ノ明王ノ政事皆内外體用ヲカヌ、明恕ハ内文德ヲ修也、要_レ之以_レ禮ハ外君臣上下ノ分ヲ正シクスル也、德明禮行レバマコトニ子弟ヲ以テ質トスルニ不_レ可_レ及ニ似タリトイヘドモ、是乃禮ノ大義ニシテ人臣信ヲアラワスノ第一ナレバ、身ヲ委ルノ代ニ子弟ヲ以テスルコト也、堯舜ヲコ、ロムルニ九男二女ヲ以テス、コレ堯ノ二心ナキ所ヲ舜ニアラワシ玉フノ道ナラズヤ、堯典云、觀_二厥刑_一于二女_一トハコノコト也、コトサラ秦ヨリ已後ノ天下皆貴_二此質_一コト舊紀ニ明也、本朝ノ古天孫天降玉フトキ大物主神、其子事代主神ヲ出シマイラセテケルヨリコノカタ、朝廷ノ大臣子弟ヲ以テ委_レ質、コトニ三韓征伐アリテケレバ、三韓王子ヲ以テ質トスルコト舊紀ニ顯然タリ、武家ニ及ンデ義仲ソノ子ヲ鎌倉ニ質タラシムルヨリ以降、連綿シテ此事タヘズ、是屬國附庸ノ輩、其信ヲアラワス

ノ實ナリ、豈コレヲユルカセニセンヤ、次ニ誓盟之事
聖代ヨリスデニソノサタアリ、物ノ約束ヲ定メ疑ヲ
決スルコト誓約ニアラザレバ不立、舜五載一巡守、
群后四朝、敷奏以言、舜典ニ出タルハ乃天下ノ諸侯
相アツマリテ其政令法則ヲ約シ、俗ヲ一ニスルノ言
也、況ヤ甘誓湯誓・秦誓・牧誓ノ書、夏殷周ノ誓也、周
禮ニ司盟職ヲ立、掌ニ盟載之法ト出、曲禮ニ約信曰
誓、洫性曰盟、皆三代ノ制也、愚者ハコレヲ不知
シテ聖人ニハ誓盟ノコトアラズト思ヘリ、我身聖德
アリト云ドモ人々コレニ化スベカラズ、唐虞三代イ
ヅレノ世ニモ、人君ノ命ヲソムク無道ノ輩アラズト
云コトナシ、シカレバコレガタメニ其誓盟ヲマフケ
テ、禮ヲ立テ人ノ無道ヲフセギ、未然ヲ正スコト聖人
ノ政也、昔晉人以尋馬陵之盟、季文子謂范文子曰、
德則不競、尋盟何爲、范文子曰、勤以撫之、寬以待
之、堅疆以御之、明神以要之、柔服伐貳、德之次
也、又子貢曰、盟所以周信也、故心以制之、玉帛以
奉之、言以結之、明神以要之ト云ヘリ、大聖夫子モ
天厭之ノ言アリ、況ヤ晏子向子家ニ盟ヲコイ、子
產叔向皆盟ヲ以テ信ヲ立シコト、春秋ニ出ル處也、禮

記ニ魯人周豐ガ言ヲノセテ云、般人作誓而民始畔、
周人作會而民始疑、周豐ガ云處ハ、老莊ノ說ニシテ
聖人ノ教ニ非ズ、但シバト盟テ道ヲコト、セズ、禮
ヲ必ト不致ハ神ヲケガスノイ、ナリ、詩云、君子屢
盟、亂是以長トナリ、サレバ春秋ノ末年々月々ニ盟誓
多シテ、其言煩ク約多ヲ以テ、諸侯口ノ血カワカザル
ニ盟ヲソムク輩多シ、コレ盟ノアヤマダニアラズ盟
ノ禮不正ガユヘ也、コトサラ彼ガ請引イタサバルコ
トヲシイテ、コレヲ誓ヲ要盟ト云、乞索壓狀ト云コレ
也、サレバ要盟無質神弗臨也、所臨唯信明神不
臨要盟ト云ヘリ、本朝ノ古天照太神已ニ素盞鳥ト
チカイ玉イシヨリコノカタ、代々誓盟ノコト日本紀
ニ出タリ、ソノ後起請文ト云ヘルハ皆約束ヲ立ルコ
ト也、白河鳥羽ノ帝ノ御宇ヨリ誓盟ヲ以テ起請トス、
貞永ノ式目起請文ノウラガキ、各連判ノ狀可見也、
起請トハウケラタツルト言也、ウケハ誓約ヲウケイ
トヨメレバ、約束ヲナス心ヲウケト云ヘルナルベシ、
請ノ字ハ乞也祈也ト註ス、人ノ各同心シテコレヲ申
シ乞コトナリ、シカレバ請ノ字ヲウクルトモコフト
モヨメリ、此誓壓狀ニアラス、各申ウケテイダスノ誓

ナレバ、コレヲ起請ト云ナルベシ、今ノ俗下人ヲ我家ニ置トキ先ウケヲタツルト云ヘルコトアリ、是又起請ノ字ノ心ト可レ知也、而シテ起請文ヲカクニ神明ヲ請ジテ、ウラガキニ血判ヲナス事、既ニ孝德帝群臣ヲ召集テ盟玉フ言ニ、告ニ天神地祇曰、天覆地載、帝道唯一而末代澆淳、君臣失序、皇天假乎於我、誅ニ殄暴逆、令其瀝ニ心血、而自今以後、君無ニ致、臣無ニ貳朝、若貳此盟、天災地妖、鬼誅人代、皎如日月也ト出タリ、楚王割ニ子期之心、以盟ト左傳ニモ出タレバ、血ヲ瀝ルコト其至心ヲ示ストノコト也、春秋傳ニ載書トイヘルモ乃コノコト也、亳城ノ盟載書云、或開ニ茲命司慎司盟、天神名山、大川羣神、羣祀、禮記者在先王先公先王諸侯之大祖先公始封君、七姓十二國之祖、明神殛之、俾失其民、隊命亡氏、路其國家ト、乃本朝今ノ起請文ニ神明ノ名ヲアラワシテマコトヲ正ス也、本朝異朝トモニ明王賢將ノ用玉フ誓盟ナレバ、事ノ實否嫌疑ヲ正スコト後世ノ要法ナリ、豈コレヲ捨ルイ、ナランヤ、○問云、諸侯ヲナヅケ法ヲ正シフスルノ次、又何レヲカ先トスルヤ、

答云、諸侯ノ外ニ大臣・有司・士ノ三等アリ、大臣ニ文

臣アリ武臣アリ、師アリ諫臣アリ、舊臣老臣アリ、各其品多シ、有司ハ諸事庶物ノ奉行司ヲ云、士ハ平士祿士ニシテ官職至テ卑シ、此内上中下アリ、近臣アリ遠臣アルコト也、サレバ異朝ノ三公九卿諸司百士、皆其次第舊紀ニ出タリ、中庸九經敬ニ大臣ニ體ニ群臣ト云ヘルヲ舉テ、敬ニ大臣一則不眩、禮ニ群臣一士之報禮重トハ云ヘリ、本朝ニヲイテ三公ヲ立、内大臣准大臣ヲ置、攝政關白ノ職ヲカチシムル、是乃大臣ト號シテ其任甚重、其寄異他、故ニ太政大臣ハ師ニ範一人ニ儀ニ形四海、無ニ其人一則闕、無ニ職掌之官ニシテ、太政大臣行ニ公事一コトハ希有ノ義タリ、是一人ニ太師トシテ天下ノ、リトナシ玉フノユヘ也、マコトニ敬ニ大臣一ノ道タルベシ、コノ外ニ納言・參議八省百官・諸臣侍等、段々古來ソノ制尤詳也、武家ニ至テ鎌倉家ニ執權ハ天下ノ政ヲ執、別當ハ侍所ヲ司テ天下ノ侍ヲ進退ス、多ハ執權コレヲ兼、コノ外ニ諸司ノ奉行アリトイヘドモ執權ヲ重臣トシ、六波羅竝兩探題ヲ以テ人ノ望職トスル也、京家ニ至テハ執權職ト號ス、コレ鎌倉ノ執權也、凡ソ執事ハ國家ニヲイテ事ヲ執ノ名ナリ、必ズ天下ノコトヲトルニカギラザルコト

春秋傳ニ出タリ、是乃後ニ管領職ト號セル也、管領ハ
執權ノ下ニテ事ヲ取行ノ名ニシテ、高時長崎圓喜ヲ
以テ管領トスト云是ナリ、後ニ執權ヲ直ニ管領ト號
スルコト、細川頼之斯波義將ニ執事職ヲ讓ルトキ改
レ之也、而シテ管領ニ三家アリ、次ニ四職家アリ、コレ
ヲ京ノ七大名ト號シテ、管領ハ天下ノ儀刑トシ、京
職ヲ司ドル人政務ヲ事トス、イヅレモ武家ノ重職尤
他ニコトナリ、シカレドモ管領ハ斯波細川畠山、四
職ハ山名・一色京極赤松ノ四家コレヲ司テ所司ト號
シ、七家ノ外コレニ任ズルナカリキ、コノ外ニ御一
族御相伴衆御供衆申次奉行、皆大名有司ノ歷々也、
而シテ豐臣家ニ及デ五老五奉行ヲ立ラル、五老ハ天
下ノ大老封國ノ牧伯四方ノ諸侯ヲ司ドル、五奉行ハ
士農工商・寺社・財用ヲワカチテ相司ドル尤重臣タ
リ、凡ソ武家ハ大臣家ニ准ズ、ソノ後院司ニ準ジ、太
上天皇之法ニシタガフトイヘドモ、亦武家ニ對シテ
相應ノ官職ナクンバアルベカラザルヲ以テ、公方家
ニ十一等ノ品ヲ定ムルコト中古ノ法也、コレ大臣ヲ
敬スルノ道ト云ベシ、群臣ニ及デハ皆コレヲ侍ト稱
ス、ソノ中譜代侍ト云ハ系圖代々斷絶イタサバル輩

ヲ云、重代ノ侍ト云ハソノ家々ニ世ヲ累テ仕ルノ侍
ナリ、コレヲ鎌倉家ヨリコノカタ重代ノ侍トナヅケ
テ御家人ト號シ、新加ノ輩ニ不_レ同、尤モコレヲ近習
セシムル也、家ノ字ハ大夫ニカギル言ナリ、家臣ト
云ハ大夫ノ臣ヲ云、魯ノ三家ト云、又ハ諸侯立_レ家
卿_大ト云、又君侈而多_レ民、大夫皆富政將_レ在_レ家、又政
夫_大ト云、_{專政}トコレ皆大夫ノ家ヲ云、シカレバ家字
在_レ家門_大、_{專政}トコレ皆大夫ノ家ヲ云、シカレバ家字
用ユルコトイサ、カナリトイヘドモ、代々公方將軍
ニ任ゼラル、ガ故ニコレヲ將軍家ト號シ、公方家ト
云、シカレバ此家ノ字ヲ用、コトニ御字ヲ加フルガユ
ヘニ、御家門ハ御一族又ハ公達ヲサシテ云、御家人ハ
重代恪勤ノ武士ヲサス也、國家官家ト云トキハ、又天
子ヲサス、家ノ字計ナレバ大夫ニキワマルナルベシ、
又老ノ字大夫自稱シテ老夫ト云、ソノ國ニ居テハ曰_ニ
寡君之老、方伯自曰_ニ天子之老、卿大夫ヲサシテ國老
トモ云、晉趙孟自寡君ノ老ト稱セリ、サレバ天下ノ執
權ヲ稱シテ老ト云ハン事、尤モヨシアリ、大國ノ卿ハ
當_{ハタモト}ニ小國之君ノ例ナレバ、執權管領ノ職古ヨリ重ク、
公族ノ兵士ハ國君ノ守護タレバ、御家人ヲ以テ體
トシ玉ハン事、甚古ノ例ニアタレル也、サレバ大臣重

臣ハソノ人ニ從テ、或ハコレヲ師ト立、或ハコレニ政事ヲユダシ、或ハコレニ武義ヲマカセ、或ハ京職西東ノ探題奉行ヲサヅク、其德高ク知以物ニ及トキハ封國ノ命アリ、諸司ノ輩ソノ品ニ從テ禮ヲタシ、諸士ノ恪勤イタス輩ニハ頭人奉行ヲ立テ其職役ヲシラシメ、武義文事ノツトメラナサシメ、コレヲ矜テ其不能ヲニクマズ、法ヲ詳ニシテ其身ヲ害ニイレザラシム、コレマコトノ敬ニ大臣ニ體ニ群臣ニ也、凡恪勤ノ侍ニ至テハ專武義ヲ習熟シ、弓馬ノ弛張懸控力量早業ヲ以テ先トス、扈從ノ近臣ハ進退周旋ヲ事トス、各コレガ師ヲ立其道々ヲ正ストキハ、風俗自化シテ天下ノ依頼タルベシ、昔建長ノ比鎌倉ノ御家人等天下ノ長久ニマカセテ游宴ヲ事トシ、家職ヲ失ケレバ同六年西明寺時頼執權ナリケレバ、將軍家ヘ申上ラル、ハ、近年武藝廢而自他門共好ニ非職才藝事、已忘ニ吾家之禮ニ可レ謂ニ比興、然者弓馬藝者、追可ニ試會、先於ニ當座被レ召コ決相撲勝負、將軍家從レ之、即有ニ相撲六番ハ命ニ奉行諸人面々、可レ爲ニ弓馬藝事、マコトニ先賢ノ戒明ナリト可レ謂、人君ノ法令人ヲツカフヲ以テ第一ノ要トス、天下ハ諸侯大名コレヲ分司テ、其風俗ヲ

正ス、王畿・都城ノ分國ハ大臣・近臣・群臣ノ能否ニヨツテ、民ノ安苦ヲナスベシ、若四夷變ヲ窺バ諸侯大名コレガ藩屏トシテ以テフセグニタレリ、諸侯大名變ヲ存セバ大臣・群臣恪勤ノ士コレヲフセイデ難ヲ止ム、故ニ諸侯大臣知德アリトモ、恪勤ノ武士ノ用タラズ、恪勤ノ武士アラザレバ全體ヲ保チガタシ、犛牛大ナリト云ヘドモ、鼠ヲトルトキハ猫ニヲトルルタトヘニ不レ異、ソノ人ニヨツテソノツトメコト也、君子勤レ禮小人盡レ力、忠爲ニ令德、非ニ其人ニ猶不可也トイヘリ、敬ニ大臣ニ體ニ群臣ト九經ニ出タルコト、尤ソノイワレアルコト也、

○問云、民ヲ治ルノ道イカン、

答云、農工商及庶人コレヲ民ト云、農ハ田畠ヲツカサドル、工ハ諸細工人、商ハアキ人也、庶人ハ奴婢僕從僧社人游民非人乞食等ニイタルマデ、士農工商ノ外ヲ庶民ト云也、各コレヲ治ムルニ其道アリ、其制法アリ其教令アリ、第一農民ノ事愛スルヲ以テ本トス、故ニ民之父母ト云、如レ保ニ赤子ト云ヘリ、中庸ニ子ニ庶民ト出タリ、イカナルヲカ愛シテ子ノ如クニスルト云バ、民ハ至テ無知ニシテアトサキノ考モナク、知

計謀慮ナキモノナリ、唯農業桑麻ノ家職ヲ事トシ、三時ニイトマアラザルガユヘニ、他ニ心ヲハコブ處ナケレバ、知慮ノタクミ生ズベキ間ナシ、自苦勞ヲツクシテ以テ上ニ收納セシム、而シテ上ノ政令ニ生死ヲマカス、コレ民ヲ愛スベキコトワリ也、如レ此民ナレバ四時トモニ上ヨリコレヲ教導シ、是ヲ撫育スルコト薄ケレバ、害ヲウケ災ニ逢ヲ不知、タトヘバ小兒ノモノイワズワカチナクシテ、自ソノ井ニ落、火ヲツカムコトヲナスガ如シ、故ニソノ實ヲ考テ人君マコトヲ以テ民ノ情ヲサグルトキハ、雖レ不レ中不レ遠ノコトワリアルベシ、若親愛ノ實ヲ不レ知シテ、只父母ノ驕子ヲメグムゴトク、コレヲ睦撫姑息イタセト云ノ心ト存ゼバ、必ズ大ナル違アルベキ也、父母ノ子ヲ愛スルモ愛ノ實ヲ不レ知バ、必ズ驕逸ノ子トナレリ、況ヤ民ヲ以驕逸タラシメンコト、人主親愛ノ實ヲ不レ得ニアルベシ、大學ニ康誥ヲ引テ如レ保赤子ト云ヘレドモ、心誠ニコレヲ求ノ旨ヲノベ、學養レ子ノ事ヲノベリ、是皆愛ノ實ヲ示サンガタメ也、故ニ民ノ情ヲ考ヘテ四時ノヲシヘヲ不レ怠、民間ノ細事タリト云ドモ、クワシクコレヲ下知シテ久シキトキハ、ソノ

俗トナサシムベシ、民初メハコレニ苦シミ煩シク存ズルト云ドモ、詳ニ法ヲ立制ヲナシテ彼ガ爲ナラン、誠ヲ盡ストキハ後ニ化シテ其俗自コレニ習モノ也、タトヘバ孩兒二三歳ノ間其起居飲食小大ノ便事マデモ乳母カシヅキ、ソノ心ヲハカツテコレヲ指引セシムルノ時、必ズ啼怒シテ始メハコレニ不レ從、マコトニ煩勞スルガ如シトイヘドモ、遂ニコレヲ俗トスルト同意也、小兒ノ道ヤシナイヲ全クシテ、コレニ教導ヲ用ユ、是乃乳母ヲエラビ傳保師ヲ置也、民間モ亦然リ、田畠山林桑麻其所ノ家業ノ利不利功者ノモノヲ撰デ、檢見檢地收納ノ義ヲ詳ナラシメテ、民ノ作得、男女家風、年中ノ養ヲ給シメ、代官奉行目付ヲ以テ四時ノ教省ヲ詳ニスルコト、是如レ保赤子ト云ノ心ニ相叶ヘリ、七月ノ詩ハ周公ノ作リ玉フテ、晝爾子茅、宵爾索綯、亟其乘屋ノ教可レ見、子產ハ民之父母ト稱セラレケレドモ、民不レ可レ逞ト云ヘリ、古人云、民生在勤、勤則不レ匱トハ皆民ヲヲシユルヲ以テ本トスレバナリ、子產ガ民ニヲケル其教左傳ニ出ル處詳ナリトイヘドモ、猶惠ニ過テ教ヲカクガユヘニ、不ニ以教ノソシリアリ、惠人世ノ戒アリ、古ノ聖賢愛

民コト、皆以ニ教戒ニ爲レ先、孔子曰、古之爲レ政、愛レ人爲レ大、所ニ以治レ愛レ人、禮爲レ大、子夏問、爲レ民之父母ニ之道、夫子答以レ達ニ於禮樂之原、夫子自解、凱弟君子民之父母、曰、凱以レ強教レ之、弟以レ說安レ之、使レ民有ニ父之尊、有ニ母之親、如レ此而后可ニ以爲ニ民之父母矣ト、各可ニ以考ニ案之、シカレバ四時ノ教導ヲ立平生ノ養ヲナストキハ、民ノ父母タルベシ、或農田水利ヲナシ、或艸木ノ種藝ヲ教トキハ、ソノ國土日々ニアラキハリ、年々豐ナランコト無疑、コレ代々ノ帝王民間ニ池ヲカマヘシメテ、其水早ヲ利シ玉フコトヲ日本紀ニ表出シテ稱美シ奉リ、道君首名ガ農業ニ功アルハ、史官コレヲ史ニシルセリ、農ヲ重ズルコト甚盛ナレバ也、凡ソ農田ノ制ソノ地ニ古今ノ變アルガユヘニ、一國ノ土地ノ制ヲシルト云ドモ、天下ノ制タルベカラズ、令ニソノ制ヲ詳ニストイヘドモ、今ノ制ニ不可レ叶、況ヤ異朝井田等ノ論、王莽コレヲ用テ天下ノ嘲ヲウケ、今本朝ニヲイテ論ズルニ不レ及、聖人定メヲキ玉フ處ソノ本アルコトナレバ、コレヲ以テ田野ノ制法トシテ、其國々ノ先例ヲ考、當時ノ法ヲ立テ民ヲ安ズルニアリ、次ニ民ノ居ニ因テ其情必ズ

不同、沃土ノ民瘠土ノ民異ニ其情、況ヤ都鄙ノ遠近、國ノ大小、山林河海險阻平易廣狹ノ地ニ從テ其俗不レ一、其情コトナルモノ也、コトニ先々ノ地頭代官ノ交代、教令庄屋名主ノ邪正ニ付テ、民情ニタガイ多シ、又ハ年ノ豐凶時ノ災難ニヨツテ其俗其情變ズルコト多シ、コレヲ察シテ恒例臨時ノ政聊ヲコタルベカラザル也、コレ心誠ニ求レ之ニアツテ人君ノ實ニ從フコト也、次ニ工商ハ市町ノアル所ニコレアリ、故ニ都城國府通會ノ地人ノ往來スル所ニ居住セズシテ不レ叶、コ、ヲ以テヲ、クノ人ニモマレ、巧言令色ヲ事トシ、僞ヲ以テ眞トシ、似セモノヲコシラヘテマコトノ物ニス、眞僞ヲマガヘ、曲ヲ直トスルコトハ、辨才ヲ以テタブラカサバレバ不レ能ガユヘニ、ソノ人品悉違僞ヲ以テ俗トス、サレバ法令政事出トイヘドモ、己レガ僞ノ心ヲ以テコレヲハカルユヘ、上ヲ僞リ奉行ヲタブラカス事必ズ多シ、故ニ工商ヲ治ムルコト、尤心ヲ盡サバレバ不レ叶、風俗ヲ一ツニシテ淳朴ニ歸スルコトアリニクキモノ也、況ヤ城都繁榮地ニヲイテハ、日々ニソノ俗ウスク僞ヲコト、スルニ至ルモノ也、古來ヨリ市町ノ制、左京右京ノ職ニアツテ彈正

使廳ノ職尤コレヲ重トス、武家ニ及デハ所司ノ職奉

行ノ職ト號スルハ、皆コノ官職也、是農民ヲ治ルト事

カワツテ、制法モサマル、品々アルコト也、ソノ富

人分限ナル輩、必ズ武家ノ士ニ相交テ豪俠ヲ企、結構

ヲナスコトアリ、專禮ヲ詳ニシテ其分ヲミダレザル

コトヲ要トスベキ也、次ニ庶民ノ制其一品一品ニ

付テソノ制ヲ立テ禮ヲ正スベシ、奴婢僕從、重代・年

季・二年居當座ノ雇モノ、罪奴男女ノ次第アルベシ、

尤若黨・中間・小者ソノ職掌アラタメ詳ナラザレバ、下

人ニ驕出來テ上ヲ僭ニイタル、サレバ禮ヲクワシク

定メテ下コレガタメニ安ジ、上コレガタメニ不_レ凌ガ

ゴトクナラシムベシ、僧社人ハソノ本寺惣錄司ソノ

司トスル處ヲ以テ、度緣ノ定メソノ道々ノ執行ヲ專

トシ、游民・非人・乞丐ノ多ハ、國ノ政令不_レ足、教導不

詳、撫育カクルガユヘナリ、游民・非人・乞丐ツイニ盜

賊ノ基タリ、尤可_レ愼也、如_レ此人品、一々ニコ、ニ記

シテ其制トキガタシ、實ニ心ヲ付テ唯禮ヲ詳ニ定ム

ルニアル也、コノ外ニ民ノ品アリトモ、此例ヲ以テコ

レヲ推スベシ、凡ソ政ヲナスノ本コレヲ親愛シテ禮

ヲ立、彼ヲ不義無道ニヲトシイレシメザルノ間ニア

ルノミ也ト可_レ知也、

○問云、農民ハ國ノ本タリ、飢ニヨリテ亂ヲ發シ政ニ

ヨツテ一揆ヲ企ツ、シカレバ四民ノ間農民ノ政令ヲ

第一トスルト古來イヘルト也、此說イカン、

答云、民ハ國ノ本ナルコト不_レ可_レ疑、民アラザレバ國

國タラズ、故ニ民政ヲ要トスルコト勿論也、但シ古來

ノ民ヲ治ムルト、今ノ民ヲ治ムルトハ、ソノ心得コト

也、本朝ノ王代ハ郡縣ノ政ナルヲ以テ、民間ニ兵ヲヲ

ク、コレ古來ノ兵民農兵ノ心也、コノ故ニ所々ニ盜賊

カクレ、郡國ノナヤマシヲナスコト秦ノ世ニ近シ、武

家天下ノ執權ノ後ハ、封建ヲ用テ天下ノ國郡コトゴ

トク守護地頭ヲ補任シ、代官ヲ設ケ民ノツグノヒ

ヲ以テ、兵士ヲ守護地頭ノ家ニマフクルガユヘ民間

ニ兵士ヲ不_レ置、民只農桑ヲ事トスルノミ也、シカレ

バ一揆ヲ企惡逆ヲイタス事、遂ニ不_レ得_レ之、唯草盜露

賊ニシテ、當座ノ劫殺ヲ事トスルノミ也、然レバ民ノ

政一揆亂逆ノヲソレアラザル事也、只其親愛ヲ事ト

シ、彼ガ心情ヲ察シ、其ヤシナイ其教ヲ詳ニスルニ

アルノミ也、若土地ノ俗ニ因テ剛強ヲコト、スルコ

トアラバ、政令ノ制法ノ愼、ソノ水土ニ從テ教化ノ心

得アルコト也、今ノ人其時宜ヲ不知ガユヘニ、古今ノ事ニ不_レ通、前後本末ヲ失ナリ、武家ノ政守護地頭ヘノ政令ヲ第一トシ、御家人ノ教於ノ第二トス、而シテ工商而シテ農民コレ階級ナリ、守護地頭ソノ人其人タレバ、ソノ預所ノ國郡ノ四民各ソノ所ヲ得、御家人能治トキハ家ト、ノフ、工商ハコレニ次農士ハコノ下也、士工商ヲカロンジテ農民ヲ先トスルコト聖人ノ政ニアラズト可_レ知也、

○問云、民ヲコト_レク道ニハル、コレマコトノ政タルベシヤ、

答云、民ヲ道ニイレテ明德ヲ明ニスルノ説ハ、宋儒新_レ民ノ説ニシテニ聖教アラズ、博ク施シテ濟衆ハ及ブベキ事ナリトイヘドモ、堯舜ステニコレヲ病メリ、況ヤ天下ノ民イカンシテ人々明德ヲ明ニスルノ説アラシヤ、コノ道其易簡ニシテ通ジヤスシトイヘドモ、父コレヲ子ニ傳ガタシ、サレバ堯舜ノ子ニ丹朱商均アリ、子又父ニ傳フル事不能、故ニ舜ニ瞽瞍禹ニ鯀アラズヤ、一家既ニ然リヤ、況ヤ國ヲヤ況ヤ天下ヲヤ、是宋儒明德ノ實ヲ不得ガユヘ也、明德ト云ハ天下ノ人民共ニ安テ樂ニ其樂ニ利ニ其利、コレヲ明德ト云ヘ

リ、シカレバ聖人立ル處ノ政法禮樂コレヲ名付テ明德トス、政法禮樂天下ニ行ル、トキハ民自化シテ道ト云德ト云ノ名字ヲ不知トイヘドモ、各ソノ業ヲツトメテ不_レ息、コレ乃明ニ明德於天下ニ也、コレヲ明ニスルコト本民ノ父母タル心ヨリ出レバ、親_レ民トイヘリ、聖經ノ文字明ナルヲ改テ新_レ民ト云ハ、宋儒ノ意見ヨリ出ト可_レ知也、而シテ納_レ民於軌物ト云ハ古ノ則也、云心ハ人君ノ政令ソノ道ヲ詳ニシ、時々ニ其事ヲナリ、民ヲコレニ化セシム、民何ゴト、云コトハシラザレドモ、其鎮撫ニマカセテソノ事ヲナセバ、ツイニ法則ノ内ニ入テ人君コレヲ以テ其利廣シ、

○問云、民ニ制法ヲ詳ニセントイタサバ民コレヲ煩ハシク思テ、其德ニ化スベカラズ、シカレバ唯上ニ德ヲ修メ、民自化スルノ教アランカ、

答云、政ヲナスハ能時ヲ知テ其俗ニ通ジ、民ノ機ヲ察スルニアリ、故ニ時宜不_レ相合トキハ上古ノ格言善行ト云ドモ、急務先行ニアラズ、サレバ其道正ニ似タリト云ドモ、先後ノ序ヲ失トキハ正ト云ベカラズ、古ノ聖人無_レ思無_レ爲、寂然不_レ動、垂_レ衣裳ニ天下治、コレ聖德ノ至大ナルユヘンニシテ、ソノ時宜如_レ此シテ感

ズベキコトワリアルガユヘ也、禹稷當三平世三過其門而不入、洪水ヲヲサメ民業ヲ勤ムレバ也、周公仰而思之、夜以繼日、兼夷狄、馳猛獸ノツトメアルガユヘナリ、往古ノ聖人皆時宜ヲ以テ急務トス、況ヤ末代ニライテハ上古ノ政ヲハカリ、ソノ先後ヲツクスニアリ、以前ニ論ズルゴトク、異朝ハ秦以後ノ天下三代ノ治ヲ以テ急務ト致シガタシ、本朝ハ武家ノ執政以後ハ王代ノ治ヲ先ズベカラズ、不_レ可_レ用ニアラズ、唯詳ニ先後ニ急緩ヲ知ベキ也、サルヲ以テ今ノ世民間ノ政事久シク法ヲナシ政ヲ詳ニセズ、只地頭ノ私意代官奉行ノ志ニマカセテ專一代ノ制ヲ逞シテ、始終公共ノ志アラズ、或ハ利口ヲ專シテ己ガ名ヲ要シ、或ハ聚斂ヲ厚フシテ媚ニ其主、タトヘ善政ニ似タリト云ドモ、皆準則ヲシラズ、一旦人ノ譽レヲ用ユルノミ也、故ニ惠ムマジキニメグンデ傷_レ惠々而費ノ類多ク、又僞ヲ以テ民ヲ仕置シ、鈎距ノ術ヲナシテ民ノ利ヲ貪ル、天下ノ民皆コレニ習コト若干年ナリ、コ、ヲ以テ有_レカクシテ無_レト云、損ゼザルヲ亡スト云テ、加損賑恤ヲ事トシ、古ノ作法ニカワツテ雜穀ヲクラフズ、魚味ヲ好ミ衣服ヲカザリ、ワザト家宅ヲヤブツ

テ外ニ貧乏ヲ示シ、人ノ救ヲ要スルガ如キ、是今ノ風俗ナリ、此時ニ及ンデハ德ヲ施シ化ヲ事トセント欲ストモ、豈一紀二紀ノ間ニコレニ化センヤ、故ニ民政ヲ立シコト夜ヲ以テ日ニツグバカリ工夫ヲメグラシ、三過テ不_レ入_レ門計ニ奉行役人身ヲクルシムトモ、政令施シガタカルベシ、サレバ彼ガワヅラハシキクルシムト云ノ毀、世ニ滿人口ニアマテシトモ、少モ是ヲ取アゲズシテ切政ヲ正シ、制ヲ盡サン事民政ヲ要也、而シテツイニハ民コレニ化シ、俗コレニ習テマコトニ垂ニ衣裳ニ無_レ爲無_レ思ノ政令ニモ可_レ及也、昔子產民間ニ政ヲシイテ都鄙上下ノワカチヲナシ、田畠ノサカイヲタバシケル、ソノ時鄭ノ國中ノ民皆ウタヲツクリテ子產ガ政ヲ毀レリ、其歌云、取_ニ我衣冠_一而楮_レ之、取_ニ我田疇_一而伍_レ之、孰殺_ニ子產_一吾其與_レ之ト、コレ子產ヲ殺サンコトヲ欲スルマデニ政ヲ立タルヲ毀レリ、間一年ヲライテ三年ニシテ子產ガ政ニ民化シテ、又歌ツクツテ云、我有_ニ子弟_一子產誨_レ之、我有_ニ田疇_一子產殖_レ之、子產死誰其嗣_レ之ト、其コレヲ慕コト可_レ見、子產ハ戰國ノ賢臣、天子以爲三國基、聞_ニ其卒_一出_レ涕云、古之遺愛也ト、カクノゴトキ子產ナリトイ

ヘドモ、政ヲナシテ俗ヲ正スニハ其毀ヲマヌカレザル也ト可レ知也、

○問云、民ノ政ヲ能スト云ドモ、又工商ノ政ヲヨクスルコト不能、三民ノ政ヲ能スト云ドモ、士ノ政ニ及ビガタキハ其タガイ、何レノ處ニ有之乎、

答云、無知ヲ制スルコトハ易、滌習コトハ難シ、制レ形易而正レ心難、出ニ恒例一易而臨時制レ急難、サレバ今工匠ノ木竹ヲ制スルハ、シバラクコレガ墨曲尺ヲシルトキハ小童子トイヘドモ、コレヲ制スルコト易シ、コレ木竹ニ知ナク心ナシ、變ナケレバナリ、既ニ

鶏犬牛羊ニ至テハ又竹木ニコトナリ、況ヤ馬ニライテヲヤ、況ヤ虎ニライテヲヤ、サレバ民ノ愚ナルコトハ木竹ニ不レ異、雞犬牛羊ニ近シ、只ソノツトメヲ教ヘソノヤシナヒヲナシテ、外ニ志所アラザレバ也、コレ如レ保赤子ト云ヘルノ心也、既ニ工商ニ及テハ、内ニ巧言令色ノ根ザシナリ、舊習汚染ノケガレアルガユヘニ、古狸之妖怪睡猫之詐僞多シテ、訟獄闘爭ヤムコトナシ、既ニ士ニ及テハ身ニ劒戟ヲ横、早業コト、シテ利器ヲソナヘ、祿ヲウケテ義ヲ重ンズ、況ヤ諸侯ニ至テハ文武ノ用無レ不備、故ニコレヲ制シ

コレヲ御スルニ道ヲ以テシ、禮ヲ以テセザレバ却テ僭レ上起レ害ノ設アリ、況ヤ御馬養レ虎ノ類ナランヤ、サレバ知アリ習アリ形アリ心アリ恒アリ變アリ、是ヲ制シ是ヲ御センコト豈容易ナルベケンヤ、コノユヘニ古人民ノ仕置ヲ能ストイヘドモ、コレヲ用テ工商ノ制ヲイタサセテ不レ合、遠國ノ仕置ニ名聞譽聲人ヲドロカセシモ、都ニ出テ何ノ香モセヌ輩舊紀ニ多シ、凡ソ一樣ニシテタンナキハ天下ノ學者皆君子タルベシ、ソノ時宜ニ從テ格物セラシニハ、其知不レ可レ致ト可レ知也、

○問云、人ノ品四民ヲ以テキワメトスルヤ、

答云、四民ト云ハ士農工商也、周禮ニ司空四民ヲ司ドルト云、公羊傳ニ四民ノワカチヲ詳ニス、凡ソ四民ハ庶民ヲサシテ四ニワカテル言也、古人ノ書ヲ以テ考フベシ、但周禮ニ司士ノ職アツテ掌ニ群臣之版ト云トキハ、士ヲ以テ群臣ノ惣稱トスルモアリ、蓋人ノ品古來ノ云處十等ニキワマレリ、是日之數十自申至癸而時又十、

日中王辰、食時公寅、平旦卿卯、雞鳴士辰、夜半阜酉、人定輿戌、黃昏隸亥、日入僚子、脯時僕丑、日昃寅、隅中臺卯、日出闕辰、不

レ在^レ第^レ尊^レ王公曠^レ位

ナレバ人ノ位モ亦十也、王公大夫士阜輿・隸・僚・僕・臺コレヲ十位ト云、コレ古ヨリノ制ニシテ三代以下天下ノ惣位ヲ王公侯伯子男ト五ニワカチ、ソノ一家一國ニテノ位ヲ君卿大夫士庶人或以王公侯伯卿大夫士中士下士爲六、合爲十二位、以上十等ト定ム、孟子ハコレヲ十一等トス、庶人自^レ阜至^レ臺之稱也然レバ十等ノ位ニ農工ト商庶民ヲ四トシテ、以上十四等ノ次第アルベキナリ、舜典ニハ四岳九官十二牧ノ次第ヲ立、四岳統^ニ十二牧商書ハ明王奉^ニ若天道^レ建^レ邦、設^レ都樹^ニ后王天子君公^レ諸侯^レ承^ニ以^ニ大夫師長^トイヘリ、ソノ時代ニヨツテソノ品タガフトイヘドモ、右ノ十四等ヲ不^レ出也、周禮ニハ民ニ九職ヲ立テヲケリ、シカレバ民ノ間ニモ又品アルベキコト也、而治政ノ品令ニ其分ヲ詳ニストイヘドモ、當世ノ用タラズ、今ヲ以云トキハ、王室公室諸侯郡主御家人陪臣庶人、コレ士ノ六等ニシテ、農百工商儒儒醫僧社人庶民、コレ合テ十二等アリ、コノ外ニ四夷ノ制アリ、是乃庶民ノ内タルベシ、コレヲツバマヤカニシテ心得ントナラバ、唯自^ト他^トヨクワカルベシ、自^ト身^ト本^トシテ、親戚ヲ立、ソノ親疎ヲワカチ、他

ヲ又別テ賢^レ賢^レ而親疎遠近ヲハカラバ、ツイニ政ノ要タルベシ、サレバ中庸ニ天下ノ九經ヲワカツテ、身ヨリ推シテ賢親^ニ大臣群臣庶民百工遠人諸侯^ト九ニワカテルトイヘドモ、親^レ親賢^レ賢^レヨリ出テ、品ヲナスニ及ベルト可^レ知也、代々ノ制多トイヘドモ當用ニアラズ、唯今云所ノ制ヲ詳ニシルヲ以テ要トスル也、

謫居童問下本終

答云、凡ソ天下ノ規範者天子ニアリ、天子ノ禮ヲ立テ以テ天下ヲ制ス、故ニ天子ノ衣食居用具コトハ、ク禮ニヨツテコレヲ行玉フニアリ、儉ヲ以テスト云ハ天子タリト云ドモ、奢ヲキワメ耳目肢體ノ欲ニマカセ玉ハン事ハ、不_レ可_レ然ガ爲ニ險ヲ以テ德トスルノ言也、舊紀ニ出ル處ヲ考ニ、天子ノ衣裳ハ天下ノ衣服ノ善ツクシ美ツクスヲ以テ禮服トサダム、故ニ繪アリヌイモノアリ、袞龍ノカザリアリテ周禮ノ司服コレヲ司ドリ、辨師ソノ冠冕ノ制ヲナシ司袞祀天之服

ヲナシ、履人王ノクツヲナス事ヲ司、夫子モ服周之冕ト顔子ニ示シ玉ヘリ、而堂ノ高ハ九尺九重五門ヲ制シ、明堂七席ヲ立席ヲ五重ニマフケ、宮殿闕觀樓閣臺沼池園囿ノ美無_レ不_レ設、周禮々記ニ出タリ、天子ノ食ハツチニ二十有六ノ調美アリ、必ズ天下ノ美鳥美魚ヲアツメテ其善ヲアツムルコト古ノ例也、況ヤ其用器用具美ヲキクメ善ヲツクス、是富四海ヲ有テ貴コト爲_二天子_一ハ其用所四海ノ善ヲツクシ、四海ノ美ヲアツムルマコトニ禮ノ至ト可_レ謂也、而シテ諸臣各其位階ヲ守テ衣食居用具ニ至ルマデ、コレヲ分限ニ相應セシムルガユヘニ、分ヲ越テ事ヲイタスノヲコリナシ、如_レ此トキハ天下ノ財用トバコホラズ、萬民コレヲ利シテ下以テ安シ、若天子ニシテ下モ群臣用ヲナシ玉イ、諸侯ニシテ匹夫ノ具ヲ用ルトキハ、天子ノ財用滯テ下民必ズ飢ト可_レ知也、

○問云、然ラバ堯舜土階三尺ノ説用ユベカラザルヤ、答云、堯舜ノコトハ唐虞ノ二典ニ出タリ、既ニ五禮ヲ修メ玉フトイヘレバ、天子ノ禮儉ニスグベカラズ、サレバ闕ニ四門トハ王城ノ四方ニ門ヲ立、諸侯ヲ朝セシムルノイ、也、以_二五采_一施_二五色_一、日月星辰ノ文章

ヲ立テ衣裳ヲ制セシムルコトハ舜ノナシ玉フ處ナリ、コ、ヲ以テ考フレバ袞龍ノ御衣ヲメサシメ、六律五聲八音ヲシラベテ、天子ノ諸侯ヲ朝セシメ玉フ、帝王豈カヤクサノサキソロエザル土ノキザハシノ濕深キ地ニ御座ヲマフケラレンヤ、然レバ土階三尺ノ説ハ墨子ガ書ニ出テ莊子ニコレヲシルシ、太史公ガ史記ニノセタル也、六韜ニコレヲ出ストイヘドモ、六韜ノ中僞作ノ書文相雜レリ、中ニモ堯ノ治ヲ論ズル處ノ一段ハ、老莊墨子ガ筆ヲカレル文章也、信用スルニ不足也、古ヨリ明王禮ヲ以テ天下ヲ制セズト云コトナシ、禮ヲ以テ云トキハ天子衣服宮殿魚味豈コレヲ儉ニ可_レ過ヤ、昔前漢ノ文帝天下ノ富貴ニ位シテ專儉ヲ事トシ、身衣_二弋綈_一履_二章烏_一、集_二上書囊_一、以爲_二殿帷_一、所_レ幸夫人帳無_レ文、繡衣不_レ曳_レ地、百金之費亦不_レ苟用ト云ヘリ、コレユヘニ先儒皆以テ爲_二恭儉之主_一、是ソノ實ヲ不_レ盡ガユヘ也、文帝道ヲシラズ黃老ノ學ヲ好デ禮ヲシリ玉ハズ、天子トシテ如_レ此ノ不義狹陋不遜アラシヤ、是太平ノ天下ニ飢饉ノ政ヲナシ、歡樂ノ時ニヲイテ哀愁ヲ事トスル也、天子喪ニ居ザレバ龜服履ヲツケ玉ハズ、夫人后妃憂ニアラザ

レバ衣ヲ不_レ短、無_ニ文采_一ヲ不_レ用、文帝ノ政ハ天災憂患ノ地ニアルノ政ナリ、此故ニ大禮ヲコラズ道コ、ニスタリテ、太子景帝又コレニ從玉フヲ以テ太倉ノ粟クチテ陳、府庫ノ錢ナヲクチテケル、コ、ニ武帝コレヲ悔ミ玉テケレバ、奢侈ヲキワメ神仙ヲコノミ遊獵ヲコト、シ、窮_レ兵_ヲ武淫亂ヲコト、シテ、文帝景帝客_ヲ蓄_ニ財寶_一一代ニ散ジ、ツイニ匈奴漢ヲヲビヤカシテ武ヲ用ニ力屈スルニ至レリ、是聚ルモノハ必散ジ、憂ナクシテ憂_レバ必愁_ニ來_ルニアラズヤ、凡ソ天下ノ治平ト稱スルハ禮樂行_レテ諸民ソノ所ヲウルニアリ、文帝ノ治平ハ上高帝ノ力ニシテ文帝ノ力ニ非ズ、文帝ニ至テ禮樂スタ_レ大綱ヤム、豈コレヲ治平ナリ儉德アリト云ンヤ、武帝ノ奢侈窮_ニ黷_一モ、文帝ノ謙讓儉朴モ、共ニ五十歩百歩之間ト云ベシ、ソレ天子人君トシテ財ヲ愛シ利ヲ逞スルコトハ小人ノワザナリ、儉ヲ事トスルトキハ其弊聚_ニ財富_一府庫ニアリ、有_ニ國家_一テ何ゾ祿ヲ貪リ財ヲアツムルコトヲコト、センヤ、禮ニ云、聖人之制_ニ富貴也_一、使_レ民富不足_ニ以驕_一、貧不_レ至_ニ於約_一、貴不_レ慊_ニ於上_一、故亂益亡也、シカレバ富ルモノハ富ルニ應ジテソノ禮ヲツクス、不_レ然_ニバ財一

ニアツマリテ天下ノ用不_レ足、孟獻子ハ魯ノ大夫タリトイヘドモ、畜_ニ馬乘_一不_レ察_ニ於雞豚_一、伐_ニ氷之家_一不_レ畜_ニ牛羊_一コトヲイヘリ、臧文仲ガ織_ニ蒲_一夫子以テ不仁トス、坊記云、子云、不_レ盡_ニ利_一以遺_ニ民_一、詩云、彼有_ニ遺棄_一、此有_ニ不_レ歛_一、伊寡婦之利、故君子仕則不_レ稼、田則不_レ漁、食_ニ時_一不_レ力_レ珍、大夫不_レ座_ニ羊_一、士不_レ座_ニ犬_一、詩云、采_ニ芣_一采_ニ芣_一、無_ニ以_レ下_レ體_一、德音莫_レ違、及_ニ爾_一同_ニ死_一、以此坊_ニ民_一、民猶忘_ニ義_一而爭_ニ利_一、以_ニ亡_一其身、マコトニ禮ノ用甚大ナリト可_レ云、サレバ天子樹_ニ瓜華_一不_ニ歛_一藏_ニ之_一種也ト、後世ニ及_ニテ上_一儉ヲ事トシテ、財ヲツトメ利ヲ爭ガユヘニ、士大夫各田宅ヲヒロメ子孫ノ酒食ノ費ヲナス、皆是禮ノ不_レ行ヨリ人皆民ト利ヲ爭ニ至ナリ、○問云、古ノ清廟ハ茅屋ニシテ儉ヲ示スニアリ、サレバ天照太神ノ宮殿ハ茅屋ヲ用テ、三杵ツケル粟ヲ以テ御供トスト云ヘルハイカン、答云、清廟ハ文王ノ廟、明堂ハ天子ノ太廟ナリ、故ニ太古ノ風ヲ存シテ茅屋采_ニ椽_一土階越_ニ席_一ヲ用ユルコト、先王ノ法也、コノ心ハ人初メヨリ貴キモノナシ、太古ノ祖ハ茅屋ヨリ起テ天下ヲシロシメスニ至_レバ、末代ノ子孫富貴ニ至ルト云ドモ、太古ヲ忘ルベカラザ

ルトノ戒ヲ存セリ、且廟ハ鬼神安置ノ地ニシテ、コレニ營作ノ結構ヲ設クルコトハ神ニ交ルノ道ニアラズ、シカレドモ子孫ヤムコトヲ不得ノ誡ヲ、シテ、又茅屋ヲイトナムモ不レ快ガ故ニ、天子諸侯ノ廟皆其制ヲ具ニス、本朝宗廟ノ神コレ乃太祖太古ノ遺風ヲ萬世ノ規範タラシムルガユヘニ、是ヲ以テ其制ヲ正シカラシム、清廟茅屋、大路越席、大羹不レ致、粢食不レ饗、昭ニ其儉也ト左傳ニ出タリ、シカレバ本朝ノ宗廟自然ト聖人ノ教ニ相稱ヘリ、是天子ノ儉ニ過玉ハンコトラヨシト云ニハアラズ、神ト人トコトニシテ太古ト今ト不レ同、戒ト作法ト不レ一也、夫子曰、奢則不遜也、儉則固、與ニ其不遜也寧儉ト、聖人儉ヲ稱シ玉フコト可ニ以考一也、後世ニ及デ晏子長孫道生ガ輩親政ノ貴ヲ得テ、三十年來一狐裘一障泥ヲ用ノ類、マコトニ陋ト可レ謂也、

○問云、器用ノ禮如何、

答云、器械用事ノ制禮ヲ以テスルコト、ソノ物々ヲ詳ニシテ其用ヲ制シ、其位ニ相當ヲナサシムルニアリ、一々辨説スベカラズ、禮樂ノ制其位ニアラザレバ下トシテコレヲ計リガタシ、禮曰、子云、夫禮者所ニ以章

レ疑別レ微、以爲ニ民坊一者也、故貴賤有レ等、衣服有レ別、朝廷有レ位、則民有レ讓、又左傳云、清廟茅屋、大路越席、大羹不レ致、粢食不レ饗、昭ニ其儉也、衾冕黻黻、帶裳幅舄、衡紃紼纒、昭ニ其度也、藻率鞞鞞、璽厲游纓、昭ニ其數也、火龍黼黻、昭ニ其文也、五色比象、昭ニ其物也、錫鸞和鈴、昭ニ其聲也、三辰旂旗、昭ニ其明也、德儉而有レ度、登降有レ數、文物以紀レ之、聲明以發レ之、以臨ニ昭百官、百官於是乎戒懼、而不ニ敢易ニ紀律ト出タリ、唐虞ニ五服五章ノ制ヲマフケ、周禮ニ司服アリ、儀禮ニ公食大夫ノ食禮ヲ出シ、周禮ニ掌客ノ職アリテ飲食ヲ禮ニカナユ、賓主有レ事、俎豆有レ數曰レ聖、聖立而持レ之以レ敬曰レ禮ト儀禮ニ出ヅ、子產爲レ政、使ニ都鄙有レ章上下有レ服ト也、凡ソ君子小人物有レ服章、貴有ニ常尊、賤有ニ等威、又服以旌レ禮、禮以行レ事ト云ヘル、皆物ノ品ヲ定ムルノ禮也、詩維鷩在梁、不レ濡ニ其翼、彼之子不レ稱ニ其服トハ、服ソノ服ニアラザルヲ云也、

○問云、人君ハ財寶ヲ不レ用ヤ、

答云、天下ノ財寶ハ天子コレヲキワメテ財寶タラシム、故ニ財寶ノ重最人君ノ位ニシカズ、サレバ天下ノ富貴ヲ司玉フガユヘニ、天下ヲ以テ寶トシテ金銀ヲ

以テ財用トス、天下ヲ寶トスル時ハ天下常ニ天下タ
リ、財用ヲ以テ寶トスレバ天下タラズ、明王寶ニ天下ニ
重ニ財用ト可レ知也、天下々々タレバ財用ツチニタ
ル、天下々々タラザレバ財用アリト云ドモコレヲ以
テ用コトヲ不レ得、コレ天下ヲ寶トスル也、財用ヲ重
ズルガユヘニコレヲ不ニ輕用、ソノ可レ致コトヲナシ
テ奢侈ノ弊ヲナサバル也、恩將ハ反レ之輕ニ天下ニ而
寶ニ財用、故ニ府庫ヲトマシテ天下ヲ失コトヲ不レ知
ト云ベキ也、財用アツマラザレバ救レ民濟急コトヲ
不レ可レ得、コレ古來理レ財ノ制アルユヘン也、

○問云、近代豐臣秀吉卿、度々金銀ヲ天下ノ大名ニ配
リ玉フコト天下以テ美談トス、

答云、國ニハ國ノ貯アリ、天下ニハ天下ノ貯アリ、ソ
ノ貯ユタカナラザレバ、天下ヲ救ノ用タラザルコト
コレヲ王制ニ出セリ、凡ソ金銀ヲ諸侯ニ與ヘ、民間ニ
コレヲ施スコト其節アリ其禮アリ、ソノ節ナク其禮
アラザレバ施ニナラズ、禮ニナラザルユヘニ、民喜諸
侯コレニナレテ財寶却テ輕クナルモノ也、豐臣秀吉
卿ハ知謀大膽ノ名將ナレバ、ソノ作畧時宜ハカリガ
タシ、今ヲ以テ考フルニ天下ノ諸侯年々干戈ニ苦シ

ミ、諸役ニツカル、處ヲハカツテ、金銀ヲ恩賜セシ
メ、或ハ譽聲ヲ逞クシ、或ハ列侯ノ隨喜ヲ期シ玉フナ
ルベシ、是其時宜ニ取テソノ道アルベケレバ、コレヲ
以テ惣テ人ノ例トハ不レ可レ言、昔前漢ノ文帝身ニ儉
ヲ行テ民ニ施ヲ盛ニスル事甚シ、民コレヲ悅デ以テ
樂シム、後ニ武帝ノ時ニ施コトヲ不レ得シテ、民コト
ゴトク苦デ武帝ノ政ヲサミス、是與フルモ節ヲ不レ以
トキハ、民悅デ家ヲ豐ニスツイヘドモ、民又コレニナ
ツラツテ奢ヲコト、シテ儉ニ入ルコトヲ不レ得ニナ
レル也、故ニ政ハ末々マデツバイテ行ルベキコトヲ
政トシテ、一旦ノ利潤ヲ事トスベカラザルナリ、

○問云、天子ニ三種ノ神寶ト號セルハ、コレ物ヲ寶ト
スルニ非ヤ、

答云、三種ノ神寶ハコレ乃天下治道ノ神寶ニシテ財
寶ニアラズ、此三器天神コレヲ以テ天孫ニ授マイラ
シテ、天下ヲ治教マシマサンコト此三器ニアリトノ
神勅ナリトカヤ、子細ハ舊紀ニ明也、而シテソノ器ハ
神璽也、寶鏡也、寶劔也、神璽ハ仁ト云ベク、寶鏡ハ知
ト云ベク、寶劔ハ勇ト可レ云、本神代ニ此名アラザレ
バ、三德ニ比シ奉ランコトモコレ附會スルニ似タリ

トイヘドモ、其御器ヲ考テ其神慮ヲ推奉ラバ、マコトニ三德ニタグヒ奉レル也、故ニ天孫モロ／＼ノ不_レ順モノヲヲサメ玉フテ、其知物ニアマチクトバコホル處アラズ、コレヲ悠久ニ施シテ以テ無_レ息ノ道ニイタリ玉フ事ハ、乃三寶ノ實ト可_レ謂也、若惡ヲ正スコト不_レ能、善惡混ジテ不_レ正、只一旦ノハカリゴトヲ以テ悠久ニ及ボシ玉ワズンバ、三器イヅレノ所ニカ可_レ用乎、此三器今ハ王朝ニ傳テ三器ノ實ハ武家コレヲ執行スル也、次ニ異朝ニ又三器アリ、坐_三明堂_二執_三傳國璽_一、列_三九鼎_二三器トス、甚本朝ノ三器ニ不_レ似、故ニ唐ノ韓愈作_レ論以爲_下歸_二天下之心_一興_三太平之基_一、是非_三三器之能繫_上也トイヘリ、スベテ異朝ノ寶トスル處ハ本朝ニヲイテ不_レ會コト多シ、玉ノ連城ヲヒカラシメ貝ノ相貝經アルガ如キ、是水土ノタガイヲ以テ人ノ性モ亦タガフナルベシ、

○問云、人君平生日用ノ事如何、

答云、天下ハ萬機ノ事アリ、人君シバラクモ事ニ倦玉ヘバ、天下ノ人情必滯、故ニ夙ニ興玉フテ先政事ヲ執行玉フ、コレヲ人君ノ事ト云也、政ヲキク事朝ヲ用ユ、コレ人ノ氣新ニ進デ不_レ怠、朝ニハ將迎ノ心去テ

其聞玉イナシ玉フ處ノ氣偏執黨頗スクナキガユヘナリ、サレバ朝廷ヲ朝ト云コト皆朝陽ノ氣ヲ用ユルノ心ナルベシ、政ヲ聞ノ地紛雜ナルベカラズ、近狎ノ臣ヲ置ベカラズ、人主居ヲ正シ衣服ヲツクロイ、執政奉行役人次第ヲ守テ、出座シテ各昨日ノ事ヲ奏シ、今日執行スベキ事ヲ以テス、而シテ各其席ヲ退テ人主自見自改玉フベキ事、自勤メ自習ハスベキ事ヲ先後シテ、其ワザヲ盡ス、コレ自_二事ノ道也_一、事ヲ自ラナシ玉ハザレバ、次第ニ下ノ情遠シテ奉行役人始ヲヨクスト云ヘドモ、終ヲ全クスル事不_レ能モノナリト可_レ知、然レバトテ大細事不_レ殘、コレヲ親見聞アルトキハセハセハシクシテ、却テ大事ヲロソカニナリ、後ニハ政ニ倦テ必大細事トモニ其奉行ニマカセテ、親コレヲ盡シ玉フ事不_レ能ニナルモノ也、古來ノ人君始ヲヨクストイヘドモ、終ヲツトムルコト不_レ能ハコノ心ナルベシ、シカラバ何ナル事ヲ親コレヲ臨ミ正シ玉ハントナラバ、ソノ位ヲ以テ云バ勤_三王家_二諸侯郡主ノ事有司ノ事、ソノワザニヨツテ云バ、國家ノ事人民ニカ、ルベキ事、生死ノ決斷及公事訴訟ノ大義、コレ皆親正_レ之ニアルベキ也、コノ外ノ細小事ハ諸役人ノ手前ニ

ヲイテ、毎月六日三日ノ式日ヲ定メ、ソノ事ヲ決斷ヲ可^レ爲、ソノ時必近臣ヲ兩人番ニカワツテ是ヲ出座セシメ、各コレヲ評定議論決斷ノ様ヲ見聞セシムベシ、近臣コレニ入言スベカラズ、是其大法也、而其翌日又ハソノ日ニ御前ニヲイテ様ヲ言上スルコト、時宜ニヨルベキナリ、既ニソノ日執政奉行退出ノ後ハ、人主燕居アルベシ、タニ及ハ古老有功ノ致仕ノ臣、及ビ博聞多識有識ノ輩、番ヲワカツテ伺候シ、時ニ從テ御前ニ進ミ、各席ヲ賜リ居ヲ安ジテ仰ヲ承リ、時宜ヲ言上シ、古戰當世ノ事ヲ詳ニ言上ス、執政ノ老臣奉行役人ト云ドモ、毎日或ハ隔日ニ一人宛伺候仕リ、公事ノ淹滯諸人ノ訴訟時ノ急務ヲ御前ノ時宜ニ由テ言上スルコト可^レ有^レ之也、是人君毎日ノ御作法タルベシ、而シテ閑暇アラシメ玉バ、本朝ノ舊紀武家ノ次第武ノ法ヲ具ニタ^バシ玉イ、異朝聖人ノ道聖代ノ政ヲ考ヘ玉フベキ也、次ニ四時ニ付テ放鷹川狩鹿狩等、及月花ノ會遊宴歌舞アルコト定^レル事也、

○問云、學ヲ第一トツトメ玉ハン事ナルニヤ、答云、人君ノ學ト云ハ右ノツトメヲ以テ天下國家ノ事古今ノ制令遊宴ノ禮ヲタ^バシ玉フヲ以テ學ト云ヘ

リ、外ニ學ト云コトアラザル也、文學ノ學問ハ閑暇アラントキ、古今ノ考アラシメ玉イ、聖人ノ道ヲシロシメサレテ、政道ノ大綱ヲ正サセ玉ハントノコト也、政ヲヲイテ文書ヲ弄シ玉ハシコトハ、玩^レ器喪^レ志ノ戒タリ、匹夫ト云ドモ學ト云ハ行ニ餘力アラントキノワザ也、況ヤ天子人君ノ學、又匹夫ノ學ニ類スベカラザル也、古ノ帝王唐虞并禹湯文武讀書ヲ以テ學トシ玉フコトヲキカズ、唯ソノ事ヲ詳ニキワメ玉フテ、ソノ道ヲシレル輩ニコレヲ正シ玉フヲ以テ、學ノ最上トスベシ、シカレバ萬機ノ大綱ヲ自見聞アツテ、執政大臣ノ意志ヲ詳ニシ、人君自ノ心ニ慮リ玉フテ而シテ古來本朝ノ作法近代御先祖ヨリ執行アリシ例ヲ考玉イ、聖人ノ旨ニアテ、ソノ道ノ達人ニ尋問フテ正シ玉ハンニ、イヅレノ處ニソノ誤リアラシヤ、シカレバ文ノ入所ニハ文人作者ヲエラミ書ノ入ラン所ニハ能書ヲ用、コレ乃學ノ至極也、彼文人作者ツイニ天下ノ用タラズ、カレヲ以テ天下ノ政事ヲイワセバ、皆異朝上古ノコトヲ談ジテ以今日ノ時宜通ズベカラザル也、次ニ人君常ニ知タマフベキ事、本朝ノ風俗古今ノタガイ、武家代々ノ治亂中ニモ、百年コノカタノ爲

レ體、本朝土地城會地津邊要大社大寺、并惣知行高、王家公家封侯郡主ノ族祖、ソノ人ノ好惡風俗陪臣卿大夫ソノ家ノ出頭人、所々ノ四民ノ内豪傑富人雄才英氣ノモノ大臣有司ノ族祖、志勤其出入ノ者心友好惡時ノハヤリ物、出來物器物衣食居具ノ次第、并御家人ノ先祖先忠常忠代々ノ制法、コトニ當家代々ノ式、異朝聖經コノ分ヲ以テ閑暇ノ時分ノツトメトナシ玉フベシ、コノ外ノ書物ハ皆一覽ノ慰タルベシ、武家權ヲ握テ既ニ數百年ニ及、天下武威ニ化スルコト偏ニ武德ニアレバ、聊モ武ヲワスレ玉ハザランコソ天下ノ急務ト云ベシ、サレバ本朝ハ右武左文トツチニ心ヲ可レ付也、

○問云、古ヲ學ハ聖人ノ教ニシテ、夫子モ好レ古トノ玉フ、然バ聖經ニカギラズ、何レノ書ヲモ詳ニ學ビ玉ハンコト人君ノ學タランカ、

答云、右ノ云所コレ好レ古學ニ古訓ト云ナルベシ、凡ソ學ト云コトハ商書說命ニ、學子古訓一乃有レ獲レ事、不レ師レ古以克永レ世、匪ニ說攸聞ト、コレ異朝ノ書ニ學ヲ云ヘルノ始ナリトカヤ、サレバ學ハ古ヲ以テ師トシ、古ノ訓ニシタガフニアルナレバ、人君能本朝ノ

古今ノ政道治亂ヲ詳ニシ、當家ノ太祖先公ノ法令格式ヲ知玉フ、コレ古ノ制ヲ學ト云ベキ也、本朝ノ王代ノ事已ニ遠久ニシテ急務ニアラズ、武家トイヘドモ亦鎌倉京家既ニ遠シ、シカレバ百年コノカタ天下ノ一變ナレバ、コレヲ能考ヘテ是非ヲ了簡ス、中ニモ當家草業ノ次第、守文ノ格式ヲ以テノリトナシ玉ハン事、皆師レ古也、異朝ニハ聖賢コモト起リ、治亂サマザマアリトイヘドモ、イマダ本朝ヲダニ不レ考シテハ、異朝ノコト知テ更ニ益ナシ、知ト云ドモ利口ニワタリテ急務ニ非也、傳説ガ高宗ニ戒ムル處、只ソノ先王先世ノコトヲ學ビ玉ハンコトヲ云テ、異國ノ事ヲ知玉ヘト云ニハアラザル也、周官云、學レ古入レ官議レ事、以制レ政乃不レ迷、無_レ以_レ利口_ニ亂_ル官トイヘリ、其官ニ任ジ職ヲ司ドル者スラ、其道々ノ古例ヲ考ザレバシレルコトモ皆利口ニヲチ入ト戒シメタリ、夫子ハ古今ノ大聖タリトイヘドモ、大廟ニ入テハ每レ事ニ問玉フ、ソノ問玉フコトハ定テソノ大廟ノ格式タルベシ、異朝ノコトヲシレリトテ、本朝ノ事ヲ準ゼント云ハ、利口ニナリヌベケレバ、古ヲコノムト云ノ道コレ不レ可レ過也、

○問云、異朝ノ聖代堯舜禹天下受授ノ間、允執^ニ其中^トノ玉ヲ、此一言乃聖人ノ學タルベシ、然ラバ本朝ノ天子人君モ、亦コレヲ守リ玉フベキコトニヤ、答云、允執^ニ厥中^ノ四字コレ三聖ノ受授タレバ、コレヲ唐虞ノ聖代ノ學ナリト云コト、宋朝ノ眞西山ガ云所也、マコトニ異朝ノ聖主コレヲ守リ玉ハンコト學ノ道タルベシ、本朝ニハ神代ノ遺勅アリ、コレ乃代々ノ聖主守リ玉フノ道ニシテ、武家ニ至テ猶宗廟ノ神ヲ崇メマイラセ玉フコト王代不^レ異、往古之神勅ト云ハ天照太神手持^ニ寶鏡^ハ、授^ニ天孫^ニ祝曰、吾兒視^レ此當^レ猶視^レ吾ト、是當^レ猶視^レ吾ノ四字、萬々世ニ至ルマデ、人君守リ玉フベキ道也、サレバ厥中ヲトラントナラバ、惟精惟一ニシテ其知ヲキワメズンバ非ズ、宗廟ノ神授ケ玉フ寶鏡ハ、乃是中ノ義知ヲ致ルノイ、ニ非ズヤ、子思中庸ヲノブルニ知仁勇ノ三ヲ以テ反復シテ論ズ、コレ中ハ知仁勇ニアレバナリ、神勅又三種ノ神寶ヲ授ケ玉フテ、同床シテ坐シ玉フコトノアルハ、是マサシク聖々相合ノ處、如^レ合ニ符節ト云ベキ也、今云處異朝ノ道ヲ本朝ニ附會セシメ論ズルニ非ズ、神代ト申ハ、往古ノ儀ニシテ今ノ詐僞スベキニ非

ズ、コ、ヲ以テ云トキハ、人君能本朝往古ノ神勅ヲ宗トシ玉フテ、眞知ヲ明ニキワメ玉バ、宗廟ノ太神ツチニ對越マシ^ノテ、寶祚ノ守護疑フ處ナク、天地ト長久ニシテ無究ノ化アルベキ也、

○問云、田獵放鷹ノ御遊ハ民間ノ煩タルベキヤ、答云、田獵放鷹ノコト人君ノ勤メ玉フ事ノ一ツナリ、コレヲ以テ民間ノ作業、庶人ノ衣食居土地ノ利、其所ノ制法虛實ヲ考ヘ玉フニモ、寒暑ヲ自試霜雪苦ヲ自シロシメシ、御家人外様ノ輩ノハシリメグリコトゴトク心ヲ付玉フトキハ、教トナリ道トナル事也、故ニ自放鷹ヲナサレ、民ヲアツメテ田獵ヲ催シ、武ヲナラワシ事ヲナレシメテ、君臣同游ノ樂アランコト、優永ノ政ト云フベシ、古來コレヲ戒シムルコトハ過テノリヲ失ガユヘ也、若勤^レ學ニ過テ書ヲ弄シ、外ヘ出玉ワザランモ亦不及ノ失アリ、トモニ君子ノ戒ナレバ其道ニ從テ過不及ヲ制シ玉フベシ、次ニタトヘ放鷹狩獵過不及アラズト云ドモ、其心ノ付玉ハザランハノリニ中ルト云ベカラズ、ノリニ中ルト云ハ、土地ノ險易人馬ノ考人民ヲ以テ事ニナラワシ、手足耳目ヲチツテ武ノ用トシ、政事ノ善惡法令ノ是非、ソ

ノ日ノ時臨事應變ノ仕形ヲ詳ニ心ヲ付コ、ロミ玉フ、コレヲ則ニアタルト云ベシ、或ハ民ノ田畠ヲフミソコナフハ民間ノ煩也、寒暑ニ士卒ノクルシミナレバ不_レ可_レ然ナド云、小節小事ヲ以テ大ナリト心得玉フベカラズ、民間ノ毛作田獵ノタメニソコチバ、ソノ地ノ代官檢察シテ收納ヲユルベ、大ニ損セバ臨時ノタマモノヲ恩賜セラルベシ、寒暑ニヨクツトメン輩ハ、コレヲ考ヘテソノ積累ニヨツテ賞賜アルベシ、如_レ此明ニ政アランニハ、民作毛ヲフミソコナワンコトヲ喜、士卒風雨寒暑ニ遊獵アランコトヲ欲スベシ、文王靈臺ハ民マテカザレドモ、來テ不日ノ功ヲナセリト云ヘリ、サレバソノ道ヲタ_バシ其制ヲ明ニイタストキハ、人勞スト云ドモ不_レ怨也、人クルシミ勞ル、コトハイタサバルト云バ、營作不_レ致車輿ニモノラズ、城ヲキヅキ堀ヲ堀ルコトモアルマジキヤ、況ヤ戰テ士卒ヲコロシ遠ニ行テ人ヲツカラス、皆是下ノイタムコトナリト云ヘドモ、其道ヲ以テスルトキハ天下コレニ從テイナムモノアラザル也、人君如_レ此大義大綱ヲ不_レ勤シテ小節小事ヲ以テ姑息ノ仁ヲナサンコトハ、甚聖人ノ戒ムル處也、

○問云、シカラバ古人農ノ暇ヲ考ヘテ、四時ノ田獵ヲナスト云ヘルハ、アヤマリナランコトニヤ、答云、古人四時ノ田獵ニ農ノイトマヲ考フルコトハ子細アルコト也、古ハ農兵ト號シテ民間ニ兵ヲ養、異朝ノ制皆如_レ此、本朝ニモ王代郡縣ヲ行ル、時ハ、民ヲアツメテ兵トシテ以テ王城ノ衛士トシ、毎年國々ヨリコレヲ勤ムルコト舊紀ニ出タリ、故ニ四時ニ四タビノ制ヲ定メテ表ヲ立法ヲ示シテ、諸民ヲアツメカケヒキノ作法ヲナラワシメ、金鼓旌旗ノ制ヲシラシム、此時ハ民コト_ハク集リテソノ制ヲキク、故ニ民ノイトマヲ考ヘザレバ、此禮ヲ行フコト不_レ能也、今ハ民間ニ兵ヲカズ、封建ノ諸侯コト_ハク士ヲ内ニ養、御家人ノ子弟幕下ニアツマリテ士タリ、故ニ古來ノ制ヲ用ユルニ不_レ及也、シカレドモ大ニ山林ニ狩獵シテ、幕下ノ兵士ノ練ヲナシ玉ハンニハ、尤モコレ民ノイトマヲ考ヘ玉ハンコトソノユヘアルベシ、平生ノ田獵ハ必ズコレヲ事トスルニ非ズ、但シ人君ノワザ一ツモミダリナラザルハ古ノ戒ナレバ、コレヲ致シ玉ハンコト、ソノ法ヲ考ヘテ民ニ禮ニイレシメ玉ハンハ、尤明君ノワザ也、其制法詳ニ周禮ニ出

タリトイヘドモ、是上古ノ事異朝ノ禮ナレバ、コレヲ本トシテ本朝今日ノ禮ニ時宜アルベキ也、明君ノ作法ハ一ツモ不_レ入ムダゴトヲ以テ民ノツカレヲナス事ナシ、サレバタトヘソノ作法古ニノツトリ、舊紀ニアリト云ドモ、今日コレヲ用テ事宜ニアワザルコトヲナスバムダゴト、云ベキ也、只詳ニ格物致知シテ、其事物ヲ明ニシテ以テソノ道ヲ正シ、禮ヲキワメシコトコレ明君ノ戒也、魯隱公將ニ如棠觀_レ魚者、臧僖伯諫曰、凡物不_レ足_ニ以_ニ講_ニ大事、其材不_レ足_ニ以_ニ備_ニ器用、則君不_レ舉焉、君將_レ納_ニ民於軌物_ニ者也、故講_レ事以度_レ軌、量謂_ニ之軌、取_レ材以章_レ物、采謂_ニ之物、不軌不物謂_ニ之亂政、亂政亟行所_ニ以_ニ敗_ニ也、故春蒐夏苗秋獮冬狩、皆於_ニ農隙_ニ以_ニ講_レ事也、三年而治_レ兵、入而振旅、歸而飲至、以數_ニ軍實、昭_ニ文章、明_ニ貴賤、辨_ニ等列、順_ニ少長、習_ニ威儀_ニ也、鳥獸之肉、不_レ登_ニ於俎、皮革齒牙骨角毛羽不_レ登_ニ於器、則公不_レ射_ニ古之制_ニ也、

○問云、人君萬機ノ事ヲ學デ政令ヲ出シ玉フ時、自守リ玉フベキ心得如何、

答云、人君天下ノ富貴ニ上テ九重ノフカキニ座シ玉フガユヘニ、自其弊アルコトヲシロシメサレザル也、

一ニハ、天下ノ人コレヲ畏_レ奉テ近コトヲ不_レ得ガユヘニ、人ノ情更ニ不_レ通也、コレヲ畏_レノ弊ト云、二ニハ、出入ニ警蹕ヲ唱、前馳後乘前後ヲサ、エテソノ出御アラン、道路ハ居ヲツクロイ、道ヲ改人民往來ヲヤメ、窓ヲ立戸ヲヲロス、タトヘ跪座拜禮ノ輩モ、衣服ヲ正シ言行ヲカイツクロフガ故ニ、人君ノ耳目常ニ狹シテ遠ヲシリ、カクレタルヲ察スルコト不_レ能、コレヲ遠ノ弊ト云、三ニハ、遠近ノ臣人君ノ喜ヲナサン事ヲ欲シテ、ソノ機嫌ヲ伺ヒ、巧言令色ヲ事トシテ媚ヲ入、故ニ人君常ニ喜ヲ事トシテ、ツイニ宴安ヲ弄ス、是安ノ弊也、此三ノ弊アル事ヲ知テ、今日ノ政事ニ心ヲ付玉フベシ、然レドモ此三ヲ去ントスレバ、又コレニ三失生ズル也、人畏ベキ事ヲ知玉フテ人ヲ近ヅケ玉ヘバ、奸人利口ヲ以進ミ、褻臣權ヲ專トスルニ至テ、上ノ威甚輕ニ至ルベシ、又遠ノ弊ヲ除コトヲ欲シテ、目付ヲ置監ヲ設、細小事マデ見聞ヲ事ト致シ玉ヘバ、察ニ過テ叢睦スルニ至ガ故ニセワ_レシクシテ、却テ大綱ヲ失ニ至ル事多シ、是過察ノ失アリ又安ノ弊ヲ去ント致シ、人主怒ヲ事トシ玉ヘバ遠近常ニヲソレテ、マコトノ威却テ行レズタトヘ小家ノ主人

トイヘドモ、其機嫌不_レ宜トキハ、其家事調ガタク下
臣コト_ハイタミ、或ハ怒_レ遷_レ物コト多、況國家大
君一タビ怒玉トキハ、天下ノ遠近コレニヲソレテ政
事ノ急速ナルベキコトモ淹滯シテ不_レ通、若事ヲ取行
コト有テモ、怒ウツルトキハ國家ノイタミタランコ
ト甚重、是又怒_ノ失也、是三弊三失也、是常ニ戒守リ
玉フテ臨_レ事玉ハンコト、人君ノ要ト云ベキ也、

○問云、三弊三失ノ事承知ス、其内察ニ過ルハクラカ
ランヨリ益アルベキコト也、聞テ是ヲ不_レ用、見テ是
ヲ不_レ致コトハヤスカリナンコト也、

答云、過_レ察コト人君ノ大失也、見聞ニ付テ不_レ惑ト云
ヘルコトハ明君ノ事也、常ノ人ノ惑皆見聞ノ間ニ有、
故ニ小惡ナリト云ヘドモ、コレヲキクトキハ必ズ大
善ヲサユルコト有、人皆聖賢アラザレバ必惡ハ多シ
テ善ハ少シ、シカルニ其惡ヲ規ソノ非ヲ改メントイ
タストキハ、其政失ニシテキビシク、多ク罪ヲ行ナハ
ザル時ハ不_レ叶、是ニヨツテ、國家ノ困窮アゲテ不_レ可
レ數也、古ヨリ善善而惡_レ惡ヲ政ノアヤマリトイヘリ、
人ノ善ヲアゲテ人ノ惡ヲカクシアワレミテ不能ヲ教
ヘ、是ヲ罪ニヲトシイレザルゴトクナル政ヲコソ善

政ト云ヘル也、天下ノ人民多ハ皆不知無才不義無道
ナルモノ也、是コト_ハク善ニ致スコトハ聖人不_レ可
レ叶、只制法ヲ出シテ罪ニ不_レ入、咎ニアワザラシムル
教マデナリ、シカレバ下ヲコマカニ聞玉フホド、下々
ノ惡高聞ニ達シテ惡ヲニクミ玉フ心出來レバ、善人
害ヲ蒙リ小過ヲ以テ賢臣スタランコト甚可_レ惜ノ至
也、水クラフシテ大魚コレニスミ、山深シテ猛獸コレ
ニカクル、寛仁ニシテ賢德立コト古ヨリ然リ、シカレ
バトテ又何事ヲモ見聞アラザレバ、下情不_レ通シテ大
臣有司威ヲ盜ム、コレ遠ノ弊ニ察ニ過ノ失ナクンバ
アラザルト云ヘル也、

○問云、人君日用ニ守テ戒シメ玉ハンノ道如何、
答云、只去勝心テ勤テ不_レ息ニアルベシ、勝心ト云ハ
群臣ニ評詁アツテ、是ニ不_レ付自立玉フ、コレ慢心我心
ト云ベシ、是ヨリ人ノ諫ヲ不_レ納、自ノ心ヲ師トナシ玉
フ也、日用萬機ノ政必ズ後はニ倦玉フコトアリ、政ニ
倦玉フトキハ、人臣其機ヲ知テ酒色游興ヲス、メ奉
テ、或ハ病者タラシメ、或好_レ樂玉フニ陷、是ヨリ人君
政ニ怠テ奸臣威ヲヌスミ、下ノ情日ニ遠シ、如此ナリ
ユイテ年月積トキハ、天下ノ政事又コレヲ例トス、ソ

レヨリ人君政ヲ親ナシ玉ハザルモノ、如クナリ行、大小事トモニ臣是ヲ執行ノ例トナツテ、御子孫迄コノ例ヲ追ガユヘニ、後々ノ人君日々ニ知クラク、虛威高シテ實ハ權臣私ヲカマフルニナリ、人君ハ虛器ヲ擁スルコト長久ノ治ニ多シ、昔鎌倉右大將家自天下ノ訟ヲタバシ政ヲ志トナシ玉フ、其後賴家卿實朝卿ニ及デハ天下ノ治ヤウヤク久シキヲ以テ、政務日々ニ怠リ玉フ、奸臣此時利ヲ得テ折ヲ以テ諫メ申シケルハ、君ハスデニ四海ノ主ニテマシ／＼テ、自刑獄訴人ノ輩ヲ近付玉ハンコト、不_レ近_三刑人_一ト云ヘル戒シメニソムキ玉ヘリ、若不意ニ狂亂ノモノ出來テハイカ_レナレバ、自大小事ヲコトワリ玉ハンハ、右大將家イマダ天下草業ノ時ナレバナリト云、コ、ニタイテ賴家自決斷ノ事ヲヤメ玉フテ、一切大小事皆北條時政義時父子ノハカライタリ、是迄ハ問注所モ柳營ノ内ナリシヲ、諸人群參ノ地ナレバ營中不_レ可_レ然トテ、郭外ニ新造セラル、是ニ因テ賴家卿閑暇多シテ日月ノ長コトヲクラシ玉フタヨリニ、山水ヲ弄ビ盃酒ヲ事トス、奸臣又折ヲ得テ蹴鞠ノ游ビハ古法ナリト云ケレバ、乃京都ヨリ其藝術ノモノヲ招テ、コレヨリ日

夜此事ヲ弄デ、天下ノ政事悉ク北條ニマカセラル、コノユヘニ賴家卿殃災ニヨツテ、ツイニ實朝ニ天下ヲ與ヘ玉フ、實朝十二歳ニテ天下ノ主トナリ玉ヘバ、政務ハ北條ニマカセラル、コトニ坊門大納言信清ノ息女ヲ嫁シ玉フテ公家ノ往來シゲク、專文書ヲ好ミ詠歌ニ長ジ、或ハ陳和卿ニ命ジテ唐船ヲ作ラシメ、宋ニワタランコトヲ求メ、或ハ歌ノ會繪合等ヲ事トシ玉フ、是皆奸臣ソノ氣ニ從テソノ好ヲ長ゼシメテ、以テ政務ヲ己ガ私ニナサンタメ也、コレヨリ鎌倉ノ公方家皆虛位ヲ弄シテ、天下ノ政ハ執權ノ心ニマカス、タマ／＼コレヲナラツテ政ヲ自ナサントセシ公方アレバ、乃コレヲ改テ別君ヲ立テ、執權ハ北條ノ家ヲ不_レ出、コレソノ起ル處大江廣元三善善信ガ輩、皆京家遊藝ノ輩ニシテ、奸佞ヲ事トシテ北條ニテライ、以テ己レガ欲ヲホシイマ、ニスル也、京都將軍家ニ及デモ亦如_レ此、細川常久身ヲ忘志ヲクルシメテ義滿卿ヲ輔佐シケルガ、常久卒_レテ義滿卿政務ニツカレ、ヤガテ義持ニ征夷將軍ヲユヅリマイラセ、其身ハ三十八ニテ落飾玉イ、北山ノ御所ニウツリ玉イ、政務ヲ管領ニマカセラレテケル、コノ例ヨリ代々ノ公方家皆管

領ニ政ヲマカセ玉フガユヘニ、京家ノ執政又三家ニ傳テ以テ他ニユヅラズ、管領ノ威ハ公方ヲ押ニナレリ、是皆近臣ニヘツラツテ媚ヲ奉リ、以テ君ヲ安宴ニヲトシイレテ奸臣ヲリヲ得テ威ヲヌスミ、ツイニコ

レヲカヘサバルニ至ル也、秦ノ趙高ガ二世皇帝ニ宴安ヲス、メシタメシ可并案也、凡ソ人君ハ政務ヲ以テ日夜ノツトメトス、政務ニアヅカリ玉ハザルトキハイツモ閑暇ノミ多シ、閑暇アルガユヘニ蹴鞠詠歌文筆參學ナドイヘル風流ノタノシミ、月ノ夕花ノ朝ヲ弄シ、山水田獵ヲ事トスルノワザニモ至ルベシ、シカレバ訴訟刑獄等ノ政務ハ、君ハ決斷ナキモノト云ゴトクニナリユクコト、ソノ本ハ少ノコトニテ、ソレヲ乃例トシテ次第ニコレヲ古例トスルガユヘニ、人君ハ必游樂ニイラズシテ不_レ叶ガゴトクナレル也、甚可_ニ嘆息也、古來將軍家ノ例ハ政所始ト云テ、諸事ノ政務ノ始ニモ先ヅ甲冑ヲ帶シテ、乘_レ馬射_レ弓コトヲ先ズ、コレ乃武ヲ忘_レ玉ハザルノ驗也、如此義モ後ニハ奸臣ヘツラツテ、大位ノ人甲冑ヲツケ玉ハンコトハアブナキ也、アラキワザナリト云ニナツテ、武ノ職ヲモワスル、ニナレルコト、詳東鑑等ニコレ

ヲ出セリ、左傳ニ子大叔問ニ政於子產、子產曰、政如_ニ農功、日夜思_レ之、思_ニ其始_一成_ニ其終_一朝夕而行ト云ヘル、コレ悠久而不_レ息ノ心ナルベシ、

○問云、天下ノ事ヲ政ト云心ハイカナル義ゾヤ、

答云、夫子魯襄公秀康子ガ政ヲ問ニ皆政者正也ト答ヘ玉ヘルハ、政正相通ジテ正ヲ以テ政ト云也、天下ノ道不_レ正トキハ、タトヘ國家ニ兵亂災害ナシト云ドモ、政ニアラズ、正トキハ其風俗スナホニシテ其道自立、コレヲ政ト云也、正ト云ハ守_レ一以止ノ義也ト云ヘリ、一ハ乃政ノツチアツテソノ則不_レ一ノ心ナリ、止ト云ハ其至善ニ止テ不動ノ貌ナリ、正ノ字ヲ制スルコト古人心ナキニ非ズ、書ニ政ハ貴_レ有_レ恒ト云モ、數變易スルコトナク一定ノ制ヲ立ルコト也、政ヲ立ルニ前方其思慮キワマラザルガ故ニ、恒ニシテ不_レ變、只心ニ浮ミタルニマカセ、人物ノ顯レタルワザニマカセテコレヲ爲トキハ、德ヲ以テ致ノ政ニアラズ、故ニシバ_一改メザレバ不_レ叶也、德ヲ以テ致ト云ハ、我思慮ヲ詳ニイタシ有道ニ就テコレヲ正シ、而シテ身ニ力行シ、コレヲコ、ロミテ天下ニ可_レ行人民ニ守ラシムベキノ道ヲ本トシ、法令ヲ立ルコレ德也、

如^レ斯トキハマコトニ北辰ノ居ニ其所ニテ衆星ノコレ
ニ向フニコトナルベカラズ、是ヲ實トス、サレバ政ハ
正也、子帥以^レ正、孰敢不^レ正トハノ玉ヘルナルベシ、
本朝ノ上古ニハ主^ニ祭祀^一モ乃朝政ヲ執行ス、ソノ
ユヘハ往古ノ神勅ニ三種ノ神寶ヲ天子ノ御殿ニ安置
マシ^レテ、神慮ヲ以テ人君ノ御心トナシ玉フガユ
ヘニ、神ヲ祭り玉フコト天子コレヲ自ナシ玉フ、ソノ
役人ニ相代ル者コレ執政ノ大臣タリ、シカレバ神ヲ
祭祀イタスヲマツリト云、ソノコトアルヲマツリゴ
ト、云ヘルガユヘニ、政ヲマツリゴト、云也、祭^レ神
ノ實ハ不^レ以^レ誠神コレヲウクベカラズ、故ニ政ハ誠
也、誠ハ正シクシテ不^レ違、誠ト正トコトナルコトナ
ケレバ政者正也ノ心ナリ、凡天下ハ人主ノ一體也、四
肢ノ末々マデ氣血ノ循環アラザルトキハ、ソノ身ヲ
不仁ト云、天下ノ間四海ノ末ト云ドモ、天子ノ政トハ
カザルトキハ、是天子ノ有ニ非ズ、故ニ政ヲナス事ヨ
ク其道ヲツクサレバ、其正ヲ不^レ得ト可^レ知也、ソノ
正ヲウルコトハ、本誠ヨリ出ズンバアラザル也、

○問云、政ヲナスノ道如何、

答云、天下ノ事ヲ考ヘテソノ道ヲ正シ、其ワザヲナス

ヲ政事ト云、其下知ヲ四方ヘフレナガシ、條目ヲアラ
ワスヲ令ト云也、コレヲ政令ト稱ス、政ヲナスノ道夫
子ソノ門人ニ示シ玉イ、并爲^レ政ノ道ヲノ玉フ事、論
語ニ詳ナリ、尤唐虞三代ノ政ハ、四代ノ書ニアラワ
レ、歷代ノ政事ハ舊紀ニミエ、學者ノ對策シテ政ヲ論
ジ、或治道政道ヲ云コト不^レ可^レ違ニ枚舉ニ也、唐虞三代
周公孔子ノ政ヲノベ玉フコトハ、聖々相續ノ大義ナ
レバ、言ニ不^レ及コト也、先本朝ノ往古神代ヨリ人皇
ニ至テ、コノ國土ヲ治教アリシ道ヲ詳ニ考ヘ、中古武
家天下ノ成敗ヲ司レル其教令ヲ委シク可^レ知也、コ、
ニライテ三代唐虞ノ時、宜周公孔子ノ教ヲノリトイ
タサバ大ナルアヤマチ不^レ可^レ有^レ之也、

○問云、古例ヲ考舊治ヲ知ト云ドモ、コレヲ計ニソノ
知アラズ、願ハンソノ要トスル處ヲ承ランコトヲ欲ス、
答云、政ノ要ハ在^レ得^レ人ト可^レ心得^レ也、ソノユヘハ人
君自天下ノ事ヲ試ミ玉フベキヤウナケレバ、宰相政
ヲ司、百官有司コト^レクコレヲ司テ、其役々ヲ規
ス、シカレバ其人々ニアラザレバ、ソノ政皆不^レ可^レ
正、コ、ヲ以テソノ人ヲエラブニアリ、人ノ要ト云
ハ外ニテハ諸侯郡主、内ニライテハ大臣執政、四民ノ

司武義ノ役人也、コノ人不レ正トキハ、人君ノ心思耳目不レ明也、人君ハ以ニ群臣ニ爲ニ耳目、以ニ大臣ニ爲ニ心思、人臣ノ所レ謀、奏言スル處不レ正バ、人君心思耳目昏シ、奏言ヲ疑玉ヘバ群臣嫌疑ヲ存ス、シカレバ唯ソノ人ヲ得テ其事ヲマカセ玉フニアルベキ也、堯舜皆然リ、舜典ニ云、詢ニ于四岳、四岳官名又曰四方之方伯關ニ四門、明ニ四目、達ニ四聰トハコノ心也、聖人ニ四ノ目四ノ耳アルニアラズ、四方ニ善知聰明ノ臣ヲ立テ、ソレニマカセ玉フトキハ四方明ニ視、四方明ニキコフルガユヘニ、聖人ノ四目四聰ト云ヘル也、四門ト云ハ四方ヲ開テ四方ニソノ賢者ヲ立テ、コレヲ招キコレニマカスルコレヲ四門ト號スル也、唐虞ノ聖代トイヘドモ、二十有二人ヲ撰デ天功ヲ亮ケ玉フハ得レ人ノ道タルベシ、周禮惟王建國、辨レ方正レ位、體國經野、設レ官分レ職、以爲ニ民極ト云ヘリ、古本ノ聖賢人ヲ得ルコトヲ要トセザルコトナキ也、

○問云、世ニ聖德ノ賢者ハ不レ可有レ之ヤ、答云、堯舜ノ大聖德、周公ノ才ノ美ト云ヘドモ、野無ニ遺賢、三吐レ哺三握レ髮玉フハ、聖德ノモノヲ期シテ尋玉フニアラズ、一言ノ善一行ノ美、一藝ノ才アリト云

トモ、必コレヲ用テソレノ用事ヲナサシムルニアリ、天下ハ萬機ノ政多ケレバ、何ノ役人何ノ職ト云テ、サマノ有司奉行更ニツクルコトアラザレバ、其人ヲ舉置テソノ道ニ通ズベキ人ヲ、其職ニ至ラシムルトキハ、コレ人ヲ得ト云也、凡ソ人ノ才主君ノツカイヤウニ因テ、下モ中ニ及ビ中モ上ニ至ルベシ、ソノ人君不レ明バ、上ノ才モ下ニ至リ、中下ノ輩ハ非才下愚ニナルコト古今皆然リ、サレバ人才ヲエランデ是ヲ舉導ニ大道ヲ以テシ、教ニ禮儀ヲタマサバ、人才日々ニ長ジテ上代ニ劣ルベカラザル也、後世ニ及デ治平永久ナレバ必ズ人君人ニ倦ガ故ニ、賢才美質アリトイヘドモ大異行アラザレバコレヲ用玉ワズ、次第ノ階級ヲ守テ官ヲ世ニス、是不レ得レ人ノ失也、人君ハ人ヲ養ヲ以テ人君タリ、人ヲ養コトヲ不レ得トキハ人君ト不レ可レ云、易曰、聖人養賢以及ニ萬民トハコノコトナルベシ、古ノ亂世ニハ其國其所ニ各其才カシコキ者ヲエランデ事ヲマカス、是ソノ人惡トキハソノ國敵ニ侵ル、ガユヘニ、人ヲ不レ養ト云コトナシ、承平日久ケレバ能アルモ不能ナルモ、トモ二人君ノ威ニマカセテ事ヲ執行テ、下ノ情不レ通、ソノ上家

家ノ重代ノ者、子孫多シテコレヲ養ニサヘ倦テケレバ、外ノ養賢コトハ沙汰ニ不レ及體也、凡賢ト云ハ人ノ才知能物ニ通ジテ、其言行ニ大ナルアヤマリ無レ之ヲ賢德ノ人ト云ベシ、人ノ氣質不レ同ガユヘニ、ソノ知識聰明不レ同、其得タル處不レ會處アリ、人ハ同ジク人ナリトイヘドモ、一士ヲ以テ千士ニ敵スルアリ、一車ノ兵器一寸ノ鐵ニ不レ及ニ同ジ、コノユヘニ一士ニシテ千鍾萬鍾ノ祿ヲモウケ、匹夫ニシテ千乘ノ國ヲモ治ルハ、皆知ノ物ニアマテク、才ノ事物ニ通ズルガユヘ也、故ニヨク士ヲウルトキハ野ニ遺賢ナクシテ、國家ノ治平上古ニヲトルベカラズ、彼管仲晏子子產ガ政イマダ大器ニ不レ及ハ、ヨク人ヲ得テ大道ヲタマササルノイ、也、其人ニ非シテ其政ヲサツクルヲ不レ勝ニ其任ト云也、子曰、德薄而位尊、知小而謀大、力小而任重、鮮不レ及矣、易曰、鼎折レ足覆ニ公餗、其形渥、凶言不レ任ニ其任ト也ト出タルハコノ心也、タトヘバ一器ヲ作ルト云ドモ、其器ヲツクリナレタル工人ニ與ユレバ、勞スルコト無テ成功速也、此モノ細工ニ巧ナルコトヲ致スト云テ、其道ニ仕狎ザル者ニイタサセテハ似テ非ナルコトアリ、コレヲワキマヘテソ

レトノ賢才ニ任ズルト云ヘル也、鄭ノ裨諲野ニ謀ルトキハ、ソノ慮アタル、朝廷ニテ評議スレバ不レ中ガユヘニ、子產必ズ裨諲ヲ野ニツレユイテ事ヲ談ゼリト云ハ、ソノサカシキニマカスル也、公子魏牟過レ趙、趙王迎レ之、反至レ坐、前有ニ尺帛、且令ニ工人以爲冠、工見ニ客來ニ也、因避、趙王曰、願聞レ所ニ以爲冠、下、魏牟曰、王能重ニ王之國、若ニ此尺帛ニ則國大治矣、趙王不レ悅曰、寡人豈敢輕レ國若レ此、魏牟曰、請爲レ王說レ之、王有ニ尺帛ニ何不レ令ニ前郎中爲冠、王曰、郎中不ニ以爲冠、牟曰、爲冠而敗レ之、奚虧ニ於王之國ニ而王必待レ工而後乃使レ之、今爲ニ天下ニ之工或非也、社稷爲ニ虛器、先王不ニ血食、而王不ニ以與レ工、乃與ニ幼艾ト、コレ皆ソノ人ヲ得テソノ職ヲ司シメザルノタトヘ也、子產ハ錦ヲ學製ノ戒ヲナシ、柳子厚ハ梓人傳ヲ作レリ、マコトニ政ヲサツケンニ其人ヲ得ニアルコト可レ知也、

○問云、政ノ品萬機ト云ドモ、其ツママル處イヅレエカアルヤ、

答云、工匠家ヲタツルコトハ、必ズ曲尺ヲ以テ本トシテ、竹木ヲ制スルニ器ヲ以テス、天下ノ政事モ亦如

レ此、聖人ノ道ヲ以テ準繩トシテ、禮樂刑賞ノ四ヲ以テ器トス、此四ノ物堯舜モ用タマワザレバ、天下治ルベカラズ、桀紂モコレヲ用テ天下ヲ帥ユ、サレバ萬機ノ政ヲイタス器コレニマサルコトアラズ、古今皆コレニヨラズト云コトナシ、而シテ四ノ物ヲ用ユルニ其道ヲ以テセザルトキハ、其用コト々々違テ、大木ヲケヅ、テ小木トシ、小木ハコト々々クケヅラレテ用ニタ、ザルユヘニ、唯樗^{チウ}屑^{セツ}ノミニナリテ用木トナラズ、又ソノマ、ニ用ントスレバ、大小厚薄ト、ノホラズ、疎密文質タガツテ甚固陋也、シカレバコレヲ用ユルコト其知ヲキワメザレバ其則ニ不_レ中也、タトヘバ味ヲ調ルハ鹽ト酢ト酒トヲ用、天下ノ人ノ味ヲ調コト此物ニ不_レ過シテ、其味ニ美惡アルゴトシ、又碁盤ニ石ヲ並ブルニ、上手モ下手モ碁盤一杯ニ石ヲナラベテ而シテ碁終ルガゴトシ、天下ノ政道君子小人トモニ、皆禮樂刑賞ヲ用テ一世ヲワルトイヘドモ、其善惡明暗ハ何方ニアルコトゾト尋ヌレバ、前後過不及ノ間ニシテ、唯其知ヲツクサルガユヘニアリト可_レ知也、次ニ政ヲナス事能時務ヲ可_レ知也、勢ト云ハソノ時代ニ當テ、專世俗ニ弄テ此事盛ナルト、又

久シク衰テ時ニ不_レ合沈淪イタセルコト、是皆時勢也、タトヘバ荏苒^{ジンニョ}ノゴトキ、飲食ノ便ナク醫藥ノ能アラズシテ、皆天下ノ人大小男女コレヲ賞シテ酒食ニ比ス、故ニ天下ノ民農田ヲヤメテ是ヲ作リ、以テ利ヲ逞クス、或酒ノ爲_レ物多ハ人ヲシテ狂亂セシメ害ヲナスニ至レリ、或ハ茶ノ爲_レ物其費甚多シテ、器ヲ弄シ心ヲ喪ニ至テ、各天下ノ重物トナツテ家々コレヲ賞シ、人々コレヲ貯、其費不可_レ舉云_一ト云ドモ、是ヲトバメヌル事俄ニナリスベキニ非ズ、是勢ト可_レ云也、飲食器物草木ニ不_レ限、世間ニ皆勢トナツテ不_レ得_レ止コトアレバ、コレヲ考ヘテ其始メヲ制シ、ソノ終ヲ禁ズルゴトク心ヲ可_レ付也、俗學利口ノ輩、勢ヲ不_レ知シテコレハ道理ノナキコト也、道ノ不_レ立コト也、然バ急ニトリヒシガバ乃ヤムベキト、一片ニ存ズルヲ以テ政令嚴ニ過、人民悉ク苦デツイニコレヲ留ルコト不_レ能ガユヘニ、却テ彼ガ勢彌盛ニナルコトアリ、大火ヲ消ニ小水ヲカクレバ、火彌盛ナルニコトナラザルト可_レ知也、次ニ風俗ヲ考フベシ、政ノ是非ハ風俗ノ善惡ニカ、ルコト也、故ニ四民ノ風俗ヲタバスヲ以テ政ノ要トスベシ、風俗ト云ハ遠ヲ追舊ヲ慕テ時

ノ勢ヲ事トセズ、卑シキヲメグミ弱ヲタスケテ不能
ヲアワレム、コレヲマコトノ風俗ト云、下コノ風俗ア
ルトキハ遺^レ君棄^レ親ノアヤマリ不^レ可有^レ焉ナリ、政
以^レ愛^レ人爲^レ大トハコノ心ナルベキ也、利ヲ逞シクス
ルコトヲ專トスルトキハ、巧言令色ノ俗多シテ、不
奪^レバ不^レ厭ト云ニ至リヌベシ、禮曰、朝廷敬^レ老則民
作^レ孝、脩^レ宗廟、敬^レ祀事、教^レ民追孝^レ也、以^レ此坊^レ民、
民猶忘^レ其親^レ、

○問云、風俗ヲ巧言令色ニ至ラシメザル政アリヤ、
答云、人君能實ヲ正ストキハ、下ニ巧言令色アラズ、
凡^レソ天下ノ大小人トモニ人欲ノ情皆同ジ、故ニ下皆
上ノ好ム處ニ從テ此言行ヲナス、サレバ利口ヲ貴バ
下皆口ニ利、默淨ヲ貴バ下皆沈黙ス、楚王細腰ヲ好デ
宮中ニ餓死多シ、城中好^ニ廣眉^一四方且半額、城中好^ニ
高髻^一四方高一尺、城中好^ニ大袖^一四方全匹帛ト云ヘ
リ、上ニ好ンデ行玉フ政、乃下ノ俗ナルコト甚速ナ
リ、凡^レソ末世ノ俗人ヲ知ルノ明薄ガユヘニ、必ズ人ノ
毀譽ヲ以テ或ハコレヲ舉、或ハコレヲ退ク、コノユヘ
ニ人ニ譽ラル、ゴトクコシラフルニナレリ、人多ク
無知ノモノナレバ其目ニヨシトミセ、ソノ耳ニヨシ

トキカセンコト甚ヤスシ、故ニ奸是ニ利ヲ得テ、上ヘ
能近ヅク輩ノ前ニテ巧言令色ヲカマヘ、ソノ譽レヲ
上ヘ通ゼシム、或ハ一年二年半年ノ間、行儀ヲ正シ作
法ヲ嗜デ人ノ譽ヲ求ム、上ノ奉行人ツイニコレニ詐
僞セラレ、コレヲ舉用セシムルニ至ル、如^レ此ナリ行
トキハ下皆譽ヲ事トス、コレヨリ人才皆輕薄ニ陷テ、
風俗日々ニ衰フル也、賢者ハコレヲミテ彌權門ニ遠
ザカリ、君子ハ德ヲクラマシテ身ヲ退、コレツイニ國
家頽敗ノ基ナリ、コ、ヲ以テ云バ人君ノ人ヲ用ルコ
ト其實ヲ詳ニスルニアリ、次ニ當分用ニ立利アルコ
トヲノミ先トシテ、先忠舊功アリトイヘドモ、當分ソ
ノ身病者ニナレルカ、年老テ隱居逸人トナレルカナ
ドノ輩ヲバ棄テ不^レ顧トキハ、人皆コノ風ヲヨシト存
ジテ皆利ニ走テ本ヲ棄ル也、古ノ人ハ乘レル馬ツカ
エル牛ヲモ久シク用ニ立テ、後ハ役ニタ、ザレドモ、
必ズコレヲ養殺ニシテ以テ棄ルコトヲセザルト云ヘ
リ、是皆俗ヲ厚クスルノ實也、人君ハ寬仁大度ヲ以
テ本トス、御家人ノ輩ハ不能不才ナリト云ドモ、コレ
ヲ棄玉ハンコトハリアラズ、況ヤ先忠先功ノ輩當時
用アラズト云ドモ、病者ナリ老人ナリトテ棄置玉ハ

バ、タレカマコトノ實ヲ盡サンヤ、今ノ若キモノ皆フ
リユキ今ノ無病ナランモノ、ツイニ病ツカザランヤ、
昔東坡猫犬之説ヲ作テ云、養猫以捕鼠、不_レ可_レ以
無_レ鼠而養_レ不_レ捕之猫、畜_レ犬以防_レ姦、不_レ可_レ以無_レ姦
而畜_レ不_レ吠之犬_一ヲアヤマリナリト云ヘリ、コレハ其
職ニ居テ其事ヲツトメザルヲ云ナルベシ、若コレヲ
公論トセバ其言ニ弊アリ、不_レ捕ノ猫不_レ吠ノ犬ヲモ
不_レ棄シテコソ、人君ノ寛仁トハ云ベシ、無用ノ物ヲ
カワザルト云ハ人君ノ道ニアラズ、唯不_レ賞_レ無能之
人而已、如_レ此禮ヲ盡スト云ドモ、人民ヤ、モスレバ
利ヲ先トシテ本ヲ忘ル、ニ至ルモノ也、次ニ人君ソ
ノ大綱大義ヲ以テ下ヲ正シ玉フテ、小節小事ヲバコ
トゴトク其役人ニマカセ、其役儀年月ヨクツトメテ
職分アキラカナランヲバ、賞ヲアツクシテ猶ソノ職
ヲツクサシム、職分不_レ明トキハコレヲ教テタドシ、
職分ニ私アラバ戒テツ、シマシメ、私ノカサナラン
ニハンノ品ニヨツテ罰スルモアリ、職ヲサケテ別事
ヲツトメシメテ其志ヲ考玉ベシ、自諸ノコトニ心ヲ
付テコレヲナシ玉ハントアラバ、セワ_レシク勞シ
テ功スクナキニ至リスベシ、タトヘバ大工ノ棟梁ヲ

イタス者ハ、曲尺繩墨バカリヲ所持シテ大工道具一
色モモタズ、諸ノ材木コト_レクソノ下ノ大工ノ才
ニマカセテ、或ハアラ木トリ或ハ眞ノケヅリヲナサ
シム、コレ良工ノ群工ヲツカフ道也、天下ノ政事モ如
レ此アランニハ、大小ノ綱紀明ニ立テ人君無爲ノ化ヲ
コナワルベシ、シカルニ事煩シクシテ利口ニワタリ、
世間何トナクイソガワシク、ソノ職ニ居ルモノ小善
アレバ忽職ヲウツシ、位ヲ高クスルガユヘ、ソノ職ニ
サルモノ各コノ職ヲコエテ、上職ニ至ランコトヲ願、
ソノ郡ソノ地ヲ治ルモノハ、又加祿ニヨツテ他ノ郡
國ニ主タランコトヲ思フゴトク、各利ヲ先ニス、コレ
ヨリ執政奉行ニ媚ヲ求メテ利ヲ逞シクセントス、コ
コニヲイテ執政奉行ヘノ往來不_レ止ガユヘニ、執政モ
奉行モ客來ノ出入ニ會釋シテ暇ナク、當用ノ政務ハ
次ニナリス、是風俗ノ薄ク人々利口ニワタルユヘン
ニ非ヤ、サレバ風俗ヲ正スルコト能綱紀ヲ正シ、條目
ヲ詳ニシテ禮樂賞刑ヲ明ニスルニアル也、

○問云、政ノ寬猛イヅレヲ是ト定メンヤ、
答云、寬猛論、昔鄭子產有_レ疾、謂_レ子太叔曰、我死子
必爲_レ政、唯有_レ德者、能以_レ寬服_レ民、其次莫_レ如_レ猛、夫

火烈、民望而畏之、故鮮死焉、水懦弱、民狎而翫之、則多死焉、故寬難、疾數月而卒、大叔爲政、不忍猛而寬、鄭國多盜、取人於萑苻之澤、大叔悔之曰、吾早從夫子、不及此、興從兵以攻萑苻之盜、盡殺之、盜少止、仲尼曰、善哉、政寬則民慢、慢則糾之以猛、

猛則民殘、殘則施之以寬、寬以濟猛、猛以濟寬、政是以和、詩曰、民亦勞止、汙可小康、惠此中國、以綏四方、施之以寬也、毋從詭隨、以謹無良、式過冠虐慘、不畏明、糾之以猛也、柔遠能邇、以定我王、平之以和也、又曰、不競不綽、不剛不柔、布政優々、百祿是道、和之至也、予嘗爲寬猛之辨、曰、寬有所施、猛有所用、一寬一猛必敗、塞解損益相受是也、凡春善之長、草木甲拆蟄啓、戶以萬物向陽、然朝市之蒼蠅可以憎、夕市之蚊虻可以畏、橋之蠹、草之戴、牆壁之蜘蛛、醢醢之、螳捕蟬、蚶吞蛙、其吸花食葉、傷實蠶木、以相殘、況食之早饒、魚之病餒、是緩必有所失、故受之以損也、易序卦曰、解者緩也、緩必有政之寬亦然、佞姦興而賊德、譏諛行而塞明、豈如昆蟲之可惡、今秋風一起、萬物向陰、乃草木堅牢而昆蟲蟄、及履霜堅冰至、夫紛紛擾々一不見其迹、損

而不已必益、故受之以益也、蓋天地之道寬仁資始、利貞以次、四德互根、終始以環、而萬物遂其生也、嘗夫子聞子產之寬猛之說、決之以和、噫大哉、聖言和、是寬猛之相和而不偏也、以布政也、優々百祿是道、

○問云、國家恒例ノ政、ソノ本如何、

答云、政ハ天下ノ事也、天下ノ事ハ天下ノ人民ノ相アツマツテ致スワザコレ也、シカレバ能人情ニ通ジテ其所好其所嫌ヲ考ヘテ、好ムベキコトヲ立テ嫌フベキコトヲ備ヘ防グベシ、人ノ氣質不レ一ガユヘニ、其好惡不トイヘドモ、考ニ人情在ニ其恒與威也、其從ニ其衆情ニ其有ニ知識之情ニテ此ヲ制ス、コレ以人治人ノ道也、人ノ事物多トイヘドモ、詳ニ其實ヲキヲムルトキハ、人生一期ノ間事物禮用尤明ニシルベシ、コトニ古今相續シ來テ其損益スル所不レ可掩、故ニ其因循損益スル處ヲ考ヘテ、ソノ道ヲ出ス、是恒例ノ政務也、人君安ニ居テ其慮ル所不レ詳ガユヘニ、恒例ノ政事不レ明シテ、其政不レ正ニイタルナリ、而シテ民間ニコレヲ命ジブレ流シテシラシムルコレ令也、令ハコレヲ風ニ譬フ、四時ノ轉化必ズソノ時ヲ司ル

處ノ風、四海ヲ渡テ萬物ニアマチシ、人君政事モ四方ヲ考、ソノ急務ヲハカツテ民ノイマダ事ニヲモムカザル以前、乃コレヲ命ジコレヲ示シテ、其志ヲヲコシ、其ツトメヲナサシメ、其災害ヲ除是風ノ萬物ニアマチキニコトナラズ、サレバ周易ノ巽卦ニヲイテ、專申レ命行レ事コトヲ論ゼル也、天子ノ政ハ天地ヲ以テノリトシ、人物ヲ以テ此ヲ試ム、マコトニ疑ベキ處非ザル道也、故ニ其時々ノ時宜ヲ考、其機ニ從テ早ク命ヲ施ニアルコト也、コレヲ恒例ノ政事ト可レ云也、

○問云、人多ハ無レ知、況ヤ農工商ノ三民ハ、中ニモ物ノワキマヘアラザレバ、淫欲游覽ヲ以テ安トシ、コレヲ以テ樂トス、此情ニ從ハン事ハ、政ノ正ニハ不レ可レ有ニ似レリ、

答曰、人ノ情ニ通ズルト云ハ、此ノゴトキコト也、タトヘバ今人ノ云コトヲ考ヘンニ、若輩ノ者ノ云コトハ、皆上氣ニシテ或好ニ鬪諍、或好ニ逸樂、ソノ内ニ正シキコトヲ云モノアリトテモ、コレヲ恃ニ致シガタシ、又至テ老人ニナリテ、既ニ家ヲ子孫ニワタシ、ソノ身ハ隱遁閑暇ノ者タレバ、是又ソノ云コト信用イタシ難シ、シカレバ家室ヲモチ子孫下人ヲ持テ、身ヲ

モチテ世ヲワタル、年壯ナラン者ノ云コトヲ以テ、ソノ言ヲ信ズベシ、タトヘバ天下ノ人情ヲ知ト云コトコノ心也、天下ノ博ク人民ノ衆、コトハクコレヲ尋テソノ情ヲ知ランコト更ニ益ナシ、故ニ郷里其町其所ノ人ノ下知ヲモイタシ、其サシ引ニ人ニ付ベキ者ノ情、コレ人ノ情ト云ナルベシ、此情ヲ能知テソレニ應ゼザレバ、政事通ジガタキ也、而シテ人皆淫亂游宴ヲ事トスルコト、是天下ノ愚民ノ通情ナリ、コレヲ防之、歌舞游曲モイタシツベシ、游山翫水ヲモナシツベシ、折ニフレテ女色ヲ弄、風流ヲナス事モ少モ不レ苦事也、政正トキハ民コレガタメニ身ヲ失ヒ、コレガタメニ家ヲヤブリ、コレガタメニ大義ヲ亂ルコトアラザルモノ也、其故ハ國家恒例ノ政正シキガユヘニ、國ニ無業ノ民ナシ、有德富有ノ民ノ子弟ハ、其ノ分限ニ從テ藝術ノ師ヲ定メテ、コレニソノ道ナラワシメ、年既ニ可レ爲ニ其業トキハ速ニ其業ニ入テコレヲナサシム、如此トキハ民ニ暇アラズ、或一月二月ニ家業ノイトナミノイトマアルカ、或ハ祝儀喜アルカ、或ハ花ノ時月ノ夕ニ各一種一瓶ヲタツサヘテ

ソノ樂ヲナシ、其情ヲ安ゼンコト、マコトニ民ノ眞樂
コレニコユルコトアラズ、若無作法度カサナリ、女色
酒狂家ヲ失ニイタランハ、其親族コレヲ戒メ、其朋友
コレヲ規シテ、ツイニ不レ已トキハ身ヲ失ヒ、家ヲ亡
スコトアリトテモ、政ノアヤマリニハアラザル也、凡
ソ政道如此ヲ以テ利ニ其利ニ樂ニ其樂ニト云也、游宴ハ
アルベカラズ、風流ハ好ムベカラズ、下凡ノ民間幼稚
ノ童體マデ道ヲ事トシ、書ヲヨミ文ヲソランジテ高
聲小歌ヲモ不レ仕、コレ風俗ノ正シキナリト思フ輩
ハ、俗儒ノ意見末代ノ利口ニシテ、甚不レ通ニ人情ノ
ユヘ也、コレ宋儒新レ民ノ心ナリ、人ノ情一家ノセバ
キト云ドモ、コレヲ用イガタシ、不レ用ニハアラズ、其
法嚴ナレバ用トイヘドモ永久ノ道ニアラズ、人々鬱
氣驕蒙シテ若年ノ者ハ氣クジケ、壯年ノ者ハ癆ス、コ
レ皆人情ニ不レ通ガユヘニ、出ル水ヲ手ヲ以テ防グニ
同ジ、當分フセガル、トモツイニハヤブレテ大ナル
害トナルベシ、一家スデニ然リ、況ヤ一國ヲヤ、況ヤ
天下ヲヤ、次ニ人富有ニシテ暇アルガユヘニ、必業ニ
ヲコタル、業ニヲコタルガユヘニ必游樂ニ過、コレ瘠
土ノ民ハ向レ義ノコトワリナレバ、孟子モ民事不レ可

レ緩トイヘリ、三民家ヲヤシナフノ制、必ズ詳ナルベ
シ、富有ノモノハソノ財ヲ散ジ、貧モノハ家ヲ養ニタ
レルゴトク、政道ノ趣ヲ可レ存也、コレヲ政ノ平ナル
ト云也、タトヘバ地ヲ平ニスルニハ高ヲ取テ卑ニミ
テシメテ、始テ平也、民ノ情モ亦然リ、コノワカチヲ
不レ心得レシテ政ヲナストキハ、高下ノワキマヘナキ
ガユヘニ、高キ處彌タカクナリテ、下處ノウマルコト
ナキガユヘニ、富ハ益富テ貧ハ益貧也、唯人情ノ實ニ
不レ通ガユヘ也、

○問云、事ノ變アラントキノ政如何、

答云、政ハコトノヲコラザル前ニアラカジメ設ガユ
ヘニ、變ニ及テ惑コトアラザル也、サレバ今ノ俗語ニ
天下ノ政ヲ仕置ト號ス、是古ノ所謂備也、書云、有
レ備無レ患トイヘリ、難易有レ備可レ謂レ吉トイヘリ、凡
備ト云ハ詳ニ考ヘテ、事物トモニ手ヲツクコトナク、
預辨フルコト也、中庸事豫則立、不レ豫則廢、言前定則
不レ殆、事前定則不困、行前定則不疾、道前定則不窮
ト云ヘルハ、備フベキ道ヲ明ニスル也、次ニ事ノ變ハ
難レ計ニ似タリト云ヘドモ、古今ノ間天下ニ有來ル處
ノ變化、是又定レルコト也、天變アリ地變アリ人物ノ

變アリ、天變ヲ考地變ヲツモリ、而シテ人事萬物ノ變ヲ考レバソノ變明ニシテ通ズ、但天地ノ道ハ遠シテ

定レル故ニ、其變コレヲ計ルニヤスクシテ、變又多カラズ、唯人事ノ變近シテ多シ、シカレドモ情ヲハカツテソノ變ヲ推トキハ無レ不_レ明、聖人易ヲ畫シテ天下ノ變ヲ考フルコト、八ニ不_レ出、而シテ其末六十四ニ畫セリ、故ニ人君心ヲツクシテコレヲ察シ、其變ノ不_レ來ゴトク思慮アツテ、變來ルトキハ是ヲ防是ヲ守テ能正シカラシムル、コレヲ政ト云也、サレバ恒例平生ノ政ニ乃制_レ變ノ仕置ヲ含、文武剛柔相備、コレマコトノ政道ト可_レ謂也、次臨事ノ政アリ、コレハ定法ニアラズトイヘドモ、時ニ取テ其急ヲ治スルノ道也、コレ聖人ノノ玉フ權也、中知ノ者ハ必ズコレヲ行ガタキガユヘニ、政泥テ民倦事多シ、臨機應變ノ道其知ヲキワメザレバ難_レ通コト也、愚者ハコレヲ不_レ知ガユヘニ、イツモ定法ニアラザレバ、難_レ叶ノミ存スル也、譬バ病人ニ急病アリ、長病アルガ如シ、良醫ハコレヲ考ヘテ急治ノ病ハ一味二味ノ妙藥灸針ノ治ヲ以テス、下醫ハコレヲ不_レ知シテ妙藥ノ事醫經ニコレヲアラワサズ、不_レ足_レ用ト云ガ如シ、治道モ亦如_レ此、時

ニ臨_レテ致ス處ノ政道、其用捨人君ノ作略ニアツテ、尤心ヲツクシ玉フコト也、

○問云、萬民ノ悅ブゴトキ政平生コレヲ用ニハ、如何イタセル政ヲナシテ可乎、

答云、萬民苦トキハコレヲ安ジ、悲トキハコレヲ悅シムル是政ノ道也、常ニ人ヲ悅シムルコトハ堯舜モコレヲ病タリ、若コレヲ悅バシメント欲セバ、必ズ政ニ害出來ルベキ也、凡政ハ民ノ情ヲシテ平ナラシメテ、無_レ思無_レ爲ヲ以テ治世ノ極トス、カレヲ常ニ悅コバシムルコトハ、或ハ財ヲ與ヘテ利ヲ逞クシ、或ハ酒肉ヲ送テ悅ヲナサシムルノミ也、天下ノ民ツチニ豈可_レ如此ナランヤ、コレ利ヲ以テ民ヲ治ルノ道ニシテ、マコトノ政ニ非トシルベシ、恒例ノ政ヲ正シ法ヲ明ニシテ悠然タラシメ、ソノ事淹滯スル處アラバ、コレヲ解テトバコホラザラシム是政也、民ノ悅モ又民ノ苦ミ困モ、共ニ一物ノ出來テ、民ノ情常ニアラザル也ト可_レ知也、

○問云、民ノ情ヲ詳ニタヅ子サセ、ソノ情ニシタガフ政コレヲ實ト云ベシヤ、

答云、民ニ一々ノ情ヲ問テ政ヲナスハ、民ノ欲ヲ逞シ

テマコトノ政ニ非、凡ソ民ヲ制スルト制ニ民トノ心アリ、專民ニ從ハント云ハ制ニ民也、サレバ良君ノ政ハ常ニ民ノ情ニ先テ政ヲ立テ、而シテ民ノ情ヲ計ル、コレ民ニ勝所アリ、又負ル所アルナリ、中主ハ常ニ勝コトヲコノム、故ニ民ノ困ヲ不詳、昏主ハ常ニ民ニ負ク、コレ制ニ民也、凡ソ人富トキハ必道ニソムク、況ヤ無知ノ民欲ヲ縱ニシテ利ヲ豐ニスルトキハ、己ガ家ヲ潤コトヲモ不_レ得シテ、飲食ヲ事トシ無道ヲ存シ、私ノ奢ヲキワメ、其郡縣ノ俗大ニタガフモノ也、サレバ子產曰、民ヲバ不_レ可_レ逞トハコノ心ナルベシ、政一タビ民ニ制セラルレバ、民勝テ上ヲ輕、令出トイヘドモソムクモノ多シ、惣テ政道ハアラカジメ其ノリヲ正シテ、其道ヲ不_レ盡バ、事物ニ問ユルコト多シテ、政度々アラタムル事多シ、是事物ニ制セラレテ事物ヲ制スルコト不_レ能ト云ノ心也、然レバ民ノ情ヲ一々キイテ正スト云ヲヨシトスルニ非也、○問云、民ニ問テ政ヲ致バ、民ニ制セラル、ナリト云コト、其旨承知スルニ似タリトイヘドモ、古ヨリ詢ニ於菟薳ト云ヘリ、又天下ノ事物千變萬化ナリ、コレ豫知テ政ヲ立ガタカラン、然レバ時ニ取テ事物ニ慣

テ致スコトアルベシ、必ズ事物ニ制セラレジト云ハソモ、偏ナルベシヤ、答云、古人君ハ能問_レ民故不_レ問、ソノユヘハ民ノ事能心得テ民ヲ制スベキ司ヲ立テ、是ニ民ノ事ヲマカセ民ノコトヲ問、コレ能民ニ問也、民ノ事ヲ不_レ知シテ民ニ問トキハ、民ノ詐僞不_レ可_レ察ナリ、サレバ民ノ情ニ通ズルト云コトヲ心得ソコナヘバ、誰ナリトモ方方ヘ遣シテ、民ノ口ヲキカセ尋子サスルコト、存ズル也、民コレヲ心得テ問者ニ己ガ實ヲ不_レ告、コトニ民ソノ苗ノ碩ナルコトヲ不_レ知ガユヘニ、イツモ民ノ困究ノ如ク云モノ也、問者ワケヲ不_レ知シテ民ノ身ノクルシク、其食物ノアシク家宅ノ四壁ノミ立テ、マコトニアサマシキ風情ナランヲ見テ、サテハ民飢ニゾムト心得ル、人君亦コレヲ信ジテ時ヲハカラズシテ惠ヲナス、惠マジキニ物ヲ與フルハ、皆民ヲ害スルナルコトヲ不_レ知玉ヘコレコト_レク民ニ制セラル、也、ソノ上民亦人也、コノゴロ俄ニ出來レル民ニ非ズ、往古ヨリ今ニアリキタレル民ナレバ、事新シク今人々ニ問ニ不_レ及、古ノ人ヨク問テ考キワメテ知レル、ソノ道ニ從テ行ガユヘニ、別ニ尋ヌベキコトアラ

ザル也、詢ニ子菟薨ト云ハ如レ此コトニアラズ、我可
レ行道ヲ詳ニ立テ猶自滿リトセズ、人ノ申サンコト
ヲモ考謀テ、コレヲ不レ棄ト云ヘルコト也、次ニ變ノ
コト前ニ云ゴトク、天地ノ變ハ定テ遠シ、人ノ變ハカ
リガタシト云ヘドモ、是又誠ヲツクシテ類ヲ推トキ
ハシレズト云コトナシ、タトヘバ大風大水地震雷
落大旱火事如レ此コトハ定テ有レ之テ唯暫時ニシテ
止モノ也、サレバ廣原ニ居大河ノ邊海邊ニナルモノ
ハ、大風大水ヲキヅカイ、人多ク家ツマリ事シゲキ地
ニハ必ズ火事出來ル也、地震アツテ人ソコヌルコト
アリ、春夏ノ雨ニハ雷必ズ震、高原ニシテ川少山遠ケ
レバ必ズ旱ニアフ、皆定リタルコトナリ、是ヲ防グ
ノ政コレヲ備ルノ仕置アルトキハ、少モヲドロクコ
トアラズ、人ノ變ハカリガタシトイヘドモ、天ヨリ
フリ、地ヨリワク事ニ非ズ、改正シキトキハ變アツ
テヲソル、ニ不レ足、況ヤ時ノ鬪諍喧嘩ニヨツテ、當
分ノ出入更ニ變ト云ベカラズ、シカラバ何事ノ俄事
アリトテモ、聊コレニ制セラルベキ所アラザル也、是
又古今天地人物ノ變アツテ、舊紀ニアラワレ人口ニ
アルコトナレバ、知ガタシト云ベキニ非ズ、或天ニ變

雲變星出、或地サケ山鳴、或ハ人ニ妖人化人出來ルト
云ドモ、コレ政事ニサ、ワルコトニアラザレバ、改正
トキハ沙汰スルニ不レ及コト也、凡人ノ知恵ノ深重ナ
ルコト天不レ言トイヘドモ、日月星辰ノ運行閏月蝕算
タレカコレヲ天ニ問ハンヤ、然レドモ其迹ニヨツテ
其道ヲサグルトキハ、千歲ノ日至モイナガラニシテ、
可レ知ニイタルコト可ニ以テ考レ之也、是ソノ實ヲ以テハ
カルガ故ニ、其道明ニシテカクル、處アラザル也、
○問云、天地ノ變政ノ善惡ニヨツテ、アラワレザルト
云コトアリヤ、

答云、中和ヲキワムルトキハ天地位シ、萬物育スルノ
コトワリナレバ、天地ノ變自ヤムベキコト定レルコ
トワリ也、但シ天地陰陽ノ和、過不及ノコトアリテ、
天地ノ變生ズト云ドモ、明主賢君ノ時ハ民ソノ害ヲ
蒙ルコトアラザルナリ、ソノユヘハ國ニ蕃多シテ賑
恤ノ政ヲコナワレ、不足ヲ補患ルヲ救、故ニ民ソノ害
ヲノガルト可レ知也、愚主昏君ノ時ハ天地ノ變アラワ
レザレドモ、民ニ菜色不レ絶餓莩野ニミチテ、乞食非
人道ヲサヘギル、是政ノ是非ニアツテ天變地變ニヨ
ラザルト可レ知也、但シ天ノ變地ノ變ハ、人君ナラズ

シテ是ノ責ヲウクベキユヘナシ、人君ハ天地ヲ父母トスルヲ以テナリ、シカレバ天變地變ニ因テ、彌人君自ノ身ヲ慎デ政ヲナシ玉フハ、コレ戒ノ道也、昔魯昭公四年、大雨雹、季武子問ニ於申豐曰、雹可禦乎、對曰、聖人在上無雹、雖有不爲災云々、コノ心ヲ云ヘル也、天地ノ變計ニアラズ、タトヘ人ノ變大ニ起ルト云ドモ、政道正トキハ天下ノ元氣ツチニ強シテ、コレヲ事トスルコトナシト可レ知也、凡ソ天地ノ變ハ天地ノ氣ニヨツテ感ズ、コノユヘニ人ニ應ズルコト遠シ、只人ノ變ヲ考フベシ、人ノ變ト云ハ風俗利ニハシリテ本ヲ弃、或ハ儉ニ過或奢ヲ事トシ、世ニフシギノ草木、波佐羅ノ謠歌、非人餓莩公事訴訟等ニツイテソノ變ヲ考、コレヲマコトノ人變ト云、コレ至テ近ク察スルコト人君ノ心ニアルコト也、此變ヲ速ニ不レ治トキハ、大變來テ可レ治ニ術ナシ、マコトニ木ノ葉ノ落ルガ、下ヨリキザシツワルニ堪ズシテ、落ルガゴトシト云ヘルモコトワリ也、物之漸非不レ慎也、

○問云、人君治ニ天下ニ玉フニ其則ト定メ玉フ所有ヤ、答云、群臣ハ天子ヲ以テ則トシ、天下ノ人民ハ群臣ヲ以テ則トス、人君ハ天地ヲ本トシテ先君ノ治ヲ則ト

ス、其ノ則更ニ不レ遠、以レ柯伐レ柯ニ異ナラザル也、故ニ事ノ重大ナル事天下ニ不レ超シテ其則上一人ニ出ヅ、マコトニ廣シテツバマヤカニ、大ニシテ小ナリト可レ謂也、凡ソ政ハ正也ト聖人此ノリヲ出シ玉レバ、人君ノ言行知識ノ正シカラシニハ、其下ノ群臣倂奸自去テ賢知日ニ新ナルベシ、群臣ノ賢知明ナランニハ、天下國家ノ間皆コレヲノツトツテ、其俗自化スベキ也、然ルニ正ト云ハ無欲ニシテイサギヨク、行儀作法ヲタガヘズ、言必信アリ行必果ス、是ヲ正ト云ニハアラズ、古人皆是ヲ儀ト云、儀ハ形ノ作法サダマリテ動容周旋ノ見事ニ、其志潔白ニシテ僞所アラズ、實ニ質素ナル類是也、是ヲ正ト云ニハ非ズ、正ト云ハ四方ナル處ハ四方ナルノリニテ正シクナリ、圓キ所ハ圓キノリヲ以テ正シクマガル所ニハマガルノリ有テ、正直ナル處ニハスグナル處ノノリ有テ、正コレヲ正ト云也、天下國家ノ萬機曲直順逆方圓生殺文質サマザマノ事多ガユヘニ、唯一様ニ存ジテ、或ハ直或ハ方或ハ順或ハ生或ハ質或ハ文ト存ズルハ、皆コレ一著シテ自由ナラザル也、各其時宜ニ隨テ其則ヲ立ル、是乃人君ノノリト可レ謂也、古人云、唯則定國、詩云、不

レ識不_レ知順_ニ帝之則_、又曰、不_レ僭不_レ賤、鮮_レ不_レ爲_レ則、
○問云、楊子曰、大器其猶_ニ規矩準繩_ニ乎、先自治而後
治_レ人、コレノリノ本意ナリヤ、

答云、楊雄此論先儒皆謂言得_レ好也ト、愚謂、此語似通
テ未_レ審所アリ、人君ハ規矩準繩ノゴトクナリ、先自
治而後治_レ人トイワンハ、尤其理通ズル也、大器ト云
ハ聖人ノ大道治國平天下ニ至ルワザ、コレヲ以テ大
器ト云、然レバ治國平天下ニ至ルノ則ハ、事物ニヲイ
テ各其規矩準繩トナルベキノリヲ立テ政トス、故ニ
天下ノ人コレニヨルトキハ、無_レ不_レ明、コレヲ大器ノ
ノリトス、是乃聖人竭_ニ心力_ニ立_レ處_ノノリナリ、此則
一タビ立テ久シク行ル、トキハ、後末ノ人君德薄知
輕トイヘドモ、人々コノ則ニヨルガ故ニ垂_ニ衣裳_ニテ
行ル、タトヘバ規矩準繩アルガ故ニ、其細工人自身ハ
ヲサマラザレドモ、木竹ヲ規シ改ニハコレヲアテ、
不_レ違_ニ同ジ、專自治ト云ハ百ノ有司一々明德ヲ明ニ
シテ而后ニ事物ヲタバスニ似タリ、是小器ニシテ大
器ニアラズ、一身一家ヲサムルト、國郡天下ヲ治ト
似テ異ナル處アリ、一劔ヲ以テ一人ヲ敵スルト、三
軍ヲヒキイテ萬卒ニアタルト、似テ不同ガ如也、

○問云、然バ上古ノ聖人ノ治ヲノリトシテ、コレヲ學
ビ似センニハノリト可_レ成乎、

答云、ソノ品ニ因テ可ナルモアリ、不可ナルモ可_レ有、
一樣ニ究メガタシ、其故ハ時宜ニシタガイ、風俗人
民ニ應ジテコレヲ用ユ、タトヘバ夫子ノ門人仁ヲ問、
政ヲ問ニ、其人ニヨツテ教タマフガ如シ、サレバ舜ハ
堯ヲツイデ天下ヲ治メ玉フトイヘドモ、舜ノ政ハ堯
ノ時ニ同カラズ、湯武ハ同ジク征伐ヲ以テ天下ヲ知
玉ヘドモ、湯武ノ政不_レ同、シカレバ伊ヅカタヲ取テ
ノリトシ、是ヲ似セテ政ヲイタスベキト云コト不_ニ分
明_ニ也、天下ハ大器ナレバサテヲキヌ、一人ノ上ニヲ
イテ聖人ノ言行ヲ似セテイタサバ、皆其法シカルベ
シ、然バ聖人ノ言行ヲ能ヲボヘタラン輩ハ、皆聖賢ノ
用ニ似ベキコトニシテ、一人モ是ニ似ル者アラザル
也、況ヤ國家天下ノコトハ不_レ及_ニ沙汰_ニ也、昔鄭ノ子
產國政ヲヨク執行ケレバ、鄭ノ執政ナリシ子皮吾家
ノコトヲモ子產ニ聞テ、執行テント云ケレバ、子產
曰、人心之不_レ同如_ニ人面_ニ焉、吾豈敢謂_ニ子面如_ニ吾面_ニ
乎トイヘリ、コ、ヲ以テ云バ、唯詳ニ其事物ヲ盡シテ
而シテ其時宜ニ相應ノコトヲ以テ今日ノ政ニ可_レ用

也、ナベテコレヲマナバントハ云ガタキ也、

○問云、孟子曰、欲_レ爲_レ君盡_二君道_一、欲_レ爲_レ臣盡_二臣道_一、二者皆法_二堯舜_一而已矣、コノ言ヲ以テセバ、ソレ乃堯舜ヲ以テノリトスルノイ、ニアラズヤ、

答云、堯舜ハ聖人ノ治ヲキワムルノ極也、聖人ハ人倫之至ナリ、故ニ堯舜ノ知德アルトキハ堯舜ノ政アリ、堯舜ノ知德ヲバ不_レ學シテ其形事ヲ學ントセバ、コトゴトクノリトスル處不_レ可_レ正也、コレノリニ不_レ在、夫子ノ大聖ナルモ堯舜ヲ稱シテ周公ヲ學ンコトヲチガイ玉フ、是唐堯虞舜ハソノワザ遠久ニシテ、周ノ時宜ニ悉カナフベカラザレバ也、サレバ中庸ニ仲尼祖_二述堯舜_一、憲_二章文武_一ト出タリ、祖述ト云ハ道德聰明ノ太祖、堯舜ニ出ベカラザレバ、コレヲ始トシテ其事ヲノベテ本トナシ玉フコト也、憲章ト云ハ周ノ政ハ近クシテ可_二考見_一之ナレバ、周ニライテハ文王武王ノ政事ヲ以テノリトシ、コレヲ明ニ致シテ以テ今日ノ用トイタスノ心也、祖述憲章ノ兩句マコトニ末代ト云ドモ、ソノ本ヅク處ソノノリトスル處、此間ヲ不_レ可_レ出也、然レバ祖述ハ道德聰明ノ本ニカ、リ、憲章ハ禮樂刑政ノ事ニカ、ルベシ、如_レ此ノコトワリヲ

シラズシテ、專聖賢ノ言ヲワキマヘズ、口ニマカセテ談論スルバ皆不_レ試不_レ省ノイ、也、サレバ本朝ニテ云バ、遠ク神代ノ聖戒ヲ守リ、近ク武家草業ノ政ヲノリトシ、遠ク異朝聖代ノ道ヲ本トシ、近ク今日本朝ノ政事ヲノリトスルコト、是乃祖述憲章ノイ、ナルベシ、否其本トシノリトスル處相違テ道マス、暗カルベキ也、今孟子ノ云ヘル處ハ、君臣ノ道ヲツクス、至極ハ堯舜ヲノリトスルノイ、也、學者章句ノ間ニライテ聖賢ノ語意ヲトリチガユベカラザルナリ、

○問云、古ヨリ聖賢ノ政ヲナシ玉フコトモスクナシ、又其則ヲシルモノアラザレドモ、世ノ平ニ治レルコト多シ、然レバ只人君無欲ニシテ慈悲甚重ナランニハ、コノ德ニ天下化スベキ也、

答云、古來唐虞三代ノ事ハサテヲキ、又其後ノ帝王天下ヲ草創アル程ノ人、イヅレモ其器直人ニ非ズ、故ニ或ハソノ武威ニヨリ、或ハソノ制法ニ從テ相續イタシ來ル、其間ニ又中興シテ知賢ノ君アルトキハ、其勢ニマカセテ國家無爲ノ化ヲナス、是後人ノ手柄ニアラザル也、凡善惡トモニ積ザレバ其驗ナシ、一事一行ノ善惡年月相積デ、君子小人治亂顯然タリト可_レ知

也、サレバ周ノ明主天下ニノリヲ立、久シク是ヲ天下ニ用イシメタルガユヘニ、周王德衰道昏トイヘドモ、群國其ノリヲ守ルガユヘ、戰國瓜ノゴトクニ分トイヘドモ、猶周ノ王タル事ヲ知ル、群國此ノリヲ嫌テ自是ヲ棄コレヲ失テ而後周亡ブ、コレ周八百七十年ノ天下ヲ保テルガユヘ也、ソノ後天子群臣周ノリヲ失テ、天下ニノリヲ立ルコトヲ不得、ソノ君德薄クソノ臣知アサクシテ、此ノリ不立ガ故ニ何レモ周ノ祚ニシク時ナシ、コレノリヲ以テ天下永久ノユヘント可レ謂也、次ニ帝德トハ無欲ニシテ慈悲深カラシト云ベキコト、是マコトニ殊勝也ト可レ稱シテ、人君ノイ、ニアラズ、其故ハ天下ノ富貴ヲ司テ居玉フヲ無欲トハ云ベカラズ、人民ノ生死ヲ縱ニシ玉ヘバ、慈悲トハ云ベカラズ、或許由ガ讓ヲタテ、或忍辱ノ行ヲナシテ世ヲノガレ、山住ヲイタス人ヲ無欲慈悲ト稱シテ、大倫ヲ亂トイヘドモ、其身ノ潔コトハアラマホシキワザトモ可レ云也、人君ハ是ニコト也、人君ニシテ無欲ヲ事トシ、慈悲ヲ專トシタマワバ、天下ノ治日々ニクラク、ツイニハ敗亡ノ基タリ、遠クハ梁ノ武帝自身ヲ泰同寺ニステ、佛ヲ貴玉フハ無欲ト云ベシ、鳥

獸ヲ飲食ノタメニコロサセンコトハ、甚不レ可レ然トテ、殺生ヲ禁斷シ社稷宗廟ヲ祭ニ麪食ヲ用、刑人アレバ涙ヲ流シテコレヲ赦シ玉フ、慈悲甚重ト可レ謂、如レ此シテツイニ天下ヲ人臣ニ奪ワレ、惡名ヲ末代ニコシ玉フ、コレソノ失ニアラズヤ、サレバ欲ニモノリ有、生殺ニモノリアリ、則ヲコヘテ無欲ナルヲバ木石ニタトヘ、ノリヲコヘテ慈悲アルヲ婦女子女子ニ比ス、人君ノ道ニ非ズ、彼梁武帝モ浮屠釋門隱逸遁世ノ輩タラン、人ニコノ行アラバ可レ稱レ之シテ、人君ニヲイテハ國家敗亡ノ基トスル也、

○問云、人君ノノリイヅレヲ本トスルヤ、答云、則トサス處ハ人君禮ヲ行玉フヲ以テ本トス、禮

定テ正シカラザレバ、君臣上下ノ名分シルベカラズ、故ニ禮樂ハ德之則也、德義ハ利之本也トイヘリ、又禮以庇^{出左傳成}身^{十三年}トモイヘリ、然ニ禮ヲ定ムルコト合^三於天時、設^三於地財、順^三於鬼神、合^三於人心、理^三萬物^一者也、是故天時有生也、地理有宜也、人官有能也、物曲有利也ト出タリ、先人君天ノ時ヲハカツテ天下ニ天ノ時ヲ命ズ、コレ毎月ノ朔望晦也、朔ハ日ノ始ル處、望ハ月ノ始ル處、晦ハ日月ノ終ル時也、此三日ヲ

以テ萬物ノ始終ヲタビシ、君臣ノ道ヲ規ス、故ニ朔望晦ニ必出仕シテ君命ヲ承臣事ヲノブ、君命ノ新ナシトイヘドモ、必群臣朝シテ天顏ヲ拜シ、其初ヲ賀シ其終ヲ祝ス、晦ハ朔ノ前ニシテ人君視朝ニ勞アラシコトヲ憚テ、今ハ廿八日ヲ以テ晦ノ禮ヲ行、コノ外ニ俗ニ節句ト號シテ、古例ノ嘉儀ヲ以テ其祝ヲ賀ス、コレ元旦上巳端午七夕重陽ハ朔嘉定亥子是又武家ニ用所ノ例也、コノ日ニ朝儀ヲ嚴重ニシテ群臣各位ヲ守テ禮ヲ正ス、凡異朝ニ上巳端午等ヲ以テ俗節トス、コレ不レ會ノ儀也、五ノ節ハ一年ノ朝儀ノ大綱ニシテ朔望晦ヲ小目トスベシ、尤正月ニ嘉例之祝儀謠初乘初具足餅祝出行初等皆コレ武家ニシテ禮アリ、コレ恒例ノ禮更ニ時ヲ不レ可違、コレ年中行事ノ制武家ノ大禮也、コ、ヲ以テ君臣ノ禮、位次ノ作法、朝廷拜趨之禮ヲ明ニスル也、此外ノ朝儀勅使公家ノ往來、諸侯卿大夫ノ聘禮、參勤ノ交代、寺社ノ僧伺、御家人ノ休暇、任官代替ノ禮、蕃臣來聘アリ、貢物土產金銀衣服財寶等ノ獻上、并恩賜、是又其位ニ隨テソノ禮アリ、或ハ歌舞猿樂ノ御遊、冠昏喪祭ノ大禮、田獵放鷹ヲ以テ土地ヲケミシ、民事ヲ考玉フ、皆年

中行事ニツイテ臨事ノ制令行ル、皆是人君ノ禮也、ソノ作法一々ニ記シガタシトイヘドモ、武家ハ事ヲ行ニカリニモ武ヲ不レ忘ヲ以テ本トス、シカレバ年中行事ヲ行ル、トモ内外警營武備ヲイマシメ、ソノ不虞ヲ守リ玉フニアリ、サレバ奉ルモノハ雄駒龍蹄ヲ先ンジ、恩賜セラル、ニハ馬鷹ヲ以テス、如レ此トイヘドモ猶禮不レ立シテ皆見物壯觀ノタグイニナリテ、マコトノ禮ニアラズ、サレバコレヲ儀ト云也、晋叔向云、朝有_レ著定_{謂之表著}會有_レ表_{野會設表}衣有_レ綯帶有_レ結_{綯帶結}會朝之言必聞_乎表著之位_所以昭_ニ事序_也、視不_レ過_ニ結綯之中_所以道_ニ容貌_也、言以命_之、容貌以明_之、失則有_レ闕ト、コレ各ソノノリアルコトヲ云ヘリ、又晋趙簡子、問_ニ揖讓周旋之禮_ニ焉、鄭子大叔對曰、是儀也、非_レ禮也、問_ニ諸先大夫子產_曰夫禮天之經也、地之義也、民之行也、天地之經而民實則_レ之、_{年左傳}
○問云、國家ノ禮アリヤ、答云、禮經ニ國家ニ定_ニ社稷_ニ序_ニ民人_ニ利_ニ後嗣_{トイヘ}リ、禮ヲ以テ國ヲ治メザレバ、國家國家ニアラズ、タトヘバ人トシテ禮ヲ不_レ知バ禽獸ニコトナラザルノ

心也、サレバ諸侯郡主ニソノ禮ヲ命ジテ其國其所ニ
ヲイテ、ソノ禮ヲ正シテ上下ノ分、士民ノワカチ、事
物ノ禮ヲ明ナラシメテミダルベカラズ、國家之敗失
之道則禍亂興トイヘレバ、國ニ禮ヲ不レ立失レ之トキ
ハ、ソノ國必ズ亂ヲ招クノ基トシルベキ也、凡ソ天下
ノタメニ國ノアルコトハ、人ノ家ノ四壁アルニヒト
シ、四壁ノカコイ宜トキハ吹風モ内ニイラズ、降雨ニ
家ニ帆ザル也、況ヤ盜賊惡人内ニ入コトヲ不レ可得、
コ、ヲ以テ諸侯外ニ居テ王城ヲ守ルヲ蕃屏ト號スル
也、シカレバ國郡ノ侯伯其位ヲ守テ各其分ヲ正シナ
バ、國郡災ヲマヌカレテ王都ノ守護尤モ正シカル
ベシ、昔延陵季子謂ミ子產曰、鄭之執政侈、子爲レ政
慎レ之以レ禮ト戒タリ、コレ禮ニアラザレバ奢ラタマ
シ儉ヲ節スルコト不レ叶ノユヘナリ、禮立トキハ其過
不及ノワザ明ニアラワレテ不レ可レ隱ガユヘニ、國郡
ノ主更ニ私スルコトヲ不レ可得也、禮曰、禮之於レ正
ノ國也、猶下衡之於レ輕重也、繩墨之於レ曲直也、規矩之
於レ方圓也、故衡誠縣、不レ可ミ欺以レ輕重、繩墨誠陳、
不レ可ミ欺以レ曲直、規矩誠設、不レ可ミ欺以レ方圓、君子審
レ禮、不レ可ミ誣以レ姦詐、昔シ齊ノ景公晏子ヲ招テ國政

ヲ論ジテ、國ヲ保ノ道ハ在レ德トイヘリケレバ、晏子
對曰、如ミ君之言、其陳氏乎、陳氏雖レ無ミ大德而有レ施
於民、豆區釜鍾之數其取之公也薄、其施之民也厚、
公厚歛焉、陳氏厚施焉、民歸之矣、詩曰、雖レ無德與
女、式歌且舞、陳氏之施、民歌之矣、後世若少惰陳
氏而不レ亡、則國其國也已、公曰、善哉、是可若何、
對曰、唯禮可ミ以レ已之、左レ禮家施不レ及レ國、民不レ遷、
農不レ移、工賈不レ變、士不レ濫官不レ滔、大夫不レ收、公
利、公曰、善哉、我不レ能矣、吾今而後知レ禮之可ミ以爲
レ國也、對曰、禮之可ミ以爲レ國久矣、與天地並、君令
臣共、父慈子孝、兄愛弟敬、夫和妻柔、姑慈婦聽禮也、
君令而不レ違、臣共而不レ貳、父慈而教、子孝而箴、兄愛
而友、弟敬而順、夫和而義、妻柔而正、姑慈而從、婦聽
而婉、禮之善物也、公曰、善哉、寡人今而後、聞此禮之
上也、對曰、先王所下稟於天地、以爲其民上也、是以
先王上レ之、シカレバ國家ノ亂ル、トキ、諸侯郡主必
ズ自私ノ惠ヲ施シテ民ニ利ヲ與、或法ヲ輕ジテ民ヲ
愛シ、或ハ天下ノ政法ノ外ニ法ヲ新ニスル、是皆ツイ
ニ亂ヲ興ノ基也、シカレバ天下ノ政道相定ノ外ニハ
善ト云ドモ、コレヲ用イシメズ、尤惡ハ沙汰ニ不レ及、

コレヲ明政ト云也、堯舜ノ聖代トイヘドモ、五年ニ一巡狩シテ協ニ時月、同ニ律度量衡、脩ニ五禮、如ニ五器ニト云ヘル、是諸侯ノ禮ニタガイアツテ法ヲミダルヲ規シ、能從テ政ヲタバスヲ用玉ハンノ政也、然レバ相定所ノノリヨリ善イタスモノリニ非ズ、サレバ如此處ヲ詳ニ格致セシムル、是ヲ國家ノ禮ト云ベキ也、

○問云、政事諸物ノ禮如何、

答云、天下ノ事物各禮アラズト云コトナシ、所謂有レ物有レ則也、萬ノ事ニ品々ヲ詳ニシテソノ定禮ヲ窮トキハ、人民コレニマドフコトナシ、サレバ禮之教化也微、其止レ邪也於ニ未形ニナリト出タリ、人ノ事ヲ行物ヲナスコト、人君定メ玉フノ禮ニヨツテ、ソノ事ヲ行ハ邪義無道ニ入ルニアラザル也、禮曰、子曰、禮者何也、卽事之治也、君子有ニ其事、必有ニ其治、治レ國而無レ禮、譬猶ニ瞽之無ニ相與、俛々乎其何之、譬如ニ終夜有ニ求ニ於幽室之中、非レ燭何見ト、是禮ニヨラザレバ不レ明也、天下ノ政事諸物多トイヘドモ、五禮五器ニツヰマレリ、五禮ト云ハ吉凶軍賓嘉是也、五器ト云ハ五禮ニ付ケル諸服諸器也、而シテ平生ノ事平生ノ器用コレハンノ位ニ付テ相定レル禮アリ、晴ノ儀ニ至

テハ此五禮五器アルナリ、タトヘバ人ニ逢ヲ相見ト云、相見ノトキハ如此ト云、禮ノ定リアラザレバ謙ルヲ譽テ矜レルヲバ毀ル、コレニ因テ人ノ譽コトヲ求メテ人皆謙ス、謙シテ禮ニ不レ中ユヘキ其禮タガフガ如シ、書禮饗應會釋如此、コレニヨツテ禮不レ立トキハ各心々ニ事ヲ執行テ明ナルコトナシ、此時禮ヲ守ルモノハ皆無禮ノ如シ、故ニ瞽ノ無レ相、昏夜ニ燭ナクシテ求ルニ不レ異也、次ニ器物ノ事モロノノ器物其人ニ因テ其制品カハルベシ、是又五禮ノ器ヲ以テ禮ヲ正ス也、其制ソノ人ノ位其祿ノ大小、土地ノ廣狹有無遠近ニ從テ、五禮ノ器ヲ制ス、尤平生ノ用器定制アツテ制外ノ器用ハ市ニウラシメズ、人ノ貧富ニヨツテ爲ニ之節文、以爲ニ民坊ノ者也ト云ハコレ也、古來ノ制唯五器ヲ正スコトヲイツテ、平生ノ制アラズト云ドモ、五器ニ隨テ平生ノ制ナクンバアラザル也、夫子曰、器以藏レ禮、コレ器ニ尊卑ヲアラワスノイ也、禮曰、革ニ制度衣服ニ者爲レ畔、畔者君討、又曰、天不レ生地不レ養、君子不ニ以爲レ禮、鬼神弗レ享也、居レ山以ニ魚鼈爲レ禮、居レ澤以ニ鹿豕爲レ禮、君子謂ニ之不レ知レ禮、故必舉ニ其定國之數、以爲ニ禮之大經、禮之大

倫以ニ地廣狹、禮之薄厚與レ年之上下ト出タリ、如レ此義詳ニ其品ヲ考ヘテソノ制ヲ立ベシ、大方ニ存シテハ違アルベキ也、

○問云、三民ノ禮アリヤ、

答云、禮所ニ以整レ民也、安レ上治レ民莫レ善ニ於禮トモ云ヘリ、三民ハ無レ知別而禮ヲ正サバレバ必ズ亂、三民ハ定テソノ中ノ組頭ノ頭名主庄頭問屋ナド云ノワカチアリ、而シテ多クハ先功貧富ヲ以テソノ上中下ヲ定メテ、ソノ品ニ因テソノ禮ヲ定メ、ソノ分ヲコエシメザルモノ也、タトヘ富有ニシテ其材アリト云ドモ、ソノ藝術弄ニタユト云ドモ、三民各ヲノレガ位ヲ出テ、士ノ中ニマジワリ、同家同座スベカラズ、ソノ俊秀才能可レ用時ハアゲテコレヲ士ノ列タラシム、而シテ士ト列スベシ、不レ然バイカホドノ分限富有材藝アリトモ、必衣食居用具トモニ三民ノ禮ヲ用シムベシ、王制云、凡官ニ民材、必先論レ之、論辨然後使レ之、任事然後爵レ之、位定然後祿レ之、凡執レ技以事レ上者、祝史射御醫ト及百工、凡執レ技以事レ上者、不レ貳事不レ移官、出レ郷不ニ與レ士齒、仕ニ於家一者、出レ郷不ニ與レ士齒、コレ皆三民ノ位ハ士ニ列スベカラザルヲ云

也、三民ノ禮ハ下ノ下タリ、ソノ中ニソノ人ノ上中下アレバ、コレヲ以テ又禮ノ品ヲナシ、冠昏葬祭ヲ以テ相アツマリ、朔望晦ヲ以テ相賀シ、五節句ヲ以テ互ニ贈答ノコトヲナストモ、其制ヲ堅シテ其位ヲミダラシムベカラザル也、

○問云、三民ヲ制スルコト甚嚴ニシテハ、下ノ情通ゼズ、民ヲニクムニ同ジカラシカ、

答云、政ハ以レ愛レ人爲レ本、人ヲ愛スルニハ禮ヲ正シ、各分ヲ明ニイタサバレバ、人必ズソノ職ヲ忘ル、ソノ當分ニハ別條ナシトイヘドモ、ソノ弊久シキ時ハ上下ノ分ミダレテ名分タ、ザルモノ也、四民ノ制ヲ嚴ニスルコトハ愛レ民ノ切ナルヨリ起レリ、孔子曰、古之爲レ政愛レ人爲レ大、所ニ以治レ愛人、禮爲レ大、又曰、民之所ニ由生、禮爲レ大、非禮無ニ以節事天地之神一也、非禮無ニ以辨ニ君臣上下長幼之位一也、非禮無ニ以別ニ男女父子兄弟之親、昏姻疏數之交也ト出タリ、サレバ上下ノ位シバラクモミダレテハ、國家興亡ノ基也ト可レ知、子貢曰、禮失則昏、名失則僇トイヘリ、凡ツ士大夫富ヲコノミ、財ヲアツメテ寶ヲ專トスルモノ、其身又ハ子孫多ハ士大夫ノ位ヲステ、引込テ、三民ノ列

ニナランコトヲ思フモノ或ハ有レ之、コレ三民ニ禮不
レ立シテ、富有ナルモノハ家宅ヲ大ニシ、飲食饗應ヲ
豐ニシテ士大夫ト相交、衣服禮容コトナルコトナク、
作法儀式以テカワラザルガユヘニ、士大夫ノ富有、皆
コレヲ慕テ職ヲノガレ身ヲ退テ民ニナランコトヲ求
ニ至ル、尤モ禮ノ不レ明ガ致ス處也、サレバ禮ノ制不
レ正不レ嚴トキハ、人皆職ヲ忘レツイニハ刑政ヲ行テ
以テ民ヲ罰スルニ至ルベシ、故ニ前方其禮ヲ詳ニイ
タシテ上下ノ位ヲ正ス也、易ニ乾坤ノ尊卑ヲ定、君子
以辨ニ上下一定ニ民志ト云、惟器與名不レ可ニ以假レ人、
出成二年左傳仲尼言ハ此心ナリト可レ知也、

○問云、庶民ノ禮如何、

答云、庶民ニ品多シ、僧社人醫卜盲目及諸藝ノ者、皆
其人ニ從テ、ソノ統宗トスルアルベケレバ、是ヲ詳ニ
規シテソノ内ニヲイテ其品ヲ定ムベシ、然レドモ是
皆四民五等ノ人ノタメニ助力セラレテ、渡世ヲ營ム
モノナレバ、コレヲ以テ民ト云ノ名號アリ、一々ニ今
云ガタシ、先規ノ例ヲ以テ斟酌セシムルノミ也、詳ニ
令ニ出レ之、

○問云、禮ハ必正ノミヲ立ルコトニヤ、又其品ニヨツ

テソレハノ脩飾アルコトナリヤ、
答云、書曰、民心罔中、惟爾之中也、子產云、人之能曲
直而赴レ禮、謂之成人、出昭二十五年左傳トイヘリ、ヅレバ人ノ
心ノノリハ人君ノ立玉ヲ政ヲ以テノリトスレバ、大
方ニ詳ナランシハ、必ズ人情ニ通ゼザルモノナリ、人
情ニ通ゼザルトキハ其法ツイニ不レ立也、故ニソノ中
ヲ立テ建ニ皇極ト云テ、君コレガ中道ノ規ヲ立テ、天
下ノモノヲコレニ由シムル也、シカレバ其禮曲直順
逆ノカマイナシ、ソノ人物事變ニヨツテ以テ其ノリ
ヲ定テ七情ヲ制シ、五禮ヲ立、更ニ一方ニカタヨツテ
是非スルコトアラザル也、其節ヲコユルトキハ、直モ
方モ善モ其ノリニアタラザル也、ノリニ中ルトキハ
曲モ圓モ惡モ皆ノリトナル也、唯其道ヲ詳ニスルヲ
以テコレヲ究ルノ法トス、子曰、爲レ命稗諺草創之、
世叔討ニ論之、行人子羽脩ニ飾之、東里子產潤ニ色之ト
ノ玉ヘリ、命令ハ諸侯ノツ、シム處ニシテ、コレヲ定
ムルニ草創討論脩飾潤色ノ四等アリ、凡ソ萬ノ禮如
レ此ニツブサナラザレバ、ソノ節ニ中テ禮樂文質ト、
ノフベカラザル也、サレバソノ德ニアラザレバ、其禮
タ、ザルト云コト尤ナリト可レ知也、

○問云、武ノ禮ヲ定ムルコト如何、

答云、武ノ禮ハ五禮ノ中ニ軍禮ヲ出ストイヘドモ、軍ハ武ノ一事ナリ、武ノ禮ト定メガタシ、凡ソ本朝武家天下ヲ成敗セシムルノ後、代々ノ公方家將軍ニ任ジ玉フテ、其官大臣ヲ以テシ、其位一品ニホリ玉フ、是文武相兼テ一家ノ任トシ、天下ノ治教ヲ立、四海ノ靜謐ヲ期シテ以テ王家ヲ勤メ玉フガユヘニ、將軍家ノ式ヲ以テ武家ノ禮トス、其法鎌倉右大將家、居謙以安^テ民、守^レ武以勤^テ王、コレ末代ノ規範也、ソノ後京將軍家ニ及デハ、甚文ニ過テ武ニ情、故王道ヲ崇ノ道不^レ正、武ヲ守ルノ制不^レ堅、コレ武家ニ居テ武ヲ忘レ、ソノ職ヲ後トスルコト不^レ得ニ其實ニガユヘ也、代ノ損益不^レトイヘドモ、武家ハソノ職ヲ本トスルガユヘニ、衣服モ武服ヲ用、家宅モ武ノ備ヲタ^ハシ、飲食饗應歌舞音樂ニ至ルマデ、武ノ一體ヲアラハシ、音物贈答ニモ劔馬ヲ以テソノ志ヲ表ス、皆是不^レ忘ニ其職ノイ、也、凡ソアラカジメ備ヘザレバ其道不^レ立、安ニ居テ危ヲ不^レ忘、治テ不^レ忘^レ亂マコトノ武トスル也、帝堯ノ至治トイヘドモ、皐陶ニ士官ヲ命ジテ以テ蠻夷猾^ニ夏ノ備トシ、成周ノ治教ニ大司馬ヲ置テ

武ヲマフク、イヅレノ聖代トイヘドモ武ヲ輕ズルコトアラズ、是不^レ可^レ輕ノ道ナレバナリ、況本朝ノ今武家以テ勤^レ王守^ニ護天下^一シ玉ハンニハ、武家ノ禮聊モ不^レ可^レ怠也、武ハ其道正シテ嚴也、コノユヘニ天下承久ナルコト、相續スルニ從テ人々安キヲ事トシ、嚴正ノ道ヲ以テ事アラジト存ジ、衣食居コト^ハク柔弱和輒ヲコト、ス、コレヨリ武ノ禮日々ニ衰ニ至ルコト、東鑑等ノ舊紀ニ出タリ、尤草業ノ時ト守文ノ今トハ不^レ可^レ混トイヘドモ、文質ヲ考テソノ禮ノ時宜アルベキコト也、

○問云、盜賊刑法訟獄ノ禮アリヤ、

答云、禮ヲ立テ節ヲ定メ、上下ノ道尊卑ノ品貧富ノ禮ヲ立ルコトハ、盜賊ヲト^ハメ訟獄ヲナカラシメンガタメ也、禮不^レ明トキハ必ズ人爭、爭ガユヘニ訟ヲコル、訟ヲコルガユヘニ刑法アリ、國俗不^レ正ガユヘニ貧富ノ制不^レ立、游民ヲ、ク家職ヲツトメザルガユヘニ、博奕好色奢侈ノコトアツテ而シテ盜賊ヲコル、盜賊ヲコルガユヘニ刑法ヲコナワル、然レバ禮立テ民化スレバ訟獄盜賊ヲコルコトナキガユヘニ、刑法マフクト云ドモ不^レ可^レ施、コレ刑鞭ノ朽テ螢トナルタ

メシナルベシ、シカレバ此本ハ禮ニアリト可レ知也、次ニ刑法ノ事コレ又政ノ備ニシテ禮ノ大ナル也、タ

トヘバ禮立テ民化スト云ドモ、國ノ大ナル天下ノ廣、

ソノ氣質ノ變ニヨツテ大惡無道ノ者ナクバアラズ、

土地ノ風俗ニヨツテ俠力ヲ事トシ、血氣ヲサカンニ

スル輩必アルベシ、然レバ盜賊民ノナヤミヲナスコ

トアルベケレバ、ソノ訟獄ノ制ヲ定、決斷場ノ次第、

評定、式日、ソノ日ノ禮義、公事人ノ法、訴訟人ノ作

法、論狀訴狀ノ制、勝負ノ成敗、警戒評定決斷人ノ誠、

目付按察ノ法、尤罪科輕重ノ科、囚獄拷勸五刑ノ法、

ソノ禮ナクンバアラザル也、是舊記ニアラソレ新規

ノ制歷代多ケレバ、詳ニキワメテ其節ヲ可レ定也、大

概三民ノ罪ハ農ヲ輕ジテ工商コレニ次、士ノ罪ヲ重

クス、コレ農ハ至テ無知也、工商ハ奸曲ヲ事トス、士

ハ禮ヲ行フハヅノモノナルガユヘニ、三民ヨリソノ

罪ヲ重クス、死罪ニ及バン事ハ必ズ人君ニ達シテコ

レヲ行ル、或ハ死罪ニ行トイヘドモ國家ノ戒ニレ可

レ及輩ハ、コレヲ相アツメテ人ナキ嶋ニ流シテ、其土

地ヲ耕農セシムルコトモ可レ有也、一々說盡スベカラ

ズ、其禮ヲ詳ニスルニアリト可レ知也、易ニ曰、禁ニ民

爲非曰レ義、サレバ禮ハ民ノ非ヲ禁ゼンタメノ制ナ

リ、コレ則法ト可レ云也、

○問云、古來律令ノ制、コレヲ以テ禮トセンヤ、

答云、律令ハ淡海公不比等ノ撰セラル、所ニシテ、其

本相正シ、本朝コレニヨルトイヘドモ、是又古ノ禮ニ

シテ今日ノ用タラザル也、凡律令ハ漢ヨリ初メテ其

制アリ、古ハコレヲ刑法ト云、唐ニ至テ律令格式ア

リ、律ハ刑法ノ制ヲシルス也、令ハ唐ノ刑法志曰、

禁ニ於未然曰レ令、尊卑貴賤之等級國家之制度也、格

設ニ於此而逆レ於彼曰レ格、百官有司之所ニ常行者也、

式設レ於此而使ニ彼效レ之謂ニ之式、諸司常守之法也、

唐ノ末宋ノ初ニ及デ勅令格式ト號シテ外ニ律アリ、

必竟四ノ者コレ天下之法ニシテ、律ハ刑法ニ付、令格

式ハ禮也ト可レ知也、唐宋ニ及デ代々ノ格式甚多シ、

コレソノ時ニ名臣スクナクシテ、コレヲ一正スルコ

トアラズ、甚繁多ニ及ベルナルベシ、本朝ニモ不比等

ノ律令已後代々ノ格式多シ、是皆禮ヲシルセル書也、

武家ニ至テハ推テコレヲ式ト號ベ、貞永式目建武ノ

式皆是也、律令格式ノ四ツトモニコノ内ニ相備レリ、古ノ禮中古ニ至テ變ズ、中古ノ禮今ニ至テ變ズ、シカ

レバ其時代ニシタガツテ禮ヲ不_レ用トキハ、禮不_レ應
シテ必災害來_レベシ、禮樂征伐自_二天子_一出_レル時アリ、
又諸侯大夫ヨリ出_レルコトアレバ是皆時宜アリ、唯損
益スル處ト損益セザル處トヲ考ヘテ、今日ノ律令ヲ
立_レルコト明君ノ要也、昔魯ノ哀公古ノ禮ヲ用テ齊ノ
貴_レクウク、左傳三十卷、哀十七年、公會齊侯、盟于蒙、孟武伯相、齊侯稽首、公拜、齊人怒、武伯曰、非_二天子_一寡君無所稽首、二十一年、齊人責_二稽首_一、因欲_レ之曰、魯人之皐、數年不_レ覺、使我高
蹈、唯其儒書、以爲_二三國憂_一、同義四年、公與_二晉悼公_一盟、孟獻子相、公稽首、知武子曰、天子在而君辱_二稽首_一、寡君懼矣、孟獻子曰、衛孔達
以_二敝邑介_一在_二夷表_一、密邇仇讐、寡君將_二是望_一、敢不_二稽首_一、衛孔達
古ノ禮ヲ用テ難ニ及_二元年二月_一、マコトニ聖人ノ戒ア
リ、サレバソノ時ヲ考テ禮ヲ行テ律令トスベキ也、

○問云、人君日用ノ存養省察アリヤ、

答云、人君ノ身天下ノ富貴ニマシマスガユヘニ、必ズ
安ヲコノミ樂ヲ事トシ、食ニアキ衣ニミチ、居ニ安ジ
テツトメ玉フト云ドモ、ソノ下ニ怠アラズト云コト
ナシ、故ニ日ニツトメテヤマズ、下ニ諫識直言ノ臣ヲ
置テ以テコレタバサシメテ終ヲツ、シミ玉フ、コレ
ヲ存養ト云也、ツトメザレバ心ヲ失性ヲ忘ル、ツトム
ルガユヘニ常ニ存_レ心養_レ性也、コレ周易ニ出_レル處、君
子日疆不_レ已也、コレヲ存養ト云、省察ト云ハ、ツトメ
行玉フコトヲモ時々ニカヘリミテ、ソノタガイアラ

ンコトヲ察シテ、速ニアラタメ玉フコトヲ省察ト云
也、顧_二諫天之明命_一ト云モ、君子内省ルト云モ皆コノ
心也、我心ノ内ニテザス處ハ人ノ知ルコトアラザレ
バ、自カヘリミテ其邪義ニユキ、非道ニ成_レン處ヲハカ
ツテコレヲ改タバス事ハ、自察スルニアラザレバシ
ルベカラズ、コレ聖人審_二幾微之道_一也、周易曰知_レ幾
其神乎トハコノ心ナルベシ、幾ヲ見テ早ク正サバ
レバ道コ、ニ不_レ行ト可_レ知也、

○問云、政事ニモ存養省察ノ用アリヤ、

答云、天下國家ノ政事ハ猶以テ存養省察ノ用ニアラ
ザレバ民化スルコトアラザル也、存養ト云ハ政ヲ立
ルコト、アラカジメ定テコレヲ國家ノ人民ニ用シメ、
ソノアトヨリ其ツトメヲタバシテ賞罰ヲ明ニシ、コ
レヲ用ルコトヲ悠久ナラシム、悠久ナルトキハ民コ
レニ化ス、コレヲ存養ト云也、省察ト云ハ、度々人ヲマ
ワシ使ヲ以シテ、其安否ノ實ヲ詳ニタバス、コレヲ省
察ト云也、タトヘヨキ政ヨキ法也ト云ドモ、一タビコ
レヲ出シテ存養スル事アラズ、省察スルコトカクル
トキハ、必ズ寸善ニ尺魔相加テ、ソノ事不_レ立モノ也、
花ヲ養木ヲ植ルガゴトシ、一度ウツシウヘテモ年月

ノ手入養カヘリミアラザレバ、イツシカ根ニ虫ノ付、水ノ入テソコヌルコトアルヲ不_レ知ガユヘニ、時分ニナリテ花ノ豊_ニ木ノサカエンコトヲ欲シテモ不_レ快、シカレバトテ又存養省察ノリヲタガフトキハ、或繁多ニシテ勞シ、或ハ宋人ノ苗ヲ助長スルニ同ジ、

○問云、政ヲ正シクイタシ、禮ヲ明ニセバ、省察ニ不_レ可_レ及カ、省察ヲ用ハ民煩シクシテ、ツカルベキニ似タリ、

答云、タトヘバ新木ヲ柱ニ用トイヘドモ、ソノ地ニヨリソノ時ニヨツテ早ク朽ルコトアリ、サレバ政正シク禮明ナリト云ドモ、存養省察ヲ不_レ用バ、諸侯ノ志人民ノ思入ハカリカダシ、唐堯虞舜ノ政ハ、政ノ正コトソノ至レリト可_レ云、禮ノ明ナルコト尤極レリト可_レ云、而シテ二十有二人ノ聖賢相並デ政ヲタスク、而シテ兢兢業々一日二日萬幾ト戒シメ、五載ニ一巡守シテ群后四ニ朝シタルコトハ、皆コレ存養省察也、コトニテイテ群臣諸民ノ俗ヲ考テ、以テ其可否ヲタバシ、黜陟ノ政アツテ而シテ天下無爲ノ化ヲナス、コレヲ用ニ其則ヲタガフトキハ甚煩シテ民勞シ、ソノ道不_レ正トキハ、有司行人民ノツカレトナツテ、諸侯ハ

彌諂イヲ本トシ、民ハ日々ニ風俗タガフモノ也、

○問云、政ノ機ヲ察スルコト如何、

答云、物皆其機アラズト云コトナシ、愚不肖ノ者ハアラワレテ而後ニ知ル、君子賢知ノ人ハ至誠_{前知}ス、事スデニ違行レテ後ニコレヲ謀テハ、勢大ニシテ制シ難ク、久シキトキハ人ソノ初ヲワスレテ、コレヲ以テ俗トス、俗トナツテ後ニハ改ムルコト難_叶モノ也、コレ機ヲ以テ大事ナリトスルユヘン也、易曰、夫易聖人_所以極深而研_研幾也、惟深也、故能通_審天下之志、惟幾也、故能成_審天下之務、ト出セリ、サレバ物ノキザシハ早ク通ズルモノ也、孝德帝都ヲ難波ニ遷シ玉ハントノ御志アリケレバ、鼠知テ難波ニウツリ、豐臣家高麗ニ事アラントノ志ニヨツテ、日本ノ鳥高麗ニワタレリト云、凡ソノ機ヲ知テ、ソノ機ニ從テ政ヲ正スコト明君ノ要也、人ニ姦謀ノ漸アリ、世ニ治亂ノ幾アレバ、ソノ幾ヲ防グコレ政也、禮曰、子曰、上酌_三民言、則天下ニ上施、上不_レ酌_三民言、則犯也ト出セリ、シカルニ政ノ機ハ禮ヲ詳ニスルニアリ、禮ヲ詳ニシテ其立ルコトノ法ヲ嚴シテ、犯サバラシムル、コレ機ヲトリヒシグ也、事俄ニ長大ニ至ルコトナシ、皆積

累シテコレニヨル、故ニ禮ヲ犯スヲ快クユルシテ、コ
ノモノハ不_レ苦、コノ度ハユルス、コノ事ハ小事ナリ
ナド、云ヘルヨリ、相積テコレヲ以テ例トシ、先規如
レ此ナルト云ニ至テ、人ツイニ法ヲ亂ルニ至リ、ソレ
ヨリ俗變ジ教タガフニ至ルナレバ、君子不_レ積處ヲ以
テソノ戒ヲナセルハコノ心也、

○問云、政ノ善惡ハ、人ノ向背ヲ以テカヘリミルコト
ナリヤ、

答云、民ハ至テ無知、故ニ人君始終ヲハカツテソノ政
ヲ立トイヘドモ、當分ソノ身ニ不_レ宜トキハ、或ハン
シリ或ハ怨ムルコトアリ、然レバ人ノ向背ヲ以テ必
ト定メンコトモ難_レ計、又撫_レ我則后、虐_レ我則讐、獨夫
受、洪惟作_レ威、乃汝世讐_{出泰}ト云トキ、人ニ知愚ナレ
バ上民ハ必ズ知アリ、知者ハモノニ慮リアリ、故ニソ
ノ知アリ慮アラシキ輩ノ是非ヲ以テ向背トスベシ、シ
カラバ大臣群臣向テコレヲ利トスルハ、衆民ノ背コ
ト用ニタラズ、知者賢者コレニ向フトキハ、群臣ノ背
コト不_レ足用、サレバ衆愚ノ謬々タルハ、一賢ノ唯々
ニ不_レ如タメシアレバ、一人ソムイテ少トスベカラ
ズ、萬夫向テ多ト云ベカラズ、周ニ二老ヲ養テ天下コ

レニ歸シ、殷ニ三仁去テ天下遂ニ亡、伯夷一人周ニソ
ムイテ萬世又コレヲ義士トユルスナリ、コレ向背ノ
至論ト可ニ心得_二也、

○問云、諸民コレヲソシリ、コレヲ背バ、タトヘヨキ
道ニテモ、立テ行ニカタカラシカ、

答云、其道正シキトキハ、一國ノ民皆ソシルト云ド
モ、コレニヨツテ改タムベカラズ、天下ノ人ソシルト
云ドモ、コレニ因テ變ズベカザル也、凡人久シク不善
ニナレ、不義ヲ事トシ、コレヲ以テ俗トスルコト久
シ、故ニ善ヲワスレ、義ヲ不_レ知、コノ時善政大道ヲコ
ナワレバ、人皆以テソシリ、以テソムクベシ、コレニ
因テ善ヲヤメ道ヲ棄バ、彌ソノ俗正ニ歸スベカラザ
ル也、サレバ孔孟ノ道ソノ時ノ人コレヲソシリテ、或
ハ迂トシ或ハ辨ヲ好トス、コレニ因テ聖人ノ道ヲヤ
メンヤ、昔子產政ヲ鄭ニナセシトキ、國人甚コレヲ謗
リケレバ、コレヲ子寬ト云モノ子產ニ告、子產曰、何
害、苟利ニ社稷ニ死生以_レ之、且吾聞爲_レ善者、不_レ改_二其
度_一、故能有_レ濟也、民不_レ可_レ遑、度不_レ可_レ改、詩曰、禮義
不_レ愆、何恤_二於人言_一、吾不_レ遷矣イヘリ、愚謂、子產ハ
鄭ノ賢大夫タリトイヘドモ、時ニトツテノ政、人ノソ

シリヲマスカレズ、而シテ遂ニ民化セリ、コレ向背ヲ
ミルニソノ心得アラザレバ、必違フト可_レ知也、

○問云、凡ソ天下ノ政ヲ省察シ、コレヲ正スノ道、ソ
ノ用イカン、

答云、天下ノ政ハ兼テ其制ヲ詳ニシテ以テ天下ノ國
郡ニ示シ、諸侯卿大夫各此ニ因テ其禮ヲ立テ政ヲナ
ス、是恒例ノ制也、而シテ時ニ水旱風火震ノ五有テ、
此時必其國郡ヲ省察シテ、民ノツカレ土地ノ損亡ヲ
巡察セシメテ、臨時ノ政アリ、或野山ノ堦論、金銀ノ
山、或新地ノ出來ル處、如_レ此ノ地ニハ必巡察使ヲツ
カワシテ其事ヲ詳ニ察ス、或ハ其主所替、或卒去ノ時
ハ必代替ニ付テ、其省察アリ、或ハ異國ノ船著岸、珍
寶財貨ノ出來、或ハ妖物妖事、或ハ鬪諍異變、或ハ法
ヲ背キ教ヲナミシ、國俗大ニタガフ處、皆コレ使ヲエ
ラミテ發セシメテ、其事ヲ詳ニシテ、其制ヲ立政ヲナ
スベキノ時也、タトヘ天下ニコトナル事不_レ有ト云ド
モ、或十年十五年ヲ經テ、必ズ國々ノ俗ヲ正シ、其教
令ヲ一ニイダサレバ、國主私ヲカマヘテ其政不_レ
正、正トイヘドモ天下ノ政不_レ一コト多也、是ヲ改正
シ巡察セシメザレバ、天下ノ俗不_レ一モノ也、堯舜ノ

聖代ト云ヘドモ、巡狩述職ノ事、更ニヲコタルコトア
ラズ、如_レ此シテ天下ノ藩屏維持ヲ詳ニスルコト、尤
王道ノ要也、シカレドモ或ハソノ人ヲ不_レ選シテコレ
ヲ巡國セシメ、或ハ人ヲエラブトイヘドモ、其制ヲ不_レ
詳トキハ、廻巡シテ公私ノ弊ヲナシ、民コレニヨツ
テ奸ヲナシ、政却テヲコナワレザルコト可_レ有_レ之、コ
レ人君巡察使ヲ以テ目トシ耳トシテ、而シテ耳目不_レ
正トキハ、勞シテ無_レ益也、舜位ニ即玉フテ、先闢_ニ四
門、明_ニ四目、達_ニ四聰、玉フト云ハ、コノ心ナルベシ、
詳ニ禮記ノ王制ニ其法ヲ出セリ、次ニ政ノ是非ヲ考
フルコトソノ心得アリ、第一人ノソシリヲキイテ、其
實ヲタビシ、第二ニ民ノ向背ヲ考テ其實ヲハカリ、第
三ニ天時地利ヲ詳ニシテ、コノ是非ヲ可_レ知也、シカ
ルニソシリヲキクコト、人ノ毀ル處必コレヲフセグ
ベカラズ、ソノ言ソノ心ヲ考テ、以テコレヲ省察スベ
キ也、鄭人游_ニ子鄉校、以論_ニ執政、然明謂_ニ子產曰、
毀_ニ鄉學、如何、子產曰、何爲夫人朝夕退而游_ニ焉、以
議_ニ執政之善否、其所_レ善者吾則行_ニ之、其所_レ惡者吾則
改_ニ之、是吾師也、若_ニ之何、毀_ニ之、我聞忠善以損怨、
不_レ聞_ニ作_レ威以防_レ怨、豈不_ニ遽止、然猶防_ニ川、大決所

レ犯傷人必多、吾不_レ克_レ救也、不_レ如小決使_二道不_レ如、
吾聞而樂_レ之也、然明曰、蔑也、今而後知_二吾子之信可_レ
事也、小人實不才、若果行_レ此、其鄭國實賴_レ之、豈唯
二三臣、仲尼聞_二是語_一也、曰、以_レ是觀_レ之人謂_二子產不
仁、吾不_レ信也、次ニ民ノ向背ヲ考トハ、彼ガ背クユヘ
ン、彼ガ喜ユヘンヲ考テ、背ト云ドモ法ヲタガヘズ、
喜ト云ドモ利ヲ逞カラシメザルベシ、但其時宜ニ因
テ民ノ氣ニ從テ政ヲナス事アリ、コレヲ臨事ノ制法
ト云也、子產云、從_レ政有_レ所_レ反_レ之、以取_レ媚也、不_レ媚
不信、不信民不_レ從也、又曰、衆怒難_レ犯_二子孔爲_レ載_レ書人
子產曰、止_レ之、人請_二爲_レ之焚_レ書、子孔不_レ可、然_レハ時宜ニヨ
ツテ、不_レ論_二行_レ事之是非_一、先觀_二衆心之向背_一コトモ
アルベシ、民不_レ信ハ、ソノ政不_レ行ガユヘ也、又民ノ
政行_レテ、路不_レ拾遺、市價不_レ一ト云ドモ、コレヲ以
テ政ノ至_レリトモ不_レ可_レ云、秦ノ商鞅法ヲキブクシ
テ、秦ノ政化セシニ似テ、終ニヤブル、タメシ可_レ考
也、コノユヘニソノ功ヲ立シルシヲナス處ノ始終ヲ
ハカリ、其ナス人ノ學知ヲヨクシラザレバ評シガタ
シ、司馬相如曰、世必有_二非常之人_一、然後有_二非常之事_一、
有_二非常之事_一、然後有_二非常之功_一、非常ノ政ハ人コレヲ

不_レ知シテ、ソシリナクンバアラズシテ、政ノナレル
トキニ及_レデ民皆安ズルニ至ル也、次ニ天ノ時ヲ考ト
云ハ、人君ハ天地ヲ以テ父母トス、天地ノ運行不_レ得
レ時トキハ、人君常ニカヘリミテ、身ヲ修メ諫ヲイ
レ、野ニ伏賢アツテ言路フサガラシコトヲ懼ル、是人
君事_二天ノ戒也_一、サレバ日蝕ハ定リタル曆數ナリトイ
ヘドモ、必四月ノ日蝕ニハ天子伐_二鼓于社_一ノ禮アリ、
況ヤ天地ノ變災ニヲイテハ、人君各コレヲ戒テ政ヲ
省ルコト古ノ禮也、次ニ地ノ利ヲ考ト云ハ、國豐ニシ
テ土地日ニ沃壤シ、境界日ニヒラクルトキハ、民多聚
テ業ヲコタラザルノ效ト可_レ云ナリ、若人君コレヲシ
イテ新田ヲヒラカシメ、或ハ家宅ヲヒロクシテ、其地
ヲ大ニ費シテ以テ土地ヲヒラクトセンハ、マコトノ
地ノ利ニアラズ、コレヲ利ヲ誣ト云也、山林川澤ノ利
モ亦如_レ此ノ條々ヲ審ニ考テ、其虛實ヲ盡ストキハ、
政ノ成敗無_レ不_レ明、舜五年ニ一巡狩シテ天下ノ方岳
ヲタ_レシ玉フニ、明ニ試玉フトハコノコトナルベシ、
不_レ明バフサガル、不_レ試バ不_レ實、コレ政ノ是非ヲ省
察ノ用也、

○問云、省察シテソノ用ヲタバス道如何、

答云、是ヲ賞罰ト云、省察スト云ドモ、賞罰ヲ以テタ
 ダサバレバ、能否ヲ取捨ノ實タ、ザルモノ也、コノユ
 ヘニ明王賢主ト云ヘドモ、賞刑ノ二ヲ無_レ用、周禮
 ノ八則ニ、刑賞以馭_ニ其威ト云ノ八柄ヲ論ジテ、爵
 祿予_ニ置_ニ之_ニ生_ニ奪_ニ廢_ニ誅_ニヲ以テスルハ、群臣ヲツカフ
 ノ戒ナリ、魯季文子曰、先君周公、制_ニ周禮ト曰、則以觀
 德、德以處_ニ事、事以度_ニ功、功以食_ニ民、作_ニ誓命ト云、
 毀_レ則爲_ニ賊云々、蔡聲子曰、善爲_ニ國者、賞不_レ僭而刑
 不_レ濫、賞僭則懼_レ及_ニ淫人ト、刑濫則懼_レ及_ニ善人ト、皆
 コレ賞罰ヲ正スノイ、也、

○問云、齊_レ之以_レ刑ハ、聖人不_レ用處也、況ヤ上代ニハ
 刑賞ヲ不_レ用民化ストイヘリ、シカレバ賞罰ハ衰世ノ
 政ナリヤ、

答云、道ヲ以テ政ヲタテ禮ヲ以テ其俗ヲ同スルトキ
 ハ、民自耻ヲシツテソノ心ヨリ禮ニイタル、コレヲ道
 之以_レ德、齊_レ之以_レ禮、有_レ耻且格トハ云也、只法度ヲ
 キツク立キビシクシテ、コレヲソムクモノハ刑ニア
 ツルトキハ、民皆免トシテ耻テ至ルノコトハリナシ、
 コレ齊_レ之以_レ刑コトヲトレリトノ玉ヘル也、法ヲ立
 ルコトマデヲ事トスルハ、以前ニ云處ノ商鞅ガイ、

也、凡ソ刑賞ハ唐虞ノ聖代ヨリハジマレリ、舉_ニ三十六
 相_ニ去_ニ四凶_ニ、大功二十爲_ニ天子トハコノコトナリ、サ
 レバ舜典ニ明試以_レ功、車服以_レ庸ト云、象以_レ典刑ト云
 ハ、賞罰ニアラズヤ、老莊ノ說ヲコナワレテ而後ニ刑
 賞ヲ以テ衰世ノ政ト云ヘル、コレソノ過テ不_レ正ノ言
 也、凡ソ賞罰ハ人ヲツカフノ禮也、シカルニ愚者ニハ
 財ヲ與ヘテ人ヲ喜バシメ、刑シテ人ヲヲドストノミ
 思フ、コレ賞罰ノ末ニシテ本ニアラズ、賞ハソノ功ア
 リ、ソノ忠アル人ヲ勞シテ、コレヲ禮スルノワザ也、
 禮ヲナスニソノ物ナクンバアラズ、故ニ官祿財寶文
 武ノ器用ソノ品ニ從テ、コレヲ命ズル是賞ノ禮也、罰
 アルモノヲバ罰シテ人ニ示シ、國家ノ戒トス、サレバ
 罪ノ輕重ニヨツテ其制品々アル、コレ罰ノ禮ナリト
 心得トキハ、禮ヲ用コト薄シテ、物ヲ以テ禮トスルガ
 ユヘ、人ノ風コトハ、ク固陋ニシテ、ツイニハ人君
 財祿ヲ費シテ群臣不_レ勸、人民ヲイタメテ人コレニ懲
 ザルニ至ルハ、賞罰ノ禮タルコトヲ不_レ知也、故ニ政
 事ノ用省察スルニアツテ、省察ノ用ハ、賞罰ノ二ツニ
 留マルト可_レ知也、

○問云、人ヲス、ムルニ欲ヲ以テシ、人ヲコラスニ死

ヲ以テスルハ、俗ノ自薄ニイタランカ、

答云、人心欲アルガユヘニ知アリ、コノ欲ニヨツテ聖人ノ道行ル、コレヲ察シテ以テコノ賞罰アリ、故ニ君子賢者ハ賞罰ヲ以テ禮トシテ、以勸以懲ル、小人惡人ハ賞罰ヲ以テ利害トシテ、以勸以懲、コ、ニヲイテ天下國家ノ政ヲコナワレテ、ソノ俗正シク、其道ツイニ行ル、也、凡ソ聖賢ノ治下民ヲ以テ君子トセズ、君子ヲ以テ小人トセズ、各其分ニヨツテソノ政アリ、今人ヲ以テ欲ニイザナフト云ハ、天下ヲ以テコトトク君子ノ美質ナリト思イ、也、豈ソレ然ランヤ、賤ハ貴ガタメニツカワレ、小ハ大ニ服シテ、奴婢僕從各ソノ利ヲ利トスルハ、彼皆利ニアソブガユヘニ、利ニ其利トシテソノ政立ノイ、ナリト可_レ心得_レ也、唯ソノ制スル處禮ニアルトキハ、賞罰ソノ用ヲナスベキ也、

○問云、賞罰ハ省察ノ後ニアルトキハ、先ンズルノ道ニアラズヤ、

答云、禮ヲ立テ民ヲ是ニヨラシムルハ、ソノ未然未發ノ前ニ善惡ヲ示シテ、ソノ道ニヨラシムルノイ、也、コノ禮政ヲコナワル、ヤ否ト云コトラ、省察シテ以テ而シテ後ニ賞罰ヲコナフヲ以テ勸ニ懲人機、コレ賞

罰也、サレバハジメヨリ立テ終ルマデコレヲ用、サラニ前後ノワカチナシ、コレヲアラワストキハ示_レ其禮、用_レ之防_レ其未然ト云ベシ、但シコレヲ諸民ニカチテ示スコトハ、叔向ガ子產ニイサメシ處ナリト云ヘドモ、詳ニソノ禮ヲ示シテ、ソノ用捨ニヨツテ賞罰ヲ行レンコトラ示スコトハ、成周ノ禮ナリト可_レ知也、

○問云、天下之治平ト云ハ、イヅレヲ以テ至極トスルヤ、

答云、萬民ノ治ニ品多シトイヘドモ、其至極ノ治ト可_レ稱ハ人民ノ心安シテ、ソノワカチ明ニシテ不_レ可_レ惑、コレヲ以テ至極ト稱スベシ、人安ズル處アラザレバ、心ヲチツクコトアラズ、心不_レ安則ツイニ危シテ不_レ可_レ長久、故ニ人ノ安ズルヲ以テ要トス、安ズトイヘドモ不_レ明トキハ、鳥獸ノ群ヲナシテ利ニ其利ニコトナラズ、故ニ其風俗不_レ正、コレ明ヲ以テ貴トスル也、古今天下ノ治ソノ極大方安ヲ以テキワマリトシテ、明ニ至ルコトアラズ、安ト明トヲ兼ルコトハ、聖人ノ治ニ非ズシテハ不_レ得_レ之也、サレバ蛛都ニ子詹、蜂牖ニ子房、埴國ニ子蜾、蒲盧宮ニ子窓ト云コトアリ、蛛ハクモノ居所、蜂ハハチノ居所アツテ、各其所

ニアラザレバ不_レ安、コレヲ取テカレニ用トキハ乃ヨ
シトイヘドモ、コレヲ安ンズルニ非ズ、鳥獸ヲ檻ニ入
テ衣スルニ錦繡ヲ以シ、食ニ人ノ美味トスルヲ以テ
スルトイヘドモ、鳥獸コレニ安ズルニ非ズ、人ヲ治ル
ノ道モ亦然リ、人々ノ品位ニ因テ其安ンズル處コト
ナリ、聖人禮ヲ立道ヲタバシ、久シクシテ其化ヲ行ガ
ユヘニ、天下ノ人民皆安ジテ其分ヲ知テ不_レ犯、コレ
ヲ安ジテ明ナリト云也、是唐堯ノ政平ニ章百姓ト云
ヘル也、平ハ是安ジテ平也、平ナルトキハ上下各守ニ
其分ニ也、章ハ文章アツテ明ナル也、是禮ノ行ル、處
也、故ニ百姓昭明協ニ和萬邦トイヘリ、乃夫子堯ヲ稱
シテ巍々乎、其有ニ成功ニ也、煥乎其有ニ文章トノ玉
ハ、平章ノ心ナラズヤ、是レ道レ之以レ德、齊レ之以レ禮
ト云ヘル心也、コ、ヲ以テ治教ノ至極、在ニ安與_レ明ト
云ヘル也、

○問云、古來天下ノ治ヲ泰平ト稱スルトキハ、先泰安
ナルト平ナルヲ以テ極トスベシヤ、

答云、人安ンゼザルトキハ禮ヲホドコスコトカタシ、
故ニ先安ヲ以テ稱ス、倉廩給テ禮節ヲシリ、有ニ恒産ニ
テ恒心アルノタメシナリ、安ズルトキハ必ズ禮ヲ失

シテ上下ノ分不_レ正、上下ノ分不_レ正バ乃危ニ至ル、故
ニ禮ヲ立テソノ過不及ヲ節ス、コ、ニライテ泰平大
ニ極テ長久也、人富有ニシテ禮ヲシラザレバ、四民各
分ヲワスレ、奢侈ヲ以テ事トス、庶アルトキハ教ヲ以
テセズンバアラザルノユヘ也、凡泰平ト云コト黃帝
泰階六符經泰階ノ平ナルヲ泰平ト云ト出タリ、然レ
ドモ此書道家附會ノ說ニシテ信ズルニ不_レ足、泰ハ君
子之道長小人之道消也ト易ニ出セリ、又泰者通也ト
出タリ、サレバ天地交而萬物通也、上下交而其志同也
ト云、是泰ノ字義ナレバ、泰ハ安泰ナルト云、内ニ自
文明ノ心ヲフクメル也、コレマコトノ泰平也、如レ此
シテ而天ノ三階泰平ナルベキ也、聖人ノ治ニアラザ
レバ平章ノ二字以テ用ガタシト可_レ知也、古來天下治
平ノ事、舊紀ニ多ク出タリ、唯安ジテ明ニイタラザル
多ク、又明ヲ不_レ知ノ察ニ過テ、以テ苛政ニ及ビ、安コ
トヲ不_レ得猶多シ、故ニ安而不_レ教、教而不_レ安ハ、共ニ
至治ト不_レ可_レ言、庶アルトキハコレヲ富シメ、富トキ
ハコレニ教、コレ聖人ノ明戒ト可_レ云也、

○問云、既ニコレニ教テ、其至極ニ至レルトキ、マコ
トノ太平ナリヤ、

答云、凡ソ聖人ノ道恒久ナラザレバ、其化ヲシクコト
ヲ不_レ得也、只一旦ニ人ノ趣向テ喜タノシムコトヲナ
ス事ハ易シテ、久シテソノ德ニ化スルコトハ難シ、ソ
ノユヘハ當分民ノツカレ苦シムコトヲ知テ、コレヲ
救コレニ財ヲ與フルハ皆ナリヤスキコト也、コレ當
分民ヲ悅バシメタノマシムルノ道也、人ノ欲ニ限ア
ラズシテ財ニ限アレバ、毎度コレヲ施コレヲ濟事、堯
舜ノ聖代ニモナリガタシ、故ニ財ヲ出シ倉廩ヲヒラ
イテ民ヲスクイ、ソノ患ヲノガレシムルコトハ、皆節
アツテ恒ニ用ユルコトニアラズ、サレバ恒久ニ民化
シテ上ノ德ヲヨブ、コレヲマコトノ至治ト云也、必ズ
一時ノ悅ヲキワメテコレヲ以テ民化セリト不_レ可_レ思
也、久シテソノ民安ズルトキハマコトノ化ト可_レ云ナ
リ、易云、聖人久ニ於道ニ而天下化成、觀ニ其所_レ恒而天
地萬物之情可_レ見矣ト云ヘルハコノ心也、周ノ政トハ
ヘドモ三紀ニシテ而后ニ民道ニヲモムケリトイヘ
リ、教コト久シクシテ其化民ニ及ビ、天下ニ滿ルトキ
ハソノ化又久シク行レテ、天下ノ變アルベカラザル
也、天地モ久シテソノ化萬物ニ立ツ也、タトヘバ一陽
ハ冬至ニキザシテ夏至ニヲワリ、一陰ハ夏至ニキザ

シテ冬至ニヲワル、一年三百六十日、只陰陽ノ二氣ニ
シテ、陽ヲ春夏ニワケテ十二節ヲ立、陰ヲ秋冬ニワケ
テ十二節ヲ立、春一季ニ九十日ヲ分、夏一季ニ九十日
ヲ分、コノ間陽ノ生長收藏アリ、シカルニ春ハアタ、
カナルハヅナリトイヘドモ、或ハ寒甚或雪、至夏ハア
ツキハヅナリトイヘドモ、或ハ涼或陰氣閉ルコトア
リ、シカレドモ元來陽ノ根ザシ久シテ不_レ變ガユヘ
ニ、當分ノ陰寒ハ無_レ程退去シテ、秋冬ノ陰モ亦如
レ此、コ、ニ於テ天地ノ道立テ四時行ル、也、聖人ノ
治教モ亦如レ此、ソノ根下ニ伏スルコト久シクシテ、
愚者ハコレヲ不_レ知ガユヘニ、其法令政事マデヲ思フ
テソノ實ヲ不_レ察、サレバ聖人ノ世ヲ治ル中ニモ、天
下惡人小人ナクンバアラザレバ、一旦利ヲ得コトヲ
モヨラシテ、災ヲナスコトアリトイヘドモ、元來根ザ
シフカキ聖人ノ政ユヘニ、惡人小人ツイニソノ志ヲ
トグルコトヲ不_レ得、ソノ中ニ聖人ノ禮日々ニヲコナ
ワレ、イヅトナク天下ノ萬民コレヲ行ニ至ルガユヘ
ニ、君子ノ道ハ長ジ小人ノ道ハ消シテ、天下コトハ
ク春ノ臺ニ遊ニコトナラザル、コレヲマコトノ泰平
ト可_レ稱也、

○問云、聖人ノ至治ハ、甚易簡ナリト云ヘルコトイカ
ン、

答云、聖人ノ政ハ其大綱大義ヲ立テ、ソノ根ヲフカク
シ、藩ヲ固クシ、アラカジメコレヲ察シテ、其制ヲ詳ニ
シソノ禮ヲ明ニシテ、而シテ人君其知ヲ明ニシ、ソノ
身ヲツトメ、其家ヲト、ノフ是乃易簡也、如レ此トキ
ハ當分天下國家ノ間ニ何ホドノ變出來ト云ドモ、更
ニヲドロクコトアラズ、其可レ救ヲバスクヒ、其可レ助
ヲバタスケ、其可レ罪ハツミシ、其殺スベキヲバコロ
シテ、別ニ制法ノ變ジカワリタル政ノ可レ立コトアラ
ザル也、是皆聖人其機ヲ知、其變ヲツクシテ其政ヲ出
スガユヘニ、時ニノゾンデ思案ノ變ズベキ處アラザ
レバ、政シバく違ニ法令一日々新シク出ナンコトワ
リアラザル也、コレヲ易簡ナリト云ヘル也、晋ニ老莊
ノ學ヲ事トシ、其政ヲ無事ト稱シ、易簡ト云ハ、皆何事
ヲモカマワズアルニマカスルヲ以テ易簡無事トス、
コレニ因テ執政大臣モ只清談ヲ事トシ無事ヲ要ト
ス、コ、ニヲイテ清談變テ難談ニ化シ、無事變ジテ有
事トナツテ、晋大ニ亂ル、是易簡ノ實ヲ不知ガユヘ
也、易ニ云、易簡而天下之理得矣、皐陶云、臨下以

レ簡、御レ衆以レ寬ト云ヘルハ、如レ此ノコトニアラザル
也、

○問云、子曰、無爲而治者、其舜也與、夫何爲哉、恭レ己
正南面而已矣、コレ無爲ノ治ト可レ稱乎、

答云、堯スデニ天下ノ法制ヲ立、聖賢ノ臣ヲアゲテ事
ヲマカセ玉フテ、治七十年、而シテ舜ヲ用テ攝位セシ
メ玉フ、コノ間二十八年ニシテ堯崩ジ玉フ、合テ百年
ニ向テ天下コトく聖德ニ化ス、而シテ舜位ニ即
タマフテ唯九官十二牧ヲ命ジ玉フ、コレ政ノ大體ヲ
立テ、而恭レ己正南面シ玉フニアラズヤ、タトヘ道ニ
志ウスキ人、政ニ志アラン輩、事ヲナストモ百年ニ滿
テバソノ化ニ及ブベシ、コトニ無双ノ大聖人、百年ニ
及デ天下ノ治教行レケレバ、其無爲而治玉フコト、マ
コトニ舜ニ及ブ人アルベカラズ、故ニ其舜也與トノ
玉フ、決シテ後世ノ人及ブベカラザルコト明也、コレ
ヲ繫辭ニ、夫子論ジテ曰、神農氏沒、黃帝堯舜氏作、
通ニ其變ニ使ニ民不レ倦、神而化レ之、使ニ民宜レ之、易窮則
變、變則通、通則久、是以自天祐レ之、吉无レ不利、黃
帝堯舜垂ニ衣裳而天下治、蓋取ニ諸乾坤トノ玉ヘ
リ、サレバ神農氏ヨリ黃帝堯舜マデツバイテ聖人世

ニヲコル、コノトキイマダ民俗邪惡ナリシヲ、ソノ變ニシタガツテコレヲ通ゼシメ、民ヲ教テ不_レ倦、ヨク神而化_レ之コト久シキガユヘ、天地コレヲタスケ、乾坤ニノツツテ優久ナリ、コレ乃無爲ノ治、垂_ニ衣裳_一而天下治也、豈魏晉ノ易簡ニ同ジカラシヤ、

○問云、シカラバ聖人ノ無爲易簡ハ事ヲツクスノイイニシテ、マコトノ無事易簡ニハ非ヤ、

答云、無事易簡ノ實ヲ不_レ知ガユヘニ如_レ此ノ惑アル也、一無事ト云ハ天下ノ間ニ邪義無道ノ輩アラズ、訟獄鬭諍ノ事ヤミ、風俗スナホニシテ、政ノ手間ノ入ルコトアラザルガユヘニ、上下安ジテ樂シム、コレ事ノナク無爲ト云ヘルコト也、易簡ト云ハ何篇ノコトモ滯ルコトアラズ、能通ジテ結ラザルコト也、凡ソ聖人ノ政堯舜トイヘドモ戰々兢々トシテ、思ヲフカクナシ玉フ、文王ノ至德周公ノ才美トイヘドモ、或翼々トシテ小_レ心、或達_レ曉兼思、如_レ此格物致知シテ天下ノ制禮ヲ明、以テソノ化久シテ而後ニ國ニ訟スクナク、世ニ究民アラズ、萬民ソノ德ニ化ス、故ニツイニ無_レ爲無_レ虞ニ至レル、コレ垂_ニ衣裳_一テ天下ノ治無爲而天下化スト云ヘル也、コ、ヲ以テ案ズルニ、聖人ノ無

事易簡ハ、千鍊萬鍛ノ間ヨリ以テ出生ス、タトヘバ天地ソクバクノ陰陽五行、相生相對シテ此形體アラワレ、日月星辰カ、ツテ而シテ天地ツイニ無事易簡ナルガ如シ、コレヲ乾坤ノ易簡トハ云ヘル也、ワヅカノ一草一木ソノ花ヲ生ジソノ葉ヲナスモ、皆四時ノ間イクバクノ模様ヲ不_レ經バ、此花此葉アラワレザル也、故ニ聖人ノ時モ訟ナクンバアラズ、惡人ヲコラズンバアラズ、事變ナクンバアラズシテ、其事皆豫制セルガユヘニ、事來レバ忽ワカツテ不_レ滯、タトヘ夜來許多ノ陰氣相コリテ、此霜ヲナシ氷ヲナストイヘドモ、明朝此日光出レバコト_レク散融シテ、又本ノ水トナルニ不_レ異也、若ソノ實ヲ不_レ知シテ、聖人ノ治ハ無事易簡ナリト心得ハ、皆事ヲ棄用ヲ不_レ辨シテ疎畧ニ至ルベシ、シカレバ訟ハ日々ニカサナリ、人ノ情ハ月々ニツカヘテ天下一黨鬪タルベシ、或人カタリケルハ、料理ノ上手様々ノ美味ヲ考ヘテ、ソノ中ヨリ輕キ味ノ料理ヲナスヲマコトノ輕キ料理ト云也、コレヲ下手ノナマモノシリナル者、似_{マナ}テカロキ料理ヲナスハ、皆龜草ニナリテ腹中ノ養ニナラザルト云コト、コレ似合シキ物語也、

○問云、至治ノ民其シルシ如何、

答云、太平無象ト云ヘリ、サレバ天下ノ民ツカユル處ハホドキ、苦ム所ハ樂シミ、危所アレバ安カラシム、事ナケレバ事ナシ、帝德ヲシルベキ者ハシリ、不可知モノハ不知、コレヲ無象ト云ベキ也、至ラヌ民悦デコノ君ナラデハト云ハンハ、彼ヲ悦バシムルノ政ニシテマコトノコトニアラズ、彼ヲ悦バシメンコトハ、ツビイテ行ル、ノ政ニ非ズ、父母ノ子ヲ慈愛スルモ、子ノツ子ニ悦ブゴトクハナリガタキコト也、況ヤ天下ノ人民ヲヤ、唯民ハ民ノ無知ニマカセテ、道徳仁義ノ名義ヲサシヲキ、カレガ利ヲ利トシテカレガ樂ヲタノシマシメ、士ハソノ職ヲツトメテ君ヲ貴ビ、父ヲ崇、子弟ヲミチビキ、賢ヲ賢トシテ性心工夫ノ名義ニ不レ及、大臣ハ常ニ政ヲ存シテ民情ニ通ジ、德ヲタバシ知ヲ明シ、人君ハ政ニウムコトナク、古今ニ通ジ事宜ヲハカル、コレ太平ノ無象シテソノ化行ル、ト可レ言也、愚謂、至治者耻ニ民知ニ帝德、中治畏ニ民不レ知ニ帝德、下治欲レ令ニ民知ニ帝德、暴治令ニ民強頑ニ其德ニ也、至知者上知也、暴治者下愚也、中治者不レ久、下治者亡、

○問云、聖人之治、其ノ大體ヲ得ルノ要如何、

答云、人君政ノ大體ハ在レ致知、故ニ史官、稱堯曰ニ欽明、稱舜曰ニ文明、ソノ知ヲキワムルコトハ、先吾身ヲ明ニスルニアリ、堯克明ニ俊德、舜明ニ四目、達ニ四聰、トハコレ也、而シテ政ハ得レ人ヲ以テ要トス、堯舜ノ政ハ在レ得レ人、人得ニ其職ニバ政無レ不正、政正則禮立テ民安、夫子ノ所謂明ニ明德於天下ニ也、上ニ堯舜ノ政効アリ、下ニ孔子ノ聖戒アリ、學ニヨツテ治ヲ究メントナラバ、コノ問ヲ不可レ出也、

戊子三冬之遙夜、童子在レ傍、問レ之難レ之、或再レ之、或三レ之、以續ニ秋蟬之餘吟、慰ニ謫居之寥々、終草焉、如レ脫ニ藁埃ニ來日之潤色ニ云、

寛文第八臘天日

山鹿子蟠叟

謫居童問下末終

光圀卿教訓

西山様より若殿様江被_二仰進_一候御傳言之扣

一御讀書之儀前々より度々被_二仰進_一候、御身之益に罷成候段不_レ及_レ申、文字御働候得ば、當分御用御足候而、御老年之後甚御慰に相成候事に候、仍_レ之御精御出候様思召候事、

一御武藝之儀何も少し御心懸不_レ被_レ遊候ては不_レ叶儀、就_レ中槍者長道具にて取扱難_レ成物に候、尤大將之御自身之働に不_レ及、御馬之先に而諸士の槍を合候事を被_レ成_二御覽_一候事得共、如何様之事にて御自身槍を御取候事有_レ之間敷ものにて無_レ之候、其節日頃御稽古無_レ之あいかふり等、御手に入不_二申上_一者御用に立不_レ申候間、能程に御習候様にと思召候事、

一劍術は、御身之圍に罷成候儀、御心得不_レ被_レ成候て不_レ叶儀、就中居合被_レ成御習御尤之事に候、居合拔之上にては或は四寸のつまり屏風水風呂の内にて、四尺の刀を抜など、申事有_レ之候得共、夫者

所作上にて少も御用立不_レ申儀、居合者抜口一種の物にて候、抜口を致_二吟味_一候て抜打の當りつよく候ため、縦へば二打三打にて參候處、抜口能當り強候得ば、一打にて參候物は許多之益に罷成候、御稽古被_レ成候様にと思召候事、

一大兵は、三四尺之刀をも自由に振廻し、用を成事に候得ば、大抵之者は大刀は手に餘り甚無益の事も、

大殿様御若年之頃より御試被_レ遊候に付、二尺五寸よりうへの御刀は御手に餘り候、若殿様に者以後何程御長成可_レ被_レ遊も難_レ計被_二思召_一候得共、長刀は必御好に被_レ成間敷候、御脇指は壹尺七八寸より一尺迄、御刀は二尺三四寸迄に可_レ被_レ遊候、だてを被_レ成長刀を御指被_レ成度被_二思召_一候は、何程にても空鞘を可_レ被_二仰付_一候、身者必右之寸尺に御心得可_レ被_レ成事、

一軍法は、大將御存知無_レ之候て不_レ叶儀、萬一御用御承御出馬之時、士卒之被_二召仕_一様、備立御存不_レ被_レ成候ては、不_二相成_一儀一騎前之御働は、匹夫之勇とて御用に立不_レ申儀、今時之軍法者人をたぶらか

し候様成儀、猶以無用之至、栗田七兵衛御近習に罷在、謙信流之軍法覺へ候て罷在候事に候間、軍法一通りは七兵衛江御聞被_レ成可_レ然と思召候事、

一軍學之根本は、七書より外は無_レ之候、大殿様御若年之時分七書を御讀被_レ成大要御心得被_レ成座候、三畧六韜其外何も軍學之道理を説述之書にて候得共、就中孫子吳子を專要と致事に候、然共孫子吳子軍學は巧なりといへども行跡は不足_レ學、縦ば上州筋夜討強盜之類、それ_レの法有_レ之、續松のふり様別而夜討之大切とする事也、強盜の中にも頭立たる老巧之者に續松をふらす事也、ふり様惡敷時は働き不_レ宜、此故に續松の役を肝要として、防者の方よりも續松ふりを目懸討取様に致事、是等は武士の心得に罷成候事にて、夜討強盜之所爲にも能事は無きにはあらず、然共夜討強盜は大なる惡事也、孫子吳子も如_レ此にて可_レ取所を取、可_レ捨所を捨候様に御心得可_レ被_レ成候事、

一常々算盤を御習算勘を御心得候様にと被_レ仰進候儀、役人に被_レ相成候御身にても無_レ之、何故と可_レ

被_レ思召候得共、算數御存無_レ之候ては備立人數之配様不_レ相成ものに候、たとへば三百坪一段之場に騎馬之侍何程被_レ立申候と申事、御馬上にて御一覽之内にて積り被_レ成候様無_レ之候ては、忙敷時節急用之間に合不_レ申物に候、尤軍學備立心得之者、御側に可_レ罷在候得共、いか様之事にて其者不_レ罷在一時者御用欠申候、依_レ之御自身御心得不_レ被_レ成候て不_レ叶儀、大殿様には御若年之時より地坪被_レ附御心何段何町之場所即時に被_レ成御覽候て、常々御心懸被_レ成候様に被_レ成度思召候事、

一大將之寶は、堅固なる城郭さねよき甲冑此二ツより外は無_レ之候、然共城郭甲冑外にて有_レ之物にて無_レ之候、常々被_レ召仕候諸士即城郭甲冑に御座候、何程さねよき甲冑を著堅固成城郭に籠候ても、士卒之心離れ候ては、用に立不_レ申候、士卒合心之時者、何程之城郭甲冑にもまさり申候、縦へば人の身近き寶は刀脇指に過たる物は無_レ之、然共鞘はしりて手足を切事も有_レ之、士卒も如_レ此にて、御身の守に罷成寶に候得共、鞘はしり怪我をする事なき様

に人を御見立候て被_レ召仕_一候事肝要に候、畢竟之所御恩に感じ申候者、刀脇指の身の守に罷成候ごとく、怨をふくみ候へば、鞘はしり怪我をすることく候間、御恩に感じ怨をふくみ不_レ申様、常々可_レ被_二召仕_一候事、

一御家中諸士の筋目を御存知被_レ遊候様に御心懸可_レ被_レ成候、縦へば駿河以來 源威公江御附人四拾九人之末は、誰々其外源威公御代 大殿様以來被_二召仕_一候、古參新參之差別由緒來歴御存知被_レ遊候様に可_レ被_レ成候、あまた書記被_レ置候物有_レ之候、御望に被_二思召_一候は、可_レ被_レ進候間、被_レ成_二御覽_一又は人の物語を被_レ成_二御聞_一、御存知被_レ置候様にと思召候事、

一常々御身うみ不_レ申様御身持可_レ被_レ成候、大殿様御若年より御身持健に被_レ遊候故、御老年之後迄も、萬一いか様の時と申大寒大暑に野陣を御張被_レ成候ても、少も御いたみ被_レ成候事は無_レ之様に御身持被_レ成候、御身は習しの物に候間、健に被_レ爲_レ成候様に御心懸可_レ被_レ成候、大殿様は、三木別所屋敷にて御誕生、御五歳迄は柵町に被_レ成_二御座_一、

杉と申乳母、らいと申婆々、庄九郎と申御草履取、男女三人より外御召仕不_レ被_レ成、被_二召上_一物なども随分軽く御育被_レ遊候處、御家督を御取被_レ成、三十年御政務を被_レ成、今以御息災に被_レ成_二御座_一候間、此段を能々御考被_レ遊候様にと思召候事、

右十件、江戸交代之御暇に西山江參上之節、大殿様より若殿様江被_二仰進_一候御傳言也、

辰八月六日

安積覺兵衛謹記

光圀卿教訓終

學問關鍵辯言

立_レ人之道、曰仁與義、故聖人開_レ口便說、載在_二方策_一、如_レ揭_二日月_一、世級日降、不_二唯不能_レ行_二仁義_一耳、其解_二仁義_一、不_二復遵_二古義_一、爲_二四心全具_一於性、將_二室其欲_一以復_二其初_一也、殊不_レ知聖人之教、有_二克養_一之方、而無_二復初_一之說、彰々甚明矣、我東涯先生、繼_二志述_一事、恢_二宏先業_一、欲_レ使_二人同學_二古之道_一、而以不_レ詭_二聖賢立教之本旨_一、故爲_二學者諄々然詳指_二其源委_一、闡_二明其要指_一、著_二書滿_一家、稍公_二于世_一、亦欲_二初學者未_レ諳_二句讀_一者、易_レ曉_二學問大旨_一也、爲_二著_二學問關鍵_一一書、夫莫_レ爲_二易々常談_一而不_レ講究_二焉_一、言近而指遠、古道可_二庶幾_一、予侍_二絳帳_一日淺、東遊多年、歸_レ家授_レ官、鞅掌之暇、抱_レ經就_二其家_一、先生不_二我退棄_一、予也不敏、業文未_レ有_レ所_レ就、去年忽見_レ背矣、吁、天實爲_レ之、謂_二之何_一耶、其存日嘗命_レ梓_二此書_一、未_レ成而沒、子弟門生輩、校讎告_レ成、使_レ予不_レ佞書_二其卷端_一、謹而題_二數言_一、此爲_レ序云、

元文二年丁巳之春拾遺菅原家長謨并書

印印

學問關鍵

先儒ノ說ニオモヘラク、天陰陽五行ヲ以テ萬物ヲ化生ス、人ツノ理ヲ受テ仁義禮智信ノ五性トナル、理ハ一般ナルモノニテ、聖人ヨリ凡人ニ至ルマデスコシモカハルコトナシ、氣ノウケヤウ同カラザルニ因リ、聖人ノ德ハ清明純粹ニシテ、スコシノマジハリナク、愚不肖ナルモノハ、昏濁遲鈍ニシテ、ソノ理アラハレガタシ、コレヲ氣質ノ偏ト云、タトヘバ天上ノ月ノ光ハ一ツナレドモ、ウツル所ノ水、清濁同カラザルニ因テ、ソノ影明暗ノ不同アルガゴトシ、又人タルモノ、生出テ形氣ヲ具ルトキハ、耳目口鼻ノ欲アリ、耳ハ聲ヲコノミ、目ハ色ヲコノミ、口ハ味ヲコノミ、鼻ハ香ヲコノム、ソノ欲熾盛ニシテ、本性ヲオホヒクラマスニ因テ、本來ノ天理ヲ取失フ、是ヲ物欲ノ蔽ト云、タトヘバ明鏡ノ本體ハ明ナレドモ、塵埃ニオホハサル、ニヨリテ、ソノ光明アラハレザルガゴトシ、シカルニ因テ、今日學問スル人ハ、氣質ノ偏ヲタメ、物欲ノ蔽ハレヲノゾキテ、虛靈不昧ノ本體ニ立カヘル

トキハ、堯舜一體ノ地位ニイタリ、天理ノ極ヲツクシテ、一毫人欲ノ蔽レナク、コノ心ノ體、明鏡止水ノゴトクニナリテ、仁義禮智ノ理アラハレ、工夫成就スルナリ、所謂明^ニ明德、并ニ復^レ性復^レ初ト云ミナコノ事ナリ、サテ又天地萬物ノ道理、コト^ハクワガ方寸^ハ中ニ具リテアリ、コレヲ窮ザレバ、ワガ心ノ量ヲオシヒラカザルニ因テ、書ヲヨミ理ヲ究メテ、衆物ノ表裏精粗、ノコルトコロナクアキラカニシテ、一旦豁然ノ所ニイタル、所謂格物窮理ト云ミナコノ事ナリ、コレヲ合テ居敬窮理ト云、此後世學問大綱領、作^レ聖ノ手段、成^レ德ノ工程、宋明已來ノ諸儒先達サマ^ハノ説アレドモ、ソノ大旨ハコノ外ニイヅルコトナシ、然ドモ之ヲ聖人ノ辭ニタビシ、今日人人ノ上ニ引當テミルトキハ、オナジカラザルコトアリ、

○聖人ノ道ハ、専ラ人倫日用應事接物ノ上ニアリ、人ノ所作一方ナラズ、付合人モ又一人ニアラズ、故ニ人ニヨリテ教ヲマフケ、事ニ付テ法ヲ示シ玉フ、タトヘバ家居衣服器物調度ノソナヘ、大小精粗ノ品品アルガゴトシ、父ニ對シテハ孝ノ道アリ、兄ニ對シテハ弟ノ道アリ、子ニ對シテハ慈ノ道アリ、朋友ニ對シテハ

ハ信ノ道アリ、ヒロク衆人ニ對シテハ仁ノ道アリ、コノ外禮義智勇恭敬忠恕ノタグヒ、ソノ品マコトニ一端ナラズ、故ニ之ヲ名ケテ百行ト云、又萬善ト云、コレヲ總括リテ道德ト云、畢竟人ニ付合フシカタノ名ナリ、古ヨリコノカタ、聖賢ノヲシヘ、イヅレモソノ身ヲオサメ、行ヲ正シテ、コノスジニタガハザランヤウニトノコトナリ、

○百行ノ中ニ、大小偏全ノ不同アリ、聖賢ノ人ヲ教ルハ、ソノ中ニ就テ、或ハソノ一ヲ舉ゲ、或ハソノ二ヲ舉ゲ、或ハソノ三四ヲ舉ゲ、或ハ衆事アハセ舉テ、人ニ示シ玉フ、故ニ語孟ノ中ニ、仁一ツヲ舉テノ玉フ所アリ、君子去^レ仁惡乎成^レ名ノ章^ハノゴトキ是ナリ、義一ツヲ舉テノ玉フ所アリ、義之與^ニ比章^ハノゴトキ是ナリ、又ハ仁義ト云、仁禮ト云、仁智ト云テ、二事並舉テノ玉フ所アリ、又ハ智仁勇ト云、禮義信ト云、仁智敬ト云テ、三事兼舉テノ玉フ所アリ、又ハ仁義禮智ト云、孝弟忠信ト云、文行忠信ト云テ、四事兼合テノ玉フ所アリ、コレヨリ以外、一一アグルニイトマアラズ、ダトヘバ醫家ノ藥方ヲ立ツルニ、一味ヲ用ユルヲ單方ト云、二味ヲ用ルヲ偶方ト云、三味以上ヲ複方ト云ガ

ゴトシ、宜ニ隨テ増損シ、症ヲミテ損益シテ、畢竟病ヲ癒スノ益ヲ求ム、聖人ノ教、衆教交舉テ、一定ノ名ナキコトカクノゴトシ、シカレバ仁義禮智ノ五ノモノハ、百行中ノ最大ナルモノニシテ、凡人事ノ法則タルコトシルベシ、

○聖人ノヲシヘ如レ此ノ科^{シナ}アルワケハ、何事ニチモ只一事ニカタヨリテ行フトキハ、タトヒヨキ事ニチモソノ弊アルコトナリ、故ニ孟子ニ曰、惡^ニ乎執^レ一者、爲^ニ其賊^レ道也、執^レ一而廢^レ百也ト、タトヘバ仁ホドノ大德ハナケレドモ、只仁愛バカリニテ、義ト云モノナケレバ、墨子ガ兼愛ヲ道トシテ、愛ニ差等ナキガゴトク、ソノ弊父子ノ道ナキニイタル、又義モ仁ニヲシ並ブ大德ナレドモ、義理バカリニテ、仁ト云モノナケレバ、楊朱ガ爲我ヲ道トシテ、一毛ヲ拔テ人ヲ利スルコトヲモセザルガゴトク、ソノ弊君臣ノ道ナキニ至ル、梁武帝罪人ヲ刑スルニ忍ビラレザルハ、仁ニ似タレドモ、一向ニ義ヲ失フ、申韓刑名ノ學ハ義ニ似タレドモ、一向ニ仁ヲ失フ、イヅレモソノ害ヲ免レズ、故ニ聖人ハ仁義並行ヒ、禮樂兼舉ゲテ、一概ナルヲシヘナシ、仁義ノ道ハ、陰陽剛柔ノ象^{モヤウ}ニテ、彼此持合セ

タルコト、コトハリナリ、又同ジャウノコトニテ、二事互ニ相濟スコトアリ、人而不^レ仁如^レ禮何ト云ハ、人ト云モノ、仁愛ノ實ナケレバ、禮ヲ行フトイヘドモ行レガタシトナリ、コレ禮ノ仁ニ本カズンバアルベカザルワケヲノ玉ヘリ、シカルニ又克^レ己復^レ禮爲^レ仁トノ玉ハ、仁ヲ行フトイヘドモ、禮ト云モノアリテ、ソノ次第等差ヲ分タザレバ、行ハレガタシトナリ、孟子ニイハユル禮之實節^ニ文斯^ニ二者ト、中庸ニイハユル親^レ親之殺、尊^レ賢之等、禮所^レ生也ト、イヅレモコノ意ナリ、此仁ノ禮ヲ輔トセザレバカナハザルワケヲノ玉ヘリ、又義ト勇トハトリワケ同ジャウナルコトナリ、シカルニ夫子曰、見^レ義不^レ爲^レ無^レ勇也ト、義理ヲ辨ヘテモ、勇氣ナケレバ義理ヲ得ヲコナハヌト也、又曰、小人有^レ勇而無^レ義則爲^レ盜トノ玉フハ、勇氣バカリニテ、義理ヲ辨ヘザレバアシキトナリ、此レ勇ト義ト互ニ持合ワケヲノ玉ヘリ、又信近^ニ於義^ニ言可^レ復^レ也トノ玉フハ、信モ義ニヨラザレバアシキトナリ、又曰、義以爲^レ質ト、ソノ終リニ云ク、信以成^レ之ト、義モ信ナケレバ成就セズトナリ、コレ信ト義ト互ニ持合タルコトミルベシ、聖人ノヲシヘ一偏ニカ、ハラ

ズシテ弊ナキコトイヅレモカクノゴトシ、

○堯舜ノ時、人倫ノ道ヲ天下ノ萬民ニ示シテ、君臣有レ義、父子有レ親、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信ト、コノ五ツヲヲシヘトス、天下ノ人アマタアリトイヘドモ、コノ五ツノ外ニイヅルコトナシ、又五典ト云、五品ト云テ、中庸ニコレヲ天下ノ達道ト云、サテ人ト云モノ、智識ナキトキハ、事ノ是非善惡ヲ辨フルコトナシ、仁心ナケレバ眞實ニコレヲ守ルコトナシ、ソノ上ニ勇氣ナケレバ、イサミ進デ道ヲ行フ事ナシ、故ニ夫子常ニコノ三ツノ德ヲ舉テ人ニ示シ、中庸ニコレヲ天下之達德ト云、五倫ノ道モコノ三ツノ德ナケレバ行ハレザルニ因テ、中庸ニ五倫ノ道ヲ列テ、ソノ後ニコレヲ舉ゲ、所^レ以^レ行^レ之トイヘリ、シカレバ五倫ノ道ハ天下ニ通ジテ、人ノ品ニヨリテ之ヲ分ツ、三德ハ一人ノ上ニ付テ、コレヲ三ニ分テノ玉フナリ、イヅレモ天下億萬人ノトモドモニ行フコトナルニヨリテ、之ヲ達道達德トイフ、孟子ノ時ニ至テ、專仁義ノ二ツヲ並舉テ、天下ニ倡^{イサナヒ}、又禮智ヲ合セテヲシヘトス、コノ四ツノ德ハ、道徳中ノ最大ナルモノナリ、シカレバ古ヨリノ聖賢君子、百行ノ中ニツイテ、彼此

取合セ、宜ニ隨テヲシヘヲタツルコト、後世ノ憲法式

目ニ箇條畫^{ヒトツカキ}一ヲ立ルコト、世世ニヨリテ、多少損益一

定ナラザルガゴトシ、語孟並文言系辭周禮左傳禮

記ニサマル、取合テヲシヘヲ立ラル、コト、ソノ中

ニ得失ハアルベケレドモ、ミナ人ヲヲシフルノ條目

ナリ、シカレバ仁禮義貞ト云テモヨク、仁義忠信トイ

フテモヨク、知仁聖義忠和ト云テモヨク、敬以直^レ内、

義以方^レ外トイフテモヨシ、イヅレモ人人修身ノ法則

ナラズト云コトナシ、ソノ内ニテハ堯舜孔孟ノヲシ

ヘ親義別叙信ト云、智仁勇ト云、仁義禮智ト云コト、

コレヲ天下ニ通ジテタガフコトナク、之ヲ萬世ニ

推シテ、イナト云コトナク、弊ナキコトナレバ、ソノ

人ヲ仰デ聖人トシ、ソノ言ヲ尊デ聖訓トシテ、ツ、シ

ミ守テコレヲカユルコトナシ、三代以來、親義別叙

信、知仁勇、仁義禮智ノ名ノ立、皆コノワケナリ、

○モシ先儒ノ說ノゴトク、凡人タルモノ、仁義禮智

信、五性ノ理ヲ具ルコトナラバ、タトヘバ人身ノ五臟

六腑アルガゴトク、手足ニ二十ノ指アルガゴトク、一

ツヲ加フルコトモナラズ、一ツヲヘラスコトモナラ

ズ、本ヨリ聖人ノ智慧料簡ヲ以テストイヘドモ、増損

スベキモノニ非ズ、又他ノ事ニ取合テ云ベキコトニモアラズ、シカルニ經書ノ中ヲ考ルニ、五性ノ中ニテ仁一ツ義一ツヲノ玉ヒ、或ハ仁智、或仁禮ナド、二ツヲ合テノ玉フ、或ハ禮義信、或ハ仁義禮ナド三ツヲ舉テノ玉フ、又ハ仁智ニ勇ヲ添テ智仁勇トノ玉ヒ、仁智信ニ勇剛直ヲ添テ六言トノ玉ヒ、仁義禮智樂ト云、仁義忠信ト云ノ類アマタナリ、五性ヲ以テイヘバ、イヅレモ不都合ナルコトナリ、又コノ五ツノモノ、人ノ性ニ具リアルナラバ、堯舜三代ヨリモ、ソノ沙汰アルベキコトナリ、シカルニ堯舜ノ時、仁義ノ名サヘ未アラハレズ、孔子專ラ仁ヲノ玉ヒ、仁智トノ玉ヒテ、中庸ニ仁義禮ト合セ序デ、孟子ニ至リテ、仁義禮智ノ四ノ名ハジメテ具レリ、コレニ信ヲ加ヘテ、五性ト云コトハ、ハジメテ漢書董仲舒ノ傳ニイヅ、ソノ事甚ダ晚シ、且又仁義禮智ヲ性トスルトキハ、凡經傳ノ中、コノ四德ニ配^{ナラ}ンデ、或ハ仁義禮樂ト云、或ハ仁義忠信ト云、或ハ仁敬孝慈信ト云ガゴトキ、亦ミナ以テ性トスベキヤ、然レバ仁義禮智ノ四ノモノハ、教法ノ名目ニシテ、代代ノ聖賢、次第ニ詳明シ、ソノ目漸漸ニソナハリテ、性具ノ定數ニ非ルコト是ニテ知ベシ、大要

古今ノ學者、所^レ見マチノナリトイヘドモ、語孟五經ヲ本經トシテ、證ヲトラズト云コトナシ、シカルニ語孟ヨリ以上、仁義禮智信ヲ五性トスルノ說ナキコト、上ニアグル通ナリ、コノ外又ウタガフベキコト左ニアラハス、合セ考フベシ、

○又經書ニ好^レ仁好^レ義好^レ禮等ノ訓アリ、又仁ヲ安宅ニタトヘ、義ヲ正路ニタトヘ、禮ヲ門ニタトフル等ノコト、數多見エタリ、仁義禮智ヲ性ト云トキハ、好トハイハレマジキナリ、又物ニモ比^{ヨク}ヘガタキナリ、體用ノ說ヲ以テ言テモ、體トモ用トモイハレマジキナリ、畢竟道ト云モノハ、人身ヲハナレテミルベキモノニ非ズ、又人心ニ具足シテ目ニモミエズ、耳ニモキコエザルノ理ニモアラズ、今日人人ノ行事、平生人ニ付合フシカタノ名ナリ、道トハ本道路ノ名、日本ニテハ東山道東海道、都ノ中ニテハ五條通り三條通ノゴトキ、大路官道ヲサシテ云、貴賤智愚ヲワカタズ、諸萬人ノトモ、ニ通行スル所ナリ、世ノ人ノ仁義禮智ヲ行フモマタ此ノゴトシ、故ニコレヲ道ト云、シカルニ因テ、人タルモノ平生ノ所作、慈悲^{レニシ}憫^{レニシ}スルコトヲスクヲ、仁ヲ好ト云、義理ニ叶フコトヲスクヲ、義ヲ好

ト云、儀式作法ゴトヲスクヲ、禮ヲ好ト云、所謂國君好レ仁天下無レ敵ト云、上好レ義則民易レ使也ト云、富而好レ禮貧而樂トノ玉フ、ミナコノワケナリ、ソノ餘居レ仁由レ義ト云、履禮蹈レ仁ト云等、イヅレモコノ通リナリ、之ヲ安宅正路ニタトヘ、理義ヲ芻豢ニ喩フルモ、コレニテシルベシ、シカレバ語孟五經中ニアラユル道德仁義等ノコトバ、ミナコノワケヲ意得テ勘辨スベシ、此經ノ大括例ナリ、因テオモフニ、道ヲ行フトイフコトハ、道ヲユクト云コトナリ、行ノ字兩音アリ、ユクトヨムトキハ本音平聲ナリ、オコナヒトヨムトキハ、胡孟反ニテ去聲ナリ、德行行義ノゴトキ、皆去聲ト點發ス、字彙ニ人之所レ行謂ニ之行ニ注アリ、オコナフトヨムトキモ平聲ニテ、行レ仁行レ義ノゴトキ、古來別ニ音注ナシ、然レバ日本ニテ道路ヲ歩ユクヲ、ユクトヨミ、仁義ヲツトムルヲオコナフトヨミワケタルハ、此邦ノヨミクセニテ、中國ニテハコノ差別ナシ、行レ仁行レ義ト云ハ、仁ヲユキ、義ヲユクトヨム意ナリ、平生ノ業作コノスジニタヨリテ、ツトメユクコトナリ、タトヘバ仁ヲ居宅ニ比シテ、居レ仁ト云、禮ヲ土地ニ比シテ、履レ禮ト云ガゴトシ、道路ヲフ

ミユクヲ借テ、仁ヲユキ義ヲユクト云、コレニテシル道德仁義ハ人人業作ノスジニテ、未發ノ性ト云ベカラザルコト、ソノワケイヨ／＼判然ナリ、

○心性ノコト、唐虞三代ノ書ニハ、ソノ沙汰ナシ、偶ソノ說アリトイヘドモ、古文尙書ノ内ニ出テ、當時ノ眞語ニアラズ、論語ノ内ニモ諸弟子仁ヲ問ヒ、孝ヲ問、政ヲ問ノ章ハアマタアレドモ、心性ノ問ナシ、タダ性相近也習相遠也ノ一章、性ノコトヲノ玉フ、然ドモコレモ專教ヲ貴デ善ヲナラヘトノ玉フコトニテ、性ヲ貴ブノ說ニ非ズ、心ノコト少アレドモ、從ニ心所レ欲不レ踰レ矩、其心三月不レ違レ仁ガゴトキ、イヅレモ道ヲノリトシテノ玉フ、タゞ心ヲ貴ブノ說ニアラズ、タシカニ心ノ正體ヲノ玉フハ、孟子ニノスル夫子ノ語、操則存舍則亡、出入無レ時、莫レ知ニ其郷、惟心之謂與トノ玉フ一章ノミ、是モ心ハヨクスレバヨクナリ、アシクスレバアシクナルモノニテ、常ニ善ヲ以テ養ハザレバ叶ハザルコトヲ示シ玉ヒテ、專ラ心ヲ貴ブノ說ニアラズ、ソレユヘ後世ノ儒家ニハ此章ニオヒテ疑多キコトヲマスカレズ、孟子ノ時ニ至テ、本心ト說キ、良心ト說、性善四端良知良能等ノ名オコリ

テ、専ラ人ノ心性ヲヨキモノト示シ玉フ、
 ○孔子ノ時ハ春秋ノ末、衰亂ノ世トイヘドモ、先王ノ
 遺風尙々コリテ、當時ノ人仁義ノ貴ブベク、人ノ學デ
 仁義ヲ得ベキコトヲシレリ、ユヘニ論語ノ中ニハ、仁
 義ヲ行フノ方法バカリヲノ玉ヒテ、ワケテ仁義ノ結
 構ナルコトヲノ玉ハズ、又人性ノ善ナルコトヲモ示
 シ玉ハズ、孟子ノ時ニ至テ世道イヨ／＼衰微ニ及
 デ、世間ノ人タゞ功利計謀ヲツトメテ、仁義ノ大切ナ
 ル事ヲシラズ、所謂言非ニ禮義ニ謂ニ之自暴ニモノナリ、
 又仁義ヲヨキ事ト思フモノアレドモ、ワガ一身ヲ
 見カギリテ、仁義ヲ得行ヌトオモヘリ、所謂吾身不
 レ能ニ居レ仁由義謂ニ之自棄ニモノナリ、シカルニ因テ、
 仁義ノ大切ナルコトヲ拈出シテ、仁人之安宅也、義人
 之大路也、舍ニ安宅ニ而弗レ居、舍ニ正路ニ而不レ由哀哉ト
 イヘリ、サキニ惠王ニ對シテ曰仁義ニ而已矣、何必曰
 レ利、又人ノ性ノ善ナルコトヲ示シテ、人人有貴ニ於
 己ニ者ト弗レ思耳トイヘリ、コレ性善四端ノ說ノオコル
 ユヘンニシテ、仁義禮智ヲ行フノ本、ワガ身ニソナハ
 レリト告ルナリ、ソレユヘ孔子ノ心性ヲノ玉フハ、言
 善惡ニワタラズ、孟子ノ心性ヲノ玉フハ、専ラ善ニツ

イテノ玉フ、シカレドモ心ハヨクスレバヨクナリ、ア
 シクスレバアシクナルモノナレドモ、其正體善ナル
 モノニアラザレバ、道ニス、ムコトナシ、孔孟ノ言、
 異ナルヤウナレドモ、其至極ハ一致ニオツルナリ、
 ○四端ノ說孟子エハシマル、堯舜ノ時、天下太平人民
 豐樂ニシテ、戸ザ、ヌ御代ト云ハ、仁ノ極功ナリ、ソ
 ノ本ハ何ヨリ出ルト尋ルトキハ、上一人ノ身、一片ノ
 慈悲心ヨリオコル、コレヲ惻隱之心仁之端也ト云、端
 トハ根本ト云コトナリ、タトヘバ仁ハ扇ヲヒロゲタ
 ルゴトシ、惻隱ノ心ハ扇櫪ノトコロナリ、孟子ノ中、
 此ヲ物ニ比喩シテ若ニ火始然ニ若ニ泉始達ト云、又
 萌芽ノ生ニタトフ、コレハ草木ノヒコバエヲソダテ
 テ大木ニナシ、岩間ノシミヅヲ引テ大河トナルガゴ
 トク、イヅレモ生物ニ付テ、ソノ次第ニ生長スルコト
 ヲイヘリ、先儒ノ說ニテハ仁ト云ハ本心未發ノ體ニ
 シテ、此心ノ理思慮意念ノ未オコラザルトコロナリ、
 意念ノオコルトコロヲ四端ノ心ト云、根アル草木
 ノ地上ニ芽ヲ出シタルガ如シ、ソレユヘ端ト云ハ、ハ
 シト訓ミテ、ハシロノミユルコトナリ、德澤ノ物ニ及
 ビ、天下萬民ニ及ブハ、仁ノ施ト云モノニテ、體用ノ

外ニアリ、ソノワケ先子ノ遺書ニツブサナレバコ、ニ贅ズ、

○仁義禮智ノ次第、上ニアグル通ニテ、孟子ノ時ニ至テソノ目全ソナハレリ、其後秦漢以來、五行災異ノ說盛ナルニ因テ、萬事ヲ五ツニワリテ、五行ニ配當ス、此ニ因テ四德ニ信ヲ加ヘ、仁義禮智信トタテ、之ヲ五常ト云、人ニ五常ノ性ヲ具ルト云コトハ、漢書元帝ノ詔書ニ出テ、其目ヲ仁義禮智信ト云コトハ、ハジメテ董仲舒ノ傳ニアリ、揚子法言ニモ其說アリ、禮記中庸篇天命之謂性ノ下、後漢鄭玄註ニ、木火土金水ノ神、仁義禮智信ノ性トナルコト、詳ニアラハセリ、班固ガ白虎通ニモ、其理ヲ詳ニセリ、其後唐ノ韓退之ノ原性ニモ、コノ五常ヲ列チテ性ト云ヘリ、然ドモ原道ニハ冒頭ニ仁義道德トアゲテ、凡吾所謂道德云者、合仁與義言レ之也、天下之公言也トアレバ、全ク性トモ定メラレズ、宋ノ周子ニ至リテ、五常ハ德ト名ケテ、人ノ性ハ剛善・剛惡・柔善・柔惡・不剛不柔而中トシ、五ノ品ヲ分ケラル、通書ニ云、德愛曰仁、宜曰義、理曰禮、通曰智、守曰信ト、太極圖說ニ曰、五性感動而善惡分萬事出矣、聖人定レ之以ニ中正仁義一而主

レ靜ト是ナリ、伊川程子ニ至リテ、顔子好學論ヲ述テ曰、天地儲レ精、得ニ五行之秀一者爲レ人、其本也眞而靜、其未レ發也、五性具焉、曰仁義禮智信ト、本然ノ性ヲ云ヘリ、コレヨリコノカタ、凡儒學ヲスル人ハ皆コノ說ヲ遵守リテ、タガフコトナシ、秦漢已來ノ說通ジテ之ヲ考ルニ、周子已前ハコノ五ツノモノヲ性トモ見、德トモ見テ、ソノ說一決セズ、ソノ性ト云モ、專ラ氣質ノ上、已發ニ就テ云、程子已來定リテ本然ノ性、未發ノ體ト云モノニナリテ、ソノ說一定セリ、所謂性卽理也ト、卽コノ義ナリ、

○古今ノ間、通ジテ之ヲ考ルニ、仁義禮智信ヲ五性ト云テ、五行ニ配スルコトハ、其漸漢儒ニ始レリ、之ヲ六經ニ考レバ、ミナ道德ノ名ニシテ、又一定ノ數アルニ非ズ、世ニ交リ人ニ付合フシカタノ名、上ニ具ニアグルトワリナリ、宋ノ世ノ諸先生、漢儒附會ノ陋ヲ辨ゼラル、コト、其功多トイヘドモ、五性ノコトハソノマ、遵用ラレテ、ソノ說イヨ一詳ニ、ソノ理イヨイヨフカシ、又心性ノコト聖賢ノ書ニ其說アリトイヘドモ、兎角道ト云モノヲ目當トシテ、心ノコレニタガハヌヤウニ示シ玉ヒ、タゞ心性ヲ尊ブコトニアラ

ズ、又佛老ノ説モサマ、端オホシトイヘドモ、畢竟至極ノトコロハ、ワガ心ノ妙ヲ觀ジテ、專ラワガ心ヲ尊デ萬法唯一心、心外無別法ト説ク、先儒道ヲ論ズルノアイダ、虛無寂滅ノ法ヲ斥テ、辯論尤嚴ナリトイヘドモ、反テ心理高妙ノ説ヲ倡フテ、又一心ヲ主トシテ、聖人ノイワユル仁義禮智モ、即吾心ノ理ナリトイヘリ、是ニ因テ性情體用ノ説オコレリ、

○人ト云モノハ、ワガ一身ノハタラキ、イヅレモ相手アルモノナリ、耳ニハ物ヲキクヲ職トシテ、相手ハ聲ナリ、目ハ物ヲミルヲ職トシテ相手ハ色ナリ、口ノ味ヲ甘ジ、鼻ノ臭ヲカグモ、亦シカリ、心ト云モノハ、思慮分別スルヲ職トス、ソノ相手ハ道ナリ、故孟子曰、口之於味也有同嗜焉、耳之於聲也有同聽焉、目之於色也有同美焉、至於心獨無所同然乎、心之所同然者何也、謂理也、義也、聖人先得我心之所同然耳、故理義之悅我心猶芻豢之悅我口ト、仁義禮智ヲ心ノ德トスルトキハ、耳目口鼻ハ皆相手アリテ、心ニ相手ナシ、自ノ德ヲ相手ニスルナリ、孟子ノ言ヲ考レバ心ノ義理ヲオモシロク思フハ、耳目口鼻ノ聲色臭味ヲ悦ブガゴトシ、コレヲ今日人人

ノ上ニ推當テミルニ、亦コノ通ナリ、然レバ仁義禮智ヲ心ニ具リタル理トナシガタシ、又何事ニテモソレゾレノ界尺ト云モノアリ、一ノ道具ヲコシラヘ、一ノ衣服ヲ製ユルニモ、ミナソノノリアリ、コレヲ規矩準繩ト云、人ノ心ハ活物ニシテ、定リガタキモノナリ、界尺ナクンバカナフマジ、心ノ界尺ハ何ゾヤ仁禮ノ類コレヲ界尺トシテ、心ノコレニタガハザルヤウニ修爲シ玉フ、故夫子ノ聖トイヘドモ、ナヲ七十ノ境界ニ及デ、始テ從心所欲不踰矩トノ玉ヘリ、又詩經大雅蒸民ノ篇曰、天生蒸民有物有則、民之秉彝好是懿德ト、人心ノ則ナケレバ不叶コト、コノ詩ニテ尤明白ナリ、好ト云ハ、理義之悅我心ト云、好レ仁好レ義ト云ノ類ニテ、人タルモノ、ヨク生付タルモノユヘニ、コノ懿德ヲスキコノムトナリ、懿德ト云ハ美德ト云コトニテ、仁義禮智ノ屬ヲサシテ云、即人心ノ則ナリ、モシ仁義禮智ヲ心ノ德トスルトキハ、萬事萬物ミナソレノ則アリテ、心バカリニ則ナシ、自ノ德ヲ則トスルナリ、ソノ説ノゴトクナレバ、道具ヲコシラユルニ規矩準繩ヲカラズシテ、道具ノ上ニ規矩準繩ヲ具ルガゴトシ、コレ理ノアルマジキコト

ナリ、シカルニ因テシル、道ハ天下ノ達道、人心ノ法則ニテ、仁義禮智ハ、ソノ中ノ大スジメナリ、人ハ萬物ノ靈ニシテ、ソノ性善ナルユヘニ、ヨク之ヲ好テ行フナリ、性分ノ中全クコノ理ヲ具足スルニアラズ、○シカルトキハ今日人タルモノ、何ヲ界尺トシテ身ヲ修ムベキナレバ、畢竟仁義ノ二ツニアリ、人ト云モノハ、上トシテハ下ヲオサメ、下トシテハ上ニ事ヘ、親ハ子ヲハゴクミ、子ハ親ヲイツクシミ、親戚鄉黨朋友ハ、タガヒニモチアヒタスケテ世ヲワタル、天下ニテモ一國ニテモ、一家ニテモ、カクノゴトクアリテ、人間世ヲ成就ス、コレヲ仁ト云、又ハ物ヲ人ニアタヘ、人ヨリ物ヲモラヒ、出處進退生死ノワケ、ソレゾレノスジミチニタガハズ、ノリニ叶フヤウニスル、是ヲ義ト云、コノ二ツノモノ持合テ、人道立ツコトナリ、故ニ孟子梁ノ惠王ノタメニ、王亦曰仁義而已矣トノ玉ヒ、又ヒロク衆人ノタメニ、仁者人之安宅也、義者人之正路也トノ玉ヒ、易ノ説卦ニ立人之道曰仁與義トイヘリ、サテ又仁義バカリニテハ、事ノ次第階級ワカレザルユヘニ、禮ト云モノナケレバ守リガタシ、智ト云モノナケレバ仁義ノ大切ナルコトヲ

ワキマヘズ、故ニ孟子ニ禮ハ仁義ヲ節文スルコトヲノ玉ヒ、智ハコレヲ守テ弗レ去コトヲノ玉ヘリ、コレニ因テ仁義禮智ヲ人道ノ要トス、シカルニ人ハ萬物ノ靈ニシテ、天性事ノヨシアシヲ、ワキマヘシルモノナレドモ、タゞ生付ノマ、ニシテ學ビザレバ、草木ニ雨露ノ養ヒ培養ノタスケナキガ如ク、ソノ生付ヲ成就スルコトナシ、學問ト云コトハ、古聖賢君子ノヨキ行ヒ、ヨキ言ヲミキ、又ハ世間ノ老成篤實ナル人ノシカタヲミナラヒテ、ソレヲテホンニシテ、シナラフコトナリ、シカルニ因テ、自ラ人倫ノ交リヲシリテ、仁義ノ道ニイタルナリ、サテ又人ト云モノ、欲心サカニシテ制シガタキユヘ、禮義ト云モノヲノリトシテ、コレニタガワヌヤウニト思フトキハ、ソノ身ヨクオサマリテ、人欲ニオボレテ身ヲウシナヒ、家ヲヤブルコトハナシ、コレ修身ノ大略ナリ、コレヨリ上ツカタ、段段ニ長進シテ、聖人君子ノ域ニイタルコトハ、ソノ人ノ志ニアリ、シカレバ、學問ヲシテ、天地萬物ノ理ヲキハメテ、全體大用ヲアキラカニスルト云ハ、ソノ説高遠ニテ、人ノナシガタキコトナリ、身ヲ脩テ一毫人欲ノナキヤウニスルヲ目アテトスルモ

同ジコトナリ、

○先君子性理ノ學ヲ講究スルコト數年、ソノ甚ダ高遠ニ馳スルコトヲ厭ヒテ、語孟ノ一書ニヨリテ、專日用常行ノ上ニアリテ、スコシモ微妙ナル理ハナキコトヲ覺悟セリ、是ニ因テ道ハ天下ノ達道ニテ、性ニ具ルノ理ニアラズ、冲漠無朕、虛靈不昧等ノ說ハ、ミナ佛老ノ眞詮ニシテ、聖人ノ道ヲカタルユヘンニ非ズ、聖賢ノイハユル性ハ、ミナ氣質ノ性ニシテ本然ノ性ナシ、心ハミナ已發ノ心ニシテ、未發ノ心ナシトイヘリ、ソノ說ツブサニ遺書ニアラハル、予因テ思フ、四十年前先子門人弟子ノタメニ、性善ノ說ヲ倡フニ、初學入門ノ徒ハ、ニハカニ領承セズ、兎角人ハ生付アシキモノニテ、性善トハイハレマジト思ヘリ、今ニ至ルマデ世間一通リノ人ハイヅレモンノヤウニ思フモノナリ、皆俗見ナリ、然ドモコレハ世上ノ人ノ模様ヲミテ、料簡ヲ付タルモノナリ、荀子ノ性惡ナド云モ、ソノ類ナリ、書物ヲミ學問スル人ハ、性善ト云コトハヨク合點スレドモ、仁義禮智ハ人ノ性ニ生付タルコト、オモヘリ、コレハ書物ヲミ、先儒ノ成說ヲ習熟シテ、道理ヲ以テカクオモヘリ、シカレドモ、仁義

ヲ只生付トバカリ意得テハ、モトヨリ孔孟ノ意ニモ非ズ、又宋學ノ言ニモ非ズ、漢唐諸儒鄭康成韓退之ナドノ見ニナリテ、半上落下ノドチモツカザルコトナリ、シカルニ先子仁義禮智ハ道德ノ名ニシテ、性ニアズト倡ヒ、サマ／＼ニ比喻辨論詳明ナレドモ、初學ノ士ハ人身ヲハナレテ、何事モアルマジト思フテ、ニハカニ領解セズ、畢竟道ト云モノハ、卽事卽道人人行事ノ上ニアリテ、吾身ヲハナレテ、一物ノミルベキモノアランヤ、古モ今モカハルコトナク、和漢ノワカチナク、親アレバ孝ヲツクシ、君アレバ忠ヲツクスコト、自然ノ道ナリ、故ニコレヲ天下ノ達道ト云、古ノ聖人ソノヨキ加減ナルトコロヲ考合テ、法ヲ設ケ言ヲ立テ、萬世ニノコシ玉フ、萬世ノ人之ヲ守リテ、身ヲオサメテ、タガハザルヤウニスルナリ、コレヲ道ヲ守ルト云、常ニソノ通りニシテ、行モテユク、コレヲ道ヲ行フト云、人タルモノ、カクナケレバカナハザルコトヲシル、コレヲ道ヲ知ト云、ソノ大ナルヲ贊美シテコレヲ天地ニ察カナリト云、タトヘバ國家ノ法度アルガゴトシ、通都大邑、所在ニ制札ヲ立玉ヒテ、忠孝ヲハゲマシ、邪術ヲ禁ジ、ソノ外箇條シナ

ジナアリテ、天下ノ人、有智無智ヲワカタズ、ツ、シミ守リテ違背スルコトナシ、コレ人人ノ心ニ具リタル事ニモ非ズ、又人身ヲハナレテアルモノニモアラズ、人ノ業作カクナケレバ不_レ叶ワケヲ考ヘテ定玉フ、道ト云モマタシカリ、コノ義ヲワキマヘズシテ、道ト云モノハイヅクニアリト尋求ルハ、マドヒノ甚キナリ、

○中庸曰、率_レ性之謂_レ道、此等ノコトバニテ、道ノ大略シルベシ、凡ソ二時ノ食事ヲシテ、父母ヲ養ヒ、妻子ヲハゴクム、イヅレモ生付タル性ナリ、故云食色性也、又云、父子之親天性也ト、君子ノ道ト云モノハ、ソノ生付タル性ニ相應ジテ、父兄アレバ孝弟ノ道ヲヲシヘ、妻子アレバ慈愛ノ道ヲヲシフ、コレヲ率_レ性ノ道ト云、アルヒハ父母ヲ弃、妻子ヲ絶テ、七日斷食スルヤウニトヲシユルトキハ、人ノ性ニ應ゼザルユヘニ、天下ニ通ジテハ行ハレザルナリ、又曰、道不_レ遠人、人之爲_レ道而遠_レ人不_レ可_レ以爲_レ道ト、此モ同ジコトニテ、道ト云モノ、ワケ彌明ナリ、又曰、君子之道、本_ニ諸躬_ニ徵_ニ諸庶民_ニ考_ニ諸三王_ニ而不_レ繆_ニ建_ニ諸天地_ニ而不_レ悖_ニ質_ニ諸鬼神_ニ而無_レ疑_ニ百世以俟_ニ聖人_ニ而不

惑ト、コノ章亦同ジ意ニテ尤詳明ナリ、君子ノ道、孝弟ヲヲシヘ玉ヘバ、ソノ身モ孝弟ヲ行ナヒ、是ヲ萬民ノ上ニ推テモ萬民モ亦從ヤスキ、是ヲ本_ニ諸躬_ニ徵_ニ諸庶民_ニト云、又イニシヘノ聖人ノヲシヘ、イカバト尋レバ、古ノ聖人モ亦孝弟ヲヨシトシ玉フ、是ヲ考_ニ諸三王_ニ而不_レ繆_ニト云、又コレヲ天地ニ引合テミレバ、天地モマタ生ヲ道トシテ、萬物ヲ化育スルトキハ、コレ又孝弟ノ道ニタガハズ、是ヲ建_ニ諸天地_ニ而不_レ悖ト云、又コレヲ鬼神ニタガハシテ占フトキハ、鬼神モ亦孝弟ノコトヲアシ、トハ告玉ハズ、是ヲ質_ニ諸鬼神_ニ而無_レ疑ト云、又コレヲ將來ノ世ニコ、ロムルニ、却後千百年シテ、タトヒ聖人アリテ出現シ玉フトイフトモ、コノ孝弟ノ道ヲアシ、トセザルコト、決焉トシテシルベシ、是ヲ百世以待_ニ聖人_ニ而不_レ惑ト云、コレ中庸ノ道ノ正道タルユヘナリト云コトシカリ、仁義ト云モ、コノ二三章ノ言ヲ、何トナク諷誦シテ味フトキハ、強テ議論穿鑿スルコトモナク、道ノワケシルベキコトナリ、因テソノ義ヲ詳ニシテ、篇ノ終リニ著スト云_レ爾、

享保十五年庚戌中浣

東 涯 誌

跋

道一而已矣、後世岐曰「體用」、而大義既乖、聖學幾熄矣、原_下夫所謂所「以然」之理云者、可「以言」而無「益」於行「也」、夫猶「塵飯土羹」耶、可「以戲」而不「資」粉腹「也」、我紹述先生、夙承「先緒」、善「誘後進」、諄復不「倦」、然而村校社師、尙「狃」舊聞、疑團不「釋」、因爲著「此書」、命「士亨」、校閱上「梓」、業已有「緒」、旣而先生歿、人榮之影、曷勝「悵然」、嗚呼、此書最系「晚出」、寔不「可忽」諸、苟欲得「其門」而入者、不「由」「關鍵」而可乎哉、

元文丁巳歲上巳日

門人 奧田士亨拜書印

本朝學原浪華鈔題辭

曰若稽太古之世、當天闢闢地垠闢而八荒協、萬國諧之運、瓊瓊杵尊受命乎天祖、降蹕於襲山、於是太詔刀命迎諸雲衢、演ト之五兆矣、是蓋神代文字之祖而義理之宗也、惜哉其書法之不可得而知也、其餘之典故事蹟在亡沿革、今不可復委根究焉、且如漢王充所記贈鬯草於周室事、蓋彼傳我遺之故實、而其詳亦不可得聞也、自是其後徐福齋來尙書也、阿知岐貢論語也、韓儒交代于吾焉、國士入學於唐焉、由是學與教弘而文獻亦不乏焉、近古以降武功是崇而文教寢廢、間有涉于載籍者、率熟乎漢家之事歷、而於本邦之典蹟、則懵然不知其由緒也、夫生於其國而不識其國故舊章之如何、可謂能學乎、吾西峰翁少有志于倭學焉、仁術之餘博覽乎國記、而精究其源委、實當世之有識也、暇日發其所嘗蘊蓄、以爲是書、言簡而義詳、事約而理備、可謂倭學之淵源哉、予頃年幸邂逅翁於京師、而始得

聞其緒論、其後得此書、反覆熟讀略獲窺國學之梗槩、而猶未達其本據原由之所、在、適書疏往復之次叩之、因得聞其辭意指趣、然後創記注錄積至成卷帙、遂序次之名以浪華、蓋取諸王仁倭什之首句云、然以其不能就正于翁也、闕疑大抵過半、非敢獻諸大方、唯以貽于愚孫之指導耳、幸若遭識者之覽、而見斧柄之所運、則實愚耄之素心也、

元祿十一年仲夏某日

眞野時繩操 毫於尾州藤浪里津嶋之幽齋



本朝學原浪華鈔一

本朝二字出孟子、淮南子高誘註、本朝者同國朝、學效也、原與源通泉源也、此本邦有文字以來、漢學傳來ノ本源ヲ明サシ爲ニ作バ也、傳神代有文字、而出乎龜卜、其體頗似墨譜云、然則不可言漢字不來前無文字、齋部卜部共有說、不無所傳也、

吾朝神明傳統、

是序文也、吾親詞、神明二字本汎指神靈、就中專斥言天照太神是故實也、此即指天照太神也、異邦ニモ日ヲ指テ神明ト云フコトアリ、史記封禪書曰、東北神明之舍、西方神明之墓也、張晏曰、神明日也、日出東北含謂陽谷、日沒於西曰墓漂谷也、是天照太神ヲ神明ト云ニ暗ニ符合セリ、猶神明明神等區別、神學類編、神階篇詳之、不復贅于此、統ハ皇統ノ謂、訓ニ與都義、世繼之謂也、日本神代紀曰、天照太神之子、正哉吾勝勝速日天

忍穗耳尊、娶高皇產靈尊之女栲幡千千姬、生天津彦彥火瓊瓊杵尊、故皇祖高皇產靈尊、特鍾憐愛以崇養焉、遂欲立皇孫天津彦彥火瓊瓊杵尊以爲革原中國之主、又曰、天照太神敕天稚彥曰、豐葦原中國是吾兒可王之地也、云云、方當降吾兒矣、且將降間、皇孫已生、號曰天津彦彥火瓊瓊杵尊、時有奏曰欲以此皇孫代降、故天照太神乃賜天津彦彥火瓊瓊杵尊、八坂瓊曲玉、及八咫鏡、草薙劍三種寶物、又曰、是時天照太神手持寶鏡、授天忍穗耳尊而祝之曰、吾兒視此寶鏡當猶視吾、可與同床共殿以爲齋鏡、是則神皇正統萬代不易之本基、而三種神器御相傳之道脉亦在乎此、天壤之間絕無比倫矣、美聲遂達異邦、異邦人抃稱之言、神國曰禮義國者、不亦宜乎、

天險開疆、

天險ハ地勢ノ自然ニ險阻ナルヲ云、疆ハ疆場也、易上象傳、天險不可升、地險山川丘陵也、王公設險守其國、險之時用大矣哉、潘安仁西征賦、躡函谷之重阻、看天險之衿帶、言本邦東溟ノ内ニ在テ四

垂孤絶是則天險ノ謂、而自然ニ其疆場八洲、而又
有ニ國魂神、尤地靈人傑也、本朝文粹三善清行意見
封事略曰、臣伏案ニ舊記、我朝家神明傳ノ統、天險開
レ疆、土壤膏腴、人民庶富、故東平ニ肅慎、北降ニ高麗、
西虜ニ新羅、南臣ニ吳會、三韓入朝、百濟内屬、大唐使
驛、於焉納レ賄、天竺沙門爲レ之歸化、其所コ以爾
者何哉、國俗敦龐、民風忠厚、輕ニ賦稅之科、疎ニ徵
發之役、上垂レ仁而牧レ下、下盡誠以戴レ上、一國之
政猶如ニ一身之治、故范氏謂ニ之君子國、唐帝推ニ其
倭皇之尊、云云、本文二句蓋取ニ于此封事、

天神授受之道、永ニ千五百秋之運、

是從ニ天照太神ニ皇孫ニ授受ノ國壽ノ事ヲ云リ、神
代紀、天照太神敕ニ皇孫ニ曰、葦原千五百秋之瑞穗
國、是吾子孫可レ王之地也、宜爾皇孫就而治焉、行
矣、實祚之隆當ニ與ニ天壤ニ無窮者矣、千五百秋瑞穗
事ハ、本邦名義第一神昔傳來ノ佳稱也、千ハ數ノ
極、五百ハ千ノ半、非ニ徒言ニ奇偶之數、不レ極而半
ス、是則紹運無窮ノ祝意、生生不息ノ神語ニテ、所
レ謂國壽云者也、伊弉諾尊ノ生ニ千五百頭トノ玉ヘ
ルモ國壽一般ノ神慮乎、舊事本紀ニハ豐葦原之千

秋長五百秋之瑞穗トモ侍リ、元元集神器傳受篇曰、
豐葦原千五百秋瑞穗國者、大八洲未レ生以前已有
此名、雖有レ名而無レ形、強字爲ニ天瓊矛者也、神皇
正統記曰、豐葦原千五百秋瑞穗國ト云號ハ、天神陽
神陰神ニ授賜敕ニ聞ヘタリ、天照太神天孫ニ禪
坐ニモ此名アレバ、根本ノ號也ト知ルベシ、東家秘
傳序云、天地造化之根元、神皇授受之因起、其理玄
妙、其詔明白、凡厥陰陽之理、造化之端、自レ始至レ終
無レ離ニ五運、五運消息終而又始、當ニ與ニ天壤ニ無
レ窮者、蓋此道也、釋紀千五百秋ノ說ドモ、不レ過
レ爲ニ國壽、一記曰、豐葦原千五百秋瑞穗國者、非ニ此
國之本號、其至理唯祝言自然ノ神勅ニ出テ、後以自
爲ニ國號、其爲ニ國號ニコトハ、深キイワレノアルコ
ト也トゾ、

逮ニ乎神武天皇繼レ天啓ニ鴻基、國質民淳、異朝之書罕
レ至、

神代紀曰、彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊、以ニ其姨玉依
姬ニ爲レ妃、生ニ彥五瀨命、次稻飯命、次三毛入野命、
次神日本磐余彥尊、凡生ニ四男、又曰、稱ニ狹野尊
者、是年少時之號也、後撥ニ平天下ニ奄コ有八洲、故復

加レ號曰ニ神日本磐余彥尊、神武天皇ト奉レ稱ハ後代ノ諡號也、淡海三船奉レ勅、神武已下代代ノ諡號ヲ奉レ撰ト出ニ釋紀、一説ニ淡海三船ハ養老六年ニ生レテ延暦四年ニ卒ス、總ジテ人王ノ諡號、神代三代ヲ措テ神武帝ヨリ建ル事有ニ秘旨ニ云、本紀曰、神日本磐余彥天皇、諱彥火火出見、彥波瀲武鸕鷁草葺不合尊第四子也、母曰ニ玉依姬ニ海童之小女也、天皇生而明達意確如也、年十五立爲ニ太子、長而娶ニ日向國吾田邑吾平津姬ニ爲レ妃、生ニ手研耳命、及ニ年四十五歲謂ニ諸兄及子等ニ曰、昔我天神高皇產靈尊大日靈尊、舉ニ此豐葦原瑞穗國ニ而授ニ我天神彥火瓊瓊杵尊、闢ニ天關披ニ雲路、駢ニ仙蹕以戾止、是時連屬ニ鴻荒、時鍾ニ草昧、故蒙以養レ正、治ニ此西偏、皇祖皇考乃神乃聖、積レ慶重レ暉、多歷ニ年所、自ニ天祖降跡以逮ニ于今、一百七十九萬二千四百七十餘歲而、遼邐之地、猶未レ霑ニ於王澤、遂使ニ邑有レ君村有レ長、各自分レ疆用相凌礫、抑又聞ニ於鹽土翁、曰、東有ニ美地ニ青山四周、其中亦有ニ乘ニ天磐船飛降者、余謂彼地必當レ足下以恢弘天業、光宅天下、蓋六合之中心乎、厥飛降者、謂是饒速日歟、何不ニ就而都レ之乎、諸皇

子對曰、理實灼然、我亦恒以爲レ念、宜ニ早行レ之、是年也太歲甲寅、其年冬十月丁巳朔辛酉、天皇親帥ニ諸皇子舟師東征、云云、神代紀一書ノ説ニ帝ヲ以二男トシ、或三男トス、扱瓊瓊杵尊ヨリ葺不合尊マデハ、日向ニ都シ玉ヲ、天皇東征ノ神武ニ依テ、終ニ處處強敵風草ノ靡事遂給テ、大和國畝傍山檀原地ニ都ヲ建タマヘリ、日向ヨリ出給テ十年ヲ經テ都定シヌ、天皇十五ニシテ立太子、五十餘ニシテ騰極シ玉ヒキ、是則繼天啓ニ鴻基之謂也、啓ニ鴻基ノ字義、取ニ于崇神天皇紀ニ曰、七年春二月辛卯詔曰、昔我皇祖大啓ニ鴻基、其後聖業遂高、王風博盛ト、鴻ハ與洪通ズ、神武紀作ニ天業、舊事紀作ニ大業作ニ基業、或天連天業、鴻業繼業、鴻祚騰極、天緒踐祚、皇統之類、皆訓ニ阿末都比都義、神皇實錄神武天皇條云、天皇草ニ創天基之日、日本持統紀曰、奉誅ニ皇祖等之騰極次第ニ禮、古云ニ日嗣ニ也、續日本紀ニハ作ニ天津日嗣、是則世繼ニ日神之靈蹤故之和語也、國質民淳トハ神武帝ノ勅ニモ是時連屬ニ鴻荒、時鍾ニ草昧ニアリ、崇神帝以往殊ニ質素淳茂ノ風タル事ハ紀中ニ見ユ、異朝之書罕レ至トハ、以ニ罕字ニ觀レバ、

間異域ノ書典似_レ至、尤可_レ怪乎、然ニ今如_レ斯傳疑テ記スコトハ有_レ說、凡本邦異國ニ通ゼシ事、又ハ彼國人始投化ノ前後ヲ考ルニ、舊來ノ傳說ニ懿德天皇ノ御寓ニ當リテ、孔子乘_レ桴浮_レ海、及居_ニ九夷_一ノ嘆ハ指_ニ我國_一也ト云、後漢范曄曰、東夷天性柔順異_ニ於三方_一、故孔子悼_ニ道不行_一、乘_レ桴浮_ニ於海_一、欲_レ居_ニ九夷_一、三善清行是說ニ因テ我君子國ノ佳稱ニ合フ一證トス、又周ノ世吳ノ太伯入_ニ本邦_一爲_ニ始祖_一ノ說、或ハ夏公少康爲_ニ我始祖_一ノ說アリ、皆糺說ニテ本邦ヲ姬氏國ト云說ニ依テ構タル事也、又秦時徐福託_レ求仙浮_ニ海上_一事ヲ、我國ニ來リ富士ニ留リ熊野ニ有_レ祠ノ類和漢共稱_レ之、此時尙書ヲ齎來ノ說尤舊タリ、釋中津絕海見_ニ宋帝_一、徐福ガ事ヲ唱和ス、此外本邦ノ太古國人入_ニ異邦_一留_レ韓ノ說等、神學類編、神國篇辨_レ之、太伯少康來朝ノ事ハ晉書ニ首出シ、徐福ガ事ハ歐陽公日本刀歌、文獻通考、琅瑯代醉編、閩書嶋夷志等ニ出ヅ、又通_ニ使价_一事ハ、後漢光武中元二年爲_ニ始_一ノ由西漢書ニ見ヘ、善隣國實記ニモ取_レ之、是垂仁帝八十八年ニ中ルト也、雲笈七籤ニハ黃帝ノ時始通ストシ、山海經ニハ

唐堯ノ時トス、共ニ荒唐ノ言ニ似タリ、王充論衡ニハ周ノ時トス、西峰老人曰、黃帝之時當_ニ日本神代之季_一、又山海經ハ益ノ書ニテ堯ノ時ノ書也、論衡ニ周ノ時トスルハ成王ノ代ニシテ、此士ハ葺不合尊ノ季、神武帝ノ初ニ當ルニヤト、然レバ徐福尙書ヲ齎來ヲ以本邦書契ノ初トセンヨリハ、日本漢學ノ漸ハ論衡ニ謂ル周ノ成王ノ時自_レ我獻_ニ暢艸_一ノ說ヤ近カラント也、何者本邦祭祀ノ禮固備レリ、非ニ偶然、且神武紀ノ年月日時ヲ記シタルモ、傳來ノ文字アレバナルベシ、是亦其証也、異邦ノ書ニハ日本文學始_ニ徐福_一ト謂リ、尤不_レ中、上件說ニ依テ此書ニモ神武以降國質民淳、異朝之書罕_レ至トハ書ルニヤ、應神帝ノ御寓書ノ至ルコトハ無_ニ異論_一、サレドモ舊傳巨_レ捨又難_レ決、故唯云罕_レ至ト、然ニ國史所載ハ應神帝ノ朝ヲ漢學ノ始トス、是故下文詳_ニ其實_一爾、

應神天皇アノガシタシヨシメス。馭寓之年、三韓獻_ニ經傳_一、

應神天皇ハ第十六代ノ天子ニテ、仲哀天皇第四ノ御子、御母ハ神功皇后也、其靈德協_ニ神明_一給ニヤ、胎中ニ坐ス時、天照太神住吉明神事代主命等ヨ

リ、授三韓玉ヲノ瑞アリ、御父仲哀天皇筑紫熊襲ヲ討ントシ給時、有神託曰、熊襲吾國中、且強雖不討、後來自可隸服、海外西方金銀多眼炎國、又如美女之睒^{ヲヒキ}有向津國、眼炎之金銀彩色多在^ニ其國、是謂^ニ栲^{タク}衾^{フスマ}新羅國、可令^レ討^レ之ト諭シ給ヘリ、因茲登^レ高雖^レ令^ニ窺^ニ望^ニ國^ニ不^レ見^ニ帝^ヲ言^リ神^テ何虛誕ノ論アルヤトノ玉ヒ、又終^ニ熊襲^ニ有^レ事^ニ、此不信不敬ノ叡慮背^ニ神明^ニ給^ニヤ俄^ニ崩^ジ給^フ、一云、負^ニ賊^ニ流^ニ矢^ニ崩^ズト、未^レ審^ニ孰^ニ是^ニ、於是皇后甚悼畏給ヒ、且先帝背^ニ神慮^ニ給^ニ事^ヲ悲^ミ、怒^ニ征^レ韓^之雄慮^ニ、七日齋給^テ武內宿禰^ニ令^レ彈^レ琴^ニ、以^ニ中臣烏賊津臣命^ニ定^ニ審^ニ神^ニ、前^ニ諭^シ給^フ神勅^ヲ請^ニ、且其神號ヲ被^レ奉^レ尋^ニ、又出^ニ白水郎^ニ令^レ窺^ニ海上^ニ、果其國隱隱トシテ相見ユト申ス、於是調^レ兵^ヲ遂^ニ西征^ニ給^フ、爾來至^ニ今^ニ世^ニ彼國入^ニ貢^ニ子^ニ我不^レ絕^ニ、彼時新羅王ノ名ヲ宇流助富利智干^ヲ云^リ、皇后ノ船路諸神擁護ノ力ヲ添ヘ玉フ、此時應神帝ハ胎内ニ坐スト云ヘドモ、神明ニ協ヒ給ヘバ、如^ニ母后誓^ニ產期^モ延^給テ凱旋ノ時生^レ給ヘリ、生而御臂ノ上ニ有^レ穴^ニ如^レ輶^ト、依^テ奉^レ稱^ニ譽^ニ田^ニ天皇^ニ、古語ニ輶^ヲ保牟陀トモ云バ也、又

依^ニ彼靈異^ニ胎中^ニ天皇トモ申キ、御在位久之崩御後、豐前國菱形池邊ニシテ託^ニ小童^ニ見^ニ神名^ニ給^フ事ハ、欽明天皇ノ御宇也、其後清和天皇ノ朝ニ其神ヲ奉^レ遷^ニ于山城國鳩峰^ニ、今ノ八幡山太神是也、事ハ見^ニ于神記^ニ、馭^ハ同御^ニ、寓^ハ猶宇^ニ、御宇内^ニ之謂也、孝德紀作^ニ御寓^ニ三韓有^ニ二說^ニ、一新羅百濟高麗謂^ニ之三韓^ニ、二辰韓馬韓辨韓是也、但後ノ三韓ハ、舊新羅ノ地名也トゾ、都テ今ノ韓朝鮮八道ト成^レリ、神代紀ハ、韓地トノミアリ、詳見^ニ于後^ニ、獻^ニ經傳^ニハ、應神紀曰、卽位十五年秋八月壬戌朔丁卯、百濟王遣^ニ阿直岐^ニ貢^ニ良馬^ニ二疋^ニ、又曰、阿直岐亦能讀^ニ經典^ニ、卽太子菟道稚郎子^ヲ師^ニ焉、於是天皇問^ニ阿直岐^ニ曰、如勝汝博士亦有耶、對曰、有^ニ王仁者^ニ是秀也、時遣^ニ上毛野君祖荒田別巫別於百濟^ニ、仍徵^ニ王仁^ニ也、其阿直岐者、阿直岐史之祖也、十六年春二月、王仁來^レ之、則太子菟道稚郎子師^レ之、習^ニ諸典籍^ニ於王仁^ニ莫^レ不^レ通達^ニ、故所^ニ謂^ニ王仁者^ニ、是書首等^ニ之始祖也、按^ニズル^ニニ、王仁ハ東西^ニ文部等^ニノ祖也、古事記ニハ應神天皇ノ時、阿智吉師ト云博士來朝シ、又和邇吉師論語十卷千字文一卷齋來ト見ユ、此阿智吉師

ハ日本紀ニ謂ル阿直岐也、和邇吉師ハ日本紀ニ謂ル王仁也、王仁則ワニ也、徐福尙書、王仁論語、其隻字不殘尙矣、可レ惜之甚、源親房既此嘆アリ、正統記ニ見ヘタリ、

三韓箕子之舊邦、

戰國策曰、朝鮮屬樂浪、補曰、朝鮮箕子所封、今高麗國、索隱曰、音潮仙、又一名箕子國、東國通鑑、新羅高句麗百濟三國記曰、新羅始祖八年漢甘露四年倭來コ寇邊、聞王有神德乃還、西峯老人曰、漢甘露四年當我崇神天皇四十八年、崇神天皇無征新羅事、雖然日本紀曰、崇神天皇六十五年秋七月、任那國遣蘇那曷叱知令朝貢也、任那者去筑紫二千餘里、北阻海以在鷄林西南、垂仁天皇二年任那人蘇那曷叱知請欲歸于國、蓋先皇指崇神帝之世來朝未還歟、故敦賞蘇那曷叱知、仍賞赤絹一百疋、賜任那王、然新羅人遮之於道而奪焉、其二國之怨始起、於是時也、觀此則崇神天皇雖不征新羅、新羅得罪于我朝起於此際矣、終至神功皇后得征之、蓋爲任那征之也、又曰、昔我素盞烏尊、與其子五十猛神、入於新羅國、不欲居之、堯

之時檀君、周武王時箕子主之、國號朝鮮、久之大亂、分崩至七十八、所謂三韓者、其強者也、竝列疆界、弱吐強吞戰爭不息、當斯時任那來貢我、厚賜還之、新羅遮道奪之、自招仇餉之禍、我數代先王不征之、神功皇后靈聖聰明、周行天下、勗勞群庶、愛育萬民、奉天神地祇命、戎衣一問、新羅罪、已而亦哀新羅所窮、全將戮之首、授要害之地、高麗百濟觀感叩頭、永稱西藩不絕朝貢、諸韓恐後之無不臣服、於是韓地置日本府、任宰以治之、新羅當親戴我、與天地不變、而時逆天背盟、違我恩義、數侵任那、至欽明天皇二十三年、新羅遂滅任那、自神功皇后以來五百九十三年、任那之存如此永久也、此非神功皇后之大神餘烈乎、其後新羅滅百濟、新羅亦降于高麗、三韓失鼎峙之勢、而高麗至宋、不忘故舊、朝聘無絕、云云、一云三韓者三國共韓氏也、佛祖統紀曰、三韓者一馬韓在西、五十四國北接樂浪、南接倭國、二辰韓在東、十二國北接濊貊、亦曰秦韓、言秦人避役適韓國、三辨韓在辰韓之南、十二國南接倭、馬韓尤大、盡王三韓之地、云云、新羅或

作^ス斯盧、或作^ス鷄林、唐龍朔二年詔改^ニ朝鮮^ニ云^ニ鷄林、明洪武年間李氏乞^テ改^ニ國號^ニ曰^ク朝鮮、許^レ之、爲^ニ八道^ニコトハ元末高麗大臣李成桂、遂乘^レ勢篡^ニ國、并^ニ吞新羅百濟、分^ニ國郡^ニ爲^ニ八道^ニ也、潛確類書記朝鮮地圖七道、西曰^ニ黃海^ニ是古馬韓舊地也、南曰^ニ全羅^ニ是本下韓地、東南曰^ニ慶尙^ニ是則辰韓也、西南曰^ニ忠清^ニ是皆古馬韓域也、東北曰^ニ咸境^ニ是本高勾麗地也、西北曰^ニ平安^ニ是本朝鮮故地也、予謂高勾麗俗謂^ニ蒙古高勾麗^ニ也、昔胡元闕^レ我時高麗與^レ之、故本邦惡而并^ニ言之^ニ之俚語也、高勾麗ヲ訓^ニ古久利^ニハ出^ニ康富記^ニ、

住吉大神美^ニ彼國^ニ、令^ニ神功皇后平定^ニ、以授^ニ應神天皇^ニ、當^ニ斯之時^ニ三韓文獻都歸^ニ本朝^ニ、

住吉大神ハ攝津國住吉郡住吉社四座也、其神ハ底筒男命、中筒男命、表筒男命、神功皇后是也、神代紀曰、伊弉諾尊往^ニ至^ニ筑紫日向小戸橋之檣原^ニ而祓除焉、遂將^レ盪^ニ滌身之所^ニ汚、沉^ニ濯於海底^ニ、因以生神號曰^ニ底津少童命^ニ、次底筒男命、又潛^ニ濯於潮中^ニ、因以生神號曰^ニ中津少童命^ニ、次中筒男命、又浮^ニ濯於潮上^ニ、因以生神號曰^ニ表津少童命^ニ、次表筒男命、凡有^ニ

九神^ニ矣、其底筒男命、中筒男命、表筒男命、是住吉大神矣、神功皇后紀、征^ニ新羅^ニ、明年二月又表筒男、中筒男、底筒男三神誨^レ之曰、吾和魂宜^ニ居^ニ大津渚中倉之長峽^ニ、便因看^ニ往來船^ニ、於^レ是隨^ニ神教^ニ以鎮座焉、又神宣曰、眞住吉眞住吉之國也、因其地名曰^ニ住吉^ニ、或作^ニ墨江^ニ、按ズルニ筑前長門ニモ住吉社アリ、延喜神名式曰、長門國豐浦郡住吉坐荒魂神社三座、又曰、筑前國那珂郡住吉坐神社三座、長門ノ神社モ一宮記、底筒男、中筒男、表筒男三神也、是國一宮也、筑前ノ住吉ハ底津少童、中津少童、表津少童三神也、或記ニ糟屋郡住吉是也トアリ、又按ズルニ以此神等ニ爲^ニ船靈^ニ一本致アリ、諸書ニ猿田彦ヲ爲^ニ船靈^ニハ其一名船戶神ト申セバニヤ、岐神船戶共是猿田彦ノ別稱ニテ、機前ヲ導キ給フ神德アル故ニ謂フ乎、於^ニ船靈^ニ由緒^ニハ神功皇后紀ノ趣、住吉ノ神託著ク、且船居ハ我守^ニノ神宣アリ、就^レ是或^ニ云^ニ、朝鮮人船路所^ニ崇天妃宮^ニ、又菩薩ト云者モ、上古住吉ノ神ヲ彼地ノ鎮護神ニ神功皇后ノ鎮祠給シ由也、疑クハ件ノ鎮守住吉ニシテ、船靈トスル歟、後世其元ヲ諱テ託^ニ佗神^ニモ亦不^レ可^レ知、神功皇后紀曰、新羅

國者定^{カヒ}御馬甘^{ヤハ}、百濟國者定^{ヤハ}渡屯家、爾以^ニ其御杖、
衝^ニ立新羅國王之門、卽以^ニ墨江大神之荒御魂、爲^ニ
國守神、祭鎮還渡也、按ズルニ天妃宮ノ事五雜俎ニ
モ侍レバ、不^レ限^ニ朝鮮祭^ニ乎、又皇明通記、永樂中
封^ニ此神京都之儀鳳門^ニ祀^レ之、剪燈新話註、立^ニ此神
廟於涇州嶼、元天監中封^ニ天妃^ニ云云、一說明季吾
民、入^レ明盜^ニ財物、破^ニ天妃祠^ニ奪^ニ其神像^ニ而歸、又
云、天妃者所祀^ニ寧波府昌國普陀山^ニ海神也、本邦人
侵^ニ普陀山^ニ者、見^ニ明應賓之普陀山志^ニ美^ニ彼國^ニ
ハ前註論^ニ仲哀帝^ニ金銀多眼之災國^ニ又如^ニ美女之
獻^ニナド宣託ノ類是也、令^ニ神功皇后平定^ニ授^ニ應神
天皇^ニハ皇后蒙^ニ神勅^ニ給^ニフ事前^ニ註ス、當^ニ斯之時^ニ
三韓文獻都歸^ニ本朝^ニハ、征^ニ韓時遂入^ニ其國中^ニ封^ニ
重寶府庫收^ニ圖籍文書^ニ本紀ニ見ユ、從^ニ是阿直岐
王仁等ノ諸儒論語已下ノ聖經ヲ貢獻シ、依^ニ番交
替セシ事不^レ絶、物換世隔テハ、時忘^ニ故舊^ニ忘^ニ恩^ニ
不庭アリ、又從テ征焉、天正中ヨリ其禮連連タリ、
抑神代ノ昔素盞烏尊率^ニ御子五十猛命^ニ到^ニ韓地^ニ
コト學者心ヲ注ル事稀也、豈不^ニ疎謬^ニ耶、
凡諸博士依^ニ番上下^ニ、講^ニ明經學^ニ相代有^ニ年月^ニ非^ニ神

功皇后之大神靈、不^レ能^ニ致^ニ之、由^ニ是儒教生焉、

三韓諸儒依^ニ番上下相代トハ、應神帝ノ朝阿直岐始
來朝、依^ニ詔代^ニ王仁^ニ敏達帝ノ時ハ王辰爾、欽明帝
ノ時ハ五經博士王柳貴來仕、後代^ニ馬丁安^ニ繼體帝
ノ時ハ貢^ニ段楊爾^ニ後又貢^ニ五經博士漢高安茂^ニ、請^ニ
替^ニ博士段楊爾^ニ依^ニ請代ト侍ル類是也、欽明紀曰、
別勅^ニ醫博士易博士曆博士等^ニ宜^ニ依^ニ番上下ト是
交替ノ義也、欽明帝ノ時ハ王柳貴ト王辰爾ト相並
デ博士タリ、是欽明帝ノ朝十四年自^ニ百濟^ニ五經博
士醫博士曆博士等ヲ貢ゼシ事有テ其名ヲ闕セリ、
疑ラクハ此等ノ人ニヤ、又聖武帝ノ時袁晉卿來貢、
又弘仁六年渤海使王孝廉來歸、皆列^ニ朝廷^ニ儒臣也、
或云、王仁阿直岐段楊爾高安茂王辰爾ハ、皆百濟
ノ人也、然ドモ此數士ノ行跡嘉言ハ不^レ傳、史ノ闕
漏可^レ惜、只王仁ノ和歌ノミ口碑ト成レリ、王柳貴
モ亦百濟ノ人也、又學智ハ推古帝ノ儒臣トシテ、上
宮太子ノ師也、是亦百濟ノ人也、袁晉卿ハ唐人也、王
孝廉ハ渤海ノ人也、渤海ハ百濟ノ後ノ國號也ト云、
右投化ノ儒臣其事悉國史ニ見ユ、非^ニ神功皇后之大
神靈ニ不^レ能^ニ致^ニ之、由^ニ是儒教生焉トハ、皇后神靈

ハ與人ノ口實也ト云ヘドモ、切ニ心ヲ注ル事稀也、
黯智伶俐ノ婦女ハ間アル事ナレドモ、事理正當ノ
大舉、若^レ斯ノ例ヲ不^レ聞、本邦ノ人ニシテ此神靈ヲ
不^レ思乎、其神齋ニ于筑前糟屋郡香椎宮、歷朝御尊崇
異^ニ于佗、不^ニ亦宜^ニ乎、皇后ハ開化天皇曾孫氣長宿
禰女也、母曰^ニ高額媛、仲哀帝二年立爲^ニ皇后、奉
稱^ニ氣長足媛命、幼而聰明睿智、貌容壯麗、父王異
焉、云云、仲哀帝崩ジ玉ヒテ後應神帝幼ク坐ス、故
ニ攝政ニ居給フ事尙シ、詳ニ本紀ニ見ユ、

及^レ至^ニ天智天皇之受^レ命、恢開^ニ帝業、功光^ニ宇宙、以爲
調^レ風化^レ俗莫^レ尙^ニ於文、潤^レ德敦^レ行無^レ先^ニ於學、於
是建^ニ庠序、徵^ニ茂才、定^ニ五禮、興^ニ百度、

此一條四十九字ハ、全寫^ニ取懷風藻序文、テ少ク鑿
括セリ、曰、及^レ至^ニ淡海先帝之受^レ命也、恢^ニ開帝業、
弘^ニ闡皇獻、道格^ニ乾坤、功光^ニ宇宙、既而以爲調^レ風
化^レ俗、莫^レ尙^ニ於文、潤^レ德光^レ身孰先^ニ於學、爰則
建^ニ庠序、徵^ニ茂才、定^ニ五禮、興^ニ百度、云云、天智天
皇受^レ命トハ、此天皇ハ舒明帝ノ御子、御母ハ齊明
天皇也、初ハ號^ニ中大兄皇子、又葛城皇子トモ開別
皇子トモ申ス、儲君ニ立給フベキ前ニ、中臣鎌子ト

共ニ南淵先生ト云鉅儒ヲ師トシ給テ、洙泗ノ聖學
ヲ學ビ給テ忠烈神武ヲ勵シ、仁義ノ勇ヲ以皇極天
皇ノ御宇ニ朝歟蘇我入鹿ヲ誅シ、無窮ノ皇統ヲ全
シ給ヘリ、實ニ王道中興ノ砥柱ト成セ給故ニヤ、十
陵ノ第一ニシテ、至^レ今テ猶御尊崇異^ニ佗也、齊明帝
崩ジ玉フ、後七年春正月淡海滋賀ノ郡ニテ卽^ニ位給
ヘリ、恢開^ニ帝業、功光^ニ宇宙トハ、此帝ヨリ御學德
ノ徵帝業ヲ張皇ニシ給フノミニ非ズ、設^ニ庠序、國
民ヲ令^レ教給フ、其餘澤流風今日ニ流傳シテ不^レ絕
ナリ、宇宙ノ宇ハ天地四方、宙ハ古今ノ謂也、和語
ニ訓^ニ阿女突智、以爲ヨリ已下無^レ先^ニ於學、ニ至テ
ハ、天智帝ノ勅言ニ出、風俗ニ字風トハ地勢風氣
ノ令^レ然習氣人品ニ係、俗トハ習熟スル人事ヲ云ノ
由、令^レ義解ニ見ヘタリ、是故ナラワント訓ス、清寧
天皇紀ニハ巡^ニ看風俗ト訓セリ、孝經ニ、移^レ風易
俗莫^レ善^ニ於樂トアリ、按ズルニ移^ニ易風俗、經傳
大抵皆以^ニ禮樂、言^レ之、然今於^ニ文學、言^レ之者、是其
基源ヲ指シテ云ニ似タリ、以^レ文調^ニ化風俗トハ和漢
共ニ通用ノ文章一統ノ理アリ、不^レ然則好^ニ奇甘^ニ怪
風化不^レ調、又ハ世ノ盛衰人ノ氣象皆時世ノ文章ヲ

以察スルノ政アリ、學記曰、君子如欲ニ化レ民成レ俗、其必由レ學乎、又曰、玉不琢不レ成レ器、人不學不レ知レ道、是故古之王者、建レ國君レ民、教學爲レ先トイヘリ、庠序ハ學文所ノ名也、孟子滕文公上篇曰、設コ爲庠序學校、以教レ之、庠者養也、校者教也、序者射也、夏曰レ校、殷曰レ序、周曰レ庠、學則三代共レ之、皆所以明ニ人倫ニ也、人倫明ニ於上、小民親ニ於下、註庠以養レ老爲レ義、校以教レ民爲レ義、序以習レ射爲レ義、皆鄉學也、學記曰、古之教者、家有塾、黨有庠、術有序、國有學、徵ニ茂才一トハ、及第對策シテ所舉ニ甲科ニ類也、昔ハ大學國學アリテ、得業生又ハ貢士アリテ茂才不レ乏、古記ニ見ヘタリ、五禮者、吉凶賓軍嘉ノ五ツニテ、詳ニ周禮大司徒ノ役ニ見ユ、書皐陶謨ニモ出、大司徒屬保人專五禮布教ノ事ヲ掌ルト見ヘタリ、是吾國悉周ノ通リノ禮ヲ用ルト云ニハ非ズ、只禮義ノソナワリテ、カクルコトナキヲイハシ爲ニ、具ヘテ五禮トハ云也、興ニ百度ニハ、百ハ滿數、度ハ制度也、樂記ニ百度得レ數而有レ常トアリ、

自レ是世聖主奉レ之、傳以爲レ法、

天智帝始テ庠序ヲ興シ道ヲ教ヘ給フヨリ、世世奉レ之、其隆盛不レ可言事ハ末章ニ明ナリ、其後保元王室始亂、平治武人起レ難、終歷ニ承久建武、而壤亂極矣、

保元ハ七十七代後白川帝ノ年號、平治ハ七十八代二條帝ノ年號、承久ハ八十四代順德帝ノ年號、建武ハ九十五代後醍醐帝ノ年號也、其間相去事遠而年所尤久矣、夫文道ハ秦平ノ盛事也、和漢共ニ文道ノ陵夷ハ、皆亂世ノ爲ニ拂レ地尤堪レ悲爾、右件歷亂各有ニ野史詳也、其大約ハ、林氏日本書籍考保元物語下註云、鳥羽院第一ノ御子ヲ崇德院ト云、鳥羽院位ヲ讓玉ヒテ、崇德院卽レ位給、其後鳥羽院寵愛御子近衛院ヲ位ニ卽給、崇德院御心ナラズ位ヲスベリ玉ヒテ新院ト稱ス、其後近衛院早世シ玉ヘリ、此次ニハ崇德院ノ御子ヲ位ニツケ申サレント人皆思フ處ニ、鳥羽院御同心ナクシテ、崇德院ノ御弟後白川院ヲ位ニツケ給フ、崇德院御怒ヲ押ヘ玉ヒテ年月ヲ送リ給フ、鳥羽院崩御ノ後禁中ト新院ト御兄弟合戰ニ及ベリ、此時ノ關白忠通ハ禁中ニ伺候ス、其弟左大臣賴長ハ新院ヘ參ル、平清盛源義朝

ハ禁中へ參ル、清盛叔父忠正ト義朝父爲義ハ、其子共ヲ引具シテ新院へ參ル、其外公家モ武家モ、思ニ相分テ兩方へ參リ、合戰ノ時新院ノ御方打負テ、新院ハ讃岐國ニ流レサセ給ヒ、賴長流失ニ中テ死ス、爲義忠正ハ被レ誅、云云、是ヲ王室亂トハ云也、又平治物語下ノ註云、後白川院ノ臣下右衛門督藤原信賴ト、少納言入道信西ト威勢ヲ爭ヒテ不和也、信西ハ清盛ガ縁者也、信賴ハ義朝ト交ヲ結ブ、清盛熊野詣ノ時、留守ノ程ニ信賴義朝同心シテ信西ヲ討リ、清盛歸京ノ後合戰ニ及ビ、信賴義朝打負テ、清盛終ニ威ヲ逞スト、云云、是則武人起レ難ノ事也、起レ難字ハ賈誼過秦論ニ出タリ、又承久記下ノ注云、北條義時執權ノ時分、後鳥羽院ノ勅ヲ背ク事アリ、逆鱗ノ餘義時ヲ亡サン爲ニ官軍ヲ集メ給フ時ニ、義時ガ子泰時ト義時ガ弟時房ト兩大將ニテ、大軍ヲ率シ鎌倉ヨリ上洛シ、宇治勢多ニテ官軍ヲ打破リ京へ亂入ル、義時ガ子時氏院内へ參リ、後鳥羽院ヲ隱岐國ニ流シ奉リ、御子土御門院ヲ阿波國へ、順德院ヲ佐渡國へ流シ奉ル、此事又東鑑ニ詳ニ見ヘタリ、又建武年間ノ事ハ、後醍醐帝北條ヲ亡

シ給ヒ、其後尊氏不軌ヲ謀ルニ起リテ、新田義貞楠正成等、討戰年久ク其事尤繁多也、保曆間記太平記等ニ詳也、壞亂極矣トハ衰運ノ極ルヲ云、大學序字ヲ取レリ、本朝舊記、家乘皆此等ノ兵燹ヲ經テ烏有ト成者不レ可ニ勝計、今世ハ殘簡或題目耳、尤可ニ嘆惜一、

今也鍾ニ四海無事之化、吾儕對ニ螢雪、於是欲レ知下學之所ニ由來、古人之有レ功ニ於後學、遂訪ニ於舊史、記ニ其萬一云、

此段ハ天運循環無ニ往不レ還、今ヤ天下太平ノ化ニ逢テ、學問盛隆ノ事ヲ云ヘリ、四海トハ一天下之謂、爾雅ニ九夷八狄七戎六蠻、謂ニ之四海、注九夷在レ東、八狄在レ北、七戎在レ西、六蠻在レ南、次ニ四海、北曰渤海、予謂四海四荒等ノ說ハ山海經ニ詳也、此ハ唯是四方海波平ナル御代ノ謂耳、對ニ螢雪トハ、學問ヲ勵ムコトヲ云、晉書、車胤字武子、南平人、恭勤不レ倦、博覽多通、家貧不ニ常得レ油、夏月則練囊盛ニ數十螢火、以照レ書以レ夜繼、日焉、孫氏世錄曰、孫康家貧無レ油、映レ雪讀書、

本朝學原浪華鈔二

漢音者、應神天皇之時始矣、

自_レ是已下本文也、凡テ六章アリ、是其第一章也、漢音ト云漢語ト云、皆是對_ニ倭訓和語_一名也、自_レ古總_ニ稱異邦_一シテ云漢云唐事モ、異域歷代ノ中漢唐ハ歷運久シク、且本邦ト通使多キ故也、倭語ニ異國ノ音韻相雜ル漢音ヲ爲_レ先、是則應神帝ノ御宇阿直岐王仁等來朝シテ、文字ノ沙汰セシヨリノ事也、王仁ハ漢高祖ノ子孫也、次デ吳音モ亦隆也、其佗宋音又ハ梵語ノ類、至_レ今テ俚語ニ雜唱テ不_ニ相知_一、本邦舊來ノ和語ノ如ク思フ事尙矣、釋紀竈云_ニ加摩度_一梵語也ト云リ、シカノミナラズ、魚云_ニ摩那_一祖云_ニ摩那伊太_一弓云_ニ多羅枝_一尼云_ニ阿摩_一類亦同、或云、加摩度、摩那ハ梵語ニ非ジ、阿摩ハ梵語ニシテ母ノ稱、尤尼事ニ非ズ、又多羅枝ハ神功皇后ノ御名ニシテ、弓ノ號トスルハ秘也、主人ヲ檀那ト云ハ梵語也ト、按ズルニ神功紀ニモ此說アリ、神功皇后御名氣長足姬命ト申ス、此皇后多羅樹ヲ爲_レ弓事アリ、異國ノ書ニ

本朝學原浪華鈔一終

モ多羅ノ木ヲ倭國ノ產トアリ、萬葉集執乃梓ノ弓トアリ、花鳥餘情ニ、李部王記承平四年新嘗會仰云、御手奈良之萬爲禮、書司即取^{ミタナラシキ}朽女^{シノメ}一名^{倭姫}置^{タテマツ}之御前云云、此等ノ名目ヲ校^{タテマツ}レバ貝多羅枝ノ謂ニモ非ズ、唯御執弓ノ略語爾、若斯雜選遂一不^レ可^レ考、

應神天皇之聰監聖異、三韓^{ミソコ}蹶^{ヒキ}角^{ツノ}受^{ウケ}化^{イハ}稱^{ナヅケ}ニ西蕃、底^{ソコ}貢^{コソウ}厥^{ソノ}方物文獻、

聰監聖異ハ本紀曰、畠田天皇足仲彥天皇第四子也、母曰^ミ氣長足姬尊、天皇以下皇后討^ヲ新羅^{ミナソノ}之年歲次^ニ庚辰、冬十二月^上生^{マケ}於^ニ筑紫之蚊田、幼而聰達、玄監^{ミスガタ}深遠、動容進止、聖表有^レ異焉、是則聰達玄監、聖表有^レ異ヲ約シ取^ル也、蹶^{ヒキ}角^{ツノ}受^{ウケ}化^{イハ}ハ、文選丘希範與陳伯之書云、朝鮮昌海蹶^{ヒキ}角^{ツノ}受^{ウケ}化、註良曰、蹶^{ヒキ}角^{ツノ}謂^フ以^テ頭角一叩^ヒ地也、按ズルニ附^ケ地稽首スル也、叩頭ト云モ亦同點頭トモ云リ、歌書ニ額突^{カサツ}ト侍ルモ、拜禮シテ首ヲ突^ツ地ノ謂也、神功皇后征^セ韓以來、韓人受^ケ我國命、懷敬肅謹ノ至^ルサマ也、事前ニ注ス、稱^フ西蕃底^{ソコ}貢^{コソウ}厥^{ソノ}方物文獻トハ、蕃字或作^レ藩、謂^フ爲^ス藩籬也、此二字出^ル皇后紀、然ドモ其事專係^ス應神帝之靈異、故ニ今此御宇ノ事ニ用タ

リ、方物訓ニ久爾津毛農、文獻ハ文籍賢人也、論語八佾篇云、文獻不^レ足故也、神功皇后紀曰、冬十月己亥朔辛丑、從^ニ和珥津發之時、飛廉起^{カゼノカミ}風陽侯舉^{ウキノカミ}浪、海中^ニ大魚悉浮挾^{カサ}船、則大風順吹、帆船隨波、不^レ勞^ニ榜楫、便到^ニ新羅、時隨船潮浪遠逮^{ハル}國中、即知天神地祇悉助歟、新羅王於是戰戰栗栗^{セシムベシラズ}身無^レ所、則集^ス諸人曰、新羅之建國以來、未^ミ嘗聞^ク海水凌^フ國、若天運盡國爲^レ海乎、是言未訖之間船師滿海、旌旗耀^ル日、鼓吹起^ユ聲、山川悉振、新羅王遙望以爲、非常之兵將滅^ス己國、驚焉失志、乃今醒之曰、吾聞東有神國^ニ謂^フ日本、亦有^ニ聖王^ニ謂^フ天皇、必其國之神兵也、豈可^レ舉^ス兵以距^ス乎、即素飾而自服、素組以面縛、封^フ圖籍^ニ降^ス於王船之前、因以叩頭之曰、從^レ今以後長與^ニ乾坤^ニ伏爲^ス飼部^{ウマカヒ}、其不^レ乾^ス船柁^{カサヒテ}、而春秋獻^ス馬梳及馬鞭、復不^レ煩^ス海遠、以每^ニ年貢^ス男女之調、則重誓^ス之曰、非^レ東日更出西、且除^ス阿利那禮河返以逆流、及^ニ河石昇爲^ス星辰、而殊闕^ス春秋之朝、忍廢^ス梳鞭之貢、天神地祇共討焉、時或曰、欲^ス誅^ス新羅王、於是皇后曰、初承^ス神教、將授^ス金銀之國、又號^ス令三軍曰、勿^レ殺^ス自服、今既護^ス財國、亦人自降服、

殺之不祥、乃解其縛爲飼部、遂入其國中、封重寶府庫、收圖籍文書、卽以皇后所杖矛樹於新羅王門、爲後葉之印、故其矛今猶樹于新羅王之門也、爰新羅王波沙寐錦、卽以微叱已知波珍干岐爲質、仍賣金銀彩邑及綾羅縑絹、載于八十艘船、令從官軍、是以新羅王常以八十船之調貢于日本國、其是之緣也、於是高麗百濟二國王、聞新羅收圖籍降於日本國、密令伺其軍勢、則知不可勝、自來于營外、叩頭而歎曰、從今以後永稱西蕃不絕朝貢、故因以定內官家、是所謂三韓也、所謂阿利那禮河ハ鴨綠江也、西峯老人謂阿利鴨也綠也、那禮者江轉語歟、李太白集齊賢注、高麗有鴨綠水、唐志安東郡護府、故漢襄平城東南至平壤城八百里、西南至都里海口六百里、南至鴨綠江、其水如鴨頭綠、云云、是三大河ノ其一也、又新羅王波沙寐錦ハ其名也、微叱已知ハ人名也、波珍ハ冠名、干岐ハ官名也、見釋紀、按ズルニ吾素蓋烏尊一韓地ニ到給ヒシヨリ、崇神垂仁兩朝以降、或懷王化或畏神武、神功皇后ノ一舉ニ依テ每歲貢不絕、然ルニ前ニ謂堯時通ズト云、周世通ズト

云、度會延佳記ニハ開化天皇ノ御宇ニ通ゼシ由、宗廟ノ古記ニ見ユト云、神皇正統記ニハ孝靈天皇ノ御宇ヲ始トセリ、其說ニ云、秦ノ始皇方士ガ言ヲ信ジテ、不死ノ藥ヲ日本ニ求ム、日本ヨリ五帝三王ノ遺書ヲ彼國ニ求メシニ、始皇悉ク是ヲ贈ル、其後三十五年アリテ彼國書ヲ焚キ儒者ヲ埋シカバ、孔子ノ全經ハ日本ニ留ルト也、又云、神功皇后新羅百濟高麗ヲ順ヘ給シハ、後漢ノ末ザマニ當レリ、漢地ニモ通ジラレタリト見ヘタレバ、文字モ定テ傳レルカ、一說ニハ秦ノ時ヨリ書籍ヲ傳フト云リ、年代記孝靈天皇十三年、天竺ノ梵字ヲ傳フト云ハ妄說也、彼三韓王ノ盟シヨリ以來、吾國ノ歷代毎歲八十艘ノ貢物ヲ不絕、神功皇后ノ神靈可レ想、神皇正統記云、二十代允恭天皇迄ハ三韓ノ貢、年年不レ易シニ自レ是後ニハ常ニ怠リヌ、又水鏡ニモ允恭帝ノ時迄、新羅國ヨリ入貢船八十艘ニ積デ、樂人八十人添テ來シニ帝崩ジ給フニ遇テ、其後ハ僅二艘奉リシトアリ、年中行事歌合ニ、大唐商客ノ題ニテ女房歌實關白「我國ノ貢ソナエテ年毎ニ今モ百濟ノ船ソ絶セヌ」關白良基判云、神功皇后新羅ヲ平ゲ給シヨ

リ、年毎ニ貢物ヲ贈シ事、持統文武ノ比迄不_レ絶_ニ侍_リシ、

十五年秋八月丁卯、百濟阿直岐來朝、十六年春二月依_ニ岐之言_一徵_ニ王仁_一、時携_ニ論語千字文_一來、

十五年十六年ハ應神帝御在位ノ事也、阿直岐王仁來朝ノ事ハ前ニ註ス、此ニ王仁ノ二字ノ左傍ニワニト點スル事ハ、古事記等ニ和爾吉師ト云韓儒ヲ載タリ、是日本紀ニ謂王仁ト同人ナレバ、和邇ハ假名ニシテ王仁ノ略音ヲニナレバ、其同人タル明證トスル爲也、論語千字文ノ事ハ此時先齋來ル事明矣、此論語モ百濟人追慕シテ來使ノ時上表シ電覽ヲ願シ事アリ、羅山文集曰、百濟國人來_ニ貢_一于本朝、居_ニ之鴻臚館_一、時其使有_レ請_ニ望_一菅江之門、其上表云、辨韓信使私致_ニ書_一日本大學寮曹司、蓋聞弊國使价王仁持_ニ論語_一來_ニ于貴國_一、仕_ニ應神天皇_一爲_ニ博士_一、蓋以_レ世而記_レ之當_ニ于西晉之初_一、其所_ニ齋獻_一其論語白文而已乎、魯歟齊歟抑古歟、漢儒訓說乎、何氏集解乎、行_ニ于今世_一者文字有_ニ小異_一、故願_レ見焉、曹司爲_ニ貴國儒宗_一、想須_ニ傳受_一之有_レ在、請其示論、月日辨韓信使某、致_ニ書_一日本國大學國子監曹司、傳聞_ニ此論

語不_レ傳、況徐福持來シ尙書ハ猶以_ノコト也、神皇正統記ニモ應神帝ノ世ニ渡シ書ダモ不_レ見、聖武帝世ニ吉備公入唐シテ傳ヘタル本而已流布スト、云云、千字文ハ今ニ流布セリ、梁ノ周興嗣ガ所_ニ韻也_一、汪四如ト云者、其文字ヲ五體ニシテ爲_ニ五體千字文_一、其後又有萬字文之作、近世清人百體千字文ヲ作リ、卷首ニ韃靼ノ國字ヲ載ス、其字體梵字ニ類ス、仁之先出_レ自_ニ漢高帝_一、高帝之後曰_レ鸞、鸞之後王狗轉至_ニ百濟王仁_一、卽狗孫也、

仁ハ王仁也、先ハ祖先也、是王仁ノ系譜ヲ明セリ、本邦ノ古儒多以_ニ王仁_一爲_レ祖人アリ、此王仁ノ祖先ヲ說シハ、東西文部ノ上奏ヨリ沙汰スル事也、續日本紀延暦十年四月、件文部等家衰廢ヲ歎ジテ上奏、文忌寸元有_ニ一家_一、東文稱_レ直、西文稱_レ首、左右京ニ住シテ大和河内ナレバ東西ト點セリ、彼上奏ノ時本系ヲ尋給フニ、奏シテ云、漢ノ高帝ノ後ヲ曰_レ鸞、鸞ノ後王狗至_ニ百濟_一、久素王時聖朝遣_レ使徵_ニ召_一文人、久素王卽王狗之孫王仁ヲ遣ス、仁則僕等ガ祖也ト、此上奏ノ文部等ハ、左大史正六位文忌寸最弟、播磨少目正八位上武生連眞象等也、同紀左中辨

正五位上兼木工頭百濟王仁貞、治部少輔從五位下百濟王元信、中衛少將從五位下百濟王忠信、圖書頭從五位上兼東宮學士左兵衛佐伊豫守津連眞道等ガ上表中ニ云、應神天皇命ニ上毛野遠祖荒田別、遣百濟、有職者、搜聘セシム、國主貴須王恭テ承命宗族、擇採、其孫辰孫王一名智宗王ヲ以使ニ添テ令ニ入朝、天皇嘉レ之、特ニ寵命ヲ加ヘテ太子ノ師トス、於是始テ書籍ヲ傳ヘ儒風ヲ發クト云リ、辰孫王ト云モ王仁ノ別稱乎、又一說ニ王仁ノ事ハ蓮心院ノ聞書、又ハ佐佐木高秀古今序抄ニモ、漢高祖八代末葉也ト見ユ、姓氏錄ニモ王仁漢高祖後鸞王ヨリ出、文忌寸武生宿禰櫻野首栗栖首古志連皆王仁裔ト也、然ドモ三國史記又東國通鑑等ニ王仁ノ事不見、韓儒モ其傳ヲ不得考ト也、按ズルニ辰孫王非ニ王辰爾、辰爾ハ王仁ノ仲子也、

應神天皇太子菟道稚郎子師レ之、習ニ諸典籍、莫レ不通達、此漢音之濫觴也、

此段太子師レ仁通達ノ事ハ應神紀ノ文也、西峯老人曰、百濟王仁來大關ニ儒風、仁其先漢人也、崔豹古今註所謂千乘王仁者耶、和泉國百舌鳥野北陵、反正天皇陵也

陵東池上池名、橘井池、號ニ凡人中家、泉性出、姓氏錄其地有ニ王仁

祠、應神天皇皇子菟道稚郎子、嘗師レ仁學、其後受禪

讓ニ於兄大鷦鷯尊、兄弟有ニ夷齊之行、皇子薨尊悲哀

不レ已、仁乃獻ニ和歌、方勸ニ卽位、於是尊卽位、此我

朝美談也、必仁之教導所レ使乎ト、一說ニ云、河內國

交野郡津田ノ新田ニ王仁ノ墓アリ、泉州ニモ亦祠

アリ、境ノ東蓼ガ池ノ道ニモ亦祠アリト、然ドモ

其終レル年月未レ詳、按ズルニ稚郎子ハ應神帝第二

ノ御子ニシテ、仁德天皇ノ弟也、初帝稚郎子ノ才德

備ルヲヤ愛シ給ヒケン、周ノ大王不レ讓ニ秦伯、以

禪ニ季歷、玉フ蹤ヲ學ビ給リ、故ニ帝崩ジ玉フ後、

還テ孤竹ノ君ノ二子相讓ノ操ヲ懷キ給ヒ、兄仁德

帝ニ禪テ、菟道ニ退キ給ヌ、仁德帝モ亦受ズシテ

奉ニ願命ニジテ固辭シ、難波ニ遁レ給ヒシ故、國民ノ

貢物三載ノ間ハ不レ知レ所厝、是故ニ本紀曰、時有ニ

海人、賣鮮魚之菰苴、獻ニ于菟道宮ニ也、太子令ニ海

人、曰、我非ニ天皇、乃返レ之令ニ進ニ難波、大鷦鷯尊亦

返以令ニ獻ニ菟道、於是海人之菰苴饌ニ於往還、更返

レ之取ニ佗鮮魚、而獻焉、讓如ニ前日、鮮魚亦饌、海人

苦ニ於屢還、乃棄ニ鮮魚ニ而哭、故諺曰、有海人耶因ニ

己物ニ以泣其是緣也、云云、而稚郎子知兄王之志終不可奪、久生テ煩天下乎ト宣テ自薨給ヌ、是偏ニ御德學ノ至誠乎、此時也王仁天運曆數難波王ニ及事ヲ曉リ、爲倭歌ニテ奉諷論難波王、終ニ請テ奉レ即位其歌「難波津爾、咲耶此花、冬籠、今乎春部止、開哉此花、」ト此詠本紀ニハ不見、雖然古來語繼テ記錄ニ筆シ、殊ニ紀氏以ニ此歌ニ爲ニ歌父、采女御ガ葛城ノ王ノ憤ヲ和シ、以ニ淺香山歌ニ爲ニ歌母、二首一雙トシテ其世貴賤老少口實トシ、且手習者ノ手本トセシ由、古今集等ノ歌書ニ見ヘタリ、濫觴トハ泯江入レ楚、成ニ無庭、其源水可濫觴ト家語ニアリ、故ニ事始ヲ謂ニ濫觴ニ耳、

桓武天皇延暦十一年令ニ諸生習漢音、十七年定ニ讀書音韻、勿レ用ニ吳音、

桓武帝ハ五十代ノ天子ニテ、光仁帝第一ノ御子也、號ニ山部親王、母高野夫人ト云、高野乙繼娘也、天皇始仕稱德帝、任ニ從五位下大學頭、光仁帝即位ノ後四位ノ侍從トナリ、任ニ中務卿給ヒ、寶龜四年立太子、大應元年即位シ給ヘリ、延暦中ノ漢音ノ沙汰ハ則、延暦十七年格太政官宣曰、諸讀書出身等令

レ讀ニ漢音、勿レ用ニ吳音ト、此時ヨリ音韻ノ事委ク成レリ、音韻トハ四聲也、有レ文云「音叶レ之云韻、事物紀原ニ筆談曰、音韻之學自ニ沉約爲ニ四聲、及ニ天竺梵學入ニ中國、其學漸密也ト、猶歷代讀書音韻等ノ委シク成シ事末章ニ記ス、

初應神天皇遣ニ阿知使主都加使主於吳、仁德天皇雄略天皇時、吳國貢獻、吳音之譯ニ於吾人ニ亦尙矣、

應神天皇紀曰、二十年秋九月倭漢直祖阿知使主、其子都加使主竝率己之黨類十七縣ニ而來歸焉、古語拾遺曰、漢直祖阿知使主率十七縣民ニ而來朝焉、三代實錄曰、後漢孝靈皇帝四代孫阿知使主、云云、本朝漢姓出自ニ阿知使主也、是ヲ以觀レ之レバ、伴ノ兩使主ハ父子ニシテ、百濟人歟、此御宇百濟人已ガ縣邑ノ人ヲ率テ歸化セシ類多シ、按ズルニ阿知都加トハ其處名ニヤ、使主ハ此ノ尸姓也、又曰、三十七年春二月戊午朔、遣ニ阿知使主都加使主於吳、令レ求ニ縫工女、爰阿知使主等、渡ニ高麗國、欲ニ達ニ子吳、則至ニ高麗、更不レ知ニ道路、乞ニ知ニ道者高麗、高麗王乃副ニ久禮波久禮志二人、爲ニ導者、由レ是得レ通レ吳、吳王於レ是與ニ工女兄媛弟媛吳織穴織四婦女、

又曰、四十一年春二月甲午朔戊申、天皇崩于明宮、
時年一百二十歲也是月阿知使主等、自_レ吳至筑紫、時、胸形太
神乞_ニ工女等、故以_ニ兄媛_一奉_ニ胸形太神_一、是則今在
筑紫國、御使君之祖也、既而率_ニ其三婦_一、以至_ニ津國_一、
及_ニ武庫_一、而天皇崩之_レ不及、即獻_ニ于大鷦鷯尊_一、是
女人等後今吳衣縫蚊屋衣縫是也、是則本邦衣服ヲ
吳服ト稱スル緣也、然ドモ織紵悉異邦ヨリ習傳
ルニハ非ズ、神代ニ天照太神又ハ稚日尊靈、木華開
耶姬、天棚機姬ノ機織事、又ハ栲機姬ノ名アリ、然
シテ倭文綾、明霞錦、麒麟錦等ノ事ハ、異朝ニモ聞
ベキ、又仁德紀五十八年冬十月、吳國高麗國竝朝貢
ストアリ、又雄略紀曰、八年春二月遣_ニ身狹村主
青檜隈民使博德_一、使_ニ於吳國_一、自_ニ天皇卽位_一、至_ニ于是
歲_一、新羅背誼苞苴不_レ入於_ニ今八年_一、又曰、十四年春
正月丙寅、身狹村主青等共_ニ吳國使_一、將_ニ吳所獻手
末才伎、漢織吳織及衣縫兄媛弟媛等_一、泊_ニ於住吉津_一、
是月爲_ニ吳客道_一、通_ニ磯齒津路_一、名_ニ吳坂_一、三月命_ニ臣
連_一迎_ニ吳使_一、即安_ニ置吳人於檜隈野_一、因名_ニ吳原_一、以_ニ
衣縫兄媛_一奉_ニ大三輪神_一、以_ニ弟媛_一爲_ニ漢衣縫部_一也、
漢織吳織衣縫、是飛鳥衣縫伊勢衣織之先也、是皆此

段ニ所_レ援ノ証文也、吳音之譯_ニ於舌人_一尙矣トハ、
舌人ハ通事也、文選東都賦重_ニ舌之人_一九譯、令_ニ稽首
而來王_一、註善曰、國語曰、夫戎狄坐_ニ諸門外_一而使_ニ舌
人體委與_レ之、韋昭曰、舌人能達_ニ異方之志_一、象胥之
官也、譯ハ方言ヲ翻譯スルノ謂也、古ハ諸ノ國司ノ
中ニ邊要ニ宰タル任ニハ、舌人ヲ率ヒタルニヤ、舊
事紀國造本紀ニ曰_ニ佐ニ作_レリ_一、曰大隅國造、纏向日
代朝御世治、平隼人同祖初小、仁德帝代者伏布爲_ニ
曰佐_一、賜_ニ國造_一、又曰、薩摩國造纏向日代朝、伐_ニ薩摩
隼人等_一、鎮_ニ之_一、仁德朝代、曰佐改爲_ニ直_一、纏向日代朝
ハ景行天皇也、舊事紀頭書曰、姓氏錄云、大角隼人
出_ニ自_ニ火闌降命_一、景行紀云、十三年悉平_ニ襲國_一、按初
小襲也、襲國大隅噲噲郡乎、續日本紀云、隼人噲噲
君多理志佐、姓氏錄云、曰佐譯氏也、續日本紀云、諸
蕃異_ニ域風俗不_レ同_一、若無_ニ譯語_一、難_ニ通_レ事_一、按古者
入_ニ諸蕃_一而作_ニ譯語_一、以宣_ニ詔者則爲_ニ其長_一乎、故
譯、長、竝訓_ニ曰佐_一、又續日本紀云、唱更國注今薩摩
國也、唱更亦與_ニ譯同意_一、云云、一義ニ曰佐ハ通事シ
テ、互ノ言語ヲ助_ニルノ意_一、程子曰、人音聲不_レ有_ニ異
同_一、人生處依_ニ異東方之音_一在_ニ齒舌_一、南方之音在_ニ唇

舌、西方之音在「嚶舌」、北方之音在「喉舌」、禮王制曰、
 五方之民言語不通、故置官譯通、是達其志、通
 嗜欲謂、又譯誦ノ事東方曰「寄」、南方曰「象」、西方曰「
 狄鞮」、北方曰「譯」、云云、譯者釋也、猶言「謄」也、以
 彼此言語相謄釋而通之、通譯至於九變而始達
 中國云云、瑯琊代醉曰、譯語東方曰「寄」、言傳記
 内外言語、南方曰「象」、言放象内外之言、西方曰「狄
 鞮」、鞮知通傳夷狄之語、北方曰「譯」、譯陳也、陳說
 内外之言、按ズルニ吾大八州ノ中ト云ヘドモ、四邊
 ノ民風土ニ依リ言語今尙不通多シ、況ヤ古ヲ乎、
 然自欽明天皇朝佛法入ニ後、

欽明天皇ハ第三十代ノ天子ニテ、繼體ノ御子、母ヲ
 手白香皇后ト申キ、仁賢帝ノ御女也、繼體帝即位以
 後ノ后也、故ニ安閑宣化ノ二帝トハ別腹也、宣化帝
 崩ジ玉ヒテ、欽明帝即位シ給ヒ、都ヲ大和ノ磯城
 嶋ニ遷シ、金刺ノ宮ニ坐セリ、本紀曰、十三年冬十
 月、百濟國聖明王聖名遣リ西部姬氏達卒怒喇斯致契
 等、獻釋迦佛金銅像一軀、幡蓋若干經論若干卷、別
 表讚流通禮拜功德云、是法於諸法中、最爲殊勝、
 難解難入、周公孔子尙不能知、此法能生無量

無邊福德果報、乃至成辨無上菩提、譬如人懷隨
 意寶、逐所須用盡依情、此妙法寶亦復然、祈願
 依情無所乏、且夫遠自天竺、爰洎三韓、依教
 奉持無不尊敬、由是百濟王臣明謹遣陪臣怒斯
 致、奉傳帝國一流、通畿内、果佛所說吾法東流、
 云云、按ズルニ此時ノ使价ノ名ハ西部ハ處ノ名、姬
 氏ハ其姓、達率ハ其官、怒喇斯致契ハ正使副使ト見
 ヘタリ、此時天皇甚歡感アリテ、既ニ可被用之
 ニ定ルト云ヘドモ、廷臣ノ衆議ヲ試ミ給ニ、蘇我稻
 目一人奉肯、物部大連尾輿、中臣連鎌子等不從
 ノ命、諫諍曰、我國家之王天下者、恒以天地社
 稷百八十神、春夏秋冬祭拜爲事、方今改拜蕃神、
 恐致國神怒、天皇曰、宜付情願人稻目宿禰、令
 禮拜大臣跪受而忻悅、安ユ置小墾田家、懃脩ユ出世
 業爲因、淨ユ捨向原家爲寺、於後國行疫氣、民
 致天殘、久而愈多不能治療、物部大連尾輿、中臣
 連鎌子同奏曰、昔日不須臣計致斯疫死、今不
 遠而復必當有慶、宜早投棄懇求後福、天皇曰、
 依奏有司乃以佛像一流、棄難波堀江、復縱火於伽
 藍、燒燼、更無餘、云云、其後モ守屋勝海等諫奉ト

云ヘドモ不_レ聽、卒ニ墮_ニ其身於非命、神道ノ陵夷風俗ノ衰廢、實ニ此時ニ起_レリ、可_レ痛哉、

百濟尼法明來_ニ于對馬島、吳音誦_ニ維摩_ニ謂_ニ吳音_ニ爲_ニ對馬讀_ニ者是也、彼詞如_ニ支遁_ニ終遇_ニ于內大臣鎌足_ニ由_レ是欲_ニ佛書之吳語_ニ也、故亦讀_ニ儒書_ニ者、禁_ニ吳音_ニ須_ニ漢音_ニ正_レ始也、

一記云、吳音ハ荆蠻ノ詞ナレバ乖舛多シ、日本效焉、故ニ吳音ニハ、四聲共ニ混雜ノ誤アリ、異國ニモ吳漢等ノ音五品雜ル事ヲ憂ヘテ、梁ノ沉約始テ漢吳兩音ヲ分ツト也、清家ノ說ニハ日本吳ニ近シ、故ニ用_ニ吳音_ニ多シト、唯百濟ノ尼法明齊明天皇ノ時來朝ヨリ吳音盛也、儒書ヲ讀_ニ禁_ニ吳音_ニハ、桓武帝以來也云、按ズルニ法明來朝ノ事、日本紀ニハ不見、水鏡齊明天皇紀、百濟ヨリ法明尼來テ維摩經ヲヨンデ、鎌足ノ病惱ヲ祈リシ事アリ、翌年山階寺ヲ建テ、維摩會ヲ被_レ始トアリ、山科寺後ハ淡海公南都ニ被_レ移、今興福寺是也、彼尼初對馬島ニ來テ彼經ヲ誦シ、故ニ吳音ヲ對馬讀ト云事、出_ニ維摩會緣起_ニ元亨釋書曰、法明百濟人也、齊明二年內臣鎌子連、寢_レ病百方下_レ嗟、明奏曰、維摩詰經、因_レ問_レ病

說_ニ大法_ニ、試爲_ニ鎌子連_ニ讀_レ之、帝詔讀_レ之未_レ終_レ卷病即愈、王臣大悅、云云、贊曰、東晉有_ニ尼道馨_ニ、說_ニ維摩經_ニ、聽者如_レ市、然者尼之有_ニ講者_ニ、尙而明一讀未_レ畢、沉痾早差、爲_レ効豈不_レ愈哉、爾後淡海公於_ニ植槐場_ニ創_ニ維摩會_ニ移_ニ興福寺_ニ、于_レ今轉盛豈明之烈乎、彼詞如_ニ支遁_ニトハ、杜詩ニ、題_ニ已上人茅齋_ニ曰、已公茅屋下、可_ニ以賦_ニ新詩_ニ、枕簟入_ニ林僻_ニ、茶瓜留_レ客遲、江蓮搖_ニ白羽_ニ、天棘蔓_ニ青絲_ニ、空忝_ニ許詢輩_ニ、難_レ酬_ニ支遁詞_ニ、分類曰、支遁晉僧、字道林、講_ニ維摩經_ニ、許詢常設_ニ問難_ニ、遁不_レ能_ニ復通_ニ、公蓋言我空忝_ニ許詢之流_ニ、而難_レ酬_ニ對支遁_ニ、所_ニ以美_ニ已上人_ニ也、又梁高僧傳云、晉支遁字道林、本姓關氏、陳留人、幼有_ニ神理_ニ、聰明秀徹、年二十五出家、每_ニ初講肄_ニ普標_ニ宗會_ニ、而章句或有_レ所遺_ニ、云云、至_ニ晉哀帝即_レ位、頻遣_ニ兩使_ニ徵請出_レ都、止_ニ東安寺_ニ、講_ニ道行般若_ニ、白黑欽崇、朝野悅服、云云、大臣鎌足ハ天智天皇御宇所_ニ渥遇_ニ、及_レ易_ニ寶帝就_ニ其亭_ニ見_レ之、甚哀憫シ給、又以_ニ皇太弟天武帝_ニ贈_ニ鎌足內大臣_ニ、授_ニ大織冠_ニ、賜_ニ藤原姓_ニ、歲五十六、或五十トモ云リ、生涯國功ノ薄キヲ省テ、薄葬ノ願命アリ、當世以爲_ニ美談_ニ、一說

云、鎌足始葬_ニ攝州阿威山、白鳳七年和州談峯改葬、延喜十四年建_レ祠、延長四年勅號_ニ談山權現、由_レ是欲_ニ佛書之吳音_一也、故亦讀_ニ儒書_一者禁_ニ吳音_一、須_ニ漢音_一正_レ始也トハ、漢音既_ニ應神帝ノ時、菟道稚郎子師_ニ王仁_一是始也、故_ニ今正_ニ其始_一ト云也、佛書ハ吳音_ニ儒書ハ漢音_一トノ定ハ、桓武帝ノ勅_ニ定ル_一、事前_ニ見ユ、今世人此兩音ノ定ハ、皆厩戸皇子_ニ起ルト謂ヘルハ誤ナリ、

大内大學寮有_ニ音博士二人_一、掌_レ教_レ音、明經生必先就_ニ音博士_一、讀_ニ五經音_一、然後講_レ義、

從_レ是國朝音儒ノ事ヲ云、大内ハ大内裏、昔宮城ノ經營未_ニ全備_一、九重ノ大内裏廢_レテハ、或里内裏アリ、凡九重ノ帝都ノ制桓武帝ヨリ創ルナレバ、大内全備モ此御宇ニヤ、三善清行意見_ニ仁明帝ノ代、華奢_ニ過サセ給フ趣アリ_一、大内裏全備ノ制、其圖見_ニ拾芥抄_一、大内裏咸陽宮一殿ヲ摸スト云事、見_ニ太平記_一大内裏造營章、參考曰、西源院本云、咸陽宮ノ一殿ヲ摸シテ、桓武天皇延曆十二年正月事始アリテ、嵯峨天皇大同四年十一月遷幸アリシ事ナレバト云云、註按_ニ日本紀略_一、延曆十二年正月遣_ニ大納言藤原

小黒麿左大辨紀古佐美等、相_ニ山背國葛野郡宇太村之地_一、爲_レ遷_レ都也、十三年十月車駕遷_ニ于新京_一、云云、據_レ是則此云_ニ大同四年遷幸_一非也、又按_ニ日本紀略_一云、大同四年十一月、遣_ニ右兵衛督藤原仲成等_一、造_ニ平城宮_一、云云、是茲歲平城帝讓_レ位而爲_レ遷_ニ幸南都_一、再修_ニ平城宮_一也、西源院本、誤爲_ニ大内裏之事_一者明矣、予謂大學寮ト云事モ、官制全備ノ一寮ナレバ、今此ニモ大内大學寮トハ書也、且學校モ王官ニ於テハ大學寮ト云ヒ、諸州ニシテハ國學又庠序ノ稱アリ、詳_ニ後ニ見ユ_一、音博士二人トハ、四道博士ノ外ニ、文章博士、音博士等アリ、四道トハ、紀傳、明經、明法、算道也、紀傳博士ハ國史傳記ノ類ヲ掌リ、明經ハ聖經賢傳ノ類ヲ事トシ、明法ハ法曹家トモ稱シテ、律令格式等ノ刑政ノ書ノ事ヲ沙汰シ、算道ハ曆算、或天下租稅ノ算數ヲ掌レリ、文章博士ハ著述ノ類ヲ事トス、抄音博士二人アリテ、相當ハ從七位上也、經書ノ訓點ヲ改、平上去入ノ四聲ヲ正シ、漢吳ノ二音ヲ辨ヘテ白讀ヲ教ル事ヲ掌ル、故ニ明經道ノ末末ノ儒者、六位ノ時多クハ任_レ之、地下六位ノ外記等モ任官ノ例也、唐名ハ音儒ト稱ス、明

經生必先就ニ音博士ニ讀ニ五經、然後講ニ義トハ此謂也、明經生トハ明經道ノ學生ノ事也、先正ニ音韻一極ニ白讀ニテ然後講ニ義ノ次序ハ、學者自然ノ階級ヲ云ノミニ非ズ、學令又ハ大學寮式等ノ制格也、本邦ノ勸學其盛事可レ見、

持統天皇賜ニ音博士大唐續守言薩弘恪銀及水田、

持統天皇ハ女帝也、天智帝ノ御女ニシテ、天武天皇ノ后也、壬申ノ亂ニ天武帝ニ從テ、伊勢國迄赴給ヒ、桑名ニ坐シテ亂治テ後大和ノ都ニ歸給フ、軍中ニモ卽位ノ後モ、天武帝ヲ輔給テ、政ニ預リ給フ事多シ、天武帝崩ジテ後、持統天皇政ヲ聞召リ、本紀云、賜ニ大學博士上村主百濟大稅一千束、以勸ニ其學業ニ也、又云、賜ニ音博士大唐續守言薩弘恪書博士百濟末士善信銀人二十兩、又云、賜ニ音博士續守言薩弘恪水田人四町、又云、賜ニ大學博士勸廣貳上村主百濟食封三千戶、以優ニ儒道、云云、續守言薩弘恪ハ共ニ唐人ニヤ、又勸廣貳ハ本邦ノ古爵也、此御宇モ專ラ儒術ヲ好ミ給リ、別腹ノ御子ニ大津皇子アリ、尤博文達識ニ坐シテ大友皇子ト共ニ本邦詩賦ノ祖ナリ、

仁明天皇、能練ニ漢音ニ辨ニ其清濁、朝野宿禰鹿取知ニ漢音、

仁明天皇ハ、嵯峨帝第二ノ御子也、御諱正良、母號ニ檀林皇后橘嘉智子、左大臣諸兄公ノ裔清友ノ娘也、淳和帝ノ時立太子、天長十年二月受禪三月ニ卽位シ給ヘリ、此御宇ハ文學ノ盛隆也、御母后ハ尤閨秀ニ坐シテ、學校創立ノ舉アリ、此時嵯峨天皇ヲ前太上皇ト申シ、淳和帝ヲ後太上皇ト申ス、廷臣藤原緒嗣清原夏野、左右大臣トシテ、共ニ博識鴻才也、此外橘氏公文屋秋津藤原常嗣小野篁等アリテ、遣唐使ノ事アリ、藤原清河阿部仲麻呂等ニ贈位アリ、橘逸勢直道廣公アリ、是唯帝ノ學業ヲ事トシ給フ薰陶也、其漢音ニ練シ四聲清濁ヲ辨ヘ給事ハ、著述巧ニ坐ス故也、事ハ續日本後紀ニ詳也、御歲十七ニシテ閑庭ノ雨雪ニ題シ給フ、御製載テ在ニ經國集、惜哉玉音不ニ多流、朝野鹿取知ニ漢音ノ事モ見ニ續日本後紀、本朝儒宗傳云、朝野鹿取、葛木襲津彥之裔也、祖出ニ武内、鹿取父曰ニ忍海鷹取、桓武帝延暦十年、忍海魚養賜ニ氏朝野、鹿取通ニ漢音、桓武朝爲ニ遣唐錄事、仁明朝爲ニ侍讀ニ至ニ從三位、承和十年卒、歲

七十、按ズルニ鹿取ガ遣唐錄事ノ時、大使ハ藤原葛野麿、副使ハ石川道益、判官ハ菅原清公也、

善道朝臣眞貞、以三傳三禮爲業、兼能談論、但舊來不學漢音、不辨字之四聲、至於教授、總用世俗蹠駁之音、斯人而有此不能也、爲遺憾耳、

眞貞ノ三傳三禮、且談論ノ事モ續日本後紀ニアリ、儒宗傳云、善道善淵共火明命裔也、火明出事代主命、眞貞之父曰伊豫部連家守、眞貞仁明朝爲東宮學士、通公羊傳、承和十二年卒、歲七十八、又云、伊豫部馬飼學士也、按ズルニ火明出事代主命ノ文、疑ラクハ誤也、三傳三禮ノ事、三傳ハ春秋左氏・公羊・穀梁傳也、後加胡氏傳爲四傳、三禮ハ周禮・儀禮・禮記也、爲業者、眞貞ハ是明法家歟、仁明帝ノ朝ニ立テ、然モ東宮學士也、帝已ニ練漢音辨清濁、此時此事ニ疏謬ナル者、尤可怪也、至其教授總用世俗蹠駁之音ハ、四聲ハ平上去入是也、蹠駁二字共ニ訓ニ末茲和流、蹠ハ說文色難不同也、駁ハ馬色不純也、唯是不分四聲ノ謂耳、文選魏都賦、非醇粹之方壯、謀蹠駁於王義、又新撰姓氏錄序ニ、臣等歷探古記、博觀舊史、文駁辭蹠音訓組難、

云云、斯人而有此不能トハ、惜其才ニ遺憾ニ其蹠駁也、論語雍也篇、伯牛有疾、子問之、自牖執其手曰、亡之命矣、夫斯人也而有斯疾也、斯人也而有斯疾也、トアリ蓋祖此語爾、

本朝學源浪華鈔二終

本朝學源浪華鈔三

倭訓者自王仁始、定王辰爾也、

是ヨリ第二章也、和訓者漢字ニ對スル名也、神代文字ノ事、齋部ト部ノ書ニ見ヘテ、龜トニ始マル本致アリ、今遺字僅ニ殘レリ、往年久我東愚公ノ手書ヲ相傳ス、此外三百六十五字已上ノ說諸抄ニ見ユ、漢字以來件ノ古字不レ行、故世人半信半疑ス、釋紀有レ說悉不レ記、古來ノ諸抄漢字ニ和訓ヲ附テ、譯誦シタル始ヲ厩戸皇子ニ起ルト云、菅家ニ始ルト謂ル者ハ末也、又繼體帝ノ御宇秦ノ徐福尙書ヲ持來ヨリ、倭學ハ祖ニ徐福ニ由、異國ノ書ニ筆セシハ、妄而尙書ノ事ハ實也、豈此時ヲ始ト言シ乎、其世已ニ齋來ラバ徐福自訓誥譯誦ヲ弘メシモ不レ可レ知、サレドモ代遠運移テ此事慥ナル徵記ナシ、應神帝ノ朝、王仁和語ニ通ジ、和訓ヲ漢字ニ叶ヘシ事明白也、王仁王辰爾ハ父子也、投化ノ諸儒多キ中ニ、勳功久ク譯誦モ此二子ヨリ弘リヌレバ、始ニ王仁一定ニ王辰爾トハ云也、此二子和訓ノ大祖タル明證ハ懷風藻

序曰、桓原建レ邦之時、天造草創人文未レ作、至於神后征レ坎品帝乘レ乾、百濟入朝啓ニ龍編於馬廐、高麗上表圖ニ鳥冊於烏文、王仁始導ニ蒙於輕嶋、辰爾終敷ニ教於譯田、遂使下俗漸ニ洙泗之風、人趨ニ齊魯之學、逮ニ乎聖德太子、設レ爵分レ官、肇制ニ禮義、然而尊崇ニ釋教、未レ遑ニ篇章、云云、桓原建レ邦之時トハ、神武帝東征シテ畝傍山ノ桓原ニ都シ給フ事也、天造ハ同ニ大造ニ草創ハ經營也、神后ハ神功皇后也、征レ坎トハ征レ韓也、品帝ハ品多天皇應神帝也、乘レ乾ハ乾ノ九五ノ位ニ乘ジ給フ也、百濟入朝啓ニ龍編於馬廐トハ、初應神帝御宇十五年秋八月、百濟王遣ニ阿知岐ニ貢ニ良馬二疋、即養ニ於輕坂上厩、以ニ阿知岐ニ令ニ掌飼、故號ニ其養馬處ニ曰ニ厩坂也、阿知岐亦能讀ニ經典、即太子菟道稚郎子師焉トアレバ、龍編ハ圖籍ノ謂而、良馬ト典籍ノ事ヲ影路シ、啓ニ馬廐トハ良馬ヲ厩坂ニ掌リナガラ、太子ノ師ト成シ事ヲ約シテ書リ、高麗上表圖ニ鳥冊於烏文トハ、敏達天皇ノ朝ニ高麗ヨリ上ル表疏ヲ鳥羽ニ書タルヲ王辰爾蒙レ命以ニ鳥羽ニ蒸ニ飯氣、摸ニ寫絹帛、明レ之ノコトヲ云、導ニ蒙於輕嶋トハ、蒙ハ童蒙也、指ニ稚郎

子輕嶋ハ、應神帝大和ノ宮都也、敷ニ教於譯田トハ譯田本紀ニハ作^ヲ譯語田^ヲ則敏達帝ノ都也、遂使^ト俗漸^ニ洙泗^ノ之風^一人趨^ニ齊魯^ノ之學^ト云ヘバ、則吾邦ノ儒學此二子ヨリ教ヘ弘ムル事分明也、王仁ノ後王辰爾、彌其勤厚キ謂ハ遂ノ字ニ著シ、扱厩戸皇子ノ儒學ハ覺智ニ承トアレドモ、只其書ヲ讀習タルバカリニテ、佛乘ヲノミ勤メ、聖學ニ於テハ學ビ得ラレザル事明矣、然則聖經ノ訓點已下厩戸ニ起ルト云ハ、國史ニ旨說也、其後ハ淡海ノ先帝ヨリ國學ト云事モ始メ給ヘル趣、是亦懷風藻ノ序ニ詳ニ記セリ、又菅家ノ訓點ハ實也、今ノ世ニ行フ、文選白氏文集等モ、舊菅家ヨリ訓點流傳スト也、其外ノ述作家乘後世ニ有^レ功事ハ不^レ可^ニ遂^ト記^一也、倭訓有^レ二、本訓也、末訓也、轉^ニ和語^一爲^ニ漢字^一、謂^ニ之本訓、譯^ニ漢字^一爲^ニ和語^一、謂^ニ之末訓、

此一段神代纂疏ニ本ヅキテ書ケリ、猶本末二訓ノ事書末ニ詳述^レ之、其訓類譯例一二事ヲ舉ルニ本訓ハ和語ニ云云ノ事ハ、漢字當^ニ某字^一ト云事ヲ比ベテ、和語ト漢字ト義理相合タルヲ取テ、物ノ名ニ定タル故ニ、本訓トハ云也、譬バ此ニ阿女突智ト

云語、漢ノ天地二字ニ符合ス、是搭^ニ著其字^一シテ用ヒタルヲ轉^ニ和語^一爲^ニ漢字^一トハ云也、畢竟萬物一名ノ和語ニ一名ノ漢字ヲ用ル是也、天地日月草木土石鳥獸男女等ノ類是也、アメツチ・ヒツキ・クサ・キツチ・イシ・トリ・ケモノ・ヲトコランナ、ト云ヘバ、和語ノミニシテ足レリ、是ニ漢字ヲ著テ用ル故ニ、上件ノ數字皆本訓ト云也、末訓トハ和語アリテ符合ノ漢字迂遠ナル時、漢字ノ一字一音ヲ假テ假名書ニスル類也、故ニ譯^ニ漢字^一爲^ニ和語^一トハ云也、譯ハ翻譯ノ謂也、神代卷ニ瑞此云^ニ彌圖^一、研哉此云^ニ阿那而惠夜^一ノ類也、此ト云詞則譯也、又火神ヲカグツチ、木ノ神ヲクバノナト云、サレドモ無^ニ正字^一、故假^ニ迦遇突智四字^一、借^ニ句句迺智四字^一類ハ則末訓也、轉^ニ和語^一ト云モ轉^ニ易和語^一シテ爲^ニ漢字^一也、是亦神代卷ニ和語マロガレト云ヲ轉易爲^ニ渾沌二字^一、則其和語ト漢字ト意義符合セリ、クバモルト云ヲ爲^ニ溟滓二字^一モ亦同、

夫五方之民言語不^レ通、故不^レ以^ニ國語^一譯^レ之、則不^レ能^レ得^ニ其義^一矣、

五方殊音異語譯通ノ義ハ前ニ註ス、以^ニ國語^一譯^レ之

トハ、前ニ註スル研哉此云「阿那而惠夜」ノ類是也、予初深ク疑フ、我國ノ異邦ト通ズル時一時ニ其方言物事ノ難知コトヲ因テ謂リ、物皆有漸而全キ理ナレバ、異邦人投ニ化我而經ニ年所、又國人入ニ異方テ其方言ニ馴知スルコト久シク、經ニ世テ終ニ如斯全通者也ト、又閱ニ諸疏、厩戸皇子神ニシテ通ニ異方之言語、故ニ其方言ヲ知ニ事速ニ營家亦同レ之、終經傳諸子百家ニ點シテ至ニ于今ト、服ニ此說ニシテ浸其疑解ヌ、頃年讀ニ此書、俄爾不肖ノ物理ニ疎謬ナル、諸疏ノ荒涼ナル事ヲ曉ヌ、尤齊楚互入ニ其國ハ、馴知久則其國語不レ學シテ可レ知ハサル事ナレド、唯漢音ヲ知ル事速ニシテ不レ漏、和訓ノ本末轉譯ノ分曉ニ至ル事ハ、王仁王辰爾ノ二子韓人ニシテ、經籍ニ諸練シ、其國語ハ固ヨリノ生得ニシテ、我國ニ入貢勤仕有レ年テ和語和訓ノ入方、漢字符合ノ旨ヲ悟入スル事神速ナルヨリ、一時ニ兩通事足者乎、此事嘗テ國史稗說ニ於テ見レ之トイヘドモ、此理ニ心注コト遲シ、今此書ニ依テ明ニ識得タリ、實ニ西峰翁國學修鍊ノ賜也、仁德天皇之末ニ卽位一也、王仁能解ニ國俗之言語、獻ニ難

波津之歌、和訓之義自レ此起也、仁之於レ學功大哉、

此段ノ事故大概注レ前、此詞ノ意、紀氏古今集ノ序ノ祇注ノ意ヲ按ズルニ、比ニシテ正風體也、難波ニ坐ス大鷦鷯尊ヲ風諭シテ、奉レ卽ニ御位、異國人ニシテ如レ此和歌ニ達セシ事、神妙奇特非ニ筆舌所及、難波ハ神武紀曰、戊午年春二月丁酉朔丁未、皇師遂東、舳艫相接、方到ニ難波之碕、會下有奔潮ニ太急、因以名爲ニ浪速國、亦曰ニ浪華、今謂ニ難波一訛、開耶此華ハ梅也、冬籠トハ、仁德帝ノ相讓テ、彼處ニ坐ス潜龍ノ時ニ比シ、今ヲ春部トハ、運至時熟スル也、又開耶此花トハ、飛龍ノ乾乾タルベキヲ奉レ諭也、夫王者ハ、震ノ位ニ當テ見ハル、震ハ東也、春也、然レバ冬籠ハ冬也、北也、以ニ此華爲ニ木花者、異說ニシテ非也ト、明疑抄ニモ見ヘタリ、王仁ノ和訓精鍊ノ事ハ、此一首ヲ以爲ニ明證一也、履中天皇四年秋八月戊戌、始於ニ諸國一置ニ國史、記ニ言事ニ達ニ四方志一、

履中天皇ハ第十八代ノ天子ニテ、仁德天皇ノ御子母ハ磐之媛ト申キ、武內孫葛城襲津彥ノ娘也、諸州ニ國史ヲ置キ給フ事ハ、本紀ニ見ヘタリ、一記云、

履中天皇每州ニ置レ史布ニ教化ニ記ニ是非、學校庠序、權輿也、又周禮有ニ史官、掌ニ邦國四方之事、達ニ四方之志、諸侯亦各有ニ國史、大事書ニ之於策、小事簡牘而已、朱子曰、周官所謂外史台ニ四方之志、便是四方諸侯皆有レ史、諸侯若無レ史、外官何所ニ稽考ニ而爲レ史、按ズルニ履中帝ノ御宇ハ應神仁德ノ次ナレバ、儒典未レ可ニ如此興隆、然ルニ有ニ此舉ニ則我國人物ノ不レ乏、且賢王ノ政道ニ乾乾タルモノ可ニ思想、

雄略天皇置ニ史戸河上舍人部、其所ニ愛寵ニ史部身狹村主青、檜隈民使博德也、爾來稍知用ニ文字、然和訓猶有下未ニ盡洒然ニ者、

雄略天皇ハ第二十二代ノ天子ニテ、安康天皇第五ノ御子也、母ハ中菟姬也、本紀曰、卽位二年十月置ニ史部河上舍人部、天皇以レ心爲レ師誤殺レ人衆、天下誹謗言ニ大惡天皇也、唯所ニ愛寵ニ史部身狹村主青、檜隈長使博德等也、史部トハ、史官ノ輩部也、部曲二字ヲ安閑紀ニ、訓ニ字知乃屋津古、注ニ氏奴ニ紀中謂ニ藤原部、或齋部ト部祝部等ノ部字亦其意相同ジ、河上ノ舍人部トハ、其居處河上ト云所ナレバ

也、舍人ハ家臣也ト、淮南子注ニ見ヘタリ、身狹檜隈ハ大和國處名也、村主民使ハ尸姓也、青ト云博德ト云ハ二人ノ名也、一記史部ノ部字ハ部類部属アルノ古語ニシテ、紀中此例佗官佗職ニモ多シト云、未ニ盡洒然トハ不ニ明潔ニ之謂也、

敏達天皇之世、王辰爾勤學、於レ是奇妙幽玄之理、神而通レ之、

敏達天皇ハ第三十一代ノ天子ニテ、欽明帝ノ太子、母ハ石姬ト申ス、宣化帝ノ御娘也、本紀曰、十四年七月辛酉朔甲子、幸ニ樟勾宮、蘇我大臣稻目宿禰、奉レ勅遣ニ王辰爾、數ニ錄船賦、卽以ニ王辰爾ニ爲ニ船長、因賜レ姓爲ニ船史、今船連之先也、又曰、天皇執ニ高麗表疏、授ニ於大臣、召ニ集諸史、令レ讀ニ解之、是時諸史於ニ三日内ニ皆不レ能レ讀、爰有ニ船史祖王辰爾、能奉ニ讀釋、由レ是天皇與ニ大臣ニ爲讀美曰、勤乎辰爾、懿哉辰爾、汝若不レ愛ニ於學、誰能讀解、宜從レ今始近ニ侍殿中、旣而詔ニ東西諸史、曰、汝等所レ習之業何故不レ就、汝等雖レ衆不レ及ニ辰爾、又曰、高麗上表疏書ニ于鳥羽、字隨レ羽黑、旣無ニ識者、辰爾乃蒸ニ羽於飯氣、以レ帛印レ羽、悉寫ニ其字、朝廷悉異之、又曰、詔ニ

船史王辰爾弟牛、賜姓爲津史、按ズルニ後世船史津史ハ皆此裔也、船史惠尺ハ皇極天皇ノ時蘇我蝦夷ガ燒シ國記ヲ燼中ニ探得テ、獻ニ中大兄一人也、大兄ハ則天智帝也、其書ハ先代舊事本紀也ト云未審、一記云、伊豆權現ハ崇ニ王辰爾、是亦未知ニ是非、王辰爾ノ事跡、敏達紀鮮レ所見、唯懷風藻序ニ敷ニ教於譯田トイヘルヲ以思フニ、此間ノ處置推テ被量侍ル、王仁王辰爾父子ニ於テハ國學ノ宗タル事分曉也、奇妙幽玄ハ異邦人ニシテ、和語ノ幽微ヲ知コトヲホム、

蓋以萬物化生自色自形有自然之音響、

此一段ハ據ニ列子一書ルニ似タリ、列子天瑞章云、生レ物者不レ生、化レ物者不レ化、自生自化、自形自色、自智自力、自消自息、謂ニ之生化形色智力消息者非也、注皆以自然不レ知ニ其所以然、而形者色者人與レ物也、萬物ノ色萬物ノ形象音響トハ物ノ名ヲ定ルニ、其ニ就キ其物ニ附シテ、自然ニ從フ事ヲ明セリ、何者萬物ノ形色音響名義共ニ二氣五行ノ所爲ヲ不レ離者也、化生ハ自然ニ生ズルノ謂也、自色ハ物皆五行ノ氣ノ見レ所賦、是色形也、文彩也、自形ハ五

行ノ象形ヲ見スニ、東圍形、南三角、西半月、北圓形、中四角ノ說アリ、萬物此五象ヲ不レ出、五行ノ色ヲ見スニハ、青赤黃白黑ニ不レ過、有レ聲物ハ五行ノ音聲不レ外ニ宮商角徵羽、陰陽變爲ニ五行、二五精氣化ニ生萬物、聖人其聲色形象ニ就テ、其生化ヲ悟リ、自然ニ其物ヲ喚ブノ聲皆爲ニ物名、然ドモ其初物物事事皆是ヲ察シテ、一時ニ然ルニハ非ズ、一物一名ノ如キハ、皆自然ニ物ノ氣ト所レ呼ノ音響ト相應ジテ、倣ニ其名稱ニ者也、前ニ注スル如ク、日月星辰天地人物草木蟲魚水火土石ノ類、皆然、就レ中亦倣語ノ中有ニ本訓末訓、曰火曰レ比、水曰ニ美頭、木曰レ幾ノ類ハ、自然ニシテ本訓也、或因レ日比加介、依レ火保乃保、保無良、憑レ水美奈末多、賴レ木古須惠ノ類ハ、皆末訓也、至ニ其無窮、逐一難レ辨、以レ一推レ之、則千差萬別皆有ニ元由ニテ稱呼セル事明也、神代直指抄ニ、アメ・ツチ・クニ・ツチ・メ・ヲ・ギ・ミ・ノ・チ・サキノ十六字ヲ以萬物ヲ察識スルノ極秘トシ、源親房モ我國有ニ人民以來、皆天ヲ阿摩地ヲ毘尼都智ナド云事、是自然ノ理ヨリ如レ此名目トナル、然レドモ、甚深ノ義ハ漢朝ノ說ニ勝レリト云リ、梵

ニ悉曇アリ、漢ニ音學叶韻アリ、我國モ其習俗ノ入方ナレバ、和語ヨリ探ニ元致、則識得ノ捷徑也、程子曰、凡物之名字自與ニ音義ニ氣相通、除其佗有ニ體質ニ可ニ以指論而得ニ名者ニ之外、如ニ天之所ニ以爲ニ天、天未レ名時本亦無レ名、只是蒼蒼然也、何以便有此名、蓋出ニ自然之理、音聲發於其氣、遂有此名此字、如下今之聽レ聲之精者必便知ニ人姓ニ善レト者知ニ人之姓名ニ之理由レ此、朱子曰、倉頡作レ字、此亦非ニ自撰出、自是理如此、如ニ心性等字、未レ有時如何、撰得只是有此理、自流出、此兩說ニ因テ命レ名造レ字、皆自然ノ理ナルコトヲ知ルベシ、或云、萬物定レ名始ニ黃帝、是使ニ民不レ惑ト、凡仰レ天云ニ天牟、伏レ地呼レ知ガ如キ、是人具ルニ氣自然ノ發也、萬物一名ヲ呼初タルモ亦同、一物一名ノ外ハ無數ノ事ニ因テ、無窮ノ音響ニ相應ジテ、自然ニ呼レ之耳、皆出ニ人爲之造作、而實天理之自然也、

二神出名ニ萬物、高者謂レ何、卑者謂レ何、動者謂レ何、植者謂レ何、凡人事物理莫ニ皆不レ如此、然後物名可ニ得而知レ之、

二神者、伊弉諾・伊弉冊二神也、萬物五行ノ稟受色

形ニ見ハレ、音響ニ著ハル、聖神從テ名ニ呼之、此理非ニ在レ彼而無レ此、外内顯微無レ間、故其感應ノ發聲如此、相得テ萬物ノ名備ハレリ、非情ハ無ニ音響ニシテ以ニ色形ニ示レ之、有情ハ殊ニ有ニ音聲ニテ然リ、聖神先知レ之、二神ハ萬物ノ大父母也、二神生ニ萬物ニ而萬物ノ性情精氣皆ニ二神ノ德化ヲ固有セリ、二神事物ニ悉ク心ヲ注テ名付給トハ見ヘザレドモ、其理自然ニシテ爾、是故ニ國名等モ二神ヨリ呼初給アリ、又大己貴命・少彥名命、呼初給フモアレド、其元ハ二神ヨリ發スルノ理ニ不レ過也、高卑動植者、天地・山川・草木・鳥魚ノ類ヲ指シテ云、人事亦然也、一理百當ノ神靈尤不レ可レ盡、

其雖レ有レ名、非レ書則無ニ以紀載、書契以來假紀ニ其名、固已達ニ民用、而盡ニ物情、

雖有レ名ハ一物一名ニシテ、音聲ノミニ稱呼スル名也、謂ニ之眞名、眞名者猶言ニ天真自然之名、非レ書則無ニ以紀載トハ、書ハ文字ニテ物ノ署也、故字訓謂ニ之奈ニ云ニ阿佐奈、唯是以レ字萬物ノ名ヲ記シ認ル事也、書ハ文書也、契ハ符契也、古ハ結レ繩割レ木、亦文字也、以レ是達ニ民用ニ耳、盡ニ物情トハ、已有ニ

書契^ニテ盡^ニ天地萬物鬼神^ノ之性情[、]其理炳焉タリ、故傳云、蒼頡制^レ字鬼夜哭、如^ニ國字^一ハ出^ニ神代龜ト^一、且有^ニ新名^一也、天武帝ノ十一年ニ命^ニ境部連石積等^一、更肇新字一部四十卷、或四十四卷令^レ作、釋紀ニ引^ニ私記^一テ師說、此書今在^ニ圖書寮^一、但字體頗似^ニ梵字^一、未^レ詳^ニ其字義所^一準據^ニ乎、又云、大藏省御書中有^ニ肥人之書六七枚計^一、先帝於^ニ御書所^一令^レ寫給、其字用^ニ假名^一、或^ニ其字未^レ明^一、或乃川等字明^レ見^レ之、若以^レ彼可^レ爲^レ始歟ト、肥人書薩人書モ亦和字ノ一體歟、神代文字之外新字トハ、今世粗遺^テ風島^ノ柳杜[、]杣峠[、]序[、]梶[、]雫[、]等ノ類也、又^ニ拐[、]社[、]等ノ字訓アリ^一、江談云、杣字、誠本朝作字歟如何、被^レ命云、杣字本朝山田福吉所^レ作也、杣字見^ニ日本紀^一、和名鈔杣字出據未^レ詳由也、江談ノ所^レ答ヲ以例スレバ、是亦福吉ガ所^レ作ニヤ、或云、續字彙補ニ梶[、]雫[、]ノ字出タレバ、非^ニ倭字^一又我邦書體ノ中、葦葉書ナド云事歌書ニ見ヘテ、釋行譽ガ記ニ見ヘ、又僧正行尊ノ歌ニ「夕暮ニ難波邊^ヲ見渡セバ唯薄墨ノ葦手成ケリ、」然^レドモ酉陽雜俎ニ、百體書ノ事有^テ、其中ニ葉書モ亦其一體也、亦云西域ニ、有^ニ六十四種^一、其中ニ天書龍書

ト云モ見ヘタレバ、葦葉書ノ類、又ハ神代文字天書龍書ノ古說不^レ審事也、凡無^ニ文字^一國ハ何レモ一字一音ニシテ假借ノ如ク用ユト、又云、龜トノ字モ境部石積ノ新字ノ初ニ出タル由所聞アリ、不^レ知^ニ是^一非ニ云、和名鈔序倭字ノ沙汰アリ可^ニ併考^一、既而知^ニ此云^一何者漢謂^ニ何也^一、

此ハ我也、對^ニ漢則宜^一言^ニ倭^一、又對^ニ此則當^一作^ニ彼^一、是唯影略章法爾、夫萬般交易ノ道理ハ、同國ノ中猶爾リ、況異邦乎、我國無^ニ文字^一ニ因^テ、偏假^ニ漢字^一以弘^ニ道^一ト思ヘルハ、尤無^ニ下ノコト也^一、神代文字ノ沙汰於^ニ傳有^レ之、縱十日相傳ノミ也トモ、應神帝以前ノ儀則一事モ不^レ空、見^ニ史^一テ可^レ察、本邦文字ノ元由ヲ云ヘルハ、日本紀問答云、神代字一萬五千三百七十九字有^レ之、齋部正通曰、神代文字者象形也、清原國賢曰、聖德太子以^ニ漢字^一始附^ニ神代文字^一傍、釋紀曰、漢字傳^ニ來我朝^一者應神天皇御字也、於^ニ倭字^一者其起在^ニ神代^一歟、龜ト之術[、]神代、此紀一書天神以^ニ太占^一ト^レ之、無^ニ文字^一豈可^レ成^ニト哉^一、作者ノ事濫觴可^レ在^ニ神代^一、幽玄而難測、兼俱曰、神代文字ハ墨譜ノ始リ、聲ノ上下スルニ從^テ、字モ亦上下ス

ル事アリ、灼レ龜五ニ割、上ハ火下ハ水、左ハ木右ハ金、中央ハ土、是南北東西中央ニ配レ之、此灼形ノ曲折ニ從テ、一萬餘ノ文字出來也、神代文字ノ起リ一萬五千三百七十九字、或三百六十字有レ之云、此五說ニ據レバ、神代文字ノコト、有レ傳來而不レ可レ誣也、新撰姓氏錄序曰、蓋聞天孫降襲、西化之時神世伊開、書記靡レ傳、云云、齋部廣成亦曰、上古之世未レ有ニ文字、貴賤老少口口相傳、前言往行存而不レ忘、書契以來還不レ好レ談レ古、云云、朝野群載、大江匡房宮崎宮記曰、尋ニ其本體ニ應神天皇之御靈也、我朝書ニ文字、代ニ結繩ニ之政、即創ニ於此朝、云云、此等ノ說ヲ見レバ、神代文字ノコトハ似レ無レ有、而正通以爲レ有レ之者、與ニ廣成說ニ齟齬ス、說者以謂、廣成斥ニ上古者非ニ神代、唯是謂ニ應神以前、匡房唯漢字來朝爲レ本、而立言是則應神之緣起者也ト、按ズルニ國字舊出ニ龜ト云ハ何疑乎、夫龜トノ文ハ本邦專制而異域無ニ比并ニ者也、以レ理言レ之則今現前ニ灼レ龜テ見ニ其兆、取ニ其畫象ニ不レ論古今、自然ニ從フ文ナレバ神代ノ文字也、何者不レ涉ニ人爲ニ也、是故一記云、以ニ龜トノ從、兆謂ニ文字ニ者、猶ニ龜背之文

云ニ洛書一般歟ト、閩書鴻夷志、南倭北虜皆有ニ文字、類ニ鳥跡古篆、意其初有ニ達人ニ制之耶、米元章書史、陳賢之草書帖六七紙、字亦奇逸難レ辨如ニ日本書ト、唐書ニモ日本有ニ文字ト記シ、北史ニハ無レ之ト云ヘリ、或云、此等ノ諸書ニ載タルハ、伊呂波字ノ事也、未レ知ニ是否、又按ズルニ知ニ此云レ何者漢謂ニ何也トハ、前注ニ謂ル神代卷ノ訓詁釋注反切ノ類、亦皆是也、

故國俗用ニ文字、亦有ニ眞名ニ有ニ假名、眞對ニ假實也、假對ニ眞權也、字名之意、即物名也、

國俗ハ我國習也、眞名ハ元一物一箇自然ノ和名、其於レ物呼ニ初之ニ者ハ、自ニ伊弉諾尊ニ而其理非ニ人意之作爲ニ事ハ註ニ于前、眞名ハ云ニ天眞名義、神代卷有ニ天眞名并、注者皆天眞誠實自然ノ謂トス、如レ言ニ眞名鶴ニモ衆類ノ中ニ一箇ノ眞體ナルヲ指シテ云ヘル古語也、故ニ萬物ノ一名皆是眞名也、非ニ文字、此一箇ノ眞名ニ文字ノ義理符合セルヲ假借シテ、爲レ署謂ニ之假名、又一義ニハ和名ト與ニ字義ニ符合スルヲ定ニ其物名ニヲモ稱ニ眞名字、不レ合シテ唯假ニ一字一音、連テ明ニ和名ニ謂ニ之假名字、假對

レ眞權也トハ此謂也、字名之意、卽物名也トハ是則眞名字ニシテ、名字ノ二字共ニ訓_レ奈謂也、

言天下之物本無_ニ其字_一、姑借_ニ近_レ之音字_一、以認_ニ其辭_一乃假字也、

言トハ、カフ云意ト云ノアゲ詞ナリ、天下之物本無_ニ其名_一トハ、物皆本無_ニ其名_一而各自色_{アリ}自形_{アリ}テ、自其稟性_ヲ名乗ガ如シ、以_レ故其名_ヲ呼モ非_ニ人意_一之作爲、自然ニ符合ス、故姑借_ニ近_レ之音字_一以認_ニ其辭_一トハ云也、其辭トハ無_レ字シテ呼タル眞名也、近_レ之音字トハ則眞名字ノ事也、認_ニ其辭_一ノ三字簡約而假名義理_ヲ審諦セリ、按ズルニ神代抄假有_ニ二義_一、二和名假_ニ漢字_一謂_ニ之假字_一、二以_ニ和名_一附_ニ漢字_一、明_ニ其義_一謂_ニ之假名_一、名者眞名而和名者也ト、此說亦通、

翻譯然後知_ニ其正字_一、謂_ニ之眞名_一、

是亦眞名字ノ事_ヲ注ス、眞名ト計云ヘバ和名而非_レ字、此眞名附_ニ漢字_一、謂_ニ之眞名字_一、翻譯トハ如_ニ反切_一知_ニ其正音_一、知_ニ此謂_レ何彼爲_ニ何字_一而翻譯_ニ之_一、今用是也、其事明_ニ下文_一、

如_ニ天地_一此曰_ニ阿女豆知_一、阿女豆知卽是天地假字、天

地卽阿女豆知眞字也、

此眞名字假名字ノ符合_ヲ説ク、此ハ和語_ヲ云、是字義ノ相依本致_ヲ明ス、

假字之爲_レ字、多一音而眞字二聲三聲合、

是假字ニ一字一音_ヲ假テ、和名眞名_ヲ明ス類_ヲ云ヘリ、和名ニ合正字アレバ如_ニ天地_一眞名字トシ、和名ニ符合ノ正字ナケレバ、一字一音_ヲ假名書ニ假コト、研哉此云_ニ阿那而惠夜_一類是也、二聲三聲合トハ是拗音ノ事也、拗音者一字ニシテ、天云_ニ天牟_一、二聲也、光云_ニ久和宇_一三聲合スル類也、猶末章ニ詳ナリ、

或雖_ニ一音字_一、至_ニ於用_一其義、則亦爲_ニ之眞字_一、或雖_ニ二聲三聲合之字_一、有_レ借_レ音則云_ニ假字_一、都不_レ過_ニ於以_レ義爲_ニ眞字_一、音爲_ニ假字_一而已、

是假借ノ摠論也、以_ニ義字_一明_ニ眞名之實_一、以_ニ假字_一斷_ニ假名之權_一、一音ノ字モ義理正當ナレバ、爲_ニ眞字_一、事ハ往往如_レ演、一字一名ノ眞名也、或日火_ヲ云_ニ比_一、木云_ニ幾類也_一、眞名字ニモ亦此例アリ、二聲三聲拗音字ト云ヘドモ、用_ニ假字_一レバ假名也、按ズルニ二聲三聲ノ字モ畢竟反切ニ至テハ一音ニ歸スル

謂アリ、反切ノ助紐ハ二聲ヲ合シテ、爲ニ一音ノ妙
 ニシテ、悉曇或ハ漢字ノ中ニモ自然ニ備レリ、三聲
 モキヨウハ、ケウニ同ク、シャウハ、セウニ通ジ、リ
 ヤウハ、レウニ通ズ、又二聲ノ音モ、シユハ、スニ通
 ジ、シヨハ、ソニ通ズ、此類皆約シテ一音ニ至ルヲ
 思ヘバ、和語ニモ拗音單音共ニ具レリ、其妙不可
 悉伸、二聲ノ字ヲ一音ノ假名トスルハ常也、縱、
 惠ヲ爲^エ惠、騰ヲ爲^{トウ}止ノ類也、三聲ノ字ハ、玉極凝
 ノ類ヲ爲^レ幾ノ例アリ、サレドモ二聲ノ字ヲ假ニ一
 音ハ、多ク三聲ノ字ヲ用ニ一音ハ稀也、唯以^レ義
 爲^ニ眞字ニ音ノミヲ爲^ニ假字ニ事甚の當也、

此日本書紀等史所^レ用、假字多皆是也、紀中所^レ用假
 字、其類居多、

六正史之中以^ニ日本紀^ニ爲^ニ全備、而皆則^レ之、故ニ日
 本紀等ト云、天武天皇第三子舍人親王奉^レ勅撰奏
 ス、紀中ハ日本書紀中也、紀中譯誦翻音ノ事、一章
 一句ノ下ニ記^レ之、本文ノ中ニモ亦假借多シ、故ニ
 云^ニ居多^ニ今^ニ回^ニ悉舉^ニ非^ニ唯日本紀^ニ和書大抵此例多
 シ、

又如^ニ萬葉集假字^ニ以^ニ音與^ニ義相雜書^レ之、當時假字之

體天下同^レ文、

萬葉集ハ和詩勅撰之首、而其時代撰者等異說紛紛、
 詩人家以爲^ニ巨難^ニ、古今集序云、奈良帝ノ事モ文武
 帝トシ平城帝トシ聖武帝トスルノ區區アリ、サレ
 ドモ聖武ノ朝ニ歸著也、抑奈良七代ト申スハ、元
 明・元正・聖武・孝謙・廢帝・稱德・光仁是也、拾芥抄ニ
 萬葉集廿卷、奈良天皇御宇左大臣橘諸公兄撰^レ之、
 私勸右大辨家持同撰^レ之聖武天皇勅、藤原定家抄ニ
 時代事詩仙等、多有喧嘩相論事等、又云、世繼物語
 云、萬葉集高野御時諸兄大臣奉^レ之、云云、但件集橘
 大臣薨之後、詩多書^レ之、似^ニ家持卿之所^ニ註^ニ、尤以不
 レ審、云云、今按ズルニ今ノ萬葉集ハ、源順朝臣奉
 レ命加^ニ訓點^ニト也、音與^レ義相雜トハ萬葉集ノ假名
 遣ハ一字ノ音ト義訓トヲ雜ヘタリ、義理ヲ以附タ
 ル訓也、縱バ十六ノ二字ヲ點^ニ志志^ニアリ、是算數四
 四十六ノ義ヲ取^レリ、又尙^ニ副^ニ乍^ニ來^ニノ類^ニアリ、此外
 ノ義訓ハ文義ト與^ニ和語相合^ニ易^ニ知^ニ、當時ハ萬葉
 ノ時代也、天下同^レ文ハ禁^ニ異文異字^ニ之惑^ニ人^ニ也、假
 字ノ法萬葉時代迄ハ一字一音、又ハ以^ニ義訓^ニ通用、
 是國史以來ノ流例也、後世母字片假字行^レテヨリ、

古風廢、故ニ今世謂ニ一字一音ノ假字、俗謂ニ之萬葉書者ハ此由也、國史中ノ假字後世意ヲ注者罕也、是漢字ニ馴知スル事久ケレバ也、

及吉備公、取_レ所_レ通ニ用于世ニ假字數十字、省_ニ偏旁點畫_一作_ニ片假字_一、列爲_ニ假字反切_一、其體甚簡易、謂_ニ片假字_一者其體不_ニ全具_一也、

蕉菴遺藁、從二位賀茂朝臣在貞公肖像序云、其先人王第七代孝靈天皇第三子吉備彥命也、彥命討_レ逆有_レ績、封_ニ之於備_一、降而九世之苗胤曰_ニ下道臣國勝_一、勝子曰_ニ眞吉備_一、俊才絶_レ人、以_ニ元正帝靈龜二年_一航海入_ニ唐國_一、凡於_ニ經史諸子百家之學_一無_レ所_レ不通、居二十載而回矣、聖武帝嘉褒特渥、登爲_ニ右大臣_一、孝謙帝賜_ニ姓賀茂_一、是世之所_レ謂吉備大臣也、本朝文教之盛行斯人之賜也、至_レ今使_ニ人計仰不_レ已_一、云云、續日本紀ニモ亦詳也、按ズルニ吉備眞備トモ申ス、是其先所_レ封國備州ナレバ也、文武・元明・元正・聖武・孝謙廢帝・稱徳・光仁ノ八朝ニ歷仕シ、學博才富位尊齡高名臣也、其片假名作_ル事、釋紀ニモ出タリ、一書ニ片假字ハ、爲_ニ蘇我馬子作_一者非也、所_レ通ニ用于世ニ假字數十字トハ、一字一音ノ假字遣ヒ馴タル中

ニト云コト也、則五十字ヲ云、省_ニ偏旁點畫_一トハ伊ヲ爲_レイ、呂ヲ爲_レロノ類ニシテ、唯片字書也、故ニ謂_ニ之片假字_一、列爲_ニ假字反切_一トハ今世ノ片假字五十字豎音橫立ニシテ、爲_ニ反切_一ノ法備_レリ、夫音ハ五十音ニ極_レリ、萬物ノ音聲不_レ能_レ漏_ニ乎此_一、且和語ノ中反切ノ道理自然ニ具_レリテ、人無_レ思_レ之、以_ニ一事一言_一之、則故ヲ訓_ニ加禮_一、幸_ニヲ訓_ニ智類_一也、甚簡易謂_ニ片假字_一者、其體不_ニ全具_一也トハ字體省略ス、故ニ簡易也、例_レ之古文ノ省略・小篆・八分・隸書・行草ニ至ルガ如シ、爾來中世多稱_ニ片字書_一、訓點又ハ出_ニ葉字_一トシ、膽寫ノ捷徑ニ用_ル事アリ、所_レ謂片字書亦假字ニシテ、唯吉備公ノ本制ニ摸シテ、字字皆偏旁點畫ヲ省タル者也、或ハ歌ヲ爲_レ哥、權ヲ爲_レ才、孫ヲ爲_レ子、從ヲ爲_レイ、又禾・ネ・瓜・匕・力・才・子ノ類是也、而多ハ用_ニ出葉字_一、出葉トハ文字ノ傍毎ニ施ス詞ノ助字也、假令高天原仁神留坐須等ノ如キ仁須ノ二字ヲ如_レ此用_ルヲ出葉ト稱ス、祝詞宣命詔勅・祓ノ類皆然リ、今世釋氏ニモ亦此片字書ノ隱字アリ、秘書ニ用ヒ、又ハ捷格ニ用ユト云ヘリ、又爲_ニ聲聞ニ訓_ニ緣覺_一、并唱_ニ菩薩_一類是也、一書云、出葉

ト云意ハ、冬樹無_レ葉則_レ叵_レ辨、是譬_ニ白文、秦梢抽_レ葉知_レ之、是出葉謂也、故以_ニ傍字訓點_一稱_ニ出葉、漢字傍附_ニ倭語_一明_レ意、而國語能通曉也、或云、互仁波、又ハ互仁乎波ト云ハ、皆倭語ノ助辭也、爲_ニ出葉者附會也、譬ヘバ胡文煥助語辭ノ序ニ、諺有_レ之云、之乎者也已焉哉、皆助語也ト云ゴトシ、我國ノ助詞互仁乎波ノ四字ニ不_レ限ト云ヘドモ、其所_レ詮字ヲ取テ稱_レ之耳、萬葉書ノ後漢字ヲ用ル和章ノ一格也、

大抵方音不_レ出_ニ四十四音_一、而四十四音中有_ニ單清者_一、有_下帶_上清濁_一者、假字反切以_ニ五十字_一盡_ニ音中之聲_一、方音ハ我國音ニシテ、所謂四十四音也、片假字ハ五十音、母字ハ四十七音也、然_ラ有_ニ四十四音者_一、以_ニ爲_上遠_下於_上兄_下惠_上ノ六字ヲ省テ也、此三音ニ各又_ニ有_ニ三音_一、俗謂_ニ之端伊_一、中爲_ニ奧比端保_一、中遠_ニ奧於端邊_一、中兄_ニ奧惠_一、此故今唯存_ニ比保邊三字_一、含_ニ以_一爲_ニ遠_上於_上兄_下惠_上六字_一、故ニ云_ニ四十四音_一、蓋比ノ字ニ兼_ニ伊比二音_一、保ノ字ニ具_ニ於保二音_一、邊ノ字ニ含_ニ兄惠二音_一、故ニ伊爲_ニ遠_上於_上兄_下惠_上ノ六字ハ唯是一音耳、約_レバ成_ニ四十四音_一テ事足_レリ、若清濁音響ヲ弘

ム_レバ自成_ニ四十七音_一、就_ニ五十音_一、故ニ四十四ノ中、有_ニ單清者_一、有_下帶_上清濁_一者ト云、單清ハ四十四音ノ中ニ、イ・ロ・ニ・リ・ヌ・ル・ヲ・ワ等ノ類不_レ可_レ附_レ濁、字半アリ、帶_ニ清濁_一者トハ、四十四音ノ中ニ、ハ・ホ・ヘ・ト・チ・カ等ノ類、或ハ清、或ハ濁音也、是亦半アリ、單清ハ多ク單濁ハ少シ、義宜ノ二字ノ如キ是也、但四十四音ノ中ニハ單濁ナシ、故ニ不_レ言_レ之、假字反切以_ニ五十字_一盡_ニ音中之聲_一トハ、是則吉備公ノ片假字縱橫五十字ニシテ、豎音橫音宛轉シテ爲_ニ反切_一成_ニ助紐語_一也、音中之聲トハ四十四音ノ中ノ清濁輕重ヲ云也、夫偏ニ出ルヲ云_レ聲、有_レ文云_レ音、又唯通用ス、五音ハ天然之音也、聲ニ有_ニ四聲_一、平上去入是也、此唇舌牙齒喉ノ倣_ニ文者_一也、音韵叶調ノ微ハ和漢共ニ自然ニ備ルト云ヘドモ、吾人日ニ用テ不_レ曉_レ之、西域ノ悉曇尤其妙ヲ盡シ、胡僧神珙入_ニ漢家_一以來、其傳ヲ弘ムト也、爾後漢家ノ韻書、汗牛充棟至_レ不_レ可_レ見盡、事物紀原載_ニ筆談_一曰、切字出_ニ於西域_一、漢人訓_レ字止曰_ニ讀如_ニ某字_一、未_レ用_ニ反切_一、然古語已有_ニ二聲合爲_ニ一字_一、如_ニ不可_一爲_レ叵、如是爲_レ爾、而已爲_レ耳、之乎爲_レ諸之類、似_ニ西

國ニ合音、蓋切字之原也、如「莫」字、從「而」大、亦切音殆與聲俱生、莫知往來也、或曰、許觀東齋記事、魏孫炎始反切、其實出西域梵學、宋周顒始作四聲切韻、按「ズル」ニ西國ノ二合音トハ、則二聲合シテ爲一音、助紐ヲ云也、此理倭語ニモ自具レリ、如「韵書」反切、本邦ニモ竺支兩家ヲ流傳シテ今ハ如「全備ナレド」、神代ヨリ相傳ノ和語ノ微妙自然ニ彼國ノ術ニ不違、宇宙一理ノ妙ニテ彼此ノ別ナキコト自然ニシテ然リ、又西域記曰、印度ノ文字梵天所製、原始垂レ則四十七言、遇レ物合成、隨レ事轉用、流ニ演枝派、其源浸廣、因レ地隨レ人、微有ニ改變、語ニ其大較、未レ異ニ本源、而中印度爲ニ詳正、辭調和雅與レ天同レ音、氣韻清亮爲ニ人軌則、鄰境異國習謬成レ訓、競趨ニ澆俗、莫レ守ニ淳風、云云、又國俗ニ依テ字源二十餘字、或二十五言ニシテ、轉ジテ用之類アリト也、抑我上世音韵ノ沙汰モ亦不レ忽故ニヤ、古事記ニハ專音聲ノ事ヲ書シ、殊ニ神名ノ傍注ニ上去等ノ字ヲ附タルモ、昔ヨリ唱傳シ、神名モ僅ノ上聲去聲ノ違ニ依テ、神名以下皆非レ古、故ニ特ニ分レ知ト也、今世ノ學者疎謬ニシテ混稱ス、總テ神代卷ノ開闔

第一ノ秘傳ト也、往年久我東愚公モ切ニ耳提面命シ給キ、物語ノ書歌書等ニモ和語ノ開合輕重清濁ニ因テ心ヲ注タル趣、顯昭ガ袖中抄ニモ詳也、神代卷ニモ古本ニハ開合ヲ專トセシ證ニハ、假字ニ悉ク章ヲ附タリ、是則和語ノ四聲ヲ知ント也、假字遣ト云事モ中世廢レテ不レ用、明魏法師ハ以爲遠於兄惠ヲ通用セシト也、定家卿ニ至テ精妙也ト云リ、定家ノ假字遣一卷、或稱ニ二人丸秘抄、或記ニ云、二人丸秘抄ハ河内前司親行朝臣ノ述作ナリシニ、甥定家卿合體ノ物也トゾ、仍號ニ二人丸秘抄ニヤ、然ハアレド世以定家ノ假字遣ト云倣セリト云、又同書ノ凡例ニ以爲遠於兄惠等易ニ紛紛ノミニ非ズ、和與レ波、字與レ婦ノ紛其外巨細ニ舉繁故ニ省焉、袖中抄ニ和語ノ開合輕重ノ一證ニ云、同名所ヲ呼ニ唯賀茂ト耳云ヘバ、賀ハ上聲茂ハ去聲也、賀茂川ト云ヘバ、賀茂ノ二字共ニ成ニ上聲、餘ハ准焉、此乃天地自然之聲、雖ニ五方之言語萬象之聲響、二音三音至ニ數音、各以レ韻叶則亦皆可レ譯也、天地自然ノ音トハ、衍テ爲ニ五十韵、則萬物ノ音聲盡ニ于此、大衍五十ノ數ト符合ス、妙哉、五方ノ言語

見_レ子前、萬象之聲響トハ、字書曰、聲之外曰_レ響、猶
 悅也、悅悅然浮也、實而精者曰_レ聲、朴而浮者曰_レ
 響、響之附_レ聲如_レ影之著_レ形、以_レ韻叶トハ反切ノ
 妙助紐ノ所_レ出也、皆可_レ譯トハ師曠之聞公冶長之
 聞之類アリ、六律ハ其聞之具也、其理ハ叶韻也、非_レ
 唯謂_レ聰也、

釋護命空海繼_レ之、造_二四十七字母_一、以便_二子俗_一、其體則
 草書、今世所用假字是也、

續日本紀曰、傳燈大法師位護命僧正俗姓秦氏、美濃
 國各務郡人、年十五以_二元興寺萬耀大法師_一爲_二依
 止_一、入_二吉野山_一而苦行焉、十七得度就_二同寺勝虞大
 僧都_一學_二習法相大乘_一、云云、空海ハ讃岐ノ人也、其
 傳釋書詳也、四十七字ノ字母異國ニ傳テ音韻字海、
 又ハ書史會要共ニ載タリ、但字體有_二少異_一、今世所
 傳字母トハ大異ニシテ少同、今世ノ字母ハ空海ノ
 草也、異國ノ書ニ載ルハ古字也ト云ヘリ、一記云、
 字母ハ閑院左大臣冬嗣奉_レ勅作_レ之、或蘇我馬子之
 作也、或橘逸勢爲_レ之、此等ハ都テ無_レ據糺說也、羅
 山文集ニモ本朝久用_二片假名_一、其初以_二五音_一通用
 點_二漢字_一、以便_二譯誦_一、蓋吉備公始也、其後石淵寺勤

操・延曆寺最澄・高野山空海、四十七字ノ以呂波ヲ唱
 和ス、元明ノ降、陶南村書史會要ヲ作テ日本ノ字ヲ
 載タリ、即今ノ以呂波也、云云、同書源順ガ傳ニモ
 空海ノ伊呂波アリテ以來、萬葉書古風廢ル、是故ニ
 國諺ヲ誤ル人アリ、故ニ順和名鈔ヲ作ルト云リ、按
 ズルニ載_二伊呂波字_一者ハ書史會要音韻字海・海篇
 心鏡・日本風土記等ニアリ、日本風土記ニ以_二漢字_一
 解_二和歌之意_一者數多アリ、一記ニ云自_二伊至_一武、二
 十三言ハ勤操作_レ之、自_レ字至_レ寸二十四音ハ空海爲
 之、京ノ一字ハ最澄置之、而最末ノ數員ノ字ハ後
 人置之ト、西峯老人云、空海直筆ノ字母ニハ、自_二
 一二三至_二萬億_一數字有_レ之、在_二出雲國神門寺_一ト、
 神代卷ノ古鈔ニ字母ノ末ニ置_二數字_一、始有_レ以言、本
 朝昔父母者教_レ子、父以_二算數_一、母以_二諸和語_一、且此女
 文字ヲ教ユ、故ニ父ヲ云ニ加曾、母曰_二伊呂波_一、加曾
 ハ數也、伊呂波ハ字母ノ謂也、予謂不_レ然、夫氣ハ受
 父、數ハ生_レ氣、故ニ父ヲ云ニ加曾、又身體ハ是受
 母色體也、故ニ母ヲ云ニ色、波ハ助語也、又一說自
 伊至_二千利奴留遠_一、護命作_レ之、自_二和加與太禮曾_一
 泊_二惠比毛世須_一、空海作_レ之、京ノ字ハ傳教ノ所_レ置

也、是涅槃經ノ四句偈ヲ摸シ、以下悟ニ無常ニ而歸コ寂
心城之意、爲ニ京字ニ云、或記云、陶南村ガ書ニ所載
ノ母字ハ、日本ノ僧名ハ克全字ハ大用ト云者ヨリ
得レ之、僅四十有七能通ニ議之、又唯髣髴蒙古字法ニ
云、按ズルニ蒙古ノ字ハ釋ノ思八奉命所爲ノ文
字ト也、西峯曰、續日本後紀、空海在ニ於書法ニ最得ニ
其妙、與ニ張芝ニ齊名、見レ稱ニ草聖、國史說如此、乃
書ニ四十七字、便ニ子國人、不レ知ニ一丁者、國語音響
無レ通ニ於此數ニ矣、字體海草也、出雲神門寺有ニ海眞
蹟ノ字母ニ云、余嘗見ニ其臨寫ニ云云、簾中抄曰、四十
七字本歌詞也、護命空海作レ之、イロハニホヘドチ
リヌルヲ護命作レ之、ワガヨタレヅツチナラム、ウ
キノオクヤマケフコエテ、アサキユメミシエヒモ
セズ、空海廣レ之、二僧同時人也ト、又京ノ字慈覺置
之トモ云ヘリ、按ズルニ空海ノ筆法、其初ハ師ニ馬
養トモ侍リ、馬養ハ藤宇合也、淡海公不比等ノ子
也、又勤操ハ桓武帝時法花八講ヲ始メシ人也、最
澄勤操等傳、在ニ元亨釋書、

海師於ニ書法ニ最得ニ其妙、母字乃師之體也、

海師ハ空海法師也、妙壽院ノ詩ニ、海師筆法筆傳

神トアリ、本邦ノ三跡ト云ハ、道風・佐理・行成也、
獨海師ハ得ニ皮肉骨三體、古今獨歩トス、清少納言
ガ雙紙ニモ此由ヲ評セリ、續日本後紀ニ所載ノ優
賞前ニ記ス、今母字乃師之體也トハ、古抄ニ傳會多
シテ海師草書ノ體ヲ不レ辨、唯異邦ノ書ニ載タル字
體ニ惑テ、此草書ノ眞字ヲ易ル人アリ尤非也、
但叙レ語、讀ニ寂滅、不レ爲ニ反切ニ而設之、故雙ニ以ニ爲
遠於兄惠之兩字、俱同音而非レ別也、

空海母字ハ只以ニ四十七字ニ仲ニ涅槃四句偈ニ之意マ
デニテ、反切ノ益ハナキ也、所謂四句偈者、諸行無
常是生滅法、生滅滅已、寂滅爲樂是也、以呂波片假
名ノコト、山崎氏大和小學ニ辨アリ、可ニ考知ニコト
ナリ、

代降ニ於今日ニ靡然沿レ之、今之所レ謂假字者、唯以呂波
與ニ片假字ニ而已矣、

世澆季ニ至テ、神記國史又ハ萬葉集ノ假字ノ古風
共ニ廢レテ、簡易ニノミ靡然沿ヒテ、天下此ニ様一
同也、是非ノ古事ヲ歎テ云リ、

亦以ニ片假字ニ爲ニ大和假字ニ者、以ニ其吉備之作而起ニ
於大和國ニ也、

吉備公大和ノ居處ハ、城上吉備村ニアリ、御厨子山妙法寺ハ吉備公ノ子善覺律師ノ建立也、大和假字トハ舊來ノ俗傳ニ依テ書レ之、

以呂波爲ニ平假字ニ者、平易之意乎、後世訓ニ詩書百家ニ以ニ片假字、書ニ和歌之類ニ用ニ平假字ニ、率以爲レ常、點ニ經史諸子百家、用ニ大和假字ニ事ハ、弘仁私記ニハ日本紀ノ假字ニ片假字ヲ被レ用、此書籍ニ用ニ片假字ニ始ナルベシ、和歌ノ書ニ用ニ平假字、古今集假字序ヲ始ト云ベキニヤ、土佐日記ニハ眞字ヲ謂ニ男文字、平假字ヲ謂ニ女文字、亦是楷法ト平易ノ字體ニ就テ也、但中世以來婦人ハ專平假字ヲノミ事トスレバ、女文字トハ云ニヤ、又異俗ノ中ニ横書、或ハ左右行ヲ雜テ讀ルハ其風俗モ聞ユ、本邦ノ女書ニ此體アリ、散亂シテ爲ニ句讀ノ類、其準據ノ始ヲ不知、或有ニ別致之在ニ乎、姑記以俟ニ識者、

本朝學原浪華鈔三終

本朝學原浪華鈔四

詩賦者由ニ大津皇子ニ始也、皇子天武天皇第三子也、容止^{ミカドノカクヤカシク}、牆岸、音辭俊明、及レ長辨有ニ才學、尤愛ニ文筆、詩賦之作始興焉、

是ヨリ第三章ナリ、云レ詩云レ賦、一而又六義ノ一體也、賦布也言ニ其事ニ具ニ演布ノ謂也、詩賦ト云ハ詩章總稱ノ名目也、大津皇子ト云ヨリ已下、持統紀文ヲ取テ辭括ス、紀曰、大津天淳中原瀛真人天皇第三子也、容止牆岸、音辭俊明、爲ニ天命開別天皇所愛、及レ長辨有ニ才學^{カド}、尤愛ニ文筆、詩賦之興自ニ大津始也、淳中原瀛真人天皇ハ、天武帝ニテ大津ノ御父天智帝ノ御弟也、開別天皇ハ天智帝ニテ大津ノ津ノ御伯父、懷風藻曰、大津皇子淨御原帝長子也、狀貌魁梧器宇峻建、幼年好レ學博覽而能屬レ文、及レ壯愛^レ武多力而能擊^レ劍、性頗放蕩不^レ抱^ニ法度、降^レ節禮^レ士、由^レ是人多附託、時有ニ新羅僧行心、解^ニ天文卜筮、詔^ニ皇子一曰、太子骨法不^ニ是人臣之相、以此久在^ニ下位、恐不^レ全身因進^ニ逆謀、迷^ニ此詿誤、

遂圖_ニ不軌_ニ嗚呼惜哉、蘊_ニ彼良才_ニ不_下以_ニ忠孝_ニ保_上身、近_ニ此奸豎_ニ卒以_ニ戮辱_ニ自終、古人慎_ニ交遊_ニ之意、因以深哉、時年二十四、

舍人親王之所_レ記如_レ此、紀氏古今集序亦云_レ爾、

舍人親王亦天武帝第五御子而廢帝御父也、或第三ト云ヒ第四也ト云、大和論語云、舍人御母ハ新田部皇女也、水鏡云、舍人親王御息所ハ上總守老之女也、此腹_ニ淡路廢帝生給、云云、廢帝ノ御父ナレバ薨後贈_ニ崇道盡敬皇帝_ニ、大津皇子詩賦ノ祖タル事、不_レ出_ニ於天武紀_ニ、而見_ニ持統紀_ニ、紀氏ハ其先出_レ自_ニ孝元天皇_ニ、古今集序假字ハ貫之作、眞字ハ淑望書、此事ハ出_ニ于眞字序_ニ

然懷風藻以_ニ大友皇子詩_ニ冠_ニ於大津皇子首_ニ、則大津皇子之前爲_レ有_レ詩矣、

懷風藻卷首ノ詩ハ大友皇子也、五言侍宴一絕、五言述懷一絕二首也、次河嶋皇子詩五言、山齋一絕一首、此皇子ハ天智帝第二子也、次大津皇子詩五言春苑言宴一首、五言遊獵一首、七言述志一首、後人聯句一聯、五言臨終一絕、已上四首一聯ヲ載タリ、本朝一人一首云、大友本朝五言之祖而、大津七言之

祖也、河嶋與_ニ大津_ニ爲_ニ從昆弟_ニ、然其薨在_ニ大津之後_ニ、則作_レ詩未_レ知_下與_ニ大津_ニ孰爲_ニ先後_上也、按ズルニ本邦ニテ十句ノ詩ハ始_ニ于紀磨_ニ、七言長篇ハ起_ニ于紀古磨_ニ、七言四句自_ニ紀男人_ニ、和韵ニ至テハ大津首和_下藤原大政遊_ニ吉野川_ニ韵_上ヲ初トス、故ニ林氏曰、本朝和韵於_ニ此姑見_レ之、且在_ニ元白劉酬_ニ之前_ニ、則可_レ謂_レ奇也、大江匡衡五言一百韵ヲ作ル、藤原敦光亦然、大江匡房作_ニ二百韵詩_ニ、如_レ此ノ長篇漢家ニモ亦希也トゾ、雖然古代ノ詩人ハ唯慕_ニ文選古詩_ニ、未_レ見_ニ唐詩格律之正_ニ、中葉亦不_レ離_ニ白樣_ニト云リ、懷風藻撰者不_レ慥、此事林氏論辨シテ淡海三船之所_レ撰乎ト云リ、本朝古書目所_レ載ノ詩文集不_レ可_ニ悉記_ニ、淳和帝ノ朝ニ滋野貞主奉_レ勅經國集ヲ撰ス、嵯峨ノ朝ニ岑守凌雲集ヲ撰シ、其後仲雄王文學秀麗集ヲ撰シ、其後天長四年ニ經國集成_レリ、無題詩集ノ撰者未_レ詳、藤原忠通之撰歟ト云リ、其他名集家乘猶多シ、

大友皇子天智天皇太子也、惜乎經_ニ壬申之年_ニ、詩篇不_ニ多傳_ニ、自後詩人才子慕_レ風繼_レ塵、遂與_ニ和歌_ニ並行矣、壬申年ハ天武大友鬪牆之役是也、天智紀ヲ按ズル

ニ初天皇御弟天武ヲ以爲ニ皇太子、天武后持續ハ天
 智帝ノ御娘也、大友皇子御息所十市皇女ハ天武御
 女也、骨肉重婚不可言、然ニ大友皇子生質怜惻
 而博覽鴻才ナレバ、太子ノ廢立帝ノ睿慮不可測、
 天武常ニ疑恐給ヘリ、帝不豫御時顧命ノ爲トテ召ニ
 天武、子レ時蘇我安磨私言云、宜ニ有レ心勅答、而帝遣
 詔曰、後事悉任レ汝、天武奏曰、僕多レ病也、不堪
 萬機、願ハ以ニ大友爲ニ太子、吾且將ニ出家、帝不
 レ拒、於是於ニ大内佛殿ニ薙髮爲僧、賜ニ袈裟ニ入ニ芳
 埜宮ニ修セント請、勅許ニヨリテ赴山給フ、或人
 云、如ニ虎附レ翼而放ニ從ニ是叔父與ニ從子ニ如ニ漢楚ニ
 是ヲ壬申ノ亂ト云、天武遂擊ニ殺大友皇子ニシテ自
 御位ニ卽玉ヘリ、故大友ノ詞章烏有ト成テ、雖ニ多
 不レ流、詩祖則明也、故後之才子韵人、慕ニ其佳風ニ
 繼ニ其芳塵、自後與ニ和詞ニ並行トハ云、慕風繼塵
 トハ、紀淑望古今眞字序語也、曰、自ニ大津皇子之初
 作ニ詩賦、詞人才子慕風繼塵、移ニ彼漢家之字ニ爲ニ
 我日域之俗、民業一改和歌漸衰、云云、和詞ハ本邦
 ノ正風也、其元陰陽二神ノ唱和ニ興リ、素盞鳴ノ三
 十一文字ニ成レリ、其事古今ノ序ニモ演タリ、爲ニ

和漢一雙、而謂ニ詩詞ニ者是也、或云、和詞ハ國風ニ
 シテ最協レ情、此故覺ニ意味深ニ長於詩、不ニ亦宜ニ乎、
 王者作レ詩文武天皇爲レ始也、猶不レ師ニ往古、何救ニ元
 首望ニ之、玉音餘韻鳴ニ後代、

文武天皇ハ第四十二代ノ天子ニテ、天武帝ノ御孫
 草壁皇子ノ御子也、祖母持統帝ノ禪ヲ受テ卽位シ
 給ヘリ、元年藤原宮子媛ヲ立テ爲レ妃、不比等ノ娘
 也、此天皇ノ睿藻ヲ以王者製作ノ始トスル事ハ、此
 詩則懷風藻ニアリ、五言三首其一也、其御製曰、年
 雖レ足ニ戴レ冕、智不ニ敢垂レ裳、朕常夙夜念、何以拙心
 匡、猶不レ師ニ往古、何救ニ元首望、然母ニ三絶務、且欲
 臨ニ短章、此聖作實ニ兢兢業業ノ御氣象ヲ察シ奉
 ルニ足レリ、故ニ殊ニ拙ニ舉此詩ニ耳、果シテ大寶元
 年ニ大學寮釋奠ノ興起アリ、千歲盛學何事加レ之、
 爾後國學釋奠ノ禮モ亦並行、師ニ往古ニ之睿念、終
 被ニ遂行、最可ニ景仰ニ者、

嵯峨太上皇、嘗得ニ白氏長慶集ニ珍レ之、樂天所謂日本
 傳寫者、蓋此本也、

嵯峨天皇ハ桓武帝ノ御子、平城帝同母ノ御弟也、大
 同四年平城帝ノ御禪ヲ受テ卽位シ給ヘリ、奉レ稱ニ

太上皇ハ、御弟淳和帝ノ朝、嵯峨帝ヲ稱_二太上皇、平城帝ヲ稱_二前太上皇_一也、凡太上ノ號ハ御國禪ノ後尊上シ奉ル事也、長慶集ハ白氏文集也、此集本邦ニ來ハ則嵯峨ノ御宇也、帝深秘_レ之玉フ事江談抄ニアリ、又金澤文庫ノ文集ノ奥書ニ、會昌四年五月爲_二日本僧惠萼_一寫_レ之トアリ、白氏長慶集後序曰、白氏著_二長慶集五十卷_一、元微之爲_レ序、後集二十卷自爲_レ序、今又續後集五卷自爲_レ記、前後七十五卷、詩筆大小凡三千八百四十首、集有五本、一本在廬山東林寺藏、一本在蘇州南禪寺經藏內、一本在東都勝善寺鉢塔院律庫樓、一本付姪龜郎、一本付外孫談閣童、各藏_二於家_一、傳_二於後_一、其日本暹羅諸國及兩京人家傳寫者不_レ在此記、又有_二元白唱和因繼集_一共十七卷、劉白唱和集五卷、洛下遊賞宴集十卷、其文盡在_二大集內_一、錄出別行_二於世_一、若集內無而假_レ名流傳者皆謬爲耳、會昌五年夏五月一日、樂天重記、于_二神泉_一、于_二山院_一、製作無_二虛日_一、或命_二文人_一賦詩、花宴節始_二於此_一矣、

拾芥抄曰、神泉院天子遊覽所、以_二近衛次衛_一爲_二別當_一、乾臨閣謂_二之正殿_一、金岡疊石、二條南大宮西八

町三條北壬生東、善女龍王常見_二此所_一、上代有_二公卿別當_一者、長保年中道綱補_レ之、雍州府志曰、神泉苑在_二一條南大宮西_一、古所謂乾臨閣之跡、而主上遊覽之地也、弘法大師於_レ茲祈雨、是則世人之所_二遍識_一、今池水殘、西峰老人云、近年都下ノ一僧志願アリテ、他所ヨリ塔ヲ遷_二于此_一、又或人ノ祈願ニ依テ、立_二辨才天小祠_一、今其地如_レ寺、大内ノ舊跡如_レ此成行ハ雖_レ無_二本意_一、民家田畠ト成_レヨリハ勝_レリト、按ズルニ以_二神泉苑_一比_二周靈沼_一事尙矣、又請雨ノ沙汰於_レ此數也、山院トハ、嵯峨ノ山院也、帝常ニ遊覽ノ地也、或河陽ノ江邊ニ遊給_レ事アリト也、製作無_二虛日_一、或命_二文人_一賦詩トハ、歷朝ノ中當帝尤此舉繁シ、懷風藻以降詩集ノ中ニ、侍_レ宴應_レ詔ト題スル類大抵皆然リ、本朝一人一首ニ嵯峨天皇御製、春日遊獵、日暮宿_二江頭亭子_一ト、又淳和帝ノ聖作ニ九月九日侍_二燕神泉苑_一賦_二秋露_一ト、題シタルヨリ以下、此御宇此宴遊ノ會席ニ侍リテ、應_レ詔奉_レ和_二聖韻_一者許多、又同帝有_二河陽十詠_一、共以_二三字_一爲_レ題、或觀_二新燕過_一古關ノ類也、河陽ハ山崎ノ事也、此等ノ製作侍和ノ類所_二載_一于文華秀麗等

也、又凌雲集ニモ多シ、此代詩集勅撰ノ事前ニ記
ス、花宴節始ニ於此ニ矣トハ、當帝春櫻ノ佳節神泉苑
ニシテ、佳辰令月美景ニ乗ジテ、詩人文人ニ命ジテ
其志ヲ觀給シヨリ、對策試科ノ事ヲ花宴トハ云也、
櫻花ヲ題シ給フ事ハ、平城天皇ノ聖作是始也、凡本
邦賞櫻蜀ノ海棠唐ノ牡丹ヨリモ勝レリ、サレバ明
ノ宋景濂ガ詩ニモ、愛_レ櫻日本盛_ニ於唐、如_レ被_ニ牡丹
兼_ニ海棠、恐是趙昌所_レ難_ニ盡、春風纔起雪吹_レ香、ト
イヘリ、宋濂集ニ見ヘタリ、江談曰、弘仁四年癸巳
之歲、_ニ櫻_ノ花_ノ之序野相_ニ書_レ之、_ニ櫻_ノ花_ノ之題、_ニ善相公進_ニ之_ニ云云、
抑此宴會者嵯峨ノ弘仁三年ニ神泉苑ニ幸シ給テ花
樹ヲ御覽ジ、文人ヲ召シテ詩ヲ賦セシメ給シヨリ
起ル事ハ類聚國史ニアリ、正月廿一日毎ニ仁壽殿
ニテ行ハレシト也、内内ノ節會ナレバ内宴トモ云
也、一記云、延喜天曆ノ比迄ハ諸州ノ學校モ隆ニ
シテソレヨリ以降漸衰廢シ、嵯峨淳和ノ兩朝ヨリ
ハ每歲及第試策ノ政アリテ是ヲ花宴ト稱ス、光孝
帝以來和詞ノミ盛ニ翫バレテ、詩賦ノ業亦衰フ、且
詩賦ヲ以專採_ニ士事_ニモ德科ヲ選ニハ降レリ、然ニ此
花ノ宴モ後朱雀院ノ比迄盛ニシテ、其後衰ヘ侍リ

シヲ保元ノ比少納言入道信西申シ行ヒシニ、其後
亦永絶テ再興ノ事ヲ不_レ聞、又云、歷代ノ及第モ皆
詩文ノ藝才ニ試ラレテ德行賢才ノ選ビニ不_レ與、顯
宗帝ノ朝ノ曲水ノ宴モ、公卿大夫ノ賢否ヲ試ラレ
タル故也トコソ聞侍リツレ、殊ニ勇士ノミニ非ズ、
女子ノ博士ヲダモ被_レ置トナレバ、是彼ノ魏ノ明帝
ノ代選ニ女子知_レ書可_レ付_レ信者六人、以爲_ニ女尙書_ニ
ニ等キ者乎、凡進士ノ科三百品ナド唐ノ書ニモ見
ヘタリ、古今著聞集ニモ内宴ハ弘仁年中ニ始リタ
リケルガ、長元ヨリ後絶テ不_レ行、保元三年五月廿
一日ニハ行ルベキ由沙汰アリケルホドニ、其日ハ
雨フリテ廿二日ニ行ハレケリ、次第ノ事ドモ古キ
蹤ヲ尋テ行レケルトゾ、又續世繼物語語内宴卷ニモ、
百年バカリ絶タル内宴改メ行ハレケルトアリ、
同卷花宴再興少納言道憲入道ノ申行ハレシ時ノ題
ハ、春生ニ聖化中ニト云句也トアリ、按ズルニ白氏文
集ニ有_ニ内宴字_ニ、而唯内殿ノ宴ト云事ニシテ、文會
ノ事ニ用ルハ我邦ノ專制也、本朝文粹所_レ載、後江
相公ノ書ル詩ノ序ニモ、本朝之前蹤早春之内宴、又
管家詩序、夫早春内宴者、不_レ關_ニ荆楚之歲時_ニ、非

踵_レ姬漢之遊樂、自_レ君作_レ故及_ニ我聖朝、云云、宴字訓_ニ字多介、訓_ニ佐加茂利、

承和以來言_レ詩者、皆以_ニ樂天_一爲_ニ規摹_一、

承和ハ五十四代仁明帝ノ年號也、本朝一人一首云、承和以來每春賜_レ題試_ニ群臣之作_一、遂爲_ニ恒例_一、按ズルニ承和以來トハ、此例江吏部集、本朝麗藻等ニ出タリ、又前注ニ引ル金澤藏書文集ノ奥書、會昌四年ハ仁明帝承和十一年惠萼在_レ唐時ニ當ルトナレバ、此御宇ノ比ヨリ專白集白様ヲ尊信スルノ意也、白氏文集ヲ古ハ只文集トノミ云リ、源氏ナドニモ然リ、惠萼傳來ノ寫本ニ文集太原白居易トアリ、此本世ニ弘マル故也、其後唐ヨリ印本モ渡リテ、白氏長慶集ナド云リ、サレバ定家卿詠歌大概ニハ、白氏文集ト侍リ、爲_ニ規摹_一ハ尊信ノ意、又ハ末章ニ謂ル菅神ノ詩ニ、有_ニ白氏風_一、又勝_ニ白様_一、又江家爲_ニ江家_一、樂天之恩也ナド云類是也、非_ニ唯詩而已_一、和詞亦規_ニ摹白氏幽微之體_一、規摹ノ字ハ文選何平叔ガ景福殿賦窮_ニ巧於規摹_一、又東京賦以遠期規_ニ萬世_一、而大摹云云、一人一首曰、惺窩藤先生品藻古之人材、至_ニ樂天_一曰、雖_レ有_ニ朱紫陽之所_一謂口津津地之誚小家

數之白俗元輕之異議、好_ニ其爲_レ人之醞藉_一、愛_ニ其集語意之平易真率_一、古今著聞集文學章曰、大方自_レ漢至_レ魏、文體三段トコソ文選ニハ侍ルナレ、白樂天ノ作ヲバ東坡先生ハ傾キケルトカヤ、サレバ和漢ノ風情時ニ隨テ改マルヤウニ侍レドモ、彼保胤ガ詞古今序ノ如キハ、サマ_一ナル體何レモ捨ツマジキニコソ侍レ、一隅ヲ守リテ善惡ヲ定メン事口惜カルベキ事也、猶諸道同ジ事ナルベキニヤト、按ズルニ此御宇平城嵯峨淳和以來、文苑詞場ノ優致ヲ不_レ絕事、續日本後紀明矣、此天皇睿資俊邁、文學ヲ好ミ臨池ニ達シ、琴笛射藝醫術ヲサヘニ勝レ給ヘリ、四海波穩、國富民豐ナルニ因テ、大内裏ノ修造モアリキ、諸事前代ニ超テ華靡ナル事多カリシニヤ、三善清行封事ニ此御宇ノ奢侈ヲ舉テ諫メシコトアリ、

菅贈大相國得_ニ白氏之體_一、

菅原ハ處ノ名也、後以爲_ニ姓氏_一、其先天穗日命十四代ノ孫、野見宿禰ヨリ出タリ、宿禰垂仁帝ノ朝率_ニ土師_一、取_ニ埴土_一作_ニ人馬之形_一、以代_ニ殉死_一、以_レ是賜_ニ土師姓_一、云、按_ニ日本後紀_一、桓武帝御宇土師姓_ニ派_一

爲秋篠大江三氏、菅神字道眞、按ズルニ光孝帝天應元年、野見宿禰ノ後遠江介土師宿禰古人散位土師宿禰道長奏請、依其所居地名爲菅原姓、桓武帝延暦元年少內記正八位上土師宿禰安人改土師賜秋篠姓、四年冬十二月勅以菅原宿禰古人侍讀之勞、賜古人男四人衣糧、令勤學業、九年冬十二月勅菅原眞仲土師菅鷹改其姓爲大枝朝臣、枝一作江又古人子曰清公、清公子曰是善、是善子則右大臣道眞字三、在世ノ事博好才調等載テ諸書ニアリ、延喜三年二月廿五日薨配所、葬筑紫安樂寺、享年五十九、延長元年捨左遷宣旨、復本官贈正二位、天慶三年七月菅靈託右京七條坊婢子者、欲棲右近馬場、天曆元年移立祠於北野、正暦四年五月遣勅使於宰府安樂寺、詔贈太政大臣正一位云、江談抄ニハ贈太政官、正暦五年トス、上件ノ趣キヲ以曰菅贈大相國、相國ハ太政官ノ唐名也、得白氏之體トハ宇多帝寛平六年十二月、渤海聘使裴文籍來、卽元慶七年ニ來シ裴頌也、菅家ノ詩ヲ見テ似白樂天ト稱美セシ事アリ、菅神甚動喜色給ト也、或勝白様、後世號詩神、

勝白様ハ延喜帝ノ勅賞也、菅氏家傳云、昌泰三年右大臣菅公奏進其三代家集二十卷、所謂三代者清公、是善及菅公是也、帝則賜御製律詩褒之、
「門風自古是儒林、今日文章皆悉全、唯詠一聯知氣味、況連三代飽清吟、琢磨寒玉聲聲麗、裁制餘霞句句侵、更有菅家勝白様、從茲拋却匣塵深、」號詩神ハ本邦詞人推尊稱詩神也、中華若木詩村菴ノ詩ニ、北野曾聞菅姓人、風流後世號詩神云云、

又江家之爲江家樂天恩也、

是大江匡衡ノ語出江吏部集、江家與菅氏土師姓ノ支流也、菅江一雙事既尙、大學寮ノ南北兩曹ヲ掌リ、世歷仕ノ儒臣也、殊江家追尊白氏之甚シ、史館茗話云、江朝綱愛白樂天文章、慕其爲人、一夕夢與樂天遇接語、從此文章日進、又一人一首云、本朝先輩無不景慕居易、故以野篁准彼、以菅相爲勝彼、且菅相長谷雄有元白復生之語、先是朝綱既夢居易、至積善併元白夢之、蓋其景慕之深、到如此者乎、可謂思夢也、一條院朝以延喜天曆故事、大江朝臣匡衡侍讀文集、

奉_レ命點_ニ朱墨_一、

一條院ハ六十六代ノ天子ニテ、圓融院第一ノ御子諱懷仁、母梅壺女御藤原詮子、右大臣兼家娘也、花山院即位時懷仁爲_ニ東宮_一、花山院遁世ノ時、兼家急參内シ東宮ヲ卽_レ位奉ラル、時ニ歲七歲、兼家攝政也、延喜天曆故事ハ匡衡祖維時曰_ニ江納言_一、以下爲_ニ延喜東宮學士_一且爲_ニ村上帝師_一例、匡衡亦今爲_ニ一條院皇子之師_一也、侍讀ハ爲_レ師_一於至尊及皇子_一之稱也、奉_レ命點_ニ朱墨_一トハ、江吏部集ニアリ、加_ニ訓點_一事也、時ニ作_ニ絕句_一曰、「呂望授來文武學、桓榮獨遇漢明時、幸傳_ニ延喜明時例_一、天子儲皇皇子師、」此詩自負ノ情甚シ、此事出_ニ一人一首_一、江朝綱曰_ニ江相公_一、匡衡ヲ曰_ニ後江相公_一、就_ニ維時_一學被_ニ菅文時_一試_ニ對策_一シ、壯年ニ出テ爲_ニ尾張守_一、不_レ幾召爲_ニ侍讀_一、奉_レ授_ニ尚書_一毛詩_一史記_一文選_一白氏文集等、歷_ニ仕累朝_一任_ニ式部太輔_一兼_ニ文章博士_一、以_ニ韋玄成_一自比スト也、文集加_ニ訓點_一比_ニ紀齊名_一蒙_ニ同帝之命_一辭加_ニ和訓於元稹集_一、其情天淵也、齊名曰、凡庸之才不_レ可_ニ妄加_一倭訓ト、以_レ是思ヘバ匡衡誇情可_レ見、保元以後内宴不_レ行、詩合漸萎恭、

保元ハ七十七代後白川帝ノ年號也、此御宇少納言

入道信西再_ニ興内宴_一、其後又絶トナレバソレヨリ以

降ノ事ニヤ、林氏曰、自_ニ保元平治_一以下王道陵夷、

文才乏_レ人、雖有_ニ侍讀之職_一博士之官、無_ニ詩文編輯_一

則何以徵_レ之、詩合トハ中世專此事アリ、一人一首

云、藤教家曾選_ニ資實長兼所_一作_ニ百聯_一、號_ニ兩卿百番

詩合_一、又元久詩合アリ、林氏曰、後鳥羽上皇及東宮

順德_一作_レ之、不_レ顯_ニ其名_一乎、當今_ニ土御門_一御製在_ニ倭歌

中_一、凡詩歌合者作_レ詩者作_ニ二聯_一、作_レ歌者作_ニ二一首_一

合_レ之是例也、又詩一聯歌一首相對者曰_ニ相撲立詩

歌合_一ト、云云、此會作者多ク見ヘタリ、又定家卿明

月記ノ中ニモ詩歌ヲ合セタリ、元久建保兩度ノ詩

歌合アリ、然ドモ承久ノ亂後文字日ニ廢ルト也、

其後八九十七代光明院康永元年五十四番詩歌合ア

リ、此御宇ハ帝都騷亂也、偶有_ニ此會_一一奇事也、按

ズルニ四條大納言公任朗詠集、藤基俊新撰朗詠集

モ詩詠合ノ格也、朗詠者謠_レ之、如_ニ今樣催馬樂_一、其

聲朗然タルヲ云ト也、萎恭ノ二字ハ唐李漢昌黎文

集序ニ、至_ニ後漢曹魏_一氣象萎恭トアリ、按_ニ韻書_一萎

ハ豈危切草木枯也、恭ハ諾協切疲ル點トアリ、

及足利諸源之劫略、禪僧多能詩者、

足利ハ尊氏ヲ云、諸源ト云ハ猶言ニ源氏末流、猶

漢書稱ニ諸劉、日本地理志略云、源尊氏清和帝之後、

與ニ賴朝ニ同祖、以足利ニ爲ニ氏號、而世爲ニ鎌倉甲

族、北條氏滅後尊氏有レ寵ニ於後醍醐帝、領ニ關東八

州兵ニ威強大、遂叛ニ于朝廷、與ニ源義貞楠正成等ニ相

戰、數年王師遂潰、尊氏自稱ニ征夷大將軍、漸復ニ賴

朝舊業、居ニ山城之京都、統ニ制諸國、治世二十五年、

其居處稱ニ室町殿ニ云ニ花御所、又謂ニ京將軍十三世、

尊氏義詮義滿義持義量義教義勝義政義尙義

植義高義晴義輝是也、凡二百二十一年歟、歷世中

義滿義政爲レ尤、義滿後稱ニ鹿苑院道義ニ云ニ北山殿、

劫略公儀ニ官至ニ太政大臣、行粧准ニ御幸ニ稱ニ公方、

北山別業ニ興ニ金閣、漢和ノ珍器ヲ集ム、又向レ明稱

臣、其多欲奢侈僭竊倔強如レ是、義政モ後閑ニ居東

山東求堂、古器古畫ヲ弄シ、稱ニ東山殿、作ニ銀閣、

准ニ北山金閣、後稱ニ慈照院道成、其歷世戰國トナリ

テ神社ノ舊記朝家ノ舊章記錄家乘烏有ト成ル事不

可ニ勝記、劫略トハ尊氏初爲ニ勤王ニ終竊ニ權勢、爾

後子孫跋扈強梁威焰可レ炙、從レ是王室日ニ微微々

リ、實ニ千歲ノ悲歎也、劫略二字共ニ訓ニ加須武留、

或作ニ劫掠ニ訓ニ加須女武波布、或作ニ掠略ニ訓ニ加須

女天、皆出ニ日本紀等、禪僧多能詩者トハ、林氏

曰、義滿遣ニ大明書、使ニ菅原秀長作之、則猶非ニ金

銀誤ニ金根ニ指ニ蝦蟆ニ爲ニ良馬ニ之類、秀長之後武將

以ニ詩文ニ屬ニ禪徒、從レ茲以降舉レ世皆謂ニ文筆唯在

叢林、而無ト問ニ官家ニ者、登時信義堂津絶海有ニ拔

群之才、巖惟肖派江西秀岐陽彦村菴連竺雲之徒

相繼五岳之秀也、官家旣衰、叢林亦微、二百年來、閩

國無ニ文章ニ悲哉、幸有ニ惺窩藤先生余先考、而斯道

再興、然今無ト繼ニ二先生ニ者、無ニ如レ之何、按ズル

ニ世ニ稱スル禪徒蘭坡橫川桃源周麟周全アリ、

林氏五山文編序、虎關濟北集雪村岷峨集絶海蕉堅

藁義堂空華集夢岩早霖集中岩中王子永源寂室

錄雲溪贍隱集岐陽不二稿惟肖東海瓊華東沼流

水集慧鳳竹居清事南江鷗巢集祖溪水拙集橫川

京華集宜竹翰林葫蘆集彦龍陶藁萬里梅花無盡藏、

月舟幻雲藁常菴角虎集、云云、蔬筍淡味ト云ヘ

ドモ馳ニ名於緇林、其著述雖ニ小部、亦能後世乳口

淺膚ノ非レ所レ跋ト云リ、又羅山雜著云、禪林文則

惟肖、詩則心田、四六則太白、講釋則江西、又云、
慧鳳翽之周鳳瑞端二僧同時而、世謂瑞溪爲犬鳳、以
對翽之故也、然以今見之、瑞溪者不可及也、
其博覽冠諸輩、竹居清事未見之、故未詳慧鳳
文采如何、又云、南禪寺信義堂、相國寺津絶海、草創
之裨謚乎、少林岩惟肖、建仁派江西、討論之世叔乎、
巖東沼澤天隱三橫川、脩飾之子羽乎、村菴雪嶺
月舟常菴潤色之子產乎、於是乎禪林之文章集大
成者也、禪者之文章內莫難於疏、所謂四六八六
錦上添華者是也、善疏者莫過於此諸作、設使、
訢蒲室再生不能絶也、又云、東山僧浚祖溪法乎
韓文、崇常菴則子柳文、

論詩如論禪、且彼君臣歸依於禪、每逢佳辰美
景、必命禪徒賦詩、是以禪僧嗜文字奔走、

論詩如論禪ハ、騷人詞士ノ常談ニシテ、悟入ヲ
主トスルコトヲイヘリ、コ、ニ引ルハ禪僧文字ニ
奔走スル事ヲ云ン爲ニテ、平生嗜ミ弄ブコトニ借
テ云リ、詩人玉屑云、禪家者流、乘有ニ小大、宗有ニ南
北、道有ニ邪正、具ニ正法眼者、是謂ニ第一義、若ニ聲
聞辟支果、皆非レ正也、論詩如論禪、漢魏晉等作

與盛唐之詩、則第一義也、大曆以還之詩則落第二
義矣、晚唐之詩則聲聞辟支果也、學漢魏晉與盛
唐詩、臨濟下也、學大曆以還者曹洞下也、大抵禪
道惟在妙悟、詩道亦在妙悟、吾評之非僭也、辨
之非妄也、天下有可廢之人、無可廢之言、詩
道如是也、若以爲不然則是見詩之不廣、參詩
之不熟耳、又曰、趙章泉學詩闕復齊閑紀所載吳
思道襲聖任學詩三首、因次其韵、學詩似學參
禪、又曰、滄浪云、論詩如論禪、彼君臣ハ足利ノ
君臣也、佳辰美景ハ謝靈運擬魏太子鄴中集、八百
五言序、天下良辰美景賞心樂事、四者難并ト云
ニ本ヅク、禪僧嗜文字奔走ノ字ハ出南浦文集、
夫詩者志之所之也、在心爲志、發言爲詩、然志之
所之有邪正、發言有工拙、

此段ハ詩經大序并集傳ノ序文等ヲ摘テ書リ、詩大
序曰、詩者志之所之也、在心爲志、發言爲詩、
又曰、情動於中、而形於言、言之不足故嗟歎
之、嗟歎之不足、故永歌之、永歌之不足、故
不知手之舞足之蹈之也、集傳序曰、詩者人心之
感物、而形於言之餘也、心之所感有邪正、故言

之所形有_二是非_一、亦_三管三品文時_一、仲春釋奠毛詩講後賦詩者志之所_レ之、其略云、夫詩之爲_レ言志也、發_二於心_一、牽_二於物_一、尋_二其所_一、本偏是爲_レ志、名_二其所_一之、乃是曰_レ詩、

本_二於識_一充_二於學_一、主_二於悟_一、則當_二自得_一焉、

此段ハ續文章正宗ノ語也、本_二於識_一トハ吾ガ心上ノ知トナリテアルノタケヲ云、淵明之南山、謝靈運之芳草、當意卽妙、水中月、水裏鹽、色裏膠、皆詩評ニ見ユ、充_二於學_一トハ情ヲ飾ヘ事實ヲ質シ、言語ニ發スル者ハ、非_レ學バ不_レ可_レ得也、主_二於悟_一トハ情境一致彼此ノ分別ナク自然ノ風致ヲ得ルコトヲ云、和歌者流ノ境ニ入ルトイヘルヤカ、ルコトナルベキ、

本朝學原浪華鈔四終

本朝學原浪華鈔五

古者魯論五經之類、用_二漢唐注疏_一、正如_二令條_一也、

是ヨリ第四章也、按ズルニ古者ハ似_レ謂_二後醍醐帝以往_一、何者御宇ノ前後ヨリ、濂洛關閩諸賢ノ註解本邦ニワタリテ、人其書ヲ見ル事ヲ得_レバ也、論語來_レ我尤尙矣、應神帝ノ朝百濟ノ阿直岐齋_二來論語千字文等_一由、舊事紀ニ見ユ、尙書ノ事ハ秦ノ徐福來朝ノ時ニアリ、五經ノ事モ應神帝ノ時來也、五經博士依_レ番相代段揚爾其魁也、如_二令條_一トハ學令曰、凡敎_二授正業_一周易鄭玄王弼注、尙書孔安國鄭玄注、三禮毛詩鄭玄注、左傳服虔杜預注、孝經孔安國鄭玄注、論語鄭玄何晏注、云々、按ズルニ此段所_レ謂注疏ハ、何晏集解、皇侃邢昺義疏、孔穎達正義ヲ兼テ見ベキ歟、又異國ノ書ニ倭國忌_二孟子_一ト云事ノ侍ルモ、意ニ僧齋然我令書ヲ渡セシヨリノ遠聞ナルベシ、學令ニ孟子事不_レ見、延喜大學寮式ニモ亦無_レ之、今叵_レ知_二其謂_一、武備志曰、日本古書事五經則重_二書禮_一、而忽_二易詩春秋_一、四書則重_二論語學庸_一而

惡孟子、重佛經、無道經、若古醫書、每見必買、重醫故也、注疏ハ注解也、疏亦注也、說文疏記也、徐曰、疏謂一一分別記之、字彙疏條陳也、又記註也、一云何晏王弼之徒、耽好莊老、故聖經注疏多見其所好、本邦先儒皆從之、後來尊信宋儒之說云、

吉野先主之時、獨清軒健叟、始唱程朱之義、

吉野先主ハ後醍醐帝也、入吉野以還後村上帝後龜山帝王業ヲ繼玉フ故、後醍醐帝ヲ云先主也、獨清軒ハ一人一首云、玄惠者儒家而歸台宗、而後還俗、然無髮而終身、以博識聞于世、叙法印位、其所作太平記庭訓往來等、今猶存、便子兒童、玄惠自號洗心子、又號健叟、軒號曰獨清、或曰、玄惠初讀溫公通鑑云、健叟程朱ノ新註ヲ讀デ可爲肝心ト云シ事ハ、藤兼良公ノ尺素往來ニアリ、サレドモ終ニ佛徒タルコトヲ免レズ、長濟草曰、垂水廣信嘗在_レ京、與_レ藤房論學、一日語藤房曰、宋大儒朱晦菴之書、前此六年始入_ニ本朝、世儒未_レ有_レ知焉、我幸深尊_ニ信之、請今借_ニ之、宜覃思於斯書、藤房諾、然藤房之學雅混_ニ儒佛、以_レ故卒與_ニ廣信不

合、一記云、垂水廣信_{河内ハ勢州垂水人也、後醍醐}

院ニ事ヘテ省中恩意アリト也、大宮大納言惟通卿

ニ依テ諫疏ヲ上ル事有シガ、言報ザリシカバ致仕

シテ古里ニ歸リ、嘉文亂記ト云書六十卷ヲ著シ、竟

ニ延文元年三月ニ下世ス、歲九十六、朱子ノ書始テ

渡シ時廣信尊信セシ事ハ在_ニ長濟草云云、是ゾ今

日朱子ノ書ヲ讀テ實ニ尊信セシ始ナルベシ、朝鮮

慕齋詩集ニ大內義隆朝鮮ニ簡シテ、朱註經書ヲ請

求ム、返牒ニ稱_ニ美其志シテ、五經等程朱ノ註ヲ渡

スト云リ、朝鮮ニハ易ハ程子傳、春秋ハ胡氏傳、書

ハ蔡氏傳、詩ハ朱子集傳、禮記ハ鄭氏註ヲ用ユ、比

年ハ易朱子ノ本義ヲ用ユ、禮記ハ初不_レ知有_ニ陳澧

集說ト是西峰翁ノ說也、

康永太上皇御萩原殿、召資明隆職行親、有_ニ中庸談

義、

萩原殿中庸談義ノ事、洞院公賢ノ園太曆ニ出タリ、

康永ハ九十七代光明代ノ年號也、光明帝ハ後伏見

帝第四ノ御子也、此御宇ニ花園帝ヲ本院ト申ス、光

嚴帝ヲ新院ト申ス、康永太上皇ハ花園帝ノ御事也、

花園帝ハ九十四代ノ天子ニテ伏見帝第二ノ御子、

母ハ顯親門院藤原原子左大臣實雄ノ娘也、金澤越後守實時鎌倉ノ金澤ニ文庫ヲ興立セシモ此御代也、萩原殿ハ院ノ御所ノ名也、萩原ト云所ニアリ、今梅津ノ長福寺ハ其跡也、長福寺所置之宸影者法印豪信奉_レ命寫_レ之者也トゾ、資明ハ日野家柳原祖正二位權大納言、文和二年下世、林氏曰、隆職者鷲尾隆良子也、是四條家貞和三年薨、按ズルニ隆職ノ系譜鷲尾ノ祖ハ、隆良次隆嗣次隆職ト或書ニハ見ヘタリ、行親ハ内府具親ノ子姪歟、談義トハ今ノ講釋ノ事也、古ハ講釋ヲ談義ト云也、又按ズルニ園太曆拾芥抄ナドノ撰者、洞院公賢モ亦光明帝ノ御宇ノ近臣ニシテ、太政大臣ニ任シ給ヘリ、此御宇南北ノ風塵紛紛タリ、然ルニ上皇經書ノ議論ニ叡慮ヲ被_レ寄コト尤可_ニ尊仰_ニ、

彼儒前於_ニ宮中_ニ以_レ佛混_レ儒而說_レ之、上皇不_レ是_レ之召加_ニ禁戒_ニ、頗庶_ニ乎得_ニ程朱之意_ニ矣、

彼儒ハ資明隆職行親等也、前於_ニ禁中_ニトハ非_ニ上皇御在位之時_ニ、光明帝ノ御宇ノ事也、此故ニ萩原殿ニテ中庸ノ談義ヲナサレ其上ニテ前日於_ニ禁中_ニ、彼三人ノ儒臣佛法ヲ混_レ儒ジテ講說セシ事ヲ呵シ給ト

也、按ズルニ凡本邦上世ノ諸士陽儒陰佛ノミニシテ、碩學鴻才ト云ヘドモ、皆此風不_レ離、意フニ未_レ見_ニ濂洛關閩之成說定論_ニ、又ハ爵祿在_レ身或ハ有_レ所_レ養、故和_ニ時尚_ニ陷_ニ隱儒佛兼崇之閑_ニ者尤可_レ哀コトナリ、大抵皆白居易晚年ノ風ヲ慕フニ似タリ、彼宋ノ尹彥明母ノ所_レ好ヲ追戀シテ忌日毎ニ金剛經ヲ誦シ、本邦ノ紀夏井爲_ニ亡親_ニ一般若ヲ誦セシ例ハ同行異情非_ニ同日譚_ニ也、ソレサハ究竟ノ論ニハ議スル所也、況身爲_ニ儒官_ニ而難_レ佛以爲_レ說乎、獨惟宗孝言有_ニ眞儒之風_ニ、其暮春遊_ニ粟田別業_ニ、有_ニ三韵詩_ニ、勝地佳名所_レ感、粟田別業在_ニ城東_ニ、花零履踏三春雪、松老耳傳尙齒風、法水前清波響冷、如何蓮府爲_ニ梵宮_ニ、ト云リ、無題詩集ニ見ヘタリ、粟田別業ハ藤原在衡ノ舊跡也、在衡晚年ニ於_ニ此別業_ニ修_ニ尙齒會_ニ、故云_レ爾、後爲_レ寺、昔蘇我氏捨_レ宅爲_ニ向原寺_ニヨリ、上皇ノ宮執柄ノ亭皆以_ニ寺院_ニ爲_ニ稱號_ニ、林氏曰、本朝儒家大抵兼學釋氏、雖_ニ菅江儒宗_ニ不_レ免_ニ有_ニ此惑_ニ也、獨孝言有_ニ此歎_ニ、可_レ謂_ニ其識量卓_ニ越于諸子_ニ、其感_レ古諷_ニ、今者乎、程朱ハ河南兩程子新安朱子也、此兩賢以來聖學復世ニ明ニシテ、天地ノ

道異端ト混ゼザルコトヲ得タリ、漢儒ノ訓詁詞章ノ學ニ霄壤ス、康永ノ比此風未普ニ本邦、然ルニ此上皇ノ禁誡其聰明卓越、實ニ萬歲ノ賜也、

近至ニ惺窩藤先生講學教授、興ニ斯學於既絕、濂洛關閩之學至レ此始盛、後之學者孰不レ受ニ其賜、

惺窩先生ハ妙壽院也、其傳行狀在ニ羅山集、本朝儒宗傳曰、藤歛夫名肅號ニ惺窩、父曰藤原爲純、定家卿十二世之裔、稱ニ冷泉家、世食ニ邑於播州細川、永祿四年辛酉歛夫生ニ於此、左眉傍有ニ黑點三寸餘、眼有ニ重瞳子、始學ニ佛於禪院、僧徒呼ニ神童、後加ニ冠巾、歸ニ播州、見ニ赤松氏、天正十八年朝鮮使黃吉等來貢、歛夫交ニ筆語、又赴ニ肥州、見ニ豐臣金吾、金吾嘗爲ニ驕泰戲、歛夫諫レ之、豐臣秀吉公征ニ朝鮮、在ニ肥州、源君來會歛見焉、文祿二年再見ニ源君、乃命講ニ貞觀政要、歛赴ニ筑陽、欲ニ適ニ明國、船漂著ニ鬼海島、朝鮮員外郎姜沆來寓ニ赤松氏、歛晤語有レ日、沆歎曰、朝鮮三百年來未聞ニ如レ斯人、吾不幸雖レ在ニ他邦、遇ニ斯人、不ニ大幸ニ乎、本朝只傳ニ漢唐注疏、尠知ニ程朱之說解、者、歛與ニ沆等數輩、勸ニ赤松氏、梓行程朱訓解之四書五經、天下自レ是貴ニ宋儒之

學、羅山文集惺窩ノ行狀ニ、相國寺普廣院泉和尚者先生叔父也、又云、先生祝髮薜首座云號ニ妙壽院、惺窩號、朝鮮刑部員外郎姜沆、稱ニ先生所レ居、爲ニ廣胖窩、先生自曰ニ惺窩、取ニ諸上蔡所謂惺惺法、也、此外稱ニ北肉山人、取ニ艮山之義、艮ニ其背、意背背謂者也、歛夫塔在ニ相國寺林光院、濂洛關閩ハ周程張朱ノ所レ居也、濂ハ濂溪也、洛ハ洛陽、關ハ關中、閩ハ朱子ノ鄉黨也、閩書有ニ朱子傳、四賢ノ行狀伊洛淵源錄、宋史道學傳等ニ詳ナリ、

同時僧文之在ニ薩摩國、講習四書易傳之類、弘ニ學於一方、其功亦可レ稱也、

文之ハ薩州籠嶋臨濟下ノ僧也、四書稱ニ文之點者則其訓讀也、南浦文集三卷其集也、今モ彼國其門流多シト也、一云文之ガ弟子如竹ト云、僧易ノ傳義ヲ板ニ鏤、時時難波ニ來リ、四書ノ集註易ノ傳義ヲ講ズル事數也、聽衆濟濟景慕甚シト云、南浦文集ノ跋ニ云、南浦戲言前建長文之老師薩州之所レ作也、諱玄昌南禪大明祖九世之遠孫而桂庵翁四世之的孫也、老師生ニ于日州南郷外浦、故自名ニ南浦、又東福龍吟庵之門葉也、故其軒號ニ雲興、蓋取ニ于龍吟雲興

之義也、或曰ニ懶雲、或曰ニ狂雲、皆其義也、一方ハ
文選蘇武詩離別各在天一方トアリ、

本朝學原浪華鈔六

治國之道賢能爲源、得賢之方學校爲本、

是ヨリ第五章也、此條及第二條三條ノ初本朝文
粹善相公請レ加ニ給大學生徒食料ニ封事ノ文ヲ取レ
リ、其略曰、治國之道賢能爲源、得賢之方學校爲
本、是以古者明王必設ニ庠序ニ以教ニ德義、習ニ經藝
而叙ニ彝倫、周禮卿大夫獻ニ賢能之書于王、王拜而受
之、所ニ以貴道而貴士也、伏見古記ニ朝家之立ニ
大學也、始ニ於大寶年中ニ所ニ以尊道而勸士、皇朝
之立ニ學校ニ始ニ於淡海帝ニ矣、云云、本邦庠序ノ設ハ
雖肇ニ于淡海帝、其典制ハ夏殷周三代ノ遺風ヲ慕
フ、治國ノ要得賢ノ方、其基ハ不學則不能成ニ
其器、是以上自王畿ニ下至諸州、皆置ニ大學國學、
校ニ有ニ大學小學、雖然不聞ニ本邦別置ニ小學、其
學生在ニ大學者云ニ得業生、在ニ國學者云ニ學生、其
學業依レ器因レ才登用遷代スルヲ云ニ秀士ニ云ニ選士、
云ニ俊士ニ云ニ造士、又有ニ貢士進士之稱、王制曰、命
ノ鄉論ニ秀士ニ升ニ之司徒、曰ニ選士、司徒論ニ選士之秀

者而升_二之學_一曰俊士、升_二於司徒者不_レ征_二於鄉_一、升_二於學者不_レ征_二於司徒_一曰造士、樂正崇_二四術_一立_二四教_一、順_二先王詩書禮樂_一以造_レ士、春秋教以_二禮樂_一、冬夏教以_二詩書_一、王太子群后之太子、卿大夫元士之適子、國之後選皆造焉、射義曰、古者天子之制諸侯歲獻_二貢士於天子_一、天子試_二之射宮_一、事文類聚仕進部云、唐貢士之科有_二秀才_一、有_二明經_一、有_二進士_一、有_二明法_一、有_二書有_二算_一、每歲仲冬郡縣館監試_二其成者_一、又云、其不_レ在_二館學_一而得者謂_二之鄉士_一、又云、進士科始_二隋大中_一、盛_二貞觀永徽之際_一、縉紳雖_二位極人臣_一、不_レ世_二進士者不_レ以爲_レ美_一、其推重謂_二之白衣卿相_一、以_二白衣之士即卿相之資_一也、重_レ之如_レ此、按ズルニ本邦大學ヲ興シ釋奠ヲ頒給フ事ハ、文武帝ノ大寶中也、此事ハ善相公ノ意見ニモ見ユ、サレドモ大寶ノ以前持統帝ノ御宇大學寮ノ名既ニ日本紀ニハ見ヘタリ、拾芥抄ニ大學寮一町、二條南壬生西三條坊門北坊城東トアリ、或云、縱壬生横二條西南角也、又一記ニ二條南朱雀東神泉苑西ト云リ、此寮ノ東西ハ曹局ト稱シテ、菅江ノ書生ノ所_レ居也、南北ハ講堂ニテ講_レ書處也、此寮ハ則式部省ノ属ニテ、文士

登用ノ事モ式部省ノ所_レ知也、東西二曹ノ事菅原道真公以來、菅家ノ秀才掌_二西局_一安_二道真公像_一、東局ハ大江ノ維時以來江家ノ秀才掌_二之置_一維時像_一也、本朝文粹三善清行封事、伏見_二古記_一、朝家立_二大學_一也、始_二大寶年中_一、至_二天平之代_一、右大臣吉備公奉_二勅恢道藝ヲ弘_一、親自傳_二授學生四百人_一、五經三史明法算術音韻籀篆等六道ヲ講ジ、此外諸葛亮ノ八陳ヲ始メ、軍術迄ヲ弘ムト也、平城ノ大同元年ニハ、詔シテ諸王及五位十歲已上皆入_二大學_一給ヘリ、東宮ノ學校ハ別ニアリ、或記云、大學寮ノ衰廢ハ鳥羽白河院ノ御宇ヨリ見ヘテ、足利將軍ノ時ハ一向廢シテ五岳ノ諸僧ニ委スト也、諸國ノ學校モ多ハ退轉シ、或ハ佛寺ト成レリ、藤原氏ノ學問所勸學院モ後ニハ寺ト成テ不_レ改_レ名、今ニ號_二勸學院_一、通ジテ大學國學ノ事ヲ考ルニ、學令義解云、大學生式部補_レ之、國學生國司補、并取_二年十三已上十六以下聰令者_一爲_レ之、大學寮ニハ菅江兩家ノ國子博士アリ助教アリテ、講_レ書教_二諸生_一、天子御讀書始ニハ御註孝經ヲ被_レ用、是ハ唐ノ明皇所_レ注也、又諸州學生大國五十人、上國四十人、中國三十人、下國二十人ノ由、職員

令ニアリ、此外學令ニ諸生ヲ教ルニ、白文素讀ノ熟スルヲ待テ講レ書次第、又熟讀暗練ヲ試ルニハ、試ニ一帖三言、稱シテ千言毎ニ帖ヲ覆一處之三字、令ニ其間讀ノ法アリ、從其一歲ニ限リテ大義ニ通曉スル事、一條二條三條ナドノ試アリ、延喜式ニハ儒書醫書等講筵ノ日限定リ、依ニ卷帙ニ其限異也、其講中ニハ賜^ハ酒^給食^ニ、竟宴ニハ賜^ハ祿^ニ、又講師ノ博士其席ニハ黃^ハ端^ハ茵^ハ、折^ハ薦^ハ茵^ハナドアリ、皇子ノ伴讀者アリ、陪從シテ奉^ハ勵^ハニコソ、諺ニ云入ニ大學ニ者菱角入去^ニ、程子曰、古之士自ニ十五ニ入^ニ學、至ニ四十ニ方仕、中間自有ニ二十五年學、然レバ鷄頭變化ノ效モ自治國ノ要務トナルコト、學ニアルコト可^レ知、神皇正統記曰、詩書禮樂ヲ以テ爲^ニ治^ニ國^ニ四術^ニ、本朝ハ四術ノ學ヲ被^レ立事不^レ慥、紀傳明經明法ノ三道ニ詩書禮ヲ攝スベキニコソ、筭道ヲ加ヘテ爲^ニ四道^ニ、又按ズルニ凡ソ諸州ニ博士ヲ置テ、學校ニシテ書生ヲ講習シ、俊邁成業ノ者アレバ、貢^レ之令^ニ仕例也、文武紀ニ遣^ニ明法博士於六道^ニ、^{海西講ニ}新令ニ事アリ、律令格式ハ政道ノ大本ナレバ、博士ヲ遣シ天下ニ施行シ令

講^レ之、庶民ニ其法令ヲ知セ給リ、從^レ是後ハ其國司ト與ニ博士諸州ニ下向シ、年秩交替セリ、任限ノ開其國ノ書生ニ講習シ、庶民ニ說與シ侍ラン爲ト也、大抵下向ノ博士一人學生五人ト見ユ、皆六經等ヲ教授シテ成業ノ者アレバ考^ニ選^ニ之、其國中ニ於テ翹楚アレバ國師ニモ任ゼシ事アリ、六十餘州多^ニ檄^ニ島ニ至テモ學校アリ、續日本紀ニ國博士其處ニ無^ニ其人^ニ、則大學寮ノ書生ノ中ヲ撰テ可^レ下由見ヘタリ、廢帝紀ニハ學生六百七十餘人ニ布絹ヲ賜事アリ、其盛事可^レ知、國學博士ノ年限ハ四年五年ノ交替國ノ遠近ニ依テ也、權ノ博士モアリ、光仁紀曰、太宰府言、日向大隅薩摩及壹岐多^ニ檄^ニ等博士醫師一任之後終^ニ身不^レ替、所以後生之學業不^レ進、乞同^ニ朝法ニ八年遷替以示^ニ千祿^ニ、永勸^ニ後學^ニ許^レ之、延喜式部省式ニ日向大隅薩摩壹岐對馬及多^ニ檄^ニ島等博士醫師事詳也、文武紀曰、下^ニ制曰、依^レ令國博士於^ニ部內及傍國^ニ取用、然溫^レ故知^ニ新希^ニ有^ニ其人^ニ、若傍國無^ニ人^ニ採用^ニ則申^ニ省、然後選擬吏請^ニ處分^ニ、又有^ニ才堪^ニ郡司^ニ、若當郡有^ニ三等已上親者^ニ聽^ニ任^ニ比郡^ニ、此說ヲ見レバ學生ノ中ヨリ郡司ニ任ズル事アリ、元

正紀曰、勅按察使所^{アゼチ}治之國、補^ニ博士醫師、自餘國博士並停^レ之、由^レ是^テ按ズレバ此御宇ノ比ヨリ、大學寮ノ博士下向任限ノ政停テ國學生ノ貢士ヲ以國師^ニ被^レ用ニヤ、又永停リシニヤ、總テ本邦儒宗ノ國師號ハ始^ニ於菅原爲長^一也、後深草帝ノ勅許ト也、續日本後紀曰、太宰府言、謹按去神龜五年八月九日格云、博士總^ニ三四國^一一人、醫師每^レ國一人、又寶龜十年六月七日格云、去閏五月廿七日奏稱、博士醫師兼^レ國者、學生勞^ニ於齋^一糧、病人困^ニ於救^一療、望請每^レ國各一人并以^ニ六考^一遷替立爲^ニ恒式^一、此奏言ノ趣ヲ見レバ每州ノ博士ハ停リテ、或ハ一人數國ヲ兼教ヘシ事稍國學ノ廢ル始ニヤ、孝謙紀曰、勅曰^{キナラフ}如聞頃年諸國博士醫師多非^ニ其才^一、託請得^ニ選非^一唯損^ニ政、亦無^レ益^レ民、自^レ今以後不得^レ更然其須^レ講、經生者三經、傳生者三史、醫生者大素甲乙脉經本草、針生者素問針經、明堂脉決、天文生者天官書漢晉天文志、三色薄讚、韓陽要集、陰陽生者周易新撰陰陽書黃帝金匱、五行大義、曆算生者漢晉律曆議九章六章、周髀、定天論並應^ニ任用^一ト、國學生ノ事業昔ノ盛隆可^レ思、又稱德紀曰、太宰府言、此府人物殷繁天

下之一都會也、子并之徒、學者稍衆而府庫但蓄^ニ五經、未^レ有^ニ三史正本^一、涉獵之人其道不^レ廣、伏乞列代諸史各給^ニ一本^一、傳^ニ習管內^一以興^ニ學業^一、詔賜^ニ史記漢書後漢書三國志晉書各一部^一ト、想^フニ國學ハ皆國府ニ在テ國司其事ヲ監セシニヤ、諸州學校ノ衰廢ハ仁明紀ニ其端見ヘテヨリ、何トナク或ハ博士一人ヲ以數國ヲ兼シヨリ、諸生負^レ笈擔^レ糧勞^ニ哀ミテ、又每州ニ博士ヲ被^レ置事モアレド、遂ニハ遺址モ不^レ知ニ至レリ、延喜天曆ノ比迄ハ國學存セシ由或記ニハ侍レド、ソレヨリサマデ再興ノ事モ不^レ聞、加^{シカノナラマ}旃或ハ勸學院、非學院、學館院、文章院、弘文院ノ盛事皆陵夷シ、又ハ石上宅嗣ノ芸亭、石川氏ノ書舍、菅家ノ書齋、藤賴長ノ文庫、金澤ノ文庫、足利ノ學校、其餘ノ書舍、書倉、書府、書庫、書室、書房、書巢、芸亭、芸閣、綜藝、種智院ナドノ類、其草創ノ旨趣其世ノ盛事國記ニ散在ス、然レドモ衰運ニツレテ其遺址僅ニ金澤ノ文庫、足利ノ學校ノミ聞ユ、太宰府ノ學校ハ稱^ニ學業院^一、右件諸庫ノ藏書和漢ヲ兼集シテ、歲月ト共ニ爲^レ堆一庫ト云フトモ、田偉ガ博古堂ノ藏書七萬五千卷ヲノミ謂乎、故家ノ壁藏、好事

ノ帳中東觀ノ秘、昭陵ノ殉、或傳記ノ哀集、或ハ鈔錄ノ殘賸、今更想像侍ル、經ニ兵燹ニ庫絕書亡ノ暗夜ト成レリ、今也有レ漸何不_レ思_レ舊復_レ乎、

是以古者明王必設_ニ庠序_一、以教_ニ德義_一、習_ニ經藝_一而叙_ニ彝倫_一、所_ニ以尊_レ道而勸_レ士也、

古明王ハ天智帝以降好_ニ學諸生ヲ惠_ミ給_フ類ヲ云、經藝ハ經書六藝ヲ云、吉備公ノ文通ニ諸藝ヲ兼教シ類也、彝倫ハ五倫也、都テ學校ノ設人倫ノ道ヲ明ニシ、行有_ニ餘力_一則以遊_ニ於藝_一モ、是唯明王ノ御身ニ行ヒ、御心ニ得給_フ餘風ニ本ツケ給_フコト也、上行ヒ下效_フ君子ノ德風蒼生何_レ不_ニ靡然_一乎、此條亦封事ノ文前ニ注ス、

皇朝之立學校一始_ニ於天智天皇_一矣、持統天皇五年賜_ニ大學博士上村主百濟大稅一千束_一、以勸_ニ其學業_一也、七年賜_ニ食封三十戶_一以優_ニ儒道_一、

此條首十三字ハ上ニ所_ニ引_一ノ封事ノ文也、天智帝創_ニ庠序_一事序注ニ記ス、然_レトモ此舉不_レ見_ニ本紀_一、蓋史ノ脫漏ニシテ在_ニ懷風藻_一、本紀賜_ニ大學博士上村主百濟大稅一千束_一、以勸_ニ其學業_一也、又賜_ニ音博士大唐續守言薩弘恪書博士百濟末士善信銀一人二

十兩、又賜_ニ音博士續守言薩弘恪水田_一八四町、又賜_ニ大學博士勤廣貳上村主百濟食封三千戶_一以優_ニ儒道_一トアリ、上村主トハ姓尸也、百濟ハ其名也、大稅ハ正稅也、食封ハ采地也、三十戶ハ采地ノ民戸也、故ニ食封ノ二字ヲ訓_ニ邊比止_一、戸字亦訓_ニ邊也_一、此人叙_ニ勤廣貳_一是本邦ノ古爵也、天武十四年正月、改_ニ爵位_一所_ニ增_一加階級、諸臣ノ階級ノ中也、都テ本邦ノ爵位ハ推古帝ノ時、厩戸皇子制_ニ十二階_一以降、孝德天智天武文武等皆爵品改正ノ事アリ、各本紀ニ見ユ、今世ノ冠位ハ文武帝大寶元年之制、而稱_ニ十四階十八位_一是也、

至_ニ天平之代_一、右大臣吉備朝臣眞備恢弘_ニ道藝_一、親自傳授、即令_ニ學生四百人習_ニ五經三史明法筭術音韻籀篆等六道_一、

此條ヨリ下充_ニ學生ノ口味料_一ト云迄ハ、全用_ニ善相公意見文_一、天平ハ聖武帝ノ年號也、聖武帝ハ文武帝ノ太子、母ハ藤原夫人宮子ト申キ、贈太政大臣不比等ノ娘也、吉備公見_ニ子前_一、儒家ニシテ登_ニ三公_一者吉備與_ニ菅神_一而已、恢弘ノ字ハ孔安國尙書序、典謨訓誥誓命之文凡百篇、所_ニ以恢弘_一至道_一示_ニ人主_一

以^中軌範也トアリ、五經ハ易書詩春秋禮記也、三史ハ司馬遷史記・班固前漢書・范曄後漢書也、明法ハ四道博士ノ其一法曹家ニシテ、掌^二律令格式等刑書^一、是明^二法禮^一ノ職也、筭術モ亦四道ノ其一ニシテ筭道ヲ掌^レリ、音韻ハ音書ノ類四聲開合等ヲ辨知スル事也、籀篆ハ古文也、黃帝ノ臣蒼頡因^二鳥跡^一作^レルヲ蝌蚪ノ字古文ト云ヒ、周宣王ノ臣史籀ガ作^レルヲ稱^二大家^一、

其後代代下^レ勅給^二罪人大伴家持^一、越前國加賀郡沒官田一百餘町、山城國久世郡公田三十餘町、河內國茨田^{イナ}澁川兩郡田五十五町、以充^二生徒食料^一、號曰^二勸學田^一、其後代代ハ日本後紀ニ、孝謙帝ノ天平寶字元年大學寮田二十町被^レ置、其後生徒稍衆費不足、又桓武帝延暦十三年冬十月、越前國水田一百二町ヲ加ヘテ總テ百廿餘町ヲ號^二勸學田^一、大學寮ノ費ニ所^レ供ケル類也、家持ハ拾芥抄云、大納言旅人男從三位中言征夷大將軍、或云正暦四八死、寶龜十一參議延暦二十七年中納言、按ズルニ家持ノ遠祖ハ天忍日命ニシテ、神武帝ノ御宇道臣命ヨリ來^レリ、萬葉集二十、綠^二淡海真人三船之説^一出雲守大伴古慈悲宿禰

解任、是以大伴家持喻^レ族長歌一篇アリ、其全篇大伴祖神天忍日命ノ事ヲ演タリ、後世淳和帝ノ御諱ヲ避テ大伴ヲ訓^二止毛^一故實也、忍日命ハ天神ノ屬ニシテ、與^二久日遠祖大來目命^一、爲^二皇孫尊^一前驅セシ神也、歷史略評註家持父旅人祖大伴安磨也、聖武時以^レ詞被^レ寵、家持卒後廿餘日、大伴繼人竹良等數人中納言藤種繼ヲ殺ス、是桓武ノ寵臣也、因^レ玆家持モ連坐セラレテ官爵ヲ所^レ削ト也、罪人トハ連坐ニ遇フノ故ナリ、沒官田トハ家持之舊官田ナレバ也、久世郡公田トハ正稅田ノ事也、勸學田ノ事ハ學生ノ食味料或ハ雜用料也、延喜式等ニ載テ世加增多シ下ノ章ニ見ヘタリ、按ズルニ此沒官田山城河內ノ勸學田ノ事ハ主稅式ニ不^レ見、大學寮式ニモ不^レ槩、別ニ有^二出據^一乎、但式文ニハ山城國久世郡ニ七町學生ノ食料アリ、又同郡ニ一町ノ菜圃アリ、而河內國五十町ノ事不^レ見、但越中播磨山城墾田准^二鄉價^一賃租^二以充^二學生食^一トアリテ、都テ八十町ニ餘^レリ、此事後世ノ沿革アルニヤ、賃租ノ事田令義解云、田限ニ一年賣^二春時取^一直者爲^レ賃也、與^レ人令^レ佃、至^レ秋輸^レ稻爲^レ租、卽今所謂地子者是也、同

令曰、田長三十步廣十二步爲段、十段爲町、段租稻二束二把、町二十二束、義解段地獲稻五十束、束稻春得米五升、拾芥抄ニ稻十把爲束、亦每日給大炊寮飯一石五斗、人別三升五十人料以補照讀之疲也、

大炊寮ハ宮内省ノ屬ニシテ、舊内裏ノ時大膳職ノ南神祇官ノ北郁芳門ノ大路ニアリ、諸國ヨリ所貢ノ雜穀ヲ此寮ニ收テ諸司ヘ配分セリ、此外諸國御稻田トテ、天子東宮中宮ノ供御ニ用ル稻ヲ諸國ヨリ別ニ當寮ニ輸セリ、又神田トテ諸州ニ神供ニ獻ル稻アリ、何州何社ニ稻何束ト定テ、刈收テ是ヲモ當寮ニ貢スルヲ其社ノ祭奠ニ當ル時神供ニ獻ル事也、七十一代後三條帝ノ時七道ニ至テ王城ヲ去ル事遠ケレバ、運送ノ煩アリトテ、五畿内ニ御稻田ヲ被定、皆以當寮ノ所掌也、頭一人此寮ノ長官也、相當從五位下也、助一人次官也、相當從六位上大允小允ハ判官也、相當從七位上也、大屬小屬各一人此寮ノ主典也、從八位上ト大初位上也、此寮ヨリ學生ノ飯料ヲ繼シニヤ、按ズルニ大炊寮式ニハ、諸得業生人別日學生五十人トアリ、大學寮式云、凡官人已

下月料米前月廿五日受大炊寮、其闕官不仕料充寮中雜用、凡寮家月料米、不更待口宣、而受之、又有勅令常陸國每年舉稻九萬四千束以_ニ其利稻、充寮中雜用料、又舉丹後國稻八百束以_ニ其利稻、充學生口味料、

又有勅トハ同帝歟、或後朝歟未詳、上文有代代也、舉稻トハ公田正稅ヲ出舉シテ、國司預借之也、舉丹後國稻八百束ト云ル舉ノ字亦同意也、利稻トハ出舉稻ノ息利也、江次第云、出舉十束稻加_ニ利稻三束、春時出舉秋收納之ト侍ル類也、雜用料トハ紙筆燈油浴湯等ノ如キ是也、口味料トハ酒肴菜料也、又常陸丹後ノ雜用料ノ事ハ、出主稅式、又大學寮式凡常陸國稱稻五萬四千束、近江越中備前伊豫等各一萬束、預國司出舉以_ニ其息利、春米並交易輕物、毎年附貢調使送納充_ニ於寮家雜用、若有未進移主計寮拘返抄、又云丹後國稻八百束、預國司毎年出舉以_ニ其息料、交易味物、送寮充_ニ學生等菜料、按ズルニ前條常陸近江越中伊豫ノ舉稻ヲ合スレバ九萬四千束歟、

延喜之代、諸國有學校田及勸學田、

延喜ハ醍醐帝ノ年號也、此帝ハ宇多帝第一ノ皇子、母ハ藤原胤子ト申キ、中納言高藤ノ娘也、世醍醐與ニ村上ニ爲ニ一雙聖主、而此帝儉約ヲ守リ、民烟ノ豐ナルヲ高樓ニ望給シ事ハ本紀ニアリ、其寒夜ニ脱ニ御衣給事ハ不見、御衣ノ事ハ古事談ニハ一條院此事坐ス由ヲ記シテ、延喜帝モ如レ此聖慮御坐ケル由相列テ書タリ、學校田ハ庠序雜用田也、勸學田ハ口味燈油等學生ノ雜用歟、已上ハ諸國ノ學校ノ事也、

大學寮料常陸國五萬四千束、越中國一萬束、丹後國八百束、播磨國一萬五千束、備前國一萬一千束、學生料上野國一萬束、陸奥國四千束、播磨國一萬五千束、出羽國學生食料二千束、

常陸丹後學生料ハ前ニアリ、越中ノ一萬束ハ主稅式ニ出タリ、播磨ノ一萬五千束、又ハ備前ノ一萬一千束モ同式ニ見ユ、是迄ハ學生料ニシテ雜用也、上野一萬束、陸奥四千束、播磨一萬五千束、出羽國ノ國學生ノ食料二千束モ亦主稅式ニアリ、此外大學寮式ニ越中礪波郡、播磨印南郡食田段町ノ數山城久世郡ノ菜圃アリ、又備前ニ年中食料鹽ノ事アリ、

按ズルニ善相公ノ意見ニ大伴家持之加賀郡ノ沒官田モ承和年中ニ伴善男訴ニ家持無罪返給、山城國久世郡ノ三十町ヲモ爲ニ四分一テ、其三分ハ給ニ典藥左右馬三寮、又河內國ノ茨田澁川兩郡ノ田モ遭ニ洪水ニ成ニ大河、又常陸丹後ノ舉稻減ジテ無ニ利稻、唯所ノ遺ハ大炊寮ノ飯料ト山城國久世ノ遺田而已ナレバ、緣海國坂東國充ニ給ヒテ、常陸丹後出舉稻ノ九萬八千八百束ノ利稻、二萬八千四百三十束ノ代リヲ充給ヘト侍レバ、大學寮墾田ノ食料ハ此封事以後ノ定ヲ延喜式ニハ載スト見ヘタリ、緣海道トハ西北南海邊ニ近キ國ヲ云也、伴善男ニ返シ給ヘル沒官田モ依レ舊又勸學田ニスベシトモアレバ、是モ其代リヲ今式文ニハ載タルニヤ、此事猶識者ニ可レ質、

諸氏子孫咸下ニ大學寮、令レ習ヲ讀經史、學業足レ用量才授レ職、國貢學生准ニ得業生、

此條ハ得業生ノ事也、其入學ノ條條注レ前、國貢ノ學生ハ選士貢士也、得業生ハ大學寮四道ノ諸生ニシテ、其家業アリテ初ヨリ得業學生ナレバ得業生トハ云也、大學寮式ニモ凡得業生者補了更學七年、

已上不_レ計_二前年_一、待_二本道博士學_一錄_ト可_二課試_一之
 狀_上申_レ省、國貢學_トアリ、此文ノ意ナレバ得業生ハ
 先初ニ補_レ之シテ學_レ者也、注ニ國貢學生准_レ此ト
 云ハ、諸國ノ貢士モ其學器ニヨリテ授_レ職、故ニ准
_レ此トハ云ニヤ、申_レ省トハ式部省ニ申ス也、式部省
 ハ學生ノ考選ヲ掌ル事前ニ注ス、

本朝學原浪華鈔七

釋奠者先王所以奉_レ聖欽_レ賢崇_レ師重_レ道之大典也

是ヨリ第六章也、此一條ハ本朝文粹菅三品文時仲
 春釋奠毛詩講後賦_三詩者志之所_レ之、其發端ノ全文
 ヲ取_レリ、凡此奠ハ春秋二八月奠_二孔子十哲_一之禮、
 而延喜式江次第公事根源等ノ所_レ記詳也、釋奠ハ
 學令義解云、釋_レ菜奠_レ幣也、是禮王制語也、釋_レ菜テ
 奠ル故釋菜トモ云也、禮文王世子云、凡始立_レ學者
 必釋_二奠于先聖先師_一、及_レ行_レ事必以_レ幣、賸餘錄云、
 釋奠議斯道肇_二於堯舜_一、衍_二于禹湯文_一武周公、而
 折_二衷于孔子_一、然則由_二堯舜_一而下、皆合_二祀于天子之

學_一、奉_レ聖欽_レ賢崇_レ師トハ先聖ハ文宣王ヲ奉祀シ、
 賢ハ十哲ヲ配祀シ、師ハ以_二顏淵_一爲_二先師_一、故先聖
 十哲ノ稱呼アル也、詳見_二子下_一、

藤原朝臣萬里詩、天蹤神化遠、萬代仰_二芳猷_一、是也、

此詩出_二懷風藻_一、本朝一人一首曰、藤原萬里淡海公
 四男、其長子武智磨最尊、然其詩不_レ傳、房前_二宇合_一、
 萬里昆弟三人、并載_二懷風藻_一、可_レ謂_二連珠合璧_一也、

又曰萬里自稱聖代之狂生也、樂琴酒以隱淪終身、其所作并序文皆不尋常、過神納言墟、則慕彼忠諫、侍釋奠、則歎仲尼不用子時、遊吉野川、則有俗塵離避之意、想夫其文才與字合、可伯仲也、懷風藻從三位兵部卿兼左右京大夫藤原朝臣萬里五首、萬里一本作鷹云云、其五首中五言仲秋釋奠ノ詩ニ、運冷時窮、蔡、吾哀久歎、周、悲哉圖不出、逝矣水難留、玉祖風蘋薦、金罍月桂浮、天蹤神化遠、萬代仰芳猷、所謂聖代狂生ノ自稱琴酒ノ樂、隱淪ノ風致ハ暮春於第園地、置酒詩序ニ詳也、過神納言墟詩吉野川詩共ニ五首中也、神納言ハ大神高市麿ノ事也、其德行ヨリ得タル令名也、文武天皇大寶元年二月丁巳釋奠、釋奠之禮於是始見矣、

大寶ハ本邦年號ノ始也、前此孝德帝大化白雉ノ號有、各五年ニテ齊明天智ノ兩朝並ニ無年號、十七年、天武ノ御宇ニ白鳳十四年アリ、但此大寶ヨリ連綿シテ不絕、故爲年號始、山崎氏改元考可改見、續日本紀曰、三月甲午對馬島貢金建元爲大寶元年、改元ノ例ニ有三故、或甲子、或卽位、或祥瑞、凶

歲等是也、多ハ嘉瑞吉兆ニ遇毎ニ必取テ其嘉ヲ號レ年、各文字考據アリ、然ルニ諸儒ノ論ヲ訂スレバ、元ハ始ニテ一人ニ始無レバ一帝一元ニシテ不易ヲ至當トハスベキニヤ、又一種歷代記所載ノ外ニ俗間唱來ル年號アリ、或善記、或正知教到、或僧聽明要遺樂等ノ類麗氣記抄ナドニ有レ之、不知其所以據、蓋無稽ノ言也、江次第二年號ノ文字ヲ定ル法アリ、縱ヘバ天正ハ天一止大業ハ大若未等ノ類也、或雜書ニ年號ノ始ハ武烈帝ノ時善紀アリ、欽明十三年ヲ貴樂元年ト記シ、又ハ厩戸皇子ハ金光三年ニ誕生シ、倭童四年二月五日ニ薨ズナド記セリ、清輔與義抄ニ天平感寶元年此ヲ號ニ年中改元、仍不載年代曆、此年號在萬葉集ト、由是觀レ之、年代曆ノ外間見ヘタル年號ハ、若或ハ年中改元ニシテ天變地妖等ノ厭勝ニ假ニ建タル者乎、サレバコン天平感寶モ萬葉集ノ外卒ニ歷史正記ニハミヘザル也、

聖武天皇天平二十年八月癸卯、改定釋奠服器及儀式、大學寮釋奠十一座二座、先聖文宣王從祀九座、閔子襄仲弓冉有季路宰我凡諸國春秋釋奠、先聖先師二座、我子貢子游子夏

按ズルニ聖武帝已前文武・元明・元正ノ三朝釋奠ノ儀式其全文未レ詳、簡粗ナルヲ以至聖武帝吉備公入唐以後改メ正之者乎、元正紀ニモ令檢校造器二司造釋奠器、充大膳職大炊寮トノミ有レ之、延喜式ニ大學寮ノ釋奠式アリテ、先聖先師十哲十一座トシ、雜式ノ諸國釋奠式ニモ先聖先師或ハ太宰府ニハ関子ト共ニ三座トアレバ、是モ聖武ノ時ノ改正ヲ記セル也、按續日本紀、元正天皇靈龜元年勅立遣唐使、多治比縣守爲正使、藤原宇合爲副使、吉備公此時稱下道眞備二十三歲也、阿倍仲麿十六歲共爲學問入唐ス、養老二年十二月正使副使等歸朝、吉備公仲麿ハ猶留學、而聖武帝天平七年三月多治比廣成歸朝ノ時、眞備モ同船シテ歸國シ、此時書籍名器孔子十哲像ヲモ齋來レリ、在唐二十年ニ及ベリ、其後天平二十年八月釋奠服器及儀式ヲ改正ス、江次第裏書或記曰、吉備大臣入唐持弘文館之畫像來朝、安置太宰府學業院、太宰府學校也又命百濟畫師奉圖彼本置大學寮、又云仁平三年八月台記、先聖先師九哲像巨勢金岡、以唐本所奉圖繪也、而年序久積破損尤多、仍所被修復也、其用

途料依本寮請奏可レ召諸國云云、仁平ハ近衛院ノ年號也、通鑑綱目集覽曰、古釋奠山川廟社學宮統言レ之、唯宋以儒立國、獨先聖之祭曰釋奠、所以別群祀也、陳祥道云、釋奠日用上丁、丁陰火也、火象文敎宣明、曲禮曰、內事以柔日、故取陰火也、江次第曰、寛治五年八月上郷俊實卿稱未レ行神事、以釋奠准神事行レ之、人不爲可、云云、由是テミレバ昔ハ雖聖祀混神事、則不爲可ナリ、江次第又曰、釋奠用上丁、案禮意用上丁欲令學問志丁狀也、上者事始也、中者盛也、至下丁得衰老氣似不可用也、上中有障不可享、故上古無下丁之例、一云若日蝕國忌故又當祭用上丁、本朝佳節錄二月條曰、釋奠二月上丁八月上丁祭孔子顏淵等御影也、古者京師大學寮諸國學校皆行レ之、見延喜式祭孔子有祝文、祭顏淵等有二小祝文、見朝野群載藤原兼良公曰、明日以釋奠糝盛賜群臣等、稱曰聰明、言食之令入聰明也、耀天記曰、吉備公在唐寫得孔子顏淵等御影、會遣顏淵御影而歸朝、一日其御影昇空飛來、國人大神レ之、世衰道微諸國學校荒廢不修、

保延元年七月

藤原敦光勸文、學天下衰弊所由來、大學寮亦顛倒、然金岡

曰依學校廢也、觀此則其廢久矣、大學生寮亦顛倒、然金岡

所圖之御影不滅、二仲於此所祭之、見園太曆應

仁大亂以後寥寥不聞、至於永正年中、夫子廟存

基址、在三神泉苑西北茶園中、見水記、夫學校者教

道明人倫之地、處處不可無也、於此行釋奠

報師恩不可不行之、季世學校之政不復教化

陵夷、人惟見利而不聞義、不知釋奠名者衆

矣、哀哉、先聖論號、公事根源云、我國釋奠ハ

文武大寶元年二月ニ始ル、又神護景雲二年ニ孔宣

父ヲ改テ文宣王ト申ス由、弘仁格ニ見ヘタリ、昔ハ

周公ヲ先聖ト云ヒ、孔子ヲ先師ト云、唐太宗貞觀二

年ニ改テ孔子ヲ先聖トシ、顏回ヲ先師トスト、通鑑

曰、唐太宗貞觀二年、房玄齡議而以孔子爲先聖、

以顏回爲先師、愚按ズルニ孔子ニ諡シ文宣王ト

スルモ、唐玄宗開元二十八年也、本邦從之ハ稱德

帝ノ御宇膳臣大丘ガ奏ニヨリテナリ、大丘ハ膳臣

六鴈ノ裔ニシテ、其先出自孝元帝、大學ノ助教タ

ル時件ノ奏アリ、學令集解云、開元令云、釋奠爲

中祀、州縣釋奠亦準小祀例、神護景雲二年七月卅

日官符云、應改孔宣父號爲文宣王事、右得式

部省解、稱大學寮解稱助教正六位上膳臣大丘牒稱、

天平勝寶四年大丘隨使入唐、問先聖之遺風膠庠

之餘烈、國子監有西門、題曰文宣王廟、時國子學

生程覽告大丘曰、今主上大崇儒範、追改爲王、

風德之徵于今至矣、然准舊典猶稱前號、誠乖

崇德之情、失致敬之理、大丘庸闇聞斯行請、敢

陳管見以請明斷者、勅號文宣王、今依所牒

謹請省裁者、案解狀理須必然、方行其教合

旌厥德、後天奉天時蓋謂之乎、仍顯改由

請官裁者、官議奏聞奉勅依奏、續日本紀廿九

モ此事アリ、學令義解云、宣父是孔子諡也、法施不

有曰宣也、通鑑綱目孔子爲文宣王、下ノ注ニ先

是祀先聖先師、周公南向孔子東向坐、制自今孔

子南向坐被王者服、釋奠用宮懸、贈弟子爲公

侯伯トアリ、歷代贈諡闕里志ニ詳ナリ、又文宣王

ノ號非禮ナルコト明ノ張孚敬ガ疏論之詳矣、是亦

闕里志ニ見ユ、通鑑綱目唐玄宗孔子ヲ爲文宣王

下ノ發明ノ說モ可考知コト也、羅山集曰、足利學

校ノ聖像ハ木像也又畫像アリ、中ハ孔子左ハ子路

右ハ顏子也、又云前亞相源敬公ノ諡ニ左ハ閔子騫

ナルベシ、太宰府聖像孔子ト関子騫也、愚按ズルニ
十哲ノ中闕ミ曾子ニ論語ノ四科ニ不レ入故歟、
是日命ミ君子之儒、講レ書賦詩、

是日ハ當日上下丁中丁也、奠畢テ講レ書賦詩、其古禮
ハ大學寮式ニ是日講論式一篇アリ、都堂院ニシテ
皇太子ヲ始式部卿已下列座尤嚴重也、而五經論語
孝經左傳等ヲ巡年ニ講ズル事也、問難者アリ然文
章博士隨ニ上宣獻題、文人賦詩、此間明經明法
算道等博士率ミ學生ニ論義、其後文人獻詩改座テ
讀畢テ群官散去スト也、古ノ二八月釋奠ノ日ノ佳
作詩集文粹等ニ多シ、

及ミ仁明天皇、釋奠翼日召ミ明經儒士並弟子於紫宸殿、
解ミ釋疑義、累代相傳以爲ニ流例、

釋奠翼日講論爲ニ流例トハ、續日本紀ニ出タル說
也、仁明帝ノ實錄ハ續日本後紀也、紫宸殿ハ拾芥抄
曰、紫宸殿俗云ニ南殿、九間四面庇、天曆御紀云、紫
宸殿秦川勝宅所ト、按ズルニ此殿ハ天子御卽位其
外大禮ヲ被レ行正殿也、或云宸ハ室ノ奥也、象ニ紫
微宮、故號ニ紫宸殿、左近櫻右近橘モ此殿前ノ東西
ニアリ、一記云、紫宸殿板敷也、四方椽也、賢聖障子

アリ絹モテ張レ之、御椽ノ杉戸繪アリ、東西十一間
南北八間半此外椽也、南面也、元日禮卽位等儀式皆
以用此殿、公事根源ニ釋奠ノ翼日先聖等ニ所レ奠
ノ昨ヲ班ト云事アリ、藏人勤レ之也、天子ニモ朝餉
ノ上ニテ奉レ之、此事後醍醐年中行事記ニ釋奠ノ昨
文字ヲ長ク云テトアレバソウト唱フル名目ニヤ、
又年中行事歌合、家尹朝臣此事ヲヨメル奠セシハ
月ノ御饌ヲトリ別テ君ニソナフル今日ノ昨、同釋
奠ヲヨメル二位中將「唐人ノカシコキ影ヲウツシ
留テ聖ノ御代ト今日奠ル哉、」此カシコキ影ハ則聖
像也、以テ奉レ比ニ時帝ニ祝也、

清和天皇貞觀二年、依ミ播磨國博士和邇部臣宅繼申
請、新修ニ釋奠式、頒ミ下七道諸國、

清和天皇ハ五十六代ノ天子ニテ、文德帝ノ太子御
母染殿后藤原明子ト申キ、太政大臣良房娘也、和邇
部臣ハ新撰姓氏錄曰、和安部朝臣同祖彦姥津命四
世孫矢田宿禰之後也、續日本紀合、私言和安部朝臣
祖大春日朝臣、同祖則出自ニ孝昭天皇皇子天帶彦
國押人命、類聚國史曰、類聚三代格云、媛女養田在ニ
近江國和爾村、山城國小野郷、今小野臣和邇部臣等

既非_二其氏_一、被_レ貢_二媛女_一、熟搜_二事緒_一、上件兩氏食_二人利田_一、不_レ願_二恥辱_一、拙吏相容無_レ加_二督察_一也、亂_二神事於先代_一、穢_二氏族於後裔_一、云云、和邇部氏ノ奏請ノ事ハ清和實錄曰、新修_二釋奠式_一、頒_二下七道諸國_一、先_レ是播磨國博士正八位上和邇部臣宅繼請云、謹案大唐開元禮大學國學州縣各有_二釋奠式_一、今此間有_二大學式_一、無_二諸國式_一、所_レ謂大學式則因_二順開元禮_一、大學國子之式具_二載奠祭之儀_一、明_二定進退之度_一、又云若上丁當_二國忌及祈年祭_一、改_二用中丁_一者、如_二此等事_一、未_レ有_二施行_一、凡厥諸國相犯者多、或稱_二大學例_一、用_二風俗樂_一、或據_二州縣式_一、停_二止音樂_一、唯任_二人心_一、遂無_二一定_一、夫尊_レ師之道誠須_二嚴整_一、如_レ在之禮豈合_二參差_一、望請被_レ賜_二件式_一、以爲_二永鑒_一、勅依_レ之ト、由_レ是テ思_レハバ聖武帝ノ御宇大學寮式ノミ定リテ、國學式ハ清和帝以來歟、延喜式ニ載ル國學式ハ取_レ之乎、又按ズルニ頒_二下釋奠式_一、七道ノ諸國トナレバ、山和河泉攝ノ國ハ王畿故ニ大學寮式ヲ齊シク用タルニヤ侍ラン、圖書編日本國考ニ、正徳六年宋素卿永壽來貢求_レ祀_二孔子_一儀注_上不_レ許トアリ、此比ハ後柏原帝ノ御宇ノ事ニシテ、大永三年ニ細川高國商

船ヲ明國ニ遣ス、宋素卿ヲ使トス、素卿ハ本明人也、投化シテ細川政元ニ親ミ、法住院殿ヘ謁シ、高國ガ使价トシテ明ニ至リ、歸朝シテ高國ニ属ス、此時大内介義興モ周防ヨリ商船ヲ明ニ渡ス、其使ヲ宗設ト云リ、寧波府ニシテ兩使先後ヲ爭ヒシ事アリ、此時大内氏書籍珍器ヲ求ムト云ヘリ、高國モ釋奠儀斷絶セルヲ以テ明ニ請求メシニヤ、凡二月八月上丁進_二三牲_一、大鹿小鹿猪各一頭加_二五藏_一及兔、若在_二祈年春日大原野園韓神等祭之前_一、及與_二祭日_一相當、停_レ供_二三牲等_一、代_レ之以_レ魚、其魚鯉鮒之類鮮潔者、此式條之所_レ定也、

此條ハ大學寮釋奠式ノ文ヲ取_レリ、式文云、三牲大鹿小鹿豕各加_二五藏_一、兔醢、右六衛府別大鹿小鹿豕各一頭、先_レ祭一日進_レ之以充_二牲_一、其兔一頭先_レ祭、三月致_二大膳職_一、乾曝造_レ醢祭日辨貢、其貢進之次以_二左近_一爲_二一番_一、諸衛輪轉終而更始、又云凡諸衛所_レ進之牲若致_二腐臠_一、早從_二返却_一、令_二換進_一之、又云凡享日在_二園韓神並春日大原野等祭之前_一、及與_二祭日_一相當、停_レ用_二三牲及兔_一、代_レ之以_レ魚、其魚每_レ府令_二進_一五寸以上鯉鮒之類五十隻鮮潔者、又云凡魚醢者大膳職造備

臨祭辨_ニ貢_ニ之、雜式諸國釋奠式曰、若上丁當_ニ國忌及祈年祭、改用_レ中其諒闇之年雖_レ從_ニ吉服_ニ一從_ニ停止_ニ三牲ハ大牢小牢豕也、是皆異國ノ禮也、祈年祭ハ二月四日也、延喜四時祭式上、祈年祭神三千一百三十二座、國司祭祈年神二千三百九十五座トアリ、此祭ハ於_ニ神祇官_ニ豫年穀成熟豐年ヲ式内ノ諸神_ニ祈請スル謂也、諸國トテモ此祭アリテ國司ノ任也、祈年ノ二字ハ詩雲漢篇ニ祈_レ年孔夙、集傳祈_レ年孟春祈_ニ穀于上帝_ニ孟冬祈_ニ來年于天宗_ニ是也、月令ニモ天子乃祈_ニ來年于天宗_ニトアリ、八月又祈年穀奉幣ト云事アリ、月令ニ祈年事元日祈_ニ穀于上帝_ニト見ヘタリ、公事根源祈年祭は太神宮以下三千一百三十二座神ヲ祭也、其所不_レ慥モアリ、國國ニ各幣ヲ付ラル諸國ニモ祈年祭ヲ行也、周禮祈年ハ豐年ヲ求ル也ト見ヘタリ、神祇官ニテ被_レ行辨預ヨリ諸國ノ召物ヲ催シ調フ、白猪白鷄様ノ物也、天武帝四年二月ニ始テ此祭アリ、大方祈年祭月次兩度新嘗祭ヲバ四箇ノ祭トテ國ノ大事トスル也、按ズルニ諸社ノ祝モ此祭ニ預リ、其幣物ヲ受テ國ノ社ニ致シテ、亦祈_レ年也、此事善相公ノ封事ニモ見

ヘタリ、白猪白鷄ノ故事ハ古語拾遺ニ御歲神ヲ祭ニ起リシ由ヲ記セリ、式ニ御歲社加_ニ白猪白鷄各一ト侍ルハ此謂也、西宮勘物ニ云、左右京進_ニ白鷄_ニ近江進_ニ白猪_ニ云云、春日祭モ二月上申日也、又十二月ニモ行ル、春日神ハ四座也、第一武甕槌命、第二經津主命、第三天兒屋命、第四姬大神也、是ハ栲幡千千姬命也、爲_ニ天照太神_ニ者否也トゾ、抑當社ハ藤氏ノ大祖ノ廟ニシテ其尊崇甚謂_レアリ、舊書ヲ按ズルニ春日ノ社ハ元天兒屋命一座ニシテ、孝德帝大化四年戊申十一月戊申日鎮座也、其後百二十一年ヲ經テ稱德帝神護景雲元年六月廿一日ニ、外ノ三神ハ鎮座也、此春日祭ハ清和帝貞觀元年十一月九日ヨリ始ルト也、大原野祭ハ二月上卯日也、十一月中子日ニモ亦アリ、公事根源云、此神社ハ后宮ノ參セ給_ニ爲_ニニ、春日ノ本社遠キニ依テ、都ニ近キ所ニ移シ奉ラル、サレバ大原野ノ行啓ナド、申ス事ノ侍ルニヤ、仁壽元年二月ヨリ始メ行ハル、近衛使ハ春日祭ニ同ジ、上卿辨内侍ナド向フト、園韓神祭ハ二月上丑日、或云中丑日也、若有_ニ三丑_ニ者用_ニ上丑_ニ、公事根源云、此二神ハ宮内省ニ坐ス也、延曆

遷都ノ時造宮使他所ニ遷シ奉ラントセシニ、唯此所ニ在テ御門ヲ守リ奉ント託宣有キ、延喜式ニ園韓神事、園神一座韓神二座ト載タリ、祭禮ハ年ニ二度二月ト十一月ト也、上卿並内侍向フ、儀式ナドノ委キ事ハ西宮北山江次第等ニ載タリ、古事談曰、園韓神社者本自坐大内跡而遷都之時、造宮之使等可レ移他所云云、于時託宣云、猶坐此處奉護_レ帝室、仍坐宮内省内、按ズルニ園韓神ノ事、古來ノ神記ニ不_レ載其神號、此二神諸說僻案、又ハ上件諸ノ祭ノ事、神學類篇、神階篇、諸祭條ニ記_レ之、

當_レ後三條院行_レ善政、夢先聖告曰、釋奠之日天照太神降_ニ于廟庭、宜_レ禁_ニ牲獸、自_レ茲不_レ供_ニ獸云、

後三條院ハ七十一代ノ天子ニテ、後朱雀帝第二ノ御子、諱ハ尊仁後冷泉帝別腹ノ御弟也、御母ハ陽明門院禎子ト申ス、三條帝ノ御娘也、此帝ノ御事末代ノ賢王ニ坐ス、其聖蹟舊典ニ明矣、古今著聞集曰、大學寮ノ庶供ニハ昔猪鹿ヲモ供ケルヲ、或人ノ夢ニ尼父ノ宣ク、本國ニテハカ、ル物ヲ薦シカドモ、此朝ニ來シ後ハ太神宮ノ來臨ニ同_レ禮、穢食不_レ可_レ供トアリケルニヨリテ、後ニハ不_レ供ナリニケ

ルト、此或人ト記セルハ憚ル所アルニ依テ歟、凡此奠ニ鮮魚ヲ以スル事ハ、此帝ヨリノ定メ也ト舊記ニ侍レバ、此夢ノ神告モ非_ニ他人之所_レ蒙歟、

太宰府學業院、先聖先師等像、吉備公自_レ唐所_ニ將來也、元慶巨勢金岡所_レ奉_レ圖、先聖十哲像在_ニ大學寮、

此條ノ全文江次第裏書ノ文ヲ用ヒタリ、其事前ニ注ス、太宰府ハ筑前國府也、筑前筑後肥前肥後日向豊前豊後大隅薩摩ノ九國ニ壹岐對馬ノ二嶋ヲ總テ筑紫ト云、凡九州ノ國司府ニシテ兼職甚多ク、屬官モ亦多シ、是西方緣海ノ邊要ナレバ也、東國ニ鎮守府按察使秋田城介ナトアルニ同ジ、此宰府ヲ被_レ置時代ハ古來不_ニ分明、推古紀ニ十七年四月筑紫太宰奏上ト云事アレバ被_レ置事已ニ尙矣、太宰二字訓_ニ於保美古登茂知、此府ニ有_ニ國學、稱_ニ學業院、吉備公自_レ唐將來_ル聖像ヲ先此所ニ安ジ、又畫師百濟ニ命ジテ令_レ寫テ大學寮ニ置事前ニ注ス、金岡ハ本朝ノ名畫師也、巨勢姓ハ姓氏錄曰、石川同氏巨勢雄柄宿禰之後也、日本紀合、石川朝臣ハ孝元天皇ノ皇子彥太忍信命ノ後也、本朝畫傳云、巨勢金岡中納言巨勢野足之子也、舊難波氏也、仕_ニ清和陽成光孝宇多

醍醐五朝、官至ニ大納言、曾與ニ管相ニ善、云云、按ズルニ巨勢姓尤舊タリ、多クハ出自ニ武内宿禰ニ也、延久四年三月十四日甲午、權中納言源隆俊卿著ニ仗座ニ奏、大學寮先聖先師九哲像令レ修補之、件像元慶四年巨勢金岡以ニ唐畫所レ奉圖繪ニ也ト、元慶ハ陽成帝ノ年號也、

大學寮像康永尙存、此時大學寮官廳共破壊、收置ニ上皇念誦堂、

此條ハ園太曆ニテ書ケリ、大學寮ノ像ハ金岡所レ畫也、康永ハ光明帝ノ年號也、此時マデハ猶存スト也、官廳ハ太政官ノ廳ト稱ス、三公政道ヲ執行ヘル政所也、廳字訓ニ萬牟止古呂、惣テ官人ノ集ル所ヲ官府ト云、諸官ニ從テ其稱號不レ同、神祇官太政官ニハ云官、此官廳ハ太政官ノ廳ノ事也、八省ニハ云省、彈正ニハ云臺、中宮又ハ大膳修理左右京ニハ云職、春宮ニハ云坊、齋宮舍人圖書內藏縫殿陰陽內匠雅樂玄蕃諸陵主稅主計掃部木工大炊主殿典藥兵庫左右馬等ニハ云寮、大學亦同、齋院隼人囚獄織部正親內膳造酒主水東市西市鑄錢ニハ云司、主膳ニ監、主殿主馬ニ署、左右

近衛左右衛門左右兵衛太宰鎮守等ニハ云府、侍從內記又ハ內舍人、監物ニハ云局、皆是官舍ノ號也、上皇ハ萩原院ニシテ、花園帝ノ御事也、念誦堂ハ御持佛堂ヲ云、念佛誦經ノ佛堂ナレバ也、是聖堂破壊ノ間トイヘドモ、恐クハ不レ得レ所乎、薰猶一器聖靈豈安然哉、可レ嘆可レ哀、

修堂之際、奉レ遷ニ西小御堂、其奉レ遷之夜、上皇問禮於藤原朝臣公賢、御冠直衣拜レ之、到ニ于寛正中釋奠不レ絶、及ニ應仁大兵ニ時成レ空、

修堂ハ破壊重修ノ際ヲ云、西小御堂亦佛殿也、是亦上條念誦堂ト同失也、問レ禮ハ入レ廟毎レ事問ノ遺意也、直衣ハ天子モ時時著御ノ物也、褰ノ御服ニハ是ヲモ進ルノ由、裝束ノ書ニ見ヘタリ、其裁制狩衣ニ有レ裏物ノ如シ、其圖式ノ書ニアリ、御冠事モ其品品見ユ、又御即位三箇重事記禁秘御抄等ニモ見ヘタリ、藤原公賢ハ洞院公賢ナリ、光明帝ノ御宇ニ任槐ノ貴權也、此故事モ都テ園太曆ニ詳也、寛正ハ後花園帝ノ年號五年アリテ御土御門帝マデ猶一年係レリ、寛正中釋奠アリシ事ハ、環翠軒ノ職原私註ニアリ、應仁ハ後土御門帝ノ年號、此御宇ノ大兵室

町將軍義政ノ弟淨土寺門跡義尋還俗シテ稱ニ義視、
其執事細川勝元山名宗全兩雄ノ確執ニ因テ也、義
政義視モ亦不和ニシテ、上下交糜爛シ、以ニ帝都
爲ニ戰場、其間自ニ應仁ニ至ニ文明中、十有餘年古今未
曾有ノ事、開闢以來ニモカ、ル大兵アラジ、當ニ此
時ニ天降ニ喪亂ニ靡ニ國不レ亂、因レ茲國故舊事一時成
レ空也、事應仁記ニ詳也、今ヤ舊復ノ時運上豐ニ下
安ク、文風布ニ闔國、家家對ニ螢雪、實ニ千載ノ大幸
ナレバ、人人可レ不レ致レ思哉、

本朝學原浪華鈔七大尾

荷田大人創學校啓

荷田東麻呂

謹請_中蒙_中鴻慈_中創造國學校_上啓

誠惶誠恐頓首頓首、謹聞、伏惟、神君勃興山東、
霸功一成、平章天下、草上之風、孰越君子之志、維
新之化、始建弘文之館、庶矣、且富、又何之加、明
君代代作、文物愈昭、光烈相繼、武事益備、濟濟焉、
蔚蔚焉、鑠座氏之好儉、庸何及于斯乎、郁郁乎、
斌斌乎、室町氏之尚文、豈同日之談哉、應此昇平
之化、天生寬仁之君、以其天縱之資、國見不嚴
之教、野無遺賢、傲陶唐之諫鼓、朝多直臣、擬有
周之官箴、上尊
天皇、專不譎之政、下懷諸侯而來、包茅之貢、道齊
有暇、則傾心於古學、教化不周、則深治於先王、
講奇書於千金、天下聞達之士嚮風、探遺篇於石
室、四海異能之客結軼、臣嘗遊都下之日、幸蒙射
策之捷、忝不顧謏劣之義、偶有校書之命、浴于

忘布衣之恩、誰爲爲之、誰令聽之、子遷氏之言
深有取焉、雖有智慧、不如待時、鄒孟子之意、
良有以也、當時既有意於賴幕府之威靈、起
此大義、借大樹之庇蔭、達臣素願、而不取者、
私心竊以、趑步不止、跋鼈千里、犬馬之年未滿六
十、今日之美、安知不爲異日之醜、後進之知、豈
識不如先輩之能、愚而自用、難免螳斧向車之
謗、賤而自專、似忘燕石街人之羞、有志而不
遂、千里遲遲歸、豈圖卒有採薪之憂、騏驎徒伏槽
檻之間、何意爲造化小兒、苦鴻鵠長繫樊籠之中、
口不能言、同陳仲子之居於陵、脚不能行、似
卞和氏之在楚山、爲世廢人、噬臍何及、遇時窮
阨、嘔眉獨泣、天之將喪斯文、命也、天之未喪
斯文、也時也、時之不可失、不敢不告也、今
也洙泗之學、隨處而起、瞿曇之教、逐日而盛、家家
講仁義、步步廝養解、言詩、戶戶事誦經、閭童壺
女識談空、民業一改、我道漸衰、紀土州嘗嘆焉、田
園競捨、資產傾盡、善相公深痛矣、臣竊以、是亦足
以見太平日久之象、唯有爲可痛哭長太息者、
在我

神皇之教、陵夷一年甚於一年、

國家之學、廢墜存十一於千百、格律之書氓滅、復古之學誰云問、詠詞之道敗闕、大雅之風何能奮、今之談神道者、是皆陰陽五行家之說、世之講詠詞者、大率圓鈍四敎儀之解、非唐宋諸儒之糟粕、則胎金兩部之餘瀝、非鑿空鑽穴之妄說、則無證不稽之私言、曰祕、曰訣、古賢之真傳何有、或蘊、或奧、今人之僞造是多、臣自少無寢無食、以排擊異端爲念、以學以思、不興復古道無止、方今設非振臂張膽辨白是非、則後必至塗耳塞心混同邪正、欲退則文已漂已晦、欲進則老且病且憊、猶豫無所決、狼狽失所爲、伏此請望、或京師、伏陽之中、或東山西郊之間、幸賜一頃之閑地、斯開皇國之學校、然則臣自少所蓄、祕籍奧牒不少、至老所訂、古記實錄亦多、盡皆藏于此、備他日之考索、僻邑之士爲絕難及者、或有寒鄉之客、有志而未果者間、多借之讀之才通一書、百王之澆醜此知、洞覽千古、萬民塗炭可拯、幸有命世之才、則盡敬王之道不委于地、若出琢玉之器、則柿本氏之教再奮於邦、六國史明則豈翅

官家化民之小補乎、三代格起則抑、亦

國祚悠久之大益哉、萬葉集者國風純粹、學焉則無面牆之譏、古今集者詞詠精選、不知則有無言之誠、夫

本邦設施學校、權輿于近江

朝廷、主張文道、濫觴於

嵯峨天皇、菅江家有三分彰院、源藤橘和繼起、太宰府有學業院、足利金澤延及、然所藏三史九經、陳俎豆於雍宮、其所講四道六藝、薦蘋蘩於孔廟、悲哉先儒之無識、無一及

皇國之學、痛矣後學之鹵莽、誰能歎古道之潰、是故異敎如彼盛矣、街談巷議無所不至、吾道如此衰矣、邪說暴行乘虛入、憐臣愚衷、創業於國學、鑑世倒行、垂統於萬世、首創難成功、非經國大業、邪、繼續易用力、真不朽盛事哉、臣之至愚何之知、所不敢自讓者語釋也、國字之多紕繆、後世猶有知之者、典籍猶存、古語之少解釋、振古不聞通之者、文獻不足、國學之不講、實六百年矣、言語之有釋、僅三四人耳、其爲巨擘、新奇是競、極無超乘、骨髓何望、古語不通則古義不明

焉、古義不_レ明則古學不_レ復焉、先王之風拂_レ迹、前賢之意近_レ荒、一由_レ不_レ講_ニ語學_一、是所_ニ以_ニ臣終身精力用_ニ盡古語_一也、伏以斯文之興之與_レ廢、固在_ニ此舉之取之與_レ捨、願閣下留_レ意幸察、臣東麻呂誠惶誠恐頓首頓首謹言、

荷田大人創學校啓終

和學大概

平 春 海 述

和學といふ事にしへは別に一家の學ならず、皆儒生のかね通じたりしことなり、弘仁承和のころより、代々禁廷にて日本紀を講せられしことありしに、皆其時の宿儒博達の人に任せられし事あり、別に和學を專業とせし人ありしといふことも見えず、中世堀河院の御時大江匡房卿の和學得業生問答といへるものあるをみれば、和學といふ名目はさるころよりやいひはじめし事ならむ、此匡房卿のころまでは、猶いにしへをうしなはざる事も有しを、それより後世干戈常に動て、源平の亂うちつゝきたるより此かた、和漢ともに學問の道皆すたれて、これを振興する人もなく、たい漸々におとろへきたりしを、近世文明のころに至て、一條禪閣絶倫の才學おはせしかば、古人の誤をもよく考正し、其著述の書數十部に及べり、此公をこそ和學再興の人とはいふべけれ、

されど今よりみれば、其學疎漏の事どもおほく、いまだ全く和學の正しき筋を得給ひしとはいひがたし、しかるにこの百年あまりこなた、治平久しくうちつづき、萬の道日々にひらけ來しまゝに、おのづから英俊の士多く出來て、和學の事大にひらけたり、其研究のいたれるはるかに古人にまされり、今にしては和學の道遺憾有まじくおもはる、吾國の儒生は、必吾國の國史典故に通せずしては、かなはざる事なるを、當世は學問の道草芥にのみあれば、儒生皆曲稽の士の如くになりて、儒者の任は只漢土の書に通ずるを己が業とのみこゝろえ、吾國の事は其業の外の事のやうにおもひたるは、學問の本意を失へるものなり、林春齋が諸生を教ふる五科のうち、和學科をたてけるは心ある事なり、すべて儒者の業は、經世治國の術なれば、吾國に在ては、いにしへよりの建國の大體、制度の沿革人情世態の變遷し來れるありさま、よろづの事をしらではいかでか其學問をほどくすべきやうあらんや、されば和學をば必要務となすべきなり、今和學をとりたてんとするには先三科ばかりに分つべきにや、先第一に國史實錄の學を一科とし、次に律

令典故の學を一科とし、次に古言を解釋する學を一科とすべし、和學をなすには、この古言にくらくては、餘の二科も通じがたき事多し、そのくはしき事は下にいふべし、さて國史實錄は、古事記日本書紀續日本紀續日本後紀文德實錄三代實錄類聚國史日本紀略扶桑略記等を正史とさため、姓氏錄、大職冠傳等の家傳の類皆正史に屬すべし、かたはら諸家の家記、李邵王記九層台記玉海玉蕊等の類百餘部あり又水鏡續世繼忠管鈔百鍊抄東鑑國太曆等の類、又今昔物語宇治拾遺平家物語著聞集十訓抄江談古事談續古事談の類此種類の書猶あまりあ皆史學に屬すべし、さて右の類の書をよみて、古今國郡山川制度名物の變遷、又王臣の興廢貴賤の好尚等、世に隨て異なるを詳にせんことを學ぶべし、しかれども古今輿例の詳なる事を知らねば、史を讀んで通じがたき事あり、此故に律令式必よむべきもの也、其律令式は全く唐の制を學ぶうつしたるものにて、此學をせんには、唐代の制度の書を參校して、其詳なるよしをしるべし、令をよむには唐六典杜氏通典新舊唐書の諸志を以相照すべし唐の令式は今亡びて傳抄又彼をうつさずして、吾國の風俗に隨ひて

立たる筋の事あり、それは國史につきて、よく吾古のさまを考へしりて後辨べし、令條の今の世に行はるる義解の本は、養老の時の令にて、今は倉庫醫疾の二篇亡びたり、此二篇の闕を補するべきものは、政事要略令集解等の書に其事散在せし事多く、又其文をも引用せり、後世に出たる官職秘抄職原抄百寮訓要などの類の書も、皆此令をよむ助ともなすべく、且世に隨て官位などの變改ある事をば、これらの書にて考べし、律は古は十二篇有しものなりしを、今はわづかに名例衛禁職制賊盜の四篇のみ殘れり、よりに其全き事は知がたき事あれど、後世明法家の學者の錄し置る書にあり、法曹至要裁判至要金玉掌中抄等の書あり、皆律條全く存したりし時に、其肝要の事を抄錄せしものなれば、其大概を知らるべし、又三代格政事要略等の書によりて、律條のしらるべき事あり、さて唐律は今全篇存したれば是亦比較に備ふべし、後世鎌倉にて撰せられし貞永式目も、全く律にもとづきたる書なれば、律學をなすもの、讀者べきものとす、式は今延喜式全存したれば、古の制度を詳に觀るにたれり、弘仁貞觀の式は今亡て傳らず、世に弘仁式の闕本とてあれども、疑ふべきものなり、

格も三代の全書は亡びて、類聚三代格の缺本のみ今にのこり、此餘儀式等の委しき事は、貞觀儀式・内裏儀式・新儀式・侍中群要等の書存したれば詳に考る事を得べし、さて貞觀儀式と延喜式は、事體や、異なる事もあり、それより後西宮記・北山抄・江家次第等皆其時代にまがへる沿革あり、又公事節會の時の座席及び宮殿等の制を考るには、禁秘抄・雲圖抄・禁腋秘抄・大槐秘抄・拾芥抄等あり、地理の書は諸國風土記皆亡びて、只豐後出雲の二書のみ存したれば詳にしがたき事多し、只其郡郷の名は和名類聚抄に擧たれば古名のみは考知るべし、又器物調度の類を考べきは、延喜式・江次第等の書によりてもまらるべく、類聚雜要・吉部秘訓等の書には其圖式も多く出たれば詳に考得べし、裝束服翫の類は、衣服令・延喜式を始、雅亮假名裝束抄・飾抄などより以下代々裝束の書甚多し、且世に隨て變改一様ならず、後世に及びては古の名目を誤り心得たる類も多ければ、是又廣く古今を詳にすべきなり、偕此國史實錄律令典故の學をなすにも、吾國の古言に通せざれば叶はざる事あり、先史學の始とすべき古事記の一書は、全和語を以て錄せし物なれば、古言をまらではいかでか通ず

べきや、又日本紀は漢文を以て記したる書にはあれど、其本は古事記の如く和語を錄したる書をとて、強て漢文となせしものなれば、其義理の漢文に改がたき所に至ては、古言のまゝに和語を載たるも多く、漢字を以て譯したれど、猶古の語を失ざらん爲に某々の字は、此に何々といふなどの自注も多くあり、且古事記・日本紀の二書に、古の歌を載たる凡二百餘首あり、此類古言をまらでは讀べからず又延喜式に載たる祝詞、歴史に出たる宣命の類、皆吾國の古文也、其他官職名物の瑣碎なるまでも、皆古言の残りし事多し、よて吾國の書を學ぶには、古言を知らずして有べからず、此古言をまらんとするには、古事記・日本紀・萬葉・祝詞・宣命等をよく讀にあらずしては知がたし、まかのみならず、後世の歌集・日記・物語の類をも廣くよみて、古今を照らして考べし、古言を解には別の方法なし、たゞ例と類とを廣く押て知べし、其義おのづから明らかなるものなり、さて古言に通じたる上にては、古の人情世態も格別に明らかにまらるゝ事あり、こゝにくらき時は、いたづらに國史等をよめども誤解して、殊に其實實をとり失ふ事あるべし、されば

是又一科の專業の學となすべきなり、吾國の古書今も傳はれるものいとあまたあれど、和學をこのむ人世に少きまゝに、印行に成たるものいと少し、かくの如くにてとし月を経ば漸々に失ひて、百年の後は多く亡ぬべし、これはいとなげかはしき事なり、有志有力の人これを刊行しおかば、永代國の寶ともいふべし、其印行になき書、今委しく舉るにたへず、只肝要の一二をこゝに舉ぐ、

類聚國史

原は二百卷有しもの也、今僅六十餘卷存、

日本記略

原本卷數未詳、今僅二十餘卷存、

扶桑略記

原は三十卷有しが今は十卷残り、或人云、梅尾舊藏に此書三十卷の全本ありと未_レ知_二其詳_一、

本朝世記

原數未詳、今四十餘卷有といふ、未_レ見_二其書_一、

日本後紀

今存したる本は、偽書なりといふ、今其書をみるに後人の偽作ともさだめがたし、古の本にはあらざるべけれど、古人の古書によりて、抄録せしものならんか、類聚國史などの誤字にて、よみがたき所、此書にて明らかなる事あれば、かならずしも廢すべからざる書なり、

新國史

日本史の引書目に載られたるは、水戸には殘本の存したるものありとしらる、世にたえてなき書なり、未_レ詳_二其眞僞_一、

以上皆正史にてかならず有用の書なり、殊に宇多醍醐の時世は、記載いとまれなるを、この日本記略・扶桑

略記等の幸に存するによりて、ほゞその時世を考知らるゝ事あり、此外に諸家の傳雜記の類印行になきものいと多し、又家記の類は李部王記・九曆等の書を始として、百餘部あれども一も印行のものなし、

令集解

律四篇

類聚三代格

貞觀儀式

新儀式

內裡儀式

西宮記

北山抄

政事要略

此書原は百三十卷有しものなり、今四十卷計あり、

侍中群要

裁判至要

金玉掌中抄

以上皆古の典故を考べき書にて、必失ふべからざるものなり、此外必用の書の印行になきものいと多し、正史典故にあづかりて、必闕べからざる書の印行の本なきは、昭代の闕典とやいふべからん、

和學大概終

漢學紀源卷一目次

儒教第一
神誨第二
收籍第三
徵賢第四
初學第五
神性第六
貢士第七
唐學第八
建學第九
栗田第十
吉備第十一
崇聖第十二
仲滿第十三
菅江第十四
菅神第十五
五經第十六
孝經第十七

論孟第十八
新註第十九
宋學第二十
崇信第二十一
義堂第二十二

漢學紀源卷一

麀藩

伊地知季安子靜撰

儒教第一

夫天之生_レ斯民_一也、使_レ其出_レ類者舉爲_二君師_一、任_二之先覺_一、布_二諸政教_一以覺_レ後覺_一也、其法禁勸防、以正_二乎人_一、是之謂_二政脩_一、道明_レ倫、以覺_二乎人_一、是之謂_二教_一、未知未能必效_二諸先覺_一、是之謂_二學_一、所謂儒其學_レ焉而通_二才_一、以_レ道得_レ民者之稱也、道之在_二天下_一、未_二嘗亡_一也、而傳_二其統_一者、苟非_二其人_一、則不_二得而與_一焉、其大原則出_二於天_一、具_二於人心_一、著_二乎事物_一、義農黃帝能知_二其然_一、繼_二天立_レ極而道統基焉、自_レ是厥後堯舜禹湯文武周公續承鑒備、郁々乎其文焉哉、至_二孔夫子_一遭_二周衰季_一、始不_レ得_レ位、聖人之道不_レ行_二于世_一、於是夫子粹_二群聖之法_一、脩爲_二六經_一、以垂_二標準於萬世_一、微言大義天開日揭、其弟子冉閔顏曾之徒、莫_レ不_二聞而守_一其道_一者、是以自_レ古儒者之業莫_レ先_二於講_一、究_二六經_一、孟子曰、聖人百世之師、又曰、舜人也我亦人也、有_レ爲者皆

若_レ是、其孰人而可不_レ學焉乎、

神誨第二

夫經籍之入_二國朝_一也、蓋濫_二觴乎神功皇后居_レ攝之時_一、抑我住吉等之憫_二後覺_一、亦可_レ謂_二至矣_一、方_二仲哀帝將_レ伐_二熊襲_一、有_レ託_二皇后_一而誨_レ焉、據_二古語拾遺神功紀_一、大連龍鹿火之妻、諫_二大連_一語等_一、曰熊襲不_レ服何憂_レ之、有_二彼空國_一耳、西則其必自服、帝曰、望_二洋邈遠安得_レ有_レ國_一、況皇祖既祀_二神祇_一、豈有_レ遺焉乎、又託_二皇后_一曰、以_レ余望_二國天水渺茫如_レ霧橫_一空、汝其王_レ之、帝猶不_レ服、遂討_二熊襲_一不_レ克而還、明年帝崩、

收籍第三

皇后傷_二帝逆_一神教_一、崩、舊事紀中、賊矢益欲_レ下_レ徵_二福親將_一舟師_一、征_二伐新羅_一、新羅乃降、進入_二于郭_一、封_二重寶庫_一、收_二圖籍文書_一、高麗百濟亦聞_二新羅降_一、自來降服、三韓悉平、據神功紀初先帝之崩也、皇后有_レ遺腹子、還_二自_一新羅、生_二諸筑紫_一、是爲_二應神帝_一、帝之幼也、皇后攝政、聖化德音、洋_二溢乎中國_一、施及_二三韓_一、百濟王肖古、古事記作照古王、皇后紀作王肖古、

或作「昔古王」續紀同此、欽明使「久氏」等如「卓淳」求道、欲紀作「遠古王」皆應此人也、

以聘「國朝」暨「皇后」四十六年、遣「斯摩宿禰」等一如「卓淳」宿禰等乃聞「王」欲聘、遣「人」柴王、明年「肖古王」遂遣「久氏」等及「新羅」行人、始聘「國朝」、

年當「我」成務帝三十七年、而此年則「時」新羅奪「百濟」幣、以易「其」幣、四十九年

爲「八十一」年、

皇后遣「荒田別帥」師導「久氏」等、往會「肖古王」及「王」

子貴首於「卓淳」、以伐「新羅」、亦神功紀據是考之、海西書籍

之入「國朝」、蓋應「首」乎「皇后」親「征新羅」所「收還」本上

也、然「國人」未「讀」之者、故詔「貴首王」徵「有識者」、見可

併觀「焉」、一說前此「孝靈帝」七十二年、秦人「徐福」率「童

男女千人」、既齋「三墳五典」歸「化」于「國朝」、云、按宋歐

陽脩「日本刀歌」亦云「是事」、云、傳聞其「國居」大島、土壤

沃饒風俗好、其先「徐福」詐「秦民」、採「藥淹留」卅童老、百

工五種與「之」居、至「今」器玩皆精巧、前朝貢獻屢往來、

士人往々工「詞藻」、徐福行時書未「焚」、逸書百篇今尙存、

令「嚴不」許「傳」國中、舉世無「人」識「文字」、先王大典

藏「夷貊」、蒼波浩蕩無「通」津、令「人」感激坐流涕、鑄澀

短刀何足「云」、今按徐福齋「墳典」、來說蓋首「于」此、然

我朝史籍無「確據」矣、則其所謂逸書尙存云、亦應「誤」

皇后所「收還」一本等「以言」之也、

徵賢第四

先是「國朝」自「神代」教「人」正直、其爲「治」亦無爲自然、

則民只鼓腹而遊、含哺而嬉、晝動夕息、渴飲饑食、

未「有」人通「書籍」也、於是乎「應神帝」憫「不便」乎、

以施「政教」、因「荒田別」如師、詔「百濟王」搜「有識者」、

應神紀爲「十五年事」、然據「續紀」則似「欲」使其來教「皇子」讀

年五十尙爲「太子」時、詳辨「下注」、

諸典籍、貴首王續紀作「貴須王」、或作「久素王」、東國通鑑作「乃

恭奉「詔」特選「於宗族」、遣「其孫辰孫王」、據「續紀」百濟王

語、但有「原注」辰孫、一名爲「智宗王」、按津連等云、仁貞等、授家牒之

姓氏錄船連傳、則作「太郎王三世孫智仁」、據此「智宗」君辰孫云、蓋皆音

轉、及阿直岐書紀舊訓阿止伎、古事記則阿知吉師、倭讀「王」字似

直岐、似「非」二人、註「辰孫」考、偕使「來朝」、明年二月、荒田別

等還、自「伐」新羅、五月千熊長彥以「久氏」等「反」、自「百

濟」書紀辰孫王等從「使」來朝應「在此時」、辰孫王祖曰

首王、父曰「辰斯王」、而於「枕流王」爲「姪」、按「書紀」以「辰

叔父、而阿花王乃枕流王之子也、據此「辰斯王」爲「貴首王」叔子、

而枕流王弟明矣、且知宗爲「辰斯王」子、見「姓氏錄」阿原連家傳、

特遇「之」、一說阿直岐來則獻「周易」孝經、論語、云、未

知「其據」也、

初學第五

皇子稚郎子學於辰孫

書紀作阿直岐、今從續紀、國史畧以辰孫爲王仁談、

始讀

經典、大闢儒風、因帝問焉曰、猶在百濟有博士賢

於汝乎、對曰、有王仁者、祖曰王狗、其先西漢人、出

自漢高之後鸞王、至王狗、徙居百濟、據文島寸、最弟上書、王仁

爲人材秀學博、非臣所及也、其明年百濟復遣久氏

等來聘、皇后及帝說、乃皇后語帝曰、實神所授豈能

分乎、復遣千熊送久氏等、以徵王仁、且詔肖古等

曰、遵神所諭始啓海西、永以封汝、克欽鎮撫、肖古

王及子貴首再拜稽首曰、何日忘恩、永稱蕃臣、無敢

貳心、又誠孫枕流曰、汝鎮西蕃勿怠朝貢、斯天實

所使、倭皇啓以賜不穀也、乃又明年遣久氏等、偕

千來獻刀鏡及重寶若干、蓋王仁來亦應在此時、而

其所貢論語千字文、應在此重寶中也、於是稚郎子

更師王仁、遂通典籍、本朝文教于是始矣、而迨帝

世、二十八年高麗上表曰、高麗王教日本國皇子、讀表大怒

召使於前、責其無禮、面裂棄却、帝甚鍾愛焉、若非

汝讀之、國朝孰知失禮如斯乎、文教之重、人材之貴、

可_レ以知也、自_レ是國朝爲_レ政於天下、知_レ莫_レ如_レ由乎學、愈以弘_レ文爲_レ時急務、亦其宜哉、而今不_レ詳_下王仁始授皇子、以_レ倭讀_二否、或註_二古今序、以_二難波津歌爲_二王仁所_レ賦、據_レ此王仁既通_二倭語、則創_二倭讀、亦似_二其時、但倭點法猶未_レ肇焉、橋直幹_{長門守長盛之子、}村上帝_{爲_二一}賦_二倭歌_一、贊_二王仁_一云、和多津見野、千倍野

四羅奈身、古江天沽曾、八嶋乃國爾、布箕波都太不

禮、又其圖贊曰、五藝教化將_レ開、博士自_レ海來、永言於難波梅、日域文華之魁、云可_二併證_一也、據書紀、古事續紀、姓氏錄、竟宴歌、大日本史、國史略等、爲_レ文、

按書紀、應神帝十五年八月、百濟王遣阿直岐、貢

良馬二匹、阿直岐能讀_二經典、太子菟道稚郎子師

焉、

天皇問曰、勝_レ汝博士亦有_レ之耶、對曰、有_二王仁者_一是秀也、時遣_二荒田別等_一於百濟、仍徵_二王仁、阿直岐乃阿直

岐史始祖也、十六年二月、王仁來、則太子菟道稚郎子師

之、習_二諸典籍_一於王仁、莫_レ不_二通達_一、王仁乃書首等始祖也、又古事記云、百濟國主照古王、以_二牡馬壹疋_一牝馬壹疋_一付_二阿知吉師_一以_レ貢_レ之、阿知吉師乃阿直岐史等祖、亦貢_二橫刀及大鏡_一、又詔百濟若有_二賢者_一貢_レ之、故貢_二和邇吉師_一、乃以_二論語十卷_一千字文一卷_一付_レ之貢

進、和邇吉師者文首等祖、又古語拾遺云、至_二磐余稚櫻朝、住吉大神顯矣、征_二伐新羅_一、三韓始朝、百濟國王懇致_二其誠_一、至_二輕島豐明朝_一、貢_二博士王仁_一、是河內文首始祖也、又續紀延曆九年、百濟王仁貞津連眞道等援_二國史家牒_一、以有_レ表云、眞道等之先出自_二百濟國貴須王_一、而背古王時始聘_二國朝_一、乃神功皇后攝政之歲也、後應神帝命_二荒田別_一、使_二於百濟搜_一有識者、國主貴須王恭奉_二使旨_一、擇_二採宗族_一、遣_二其孫辰孫王_一、一名智隨、使入朝、帝特寵_レ之爲_二皇太子師_一、始傳_二書籍_一、大闢_二儒風_一、文教之興誠在_二于此_一、按_二古事記_一、所謂照古王卽肖古王、而據_二書紀_一、則肖古王卒_二於皇后五十五年_一、後三十年爲_二應神帝十五年_一、又貴須王乃肖古王子、而亦書紀則卒_二於皇后六十四年_一、後二十一年爲_二應神帝十五年_一、且王仁之後人文忌寸最弟等陳_レ家所_レ傳、亦曰聖朝遣_レ使徵_二文人_一、於_レ是久素王乃貢_二王仁_一、按久素王亦貴須王也、而貴須肖古並卒_二於應神帝未_一立以前、則紀所謂十五年恐有_二年誤_一否、續紀爲_二貴須王時_一、却爲_二誤亦未_レ可_レ知、然文忌寸津連船連百濟王等家所_レ各傳_一、說、並爲_二貴須王時_一、惟古事記爲_二照古王時_一、雖_レ如_レ異_レ傳、肖古貴須父子也、皆並其時則似_レ不_二抵牾_一、本居氏

亦辨_レ之曰、書紀年月間或誤_レ繁、如_二皇后時卽應神時而王仁等來_一、應_レ在_二於皇后五十五年肖古等未_一卒前_一矣、此說得_レ之、據_二是應神紀所_一謂遣_二荒田別_一召_二王仁_一、則應_二皇后四十九年遣_一荒田別_一、以_二貴須王等師_一伐_二新羅_一時之誤_一也、故今季安參_二考衆說_一、以註_二于此_一、埃_二博識_一更有_レ正_レ焉爾、

神性第六

皇后屢贊曰、從_二神所_一敎、始獲_二寶國_一、多貢_二重寶_一、愚謂其重寶、則莫_レ善_二於典籍_一、孝德紀載西海使謁唐主、多得_二文書寶物_一而歸、帝特褒_二之觀_一其言、文書可以證_二焉_一、諸冊二神出入幽顯、日月彰_二於洗_一目、浮_二潛海水_一、神祇生_二於滌_一身、孕_二土產_一、嶋而萬物生成、到_二今不_一息、神胤皇胄說々繁_二衍乎日域_一諸州、皇孫降_二襲立_一統而降、一姓爲_二君_一以傳_二無窮_一、率土之濱靡_レ弗_二臣庶_一、君臣安_二分俱保_一宗廟之至如_レ是久、四海萬國所未_レ有也、惟斯一事性善美俗足_レ可_レ以觀_二矣_一、於_レ是乎雖_レ曰_二未_一學、東漢范曄遙仰_二我風_一、稱_二君子國_一、唐王維稱_二海東諸國_一、日本爲_二大服_一聖人之訓_一、有_二君子之風_一、宋太宗問_二僧齋然_一、聞一姓傳_二祚臣_一下世_一官、特歎息欲_レ徵_レ之不_二亦宜_一乎、夫物生焉則參_二神_一、古事記既莫_二物不

賦之性、而各所稟莫靈於人、嘗丞相所謂民者神
明資云、此之謂也、洞燭無朕、靡理不具、檢諸其
身、則非斯文弗能啓迪、是以住吉神等之誨皇后、
亦惟其意、蓋在欲闡斯文於我國、人以載神理與
天地、長垂諸無窮、普覺開物成務之道於後覺焉而
已、豈徒爲殖金銀貨利、夸于三韓也乎、傳所謂楚
國無以爲寶、惟善以爲寶、神道亦然、善無常主、每
事擇善、協于克一、本然良知俯仰靡愧、神必祐
之、國君好善優於天下、士雖窮居以淑其身、於
人爲寶、何以易之、而殖金銀貨利不與存焉、由
是觀之住吉等之所欲可知已矣、故其重寶吾知其
謂典籍也、

貢士第七

自皇子通經後、蓋使王仁等掌東西庠、開弟子員、
以亦授之、辰孫之後人津連真道等云、吾儕先祖委實國朝、年代深遠、家傳文業職掌、西庠事、見續紀、又王仁墓在河內州交野郡藤枝村東北御墓谷、今稱於爾墓、見河內志、又天智帝時僧詠自百濟歸化、以文學鳴于河內、爲大學頭、亦見續紀、此類尙多、於是乎國朝人亦稍至、冰釋以記言事、後百餘年
履仲帝時置史諸國、可以知也、而繼體帝時百濟王
遣文貴等送我行人、且推穀五經博士段楊爾上庠、

五年又推穀漢高安茂、以代楊爾、或曰、此時使舶
持五經書還自百濟、蓋亦言之、欽明帝世五經博
士馬丁安及僧道深等、自百濟來、各教僧俗後又應
召遣五經博士王柳貴、易博士王道良、曆博士王保孫、
醫博士有揆陀、採藥師潘量豐、各持其卜曆等書來
代丁安等、又遣僧日雲惠等九人、同代道深等、又吳
人智聰齋、儒釋方書明堂圖凡百六十四卷及樂器等來、皆爲
以覺後覺也、敏達帝立、高麗上疏帝乃聚東西諸史、
令讀且解、莫獨解之者、惟王辰爾能讀焉而解其
意、帝大悅曰、勤乎懿哉、微汝孰解、特詔近侍殿中、
蓋當時之俗、神化自然質朴忠厚具君子體、然尙操觚
多皆牆面、鮮不赧愧、於是高麗又將辱之、書疏
鳥羽以上、帝令辰爾讀、乃蒸印帛得寫解文、朝野
咸服其巧智、辰爾乃辰孫王之玄孫也、由是帝愈誠諸
史、督之勤惰、令以勵學業、續紀是則無佗、豫恐其
臨事露耻故也、帝又聞日羅賢而直勇、遣使召諸
百濟、百濟乃舉日羅、日羅被甲乘馬詣闕下而跪、
拜曰、臣本國朝人、父曰阿利斯登、仕于宣化朝、爲
國造於火草北、今肥後國在吉北郡以朝負部隸、大伴大連、奉
勅使於海外、帝之二年大伴金村、奉詔遣其子狹手彥、帥兵往救任那、此也生臣百濟、

今辱應召來歸待詔、乃解甲爲贅、於是帝問政於日羅、對曰、要在養民、食足兵足則民信服、外人亦懷、然後不朝或至、與兵盡理獻策、外士談兵蓋首于此、後世尊奉爲勝軍地藏者亦祀之云、而用明帝太子聖德出以聰敏資好讀漢籍、習佛教於高麗僧惠慈、學外典於博士覺智、內外通悟、特尊佛教而點漢文始注和訓舊說云所謂倭點于是始云、又推古帝時僧覺勒、自百濟來貢曆本及天文地理書、乃詔生員各受學之、陽候史玉陳習其曆法、大友村主高聰受天文學、皆各成、明年太子愈好漢土之風、始制冠位、又明年制憲法十七條、改定朝禮書則唐王維所謂正朔本乎夏時、衣裳同乎漢制云、亦應言之也、

唐學第八

太子之憫後世亦無所不至、雖使韓人代居博士、設科分業以教生員、日求其材、三韓人教之、衆倭人咻之、而鮮所得矣、遂知莫如置之隋留學積年、乃十六年遣學生倭漢直福因見後奈良譯語惠明後作惠高向漢人玄理後或作黑磨、按續紀後漢靈帝曾孫阿智王之歸化也、請應神帝召男女於

其舊里、今諸國漢人此云據此、如玄理等凡曰漢人、新漢人大者皆應其後也、但加新字蓋言其歸化在近也、國、學問僧新漢人晏書紀作日文、或作白文、南淵漢人請安舒明紀書僧清安、又皇極紀書南淵先志賀漢人惠隱、見新漢人廣齊後有惠疑此等八人、往學于隋、十八年僧曇徵等自高麗來、亦知五經者也、二十九年太子既薨、三十一年僧惠齊惠光及醫惠日福因等、駕新羅船還自唐前此六年爲唐高祖武德元年皆報告曰、留學唐者皆業各成、請必辟還、且修隣好禮儀文物足有取焉、舒明帝立、復遣三田相及藥師惠日、使於唐、唐太宗名世民、姓李、高祖第二子遣高表仁送我行人、時僧靈雲、僧晏及勝鳥養等、歸自學問四年八月是等在唐二十餘年、稟氣伶利不倦于學、富內外書、以博物聞、又十一年僧惠隱惠雲等歸自學問、凡在唐三十餘年、又其明年僧清安上學問生高向漢人玄理等還自學問、亦在唐三十餘年、天智帝潛居時、及鎌子連慨然憤發、俱學周孔之教於南淵先生疑僧情好日密事見帝紀凡國朝史學周孔云、其有明文、蓋于是始、林氏所著稽古篇言南淵先生事曰、文而能武、百篇奎章、惜即今亡云亦此人也、但國史略以漢人爲先生名誤也、詳見上註、

建學第九

孝德帝立乃以僧旻與玄理爲國博士、先是徵之三韓、交承、教授、至帝時始任國人、可觀其益達材也、大化五年帝又詔玄理及旻、始置八省百官、而式部省則建大學寮、以玄理旻等有才名、爲大學博士、教授生徒、國朝建學蓋于斯始也、繇是益遣僧及生員往學於唐、白雉四年旻卒於阿曇寺、一說五年則作六月、其疾也、帝親幸問焉、五年玄理使於唐、卒、帝惜之、天智帝立、詔鎌子連與時賢人議撰禮儀、刊定律令、如鎌子則可謂國朝叔孫通矣、二年僧詠自百濟歸化、而以文學鳴於河內、擢爲大學頭、見續紀神龜元年生員愈滋、至如天武皇子、大津材學並進、愛文賦詩、國朝詩賦自皇子始、持統帝世猶勸以祿、或以封戶、則四年四月賜大學博士上村主百濟大稅千束、以勸其學業、云之類此也、於是乎諸博士學官蓋濫備焉、苟其有材則雖自唐韓歸化焉者、必學充官、或雖浮屠善達科業、詔賜之姓、必授其職、世無闕官、至文武帝大寶元年二月丁巳始行釋奠、丁巳又元正帝養老二年詔造釋奠器、聖武帝神龜三年

玉來〔紀略作玉榮、或曰玉英之誤〕生於內裏、勅朝野文人各爲之詩、時應制者百十二人、賜物有差、稍可以觀其多達材也、孝謙帝天平寶字元年、己亥置大學寮田三十町、或二町供生徒用、延曆四年菅原古人以儒知名、侍讀桓武帝、有輔弼功、至是勅賜其子清公等四人衣糧、令勵學業、十一年或十詔令學漢音、十三年十一月丙詔賜大學寮越前水田百二町、號曰勸學田、併故二百二十餘町、平城帝大同元年勅諸王以下子弟十歲已上、皆入大學、分業教習、三年二月省直講博士一員、置紀傳博士、嵯峨帝弘仁十二年、先是文章博士爲從七位官、至是二月甲爲從五位官、淳和帝天長元年十一月勅給大學寮山城地五町九段、二年五月戊辰勅明法博士爲從七位下官、四年三月甲戌給大學寮河內荒閑地五十町、仁明帝承和元年四月停紀傳博士、加置文章博士一員、八月帝釋奠文宣王於紫宸殿、自講尚書、後爲恒例、嘉祥三年五月太皇太后崩、嘗奏請建學舍、曰學官院、令橘氏子弟誦習經史、人稱其賢、比漢劉氏、光孝帝仁和元年八月釋奠、大臣公卿九拜聖像、先是輪講論孝五經周禮等、是年講周易、醍醐帝延喜五年勅忠平

等、令撰定式、別立篇目、曰大學寮釋奠等式開卷瞭然、又村上帝康保元年詔以學官院爲大學寮別曹、又釋奠講書拾芥抄則輪轉七經云、孝禮詩書論易傳此也、

栗田第十

栗田真人姓栗田朝臣、歷事文武元明元正三朝、大寶元年持節使于唐、風潮暴險不得通船、二年五月參議朝政發船入唐、抵楚州鹽城縣、時會高宗名治太宗第五子、既崩、太后武惠借竊大位、廢子中宗爲廬陵王、改號大周、乃賜宴於麟德殿、聘禮既竣、性素好學其留滯也、受儒經於四明教授趙玄默、能屬文、唐人謂之曰、久聞海東有大倭國、人民豐樂禮義敦行、今觀使人冠進德冠頂有華藻、四披紫袍帛帶、威儀大淨如神、咸信所聞莫不嘆美焉、唐書事見唐書慶雲元年七月至自唐、乃十一月詔賜真人田二十町於大倭國、又賜穀千斛、皆賞使節功、二年四月爲中納言、八月叙從三位、和銅元年三月遷太宰帥、靈龜六年四月轉正三位、養老三年二月甲子薨、

吉備第十一

本姓上道、名曰眞備、右衛士少尉國勝子也、靈龜二年元正帝時從聘使往學于唐、迨聖武帝時愈勞博士等、勸學勉學業、若敏而勵勵、或寡苦者特給服、天平七年或爲五年眞備還自唐、凡留學二十年、或十研覽經史、該涉衆技、播名於唐、與朝衛安倍無仲麿無優劣、其歸也、獻孔聖及十哲像唐禮百三十卷、大衍曆經一卷、樂書要錄十卷、測影鐵尺一枚、銅律管一部、鐵如方響、寫律管聲十二條及諸弓箭若干、皇太子孝詠尊尚儒範、乃從眞備受禮記及漢書一說受二十三經、而漢音則于始云、按式釋奠有注曰、古人云、此式多用恩寵甚渥、賜姓吉備朝臣、官歷中納言至右大臣、世謂吉備公、此也、恢弘道藝、親自傳授、乃令學生四百人各從三科業、習五經三史明法算術音韻籀篆等之道、日本儒林傳、則爲四科、紀傳明經明法算術也、因勅置勸學田百九、或給利稻以資費用、先是釋奠其儀未備、至眞備歸細稽禮典器物、始修禮容、可觀焉、式所釋奠、先聖文宣王、先師顏子、子路、子貢、仲弓、冉有、李路、宰我、子真、子游、子夏、從祀九座云、亦應眞備所但觀其所著私教類聚、則亦學內外教齋來一像也

者明矣、然匪徒馳空文之屬、討夫押勝、竄道鏡云亦真備之力也、以寶龜六年十月薨、年八十三、
續紀文粹唐書、

崇聖第十二

聖武帝又詔式部省、蔭子等不問長幼、皆入大學、加之每聘唐、則涉學者寢益弗絕、而其歸必購所無書獻貯之庫、莫以不稽於正名辨物焉、孝謙帝立勝寶四年、膳臣大丘游學于唐、入國子監、視其門題、文宣王廟、欽仰而還、寶字中詔令天下民誦孝經、迨帝重祚、擢大丘爲助教、遂有以聞、乃神護景雲二年於國朝、亦詔題聖廟、曰文宣王、倣唐追封也、然其享坐諸儒所說不同、而迨助教家守還自遣唐、寶龜六年補遣唐習五經大義切韻說文等既回補助教講三傳之義云據考經義及大唐行所具錄、遂定南面云、據史類聚國史一

仲滿第十三

仲滿姓安倍氏、本名仲麿、中務大輔正五位上船守之子也、靈龜二年元正帝時、從遣唐使西遊于唐、爲留學生、性聰敏好讀書、玄宗愛其材而厚遇之、於是

仲麿乃易姓名曰朝衡、朝或作晁遂仕于唐、累歷檢校、爲左補闕、至秘書監、與王維李白包佶趙驥等友善、天平勝寶五年、當唐天寶十二年說爲天寶十五年事衡駕我行入藤清河之船、將還自唐、王維包佶之徒、以詩送之、則王維積水不可極、包佶上才生下國、趙驥西掖承休澣之詩等、應此時也、既抵明州海岸、而將上舟惜別、入夜、仰見海天、乃以國辭作三笠山月歌、譯示唐人、衆大嘆賞、既而泛海、船遭暴颶、漂到安南、人或傳爲衡沒于海、李白作詩哭之、曰、日本晁卿辭帝都、征帆一片繞蓬壺、明月不歸沈碧海、白雲秋色滿蒼梧、是也、未幾衡自安南復適唐、事肅宗、世乃喜其無恙、授左散騎常侍、歷安南都護、至北海郡開國公、食邑三千戶、留于唐五十五年、或爲五十年以大曆五年正月死、得壽七十九、一本七十三或爲七十七云
仲滿字代宗悼惜、以潞州大都督、是歲賀我朝寶龜元年也、至十年五月、光仁帝聞仲麿死于唐、而家口乏闕、其葬禮、勅賜東絕一百匹、白綿三十屯、當時入唐勤學業者特爲不少、而其擅名海西、則吉備朝衡二人云、今按古之遣生學唐、蓋不外於博達其材、以從國政而已矣、然如仲麿却失節操、遂仕于唐、至拜顯

職、雖下載、唐書耀名千歲、不可採列、諸國儒傳、但據帝追賜葬之被悼乎唐、至如彼、亦其實出於忠壽、可以知也、況使外人永知國朝不乏文人、故採載之、亦愉快哉、

菅江第十四

迨嵯峨帝時、菅原清公、清原真人、南淵永河、朝野鹿取、小野岑守、菅原清友等、以儒學聞、清公有子曰、是善、能紹家業、侍讀清和帝、講孝經論語經史等、官至參議、補翼政教、又工文藻、帝特寵遇、嘗奉諭撰文德實錄十卷、都良香亦與焉、自撰東宮切韻二十卷、銀勝輪律十卷、集韻律詩十卷、會分類集七十卷、家集十卷、以元慶四年八月晦日薨、當此之時、大江音人亦以博學洽聞振名於世、嘗及是善奉勅撰定貞觀格式、如其序及表文、皆出於吾人手、所著有郡籍要覽四十卷、弘常範三卷、而與是善齊名一時、又村上帝時、大江朝綱菅原文時、亦以儒學振名於世、帝使二人各擇白集壓卷詩一首、別封以上、帝啓、絳則同採、送蕭處士遊點南之作、帝特嘆曰、卿等識鑒何乃符合、朝綱退語人曰、後來應必以吾與菅稱爲一雙、到于今、

世人往々竝稱菅江、自斯始云、

菅神第十五

醍醐帝時、則菅丞相出、乃是善之子、諱曰道真、以容知粹朗之資、生於文運勃興之世、就都良香學、良香奇其聰敏、耻爲之師、業日益進、工於辭藻、聲聞超父祖、寬平四年奉勅撰類聚國史、昌泰二年陞右大臣、時帝當春秋十四歲、上皇字多勅右大臣及左大臣藤時平、輔佐帝攝行萬機、以道得君至如是、則國朝自古所未有也、惜哉、未幾爲時平所讒、四年正月、左遷太宰權帥、法皇聞之、遽往欲救、夜至宮門、時平等令闔勿內、故法皇亦不得見、帝解冤救之、嘆息而還、初帝踐祚、入觀上皇於朱雀院、上皇曰、右府齒德爲海內所景仰、宜委任之、因諭道真亦以此旨、道真因辭而退、時平聞之、深嫉、才能、又仁明皇子源光時、居大納言、亦耻己官在道真下、時平與之計議、遂搆成之、道真赴謫、未幾薨、萬民失望、嗚呼功業雖未及成、然到今尙忠貫日月、德輝海內、誠國朝之儒道、於斯爲盛、自是而後、帝王世崇儒術、菅江之族亦世不乏材、多爲祭酒、掌東西

庠、在大學案學士文人問道於二門、莫不知崇周孔道、而講習五經、然至其所授則皆漢唐古註、而非宋儒新註、明矣、凡管氏所著書、管家集六卷、清公著管相公集十卷、是善著管家文章十二卷、道真著通計二十八卷、曰管家後集、或曰獻家集狀云、

五經第十六

夫五經書據五經博士段楊爾自百濟推轂子繼體帝時則楊爾所齋貢之書云、前此距載六百四十、漢武帝建元五年置五經博士、迨肅宗時詔丁鴻與賈逵、論定五經同異、則於百濟倣置博士、亦應必在其後、而有以齋焉、爾後相繼五經博士馬丁安主柳貴、易博士王道良等來於欽明朝、皆見帝紀、按初學記所謂五經秦以前、則以易書詩禮樂春秋爲六經、至秦燔書樂經則亡、以易詩書禮春秋爲五經云、暨唐太宗時嘆五經傳習寢訛、詔顏師古于秘書省考定、頒於天下、學者賴焉、後百卅年降代宗世、我朝寶龜六年光仁帝遣伊豫郡家守使于唐、家守留唐習五經大義、切韻說文等、回任直講尋輔助教、國史類聚今按家守所習、則依顏定本可推知一

也、後餘三百至圓融帝永觀二年、僧翫然浮海至宋、時宋太宗雍熙元年也、書對太宗、國中有五經書、得自中國云、亦應顏定本也、而釋日本紀以禮樂論孝書爲五經云、未可知何據、拾芥抄則以詩書禮易左傳爲五經、京極黃門未來記抄、及僧桂菴家法和點明應十年著述至元和十年刊行世亦如之、易更三聖伏羲文成王孔子乎周矣、故謂周易孔門商瞿受之、至漢四分施孟梁京、而其流有馬融荀爽鄭玄劉表虞翻陸績王弼之屬、據易博士王道良來於欽明朝、則道良所齋易亦依漢儒註、可概知也、詩有四詩齊魯韓毛、而齊魯韓三詩亡于晉隋間、毛傳獨行孔門子夏、以授申公、申公以授魯國毛亨、至亨爲傳、以授毛萇、故謂毛詩、賈逵鄭衆馬融鄭玄之屬皆受焉、尙書及禮記、漢武帝末魯恭王得之孔壁、皆蝌斗書、人無識焉、孔安國得而獻之、乃從伏生論古文誼、見孝經序慶中、浙江督學阮元駁安國傳、古文爲尙書傳、賈逵馬融鄭玄等爲之訓傳、禮記有三家戴德戴聖慶普、皆受后倉、倉受之孟卿、卿受之蕭、蕭受之魯高堂生、而二戴所傳儀禮也、於其中一戴德所傳八十五篇爲大戴禮、戴聖所傳四十九篇爲今禮記、漢末鄭玄好小

戴記爲之註、通儀禮周官爲三禮云、春秋魯史孔子所脩、而其傳則左丘明爲演口授、故謂左傳、杜預

註焉、按尺素往來一條策於本邦、則以周易尙書毛

詩周禮儀禮禮記春秋論語孝經孟子爾雅爲全

經、併之老子莊子荀子楊子文中子列子管子淮南

子等、清中業儒者、世傳師說、入備待讀、承和十四年、春澄善繩授

仁明帝莊子、如三其傳及註疏正義、則前後漢晉唐等所注

釋、本自古受焉、而於五經左傳、依杜預註、禮記

依鄭玄註、尙書依孔安國傳、周詩依毛亨傳、周易

依王弼註、行于世云、僧桂菴家法和點、所謂五經古

註亦皆是也、於其中周易尙書毛詩禮記春秋孝經

論語孟子之古本尙存、藏足利學山井鼎等、校閱諸

本、詳記異同、曰、七經孟子考文物道觀爲之補遺、物

茂卿序焉、稱唐以前王段吉備諸氏所齎來、古博士之

書刊行于世、凡二百卷、近皆往清至嘉慶中、浙江督

學阮元等見而信之、略舉所證爲誠、古本可供採

擇者、竟刊小板行于世、彼國云、茂卿所謂王即王仁、

段即段楊爾、竝百濟博士、吉備卽上道眞備皆見前篇、

彼嘉慶始則我後桃園帝寬政八九年也、

孝經第十七

桂菴所謂五經亦同、拾芥抄學、但併孝經爲六經

云、按清和帝後博士等、授太子書、自孝經始、且令

國民讀亦必取焉、見孝謙紀、而其註則專依孔傳、卽

孔安國所爲訓傳、而孔序有淺學者以當六經之語、

又我貞觀二年制有爲六籍根源之文、由是本邦自

古併孝經於五經、以爲六經、所謂六經不與彼

同、蓋首孔序、可併知焉、故明應中桂菴猶筆之書、

亦爲所久承說者明矣、按孝經有二本、漢建元初

河間王所得而獻、凡十八章者謂之今文、顏芝顏貞

張禹等相承宗之、劉向亦從顏氏、而鄭玄爲之註

云、其一漢武末年魯恭王所得孔壁二十二章者謂

之古文、魯三老孔子惠抱詣京師、獻之天子、亦蝌斗

書也、乃孔安國等於今文、以定古文、遂從隸字、寫

于竹簡、爲之訓傳、自是孔鄭二註皆行于世、而於

西土孔註本既亡、於梁亂、如世所傳、出自劉炫、炫

爲隋人、特好孔學、故安國之註劉炫之義、盛行於

世、而至唐開元十年玄宗、竊然傳、爲唐越王大宰序、爲唐明皇、啓一註紛

蒼難乎誦習、親註今文、詔元澹作新疏三卷、司馬貞淺

學阿世、妄職闡門章、由是御註本獨行于世、孔鄭二註並廢、於彼久矣、然未廢前皆入本邦、於本邦一世博士等敎授生徒、亦惟取二註、以迨清和帝時、貞觀二年十月壬辰下令學官以御註本授其生徒、然若勤博猶講孔註亦聽兼涉、據是觀之、本邦自古孔鄭御三本、皆並行者明矣、是歲二月大學博士春日雄繼授帝御註孝經、故有此制、後餘百廿年迨圓融帝永觀元年、僧裔然入海適宋、獻宋太宗唐越王孝經新義一卷、事見僧傳、又日本僧裔然以鄭註來見元人志、而後朱子八歲讀孝經、題八字曰、若不如此便不成人、後據古文二分定經傳、僅爲刊誤、未及訓解、爾後歷載餘四五百、明曆二年山崎闇齋爲之外傳述朱子之意云、又信陽太宰德夫名純得孔傳古文者、屢勤校讐以成定本、享保十六年刊行于世、其孔傳亦指貞觀制爲孔註者、可併證也、但德夫序云、古書之亡於彼而今存我邦者頗多、宋歐陽子嘗作詩稱逸書百篇、今尚存、昔裔然適宋獻鄭註孝經一本於太宗、司馬君實等得之大喜云、按唐帝取孔鄭二註以註今文、且裔然獻宋本亦如舉右、則此云鄭註、卽爲御註本明矣、又自享保降二十年至寶曆、初讚

州良野伯耕名芸之得裔然遺本於南都、校定刊之、則亦鄭注今文孝經云、據是考之鄭康成註今文者、爲有確據矣、雖然太宰所刊行一本既已往、清乾隆四十一年刻於我國、後廿二年迨嘉慶二年、浙江督學阮元等校訂刊行、日本山井鼎、七經孟子考文物道觀補遺、於兩浙皆莫不信、茂卿等稱、唐以前古籍多存於今矣、而惟孝經則據僞孔安國本、爲無足取、且駁僞孔序曰、其自稱從伏生論古文尙書、稽諸史記、安國早卒、計安國當生于文帝末年、卒于武帝大初以前、安能逮事伏生、又其尙書序及見巫蠱云、兩無足據矣、餘皆爲古本云、今季安按若其果非史記稱安國早卒有誤焉、據孔傳本出自隋劉炫云、則阮元所謂僞孔安國、疑隋劉炫所僞作以行于世也、當是之時一本邦學生福因玄理等、首學隋者七八人、而福因等同、方唐武德元年、則應必彼等因盛行本所講回之古書也、故自唐始行于本邦、可以知也、嘉慶二年當我朝寬政九年、實近代說也、書埃博識耳、

論孟第十八

論語二本、曰論齊二十五篇有問曰魯論二十篇曰古論二十一篇分幾

爲子張而古論亦出孔壁中、孔安國爲之訓解、漢張

禹受魯論于夏侯建、又從王吉受齊論、擇善而從、

曰張侯論、漢末鄭玄以此爲本、參考齊古而爲之

注、魏何晏又爲集解、爲世所重、事見皇疏、而王仁

之來也、獻論語十卷千字文一卷、亦見國史、今稽

年世、當西晉時、則王仁論語應必集解也、而桂菴所

謂論語古註亦此也、又降梁世皇侃所爲義疏亦入國

朝、古本尙存、近寬延中松本伯修名遜志稱得之足利學

校、正刊行于世、服南郭序焉、稱海外後世蓋所不

傳、近嘉慶中浙江督學阮元見日本板信之、洵爲

六朝真本云、可併證也、千字文晉鍾繇所造、則王

仁所貢亦應此也、而於原本中濕雨久不次得、

至梁武時得復舊韻、梁李選註且序云、王仁齋來、

非其本明矣、孟子前史列儒家、趙岐陸善經爲之

註、張鎰丁公著爲之音釋、而至宋世始列于經、桂

菴所謂孟子古註則趙岐註也、亦清人阮元等見日本

板、信其章指勝俗本邵武義疏云、皆足證其爲古

本焉、學庸二書舊入漢戴聖所輯禮記四十九篇之

中、而以鄭注一行、迨宋二程氏表章之、特爲所尊

云、語在下篇、蓋國朝皇子之好學也、莫如聖德太

子、太子聰慧、夙雖習佛教於僧惠慈、學外典於博士

覺智、時猶當隋則覺智所授經典皆漢儒古註、而於

聖道未造蘊奧、妄穿鑿訓詁也已、於是乎、太子

取信亦素外典之則不有如其尊佛之至淫溺

焉也、其爲外典、稽諸經傳、如明德語、多爲聖人之

道德光輝發越以施乎物者、因漢儒亦惟說聖人之

用、而其外之故也、至朱子說明德、則爲下人之所

得乎天、而虛靈不昧、以具衆理、而應萬事者、是

說聖人之體、而爲內也矣、若其幸而使朱子生於太

子前、以先入其說於國朝、則覺智所授亦應以新

註教太子、必闡明斯道、嗚呼不幸而使太子生於

朱子前、先受古註、故至使太子之靈利惟佛是尊、遂

如儒籍妄稱外典、不亦甚遺憾乎、

新註第十九

夫新註者、孔子既沒、三千之徒、曾氏獨得其宗、以傳

子思、子思筆諸中庸、精微益明傳之孟軻、軻愈擴充

述乎七篇、軻之死而其傳泯焉、遺經空存千五百年、迨

至子宋、天開斯文、濂洛關陝鉅儒輩出、周子爲學

不由師傳、默契道體、建圖著書、發明幽、顯、有三以接乎孟氏、二程續承表、章學庸經傳、粲然蘊微復彰、以至朱子、朱子之學居敬、窮理、分、博、探、經史、欽、華就實、尚粹、厥淵源闡而大之、道統復續、乃因程子所定章句學庸、詳爲之序、以弘于世、實宋孝宗淳熙十六年、而於我朝、則後鳥羽帝文治五年、僧榮西遊宋之歲也、朱子又嘗集註論孟、教次讀焉、併稱四書、迨其門人劉燦居國子司業、遂奏寧宗嘉定四年刊之、大學自是四書大行于世、爲後學所宗尊焉、今季安按、當時本邦有僧名俊莠者、字曰我禪、俗藤氏、肥後飽田郡人、建久十年浮海遊宋、明年至四明、實寧宗慶元六年、而朱子卒之歲也、居十二年嗣法北峯、士庶崇尊至畫其像、乞瑞律師爲之贊辭、以納祖堂、而其歸則多購儒書、二百五十卷、同于我朝、乃順德帝建曆元年、而寧宗嘉定四年劉燦刊行四書之歲也、俊莠之歸也、購律宗經書三百二十七卷、天台章疏七百十六卷、華嚴章疏百七十五卷、雜書四百六十三卷、與上儒書通計二千三百三卷、同于本邦一見其傳、據是觀之、四書之類入本邦、蓋應始乎俊莠所齋回之儒書也、書埃博識爾、

宋學第二十

本邦緇徒之學宋也、道元聖一、大明大應月林等、相繼遊宋、道隆普寧、正念等歸化自宋、逮至元世祖元一山、子曇等歸化自元、皆宋儒說盛行于世之後也、而於其中、舉概略、則祖元字子元、俗姓許氏、故宋會稽鄞人、七歲入小學、沈鷺寡言、年十三祝髮爲僧、道德益隆、四方傾企慕向者日益衆、而宋亡居天童、我朝弘安二年、北條時宗遣使招高僧、明州太守遣元充之、四年來見時宗、乃拓圓覺寺居焉、年六十一逝、明編修官揭傒斯爲之塔銘、其文、余聞西域諸國去中土至遐遠、然車馬可計日而至、而其人不知有孔氏者、東南諸國邈在海中、而皆言孔子、蓋去中土近、人居異離文明之方、然尊信佛法、與西域同、以海路不能限之耳、佛光祖元號也起乎會稽、赴平氏、招日本地、近又適其時、嗚呼佛光亦忠孝人哉、其銘亦云邈矣、前聖萬化之宗、孔釋雖異、忠孝則同、孰知我元參天配地、孔釋並隆、無遠不至、據此祖元匪啻釋教、兼精聖道、以唱宋學於本邦、亦是概證焉、一山字一寧、俗姓胡氏、亦故宋台州人、

齡就學以英敏稱、後入浮屠、正安元年或爲三年、逼乎

使命、來朝于本邦、遂主建長、法規濟々、群祔鑽仰、

就中鍊虎關等、詢儒釋書通達古今云、朱子門人黃

勉齋讀朱子德、海外夷虜亦慕其道、竊問其起居、家

蓄其書、私淑諸人者不可勝數、或逮沒後亦傳其書、

信其道者益多云、按歐陽脩日本刀歌、呼吾本邦爲夷貌、

據是觀之、勉齋所謂海外夷虜、亦蓄其書云、

倭斯所謂東南諸國皆言孔氏、孔釋並隆、無遠不至云之類、

蓋皆讀祖元赴日本招、或聞俊苳等、多購儒書歸于日本、以言之、可併知焉、

崇信第二十一

一山之來本邦也、鍊虎關年二十二、自幼好讀書、

穎悟超倫、日記千百言、聖教釋錄、諸史百家、神紀雜

編靡不獵記、屢就一山古今儒釋紬繹審詢、妙達性理、

一峰跋句聲聞寰中、蓋於本邦一聞、宋以後嚴崇程朱者應首乎斯也、

一日一山因鍊多識問國朝名僧履歷、鍊多弗弗記、

一山乃曰、子涉漢竺博辨章然、而矇國故、却澁酬對何哉、鍊慙矣、於是博稽史籍、著

書三十卷、元亨二年表呈帝闕、所謂元亨釋書此也、

則其文曰、仲尼沒而千有餘歲、只周濂溪獨擅興繼之美矣、當是之時、有伊勢度會人曰家行、者、元應二

年撰類聚神祇本源采通書語濂溪所著又一條禪閣兼良公

著尺素往來述其沿革云、清中二家世業儒者、

所自古受經子註疏皆依前後漢晉唐之說、迨獨清

軒建叟一名洗心出、始崇濂洛之風、信程朱說、開講

於朝廷、天和癸亥長尾某所梓行、羅山訓點四書尾、亦本朝釋元江帝、按元江疑玄惠、侍講朱註於御筵、爾來四海翕然知祖鑑之云、未詳何

帝、此坡考至若史漢三國晉書十七代史唐書之類、

南式菅江皆從古註、亦至健叟則始讀資治通鑑宋

朝通鑑等、以授其徒弟、獨北畠准后親房得其蘊奧、

云、山崎闇齋駁之曰、朱書之來于本朝、凡數百年、玄

惠始以爲正、而未免佛、藤太閤亦以謂、程朱新釋

爲肝心、而猶惑乎佛、遂不聞實尊信之者云、其

云玄惠即健叟、太閤即禪閣、而時未聞耳、雖然親

房特欽朱子之學風、讀四書五經、宋朝通鑑等、當時

博識無比肩者、偕楠正成等事南帝於吉野、爲柱石

臣、著述尤多、見親房傳高僧傳尺素往來南山巡狩錄隣交徵書、而其元元集

則引大極圖述神道秘蘊云、凡本邦取宋說之徵

乎古書者、大抵此類也、今按、年世則師鍊年六十九、

逝于貞和二年、健叟化于觀應元年、親房六十七薨

於正平十四年、皆竝其時俱逮。宋僧祖元一山等、時者明矣、據此宋書知彼等所齋來之書也、其講之亦應在彼等、故師鍊健叟等、得聞而讀之、自是漸闢、於紳縉、則准后親房、於武辨、楠正成、今川了俊、於沙門空華、岐陽一慶、惟肖之屬、稱至皆知讀四書五經、亦可觀焉、匪徒知之、如楠正成、偕親房等、慷慨奮義、殺身勤王、其將死也、貽子訣書曰、死期迫矣、欲視汝成、抱義所重、更難亦遁、戒汝勵學、以察吾志、今愚竊謂其知義所重、自非宋學、恐未得言、以是觀之、雖未聞世、謂楠氏學吾必謂之學焉、盛哉、朱子海外益信、至以有爾實、因人性各所固有、感其說、理義於自然、故也、今尋厥源、多由緇徒往來西土、以傳其書矣、然則雖僧其與焉者、不可不載、故采錄爾、

義堂第二十二

義堂名周信、號空華入道、俗姓平氏、土州長岡人、母藤氏禱五臺山、夢白氣入懷而妊、踰一朞生、于正中二年、天資豪爽、識超群童、年十四上睿峰、登壇受戒、稟密法於道圓、魯誥竺墳、泛覽無遺、師事夢窓於

洛臨川、遂契玄旨、夢窓既滅、依龍山於建仁靈利、真參聲聞華夷、應安四年上杉氏報恩寺於相州鎌倉、招爲主僧、居三十餘年、宗趣鑑博、有照人鑑、四方雲衲爲之所舉、主列刹者皆得其人云、堂又構室名曰空華、永和二年明僧宗泐爲之歌焉、康曆元年源相義滿、召董建仁、其入之也、台旆醺山、冠纓緇衲、填衍堂廊、永德元年康曆三年二月改元九月源相令儒學徒講孟子、書疑義或異、二十一日堂謁源相、源相語及前日事、堂迺對曰、近世儒書有註新舊所見各異、而其新義則出於程朱、凡宋儒皆參吾禪宗、發明心地、故與訓詁迥然別矣、因勸源相以學問焉、夫學問則聞見日博、每臨政事、如指諸掌、世人雖各自具明德、未有不學而得道者也、二十五日堂詣一條准后、准后敢問於新舊、若決之孰爲優乎、對曰、漢唐儒者只拘章句也已、至宗儒則洞達性理、故所釋說太高矣、是皆參吾禪故也、見其所著日用工夫集及伊藤長胤所著蓋簪餘錄合爲、按其所謂近世蓋指師鍊健叟親房等時、是歲堂年其青年二十二、則師鍊叟于貞和二年、又二十六則健叟逝于觀應元年、又三十五則親房薨于正平十四年、可併觀也、故堂亦與焉、至德三年陞南禪寺、海內羣衲爭先聚臻、前比

永德三年岐陽亦飯自相隸名南禪以講究者四十年于茲矣

見岐陽傳後至岐陽兼倡宋說亦蓋與堂首焉已其夏源

相奏後小松帝特舉南禪列五山第一秋以疾謝

憇于慈氏院嘉慶二年知疾不可起乃命造龕四月

月二日自裁之銘四日端座示滅年六十四窆于本

院堂之器識淵偉道儀古高而其居常與衆同甘苦

禪座諷誦雖疾不闕以辛勤斃所素願云善弱翰

墨明僧楚石等見稱嘆焉所著述有語錄及空華

外集日用工夫集若干卷又選宋元偈頌爲十卷

曰貞和類聚祖苑聯芳集皆行于世其餘記鈔等尙

多云

漢學紀源卷二目次

岐陽第二十三

一慶第二十四

惟肖第二十五

景徐第二十六

桂悟第二十七

桂菴第二十八

漢學紀源卷一終

漢學紀源卷二

岐陽第二十三

岐陽名方秀、號不二道人、岐陽其字也、俗姓佐伯氏、讚岐人其先與大伴同祖、出自天忍日命、十一世孫室屋之男御物宿禰、御物生倭子連、允恭帝時詔倭子連爲讚岐國造、自是子孫繁衍多爲讚岐人、僧空海亦同族、而生於州之多度津、父曰田公、空海贈伴宿禰國通語、有伴佐昆季句爲是也、岐陽父曰清泰、蓋其裔胤云、母源氏夢獲珠劍而有娠、生子貞治二年癸卯之歲、生髮未乾遭亂於州、父清泰避奔北越、母懷陽入洛、依外祖源某、源某業儒、見陽英敏曰、孺兒可教矣、授以詩書、誦誦弗倦、及源某卒、從泉石密于東福、執童役、時應夢巖雲州人方董東福、以博覽能文、遐翔名翼、陽學其門、應安七年甲寅夢巖逝矣、勅諭大智圓應禪師陽年十二、乃拜濟靈源於安國、親炙八年、知解益進、開法於道福、永德二年辭往相州、掛錫龜谷、明年回洛、隸名南禪、遊南北講

肆、至德三年堂周信陞董南禪、頗信程朱書、初陽少學詩書、後崇宋學、亦蓋有資焉、由是大小經論靡不探願云、明德三年陽年三十而歸東福、乃掌藏、由後版尋遷前堂、嘗從及愚中得發樂多後爲偈寄曰、象王行處絕狐蹤、一喝何妨三日聾、卽此用分離此用、虛空突出妙高峰、愚中觀大稱之、應永九年明主惠帝遣僧天倫日榮禪師一菴日如講主來朝本邦、前年三月、義滿遣使于明、見二年契陽欲面識而官禁不許、屢通書問、倫菴咸見稱其博才、幕府義持常召問法、崇敬尤膺、由普門遷董東福、山曰慧日賜之金襴衣、據高僧傳等十年國朝使舶載四書及詩經集註等還自明國、八月三日齋致之洛陽、乃講之、見大全繁頭、但時岐陽居東福之不二院云、按本傳其稱不二庵、則爲應永二十七年、事龜頭說疑追書誤、我文之說爲應永中、南渡歸船云々、和漢年契則此年明遣使來云、未可知孰是、當時新註未行乎世、足利學校在下野州、天長中小野基所創、而中古移之、城州一乘寺村圓光寺之地又一說、至文明中、僧快元復修其廢云、按龜峯守子、天資穎敏、善詩文、當時無比、以鴻臚官居宰府、與唐人沈道古、唱和、沈氏大奇之、特工艸、聖世爲師楷、其守陸奧也、建學校以教庶生、官終參議、俸祿賑恤、家清貧、以仁壽二年十二月薨、年五十一、自爲墓誌、至應永十年、得五百五十二年、教其生徒、猶以古註、而多未周知、世有新註也、陽特悼之、每講新註、輒有諭焉、曰夫志乎儒

有注之、和點、以弘於世者、大抵當時南北爭朝、惟競執戟、出奇設伏、士未顯儒、海舶珍書雖手探之、多不能讀、於是乎陽遂加倭點、以授其徒、章一慶巖惟肖等云、高僧傳、家法和點、恭畏問答等二十七年庚子、天龍席俄嬰風痺、退靖栗棘菴、又起升南禪、未幾謝事、構不二菴於慧日山側、以憩焉、三十一年甲辰、宿痼頻發、二月三日奄爾即世、年六十二、天性充實、好尚聞思、識董宏深、文藻典麗、名聲藉甚於天下、按祖應傳云、當時據大方、而負一時名者、若大岳崇東、漸易遠州人、歷在東禪南禪寺、岐陽秀、惟肖巖等、皆出其門云、又道芳傳云、謁性海、椿庭太清、春屋義堂、絕海諸師、皆推重器、惟肖仲方、太白、岐陽數彥、歛衽服膺云、可觀此等、亦證丙當時爲高德也、多鈔經錄、貽惠後學、別所著有琴川錄、或作岐陽禪師語錄、疑此不二遺稿、同自曆譜多行、于叢社云、

一慶第二十四

一慶字雲章、京師人、姓藤氏、家世冠簪、左丞相經嗣之子、至德三年丙寅夏生於桃華坊第、自幼逸群不屑榮祿、明德二年慶年六歲、投童役於山崎成恩寺、應永

八年年十六落巾、稟具隸名東福、九年明僧天倫天一菴之使、于本邦也、慶乃造謁、倫見器重、乃賦與之曰、十二年前蚤出家、因緣傳得祖袈裟、黃梅夜半曾分付、把住無容失左車、而適城北、從岐陽於聖壽寺、受程朱學、朝昏辛勤綜究內外、迨陽主東福、充典輪藏、分位後堂、秉拂說法、常與岐陽評論碧巖、至其羅紋結角之處、陽抵掌而賞、後小松帝賜慶手詔、入講元亨釋書、嘉吉元年遷董東福、寶德元年夏太上皇寫御昭容、勅慶作讚、上皇亦製和歌、親書其尾、世以爲榮、冬詔陞南禪居任三月、佚老於慧山之寶渚、律身甚嚴、脇不沾席者凡十七年、嘗慨正宗日就隱微、而流弊滋、居恒與衆講百丈清規、因會諸家說、撰清規要綱、又作五燈一覽圖、以備後學之檢尋也、又每喜誦程朱說、著理氣性情圖及一性五性例儒圖、寬正四年正月二十三日、坐化年七十八、勅諡弘宗禪師、

惟肖第二十五

惟肖名德巖、號雙桂、備州人、性氣容敏、年十六上京都、從芳草堂翳染稟具參祖、應於東福、與秀岐陽

等、雖爲同門、如程朱學受之岐陽、作法、和點、但經史子集、無不探抉、以文鳴世、與仲方、太白、岐陽齊名、應永中幕府義持招董相國、寵待隆遇世以爲榮、歷住攝州、棲賢洛陽、真如萬壽天童後陞南禪、永享四年幕府義教普廣院殿遣使齋書、贈明宣宗、命肖撰焉、五年明使來聘、六年弟子猷竹居等、建其師石屋禪師塔銘於薩之福昌寺、肖復撰焉、八年六月所遣使舶還自明國、先是明成宗、明儒臣胡廣、楊榮等、纂修四書五經等大全、既殲于梓、頌行世者二十一年于茲矣、一說四書此時載回云、據桂菴言、普廣院殿時姑書備考、爾蓋肖承師說、欲愈讀其詳者、有所購故也、晚年謝事構一刹於龍山中、南禪寺山曰瑞龍、此也爲燕息所、命曰雙桂院、故世稱雙桂和尚、而義學之徒來叩門者多、則猷竹居瑤器之樹桂菴、悟了菴之屬、亦皆出於其門、恒示人曰、如人登山須自努力、又上堂輒曰、天何言哉、四時行焉、地何言哉、萬物生焉、旁好莊子、始講禪齋口義作鈔十卷、蓋以下篇中多用禪語、而世人難曉也、所著有語錄外交若干卷、曰東海瓊華集、

景徐第二十六

僧景徐字周麟、別號宣竹、善屬文博識多通、領袖群衲嗣法、萬年材用堂、四住相國一董南禪、文明十五年正月、幕府義尚會近衛氏家政等、各暢吟懷、景徐與焉、齡超古稀逝于軒中、所著有外集若干卷、曰翰林蒹蘆集、出傳書目慶長十五年十一月、僧文之與恭長書曰、應永年間南渡歸船載四書集註與詩經集傳來而達之洛陽、於是不二岐陽始講此書、爲之和訓、于時東山有惟正、東福有景召二老名衲、而同出於不二之門、匪翅精此二書、以博學多聞、籍甚天下、我桂菴後二老受程朱學、遊明七年遂研究之歸、教授西藩傳之月渚、月渚傳之一翁、以至文之、今季安稽諸僧傳、所謂惟正蓋惟肖之誤、既載前篇、景召亦景徐之誤、而字周麟、桂菴與周麟善、永正三年周麟所寄詩云、

桂翁先友是蘭翁 聞昔龍山會坐中
前輩零凋吾老矣 洛得寺々見秋風

按蘭翁即蘭坡、而名景菴號雪樵、八年二月周麟跋巢松集曰、巢松親灸雪樵、雪樵余之師友云、椽此周麟師友蘭坡、則爲桂菴友、如有證焉、然文之書桂菴學

于景召_{即此}文之相後殆剩百載、桂菴、月渚、一翁、文之、

四世口授、恐傳聞誤、今季安謂、周麟、蘭坡、桂菴同學、

于惟肖、後交_{師友}、故致_{此誤}、可以觀_也、於是今

叙_{景徐}於惟肖下、姑錄_{所疑}以_埃來哲、蘭坡稟_法

軌大摸、而夢窓四世之孫也、聰慧夙發、喜_{誦坡詩}、學_之

之蟬閣_{一名龍傑號瑞巖一字仲建別號蟬菴或作蟬閣泉州石津}

寅住_{建仁寶德庚午董南禪長祿四年閏九月又質葵齋於諸史}

五日坐脫年七十七_{所著有二會語錄及外集}

籍_{靡不該研}、文明十五年正月義尚雅會景蕙以詩與

召_{且土御門帝屢召問法}、心宗洞徹外學兼涉、每_詣

闕庭_{朝講}經夕留_詩、爲_{王臣所}崇重、歷遷諸利後

陞_{南禪}、既謝憇_于正因菴、景廬與_{桂菴}友善、明應末

年桂菴奉_{釣帖}領_{東山}、景廬贈_{書賀}焉故友也、文龜

元年終_于菴中、後栢原帝追褒賜_諡佛慧圓應禪師、有_三

所_著仙館集雪樵獨唱集、京人巢松親灸八年、善_詩知

名、後來寓_于慶府、從_{桂菴}學、詳見_{下篇}、

桂悟第二十七

僧桂悟號_{了菴}、以_{應永甲辰}三十生、蓋偕_{桂菴}受_三

朱學於_{雙桂院}、惟_有之門、而長_於桂菴三年、嗣法真如塔

疑信公泛通_{三宗說}、應仁二年雙桂門下爲_璿、化悟爲_大

銘、爲_璿乃吾薩州甌島人而竹居弟子也、文明中出_三世

勢之安養、遷董_{東福}、後土御門帝、聆悟馳譽召_聞法

要、大愜_{皇機}、特_薦宸翰、大_書了菴二字、以賜_悟、

世以爲_榮、永正三年足利義澄使_悟聘_明、時年八十

三、道次_{泉南}、六月間_{杏林}陳氏寄_{桂菴}詩、固有_三與

之識、荆乃和以贈焉、

日州安國堂上桂菴大和尚、乃瑞龍遺局、南遊東歸以

來、道價被_于九州、王道向_化、以_故不_屈駕、而舉

視_於名利東山之象焉、頃有_{陳氏}外郎、京師所_居

號_{杏林}、西遊之日謁_見于桂菴師、神交道契、雖_然東

西阻脩_{鴻鯉}鮮_{音耗}、今茲夏末_{應是永正三年六月}安國僧徒往來

之候、杏林製_{二絕}抒_{離索之懷}、仍請_{維下}諸名緇

令_同于_韵、老拙任_{皇明}入貢之節留_滯泉南、杏林遣

書求_{屬和}、顧往日既有_{識荆之雅}、而同好宜_減於

陳公_哉、初應_{其請}、後篇寫_{區々}老懷、解_一榮於千

里之外、

鑒鑠今時一郝翁 名聲籍々播關中

杏林交義辱支許 海外九州曾向風

長安遠近日過翁 聲利曾遊在眼中

桂子天香我同稱 栴檀薝蔔一家風

大明正使老釋桂悟拜

轉結所謂桂子同稱一家風、今按其意、桂悟桂菴皆青年俱學、雙桂之門、故分桂子、以各名之、於是言受一家風、同稱桂焉已、丁菴渡唐、九州に滯留中被送之、既而

法の師のはなの玉藻をくりかへし

かけてあひ見んことをしそおもふ

開洋舟抵鄞江、寓館於駟、四年丁卯明正德二年也夏餘姚王陽明、名守仁、字伯安、赴謫龍場、道至錢塘、悟之寓於駟也、

陽明就見悟焉、感其學行云、而入帝都、行朝聘禮、壽海圖編、正德八年五月、夷船三隻使僧桂悟貢方物、云此也、但年月言其歸耳、宴賚如例、武宗乃詔悟住育王山、悟臨門曰、育王門戶八萬四千、毘盧樓閣雨華現前、又進步云、纔動一步、東土西天、是日武宗遣中使、使賜悟金襴、僧伽黎、乃拜拈衣云、

晝錦恩榮北闕天

黃梅夜半不曾傳

育王山頂橫雲務、無相福田擔一肩

每有上堂緇白觀呼、公卿縉紳崇德來謁、居之八年、諸儒與之交者多、九年壬申悟既解印、館于姑蘇、居幾半載、四月姚江楊端夫等、贈詩者多、

日本了菴禪師膺使命來、我皇明館于姑蘇

幾半載、凡士大夫之相與者無不敬且重焉、以其齒德既高、口學亦稱是故耳、昔王摩詰所謂色空無得而不、物物、語默無際而不、言言者似今日禪師道也、予接遇日久、因賦詩以贈、一以詠號、一以送行云、

撥開雲霧、靈臺湛、著盡士夫豈憚勞

六鑿已空無箇事、一身天地自逍遙

文采飄然語意真、聖朝尤重老成人

明朝授節歸東國、曾見賢王眷顧頻

正德七年四月望日 姚江 楊端夫稿

十年癸酉明正德八年也諸縉紳、聞悟將歸咸贈詩章、此年五月陽明與門人徐愛等遊入四明觀山水、而自寧波還、餘姚亦聞悟回、十六日爲序贈焉、

送日東正使了菴和尚歸國序
世之惡奔競而厭煩拏者、多遜而之釋焉、爲釋有道不曰清乎、撓而不濁不曰潔乎、狎而不染、故必息慮以洗塵、獨行以離偶、斯爲不詭於其道也、苟不如是則、雖皓其髮緇其衣、梵其書、亦逃租絲而已耳、樂縱誕而已耳、其於道何如耶、今有日本正使堆雲桂悟字了菴者、年踰上

壽不_レ倦爲_レ學、領_二彼國王之命_一來貢珍於大明、舟

抵_二鄞江之游_一、寓_二館於駟_一、或作驛予嘗過焉、見其法容、

潔_二修律行_一、堅鞏坐_二一室_一、左_二右經書_一、鉛采_{一作朱}自

陶、皆楚々可_レ觀愛、非_二清然_一乎、與_レ之辨_二空則出_一、

所謂預修_二諸殿院之文_一、論_二教異同_一、以_レ竝_二吾聖人_一、

遂性閑情安、不_レ譁以肆、非_二淨然_一乎、且來得_二名山

水_一而遊_二賢士大夫_一、而從靡曼之色不_レ接_二子目_一、淫哇

之聲不_レ入_二于耳_一、而奇邪之行不_レ作_二于身_一、故其心日

益清、志日益淨、偶不_レ期_二離而自異_一塵、不_レ待_二浣而

已絕矣、茲有_二歸思_一、吾國與_レ之文字以交者、若_二太宰

公及諸譜紳輩_一、皆文儒之擇也、咸惜_二其去_一、各爲_二詩

章_一、以_二艷飾_一、迴躅、固非_二貧而濫者_一、吾安得_レ不_レ序、

皇明正德八年癸酉五月既望 餘姚 王守仁

贈_二了菴歸_一國

明發行囊曉拂_レ塵 豈辭_二霜鬢_一苦吟身

調高不_二是陽關唱_一 杯泛何妨麴米春

水濶帆飛風力順 華紅葉綠雁聲頻

至_レ家解知_二詩笥重_一 爲報賢王謝_二紫宸_一

廣平府知府前都給事中九十叟 月湖 盧希玉

既而東還、入_レ內報_レ事、後栢原帝乃勅陞_二南禪寺_一、瞰_二

山門丘墟、悉出_レ衣資以再建焉、竟回_二慧日_一、東福寺之大慈

院、安庠而化、年月特賜佛日禪師、有_二所著語錄二卷_一、

題曰了菴悟禪師、了菴桂悟佛禪師十三回、一彈_二指頭_一、

十三霜、舊院無_レ人苦滿_レ廊、佛日不_レ知現那界、扶桑國

裏早韶光、亦出_二雪玉集_一、吾桂菴齒雖_二少_一於悟_一、其於

適_二明前乎_一、悟者可_二三十年_一、而又東歸爲_二文明五年_一、

陽明王氏生僅_二二歲之時也_一、迨_二悟遊_一明既踰_二四十_一、論_二

格物致知知行合一之義、雖_二良知學未_一振_二于世_一、專以

倡_二明聖學_一爲_二己任_一矣、天縱明睿超入_二聖域_一、悟同十

年始揭_二良知之教_一、以鳴_二天下_一、明國理學莫_二精_一王氏、

當時譚_二學者莫_一不_二稟爲_一摸楷、而悟與_レ之親論_二學術_一、

既見_二許可_一、如_二序所言_一以_レ是推_レ之至_レ如桂菴、雖_二與_一

王氏未_レ獲_二一面_一、亦爲_二悟所_一慕、如上所_レ載則於_二其

學行、亦足以觀_二有所造焉_一、故併言爾、

桂菴第二十八

僧桂菴字玄樹、後號_二島陰_一、本貫周防山口人、不_レ詳_二考

妣姓字_一、以_二應永丁未_一生、永享七年年甫九矣、乃遊_二于

洛_一師_二事_一、惟宵於南禪寺、當_二此時_一建仁寺有_二惟正諱明

貞者_一、東福寺有_二景召諱端棠者_一、皆不二岐陽之徒弟、

而講四書以博識稱故又就二老受內外學嘉
吉二年師年十六年而削髮爲僧始登戒壇時惟肖
既老構居山中曰雙桂院因師亦取撰名字云
當時譚學者鮮不聚叩而稟於其門師最苦螢雪
與景徐桂梧蘭坡等友善皆一時名僧也業成而歸
飛錫長州領永福寺在赤間關愈信宋學讀倪士毅四
書輯釋及永樂所進大全等雖以欲究其精微猶未
知下先師陽岐所點四書悉適註意否於於是慨然有
求真學之志時會國朝撰遣明使於五山僧而惟肖
等知擇才之權乃徵知名衲子八十餘人聚諸南禪
寺題大梅々子鳴磬一聲令各爲詩以鬪其材
時師亦就試場應響賦之曰

大梅々子鐵團團

八十餘人下皆難

今日當機百雜碎

那邊一核與他看

肖等大感乃舉師

後四十年永正三年天龍桂八十一年和陳外郎呈桂菴詩亦言是事云誰圖遺裔有茲

翁才學盛喧稱廣中吐出大梅梅子偈至今玩味墓碑風吟咏此詩足證當時故探註焉

於是應仁元年

師使於明入見憲宗

名見濟明八主宴賓特篤

明年元旦早

朝大明宮實成化四年而師年四十二乃爲賀詩一

句及齒後每歲旦爲詩言齒一因此例示不志

榮云暇禮既竣遊於蘇杭間出入學校受朱氏學
博窺曹端四明人別號古官監察御史四書詳說其他註釋粹者潛心
玩理有所不得輒就鉅儒審詢研究居七年業大
進內外精蘊莫不通悟尤邃書經又長詩騷其在
明也探禹穴泛西湖名山大澤鮮不涉觀而每
興懷觸感必暢爲詩若夫紀夢遇舊諸作明人亦往々
競傳咸稱爲有唐人之風其紀夢詩曰

歸夢飄然落海東

赤城舊院杏花紅

坐迎諸友一樽酒

似慰多年離別中

又遇舊作

途中適遇四明人

一笑如同骨肉親

可有扶桑新到客

報言東魯送殘春

多如此類云文明五年歸報使事初國朝自置博士

教其學從皆以古註觀拾芥鈔援論語句註皆依孔安國鄭玄馬融等說可以知也

而當時猶未獨有解新註者於是師雖有所會

得自非博士不得公然倡講以教京畿人蓋國典

也後百卅餘年至慶長八年文敏林先生始講論語集註外史清

其將如京既抵長門聞南禪諸刹悉爲灰燼不遑

譚學乃還寓於石州八年游歷豐筑肥諸州所至

一時老師宿儒咸推尊師就中肥之菊府特崇聖學

置泮宮焉、師往客之、吾藩龍雲、玉洞等、聞師鳴、
碩德、與國老等、薦之於圓室、公使人如肥厚聘招、
藩、師乃欲往亦聞薩隅有事不果、九年正月又欲
適且爲詩曰、

肥陽城外薩陽城

聞說今年收甲兵

萬里雲飛駕言邁

風流太守愛憎情

二月猶在菊府、與釋榮於泮宮、爲詩獻焉曰、

太平奇策至誠中

春翼黃筵陪泮宮

泗水吹添菊潭碧

寒雲染出杏壇紅

一家有政九州化

萬古斯文四海同

絃誦未終花欲暮

香烟撲袂畫簾風

子時菊府有源基盛者、別號朶雲、就師學、尤善

書、乃爲其子生德寫四書本文、受師口授、旁如

和點、於是十二月遂抵薩藩、始謁公於市來、特被

寵遇、明年二月公命創寺於慶府之海涯、號桂樹院、

據雜著、又名島陰寺、松樹、而割帝釋德林兩寺之田產、

永爲寺祿、事見師所著村巷遺書跋文曰、予初來于此鄉、沐於

以充我菴、十日之食云々、據此其給寺產、亦在創寺之年明矣、所

謂帝釋蓋在谷山鄉、德林按、福昌集錄、永享十年有德林菴神仲者、

施入米拾石云、皆爲寺名、亦無可疑、但此事季安近得之、只恨

不得之於未示一齋之前、而得之於其既撰碑之後、故至漏逸、

是可惜也、是以今又補此師、且歲賜衣使以居焉、蓋

傳以坡宅日、大史氏之采錄爾、因其在向島陰、平家語以名斯寺、亦自爲號皆其

所撰云、於是師亦感公恩遇日厚、而有與所爲、遂

委身無復移錫之意、乃與國老伊地知重貞、稱左衛

周防謀刊大學章句於慶府、十三年六月板行于世、實

本邦章句印行之嚆矢云、距今天保己亥三百六十年、實當

志布志市人赤池金右衛門者、藏此遺本、以傳、府士德田武中齋武中

以傳、市人增田熊助、熊助以獻國老市田盛常、世謂伊地知武中學此

也、余嘗因新納伯剛請假、覽之、今致仕大夫曰、藏書浩繁、所蓄

云、故未親也、余竊謂公定興隆至若今日、亦惟其本濫、賜此舉矣、

然則於今可見、先公聘師、崇儒以闡道之深意者、獨賴此板之

存實可寶護者也、第鄉寒陋亦多蓄書、若人注意有需之應

焉、而師以是入侍讀公側、出聚第日講新註、以

弘斯道、務爲已任矣、自公族大夫至群士浮屠之

屬、朝野靡然莫不嚮慕、受其學業、徒衆益盛名聲鳴

于世、隣國往々至、欲望以謂薩都新與仲尼之道、移

東魯之風、據答小野是吾藩倡宋學之始也、自文明十

學於吾藩、至天保己亥、公乃受三書經、前此本邦皆從古註、

而至師獨依蔡傳、公通大旨、亦據明人本邦之尊信

書經者可謂自公始矣、是歲秋近衛準三宮、政家

使大醫陳祖田來聘于藩、師與之往來情好最親、十

擊節和焉、長享二年移寺城西、初所創地臨海涯、善爲風潮所墮敗、不遑營治、故有是命、院號如

後、俗呼泉菴、有清泉、故也、今城北射園坂邊其故址云、但當時府城在、今大興寺之

山、十二月適日、飲肥、董席安國、先是公遷族人島

津忠廉於飢肥城、以鎮邊疆、兼知渡唐船事、故遣師

備簡牘焉、延德四年、元明應自日飲肥、飯薩島陰、

初重貞所刊於慶府、大學章句盛行于海內、僅歷一

紀、板既播矣、於是十月師再刊於桂樹院、即島復行

于世、距今天保已亥三百四十八年矣、愚嘗求遺本而無復焉、去歲仲冬男季直偶得之、市卷尾刻跋、則文明龍集辛丑夏六月、

左衛門尉平氏伊地知季貞、命工錢梓於薩州鹿島、延德壬子孟冬桂

樹碑院再刊云、即此板也、但點句讀、無有和訓、而大書註、知本文

字行下二字、耳、蓋其授句讀、教連本文而悉讀注、吾藩到今

教童子讀大舊音泰之分註、亦其遺俗云、按時皆古註、知新古故大

依朱子章句、而如論孟猶讀古註、見羅山年譜、其章句云、亦應

吾藩所梓本也、但未視中唐後有得耳、余所今得延德板、皆體

古雅筆力雄勁、觀者多鑒爲樹真蹟、未知果然、本年七月私請府學

裝潢加跋以藏于家、故併注焉爾、

時近江人源永春、佐々木氏號東林居士遊學、飲肥三年、師還島

陰、永春亦從、四年辭渡、明國師送之詩、舟次鄞江、

八月以師明儒、乃廣東參政劉洪廣平太守盧瑀等、各

賡韻寄頌、師德者凡十有二名、而四明進士嚴克正序

焉、五年四月師在島陰、永春猶留鄞江、七月乃訪

進士洪子經、師所齋島陰集、子經亦序、卷端皆名鄉

鉅儒、聞於時者、而明孝宗弘治八九年事也、六年二月

永春抱飯自明、徑訪島陰、致明詩文、師大驩焉、所

謂子經序云、精內典、通儒書、旁及莊列、無一之

不究心矣、又克正云、精究內典、旁通四書百家子

史、於尙書尤究心焉、由是後學莫不聞朱夫子

子師弟間所講之奧旨、先是南游播名一時者、於

唐則栗田受經於趙玄默、四明教授仲滿慕華不肯去

於宋、蔚然善隸書、又能屬文、吾林文敏亦謂、古遺唐

使煥發青史、栗田仲滿其尤者云、而子經評師爲不

在於栗田蔚然之下、栗田蔚然皆詳前篇且進士劉洪、盧瑀以

下、宗顯倪光金亮、雖間愈澤、鮑垣、沈陽、方震、張珮、倪

鎰之屬、亦莫各不下和其詩、以頌德者、據此其所

造詣、亦足可觀焉、七年師奉相府鈞帖、遙領建仁

席、是年弟子齋師文集、詣洛南禪、師天隱叟、九月

叟爲之跋、亦從子經評也、九年師復奉鈞帖、轉南

禪寺、於是南禪蘭坡等、爲文賀焉、既而歸藩、凡當

時讀書儒依漢音、佛依吳音、猶延喜制、師之學明

問諸明儒、明儒曰、曷泥吳漢、從便可也、繇是師以

所會得規岐陽、所膏點四書、多改乖誤、別註和訓、以授子弟、愛甲季定所著書云、吾師如竹間諸文之云、四書之、而文之亦間改正、以授如竹等、而如竹時授梓弘、于世、故世人多傳爲文之點然非、文之所創也、此說得之、按師所著雲居士四書跋、師之在菊府也、有采雲姓源名基盛者、善書著聲既高、本文受師口授、加之後訓、見上、文明九年而以此注、後訓云、猶及註文、余從兄本田親傳嘗得論語集注、一本則卷之三而尾記云、元龜四年四月春永書、新註論語全部一筆既有、和點、且採曹端詳記、問注旁注、按詳說師在明所讀、而元龜四年則當文之年十八、惺惺十三如竹三歲之時、而如羅山時未生也、據是觀之、爲師所修正、本者明創、加點、羅浮復潤、色之、南浦乃文之號、其創加云、追考誤也、然於斯文一時猶草昧、教導未開、學士往々不知句讀、且有新註也、於是十年師著小篇、辨四書五經註、有新古、且以國字解朱註例、述倭點法、使世蒙士皆知、學必崇宋說、先在能辨其句讀之意、今世所稀傳、桂菴和尚家法和點此也、季安今藏一本、一題曰作者、并句讀之事、而卷尾書慶長十六年九月八日俊正者於山川爲之、一即題如本文、而元和十年所刊行也、蓋師著之只爲驗俗、而未遑撰題、後學如竹追其梓之惡、題不雅、應所改書、故板本文少於爲本、且刪明應十年、換元和十年、不與題合、亦梓時誤、又山川薩之港名、唐舶多繫、故桂門儒僧、世圭正龍席此云、山川指之詳下篇、列諸藝文、今將厭觀、然世之讀朱註者、自時往々莫不階焉、而受其賜也、既再梓行朱子章句於文明與延德、又口授倭讀於菊府、而徠於藩、猶以國字解朱註例、述和

點法、以弘于世、師之於朱學、其功定偉矣哉、文龜

二年構丈室於伊敷邨、爲歸隱之所、名東歸庵、愛甲季定書、師事云、老慈於伊敷小宮地、曰桂樹寺、此也、永正元年師所著序書、桂樹丈室、又文龜二年詩言、新築一軒於小西湖之起、所謂小西湖蓋伊敷川、今上伊敷小宮有菴址焉、師墓猶存、三年春刻東歸菴開山云々、俗呼御菴、或稱御石、故參考書云、師舉龍源寺、在市來、在日市來、釣雪上野州人代童、安國寺、而自慈菴乃賦詩曰、

丈室修營今一新 老禪七十七青春
寺門興盛檀家力 花下焚香祝大人

永正三年弟子飯自洛、初陳祖田之歸京也、以師所送詩、際五岳、高僧各有和篇、既以寄師、爲文明十而往海南、皆已失矣、故師致陳氏書、求其副藁、諸老存者少、於是祖田復爲和、告桂悟、景徐等、更求之、和韻以寄、頌者十有餘名、是年二月弟子齋回多、皆頌德鳴世之縉流也、或恨吾侯私師於藩、不爲公諸天下、以蒞大方、或述虛席南禪、師回轅之情、莫獨不欽慕其德與材、以勸師起者、然君子不以榮辱易操節、師雖釋氏實精究儒學、而承二君恩、亦如彼、則不敢回洛、蓋示不事二君之義、可以知焉、四年八月對月詩曰、

人間八十一中秋

明月在天五鳳樓

木上座來吾歸去

海西萬里汝爲舟

五年六月十五日卒於東歸菴、得壽八十二、葬于菴

地、曰：前建仁後南禪桂菴和尚大禪師、見享祿五年三月門

而無其墓、栽杉爲冢、師歿後百七十八年、至大玄公時、府下耆

老無識其墓者、國老島津圖書久竹島津計久年等、深慕師德、

訪索竭心、聞志布志人愛甲喜春、李定獨有識焉、屢通書問、遂得

處、既而老杉又經歲枯、至享保七年、朽根偃存、亦將泯滅、於是十

一月大龍寺六世主僧宗玉、一乘院主僧覺周、妙谷寺主僧通岸、及府下

志士、鑿田醒雲、町田權兵衛、本田與一、右衛門、四本正藏、越山茂右衛

門、島居如見、從山慶賢、木村探元、田原武右衛門、仁禮正膳五等、相

與圖不朽、翕然戮力、辨之工料、是月十日就桂樹地、研石建之、則

今所在、今墓題曰：正興三十世前南禪桂菴玄樹大和尚

禪師墓、按島陰集未見師居正興寺、但文明十年應聘就藩、八月

及玉洞等遊于日隅、明年二月創桂樹院、使師留錫、然是

私寺、如正興寺、分自建仁寺、既列甲刹、師居恒洒落讀書賦

故使師帶其序、居新寺、以教授府下耳、師居恒洒落讀書賦

詩、雖自以儒爲己任、抑本邦流俗禁非博士、建中

旗儒門、據慶長八年

安、亦其知矣哉、然至所究必講理學、其誨人敬信

四書、必如神明、而又曰：仁吾儒所宗、而我佛之大慈

也、或釋門學在敬心、君或人有正心寧愧天、或胸

中自有不傳書、或孔孟何人在用、情云之類、皆示

人詩而瓊麗韻朗匪徒盡巧無暢、非教、今舉三四

首、曰、

終日終宵十二時

讀書講武又論詩

故是賢々誠實意

樽前豈敢醉蛾眉

作在聖人寧及賢

吹燈細讀述而篇

師門輕薄書生偕

誰使斯文如古然

曾子橫身孔聖門

那知一唯涉多言

寥々默座夜堂靜

塔下無人人日有痕

如何記得伏羲心

默座寥々至夜深

敏手鑿開混沌見

先天一氣後天今

多如是類所著有島陰漁唱

明進士洪子經序題島陰漁

唱文集、隱叟跋島陰雜著各

一家法和點亦一等、皆傳于

世、其遊明諸作、別有南游集

今不傳、又其真像藏

大龍寺、乃秋月等觀所寫云、

秋月薩人學畫於雪舟、而

與師唱和故令寫像、亦無可

疑焉、元祿四年四月、大龍

軸、延享元年三月、正興萬休齋

如京師、又新袈、五世不門袈

裝、寬延二年、大龍玄察改紙

易、絹半身像也、今著師傳、

凡所引書、據島陰漁唱、島陰

文集、島陰雜著、五岳詩文、

高僧傳、恭長問答、戰國英

雄集、相屬系圖、不忘抄、西

藩名勝考等、然於其中、若

親視原文、以足證、當

時者、粗探載下、不然恐

讀者莫知其聲、聞稱實

至、以知于明國、信乎、五

岳振譽於九州之德也、但

於詩文、與時變、則自然之

運、雖使今人讀、庶乎

古樂生睡、亦使之以知其漸汚隆、如是也耳、棘林志有曰桂

菴諱守廣者、以天正十九年、歿、又妙高山帝釋寺大般若經今在隅州橫山安良社、其箱書、永享六年桂菴老衲、皆非、玄樹桂菴、明、但以家法和點、爲守廣所著、則因同號誤也、不足辨爾、

辛丑八月下泮 鹿藩 伊季安子靜再撰

送大醫陳祖田歸京 桂 菴

古方靈藥舊家傳 赫々皇華碧海天

祇爲上醫元治國 細論太守近安邊太守音圓室公

九夷鬼界三千里 一夢龍山二十年

況是高僧吾故友 屋梁落月曉猶懸

同

洛陽使者到天涯 東算歸程路轉賒

落葉千山五更雨 早梅十月一枝花

客中送客堪爲客 家外尋家未到家

故舊周南若相問 衰殘白首命如紗

附洛諸老之和

薩陽桂菴老人賦四韻二篇、送皇華陳外郎歸

京、師拙與老人有平日之雅素、雖阻天涯

萬里、而喜暮齡各無恙、漫依元押奉和情

見于詞也、 見南禪明掄書

喜見佳篇雄社傳 薩陽猶共沈寥天

雲埋鬼窟黑山暮 地隔鯨波碧海邊

亂後故人成蝶夢 生前再會付驢年

祖翁舊業今休問 礪水松風夜雨懸

海角孤雲天一涯 經年故舊夢魂除

仲靈書拆歐韓論 覺範筆承遷固家

燈雨三千餘丈髮 春風二十四番花

傳聞華屋陪連帥 蘄竹瑤璃映蜀紗

茲春當文明十四年薩之桂菴禪師作四韻二章、贈別

皇華陳外郎耆英、在洛者皆和之、予亦次其

韻、聊述舊懷、轉以傳於薩、則可無交友星

殘之嘆乎、 北山雪樵書于特篇室

新詩偶自九夷傳 也識星河共一天

草嫩塞垣雪消地 花濃野館雨殘邊

我無遠夢堪娛夜 君似故交俱忘年

緬想離亭風笛暮 斜陽西落月東懸

學業傳聞至聖涯 行將相問驛程賒

瘦於詩者鬢光雪 老矣自然心不花

但爲與君住潛邸 幾回和夢宿漁家

衰殘強欲廣高韻 卷舒窓前四景紗

大醫陳外郎上都風流佳士也、文明辛丑當十三年之

秋、以準三宮釣旨當近衛家政公、如薩之地、淹留

者累月、太守當吾園室公亦推獎之、是故一國之士

靡弗誦其名、龍峯言南禪寺桂菴禪師居是邦

者、幾乎二十年、禪師廼五山名勝、而聰明睿智

退出于流輩之百、詩亦熟文亦熟者也、陳郎與

禪師一往一來殆乎無虛日、或携衣而宿花、

或開樽而醉月、其交可謂不瀆焉、壬寅之

春當文明十四年還于都下舊業、桂菴餞之以川八

句兩篇、吾山耆宿泉南利步老、西枝謙村翁相繼

而見和、顧吾老懶衰墮然於禪師有素者尤

篤、故攀高韻以索一笑於千里之外云、

龍阜瑞要

兩首新詩一日傳

上都不隔鬼門天

行々雁渡塞雲外

泛泛鷗眠野水邊

陳氏郎官吟卜夜

薩州太守亦當吾園室公話忘年

以南以北畫圖境

三百疊山春雨懸

青衫白首破生涯

一別心知入夢除

孤角吹殘千里月

疎鐘敲落半巖花

曾陪洛下耆英社

今問安西都護家

秋對楓林冬對雪

憶題聯句倚窗紗

薩州桂菴老人贈別皇華陳外郎之歸京、以八
句二章、吾山諸產賡其韻、予亦備員、聊述下
情、伏希刪潤、

蘭坡叟景廬

別來書信幾回傳

望斷孤雲落日天

早得佳名五峯上

今橫老氣九州邊

一場法戰已驚世

萬里壯懷空歷年

舊社秋深歸去晚

也知陳榻爲君懸

漢使寄蹤蠻水涯

過君日慰客途賒

枯腸攪盡一瓶茗

雙鬢燒殘半盞花

燕足懸詩傳幾處

蝶翎載夢到誰家

想看太守論文地

啼鳥晝閑垂絳紗此云太守亦與上同

辛丑秋亦文明十三年

陳外郎承大相國鈞命、暫如九州

薩之名邦、洛東龍嶠之佳祲、桂菴禪師時寓居

其州、偶然相遇、唱和若干首、足以慰籍旅況

焉、今茲之春歸船泊泉州、步口訪予於市南

小院之次、持華軸而見投、披覽之專壯國

使歸程之詩文也、公告其來意在督拙和而已、

顧我垂八表、衰廢特甚、然吟翫有餘、不

獲敢獻攀高韻者二章、前篇式擬皇々者

華詞、後篇寓意於桂翁、文雅之席所謂珠玉在側、覺我形穢者歟、

泉南隱衲齋守湊

數篇唱和遠相傳

莫道鬼門關外天

引客清香凝燕寢

愛僧閑暇座鷺邊

使軺萬里東歸日

孤棹幾程西去年

軟脚局前遙想像

洛園春月杏梢懸

東洛英豪西海涯

何圖再會歷年賒

別時憶折新亭柳

亂後慵看舊院花

半嶺千尋連祖塔

鴨川一帶少人家

交遊回首皆星散

誰把君詩籠碧紗

薩州桂菴老人送皇華陳外郎、尊韻謹和之一

一削而正之不亦幸乎、

西枝叟庠宥

曾無別後一封傳

兩地迢々隔海天

紫禁城中舊遊處

赤間關外苦吟邊

沙鷗爲伴消閑日

塞雁投音慰暮年

雙鬢秋寒灯火底

落梧吹雨夜闌懸

紫陽萬里浩無涯

久寄高蹤歲月賒

聞說活機要擊竹

也知微笑有枯死

晨參暮請雲中寺
水宿霜眠海外家
爲報早催歸駕去
秋風影裡岸烏紗

奉和薩陽桂菴老人、作四韻二章、贈別皇華

陳外郎之芳押、慈斤惟求

久無別後信書傳

忽憶秋風過雁天

鬢帶詩班此員外

夢牽情素只君邊

消魂驛路一千里

落手江湖四十年

何日歸來巖際寺

楓林紅處夕陽懸

陽關西望渺無涯

唯有交情路不賒

想像牀頭詩束稿

見來墨跡筆生花

翻瀾千偈非吾漢

掣電一歡知孰家

他夜相逢又相語

上窻月色薄於紗

島陰集序

賜進士第奉政大夫修正庶尹兵部選清吏司郎中致

仕奉詔進階朝列大夫四明洪常子經序

人生覆載間、性同天地之帥、形同天地之塞、所以

有華夷之辯者、豈以其疆土之遠風氣之殊耶、亦曰

徒有是形而不相知、性爲何物也、楊雄謂在門牆

麾之在夷狄、則進之者、蓋有以也、日本國在東海之東、自後漢始入中國、由是得觀墳典之全、聞周孔之道、而周夏變夷、是以其國雖舊而俗川新矣、若唐之粟田、授經於四門、助教趙玄默仲滿之慕華不肯去、宋之肅然能屬文善隸書者、要皆與華人相後先也、是豈可得而少之哉、我朝太祖高帝法天爲治、聖子神孫繼體守成、而薄海內外無不被其教化、故凡越裳肅慎、獯狁高麗諸蠻國、遣使入貢、白雉楷矢之類者、肩摩踵接、無虛歲也、今天子改元弘治之八年、日本國復譯而來朝、舟次吾鄴江上、一日有客持其國南禪寺僧桂菴島陰集凡千萬言、詣予、予不解華語、索紙筆以告、予曰、桂菴吾國緇流中之翹楚也、精內典、通儒書、旁及莊列、無一之不究心矣、成化四年觀光上國、得從華之大夫士遊、益增其所、未能歸、避亂居豐筑肥之三州、凡其吟詠性情、應酬于求之作皆在、於是終居薩州之鹿島、故名島陰集、敢丐大人先生一言以序之、儼蒙不拒、其爲榮幸、曷可言哉、予嘗見其紀夢遇舊之作、能曲盡離索之意、則固心敬之矣、及觀是集、則誠不在於華之作者、及其國粟田肅然之下、也可喜也

已、乃不辭而爲序以歸之、弘治九年歲在丙辰七月既望、

東林居士者、江州兩佐々木氏之華譜也、癸丑秋

當年應於日南之弊廬、倒屣出迎、相續而會者

再也、三也、我知名下無虛士、茲歲春首明應子

還薩之島陰、在鹿島、即雅談之美時、時不能蔑

于懷也、今也春之仲中、泚之盡、飛駕來相留者一

旬餘、禪榻茶烟詩筵風月興、寔不淺、別來之鬱

陶爲之廓如也、遂告歸去矣、作是詩謝來

儀、

海東野釋桂菴稿

江國源流兩大家 門々才秀世堪誇

此郎胸次虹霓氣 一語雲飛五色花

日南一別雨天涯 倒屣相迎喜上眉

禪榻茶烟落花雨 詩如小杜鬢無絲

贈日本桂菴樹禪師詩序

賜進士出身奉真大夫南京兵部車駕員外郎四明

嚴端克正序

大明弘治乙卯仲秋既望、吾鄴社方先生、時起携日

東源君永春一過、予載拜而告曰、吾國桂樹院住山桂菴

玄樹禪師、精究釋典、旁通四書百家子史、於尙書尤究心焉、吾師尙書往々皆從古註、而禪師獨依晦菴、朱夫子門人之傳、與後學講解如指諸掌、誠日本緇流中之巨擘也、知禪師者、嘗薦之於薩隅日三國太守君島津公、者、用邀以發明尙書大旨、禮遇殊厚、由是後學莫不得聞、朱夫子師弟間所講之奧旨、古所選擇其善者而從之也、愚嘗辱禪師愛厚、見贈七言二絕、今幸納款上國、獲名卿鉅儒、索和其韻、將以歸、用復禪師雅意、敢于執事、一言以引重之、予惟禪師、曩者納貢遊吾中華、覽山川之秀、挹賢哲之多、予嘗叩其胸中、所蘊非尋常者比、可嘉也、況源君能讀書、善吟咏、亦在予所愛、故不辭而爲之序、俾持以爲贈云、

弘治 年日長至

贈日本桂菴樹禪師詩

賜進士出身廣東參政劉洪

護道維摩不出家 也能說法動人誇

日東老宿多時別 看到菴前幾度花

老禪歸臥海天涯 渭樹江雲想白眉

課罷楞嚴無一事 閑將金偈寫烏絲

都察院經歷宗顯

苦行清心是釋家

吟窩容膝紅塵遠

養壽多方未有味

島陰老去成真隱

味易老翁倪光

上人東住楚天涯

萬里乾坤雙老眼

夢中騎鶴到天涯

一別石橋雲雨地

賜進士南京兵部郎中金亮

遠播詩名有幾家

珠璣奪目龍蛇口

閒說蓬萊接島涯

慚余亦夢尋真訣

穿山居士雛聞

海國多才是故家

當年曾拜天王龍

東去扶桑天一涯

箇中老衲參空相

上人高致縉紳誇

只種琅玕不種花

童顏兒齒更芝眉

不見王言出似絲

珠玉詩林獨可誇

白雲深處看飛花

西竺東林老白眉

春風怨入柳絲絲

上人贏得鉅卿誇

傳到扶桑錦上花

老僧應擬淺黃眉

塵事紛紛飛若絲

名高支遁衆堪誇

看盡長安寶樹花

雲開望斷遠山眉

不著鹿兒一縷絲

贈進士出身四川按察僉事俞澤

自是繼流第一家

墨名儒行是堪誇

獻珠曾過中華地

得見春風紫陌花

欲向遠公結蓮社

愁聞戒酒使攢眉

于今老去都忘却

日々江頭理釣絲

賜進士廣平太守前都給事中盧瑀

老僧到處卽爲家

詩律清新豈浪誇

前度入朝承燕賜

醉來銀海欲生花

幾年高臥島陰涯

頭上霜毛映秀眉

心靜自無流注想

任他嬌管難清絲

江郎讀隱鮑垣

四海車書混一家

昔曾納貢通人誇

桂菴高臥應多趣

幾向蒲團夢筆花

中華遊遍興無涯

詩社于今想白眉

何日觀光重有會

高山流水奏桐絲

願心子沈陽

禪學詩才號一家

明珠無價不爲誇

菴前老桂天香別

壓倒祇園薝蔔花

憶昔浮盃過海涯

儒林爭喜識長眉

望曇老去知無恙

自咲昌黎髮易絲

友梅方震

聞君日域老詩家

出語驚人足可誇

借問禪房幽寂處

優曇幾樹已開花

上人家住海東涯

勘破塵寰只皺眉

獨有詩魔降未得

滿頭短髮盡成絲

正菴張颿

獨憐之子大方家

辭賦春客不待誇

爲導正庵曾有問

蚤年應夢筆生花

大明日本隔天涯

翹首空懷馬白眉

獨札新詩再三詠

相逢惟恐鬢垂絲

石泉倪鎰

上人少小便離家

一入山門衆所誇

揮塵談玄登法座

繽紛繞膝雨天花

悟得真如浩莫涯

蒲團長日下修眉

當年曾聞三生事

飛盡爐烟細雨絲

巢松集序

夫山之秀也、水之清也、豈自鳴其勝哉、必俟詩人文士之播詠而善鳴者也、巢松以安老人遠辭洛之惠山、而留滯薩陽之地、茲歲孟夏僧侶坐夏之初日作唐律

一章、鳴玉龍山之勝景、爾來無日不言詩、凡公府四方之山、官城三面之水、一入公之品題、則水益清焉、山益秀焉、寧不爲榮乎、遂逮夷則初吉一百餘首錄之、袖之、并平生所作之詩文、同持而就予徵序、予素昧乎詩文、實借聽於豐間道於宣者也耶、然而不得已則如何贊成矣、吁熟顧叢林全盛之昔、碩師耆老、厥德望層聳者、昭々乎、心目之際當是時天下之縉徒、一登五岳之巔而謁諸老之門、則人咸稱之、蓋以麗水所生無非金之沙、崑山之所出無匪玉之石、特若南禪蘭坡禪師、心宗洞達外學兼全、每詣闕下一朝講經夕留詩、是以王臣之所崇重、恰如璉三生之於仁宗、又似蘇八州之於惠林、此翁既逝矣、續者克鮮哉、以安會親炙于蘭坡十有八年、聞禮聞詩、豈徒乎、家語曰、與善人居如入芝蘭之室、久而口知其芳公之才、何翅蘭室之薰染、而惠山者玉之崑岡也、洛涯者金之麗水也、予雖不解詩文、竊考其出處之美、則其言非琢金玉耶、其辭非吐芬芳乎、矧亦集中儘有感今思舊者耶、由是觀之予之與公老壯雖異、升沉粗相似焉、語聲寺則公衲臥雲橋上月、而撫千松之翠、予醉鎖春亭畔花、南禪十景之一

而嗽合潤之流、其興不淺、今復共爲羈旅之客、彼輩下之遊邈然也、行入山林、則共鹿豕成群、坐對滄浪、則除鷗鷺無友、吾衰矣、不忍其寥闕、公能甘其閑靜、而樂以詩文、所樂不亦大乎、所謂不移心、則窮達而克樂天者、君子之性情也、是詩文既本乎性情、則匪敢可議者、仍爲序、

時永正元年甲子蜡月初吉、前建仁桂菴玄樹七十八載、書于桂樹丈室、

京五岳諸老詩

愚夫嘗從公事于薩州淹留也、季安按、其來爲秋、而辭去其十月也、日州安國堂上大和尚、垂慈憐、寬旅懷、惟夥矣、歸洛之日辱賜佳章、以壯行色、仍求和篇於洛下諸老、而奉呈金貌座下、十四年承聞昨失海南、今見求其遺藁、亦按、此云今永正三年、凡二年矣、諸公存亡相半矣、雖寬於各所、不獲之、愚夫亦連書佳篇於一紙、藏于篋笥、日久矣、八人奪而成鳥有、彼此可憾矣、今又弗顧醜拙、謹賦短章、付于便呈上貌側、式矢區區萬一者焉來便刪潤尤展必老眉、

陳員外郎杏林祖田九拜

曾傳雪曲洛翁翁 萬里海山瞻望中

聞說道香難掩處 一枝丹桂紫宵風

日州安國堂上桂菴大和尚、乃瑞龍南禪山號遺局南遊

東歸以來、道價被于九州、王道尙化、以故不

屈駕而舉視於名刹東山之篆焉、頃有陳氏

外郎京師、所居號杏林、西遊之日謁見于桂

菴師、神交道契、雖然東西阻脩鴻鯉鮮音耗、今

茲夏末安國僧徒往來之候、杏林製一絕抒離

索之情、仍請雜下諸名緇令同于韵、老拙

任皇明入貢之節、留滯泉南、杏林遣書求屬

和、顧往日既有識荆之雅、而同好宜減於陳

公哉、初應其請後篇寫區區老懷解一縷於

千里之外

大明正使老釋桂悟拜

矍鑠今時一郝翁 名聲籍籍播關中

杏林交義辱支許 海外九州曾向風

長安遠近日過翁 葦剎曾遊在眼中

桂子天香我同稱 梅檀簷蔔一家風

杏林老人與余講方外交者年久矣、頃作詩

投簡日州安國堂上桂菴大禪師、仍請洛社諸

老次韵同賦、兼見及余辭、弗獲疊和二章奉

呈伏希
寄采納

宜竹竹隱子周麟名也字景徐

陳郎扣寂說禪翁 置我諸山唱和中

世事紛々心在彼 葵花向日絮因風

桂翁先友是蘭翁 聞昔龍山會坐中

前輩凋零吾老矣 洛陽寺寺見秋風

桂菴和尚大禪師廼吾龍山才望也、蚤還紫陽之

閭里、其齡幾乎越於古稀矣、孰無來慕之

歎也耶、先是六七年榮領於東山玉府之鈞

帖、雪樵蘭坡翁名景製駢儷抒賀辭、寔九峰一

疏也、繇是吾山故舊相議曰、如禪師本是宗

匠也、出而董席則不亦盛哉、然而欲往勸

之、則鯨浪阻海狼燧填山、比年矯首而候

視茲航之來歸而已、今幸依陳公外郎詩韵

寄呈一絕、述眷々卑臆云、指教惟求、

前龍峰松蔭景修稿

壯遊如昨雨衰翁 五十餘年離索中

不識此情傳得否 海南萬里鯉魚風

謾同陳外郎寄桂菴和尚一芳押

鹿苑壽顯

海西珍重桂菴翁

赫赫聲名屬月中

莫道遺賢今在野

德香吹滿九天風

洛下陳氏外郎詩以奉呈日州安國桂菴禪師、予

久願識荆、唯事說頂、是以舉於曩時、梅子佳

偈頗爲拙和一助焉耳、電賢幸甚、

前天龍桂喆頓拜

暮齡八十一

誰圖遐裔有茲翁

才譽蚤喧稠廣中

吐出大梅梅子偈

至今禪味慕禪風

依陳員外郎韻奉簡日州桂菴老禪師一咲惟

需、

雲頂野叢集樹磨滅不可讀、以樹字以他本補

人如日下豫章翁

桂隱秋高古寺中

可惜鄉山久栖錫

道香郁郁麝當風

陳公杏林主盟作詩、寄日之安國堂上老師、洛

社耆宿廣其韵者、有金聲、有玉振矣、如

余難措一辭於其間、雖然逼于杏主之命、

賦二一篇、呈上安國堂上、伏求一粲、

南山無價軒主守擇擇一作

九州不啻誦吾翁

禪道文章聞洛中

心鏡高懸無隔礙、看來千里是同風、

杏林亭上主人翁

心在詩歌吟詠中

遙就老禪呈見解

天香莫隱桂華風

猥依陳公外郎嚴韵伏求一咲於桂庵大和尚、

寓惠峰令倅拜

支許論交此兩翁

遠傳餘韵到山中

何時變化五峰上

虎嘯龍吟雲與風

日州安國堂頭禪翁、蚤辭龍峰遠踏鯨波而

南遊矣、敲名寺搜師家有年于茲、歸楫之

後、薩州太守欽其高風、仰止法幢、猶如玉半

山創保寧、而延真淨蘇內翰開天平、而薦錄

山、化之被遐裔、如斯而已、談者曰、紫陽一邦

私吾善知識甚不公也、出蒞大方、則天下必

承其賜誠矣哉、維之陳公外郎於禪翁方外之

支許也、適投一詩奉問、尊安、維社諸老宿輒

有和、余亦瀆韻末、於戲桑漢哇淫豈可並

諸老陽白乎、匪不知其非、然而禪翁之舊、

難忘、陳郎之需、難拒之謂也、今也、海內叢林

凋零秋晚、在者殘月長庚耳、所以御前龍峰虛

席以埃、所希禪翁回象轅於熟路、而與龍

吟^驚一警^驚鼉寂、則吾山之光華也、嚮之談者論果合矣、諸老云陳郎亦云伏乞^二茲削^一、

南禪栖院宗勢拜

留滯經年霜鬢翁

紫陽萬里海雲中

龍峰舊院少人住

黃葉滿廊連夜風

日州安國堂上老師、才識兩大、名實兼全、昨在

龍門、馳譽於江湖之間、可謂一時奇祲也、

遂歸關西、不出殆五十年矣、丙寅秋^{即永正三年也}

外郎陳公寄之以小律一篇、余之於老師、雖

無一日之雅、而望道風向矣、因依陳氏詩

韵、作一絕呈上侍机右、聊寓慕蘭之意云、

玉府永瑾載拜

洛下聞人說阿翁

名章俊語品題中

九州皆識有坡老

出壑松聲十里風

次韵陳外郎見寄海南桂菴大禪師

琴臺建孝拜

聲名耳稔海南翁

留在龍峰千衆中

夢掬道香一覺猶郁

簾前一陣木犀風

茲歲仲春之初、予徒自都下、來、陳大醫下杏齋

翁、製唐律一章、爲賜焉、非特此也、輦寺東

西諸大老屬和、合十有五篇錦囊之重也、良有以矣、三薰而終日讀之、十襲而通夜誦之、琳琅、珪璋、珊瑚、琅玕、璨然光華不掩焉、使人不移、蛙步、而遊目乎玄圃崑崙之際、不亦快乎、剩詩中見推獎者甚厚、蓋公之餘論所及也、不然何以如此也、非翅野翁蒙寵遇、寵遇塞垣草木有光矣哉、於是不願卑拙承嚴韵者、同來篇之、數一紙載之者、竊具公餘之一覽耳、伏希察區區之意、賜恕容幸之又幸也

諸老屈尊賢主翁

杏花四繞一亭中

聚星高會是何夕

海外光影碧落風

皇華妙選釋家翁

奉節朝辭魏闕中

此去明州三百里

海無波浪一帆風

大慈和尚韵

我門今不可無翁

惠日騰輝天再中

棄斥神戈一麾力

禪關主將自威風

江海多年簑笠翁

曾遊因記多殘中

君先命駕我從後

盤路飛落撲袂風

琴叔和尚尊韵

濁世曇花堂上翁
軒宜修竹故蕭酒

不居_レ至貴至尊中_一
秋晚叢林回_二古風_一

宜竹和尙尊韻

璉三今見再生翁
只爲_二縉紳_一親口誦

筆滌水甌雪梳中
百篇詩上_二御屏風_一

同

真如家法點胸翁
拙偈見_レ稱花袞賜

訓_二鍊緇徒_一爐轡中
有_レ誰說與耳邊風

萬年山頂獨尊翁
不是傾_レ天爭得_レ及

置_二我慈量廣博中_一
西南極_レ地馬牛風

少林和尙尊韻

梅鳴和靖菊陶翁
儒腐飯_レ禪馨者德

蓮是春陵遺愛中
贈_レ君霽月與_二光風_一

鹿苑和尊韻

天下當時仰_二祖翁_一
賢孫今有_二家法在_一

來參繼_レ踵四門中
敦海波瀾鼓動風

不二和尙尊韻

白髮爲_レ翁鷗亦翁
蘆花殘照寫_二詩紙_一

共閑送_レ老海居中
玉唾天邊洒似_レ風

同

禪枯文麗巧詩翁
童子能書纔十成

世富奇才名利中
千鈞筆力坐生_レ風

天護和尙尊韻

往時輦下未_レ成_レ翁
豈思_二炎齋鑠金夏_一

君尙童群俊秀中
新詩落手掬_二清風_一

栖真和尙尊韻

鷺兒飛去伴_二鳬翁_一
詩興東山吟叩硯

影並五橋春水中
薔薇滴露曉來風

雪嶺和尙尊韻

想像琴臺大雅翁
傍人若問誰家曲

希聲未_二必出_二絃中_一
雲破月來松有_レ風_{十境}

純和尙尊韻

享祿五年三月十五日、前建仁後南禪桂菴和尚

大禪師廿五年之忌辰也、預於三月斯日營辦供

佛齋僧之儀、昔僕侍_二和尚之禪室_一者歲口矣、以

故述_二一偈_一以奉_レ報_二法恩_一云、
東坡游_二南禪寺詩_一、
南禪_一藥七千朵云々

巢松以安

五々光陰殘夢頃

靈山久遠剎那辰

花開芍藥七千朵

今見南禪一色春

前南禪桂菴大和尚、昔年當遣唐使之時、列三位於副使、無心而渡海潮、於此時也、闕士穀之輯釋與曾端之詳說者、再也三也、留而在姑蘇者久矣、歸朝之日對諸徒、據輯釋與詳說、講晦菴集註者、不知幾回矣、是即其諱辰也、因賦野詩以爲報恩之一句云、癸卯六月十五日事也

末裔玄昌九拜

憶昔吾師泛太湖、七年聽雨在姑蘇、

泗洙流遠道將廢、又似扶桑水到枯、

桂菴大和尚示寂之日、賦野詩以奉報師恩、

云、

同

憶昔吾師挑法燈、無心渡海道能弘、

德風凜々百年後、赴者爭先六月水、

柳滴水野先生之招魂墓

先生歿距今百八十餘年矣、傳稱先生故參河人、姓水野氏、諱重治、柳滴其號也、上祖爵里靡傳可稽、或云其先世臣上杉氏、好善居相、遍歷諸州、頗臻其妙、

初吾慈眼公稟示現技於東鄉、重位崇信特篤至令封內皆學其技、故他衆技禁悉學焉、公薨暨寬陽公立、以謂大藩偏脩一技、却似有闕、莫如乎使武夫、各隨所好、尙博綜衆藝於吾封內、以備不虞、乃聞下先生以居相馳譽於諸州、聘臣子藩、於是先生來寓本府松原山下、教授子弟以此技焉、正保明曆間、門人益衆、遂推尊稱水野流、平田監物宗淨、椎原柴右衛門國口、米良隼人重住等、皆受先生得其蘊奧云、萬治二年己亥七月十八日歿于伏見、法諡秋山日孟居士、門人受業聞于今者、有三四哲、而惟宗淨以高弟一聞、其將入室也、雖屢往叩其門、先生謝辭、託事不遇、睹窺輒教、他諸生不異乎平素、宗淨無以挾心、猶愈覃精凌寒冒暑、夙夜就焉者殆踰旬月、先生乃迎而曰、吾以下闕文

僧桂菴字玄樹、後號烏陰、周防山口人、不詳其姓氏、以應永丁未生、永享七年甫九歲遊于洛、師事惟肖於南禪寺、當此時建仁寺有惟正名明貞者、東福寺有墨召名端棠者、皆不二岐陽之弟子、以博識稱、故又就受內外學、嘉吉二年年十六祝髮爲僧、時

漢學紀源卷三目次

- 桂門第二十九
儒俗第三十
舜田第三十一
潤公第三十二
月渚第三十三
一翁第三十四
友賢第三十五
南浦第三十六

惟肖既老隱居山中、其院曰雙持、桂卷之益本云學師最
□□與□□徐桂吾蘭坡□善皆一時名鄉也、既學成而
歸、卓錫長州永福寺、愈信宋學、雖讀倪士毅四書輯釋
及永樂大全等、猶未知□□先師、陽坡施國讀、悉得
註意否、於是乎慨然欲求其要領、會有聰明之者、
命□□□□乃徵知名僧八十餘人、聚□□□寺、同
賦大梅梅子、令賦之、以試其法、才鳴磬促之、
□□□□曰云々後四十年、永正三年天龍□□□□和陳
外郎□□□及此事云々、□□□□大感乃□□師命
□□乞□□□□□□□□□□□□明年元旦早朝
大明宮及爲賀、詩中及年齒之事、自彼安歲一以
爲例示不忘其榮、云既而以下
闕文

「右一篇卷中不詳在何處姑收錄卷尾、且文字多難讀故闕」

漢學紀源卷三終

漢學起源卷二

桂門第二十九

桂菴之遊_二諸州_一也、無_二所_レ至而不_レ受_レ教焉、於_二筑後_一

則源東谷善鑒於筑前僧書中萬松山王於肥後隈部總

州、名忠直。菊府輔佐臣。桂菴贈詩曰。輔佐仁君。累世同。塞垣草木識吾翁。朝々講罷國家事。詩律千篇談笑中。其二云。載道元依。

大器一成人如白璧價連城一鄉好學九州
化能使斯文日月明可觀其人知其一也
白石兵部阿蘇氏僧月

舟、桐灘人僧玄叢、熊峯人等、日益衆、迨應聘於藩、亦不獨

三州士人受業、雲蹤萍跡之後不遠千里、接踵來

聚、而其大者爲公族、若國老諸名刹主、其小者不

遑_二悉舉_一於_二公族_一則遠州勝久大岳公第四子薩州國久匠作忠

廉豐州忠朝、並島津氏當時近屬新納忠親刑部國老伊地知季貞防州左衛門

尉鳥取政秀等自越後、則長尾某自近江、佐々木永

春於三薩郡邑市一來三龍雲寺、玉洞串木野冠岳寺宗壽、

伊集院廣濟寺湖月、大居士妙圓寺愚丘、加世田保泉寺

舜田、楫宿大圓寺說溪、山川正龍寺郁芳、府下則福昌

寺守琮、安養院文傍、桂樹院玄章、於二日州一飫肥安國

寺月渚、櫛間野邊克盛左衛門尉於二隅州一安國寺雲夢、吉田

長隆寺耕月、了潭寺今興化寺悅翁、從二肥後一雪溪、從二肥前一

自擇、從_二筑前_一大年、自_二長門_一曄、自_✓洛巢松及天用、

自_二美濃_一玄勤、自_二上野_一釣雪之類、皆出_二於其門_一、或

醉_二師德_一而沒_二齒於藩_一、或業成而歸_二其州_一、各教_二子弟_一

亦以此學、由是桂菴名聲甚海內、蘭坡詩云、學業

傳聞至三聖涯、桂悟詩曰、名聲籍々播三關中、又其序云、

道價被_二于九州、王道向_レ化、又守擇詩云、九州不_三帝

誦二吾翁禪道、文章聞二洛中、此等詩蓋匪二徒頌詠一實有

以爾而國朝宋學之弘于世亦首自桂菴何者觀下

其仰慕自_二遠方_一來學如_占舉_レ前_一可_三以證_二當時_一也、

儒俗第三十

宋書之入_二本邦_一、蓋首_二乎僧俊_一等、多購_二儒書_一、回_レ自

✓宋、而其講✓學據_二明編修官揭傒斯讀、故宋祖元赴_二日

本招、謂海東諸國皆言孔氏、迨祖元一行孔釋、並隆、

無_二遠不_レ至則始_三於宋僧等來兼_二講儒書_一可_二概知_一焉、

於是乎、其聽受而稍崇信者、亦虎關·玄惠·空華·岐陽

一慶惟肖之屬、多皆五岳僧、而孔釋並傳、各教其徒、

則山崎闇齋譏_二玄惠及藤太闇等、信_二程朱說_一猶惑_二乎

佛亦爲是故也、惟肖等以傳桂菴、故桂菴亦雖僧

在明精究朱學、有功于世、如述前篇、而吾藩世世相繼受其學師、一時者月渚一翁文之、如竹等之徒、宋僧以來孔釋並傳者、凡三百餘年矣、由是本邦之稱儒者而崇宋說者、後皆沿襲、陽禿其顧擬、軀於僧、陰揭乘葬、講道於儒、遂爲故事、其本蓋起乎皆隱、釋而避博士家忌諱也、已而迨文敏林先生、以斯學大振名於神祖創業之時、亦猶因循、至賜之僧官、始爲法印、及他諸儒、亦列制外、暨闇齋一著剃髮辨、始駁世儒、聞世儒言、雖曰從俗各飾之辭、實變於夷、而亂吾俗、皆出於無稽云、後稍省悔、迄元祿四年、法印孫正獻林先生、名信篤號鳳岡、新承鈞旨、還生其髮、由法印官爲大學頭、國朝儒者、始革其遺俗一矣、且應仁中桂菴使于明、明憲宗成化四年、幸值元旦、早朝大明宮時四十二、爲詩及齒、自是逝世復四十年、每歲旦輒莫不爲詩必言齒者、示不忘榮云、匪獨自暢教、受業徒亦勉傲焉、至值歲旦、荷得唱和、則桂菴曰、今歲汝學進於前年、若不能者反復誘示如試業、然觀夫漁唱、可以證焉、而迨其徒分各歸諸州、亦皆以斯教授其徒、遂爲倭儒法、太宰德夫曰、中華詩人鮮賦歲旦、而倭

儒乃每歲旦必作街名、雖流俗弊諸先生罪也、好古君子勿傲幸甚、彼不知本耳、據此等事、以原濫觴、則國朝之弘宋學於世者、多歸乎於桂菴、亦足以證也、況如吾藩民到于今、皆受其賜、若微桂菴、孰揭彝倫、闡聖學於文明時乎哉、

舜田第三十一附舜有

僧舜田字耕翁薩州人、俗姓村田氏左衛門尉經通次子、而國相肥前守經安姪也、天資淳朴自幼爲僧、受學桂菴、綜研內外、無弗洞徹、爲桂菴所器許矣、大永中董龍盛院、在今城地、國室公創焉、以天祐爲開山、舜田蓋二世也、慶長七年移今寺地、改龍爲隆、享祿元年嗣法天祐、名宗津乃四年十二月轉谷山皇德寺、僧文昇代龍盛天文二年後奈良帝勅賜耕翁號智燈惠照禪師、三年十月川上昌久大和守及實久等、謀殺國老末弘忠重伯耆守於皇德寺、公如稱寢、府下縉素多離散焉、耕翁乃以弟子舜有、遁伊集院隱谷口、小菴五年三月梅岳君復伊集院、兵勢大振、於是乎君辟耕翁舜有、與之砥礪、寵遇日篤、七年十二月君及大中公、陷加世田、先是薩州國久創寺于此、曰保泉寺、招皇德宥仙名泰翁爲開山僧、於是耕翁董保泉席今日耕新寺耕

翁常娛吟咏愛黃山谷詩山谷名庭堅宋人嘗謂周子人品胸中洒落如光風霽月云此人

也嘗聽桂菴講山谷詩賦詩求和桂菴亦和曰

一字茆菴四壁疎君非老伴慰衰餘

唔咿答竹貫珠響讀盡涪州山谷別駕內外書

西山納綠一簾疎詩是緇郎禪緒餘

除却十年燈下讀胸中自有不傳書

吟此等詩則耕翁亦知以稱其襟懷有道氣焉耕

翁以授僧舜舜有舜有別號三枝亦薩藩人風志脫塵

師耕翁學資稟穎悟綜究內外從師皇德天文二

年桂門巢松見而奇之號三枝爲之頌曰大樹

元來大葉全條林周遍利無邊不知繁茂在何處根

蒂分明空劫先三年十月奉師奔谷口五年三月追

梅岳君復伊集院辟耕翁三枝參學研究寵眷特篤

三枝乃以傳之君乃環其所芟四至廣境拓利居

之因摘君號曰梅岳寺又名其山曰福壽乃命

工彫刻君肖像爲諸其寺賜田五町永供寺產

於是三枝奉師爲開山焉初耕翁與秋月善故

煩秋月寫己眞像又畫花鳥於金屏風六疊

馬具傳藏于寺寬文十年寬陽公殿秋月畫耕翁像及金屏風於命工更寫其像枝飾金襴以賜之寺於是四月國老島津久通承旨使福昌特筆記其事

亦授系十二月泰清公更賜金屏風令易傳寺云永祿六年十二

月傳法舜芳七年甲子二月二十六日化曰當山開山三枝舜有大和尚禪師

潤公第三十二

潤公姓島津氏諱忠良稱相摸守老號日新齋又曰

愚谷軒至後參禪曰梅岳常潤故摘爲潤公祖諱

久逸乃公室九世大岳公第三子而嗣伊作氏是爲善

勝君父諱善久蚤卒是爲越山君母新納氏諱常盤

是爲梅窓夫人初桂菴之應辟也夫人生七歲追其

梓大學頒行於藩年稍長性聰敏而志於儒學恒

讀論語承應二年川上久國所著與西福寺夫人傳則作讀孔氏之遺書今從新納諱既嘗歸于越

山君君未育男欲夫人人生以爲莫如乎爲仁乃

博救衆又禱金峰逢白衣神人告生賢子夫人夜

夢金峰變飯入吾懷而有孕焉明應元年生男是爲

梅岳君君生三歲越山君卒夫人寡居與祖善勝君

議以爲育君之道莫善乎出就有德七年二月君稍

髻齟乃遊海藏院受學賴增凡九年矣迄永正三

年正月賴增繩鞭善竭其道又使新納漁隱傳君翼

之漁隱亦匡弼以忠遂至以使君善研精勤學覃

思勵行踐履純實而愈希聖賢之德由是大翁公乞

君之男立爲世子委君政柄大永七年公遜位於世

子、自營、鬼裘於伊作、移、而禿頂焉、世子享、封是爲、
大中公、於是梅岳君夾、大中公、徙居、慶府、乃亦削髮
更號、日新、未幾、公族實久作亂、狷邦、語在舊乘、君
之號、日新也、益救如竹管聞、諸文之、以語其門人愛
甲喜春、曰、君嘗聞、桂菴講、湯盤銘、乃有感、曰、湯銘、
諸盤以戒其身、吾近命身恒顧爲戒、遂號、日新、其德
隆盛多暢、諸歌、恢拓政教、以垂萬世、雖前聖而無、
以耻、則本乎由斯提誨而醒起、英機云、誠其然哉、誠其
然哉、但桂菴則歿、永正五年、時君年十七、聞其講說、
非亦無謂、然號、日新、據舊乘、繫大永季、則當下必
在、舜田居、龍盛、在入府城一時、而聞其所講以取之也、
而如竹曰、爲桂菴、恐舜田之誤、爾、天文五年、君及大
中公帥兵復伊集院、所向無敵、兵勢大振、乃聞、舜
田及其弟子舜有隱於谷口邨、乃就二老、益研德焉、
七年、君進取加世田、遂移、舜田、補保泉寺、初、舜田
受學桂菴、嗣法天祐、以傳、舜有、六十、舜有別號、三
枝、前此、天文二年、君從俊安、田布施常殊寺、既雖參禪受、菩薩戒、
而至、與舜有、尙精密窮其蘊奧、造養益深、胸懷廓然、
一以貫之、千酬萬應、莫不徹悟、於是乎、舜有以是
傳之君、君自稟學寵遇日篤、乃環其所、芟四至廣

境、拓剝居之、因摘君號、曰、梅岳寺、柳君之學術
迥其淵源、則雖出於達摩、而入於石屋、顧務見性
承其法嗣、六十、仍事于佛、眞如菩薩、然自、舜田、下繩
參桂菴之儒說、綜究內外孔釋、並傳以授之君、至
君一變至道、君之稟生粹美、維鍾磨以屯難、慨然憤
發奮乎百世之下、力學研究潛玩既久、深探儒佛之
願、不徒溺於徑約、而陷於曠空之屬、不亦驚於該
治、而流於泛駁之歸、其座右則懸聖蹟圖、惟精惟一、
博約純熟、言行踐實、每應事接物、輒莫不必質、
諸聖範、而養民以政、肅之以刑、致其所臻、則仁
德日新常潤、其身障面疊背、其文章雖用倭辭、實與
聖賢同其教誡、其將逝也、正易簣操薨于永祿戊辰
十二月十三日、得壽七十七、俊安爲之頌、曰、富潤屋
蓮、經壽年、文經武緯懷天真、心頭性火發明後、三教
功名屬一人、又代賢贊君眞像曰、儒門君子翁、釋部
竅空々、明達玄々理、三教成一同、讀者琅吟可、以觀
其通、儒佛神之三教也、若夫天教及法華眞宗等之弊、
浸潤至蔑神滅、舜、則英斷既慮後世愚民利己眩惑、
嚴設禁令、遏閉斯徒、初入乎濫、其功業匪啻以化、
當時人、永至、使三州士民咸趨正路、仰爲所、於式、

焉、自_二君薨_一後四五十年、如_二天教_一則至_二台德廟世_一、遂令_二於天下_一盡驅_二斯徒_一、由_レ是藩亦特遵_二奉之_一、以併_二真宗_一、並禁_二封內_一、歲六月則徧督_二戶口_一、求_二匿陷者_一、每_二六七年_一修_二正版籍_一、謂_二之札改_一、赤崎教授_{真幹字彥禮}稱_二源助_一之游_二肥藩_一也、數孤山語_レ焉曰、貴藩自_レ古世不_レ乏_二於賢君_一、明相_レ觀_二其爲政_一、先禁_二真宗_一、勿_レ內_二於國_一、舉_二此一事_一、佗亦可_レ知也已、其徒動遁_二肥藩_一、至_レ煽惑愚民_一、以害_二乎政_一、然到_二于今_一、無_レ術_二遏絕_一、又新伯剛之學_二冢田翁_一、亦猶_二數所_一語曰、中井氏所_レ著草茅危言、亦惡_二彼等滋蔓塞_一路、屢辭而闢_レ之、空言無_レ施、且及_二負版事_一、如_二我藩_一則既皆行_レ之、以_レ是觀_レ之可_レ謂_二先君之爲_一政實與_二後聖_一、其揆_一也矣、是則無_レ佗、其本得_レ非_二必由_一乎、桂菴曾闢_二宋學於我三州_一、如_二梅窓夫人_一、亦讀_二論語_一以夙教_二君_一、善竭_二其方_一、而有_レ然乎、據_二是考_一之、斯文寢盛弘_二于天下_一、至_レ如_二今日_一皆爲_二其賜_一、亦豈其虛也哉、至_レ如_二佛道_一、則興隆之久既如_レ彼、而石屋時尤爲_レ盛矣、然猶_レ且使_二恕翁公_一至_二有_二世子_一、而無_二世子_一、亦其高則雖_レ如_二高_一、求_レ道滅_レ倫、所_レ以與_レ儒異_一也、若使_二桂菴倡_一宋學_二前_二於石屋_一、則恕公翁縱令_二欽_一其德、安能_二僧_一子_二至_一無_レ後乎、

月渚第三十三

僧月渚名永乘或作英乘一名支得、齋號_二宿蘆_一、薩州牛山人、牛山即今大口

俗姓無_レ傳、天性聰悟、幼志_二脫塵_一、緇服遊_二肥_一、隨侍_二栖

碧於清源寺、在肥後玉名郡高瀬鄉、正平三年皇子懷良創_二建_一于此、以_二東福_一一證爲_レ之、開_二由其山_一號_二高瀬_一云時

僧一枝構_二軒山_一中、賦_二詩善書_一、名滿叢林、月渚乃從_二學

焉、迨_二業將_一成、一枝歿矣、然猶留_二遺軒_一、凡五六年、而

一枝嘗與_二桂菴_一友善、故桂菴聞_二月渚端厚超_一衆、稱_二

嘆之曰、昔仲尼沒、子貢六廬_二於冢上_一、月渚亦豈減_二其

盡心喪乎、明應三年在_二洛惠山_一、司_二藏鑰_一、而飯_二日州_一、

四年春首有作、桂菴次_二其韻_一云、去載禪郎位轉_レ機、惠

山草木故光輝、摩尼撒向_二日州域_一、鄉友相迎驚_二錦衣_一、

六年初菊府僧雪溪負_二笈于薩_一、受_二學桂菴_一、文藻宏識

馳_二譽遐邇_一、九月菊府使_二月渚來迎_一、雪溪同_二董清源_一、

時月渚介_二雪溪_一得_レ見_二桂菴_一、桂菴大喜爲_二詩送_一焉曰、

孤錫瓢然報_二遠來_一、開_二門掃_一葉小嵐隈

牛山有_レ木古今美、桐瀨禪林用_二楚材_一、

師門業在_二壯年時_一、好寄書巢借_二一枝_一、

人逝筆亡無_レ限恨、爲_レ君不_レ說又憑_二誰_一、

按盛香集桂菴學_二於明_一、同應_二辟藩_一、奇_二文之材_一、招爲_二弟子_一、時文之年二十三云、計_二文之生_一、當_二桂菴沒後四十九年_一、而年十三學_二翁門_一、

安達桂菴平、今觀此結句、似誤三月渚爲文之、若果月渚而時二十三、則應生於文明七年、少桂菴亦四十九年也、註誤考爾、

既而未幾月渚辭肥還薩師事桂菴、嗜學研精、

胸襟高潔、雅好吟詠、桂門雖衆咸推月渚爲巨擘

矣、凡遣唐船多泊於日州諸港、麗藩自古掌之出

入京命也、間歲福島係公族忠朝豐後食邑、故擇儒僧備之簡牘、於是薦三月渚、董龍源寺、在市來、

加寵眷、後轉安國寺亦忠朝邑聚徒講學、根據師

說、皆依朱註、門人日益衆、大永三年管領細川高國、

承幕府旨遣相國鸞岡名曰瑞佐及宋素卿爲正副使、使

于明國、兼啓通商、三月泊于山川薩州港名大內義興亦

遣月渚及宗設同使于明、而宗設等所駕船先至寧

波府、繫船十日、一本作至四明素卿等船抵自後、然賂

府令其進謁也、素卿爲先、宗設乃怒刺殺府吏、時明

世宗嘉靖二年也、乃捕素卿下獄、故月渚及宗設急

發開洋、便信風還、而月渚主安國席如故、此行

月渚遭不虞難、以急解纜不觀西湖、爲終身恨

矣、且如學術亦雖不至親就明儒以研造詣、迨

飯自明、徒衆愈盛、於是乎幕府特賜鈞帖補建

仁寺、凡董安國者二十年、後老退隱于西光寺、飲肥南鄉

天文十年辛丑二月九日歿于隱居、弟子受業者、安國

一翁得其宗矣、與巢松等來往唱和其詩、多見巢松集等、至性行詳無傳可見、若爲後學所欽仰者、觀下文之歲值諱辰所薦詩文、可概知焉、

二月九日奉呈月渚大和尚真前見慶長十二年

玄 昌

惟德惟馨與歲加名聲身後點無瑕

莫言叢社已凋落枯木回春二月花

同

有感作當慶長十三年教化陵夷左衽來

叢林零落東西寺月渚門徒知是誰

慶長庚戌二月初九、伏值前建仁月渚大和尚七

十年遠忌之辰、謹綴卑詞以奉呈真前云、

同

善行嘉言猶未泯古叢誰敢訪遺塵

宿蘆亭下月沈後默數年光閱七旬宿蘆月渚和尙齋名也

二月初九、即前建仁月渚大和尚示寂之辰也、謹

綴一偈云、同

教海禪河兩括囊更雖閱世德惟香

古傳房下燈將盡猶了殘經借月光

二月初九、謹裁野詩奉呈月渚大和尚真前、

見元和二年

心月孤團照太虛

餘光至此更扶疎

羞吾無似傳何物

架上纔遺一束書

天文辛丑二月初九、吾師前建仁月渚大和尚瘞

履之辰也、是歲元和丁巳正月初九、樓指則七十

七回也、裔孫玄昌不勝追慕之情、謹賦小詩、

以爲報恩之一句、兼示諸徒之在會裏者云、

人生七十七年忙

幾讀遺編淚淋浪

水月明樓拜真物

至今猶有煥平書

桂菴和尚之門人月渚者、詩文其熟之老古錫

也、昔時日州安國虛其席者有年矣、征夷將

軍賜建仁鈞帖於月渚、月渚主住持之席者二

十年矣、予之師一翁者鄂渚之寵弟、而學於月

渚之門、門以有一翁爲巨擘矣、天文辛丑二

月初九日、不幸而月渚示滅於南陽、西光之寺

古籍百卷於今猶在存者、爾來守一翁之塔

者覃八年矣、羅國之口口騷屑離群索居、予

住正興古刹者十有五年、今也蒙薩州殿下之

命、創大龍新寺於鹿島、故殿之陣迹居止者七

八年矣、丁於戊午二月月渚瘞履之辰、豈可不

言詩乎、因賦材詩云、宿廬者月渚和尚之別號也

同

當榜宿廬存故蹤上斯翁一代稱談宗

密雲不雨南陽寺可惜終身作臥龍

一翁第三十四

僧一翁或號二州、薩州犬迫人、俗姓鹿屋氏、以永正四

年丁卯之歲生、兄曰鄂渚、董龍源席、以明應元年生、

年二十日、一翁亦幼削髮爲僧、稟賦穎敏、師事月渚、

日州安國寺月渚者桂門之高弟也、故一翁綜研內外、

最精宋學、遊抵京師、掛錫、真如後奉鈞旨陞建

仁席、未幾西歸補安國寺、永祿三年明國福建道連江

縣人、姓黃名友賢者、爲賊所捉、而寓於薩川內、其

在明也、夙承家學、覃思周易、程傳朱義莫不曉

悉、靈驗如神、一翁與之傾蓋、道契日深、西土日東、

雖異方言、討論經義、互質迭證、渙然冰釋、多所與

輔、遂爲莫逆交云、十年正月日井地名延命寺天澤會

下、玄昌年甫十三矣、賦歲旦詩、辭翰兩勝、天澤奇之

以爲英物、非吾所能育、乃使之就受學於一翁之

門、世所謂文之和尙此也、時一翁既謝安國、退憩龍

源、並見前篇專以教授樂、暮齡焉、故其導文之等、靡一不隨其材、以施之教、猶孔子於七十子、而導之誦經、或教學書、或習國字、以其理之易通、其事之易達、欲使下之各隨其材賢愚、皆成其德、以為世之用焉、恒誨之曰、人之為學、汝知其要乎、蓋不但為通文辭、而辨世用、所以切實學、其為入之道也矣、其學焉者、以事父之孝、移之於君、則為之忠、以事兄之弟、移之於長者與朋友、則為之順、為之信矣、皆在下省求之於吾心、涵養德性而已、若其舍之雖徒求外、豈復何有得哉、故其居常教弟子、亦要進退周旋必中禮、動援聖語曰、行不履闕、其必慎之、見文之所為詩序、或勸學文等善誘後進、叮嚀親切多如是類也、天正元年飛錫隅州、栖居神護、在加治木四年、文之從焉九年、先是文之業成遊學京師、至是西歸、二月一翁乃薦文之監龍源寺、在福島市來時藩士伊集院下野久治地頭焉益就閑散、年八十六、歿于文祿元年壬辰十月五日、一說十二月二十八日化弟子受業莫出文之左右者、故終身欽慕師德、見其文集、

奉呈一翁老師真前

天下有達尊三、曰德、曰齒、曰爵、有其一者世

以為少、況併其三者乎、吾師一翁大和尚、謂其德則詩禪俱熟、謂其爵則始住日州安國、中住京師、真如後住東山建仁、謂其齒則踰八十一者六、豈非併其三者乎、先是壬辰初祖忌之日、唱無聲之典矣、爾來默數一十一、五、一、年于茲矣、是日虔備澗溪之毫焚婆律之香、以伸供養、因賦狂偈、為報恩之一句、當慶長十二年

末裔玄昌拜

為報師恩難敷宣、澗溪苕菜水沈烟

自栽墓柏成叢社、啼向秋風十五年

初祖忌之日、伏值我師前建仁一翁大和尚示

寂之辰、綴野詩一章、以充報恩之一句云、

當慶長十三年

憶昔乘雲歸帝鄉、煥乎至此有文章

欲報恩義用何物、一朵梅新一瓣香

謹綴野詩一章、奉呈一翁老師大和尚真前、

當慶長十八年

同

白髮殘僧掃影堂、師翁去後幾星霜

信言久遠猶今日、德與梅花一樣香

吾師一翁和尚教授於鄉校者年尚矣、於斯之

時國家兵爭、而書生亦不得習而熟矣、若予之輩、久雖侍於絳張、而不得入其室、所學者章句訓詁之末耳、可羞之甚也、今當諱日、誦昔年訓導之言、裁詩一章、奉報恩義之厚、云、當元和元年十月一

同

吾師教授幾春秋
刮垢磨光恩義淳
訓導遺言如在耳
不通古今不成人

謹綴野詩一章、奉獻前建仁一翁大和尚二十
五回諱辰法席、元和二年十月

同

五五年光端的移
古叢凋落又憑誰
釜甑不爨脩無物
纔采蘋蘩薦我師

黃友賢第三十五

黃友賢明國福建道連江縣江夏郡人、其先出自顓頊玄孫陸終、終後封黃、因以姓焉、友賢生於明世宗嘉靖十七年戊戌之歲、本朝天永祿三年文七年三十九年為賊所捉歸化本邦、時年二十三、初其舶至薩川內、故寓入來、而後漂泊於薩隅日間、其在明白幼愛家學、尤精

易筮、少一翁三十一年、而友賢與一翁善、恒來往講程朱之學、文之幼侍一堂、故亦獲以與有聞、而曉通者多云、天正十年松齡公戊辰代城、在肥後州十二月召友賢卜筮焉、遂舉祿仕令恒講學、朝鮮之役亦列從兵、慶長元年明神宗遣遊擊沈惟敬使國朝、時友賢從公上伏見邸、惟敬邂逅近友賢、異其未死存於日本、特加慰勸、繇是人皆知非庸族、豐太閤亦聞乃將舉任官、而命公且以促之、友賢辭曰、未知國典、於吾明為臣事二君、所深耻矣、臣雖不敏、既已委質臣於藩公、願守吾道、固執不肯焉、公以報太閤、太閤大感、聽如所願、又神祖之臨公邸也、及諸緒紳開詩歌筵、以資雅興、友賢與焉、見待垣卜齋所當是之時、京師晚生學易若詩者、莫獨不師友賢而承教焉、名聲籍甚京洛、至升聞天朝、勅賜策木、加之親王道澄亦賜之號、曰環溪先生、或陪聖護王謁精雲精舍、賦詩王命也、四年在藩三月、慈眼公手誅叛臣幸侃於伏見邸、初其謀事也、使帖佐宗彦左衛門豫還藩陰命友賢筮之吉日、七年冬公築今府城、亦命友賢、豫卜其地、且經營之、友賢乃齋戒薰沐、告諸天地鬼神、而卜筮焉、曰卜筮皆吉、

宜國家永久公胤昌盛也、但恐火難耳、然鎮火法宜祠靈符以防其難、乃從其言云、後歷數年、寬陽公山恕心祭諸其家、既而大玄公時、元祿九年府城火、靈驗如神、至淨國公時、碓山道鏡聞靈符、嘗祠於曾山氏、因弟子丸宗武陳其所聞、公乃徵靈符、復祭之府城、如友賢言、而命木村探元、別割寫一幅、賜曾山氏、尙祭之家、亦如故云、事見浦波、但友賢作自閑誤、十二年松齡公自帖佐、徙都柁城、復命友賢豫卜其地而經營之、身亦從遷、食祿三百石、家列士班、以江夏爲氏、其在明所居郡名云、十三年正月公賀新正也、十五年庚戌七月二十三日歿于柁城、享年七十三、葬木田邨實窓寺、題黃翁環溪先生江夏氏墓、生子筑前守後稱一閑、夙繼父業、亦精易筮、不墜家聲、嗣祿三百石、寬永九年籍載三百二十二石門人愛甲喜春受其學、自有傳、

悼友賢黃先生

釋玄昌

無不人言失此賢、一朝傳訃涕潺湲
聲名身後潔如玉、遊戲斯文七十年

納環瓊先生著策一記

凡物有形天則斯從、民人有思神明斯應、故雖聖人、贊幽明前民用之、靈器不免隱顯趨舍之期數也、我祖師友賢黃先生福建道連江縣之人也、避亂所

劫倭賊、本朝永祿庚申年來寓隅州加治木久矣、曾從邦君源宰相義弘公朝、觀於山城國伏見營、屢遊洛陽、時當今有憂虞之事、猶豫未決、召賢而筮焉、太有靈驗、上悅命近衛關白左大臣信尹卿、以賜五、大聖圖影壹幅、神著壹箇、紅錦壹端、黃金若干兩、且照高院道澄受朱子筮傳、復詔拜先生之號、稱環渚、後命義弘公將移賢於洛下、義弘敬諾矣、賢慚、敢忘義弘君舊恩、而共立以固辭矣、君力進而不聽、遂適從歸國、君感貞節、與采三百石、慈息二閑榮宗續其統、屢筮有應驗、時以爲專徵所移、麁府小臣、偶及愛甲喜春等從遊門下、拾餘年、臣竊知易道玄遠、不可不至、不敢慢筮焉、及間翁沒筮著之方漸微也、其玄孫上源氏知家傳寶器、或時香火耳、延寶戊午庚申之際、薩府之南區三有火災、當火甚急、自抱一箇逃避、聖影及詔書盡焚失焉、年十一月我邦君左近衛中將光久公、聽新義易傳、始自本邦、而今將晦、弊命、偶及喜春父子纂修、臣不堪重責、謹按傳記、君道必先於立教、立教莫重乎經術、經術以四聖經傳爲首、嗟偉哉邦君知治道之先務也、邦君雅未講易學、聰明稽古、賢才格物、明倫正位乎、家人

箴敬、惕若乎、乾九君臣廣協以交、天地之泰耳、目明
 闢而續、日月之離、是於易道、可謂善用乎、苟如
 此而開、後生之學、鄉學與起士、將俱効用、達物
 宜於虛中、兆民皆顒々然、仰蒙邦君右文治、斯臣所
 以不可固辭也、是年二月、臣復從述職、侍薩伊集
 院、春亦送君駕來焉、相共勸、合易傳、語及上原氏
 所藏寶著、余云、吾嘗不忍、先師遺寶、埋沒於無聞、
 冒昧當此行、聞兄將送君行、欲相策爲國器、私
 借上原氏而載來焉、春云可也、廼擬合以聞、久胤久
 輝兩相公、請收納、春既得、令還鄉而說上原氏、
 呈奉本部、既而君駕留伏見邸、飛劄遠送、依奉邦
 君大悅、命喜入久、甫載、內閣之寶籍、還發德音、
 借臣預知卜筮之事、臣恭奉日焚香、敬修、蓋惟先生
 之知、兩君以彰兩君之治、上天以肇其天也者何
 矣、傳云、天何言哉、叩之即應、於非著何也、又云、天
 道無親、常與善人者、其是之謂乎、向賢從義、弘君之
 述職、來伏見、共蒙至尊之至澤、今左將君紹明世、
 復來伏見、而納其器、開後人之先務、即可知物有
 期也、嗚呼、其人已歿、其器殆危、遂至文獻不足、忽
 所以有此舉、記其始末、使後人足徵、而黃家之青

亦不泯者、如史謂伯夷、秦伯於孔子、同類相照是也、
 又以可謂龜從筮從、如臣等亦蒙鈞命、謹誌字
 名乎篇末、即可謂附騏尾者哉、
 延寶九年辛酉三月丙子、侍山城國伏見館邸、

大原林齋王貞衷侗民謹記

飯野士江夏由緒書

我等先祖江夏友賢事、惟新樣伏見御詰被遊候時分
 御供仕罷在候、其節帝王樣御不例之事、御座候付而友
 賢を内裏江被召出周易之占可仕旨、依勅命著を取
 御病元之様子奏達仕候に付、急度御快氣被遊之由
 候、因茲近衛關白樣江勅誼被遊五聖人之圖、一幅紅錦
 一端神著、一箇黃金等拜受仕候、其上環瓊先生之位を
 被下照高院如雪親王樣周易御相傳被遊候、内裏御暇
 仕候刻從如雪親王樣、餞別之御歌二首、御自筆に被
 遊被下候于今、頂戴仕候差出申候、如雪樣御書二通
 御座候一通、鹿兒島江夏仲左衛門所江御座候一通は
 末吉之上別府市左衛門所江御座候寫一通、差出申候
 一友賢事、帝都江可被召移旨、惟新樣江勅命有之候
 に付、則可差上旨、勅答被遊候得共、友賢事惟新樣御高
 恩を奉忘同輩に相立申候儀道に違申候段、遮而御訴

申上候得者貞節之志を忖感有而則勅許被遊候其節
惟新樣御意被遊候は勅命を相背候段如何に候間必
可奉隨勅誼旨御意被遊候得共不承候而終に御供罷
下申候依之惟新樣眞實之忠義御感被遊高三百石被
下候

一延寶九年之比前之中將樣從内裏拜受之神著御所望
被遊候砌大原林齋江被仰付右之趣文書に書記神著
に相添被召上候其節神著上原五左衛門江預け置申
候彼五左衛門事我等祖父源左衛門弟自得二男に
而御座候故易相傳可仕通申に付源左衛門より易書
相添借置申之由候依之五左衛門より差上筋々文記
相見得申候得共友賢嫡家之儀は私方に而御座候右
條々林齋江被仰付候文記に委細相見得申候

一惟新樣飯野江御在城之時分友賢事御供仕飯野江居
住仕候我等曾祖父二閑事は友賢嫡子に而御座候其
後惟新樣栗野江御移被遊候も御供仕候我等祖父源
左衛門事栗野に而生れ候其後帖佐加治水迄御供仕
罷移申候友賢事者加治水にて相果申候二閑事者御
用に付鹿兒島江被召移候二男自得も同前移申候源
左衛門事は二閑嫡子にて御座候故加治水江罷留中

納言樣江御奉公仕候我等代迄加治水江罷在候得共
逼迫仕加治水御暇仕只今飯野江罷在と申傳候大抵
如斯御座候以上

丑四月十九日

江夏慶右衛門印

一上別府市左衛門に向付候處格護不仕由申出候に付
慶右衛門に問付候得者祖父源左衛門より此寫請取
申候間江夏仲左衛門方江有之御書之寫共又は市
左衛門方江有之御書之寫共然與覺不申候七八年前
に市左衛門方へ右御書之儀相尋申候得者見失爲申
由申候而無之候通寅四月廿七日飯野愛より被申出
候

寫在飯野士江夏慶右衛門

一能用一筆候其地堅固之由珍重に候此邊別儀無之候
我等作事如形成就いたし候惟新於上者同船可有哉
と待居候處老衰之故無其儀之由萬端落力候猶期後
音候不宣

三月十六日

如 雪

友賢老人

在飯野士江夏慶右衛門

一友賢老人汧裝之催日已近、祇今泥兩篇之詩以予與之不堪、感激、率取韻末之二字、聊報其志而已、

袖のなみたやたきのしら糸

別ゆくみやこの名残わすれすは

春は來てみよはなのさく時

如雪

族譜

吾宗黃氏江夏邵廼顓頊之後裔、陸終之末孫也、早歲因蒙難之故、到于日本、遺失族譜、今特誌世有_レ名者與_レ其近者、以爲後世子孫之證云、永祿第三冬至吉旦

友賢誌

玉盛明人繼世人清者、玉明同繼世人豪者、友賢蒙難到于日本、號環溪先生、榮宗友賢子生日本、榮秀繼世二男榮春、榮守繼世子榮元老號齋名圃竹、

南浦第三十六

僧南浦名玄昌字文之、薩藩人軒號雲興齋、名時習南浦

其號也、又別有懶雲狂雲等之號、俗姓湯佐氏、仁氏王

仁子孫多在河、其爲子孫亦未可知也、其先出自源族、父名無傳、故河內

人避亂漂泊抵日州福島、娶里人女、弘治乙卯生

文之於州之外浦、在飯肥南郷○盛香集云、文之生於隅州申良大塚、恐非是也、因號南

浦、少一翁四十八年、天資穎敏、幼異群童、夙有

脫塵之志、父知其有法器、永祿三年囑諸目井

日之延命寺、天澤和尚、名崇春、又改不閑、日州飯肥人、從雲夢於隅州安國、大永七年遊足利學肆、業五十六年後

至越前、請益一拍、祇囑十餘年、弘治二年西歸、飯肥董西光寺後

構著室於延命寺、以卜筮爲業、年六十一、化于永祿十二年、雲夢

名崇澤薩州伊集院人、公族熙久之第四子、時生六歲矣、而父回

河內、後不復逢、故文之惟知有其母、不知其有

父云、父死於正月十一日、今失其年、法號大圓淨智母死、于文祿元年十一月二十八日、法名數中大姉云、按品山諸盛之父、曰

橋隱軒、本河內巨族、天文八年三十而出、京師遂寓薩藩、于時河內人遊佐幸雲杉原集、亦從來云、所謂湯佐疑此人、天澤

授之法華、觸眼爲誦、頗通其意、且指地畫所誦

文不差一字、楷正可觀、隣里呼之曰文珠童、十年

正月年十三而爲三歲且詩、天澤奇之以爲實是神童

非吾鶩材能所可有、乃使之就學一翁於市來

日州龍源寺、一翁者桂門月渚之巨擘也、於是難髮受

戒名曰玄昌、而所爲詩往々競傳詞林、膾炙人口、

竟至京師、乃相國寺仁如生於文明十等大賞其材、四年壬寅

與三文之號、且廣韻序以返焉、

文之號

薩州龍源寺一翁老禪、會裡有穎利幼童、今茲十三齡元旦試筆、佳什自書者、遠得落予手、辭翰共有老成典刑也、賞歎餘依芳韻者二首、供老禪一笑、少年其諱玄昌、予雅其號以文之二字、稱焉、蓋天上六星以北斗魁取文字也、所冀與真淨文一關西同其稱呼、以爲後來衲子摸楷、或規或祝、前篇爲後信起本、後篇述雅號之字義、

鹿苑老衲八十六歲集堯仁如

傳見少年詩律清 奇才可畏遠邦生
若通書信比相對 千里同風宜寄聲
錦心繡口織成清 爲絢皆從機巧生
他日要看公簡冊 持來擲地有金聲

由是一翁字之曰文之、馳名叢林間、受四書及三體詩等於一翁、盛香集云、桂菴間文之有材器、自招爲弟子、時猶未生、則疑誤、一翁爲桂菴也、然文之時二十三云、亦不合焉、抑一翁之師月落亦有材器、桂菴賞之見鳥陰集、疑是之誤、姑注坡考一翁之教文之也、以三章句訓詁之學、朝習學論

文、暮檢廣玉字、使以知一大爲天、土也爲地之類、前是明人黃友賢^見歸化薩藩以學識聞、尤精易筮、一翁與之善、屢因來往至文之親得承警歛、誘掖薰陶、以啓愚蒙、友賢亦異文之英材、特加訓導、以學必有孔孟濂洛之道云、十二年文之年十五、負笈遊洛、謁僧熙春於慧山之龍吟菴、春一見其器宇俊爽、甚敬重之、乃許入室、凡每有論難、輒雖微以詰、應對如響、莫秋毫滯、春喟然嘆曰、汝真英物、佗日能弘吾道、必克勉焉、遂掛錫於本山、服勤者十有餘年、行狀作十五年然與還年不合文囊教笥、充棟汗牛博綜內外、深究蘊奧、既而西歸、元龜二年文之有兄二人、長某爲信長、死於河州高屋城、仲某爲僧死於叡山之難、天正元年從一翁移錫隅州、居神護^柁城者三四年焉、五年伊東侯^{義祐}出奔豐後、日州侵地悉歸我、藩侯分遣將卒鎮戍諸城、伊集院久治、下野守^{號抱節}徙地頭於福島、九年二月一翁聞于地頭以老謝事、薦文之領龍源寺、在福島市來邨於是一翁年七十五矣、後文之轉錫於隅之高山少林寺、日之財部正壽寺等、當此時我貫明公聞文之以儒學振名于世、招而董席於隅州、正興安國之兩利、十二年三月公親帥師次于佐敷、

遣公弟家久帥兵往救。有馬侯二十四日與隆信師戰于島原、大克之獲其首、四月文之獻書賀之、十九日公賜報翰、既而兼充顧門寵遇日渥、政策教令多所裨益、十四年正月及鎌田政廣刑部左衛門尉使于京洛、因細川幽齋請豐太閣廣藩封疆、語在邦乘、二十年初遣唐船多泊薩山川、故擇儒僧董正龍席備之簡牘、則桂門郁芳以下、月溪問得之屬皆精儒學、於是太閣使幽齋來巡封內、減寺社田、如正龍寺以簡牘功特給寺田五町如故、而問得等益勵儒學、教授子弟以四書等、昔年四書之入國朝也、東福岐陽首施倭點、而迨桂菴回自明國、頗加脩正、以至文之、文之亦間改正以援徒弟、故問得等當時吾藩授句讀者、皆以其本、文祿二年妙壽院惺窩、自武飯沼、讀性理書、悼四書新註未_レ有和訓、忽欲學明注之倭點、自筑開洋船遭暴風漂到鬼界島即今薩黃島、隸薩河邊郡、冬出自島泊山川港、偶見問得於正龍寺、聞其授新註和訓於徒弟、大異乎心、假而誦玩、無所倭點、不稱其義、乃問僧等皆對曰、吾文之和尙所點本也、於是惺窩歎伏曰、今將渡明亦惟無他求之也已、乃請問得悉寫而歸、世以惺窩

爲儒宗、亦實始乎此矣、慶長四年文之從松齡公上伏見邸、初文祿役有征人齋周易大全二冊、同自朝鮮者、文之乃購又之他邦、得一兩冊、猶未完備、雇人寫、次手施倭點、至是二月遂竣、其功自又跋焉、後二十九年寬永四年十一月、門人如竹所錄梓本此也、本邦周易大全倭點以此爲原本云、文之在洛、講大學章句於東福寺、聽徒多聚、見盛於_レ是乎、後水尾帝行狀作慶長帝亦聞其鳴學識、詔內講新註於禁廷、而愜皇旨、會有廷臣言事者曰、惜哉師雖博識宏才、亦產西陲、詞辨鄙陋、頗文飾少、安得能達天聽乎、文之聞而心懷慙愧乃謝焉、曰宜哉言也、佛其有言云生王都難、詩不亦曰乎、邦畿千里惟民所止、其是之謂也、行狀無年、月併書此是歲三月從慈眼公如高雄山、屢賦詩、命也、五月從飯于藩、暫寓隅州、住正興寺、八年五月十九日神祖鈞帖補筑前禪光寺、六月十八日復賜鈞帖轉大隅正興寺、四十開堂拈香爲潮春嗣、凡所行禪規寺範一則慧山、前此備前侯秀家來奔于藩、至是八月公請教於神祖、使桂忠詮護送、如駿府、文之副焉、六日俱發牛根、二十六日神祖復舉文之爲住職於相州建長寺、二十七日及忠詮以下秀家至伏見、使事竣、乃拜鈞帖

往董主席、升堂提唱、詞海辨河滂湃弗竭、不振祖道殆踰古矣、九年二月公召文之講學於府城、又召東鄉重位試劍技、乃二十八日文之跋其書、命也、十年八月貫明公命撰松齡公一唯公小傳、恩賚特多爲詩拜焉、

奉謝龍伯尊君頌茶

昔日邇英頌棟梁、我今何幸侍官家、

譬之巨海海還淺、恩意惟深一碗茶、

龍伯尊君賜予以墨與筆、詩以奉謝、厚意之

萬乙云

筆墨由來出處同、古今司戒幾成功、

文房併見辱君賜、十襲珍藏筍筐中、

端午賜衣卽事

偶逢蒲節髮吹蓬、幸入公門更鞠躬、

細葛含風君子賜、恩榮何啻杜陵翁、

十一年正月及下郭理心等從慈眼公朝于京洛、三月舟行值雨、

公賜文之國歌乃獻詩拜恩

想像廬山一草菴、昔年聽雨更難堪、

蓬窓今我喜無寐、拜誦歌篇至夜酣、

四月公拜神祖於伏見、此月命文之跋射義書、六月公猶在京、從詣御藥師、值雨賦詩、

平日閑談一雨過、洞簫如綫又如歌、

不從尊駕敲閑院、奈此昏蒙溽暑何、

此月十七日神祖賜公諱、取改家久、文之爲詩恭獻駕焉、

莫言東洛隔西州、同氣同聲程豈脩、

自一交盟結金石、國家久遠幾千秋、

九月撰鐵砲記、代種子島久時也、十二年八月撰日

州平治記、亦命也、十三年公及松齡公新蓮金院於高

野山、定宿房焉、初日新君得聖蹟圖、製爲屏障、

恒置座右、以備觀戒矣、乃孔子終身之履歷、而明張

楷所贊也、君旣物故、傳至貫明公、憫難遽解、命

文之別爲謄寫、施之倭點、又以國字爲和鈔、以

惠後生、而迨公時、以爲與私一家、孰若弘祖業

於永久、以公諸世、乃命畫師日野等林、摹寫其圖、

藏之高野山、欲以使後裔永仰聖德也、亦命文

之記其事焉、十四年三月公遣樺山久高、帥兵往

伐琉球、四月取之、七月久高等以王尙寧還、八月

貫明公召賜王宴、文之陪焉、初桂菴受四書集註於南

禪惟月等、皆岐陽所_二和點_一也、而桂菴渡_レ明留學七年、以_二其所_レ得、多改_二乖誤_一、以授_二月渚等、月渚以傳_二一翁、一翁以傳_二文之、文之亦間改正以授_二徒弟、公及士大夫遊_二其門_一者、問_レ禪者少皆受_二朱註、由_レ是三州靡然嚮_レ風、縑素雲集生徒滿坐至_レ無_レ所_レ容、文之亦循々教誘、未_レ嘗之拒_レ焉、然於_二海內_一清家倭點當時盛行、朱註倭點專行_二於吾三州_一、如_二藤惺窩_一雖_レ寫而回_レ乞_二姜玩跋_一、以教_二其徒_一天下未_レ徧知_二有_二此點本_一也、是歲十二月京僧恭畏_{法輪院主}者客_二於隅府_一、疑_二文之和訓異_一乎故習、大誹_二毀之_一、二日介_二僧順泉_{清水寺}等、袖_二集註_一來、敲_二正興之門_一數而問_二之文之_一、雖_レ據_二朱說_一以詳答_二之、深泥_二舊染_一猶多_二乖角_一、故文之亦舍而不_レ復焉、於是恭畏以_二清家點_一彌爲_二正義_一、往々趨_二謁貴戚權門_一、匪_四管駁_三其異_二古點_一、十五年遂著_二破收義_一、_{一萬三千誦}一、_{六百餘言}誦_二詆集註和訓之多乖_中字義_一、十一月文之亦著_二破愚論_一、或寄_二書牘_一悉辨_二駁之_一、世所_二稀存_一、古板曰_二恭畏問答_一者此也、

與_二恭畏閣梨_一書

京城城西有_二古招提_一、其名曰_二法輪虛空藏菩薩_一、所_二出_一現_二之靈地_一、而道昌僧都所_二行道_一之淨刹也、頃修_二其香

花_一者、有_二一閣梨_一、其名曰_二恭畏_一、小野仁海之末流也、先_レ是以_レ事流_二蕩於日隅二州之間_一者、三_二霜子_一茲矣、於_レ是密宗之同流隨以傳_二其密印_一者、不_レ爲_二少矣_一、去歲已酉秋之仲訪_二予於正興古寺_一、卽擁_二帚迎接_一、半日閑話、話及_二文學之事_一、予聞_二其言之富_一、偏疑_二其文學亦有_レ成、我心好_レ之到處逢_二人說_一、恭畏閣梨之爲_二人匪_下翅傳_二仁海之密印_一且解_二文字_一者亦無_レ漸_二今世之士_一矣、是歲庚戌秋冬之交恭畏留_二滯於斯地_一、而投_二宿於同流之草菴_一者一兩月矣、於_レ是講_二蘭盆之經_一、無_レ貴無_レ賤無_レ長無_レ少、無_レ不_レ陪_二其講席_一矣、經乃宗密之所_レ疏、元照之所_レ記、記與_二疏半_一、述_二儒教之義_一以_レ釋焉、今恭畏所_二講說_一者、宗密之疏而已、然後講_二日本官職之鈔_一、數引_二論語_一、其中非_レ毀_二集註之異_一和訓、其意在_レ難_二予之教_一、童蒙_二之義_一、有_レ人告_二之於予_一、予爲_二不_レ聞者_一、不_レ詰問_二矣_一、一日恭畏閣梨携_二總持院甚堯清水寺順泉_一、敲_二予弊廬_一、予卽出而接_レ之、於_二此時_一也、恭畏懷_二論語集註_一出_レ之謂_二予曰_一、集註和訓背_二字義_一者惟夥矣、予問_レ之則曰、五十作_二卒_一一字者何哉、和訓直作_二終卒_一後世作_レ文者以_二五十字_一爲_二卒字_一可乎、予卽應_レ之曰、朱子按_二史記_一云、孔子晚而喜_レ易、曰、假_二我數

年若_レ是於_レ易彬々矣、是時孔子年已幾七十矣、五十
字誤無_レ疑也、朱子之所_レ註何背_二其義_一乎、恭畏如_レ龔
而不_レ少解、又曰、雖_二蔬食羹瓜祭、瓜作_レ必者非也、又
曰、沽酒市脯不_レ食、集註以爲_二沽市、皆買也者朱子之
誤也、賈作_レ賣可也、又曰、不_レ問_二父母昆弟之言、問爲_二
間隔之義_一者是也、間爲_二別異之義_一者、非也、又曰、以_二
其子_一妻_二之子訓_二女子_一者非也、子男子之通稱也、可_レ
訓_二子、而不_レ可_レ訓_二女子_一也、使_二此和訓導_一後學者、
恐是陷_二於迷冥之中、其色勃然、予緘_レ口語_二於心_一云、
彼淺議之人、深著_二故習_一聞_二不能_レ解者_一捨置而不_レ答
焉、古之道也、卽下_レ氣柔_レ聲而謂_二恭畏_一云、集註者五
百年來天下書生所_二從而學_一也、名儒碩德無_二間然_一矣、
恭畏亮察焉、旣而日漸將_レ哺、恭畏告_レ歸予送_二之_一、
外_一一揖而相別矣、爾來恭畏每_レ逢_レ人誇_二己之長說_一、予
和訓之短非_レ獨告_二我同流_一告_二之於諸士_一以長傲且遂
非矣、予聞_レ之不_レ得_レ已而把_レ筆辨焉、夫論語之爲_レ書
也、昔者有_二齊論魯論古論之_一三、漢張禹合_二魯與齊之
論_一爲_レ一至_二鄭康成_一以_二魯論_一考_レ之、齊論古論爲_二之
註_一、三論合以爲_レ一至_二於後漢曹魏_一氣象萎蕸之時、南
陽有_二何晏者_一爲_二之集解_一、原_レ夫聖道之行_二於世_一有_二

明、蓋自_二周衰孟子沒_一斯道晦盲、若_二夫濂溪周先生_一
生乎千五百歲之後、繼_二不傳之正統_一、再_二與斯文已墜_一、
誠天之所_レ卑也、斯道之晦盲、至_二於斯時_一煥然復明_二於
世矣、周子傳_二之河南二程_一、二程傳傳至_二於朱子、而斯
文益明、朱子爲_二四書集註_一出後何晏集解靡_二一不_レ泯
矣、按翰林故廣進書表云、自_二王道衰_一異說蜂起燔_二烈
於秦火_一穿_二鑿於漢儒_一、一切趨_二於苟且_一、蠶緣故習鮮_二克
正_一之、夫否必有_レ泰、晦必有_レ明、繇_二夫濂洛關閩之學
興_一而後、堯舜禹湯之道著、悉掃_二秦蕪之蔽_一、大開_二正
學之宗_一云云、此進_二書表_一者天下名文也、恭畏未_レ掃_二
秦蕪之蔽_一、不_レ赴_二正學之宗_一、何下_二皆於此間_一乎、大凡
四書六經之古書經_二歲月_一久、不幸有_二誤_一其字_二者_一、有_二
脫_一其簡者、後之賢者患_二斯文之湮晦也_一、不_レ改_二經字_一、
而唯曰_二其字當作_一某字、而取_二義於某字_一者、不_レ違_二
枚舉_一焉、大學曰在_レ親_レ民、（頭注）季安云、親民下有程子曰、
命當作_レ忘後學之作_レ文、豈以_レ命作_レ忘乎、五十作_レ卒
者、亦取_二義於終卒而已_一、後之學者製_二詩與文_一、何以_二
五十字作_二卒字_一乎、且夫瓜作_レ必沽訓_二買間訓_一異子
訓_二女子_一者、詳在_二集註與_一大全書、欲_二一一說_一其義、
則予似_レ好_レ辨、恭畏雖_レ耗_二於其學_一、請咨_二詢於識者_一

矣、夫文字者載道之器、而牽於義、趨於類、則雖一字含衆理矣、其爲用也、要明其理、不能明其理、雖多亦奚以爲、是故有釋門之徒、具正法眼、老能明其理、則以文字爲古人糟粕也、我達磨大師不立文字、不立文字者、恐人之不理會、斯自己一大事而執滯於文字也、所謂得兔忘蹄、得魚忘筌者也、雖然學者若不深於斯文字者、何以有傳道受業解惑、而達其理之蘊奧乎哉、今恭畏之所學僅爲訓詁之學而已、學者泥於訓詁者、知道者之所、以深耻也、韓吏部曰、小學而大遺、吾未見其明也、其斯之謂與、嗚呼恭畏拘於舊聞、一無新得、則何足以爲人師矣、若夫口學語、則三歲童子也、是道得者不自得、則八十老翁、亦何解其惑而知其至道之妙乎哉、予平日見人之不分秦奉、不辨刀刁者、非特告之童蒙之在吾門者、已亦恐有此誤、使其人聞之、欲其誤之不顯於外矣、想夫有庸流者、使之告恭畏、恭畏不攻之於庸流之不遷善、倭惡者而攻之於予之欲盡忠補過者、何其惑之甚乎、我今說集註和訓之權輿、昔者應永年間南渡歸船載四書集註與詩經集傳、來而達之洛陽、於是惠

山不二岐陽和尚、始講此書爲之和訓、以正本國傳習之誤、當是之時、東山有惟正、東福有景召、二老時之名衲、而同出於不二之門、匪翹精此二書、人以博學多聞稱焉、我桂菴老師從二老而聞義殆熟矣、大明成化年中我桂菴老師南遊大明、在蘇杭之間者七年矣、於斯時也、覽倪士毅四書輯釋曹端之詳說、其餘註釋粹者數部、猶有至理之未得者、咨決於學校諸先生、其理彌熟矣、歸朝之後結草廬於薩州鹿島、緇素之從而學者不知幾多人矣、其中有一月渚達其奧義、我一翁老師在月渚之門、聞義熟矣、至於章句訓詁之末者、予亦久隨一翁師、頗解其義矣、今也恭畏忘己量之所稱、欲指集註和訓瑕疵者、蠡而測海、蚍而撼樹者也、甚矣恭畏之不安分也、且復未理會文字、而欲汲汲於名者、非貪而何、禦人以口給、勃然而變乎色者、非瞋而何、不覺已學之卑陋、而有欲上人之意者、非癡而何、閨梨而不離貪瞋癡者、釋門之一罪人也、爾不聞黔之驢乎、黔州元無驢有好事者、船載以入放之山下、虎見其形之龐然也、以爲將噬己而蔽林門窺之、既而聽其一鳴甚恐之、近出前後則僅蹄之

而已、虎喜計之、以爲技止此耳、因跳踉大囀而斷其
喉、嘻、形之龐也、類有德、聲之宏也、類有能、向不
出其技、虎雖猛、疑畏卒不敢取、恭畏爾其形、其
聲宏而出、此躁妄之言、人皆知之、爾之技止於此、若不
出其言、人皆恐而畏之、自今已往、猶未之思、而出
此躁妄之言者、被虎囀也不難矣、熟觀彼之行履、
爲轉法輪乎、爲摧法輪乎、振錫於東西、求一識
於公卿之門、幸有得識者、自負其才、以爲我學、已
至於己之能、蔽人之賢、匪翅講顯密二教、雖曰
聖經賢傳、強其所不知、以爲知矣、其亦謂國無
人乎、往々與人商論、好己言之勝、欲及怒於人者、水
中之蟹、而不啓蒙於己者、井底之蛙耳、恭畏恭畏、吾
嗟爾之不、知爾以不知爲知、則爾之所說密教、亦
以不知爲知、然則酌仁海之清流、而掘其泥、以
陷後生於濁流之矣、爾今以恭畏爲名、而其行不
恭畏、我今說二字之義、爾傾耳聽之、和從不逆謂
之恭、懼而心服謂之畏、夫名者實之賓也、其言悖而其
心不服、豈復可謂當其實乎、無其實乎、無其
實者、虛名也、恭畏年踰五十、惹虛名於華夷、可羞
之甚也、戒之戒之、出乎爾者、反乎爾者也、爾以

密爲宗、若約其宗、深秘而不出、斯不知之言、誰
敢侮爾、古曰、福禍無門、唯人所召、今我卑詞、使爾
罵且辱者、爾之所召也、書以贈焉、慶長十五年庚戌
十一月日、雲興散人書於正興室內、
州正興古寺、今從古刊本、題曰恭畏
問答、而收其中、蓋門人如竹所刊也、
文之雖陽居、釋氏然其實則自任、朱學、山崎闇齋所
謂南浦自謂信之、亦尊佛云是也、而有功於新註未
行之時者、多如此類也、今厭繁冗、亦足證當時、
故載原文焉、如、石思論、可併讀、知時人專依
清家點也、十六年正月、猶董正興、十日朝松齡公於
柁城、公賜之宴、賀正禮也、凡居正興十五年矣、先
是大中公城于慶府、徙而治焉、謂之御內、迨龍伯
公、即是實徙富隈、使慈眼公居之、至公築、今府城、
姑爲廢宅、於是公壞其宅、就創寺焉、招文之居
茲、愈崇其德、恩眷日隆、而命其寺、因二公所居址
遂摘其字、曰大龍寺、二十年神、黃石公素書、乃王氏
直說而昔人所寫本也、又得朝鮮板、宋張商英所註
本校、正補訂別爲膽寫、施之、倭點閏六月跋焉、元和
三年正月、公詠歲旦、文之賦詩奉和之、

山河帶礪約相親

天下一無遺佚民

不_レ動_二干戈_一邦內靜 老翁幸遇_二太平春_一

游_レ藝依_レ仁和氣新 農工億兆悉稱_レ臣

蓋時蓋世年雖_レ富 持獻_二吾君_一不老春

是年三月公如_二江戶_一文之送_レ駕反_レ自_二京泊_一四年正月

公臨_二于寺_一文之爲_レ詩恭謝曰、

白髮江顏傳_二酒盃_一 上交不_レ語絕_二纖埃_一

若非_二三顧及_二諸葛_一 二月晚梅誰問來

二月朔公復臨觀_二梅花_一二日晚歸鞍、文之賦_二詩十餘

首_一備_二英覽_一焉、蓋公之招_レ師在_レ使_二士大夫皆就_二受程

朱之學_一有_二以所_二欽式_一焉耳、人物志住_二于薩建長寺_一云誤也文之施_レ教

各隨_二其機_一有_二問_二禪意_一者_一則曰、吾宗無_二語句_一無_二一

法授_レ人、然不_レ以_二言語文字_一、豈能示_レ人也哉、又有_二下

問_二儒典_一者_一則曰、若論_二本分_一、雖_二佛祖_一語尙不_レ足

學、況外典乎、於是儒生退而謂_二文之碩儒雲袞_一去、

謂_二知識高堅法幢大揮祖道_一、匪_二但三州隣近緇素_一仰

服其德、若_二夫中山王及其大臣_一亦慕_二其德風_一、至_二下致_一

之書_一贈_二紫伽梨_一、凡藩公承_二霸府_一旨、每_二通_二簡牘_一於西

土外國_一輒必使_二文之起草往復_一、諸有_レ功_二於世_一可_レ謂_二

偉且勤_一矣、元和六年庚申九月中旬、示_二微疾_一晦日聚_二

門人_一屬_二之後事_一、跣座而歿、得壽六十七、或六十五臘四十五

葬_二于加治木安國寺_一、法號前建長文之玄昌大和尚禪

師、所_レ著有_二南浦文集六卷_一聖續圖和鈔、日州平治記、

砭愚論決勝記等、或梓或寫、尙行_二于世_一、門人受_レ業者

不_レ遑_二舉數_一、如竹學之、平田純正、河野通宣之屬、最

聞_二于世_一、學之名玄碩嗣董_二大龍_一、學之歿、門人一溪名

守榮代嗣、一溪歿、門人日東嗣、日東歿、不門名慈宣

代嗣、日東以上世繼祖業講_二程朱_一、學府下聽徒連綿不

絕、宣遊_二備前_一嗣法無聊、松琴寺主文之法脈至_二宣異_一流、

如_二其學術_一亦遊_二蕃山_一唱_二王氏_一學_二於備藩_一之時、則

島津久竹憾_二非_二文子學_一亦應_二由焉也_一、自_二文之歿_一載

歷七十、志士協然尙欽_二其德_一、元祿二年後醍院宗_二半左

竹田益祐_二吉富_一口口_二傳右_一江川口口_二衛門_一篠原政口_二衛門_一

里口口_二孫_一伊地知重英_二衛門_一野村盛豐_二衛門_一等會_二慈宣_一於

大龍_二議造_一文之肖像、乃六月命_二佛工鳥井口口_一稱次郎

城臣後曰彫_二刻之_一、既而告成、二十日安_二置于寺_一、明年六

月慈宣撰_二之行狀_一、亦藏_二于寺_一、如竹學之等各自有_レ傳、

漢學紀源卷三終

漢學紀源卷四目次

正龍第三十七

南門第三十八

以下未稿

學之第三十九

如竹第四十

竹門第四十一

喜春第四十二

治易第四十三

俊矩第四十四

漢學紀源卷四

正龍第三十七

薩州山川日本極南、而地接西土、匪管琉球及諸島貢舟輻輳、外國海舶亦所來繫也、於是乎明德元年吾怨翁公新一廢刹、留僧虎森將涉明國、而爲開山焉、所謂正龍寺此也、後擇儒僧世掌簡牘、傳三世、至僧郁芳名春本山川人、夙入浮屠、受戒正龍、緇服雲游遍參名衲於諸州、久寓京師、研精禪機競辨之徒與之商量、動摧詞鋒、明應中皈薩府、稟學桂菴、綜究內外、永正元年補正龍寺、與桂菴及巢松等唱和娛門徒日衆、有月溪名崇鏡者、特聞于世、大永三年相國鸞岡名曰瑞佐之使於明也、訪郁芳於正龍、一見崇鏡襟懷清明、乃字曰月溪、爲偈與之巢松、和其韻曰、

三星圍繞廣寒樓 影印空江玉兔秋

八萬四千翻水偈 夜來依舊聽餘流

而後月溪代郁芳董正龍席、住職于天文永祿間、與

巢松代賢等一唱和、月溪歿、弟子問代董正龍、住持於天正慶長間、自_ニ郁芳_一下世相繼承_ニ桂菴學_一、以_ニ新註和訓家法和點等之書_一莫_レ不_ニ聚_一徒教授、以備_ニ簡牘通事_一焉、於是天正二十年豐太閣使_下細川幽齋來巡_ニ三洲_一省_中寺社田、時如_ニ正龍寺_一問得具_下陳自_ニ昔儒寺備_一海舶來_ニ之狀_一、乃十二月幽齋特聽賜_ニ寺田五町四段_一、如_レ故、十九日裁_レ書諭示、問得大喜、爲構_ニ茶室_一、恭招_ニ幽齋_一獻_レ茗謝_レ恩、由_レ是問得禪餘愈授_ニ子弟_一、以_ニ四書新註等_一、初新註之入_ニ本邦_一也、未_レ注_ニ和訓_一、東福岐陽首注_ニ和點_一、以授_ニ徒弟_一、而迨_ニ桂菴回_一自_ニ明國_一、以_レ所_ニ會得_一規_ニ其乖誤_一、頗加_ニ精訂_一、以至_ニ文之_一、文之亦間改正以弘_ニ藩中_一、問得等所_レ授亦其本也、是歲洛陽藤惺(名薺又名肅字歛夫、播州細川人、冷泉爲純第三子、以_ニ永祿四年_一生、歲七八歲投_ニ東明長老_一、削髮爲_レ僧名_ニ薺首座_一、後游_ニ洛陽_一領_ニ妙壽院_一云)謁_ニ神祖於名護屋_一、遊_ニ觀西海_一、(是年七月幽齋來_レ薩、按_ニ惺窩集載_一代_レ人和幽齋巧_ニ夕詩_一、此云西海疑既同_ニ遊薩_一乎)文祿二年夏往謁_ニ台德庵於江戸_一、秋飯_ニ于洛_一、悼_ニ四書新註未_レ有_一和訓_一、欲_ニ遊_一學於明_一、注_ニ之倭訓_一、本集作_レ讀_ニ性理書_一、悼_ニ世無_一善師_一、今從_ニ如竹說_一忽到_ニ筑陽_一、浮_レ舟入_ニ洋

路遭_ニ暴風_一漂_ニ到鬼界島_一、(即今硫黃島此)所_レ作詩歌多載_ニ文集_一、今收_ニ採左_一、

もろこしへわたり侍らんとて、つくしまでくだりし時、しれる人のもとへよみてつかはしける、なれてうし人の心を月にはなに

おもひいくへの山のおもかけ

その時船を鬼界がしまにつなぎて

やまと歌のあはれかけり月に見えぬ

鬼の島ねの月の夕浪

おなじき時

薩摩かた八重のしほ風告やらん

あはれうき身は親たにもなし

けふりたつ澳の小島やいにしへの

おもひのいろをなほ残しつゝ

見よいかに雲路の鳥はとひ消えて

かへるゆふへの山もありけり

欲_ニ渡_一大明國_一遇_ニ疾風_一而到_ニ鬼界島_一、

三人此地謫_ニ生涯_一、二士賜_レ環_ニ一士嗟

若_レ是浮遊天外去 波間鬼界即神植、

(今按平語治承元年六月相國清盛流_ニ成經康賴俊寛

於鬼界島、詩云、三人此地謫是也、明年十一月大赦、成經・康賴得_レ赦歸、而俊寛不_レ與焉、亦二士賜_レ環、一士嗟云、此也、又東鑑云、正嘉二年九月、幕府宗尊流_二平内左衛門尉俊職於硫黃島、昔治承中祖父康賴流_二於此島、又成經等所_レ祠熊野、亦在_二硫黃島、明應六年桂菴所_レ著新祠記據_二此、所謂鬼界爲_二硫黃島、明矣、今禁_二薩州河邊郡_二、旣而同棹_二冬泊山川、亦作_二詩歌、

山河

(季安いへらく、こはさつま國山川にもさだかならねど、海路の題のまへにのせ、如竹の翁の惺窩山川に來れるよしいへるにもあひぬれば、かゝる時のうたならしと、こゝに拾ひてからうたに備おきぬ)

世をもすて世にすてらるゝ身なればや

さしてはうとき山川の水

海路

いつしかに行とも見えぬ奥つふね

あとなき波の末のしら雲

薩摩かた雲にはえけん犬もはや

梅さく庭の冬の明ほの

其在_二山川_一也、訪_二問得_二於正龍寺_一、聞_二其授_二新註倭訓於弟子等_一、大異_二乎心_一、假而玩讀無_下所_二倭點_一不_レ稱_二其義_一、乃問_二童子_一、皆對曰、吾藩文之和尙所_二點本也_一、於是惺窩特歎伏曰、今將_レ渡_レ明、亦惟無_レ他_レ求_レ之也已、乃請_二問得_二盡寫_二其倭訓本及家法和點_一、(桂菴所著)等留滯久矣、三年春猶在_レ寺而爲_二詩曰_一、

僧龍蟠處鎖_二巖局_一

吟向_二東風_一地亦靈

雲外欲_レ昏鐘色濕

小樓春雨碧冥溟

杏壇春暮事_二吟遊_一

今日關西有_二孔丘_一

傾蓋論交非_二邂逅_一

三生石上舊風流

三月間_二母訃音_一、悔_二遠遊久不_レ侍_一、嘗_レ藥爲_レ詩曰、

歸養計遲情已空

參商千里隔_二西東_一

吾生不幸處_二丘子_一

慟哭無_レ端樹々風

而居未_レ幾寫本竣功、去適_二筑前_一、始唱_二宋註_一、(季安聞

諸又木加右嘗客筑前、觀州之儒醫青木甫意所_レ著書

云、惺窩之弘_二宋學於世_一、抑_二自_二筑前_一、因具原篤信等亦

私_二淑之云_一、推_二時與_レ事應_二必在_二此歸途時_一、故注備考)

旣而同_レ洛、前_レ此播州在_二赤松廣通_一、(左衛門尉)、寵_二

信惺窩_一、聞_二其講說_一、至_レ是愈感、于_レ時慶長二年朝鮮姜

沅來寓_二赤松氏_一、一見_二惺窩_一、大奇_二其識量宏博_一、於是

惺窩與廣通謀新寫四書五經、倣和點例、加訓字傍、請姜沆跋以證其事、則其與姜沆書曰、赤松公今予言於足下、日本言儒者唯傳漢儒之學、而未知宋儒之理、四百年來不能改之、予自幼無師、而獨讀書自謂漢唐儒者、不過記誦詞章耳、決無聖學之見識矣、唯韓子有卓亦非無失也、若無宋儒豈後世誰紹其絕緒哉、然日本闔國今既如此、而一人不得回狂瀾於既倒、故赤松公今新書四書五經之經文、使予以宋儒之意、加倭訓于字傍、以便後學、日本唱宋學之義者、以此冊爲原本、足下叙其事、證其實、跋諸冊後、是公之素志、而予至幸也、足下計之、(見惺窩集及行狀)姜沆未曾知、其得諸山川、乃爲之跋、以弘于世、讀者咸稱惺窩功無比焉、由是聲聞大振、都下三年遂逃、釋氏立儒一家、廣通乃遣男女侍奉其側、四年石田三成召惺窩、惺窩欲往而不果、五年三成敗死、廣通亦自殺、是歲林羅山年十八、前此清原博士等、所謂四書唯學庸依朱子章句、(按文明十三年、吾桂菴師及伊地知貞重、謀梓行章句於薩州鹿島、而迄慶長五年、凡百二十年、又延德四年、師再板行於府下、桂樹院後距慶長五年、百

九十年矣、則博士等所講朱子章句亦應此兩次版本也、而如論孟猶信古註、惺窩尊信集註、既雖如是猶避忌諱、未敢聚徒、然羅山乃是年始讀四書新註、八年遂聚徒、講論語集註、外史清原秀賢聞而媚疾、乃奏朝曰、自古無勅不得講書、廷臣猶然況於俗士乎、請必行罪、事聞神祖、神祖曰、講者爲奇訴之隘矣、九年羅山愈慕其德、就學、惺窩下帷授徒、洛陽諸生聚稟者日益衆、時會掖救、如竹學法華於本能寺、乃其徒勸偕如竹就學、新注、如竹對曰、如新註學行於吾藩者百有餘年矣、今與其挹流於此、孰若徑回國近尋其源、乃辭洛陽歸乎薩藩、入文之門、受程朱學、研精覃思凡八年矣、按惺窩少文之五年、如竹少文之十五年、羅山少文之二十七年、皆並其時、而如竹每往還掖救必泊山川、既詳聞惺窩、嘗寫新註倭點等於正龍寺、而歸洛之狀、惺窩來泊山川、蓋自文祿二年冬迄三年春、齡三十三四之時、而時文之年四十許、如竹則三十三四歲也、故洛諸生雖尊惺窩不肯從學、飯受文之以傳、門人愛甲喜春、喜春名季定、日州澁志人、以慶長十年生、受學如竹、貞享三年壽八十二、而探所嘗

聞如竹說話一以著右傳一皆實錄也、季安稽諸惺窩

羅山文集、粗叙年序一以載于此、抑程朱學自文明
中、桂菴學明而飯、首唱諸吾藩、以國字一解一朱註、
例述倭點本多行於藩、則元龜寫本之類詳見前篇、而
未必如惺窩與姜沆書明矣、然海內儒者既信其說、
往々尊崇惺窩一爲儒宗一者、二百餘年于今也、故
近世諸儒如塚田虎等、以博識聞、亦猶皆謂程朱學
渡於神祖時、惺窩道春學得其教云之類、不遑悉
辯焉已、(愛甲喜春以惺窩先生爲甲州信玄儒臣、
今按本集播州赤松廣通之誤、無可疑也、又天和三年
長尾某所梓行、羅山訓點四書卷尾、亦近代南浦創加
訓點、羅浮復潤色之云、復六七年至元祿三年、大龍
寺五世不門著南浦行狀亦言是事、而四書倭訓師所
管注、加羅山點一皆路師塵云、則喜春說與之合矣、
又近代得能通昭所著西藩野史云、惺窩將往與明、
發舟筑前、洋中遭風漂到鬼界、還入坊津、時會桂
菴反自明講、朱註於一乘院、乃大驪而是我所求道
也、乃從受學、悉寫四書五經大全程朱書、以歸洛
陽、首講說云、此等蓋通昭取口碑不探載籍、故誤
傳聞、其云桂菴一則未徒問得之誤、一乘院亦正龍寺之

誤也)

光空謙柔齋安意、豐前小倉人、父曰淳道亦六、永祿二
庚申十月九日生、三歲喪父、四歲遇繼父、九歲師僧
惠海於潮若院學、十一歲母羅狂亂、因起請願巡
東南西北海諸寺諸社、二十七歲、二月廿日渡于筑紫
到鹿府、三月赴飯野、三日以大內遺老始見忠平
公、舍於迫田壹岐宅、二十日舍於松岡院、六月二十
日從公如肥後、十月十三日從駕回、二十八歲、三月
十四日關白西征、四月十七日與京師戰于根白、六
月二十四日謁白鳥山告禱百十日、八月十五日公亦
夜謁有詩歌興、十六年四月二十六日禱公如京、讀
大般若六百卷、凡六十一日、三十歲、四月十八日復讀
大般若、六月十八日竣功、公乃賜書勞之、慶長三戊
戌正月朔祠諸神於吉田佐多浦私邑、侍讀家久公、十
九甲寅四月十三日死于江戶櫻田口、名心巖常意居
士、(后改安□□□)

御書物入日記

惣目錄

左傳 三十卷 大平通載

四十三卷 二卷不足

選詩

六卷

二程全書

十五卷

劉向新序
說苑共

六卷

文選

二十五卷

唐詩正音

八卷
二卷不足

史略

七卷

楚辭

四卷

東坡

十四卷

近思錄

同

石川集

四卷

通鑑

十三卷

企齋集

十卷

宋鑑

卅六卷

資治通鑑綱目

卅二卷

御製文集

四卷

唐鑑

六卷

妻糕續集共後集

五卷

煎燈新話

二卷

中庸

一卷

漂海錄二部共

六卷

陸宣公集

五卷

詩人玉屑

同

詩傳

九卷

詩火文

二卷

南華真經

十卷

昌黎文集

十八卷

禮記淺見錄

廿一卷

杜詩

十四卷

左傳

廿七卷

大明一統志

廿四卷

聯珠詩格

七卷

朱子節要

七卷

書經六文書集

十一卷

性理大全

廿五卷

春秋

五卷

三蘇文集東坡老泉齡演

十五卷

白氏文集

十六卷

李白集

十四卷

前漢書

二十卷

春秋大全

十五卷

古文真寶

六卷

朱子節要

八卷

五禮儀

八卷

小學

四卷

柳文

十四卷

詩太文

二卷

右書物藤原少將朝臣忠恒朝鮮國平伏之辰求此本、

送日本國一安置此地云々、

唐記新到本十二卷

翰墨全書

十七卷

琉球新到五經共

廿九卷

慶長六箱辛丑同月仲冬六日

琉球より到來本

四書共

十一卷

唐詩新到本

三拾卷安意記之

碧岩錄

六卷

漢記

八卷

山谷

十卷

新到五經

廿四卷

右此紀源四卷者誠之草稿に而糺方之使計に如此書綴置引書相成書籍折角借入方手を廻し置折柄去る子秋伊集院子出立に付桂菴碑文之綴方佐藤先生へ相願砌桂菴傳聞置寫遺筭之處親類に病人有之晝夜不得寸暇無是非も此儘差遣萬一も撰文被受合候は市宗など被仰談見合相成候は書拔候間御遣可給旨に而登せ候處四冊共一齋へ被遣候也然者存外褒詞に而得益事不少候に付寫置致度迎被爲置候得共被召

出後多端に而其義難被及手候に付致成就候上一部は
寫遣吳る、やう被相返候也

如竹翁傳

鳩巢直清著

翁薩摩州人也、不知何姓、又不詳其名、自號爲「如竹散人」、人亦以此稱之、或曰薩摩州南海上有「小嶋」、曰「役島」、翁島中舵工子也、翁自幼削髮爲僧、既長至「京居」、本能寺、學「法華」之教、然心不樂、嘗自「京師」視「其親族」、時同州人釋「玄昌」文之以「文學」、有「名」、先是「朱氏四書始傳」於「東海」、猶未盛於世、「玄昌」首以「四書集註」授「其徒」於薩之城下、「翁」方赴「京過」城下、「一聞」玄昌講「朱氏」之說、大說曰、「吾固謂「世有」之也、果然、於是盡廢「其學」、而從「玄昌」學焉、遂爲「儒」、爲「人質直少文、不妄笑語、其學不務博、尤精「四書」、不「好」詩賦、慶長中翁爲「家貧」往至「東都」求「仕」、故泉州刺史藤堂侯聞「翁有學」、行遣「使聘」之、「翁始至見侯於邸、乃曰、「鄙人不「知」忘諱、今當備「顧問」職、在「盡言」、願君侯容之、不然請由是辭焉、藤堂侯曰、「君能如「是所以吾敬」君、若「夫候諛之徒、吾豈乏」人哉、翁由之常在「侯左右」、多所「裨益」、居無何、藤堂侯卒、嗣君不「好」學、翁遂行反「于薩摩」、盡出「其餘祿」以賑「

親族鄉黨之貧者、又浮「海適」琉球、師「事之」、琉球小吏不知「禮義」、及「翁至」而教以「人倫」、然後其俗稍々嚮「正」、始知「自別」於禽獸、翁居「琉球」久之不樂、遠就「異國」、乃去歸「薩」、又盡以「餘祿」與「其親族鄉人」、如下自「藤堂氏」反、前後賴以「全活者爲多」、其後來寓「居大阪」、教授不「數歲」而還、以「慶安明曆之間」卒「于薩本邑」云、翁在「大阪」大人與之相識、爲「余說」翁之事、頗詳、翁雖「逃」佛歸「儒」、然竟從「俗不長髮」(當時自稱「儒者皆祝髮」)又不「畜」妻子、其來「大阪」年近「八十」、猶能「強力」、講「書」不以「祁寒大暑」廢、嘗聞翁自道「其事」藤堂侯「也」、嘗講已、因言曰、「人所「以異」於禽獸者、以「行」此道「也」、苟不「行」此道「其何以爲人、譬於禽獸君侯是虎狼也、人實畏之、臣等是狐犬也、人實侮之、畏侮雖異其爲獸一也、公笑曰、「君之言得無「太過」乎、當時聞者莫不「慙愕」、翁直言多此類也、君子之事君直言極諫亦要「合」於禮、若「翁此言」其有「激也歟、然於「所謂禮」者亦或過矣、蓋自「中世」以來、天下靡然以「勢力」相勝、不「言」是非、不「論」曲直、惟「勢力」是視、故上之人專以「威刑」制「其下」、而人臣奉「命、其職之不給其積成約之漸、雖「使龍逢比干復生、言不

可_レ出_三諸其口_一矣、何者勢不可也、夫桀之於_二二子_一、距_三其言_一、誅_三其人_一、然天下之人皆以_レ言爲_レ忠以_レ不言爲_レ諂、自忠義剛直之士不_レ顧_三距與_一誅焉、則勢無_レ不_レ可_レ言者、豈與_三今之時_一比耶、若_三藤堂侯_一以_三好_レ武之君_一、蓋世之雄能容_三強直之臣_一、受_三盡言_一如_レ此、嗚呼亦奇、侯可_レ謂_三善用_三其勇者_一耳、翁在_三琉球國_一有_三梁澤民者_一、蓋中國人流_三寓其土_一者也、又知_レ翁而敬_レ之、名_三翁所_一居曰_三顧天庵_一云、

十二年庚申正月二十日寫之

伊 安

我高虎尊君、詠_三一首和歌_一、見_レ示_三親友_一、親友亦有_三和歌_一、道春先生取_三歌末之一字_一、爲_レ韻賦_三唐律_一、以稱_三贊之_一、予也一日候_三華第_一、侍_三尊君之末席_一、而傍_三觀之_一、詩素雖_レ非_三我之所_一解、豈徒可_レ默乎、叨借_三險韻_一以供_三芳友一笑_一云爾、伏乞笑擲惟幸、

如竹九拜

歌曲情深更吐_レ奇

胸襟洒落見_三情詞_一

無名野草沾_レ恩露

赫々風聲誰不_レ知

僧如竹名日章號_三養善院_一、又稱_三顧天庵_一、自號_三如竹散人_一、隅州掖玖島安房村人、姓泊氏、父爲_三舵工_一、以_三元龜元年庚午_一生、少_三文之_一十五年、自_レ少入_三本佛寺_一爲

僧、既長至_レ京寓_三本能寺_一、學_三法華之教_一、然心未_レ樂、當_三此時_一、藤惺窩飯_レ自_三西海_一、講_三四書新註_一於洛陽、洛陽縉素多_三受_レ業者_一、如竹同寮僧勸共學_レ之、如竹以爲此學本出_三於薩藩_一、挹流_三乎遠_一、則不_レ如_三飯_一國近尋_三其源_一、乃辭_三洛陽_一還、就_三文之_一受_三程朱學_一、居_レ之八年、(惺窩以下據_三喜春說_一)、理學大進、爲_レ人質直少_レ文、不_レ妄笑語、學不_レ亦博、不_レ好_三詩賦_一、務_レ精_三四書_一、慶長中又游_三諸州_一、浴_三溫泉於攝州有馬_一、會_三藤堂侯_一亦同浴焉、如竹與_レ之傾蓋、及_レ言_三朱學_一、勢相大感、其有_三學行_一、徑歸_三勢藩_一、欲_レ必薦_三之_一、其主高虎以_レ輔_中治教、然而以爲_三與_三輕陳_一實却失_三其事_一、不_レ如_三且默待_一、問便能薦_レ之、以_レ故隱_三實泛語_一、人曰、此行何幸得_レ觀_三天下之至寶_一、人問_三其狀_一、則曰、苟得_レ此則國家善治、何可_レ輕以語_三汝等_一哉、不_レ敢語_レ之、事聞_三高虎_一、高虎乃召親亦問_レ之、又不_レ敢告、強_レ之再三、乃具告_三實_一、因薦_三厚聘_一之、高虎乃悅遂遣_三其相_一復如_三有馬_一、以聘_三如竹_一、(溫泉以下季安聞_三諸本田親孚_一)於_三是如竹始至_一、勢藩見_三高虎_一而告_レ之曰、鄙人不_レ知_三忌諱_一、當備_三顧問職_一、在_三盡言_一、願君侯容_レ之、不然請由_三是辭焉_一、高虎曰、君能如是、是所以吾敬_レ君、若_レ夫佞諛之徒、吾豈乏_レ人哉、遂爲創

寺使如竹居之、(創寺事據浦波)由是如竹常侍左右、多所裨益、寬永元年上邸江戶梓行家法和點、此明應十年桂菴所著述書也、二年九月初文之倭訓四書、新註而未盛行於世、至是如竹跋其卷尾、命野道伴、侵諸梓、今世所謂文之點此也、

四書集註和訓、近世其說惟多矣、予之授童蒙者也、傳之於師也、中野道伴翁請侵諸梓、予也所傳差訛而懼有違師說、以故辭而不許、翁請之不巳、於是不得不固辭、使人謄寫之、應于其請也、世之觀者是處是之非處非之幸也、

寬永乙巳季秋吉旦散人如竹書于武州江城

寬永拾九年壬午年、本能寺前藤田庄衛門開板

四年十一月又跋周易程傳本義、亦梓行于世、此即文之在伏見一時所倭訓也、(慶長四年二月)凡和點周易新註以此冊爲原本云、周易程傳本義未有和點、讀者往々苦之、以故吾文之翁旁加和點以示門弟子也、今也雖恐我家醜之顯外、而欲幼學者之易曉、故壽之本以廣其傳云、

寬永第四丁卯仲冬吉旦

散人如竹書

六年九月初文之在世、使如竹謄寫其所著詩文集、

於是又命道伴梓行諸世、(或云如竹過山川得之此說非也、可觀跋知、但惶窩過山河得四書點本、恐誤事也耳)

南浦戲言前建長文之之老師(薩州人)之所作也、諱玄昌南禪大明祖九世之遠孫、而桂菴翁四世之的孫也、老師生于日州南鄉外浦、故自名南浦、又東福龍吟菴之門葉也、故其軒號雲興、蓋取于龍吟雲興之義也、或曰懶雲、或曰狂雲、皆其義也、老師在世之日、以下所自著之詩文、使予謄寫焉、然詩與文混雜而不分其部類、不定其卷帙、辭世之後予始表章之、又編次之、別爲三卷、(文集一卷、詩集一卷、戲言一卷)今壽之於梓、以遺愛於後昆云、

寬永己巳季秋下泮末裔

七年十月藤堂侯高虎卒、嗣君高次不好學、如竹遂行(按浦波云、或隱岐侯、或藤堂侯、未的知何侯、有世子凶暴而數殺人者、其父憂之語、寬庵曰、寡人聞薩其舊邦不世之賢、願以傳之、寬庵乃遣如竹行、世子聞其將來、豫語人曰、吾何受教、却簍之而已、未幾如竹進見世子、世子曰、叟不遠千里而來、亦將何以教吾乎、吾常好勇惟武是勵、如竹對曰、子之

好_レ勇不_ニ間斷_一矣、則國中其莫_ニ善焉_一、願君大_レ之、世子大悅、乃從_ニ如竹_一講義、如竹每_レ講稱_レ勇誘導、居_レ之三年、遂至_下善格_上、其非_ニ使_レ爲_ニ善_一、君云今附_レ于_レ此以備_ニ異聞_一、但寬席後_レ此九年立_レ嗣恐傳聞誤_レ反_ニ于_レ掖救_一盡出_ニ其餘祿_一、以賑_ニ親族鄉黨之貧者_一、又寬永九年_{（一六八二）}年六十矣、聞_ニ明人秀才來_ニ于_レ中山_一、浮_レ海適_ニ琉球國_一、乃師_ニ秀才_一講_ニ究四書詩書、理學精熟_一、國王師_ニ事之_一、先是夷俗未_レ知_ニ禮義_一、及_ニ如竹至_一、教以_ニ人倫_一、時西土人梁澤民流_ニ寓中山_一、甚敬_ニ如竹_一、名_ニ其居_一曰_ニ顧天庵_一云、然後其俗稍々嚮_レ正、始知_ニ自別_ニ於禽獸_一、如竹居_ニ琉球_一、贈_ニ鄉里親族書_一、誠云、

態一筆に申候各之身持夜白氣遣に存候に付申入候
一御公義方御奉公何事に不寄專一候

一親にこうこふの儀にいしやうを進上申うまきもの
孝行 衣裳 美

をもとめ進上申をこうこふとおもふなよ親のはら
を立ざる様に仕事專一候

一人はわるかれかし我壹人よかれかしとおもふ心あ
惡 善
れば其ばちにて我が身もあしくなるものに見候

一人はよかれかしとおもふ心あれば其ごとくにて
我身もよくなるものにて候間其心得專一候

一大酒をのみひるねを不_レ仕候事專一候

一壹年のはかり事は春にあり春にもの種子をまき
不_レ申候得者年中の被_レ下候ものなく候條たねをま
き付候事專一候

一壹日のはかり事といふはよひからあんじ候間何の
豫 案
しよくを仕候とおもひ候間辰の時より出立仕候事

專一候

右之條々能々心がけ專一候

六月十三日

本琉球より如 竹 印

屋久嶋安房にて

泊與右衛門殿

泊彌兵衛殿

同太右衛門殿

同善兵衛殿

同勘兵衛殿

同高茂兵衛殿

同八左衛門殿

居_レ之三年、如竹不_レ樂_ニ遠就_ニ異國_一、乃去歸_ニ本島_一、又盡
捐_ニ餘祿_一與_ニ其親族郷人_一、如_下自_上勢藩_一反_ニ前後頼以全
活者爲多、其後又往寓_ニ大坂_一、從游者衆、教授未_レ幾而
還、新_ニ本佛寺_一居_レ之、十七年正月愛甲廣隆自_ニ志布志_一
適_ニ掖救島_一、師_ニ事如竹_一、受_ニ程朱學_一、凡六年、六月初伊
勢貞昌贈_ニ島津久慶書_一曰、願足下勸_ニ寬席覃_ニ精乎學_一、

爲人君者修身治國不依聖學不能長久若赫奕鳴世信長秀吉亦猶不保二世可不慎乎如日新君伯固公聞而知之至貫明公松齡公觀而知之皆尊聖學每事尊理以治邦家國人懷之誠是爲先務願足下以時告之於是國老相議贈如竹書使召侍講一說公在江戶會水戶義公吾欲學儒今世師誰義公曰莫如如竹故有此事乃此月如竹隨門人廣隆等至慶府創一寺於上廡地號本佛寺以授如竹錫之祿二百石清水盛香說未知其據使人侍經筵且敎授群士焉十八年四月寬廬反自江戶如竹常出入帷幄講說四書等多所匡弼十九年正月寬廬如江戶六月請還養病五日久之有榮傳命許之二十年六月公至自江戶前此如竹赴召二十一年四月寬廬如江戶如竹得告之救救以疾故也時廣隆亦從正保二年正月公在江戶復上慶府自是如竹在府下侍講於公且敎授士太夫久矣三月喜春辭曰四月十五日自寫朱晦翁所著不自棄文教其徒弟讀以有戒焉又一日侍寬廬講孟子至齊宣王曰寡人之國方四十里民以爲大何也乃慨然而告公曰

方今君侯爲圉於吉野谷山等數所匪啻四十里豈民不爲大焉乎寬廬怫然改容每講極諫多如此類（得能通昭說）則河口靜齋所謂活所如竹抗直不撓不愧乎古人云亦此也既而如竹功成名遂乞骸骨還時時國相島津久通奉旨召如竹而傳之曰賜叟年俸以養餘齡如竹拜命乃辭之曰嘗所久饒裕既足以保老軀願無受俸久通莞爾而哂曰叟之所言如聖人然如竹正襟而對曰自少欲一見稱聖而工夫經傳者久矣然未嘗寸毫有庶幾焉今執事苟賜褒言之至如此則於彼可謂幸也久通有赧色云（據盛香說浦波亦載此事爲飯口然則似去勢藩時之語未可知孰是）時法華徒多願永置此寺代以居之者如竹不可乃請壞沽曰城闔置寺恐不亦便宜且二百石則兩士祿也不如以食良士二人有命許之（浦波作去勢藩時之事而勿以愚爲開山於此願壞與貧士是所下爲君侯願云）故悉得其口云又其居敎授也爲士大夫所敬重或饋之金如竹皆無所拒悉持還鄉人或黠之初救救之爲地也民居近海堀井皆鹹衆苦之久矣迨如竹還悉捐其所蓄金傭工役衆碎

巖盤地、引泉於明星山、以通民間、凡數町、島人至今皆受其賜、謂之用水川、又遭饑歲、散粟救衆、門人微餘不盡與之、如竹問其故、門人對曰、復欲進師、如竹曰、視人餓死、安我獨生、遂盡救、時會寬厖開倉廩、多給島民、得以不死云、又掖救山宜杉樹、古來僞言伐之爲祟、人無敢伐者、以故鬱然焉、如竹以爲斧斤以時入山林王道之一也、乃登山上禱伐數日、下而諭之曰、無憂矣、必入斧斤、神告叟云、前宵使斧倚樹下、明日不倒則神所赦也、其皆從之、於是始得入斧斤、遂爲故事、至今材木不可勝用者、實如竹之切云、又教諸侯產業及洒掃等、至今居民遵守其教、如律令焉、如竹晚年得近思錄曰、假我數年、卒以學之將、亦到至處、惜哉吾既老矣、明曆元年乙未（或作二年丙申）五月二十五日（十五日トモ）卒于安房本佛寺、年八十五、（或云八十六云）葬村鎮云、下小叢口口法號養善院日章大德、

散人如竹

爲客多年交三世塵、
歸來生喜故鄉春、
只今天下泰平日、
茅屋解衣安此身、

起承一本作下

多年爲客交三世塵、歸來樂生故鄉春、

人暴其德、需之書筆、必書格言、或其爲詩亦所鑑戒也、今問所存採轉于左、

讀勸學文有感相其情齋家藏

如竹九拜

小壯不學腹空虛

後悔老來無讀書

鞭背生蛆馬前年

何如是得府中君

義利

利出私情害萬端

義循天理樂而安

是非得失命霄壤

相去其初一髮間

仲春之吉

如竹書

寶曆三年和田平右衛門秋存之任掖救有下登

久遠山思如竹詩上

臨海鄰山樹自榮

老僧住此一心清

釋門何意不言佛

千歲惟稱儒學名

和如竹翁試筆詩

以下九詩一文欄外頭書之揭ケ

卷舒詩語帶霞新

不覺景光垂暮春

任官嗟吾汚塵垢

恰君物外潔其身

同

有客來尋自遠程

新來同賞慰吾情

風樓修造屬君手

羨見文章不日成

慶長十四年己酉正月廿一日也

一雨沛然喜叢林受潤招擁法華妙文綴野

詩二章以呈如竹翁

文之

鸞鸞敷空撥不披

春來十日密雲彌

叢林卉木皆鮮澤

一雨何因能化之

數日陰雲今已開

令衆悅豫暖風催

雨之所潤無入測

暢茂一切枯槁來

和如竹翁之芳韻以求菟裘之地云

文之

夕陽江上曬漁蓑

蘆葦灣邊點不波

早晚隨鷗我歸去

扁舟日夕飲無何

送如竹翁歸粉寺

文之

把卷多年吹杖藜

一朝何計告離騷

不唯僮僕歡仰去

足識庭松立指西

知如竹翁詩

文之

講罷殘經詩格濃

文章自有第一家風

使人景慕是何事

盡是十年辛苦功

慶長十七年壬子也

和如竹試筆詩

文之

破衲製麻巾製紗

寒風於我更難遮

法華會上無塵事

一炷兜樓遠辟邪

暑往寒來寒風侵膚柴火煖身呈一書欲問安否

則便難逢企跼一步欲扣高門則老脚不堪見白

雲孤飛徒渴望咨嗟夕何夕與君一相對語而笑笑而

語思之外無他事餘而既不宜頓首

小春初九

養善院

拜上

如竹〔花押〕

白濱重昌老人閣下

外一通知覽第ノ本可載也其内ニ詩モアリ

元和丙辰

和如竹翁試筆詩

自他迎歲未傳觴先喜誦詩滋味長

爲會純圓甚奇妙不頃刮垢又磨光

藤堂侯相當作勢侯藤堂氏相某不然則下文勢相

勢藩等之字無出處安頓

愛甲喜春者日州志布志人、名季定一名廣隆、俗稱諸兵衛、又稱平左衛門、別號玄德後改喜春、以慶長十年乙巳生、少如竹、三十五歲、爲人質直澹然寡言、寬永二年乙丑年二十一矣、慨然志于孔氏之道、師都城常德寺（今龍泉寺）主（十三世）僧泰岳、讀書四年（按南浦文集呈常德泰岳翁、以問嚴小疾詩云、當年一入髻正皤、未遂拜顏春已過、乍次憑君委傳語、二嚴惱氣頃如何、蓋慶長十四年己酉春也、以是考之泰岳亦出於文之門、可概知也、奉和トアレバ弟子ニ非カ）又學醫於津田曲桃庵、十二年乙亥九月悉受其禁、十七年庚辰正月渡益救島、適安房村、事如竹於本佛寺、受朱氏學、六日如竹應徵至魔府、喜春從焉、二十一年甲申（十二月改元正保）春如竹疾請告還、喜春又從省疾、正保二年乙酉春如竹疾癒、三月往上魔府、喜春約復從之、暫辭歸省、如竹爲詩惜別今採載左、

愛甲氏廣隆、其號玄德、日州救仁院志林人也、其爲人也質直好學澹然寡言、先是五六年前遠航海訪予於海島茅庵、其志在欲聞朱夫子四書新註之義、雖予不解其義、感其志之不淺也、不得杜口胡說亂

道者、半年其功未畢、予有官命、至於魔府、去歲之春（寬永二十一年甲申）有采薪之憂、請命歸海島、於是廣隆欲問病安否、再見訪茅庵矣、今茲春之初（正保二年正月）病漸平癒、而企魔府行、廣隆亦約魔府到、告別棹歸舟、感離別之懷者不少矣、詩非予之所解、而豈敢默乎、綴野詩一絕述志之所之、奉餞行色云爾、

分袂春風江畔春 天涯萬里布帆新

請君燈下尋書義 再會難期衰老身

正保乙酉暮春

散人如竹再拜

前後隨侍受業六年、四書新註及小學近思錄孝經古文太極圖說韻鏡等頗皆通焉、又請學易新註、如竹曰、吾之學易也、不如江夏氏、汝必學焉、因喜春又學易於江夏二閑、乃明人黃友賢之子、而受程朱說於父友賢、以不墜家聲者也、慶安四年辛卯十月二日悉受其傳（策著及擲錢之占法）於是喜春年四十七矣、又就川越重能受曆書七卷、又斷易法受之井上織部、洪範六卷得之島津圖書、示視劍學諸東鄉重國、博綜衆技、而常業醫、名聲鳴世、初其先從得佛公就封、自相摸宗邑（愛甲郡）徙於本藩、至祖織

部一世列士班、属伊集院、抱節移成、福島、迨太閤西伐、封秋月種實於福島、去歸志林寓于大慈下、棲遲逝世、父新兵衛孤貧業農、至喜春憤發好學碎礪積年、於是承應二年癸巳二月十二日、自陳閱請復舊班、地頭島津久茂以聞於寛陽公、既而未幾如竹死矣、門人雖多莫出喜春右者、別府助員(式部左衛門)平山久行(久馬)白尾國長(金左衛門)老號自安(長谷場純昭(伊角)等、亦稱其爲人、俱皆薦之、乃萬治二年己亥正月十七日、遂命爲侍讀、從如江戶、十八日又復邑士、皆久茂承旨使邑正命之、

預貴翰相屆令拜見候先以中將樣益御機嫌克御座被成候次貴老御堅固御勤仕之由珍重に存候然者御訴之儀に付被仰聞候之趣委曲得貴意候別府式部頭殿平山久馬殿よりも書狀相付承候長谷場殿相談爲見合可申候將又其地私宅女更病者共御座候乍御太儀毎々御見廻御藥可被下候奉願候私事も無爲に罷出候尙期後日候恐惶謹言

八月廿日

白尾金左衛門(花押)

愛甲喜春樣貴答

能用飛札候愛甲平左衛門此度江戶へ可被下召列由御意候間其旨可被申聞候定而儒書御讀せ可被成御用に而候はん間其意得仕候様に可被申渡候太守樣御發足二月四日に而候是又爲心得候恐々謹言

萬治二年己亥

正月十七日

島中務

久茂(花押)

志布志屢衆御宿所

昨日常飛脚に而申越候通愛甲平左衛門儀此節御赦免被成候由被仰出候旁以忝仕合に候就夫急度參上仕候様に可被申付候謹言

萬治二年己亥

正月十八日

島中務

久茂(花押)

平田伴右衛門殿

上村六右衛門殿

床次少左衛門殿

山田七郎左衛門殿

凡舉於庶人者、給一人月俸、積切増秩爲例、然喜春家本舊勳至父零落寓於寺門、亦今喜春以儒

醫立其身、何功加之、久茂以告公、公乃嘉之特命給三人月給、二月四日從駕發本府、自阿久根公駕船泊于軍浦、凡可七日、時公觀山海獻美搗浦、(在薩州出水乃脇本湊也)親賦一絕云、

陽光徹海煙　花樹護村邊

見說搗之浦　晴山不讓連

而使程菴(姓氏未考)召喜春於前亦爲詩、卽賦七絕、

吟遊春日此他鄉　海島山河多景彰

搗浦風敲漁戶夕　百花亂落野村杏

於是喜春乃因喜入久甫(五郎兵衛)等求見于公、國老伊勢貞昭(兵部)以聞公、公曰既召舟中助於顧問且使爲詩、更何見之、爲喜春拜命因久甫等拜恩、三月二十八日至江戶、恒侍帷幄、以儒被用、暇則來往淺羽氏等(三右衛門)友善、屢通書問矣、三年庚子四月十三日從公發邸、五月二十八日、至本府、七月十一日地頭久茂命授宅邑、其書云、

一筆申候愛甲平左衛門就御赦免に屋敷之儀去年雖被申出候後日可致相談と申候明合之地於有之は可

被引渡候、恐々謹言

萬治三年七月十一日

島中務

久茂(花押)

志布志　暖中

而身寓府下、門人益多、乃久茂及島津久竹(圖書)島津(主計後帶刀久元此)等亦出於其門、貞享四年丁卯九月次子仲次郎歿矣、喜春哭之、慟曰、村學如彼苗而不秀、噫天喪予、自今行後其與誰講斯文乎、乃乞骸骨去還鄉里、後府下猶多慕其德、時書問者、一筆呈申候彌無別條御入候半然者四書新註之一卷慶菴和尚之遷化被成候所又者廟所等究而爲存衆無之候間御覺候趣委細被書付給度候及口傳候儀共卽山院主へ御傳候は追而委曲可承達候返々頼入候此旨爲可申達如斯候恐惶謹言

五月

帶刀忠雄入道睡雲

島津主計

愛甲喜春老

久年判

猶々山田殿事願相達昨日御目見首尾能相濟結構成仕合到于吾等令嬉悅候將又桂菴和尚墓所之儀書付見難相達候は明年頃には山田殿早々可被

差越候間御申達候は、可令承達候以上

一筆令啓候寒氣甚敷候彌堅固候哉承度然者當年爰元へ可被差越様に承待居候得共無其儀候來年江戸へ可御供被仰付罷上候得ば明年迄者致對面間敷候殘念に存候隨而者桂菴和尚墓所入念相尋候へども爲存人無之候間御報に委細御書付可給候恐々謹言

十二月二日

島津圖書

久行〔花押〕

愛甲喜春老

〔朱書〕

諸家山緒抄

一志布志之住人山田七郎右衛門年頭に罷出御太刀進上之儀は無之御目見迄を被仰付候總貴公御家督追而以後如仰付儀に候事但七郎右衛門自分之願は無之由に候事

〔朱書〕

按總貴公御家督貞享四年七月廿七日にて其後追付と有之候へば元祿三年十二月朔日山田へ御目見被仰付翌四年未正月よりも年頭御座所へ被召出候歟然し此十二月二日は元祿三年ならんか可糺なり

猶々韻鏡傳授之儀久敷約束にて候へども更に無手透延引に打過候以上

一筆令啓候甚寒之節彌堅固に候哉承度候我等儀も無別條罷過候然ば去冬被差越候時分文之和尙四書新註に點御入之儀又桂菴和尚入唐之儀共委細書付可給由約束申候當年中にも被差越候は、其節可申談と待居候へども無其儀候我等儀も來春は江戸へ致御供候間其内相伺被遣度候將又大龍寺住持不門頃日大學之講談有之候過分之聽聞衆にて一段之事に候雖然文之一流之學に而無之殘多存候猶期後音之時候恐々謹言

〔疑貞享二年〕

島津圖書

十二月十三日

久行〔花押〕

愛甲喜春老御宿所

不門名宣領五世住職爲ニ中興、以ニ元祿七年七月十九日死、按貞享乙丑應ニ島津久寧等之請ニ不門講ニ大學ニ事、見竹内助一森羅集、此云頃日當、在其時、且不門師ニ備前岡山松琴寺開山無抑參和尚ニ受ニ其學、故此久竹云、非ニ文之一流之學ニ是也、蓋岡山之學專柄ニ用熊澤了海ニ世所ノ知也、以ニ是考之、不門

亦信三王陽明良知之學一者乎、

猶々何とぞ爰許へ被差越候は、相尋申度儀共に
老人にて候得者被差越候儀者成間敷候哉と殘多
存候以上

一筆令啓候久敷物遠打過候彌堅固に候哉承度候我
等儀も去秋病氣以來于今草臥有之時々致登城相勤
仕合に候雖然漸々快方に候間可易芳慮候然者先年
於江戸に御方へ筭致傳授候其節被遣候書付體に致
所持置候供物等之書付置忘見出不申候間委細書付
可給候恐々謹言

島津圖書

三月八日

久行〔花押〕

愛甲喜春老御宿所

一筆令啓上候從圖書樣被仰下之御狀再三拜誦奉得
其意候先以御父子樣御勇健に被遊御座之由恐悅に
奉存候然者先年於江戸筭傳授被遊候書付置忘爲被
成之由被仰聞候依は筭并擲錢傳授之卷物一卷指上
申候此方へ者殘置候間其元へ被相留候様に御申上
可被下候拙者事今一度御當地へ致參上奉拜貴顔存
候得共老涯不稱意徒送光陰計に候萬端可然様に御
披露奉願候恐惶謹言

五月四日

嶋津圖書様

御與力衆中

愛甲喜春

一筆令啓候乍時分暑氣甚敷候彌堅固に候哉承度候
然者先年於江戸筭致傳授候節之書付置忘候に付先
頃申越儀共候故筭并擲錢傳授之卷物一卷此方へ可
爲置候由に而被差越過分に存候得と見申候之處
供物之置所瓦器に何々を入候哉旁前見候得共覺不
申候間乍御六ヶ敷儀委細書付差越賴致候恐々謹
言

嶋津圖書

五月晦日

久行判

愛甲喜春老御宿所

元祿十年丁巳八月十六日卒年九十三、葬三太慈寺、法
號文嶺玄德居士、本寺主僧太極嘗所名而爲詩以讚、
其號曰、

經史花開樂老年一

青山依舊屋頭前

平生無倦仲尼道

日月高照萬仞巔

所著有、四書私鈔十二卷、易注私鈔五卷、蒙引本草四
卷、諸家脉法拔萃一卷、家訓傷寒論一卷、醫海南針集三

卷針灸明辨二卷、家傳醫方集要十卷等、皆藏于家、喜春授子玄昌、孫季堅、季寬及國老島津久竹等、又針人橋口春盛、大木壽碩、中島三春、安藤隆雲、末吉人白尾、桃庵窪田碩氏、高岡人入田新助親方、入田八兵衛氏方、

入田新助名親方、家世日州高岡士人、父名親普稱用右衛門、貞享二年乙巳五月二十八日生、自少好學、醫、受之於愛甲、玄昌、玄經與志賀登龍、友善、寶曆十一年五月三日死、年七十七、法號功學良忠居士、

入田氏方亦高岡士人、幼字八兵衛、自少好學、爲醫、號爽中、又號常元、後還俗稱方右衛門、生於正德四年、以安永二年六月二日死、年六十、法名松雲、永鶴居士、蓋喜春季里弟子也、

種子島人上妻壽庵、勝岡人田中鐵右衛門、秋月人丸野藤太、久志人原田長庵等、又琉球人亦多出於其門者、而島津久竹等受易筮法、季寬秀才專學其儒他、人、蓋多受醫者未悉攷焉、生季經、

愛甲季經號玄昌、喜春之子、生于寬永三年丙寅八月、初稱勝兵衛、受學於父、紹業醫術、改號玄昌、

遊學東都、來往淺羽氏等、稱三右衛門、其答喜春書言、玄昌屢來往不墜家聲、元祿十三年庚辰六月、新建見性庵、十六日落成、乃奠交肖像、託主僧萬安、掌香火焉、因損銀二百錢、永資其工料、自記其事於厨子下云、三男二女、男長季堅、次季寬、自有傳、次季東、女長嫁邑人坂元氏、次適府士家村氏、季堅稱諸兵衛、生于慶安三年庚寅、少祖喜春四十七歲、受業於祖、爲醫、元祿五年壬申七月二十九日先父祖歿、年四十三、生男季里、自有傳、季東稱助八、亦受祖業、居志林、生子玄貞、繼業、

愛甲季寬稱助次郎、玄昌次子、以寬文五年乙巳生、少祖喜春六十歲、爲人英敏好學、自少受業於喜春、八九歲自講勸學文、稍長善屬詩文、又善書、喜春奇之以爲英物、必後有所爲、將使之游學於京師、鉅儒之門、益成其材、以爲天下之器、貞享四年丁卯九月渡自福山、舟中罹疾、四日蚤死、年二十三、葬松原山、法諡月濶宗吟居士、所著有大學、

愛甲季里號玄碩、後改喜春、初名季澄、小字勝兵衛、乃季堅之子、以延寶六年戊午生、少曾祖喜春七十三歲、少受家學、年二十而喪、喜春遊學鹿府、寓于

上町受書於志賀登龍、以醫仕江戶邸、元文元年丙辰宥邦公舉爲侍醫、列於府士、世々勿絕、賜宅一區於府下、後事慈德公、至寬延三年庚午三月十五日歿、年七十三、葬松原山、法號大心正通居士、生子喜碩、季偉業、醫蚤死、有一男、曰新右衛門季雄、見于古註者流下、

粵我慈父愛甲喜春老者日州志林之產也、從少時雖有欲知道之志、門衰家微、思而空渡日、已一朝果然弃其作業、二十有一天而始披卷讀書、焚膏油繼晷、凡々而無倦、稍迨壯歲乎、周流于四維而就有道以窮其道、略通到易曆醫之三、道以醫而鳴于世也者數十年也、當此時乎、何患不足哉、故其澤流于子孫、以潤家門、先生之所以有功于家者不可勝計、此非家之爲中興者哉、加之信佛重法、欽前大慈大極和尚之門下、求法名、故號文嶺玄德居士、道號之記在嫡子之家也、壽考九十有三、元祿十一年八月十六日烏終矣、當此時也、見性禪菴當經歲月久遠而頽頽廢壞也、於是予請往山萬安和尚曰、新修此寺鄉、願容移壽像於此寺、和尚亦感我志乎、欣然許容之也、信生前之大幸何如之哉、

故撰良辰而經榮之、依舊製以爲之、元祿十三庚辰六月十六日既成矣、即日爲入佛者也、向後借檀力不加備補、永難保此寺、雖檀力弱、（タカ）卷主亦無如之何、於是白銀二百目爲造料、納之者也、叨不費之非修節已新、雖作之難矣、欽祝遠太云爾、

元祿十三年庚辰天

六月十六日 烏直子

玄昌記之

余八世祖文嶺君之像在日州志布志龍興山中見性庵、初君之歿也、庵方廢圯、故子玄昌背而窺焉、視銀貳佰錢於其主僧永以爲香資云、爾來久遠、彩飾侈剝、餘欲新之、乃私於官求巡察部當其地、是歲四月獲往謁像時、豐後人來客於邑幸佛工也、便命新之、遂能儼然至復其舊、於是五月十五日、請本山主席口口和尚一行供養法、君乃本邑人、姓愛甲氏諱季定字玄德、自稱季春、文嶺其法諡也、爲人聰敏精力超倫、信朱氏學、再適掖救、受業於如竹、先生勉勵講究以高第聞、又學易於黃自閑、習醫於伴兼政、（津曲淡路守入道桃菴）皆通妙理、最博禁方、鮮治不驗、萬治中寬陽公辟爲儒醫、特加寵遇、晚年致

仕歸老本邑、以著書爲樂、如其治小兒、咳息方
今尙家傳此行、邑人會患此疾、多求余療、余雖非
醫、依法治之、立得效者八九十人、各謝實庭、則工
料亦足以辨焉、聞者咸曰、嗚呼君逝百三十餘年
于茲矣、猶自能新其遺像、抑非良醫、豈如此也乎、
且時疫於邑、又會佛工至、如天府有祐之、是先
德之所招乎、將又追孝之所致乎、可謂奇矣、此亦
不可不記、乃併書板以置像下、使後之復修者以
有知焉

文政十一年戊子五月 本府橫目助愛甲季鳳謹誌

奉挽鳩巢先生四首 河口子深

魂去帝鄉雲路遙 空臺風雨夜蕭々

西階忽設周人奠 南國徒勞楚客招

名託山川千載在 身隨艸木一朝凋

從來天意稱難測 忍使斯文長寂寥

先生未葬是月十五夜風雨

大梁當日訪鄒枚 匹馬翩々奉檄來

東府衣冠堆上第 西園賓客擢多才

三辭繾綣丹心盡 一病支離白髮催

嘆息絃歌今絕響 帳前唧淚徒徘徊

先生以辛卯歲與三宅深見三公同徵、乙巳
擢侍西城、戊申以病力請散秩、不幾卒于
官

一代龍門歸九泉 幾人負士共凄然

還憐野祭走三老 自恨家廬違六年

落日牛羊登古道 秋風禾黍對新阡

歸家悵望山中夕 腸斷白楊深樹煙

先生之葬、門人在府下者畢來執紼、葬先

生于大家之地者、恩地繼美、伊東貞展力最多、

至于治墳及區畫諸務、則飯室良卿躬服其勞

焉、既窆、本村保正芝崎某約奉洒掃、護視甚

謹、其人云自葬以來、村中男婦相率致祭、瞻

拜者不絕、

誦誦不下因老病休 著書豈是爲窮愁

高岡鳳逝簫聲歇 空谷玉埋虹氣收

文字垂終猶奕々 笑談臨去更悠々

英靈寧逐西風散 知口伴三閭遠遊

先生自丁未感支疾、侵尋不愈、及今八年、然講

書率生徒不異常時、至八月初五日、猶臨席講

近思錄、病中著太極圖述、駿臺雜話等書、皆易稿再

三、手書楷正、未嘗告憊、屬纊之夕、光遠與繼美貞同檢遺稿、有佐渡國菅廬記一篇、艸本備具、其淨書乃十月十日所繕寫、半篇未就、此爲絕筆、蓋以疾作不能完也、然文辭典重、字畫嚴密、不類死期將近者、可見所養之深、又聞之貞曰、先生嘗言吾當含笑口地易簀之日談笑如常、果符雅言、唯速召親姻及諸弟子、至則已無及矣、翌日將歛、光遠與飯室恩地、集堂、伊藤、兒玉、五子拜辭永訣、以是時竊窺顏色不變、粹然如生、眞所謂金玉也、於是始信先生實爲異人、顧平生親炙之淺、追悔無及、嗚呼悲哉、登龍翁曰、嘗鳩巢先生を見るに、狀貌顔色甚うるわし笑へる顔童子のごとし、童顔と云ふ、幼にして顔老大のごときは好相にあらず、

又曰、先生宮室を卑し、物の玩好なし、駿臺の宅玄關と見えたる所三帖敷、其次二帖敷の小坐敷あり、其次書院六帖敷あり、又曰、先生を臨むに温和にして詞寡く、笑ふ事まれなり、笑ふ時三歳の童子のごとし、鬢は後下りに刺て身の長中下なり、

先生諱直清字師禮、一字汝玉、幼名順祥稱新助號巢鳩、又號滄浪、又號古愚、命齋曰靜儉、萬治元年

戊戌二月二十六日生於武州谷中邑、享保十九年甲寅八月十二日卒於北郭駿臺私第、享年七十有七、

吾黨小錄

吾黨小錄者、錄鳩巢先生門人也、先生務實而不務名、天下莫不聞、而今有此錄者、豈門下之士自喜其盛耶、曰否、蓋憂其衰也、東武之盛百有餘年、宜學士大夫列第相望、左提右挈相與講先生之道、而謹守之、而任斯文之重、以綱常爲己責者、獨鳩巢先生而已矣、其他雖有三三可稱者、率才弱質凡無以發二程夫子之遺學、曰之無可也、先生勃興於北地七十之年、竭其精力欲庶繼往開來之旨者、未嘗少倦、宜群材輩出前唱後和成德達材以廣先生之化于無窮、而篤信其師不汨異教者、獨所錄諸人而已矣、其他朝來而暮去、陽附而陰背、雖累千萬、曰之無亦可也、夫以天下之大、而唯有先生、以先生樂育之功、且久而唯有此、諸人寥々如此、豈非吾道之衰乎、然先生所以得於己者、不以時之用舍爲汚隆、而況又以人之從違爲輕重哉、固不待論、而予所憂載名于此者、以今日觀之、則所謂篤信其師不汨異教無可疑、而安知

他日情移志變不_レ免_二下喬入幽之譏_一、幸其不_レ然、亦偷情委靡無所_二奮起、使_二吾道衰之又衰竟幾_二於泯、則可_レ勝_レ嘆哉、故具_二其名氏_一、編爲_二此卷、使_二得_二一々指_レ名而議_レ之以考_二早晚之異同、凜々若_二嚴師之常在_二其上_一、負_二其初心_一者、亦當_二愀然而悔悟、此錄_レ之爲_レ助、豈淺鮮哉、若夫諸人據_二已成之質、日就月將_二高飛而遠舉爲_二一世之偉人_一、以能踵_二先生之迹、則豈獨先生之道盛而已哉、蓋亦天下國家之盛、可_レ由_レ是而致_二也、其爲_二吾黨之光_一也大矣、而予編_二此亦與有_レ榮焉、豈可_レ不_レ勉哉、享保十六年五月十九日白河河口光遠叙、

吾黨小錄

蘆世輔（蘆孝七郎）名德材與州人、仕_二仙臺侯、爲_レ人有_二大志、夙游_レ京、師_二尙齋先生_一、先生深稱_レ之、後見_二鳩巢先生_一、先生常以爲_二奇才_一、當世希_二出_二其右_一者、其詩文高古絕無_二俗氣_一、亦可_レ以見_二其所_レ養、其居距_二仙臺_一數十里、號_二東山先生_一、別號_二畏齋_一、

飯室良卿（飯室內藏助）

集堂大輿（集堂小大）名厚阿州人、仕_二於本國、其先爲_二大姓、當_二三好氏領_二四州、有_二集堂伊賀者、據_二土地_一、有_二勇名_一、鬪死、葬_二於學山_一、其家遂衰、大輿其後也、因

自號曰_二學山_一、大輿爲_レ人溫厚不_レ與_レ物、忤_レ口未_二嘗言_二人之過、稱_二爲_レ長者、向_レ學最力、

送_二兒玉圖南歸_二薩州故里_一詩一首

征旆行々去不_レ留 涼風蕭颯歲云秋

滄浪雲黑鯨吹浪 古渡月殘客喚舟

腰下泣龍佩劍鳴 驛邊立_レ馬賦_二登樓_一

南中親友如相問 爲道夢思感昔遊

右送_二兒玉圖南歸_二薩州故里_一

鳩巢老人援_二筆于駿臺之草堂_一印印

兒輩各賦_レ詩贈_二兒玉子之別途_一亦不_レ忍_二默々_一

卒賦_二一律_一以寄

匹馬蕭々辭_二武昌_一 陽關三疊斷_二人腸_一

驛樓對_レ酒知何夕 驛筆題_レ詩復幾章

明月山中星照_レ劍 青梅林下雨沾_レ裳

早聞君到_二難浪上_一 從_二此舟_一行向_二故鄉_一

鳩巢老人漫書

家兒圖南將_二住_二東都_一、老父倉卒賦_二偲言一章_一

恭奉_レ寄_二室公鳩巢先生_一案前伏祈_二斧政_一若倘

惠_二和章_一幸莫犬馬

久仰_二清風_一未_レ接_レ顏 空嗟千里隔_二江山_一

夢馳東海文瀾上 身老西洋野岸間
固陋終無陪教誨 殘喘祇有益愚頑
祈君速賜瓊瑤句 願荷仁情解苦艱

慶府野老倪全金鱗拜具稿

薩州倪老丈因令胤圖南東行役以詩見寄老
夫年傾材腐不料辱每眷之厚遂和其韻以謝

知心何必在知顏 不恨秦吳隔海山

眼下關投明月贈 病中坐對白雲間

虛名千里誤君聽 懶性百年羞我頑

慶府故人如相問 爲言眠食幸無艱

別賦一絕謝其所惠書扇朱墨

白扇飛霜黑吐紅 遠來兩品共席珍

研朱點易知何日 先有清風生掌中

七十七老翁古愚室直清拜書印

送倪圖南君歸鄉二首

其一

江都一別路漫漫 分袂匆匆淚未乾

此日送君陽關曲 如逢驛使報平安

其二

此日整裝芝邱居 相逢清話十年餘

關山長道歸鄉遠

更寄平安天牘書

室洪謨拜印

送倪圖南又自東關歸鄉伏祈斧正

江東野草綠萋萋

鞭馬風歸海西

客館門前相別後

渺茫水望將迷

島間鷗拜草

三月晦日圖南倪君來別翌旦賦此送之

昨日一盃酒

送春又送君

倚欄悵望々

千里夕陽曛

河光遠拜艸

昨日忝奉存候分袂之情千斷萬緒難候口別而老母沈
痾之病以付以參上不申口口口海奉存候近年之中御
出府遂雅盟度至願區々御座候餞作に而も進上仕度
奉存候へども侍卷無暇是又精神勞し候何々も不任
心底勿々之仕合僅獻一絶口口口仰貴評而已御座候以
上

閏月初日

光遠頓首

圖南倪老兄榻下

口口胡椒壺一枚家翁より進上仕候俚言口口相添候
殊御笑端之至候妻方より旅口口器數件進申度由に

候何事も病床□之仕合御免可被下候兩親以下能々申上度□御歸郷以書中速に可申上候以上
右表之本書圖南より五代之孫兒玉宗之丞致所持居候事

丙寅十二月記之

兒玉圖南(兒玉宗四郎)名一鳳薩州人、仕於本國、其先武州名族也、薩州公遠祖諱忠久、建久年中始封於薩日隅三州之地、關東故家多隨之、而遷者兒玉氏其一也、自是五百餘年世爲君臣、未嘗他從、圖南父宋固翁號金鱗、有學行爲國人所重、既老而圖南嗣業及壯辭親、東遊學於鳩巢先生之門、五歷寒暑、材大進、爲人胸次廓落不修邊幅、人皆愛慕之、其詩文可觀、學書於高玄岱、傳其筆法、至於敬師親友懇篤有古人之風、蓋亦國俗然云、

伊東知量伊東貞右衛門名貞長州人、其伯父恭節先生養之爲嗣、先生名儀字邦達、爲一時名儒、鳩巢先生爲銘其墓者也、其家世已具碑中、此不復著、知量夙承家訓、克省厥德、厚重有老成之器、再世不仕、多田維則(多田儀八郎)名儀京師人、不仕、尙齋先生高弟弟子也、東遊師事鳩巢先生、天質端慤動由規矩、

爲人所憚、號蒙齋、

山宮源允(山宮源之允)名維深生於江府、其父在庵以醫仕、龜田侯、而嗜學耽古、一時名士多所交遊、原允自幼聰明詞翰兩妙、未冠名動縉紳、稱爲神童、年甫十五、委贄於鳩巢先生之門、踰三載、而西遊京師、從尙齋先生、號翠漪、

中村子晦(中村玄春)名明遠號盈進齋、幕府醫官以精其業、擢侍第三城大夫人、鳩巢先生近患支疾、服其屢効、爲人明爽善著文章辭理條暢、經義一本於先生之說、

河守國華(河守宗太郎)名季實遠州人、系出於藤原、姓朝比奈氏、朝比奈者駿河國主今川氏長臣也、今川氏滅其族、遂散有沿大井河而居者、東照廟時以膂力過人、仕於霸府、後屢載寶器輸於東武、至豆州三石、舟沈喪其載、耻奉命無狀自殺、其子孫沒不復顯、各爲農家、至於國華、累世以耕田爲業、志操過人質朴有守、享保癸卯春負笈遠來、舍于先生門下、十餘日、躬炊而食、專心講習、既歸、鄉其志不變、屢以書相問、

恩地堯弼(恩地善三郎)名繼美、姓橘氏、其先河州人、生

於東武、侍_レ於先生、有_レ年、當_二一仕_一于越州村松、未_レ幾退而間居、

住吉弘辰(住吉忠藏)幕府士人、

井戸方愨(井戸平左衛門)幕府先隊騎士、射馭之暇、讀書攻_レ文兼嗜_二書畫_一、實當世武人中難_レ得者、號_二甘谷_一、

愛甲季平(愛甲仲兵衛)薩州人、仕_二於本國_一、亦上世自_二鎌倉_一西遷者、季平與_二圖南_一同鄉友善、信_二先生之教_一、

雖_二公事不_レ暇_一、屢侍_二講席_一、薩州諸士猶有_二日高爲純志賀弘毅之徒_一、慕_二先生之風_一者頗多、今不_二悉錄_一、

薩邸與_二知量大輿及光遠_一寓居、相趾不_レ遠故結爲_二

一會_一、三五日必一相聚期_二相與切磋_一、錄中諸人唯此數、

鳩巢文集載_二送_二愛甲季平歸_二薩州故里_一詩_一

故園南望路漫々 歸興不_レ愁海陸難

何日風帆飛_二彩鷁_一 幾回明月上_二金鞍_一

赤關古道荒烟合 丹浦行宮返照寒

別後相思如見_レ雁 爲_レ書數字報_二平安_一

自注
畧此

塚田亮仙(初名長次善助後又改_二今名_一)信州人、侍_二先生_一受_レ教、今歸_二鄉里_一、能_レ文號_二旭嶺_一、

尙以此度日高氏御使に御越被成不存寄口口得御

意大慶難申盡候早速私宅へ御見廻候而緩々致閑談候來春迄も御滯留可有之かと大慶不少候先可申遣御兩親様息災に而日夜御侍奉可被成と御大慶察申上候不及申候へ共御孝養專一に奉存候將又當地に御入之時分御申きかせ候孟子千乘之事頃日門弟中に講習之時分致考究候所彌集註の説にては難通有之に付拙者考之趣相伺置申候日高氏迄進候間相成者御心へ置其元へ御達候様頃日甚兵衛殿へ申談置候委細は甚兵衛殿より可申參候以上

前月三日之貴翰當月上旬日高甚兵衛殿御持參候而急致拜見候先以貴様御事御無異御勤被成由承之珍重存候只今論孟左傳御講談之由其御地士中御爲一段之事に存候御持疾指出御難義之由去共御快方に相成候由先々致安堵候追而寒氣罷成候間隨分御保養御懈被成まじく候次に老生事兒玉愛甲氏御存知之通今程手足共不叶に罷成日夜臥蓐高口に罷在候最早廢人に罷成死を待罷有ばかりに御座候何とぞ近年之中貴様御在江戸も候は、今一度得御意度候明日も難量候へば再會も難期候故一入御床しく

存候被思召寄御狀被下殊更唐書冊子五卷被贈下御
深志不淺忝存候先頃も御狀被下候處右之通手不
叶に候故御報さへ不申入昔本意候餘り御無沙汰
に罷成候故ふるひく如此自筆にて草々及御返報
候わけも見え申まじく候尙期後昔之時候恐惶謹言

十一月十二日

室新助

志賀武兵衛様參

直 清〔花押〕

猶々此間餘寒も退而和暖候花も漸咲申候都下販は
布玉歳霜月朝廷大嘗會御執行久廢事も御再興是分
難有恐悅仕候くれくを殿死去可く惜事母儀
之愁傷可申様無之候其外百家町中歎是候去年已
來物故被致候衆も多く就中歌所の武者小路實陰卿
にも急に御逝去にて御座候惜しき御事に御座候
山田四郎右衛門殿より御狀被下返書相認申候乍次
手呈一書候其後久敷御便も不承候如何彌御堅固御
幕御家内御無事御迎春察入申候都下無異事拙宅皆
皆無爲越年仕候老拙も當春七十二歳罷成候衰懶仕
候持病之痔疾再發度々致難儀候先は無事に如例開
講儒書神書本草可様督門生中も諸國より參會堂上
方に會等途日内外多事打過申候從此も折々以書中

も不申入候御物遠打過申候御令息善藏殿にも御學
問御精研と察入申候去冬は嚴寒倍于常年候例寒に
も甚御座候御持病の癢喘も御起り不被成候哉と御
尊申出候橋本典膳殿方も定而使へ御聞被成候や富
王女の御事去秋產女子產後急症にて被果候扱も可
惜事御聞候は御驚可被成候手前むすめ八百琴稽
古も好師を失ひ悲歎仕候世變難計事苦御座候忤も
無事學問勉め申候娘八百も富王殿より大ゆるし三
曲迄被教候形見に不懈口申候愚妻も宜御心得可申
進旨申候心事期不日萬緒可申承候恐惶謹言

三月十一日

松岡玄達

志賀武兵衛様御下

成章

登廳講談之聞書本田新右衛門口方被成置候本數冊
孫次郎方へ有之由可借見事

尙以御兩親様はじめ御方様方へ能御心得可被下
頼存候

伊十院半兵衛殿任御下り一筆致啓達候倍御無事に
御勤仕之由珍重に存候私儀無事に相勤申事に候定
而御咄も毎々可被成と存候於此方も頃日稽古之衆
十二三人も有之候最早年寄諸事不能成に付御斷重

重申入候得其不得達無是非咄申候貴様御儀も二才衆せつき申候哉一段に候儀候隨分御指南可被成候人を取立不申候へば我徳言御座候他之心得を以我心實を能知かく不申候へば工夫も出不申候間左様に御心得專用に存候於此地は半分は弓半分は柳弓何分一は學文其外は一盃に而ふら／＼と光陰を送り被申候竹内傳兵衛殿月に六度宛中庸をよみ被申長谷場伊角殿宅に而近思錄よみ申候中々面白御座候貴様御儀を其時節々々に存出申候御なつかしき御事に候來春高輪御やしきは非々々御懇望にて上洛可被成候、必々待可申候我等も誥越之儀其元迄申越候何とぞ被仰上御上洛待入申候御油斷有間敷候委細は久木田喜左衛門殿へ申談遣候間可被聞召候恐惶謹言

十月二十一日

伊勢松浦

崎元休右衛門様

貞〔花押〕
真享三四月早世其已前ならん

追而申入候同氏權次郎へ手技之御指南賴存候
其外諸事思召寄御舟賴存候以上

不拜面者兩三日頗如阻三秋久雨濛々不得開戸憐察
本佛寺瘧氣未去比五三日之前減其過半朝粥午飯亦

無進日々氣疲體疲何日平復如本乎待公之問病而已
伏乞昭察頓首再拜

六月二十三日

玄昌〔花押〕

藤崎公綱公机

大龍寺

玄昌

口切なし

缺

く此狀詞部牀に候間此わき和尚様へ狀進上可申候間可然様に御取合可被下候申までなく候へ共成ほど御心掛萬事御たづね有之事は不殘様今度御申被成來春御下國可被成候我々いづれものために候一そうとう本そく爰元に而伊藤など前々よりあつかわれ候、かくを和尚へ御たづね成ほどひしくづし被成四人へ御狀可被下候新右前々字かくしき讀なをりかね申候爲御心得に候

本田眞ナルペン生有長ト眞老尼ヲ改事ナリ

一爰元しんせつの衆浦川あたりの衆は今分に而候はばといき申事も御座候はんさて源介殿彌しせつに候大特殿彌に而候其外此いな物かと存候左口はすなのものりつ華にたましをとられ候様大方かいせいかと見得申候前の十分一も咄被申衆なく候了無一人はよ人にかわり彌つとめらるゝと見得申候爰元に而の咄者二を了無へ間もなく出合し重而細

細可申候まづ、申のこし候恐惶謹言

八月二十一日

有 長〔花押〕

森 嘉右衛門

竹内助市様上る

輓薦嶋津甲斐居士

生死去來一夢場 心空何處不家鄉

教他掉臂焉歸去 脚下現成寶閣樓

示諭甲斐居士諸春族

起念自他論各域 空心生死一如同

試將心念切推究 悲喜何曾在其中

貞享二乙丑仲秋十七日

紫雲鐵牛山僧書於維摩堂

〔竹内助一傳に入し〕
州南加世田大浦有農夫、兄弟事母至孝也、予

記所粗聞、成一律、摠是實語聊非空文

可憐南畝兩農民 孝友生知不問人

幸出同胞得同心 惜留慈母少慈親

弟兄代寢左兼右 定省何須昏與晨

迎送設途休息所 往來宜夏納涼辰

炎天扇枕共勞力 冬日溫衾自以身

行負背間悲體瘦 臥爬痒處恐膚皴

家將數口雖無飽 米具長腰如不貧

二子風流猶有語 但從交訓未爲仁

元祿壬申臘月中浣

無名氏謹識

韓公曰木之就規矩、在梓匠輪輿、人之能爲人、由

內有詩書、是不可誣、爰有浦川適子、穎利之少年

也、平生志學孜孜焉、今茲題端午、風興所賦詩一

章、詞藻宏麗、而粗有老成之典、公者所謂知人之爲

人、由有詩書者後生可畏予也、自公之幼齡

締師資之約、教雖不嚴見勞力之有成、欣々然仍

和其韻末寄玉机下、且以古人語告曰、學譬如爲

山、未成一簣止吾止也、又如平地雖覆一簣

進吾往也、守此語夙興夜寐、務以不怠、拔俗之君

子、豈在他乎哉、

軒渠

大龍寺三代也

一溪叟

後來可畏學芳聲 始見華篇詞藻清

努力郊墟燈火讀 爲山簣止勿陵平

漢學紀源卷四終

漢學紀源卷五〔附錄〕

桂庵禪師碑銘

昌平學教官一齋
佐藤先生撰文

建方一件

天保辛丑六月寫
去秋、伊集院氏高輪詰出立ニ付、林家用人佐藤一齋方

へ桂菴和尚碑銘并同像之畫讀、且延德板大學之跋文
等頼、認方頼舍外に拙者相札書述置、漢學紀源、又は家
法和點論語寫本等、爲ニ考證ニ添置候、一件成書寫、

伊地知季安題

新春之御佳帖被下辱致拜見候云々扱も佐藤へ逢得候
儀大延引去る廿五日罷出候間得と咄いたし候處桂菴
は勿論文之方へも不存體に付鹿兒府板之古本家點傳
記等細々申候處扱々夫は初而承候どふぞ拜見いたし
度被申候間もたせ進せ可申と申候處どふぞ早遣吳
候様被申候其翌日遣筈候處一里計も隔り居候林家不
案^{内附カ}之家來下人遣候儀不相叶御人を遣候考候處御人
文今兩日は不相調候いづれ明後日より先き持せ遣可
申御秘藏古本手を放候儀如何之至候得共此御邸に而
者見被申透無之夫故一通り見被申候は、則差返被申

候様取計可申候御人は差かぎり候人數殊更明日は土
佐の御世子佐竹様丹羽様戸田様都合御七方之御客様
少將様にも被爲入筈にて彼是御用多に而誠せわしき
事に御座候碑讀等之儀者未申達候先一通り傳記被見
候上又近々被罷出候折氣先を伺頼入可申候

外略す

閏三月

季安先生机下

兼 誼 拜

一筆致啓上候云々 一出立之砌致承知候桂庵和尚一
件去月未佐藤罷出候付直話いたし候儀候先便申上候
通に而其後取揃遣候處別紙之通返詞參候間入御覽候
其後之御式日には手代り之人川田某罷出候夫より公
邊御事付右様之事御取止相成罷出不申故直談不相調
候大學并家點二冊は取返候市來宗之亟來る九日出立
いたし候間其便御返し申上考御座候彼是之事にて延
延相成嘸々御待遠筈何共御氣之毒奉押計候御宥恕奉
仰候

右旁申上度如此御座候恐惶謹言

二月三日

伊集院喜左衛門兼誼判

伊地知小十郎様人々御中

伊集院喜左衛門様御請

佐藤捨藏

伊地知小十郎

貴簡被投辱奉拜覽候先以雪後春寒甚御座候處益御康寧被成御起居拜賀無量奉存候然ば過日は始得拜範欣幸之至奉存候其節御話之宋學傳來以貴藩爲始之趣是迄承及無之候處桂庵師由來等之品拜見被仰付辱次第奉存候何分篤と拜覽可仕に付暫留置左様御聽濟被下度候 延德板大學一 論語寫本一 桂庵家點二 漢學紀源四 桂師畫像 右之通體御預申候相濟次第返完可仕候唯今外出かけ罷在草々却酬のみ申上候尙其内拜範萬奉謝之心得に御坐候以上

閏月七日

尙御服紗には御入用にも可有之直御返し申候以上一翰呈上宜時候猶更御堅勝可被成御座珍重奉存候先便申上候延德板大學其外取束佐藤方へ遣置候處門人清水準藏と申二才以而家點二冊畫像一幅被相返大學論語紀源は別而珍敷候間大學と紀源は寫置度今暫致借用置度別紙之通以手紙も口達を以も被申遣一幅二冊は受取體擁護いたし置候左候而準藏より大學は誠誠珍敷物に候間寫取其趣を記置度候間貴所様御身柄等ヶ條を以尋候間左之通書付を以答置申候

一家格は小番と申候而騎馬組御坐候尤目見以上一當分勤方無之

一祿三百石御座候

一伊地知は秩父氏之嫡流に而足利尊氏卿之代島津五代目之時故有て薩藩へ來り仕へ代々家老等も勤支家迄も相勤候ものも有之左衛門と申も小十郎共々支流に而小十郎は左衛門子孫に而は無之候伊地知一統五百年餘罷在候故右之龜流繁茂いたし居候

右之通書付渡置申候左候而私より取傳候間實名聞度尤記候ても不苦哉之旨申候間差支無之旨答實名書付遣置候準藏より宋朝學加様に御國より始候儀初而承別而珍敷候桂庵學流當分も殘居候哉申候間學文は大道を明らかに得候迄之事故別に口傳類之事もなく當時專修行候學文は則桂庵之道脈に而候紀源之末冊には其筋綴立置候段申候又申は貴所様には何方を御遊學等御出御稽古等被成候哉當時學校御勤に而も候哉と尋候間士并之番を相勤學館には不相勤候尤御當地其外遊學等出爲申事もなく國元に而志有て執行いた

し居候段答置申候右外申上程之咄も無之に付桂庵墳墓有之死去年月等は記付候石塔建居候得共宋學傳來候勳功此度相分り又往々草荊之中相成又誰も勳功知人も無之可相成は案中之故先生へ碑石之文御頼申度

延德板之大學其證書にて先生も御めづらしがり被寫置候上は其事を御記置可被成との趣に付而は右之一冊にも御文御添置被下候儀は相叶間敷哉當分さへ

又なく祕藏いたし居候間當世高名之先生も御賞美被下候段別而忝獨家寶に可致就而は畫像に林家之御讃を先生之御世話を以御頼込御出來被下儀は相叶間敷哉小十郎固より懇願に付以參御頼申上含候得共志之程咄置候間よき折先生へ申給候様申候處委曲含之程致承達候間咄置可申との事に而候尤準藏咄に捨藏より林家へは珍敷物相見得候段申候へば夫は必見度望被申候得共未遣たるやうには無之と覺候段申候右碑文等之義に付ては是非御頼申上含は是迄草荊之中を披き此度當世之高名なる先生之御碑文御調被下候はい存生之精靈有之物候はい桂菴も嚙々うれしがり可被申など、無口能受合候やうにとすかし立置候其後諒闇中互往來無之に付程合不相分候當分は遮而

之御用等の外は被禁置候間今少先寄候はい此方へ可被參無左候はい差越相頼考御坐候猶追々成行可申上候當時御停止中云々

二月廿九日

伊集院喜左衛門

伊地知小十郎様人々御中

伊集院喜左衛門様御親覽

佐藤捨藏

一簡拜啓仕候追日春暖相成候處愈御安寧被成御起居恭賀被存候然ば先達而は延德板大學其外五種御示被下辱仕合早速返完可仕之處珍敷御品に候間大學は其通爲寫置申度漢學紀源も至極詳審なる事に而得益不少奉存候就而は是も爲寫可申哉今暫留置申度候其内桂庵師家點刻本^{寫本}二冊畫像一幅は返上仕候論語寫本は先に拜借置申候左様御承知被下度候將亦門人清水準藏と申候もの當時手前へ寄宿罷在候此者を指出し候間御逢被下候様仕度候伊地知氏などの事に付不分明の義同人より爲相伺候様仕度何卒御逢被下御教示奉願候右等草牒如是御座候餘其内拜顏萬可申上候不

二月十五日

尙以此節柄之儀拙例會も今暫御見合と奉推察候就

而は拜顔遅く可申に付準藏指上申候何分宜御頼申上候以上

桂庵和尚畫像 一幅 同 家法點 一冊

同 慶長寫本 一冊

右返完仕候

延德板大學 一本 論語寫本 一本

漢學紀源 四本

右留置申候

以上丑四月三日相届四日飛脚に答禮申遣也

間之飛脚立に付寸緒致啓上候薄暑御座候得共彌御堅勝奉珍重候佐藤此御邸へ參候儀御停止中御停講に付佐藤參候砌は居り合不申其後川田八之助罷出候川田は弟子輩に而同居有之様承候餘延々罷成候間先日佐藤へ差越候處幸居合及面談紀源は扱々よくも加様に御糺得られしとの褒詞に付鄙文不綴之所も有之候半定而御推讀爲被下等候御老寄之所も候はゞ直御直し付被下度申候得ば加様之物は被糺得候御方之御書面なりに而宜物と隨分宜御文面之旨被申候延德板之大學誠珍敷希ば板に彫せ度候得共どふぞ今一本出候はゞ被下度板彫せ候儀は此方取計可申何卒願候との事に候餘珍敷故惣而寫度候得共不相叶候に付跡先一枚ヅ、加様に

手づから寫置候由にて見せ被申候跡先一枚宛は薄やう紙に字形ウツロに取候墨を込被申やう相見得蟲喰など迄も細にうつし右に間々異同之所迄を被書被候左候而咄に林家も別而珍賞被申寫調聖堂へ納置被申度との事故當分彼方へ遣置候どふぞ今暫借置くれ候やう被申候桂悟へ陽明より被贈候詩之直書伊勢之祠堂持合居見候事有之眞僞うたがひ居候處紀源にて感心いたし候杯と被申候大學跋書碑銘紀源之序文申入候處大學はもはや認置候是に而如何可有之哉と出し見せ被申候我々式何共申兼候可宜とおのづから大學御返し被下候時御添遣可被下候得共御弟子衆之内へ御寫させ給度左候はゞ嚙々忝獨猶更家寶可致と則答いたし置候碑銘紀源序之儀も先書見可見との返詞に而候像讀之儀林家へ頼給度申入候處頼候儀は隨分可致候得共御用多候故三四ヶ年中相調候儀無覺束殊に聖賢とか僧か又は義家類之御人は公義へ禪り讃詞は不調候筋極り居候旨咄に而候自分には何も僧像連も六ヶ敷申事は無之旨被申候間是又頼入置候鎌田家之陽明石刻之御見寫一枚ヶ様之品國元へ有之と眞僞之程如何可有之哉と見せ申候處如何様無疑物に

候半どふぞ一枚御寫被下度分而願申段御申越給度餘程賞美之もやうに而再重申候大形不遠可届候間則遣可申と申置候夫より少々咄および五代氏都之城之何某が噂など被致四方山之事に而暫時置在候而立歸候次第に候碑文書讀序跋出來次第差上可申陽明へ桂梧より之一帖大學之跋文近便寫差上可申候右之一帖之内少々異同有之由之咄も被致候扱御石摺本去る七日被相届候八日に右之川田罷出候間陽明之板届候間近日中もたせ遣べき旨咄候處山々いそぎ見度と申居候間渡くれ候やう申候間頼遣申候尤跋文御影無之故先比被遣置候御見寫も添遣申候御朱書之御文面之内光久公御號又は鎌田氏名前も御座候間其譯年間等も相認遣申候大形當月末より右之寫等差上可申候御待可被成候御用封も首に掛被返飛脚故誠一筆啓上いたし候

五月十日

伊集院喜左衛門

伊地知小十郎様

碑文には誰人發志にて興立いたし候人々名前記し付度被申候間右様之事不及藩中宋學嗜候者は皆残り不申同志之筈御座候間紀源見得候通之學流被相傳德行

旁桂庵之事にかゝり候分御記し給候様にと申置候事

一陽明之石摺さぞく悦被申候半其後便り未無御座候私にもどふぞ奉希候

一此間蘆谷僧が書拔遣候由之一枚御考之通粗姓名承り居物知がほに綴立候筋相見得しらざるをしらすとする之古句にさぞ心には耻乍申書立候半

一陽明は餘程賞翫のもやう御座候書齋之六枚屏風石摺張付有之筆力不健候眞物か疑敷見および居候

一跋序碑等早出來候様追々程よく催促可致候油斷不仕候

一差遣候書狀私方迄御出御尋候處八右衛門失念之由云々畧す

一公邊何かむつかしきもやう成立御役替御免など有之もやういろく實正ふすまと代之代りと氣候之代りは初秋は大風初冬はしけ春は雨いづれ平穩にはなき物かと存申候

右細書五寸半切長さ壹尺にもたらざる寸楮兩面に書込至極之微細にして見分け兼候間寫置丑六

月十三日相屈也

季安君玉札下

兼 誼 拜

一筆致啓上候春中晴兼霖雨に續乍然此地格別之降も無之漸々と晴立候へば希世之暑此一七日計皆人大息を突居候其御地嘸々奉押計候雖然彌御清寧被成御座ます〱御稽古いろ〱御探得之御事共可有之是則御國家へ御忠精之御事萬々奉祝候佐藤方へ寫之跋文別紙之通之由寫調差上候陽明御石摺便を以遣置先日入來面談別而御芳情忝永秘藏可致厚御禮申上吳候様被申候陽明之眞筆伊勢之社人持合候を直偽不相分候處貴様之御蔭を以安心いたし眞書はウツロとやら寫置れ候得共當年輩に而は及手かね手本にして習候儀も有之候間不束ながら字形は其儘自筆相調石摺之御禮進上いたし候間私より厚御禮も申上右成行も申上吳よと被相頼候間差上候畫之讃詞も草稿いだし存寄もやと被遣候間存分無之候間書調給候やうにと頼置申候出來次第便宜差下可申草稿は差上候一大學之寫候に跋文別紙之通御座候延徳板にも跋文頼出來候は表裝いたし盡差下可申候

外二ヶ條不寫于此右六月二日立歟同廿七日達候

喜左衛門様

拾 藏

一簡奉拜啓候梅霖愈御清穆被成御興居奉并賀候然ば過日は御寵臨被下辱奉存候其節御頼之艸稿共出來指出し申候御國元御便之即御達可被下候桂菴師像讃も艸稿其内に有之候右は先比爲御見被下候畫讃艸稿に御座候先づ御目に掛申候今日幸便に付指上申上候尙拜範萬可申上候以上

五月十四日

題ニ延徳板大學鈔本後

鹿藩有伊地知季安者、往日寄示其同族先輩左衛門尉重貞所刻大學章句一本、暨其所編漢學紀源、以明其國爲宋學首唱、受而觀之、大學本文章句並大字、板樣古朴可敬、卷末記文明辛丑重貞鋟梓、延徳壬子桂樹禪院再刊、案文明係後土御門天皇年號、實爲東山義政盛時、距今適三百六十餘年、因驚爲本邦刻新註之嚆矢也、及讀漢學紀源、則知薩人寔肇傳宋學、遞相授受以至於今、其言姍々足以取證矣、此本再刻爲桂樹禪院、而所謂桂樹即釋桂菴字玄

樹是也、桂菴嘗航明國、居七年、尊信程朱之學、初其入洛也、董席南禪寺、後去老於薩、時翔桂樹禪院、以教授一方、詳載於紀源中、可就攷焉、由是觀之、本邦宋學之盛興、雖在惺窩羅山兩先生之時、而其入於我之始、則尙復在於百有餘年前、而薩殊爲先鳴也、但以其僻在南裔、不如京畿人文之盛、其學雖存而繼之者、或乏乎人、遂亦如是之寥々也、獨至於今之伊地知氏、能細釋舊事、揭標先賢、乃撰述以成編、不使其至於堙沒、則豈可謂國無其人哉、聞伊地知氏爲薩之著姓、余未識其人、然其爲重貞之同族、則顯然也、今遠見示此本、其意豈徒然乎、因別影鈔一通、以存始刻之式、并錄略於末云、

天保辛丑春仲中泚十六日

愛日樓主坦識

大學文明初刻在辛丑、今年亦歲在辛丑、余今日作此跋、偶檢曆本、此日亦爲辛丑、奇哉復書、

桂菴禪師影贊

吾道一貫、無隱乎爾、身披禪衣、心服闕里、洛派之漸寔自師始、桂樹鬱葱剩馥遠被、
坦草

呈一齋佐藤先生書

人家藏陽明送日東正使了菴和尚歸國序一幅、余嘗往觀之、字畫穩秀、神采奕々、其爲親筆、無可疑也、其文暢達、本集所逸、故全錄之曰、

送日東正使了菴和尚歸國序

世之惡奔競而厭煩拏者多遜

此文長おし付寫薄やう紙二枚半也畧す末に

皇明正德八年歲在癸酉五月既望

餘姚王守仁書

今所二字可疑、按伊東東涯盡簪錄云、堆雲、五山禪侶、

名桂悟、字了菴、嘗充使者、入明、有行程記、邂逅王陽明、陽明作序贈之、東涯書了菴事如此、然唯曰五山、不詳爲某寺住侶、伴蒿蹊閑田耕筆、爲東福寺僧、異日當更詳云

真蹟係五瀨祝司正住隼人所藏、往年摹勒、余護其本、今茲麗藩伊地知氏刻文成跡、尋樂二大字、遠見寄之於余、且索珍示此序、余因漫臨撫、唯未如拙醜何耳

辛丑榴月中泚

江都藤坦識

七月三日麗藩騎士伊地知季安東向再拜、呈書江都一
齋佐藤先生足下、近得兼誼書、辱蒙先生所致德音、
且承示其所稿大學鈔本跋并桂菴影贊及傳、其見手
寫惠王文成遂了菴序摸本、欣躍開絨、拜讀再三、卷
舒不置、跋之立言、實過鄙懷、然當籍此文永爲
來世之證據、於吾藩幸孰大焉、讀詞高妙、蔽一世
德、師其有靈、應起九原、以謝先生、至如王蹟、
特所難獲、謹享拱壁、抑季安是遠方野人、雖未有
緣、一奉束修、以謁門下、幸既蒙恩之至如是、何可
不爲謝書、以吐露鄙情、因頓首白、嘗聞先生學精
文巧、振名於東都者有年于此、嚮追五代秀堯荒
川某等回自東遊、聞其所語、頗知先生沈默著德
非與俗儒可比論焉、而後又及假愛日樓集、以
讀之、愈信其所聞皆稱實、而徒欽慕亦既久矣、於
是乎會知已兼誼如江都、幸其嘗云至則間陪先生
講席、乃托諸渠、使渠齋僕所編輯漢學紀源及延
德板大學、桂菴畫像、或其所著家法點、若論語寫本
等、往請先生、願賜覽觀、證此數書、以著撰桂菴碑
銘及像贊跋序之類、自渠發行、惟日東向埃先生諾
否、實如三秋、然而今忽蒙恩之至如是、則僕之歡喜、

其譬之何、匪獨營僕、藩中志士往往聞而莫不喜
者、繇是僕乃與藩之教授市來改正以下二三師員胥
議、自今稍首起其事、豫將募公族大夫士庶人諸崇
信者、戮力斫石、埃先生文、以鑄建諸其墓側、夫師之
有功乎闡宋學、如彼其勉、而到于今、一碑尙闕、
實人文乏故也、伏請垂憐、不朽功德、何貺如之、且
聞、延德板既至由先生薦、蒙林公亦特見珍賞、將
令摸寫以藏聖廟、果其然、則藩士之喜、其亦謂之
何、伏願先生爲跋亦惟錄其實、以見還示、永荷鴻
恩、供鄙藩之寶什、又蒙示跋、及僕與重貞事、因
亦粗白、家本秩父、出自三重忠兄太郎重光、迨曾孫時
季徙越前、據有井筒城、易伊地知氏、而仕鎌府、世
爲右筆、其曾孫曰彈正忠季隨、得罪尊氏、藩侯貞久
有請、冤拯、故來臣藩、抱忠懷義、無路報恩、
從軍金隈、戰死誑敵、脫主氏久於鋒鏑中、義詮賜
書感賞死節、第四子民部季弘嗣、當此時、同族別猶
在越前、曰左近將監、以康曆二年亡於越前、見
室町記、卽季隨從弟曰親清者是也、季弘四男長季豐
嗣、仕至國老、叔子重真分族、亦稱民部、是爲僕十
三世祖、而所謂重貞乃國老庶孫、於吾別祖實爲姪

孫、別附系鈔、如賜一覽幸甚、僕自少獨學、雖淺陋而拙於記述、僻性好古、逢事可稽、細經研究、動不量力、漫綴蕪辭、至以招君子之誚、亦惟從吾所好、務探確說、未始顧毀譽得失集乎其間、故今欲裁書以謝先生、無如其鄙文何焉已、雖然先生辱覽紀源、既所能知、曷埃僕言、於戲先生博愛、伏冀不以鄙拙棄却、如夫紀源亦施潤削、而序其事、以見還示、何貺如之、但嚮所致文成石刻、要在請先生承其監裁、故聊所勒、而謝辭懇到、賜以摸本、何以謝之、近又命男季直摹勒劉跋、亦出乎速、固雖拙醜不任清玩、績成前刻、故復拜進、更以賜覽幸甚、秋暑方酷、老體自愛、遠發期迫、匆々不盡、

兼誼書來、得審先生動履、殊慰傾想、且傳見返其讀、惠桂菴畫像一幅及家法點二本、謹領開緘、捧誦踴躍、如其貴稿、嚮辱蒙示、既感服其高妙、人競傳寫、莫不感吟、況今臨像、觀其所淨寫、一字一珠、龍蛇飛動、猶能使入想見師之沒齒所造精力於其畫像之上、後世當以是知宋學之爲首唱也、喜幸喜幸、世之只侈詞藻者、其孰能之、有德者必有言云、誠

其然哉、往歲僕聞先生德鳴東都、文振海內、私竊既雖有所企慕、遠方隔絕、無因一詣候親承顏色、只恨天之不假緣焉已、今幸由兼誼爲之紹介、遂獲蒙讀惠、實似天良緣、以少達鄙望、僕恒以謂苟得吾聞於時之賢者、以聞其道、則何樂易之、而今蒙幸於先生自讀及文成蹟之貺貽、則豈可併不寶之乎、因欲下加裝潢、永貽諸子孫、先生炤諒幸甚、初僕少時讀藤樹書、始知有王氏、稍追聞有其傳習、若全集之類、假以讀之益覺其學、有少所進、然猶尊崇朱學焉、故著紀源、而及桂菴事、師嘗使於明、肇傳宋學、其功雖偉而不彰、其德雖盛而不傳、於是乎僕雖非其人、采輯行實、求時之名家、至以請碑文於先生、不然鄙心以爲不足彰傳其功德於天下後世、而彼桂梧則與師善、其航明也、文成與之論學、臨別送序、今申請師碑、偶得其摸本於先生、不亦奇緣乎、且夫先生手鈔、師所刻大學今茲春仲爲跋、其日與年校文明刻、皆值辛丑、爲奇書尾、僕以之語人、鮮不嘆異、因按新註倭音同辛丑、若心中、而文成桂梧等既卒於各地、皆在三百餘年前、骨已朽矣、其相距也千有餘里、今僕之距先

生亦四百有餘里、而俱生乎數百歲之後、亘於數千里之遠、蹟之與乎隱顯、彼此如是、則有心中所固合、而然乎、抑又有須而然乎、將有數乎可謂大奇矣、高明其爲如何、餘陳前書、雖然陋拙特臨急便、不知所裁、計其日程、想當相達、匪翅杜撰狼謬文體、恐亦以至冒失、敬辭、伏請先生惟察其意、如辭不成、詳賜正教、猶誨弟子、何喜噲之、於今僕亦不得不裁書、獻贊以謝高德、乃托兼誼、聊表薄儀、如陳別格、只代拜趨耳、伏願先生哂而納之幸甚、秋冷將催、老體自愛、臨便草裁、萬炤諒焉、

八月五日

薩伊季安子靜頓首再拜

謹與一齋佐藤先生足下

當月三日之御禮去る廿五日届忝致拜見候先以御揃彌御安全珍重奉存候佐藤方より來書取合差上候處別て御嗜好之御もやう御書面溢れ御挨拶被仰開口至り大慶奉存候夫付細々被仰遣趣逐一致承知候御書牘も被遣且御好之儀共御座候付ては早速佐藤方へ差越申度候得共兩日跡林祭酒死去被致候付三五日は何事も不穩筈に付時宜見計又差越得と可頼入候先心緒旁申

上置候差越候上は

一陽明之書寫被遣候御謝詞 一桂菴畫之讚詞之御禮

一延德板之大學へ序文中に林家寫相成候上聖堂へ被納置候て誠に冥加之事往年家寶にも相成候間其趣にしるし給候やうにとの事

一碑銘被請合候御挨拶夫に付ては薩藩教授市來政正以下師員共始伊地知季安申談公族士庶人に至り致尊信候者其心を合致建立候趣被書記候やうにとの事

一漢學紀源に序文被相調候はおのづから之事其時は冊數追々御取立之筈候間其事も委敷可申述候まゝ冊數等記不被申やう可申入候

一右桂菴畫讚詞は當月初出立いそぎ便差下候間當分比御請取之筈被存候

一碑銘に御建立に付ては教授も至極同意之由候得共史館之向何様可有之哉かやう之義は至てやかましく被申由も承居候彼向御談合之上教授より被申出御免しを被得候方御丈夫之事と存候右様之事はおのづから御手扱は無之筈候得共存付候間申上

候

一市來山田之跋書二通は御聞及之通引拔置表装はい
たし替差上口御座候近日佐藤方へ差越候折持參か
やうに跋文有之趣にて鳥渡見せ置可申左候而いよ
い序文に調被申様頼入可申候

一佐藤方へ唐人之書御送り可被成哉之趣至て可宜哉
と奉存候間御遣置可被成候惣て出來候上差送可申
尤右之外之品は此方へ在合等之内相添時宜相應取
計心得御座候尤御謝品之儀は此方取計と存考も付
置候其上に眞筆被遣候は、目之眞之入たるも同前
至極可宜奉存候近日差越候折先貴様よりと申候て
唐扇子詩箋之類送り置央御音物之謝言程よく申述
置可申候尤被遣候御書牘は下書を私迄遣相談申入
候付不拾置持參候段直記之筋に申述候様可致候
外三ヶ條略す

右は疎略の御報ながら如此御座候猶追て便細々可申
上候恐惶謹言

七月廿九日

兼 誼拜

季安老兄机下

石碑之石タンタトウ御用ひ被成候哉此石は風に雨に

必ず磨滅いたし百年過候得ば字面不分明相成候福昌
寺現在之候御國中にては何方之石性保よろしく御座
候哉御吟味有御座度加治木石も磨滅も見得候得共タ
ンタトウよりは鮮に切あゝと保候やう存候必石揃を被
仰談度被存候差過候得共存付を申上候以上

七月廿九日

尙々寒冷相向申候間無御障様御防第一奉存候以
上

御細翰忝致拜見候御揃彌御安全珍重奉存候畫讃相屈
候處御心に合私に至り大慶此事被存候且此度官香石
摺唐扇子御煙草類入と紙包一つ無相違相届申候畫讃
御謝品之義は別紙申上通私へ御まかせ可被成候宜取
計跡首尾可申上佐藤江之御書牘に別楮にと御認別而
之都合存申候右之飛脚一昨々日夕方著候處一昨日は
御能に付早天より罷出夜入罷歸漸く昨日右御品も
受取申候間近日中御書牘并御謝品被仕立もたせ遣可
申候此間別紙之趣申込候間差越口達に而一通申述候
上聞違ひ申違ひ或失念も有之事候間手扣書も渡候處
致承知候との返詞有之御書牘は別而賞詞被申候儀共

別紙申上候通御座候折を以催促申入早出來上候様取計可申いづれ又差越候儀も度々可有之候間碑文等は愛日樓集撰入有之候様頼入可申儀はおのづから含居申候

外は略す

右は誠荒増ながら外にも無據用答有之候乍薄情御禮之御答迄如此御座候恐惶謹言

九月七日

兼 誼拜

季安雅兄机下

一延德板之大學御寫相成候御跋文并陽明先生眞跡之御寫御惠投被下候御禮且桂菴畫像御讃詞之御草稿拜見仕候僅之御字數に而一世之功被仰盡候御事感心も仕彼是御禮申上候

但畫像は跡達而差下候間不相届中御座候最早届嗚々難有頂戴爲仕筈と考居申候

一延德板之大學林家御寫相成聖堂へ御納に相成候はば外なき冥加之至御座候仍右之趣御序文に而も御書調被下候は猶更後年之證書相成子孫永代珍藏可仕候間願越申候

一漢學紀源御一覽被下難有被存候御禮申上候是又御

覽被下候趣御序文御調被下候へば別而難有被存候間奉願候

但漢學紀源冊數は是迄之學脉傳紀も綴立候間大部相成申候

一桂菴墳墓之碑文御請合被下候御禮申上候夫付興立之發志は當時敎授相勤居候市來政正以下之師員共伊地知季安申談公族大夫士庶人致尊信候者共申談伊集院兼誼を以御頼申上候旨趣御座候

右之通書付申候而致持參直に相渡申候尤口達迄に而者ヶ條多一々申辨がたく又聞洩されし義も可有之其趣演述之上相渡爲申事候

一佐藤氏被遣候御尺牘相渡候處一通先一覽被致候付拙詞之文章御通じ兼之筈候宜御推讀可給旨申述候處御三昧によく御調有之餘り雅詞過候得ば存分意を述べ候物と致感心候との事候

一碑文之儀彌相調可申夫に付字數多候得ば字樣小く相成道春之碑石さへ當分相成候へば磨滅勝にてよめ兼候たゞ字數少方調度存居候旨被申候間尤成事候左候て字樣大く深く彫板百年之後迄も磨滅なきやう取計可申旨答置申候夫に付咄に曰林家之此度

之碑文調候様にとの事に而綴立候處子共方之内此事も入度彼事も入度と被申省候事不相叶三千餘字および込り入候との事候橋口彦助殿など此間見被申候由何様の文章か見申度物候

一 貴所様より陽明之跋文迄も有之御石摺被遣相渡申候御尺牘并石摺も御遣被下御厚志之至厚謝申上くれ候やう被申候尤大學之跋文并陽明書之寫畫讀之下書被遣候御一禮之心に而唐扇子一箱唐筆一箱刻烟草御送被成候筋を以演述いたし差送申候厚御禮申吳候様被申候

一 畫讀御請取被成候由此度私へ御惠投被下候御品々等見計差遣可申候其通御心得可被下候延德板之大學序文漢學紀源之序碑文出來候上は御謝品之儀者御まかせ可被成候私方に而取計可申候必御心遣および不申候唐人書御持合も如何可被成哉之旨先達而被仰遣目之眞に相成可申必御遣可被成候

一 市山之雨士之跋文も致持參加様に調置候間可相成ば序文御調給度申入彼方へ渡置候蘆谷沙門之書拔事實に合不申候間桂菴傳中に辨申筈候先入一覽候趣申述候處得と見候而彼傳中にはさみ置可申旨被

申候

一 陽明之御摺本一通は自儘に致拜受候則裏打致秘藏候御禮申上候

先度申上候御贈品之内刻煙草と申行は認損候琉球製印籠一つに而御座候其通御承知可被下候煙草は私よりの贈品いたし申候事候

九月廿六日記

一 唐扇子 一箱 一 唐石刻書 二枚

一 唐墨 一箱 一 毛せん 一枚

一 大官香 一包

右之通差遣申候御遣品之内唐朱墨彼方可被致重寶候得共朱と云品者當時柄もしやの儀も難計扣置申候御煙草も先御預り同様格護仕置候事

九月廿六日記之

但毛せん持合候内より品替いたし候

御細書忝致拜見候御揃彌御安靜被成御座奉珍重候桂菴禪師畫之讃詞相届候由にて細々御謝詞被仰遣且御謝品も被遣兵書銘御尋之儀も被仰遣且御尺牘取揃私よりも貴所様至て御うれしがりの趣等相込以手紙申遣候然處他出跡其後此御殿へ被罷出候折いろ／＼何

よりの御品被贈下殊更御書牘之趣過當之趣有之近比恐入忝存候私より厚御禮申上吳候様にとの事候且平山行藏は兵書之儀等別紙聞書いたし被遣御品之義も細々申上候

一桂菴禪師傳記御再撰被遣昨日持せ遣候處留主にて請取書持歸候歸宅則見せ被申候半存候陳元輔一枚扣置候而便宜故貴所様よりと申候而烟草十包遣置申候尤寫本にて舊家之書庫之底よりさがし出候位故追々補正いたし此度差越申候未定之義御頼申上候筋相當忍入候得共右次第に候間御勘辨給候様にとの趣も申遣置申候

一中將様初夏より之御違例御長々の事にて御疲勞御増不輕御様體にて足之距所も覺不申候間不能細々用答已申上候 右恐惶謹言

十月二日

兼 誼

季君 玉机下

九月廿九日咄

武機捷錄

歷代武機捷錄は陽明著述之筋に而三冊程

但往昔之軍之勝敗を記し其註之やうに此條は

孫子の何の語に當れりと書付有之常の注解とは相替候

皇朝武機捷錄十三冊程有之後人の著述

右公義人長沼流之兵者平山行藏帳中深秘して存生中他に一切不差出仍て平山が兵書を講ずるや文義に不搆説も有之たる事と死後右之忤より借得熟覽いたし候處文章等かねて之體とは相替居候間后人之陽明之名を借著したる物と見及候由咄なり有少書物にて長州萩は御持合かと存候よしも咄被致候五代氏大かた右平山は懇意かと存候其人より咄共聞被申候半との趣に候返々も偽書と見及候由咄なり

一右次第候處

大慈院様御尊柩御下向に付兼誼老御供之便より左之通被爲贈越候由に而相届候上封包紙

佐藤捨藏殿より伊地知小十郎殿へ被遣候品

贈物謝詞 大學押付寫先林家口好當時混雜中

〔七八字程蟲損〕碑銘は早出來可申候紀源之分は些申分も有之との事

唐紙一束 紬島一反 金子三百疋差送候事

右惣體御書撰被下候上御謝禮差送吳候様に預り置

候得共此節不時罷下に付前以差上置旨にて遣置被
吳候よし兼誼老口述聞置尤彼方持合を爲被遣との
事也

文明中、有桂菴禪師者、崇信宋學、當時薩人伊地知
左衛門尉、受學於禪師、始榮大學章句、寔本邦刻新
註之嚆矢也、歷年已久、再刻本亦爲罕邁、曩者伊地
知季安、偶獲此本、介人寄示之余、余又轉示司成
林公、公奇之命摹謄收於學館、今還原本、因并及
此、俾之永珍襲云、

天保辛丑天開月下辭

包紙

石榻

二種

坦拜

江都佐藤坦手識

佐藤坦印
一齋居士

一種は王文成矯亭說にて陽明王守仁識と有し石摺也
大立物に卽裱裝之

一種は柳葉書法元僧中峯墨蹟は了

天保十年水藩に而石榻にせしもの也

一筆拜呈仕候御出立後委細御左右承不申候得共中途
無御恙御著被遊于今御機嫌能被遊御座候半恐悅至
極奉存上候云々

一御出立後何も珍事無御座候得共佐藤一齋先生御旗

本に被召出貳百俵被仰付聖堂添役に被相成近日中
昌平館へ引移有之筈御座候

一古賀先生は當月十六日公方様より御用に付御出有
之候處布衣之位并百俵之御加増被仰付候且先生御
嫡子も百俵之御加増有之由御座候誠に門人中大悅
之至御座候

一浪人其外諸國之儒者も貳三人御召出し有之由粗其
噂にて御座候就而者日に増學問大流行に而末頼母
敷御座候古語に士を蓬戸に取り才を岩穴に拔と申
事御座候只今の御代をも可申歟先は善政の行る一
端に而御座候先此旨御安否爲可奉窺荒々如此御座
候猶期來年陽春之時候頓首再拜

丑十二月十九日

河添甚之亟再拜

伊集院喜左衛門様執事

行充

自伊兼誼西備間先生道德籍甚、兼受其手跋大學
古本及所惠矯亭說石摺等、尋觀河添生寄兼誼書上
又審、方今大君聖明、禁抑奢侈、以革時弊、挽回享
寬之治、乃文乃武、政教日新、而擇材於山林、拔士
於巖穴、乃我先生亦既擢朝士、副昌平學、門徒益盛
倍、獲於嚆昔、天下之學士、聞風興起、咸欣々然莫不各

不_レ砥礪者、僕雖_二鄙愚_一、匪_二翹聞_一之、踴躍欣慕遙慰_二傾渴_一、爾來無_二日不_レ思_一、裁書以謝_二恩惠_一、且賀_二顯達_一也、然不幸而會藩之有_二大喪_一、兼誼父子亦西、則不_二徒紛擾_一、無_レ遑_レ裁_レ之無_二亦緣_一乎、呈_二諸先生左右_一、是僕所以久失_二禮於左右_一也、抑僕之於_二先生_一也、得_レ以_二奇緣_一叨蒙_中不棄恩幸_上實厚矣、而於_レ今則音問缺、然至_レ經_二數月_一、先生其謂_二之何_一、顧念_二焦胸無_レ辭_一遁罪、伏請_二海恕_一、今復幸會_二藩士松山某_一削髮_二祿士_一號_二隆阿彌_一往_二上芝邸_一、渠掌_二茶事_一崇_二信王氏學_一、與_二僕來往_一、所_二相與慕_一先生之高德、欲_レ親承_二尊教_一、眞悟_二本然_一、良知於吾胸裏、以切實進步_上者也、當_二必偷_一閑走_二謁門下_一、先生博愛、辱接_二引之_一、渠須_レ質問、得_レ以警發有所_レ著_レ力、若其然、則不_二但渠獨喜於其心_一、野人如_レ僕、以_レ未_レ嘗承_レ顏接_レ辭爲_レ恨者久、則竊得_レ賴渠聞_二其德音_一亦惟喜_レ之、實不_二以異_一於躬自造謁、伏願先生許容幸甚、跋文石摺既悉謹領、皆如_二來教_一、就_レ中跋之所_レ言寔適_二鄙懷_一、令_二夫古本特增_一聲價、感恩鏤骨、至_二喜不_レ寐_一、若_二夫王蹟所_レ未_レ嘗觀_一、乃既裱裝、併爲家寶、永其珍襲、實如_二貴文_一、而於_二王蹟_一、時懸_二壁間_一、仰以讀_レ之、如_二文成之爲_一人亦可_レ觀_二於欣慕中_一、頗至_二以有_一所_レ提醒_一焉、何賜如_レ之、

何賜如_レ之、其諸所_レ欲_二謝且賀_一、皆托_二松山_一、在_レ煩_二渠舌_一、昭諒幸甚、秋爽稍催、尊體自愛、臨_レ渠告_レ別、匆卒把_レ筆、鄙情不_レ盡、

八月八日

西薩伊季安頓首再拜

謹與一齋佐藤先生執事

附言

一前年所_レ使_二兼誼_一請_二於先生_一、桂菴碑文、未_二脫稿_一否、聞_二諸伊氏之子_一、先生之別_二渠也_一有_レ言、曰、徒_二居前_一後、特羈_二紛擾_一、未_レ逞_二構思_一、然稍就_レ閑、將_二以起_一艸、僕聞而謂、尋值_二盛暑_一、恐當_二老體復難_一屬_レ文、故慮_二松山_一到日必在_二秋冬_一、又使_二渠候_一節以申_二前請_一、僕等自嚮辱聞_二尊諾_一、東向遙拜、無_二日不_レ俟_一、伏願_二先生憐_一察鄙情、力_レ老起_二稿幸甚_一、且如_二紀源_一、陋拙杜撰、雖_二固不足_一示_二先生等_一、乞_二之潤色_一、只願若得_二少加_一補正、以見_二還賜_一、何幸如_レ之、伏乞_二垂憐_一、一今也弊藩會_二中山王遣_一賀慶使_一舍_二於府館_一、將_レ以_二近日從_一駕發行、念當_二入貢_一江都亦不_二甚遠_一、聞_二諸疏人_一、正使善_二書_一、頗有_二材學_一、多畜_二奇編_一、於_二其從_一隊亦有_二書家數名_一、而鄭元偉最見_レ稱云、乃嘉調男也、故乞_二其書_一二通_一、聊獻_二左右_一、姓名別具、若賜_二覽觀_一、

以供_ニ清玩_ハ幸甚、

伊集院喜左衛門様

用書外に包物一

佐藤捨藏

一簡拜啓爾後御疎音打過候秋冷無程新霜と相成可申
候處愈御安格可被成御起居恭悅奉存候次拙老無異御
放意被下度候然ば兼々伊地知君より御頼之桂菴師碑
文段々延緩及於今日候拙事も客冬より身分替り望外
之仕合扱々老境不堪事恐悚不少候右之次第にて精々

此節入用之事有之候別冊指出し申候御覽分け被下候
へば相分り申候事本文此王之次より今日迄之名字手
數等承知致し度候少し急ぎ候間指出し候舊文之例に
倣ひ御書續き御頼申候御便之序に少しも早き方尤妙
に御座候乍御六ヶ敷御吟味所希に御座候又江戸表迄
相届候ても爰許にて遲滯之事も可有之哉に付沈滯無
之様御頼申候右等草々布字如是御座候餘期後鴻可申
整候不能一々

八月廿二日認

坦 拜

喜左衛門様

桂菴禪師碑銘稿

桂菴禪師碑銘

取可申候付御勝手次第に可被成候行草略書に候間碑
面之所貴國能書之仁或琉球能書之人になりとも御認
直し碑文御仕立可被成候此方より上げ候は草稿之積
に御座候書法等能々巧者之人へ御相談之上具體に御
取立可被成候將亦漢學紀源久々留置辱存候寫し可申
と去年より舍居候處へ前文之身分一變にて誠に事多
に相成其所へ及不申候何卒御出來之上にて一部御寫
せ御惠被下候事は相成間敷哉先々今便返完仕候間一
と先伊地知子へ御返し被下度候扱又琉球國世々之路

室町氏之季、文學掃_レ地、縉紳博士遞世衰替、而浮屠氏
專秉_ニ文柄_ハ、是以_ニ遺明之使_、率在_ニ五山僧徒_、且當時
博士家嚴_ニ守漢註_、不_レ許_ニ濫用_ニ新說_、則世欲_レ講_ニ程朱
之學_、者、必懸入_ニ縉流_、髡_ニ其顛_、而儒_ニ其學_、者往々而
有_レ之、在昔薩摩國有_ニ一禪師_、曰_ニ桂菴_、字玄樹號_ニ島
陰_、本貫周防山口邨人、不_レ詳_ニ俗族_、童卯往_ニ洛龍山_、
從_ニ雙桂和尚_、受_ニ内外學_、嘉吉二年師齡十六、削髮登_ニ
戒壇_、儒_レ學則篤信_ニ宋說_、又能_ニ文詩_、應仁紀元師中

選使明國、入見憲宗、宴賓頗渥、居凡七年、遊蘇杭間、親從鉅儒、攻朱子經學、尤選書蔡氏傳、其於詩章、則與彼士文士相頡頏、每一詞出、藝林傳誦、稱其有盛唐之風、文明五年歸報、使事當是時、京師兵燹騷擾、不能譯學、於是暫避跡石州、亡幾又赴西州、是時東肥菊府新置覺館、崇儒學、師往而客之、既而薩摩國龍雲玉洞禪師、暨其國老數輩、薦師於國主公、公乃厚聘請師、師遂來薩摩、始謁公於市來、公一見服其雅量、特加敬禮、乃命剏一寺於鹿府、住師於此、因號其寺曰島陰院、曰桂樹、師又與國老伊地知周防守重貞、善、因胥議始刊大學章句、實皇國印行新註之嚆矢也、長享二年遷寺於城西、爲今城北射圃阪地、初寺瀕海岸、善爲風潮所墮、所至是更地稱呼如故、十月奉命適日州、飫肥、董安國席、先是明商貢船多舶飫肥、公遣族人忠廉鎮其土、使師兼掌簡牘、自後數往數還、至明應九年、欽奉欽帖、主建仁寺、尋轉南禪寺、居週期、辭歸於薩、著一書辨經註漢宋之同異、又以國字解朱註例、定國讀式、既乃築方丈於伊敷邸、名曰東歸菴、薦弟子釣雪、使之代董安國席、而自老於菴、以文

龜五年六月之望、溘然示寂於東歸菴、壽八十二、掩骸於菴地、曩者薩藩士、伊地知小十郎季安、遠寄其所著禪師傳、且謂桂菴雖浮屠、而於吾藩、則爲儒學之宗、矣、星霜已久、人莫能知其由、因與同志者相謀、將戮力樹一碑、以傳其跡、碑記之筆、敢以爲請、願余不文、固宜辭而詞意懇款、遠方辱屬、不吝峻拒、乃漫撮其一二經緯之、余嘗爲禪師像贊、今復書之、於此以代銘曰、

吾道一貫 無隱乎爾 身披禪衣 心服闕里
洛派東漸 寔自師始 心月千古 桂影遠被

天保十三年歲次壬寅七月下浣

昌平學教官 佐藤坦撰文

八月廿二日先生御認伊集院喜左衛門江爲被下尊翰并奉願上候桂菴碑文等此節難有御撰稿被成下飛脚著之折柄喜左衛門事城下より西南七里餘伊作と申所之溫泉江差越居都而彼方へ相届則喜左衛門にも難有拜誦仕寔に宜敷御綴立被下至極感服仕候旨右の旅先より昨廿八日私方へ轉遣私事當月六日より小熱等敷相煩病臥之體罷在候得共飛立計難有直に拜讀仕候先以先

生益御康健被遊御座恐悅御儀奉存候碑文之儀は多年之宿望御座候處誠に簡潔無洩目御精選被成下頓と願心成就仕何共可奉謝辭も無之様御座候依之今日便より何ぞ輕品右御草稿無相違拜領仕候御禮之印迄進上仕度山々奉存候得共喜左衛門は罷歸私には病中旁不都合に御座候故重疊乍憚此段先御答禮爲可申上俾共江代筆爲仕御手前様迄如斯御座候猶細事は喜左衛門申談十月末頃より可奉得尊意候其内可然様御執成奉願候恐惶謹言

九月廿九日

伊地知小十郎 季安〔花押〕

捨藏様御用人中様

追啓差上置候漢學紀源等御取揃御返却被成下無相違拜掌仕候將亦御草稿之内桂菴遷化文龜五年と被遊候得共是は永正五年にて御座候其御方様御文集も御改置被下度乍卒爾此段も願上候旨宜敷奉願候已上

別冊之通近代之中山王即位并死去年月等書續き早々爲差登吳候様佐藤先生より伊集院喜左衛門殿方迄被爲頼越當分伊作湯治に付私より可成は相糺書入致進

上候様喜左衛門殿より昨日被頼遣即手を付申候得共今日之飛脚便難逢間に誠に殘多次第に御座候右に付今般王子用達に而被致出座候田原直助殿方へ私兼而書集置候南聘紀考と申を遣置候間右三冊之内へは大概尙穆王已來之事も書置たる様覺罷在候間此狀相達次第直助殿へ御口合若被持登居候は、別冊に直御書込早々先生方へ一刻も早く御届被下度差急候儀分而頼來候付此旨乍御勞煩宜敷様御頼申上候已上

九月廿九日

伊地知小十郎

松山隆阿彌殿

右之通適被頼越候處糺方間に逢兼殘心考候處新納矢太右衛門殿見舞にて琉館へ手寄有之可糺吳と之事に而左之通

尙敬王之子

尙穆王

寛政六
乾隆廿一年子冊封同五十九年
寅四月八日薨壽五十六年

元文四未生

尙益王之子

尙溫王

寛政十二
嘉慶五年申冊封同七年戊
七月十一日薨十九

尙益王之子

尙瀨王

文化五
嘉慶十三年辰册封道光十四年
午五月廿九日薨壽四十八

尙瀨王之子

尙育王

天保九
道光十八年戊册封當歲
三十

寅十月六日

右やうに相知候間喜左衛門殿へ近便次第御遣給候やう頼遣也

昌平學教官一齋佐藤先生撰文

桂菴禪師碑銘

付箋
厚聘請師ノ下ニ〇十年二月師遂來薩摩云々

特加禮敬ノ下ニ〇明年命掬ニ一寺於魔府ニ云々

院曰桂樹ノ下ニ又十三年夏師又與ニ國老伊地知周

防守重貞ニ背議始刊ニ大學章句於魔府一實皇國云々

右様年月地名など明白知居候事は可成御修辭御載せ

被置被下度奉願候事

季安題之

「先度被差下候碑文七百五十一字に而候處百七字補入之願亦々頼遣候處先生十字被相増八百三十九字にして被差下候事」道光廿三より鄭元偉書迄八百六十八字

此朱書之通附札を以寅十二月朔日飛脚便より松山隆阿彌殿宛にして一齋先生へ今一往御補入被下候様頼遣同廿六日江戸松山氏方へ相達候由に而同廿七日早天松山直に昌平之先生宅へ持參相願置被吳候由左候處直に手を付同廿八日先生より芝郎迄以使者爲持給候由

桂菴禪師碑銘

室町氏之季、文學掃地、縉紳博士遞世衰替、而浮屠氏專秉文柄、是以遣明之使、率在五山僧徒、且當時博士家嚴守漢註、不許濫用新說、則世欲講程朱之學者、必遜入緇流、髡其顙而儒其學者、往々而有之、在昔薩摩國有一禪師、曰桂菴、字玄樹號一島陰、本貫周防山口邨人、不詳俗族、童卯往洛龍山、從雙桂和尚受內外學、嘉吉二年師齡十六、削髮登戒壇、有餘力輒聞東山惟正慧山景召講授四儒書則篤「益」信「朱」說又能詩文、應仁紀元師中選使明國、入見憲宗、宴賓頗渥、居凡七年、遊蘇杭間、親從鉅儒、攻朱氏經學、尤邃書蔡氏傳、其於詩章、則與彼土文士相頡頏、每一詞出、藝林傳誦、稱其有盛唐

之風、文明五年歸報、使事、當是時、京師兵燹騷擾、不能譚學、於是暫避跡石州、亡幾又赴西州、是時東肥菊府新實、餐館、崇儒學、師往而客之、既而薩摩國龍雲玉洞禪師、暨其國老數輩、薦師於國主公、公乃厚聘請師、十年二月師遂來薩摩、始謁公於市來、公一見服其雅量、特加禮敬、乃命狎一寺於麿府、住師於此、因號其寺、曰島陰院、曰桂樹、十三年夏、師又與國老伊地知周防守重貞、善因胥議始刊大學章句、於麿府、實皇國印、行新註之嚆矢也、長享二年遷寺於城西、爲今城北射圃阪地、初寺瀕海岸、善爲風潮所墮、至是更地、稱呼如故、十月奉命適日州、飲肥、董安國席、先是明商貢船多舶、飲肥、公遣族人忠廉鎮其土、使師兼掌簡牘、自後數往數還、弟子益衆、時新刻大學盛行、板亦磨滅、於是至延德四年、師復乘諸桂樹禪院、至明應九年、師如洛、欽奉欽帖、主建仁寺、尋轉南禪寺、居週期、未幾辭職、明年歸於薩、師嘗精訂國讀、以授其徒、誘以和點、至是別著一書、辨經註漢宋之同異、教以端依宋說、又以

〔附箋〕儒釋綜究、著編世傳、薩人月渚、受學於師、授同州一翁、相繼董安國席、一翁授日州文之、文之聘於麿府、狎大龍寺、隅州如竹等受焉、皆繼流而傳、宋學、如竹授日州愛甲喜春等、自文之侍講黃門公、其徒遞擢侍讀於時之世子、有大裨于國治云

「九十四字別冊ノ九十四ト合セ百八十八字ヲ増セバ原文ノ二十九字ヲ削テ九百十字ト爲リ餘リ字數モ多クナル故是ハ書入不申候如何可仕哉」

字解、朱註例、定國讀式、皆梓行久矣、既乃築方丈於伊敷邸、名曰東歸菴、薦弟子釣雪使之代董安國席而自老焉、於菴以永正五年六月之望、溘然示寂於東歸菴、壽八十二、掩骸於菴地、儒釋綜究、凡所著書、有島陰漁唱及文集雜著、和點法等云、曩者薩藩士伊地知小三郎季安、遠寄其所著禪師傳、且謂、桂菴雖浮屠、而於吾藩、則爲儒學之宗矣、星霜已久、人莫能知其由、因與同志者相謀、將戮力樹一碑、以傳其跡、碑記之筆、敢以爲請、顧余不文固宜、辭而詞意懇款、遠方辱屬、不容

峻拒、乃漫撮其一二、經緯之、余嘗爲禪師像替、今復書之於此、以代銘曰、

吾道一貫、無隱乎爾、身披禪衣、心服闕里、洛派東漸、寔自師始、心月千古、桂影遠被

天保十三年歲次壬寅七月下澣

昌平學教官 佐藤坦撰文

「凡七百五十一字

右ニ再願ノ字數百七ヲ入レ原文ノ二十九字ヲ削レバ八百二十九字ニ爲ル也」

右之通朱書之分と一往頼遺改補いたし、貫度新納伯剛宮内清之進五代直左衛門殿にも致持參篤と及相談其上山田有裕市來教授などにも吟味相頼何ぞ存寄無之旨承知伯剛被申候は右之成に而は大先生之文を此方より相直様有之に付外に書付遣可然と之事承尤候間此末に冊子有之通朱書之條は某々附札を以頼越候事

伊地知小十郎様

山田十介

彌御佳健奉賀候先日は遠方被懸芳慮御枉駕不淺奉謝候先夕御請取申上置候一冊得と拜見教授江も差出同

斷熟覽被致候處一々御出入之御趣意御尤千萬猶又全篇たしかに相成申候哉と奉存少も外に存寄候様無御座候其趣に而江戸江御頼越被成度今日園田生江託し返上いたし教授よりも右之趣申上候様承申候近日拜眉萬可得御意如此御坐候頓首

十一月廿二日

先生御老體且官暇も不被爲在之由候處如此長篇御撰稿被成下誠以難有何共可奉謝詞無御座殊更昌平學教官之御官名萬人尊敬仕事に而末代迄之御威光桂菴も冥加に被叶候と野拙之欣躍無申計寔に多年之大望に御座候處頓と此節成就仕先便粗御禮申上越通御座候左候處先生御撰爲被下碑文相届候段最早府下中も追追申觸體承及候間決而石刻いたし建方仕候は、藩中之好事家競寫可申は案申左候得ば此度之碑文は千歲不朽之記錄に相成可申全體之御文章は何れも打寄感誦仕一句も容喙申者無御座候得共桂菴之行實に付好古之僻欲に而相考候へば今少御收載奉願度事有之重疊乍恐初而桂菴吾藩へ爲參年月又は寺立候年紀或

は大學章句致印行候年紀且地名或は桂樹院にて致再刊候年紀或は明應十年家法和點著述爲有之大意并久敷梓行に成居候譯共は野拙多年古本を搜集只今は證據も明白御座候得共兎角私體之綴置候文は一旦之反古にて無程及漚滅儀差知れ是迄盡力糺得候事蹟年月等先生此度之御撰文に被爲洩候而は後人之信用も薄く旁永年之遺憾と奉存誠に乍恐今一往再願之念望有之直に其趣意を貴文之句間へ漫に浮帖を以奉願候此

義何其恐惶之至乍存貴様より先生執事衆迄御口演被下候爲之御手扣計に如此して差上候間不苦向之御都合にも御座候はゞ可成早目御持參被下右之成行を以御再願被仰立可被下候畢竟如此申上も先生爲被下尊翰にも御草稿に候間愚意に不應候事は其文致増損候而も不苦候遠方之事故往復手間取候付勝手次第仕候様細々御丁寧被仰下誠に御私もなき御大量之程何れも感服に而爲奉讀仰候事御座候夫迎致再願度事目於此元陋拙之私共自儘に布を錦に繼付候事は迎も難及力何れ先生之御裁定を不奉願候而は私共は勿論惣體藩中人氣之落著にも相叶不申事ゆへ再重恐多御座候得共此旨師員之者共にも申談貴様迄内分御賴申上

候間御同意於被下は萬々宜様御願見可被下候左候而相叶向に御座候はゞ可成は來春正月末二月始方に御差下し被下候様御願叶得被下候得ば重疊難有子細は琉人立之列能書之鄭元偉杯來春下著に而出船迄之間に賴合せ認立申度山々頼心御座候間此段も宜被仰願可被下候何も萬々奉願候以上

寅十二月朔日

伊地知小十郎

松山隆阿彌様

桂菴禪師碑銘

此通附札迄も礪永周徳丈相願致淨書十二月朔日使遣之

室町氏之季、文學掃地、搢紳博士遞世衰替、而浮屠氏專秉文柄、是以遺明之使、率在三山僧徒、且當時博士家嚴守漢註、不許濫用新說、則世欲講程朱之學者、必遞入緇流、髡其顙、而儒其學者往々而有之、在昔薩摩國有二禪師、曰桂菴、字玄樹號三島陰、本貫周防山口邨人、不詳俗族、童卯往洛龍山、從雙桂和尚、受內外學、嘉吉二年師齡十六、削髮登戒壇、儒書則篤信宋說、時間東山惟正慧山景岳並講四書禪餘經學得益不尠又兼文詩、應仁紀元師中選使、明國入見、憲宗宴資願渥、居凡七年、遊蘇杭間、親從鉅儒、攻朱子經學、尤邃書蔡氏傳、其於詩章、則

與彼士文士相頡頏、每一詞出、藝林傳誦、稱其有盛唐之風、文明五年歸報、使事、當是時、京師兵燹騷擾、不能譚學、於是暫避跡石州、亡幾又赴西州、是時東肥菊府新賓、黌館崇儒學、師往而客之、既而薩摩國龍雲玉洞禪師、暨其國老數輩、薦師於國主公、公乃厚聘請師、師遂來薩摩、始謁公於市來、公一見服其雅量、特加禮敬、乃命剏一寺於麗府、住師於此、因號其寺曰鳥陰院、曰桂樹、○師又與國老伊地知周防守重貞、善、因胥議始刊大學章句、○實皇國印行新註之嚆矢也、長享二年遷寺於城西、爲今城北射圃阪地、初寺瀕海岸、善爲風潮所墮、至是更地稱呼如故、十月奉命適日州、飫肥、董安國席、先是明商貢船多舶、飫肥公遣族人忠廉、鎮其土、使師兼掌簡牘、自後數往數還、○弟子益衆、時新刻大學盛再乘諸桂樹禪院、行板亦漫漶、至延德四年、至明應九年、如欽奉鈞帖、主建仁寺、尋轉南禪寺、居過期辭、歸於薩、管精訂其徒至是別著一書、辨經註漢宋之同異、○宋依又以國字一解、朱註例一定國讀式、皆梓行之、既乃築方丈於伊敷邸、名

曰東歸庵、薦弟子鈞雪使之代董安國席而自老於庵、以永正五年六月之望、溘然示寂於東歸庵、壽八十二、掩骸於菴地、〔所著書有鳥陰誦唱及文集雜著若干卷〕曩者薩藩士伊地知小十郎季安、遠寄其所著禪師傳、且謂、桂菴雖浮屠、而於吾藩、則爲儒學之宗矣、星霜已久、人莫能知其由、因與同志者相謀、將戮力樹一碑、以傳其跡、碑記之筆、敢以爲請、不容峻拒、乃漫撮其一二、經緯之、余嘗爲禪師像贊、今復書之於此、以代銘曰、吾道一貫、無隱乎爾、身披禪衣、心服闕里、洛派東漸、寔自師始、心月千古、桂影遠被、天保十三年歲次壬寅七月下浣

昌平學教官佐藤坦撰文

附箋 自後數往數還の下に

弟子益衆、大學盛行、板亦磨滅、於是延德四年師復築桂樹院、明應九年師如洛、欽奉鈞帖、主建仁寺、尋轉南禪寺、未幾辭、明年歸薩、師嘗授徒、誘以和點、至是別著一書、辨經註漢宋之同異、教以依宋說、又以國字、解朱註例、定國讀式、皆梓行久矣、既乃築方丈於伊敷邸、名東歸菴、而自老焉、以永正五年六月之望、云云、

掩骸於菴地の下に

儒釋綜究、凡所著書、有_レ鳥陰漁唱及文集雜著和
レバ此マ、ナレトモ是雜著中ニゴモリアルナレバ割ルモ可也
 點法等云、曩者薩藩士伊地知季安、云々、

右の段と師の行實に付難洩事に御座候間可成御修辭に御載せ被下度左候而釣雪之件または同名周防守并私俗名等の字數貴文之内より右體仕候而者刪申意に相當至極恐多御座候得共餘り再願之字數增候故右之御賢慮を以宜様御増損被成下度萬々奉願度御座候

八九兩月貴簡追々相達致拜見候先以窮陰凍寒此書達候比は春暖にも可相成哉愈御安裕被成御起居拜賀不少候然ば兼々御賴之桂師碑文大延引に相成過日起稿上候所御喜被下於拙亦欣然不少候其内尊意之條附札被遣則其趣に而改訂致し候御見分被下度候扱又松山子時々被見御噂巨細に致承知候先達は貴恙之由最早此節御全快と奉察候尙御容體致承知度候先達松山へ被托鄭元偉書二枚被惠辱毎度見事之儀永藏可致候其後喜左衛門子轉達南海布一反是亦御入念之謝痛入存候將亦琉球王年譜之事御考被下右は交友中著述物に

入用有之無據御賴申候所間に合於拙重疊謝入申候先は兩次之却酬迄草略如此御座候尙期永陽萬可申聲候頓首不一

嘉平月念七書

伊地知小十郎様

坦〔花押〕

去る朔日八日兩度之御細翰去る廿六日到著忝致拜見候甚寒之節御座候得共愈以御勇猛被成御座候由奉珍重候扱先度より御煩之由致承知候間何様之御事かと存居候處頓と御本復之由何とも目出度奉存候爰許相變儀も無御座琉人諸首尾無滯相添先日出立殊に暖氣勝に而都合よく御座候此節之王子殊之外評判よろしく候然ば桂菴老師碑文之儀に付被仰下趣承知仕候間則廿七日未明より打立佐藤氏江差越申候御紙面之趣を以相賴候處宜御受合に御座候來正月中旬迄には彌出來給との趣に候左様御納得可被下候左様而筆執は先生も鄭元偉と折角被仰候間何卒左様御取計被成度候尤石刻相濟候上石摺に御調拾枚以上御上せ給度との事に御座候御自分之入用に而も無之林家は勿論諸大家方其外御老中與江も事に寄り候はゞ可差出との口上に候與と申は將軍江被差出考と私には承居候依

而私申候は小十郎先生様江御願申上るも桂菴老師證跡天下後世江顯度所存之合に而無和理御願爲申歟と存候間左様御座候は、尙又難有可奉存候に付其段は則可申越と申置候に付乍御面勸礙永杯江御摺らせ拾四五枚も御遭被遊度奉存候尊公様是迄御信實之一義尙更無殘所歟と私にも御歡申上候云々

別啓桂菴老師碑文建立に付而別紙之通日本國へ相廣申儀に御座候に付おのづから上様方江も相聞へ可申賦御座候付近比御手拔は無之筈御座候得共敎授方杯へ御相談之上御屈沙汰有之度儀と奉存候一齋先生咄に而は諸大名方より御咄に而も有之此御方若も御存知無之而は不都合之筋に被考申候おのづから其御考とは存候得共存付候儘不顧憚此段申上候

十二月廿八日

松山隆阿彌

伊地知小十郎様

伊集院喜左衛門様

佐藤捨藏

前月二日御封發貴簡相達拜見仕候先以凍寒時節此書達候頃は剩寒に可相成愈御安裕被成御起居恭賀奉存候然ば先達桂師碑稿出來伊地知生へ御轉慶被下先方

喜悅之由於拙亦欣然不少候右爲揆摺南海葛布一反被惠辱仕合尙宜御謝意被下度候且又琉球王年譜之事御吟咏被下辱仕合大略相分大慶仕候先般松山隆阿彌出府時々手前へも被參候に付同人よりも伊地知容子傳承仕候何卒碑面書は鄭元偉認候様仕度候同人之蹟至極見事に被存候間貴君尙御周旋可被下候先は右等布酬旁如是御座候餘期來陽候恐惶頓首

極月廿七日

垣

伊集院喜左衛門様

昨廿八日佐藤氏より態々以使介御狀并碑文修辭相濟爲致被遣候間難有旨申遣置候年明候は、差越一禮可申候御受取御安心可被下候右に付別紙申上通り日本國中江相弘り可申候に付石摺不調内に而も先生近付之大名方江咄共有之碑文之草稿杯世間江此御方様へ外様より御咄も可有之其折若も御存じ無之而は旁不都合候半と心配に及申候間今朝平田直之進殿へ差越及相談御國許伊集院氏内々爲被申越筋に而夫々之御方江御廣め置被下候様頼置候兩日中碑文も寫置候間可差上候に付御内覽に相成居候は、御都合可宜哉と願置候左様御聞置可被下候伊集院氏へも其段御

取合之折御申置可被下候喜左衛門殿江も一筆相認候得共封方相濟候間別に不申越候尊公様より何分御名を侵し候取計御免御受可被下候尤佐藤氏より喜左衛門殿江一封も遣置候今日段々取込亂筆申上候御高免可被下候早々

十二月廿九日

〔花押〕 九拜

右通松山より被申越候間則喜左衛門殿にも申達候處隨分宜敷候猶亦近々種子島氏出立に付細々成行傳言可申造との事也

二月朔日

季安記之

從先生様被成下舊冬廿七日尊翰去る廿九日相達し難有拜讀仕候新春愈御勇健御超歲可被爲成御起居恐悅御儀存候然ば先般御著撰爲被成下桂菴師碑文事實に付再重乍恐今少奉願度松山迄伺遣趣御座候處御聞受被下殊更速に御改削被成下千萬難有頓と宿望相叶何も心殘無御座其上琉人も未著仕彼是都合能手當方申付置如尊諭鄭元倬下著仕候はい滞館中可成筆取爲仕候筋喜左衛門杯申談計様可有御座左候而石刻成候上は摺調先生様へは固より奉備高覽内存御座候處今度

松山へ御傳聲御座候由に而拾枚以上も可差上候左候はい林家は勿論諸御大名様方迄も爲備御覽候御心寄之御用も被爲在向に申越誠以心外難有冥加に付而は嘸庵も黄泉より深可被奉謝筈と欣悅乍存何分にも私體賤名無存掛と驥尾に相付汚顔之至彼は御荷恩難報仕合御座候何れ萬端成就之上心事可奉謝先右相達候御禮答迄申上度勿々如斯御座候成合候様宜御披露奉希候恐惶謹言

二月朔日

伊地知小十郎

拾藏様

御用人中様

季安〔花押〕
如此淨書は周徳子へ相頼二日
飛脚より松山へ頼遣候事

桂菴和尚碑石建方之伺并闕里楷坏之一件

一桂菴和尚は周防山口之産に而幼年より在洛遂出家五山之僧徒にも無雙之學才有之應仁元年使僧に被相撰大明國江渡海七ヶ年滯留於彼地新註學問仕文明五年歸朝同十年御國江御招請翌年慶府江桂樹院御造立に而圓室様は勿論諸士迄も學問流行に付同十三年大學章句被致板行延徳四年右之板摺禿又又再板迄も被致且和點之仕様等も明應十年叮嚀假

名書にして被爲教導其比迄大學も古註之通タイ學とよみ在親民之親もシタシムと爲讀來由候得共大は濁てダイとよみ親もアラタニスルと讀候類段々爲被教弘由然ば程朱學に付而は日本國中の開祖に御座候處慶長以來他國之説には皆惶窩羅山を第一開祖にして書立候物天下に流布仕桂菴事跡次第に消行候事私式乍不入儀多年殘多相考惣體日本に漢字被相行候次第共相糺漢學紀源と名付四冊計綴掛置候草稿御座候間右桂菴之延德板大學古本其外同人被書置候和點之法式等板本寫本共に相添遣去る丑年伊集院喜左衛門殿高輪詰之節伊藤捨藏御式日に被罷出候時分入一覽もらひ可成ば末代之證據に碑文等賴書候事は相叶間敷哉頼〇せ申候處御國より宋學爲始事共は初日も聞候由に而緩々被留置私書綴候趣彌信服に而至極被及感心大學は老人手自募寫迄いたし成行委敷跋文被書述其上林大學頭様江も被差出候處是又珍敷との事に而寫方迄御座候由是も其趣跋書き被致遣其比迄は捨藏殿も林家之學頭に而其後御旗本江貳百俵に而被召出聖堂添役被仰付昌平館江爲被引移由に而旁混雜故碑文被

綴吳候事可相調哉無心元向に承及居候處當正月三四月ケ月目に成就いたし被遣最初私之考は右體名儒に賴書候は往々日本國中にも一統尊信之新註學文根本は薩摩より首唱爲仕證據に可相成との遠見迄を以賴貫候處此度疏人立之鄭元偉に碑面爲書候様取計石刻に成候上は拾枚以上石摺にして爲登吳候様左候は林家は勿論兼々御心安出入被仕候諸大名様方御老中様依事候は奥江も可被差上含之由存之外成事共松山隆阿彌へ傳言を以被賴遣就夫右段々之草稿等被爲見候御大名方より若哉此御方様江御尋等之有無も難計儀と隆阿彌心付候而舊冬廿九日平田直之進殿迄成行を以御都合次第には御内聽に被入置被下向之事は相叶間敷哉碑文も寫添極内分爲願置との趣申遣私式何共存外奉恐入事に成立至極心配仕候尤碑石建立之儀は捨藏殿撰文被調次第に市來教授其外助教之衆江萬事御世話可給旨最前より委敷相賴置館中其々壹々宛に而も出合せ其外世間有志衆も右位之心落可然勿論至其期候は御内意を以教授より御届は被申出筈に承置且大龍寺之儀は桂菴法孫之寺に御座候間當住瑞

邦和尚にも及内談是以至極歡喜に而人數相加度被
申置旁々成行寺社奉行衆之内にも内分を以申上置
全體此一舉世上之人にも間には御國中之美目と奉
存不依貴賤少つゝ合力可致と申方追々御座候得共
何分にも響合右次第手廣成立旁以恐多夫辻取止に
仕候而は江戸御儒者之方江今更申分無御座其上鄭
元偉下著は既に近寄被受込居候教授は病氣彼は難
默止時宜合に而不得止事私式乍恐手扣を以何卒右
之形行被聞召分ヶ御内分に而成共右建方之手當等
取付候儀蒙御免度當二月御内意申上置助教之衆
より被奉得御差圖候處同十九日登殿より相良甚大
夫殿迄御内分を以右之分は精々致吟味置候而も不
苦候間相良氏心入之筋を以夫々江可申達置左候而
此一件は高崎五郎右衛門江致示談候様承知爲有之
趣手紙を以私方江承知仕同廿一日又々登殿より猪
飼鋤太郎殿を以御取次碑石則より取付建方有之候
而不苦然共書高無之様助教方江被仰渡其趣宮内清
之進より私方江も承知仕同廿八日御側御用人座よ
り右之碑文又は大學跋文等明廿九日飛脚便より被
差越候付取揃可差出旨被仰渡左之通書寫差出申候

一 桂菴禪師碑銘 壹通

一 延德板大學鈔本跋 壹通

一 延德板大學原本跋 壹通

一 桂菴禪師像贊 壹通

合四通佐藤捨藏殿著撰被致吳候文章に而壹冊にし
て差出申候間定而御中途江爲被差上筈と奉存候右
外此一件に付捨藏殿より爲被遺俗簡等は數通御座
候得共其節迄は略仕候

右通御内分に而御免被仰付折柄碑名之竿石は寄進
可仕と申人有之直石工に相頼二月末より切調置三
月二日鄭元偉下著いたし無間も縁族を以相頼私直
に差越前件之成行等篇と及頼談候處存之外受合宜
敷宋學開祖之碑石に付而は誠に格別其上天下之御
儒者と千歲致連名事共其身も別而冥加と存分喜悅
之挨拶等承り勿論碑石も爲持參り則より餘事差置
染筆有之石摺用には石柄十分に無御座候處江戸杯
江遣事候は板に認候得ば宜敷との口振も御座候
故即又楠板致用意碑面同様認もらひ石之儀は直に
伊敷墓所江持届させ置板は私宅へ持越愚息喜十郎
則より隙々に彫調最早相濟居申候不苦御都合にも

御座候は、石摺にして差上度奉存候石碑彫方は四月朔日比より石工罷越大概字數三分貳斗も彫濟爲申歟同廿三日主計殿より伊集院平格殿御取次を以碑石建方之儀は追而可被仰渡候間先見合可置旨助教方江被仰渡當日私方にも宮内清之進殿より承知仕則伊敷江差越彫方取止爲仕置當分も其通に御座候

一 鄭元偉右認方相仕舞候時分佐藤殿方江音物用に仕度行草之大書四五枚認もらひ候處是に而は謝品に不相成迎唐墨貳箱其外石摺等預懇惠且出船前見舞候節珍敷一品態と積殘し有之是は孔子之廟所闕里より出候楷木に而爲作酒杯と承珍器之故於福州相求置必儒者杯之可致珍玩ものと心付殘置候間拙者よりもらひ候趣を以必先生江可差送旨に而預惠授候得共私式謝品には能過其上碑石且板迄過分之字數染筆相賴其一禮さへ難申盡候處猶更如此珍器迄もらひ候儀は何共心外之段再三相斷爲申事候得共此度之事に付而は返々冥加に被存候間成行を以是非差贈候やう強而承り其節闕里と申儀に付而は辛丑之夏捨藏殿被綴遣候桂菴畫賛にも心腹闕里と被

書置候處闕里より出候珍物を右通被強候事奇縁之儀と存當終相もらひ然上は直に其譯些書記もらひ度俄に桐箱相調蓋之内に左之通認もらひ召置申候余在閩獲之、聞說材出於闕里所謂生孔夫子冢上楷木也、

道光辛丑四月吉旦

球陽鄭元偉識

右通元偉爲求も辛丑四月之事に而御座候由然ば昔文明中於鹿兒島初而新註大學被爲板行候事も辛丑去々年捨藏殿右之古本書被拔候而跋等爲被書年も辛丑且其日迄も辛丑に不思被書合せ候事奇成趣被書置候處又候闕里之文句と闕里之楷杯と右通符合仕候事共旁奇遇に被存せ候間直に三月末便より可差贈哉乍存餘り珍奇之物に而御伺も不申上他國へ遣候事何共恐多奉存先は相控置五雜組等見合申候處左之通御座候

物部二

曲阜孔林有楷木、相傳子貢手植者、其樹十餘圍、今已枯死、其遺種延生甚蕃、其芽香苦可烹以代茗、亦可乾而茹之、其木可爲笏枕及棋枰云、敲之聲甚響而不裂、故宜棋也、枕之無惡夢、故宜枕也、此木

殊方不可知、以余所經他處未見之者、亦聖賢之遺蹟也、而守土之官、日逐採伐、製器以充饑遺、今其所存寥寥反不及商丘之木、以不才終天年、不亦可恨之甚哉、余在嶧山、見禹時孤桐於曲阜、見孔子手植檜及子貢手植楷木於闕雪峰、唐時枯木菴而枯木菴、云々、楷木已朽腐斷折獨留根幹、丈餘、云々、按孔林十里中雲木參天上、無鳥巢、無鴉聲、下無棘蒺藜刺人之草、聖人生前不語怪、乃身後著靈異、若此、豈亦以神道設教耶、抑或有地靈可護之也、

字彙木部

楷口駭切音、錯模也、式也、法也、後漢李膺傳、後進模楷、又楷書、又木名、孔子卒弟子各持鄉土之木、來種冢上、惟楷易生、

字典木部

楷苦駭切、音錯、說文木也、孔子冢蓋樹之者、淮南子草木訓、楷木生孔子冢上、其幹枝疎而不屈、以質得、其直也、云々、

史記評林

括地志云、兗州曲阜縣魯城西南三里有闕里、中有孔

子宅、宅中有廟、伍緝之從征記云、闕里背邾面泗、卽此也、按夫子生在鄒、長徙曲阜、仍號闕里、皇覽曰、孔子冢去城一里、云々、冢塋中樹以百數、皆異種、魯人世世無能名其樹者、民傳言、孔子弟子異國人、各持其方樹來種之、云々、

風早家流盆山傳書ノ中

標註木假山トテフシ木ヲ盆石ニスル事法アリ、琉球人程順則ト云シ者、唐渡ノ節孔子ノ御廟所ニ參リシニ、其時ヨリ有ケルトテイフ、木根土中ニ有シヲ賴テモトメ木ノフシナレバサカヅキニ作ラセ持登リシニ、折節獻上物ノ見合セニ出セバ可然トテ、近衛相國様へ獻上ス、聖人ウセ置セ玉フナレバ、是ニテ酒ヲノム事道ナラズトテ、スグニ木假山ニ可被進トテ、盆ニイカサセ給フト也、

右ノ通、盆山ノ書ニ出タリ、鄭元偉ガ聞傳ト符合セリ、因テ此ニ標注スルナリ、

此楷盆ノ事、弘化四年丁未十月朔日、私ニ御徒目附被仰付候時分、得能彥左衛門ヨリ承旨有之調所家ニ持參、箱共太守様江獻上之仕候、尤私ヨリハ笑左衛門殿へ差直上ル也、

右之楷盃ハ宰相公御手許ニ召置レシヲ得能彥左衛門
ニ爲被下由ニテ彼家ニ格護ト聞及ベリヨテ又記之也
右通相見得彌其楷木にて製器爲仕歟ハ難究知御座候
得共鄭元偉於閩中前文通之珍器と承候て相求其身も
餘程祕藏仕居候哉昔年此楷木之器物を程順則より近
衛關白様江進上被仕彼御家之寶物に爲相成事共於琉
球承傳居候間決而先生も祕藏可被仕依事ては天下之
重寶に可相成も難計との咄共有之其上自筆に成由も
右通記置爲申に付而は何分にも至後年珍奇之品に御
座候間他國之珍寶に出し候事殘多奉存先格護仕置候
萬々一上様御用にも於被召上は音物には外品差贈
元偉江は成行申遣筋にも仕度決而彼も難有獨り可申
勿論左様共御座候はゞ私にも冥加至極難有仕合可奉
存候然共前件造士館より被奉得御差圖候一條何分共
未被仰出上向之御都合毛頭難奉伺御座候得ば其後皆
皆至極恐惶仕罷在候然ば捨藏殿にも當七十二歳老先
生之由御座候得ば決而成就之程相待可被罷居全體私
儀御存通に而面會等未仕人御座候得共段々文章被致
著撰吳候上種々珍敷石摺等被差下剩先日之便にも自
撰新板之愛日樓文詩四冊言志錄一冊遠方迄被差贈

外に續録等も後便より可被差下との事共被申越旁預
叮嚀御儀畢竟當公方様御新政之初に學文を以爲被召
出捨藏殿に御座候得ば當時御崇信之新註學文元來薩
摩之桂菴師より始候事共日本國中是迄爲存人も無之
儀を此度珍敷被致撰文候折柄書家之名を得候鄭元偉
今般江戸立に付認方爲仕石摺にして依事而は公方
様又は御老中様にも被奉備御覽度との内存に而被頼
遣候付追々右次第之叮嚀に可有御座夫故私式には過
當之音信と推察仕候然共何れ御勤柄之御方に御座候
間相應之謝答等不仕候而難叶時宜に成立罷在候付何
ぞ御差支不被爲在事にも御座候はゞ何卒建方等成就
仕度左候而彼之方望之通元偉墨跡板に認候分は最早
内々彫方も仕置候間於御免は石摺にして差登せ是迄
段々之謝禮等申遣候はゞ嘸老人安悦被致筈と乍存何
共御都合之程難奉窺只急入罷在申候右に付御繁多中
如此不急之事共御頼申上も誠に不勘辨至極奉恐入儀
御座候得共極内分是迄之形行書付懸御目上置候間御
病後御覽被下も御勞煩可成ば御覽被下置若や御都合
も於被爲在は御内分を以些御窺被下事は相叶申間敷
哉何ぞ急ぎ候事には無御座候得共右之返禮旁行廻罷

在候間被爲叶々御都合にも御座候はば萬々宜敷事に成候處を偏に御存成可被下儀奉賴上候此段御賴爲可申上右之楷杯一箱も相添持參仕置候間御序次第成合候様宜被仰上可給事奉賴候以上

但碑文事實等之儀に付而は諸引書等取揃此内再撰方に御用に付差出彼方桂菴傳も五代直左衛門殿段被相改極内分私にも預示談候間於御尋は相分り申筈と奉存候此段も宜被仰上置可被下儀奉賴候以上

卯六月

伊地知小十郎

三原藤五郎様御取次衆

二白是程迄成立事初發より相知候は、前以御届等も不申上候而難叶儀御座候得共伊集院氏子秋出立之砌延徳板大學其外引書相成古本等相添差登せ候時分迄は佐藤氏も林家學頭に而御式日に被罷出由候間一先入一覽もらひ時宜次第には碑文等相賴可給旨を以賴遣候處別而珍賞被申跋と賛等は丑年出來碑文も書吳候半と爲被受合由には御座候得共無程大慈院様御逝去に付伊集院氏には下國佐藤殿は其十二月御旗本江被召出昌平館江引移旁互之混雜

に而彌撰文相調候程合無覺束若出來下り候は、市來敎授より御届等は被申上筈に而相待罷在候處三四ヶ月目の當春成就に而被差下左候而直に筆取は鄭元偉と被賴遣夫故何も前文通恐入候事に成立申候然ば此一件に付段々爲被遣書狀等數通御座候間爲御心得兩三通書寫左之通懸御目申候

伊集院喜左衛門様

佐藤拾藏

用書外に包物

一簡拜啓爾後御疎音打過候秋冷無程新霜と相成可申候處愈御安裕可被成御起居恭悅奉存候次拙老無異御放意被下度候然ば兼々伊地知君より御賴之桂菴師碑文段々延緩及於今日は拙事も客冬より身分替り望外之仕合扱々老境不堪事急疎不少候右之次第に而精々之御賴も夫成に相成此節稍折合候に付起草致し候誠に草々之作文尊意に満申間敷候得共指出申候間伊地知子へ御届被下度候若し貴意に不應候事は其文御増損有之候而も不苦候遠方之事故往返手間取可申候に付御勝手次第に可被成候行草略書に候間碑面之所貴國能書之仁或は琉球能書之人になりとも御認直し碑

文御仕立可被成候此方より上候は草稿之積に御座候書法等能々巧者之人へ御相談之上具體に御取立可被成候將又漢學始原々留置辱存候寫し可申と去年より舍居候處前文之身分一變に而誠に事多に相成其所へ及不申候何卒御出來之上に而一部御寫せ御惠被下候事は相成間敷哉先に今便返完仕候間一ト先伊地知子へ御返し被下度候扱又琉球國世々之略此節入用之事有之別冊指出申候御覽分ケ被下候へば相分り申事本人此王之次より今日迄之名字年數等承知致し度候少し急ぎ候間指出し候舊文之例に效ひ御書續き御賴申候御便之序に少しも早き方尤も妙に御座候乍御六ヶ敷御吟味所希に御座候又江戸表迄相届候而も爰元に而遲滯之事も可有之哉に付沈滯無之様御賴申候右等草々布字如此御座候餘期後鴻可申聲候不能一

八月廿二日認

坦 拜

喜左衛門様

〔標註〕漢學始原と御座候は私書綴候而漢學紀源と名付候四冊之事覺違被申候半至極詳審成事に而得益不少に付寫置度辻久々被留置此節本文之通に而相返

被申當分は再方撰へ御用に付五代直左衛門殿へ差出置申候

八九兩月貴簡追々相達致拜見候先以窮陰凍寒此書達候頃は春暖にも可相成哉愈御裕被成御起居扑賀不少候然ば兼々御賴之桂師碑文大延引に相成過日起稿上候處御喜被下於拙亦欣然不少候其内尊意之條附札被遣則其趣に而改訂致し候御見分被下度候扱又松山氏時々被見御噂巨細に致承知候先達而貴恙之由最早此節御全快と奉察候尙御容躰致承知度候先達松山へ被托鄭元偉書二枚被惠辱毎度見事之儀永藏可致候其後喜左衛門子轉達南海布一度被惠是亦御入念之謝痛入存候將又琉球王年譜之事御考被下右は交友中著述物に入用有之無據御賴申上所間に合於拙重疊謝入申候先は兩次之却酬迄草略如是御座候尙期永陽萬可申聲候頓首不一

嘉平月念七書

坦〔花押〕

伊地知小十郎様

前月二日御封發貴簡相達拜見仕候先以凍寒時節此書

達候頃は剩寒に可相成愈御安裕被成御起居恭賀奉存候然ば先達桂師碑稿出來伊地知君へ御轉致被下先方喜悅之由於拙亦欣然不少候右爲挨拶南海布一反被惠辱仕合尙宜御謝被下度候且又琉球王年譜之事御吟味被下辱仕合大略相分大慶仕候先般松山隆阿彌出府時時手前へも被參候に付同人よりも伊地知容子傳承仕候何卒碑面書は鄭元偉認候様仕度候同人之跡至極見事に被存候間貴君尙周旋可被下候先は右等布酬旁如是御座候餘期來陽候恐惶頓首

極月廿七日

坦

伊集院喜左衛門様

右外にも往反之書簡等段々有之私家筋之儀又何方にも遊學等に出候哉勤方は有無迄爲被尋由彼は一冊に相成事長御座候得ば略仕候何も此上は捨藏殿方江之返禮旁貴尾宜敷事之成候所を念願に奉存候

標註琉球王年譜之事と御座候は中山傳信錄之類を抜書被遣尙敬王以下尙穆王尙溫灝王尙王夫より今日之尙育王迄四代之名を被尋遣存之通申遣候事に御座候

古點譜

アホ
ネ子
ーキ
アマ
七サ

東大寺 三輪定用之

俗家點

水尾點 圓堂僧正用之

遍照寺點

智澄大師點

順曉和尚點

勸修寺 觀真君

仁都波迦點

池上律師

俗點又樣

喜多院點 興福寺所用

俗點

禪林寺點

香隆寺點

淨光房點

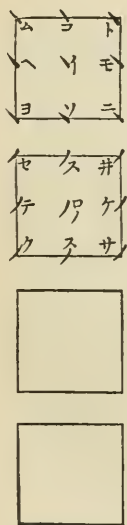
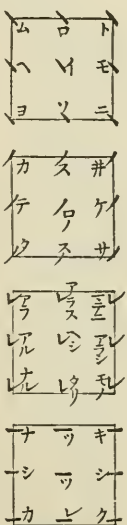
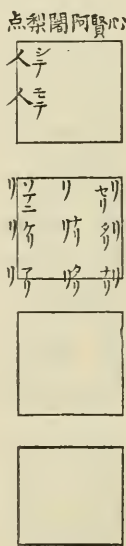
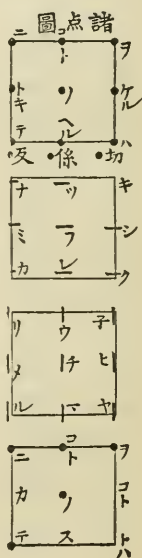
廣隆寺

叡山之本

池上阿闍梨

東大寺 東南院也

妙法院



| | |
|-----|-----|
| キ | ニテ |
| スレモ | ストモ |

| | |
|-----|----|
| テラム | ヤム |
| ナリム | タム |
| アム | ナム |

| | |
|--------|--------|
| ナ ミ | ナ カ |
| コ リ | コ ナ |

上ウシキ 上ウス 上ウサム
トウサオ トウブ トウシ 公

凡 凡 凡
 凡 凡 凡
 上 凡 凡

カ ケ
キ ケ
ク ケ

ルイハトフイ
イイハ
イヒツ
レ

以謂子十

| | |
|---|---|
| 𪛗 | 𪛗 |
| 𪛗 | 𪛗 |
| 𪛗 | 𪛗 |

| | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| ト 十 | ト 十 | ト 十 | ト 十 |
| ト 十 | ト 十 | ト 十 | ト 十 |
| ト 十 | ト 十 | ト 十 | ト 十 |
| ト 十 | ト 十 | ト 十 | ト 十 |

| | | |
|----|----|----|
| アリ | ヘシ | ニテ |
| デ | ス | 一 |
| リ | ケ | ム |

| | |
|-----|-----|
| キ | ニテ |
| スレモ | ストモ |

| | |
|-----|----|
| テラム | ヤム |
| ナリム | タム |
| アム | ナム |

| | |
|--------|--------|
| ナ ミ | ナ カ |
| コ リ | コ ナ |

上ウシキ 上ウス 上ウサム
トウサオ トウブ トウシ 公

凡 凡 凡
 凡 凡 凡
 上 凡 凡

カ ケ
キ ケ
ク ケ

ルイハトフイ
イハリ
イヒツトハ
レ

以謂子十

| | |
|---|---|
| 𪛗 | 𪛗 |
| 𪛗 | 𪛗 |
| 𪛗 | 𪛗 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 十 | 十 | 十 | 十 |
| ト | ト | ト | ト |
| 十 | 十 | 十 | 十 |
| ト | ト | ト | ト |

| | | |
|----|----|----|
| アリ | ヘシ | ニテ |
| デ | ス | 一 |
| リ | ケ | ム |

| | | |
|---|---|---|
| フ | フ | フ |
| フ | フ | フ |
| フ | フ | フ |
| フ | フ | フ |

序虎
廣虎
虎

| | | |
|---|---|---|
| テ | ト | テ |
| レ | リ | モ |
| ネ | ル | ル |

| | | |
|---|---|---|
| 𠂔 | 𠂔 | 𠂔 |
| 𠂔 | 𠂔 | 𠂔 |
| 𠂔 | 𠂔 | 𠂔 |

ヨリ
ヤム
ラ

| | | |
|---|---|---|
| フ | フ | フ |
| フ | フ | フ |
| フ | フ | フ |

| | | |
|---|---|---|
| イ | ロ | ハ |
| エ | セ | ナ |
| オ | カ | ク |

上
 中
 下

[illegible]

今序

人元
人元
人元

十
 九
 八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一

ニ
又
ナ
テ

ム
ソ
コト

ヲ
ト
ハ

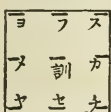
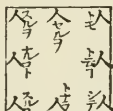
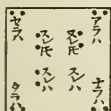
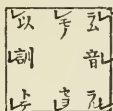
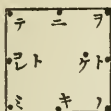
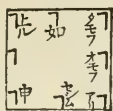
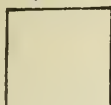
二二

七

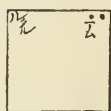
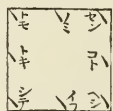
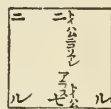
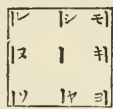
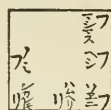
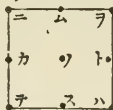
天

| | | |
|---|---|---|
| ト | ト | ト |
| ト | ト | ト |
| ト | ト | ト |

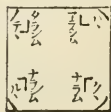
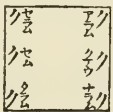
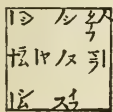
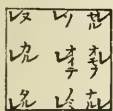
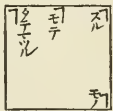
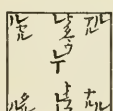
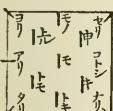
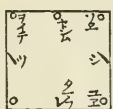
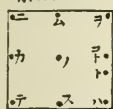
寺隆廣



点房光淨



梨園阿上池



師律上池

| | | | |
|--|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| <p>ゴ 公 公 キ シ レ キ 上 公</p> | <p>リ 弓 弓 リ 一 一 リ 弓 弓</p> | <p>先 弓 下 先 弓 下 伸 弓 下</p> | <p>ニ 公 下 カ 公 下 テ 公 下</p> |
| <p>ハ リ 公 公 ハ リ 公 公 ハ リ 公 公</p> | <p>先 弓 弓 先 弓 弓 先 弓 弓</p> | <p>先 弓 下 先 弓 下 先 弓 下</p> | <p>レ 公 下 レ 公 下 レ 公 下</p> |
| <p>ハ リ 公 公 ハ リ 公 公 ハ リ 公 公</p> | <p>先 弓 弓 先 弓 弓 先 弓 弓</p> | <p>先 弓 下 先 弓 下 先 弓 下</p> | <p>レ 公 下 レ 公 下 レ 公 下</p> |
| <p>ハ リ 公 公 ハ リ 公 公 ハ リ 公 公</p> | <p>先 弓 弓 先 弓 弓 先 弓 弓</p> | <p>先 弓 下 先 弓 下 先 弓 下</p> | <p>レ 公 下 レ 公 下 レ 公 下</p> |

| | | | |
|--|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| <p>七 公 公 七 公 公 七 公 公</p> | <p>リ 弓 弓 リ 弓 弓 リ 弓 弓</p> | <p>先 弓 下 先 弓 下 先 弓 下</p> | <p>レ 公 下 レ 公 下 レ 公 下</p> |
| <p>ハ リ 公 公 ハ リ 公 公 ハ リ 公 公</p> | <p>先 弓 弓 先 弓 弓 先 弓 弓</p> | <p>先 弓 下 先 弓 下 先 弓 下</p> | <p>レ 公 下 レ 公 下 レ 公 下</p> |
| <p>ハ リ 公 公 ハ リ 公 公 ハ リ 公 公</p> | <p>先 弓 弓 先 弓 弓 先 弓 弓</p> | <p>先 弓 下 先 弓 下 先 弓 下</p> | <p>レ 公 下 レ 公 下 レ 公 下</p> |
| <p>ハ リ 公 公 ハ リ 公 公 ハ リ 公 公</p> | <p>先 弓 弓 先 弓 弓 先 弓 弓</p> | <p>先 弓 下 先 弓 下 先 弓 下</p> | <p>レ 公 下 レ 公 下 レ 公 下</p> |

右之諸點圖、高雄寺密經藏東第十卷六箱本寫之、目錄之內所用分耳、

寬永十年九月廿三日

作顯證

唯識論點

ニ カ ス ト
ヨ イ
モ リ ル
ヲ テ

ヤシ
エ
下口 イス
サタネ
ナハ

[illegible]

流 紅 刻
 下 齊 上 刻
 下 齊 上 刻
 下 齊 上 刻

| | | |
|---|---|---|
| ル | ル | ル |
| ル | ル | ル |
| ル | ル | ル |

| | | | |
|-----|----|----|----|
| ハモウ | 一ク | 倍 | ヨモ |
| トイ | トイ | トイ | トイ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 訓 | ケ | ナ | ハ |
| | | | |
| | | | |

下
 下
 下

如云 乃云 尤云

下
人
月

・待礼・還ヨ
・リ人ト句切

去。木濁。位減。不。上。新濁。輕。重。

ハ可
ウ
ウ
ヨ
ト
ハ
ラ
キ
テ今ソヤ

| | | |
|---|---|---|
| シ | テ | シ |
| カ | | ク |
| イ | ソ | ハ |

シカモ へル
レトモ
セハフル
ス
モルイ
リセ

公
公
公

[illegible]

六 係 九 九

二ヨハ
二ヨハ
二ヨハ
二ヨハ

| | | |
|-----|---|---|
| トシテ | 音 | 元 |
| リ | 訓 | 元 |
| リ | シ | 元 |

シト
トイフソセ
セハ
オモフヨ

| | | |
|---|---|---|
| ノ | 人 | ノ |
| 人 | | 人 |
| ノ | ノ | ノ |

ム
ト

待行人

唯識論之朱點、於興福寺筆之、

甲リヘニト者コノユヘニト云意也

元祿七年甲戌五月廿三日書寫之畢、

此一本者、於城州仁和寺一音房、自筆以御本一
拜書之畢、

了空房覺祐

古點譜終

平古止點譜

後深草院御記、永仁二年春宮御書始、

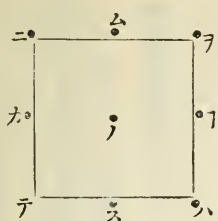
永仁二年六月廿五日甲辰元晴風靜、此日皇太子御書始也、

其上置ニ御注孝經一卷、件書任ニ建治例ニ可レ被レ渡、

天永御書之内申ニ禪林寺殿ニ而被レ渡ニ新院畢、云々、點

圖角筆等也、此兩物、學士資宗所ニ調進也、點圖白式紙書也、折紙三張

長六寸、



ナリ

ナリ

一名 此寸分各方一寸也

ヨリ

ナリ

去聲

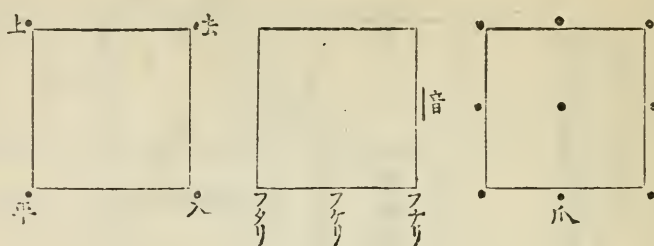
去聲

去聲

平聲

中右記、寛治元年十二月廿四日壬寅、今日未刻許、有ニ御書始事、以ニ式部權大輔正家朝臣ニ爲ニ侍讀、以ニ左少辨敦家ニ爲ニ尙復、其儀如レ式、

乎古止聖譜



史記前後漢書
文選等用之、

紀

右叙策彦所傳

| | | | | | |
|--|--|------------------|------------------|------------------|--|
| | | ヘリ ケリ | | ハリ | |
| | | ル ル ル ル | ル ル ル ル | ル ル ル ル | ル ル ル ル |
| | | ト キニ | | ト 云 云ハ | オ リ レ リ ナ リ フ ト モ フ ト ハ |
| | | 訓 | 国名 | 音 | ラン |
| | | | 名 | | |

點家菅

| | | | | | |
|--------|----------------------------|--------|---------------------------------|--------|------------------|
| キ ル | コ ハ ス ル ス ル | ナ リ | コ ラ セ ル ト キ ハ | ム ノ | フ コ ト ハ |
| 訓 | 漢 | 吳 | ナ リ セ リ ケ リ | レ | ス セ ル |
| 丁 | ア | 甲 | ケ リ | シ | モ ソ |
| タ | ル | 七 | ク | キ | ケ |
| タ | 太 | 才 | 一 | テ | |
| ハ | 寸 | ネ | イ フ ケ ル | | |
| ハ | 上 | 丁 | | | |
| セ | | | | | |

江家點

| | | | | | | | | |
|------------------|--|------------------|----------------|----------|---------------|--------------------------------------|-------------------|---------------------------------|
| 上 平 輕 平 | | 去 入 輕 入 | ヨリ メリ タリ | ケリ リ | セリ ナリ | ニ カ ト キ テ | ム ノ ス | ヲ コト ト ハ |
| | | | ラル タル | ケル スル | セル ナル | ト キ ニ イ フ ト キ ハ | ウ 名 | コ ト ト モ コ ト ハ |
| | | | アリ 訓 テリ | | ヘリ 音 ハリ | アル ツル タル | シム ル ル ル | ル ト キ ハ ル |

参河前司清原教隆點

| | | | | | | |
|-------------|-----------------------|-------------|----------|-------------|---------------------------------------|-------------------|
| ヨリ タリ | セリ ナリ | アル ヘル | タル ケル | ニ カ テ | ム ノ ス | ヲ コト ト ハ |
| オ ヨ ノ | ヤ モ イ フ ク | ラ ケ | | アリ ヘリ | タリ ケリ | |
| ナ ヌ ツ | レ シ | ヌ セ ル | | ナリ | コ ト ヲ セル ト キ ニ リ | |

傳紀

| | | | | |
|------------------|-------------|---------------------|---------------------------|----------------|
| トキニ | コト云 ト云 | アリ科点 ケテ訓漢吳 | ニム カノ テス | ヲ ヲ トハ |
| 上 訓 平 | 去 音 入 | トキニ ウ トキハ | ラ ケル メル メル シル | セ シル ナル |
| 返 句 中 点 | 切 点 | ル シム フル ラル | ヨリ メリ タリ | ヤリ レリ ナリ |

乎古止點譜終

右二種、不知何人所傳、

經明

| | | | | | |
|---------|---------|-----------|----------|----------------|--------------|
| ヨリ | キ ヤリ | アリ科 ヘリ | タリ ケリ | ニム カノ テス | ヲ ヲ トハ |
| 国名 訓 | 音 ト云 | アル | ナル ケル | ナレ ヌ ツシ | ス セル ル |
| | 含 | ヨハ | ナリ ト云 | ウヤ ヨ ノラ | モ ソ ケ |

京都往來

陽春之慶賀珍重々々、富貴萬福幸甚々々、自他繁昌雖事舊候、猶以不可有盡期候、先以年始之御儀式、元日四方拜、小朝拜、二日三日之御祝、七日者七種御粥、白馬節會、十四日十六日踏歌節會、十七日舞御覽、鶴之庖丁、十八日六十六本之左義長、三月三日鷄合、四月中亥賀茂之社葵祭、六月十六日嘉祥、七月七日梶之御鞠、飛鳥井難波兩家而有之、同十四日數千之燈籠、八朔者別而之御祝儀、從公方樣御馬御進上、九月十一日伊勢奉幣、吉田於神前行之、十月亥日玄猪、十一月廿八日者春日御祭、時々節々御政嘉齡延年之御儀也、公卿者、攝家、清花、羽林、名家、新家、神祇伯、和歌、文章、明經、能書、樂、蹴鞠、襷束、陰陽道、外記、史、四品、五位、諸大夫等、日々家業無斷絕、抑禁裏者、人皇五十代桓武天皇、延暦十三甲戌長岡都被移此平安城、延寶二年迄八百九十二年也、人皇之始從神武天皇、今上帝迄百十四代也、御築地以金銀砂石、築立、御門者、東、陽明門、侍賢門、郁芳門、南、

美福門、朱雀門、皇嘉門、西、談天門、藻壁門、般富門、北、安嘉門、偉鑑門、是四方十二之御門也、奉拜玉殿、紫宸殿、清涼殿、溫明殿、梅壺、梨壺、藤壺、桐壺、雷壺、瀧口戶、萩戶、大極殿、內侍所者、神璽寶劔三種神祇、奉納御寶、金玉鈴之聲澄心耳響、青雲九天之上、天人影降菩薩疑來臨、無精草木垂枝敷葉、翔空翹下地、走地獸屈膝拋脛、況於人倫無不傾渴抑之首、國富民豐成者、偏潤聖君之德處也、六口之下馬御門之外、武家町屋之體、繼軒端建續可反掌無畠地、蓮臺野、嵯峨野、紫野、大原野、東鴨河原者、名耳殘而、有明月家出而入家廉被奇候、先花洛町橫小路者、一條、正親町、土御門、鷹司、近衛、勘解由小路、中御門、春日、大炊、冷泉、二條、押小路、三條坊門、姉小路、三條、六角、四條坊門、錦小路、四條綾小路、五條坊門、高辻、五條樋口、六條坊門、楊梅、六條佐女牛、七條坊門、北小路、七條鹽小路、八條坊門、梅小路、八條針小路、信濃小路、唐橋、九條鹽小路者、西朱雀、坊城、壬生、櫛笥、東大宮、猪熊、堀川、油小路、西洞院、新町、室町、烏丸、東洞院、高倉、萬里小路、富小路、京極、東朱雀、南北自一條九條迄、東西兩朱雀限是、

九重云、一條北武者小路、今出川、上立賣、柳原、小山迄上京云、從堀河西北安居院、西陣、西京是、東、鴨川限岸故、無據處也、三條大橋長五十八間、諸國往來人民、都出入之橋是也、川下四條河原、土瑠璃歌舞妓、都遊興所也、同下、五條橋長六十五間、將亦當王城良隅、有高山號比叡山、天台傳教大師之御建立、守王城之鬼門、爲惡魔降伏之靈場、二六時中之勤行、聊以無懈怠、元三大師不_レ去居所、願成就之佛也、東坊、西坊、橫川麓、修學院御茶屋、白河昔法皇之御住跡也、吉田、山蔭中納言奉勸請春日四所、本社茅葺八角也、日本最上日高日宮、額者嵯峨天皇御震筆、大元宮之額者、後土御門之御筆、四月中子、六月十五日、八月廿四日祭也、銀閣寺者飛彈之內匠建之、同山上七月十六日大文字之火燃西刻也、松明數八十五、一文字之長三十七間、^{ヘツホツ}點八十五間、六十八間也、弘法之筆法也、黒谷者號金戒光明寺、法然上人自筆之一枚起請、親鸞上人自作之御影有、六月廿五日虫拂、熊谷敦盛石塔有、聖護院之森、熊野權現社有、光雲寺永觀堂者號禪林寺、禪律淨土之三宗也、瑞龍山南禪寺者、五山之上、規菴國師之開基也、栗田口神明、九月十五

日祭有、青蓮院御門跡、伏見院尊圓尊道、御代々能書御家是也、山科天智天皇御廟、諸羽大明神、此額小島宗眞書之、上醍醐者、貞觀之末聖寶僧都開基、顯密之二宗、下醍醐三寶院、山伏之司、當山與云、九月九日祭、於神前能有、此庭藤戶石有、知恩院號佛法山大谷寺、承安四年法然上人開基也、祇園午頭天王、素盞鳥尊、少將井、今御前、人皇五十六代清和帝御時勸請、六月七日十四日祭、鉾六本、山三十有之、石之鳥居、感神院額、照高院之御筆、双林寺平判官康賴住跡也、長樂寺者、亭子院御建立、下河原七觀音、高臺寺、靈山者國阿上人之庵室、圓山者號安振寺、時宗慈鎮和尚住給、同所吉水池有、山下眞葛原歌慈鎮和尚「我戀は松をしくれの染兼てまくつかはらに風さはくなり」八坂塔、號法觀寺、聖德太子之御草創、三年坂子安塔者、號泰產寺觀音并也、額者筆道者賀茂之甲斐書之、清水寺、同奥院、何茂千壽觀音、大同二年坂上田村丸御草創、只賴不_レ空御誓願、御利生新御事也、音羽瀧、地主權現者、當寺之鎮守、四月九日祭有、朝倉堂、田村堂車宿馬止有、將軍塚者、桓武天皇之御時、此京爲守護人、鐵長八尺作土偶人持弓矢埋山上、天

皇御歌「めくきあな打おさまれる御代なればつかはなかく」なることもなし」六道者地藏井、七月十日千日參、六波羅愛宕寺、御影堂者、大夫敦盛之母菴室、此尼扇折經營、故至今代、此寺中商扇則名物也、亦一遍上人御影有、六條川原者、融大臣鹽竈之體、此移河原院、有遊興跡、大佛者本尊釋迦如來、御長九間五尺、堂南北四十五間、東西二十八間、棟高貳十五間、柱數九十二本、日本無双之大佛殿也、二王門之外、耳塚者、昔高麗國御切取、彼國數萬人之耳鼻埋ネ此所、依之耳塚云、三十三間堂者、本尊千手千體長永年初平忠盛奉行、鳥羽院御建立、亦後白河法皇御造營、號蓮花王院、此堂弓之名人矢數有、然慶長十一年春淺岡氏以根矢ソレヨリコノカサ五十一通、是矢數始、真來二千三千五千七千數通世譽多、近者寛文八年夏星野氏八千通矢今天下一是也、同所鐘高一丈五寸、厚一尺、柱二十本立也、稻荷大明神、和銅年中勸請、四月卯日祭、猿源院泉涌寺者、左大臣緒嗣建立、三月九日開山忌、建仁寺、東福寺者、聖一國師入唐無準弟子、此庭通天紅葉、藤森天王社、五月五日祭、東寺弘法大師、三月廿一日御影講、同所塔有、五重高二十九間五間四方也、羅生門、昔都良香

云人、氣霽風梳新柳髮、口號此所通給、從虛空氷消浪洗舊苔鬚爲繼、云々、西寺者守敏塚、今者無問人、鳥羽戀塚者、源渡妻塚也、石道春作碑銘有、朱雀權現堂尼寺者、號大通寺、島原傾城町、北壬生地藏六道能化井也、三月十四日廿四日迄大念佛有、石清水正八幡宮、正月十九日役神參、八月十五日放生會、山崎寶寺、正一位日向大明神社有、額者道風筆也、松尾大明神、六月廿三日神前能有之、虛空藏者、號智福山法輪寺、道昌僧都建立、額者大采山木菴和尚筆、天龍寺、夢窓國師開基、野々宮、小倉山者、定家卿山庄、先達百人歌色紙書被置後、一部書而今百人一首是也、二尊院、法然上人足引影有、妓王、妓女、佛御前、清盛時代白拍子草菴也、大宮口、北山口、市原、二瀬、蓮臺寺、雲ヶ畑迄、愛宕郡五十八村之中也、宇治郷、檳島、小倉、大久保、平川、久世、枇杷庄迄、久世郡廿二村之中也、平尾、西村、畑河原、中村、北村、菅井、乾谷、小寺、牧、大野、高田迄、相良郡七十村之中也、御陵、日岡、四宮、大塚、花山、小野、五智如來、廣澤池、月名所也、仁和寺、御室御所、妙心寺者、花園院勅願所也、太泰樂師號廣隆寺、聖德太子御影、二八月廿二日開帳、北山金閣寺、高

雄、梅尾、槇尾、北野天神宮、人皇六十二代村上帝、天曆元年勸請、一夜松千本生、船宮是也、紅梅殿笑佛者、傳大士、二童子者、普建、普成、南門額勅筆也、經王堂額道風筆、西方寺眞盛尼寺也、平野大明神、閻魔堂者、小野篁建立、千本念佛花開次第始、文永年中如輪上人申初也、大德寺者大燈國師開山、金毛閣三字之額者、松花堂筆、今宮神社、一條院御時祝、五月十五日祭、上賀茂大明神、五月朔日足揃、五日競馬、岩屋不動者、弘法之作、內佛者天神作也、補陀樂寺、四位少將小野小町二人石塔有、貴布禰大明神、鞍馬寺者、毘沙門、正月初寅參、御菩薩池、岩倉之御殿、大原隆禪寺、法然上人諸宗問答節、出現證據阿彌陀如來、寂光院昔女院御菴室、後白河院御幸時、臚清水御覽御歌「池水に汀のさくら散敷て浪のはなこそさかりなりけれ」長谷御茶屋、下鴨御祖神、六月從二廿日一晦日迄、御手洗會糾諸共云、知恩寺、同釋迦堂、額者後奈良院也、上御靈大明神、萬年山相國寺、尊氏建立、妙顯寺者日像上人、花洛開基也、眞如堂號極樂寺一本尊慈覺大師作、從二月五日一十五日迄、十夜大念佛有、一條革堂、號行願寺一順禮觀音也、清荒神、額者妙法院御筆也、惣而荒神

者、每月晦日、天上而人善惡云給、云々、唐竈神有御靈八所大明神、八月十八日祭有、同拜殿最勝殿三字之額者、南禪寺宗演筆也、誓願寺本尊彌陀如來及三千年一春日作、六十萬人決定往生之被廣御札寺也、中春日之社、神前未開紅梅木有、和泉式部石塔有、六角堂、空也寺、霜月十三日空也忌有、東西本願寺御堂、七月七日數千作花、同十四日燈籠諸人見物之、因幡堂藥師如來也、本國寺從佐渡浦出現、閻浮檀金釋迦如來座、石神、神泉苑者、昔天子有御遊覽所、名池有、鷺五位被成下此所也、國八郡之次第、松ヶ崎、高野、八瀬、上野、小弟子、百井、大見、別所、靜原、北岩倉、長谷、花園、一乘寺、岡崎、田中、清閑寺、石田、日野、六地藏、木幡、五ヶ庄迄、宇治郡卅七村之中也、松井、薪、田邊、高木、山本、江口、名村、山田迄、綴喜郡四十三村之中也、深草、伏見、竹田、中島、塔森、芹河、石原迄、紀伊郡廿三村之中也、安井、山内、梅津、龍安寺、等持院、常盤、久保、生田、原、越畑、桂、中愛宕山大權現號白雲寺、當山太郎坊、柿本木之僧正是也、鳥居之額者、佐理卿筆、麓嵯峨之釋迦堂者、號清涼寺、肅然法師建立、昆首揭摩造赤栴檀御尊容也、三月十五日大念佛、同

十九日御身拭、大覺寺御門跡、大澤池、鳴瀧川、河嶋、牛ヶ瀬、德大寺、御陵、千世原、下村、杉坂、中堂寺、大將軍、木辻、聚樂、大北山迄、葛野郡六十八村之中也、樋爪、寺戸、神足、志水、沓掛、金ヶ原迄、乙訓郡四十五村之中也、村都合三百六十五村有、郡八ヶ所故山城八郡云、二條御城内外、御番之歷々抽ニ誠精、晝夜知_レ時、太鼓櫓、鳥不_レ驚弓入_レ袋、釧納_レ宮御代者、天守之鱧_ニ適_ハ有_レ鱧、千年之鶴御堀龜、猶告_ニ萬歲、國土安穩民讓_レ畔、誠武運長久、于_レ時延寶二寅初秋、鈴鹿定親造_レ之畢、

京都往來終

自遣往來(一名江月往來)

陽春之慶賀珍重々々、富貴萬福幸甚々々、日々新而自他繁榮重疊、於_レ于_レ今者雖_ニ事舊候、猶更不_レ可有_ニ休期_一候、先以年始之御規式、元日二日御一門之御方々、國主城主之歷々、三獻之御祝其外諸侯昵近之面々、諸衆番頭物頭諸役人、諸番之健士御流頂戴之、且又大中納言、參議中將少將侍從四品五位之諸大夫迄者、美服二領宛下_ニ賜之_一、依_ニ家祿之輕重與_ニ官位之淺深_一、或臺或以_ニ廣蓋_一拜領、三日者諸大名之息子無位無官、并諸家中之證人、及京都大坂奈良堺伏見淀過書銀座朱坐之輩迄、群_ニ候落緣_一品々進物奉_レ捧_レ之御禮申上候也、同日入_レ夜爲_ニ御謠初_一、酉刻大廣間出御祇候之大小名令_レ着_ニ長袴、_{ツクラ}裝四坐之猿樂群_ニ居板椽、御囃子三番、所謂老松東北高砂是也、折々小謠唄_レ之、從_ニ諸侯_一所獻之御盃臺、銘々披露有_レ之間御酒宴也、御作法之結構言語道斷難_レ顯_ニ筆端、門々警固之挑灯者輝_ニ櫓多門_一、燒爭篝火者映_ニ堀水、不_レ異_ニ白晝_一候、五日者寬永寺之僧侶數十許之輩、六日者近里遠境諸寺諸山出

家社人山伏等數百人、充_ニ滿于_ニ營中_一奉_レ拜_ニ台顏_一、七日者七種之御慘獻_レ之、十一日者御具足御祝并連歌御興行是依_ニ御嘉例_一也、十五日者恒例之諸御禮、十七日者東叡山御參宮、廿日同所御參堂、廿四日増上寺御佛詣也、凡此日者別而被_レ改_ニ御裝束_一、被_レ回_ニ長柄御輿_一、供奉之勇士二行列步、其出立或時者衣冠衛府之太刀帶_レ之、亦或時者大紋風折烏帽子也、布衣以下平侍頗難_レ計_ニ其員_一、辻々門々屋々警固着_ニ烏帽子素袍袴_一、平_ニ伏大路_一、敢無_レ奉_レ拜_ニ御轅、拜殿及_ニ入御_一者、豫所候之伶倫奏_レ樂、繁_レ弦急_レ管金玉之聲玲瓏而澄_ニ心耳_一、衆僧者解_ニ御經之紐_一奉_レ讀_ニ誦之_一、音聲計會而響_ニ青雲九天之上_一、天人影降菩薩來臨給歟與疑、無情草木垂_レ枝敷_ニ葉、翔_ニ空翹下_レ地、走_ニ地獸者屈膝拋脛、況於_ニ人倫_一乎、無_レ不_レ傾_ニ渴仰首_一、御先祖之御崇敬、佛神之御信仰、理世安民之御政、云_レ彼云_レ此前代未聞之名君、學世所_レ知_レ之也、猶追_ニ日時々節々御祝儀其外臨時之御祝等_一、連綿而無_ニ斷絕_一候、誠目出度御粧嘉辰令月歡無_レ極、千秋萬歲不易之御代、誰不_レ奉_レ仰_レ之哉、因_レ茲國國土產所々珍奇、日々進物菓肴衣服器財以下雖_レ令_ニ混亂_一、任_ニ思出_一粗馳_ニ禿筆_一訖、是併大海之一滴九牛一

毛也、先御菓子者、吉野榧子非^ニ異朝、大和柿、小澁柿、西條柿、八代密柑、白輪柑子、上條瓜、真桑瓜、河越瓜、舳^{ムネ}瓜、當所之新田鳴子瓜、淺草鯉、芝肴、品川海苔、馬刀蛤、岩堀菱子、醒井餅、仙臺糰、永餅、甲州之楊梅、林檎、丹波大栗、朝倉山椒、鎮西之蕙以仁、博多練酒、白芋莖、菊池海苔、相良和布、雅海藻、十六島海苔、日光山岩茸、富士苔、松本漬蕨、川茸、海草、入野^{フナ}鰯、岩附鮒、竹島鰈、海部之熨斗、紀伊國忍冬酒、興津鯛、丹後鰯、能登^{ササ}鰯、岩城浮龜、海丹之鹽辛、松前昆布、臘^{オト}豚臍、小豆島之串海鼠、五島^{スル}鰻、宇和^{イハ}鰯、黑漬、正田^{クラゲ}鮎鮓、釣瓶鮓、志筑鹽辛、奥州鮭、披子籠、鹽引、粕漬海月、同漬菜、味噌漬、鯉節、麴漬、飯蛤糟漬、鰻子籠、同深山巢米、糠漬^{アユノゴモリ}鰻、寒水漬鶴鴈鴨、南部薯蕷、同雉子、鷹、雲雀、梅首雞、水札、鶉、川鳥、潮煮之菓子鰈、生乾^{ナマビ}膽殘魚、近干^{サリ}鰻、取交切之^{サリ}鰻、鯖背腸、鰯腸、三州串^{サシ}鰯、鯨百尋、燕骨、鮎、目刺、石^{ホヤ}鰻、鰻子、鮭甘子筋子鳴子、女冠者白干^{スル}鰻、七島鯉節、松山^{スル}鰻、瀨田鰻鮓、醍醐之蒸簀、朝比奈粽、伊豫素麵、川俣芋莖、福智山蕨粉、橫須賀卜治、稻荷山松茸、東條鳥頭、勢州糸和布、松尾梨子、小布施栗、道明寺寒^{ホシ}糰、濱名納豆、善德寺酢、麻地酒、會津蠟

蠟、炭斗瓢、筑後燒、半田土鍋風爐、前土器、高山面桶、片口、光瀧細炭、一倉炭、御室燒茶碗、伊萬里燒皿、備前燒德利、信樂燒之水^{シヨコボ}甌、薩摩燒茶入、膳所燒鉢、唐津燒之香爐、琉球之芭蕉布、同泡盛酒、古筆新筆之繪讀、異國本朝墨跡、陸奧、甲斐、伊豫、松前、朝鮮之大鷹、鶴、兄^{イタカ}鶴、鶴、雀^{カク}、雀^{カク}、雀^{カク}、刺羽、逸物、仙臺、南部、甲府、信州、土佐、薩摩之駿馬、亦武具者、鎧、甲冑、太刀、長刀、弓箭、鐵炮、玉藥、簾、勒穗、調度掛、異國船入津之節者、紗綾縮緬、北絹^{シユス}縐子、繻珍、綸子、純子、奥島錦、金襴、天鵝絨、毛氈、羅紗、羅背板、猩々緋、蘇木、紫檀、白檀、檳榔子、沈香、伽羅、肉桂、丁子、大楓子、大服皮、附子、紅花、丁香皮、小黃連、麒麟、血山歸來阿仙藥、茴香、甘草、干竹子、天門冬、白芷、蔻、赤土、青黛、木梨花、明礬、礪砂、綠礬、胡椒、蘆薈、辰砂、椰子、油牛黃、犀角、鹿角、草茶、合油、茶碗藥、瞻礬、牛角、水牛角、蠟、漆、紙、墨、筆、卓、机、香爐、香合、香盆、花入、壺茶、藤、蘭、竹、櫛、赤熊、白熊、黑熊、象牙、水銀、鮫、鰻、廣南鍋、龍腦、麝香、菩提樹、瑠璃、硃礬、碼礬、珊瑚、琥珀、瑤瑁、鼈甲、鹿皮、小人島皮、烏蛇皮、山馬皮、山人驢馬、玲瓏犬、麝香貓、孔雀、口赤鳥、黃頭鳥、砂糖鳥、

藤鳥、海鳩、長生鳥、錦鷄鳥、田鷄鳥、白頭鳥、鷓鴣シヤコ、インコ、音呼鳥、翡翠鳥、東埔塞鳩カホチヤバト、金鳩鳥、巢密砂糖、龍眼肉、三國米、蒲萄酒、此外濟々無際限、雖營內廣、餘置席上、作山于庭中、抑大厦之御構方廿餘町也、從郭外東方者至八町堀、木挽町、鐵炮洲、女木、三谷、靈巖島而僅不足三十町、是海岸無據故也、西者至三市谷、四谷、中野、牛込、小日向、小石川、高田、雜司谷、千駄木村而二里餘、南者至赤坂、青山宿、一本村、櫻田、愛宕下、西久保、麻布、澁谷、白金、目黒、池上、芝、品川、神奈川而七里、東海道順路是也、北者淺草、淺茅原、隅田川、千住、板橋、越谷、平柳迄四里、都而東西三四里、南北十餘里、大小名之家々、思々之榮作、以金銀爲築地、以珠玉爲砂石、泉水築山、構眺望、催日夜佳遊之宴、此外所々神社佛閣遍々也、民家小屋、繼軒端、建續、可立、雖無福地、草累之武藏野者、名耳殘而有明之月茂、從家出而入家、歟與被奇候于程、繁昌者豐饒之體、可令想像也、此所東西土地下而濕深、水甚鹹故、不忍渴、不肖者自馳于東西、走南北、求水不得、寸暇、家業空費、時碎魂云々、然而貴大君辱遙被聞召之、行程十餘里、當于

西有玉川、水清冷而味又尋常也、曳彼於于爰而可令安之條被、仰出、依之堀、山穿、岩數月、勵成功、遂明曆年中聊無障、來城下、長流之水、幸成藥治、病除、患去、渴、里民快樂何事如之乎、次當于北而有隅田川、至下而云、深川、元來大河而從往昔、無橋、深事應名千尋、水走如矢、以舟船雖渡之、風波之災不任雅意、或被押流、漫々漂大海、或逆卷水被覆船、底之滓成果者、不知幾千萬人、此儀又及高聽之處、如何而掛橋可令爲往還之通路、之由有嚴命、深慮智化之良臣、股肱耳目之頭人、衆儀評定一決畢而課工、經營之、萬治年中是又令成就、殆可謂魯般雲梯乎、此方者武藏向者下總也、故呼俗稱、兩國橋、往來之旅人老若男女、畏悅并躍難有無言計、從彼橋見渡者、則安房上總筑波山、日光山、淺間嶽、富士高根等、眼前候、遙懸御目、度候、速有御下向、而可令歷覽給也、將又、當于良角有景地、摸坂西比叡山、被號東叡山、是也、是則東照宮之御鎮座也、慈眼大師被仰舍、去寬永年中之御草創、當城守鬼門、爲惡魔降伏之靈場、二六時中之勤行、聊以無懈怠、奉抽誠精、境內及三十町四

方乎、宮社僧坊雙_ニ玉甍_ニ諸木連_レ枝森々、前湖水稱_ニ不
 忍池_一、中築_ニ一嶋_一被_レ安_ニ置辨才天_一、參詣之諸人者、
 解_ニ錦纜_ニ桂橈_一、蘭楫_一、敲_レ舷謠_ニ今樣_一、亘_レ岩松風、岸打
 波頻添_ニ颯々聲_一、詩人者題_ニ池邊之月_一、歌人者詠_ニ山頭
 之花_一、樹下敷_レ筵或芝_ニ上設_レ席、林間煖_レ酒、紅葉燒物、蘭
 麝匂芬々、恰殊聲_ニ花童男童女_一、簪_ニ羅綾袂_一、翻_ニ錦繡裔_一、
 小歌、三味線、琵琶、琴、笛、鼓、太鼓、生_レ苦鳥不_レ驚今
 此御代也、誠以免傳_ニ多久穴賢_一、

自遣往來終

源平往來卷上目錄

- 一 白山神與振牒狀
- 二 同衆徒返牒
- 三 同神與奉_ニ禦留_ニ狀
- 四 同中宮衆徒返狀
- 五 師高解官配流宣旨
- 六 康賴熊野祝言_{イハト}
- 七 康賴成經赦免狀
- 八 高倉宮廻宣
- 九 同賴朝被_レ下令旨
- 十 賴朝令旨國々施行之狀
- 十一 從_三三井寺_ニ南都江牒狀
- 十二 同山門牒狀
- 十三 南都返牒
- 十四 從_三興福寺_ニ諸寺牒狀
- 十五 六波羅上皇山門院宣
- 十六 同重而院宣
- 十七 文覺勸進帳

- 十八 平家追討院宣
- 十九 賴朝追討院宣
- 二十 新院嚴島御願文
- 廿一 山門衆徒都返奏狀_{カク}
- 廿二 坂東落書
- 廿三 兼遠起請文

源平往來卷上

(一)白山神與本山延曆寺奉振上時從留主所

遣衆徒牒狀

欲早被停止衆徒之參洛事

牒衆徒戴神與企參洛擬致訴詔之條、非無不審、依之差遣在廳忠俊、尋申子細之處、就石井法橋之訴詔、令參洛之由、返答之趣、理豈可然、爭依小事、可奉動大神哉、若爲國司之御沙汰、可被裁許者、速賜解狀可申上也、仍察狀以牒、

安元三年二月九日

散位財朝臣

散位大江朝臣

散位源朝臣

各在判

(二)衆徒返牒

白山中宮大衆政所、牒留主所衙、來牒一紙被載送、神與御上洛事牒、今月九日牒狀、同日到來、依狀案事情、人成恨神起、神明與衆徒、鬱憤和合而既

點定吉日、早進發旅宿、人力不可成敗、冥慮輒不可測矣、仍返牒之狀如件、

安元三年二月九日

中宮大衆等

(三)依院宣白山神與奉鎮留狀

延曆寺政所下加賀馬場先達神人等可早止上洛儀待御裁下事

右近日住僧神官等、捧神與企上道之旨、在其聞、甚以不可然、相當仙洞熊野參詣之折節、訴詔奏聞無便、就中件之訴貫首、度々雖有沙汰、其後成敗自然遲引重可有御沙汰也、此間無左右而企上洛者、雖有狼戾勘發、更無訴詔裁判歟、忽任自由者、定及後悔歟、云先達云神人、閑廻隨分之思案可存向後之安堵、宜承知止參洛之狀以下、

安元三年二月日

小寺主法師琳海

都維那 大法師

寺主 大法師

上座 大法師

(四)中宮衆徒返牒

請謹 延曆寺御寺牒

被_レ載_下可_レ止_二白山神輿上_一洛事

カケマシタジケナキ

右當山權現者、掛_二天_一神元初之國常立尊之爲_レ守_二寶祚_一、垂_二迹_一于我朝、爲_レ弘_二佛法_一、濫_二觴_一于此砌也、依_レ之代々聖主、歸_二妙理_一大菩薩之効驗、世々臣公仰_二神融小禪師_一之德行、爰爲_二目代師經_一、燒_二拂涌泉一寺、沒_二倒寺社料所_一之間、以去年十月之比、欲_二企_一推參_二蒙_一裁許_上之處、被_レ下_二宣命并御下文_一云云、冥待_二聖斷_一、仰_二上_一裁於鬱訴、相路者可_レ言_二上子細_一云々、仍以同十一月、雖_下差_二專使_一致_二訴詔_一、于_レ今無_二御裁報_一而空送_二年月_一畢、倩案_二事情_一、白山妙理權現者、雖_レ有_二敷地_一、併山門三千之聖供也、雖_レ有_二鬼田_一、又當_レ任_二沒倒_一、非_二神物_一、故、只有_二名_一更無_二實_一、是以恒例之神事佛事既斷絕、以往之八講三十講、今正及_二闕退_一、隨而近來無_二有_一參詣、再拜之輩不_レ見_二歸敬奉幣之類_一、大悲和光之素意難_二測_一、三所垂迹之玄應失_レ憲歟、云_二寺僧_一云_二氏人_一、歎_二冥威之陵怠_一、悲_二權迹之衰微_一、而奉_二戴_一神輿、所_レ企_二推參_一也、痛哉、神明閉_レ扉不_レ見_二星宿之光_一、哀哉、住侶迷_二道永忘_一後榮之思、五尺之洪鐘徒待_二響_一於松栢之風、六時之行法、空任_二聲_一於紫蘭之風矣、但慮_二神明之冥覽_一、定

不_レ可_レ失_レ德、人倫之迷情爭可_レ知_二靈應_一、早示_二現將來之吉凶_一、詔_二宣當時之眉目_一給_二江登社僧一心合掌_一、神女之三業、低_二頭而致_一祈誓之處、人恨融_二于神_一、神之噴通_二于人_一、依_レ有_二夢想_一告詔宣示、憑_二神詔_一、驚_二示現_一、暫不_レ顧_二本寺之嚴制_一、既奉_二動_一未社神輿畢、雖_レ然任_二御寺牒之趣_一、相_二待裁報_一之左右所也、抑留_二神明之上洛_一也、仍返牒言上如_二件_一、

安元三年二月廿日

中宮衆徒等請文

(五)師高解官配流之宣旨

今月十三日、叡山之衆徒、昇_二日吉社感神院等之神輿_一、不_レ憚_二勅制_一、亂_二入陣中_一、爰警固之輩、相_二禦凶黨_一之間、其矢誤中_二神輿_一事、雖_レ不_レ圖何不_レ行_二其科_一、宜_二仰_一檢非違使、召_二平利家同家兼藤原通久同成直同光景田使俊行等_一給_二獄所_一者也、從五位上加賀守藤原師高、解官流_二罪尾張國_一、目代師經流_二罪備後國_一、奉_レ射_二神輿_一官兵七八、禁獄之事者、今日宣下詔、以_二此旨_一可_レ令_二披_一露山上給_二之由_一、所_レ候也、上々謹言、

四月二十日

權中納言藤原光能

執當法眼御房

(六) 康賴熊野祝言

謹請再拜々々、維當歲次治承二年戊戌、月並十二月日數三百五十四箇日、八月二十八日神已來撰吉日良辰、掛忝日本第一、大靈驗熊野三所權現、并飛龍大薩埵交量宇津之弘前信心之大施主、羽林藤原成經沙彌性照、致清淨之誠、抽懇念之志、謹以敬白、

夫證誠大菩薩者、濟度苦海之教主、三身圓滿之覺王也、兩所權現者、又或南方補陀落能化之主入重玄門之大士、或東方淨瑠璃醫王之尊、衆病悉除之如來也、若一王子者娑婆世界之本主、施無畏者之大士、現頂上佛面、滿衆生之諸願、給云彼云此同出法性真如之都、從入和光同塵之道以來、神道自在而誘難化之衆生、善巧方便而成無邊之利益、依之自上一人一至下萬民、朝結淨水一係肩洗煩惱之垢、夕向深山運步、近常樂之地、峨々峯高准是於信德之高、分雲登嶮々谷深准是於弘誓之深、凌露下爰不憑利益之地者、誰運步於嶮難之道、不仰權現之德者、何盡志於遼遠之境、然則證誠大權現飛龍大薩埵慈悲之御眼、並牡鹿之御耳振立、知見無二丹誠、納

受專一懇志、現止成經性照遠流之苦、早返付舊城之故郷、當改人間有爲妄執之迷、速令證新成之妙理而已、抑又十二所權現者隨類應現之願、本迹濟度之誓、爲導有緣之衆生、救無垢之群情、捨七寶莊嚴之栖ト居於三山十二之籬、和八萬四千之光、同形於六道三有之塵、故現定業能轉、衆病悉除之誓約有憑、當來迎引接必得往生之本願無疑、是以貴賤列禮拜之袖、男女運歸敬之步、漫々深海洗罪障之垢、重重高峰仰懺悔之風、調戒律乘急之心、重柔和忍辱之衣、捧覺道之花、動神殿之床、澄信心之水、湛利生之池、神明垂納受、我等成所願乎、仰願十二所權現、伏乞三所垂跡、早並利生之翅、凌左遷海中之波、施和光之惠、照歸洛故郷窓、弟子不堪愁歎、神明知見證明敬白、

(七) 從太政入道 硫黃嶋流人赦免狀

依中宮御產御祈禱、被行非常大赦之內、薩摩方硫黃嶋流人丹波少將成經、並平判官康賴法師可歸洛之由御氣色所候也、仍執達如件、

七月三日

(八)高倉宮廻宣

下_二東山東海北陸三道諸國軍兵等_一所、早可_レ追討
清盛法師並從類叛逆輩一事、

右前伊豆守上五位下行源朝臣仲綱、宣_二奉最勝親王
勅、爾清盛法師並宗盛等、職_二威勢_一蔑_二帝王_一、起_二凶徒_一
亡_二國家_一、惱_二亂百官萬民_一、掠_二領五畿七道_一、閉_二籠皇院_一
流_二罪臣公_一、斷_二命流_一身沈_二淵_一、入_二樓盜_一財領_二國_一、奪_二
官授_一職、無_レ功忝許_レ賞、非_二罪猥配_一過、依_レ之巫女不_レ
留_二宮室_一、忠臣不_レ仕_二仙洞_一、或召_二誠諸寺之高僧_一、禁_二
獄修學之淨侶_一、或賜_二下於叡岳之絹米_一、相_二具謀叛之糧_一
食、斷_二百王之跡_一、抑_二一人之頂_一、違_二逆帝皇_一、破_二滅沸_一
法、見_二其振舞_一、誠絕_二古代_一者也、于_レ時天地悉悲臣民
皆愁矣、仍一院第二之皇子、尋_二天武皇帝之舊儀_一、追_二
討王位推取之輩_一、訪_二上宮太子古跡_一、打_二亡佛法破滅之_一
類也、唯非_レ憑_二人力之搆_一、偏所_レ仰_二天照之理_一矣、因_レ
之有_二三寶佛神之威_一、何無_二四岳合力之忠_一哉、然
則源家々人藤氏々人兼_二三道諸國之內堪_一勇士者、同
令_二與力_一可_レ追討清盛法師并從類、若於_レ不_二同心_一、
可_レ行_二配流追禁罪過_一、若於_レ有_二勝功_一者、先預_二諸國之

使、兼御即位之後必隨_レ乞可_レ賜_二勤賞_一也、諸國宜_二承
知_一依_レ宣行_レ之、

治承四年四月九日

伊豆守源朝臣仲綱

(九)伊豆國流人前兵衛佐源賴朝者源家之嫡々故

別被_二下_一令旨_二下_一東國源氏并官兵等_二所應_一

早旦任_二廻宣狀_一且以_二前右兵衛佐源賴朝_一

爲_二大將軍_一令_中參洛_上事

右 宣旨之意趣者、我爲_二百王孫_一、雖_二期_一寶祚、猶依_二
聖運遲々、未_レ至_二即位_一、而清盛入道以_二一旦冥怪_一、令_レ
治_二天下_一、誇_二非分權威_一、欲_レ絕_二皇法_一之處、依_レ有_二佛神_一
之守護、不_レ遂_二梟敵之姦望_一、未_レ及_二王法失亡_一之條明
矣、謹仰_二嚴旨_一可_レ責_二清盛_一也、速致_二同心勵_一微力、
果_二其意趣_一、必進_二帝位者_一、朝恩_{イカデカ}爭可_レ空哉、然者依_二清盛
武勢_一、下知_二既致_一都洛空役、我與_二皇恩_一以_二東北武勢_一、
何不_レ治_二天下_一哉、旁各可_レ仰_二景跡_一也、若於_レ背_二宣
命_一、早可_レ致_二伐責_一之狀、如_レ件以宣、

治承四年四月九日

前右少史小槻宿禰

(十)賴朝高倉之令旨國々之源氏等被_二施行_一狀

被_二最勝親王勅命_一、併召_二具東山東海北陸道堪_一武勇_一
之輩、可_レ追討清盛入道并從類叛逆輩之由、廻宣_二

通如此、早守令旨、可有_レ用意、美濃尾張兩國源氏等者、勸催東山東海便宜之軍兵、可_レ相待、北陸道勇士者、參向勢田邊、相待上洛、可_レ被_レ供奉洛陽也、御即位無_レ相違者、誰不_レ執_レ行國務哉、依_レ廻宣之狀、執達如_レ件、

治承四年五月日

前右兵衛佐源朝臣在判

(十一)高倉宮依_レ入寺、從_レ三井寺之衆徒、南都江牒狀

園城寺牒_レ興福寺衙_レ請_レ殊蒙_レ合力_レ被_レ助_レ當寺佛法破滅_レ狀

右佛法之殊勝爲_レ護_レ王法也、王法之長久則依_レ佛法也、而自頃年以來、入道前太政大臣平清盛恣竊_レ國威、濫亂_レ明政、付_レ內付_レ外成_レ恨成_レ歎之間、今月十四日夜、一院第二皇子忽爲_レ免_レ不慮之難、俄所_レ令_レ入寺_レ給_レ也、而重號_レ院宣、有_レ可_レ奉_レ出_レ之責、衆徒不能_レ欲_レ罷而奉_レ惜_レ之處、彼禪門欲_レ入_レ武士於當寺云云、然者云_レ王法云_レ佛法、一時將_レ破滅、諸衆盡_レ愁歎_レ乎、昔唐之會昌天子以_レ軍兵、令_レ破_レ滅佛法之時、清涼山衆徒合戰禦_レ之、王憲猶如此、何況於_レ謀叛入虐之輩、誰人可_レ諛順_レ乎、就_レ中南京者被_レ配_レ流無罪

之長者、意念動_レ智中_レ非_レ今度者、何日遂_レ會稽願、衆徒內助_レ佛法之破滅、外退_レ惡逆之伴類、同心至本懷可_レ足、衆徒僉儀如此、仍牒送如_レ件、

治承四年五月廿日

小寺主法師成賀

都維那_{ツキナ}法師定筭

勾當法師忍慶

上座法橋大法師忠成

(十二)同從_レ三井寺_レ山門江牒狀

園城寺牒_レ延曆寺衙_レ

欲_レ殊致_レ合力_レ被_レ助_レ當寺佛法破滅_レ狀

右入道淨海恣失_レ王法、又滅_レ佛法、愁歎無_レ極之間、去十四日之夜、一院第二皇子不慮之外所_レ令_レ入寺_レ給_レ也、爰號_レ院宣、雖_レ有_レ可_レ奉_レ出_レ之責、皇子須_レ令_レ固辭、衆徒專奉_レ守護_レ之處、可_レ放_レ遣官軍_レ旨有_レ其聞、當寺破滅將_レ當_レ此時_レ歎、而延曆園城之兩寺者、門跡雖_レ分_レ慈覺智證之遺訓、所_レ學是同圓實頓悟_{ズシツト}之教文、喻如_レ鳥之翅不_レ闕又似_レ車之輪相備、於_レ一方闕者爭無_レ其歎哉、特致_レ合力_レ被_レ助_レ佛法破滅者、早忘_レ年來之遺恨、必復_レ住山之往昔、衆徒之僉議如此、仍

牒送如件、

治承四年五月廿一日

小寺主 法師成賀
都維那 大法師定筭
寺主 大法師忍慶
上座法橋上人位志成

(十三)南都返牒

興福寺牒園城寺衙

被_レ載_乙可_レ相_下禦爲_ニ清盛入道_一欲_レ破_中滅貴寺佛
法_上由_中事_一來牒一紙

牒今月廿日牒狀今日到來披閱之處、悲喜相交、如何者
玉泉玉花雖立_ニ兩箇之宗儀、金章金句同出_ニ一代之教
文、南京北京俱以爲_ニ如來之弟子、貴寺他寺互可_レ防_ニ調
達之魔障、就_ニ中貴寺者我等本師彌勒慈尊常住之精舍
也、何況或公家、或姑山、或諸宮、或相門講席之時、令_ニ
戰智淨儀一事、是則天台法相三論花嚴等而已、若一宗
相關者、豈不_レ恨乎、然者天台學徒被_ニ魔滅_一者、法相獨
留如何爲哉、凡緇林之誼_ニ乙甲_一者、則是兄弟之諍也、
白衣之蔑_ニ佛法_一者、寧非_ニ魔軍之企_一哉、所_レ及_ニ最負_一

最可_ニ相救_一也、抑異域本朝弓馬之道、勞_レ力苦_レ身雖
平_ニ王敵_一、抽賞以不過_ニ千金萬戶_一、官位未_ニ必及_ニ子孫
兄弟_一、其中我朝自_レ古賞_レ武之道、無_レ授_ニ高位_一、既異_ニ唐
家_一、天平之御宇、大野東人雖_レ斬_ニ魁首_一、僅預_ニ八座次_一、弘
仁之御宇、坂上將軍遠攘_ニ奥州之狡獪_一、近鎮_ニ平城之煙
塵_一、雖_レ加_ニ九卿_一、無_レ昇_ニ三公_一、爰清盛入道者、平氏之糟
糠武家之塵芥也、祖父正盛仕_ニ藏人五位之家_一、把_ニ諸國
受領之鞭_一、大藏卿爲房爲_ニ加州刺史_一之古、補_ニ檢非違
所_一、修理太夫顯季爲_ニ播磨大守_一之昔、任_ニ馬廐別當職_一、
暨_ニ子親父忠盛_一、被_レ聽_ニ昇殿之時_一、都鄙老少皆惜_ニ蓬壺
之瑕瑾_一、內外英豪各依_ニ馬臺之識文_一、忠盛雖_レ刷_ニ青雲
之翅_一、世人猶輕_ニ白屋之種_一、惜_ニ名青侍無_レ臨_ニ其家_一、然
間、去平治元年、右金吾信賴謀叛之時、太上天皇感_ニ一
戰之功_一、被_レ行_ニ不次之賞_一以來、高昇_ニ相國_一兼賜_ニ兵杖_一、
男子或忝_ニ台階_一、或列_ニ羽林_一、女子或備_ニ中宮職_一、或蒙_ニ
准后宣_一、兄弟庶子皆步_ニ棘路_一、其孫彼甥悉割_ニ竹符_一、加_ニ
之統_一、領九州、不_レ辭_ニ封家_一、細官進退百司皆爲_ニ奴婢
僕從_一、一毛違_ニ心縱雖_ニ皇侯_一、禽_レ之、一言背_ニ命不_レ嫌_ニ
公卿_一、醜_レ之、是以爲_ニ延_一、一旦之身命、爲_ニ通_ニ片時之陵
辱_一、萬乘聖主尙成_ニ面展之媚_一、重代之家君還致_ニ膝行之

禮、雖奪_レ代代々相傳之家領、上裁恐_レ命卷_レ舌、雖押_レ宮々相承之庄園、天子憚_レ威無_レ言、乘勝之餘其驕倍_レ增、去年十一月追_レ捕太上天皇之棲抄、掠_レ種々財貨、押_レ流博陸輔佐之身、奪_レ取國々之庄園、叛逆之甚誠絕_レ古今、其時我等須_レ行_レ向賊徒、以問_レ其罪_上也、然而或相_レ量神慮、或依_レ稱_レ皇憲、抑鬱陶送_レ光陰_上之間、清盛入道重發_レ軍兵、打_レ圍一院第二親王宮之處、八幡三所春日大明神、竊垂_レ影向_レ奉_レ擎錢弼_上送_レ附貴寺、奉_レ預_レ新羅權現之間、押_レ開金樞_上奉_レ守_レ玉體、王法不_レ可_レ盡之旨明矣、隨又貴寺捨_レ命奉_レ守護_上之條、含識之類誰不_レ隨喜_上哉、我等在_レ遠域_上感_レ其情_上之處、清盛入道猶起_レ凶器、欲_レ打_レ入貴寺_上之由、測_レ以承及兼致_レ用意、爲_レ成_レ合力、廿二日晨旦發_レ大衆、廿三日牒_レ送諸寺_上下_レ知末寺、調_レ得軍士_上之後、欲_レ達_レ案内_上之刻、青鳥飛來投_レ一芳紙、數日之鬱念一時解散、彼唐家清涼一山之慈藹、尙返_レ武宗之官兵、況和國南北兩門之衆徒、盡_レ擺_レ謀臣之群類、能固_レ梁園左右之陣、宜_レ待_レ我等進發之告_上者、勸_レ衆議_上牒送如_レ件、察_レ狀勿_レ疑殆_上故牒、

治承四年五月廿三日

(十四)從_レ興福寺大衆_上諸事牒送之狀

興福寺大衆牒_レ東大寺衙_上

欲_レ早駈_レ末寺庄園_上被_レ供奉_上今明中發_レ向洛陽_上

可_レ助_レ園城寺佛法破滅_上狀

牒諸宗雖_レ異皆十二代之聖教、諸寺雖_レ區同安_上三世之佛像、就_レ中國城寺者、彌勒如來常住靈輦也、我等受_レ阿僧之流、慣_レ慈氏之教、又貴寺八宗教法相并學_上之、豈不_レ憶_レ彼寺之破滅_上乎、而花洛之間有_レ一臣猜_上平治元年以來押_レ領於四海八埏_上、如_レ奴婢_上進_レ退於百司六官_上任_レ我意_上、一毛違_レ心則雖_レ云_上王侯禽_レ之、片言乖_レ思雖_レ爲_レ公卿醢_レ之、是以累代相傳之家君還成_レ膝行之禮、萬乘尊重之國主殆致_レ面展之矯、遂廻_レ趙高指_レ鹿之謀、滅_レ王室_上剩追_レ弗沙飛_上象之跡、失_レ佛家_上即今明之間、欲_レ殘_レ害園城寺_上、以未_レ發以前不_レ相救_上者、我等獨全有_レ何益_上乎、然則不日調_レ兵欲_レ向_レ京洛_上、佛法興廢只有_レ此緯_上、且祈_レ誓佛神_上、可_レ降_レ伏魔軍_上、且

驅催末寺莊園、被供奉者、冥叶天地之神慮、願保南北之佛法而已、仍粗勤由緒牒送如件、密狀勿令遲引故牒、

治承四年五月廿三日

興福寺大衆等

(十五) 山門園城寺與力之由六波羅上皇天台座主

江宥被下院宣

園城寺者元是謀叛之地也、誠乎箇事非寺之訴非法之鬱同意入虐之輩、忽失皇法、欲滅佛法、早今日中企登山、勅定之趣具可被仰衆徒、內祈善神、外降惡黨耳、抑深懸叡念於叡山、蓋誠一寺於一門、其上凶徒等忽被責兵甲者、定遁隱山上、歟、兼得此意、慥可令守護者、宜守院宣之趣之狀如件、仍言上如件、

治承四年五月廿四日

左少辨行隆奉

謹上 天台座主御房

(十六) 猶重被下院宣

園城寺之衆徒等、尙背勅命、於今者可被遣追討使也、一寺之滅亡雖歎思召萬民之煩不可默歟、

誠是魔緣之結構、盡仰佛界之冥助哉、滿山衆徒異口同音、可令祈申、又大威德供可被始行之由、依院宣言上如件、

五月廿四日

左少辨行隆奉

(十七) 文覺勸進帳

勸進僧文覺敬白

請殊蒙貴賤道俗助成高雄山靈地建立一院令

勸修二世安樂大利勸進狀

夫以真如廣大雖斷生佛之假名、法性隨妄之雲厚覆、自聳十二因緣之峯以來、本有心蓮之月光幽而未顯三毒四慢之太虛、悲哉、佛日早沒生死流轉之衢冥々兮、唯耽色耽酒、未謝狂象跳猿之迷、徒謗人謗法、豈免琰羅獄卒之責哉、爰文覺適拂俗塵、雖飭法衣、惡業猶意逞而造于日夜、善苗又逆耳而廢于朝暮、痛哉、再歸三途之火坑、重永廻四生之苦輪、所以牟尼之憲法千萬軸、軸々明佛種之因、隨緣至誠之法一無不屆、菩提之彼岸、故文覺無常觀門落涙、催上下親族之結緣、上品蓮臺蓮心建等妙覺王之靈場也、抑高雄者、山堆而顯、鷲峰山之梢、洞禪而

鋪_二商山洞之苦、岩泉咽而曳_レ布、嶺猿叫而遊_レ枝、人里境遠而無_二囂塵、師蹠棲好而有_二信心、地形勝_レ尤可_レ崇_二佛法、奉加微_レ今、誰不_二助成_レ乎、夙聞聚_レ砂爲_二佛塔_レ之功徳、忽感_二佛因、何況於_二一紙半錢寶財_レ乎、願建立成就而禁闕鳳曆御願圓滿、乃至都鄙遠近親疎黎民緇素、歌_二堯舜無爲之化_レ、披_二椿葉再改之咲_レ、況聖靈幽儀前後大小速至_二一佛菩提之臺_レ、必翫_二三身滿徳之月_レ、仍勸進修行之趣、蓋以如_レ件、

治承三年三月日

文覺敬白

(十八)文覺平家追討之院宣申賜與_二流人賴朝_レ事

早可_レ追_二討清盛法師并一類_レ事

右君子不_レ直人者、令_二民成_レ愁、姦臣在_二于朝_レ者、賢者不_レ進、彼一類者實非_レ忽_二諸朝家_レ、失_二神威與_二佛法_レ、既爲_二佛神之怨敵_レ、亦爲_二王法朝敵_レ、仍仰_二前右兵衛權佐源賴朝朝臣_レ、宣_レ令_レ追_二討彼輩_レ、早退_二怨敵_レ、奉_二安_レ震襟_レ矣、依_二院宣_レ執達如_レ件、

治承四年七月五日

散位 光能奉

謹上 前右兵衛權佐殿

(十九)又依_二清盛入道申條_レ賴朝追討宣

左辨官下_二東海東山道諸國_レ可_二早追_二討伊豆國流人右兵衛佐源朝臣賴朝并與力輩_レ事

右大納言藤原實定、宣奉_レ勅、伊豆國流人前右兵衛權佐源賴朝忽相_二語凶惡徒黨_レ、欲_レ虜_二掠當國隣國_レ、叛逆之甚既絶_二常篇_レ、且_レ令_二右近衛權少將平維盛朝臣_レ、薩摩守同忠度朝臣、三河守同知盛朝臣等、追_二討彼賴朝及與力之輩_レ、兼又東海東山道堪_二武勇_レ者、同可_レ令_レ備_二追討_レ、其中有_二拔_二殊功_レ輩_レ、可_レ加_二不次賞_レ、仍_レ宣行_レ之、

治承四年九月六日

藏人左中辨藤原朝臣經房奉

(二十)新院嚴島御幸御願文

蓋聞法性山靜、十四十五之月高晴、權化地深一陰一陽之風芳扇、方便力用不_レ可_二測量_レ者歟、夫嚴島者、名稱普聞之場効驗無雙之砌也、遙嶺之廻_二社壇_レ也、自顯_二大悲之高峙_レ、巨海之及_二祠宇_レ也、暗表_二弘誓之深湛_レ、仰_レ之明徳在_二頂_レ、現當之望必滿歸_レ之、答貺隨心鏡善之應

惟新也、凡率土之濱靡然向^{ナンナトス}風、伏惟初以庸昧之身、忝蹈^ニ皇王之位、握^ニ乾符^ニ、分^ニ顧^ニ微分、鎮迷^ニ南面之理、政望^ニ四海、分^ニ耻^ニ薄德、更無^ニ萬民之威仁、猶守^ニ謙遜於厲卿之訓、樂^ニ閑放於射山之屬、而後偷抽^ニ一心之精誠、先詣^ニ孤嶋之幽、遂^ニ機感純熟、欽仰彌切者也、是宿善之所^ニ致也、豈非^ニ深信^ニ令^ニ然乎、況瑞籙之下仰^ニ冥恩、凝^ニ懇念而流^ニ汗寶宮之裏、垂^ニ靈詔有^ニ其告之銘^ニ肝、就^ニ中殊指^ニ怖畏謹慎之期、專當^ニ季夏初秋之候、而間病痾忽侵彌思^ニ神威之不^ニ空、萍桂頻轉猶^ニ無^ニ醫術之施^ニ驗、雖^ニ求^ニ祈禱^ニ難^ニ散^ニ霧霞、不^ニ如^ニ抽^ニ心符之志^ニ、重欲^ニ企^ニ斗藪之行、因^ニ茲^ニ玄藏已闌之律、玄英漸近之天、殊專^ニ齋肅^ニ、遂以豫參^ニ漠々寒風之底、臥^ニ旅泊而破^ニ夢、凄々微陽之前望^ニ遠路^ニ、而極^ニ眼、遂就^ニ粉榆之砌、敬展^ニ清淨之筵、奉^ニ書^ニ寫色紙墨字妙法蓮華經一部八卷、開結般若心阿彌陀等經各一卷、手自奉^ニ書^ニ寫金泥提婆品一卷、文々之盡^ニ懇精^ニ、正施^ニ紫磨於瑠璃之上、字々之隔^ニ妙跡^ニ、未^ニ疊^ニ漂波於張池之中、冲襟之至世垂^ニ憐愍^ニ、于^ニ時蒼蒼栢之陰共添^ニ善利之種、潮去潮來之響暗和^ニ梵唄之聲、法會得處隨喜^ニ雙催^ニ、抑弟子辭^ニ北闕之雲^ニ、八箇日矣、雖^ニ無^ニ涼燠之多、廻^ニ凌西海

之波^ニ、二箇度焉、誠知^ニ機緣之不^ニ淺^ニ、歸依之思^ニ、此故增進竭仰之志、因^ニ茲堅固、加^ニ之今度忝至^ニ苦庭^ニ、奉^ニ添^ニ松府神^ニ、而有^ニ知^ニ莫^ニ棄^ニ我願^ニ、殊以^ニ白業^ニ奉^ニ祈^ニ紫宮^ニ、二日萬機之化廣披^ニ龍圖鳳展之運^ニ、惟久、弟子病患忽散傳^ニ淮南道士之方^ニ、壽算無^ニ疆^ニ、論^ニ山中射若之命^ニ、抑當社者混^ニ俗塵^ニ、而濟^ニ利生人界^ニ、而振^ニ德^ニ、或三公九卿之臣、或芻蕘臺齡之輩、朝祈之客匪^ニ一^ニ、暮賽之者且千、但尊貴之歸敬雖^ニ多、院宮之往來未^ニ有^ニ之、禪定法皇初貽^ニ其儀^ニ、弟子眇身徐運^ニ其志^ニ、彼嵩高山之月前、漢武未^ニ拜^ニ和光影^ニ、蓬萊洞之雲底、天仙空隔^ニ垂迹之塵^ニ、如^ニ當社^ニ者、曾無^ニ比類^ニ、仰願大明神、伏乞一乘經新照^ニ丹祈^ニ、忽彰^ニ玄應^ニ、敬白、

治承四年九月二十一日

太上天皇御諱

(廿一)山門都返奏狀

延曆寺衆徒等誠惶誠恐謹言

請^ニ被^ニ特蒙^ニ天恩^ニ、停^ニ止遷都^ニ子細狀

古釋尊以^ニ遺教^ニ付^ニ屬國王^ニ者、佛法皇法之德互護持故也、就^ニ中延曆年中桓武天皇傳教大師深結^ニ契約聖

主、則興此都。親崇一乘圓宗、大師亦開當山、忽備百王御願、其後歲及四百廻、佛日久耀、四明峰、世過三十八代、天朝各保十善之德、上代宮城無如此者歟、盖山洛占隣、彼是相助故也、而今朝議忽變俄有遷幸、是惣四海之愁、別一山之歎也、先山僧等峯嵐雖閑、恃花洛以送日、谷雪雖烈、瞻王城以繼夜、若洛陽隔遠路、往還不容易者、豈不辭姑山之月交邊鄙之雲哉、是一門徒上綱等、各從公請、遠拋舊居之後、德音難通、恩因易絕之時、一門小學等寧留山門哉、是住山之者爲體也、遙去故鄉之輩、出帝京而蒙撫育、家在王都之類、以近隣而爲便宜、麓若變荒野者、峰豈留人跡乎、悲哉、數百歲之法燈、今時忽消、歎哉、千萬輩之禪林、此時將滅、是但當寺是鎮護國家之道場、特爲一天之固、靈驗殊勝之伽藍、獨秀万山之中、所之魔滅何無衆徒之愁歎矣、法之倫亡、豈非朝家之怖畏哉、是四、況七社權現之寶前是万人拜觀之靈場也、若王宮遠隔神社、不近瑞籬之月前者、鳳輦勿臨叢祠之露下、鳩集永絕、若參詣疎禮奠違例者、雷非無冥應、恐又殘神恨乎、是五、凡當都者、是輒不可捨之勝地也、昔聖德太子相此地、

云、所有王氣、必建都城云云、大聖遠鑒、誰忽諸之、況青龍白虎悉備、朱雀玄武無闕、天然吉處、不可不執、是六、彼月氏靈山、則攀王城東北、大聖之明幅也、日域叡岳又峙、帝都丑寅、護國之靈地也、忝同天竺之勝境、久拂鬼門之凶害、地形奇特、誰不惜乎、是七、況賀茂八幡、比叡春日、平野、大原、松尾、稻荷、祇園、北野、鞍馬、清水、廣隆、仁和寺、如此神社佛寺等者、或大聖鑒機緣垂迹、或權者相勝地占砌、則是護國護山之崇廟也、將又勝敵勝軍之靈像也、遠王城之八方、利洛中萬人貴賤、參詣歸依、成市、佛神利生感應、如在、何避靈應之砌、忽趣無佛之境乎、設新建精舍、縱奉請神明、世及濁亂、人非大權大聖、感降不、必有之、是八、況是等神社佛寺之中、或有諸家氏寺、修不退勤行、子胤相續、自興佛法所也、如此之倫、恕從公務、強別私宅者、豈非抑人之善心、是天下愁歎不可不痛、是九、南都北山之僧徒、忝從公請之時、朝出蓬壺、暮歸練若、宮城遠隔、往還云何若捨本尊者多痛、若背王命者有怖、進退惟谷、東西既暗、是十、憶昔國豐民厚、興都無傷、今國之民窮遷幸有煩、是以或有忽別親屬、企旅宿者、或有纔破私

宅不_レ堪_二運載_一者、愁歎之聲已動_二天地、仁恩之至豈不_レ顧_レ之、七道諸國之調貢、萬物運上之便宜、西河東津有_二便無_レ煩、若移_二餘處_一、定有_二後悔_一歟、又太將軍至_二西方角_一已塞、何背_二陰陽_一、忽遠_二東西_一、山門禪徒專思_二玉體安穩_一、愚意所_レ及爭不_レ鳴_二諫鼓_一、但俄有_二遷都_一、是仍_二何事_一、若由_二凶徒亂逆_一者、兵革既靜朝廷何勤、若由_二鬼物怪異_一者、可_レ歸_二三寶_一以謝_二天災_一、可_レ撫_二萬民_一以資_二皇德_一、何動_二本宮_一、故奇_二佛神圍繞_一之砌、剩企_二遠行態_一、犯_二人民惱亂_一之咎、抑退_二國之怨敵_一、拂_二朝之天危_一、從_二昔以來偏山門之營也_一、或本師祖師誓護_二百王_一、或醫王山王擁_二護一天_一、所謂惠亮摧_二腦尊意振_レ劍、凡捨_二身事_一君無_レ如_二吾山_一、古今勝驗載在_二人口_一、今何有_二遷都_一、欲_レ滅_二此所_一哉、況堯雲舜星之耀_二一朝_一、天枝帝業之傳_二万代_一、則是九條右亟相願力也、豈非_二慈惠大僧正之加持_一哉、聖朝詔云、朕是右丞相之末葉也、何背_二慈覺大師之門跡_一、今云何忘_二前蹤_一、不_レ顧_二本山滅亡_一哉、山僧之訴詔雖_レ不_二必當_一理、且以_二所功勞_一久蒙_二裁許_一來矣、況於_二此齟齬_一者、非_二獨衆徒之愁_一、且奉_レ爲_二聖朝_一、兼又爲_二兆民_一哉、加_レ之於_二今度事_一、殊抽_二愚忠_一、一門圍城雖_二相招_一仰_二勅宣_一、萬人之誹謗難_二宛閤

巷伏祈_二御願_一、何固_二勤勞_一、還欲_二滅_一一處、運_二功蒙_一罰、豈可_レ然哉、縱雖_レ無_二別天感_一、欲_レ蒙_二此裁許_一、當山之存亡只在_二此左右_一故也、望請天恩再廻_二睿慮_一、被_レ止_二件遷都_一者、三千人冒火忽滅、百萬衆德水不_レ乏、衆徒等不_レ耐_二悲歎之至_一、誠惶誠恐謹言、

治承四年十一月日

(廿二)坂東落書

早爲_二一天泰平萬人安穩_一可_レ追_二討平家一族_一事
右倩案治承四年歲次庚子者、相_レ當蔭子平將門被_二追討_一之時代、何當_二此時_一而令_二默止_一哉、謹見_二此淨海法師之亂惡_一、殆過_二彼將軍將門之謀叛_一、百千萬億也、昔將門者於_二都城之外_一而企_二濫行_一、今淨海者於_二洛陽之內_一發_二謀叛_一、所謂捕_二納言宰相_一而其身繫縛、搦_二關白大臣_一而配_二流遠域_一、加_レ之或迫_二寵當今聖主_一、奪_二位而讓_二于子孫_一、或責_二出新本天皇_一、入_レ樓而留_二於理政_一矣、此叛逆絕_二古今_一、前代未聞之處、若稱_二院宣_一、若號_二令旨_一、恣_二下行之_一、何王之治天、何院之宣旨哉、皆是自由之漏宣也、抑自_二平治元年_一以來、數_二平氏持_一世既二十一年也、是則改_二一昔之代_一而相_二當源氏_一可_レ持世之時乎、而

今思事情、平氏捧赤色、持世是火之性也、今既果報之薪盡而敢無可令放光之據、又平氏謂以平治之年號而持世、治承者上下之文字具水、以黑色之水、可滅赤色之火表也、昔承平今治承以三水之字、作年號之品、本末以水失火事不可有相違者也、兼又今年之支干金與水也、取色白與黑也、爰尋其先蹤者、八幡殿之家捧白色、白者則金之性也、刑部殿之家捧黑色、黑者則水之性也、水與金和合持長生之相也、兼又淨海者生年戊戌六十三支干共是土也、土冬季死水冬季生、然者當冬季而平氏可滅亡之時節也、被討平氏之條更不可有疑者哉、就中八幡大菩薩百王守護八十一代也、今其誓不可誤給、此時不立何日散愁忿乎、嗚呼當冬季水爲王相、滅火有其德、敢不可盡思慮、更不可延時日、七道諸國之人神社佛閣之族、舉唱源氏勝軍、機感相應入洛時至、早進發于王宮、靜天下、可奉改國主金世上也、凡如風聞者平氏與財產而相語山僧、拋賄賂而招集國賊、可成與力、責東國之由、有議定云云、是則王城發向及遲々故也、今年不遂其志者、敵軍振珍寶而成多勢、

諸人耽貪欲而有變改者、後悔屢出來歟、仍爲佛爲神爲朝爲民、可被討平家一族之謀臣矣、以送此狀而已、

治承四年十一月日

(廿三)兼遠起請文

謹請再拜々々

早依有謀叛企可搦進木曾冠者義仲、由起請文事

右上奉始梵天帝釋四大天皇日月三光七耀九星二十八宿、下內海外海龍神八部堅牢地神冥官冥衆日本國中七道諸國大小諸神鎮守王城諸大明神モロミツノミコト驚申而白、木曾冠者義仲者、爲六孫王之苗裔、繼八幡殿後胤弓馬之家也、武藝之器也、依之被引源家之執心、爲謝宿祖之怨念、相語北陸諸國之凶黨、擬滅平家一族之忠臣之由、有其聞甚以濫吹也、早仰養父中三權頭兼遠、而可搦取彼義仲云云、謹蒙嚴命畢、任被仰下之旨、速可搦進義仲、若僞申者上件之神祇冥衆之罰於兼遠之八萬四千之毛孔仁蒙天、現世當來永神明佛陀之利益仁可奉漏之起請之狀、仍天

以天如_レ件、

治承五年正月日

中原兼遠

源平往來卷下目錄

一 從_二平家_一奧州秀衡遣狀

二 木曾三箇馬場願書

三 同植生八幡宮願書

四 平家一門延曆寺願書

五 木曾山門牒狀

六 山門返牒

七 賴朝征夷將軍宣旨

八 同院宣請文

九 木曾山門怠狀

十 賴朝山門牒狀

十一 熊谷送狀

十二 經盛返狀

十三 從_二上皇_一西國院宣

十四 宗盛請文

十五 賴朝奏聞條々

十六 義經西國合戰註進狀

十七 同腰越申狀

源平往來卷上終

源平往來卷下

狀

(一)平家賴朝追討申賜廳宣而奥州之秀衡遣

左辨官下奥州之住人等

應早令_中追討流人前右兵衛權佐源賴朝上事

右奉仰併件賴朝去永曆元年坐罪配流伊豆國須悔身過宜從朝憲而猶懷梟惡之心旁企狼戾之謀或冤凌國宰之使或侵奪土民之財於東山東海道國々除伊賀伊勢飛驒出羽陸奥外皆趣其勸誘之詞悉隨彼布略之語因茲差遣官軍殊可令防禦之處近江美濃兩國之反者即敗績尾張三河以東之賊衆尙固守仰源氏等皆悉可被誅戮之由依有風聞一姓之輩共發惡心云云此事尤虛誕也於賴政法師者依爲顯然之罪科忽所被加刑罰也其外源氏無指過怠何故被誅各守帝猷抽臣忠自今以後莫信浮讒兼存此子細早可歸皇化者也奉仰下知如件諸國宜承知仍宣行之敢不可違失之故下

治承五年四月廿八日

左大史小槻宿禰奉

(二)木曾三箇馬場願書

敬白立申大願事

一可奉勤仕加賀馬場白山本宮三十講頭之事

一可奉勤仕越前馬場平泉寺三十講頭之事

一可奉勤仕美濃馬場長瀧寺三十講頭之事

右白山妙理權現者觀音薩埵之垂跡自在吉祥之化現也卜三州高岩之靈峯利四海率土之尊卑參詣合掌輩滿二世悉地歸依低頭之類誇一生之榮耀惣鎮護國家之寶社天下無双之靈神者歟而自近年以降平家忽昇不當之高位飽跨非順之榮爵忝蔑如十善萬乘之聖主恣凌辱二台九棘之臣下或追捕太上法皇之隙或押取博陸殿下之身或打圍親王之仙居或奪取諸宮之權勢五畿七道何處不愁之百官萬民誰人不歎之已欲斷王孫豈非朝家怨敵哉是一次燒南京七寺之佛閣斷東漸八宗之惠命盡園城三井之法水滅智證一門之學侶其逆勝調達其過越波旬月氏之大天再誕歟日域守屋重來歟已魔滅佛像經卷忽燒拂堂舍僧坊寧非法家之怨敵

哉、是次源氏平氏之兩家、自昔至子今、如牛角天子左右之守護、朝家前後之將軍也、而觸事決雌雄、伺隙致鉅楯、仍代々全合戰、度々靜勝負、既有宿世之怨心、是非當時之大敵歟、是因茲忝蒙神明神道之冥助、爲降佛法王之怨敵、立大願於三州之馬場、仰感應於三所權現耳、就中先代伏王敵、皆由佛神之量負、此時降謀叛、寧無權現之勝利哉、加之白山之本地觀音大士、於怖畏急難之中、能施無畏、縱雖平家之軍兵如雲集如霞下、衆怨悉退散之、金言有憑、縱雖謀臣之凶徒、加咒咀致怨念、還著於本人之誓約無疑、然者還念權現本誓、感應不可迴踵、何況武家自先祖、仰八幡大菩薩之加護、振威施德而八幡之本地者、觀音本師阿彌陀也、白山御體者、彌陀脇士觀世音也、師弟合力感應潛通者歟、況彌陀有無量壽之號、不授千秋萬歲之算哉、觀音現藥樹王身、寧不令不老不死之藥乎、云本地云垂跡、勝利揭焉、付公家付私宅、欲遂素懷、所志無私、奉公在頂偏爲降王敵、專爲接天下、忽爲興佛法、鎮爲仰神明也、傳聞天神無怒、但嫌不善、地祇無祟、但厭過患、所以平家奪王位、是

不善之至哉、謀臣滅佛法、忽過患之甚也、日月未墜、地、星宿猶懸天、神明之爲神明者、此境不施驗、三寶之爲三寶者、此刻不振威、然則權現照我等懇誠、宜令罰平家逆族、我等蒙權現之加力、願欲討謀叛之輩、若酬丹祈、感應速通者、上件大願無懈怠、可果遂也者、彌施源家之面目、新副社壇之莊嚴、鎮誇神道之冥加、倍致佛法之興隆、仍所立申如件、

壽永二年五月九日

源義仲敬白

(三) 同道生之八幡宮願書

歸命頂禮八幡大菩薩、日域朝廷之本主累世明君之曩祖、爲守寶祚、爲利蒼生、改三身金容、開三所之權扉、爰累年之間、有平相國、恣管領四海、惱亂萬民、猥蔑萬乘、焚燒諸寺、已是佛法之讎、王法之敵也、義仲荷生弓馬之家、僅繼箕裘之塵、見聞彼暴惡、不能顧慮、任運於天道、投身於國家、試起義兵、欲退凶器、鬪戰雖合、兩家之陣、士卒未得一塵之勇處、今於一陣、上旌戰場、忽拜三所和光之社壇、機感之純熟已明、凶徒之誅戮無疑矣、降歡喜之淚、

銘渴仰於肝、就中曾祖父前陸奥守義家朝臣、寄附身於宗廟氏族、自號名於八幡太郎、以降、爲其門業者、無不歸敬矣、義仲爲其後胤、傾頭年久、今起此大功、喻如嬰兒以螻量、巨海、螳螂取斧向奔車、然間爲君爲國起之、爲身爲私不起志之至、神鑒在暗、憑哉、悅哉、伏願冥慮加威、靈神合、力、勝決一時、怨退四方、然則丹祈相叶冥慮、幽賢可成加護者、先令見一之瑞相給、仍祈誓如件、

壽永二年五月十一日

源義仲敬白

(四)平家一門延曆寺願書

敬白

可、以延曆寺歸依准氏寺、以日吉社尊崇如氏社、一向仰天台佛法事

右當家一族之輩、殊有祈誓旨趣、何者叡山者桓武天皇御宇、傳教大師入唐歸朝之後、弘圓頓教法於斯處、傳舍那大戒於其中、以來、專爲佛法繁昌之靈輻、久備鎮護國家之道場、方今伊豆國流入前右兵衛權佐源賴朝、不悔身過、還嘲朝憲、加之與、姦謀叛、致同

心之源氏等、義仲行家以下結黨有數、隣境遠境抄掠數國、年貢土貢押領萬物、因茲且追累代勳功之跡、且任當時弓馬之藝、速追討賊徒、可降伏凶黨之由、苟衙勅命頻企征伐、爰魚鱗鶴翼之陣、官軍不得利、星旗電戟之威、逆類似乘勝、若非佛神之加被、爭鎮叛逆之凶亂、是以一向歸天台之佛法、不退仰日吉之神恩而已、何況忝憶臣等之曩祖、可謂本願餘裔、彌可崇重、彌可恭敬、自今以後山門有慶、爲一門之慶、社家有鬱、爲一家之鬱、付善付惡、成喜成憂、各傳子孫、永不失墜、藤氏者以春日社興福寺爲氏社氏寺、久歸依法相大乘之宗、平家者以日吉社延曆寺、如氏社氏寺、新值遇圓實頓悟之教、彼者昔遺跡也、爲家思榮幸、是者今祈誓也、爲君請追罰、仰願山王七社王子眷屬、東西滿山護法聖衆十二大願、醫王善逝日光月光十二神將、照無二之丹誠、垂唯一之玄應、然則邪謀逆心之賊、速平黨於軍門、暴惡殘害之徒、必傳首於京都、我等之苦請、佛神其捨諸、依當家公卿等異口同音、作禮而請所如件、

壽永二年七月日

從三位行右近衛權中將平朝臣 資盛

從三位平朝臣 通盛

從三位行右近衛權中將平朝臣 維盛

正三位行左近衛權中將兼但馬守平朝臣重衡

正三位行右衛門督兼侍從平朝臣 清宗

參議正三位皇太后宮權大夫兼修理大夫備前

權大夫平朝臣 經盛

從二位行權中納言平朝臣 知盛

從二位行中納言平朝臣 教盛

正二位行權大納言兼陸奥出羽按察使平朝臣 賴盛

前內大臣從一位平朝臣 宗盛

又近江國佐々木庄領家預所得分等、且爲朝家安穩、且爲資、故入道菩提、併所廻、向千僧供養料一候也、件庄早爲沙汰、可令知行給上候、恐々謹言、

七月十九日 平 宗盛

謹上 座主御坊

(五)木曾山門牒狀

源義仲謹言

奉親王宣欲令停止平家逆亂事

右平治以來、平家跨張之間、貴賤擎手、縑素戴足、忝進止帝位、恣虜掠諸國、或追捕權門勢家、悉令及耻辱、或搦捕月卿雲客、無令知行方、就中治承三年十一月、移法皇之仙居於鳥羽南宮、遷博陸之配所於夷夏鎮西、加之不侵蒙咎、無罪失命、積功奪國、拙忠解官之輩、不可勝計者歟、然而衆人不言、道路以目之所、去治承四年五月中旬、打圍親王家、欲斷刹利種之日、百王治天之御運未盡、其時本朝守護之神冥尙在、本宮故奉保仙駕於園城寺、其時義仲兄源仲家、依難忘芳恩、同以奉扈從、翌日青鳥飛來、令旨密通、有可參駕之催、忝奉嚴命、欲企參之處、平家聞此事、前右大將喚籠義仲之乳人中原兼遠之身、其上怨敵滿國中、郎從無相順、心身迷山野、東西不覺之間、未致參洛之時、有御詮議云、園城寺之爲體、地形平均不能禦敵、仍欲下奉進仙躋於南都之故城、令遂合戰於宇治橋之

邊之刻、賴政卿父子三人仲綱兼綱以下率爾而打立事、與心相違之間、東國之郎從一人而雖無相順者、依惜家名捨命、禦戰之庭被討者多、相逼者少、骸埋龍門原上之士、名施鳳凰城都之宮畢、哀哉、令旨數度之約、一時難參會、悲哉、同門親昵之契一旦絕而謁然者、於平家者、公私欲散會稽之耻者也、幸被下令旨、於東山東海之武士、令決雌雄於越後越前之凶黨、平家之軍兵等、刎首終命之者、不知幾千萬、前右兵衛佐源賴朝同義仲等、自奉親王之宣、以後尾張三河遠江伊豆駿河安房上總下總上野下野武藏相摸常陸出羽陸奥甲斐信濃越後越中能登加賀越前等、惣廿三箇國、既打從畢、於東山道先陣者、令打立尾張墨俣河邊、北陸道先陣者、已著于越前國府、責討平家黨計也、抑貴山被同心親王之善政否、令與力平家惡逆否、若令與力彼黨者、定相禦親王御使歟、我等不慮對天台之衆徒、不期企非分之合戰事、至無益哉、忍辱之衣上鎮著甲冑、慈悲之心中猥巧鬪戰者、僧侶之行儀不可然、速翻平家值遇之僉議、被修當家安穩之祈禱、是則仰叡山之佛法、優淨行苾芻之思切故也、若猶

無承引者、自滅慈覺之門徒、定有衆徒之後悔者歟、如此觸申事、全非畏衆徒之武勇、偏只尊常住之三寶故也、傳聞佛法護皇法、皇法崇佛法、依之與福園城寺之大衆奉親王之御方之故、爲平家惡行、始自園城寺之坊舍、南都七大諸寺之堂社僧坊等、併被燒拂、云云、其中東大寺者、聖武天皇之御願也、我朝第一之奇特也、金銅盧舍那佛之像、烏瑟忽歸花王之本土、堂閣空折蒼海之波濤、八萬四千之相好、秋月隱四重雲、四十一地之瓔珞、夜星漂十惡風矣、每聞此事、不覺之淚洗面、隨分之歎焦胃、專雖在俗武士之心、盡思佛法魔滅之悲哉、縱不佛法破滅者、唯貴山之計也、但台嶺四明之洞孤靜、園城三井之流半竭、根本中堂之燈獨耀、七大諸寺之光忽消、三千之僧侶豈不懷此愁哉、一山之衆徒寧不歎此事乎、存此道理被隨令旨者、彌恭敬十二願王、共歸依三千淨行、夫八幡大菩薩者三代聖朝之權化、加茂平野明神者、二世皇帝之應跡哉、守其子孫神慮有何疑、況叡山衆徒、殊護持國家先蹤也、彼惠亮摧惱、尊意振劍捨身命、奉祈聖朝安穩之旨、勝利在人口者哉、或詔書云、朕是右丞相之末葉也、何背

慈覺大師之門跡、是則慈惠大僧正修驗所_レ致也、早遂_二彼先規_一、上祈_二請百王無爲之由_一、下被_レ廻_二萬民豐饒之計_一者、七社權現之威光益盛、三塔衆徒之願力彌新歟、爰義仲以_二不肖之身_一、誤打_二廻廿餘箇國_一、涇渭之間云_二神社佛寺之御領_一、云_二權門勢家之庄園_一、不_レ遂_二乃貢之運上_一、誠是自然之恐戰也、申而有餘、謝而難_レ遁、側聞自_二諸國七道_一所濟年貢併號_二兵糧米_一、自_二平家默取_レ之、云云、縱雖_レ有_二辨濟之深志_一、全不_レ爲_二領主依怙_一、仍密歎_二路頭之難_一、斷_二平家之兵糧米_一、努々莫_レ處、將門純友之類、神_レ不_レ稟_レ非者、恭令_レ知_二見心中之精勤_一耳、宜以此等趣、內令_レ達_二三千之衆徒_一、外被_レ聞_二九重之貴賤_一者、生前之所望也、一期之懇志也、義仲恐惶謹言、

壽永二年七月十日

源 義仲

進上 惠光坊律師御房

(六) 山門僉議返牒狀

七月十日之御書狀、同十六日到來披閱之處、數日鬱念一時解散、夫源家者自_レ古携_二武弓_一奉_二朝廷_一、振_二威勢_一禦_二王敵_一、抑平氏背_二朝章_一起_二兵亂_一、輕_二皇威_一、好_二謀叛_一、

不_レ被_レ征伐平家者、爭保佛法哉、愛_二源家_一被_レ制_二伏彼類_一之間、追_二捕_一取本寺千僧供物、依_レ侵_二損末社之神輿_一、衆徒等深懷_二訴訟_一、欲_レ達_二案内_一之處、青鳥飛來幸投_二書札_一、於_レ今者永翻_二平家安穩之祈精_一、速可_レ隨_二源家合力之僉議_一也、是則歎_二朝威之陵遲_一、悲_二佛法之破滅_一故也、夫漢家貞元之曆、圓宗興隆、本朝廷曆之天、一乘弘宣之後、桓武天皇興_二平安城_一、親崇敬_二一代五時之佛法_一、傳教大師開_二天台山_一、遠奉_レ祈_二百王無爲之御願_一、以來守_二金輪_一守_二玉體_一、偏在_二三千之丹心_一、翻_二天變_一拂_二地天_一、唯是一山之効驗也、因_レ茲代々賢王皆仰_二蘿洞之精誠_一、世々重臣悉恃_二台岳之信心_一、所謂一條院御宇、偏恃_二慈覺大師門徒_一之綸言明白也、九條右丞相并御堂入道大相國發願文曰、雖_レ居_二黃閣之重臣_一、願_レ爲_二白衣之門弟_一、子々孫々久固_二帝王皇后之基_一、代々世々永傳_二大師遺弟之道_一、同施_二賢王無爲之德_一、加_レ之永治二年、鳥羽法皇參_二叡山_一、御願文曰、昔踐_二九五之尊位_一、今列_二三千之禪徒_一、信思_レ之感淚難_レ押、靜案_レ之隨喜尤深、星霜四百廻、皇德三十代、天朝久保_二十善之位_一、德化普施_二四海之民_一、守_レ國守_二家之道場也_一、爲_レ公爲_レ臣之聖跡也、運_二上本寺千僧供物_一、改_二作末社神輿_一、

末寺莊園併如舊被安堵者、三千合掌而祈玉體於東海之光、一山揚聲而令傾平家於南山之宮、凶徒傾首來詣、怨敵束手乞降、十乘床上鎮扇五日之風、三密壇前遙濯十旬之雨者、依衆徒僉議、執達如件、

壽永二年七月十七日

大衆等

(七)賴朝征夷將軍宣

左辨官下

五畿內 東海 北陸 山陰 山陽 南海 西海 已上諸國

早賴朝朝臣可令爲征夷大將軍事

右左大臣藤原朝臣兼實宣奉勅、從四位下行前右兵衛權佐源賴朝朝臣、可令爲征夷大將軍者、宜令承知、依宣行之、

壽永三年八月日

左大史小槻宿禰奉

左大辨藤原朝臣在判

(八)同院宣請文

去八月七日之院宣、今月二日到來、被仰下之旨、跪以所請如件、抑就院宣之旨趣、情思姦臣之滅亡、是偏明神之冥罰

也、更非賴朝功力、勸賞之間事、只叡念之趣可足、

壽永二年九月日

源賴朝

奉 左大辨藤原兼實公

(九)木曾山門怠狀

山上貴所義仲謹解

叡山大衆忝振神輿於山上、猥構城墉於東西、更不開修學之窓、偏專兵仗之營、尋其根源者、義仲住梟惡之心、可追捕山上坂本之由、有風聞云、此條極僻事也、且滿山三寶護法聖衆、可令垂知見給、自企參洛之日、宜仰醫王山王之加護、顯憑三塔三千之與力、今何始可致忽諸哉、雖有歸依之志、全無違背之思者也、但於京中搦捕山僧之由、有其聞云云、此條深恐怖號山僧、好狼藉之輩在之、仍爲糺真偽、粗尋承問、自然狼藉出來歟、更不滿避儀、惣如山上風聞者、義仲卒軍兵可令登山云云、如洛中浮說者、衆徒企蜂起、可被下洛、是偏天魔所爲歟、不可及自他信用、且以此旨可令披露山上給狀如件、

十一月十三日

伊豫守源義仲上

進上 天台座主御房

(十) 賴朝爲_レ追討木曾・山門牒狀

牒_二 延曆寺衞_一

欲_レ被_下且告_二七社神明_一祈_二三塔佛法_一追_中討謀叛賊徒義仲并與力輩_上

牒遠尋_二往昔_一近思_二今來_一天地開闢以來世途之間、依_二佛神之鎮護_一天子治_レ政、依_二天子之敬禮_一、佛神增_レ光、云_二佛神_一云_二天子_一、互奉_レ守之故也、于_レ茲云_二源氏_一云_二平氏_一、以_二兩家之奉公_一者、爲_レ鎮_二海內之夷敵_一、爲_レ討_二國土之姦士_一也、而當家親父之時、依_二不慮之勸誘_一、蒙_二叛逆之勅罪_一、其刻賴朝被_レ宥_二幼稚_一、預_二于配流_一、然而平氏獨_二步洛陽之棲_一、恣究_二爵官之位_一、家之繁昌身之富貴、誇_二兩箇之朝恩_一、執_二一天之權威_一、忽蔑_二如法皇_一、剩奉_二誅_一親王、因_二茲賴朝爲_レ君爲_レ世爲_レ追討凶徒_一、仰_二年來之郎徒_一起_二東國之武士_一、去治承以後忝蒙_二勅命_一、欲_レ勵_二勳功_一之間、先以_二山道北陸之餘勢_一、令_二襲_二雲霞群集之逆黨_一之處、平氏早退_二散洛_一、向_二西海之浪_一、爰義仲等稱_二朝敵追討_一而先申_二賜勸賞_一、次押_二領所帶_一、無_レ程逐_二平氏之跡_一、專_二逆意之企_一、去十一月十九日、奉

襲_二一院_一、燒_二拂仙洞_一、追_二討重臣_一、剝_二奪衣裳_一、就_二中當山座主并御弟子宮_一、令_レ入_二其烈_一、云云、叛逆之甚古今無_二比類_一者也、仍催_二上東國之兵_一、可_レ追_二討彼逆徒_一也、獲_二其首_一雖_レ無_レ疑、且祈_二誓佛神之冥助_一、且爲_レ乞_二衆徒之與力_一、殊欲_レ被_二引率_一矣、仍牒送如_レ件、以牒、

壽永二年

前右兵衛佐源朝臣

(十一) 熊谷送狀

直實謹言上、不慮奉_レ參_二會此君_一之間、挿_二吳王得_二勾踐_一、秦皇遇_二燕丹_一之嘉、直欲_二決_二勝負_一之刻、依_二拜_二容儀_一、俄忘_二怨敵之思_一、忽拋_二武威之勇_一、剩加_二守護_一、奉_二供奉_一之處、大勢襲來之間、始雖_二辭_二源氏_一參_二平家_一、彼多勢此無勢也、樊噲之威還縮、養由之藝速約、爰直實適稟_二生於弓馬之家幸_一、眩_二武勇於日域_一、廻_二謀落_二城_一、靡_二旗虛敵_一、雖_二天下無双之得名_一、如_二螳螂合_二力而覆_一車、螻蟻一_レ心而穿_二岸_一、恐挽_二弓放_二箭_一、空被_二奪_二恩命_一於同軍之戟塵、覃_二于憂名於傍輩之後代_一、自他背_二身之本望_一非_二家之面目_一、然間奉_レ仰_二此君御素意_一之處、早賜_二御命_一、可_レ訪_二菩提_一之由、依_二被_二仰下_一、乍_レ抑_二落淚_一、

不謀而賜御頸畢、恨哉、此君與直實奉結緣於惡世、悲哉、宿運久萌至今成怨酬之害、雖然、此逆緣者、爭互截生死之糾、不成一蓮之實哉、然則偏卜閑居之地形、懇可奉祈御菩提、直實所申眞僞定後聞無其隱候歟、以此趣可有洩御披露候、恐惶謹言、

壽永三年二月十三日

丹治直實

進上 平內左衛門尉殿

(十二) 經盛返狀

今月七日於攝州一谷被討、敦盛死骸并遺物等送賜候畢、此事自出花洛之古郷、漂西海之波上以來、兼所存也、今非可驚、故望戰場之上者、何有再歸之思哉、盛者必衰者無常之理也、老少前後者穢土之習也、然共爲親爲子、先世之契不淺、釋尊愛羅喉之存、樂天悲一子之別、應身權化猶以如此、況凡夫爭不歎哉、而去七日自討立于戰場之朝迄于後旅船之暮、其面影未放身、來燕之聲幽、歸雁之翅空、死生無告者而迷行方存亡、聞音信而知由緒、仰天伏地訴之、碎心焦肝祈之、偏仰神明之

納受、併侍佛陀之感應之處、於七日之內今見此貌、佛神之効驗有誠而不空、內哀傷徹骨外感淚洒袖、生而不劣再來、蘇而相同重見、抑非貴邊芳恩者、爭今得相見哉、一門風塵猶捨退、況於軍徒怨敵之人乎、訪和漢兩國之儀、顧古今數代之法、未聞其例、此恩深厚須彌顯下、蒼海還淺、進酬自過去、遠々退難報、未來永々者歟、萬端雖多、難盡筆紙、謹言、

二月十四日

左衛門尉平公朝

進上 熊谷次郎殿

御返事

(十三) 三種神器可歸上帝都院宣

一人聖帝出北闕九重之臺而幸于九洲、三種神器移南海四國之境而經數年、尤朝家之御歎亡國之爲基也、彼重衡卿者、東大寺燒失之逆臣也、賴朝任中請之旨、雖須被行死罪、獨別親類已爲生虜、籠鳥戀雲之思遙浮千里之南海、歸雁失友之情定通九重之中途歟、然則於奉返三種祇器者、速可被寬宥彼卿也者、院宣如此、仍執達如件、

元曆元年二月十四日

大膳大夫業忠奉

平大納言殿

(十四) 内大臣宗盛院宣之請文

今月十四日之院宣、同二十四日讃岐國屋島浦到來、謹所承如件、就之案之、通盛以下當家數輩、於攝津國一谷、已被誅畢、何重衡一人可悅、寬宥之院宣哉、抑我君者、受故高倉院之御讓、御在位既四箇年、雖無其御恙、東夷結黨責上、北狄成群亂入之間、且任幼帝母后之御歎尤深、且依外戚外舅之愚志不淺、固辭北闕之花臺、遷于西海之藪屋、但再於無舊都之還御者、三種神器爭可放於玉體哉、夫臣者以君爲體、君者以臣爲體、君安則臣不苦、君憂則臣不樂、謹思臣等之先祖、平將軍貞盛追討相馬小次郎將門、而自鎮東八ヶ國、以降傳子々孫々、誅戮朝敵之謀臣、及代々世々、奉守禁闕之朝家、就中亡父太政大臣、保元平治兩度合戰之時、重勅威輕愚命、是偏奉爲君非爲身、而彼賴朝者、父左馬頭義朝謀叛之時、頻可誅罰之由、雖被仰下于故入道大相國、慈悲之餘被申宥流罪也、茲賴朝已忘昔之高恩、今不顧芳志、忽以流人之身、濫列凶徒之類、愚意之至思慮之難也、尤招神兵天罰、速期廢

蹟沈滅者歟、日月爲一物、不暗其明、明王爲一人、不枉其法、何以一情不覺大德文、但君不思召亡父之數度之奉公者、早可有御幸于西國歟、于時臣等奉院宣、忽出蓬屋之新館、再歸花亭之舊都、然者四國九國如雲集靡異賊、西海南海如霞隨誅逆夷、其時主上帶三種神器、幸九重之鳳闕、若不雪會稽之耻者、相當于人王八十一代之御宇、我朝之御寶、引波隨風赴新羅百濟契丹、雖成異朝之財、終無歸洛之期歟、以是旨可然之樣、可三洩奏聞給、宗盛頓首謹言、

元曆元年二月廿八日

内大臣宗盛請文

(十五) 賴朝奏聞條々

一 朝務以下除目等事

右守先規殊可被施德政、但諸國受領等、尤可有計御沙汰候歟、東國北國兩道之國々、追討謀叛輩之間、土民不安堵、於于今者、牢人如元可令歸住舊里候、然者來秋之時、被仰含國司、被行吏務者可宜候、
一 平家追討之事

右畿内近國、號源氏平氏、携弓箭之輩并住人等、早任義經之下知、可引率之由、可被仰下候、海路雖不幾、急可追討之旨、可被仰付義經候也、

一諸社之事

我朝者神國也、往古之神領不可有相違候、其外今度又始於諸社神明、可被新加所領上候歟、就中去比鹿島大明神御上洛之由、風聞出來之後、賊徒追討神戮不空者歟、兼又諸社若有破壞顛倒之事者、隨破損之分限、可被召付受領之功候、其後可被裁許候、

一恒例神事

守式目無懈怠、可勤行之由、可被尋沙汰候、

一佛寺事

諸山御領如舊例、勤行不可退轉、如近年者、僧家皆存武勇、忘佛法之間、堅閉修學之樞、併失行德之譽、尤可被禁制候、兼又於濫行不信之僧者、不可用公請、至僧家之武具者、自今以後爲賴朝之沙汰、任法奪取可與賜

朝敵追討之官兵等之由、所思召候也、

以前條々言上如件

元曆元年十一月日

從四位下賴朝

(十六)義經西國合戰之次第注進狀

去三月廿四日午刻於長門國壇浦、平氏悉討取、大將軍前内大臣以下虜、神璽内侍所無爲歸入御座、寶劔者嚴島神主景弘仰探求海底、虜人建禮門院若宮冷泉局大納言典侍・帥典侍・前内大臣・前平中納言時忠卿・前右衛門督清宗卿・前内藏頭信基朝臣・前左中將時實朝臣・前兵部少輔尹明藏人大夫親房・全真僧都・能圓法師・自害人前中納言教盛卿・同知盛卿・前修理大夫經盛、登山自害堀埋、前能登守教經、戰死者前左馬頭行盛朝臣・前左少將有盛朝臣、入海中、人先帝准后八條局侍、虜美濃守則清・左衛門尉信康・阿波民部大輔成良、降人前安藝守景弘・嚴島神社民部大輔景信・雅樂助貞經・真能男傳内左衛門尉則長・矢野右馬允家村・同舍弟高村・相摸國住人熊代三郎家直等以上、

元曆二年四月四日

源九郎義經

(十七)義經腰越狀

源義經乍恐申上意趣者、被撰御代官其一、爲勅宣御使、傾朝敵、顯累代弓箭藝、雪會稽之耻辱、可被行忠賞之處、思之外依虎口讒言、被默止莫大勳功、義經無犯而蒙咎、雖有功無誤、蒙御勘氣之際空沈紅淚、情案事意、良藥苦口忠言逆耳先言也、因茲不被糺讒者之實否、不被入鎌倉中之間、不能述素意、徒送數日、當此時永不奉拜恩顏、骨肉同胞之義已絕、宿運極所歟、將又先世業因所感歟、悲哉、此條古亡父尊靈非再誕緣者、誰人中披愚意悲歎、何輩垂哀憐哉、事新申狀雖似述懷、義經受身體髮膚於父母、不經幾時節、古頭殿御他界之際成孤、被抱母懷中、自趣大和國宇多郡龍門郡以來、一日片時不住安堵之思、無甲斐雖存命、京都之經廻難治之間、諸國令流行、在々所々隱身、栖邊土遠國、被服仕土民百姓等、然而幸慶忽純熟、而爲追罰平家一族、令上洛、手合先誅戮木曾義仲、後爲責傾平氏、或時者峨々巖石策駿馬、爲敵不顧亡命、或時者漫々大海凌風波難、不痛

沈身於海底、懸骸於鯨鯢腮、加之爲枕甲冑、弓箭爲業、本意併欲奉休魂鶴憤之外無他事、剩義經被補任五位尉之條、當家之面目希代之重職、何事如之、雖然悲深歎切也、因茲以諸事諸社之牛王寶印裡、不插野心之旨、奉請驚日本國中六十餘州大小之神祇冥道、雖書進數通起請文、尙以無御宥免、夫我國者神國也、神不稟非禮所賴非他、偏仰貴殿廣大之御慈悲、伺便宜令達高聞、被廻秘計、優無誤旨、預芳免者、積善餘慶及家門、傳榮花於永子孫、仍開年來愁眉、得一期安寧、不盡書紙、併令省略畢、諸事仰御賢察、恐惶謹言、

元曆二年六月日
進上 因幡守殿

源 義經

源平往來卷下終

商賣往來

凡商賣持扱文字、員數取遣之日記、證文、注文、請取、質入、算用帳、目錄仕切之覺也、兩替之金子、大判、小判、壹步、貳朱、金者位品多、所謂南錄上、銀子丁、豆板、灰吹等、考_ニ質與本手、質目分厘毛拂迄、以_ニ天秤分銅、無_ニ相違割符可_レ令_ニ賣買也、雜穀_リ、粳、糯、早稻、晚稻、古米、新米、麥、大豆、小豆、大角豆、蕎麥、粟、黍、稷、胡麻、荏菜種、廻船數艘、積登問屋之藏入置、聞_コ合直段相場、不_レ殘於_ニ賣拂者、運賃水上口錢差引相究、都合勘_ニ利潤之程、出入之有_ニ損失者、可_レ辨之、譬者味噌、酒、酢、醬油、麴、油、蠟燭、紙、墨、筆等、此外絹布之類、金襴、繻子、純子、紗綾、縮緬、綸子、羽二重、北絹、生絹、天鷲絨、羅紗、猩々緋、羅青板、毛氈、拵羅綿、端物、龜物、仕立物、古手、真綿、摘綿、木綿、麻苧、紬、肩衣、袴、羽織、同紐、袷單物、帷子、夜著、蒲團、蚊帳、浴衣、風呂敷、手拭、帛紗、帶、頭巾、足袋、并染色、紺、花色、淺黃、檜皮、紫、鬱金、木賊、茶、蒴黃、蘇枋、茜、紅粉、所々染入、縫散、立浪、籬之菊、雪折笹、御所車、澤瀉、水車、地扇、

菱、輪違、九曜、四目結、巴、菊、桐、柏、藤、葛、唐草、女童之好模樣、恰好可_ニ心得_ニ武士之用具、其品雖_レ多、有增之分、弓、矢、鐵炮、鎗、薙刀、鉾、鎧、兜、鞍、鐙、泥障、切付、轡、手綱、腹帶、鞆、鞍、覆、鞭、差繩、扱又刀、脇差之拵、目貫、鯨緣、柄頭、鐙、靴、切羽、鷄目、鐐、隨_ニ其好、赤銅、真鍮、減金、素銅鐵、象眼、居紋、彫物、細工者、猶可_レ應_ニ國所時之風俗也、唐物和物之家財、珊瑚、瑠璃、碑礫、馬瑙、琥珀、瑤瑁、水晶、青貝、卓、青磁、香爐、堆朱、香合、香盆、蒔繪、梨子地、硯箱、文庫、文臺、筆架、硯屏、文鎮、磁石、南京石目鏡、印籠、山著、次雜具、葛籠、狹箱、櫃、長持、戶棚、屏風、簞笥、衝立、襖、戶障子、簾、縵幕、枕、折敷、湯桶、切立、辨當、食籠、重箱、提重、行器、皿、鉢、盃、燗鍋、陶錫、庖丁、生繪箸、燭臺、行燈、挑燈、短檠、藥罐、茶碗、茶柄杓、罐子、鹽、櫛、搔器、飯銅、碓、礮、箕、編笠、傘、木屐、高直、下直、時所見合可_レ爲_ニ賣買也、藥種香具之事、檳榔子、大黃、細辛、阿仙藥、石斛、阿膠、貝母、獨活、甘草、肉桂、黃耆、川芎、當歸、藿香、黃蓮、三稜、白芷、茴香、陳皮、羌活、桂枝、半夏、菝葜、枳殼、巴豆、桃仁、蓮肉、杏仁、伽羅、龍腦、麝香、樟腦、沈香、白檀、丁子、人參、硫

黃、焰硝、綠青、明礬、辰砂、練藥、粉藥、散藥、膏藥、全
以_二價藥種_一不_レ用、量入無_レ之樣正直第一也、其外山海
之魚鳥、鶴、雉子、雁、鴨、雲雀、白鳥、鶉、鷺、鶉、鳩、鴨、
鯛、鯉、鮒、王餘魚、鱸、鮓、殘魚、鱧、鰻、鮐、鮓、鮓、鳥
賊、辛螺、榮螺、蛸、海月、海老、牡蠣、蛤、馬刀、蜆、鮎、
鰻、鮓、鮓、鮓、干鱈、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、
鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、鮓、
品前後雖_レ爲_二混亂_一、唯初學之輩平生可_二取扱_一文字迄、
任_二思出_一粗馳_レ筆也、抑生_二商賣之家輩_一、從_二幼稚之時_一、
先手跡筭術執行可_レ爲_二肝要_一也、然而歌、連歌、俳諧、
立花、蹴鞠、茶湯、謠、舞、鼓、太鼓、笛、琵琶、琴、杯、稽古
之儀者、家業有_二餘力_一者、折々心掛可_二相嗜_一、或基、將
基、双六、小唄、三弦、長_二酒宴遊興_一、或不_レ應_二分限_一、飭_二
衣服家宅、泉水、築山、樹木、草花之樂而已、費_二金錢_一
事、無益之至、衰微破滅之基歟、惣而見世棚奇麗而、挨
拶應答響應可_レ爲_二柔和_一、大貪_二高利_一、掠_二人之目_一、蒙_二天
罰、重而問來人可_レ稀、恐_二天道之働_一輩者、終富貴繁
昌、子孫榮花之瑞相也、倍々利潤無_レ疑、仍如_レ件、

商賣往來終

名産諸色往來

目 録

一 吳服絹布糸井布木綿品々事

一 丸散丹藥附家々祕方荷賣振賣辻扣賣之事

一 諸材木國々出處之事附繩竹葭簣等之事

一 諸國廻船米穀井雜穀之事

一 魚鳥獸井鹽物灘物鹽辛干物附飼鳥養獸之事

一 菓子之類生熟之事附精進物之品々不殘

一 枕家具井佛具女中手道具之事

一 町之名宮々所々遊興之地之事

一 大工鍛冶屋根葺木挽之事

一 奉書杉原鼻紙井經師辛紙事

一 蓑蓑出處品々之事

一 疊之表出所井緣之事

一 草屋紺屋其外諸職人之事

一 諸國名酒品々之事

一 編笠笈笠傘草履草鞋井木屐足駄之事

惣而諸色諸職人一切悉不殘一冊書印者也

右一冊者、職人商賣人品々集而名往來、松葉

軒龍水遊^{スギミ}雨中、暫思^{ザンシ}戲^{ハムレ}禿筆、書捨畢、而柏屋與市拾^シ之、雅兒童愚爲^ニ助學、令^ニ開板^ニ者也

陽春之慶賀如^ニ恒例^ニ、上下販鋪規式珍重々々、猶以不^レ可^レ有^ニ際限^ニ候、抑國家安全、理民長久之瑞相、自國他國繁昌此時候、日本六十餘州者不^レ及^レ申、至^ニ于支那四百餘州奇麗高麗新羅百濟契丹琉球阿蘭陀南蠻北狄東夷西戎迄、今此御代之奉^レ感慕御政道、每歲商賣船長崎江令^ニ着岸、依^レ之異國之美物、奇物、金纈、羅綾、新古器財、凡天竺、漢土之重寶迄、悉吾朝江運送、不^ニ而已、禪律悟道、隱元禪師茂渡朝而垂^レ跡留^レ名、其外儒典醫術之明辨碩德茂、惟慕^ニ來日本、四大日々盛事難^ニ言語盡^ニ就^ニ中大樹公依^レ爲^ニ御在城、所^レ集者武府也、尤江戸爲^レ體、南北從^ニ品川千壽迄、人家軒連而續^ニ四里餘、西者亦往昔爲^ニ廣廣、雖^レ爲^ニ武藏野、殘^ニ名之耳、無^ニ寸地、板橋、高井土、府中邊迄、五里六里間者、不^レ殘大名小名之構^ニ下屋敷、或者諸物頭等組屋鋪也、東者爲^ニ漫々一埋^ニ海中隣^ニ三下總、船之往返自由成事、亦難^ニ勝計、市谷、牛込、小日向迄茂内川堀續、或麻布、長坂、雜色之方迄、潰^ニ

田畑堀新川、其間々者橋也、而人馬之通路自在也、小路々々之辻番者、往還之客、狼藉者、嚴密勤、其役場、因茲闇夜之無氣遣、幼兒獨女、無何障、頗町小路、豎橫新道、裏棚至迄、可錐立、無空地、先商民者、金座、銀座、兩替中間、本町室町之吳服屋中間、金襴、緞子、縐子、縐珍、綸子、縮緬、紗綾、羽二重、東京北絹、南京織、沉織、盆巾嶋、生八丈、朦繭織、茶芋、天鷲絨、羅紗、羅春板、羅赤、羅齊、毛兎羅綿、其外女中衣服者、鹿子、染分、惣之縫、際箔、地紅粉、濃淺黃、鬱金、黑赫粉、御所鹿子、夜着、布團、隨好盡美、加賀絹、越前之薄絹、丹後、丹波、日野、郡內、福島、仙臺、國々絹紬、奈良晒、近江曝、越後布、同縹、明石縮、高宮嶋、同蚊牒、唐布、芭蕉布、流球布、地布、木綿、線綿、真綿、肱綿、岩付嶋、伊勢、大坂、河內、日向、常陸、上野、國々之木綿問屋、長崎、堺、京、大坂之藥種問屋、脩治制法之拵藥、人參、川芎、香白芷、莖朮、三陵、麥門冬、陳皮、香附子、黃芩、黃連、黃芪、黃蘗、麻黃、桂心、柴胡、細辛、白朮、荊芥、羌活、獨活、青皮、葛根、桔梗、山梔子、防風、乾姜、前胡、麥芽、薏苡仁、桃仁、大黃、苦參、狼毒、木通、升麻、枳實、檳榔子、枳殼、葱麥、五倍子、續隨

子、乳香、藿香、木香、石香、茴香、良香、知母、益知、紅花、厚朴、牡丹、芍藥、熟地黃、麝香、沈香、龍腦、龍膽、巴豆、肉桂、白檀、丁香、甘松、貝母、杏仁、大黃等、都而千貳百餘種、或亦家々祕方、紫雪、紫金錠、烏犀、蘇香圓、萬金丹、金粒丸、太補湯、地黃丸、麻積圓、脾積圓、反魂丹、延齡丹、鳳隨丹、赤龍丹、丁子圓、田代解毒丸、久志本神仙丸、耆婆不老丸、赤坂堀端山城屋之金命丸、小關橋本之五疳保童丸、抱瘡除藥大曲丸、天下無双之疝氣寸白之療治、月水流、藤丸見林、物切疵之膏藥、甲斐國之狸膏、稻荷夢想之油膏、烏丸柳膏、阿蘭陀太一膏、天下一伽羅油、黑髮美清香、天下三人齒醫師、辻々荷賣妙藥圖、法師、洞人形五臟之論、野田玄勝錦袋圓、長崎三官肉桂湯、求肥飴、本大坂糸切櫻、錫、其辨舌利口振賣、越中國自現法印箭除之守、近江備後流球之疊表、伊勢熊野之簾、高野色川阿部、遠州江戶崎、下間、關宿之煎茶、加賀奉書、越前奉書、美濃紙、小菊、備中糊入、岩城紙、那須半紙、甲州信濃、杉原同鼻紙、秩父紙、淺草澁返、湊紙、檀紙、播磨楮原、渡唐紙等之間屋、吉野、會津、越後漆屋中間、奈良、鴻池、伊丹、富田、池田、小濱、清水并江川菊酒、練酒、葱

熨斗、和歌布、絹良布、青海苔、甘海苔、葛西苔、品川苔、
 搗和歌布、堅海苔、鷄冠、草薺店、禾海苔、海蘿、此外萬
 萬雖有品、有增也、豫大船町之間屋著、瀬戸物町之
 鳥座中間、雁、鴨、鶴、白鳥、蒼鷺、五位鷺、大鷺、鴻、
 雛子、山鳥、山鴨、姥鴨、智黑鴨、鶉、水鷄、水札、鴿、梅
 首鷄、川鳥、鳩、鶉、百舌鳥、鶯、尾長鳥、此外野殺小
 鳥、生鳥之商賣、且亦麴町之獸者、猪、獅子、鹿、狐、
 狼、熊、狸、獺、鼬、貓、山犬、鳶、鳥、鶇、其外小鳥、
 搗鳥、不遑計、四屋內町之飼養鳥者、島野鷄、島鶇、
 白鷺、四十雀、日鵲、小鵲、鶇、鶇、郭公、鶇、鶇、
 鶇、名吉鵲、啄木鳥、山柄、鶇、鶇、鶇、鶇、
 連雀、鶇、顯白、豆甘鳥、鶇、雲雀、越前兔、白鼠、家
 鴨、此外品々野菜、精進物、菓、菌之類、午房、大根、人
 參、蕪、冬菜、獨活、天花草、苳、蕪、蕪、蕪、
 芫、芫、日草、芹、苳、苳、苳、苳、
 苳、苳、山葵、天葵、生薑、芙蓉葉、蕪荷、筍子、芋、野
 老、根蓮、澤瀉、薯蕷、枸杞、五加、茄子、大角豆、胡瓜、
 越瓜、真桑瓜、府中鳴子、新田島、美濃河越等之熟瓜、
 梅、桃、杏子、梨子、葡萄、木練、御所柿、木淡、枇杷、楊
 梅、椎、栗、棗、林檎、雲州橘、橘柑、柚子、柑子、蜜柑、

榛、九年母、覆盆子、梔、團栗、銀杏、芋實、山茨菰、
 常山、防風、茅、紫蘇葉、薔薇玉、稗白、樸、藟柑子、
 代代、草薺、栢、搗栗、鱸子、零餘子、藜、芋莖、干菜、
 懸菜、干瓢、干蕪、松茸、初茸、等茸、獅子茸、卜治、
 火烟茸、苦茸、椎茸、梗茸、雄大豆、小豆、豌豆、八重實、
 胡麻、辛實、芥子、山椒、胡桃、唐辛子、大麥、麴、蕎麥、
 糯米、粟、稗、唐礪、串柿、枝柿、釣熟柿、其外品々、小
 刀、刺刀、鐮子、鋏、包丁、剉箸、出刃、薄刃、髮鐮、瓜
 打、菜刀等者、京、大坂、堺、名古屋、岐阜、鳴海、宮、桑
 名より打下、馬草、糠、藁、荳、荳等之入口也、將亦賣
 荳者、甲州小松、萩原、高崎、館、水戸赤土、信濃玄古、
 同井上、前ヶ崎、丹波秋山、備前石火箭、阿波鹽竈、吉
 野花香、宇都宮真刻、仙臺之上粉、幾世流者、肥後張、
 崎之蠟燭流、京大佛之詔張、江州四十九院之毛堀、東
 叡山黑門前之地張、張分之丹前、炭著、池田香瀧白炭、
 上總新山、熊野天神山、八王寺中次俵炭也、植木坪草
 者、四谷、澁谷、百人町、椿、躑躅、梅、櫻、柳、南天、庭櫻、
 梔、搗木、鷄冠木、桃、栗、杏子、若楓、松、杉、檜、柘榴、
 銀杏、山檜、木瓜、長春、牡丹、芍藥、鳳仙花、雁緋、瞿
 子、女郎花、菊、海棠、杜若、百合草、桔梗、石菖、水仙

花、醃醃、鷄頭花、澤瀉、菖蒲、沈丁花、萩、桂花、萱草、薄花、紅葉、此外不及筆記、略之、職人鍛冶屋、屋根葺、大工始、先大工之道具、鉸、斤、斧、大鋸、壺曲尺、鋸、錐、鋸、鑿、鐵鎚、裁機、鑽子、鑿、斗曳等、自餘者任思出、壁塗、木舞、搔、差物屋、櫃、文庫、硯箱、卓机、上家、外家、簞笥、桶屋、大桶、小桶、樽、半切、棧、手盥、洗足手洗、傘、挑燈張、龍田合羽、懷中桐油、或簞作編笠、菅笠、薦編蓆織、花席也、草屋具、草布圍、切付、轡、斬、馬氈、鞍覆、馬被、泥障、鍬皮、膝、蹈皮、行纏、脚半、草羽織、同頭巾、立付、股引、袴上下、幔幕、巾着、鼻紙袋等也、籠屋之具者、鳥籠、網代、葛籠、皮籠、籬、籬籠、味噌漉、水漉囊、此外品々、檜物屋、組搔、張付師、疊刺、翠簾屋、簾編櫛引、蓋引、印判屋、板木、彫額、彫入、齒目、金玉細工、組屋、扇子、拆經師、表具屋、唐紙師、筆結墨屋、硯堀、万町棒熊手、鳶口、鋸、鐵之柄、下槌、絹張杵、砧、木履、足駄、數寄屋履、猿屋楊枝、懸物、張物、絹練、數珠引、幡縫、縫箔師、袈裟、衣仕立、繪師、佛師、蒔繪師、花作、乘物屋、本地引、鈴曳、彫物師、目貫、笄、小柄、人形作、雛作、張子、香合、犬、猫、鷄、白鼠、布袋、唐子、其外異形異物類、小間物屋、

櫛、針、笄、糸卷、糸入、疊紙、香爐、香箸、香匙、火箸、茶酌、茶柄酌、茶筌、茶匙、繪双紙、源氏并家々集、武具者、鐙腹卷、胴丸、小具足、卯花絨、小櫻絨、唐綾綴、萌黃糸、黑革綴、延甲者、小田原六十二間、星兜、頭生鯨尾、鑽帷子、著籠、鑓、寸鎗、大身、十文字、笹葉、或袋鎗、鑓、鍛并長刀、弓者、重藤、塗籠、鷲羽鶴元、白鴻、鶴、鷹羽、雁股、慕目、誕生鎗、越前之櫻根、丹波口人、北野鑓筒、的箭、衡鑓、尻籠半弓、作打鞍者、金覆輪、產梨、金貝、置上紋、日野朴之責、鞍加賀掛之象眼、鑓、京、大坂之名物、明珍一口之轡、籠、空穗、胡籠、弓、櫟、馬諷掛、或刀腋差之鞘師、塗師、白金師、切羽、鋤、鋤、鋤、鋤、柄頭、小尻、裏鏡、七子琢、繪額、正阿彌埋忠、象眼、鐔飾、金物屋、藥罐屋、銅、瓦、土瓦、土器作、同瓦燈、風爐、草履、草鞋、箆笠、虫籠、鳥籠、篩作、淘子細工、菓子者、餅、饅頭、樂羹、藤實、綠、腸、羹、羊羹、水蟾、搔餅、蕨餅、素麵、菓子麩、鯨餅、鶉燒、砂糖大豆、同櫃煎餅、麩燒、仙臺糯、道明寺、木曾之水餅、此外不遑三書記、溫飴、蕎麥餅、佐々餅、或豆腐、蒟蒻、麩、草薺店、馬方、船頭、牛車、地車引、背負、駕搔、安行、日用、米擔、搦、搦杵、橋々出、尤道路望、巾著切之晒也、堺町、木挽町、上瑠璃、說

經、狂言盡、神祇、釋教、戀、無常、專時花、轆轤首、播磨守、時計、操之十界之圖、連飛、籠拔、大女長崎水右衛門、獸盡、見物之貴賤列、袖、芝屋木戶口群集、于、時例之曲者、小刀下緒、鼻紙袋、巾著心懸、見物人之腰廻、有歟無歟之目利而、跡哉先哉與配氣、言語同斷成有、職、相續而辨舌利口之運在組、煮賣古金買、三谷吉原之傾城、本在横堀之賣駄、目黑玉輪大佛、天神、白山、淺草之茶屋、如斯依繁昌、每日從未明及深更迄、晝夜之無差別、往還也、恐者邊土遠國之爲、十三倍市町、尤二藏三藏、大工童、鍛冶屋丁稚迄、嘲風情、袋踏皮、寸百切之關駄也、誠富貴萬福前代未聞候、是偏御德政之御本意歟、殊更佛神之御崇敬、神社佛閣之御建立、奉始日光、上野、東叡山、増上寺、其外新古之無御吟味、至于遠國端島迄、依其由來、御造營、或寺領社領被遊、寄附之條、積善之家有餘慶、依神者人敬、増威、依人者神德、添運申事、尤以金言也、萬代不易之御仕置、天下泰平、目出度々々々、恐惶謹言、

名産諸色往來終

諸職往來

夫士農工商者、國家之至寶、日用萬物調達之本源也、就中武門者首_レ於_二庶民_一、能守_二仁義禮智信之五常_一、以_二文武治_レ國、以_二忠孝齊_レ家、以_二系圖_一彰_二先祖_一、以_二感狀_一傳_二功名_一、是武家之所_二以尙冀_一也、勤役座列之次第、家老、用人、城代、目付、奉行、物頭、旗本、近習、扈從、代官、與力、同心、祐筆、步徒、足輕、若黨、中間等迄、應職分高下、知行扶持方功米等、可_レ被_レ宛_二行之_一、生_二其家_一而可_レ學事、第一弓馬、劍術、兵法、軍學、書筆、算勘、無_二怠慢_一相勵、則以_二其功_一加增立身、父祖裔孫之面目、何事乎過_レ之哉、次農夫者、春耕、種蒔、苗代、鳥追、田植、草取、秋者、蒔田、稻扱、粃磨、掛_二麥_一、俵拵、盡_二情_一力_二而年貢_一、收納、未進無_レ之樣、可_レ心懸_二事專_一要也、早魃水損於_レ有_レ之、以_二庄屋年寄組中_一、訴_二代官_一所_二願_一、檢見_二田畑_一何町、某反、幾畝、何步、慶竿改_二民圖帳_一、吟味之上可_レ請_二免許_一、雖_二在_二滿作豐年之所_一、或風雨不順之障、聊以_二私欲_一掠_レ上事、可_レ恐_二天道_一、農具者、鋤、鍬、犁、鎌、連枷、水擔桶、龍骨車等、肥者、應_二其土地_一

作物之品、宜_二計_レ之、寔農業者、生民之大本也、扱又工匠之輩、先巧工、鉦初、以_二南蠻曲_一、水盛以_レ準、爲_二規矩_一、柱立棟上撰_二吉日良辰_一、御殿、神社、堂塔、伽藍、見世店、座敷圍之物數寄、萱葺、藁葺、土藏、穴藏、任_二其所_一望而造營修覆等、可_レ加_二勘辨_一持_二扱道具_一、鉦、鉋、鑿、捺揆、錐、小刀、鋸、挽廻、鐵挺、鋤、曲尺、墨斗、捻、釘貫等也、蓋屋匠者、檜皮、扮板、竹釘、臺切、片庖丁、谷之取合、軒口、恰好揃_レ之、壁朽者、以_二鋤_一、壁鼻板、定木、全用_二意_一之、手輕可_レ盡_二上手_一、其外諸職隨_二其地_一、考_二方角利潤_一、以_レ類集所、鍛冶者、搆_二轡_一以_二鐵床_一、合挺、鉸刀、一打_レ之、太刀屋、柄卷、研屋、鎗工、鞘匠、塗師、漆刷毛、筆結、硯屋、組搔、袈裟、衣、繡、仕立物、小袖、帷子、袴、股引、脚半、鍼目、絲筋、隨分可_レ顯_二手際_一、歟、革羽織、冑頭巾、踏皮屋、蹴鞠之具、垂干、沓、葛袴等、手寄好人而賣_レ之、烏帽子折、扇屋、末廣、中啓、舞扇之地紙、骨、要之工合第一也、經師、表具師、屏風、襖匠、翠簾屋、畫簾、繪筵、花毛氈、疊刺、珠數挽、牽讀之細工、七寶、四天飾、水晶之陀妻、珊瑚珠之百八檀特、金剛樹、誕生木、菩提樹、依_二宗門_一、繫差別可_レ在_レ之、佛師者、運慶、湛慶之學_レ於_二古作_一、而須彌座、唐座、岩座、

五重座、船御光、輪御光、細金、彩色、箔佛、泥像、厨子、隨^ニ注文^ニ彫^ニ刻^ニ之、板木屋、額彫、宮大工者、鎮守之禿倉、神輿、御前屋、金佛壇、彫物、總應價而結構無^ニ其限、造華者、寔四季目前之詠、行人駐足、次基局屋、局子、基區、象戲坪、駒等也、琴師、三絃、胡弓、以^ニ金銀鍍金^ニ飾^ニ之、組糸者、胸紐、練糸、縫糸、以^ニ簪撥樹^ニ、五色卷分、天蠶糸者、漁者之所^レ用、塘綱、打綱、纏以^ニ捻芋^ニ、合^レ絲、透^ニ立^ニ之、櫛挽、插梳、扞子、笄、櫛拂、鏡磨、當世風流管笠、綿帽子、引綿、結塗桶、積桶、是女童之手業也、牽張、轆轤、木屐履、草履、下駄、籠笥、箕作、弓箭師、揚弓、雀小弓、矢筒、矢箱者、指物細工、檜物師者、島臺、柄杓、匙筥、三方、櫃之類、檜或杉、桐、細工物、好奇麗專一也、鑄物師、錫道具、鍋、釜、鑊子、飯銅、藥研、硫黃突、燈心引、油絞、秤屋者、於^ニ東國^ニ守隨^ニ於^ニ西國^ニ神善四郎、此兩家之外堅御制禁也、釐等、杜秤、衝、錘、天秤、針口、分銅、後藤今極、是皆權糺物之輕重之具、廉直可^ニ製作^ニ所也、凡諸職之人、受領之官名申賜、顯^ニ名譽^ニ事、其身之手柄、旦暮無^ニ油斷^ニ、可^ニ勵勤^ニ者也、扱商人者、以^ニ帳算盤^ニ爲^ニ左右之臣^ニ、每日考^ニ相場^ニ、賣買、顯引、可^レ廻^ニ氣轉^ニ、諸國客方不^レ致^ニ疎略^ニ、諸

物直段之高下、以^ニ書通^ニ達^ニ之、直賣俵物、駄賣搗米、現銀無^ニ懸直^ニ之吳服、製藥名方之大看板、紙店、書鋪者、神書、儒書、佛書、軍談、眞名、假名之諸書、僧俗、童蒙、應^ニ好所^ニ而商^ニ之、小間物擔賣等迄、誠^ニ邪欲^ニ、無^ニ欺犯^ニ、偏本^ニ正路^ニ、而自他相對、和順之賣買、則永災難不^レ來、繁榮傳^ニ子孫^ニ事、天道照^ニ正直之誠^ニ、陰德陽報顯然無^レ疑者也、仍而如^レ件、

諸職往來終

消息往來

高井蘭山述

凡消息者通_ニ音信、近所遠國不_レ限_ニ何事、達_ニ萬用_一之元也、先書狀手紙取扱文字、

一筆啓上仕、致_ニ啓達_一令_レ啓以_ニ手紙_一申入、尊書尊翰貴書貴札御狀芳墨芳簡、御紙面御剪紙、拜見拜誦披見披閱各一覽、時候者任_ニ四季_一、春者餘寒春寒餘寒未_レ退、追日春暖、暖氣長閑麗暮能、夏者薄暑より向暑土用入而、甚暑嚴暑極暑難_レ凌、入梅中不勝之天氣鬱陶敷、秋者殘暑秋暑秋冷相催、冷氣相慕、冬者寒冷向寒甚寒嚴寒候得共、上々樣御前樣益御機嫌能、被_レ成_ニ御座_一被_レ爲_ニ在_一、彌御勇健、御安泰、安全安寧壯健堅勝堅固、無事息災、無_ニ別條_一、無_ニ御障_一、無_ニ御替_一、尊前貴公御手前樣、貴樣御自分其元貴殿也、扱又公家武家大小名御旗本、自國他國在番在勤御勤仕、御務御暮御凌御厭御揃、恐悅日出度珍重大慶大悅、恐賀祝著満足過量欣然也、一段重疊仕合御禮、祇候御目見、無_レ滯無_レ恙都

合能首尾好、結構御意仰被_ニ仰付_一被_レ蒙、御深志御懇意御厚情、冥加至極、難_レ有恐入忝仕合辱次第、今般今度此度者、先年去年先月去月先頃先達而、日外昨夜今朝今晚、疇昔昨今此間其後其以後其以來爾來、明日明後日翌朝每事前廉前廣也、行幸御成還幸還御出御、光臨入御入來御出來駕枉駕御尋御訪、殊更別而將又且又、然者隨而乍_レ憚乍_レ去併右之趣此段也、得_ニ貴意_一度可得_ニ御意_一、如_レ仰如_ニ貴命_一如_ニ來意_一、當地爰元其表、江戸京大坂奈良堺伏見、長崎甲府駿府山田日光浦賀蝦夷、靜謐太平無異無難罷在、貴意易_ニ御心安_一思召、御安堵可_レ被_レ下候、久々打絶良暫、互取紛何角兎角取亂、無_レ據難_レ去不得_ニ已事_一繁多に而、彼是混雜御樣體御安否窺、不_レ承約束約諾延引後悔、失禮御免御用捨御宥恕所_レ仰也、自然勿論聊決而曾而、毛頭龜略龜忽龜末不_レ埒不_レ束、念比入魂心底睦敷、如在外聞無_レ僞、或敢強_ニ既況_一剋急忽、早速俄即席即刻差急、相談對談挨拶會釋、柔和奔走振舞招請請待御招、月待日待寄合參會、御馳走緩々遊山樂、歸宅歸宿在宅私宅拙宅、留守逗留泊退屈、窮屈疲勞御草臥也、尊宅貴宅御別莊、御家作普請造作修復造營建立上棟、移徙賑敷賜

敷、繁昌繁榮幾久鋪、家督相續隱居、遺跡婚姻智入、懷胎妊娠著帶誕生、御降誕御出生安産平産、幼少成長成人、若冠若年老年老後、器用發明才智利口、家業家職稼骨折勵、無_ニ懈怠_一、無_ニ油斷_一、儉約勘略、始末勘定算用費、失墜徒事穿鑿僉議吟味、裁許公事訴訟一件、損德奢商現金掛直賣買、拂底不景氣不都合、貸借取遣日記證文注文入札、送狀手形質物兩替仕入金銀、再應再三每度折節、度々催促律義正直遲速、締緘取締、年貢皆濟、田畑金納、大判小判、壹分判貳朱壹朱永文鑑錢也、旅宿發足發行發駕、支度用意之荷物、運送持運船運漕、遠路遙々日雇人足人夫、傳馬宿繼駄賃輕尻鎧付、酒代往還往來途中、不圖不_レ計不_レ存寄、適邂逅差障無_ニ貪着_一、無_ニ差別_一、喧嘩口論物言事等、平生急度嚴敷可_ニ慎嗜_一、分別了簡堪忍格別格外不_ニ思寄_一、天氣能故步行我儘、一國勝手白晝夕陽黃昏薄暮、入相宵深更夜更夜陰曉迄、放埒我授無用也、學問武藝素讀物讀手習、諸禮行儀作法稽古修行、無_ニ失念_一、支離病身世話厄介、家内親類一家一門、親族縁者從類由緒眷屬家來、召仕僕婢朋友傍輩、主君臣下師範師匠、遠々鋪御物遠疎遠、御無沙汰御無音、背_ニ本意_一、氣毒笑止迷惑、御尤

預_レ示御見舞飛脚到著、飛札到來御使札御使者、名代口上口演辭儀口儀、尊顏貴顏拜顏、貴面謁面上態々内々兼々也、請取落手落掌、受納拜受此砌其節御太儀、苦勞難澁難儀難題艱難、立腹所勞違例氣色、病氣煩御痛所腫物、日增御驗氣御快方御全快、養生專一御藥相應本腹加持祈禱、以_レ參罷越參上伺公推參、懇望所望拙者私、妻悴實子惣領次男娘兄弟姊妹、男女之息二親双親伯叔父母、甥姪從弟孫曾孫玄孫、胤替別腹舅姑舅養子、嫁入夫後妻孀婦後家後室、推察推量察入驚入、嚙々御噂近々頓而其内是耳夫而已、就_レ夫不調法就中慮外憚緩怠也、人品人柄如法奇特、委細具承知慇懃丁寧入_ニ御念_一、及_レ承及_一、聞聞屈聞濟、却而近頃痛入手透無_レ之無_ニ寸暇_一、甚取込聞敷無_ニ心置_一、無_ニ遠慮_一、御物語御嘶他行外出殘念無念、同伴同道御誘引御供也、新春年始改年改曆、御慶吉慶吉兆申納申籠、不_レ可有_ニ盡期際限休期御座_一、御佳例御嘉儀祝詞嘉詞、上巳端午嘉祥七夕八朔重陽、玄猪歲暮年尾節會規式、七種之羹雛幟星合魂棚精靈會、靈膳供物初穗燒香看經回向執行、月見後名月菊合淨家十夜、日蓮宗會式、一向宗御取越、御講參臨時不時之珍客饗應、魚鳥野菜之料

理獻立、鹽梅風雅之賓人、亭主取持之藝人、給仕配膳
 世話役、賄下働手傳、種々物數寄、好物厚味珍羞美味、
 賞翫拜味、酒宴酩酊沈醉失敬尾籠、前後忘却面目
 流石愧敷、萬事萬端穩便隱密、内證頼願希合點、得心
 領掌許容違背違犯、何卒何分偏一入幾重にも、吳々是
 非々々遮而、序之刻、披露御執成思召寄不淺、被掛
 貴意芳慮芳意懸御目、御惠投被贈下送給、獻上進
 上進覽申受、馴々敷如何敷、輕少輕微些少寸志、印計
 御饒別御贐入部行列、貴賤群集、祭禮法事、鷹野鹿
 狩、御慰不互相替、不取敢奥方内室内儀、妾、妃、調
 市奉公、出精縁組結納、能囃子管絃、登城御加増御役
 替、御褒美立身出世、家屋鋪讓渡、沽券狀、系圖家柄
 爲御祝儀爲御歡、御太刀一腰御馬一匹、頂戴拜領、
 樽肴二種一荷、後音之時後喜後信也、後慶永日永陽來
 陽奉期、申述申演申上、恐惶謹言頓首敬白、不備不宣
 不具以上、脇付參人々御中、人々御中御宿所、尊酬貴
 答御報御返事返報返答返書、其品々多故、先大概有増
 書記畢、

消息往來終

續々群書類從第十終

黒川眞道
 小瀧淳校
 中山速男

明治四十年二月二十日印刷

明治四十年二月廿五日發行

非賣品

東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地

國書刊行會代表者

市島謙吉

編輯者兼
發行者

東京市京橋區新榮町五丁目三番地

印刷者
本間季男

東京市京橋區新榮町五丁目三番地

印刷所
內外印刷株式會社分工場

EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO



3 1761 03043 4591